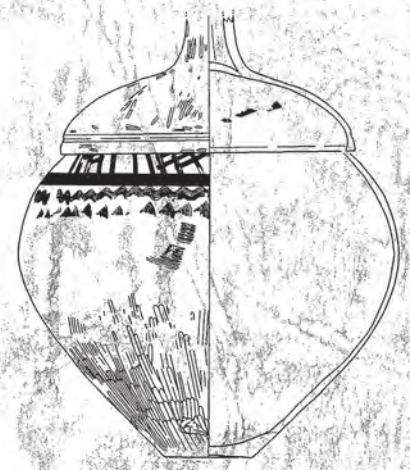
太田・黒田遺跡（県１次調査）

－和歌山労働局新庁舎建設に伴う発掘調査報告書－

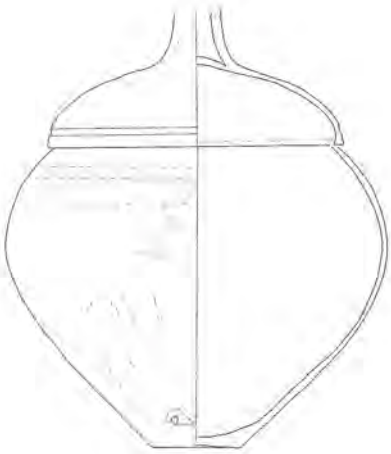


2007年3月

財団法人　和歌山県文化財センター

太田・黒田遺跡（県１次調査）

－和歌山労働局新庁舎建設に伴う発掘調査報告書－



2007年3月

財団法人　和歌山県文化財センター



１．Ａ区４層上面　遺構125・126（土器棺）　＜南から＞



２．Ｂ区４層上面　遺構290（流路）　土器出土状況　＜東から＞



１．Ｂ区４層下面　遺構300（竪穴住居）　＜東から＞



２．Ａ区　東西トレンチ（谷状地形断面）　＜北西から＞



1．遺構125（土器棺）出土遺物



2．遺構125（土器棺）出土遺物



１．遺構300（竪穴住居）出土遺物



２．遺構140-S（井戸）出土遺物

序　文

現在は市街地に埋もれてしまっていますが、JR和歌山駅東側一帯の地下には大きな遺跡が眠っています。それが太田・黒田遺跡で、紀ノ川下流域の和歌山平野に所在する弥生時代からはじまる遺跡です。

弥生時代では県内最大級の集落跡として広く知られています。奈良時代には和同開珎などの銭貨が出土した井戸が調査され、官衙跡の可能性も指摘されています。羽柴秀吉による紀州攻めの際に、最後まで抵抗した雑賀衆の居城「太田城」もこの遺跡の周辺にあったと考えられています。このように太田・黒田遺跡は、各時代を通じて和歌山県の中心的な遺跡であったといえます。

今回、当文化財センターが発掘調査を実施し、多くの知見を得ることができました。本書を通じて、太田・黒田遺跡の概要だけでなく、和歌山県の歴史の一端を明らかにすることに貢献できれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本書の作成に際して、ご指導・ご協力を賜りました関係各位・地元の皆様に対し厚くお礼申し上げます。

平成19年3月

財団法人和歌山県文化財センター
副理事長　小　関　洋　治

例　言

1．本書は、和歌山市黒田（字池ノ首48番）に所在する太田・黒田遺跡の発掘調査報告書である。
2．和歌山労働局新庁舎建設に伴う調査で、平成17年度に発掘調査、平成18年度に出土遺物整理を実施した。
3．発掘調査及び出土遺物整理業務は、和歌山労働局の委託を受け、和歌山県教育委員会の指導のもと財団法人和歌山県文化財センターが実施した。事務及び調査組織は下記のとおりである。
　専務理事松田長次郎、事務局長熊崎訓自、管理課長西本悦子、管理課副主査松尾克人
　埋蔵文化財課長渋谷高秀、埋蔵文化財課副主査仲原知之、非常勤専門調査員横矢晋二郎
4．発掘調査及び整理作業には以下の者が従事した。
　調査補助員：山野晃司　／　整理補助員・整理作業員：玉井朱美・堀口歩・稲田紗千・福原温子
5．本書は仲原が執筆・編集した。
6．遺構写真は仲原・横矢、遺物写真は仲原が撮影し、調査時の遺構平面図等実測図は横矢・山野・仲原が作成した。遺物実測図等の整理作業時の実測図は玉井・堀口・稲田・福原・仲原が作成し、一部川崎雅史（文化財センター技師）の協力を得た。遺構図・遺物実測図などのトレースは稲田・仲原がデジタルトレースにより作成した。
7．測量及び分析については下記機関に委託した。
　基準点測量：株式会社ウエスコ、管玉及びサヌカイト原材産地分析：有限会社遺物材料研究所
　土壌分析（花粉分析・珪藻分析・リン・カルシウム分析）：株式会社パレオ・ラボ
　樹種同定：中原計氏（徳島大学埋蔵文化財調査室）
8．分析など委託・依頼した報告については付章として掲載した。付章の執筆は以下のとおり。
　第1節：仲原、第2・3・4節：パレオ・ラボ、第5・6節：遺物材料研究所、第7節：中原計氏
9．木製品の保存処理については、当センターが糖アルコール法により処理した。
10．発掘調査及び整理作業で作成した実測図・写真・台帳などの記録資料は財団法人和歌山県文化財センターが、出土遺物は和歌山県教育委員会が各々保管している。
11．発掘調査及び整理作業に際し、以下の方々に御助言・御協力を頂いた。記して感謝の意を表したい。
　大野左千夫・益田雅司（和歌山市教育委員会）、前田敬彦（和歌山市立博物館）、北野隆亮・井馬好英・藤薮勝則・奥村薫（(財)和歌山市都市整備公社）、渡辺今日子（県教育委員会文化遺産課）、矢倉嘉人（海南市教育委員会）、大岡康之（橋本市教育委員会）、吉松敏隆（和歌山県教育センター学びの丘所長）、小原正顕（和歌山県立自然博物館）、森岡秀人（芦屋市教育委員会）、菅榮太郎（武庫川学院）、若林邦彦（同志社大学）、長友朋子（大手前大学）、村上由美子・東村純子（京都大学）、丹野研一（総合地球環境学研究所）＜順不同・敬称略＞

凡　例

1．発掘調査の調査コード：「05－01・327」（05＝2005年度、01＝和歌山市、327＝太田・黒田遺跡）
2．調査の基準線：平面直角座標系第Ⅵ系（世界測地系）、図示した北は座標北を示す
3．標高：東京湾標準潮位（T.P.値）
4．土層及び遺物の色調：日本色研事業株式会社発行『新版標準土色帖』による
5．遺物実測図の縮尺：土器類1/4、土製品1/2、木製品1/4、玉製品1/1
6．土器実測図のトーンは黒斑を示す
7．遺構番号：遺構1～の通し番号
　遺構の表記：「遺構＋遺構番号＋（遺構種類）」　→　遺構300（竪穴住居）など
8．掲載遺物番号：遺構出土遺物「遺構番号－1～」　→　遺構300の遺物は「300－1、300－2・・・」
　包含層出土遺物「層名を○で囲み－1～」　→　6層出土遺物は「⑥－1、⑥－2・・・」
　（今回、包含層は8層（⑧－1～）までの出土遺物があるが、遺構8までの掲載遺物はないため遺物番号⑧－1と8－1などのような併存はない）
9．各遺構の個別土層断面図のポイントおよびラインは各遺構面の全体平面図に示している

本 文 目 次

巻頭図版・序文・例言・凡例・本文目次

第１章　調査の経緯と経過
　第１節　調査の経緯 …… 1
　第２節　発掘作業および遺物整理作業の経過 …… 1
第２章　遺跡の位置と環境
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 5
　第３節　太田・黒田遺跡の既往調査 …… 7
第３章　調査の方法
　第１節　調査の方法 …… 15
　第２節　基本層序 …… 18
第４章　調査の成果
　第１節　近世・中世の遺構と遺物（２層上面遺構面・２層下面遺構面） …… 26
　第２節　古代の遺構と遺物（３－２層下面遺構面） …… 29
　第３節　弥生時代の遺構と遺物①（４層上面遺構面） …… 45
　第４節　弥生時代の遺構と遺物②（４層下面遺構面） …… 90
　第５節　弥生時代の遺構と遺物③（谷状地形） …… 125
　第６節　弥生時代の遺構と遺物④（８層上面遺構面） …… 131
　第７節　弥生時代の遺構と遺物⑤（土製品・石製品・木製品） …… 135
　第８節　その他の遺物 …… 144
第５章　自然科学的分析に基づく考察
　第１節　太田・黒田遺跡の土器棺・土壙墓 …… 146
　第２節　太田・黒田遺跡周辺の自然環境 …… 150
　第３節　太田・黒田遺跡の炭化米 …… 153
　第４節　太田・黒田遺跡の管玉 …… 154
　第５節　太田・黒田遺跡のサヌカイト原材産地 …… 157
　第６節　太田・黒田遺跡の地山に含まれる礫 …… 159
第６章　総括
　第１節　調査の成果 …… 161
　第２節　弥生土器の編年的位置付け …… 165
付章　自然科学的分析
　第１節　分析試料とその方法 …… 169
　第２節　土器棺等の土壌中のリン・カルシウム分析 …… 170
　第３節　太田・黒田遺跡の花粉化石群集 …… 173
　第４節　堆積物中の珪藻化石群集 …… 178
　第５節　太田・黒田遺跡出土遺物整理に伴う管玉原材産地分析 …… 183
　第６節　太田・黒田遺跡出土サヌカイト製遺物の原材産地分析 …… 196
　第７節　太田・黒田遺跡（県１次調査）出土木製品の樹種 …… 206

観察表・写真図版・報告書抄録・奥付

挿図・表・観察表目次

【挿図目次】

図 1　地形分類図 …… 4
図 2　太田・黒田遺跡位置図・周辺遺跡位置図 …… 6
図 3　太田・黒田遺跡　調査区位置図 …… 9
図 4　太田・黒田遺跡　県 1 次調査　基本層序 …… 17
図 5　太田・黒田遺跡　県 1 次調査　地区割図 …… 17
図 6　調査区西壁土層断面図 …… 19
図 7　調査区北壁土層断面図 1 …… 20
図 8　調査区北壁土層断面図 2 …… 21
図 9　調査区南壁土層断面図 1 …… 22
図 10　調査区南壁土層断面図 2 …… 23
図 11　調査区東壁土層断面図 …… 24
図 12　調査区断面図（西壁・北壁・南壁・東壁）土層名 … 25
図 13　2 層上面遺構全体平面図 …… 27
図 14　2 層下面（3 層上面）遺構全体平面図 …… 28
図 15　3 － 2 層下面遺構全体平面図 …… 31
図 16　遺構 90（流路）断面図 …… 32
図 17　遺構 90（流路）・95（溝）断面図 …… 33
図 18　遺構 90・91・92・93（流路）断面図 …… 34
図 19　遺構 90 最下層・下層・下層～中層 2 遺物実測図 … 35
図 20　遺構 90（流路）中層　遺物実測図 …… 36
図 21　遺構 90（流路）上層　遺物実測図 …… 37
図 22　遺構 95・97・100・102・104・106・186・265（溝）断面図 … 38
図 23　遺構 200・185 断面図/遺構 100 底部検出鋤跡平面図 … 39
図 24　連続土坑群　断面図 1 …… 40
図 25　連続土坑群　断面図 2 …… 41
図 26　連続土坑群　断面図 3 …… 42
図 27　遺構 95・100（溝）ほか　遺物実測図 …… 43
図 28　流路（遺構 101 他）・土坑（遺構 127 他）遺物実測図 …… 44
図 29　4 層上面遺構全体平面図 …… 47
図 30　遺構 128－W・128－E・129・130（溝）断面図 …… 49
図 31　遺構 129・130（溝）断面図 …… 50
図 32　遺構 130（溝）断面図 …… 51
図 33　遺構 291（溝）断面図 …… 52
図 34　遺構 290・291（溝）断面図 …… 53
図 35　遺構 290 土器出土状況平面図/溝状土坑断面図 …… 54
図 36　遺構 130（溝）最下層・下層　遺物実測図 …… 55
図 37　遺構 130（溝）中層　遺物実測図 …… 56
図 38　遺構 130（溝）上層　遺物実測図 1 …… 57
図 39　遺構 130（溝）上層　遺物実測図 2 …… 58
図 40　遺構 130（溝）上層　遺物実測図 3 …… 59
図 41　遺構 128－E（溝）　遺物実測図 …… 60
図 42　遺構 128－E・128－W・129（溝）　遺物実測図 … 61
図 43　遺構 291（溝）最下層・下層　遺物実測図 …… 62
図 44　遺構 291（溝）中層　遺物実測図 …… 63
図 45　遺構 291（溝）上層　遺物実測図 1 …… 64
図 46　遺構 291（溝）上層　遺物実測図 2 …… 65
図 47　遺構 290（溝）最下層・下層　遺物実測図 …… 66
図 48　遺構 290（溝）下層　遺物実測図 …… 67
図 49　遺構 290（溝）中層　遺物実測図 …… 68
図 50　遺構 290（溝）上層　遺物実測図 1 …… 69
図 51　遺構 290（溝）上層　遺物実測図 2 …… 70
図 52　遺構 290（溝）上層　遺物実測図 3 …… 71
図 53　遺構 290（溝）上層　遺物実測図 4 …… 72
図 54　遺構 290（溝）上層　遺物実測図 5 …… 73
図 55　遺構 290（溝）上層　遺物実測図 6 …… 74
図 56　遺構 290（溝）上層　遺物実測図 7 …… 75
図 57　遺構 290（溝）上層　遺物実測図 8 …… 76
図 58　遺構 290（溝）上層　遺物実測図 9 …… 77
図 59　遺構 290（溝）上層　遺物実測図 10 …… 78
図 60　遺構 290（溝）上層　遺物実測図 11 …… 79
図 61　遺構 290（溝）上層　遺物実測図 12 …… 80
図 62　遺構 290（溝）上層　遺物実測図 13 …… 81
図 63　遺構 290（溝）上層　遺物実測図 14 …… 82
図 64　遺構 290・291（溝）上層　遺物実測図 …… 83
図 65　遺構 125・126（土器棺）平・断面図、遺構 133 断面図 … 84
図 66　A 区北東部　遺構（遺構 131 他）平面図・断面図 … 85
図 67　遺構 125・126（土器棺）　遺物実測図 …… 86
図 68　4 層上面遺構（土坑）断面図 …… 87
図 69　遺構 280・289・368（溝状土坑）　遺物実測図 …… 88
図 70　遺構 135・284・293（土坑）　遺物実測図 …… 89

図71　4層下面遺構全体平面図 …… 91
図72　遺構140－S・140－N（井戸）平面図 …… 94
図73　遺構140－S・140－N（井戸）断面図1 …… 95
図74　遺構140－S・140－N（井戸）断面図2 …… 96
図75　遺構142（井戸）平面図・断面図 …… 97
図76　遺構150（井戸）平面図・断面図 …… 98
図77　遺構140－N・140－S（井戸）　遺物実測図 …… 99
図78　遺構140－S(井戸)木枠内(最下層)　遺物実測図1 … 100
図79　遺構140－S(井戸)木枠内(最下層)　遺物実測図2 … 101
図80　遺構140－S・遺構142（井戸）　遺物実測図 …… 102
図81　遺構150（井戸）　遺物実測図 …… 103
図82　遺構145（溝）断面図1 …… 104
図83　遺構145（溝）断面図2 …… 105
図84　遺構145（溝）（遺構149土器溜まり）断面図3 …… 106
図85　遺構149（土器溜まり）　遺物実測図1 …… 107
図86　遺構149（土器溜まり）　遺物実測図2 …… 108
図87　遺構149・遺構145（溝）　遺物実測図 …… 109
図88　遺構300（竪穴住居）焼土・炭化物層、土器検出状況 … 110
図89　遺構300（竪穴住居）床面検出状況 …… 111
図90　遺構300南北セクション断面図・外周柱穴断面図 … 112
図91　遺構300（竪穴住居）柱穴断面図 …… 113
図92　遺構300（竪穴住居）　遺物実測図 …… 114
図93　遺構149土器出土状況図／A区北東部土坑群断面図 … 115
図94　4層下面遺構（土坑）断面図 …… 116
図95　B区南西部土坑群　遺構301・311（土坑）平面図 … 117
図96　B区南西部土坑群　断面図1 …… 118
図97　B区南西部土坑群　断面図2 …… 119
図98　遺構301・310（土坑）　遺物実測図 …… 120
図99　遺構310（土坑）　遺物実測図 …… 121
図100　遺構311（溝状土坑）　遺物実測図1 …… 122
図101　遺構311（溝状土坑）　遺物実測図2 …… 123
図102　遺構313・314・315・360・369・370　遺物実測図 … 124
図103　谷状地形・8層上面遺構全体平面図 …… 126
図104　A区東西トレンチ（谷状地形）土層断面図 …… 127
図105　5層（谷状地形）　遺物実測図 …… 128
図106　5層・5層以下（谷状地形）　遺物実測図 …… 129
図107　6層（谷状地形）　遺物実測図 …… 130
図108　A区南西部　8層上面遺構平面図・断面図 …… 132
図109　8層上面遺構　遺物実測図 …… 133
図110　遺物包含層　弥生時代前期土器　遺物実測図 …… 134
図111　土製品　遺物実測図 …… 136
図112　木製品　遺物実測図1 …… 142
図113　木製品　遺物実測図2 …… 143
図114　その他の遺物　遺物実測図 …… 145
図115　遺構125（土器棺）復元合成図 …… 147
図116　太田・黒田遺跡の土器棺 …… 148
図117　太田・黒田遺跡　土器棺・土壙墓位置図 …… 149
図118　管玉実測図（分析実施） …… 155
図119　太田・黒田遺跡　時代別遺構分布図① …… 162
図120　太田・黒田遺跡　時代別遺構分布図② …… 163
図121　太田・黒田遺跡　時代別遺構分布図③ …… 164
図122　弥生土器の変遷1 …… 166
図123　弥生土器の変遷2 …… 167

【表目次】

表1　太田・黒田遺跡　調査一覧表 …… 11
表2　太田・黒田遺跡　自然遺物・自然遺体一覧表 …… 151
表3　太田・黒田遺跡（県1次）出土　炭化穀類一覧表 … 153
表4　和歌山県内出土縄文・弥生・古墳時代前期玉類集成表 … 156
表5　太田・黒田遺跡（県1次調査）地山に含まれる礫 … 160
表6　遺構・遺物包含層出土の弥生土器編年区分表 …… 168

付章：挿図・表目次　省略

【観察表目次】

観察表1　遺構一覧表 …… 218
観察表2　須恵器・土師器観察表 …… 220
観察表3　弥生土器観察表 …… 225
観察表4　その他の遺物観察表 …… 260
観察表5　土製品観察表 …… 261
観察表6　ミニチュア土器観察表 …… 263
観察表7　石製品観察表 …… 264

写真図版目次　省略

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査の経緯

太田・黒田遺跡の範囲内（和歌山市黒田字池ノ首48番）で和歌山労働局が新庁舎を建設することとなった。建設予定地は空き地になっていてゲートボール場などに利用されており、それ以前は水田などの耕作地であった。建設予定地の西側隣接地では、和歌山市教育委員会が1988年に発掘調査を実施して、弥生時代や奈良時代の遺構を検出している（第21次調査）。そこで労働局と県教育庁生涯学習局文化遺産課との協議のうえ、工事範囲のうち建物建築部分795㎡について当センターが2005年7月15日～2006年1月31日（契約期間）に「平成17年度和歌山労働局総合庁舎建設に伴う太田・黒田遺跡発掘調査業務」として発掘調査を実施することとなった。

第２節　発掘調査および遺物整理作業の経過

１．発掘調査の経過

調査面積は約795㎡で、掘削土置き場の関係から調査区をＡ区・Ｂ区に二分し、反転して調査を実施した（西側をＡ区：397.9㎡、東側をＢ区：397.9㎡）。調査は工事請負方式で実施し、掘削等は（株）佐伯建設工業に委託し、基準点測量は（株）ウエスコに委託した。調査準備および現地盤測量後、Ａ区は8月29日から機械掘削、9月1日から人力掘削をはじめた。調査は遺物包含層・遺構の掘削、調査区内の測量、土層図などの実測、写真撮影などをおこなった。10月24日にＡ区の調査終了後、埋め戻した。その後、Ｂ区は機械掘削を経て、11月2日から調査に取りかかった。Ｂ区もＡ区同様の調査をおこない、12月22日に調査を終了し、12月27日に埋め戻しを完了した。機械掘削土量はＡ区458㎥、Ｂ区529㎥（合計987㎥）、人力掘削土量はＡ区328㎥、Ｂ区284㎥（合計612㎥）となった。なお、10月13日にＡ区人力掘削土量の増加分の対応を県文化遺産課と協議し、Ｂ区近世耕作層（２層）は人力掘削から機械掘削に変更し、Ａ区谷状地形は全掘削をおこなわず、サブトレンチを設定して規模や時期を把握することになった。

２．遺物整理業務の経過

出土遺物整理は、調査事務所において2006年4月21日～2007年3月20日に実施した。コンテナ（遺物収納箱）260箱について、出土遺物の洗浄・注記・接合・復元・実測・拓本・写真撮影などを実施し、報告書用の原稿を執筆した。なお、遺構・遺物実測図はデジタルトレースをお

こない、レイアウトはパソコン上で作成した。また、遺構写真・遺物写真ともデジタルカメラで撮影したものをパソコン上でレイアウトしている。リン・カルシウム分析、花粉・珪藻分析は（株）パレオ・ラボに、管玉の原材産出地分析は（有）遺物材料研究所に委託して実施している。

3．調査委員会の開催

発掘調査中および整理作業中に考古学の専門家を調査委員に委嘱して、2005年10月3日に発掘調査現場で調査委員会（井藤徹氏、工楽善通氏、森郁夫氏、和田晴吾氏）、整理作業中の2006年7月21日、2007年3月12日にそれぞれ調査委員会（井藤徹氏、工楽善通氏、坪之内徹氏、森郁夫氏、和田晴吾氏）を開催した。調査委員会での指摘を受けて、発掘調査および整理作業に反映させている。この他9月30日にセンター職員による現地検討会を実施した。また、県文化遺産課をはじめとする方々に発掘調査中や整理作業中に指導および助言をいただいた（例言参照）。

4．普及活動

発掘調査中に現地を一般に公開するため、2005年10月8日と12月10日に現地説明会を実施し、それぞれ67名、86名の参加者があった。9月27日に県立向陽高等学校文化科学科約80名の見学会を実施した。整理作業中の2006年8月8日に日高地方社会科教育研究会約20名が調査事務所に来訪し、太田・黒田遺跡出土土器の接合作業を体験してもらった。2006年6月26日～9月29日に調査事務所で開催した「文化財センター発掘調査速報展」、11月10日にホテルアバロームで開催された「きのくに学びの日記念行事」で太田・黒田遺跡の出土遺物を展示した。発掘調査中には各機関あてに「太田・黒田遺跡たいむり～」①～⑨を送付して、発掘調査の経過や成果を速報的に情報提供した。発掘調査中および整理作業中に公表した資料は、以下のとおりで、これらの資料での遺構の時期や評価などについて、本報告書で一部変更・修正した部分がある。

「太田・黒田遺跡（県1次調査）　第1回現地公開資料」（2005.10.8）
「太田・黒田遺跡（県1次調査）　第2回現地説明会資料」（2005.12.10）
「紀伊考古学研究会　太田・黒田遺跡（県1次）発掘調査概要説明」（2006.1.17　横矢発表）
「太田・黒田遺跡（県1次）発掘調査中間概要報告」『センター通信風車17号』（2005.11.28）
「太田・黒田遺跡（県1次）発掘調査概要報告2」『センター通信風車20号』（2006.3.3）
「太田・黒田遺跡（県1次調査）－集落東縁辺部の調査－」
　『第9回近畿弥生の会　滋賀場所』近畿弥生の会（2006.6.17　仲原発表）
「太田・黒田遺跡の（県1次）発掘調査」・「太田・黒田遺跡出土の管玉2種」
　『（財）和歌山県文化財センター年報　2005年度』（2006年5月発行　仲原執筆）
「太田・黒田遺跡」『文化財発掘出土情報』（2006年8月発行　ジャパン通信情報センター）

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

太田・黒田遺跡が所在する和歌山市の地形は、中央構造線が東西に横断し、この大断層によって北側の内帯と南側の外帯に分けられる。北側の山地が領家帯の西南端にあたる礫岩・砂岩・泥岩の互層をなす和泉層群で、南側の山地が結晶片岩を主体とする三波川変成帯（長瀞変成帯）にあたる。紀ノ川は中央構造線上を西流し、その沖積作用で和歌山平野が形成される。和歌山平野の大部分は約6000年前の縄文海進時に浸水していたが、河口部分に発達した砂州（砂堆）によって閉塞してラグーン化し、徐々に紀ノ川が運ぶ砂礫により陸地化して沖積平野が形成されていった。紀ノ川は古代末まで河口部の砂州のために河道を大きく南下させ、現在の和歌川へ流れるルートであったが、11世紀末の洪水により砂堆を突破して現在の水軒川の流路に流れを変えた。現在の河口は15世紀末以降に地震・津波などの影響により開かれるようになったと推測されている。

太田・黒田遺跡は和歌山平野の中央部に位置し、旧紀ノ川支流であった宮井川の分流である出水川（大門川）が形成した標高４ｍ前後をはかる自然堤防状の微高地部分に立地する。遺跡周辺は段丘化しているが、段丘化の時期は中世初頭以降で、弥生時代の集落は氾濫原（後背湿地）の自然堤防上に立地していた。遺跡付近は氾濫原から三角州へ移行する部分にあたり、沖積層の厚さは約20ｍと考えられている。沖積層の下には沖積層基底礫層があり、未確認であるが旧石器時代に相当する可能性もある。河道から若干離れた環境であったため、弥生時代以降には陸地が広がり遺跡一帯は居住地として適した場所となったと推測され、弥生時代前期末以降に継続して集落が営まれるようになる。また発掘調査では地山に黄褐色シルト層が認められ、弥生時代以降はある程度乾燥した環境であったことがわかる。遺跡周辺から日前宮周辺の段丘面には条里型地割が広く分布しているが、この付近の耕地化を可能にした宮井用水は古墳時代には開削されていた可能性がある。現在、太田・黒田遺跡はＪＲ和歌山駅の東側に位置し、周辺は市街地化され、地上には痕跡はほとんど認められないが、地下には和歌山県を代表する大規模な遺跡が眠っている。

【引用・参考文献】

日下雅義 1969「太田・黒田遺跡の地形環境」『和歌山市太田・黒田地域総合調査　地理・歴史調査概報』（和歌山市教育委員会、太田・黒田地域総合調査団）

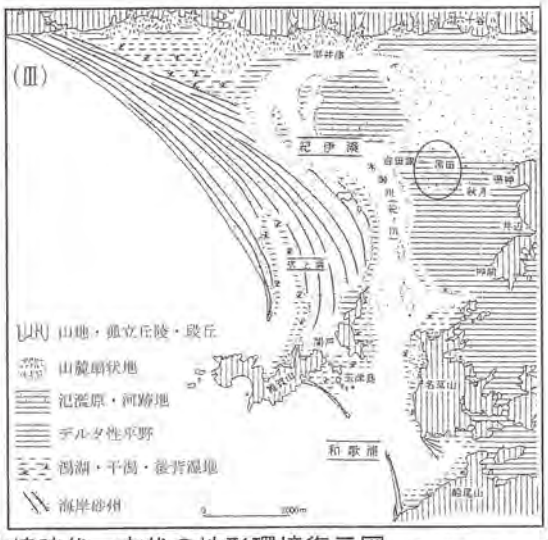
額田雅裕 1995「太田・黒田遺跡の立地と環境」『太田・黒田遺跡第26次発掘調査概報』

額田雅裕 1987「太田城付近の地形環境」『和歌山市立博物館研究紀要』2

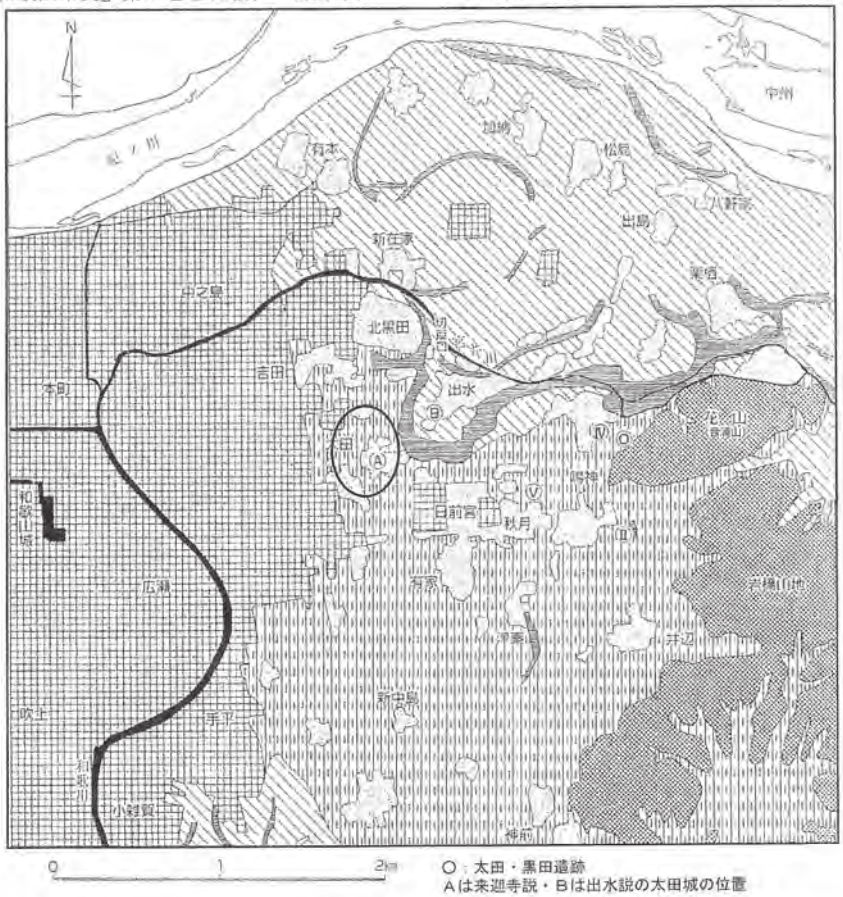
額田雅裕 2003「和歌山平野における戦国時代ころの地形環境」『和歌山地方史研究』46



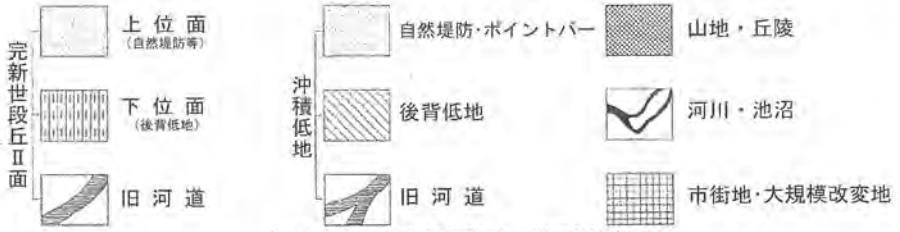
近畿　地質構造図　★：太田・黒田遺跡
（和歌山市史編纂委員会編1991
『和歌山市史』第１巻を転載、一部加筆）



古墳時代～古代の地形環境復元図　○：太田・黒田遺跡
（日下雅義1979「紀伊湊と吹上浜」
『和歌山の研究１　地質・考古篇』を転載、一部加筆）



○：太田・黒田遺跡
Aは来迎寺説・Bは出水説の太田城の位置



太田・黒田遺跡周辺　地形分類図
（額田2003を転載、一部加筆）

図１　地形分類図

第２節　歴史的環境

太田・黒田遺跡が位置する和歌山平野に所在する遺跡の概略を記す。

縄文時代　平野部に旧石器時代の遺跡は確認されていない。縄文時代では、近畿で最初に発見された貝塚である国史跡鳴神貝塚があり、中期～晩期および弥生時代前期の土器が出土し、晩期の土坑墓から抜歯された女性の伸展葬人骨が発見された。鳴神貝塚に隣接する鳴神Ⅳ遺跡南東部の調査で晩期の土坑墓３基や埋葬人骨８体以上が検出され、早期末～前期初頭の貝層も確認された。

弥生時代　太田・黒田遺跡は紀ノ川下流域で弥生時代の中心的な集落と位置づけられる（次節参照）。紀ノ川南岸では太田・黒田遺跡以外に友田町遺跡、木広町遺跡、秋月遺跡で中期の遺物が出土するが、大きな集落は確認されていない。対照的に紀ノ川北岸には西田井遺跡や北田井遺跡、宇田森遺跡、川辺遺跡、吉田遺跡などの弥生集落が立地している。海南市域の亀ノ川流域では岡村遺跡、亀川遺跡、大野中遺跡、且来遺跡群で弥生時代の集落が確認されている。特に岡村遺跡は太田・黒田遺跡と並ぶ弥生時代の拠点的集落と考えられている。中期後葉～後期前半には太田・黒田遺跡をはじめとして平野部の集落が激減し、丘陵部に滝ケ峰遺跡などの高地性集落が出現する。後期中頃以降、紀ノ川南岸の井辺遺跡、神前遺跡、紀ノ川北岸の田屋遺跡、西田井遺跡、宇田森遺跡などで平野部に集落が展開するようになり、その多くは古墳時代前期に継続する。

紀ノ川河口部では銅鐸が６口発見されている。太田・黒田銅鐸（外縁付鈕１式４区袈裟襷文）、有本銅鐸（扁平鈕式流水文）、吉里銅鐸（扁平鈕式６区袈裟襷文＝大英博物館２号銅鐸）、橘谷銅鐸（扁平鈕２式６区袈裟襷文）、宇田森銅鐸（突線鈕２式）、紀ノ川銅鐸（突線鈕４式）で、太田・黒田、橘谷、宇田森銅鐸は弥生時代集落内あるいは近接地で発見されていることが注目できる。

古墳時代　友田町遺跡、秋月遺跡、鳴神Ⅳ遺跡などで竪穴住居や掘立柱建物が検出されている。秋月遺跡では古墳時代前期に県内最古の前方後円墳と考えられる秋月１号墳が造営される。鳴神Ⅴ遺跡、鳴神Ⅳ遺跡で中期～後期の円墳・方墳が造営され、周溝などから馬歯が出土している。

奈良時代以降　紀伊国一宮の日前・国懸神宮が造営され、神宮を内包する秋月遺跡では奈良～室町時代の掘立柱建物などが検出され、神宮に関連する大規模集落と推測される。神宮周辺では条里型地割が残されている。室町時代には太田城推定地があり、太田城水攻め堤跡が残されている。

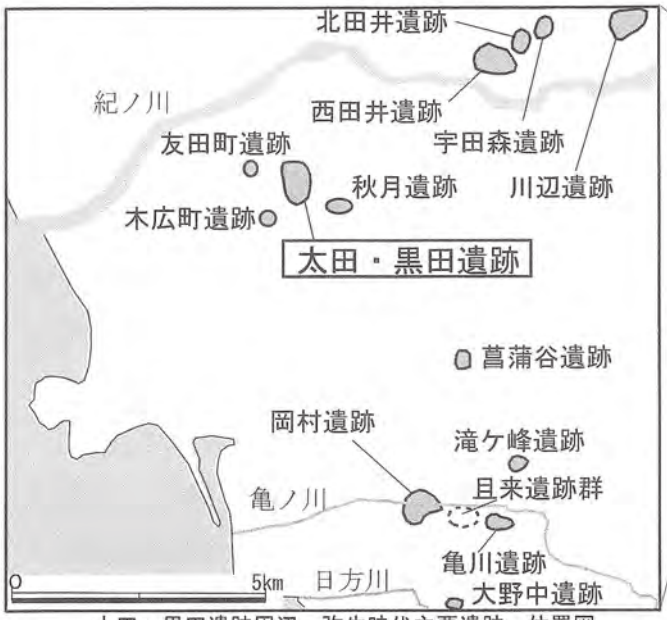
【引用・参考文献】

大野嶺夫・藤井保夫 1992『日本の古代遺跡 46　和歌山』（保育社）

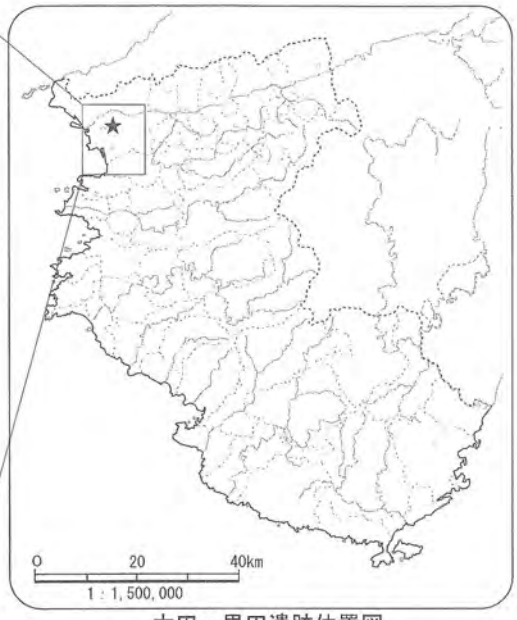
土井孝之 1999「紀伊の弥生集落の様相」『みずほ』第 31 号（大和弥生文化の会）

前田敬彦 1995「弥生集落の展開と銅鐸出土」『紀北考古学談話会会報』13

和歌山市立博物館 2001『特別展図録　渡来文化の波』



太田・黒田遺跡周辺　弥生時代主要遺跡　位置図



太田・黒田遺跡位置図



太田・黒田遺跡周辺遺跡地図（和歌山県教育委員会『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図』を転載・一部改変）

図２　太田・黒田遺跡位置図・周辺遺跡地図

第３節　太田・黒田遺跡の既往調査

１．太田・黒田遺跡の既往調査

太田・黒田遺跡は、1968 年の太田・黒田遺跡調査団（同志社大学中心）による発掘調査にはじまり、現在まで和歌山市教育委員会や（財）和歌山市文化体育振興事業団（現和歌山市都市整備公社埋蔵文化財班）などによって約 60 回もの発掘調査が実施されている。（財）和歌山県文化財センターによる発掘調査は今回がはじめてなので「県１次調査」としている。

発掘調査の結果、弥生時代前期～中期にかけての住居跡などが検出され、和歌山県下最大級の弥生時代集落跡と考えられるようになった。この他、古墳時代の住居跡や奈良時代の大形井戸などが検出されている。また、羽柴秀吉によって水攻めされた雑賀衆最後の地である太田城に関連すると推測される室町時代の溝（堀）なども検出されている。太田・黒田遺跡の既往調査については、各報告書・概報類などを基にして図３および表１にまとめた。なお、弥生時代については前田 2006、古代～中世については北野 2003・2006 で遺物・遺構の分布図を掲載し、詳細に検討しているので参考にした。

２．時期別の様相

縄文時代　２次調査において径約１ｍの土坑から突帯文土器の深鉢（縄文時代晩期船橋式に類似）と弥生時代前期遠賀川系の甕（２条沈線）が組み合わさった状態で出土し、縄文土器と弥生土器の共伴例として注目されたが（森・白石 1969）、これ以降の調査で縄文土器は出土していない。この突帯文土器は、現在では突帯文土器系譜の弥生化した土器と考えられている。つまり、太田・黒田遺跡ではこれまで縄文時代の遺物は発見されていないことになる。

弥生時代前期　前期中段階に遡る可能性がある土器は少量出土するが、確実に遺構が確認できるのは前期後半～末（前期新段階）に入ってからである。26 次調査で前期の環濠と推測されている幅 2.3m、深さ 1.2m の大溝が検出され、それにつながると推測される幅 3.6～3.9m、深さ 2.0m の大溝が 45 次調査で検出された。45 次ではこの大溝の南西側に平行するＶ字大溝（幅・深さとも 1.2～1.4m）が検出されており２重環濠の可能性が考えられている。これらの大溝は中期前葉に最終埋没している。51 次調査でも同時期の幅 3.4～3.6m、深さ 1.8m の大溝が検出され、環濠の可能性が指摘されている。このように３地点で環濠の可能性がある大溝が検出されているが、現段階ではこれらの大溝が居住域を１周して取り囲むのか確定的ではない。

15・16 次調査で竪穴住居が１棟検出されている。46 次、52 次で炉や柱穴の配置などから住居の可能性が指摘され、52 次調査区周辺に居住域があったと推定している（前田 2006）。この他、２～５次・９次・21 次・県１次調査を含む範囲で土坑や溝などの遺構が多く検出されている。こ

のように太田・黒田遺跡の中心部一帯が前期の遺構密度の高い範囲で、26次・45次で検出した大溝（環濠）の南西側には前期の遺構はほとんどなく前期の集落範囲外であったといえる。なお、54次調査で方形周溝墓の可能性があるL字状の溝が確認されているが、部分的な検出にとどまっていることと、これまで太田・黒田遺跡では方形周溝墓の確認例はないことなどから、方形周溝墓と積極的に評価することは難しい。

弥生時代中期　中期前葉は前段階の前期の遺構・遺物分布状況と大きく変わらず、52次・46次調査地点一帯に竪穴住居などの遺構が多く検出されている。環濠の可能性がある大溝がこの段階に洪水砂により埋没し、再び同地点で掘削されることはなかった。中期以降の環濠は確認されていない。前期末～中期前葉に太田・黒田遺跡の各所で洪水砂が確認できる。26次調査地点では大溝埋没後に水田が形成されている。9次・21次調査地点では土坑墓の可能性がある溝状土坑（舟形土坑）や土器棺が検出され、この一帯が墓域であったと推測される。なお、県1次調査地点では中期前葉～中葉に形成された谷状地形が確認され、この外側（北東側）では当該期の遺構・遺物が確認できないことから、集落の範囲の東端にあたるといえる。

中期中葉～後葉に太田・黒田遺跡は最盛期をむかえる。遺構・遺物が分布する範囲は遺跡の全域に広がる。前期末～中期前葉に遺構が集中する範囲には引き続き住居などの遺構が多く検出される。これまで遺構密度がそれほど高くなかった遺跡北部（43次周辺）や墓域であった9次・21次調査周辺でも竪穴住居が確認されるようになる。墓域としては、遺跡北東部の24次や北部の43次、北西部の48次、南西部～南部の27次・28次、東部の県1次調査地点などの遺跡周縁部で土器棺が確認され（高橋2002）、9次・21次・県1次調査では土坑墓の可能性のある溝状土坑（舟形土坑）が認められる。太田・黒田遺跡の南東側に隣接する秋月遺跡でも同時期の土器棺が検出され、太田・黒田遺跡の墓域であった可能性がある。中期後葉の後半になると遺構・遺物は認められなくなり、集落は廃絶するようである。遺跡北東縁辺部（8次調査地点東側）で発見された外縁付鈕1式袈裟襷文銅鐸はこの時期までに埋納されていたと推測される。発見は不時発見であったが、ほぼ完形で内部に片岩製舌状石製品を伴っていた。

弥生時代後期末～古墳時代前期　弥生時代中期後葉（後半）～後期前半までの遺構・遺物は確認できない。後期後半から遺物が散見されるようになり、50次、51次では古墳時代初頭（庄内式併行期）の竪穴住居、46次では古墳時代前期（布留式併行期）の竪穴住居が検出されている。古墳時代初頭～前期には遺物・遺構の分布が遺跡中央部周辺で認められるが、弥生時代と比較すると小規模な集落であったと推測される。

古墳時代中期～後期　古墳時代中期～後期はさらに遺構密度は低くなる。50次調査地点で竪穴住居が検出された以外、目立った遺構・遺物は確認されていない。

奈良時代・平安時代・鎌倉時代　奈良時代になると、半裁した巨木を刳り抜いて合わせた井戸枠

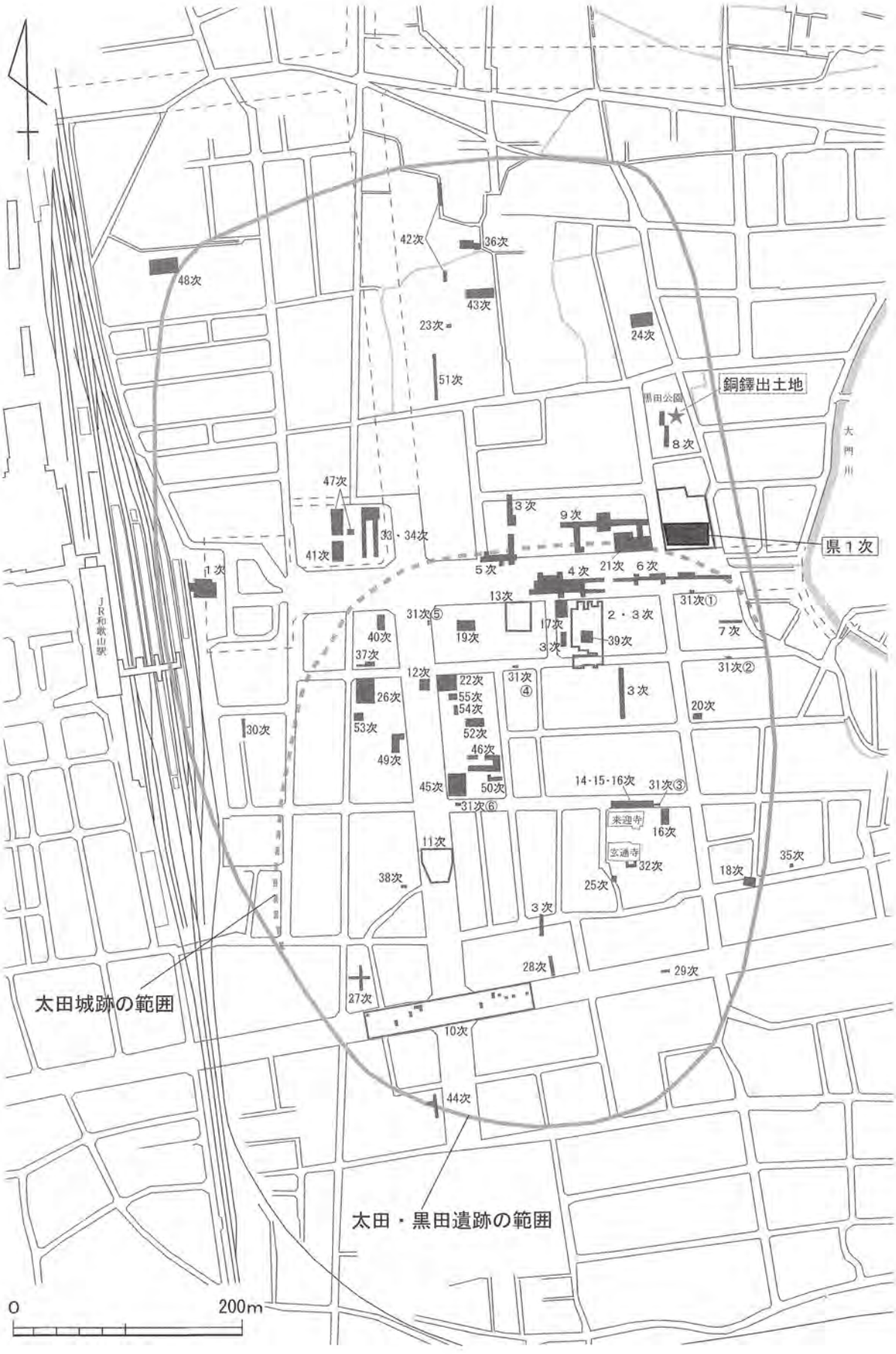


図３　太田・黒田遺跡　調査区位置図

をもつ大形井戸から斎串1点と完形の須恵器十数個体が出土し（21次）、クスノキの大木を刳り抜いた大形井戸から和同開珎42枚・万年通宝4枚が出土している（3次）。前者は7世紀前半、後者は8世紀後半の井戸と考えられている（和歌山市史編纂委員会編1991）。この他、遺物包含層から奈良時代の蓮華文軒丸瓦や唐草文軒平瓦がわずかに出土している。これらの遺構や遺物から太田・黒田遺跡周辺に寺院や官衙（名草郡衙）があったと想定されることもある（和歌山市史編纂委員会編1991）が、建物遺構などは未検出で奈良時代の状況は不明な部分が多い。平安時代・鎌倉時代についても遺構・遺物は散見されるが、実態は不明な点が多い。

室町時代　室町時代には太田・黒田遺跡周辺に雑賀衆の居城である太田城があったという伝承があり、埋蔵文化財包蔵地にも太田城の範囲が太田・黒田遺跡と重複する形で示されている。太田・黒田遺跡の北東側の出水付近に太田城があったとする説（額田2003a・b）があるなど、太田城の位置については伝承や後世の絵図によるところが多く確定する根拠に乏しい。しかし、太田・黒田遺跡内の発掘調査で当該期（室町時代末～近世初頭）の堀や溝などの遺構が確認されている。2次、17次、19次調査では東西方向の幅10m×深さ3mの堀状遺構が検出され、16世紀後半までの遺物が多量に出土している。また22次調査では、南北方向の幅2m×深さ0.7mの大溝が検出され、16世紀後半までの巴文軒丸瓦や中国産陶磁器、国産陶器類などの遺物とともに多量に焼土を含んでいた。太田城落城の際に火をかけられて焼亡したことに関連づけることもできるが、石製の宝篋印塔や瓦質香炉、瓦片なども出土しており、周囲にあった寺院などの瓦葺建物が火災にあった可能性もある。この東西方向の堀状遺構と南北方向の大溝がそれぞれ太田城の北辺と西辺を区画する機能を有していたと考えることができる。ただし、南辺と東辺は未確認で、内部の状況も明確にわかっていない。県1次調査では中世後半の遺構・遺物はほぼ皆無の状況であった。

江戸時代以降　江戸時代になると、52次や県1次調査などで鋤溝群が検出され、周辺は耕作地として利用されていたと考えられる。石垣遺構が31次と45次で検出されているが、前者は太田城の名残り、後者は耕作地の区画に関連する遺構として報告されている。この他、24次、49次調査などで粘土採掘土坑と推定される遺構が検出されている。なお、近代以降はほとんど発掘調査の対象となっていないが、3次調査地点で近代の太田焼の陶磁器片や窯道具類が多量に出土していることから、周辺に窯跡が存在する可能性が高い。

表1　太田・黒田遺跡　調査一覧表

調査地点	年度	調査地、調査面積	担当	文献	弥生前期	弥生中期	弥生後期	古墳前期	古墳中期	古墳後期	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸以降	備考
第1次（予備調査）	1968年 2～4月、5～6月	4C区・4F区ほか、2m四方トレンチを50箇所(計約700㎡)、一部拡張	太田黒田遺跡調査団	市教委・太田・黒田地区調査団1968、森・大野1981、市教委1983（市文体事1995）		竪穴住居1、井戸3、溝2、土坑2、掘立柱建物1		井戸1、土坑2		溝1	溝1(平安)			和歌山駅東口地点で古墳後期溝、南黒田集落南側地点3F区(3次調査西側)で弥生中期住居1・井戸3・溝2・掘立柱建物1(刳抜井戸あり)
第2次（第1次）	1968年 8～9月	北太田集落北側(4F区)、約1000㎡	太田黒田遺跡調査団	森・大野1981、市教委1983（市文体事1995）	土坑5	竪穴住居2、溝2、土坑5		井戸1	井戸1				堀1(江戸初頭埋没)	土坑から弥生前期土器と突帯文土器共伴
第3次（第2次）	1969年 2～4月	第1次調査西側(4F区)400㎡・南黒田集落南側(3F区)150㎡・第1次南東側(5G区)100㎡の3箇所＝計約650㎡、10次北側75m地点(7F区)	太田黒田遺跡調査団	森・大野1981、市教委1983、和佐野・前田2003（市文体事1995）	土坑6	竪穴住居1、溝1、土坑5（炭化米多量出土）		土坑2、井戸1			溝1・井戸1（奈良）、井戸(平安末)	溝1(平安～中世)、堀1(中世末～近世初頭、7F区)	土坑1(近代)	勾玉・管玉・臼玉(古墳)、クス大木の刳抜井戸から和同開珎42枚・万年通宝4枚(奈良)、太田焼窯道具(近代)
第4次（第3次A）	1969年 9～12月	第1・2次調査北側(4F区)、第5次との合計約1200㎡	太田黒田遺跡調査団	森・大野1981、市教委1983（市文体事1995）	井戸1、土坑3	竪穴住居2、井戸1、土坑4		井戸3、土坑1、溝1					堀1(江戸初頭)	4次調査包含層より土師質の土鳥
第5次（第3次B）	1970年 1～2月	3F区南東側、第4次との合計1200㎡												
第6次（第4次A）	1970年 5～8月	第4次調査東側(4G区)、第6～8次計740㎡	太田黒田遺跡調査団	森・大野1981、市教委1983（市文体事1995）		竪穴住居4、井戸2、土坑1(銅鐸出土地周辺)		井戸2、土坑1(土器棺?)	(古墳時代の溝2)				溝1(江戸初頭埋没)	
第7次（第4次B）	1970年 11～12月	4H区、第6～8次合計740㎡												
第8次（第4次C）	1970年 12月～1971年1月	2G区・3G区(銅鐸出土地隣接地)、第6～8次合計740㎡												
銅鐸出土地	1970年 12月13日発見	和歌山市黒田51番地(市黒田公園建設予定地)東側小川拡張工事	太田黒田遺跡調査団、巽三郎	森・大野1981 前田2002		外縁付鈕1式袈裟襷文銅鐸1								結晶片岩製舌状石製品共伴、弥生中期前葉土器出土
第9次（第5次）	1971年 2～4月	北太田と南黒田集落の間(3F区・3G区)、560㎡(1～9次計4900㎡)	太田黒田遺跡調査団	市教委・太田黒田遺跡調査団1971、森・大野1981、市教委1983（市文体事1995）	溝?	竪穴住居3、溝2、井戸1、土坑1、溝状土坑(土坑墓?)約10		井戸1、溝2、土坑1(土坑墓?)		(須恵器多数出土)	(須恵器少量出土)	(瓦器多数出土)	大溝1(江戸初頭)	小形内行花文鏡破鏡(古墳初頭溝)、弥生中期前葉溝の下層に前期末土器多く出土、溝状土坑からイノシシ・シカ・タイの骨出土
第10次	1975年 12月～1976年3月	市道和歌山港鳴神線建設、トレンチ16箇所、53㎡(工事面積は4200㎡)	和歌山市教委	（市教委1976、市文体事1995）		弥生土器少量、ジョッキ形土器(中期)			須恵器・土師器(古墳中期以降)		土坑1(奈良)、溝1・土坑1(古代末、瓦器出土)	土坑1(鎌倉)、ピット群(中世末～近世初頭)	溝1・井戸1(江戸前半、鉄滓多量)	地表下80～120cm青灰色粘土層、弥生の遺構・包含層なし、東半に古墳中期以降の遺構、西半に近世柱穴群
第11次	1977年 7～8月	太田516、市道有本田尻線、180㎡	和歌山市教委	（市文体事1995）				土坑1				溝2(中世)		石仏・一石五輪塔(中世溝)
第12次	1978年 8～9月	太田376・382・383・482、市道有本田尻線、115㎡(東西13×南北8.5m)	和歌山市教委	大野・井馬2001（市文体事1995）		井戸1、絵画土器		土坑4				瓦溜1・掘込(室町)		包含層から線刻「シカ」2頭の絵画土器、現標高3.4m
第13次	1978年 8～9月	太田428-9、20㎡	和歌山市教委	（市文体事1995）						(古墳時代土坑)				
第14次	1979年 7～8月	北太田の来迎寺北側道路敷(130㎡)、市道有本田尻線予定地(70㎡)	和歌山市教委	（市文体事1995）	(前期末～中期初包含層)				落ち込み1					市道調査区は遺構なし、碧玉製管玉・有孔円板(古墳中期)
第15次	1980年 7～9月	太田503-7(来迎寺北側)、170㎡、計画道路敷(14次東側隣接地)	和歌山市教委（大野）	（市教委1980、市文体事1995）	竪穴住居1	竪穴住居1、土坑1			土坑(5世紀後半)		土坑3(奈良)	溝1・井戸1(室町～江戸)	土坑(江戸中頃以降)	14次の弥生前期遺構面の確認調査、管玉・有孔円板、現標高3.7m、地山標高2.5m
第16次	1981年 8～9月	15次下層の竪穴住居の精査と来迎寺東側隣接地	和歌山市教委	（市教委1981、市文体事1995）										

調査地点	年度	調査地、調査面積	担当	文献	弥生前期	弥生中期	弥生後期	古墳前期	古墳中期	古墳後期	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸以降	備考
第17次	1983年11月～1984年2月	太田429-6、社屋建設、181㎡	和歌山市教委	(市文体事1995)		竪穴住居2、井戸1(刳抜材)						堀状遺構1(中世末)		
第18次	1985年7月	太田538、小山塚(太田城水攻め戦死者埋葬伝説)、14㎡	和歌山市教委	(市文体事1995)								井戸状遺構1		
第19次	1987年6～7月	太田424-10、学校法人建物建設、140㎡	和歌山市教委	(市文体事1995)		(弥生時代遺構)				(古墳時代遺構)		堀状遺構1(中世末)		
第20次	1987年9月	太田455、家屋建設、16㎡	和歌山市教委	(市文体事1995)								溝2(鎌倉・室町)		
第21次	1988年2～4月	黒田48-1、集合住宅予定地、450㎡	和歌山市教委	(市教委1988、市文体事1995)		土器棺1、溝2、土坑1、溝状土坑1(土坑墓?)					大形井戸1(奈良)	井戸2、堀状遺構1		一部9次調査区と重なる、イノシシ骨(弥生方形土坑)、斎串1点出土(奈良井戸)
第22次	1988年4～5月	太田479-3、ビル建設、210㎡	和歌山市文体事(大野)	(市教委・市文体事1988、市文体事1995)市文体事1992		円形竪穴住居3				柱穴9		大溝1(室町)		12次調査区東側隣接地、中世大溝は幅2mで焼土痕跡あり(16世紀に埋没)
第23次	1994年3月	黒田158-1、事務所建設、7㎡(東西3.5×南北2m)	和歌山市文体事(井馬・栗本)	市文体事1996a(市文体事1995)		溝1、ピット(杭)6、土坑4				溝1		(中世瓦器)		現標高2.9m
第24次	1994年3～5月	黒田169-1、共同住宅建設、299㎡(南北13×東西23m)	和歌山市文体事(井馬・栗本)	市文体事1996a(市文体事1995)	(希薄な包含層)	土坑4、溝3、土器棺1							土坑(近世粘土採掘坑)4	黒田公園北側、標高2.8m、噴砂あり
第25次	1994年10月	太田533-1、住宅建設(玄通寺南隣接地)、22㎡	和歌山市文体事(北野・栗本)	市文体事1997(市文体事1995)		(弥生中期土器あり)				土坑1		溝1(室町)	小溝2(江戸)、溝1(江戸～近代)	弥生時代の遺構・包含層なし、現標高3.8m
第26次	1995年4～5月	太田383、専門学校建設、340㎡	和歌山市文体事(井馬)	市文体事1995(市文体事1996b・1998a)	大溝1(環濠)、土坑2	水田3面、大畦畔1、溝1		溝1(中期に埋没)				大溝1(中世末)、掘立柱建物、小溝群		前期環濠1条、直柄広鍬(弥生前期大溝)、鉛玉・宋銭(包含層)、現標高3.6m
第27次	1995年5～8月	太田314-1・314-6、集合住宅建設、75㎡	和歌山市教委(益田)	市文体事1998a(市文体事1996b)		土器棺1							土坑1(江戸)	
第28次	1995年5～6月	太田244-1、集合住宅建設(24号バイパス北側)、70㎡(工事面積180㎡)	和歌山市教委(前田)	市文体事1998a(市文体事1996b)		土坑1、土器棺1、溝1、落込1			柱穴群(中期～後期)				土坑4(江戸)、溝状遺構1	現標高3.4m
第29次	1995年7月	太田297地先、駐車場案内システム建設(24号バイパス内)、6㎡	和歌山市教委(前田)	市文体事1998a(市文体事1996b)							土坑1(平安)	(中世包含層)		現標高3.5m
第30次	1995年12月	太田355-1、事務所建設、18㎡	和歌山市教委(前田)	市文体事1998a(市文体事1996b)		溝1								現標高3.7m
第31次	1996年2～3月	太田地内、下水道管埋設、計35㎡(トレンチ6箇所)	和歌山市文体事(栗本)	市文体事1998a(市文体事1996b)	溝状遺構1(6トレ、前期?)	土坑2・ピット1(2トレ)		土坑1(6トレ)		溝1(6トレ)		土坑1・水田(鎌倉、2トレ)、溝2(室町、4トレ/鎌倉、6トレ)	溝状遺構と石垣(江戸、4トレ)	3トレンチは16次調査と重複
第32次	1996年1月	太田531、寺院改築(玄通寺)、10㎡	和歌山市文体事(北野)	市文体事1998a(市文体事1996b)		(弥生中期土器多数)					(黒色土器、緑釉陶器)	整地層(室町)	(江戸陶器)	
第33次	1996年3月	黒田80-1ほか、事務所建設、170㎡	和歌山市文体事(北野)	市文体事1996b(市文体事1998a)		溝1		溝1(後期末～庄内)			溝1(奈良)、溝1(平安)		溝1・土坑1(江戸)	鉛玉・鞴羽口出土、現標高3.7m、34次と重複
第34次	1996年4・7月	黒田80-1、事務所建設、160㎡	和歌山市文体事(北野・高橋)	市文体事1996b(市文体事2000)		大溝1、溝1		溝1(後期末～庄内)			大溝1(奈良)	(瓦器)	(江戸陶器)	鞴羽口出土、現標高3.7m、33次と重複
第35次	1996年6月	太田538-20、個人住宅建設、4㎡	和歌山市教委(前田)	(市文体事1998b)市文体事2000								土坑2、柱穴1(中世)		包蔵地外
第36次	1996年8～9月	黒田134-6、マンション建設、90㎡	和歌山市文体事(木建)	(市文体事1998b)市文体事2000		(中期包含層)				溝1(古墳時代)	(奈良～平安遺物)	溝1、土坑1(鎌倉)		

調査地点	年度	調査地、調査面積	担当	文献	弥生前期	弥生中期	弥生後期	古墳前期	古墳中期	古墳後期	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸以降	備考
第 37 次	1996 年 11～12 月	太田 422、事務所建設、20㎡	和歌山市文体事(栗本)	(市文体事 1998b) 市文体事 2000	(前期土器あり)	(中期包含層)						溝 1(室町)	溝 1(江戸)	鉛玉出土
第 38 次	1997 年 1 月	太田 375-1、医院建築、18㎡	和歌山市教委(前田)	(市文体事 1998b) 市文体事 2000		(中期土器細片)							小溝群、土坑 3(江戸以降)	
第 39 次	1997 年 2～3 月	太田 461、個人住宅建設、60㎡(東西 10m×南北 6 m)	和歌山市文体事(木建)	市教委 1997 (市文体事 1998b・2000)	(土器あり)	土坑 3、溝状遺構 1					土坑 1(奈良)、(平安黒色土器)	(鎌倉瓦器、室町瓦質土器)	土坑 2(江戸)	2・3 次調査範囲と重複(未掘削部分の再調査)
第 40 次	1997 年 5～6 月	太田 442、事務所建設、160㎡(東西 10m×南北 16m)	和歌山市文体事(北野・高橋)	(市文体事 1998b) 市文体事 2000		土器棺 3、(植物痕跡)				溝 1				
第 41 次	1997 年 6～8 月	太田 423-4、事務所建築、140㎡	和歌山市文体事(木建)	(市文体事 1998b) 市文体事 2000		溝 1、土坑 2					溝 1(平安)		溝 1、土坑 2(江戸)	33・34 次調査区西隣
第 42 次	1997 年 8～11 月	黒田 136 地先、道路建設、50㎡	和歌山市教委(前田)	(市文体事 1998b) 市文体事 2000		大溝 1、土坑 1(落込)							土坑 1	チャート製火打石 2 点
第 43 次	1998 年 1～2 月	黒田 157-1、共同住宅建築、250㎡(東西 31m×南北 8 m)	和歌山市文体事(北野・木建・吉田)	市文体事 1998b (市文体事 2000)		竪穴住居 4、土器棺 1、大溝 1		(古墳初頭土師器)		大溝 1		溝 4(鎌倉)		石杵(弥生中期)、碧玉製管玉 2 点(古墳か)、現標高 3.7m
第 44 次	1998 年 11 月	太田 294-1、集合住宅建設、43㎡	和歌山市教委(前田)	(市文体事 2001a) 市文体事 2002a		溝 1						土坑 1(中世以降)		噴砂あり
第 45 次	2000 年 10 月～2001 年 1 月	太田 515-1、事務所ビル建設、300㎡(南北 20m×東西 15m)	和歌山市文体事(井馬・川口)	市文体事 2001a (市文体事 2004、市教委・市文体事 2000)	環濠 2	溝 3、土坑 2、井戸 1		井戸 2	土坑 1	土坑 2	溝 1(飛鳥)	井戸 4・土坑 8・土葬墓 1(鎌倉・室町)	石垣 1(江戸)	前期環濠 2 条、絵画土器「シカ」 2 頭(弥生中期)、銅鏃(古墳初頭)、現標高 3.8m
第 46 次	2000 年 11～12 月	太田 514-2、個人住宅建築、90㎡	和歌山市文体事(井馬)	市教委 2002 (市文体事 2001a・2004)	土坑 2	竪穴住居 1、土坑 12、溝 3、土器棺 1、井戸 1		竪穴住居 1、井戸 1、土坑 4			(平安須恵器円面硯)	溝 1(鎌倉・室町)、土坑 1(室町)	溝 1(江戸)	45 次北東隣接地、前期の土坑は住居の炉の可能性あり
第 47 次	2000 年 12 月～2001 年 2 月	黒田 81-5、集合住宅建設、約 190㎡(1 区 154㎡、2 区 32㎡)、33・34 次西側、41 次北側	和歌山市文体事(井馬・藤薮)	市文体事 2001b (市文体事 2004)	(希薄な包含層)	溝 5、土坑 2			溝 1		溝 1(奈良)			木製鋤出土(弥生中期溝)、現標高 3.8m
第 48 次	2001 年 5～8 月	黒田 113-1・2、集合住宅建設、300㎡(東西 21.5m×南北 14m)	和歌山市文体事(高橋)	市文体事 2001b (市文体事 2004)		土器棺 7、溝 7、ピット群					溝状遺構 1(奈良)			管状土錘 91 点(弥生中期)、馬歯(奈良)、現標高 3.3m
第 49 次	2001 年 5～6 月	太田地内(第 1 地区 15 街区 2-2)、集合住宅建設、100㎡	和歌山市文体事(奥村)	市文体事 2002c (市文体事 2004)	落込み	焼土坑 1				溝 2、土坑 1	(飛鳥・奈良須恵器)	(鎌倉・室町陶器ほか)	粘土採掘坑 2(江戸)	焼土坑は前期～中期初頭、現標高 3.6m
第 50 次	2001 年 6～7 月	太田 514-18、個人住宅建設、45㎡、45 次・46 次隣接地	和歌山市文体事(井馬)	市教委 2003 (市文体事 2004)	土坑 3	土坑 10		竪穴住居 1	溝 1、土坑 1	竪穴住居 1、土坑 1	溝 1(平安)	井戸 1・溝 2(鎌倉)、溝 2(室町)	土坑 1(江戸)	須恵器イイダコ壺・碧玉製管玉(古墳時代)、現標高 4.0m
第 51 次	2001 年 7 月	黒田 160-2 地内、集合住宅建設、60㎡(東西 1.5×南北 40m)	和歌山市文体事(川口)	(市文体事 2002d) 市文体事 2004	環濠 1	土坑 2		竪穴住居 2		溝 1	土坑 1(奈良)	土坑 2(中世)		前期環濠か
第 52 次	2001 年 8～10 月	太田 485-1、集合住宅建設、120㎡(東西 17m×南北 7 m)	和歌山市文体事(藤薮)	市文体事 2002d (市文体事 2004)	土坑 3	竪穴住居 2、土坑 2、井戸 1		井戸 1				井戸 1・溝 2・土坑 2(鎌倉)	鋤溝 15・土坑(江戸)	前期の土坑は住居の炉の可能性あり、現標高 4.0m
第 53 次	2002 年	太田 384-1、店舗建設、4.5㎡(東西 3 m×南北 1.5m)	和歌山市文体事	(市文体事 2005)						溝 1				
第 54 次	2004 年 5～6 月	太田 479-6、集合住宅建設、49㎡(東西 4 m×南北 12.3m)	和歌山市文体事(奥村)	(市文体事 2005、市都整公 2007)	溝 2(周溝墓?)、土坑 2	土器棺 1、土坑・柱穴・溝		井戸 1		井戸 1		溝 1・落ち込み 1	溝 1・土坑 2(江戸)	L 字状の溝が方形周溝墓の可能性あり、現標高 3.6m
第 55 次	2004 年 7～8 月	太田字城跡 479-1、立体駐車場建設、39㎡(東西 8 m×南北 5 m)	和歌山市文体事(藤薮)	市文体事 2005 (市都整公 2007)	溝 1	土坑 6(前期～中期初)、土坑 7(中期)		(庄内土器)		(古墳後期須恵器)	土坑 1(平安)	土坑 4(鎌倉)、土坑 1・噴砂(室町)		須恵器の転用硯出土(奈良)、現標高 3.8m
県第 1 次	2005 年 7 月～2006 年 1 月	黒田字池ノ首 48、和歌山労働局新庁舎建設、795㎡	和歌山県文化財センター(仲原)	本書	土坑 8	竪穴住居 1、溝 5、土器棺 2、井戸 3、谷状地形 1		(庄内土器少量)			流路・溝・連続土坑群(奈良)		鋤溝群 (江戸以降)	

【太田・黒田遺跡関連文献】

宮田啓二 1954a「太田弥生遺跡」『紀伊考古学資料調査報告　あさも』第4巻第6号(和歌山考古学会)
宮田啓二 1954b「土器図録」『紀伊考古学資料調査報告　あさも』第4巻第7号(和歌山考古学会)
坪井清足 1958「和歌山県和歌山市南黒田遺跡の土器」『弥生式土器集成　資料編1』(小林行雄・杉原荘介編)
鵜磨正信 1962「和歌山市太田黒田遺跡出土の一土器片」『熊野路考古』2(南紀考古学同好会)
和歌山市教育委員会・太田黒田地区文化財綜合調査団弥生集落調査班 1968「太田・黒田遺跡予備調査概要」
日下雅義 1969「太田・黒田遺跡の地形環境」『和歌山市太田・黒田地域総合調査　地理・歴史調査概報』
(和歌山市教育委員会、太田・黒田地域総合調査団)
服部昌之 1969「太田・黒田地域の歴史地理的環境」『和歌山市太田・黒田地域総合調査　地理・歴史調査概報』
森浩一・白石太一郎 1969「南近畿における前・中期弥生式土器の一様相－太田・黒田遺跡の調査から－」
『考古学ジャーナル』33(ニュー・サイエンス社)
森浩一・白石太一郎ほか 1971「シンポジュウム弥生文化研究の諸問題－近畿とその周辺の中での太田・黒田遺跡－」
『古代学研究』61(古代学研究会)
和歌山市教育委員会・太田黒田遺跡調査団 1971「太田・黒田遺跡　第5次調査概要」
和歌山市教育委員会 1974『太田・黒田遺跡　埋もれていた和歌山の歴史』
和歌山市教育委員会 1976「太田・黒田遺跡範囲確認調査（和港～鳴神線）中間報告」
小賀直樹 1979「和歌山県の弥生式土器」『和歌山の研究』1　地質・考古篇(清文堂出版)
和歌山市教育委員会 1980「昭和55年度　太田黒田遺跡発掘調査概要」
和歌山市教育委員会 1981「昭和56年度　太田黒田遺跡発掘調査資料」
森浩一・大野左千夫 1981「和歌山市太田黒田遺跡」
『日本考古学年報21・22・23(1968・1969・1970年度版)』(日本考古学協会)
和歌山市教育委員会 1983『太田黒田遺跡　図版編』
和歌山県史編さん委員会編 1983「太田・黒田遺跡」『和歌山県史　考古資料』(和歌山県発行)
額田雅裕 1987「太田城付近の地形環境」『和歌山市立博物館紀要』2
和歌山市教育委員会・(財)和歌山市文化体育振興事業団 1988「太田黒田遺跡発掘調査現地説明会資料」
和歌山市教育委員会 1988「太田黒田遺跡(黒田48番地内)説明会資料」
土井孝之 1989「紀伊地域」『弥生土器の様式と編年　近畿編Ⅰ』(木耳社)
和歌山市史編纂委員会編 1991「太田黒田遺跡」『和歌山市史』第1巻自然・原始・古代・中世(和歌山市発行)
(財)和歌山市文化体育振興事業団 1992『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報1－昭和63(1988)・平成元(1989)年度－』
(財)和歌山市文化体育振興事業団 1995『太田・黒田遺跡　第26次発掘調査概報』(第13集)
額田雅裕 1995「太田・黒田遺跡の立地と環境」『太田・黒田遺跡第26次発掘調査概報』
前田敬彦 1995「紀伊における弥生時代集落と銅鐸」『古代文化』47-10((財)古代学協会)
(財)和歌山市文化体育振興事業団 1996a『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報3－平成4(1992)・平成5(1993)年度－』
(財)和歌山市文化体育振興事業団 1996b『太田・黒田遺跡　第33・34次発掘調査概報』(第14集)
井馬好英 1996「和歌山市太田・黒田遺跡検出の弥生時代水田について」『紀北考古学談話会会報』19
前田敬彦 1996「和歌山県出土の土馬」『紀北考古学談話会会報』26
和歌山市教育委員会 1997『和歌山市内遺跡発掘調査概報－平成8年度－』
(財)和歌山市文化体育振興事業団 1997『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報4－平成6(1994)年度－』
(財)和歌山市文化体育振興事業団 1998a『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報5－平成7(1995)年度－』
(財)和歌山市文化体育振興事業団 1998b『太田・黒田遺跡　第43次発掘調査概報』(第20集)
巽三郎 1998「紀伊弥生土器集成図(その1)」『紀伊考古学研究』創刊号(紀伊考古学研究会)
和歌山県立紀伊風土記の丘資料館 1999『特別展図録　きのくにの銅鐸』
高橋方紀 1999「太田・黒田遺跡の石器組成」『紀伊考古学研究』2(紀伊考古学研究会)
額田雅裕 1999「秀吉と日本三大水攻め」『特別展図録　秀吉と日本三大水攻め』
和歌山市教育委員会・(財)和歌山市文化体育振興事業団 2000「太田・黒田遺跡第45次発掘調査現地説明会資料」
(財)和歌山市文化体育振興事業団 2000『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報6－平成8年(1996)・9年(1997)年度－』
(財)和歌山市文化体育振興事業団 2001a『太田・黒田遺跡　第45次発掘調査概報』(第27集)
(財)和歌山市文化体育振興事業団 2001b『太田・黒田遺跡　第47次発掘調査概報』(第28集)
井馬好英 2001「＜図版解説＞和歌山市太田・黒田遺跡検出の弥生時代前期環濠」『古代文化』53-8((財)古代学協会)
大野左千夫・井馬好英 2001「太田黒田遺跡出土の弥生絵画土器」『紀伊考古学研究』4(紀伊考古学研究会)
額田雅裕 2001「紀伊太田城水攻めとその地形環境」『和歌山地理』21
和歌山市教育委員会 2002『和歌山市内遺跡発掘調査概報－平成12年度－』
(財)和歌山市文化体育振興事業団 2002a『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報7－平成10年度・11年度－』
(財)和歌山市文化体育振興事業団 2002b『太田・黒田遺跡　第48次発掘調査概報』(第30集)
(財)和歌山市文化体育振興事業団 2002c『太田・黒田遺跡　第49次発掘調査概報』(第31集)
(財)和歌山市文化体育振興事業団 2002d『太田・黒田遺跡　第52次発掘調査概報』(第33集)
高橋方紀 2002「太田・黒田遺跡検出の土器棺墓について」『太田・黒田遺跡第48次発掘調査概報』
前田敬彦 2002「和歌山市太田・黒田遺跡出土の銅鐸」『和歌山市立博物館　研究紀要』16
和歌山市教育委員会 2003『和歌山市内遺跡発掘調査概報－平成13年度－』
北野隆亮 2003「考古資料からみた雑賀・惣国」『和歌山地方史研究』46(和歌山地方史研究会)
額田雅裕 2003a「秀吉の太田城水攻め　太田城跡を推定する」『定本　紀ノ川・吉野川』(中野榮治監修、郷土出版社)
額田雅裕 2003b「和歌山平野における戦国時代ころの地形環境」『和歌山地方史研究』46(和歌山地方史研究会)
和佐野喜久夫・前田敬彦 2003「和歌山市太田・黒田遺跡の炭化米特性と稲作起源」『和歌山市立博物館研究紀要』17
(財)和歌山市文化体育振興事業団 2004『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報8
－平成12年度(2000年度)・13年度(2001年度)－』
和歌山井堰研究会 2004「太田城水攻め堤跡の調査－和歌山市出水堤の測量調査－」
『紀ノ川流域堤防井堰等遺跡調査報告書Ⅱ(那賀郡編)』
(財)和歌山市文化体育振興事業団 2005『太田・黒田遺跡　第55次発掘調査概報』(第38集)
仲原知之 2005「太田・黒田遺跡(県1次)発掘調査中間概要報告」『文化財センター通信　風車』17
(財)和歌山県文化財センター 2005a「太田・黒田遺跡(県1次)発掘調査について　第1回現地公開資料(2005.10.08)」
(財)和歌山県文化財センター 2005b「太田・黒田遺跡(県1次)第2回現地説明会資料(2005.12.10)」
宇民正・宮田順吉 2006「「太田城水攻め」の土木技術面からの見直し」『紀州経済史・文化史研究所紀要』27
(和歌山大学紀州経済史文化史研究所)
北野隆亮 2006「「太田城跡」周辺の考古学的考察」『和歌山平野における荘園遺跡の復元研究』(海津一朗編)
仲原知之 2006a「太田・黒田遺跡(県1次)発掘調査概要報告2」『文化財センター通信　風車』20
仲原知之 2006b「太田・黒田遺跡(県1次調査)－集落東縁辺部の調査－」(第9回近畿弥生の会滋賀場所　資料)
仲原知之 2006c「太田・黒田遺跡(県1次)発掘調査」『(財)和歌山県文化財センター年報　2005年度』
仲原知之 2006d「太田・黒田遺跡出土の管玉2種」『(財)和歌山県文化財センター年報　2005年度』
仲原知之 2006e「太田・黒田遺跡」『文化財発掘出土情報』(ジャパン通信情報センター)
前田敬彦 2006「紀伊における弥生時代遺跡の基礎的研究(1)－和歌山市太田・黒田遺跡－」『紀伊考古学研究』9
横矢晋二郎 2006「太田・黒田遺跡(県1次調査)発掘調査概要説明」(紀伊考古学研究会1月例会資料)
(財)和歌山市都市整備公社 2007『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報－平成16年度(2004年度)－』

第３章　調査の方法

第１節　調査の方法

１．調査コード

今回の調査の調査コードは「05－01・327」（05＝2005 年度、01＝和歌山市、327＝太田・黒田遺跡）とする。記録類の管理や出土遺物の注記にはこのコード名を記している。なお、県関係機関（県教委・県文化財センターなど）の調査がはじめてであり、調査次数は「県１次」とした。

２．調査区の設定

調査区は東西に２分割して設定し（西側をＡ区・東側をＢ区）、調査区を反転して調査にあたった。Ａ区は南北長約 21.5m・東西長約 18.5m（397.9㎡）、Ｂ区は南北長約 21.5m・東西長約 18.5m（397.9㎡）になる（計約 795㎡）。

３．地区割り（図５）

地区割りは遺跡全体を網羅できるように、調査地の北東側の直角平面座標第Ⅵ系（世界測地系）のＸ＝－195.000km、Ｙ＝－73.000km に任意の基点を置いて、この基点を基準にして 100×100mごとの大区画を設定した。基点から西へ向かって 100mごとに「Ａ、Ｂ、Ｃ・・・」、南に向かって 100mごとに「１、２、３・・・」として、100×100mの大区画は「Ａ１区、Ｂ１区・・・」と呼称する。今回の調査地は大区画Ｊ８区とＫ８区にまたがる部分にあたる。

大区画内に４×４mの小区画を設定し、平面実測図や遺物の取り上げなどはこの区画割りを使用する。小地区割りの区画名は、大区画の北東隅を基点として、東西方向を東から西に向かって４mごとに「a、b、c・・・」、南北方向を北から南へ向かって４mごとに「１、２、３・・・」として、小区画名はこれらを組み合わせて「ａ１、ｂ１・・・」と呼称する。

４．遺構の名称

遺構番号は１から順に通し番号を付けて、「遺構１、遺構２・・・」として、遺構から出土した遺物などの取り上げにはこの番号を用いている。なお、竪穴住居内の壁溝や柱穴なども壁溝１や柱穴１などのように別番号を付けずに、同じように順番に通し番号を付けている。それぞれの遺構は、「遺構＋遺構番号＋（遺構種類）」とし、「遺構 130（溝）」、「遺構 300（竪穴住居）」と表記する。今回の調査では、遺構１～遺構 435 まで付している（遺構 99 欠番）。

5．基準点と水準点

調査地南東側の歩道（WT.1）と大門川西岸（WT.2）に今回設置した3級基準点は、北島の二等三角点、秋月、東和中学校の四等三角点を基点にしている。今回使用する座標はこの3級基準点から求めた。さらに3級基準点から調査地周辺に4級基準点を3箇所設けた（WT11、WT12、WT13）。

今回の発掘調査で使用するレベル値（3級水準点）は出水の三等三角点（7.31m）を基点にしている。なお、和歌山市教育委員会および（財）和歌山市文化体育振興事業団（現（財）和歌山市都市整備公社）が太田・黒田遺跡の調査で使用する3級基準点（3-1）が今回の調査地北側にある黒田公園北西側の道路に設置されている。調査中にこの3級基準点（レベル＝3.297m）と今回の基準点のレベル差を測量したところ、今回の基準点の方が和歌山市設置のレベルより10.5cm低いことがわかった。今後和歌山市関係の調査地点と標高などを比較する際には注意が必要である。

6．掘削作業

A区では盛土（0層）と現代耕作土・床土（1－1層・1－2層）を機械掘削し、B区では盛土（0層）、現代耕作土・床土（1－1層・1－2層）と江戸時代以降の耕作土（2－1層・2－2層）を機械掘削し、それ以下（3層以下）の遺物包含層を人力で掘削した。遺物包含層から出土する遺物は小区画ごとに分けて取り上げている。遺物包含層を掘削後に遺構面を精査して遺構検出をおこない、その後各遺構の埋土を人力で掘削した。

遺構内の遺物の取り上げは、半裁の場合は「北半」・「南半」（「東半」・「西半」）などとし、セクションベルトを残した場合はセクションベルトより北側なら「セクション北」、西側なら「セクション西」として取り上げている。

7．測量図化作業・写真撮影

測量図は調査員及び調査補助員が測量・図化した。図面は主に方眼紙（A2）に作成し、遺構配置図（S＝1/100）7枚、調査区平面図（S＝1/20）25枚、調査区壁面土層図（S＝1/20）10枚、各遺構平面・断面図（S＝1/20、一部S＝1/10）27枚、遺構レベル図・遺物取り上げ図（任意）3枚の計72枚になる。写真は6×7版のモノクロとカラースライド、35㎜のモノクロ・ネガカラー・カラースライドフィルムを用いて撮影した。また適宜デジタルカメラを使用した。写真・図面類は文化財センターが保管している。

8．出土遺物整理作業

調査終了後、整理補助員や整理作業員を雇用して、出土遺物の洗浄などの整理作業をおこなった。整理作業の結果、出土遺物や遺構などについて検討し、本発掘調査報告書の刊行に至った。

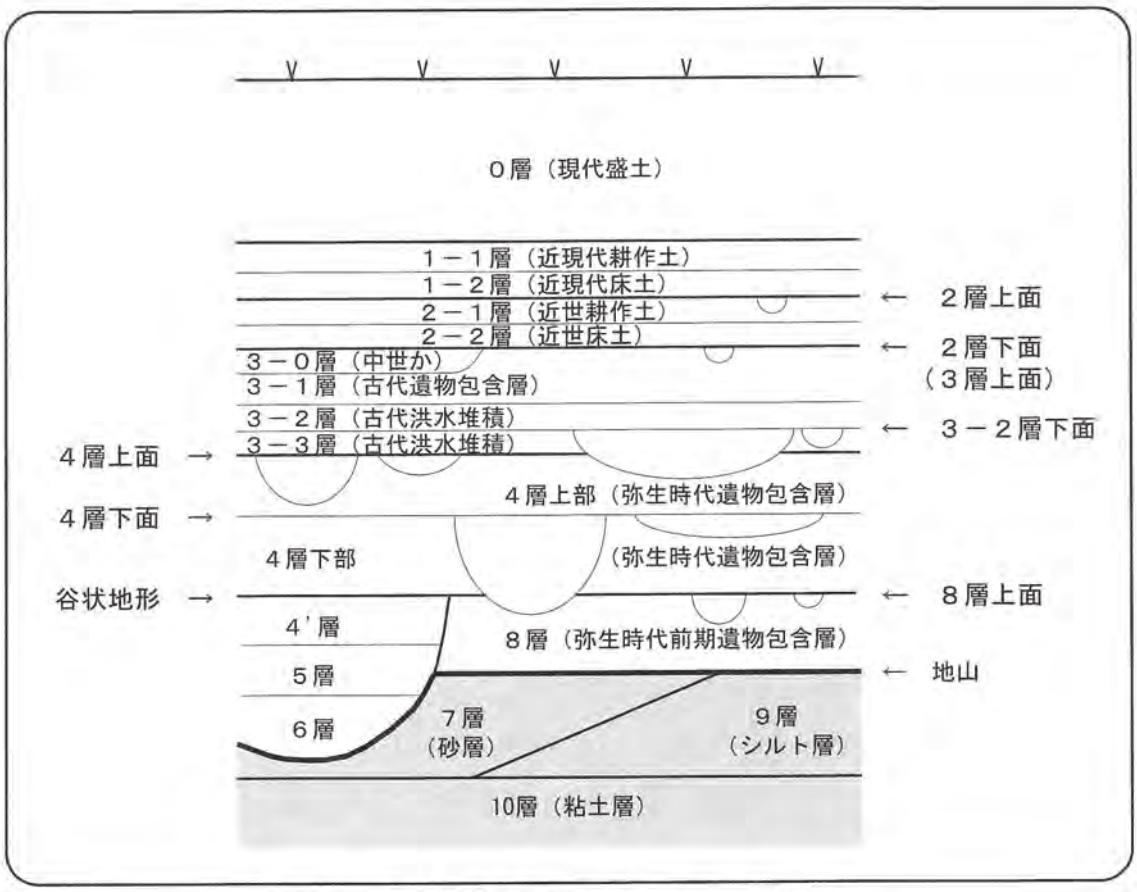


図4　太田・黒田遺跡　県１次調査　基本層序

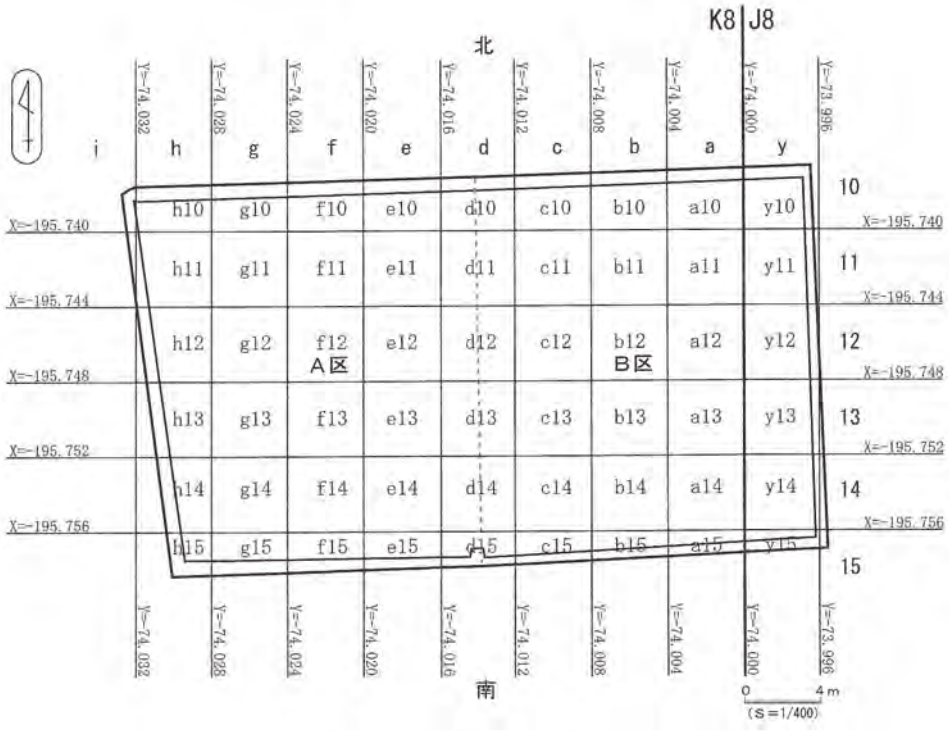


図5　太田・黒田遺跡　県１次調査　地区割図

第２節　基本層序

１．基本層序

今回の調査では、基本的な土層堆積として０～10層に分層している（図４）。

上層から順に、０層（現代の盛土）、１－１層・１－２層（現代耕作土・現代床土）、２－１層・２－２層（江戸時代以降の耕作土・床土）、３－０層（中世の洪水層？）、３－１～３－３層（飛鳥～奈良時代の遺物包含層、３－２層・３－３層は洪水堆積層）、４層（弥生時代中期の遺物包含層、４層上部と４層下部に細分）、８層（弥生時代前期の遺物包含層）に分けられ、７層（４～６層以下の河川堆積の砂層＝地山）、９層（黄褐色シルト層＝地山）、10層（湿地状堆積の粘土層＝地山）を確認している。これらの堆積はＡ区・Ｂ区とも基本的に共通している。

この他、Ａ区で検出した弥生時代中期前葉～中葉の谷状地形の埋土は、上層を４’層・中層を５層・下層を６層としている。ただし、谷状地形上層は調査中に４層と区別して調査することができなかったので、４’層としては遺物を取りあげられていない。

調査区全体（西壁・北壁・南壁・東壁）の土層断面図を図６～図12に示している。図中では、地山には薄いトーンをかけ、炭化物層には濃いトーンをかけている。遺構の埋土は個別にａ、ｂ、ｃ・・・で表している。なお、図７の一部を除いて０層（現代盛土）の上面は省略している。このうち、４’層は谷状地形上層、５－１層～５－15層は谷状地形中層、６－１層～６－35層は谷状地形下層である。谷状地形下層で地山の表示がない部分は、地山まで掘削できなかった部分（地山未検出部分）である。地山の標高は、西壁より東壁の方が高い。

２．遺構面

基本層序で示した層位ごとに各層を掘削し、以下のとおり遺構を検出して調査をおこなった（図４）。調査をおこなったのは、２－１層上面（調査中は２層上面と呼称）、３－１層上面（調査中は２層下面）、３－２層下面（調査中は３－２層上面）、４層上部上面（調査中は４層上面）、４層下部上面（調査中は４層下面、実際は地山面で調査）、８－１層上面（調査中は８層上面）の６面である。これらを報告書ではそれぞれ、２層上面遺構面、２層下面遺構面（３層上面）、３－２層下面遺構面、４層上面遺構面、４層下面遺構面、８層上面遺構面として呼称する。

各遺構面の時期は、２層上面遺構面＝江戸時代以降、２層下面遺構面＝江戸時代、３－２層下面遺構面＝飛鳥～奈良時代、４層上面遺構面＝弥生時代中期後葉、４層下面遺構面＝弥生時代中期中葉、８層上面遺構面＝弥生時代前期末となる。

また４層下面遺構面と同時に弥生中期前葉～中葉の谷状地形を検出しているが、４層下面遺構面と８層上面遺構面の間に位置付けられる。

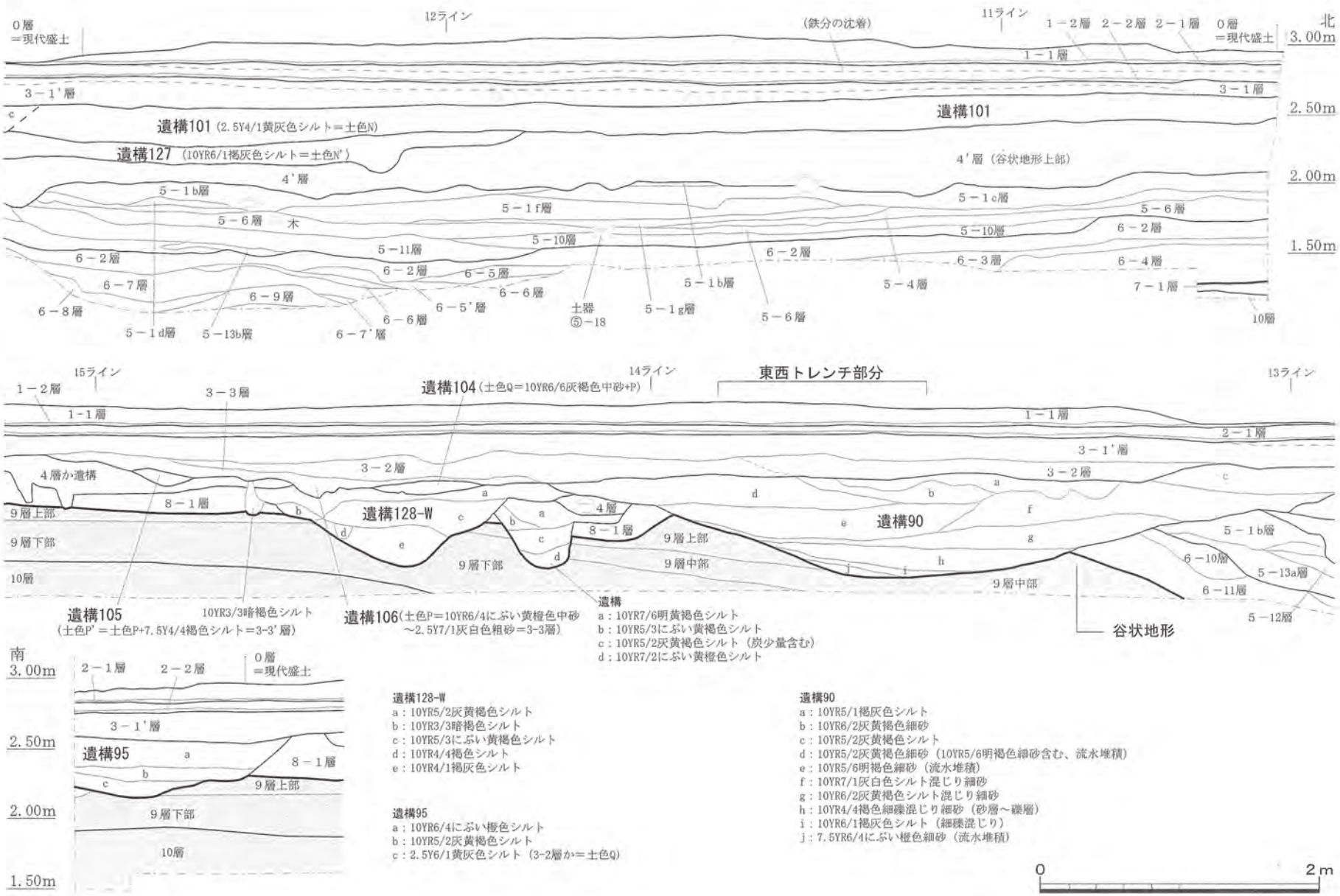


図6　調査区西壁土層断面図　（S＝1/40）

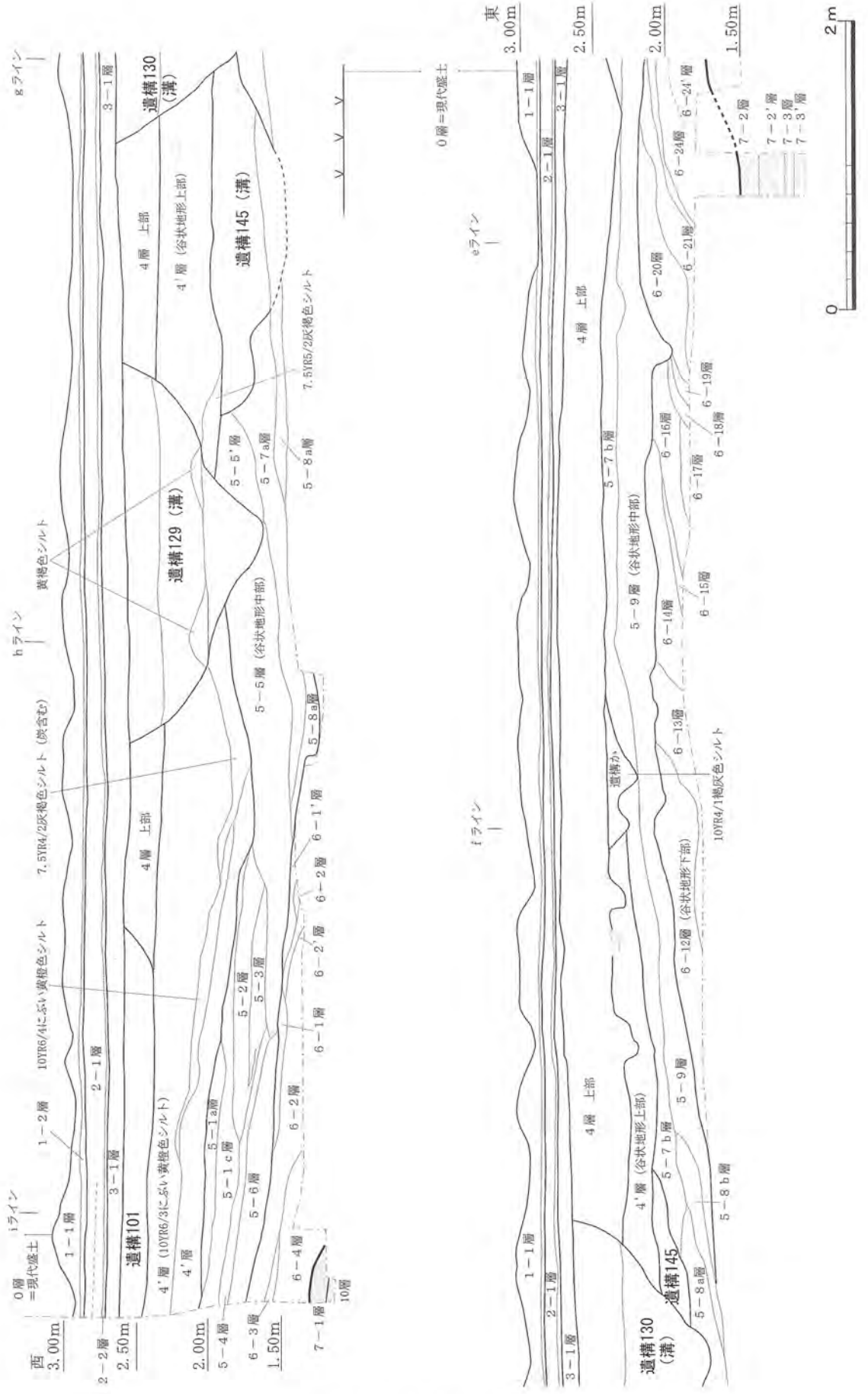


図７　調査区北壁土層断面図１　（S＝1/40）

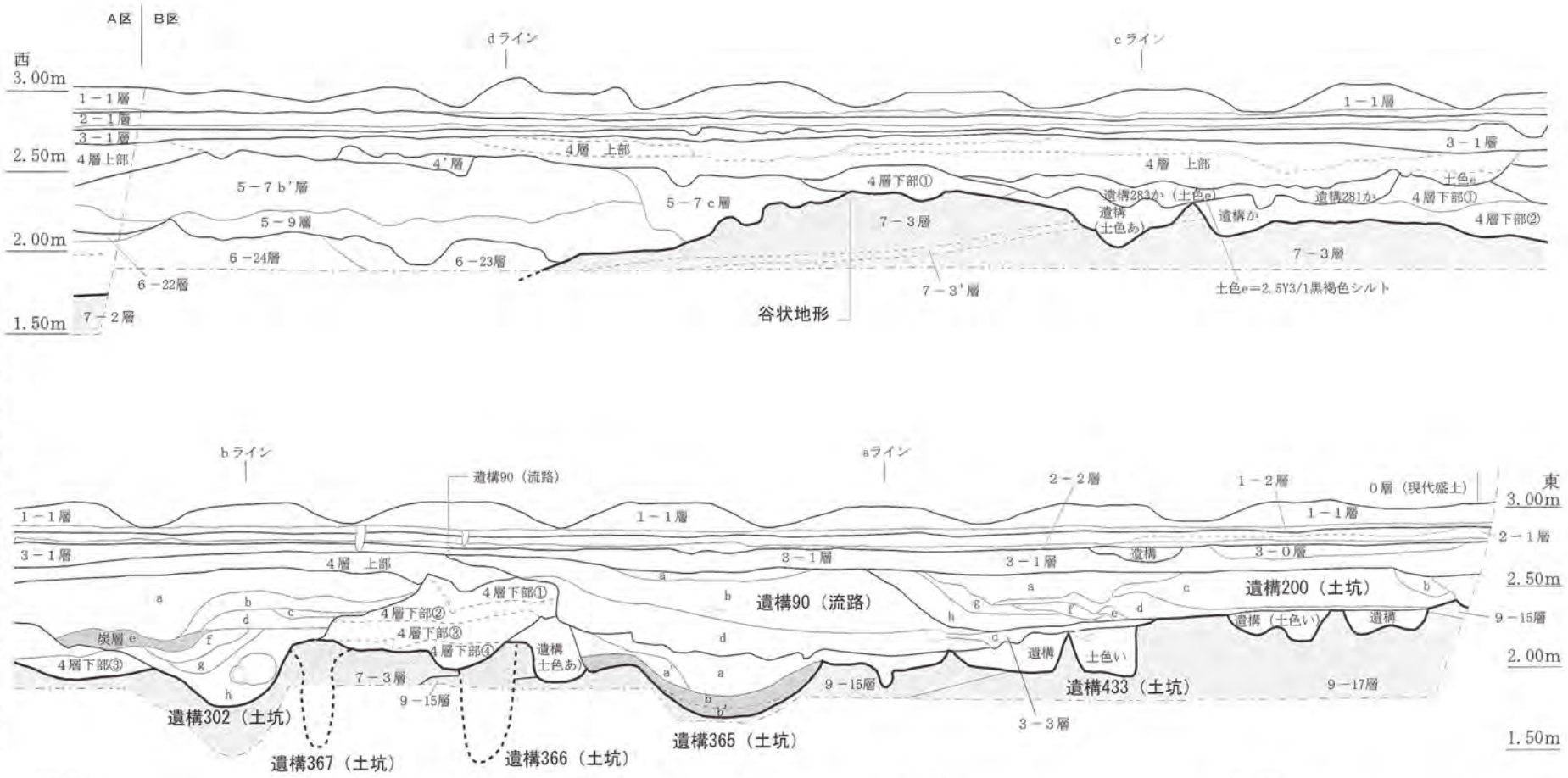


図8 調査区北壁土層断面図2 （S＝1/40）

遺構302
a：7.5YR4/1褐灰色シルト～細砂
b：10YR4/3にぶい黄褐色シルト～細砂（炭含む）
c：10YR4/3にぶい黄褐色シルトブロック
d：10YR4/3にぶい黄褐色シルト
e：炭層
f：土色あ＝2.5Y3/1黒褐色シルト（炭含む）
g：土色あ（シルトブロック）
h：土色あ（やや粘質、炭少量、10YR6/4にぶい黄橙色シルトブロック含む）

遺構365
a ：土色い＝2.5Y4/1黄灰色シルト（若干炭含む）
a'：土色い（シルト～細砂）
b ：炭層（焼土ブロック含む）
b'：炭層（焼土ブロック含まない）

遺構366・遺構367
土色あ（鉄分斑点状、土色え＝10YR4/4褐色シルト含む）

遺構90
a：10YR6/1黄灰色細砂～細礫
b：2.5Y6/1黄灰色細砂
c：＝3-3層
d：10YR5/2灰黄褐色シルト～粘土（鉄分斑点状）

遺構200
a：2.5Y6/1黄灰色細砂～細礫
b：10YR5/6黄褐細砂～シルト
c：2.5Y6/3にぶい黄色シルト
d：2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト～細砂
e：7.5YR4/6褐色細砂
f：7.5YR4/6褐色細砂
g：10YR5/2灰黄褐色シルト～細砂
h：10YR5/2灰黄褐色シルト

0 2m

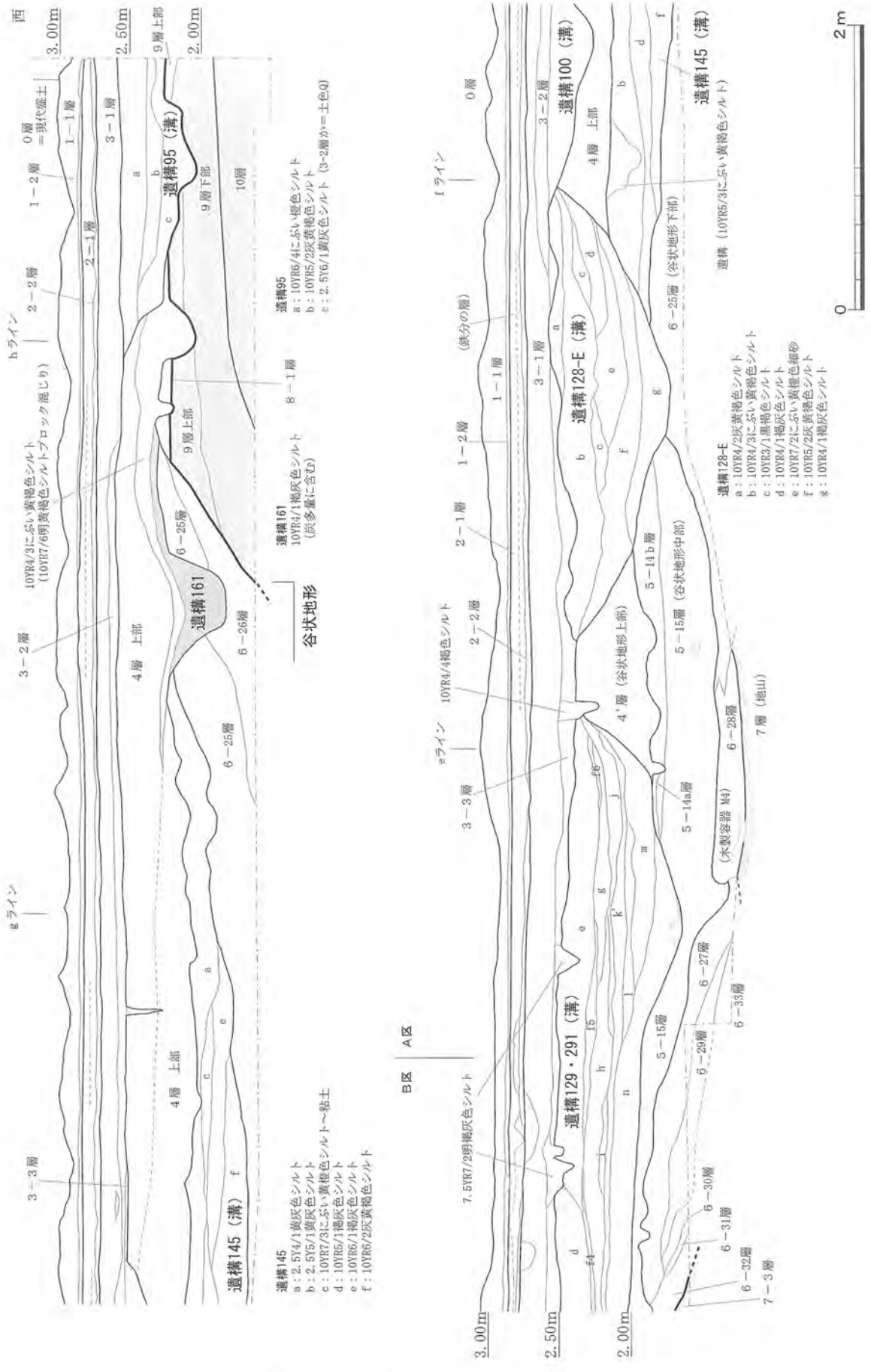


図９　調査区南壁土層断面図１　（S＝1/40）

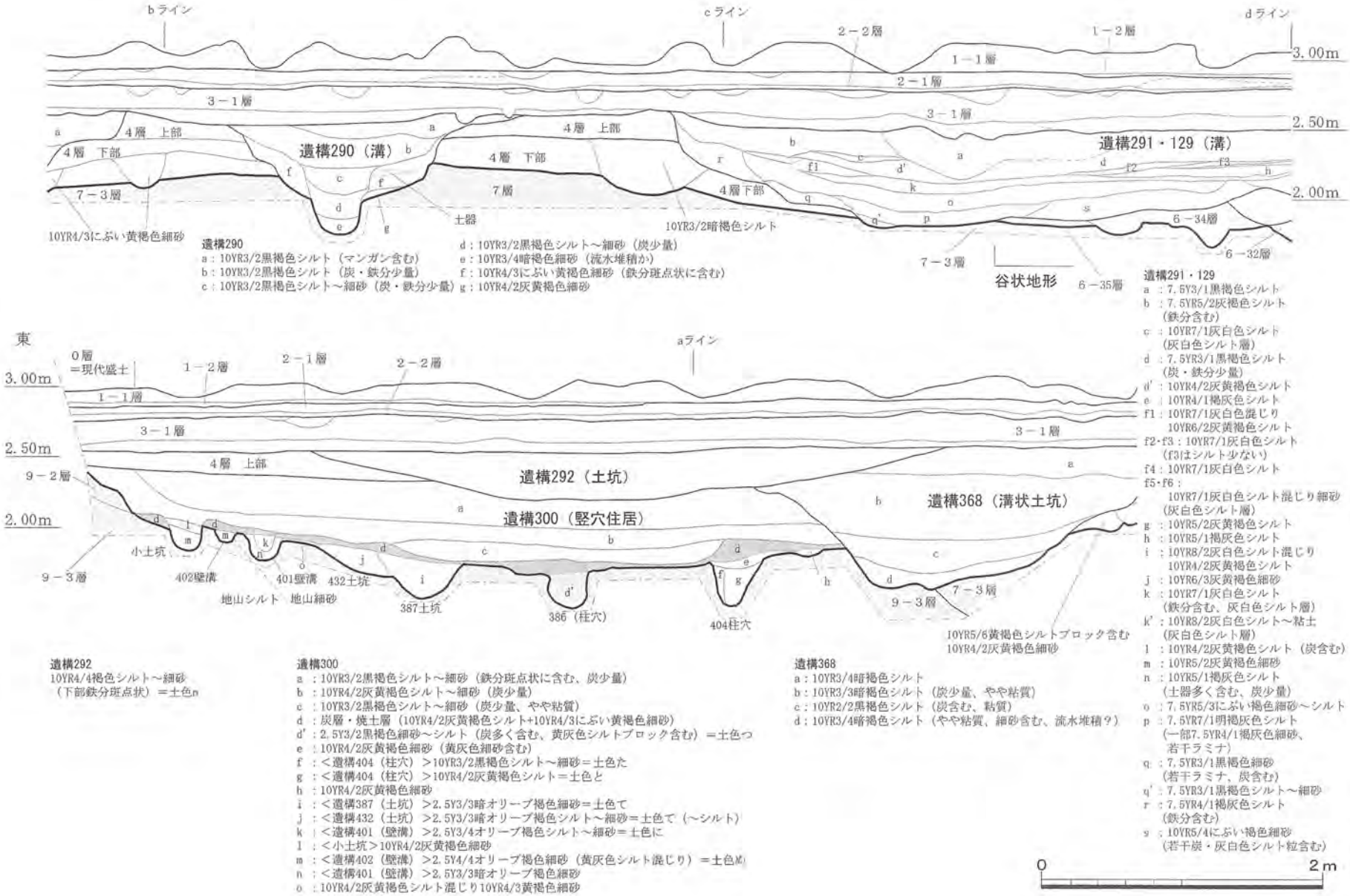
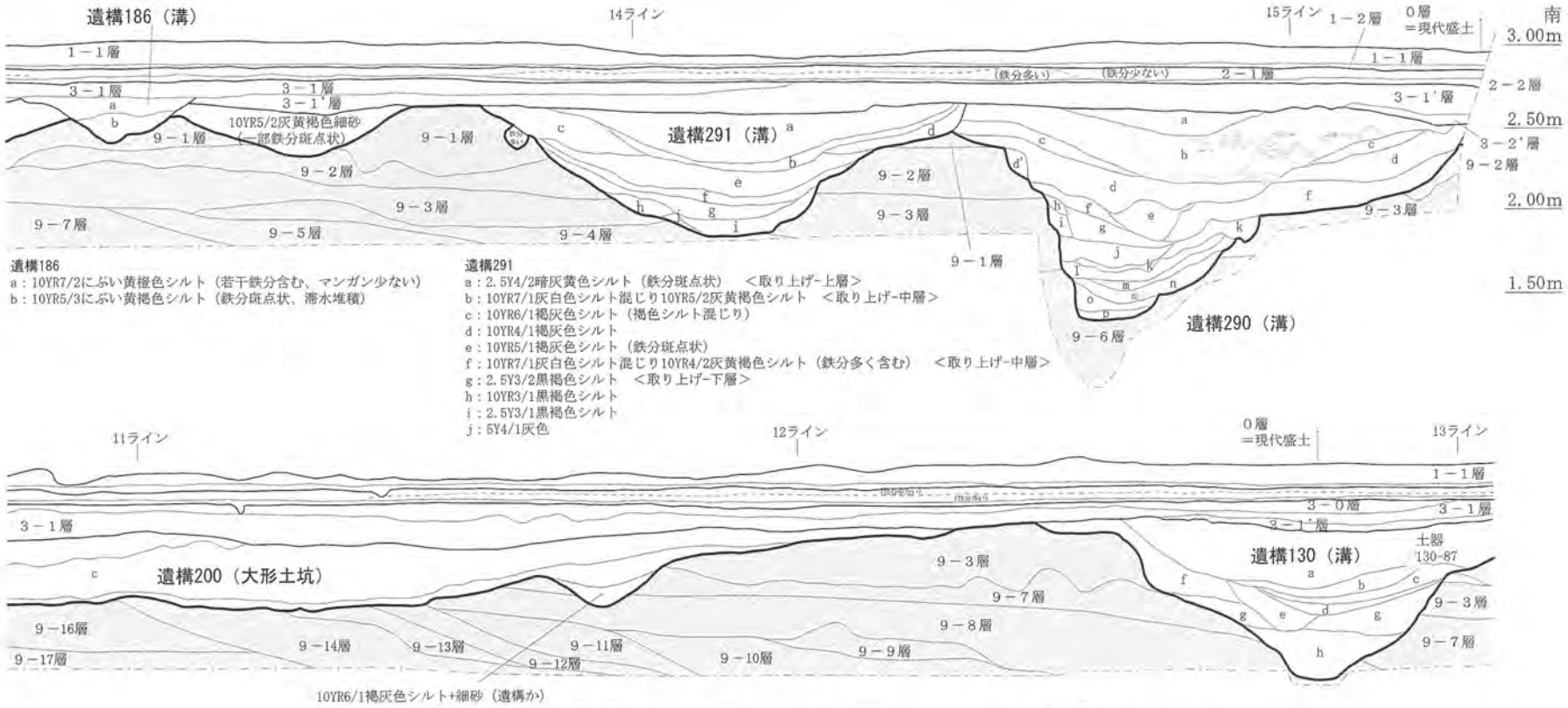
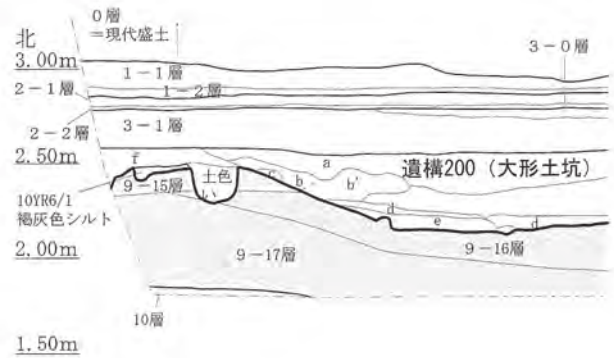


図10　調査区南壁土層断面図２　（S＝1/40）



遺構186
a：10YR7/2にぶい黄橙色シルト（若干鉄分含む、マンガン少ない）
b：10YR5/3にぶい黄褐色シルト（鉄分斑点状、滞水堆積）

遺構291
a：2.5Y4/2暗灰黄色シルト（鉄分斑点状）　＜取り上げ-上層＞
b：10YR7/1灰白色シルト混じり10YR5/2灰黄褐色シルト　＜取り上げ-中層＞
c：10YR6/1褐灰色シルト（褐色シルト混じり）
d：10YR4/1褐灰色シルト
e：10YR5/1褐灰色シルト（鉄分斑点状）
f：10YR7/1灰白色シルト混じり10YR4/2灰黄褐色シルト（鉄分多く含む）　＜取り上げ-中層＞
g：2.5Y3/2黒褐色シルト　＜取り上げ-下層＞
h：10YR3/1黒褐色シルト
i：2.5Y3/1黒褐色シルト
j：5Y4/1灰色



遺構130
a　：10YR3/2黒褐色シルト～細砂　＜取り上げ-上層＞
b　：10YR4/1褐灰色シルト（やや粘質、一部鉄分斑点状、やや粘質）
c　：10YR5/2灰黄褐色シルト
d　：10YR7/1灰白色シルト～粘土　＜取り上げ-中層＞
e　：10YR4/2灰黄褐色シルト　＜取り上げ-下層＞
f　：10YR6/1褐灰色シルト～細砂（一部鉄分斑点状）
g　：10YR4/4褐色細砂～シルト
h　：10YR4/1褐灰色シルト（一部鉄分斑点状、やや粘質、下部粘質大）

遺構200
a　：10YR4/4褐色細砂（若干シルト、鉄分含む、流水堆積か）
b　：10YR6/1褐灰色細砂混じりシルト
b'：10YR6/1褐灰色シルト（やや粘質）
c　：2.5Y6/3にぶい黄色シルト
　（若干鉄分・マンガン含む、滞水堆積か）＝土色S1
d　：10YR5/2灰黄褐色シルト～粘土（粘質大、鉄分少ない、滞水堆積）
e　：7.5YR3/4暗褐色細砂混じりシルト（やや粘質、滞水堆積）
f　：10YR6/3にぶい黄橙色シルト（鉄分少量）

遺構290
a：2.5Y5/2暗灰黄色シルト＝遺構290上層土器群
b：10YR2/1黒色シルト（下部に炭多く含む、土器多量に含む）＝遺構290上層土器群
c：10YR3/1黒褐色シルト
d：10YR4/1褐色シルト（上部に斑点状鉄分多く含む、マンガン多く含む）
　（d'：鉄分多く含む）
e：2.5Y3/2黒褐色シルト
f：2.5Y4/2暗灰黄色シルト
g：10YR4/4褐色シルト
h：10YR8/4浅黄橙色シルト（粘質）
i：10YR4/3にぶい黄褐色シルト
j：5Y5/2灰オリーブ色シルト（鉄分少ない）
k：5Y4/2灰オリーブ色シルト～細砂
l：5Y5/1灰色シルト（鉄分多く含む）
m：2.5Y5/3黄褐色シルト～細砂（鉄分少ない）
n：5Y4/1灰色シルト～細砂
o：10Y5/2オリーブ灰色細砂（シルト混じり）
p：7.5Y3/2オリーブ黒色シルト

0　2m

図11　調査区東壁土層断面図（S＝1/40）

遺物包含層
1－1層 ：10YR5/1褐灰色シルト＝現代耕作土
1－2層 ：7.5YR5/8明褐色シルト（鉄分の沈着）＝現代床土
2－1層 ：2.5Y4/2暗灰黄色シルト～細砂（鉄分含む）＝近世耕作土、土色C
2－2層 ：7.5YR5/8明褐色シルト（鉄分の沈着）＝近世床土
3－0層 ：10YR6/2灰黄褐色シルト（マンガン多い、流水堆積か）＝中世か
3－1層 ：2.5Y7/1灰白色シルト（マンガン多い、滞水堆積）＝土色R、古代
3－1'層：2.5Y7/1灰白色シルト（マンガン少ない、滞水堆積）＝土色R、古代
3－2層 ：10YR6/6褐灰色中砂～2.5Y7/1灰白色シルト
（鉄分含む、堅く締まる）＝土色Q、古代
3－2'層：10YR4/4褐色シルト（鉄分多い）＝古代
3－3層 ：10YR6/4にぶい黄橙色中砂～2.5Y7/1灰白色粗砂＝土色P、古代
4層上部 ：10YR3/4暗褐色シルト（鉄分少量・マンガン含む）＝弥生時代中期中葉～後葉
4層下部 ：10YR3/4暗褐色シルト～細砂（鉄分斑点状）＝弥生時代中期中葉
8－1層 ：2.5Y4/6オリーブ褐色シルト（マンガン多く含む）＝弥生時代前期末

地山
7－1層 ：5YR4/6赤褐色礫混じり7.5YR3/4暗褐色粘土（堅く締まる）
7－2層 ：10YR5/6黄褐色細砂～シルト（流水堆積）
7－2'層：10YR5/6黄褐色細砂～中砂（流水堆積）
（～2.5Y5/4黄褐色・2.5Y4/2暗灰黄色細砂～中砂の互層）
7－3層 ：7.5Y6/1灰色細砂（砂層、流水堆積）
～5Y5/3灰オリーブ色細砂混じりシルト
（上部7.5YR5/8明褐色細砂～中砂（鉄分含む））
7－3'層：10YR7/6明黄褐色シルト～10YR4/3にぶい黄褐色細砂～中砂（やや粘質）
9層上部 ：2.5Y4/6オリーブ褐色シルト（マンガン含む）
9層中部 ：2.5Y5/3褐色シルト（粘質）
9層下部 ：5Y5/4オリーブ色粘土（粘質大）
9－1層 ：2.5Y6/2灰黄色細砂（～2.5Y8/3淡黄色シルト混じり）
9－2層 ：10YR4/2灰黄褐色細砂～シルト（鉄分斑点状）
9－3層 ：10YR5/6黄褐色シルト～10YR6/4にぶい黄橙色シルト～細砂
（やや粘質、一部鉄分含む）
9－4層 ：7.5YR6/6橙色細砂（一部10YR5/6黄褐色シルト、流水堆積）
9－5層 ：7.5YR6/6橙色シルト
9－6層 ：2.5Y5/1黄灰色細砂（シルト混じり、鉄分含む）
9－7層 ：10YR7/4にぶい黄橙色シルト（やや粘質、若干細礫）
9－8層 ：7.5YR6/4にぶい橙色シルト～細砂
9－9層 ：10YR7/2にぶい黄橙色シルト～粘土（やや粘質、一部鉄分斑点状）
9－10層 ：10YR7/2にぶい黄橙色シルト～粘土（粘質大、鉄分斑点状）
9－11層 ：7.5YR6/6橙色細砂（若干10YR7/2にぶい黄橙色シルト混じり、流水堆積）
9－12層 ：10YR7/2にぶい黄橙色シルト～粘土（粘質大、一部鉄分斑点状）
9－13層 ：7.5YR6/6橙色細砂～10YR7/2にぶい黄橙色シルト
9－14層 ：7.5YR6/6橙色～10YR7/2にぶい黄橙色細砂（流水堆積）
9－15層 ：10YR4/4褐色シルト（細砂含む）
9－16層 ：10YR5/6黄褐色細砂～シルト（鉄分含む）
9－17層 ：10YR4/6褐色細細砂～シルト（鉄分含む）
10層 ：2.5GY6/1オリーブ灰色シルト～粘土（粘質大）
（B区北東部　10YR7/1灰白色細砂、
若干シルト含む、やや粘質、一部鉄分斑点状）

谷状地形上部
4'層 ：10YR2/1黒色～7.5Y4/1灰色シルト～細砂
（若干細礫・炭含む、マンガン多く含む）＝谷状地形上部

谷状地形中部
5－1a層 ：10YR4/2灰黄褐色シルト～細砂
5－1b層 ：10YR7/4にぶい黄褐色シルト
（10YR5/2灰黄褐色シルト混じり）
5－1c層 ：10YR6/1褐灰色シルト（10YR8/3浅黄橙色シルト混じり）
5－1d層 ：10YR3/2黒褐色シルト（炭含む）
5－1e層 ：10YR7/4にぶい黄褐色シルト
5－1f層 ：10YR7/4にぶい黄橙色シルト混じり10YR5/1褐灰色シルト
5－1g層 ：10YR7/3にぶい黄橙色粘土混じりシルト
5－2層 ：10YR5/3にぶい褐色シルト～細砂
5－3層 ：7.5YR5/6明褐色細砂
5－4層 ：10YR8/3浅黄橙色粘土
5－5層 ：10YR5/3にぶい褐色シルト
5－5'層 ：10YR7/6明黄褐色細砂～シルト
5－6層 ：7.5YR5/2灰黄色細砂
5－7a層 ：7.5YR4/6褐色細砂～7.5YR4/6褐色細砂
(7.5YR7/6橙色粘土混じり)
5－7b層 ：10YR5/4にぶい黄褐色混じり10YR5/1褐灰色細砂
5－7b'層：10YR5/4にぶい黄褐色シルト混じり10YR3/1黒褐色シルト
(鉄分含む)
5－7c層 ：10YR5/1褐灰色シルト（鉄分含む）
5－8a層 ：10YR5/3にぶい黄褐色細砂
5－8b層 ：10YR5/3にぶい黄褐色細砂（炭混じり）
5－9層 ：10YR4/2灰黄褐色細砂
5－10層 ：10YR7/2にぶい黄橙色細砂（10YR3/2黒褐色シルト混じり）
5－11層 ：10YR4/2灰黄褐色シルト混じり細砂
5－12層 ：10YR4/1褐灰色シルト混じり細砂
5－13a層 ：10YR6/6明黄褐色シルト混じり10YR5/2灰黄褐色細砂
5－13b層 ：10YR7/1灰白色細砂（流水堆積）
5－14a層 ：10YR6/1褐灰色細砂
5－14b層 ：10YR7/4にぶい黄橙色細砂
5－15層 ：10YR6/3にぶい黄橙色シルト（細砂混じり、炭少量）

谷状地形下部
6－1層 ：10YR5/1褐灰色シルト～細砂
6－1'層：7.5YR4/3褐色細砂
6－2層 ：7.5YR5/4にぶい褐色細砂（10YR6/1褐灰色細砂混じり）
6－2'層：10YR6/1褐灰色粘土
6－3層 ：10YR7/1灰白色シルト
6－4層 ：10YR6/6明黄褐色細砂
6－5層 ：5B6/1青灰色細砂混じり10YR3/3暗褐色シルト（粘質）
6－5'層：10YR3/2黒褐色シルト混じり5B6/1青灰色細砂
6－6層 ：5B6/1青灰色細砂
6－7層 ：5B6/1青灰色細砂混じりシルト
6－7'層：5B6/1青灰色細砂（流水堆積）
6－8層 ：10YR3/2黒褐色シルト（粘質、木片多く含む）
6－9層 ：10YR2/2黒褐色シルト（粘質）
6－10層 ：10YR6/6明黄褐色細砂（流水堆積）
6－11層 ：10YR5/3にぶい黄褐色細砂（流水堆積）
6－12層 ：10YR6/1褐灰色細砂（7.5YR5/4にぶい褐色シルト）
6－13層 ：10YR7/1灰白色細砂
6－14層 ：10YR6/2灰黄褐色細砂+10YR6/4にぶい黄褐色細砂
6－15層 ：10YR7/4にぶい黄橙色粘土
6－16層 ：10YR5/1褐灰色細砂
6－17層 ：10YR7/1灰白色細砂
6－18層 ：10YR7/4にぶい黄橙色シルト混じり細砂
6－19層 ：10YR5/1褐灰色細砂
6－20層 ：10YR4/4褐色細砂
6－21層 ：５Y5/2灰オリーブ色細砂～中砂（流水堆積）
6－22層 ：５Y6/3オリーブ黄色シルト
6－23層 ：10YR5/4にぶい黄褐色シルト混じり細砂
6－24層 ：５Y5/2灰オリーブ色細砂（若干シルト含む）
6－24'層：５Y5/2灰オリーブ色細砂～中砂（流水堆積）
6－25層 ：10YR5/2灰黄褐色シルト
6－26層 ：10YR6/3にぶい黄橙色シルト
6－27層 ：10YR6/4にぶい黄橙色細砂（炭含む、流水堆積）
6－28層 ：5B6/1青灰色粘土～シルト（粘質大、木製容器出土）
6－29層 ：10YR7/1灰白色シルト～粘土（上部鉄分集中）
（～10YR6/1褐灰色混じり粘土～10YR6/2灰黄褐色細砂）
6－30層 ：7.5YR4/1褐灰色細砂
6－31層 ：10YR7/1灰白色粘土混じり7.5YR6/2灰褐色細砂
6－32層 ：7.5YR3/1黒褐色シルト～細砂
6－33層 ：10YR5/6黄褐色細砂
6－34層 ：7.5YR4/1褐灰色シルト～細砂（炭・鉄分少量）
6－35層 ：7.5Y3/1黒褐色細砂（炭含む、若干ラミナ）

図12　調査区断面図（西壁・北壁・南壁・東壁）　土層名

第４章　調査の成果

第１節　近世・中世の遺構と遺物（２層上面遺構面・２層下面遺構面）

１．２層上面遺構面　＜図 13＞

２層上面で江戸時代以降の鋤溝群（耕作関係の小溝群）を検出した。これらの溝は、幅約 0.1～0.2m で深さは 5 cm 前後をはかり、いずれもほぼ南北方向に並行している。用水路や畑の畝溝などのように地上に現れている遺構ではなく、耕作地を造成する際や耕作する際に鋤によって施された痕跡であろう。遺構の埋土から時期を示す遺物は出土しなかったため時期は判然としない。近現代の遺物が含まれないことから江戸時代と考えられ、下層の２層下面遺構も江戸時代の面であるため、江戸時代でも後半期の所産であろう。なおこの面はＡ区のみ調査を実施し、Ｂ区では同様の遺構の広がりが予想できたため、土量や作業工程上の関係で検出作業は実施していない。

２．２層下面遺構面（３層上面遺構面）　＜図 14＞

３層は奈良時代の遺物包含層であるが、この層の上面で検出できたのは江戸時代の鋤溝群で、奈良時代以降の遺構は確認できなかった。３層上面で検出したこれらの遺構は２層（近世耕作層）と同じ土で埋まっており、２層下面遺構と呼称することにした。

検出したこれらの小溝はほぼ南北方向に平行して、一部は東西方向に直交するものもある。Ｂ区東端で溝（遺構 183）を検出したが、これも鋤溝と平行している。鋤溝には切り合いがあり、遺構埋土が数種類に分けられるものもあり、複数の時期にわたって掘削された遺構といえる。Ｂ区の遺構 182 は洪水痕跡の可能性がある。遺構からは陶器片などがわずかながら出土し、江戸時代以降に形成された遺構と考えられる。しかし詳細な時期を判別できる資料は出土していない。

鋤溝以外に土坑が３基あり（遺構 35・162・171）、遺物が出土していないので時期は不詳であるが、２層とは違う埋土（鋤溝群とは違う埋土）で埋まっており、古代～中世の遺構の可能性も残る。これらの土坑については２層下面遺構と区別して３層上面遺構としておく。

３．中世の遺構・遺物

今回の調査地点では中世の遺構は存在せず、遺物も瓦器片などがごく少量出土するのみである。Ａ区北西部の３－０層から青磁碗の破片が１点（図 114　③-2）出土している。３－０層は、２層と３層の間に薄く堆積する洪水層の可能性がある砂層で、調査区全域には広がらない。この層が中世に形成されたとしても、遺跡中心部（調査地より南西側）で室町時代の大溝などの中世遺構が数多く検出されることと比較すると、中世の遺構・遺物が希薄な一帯であったといえる。

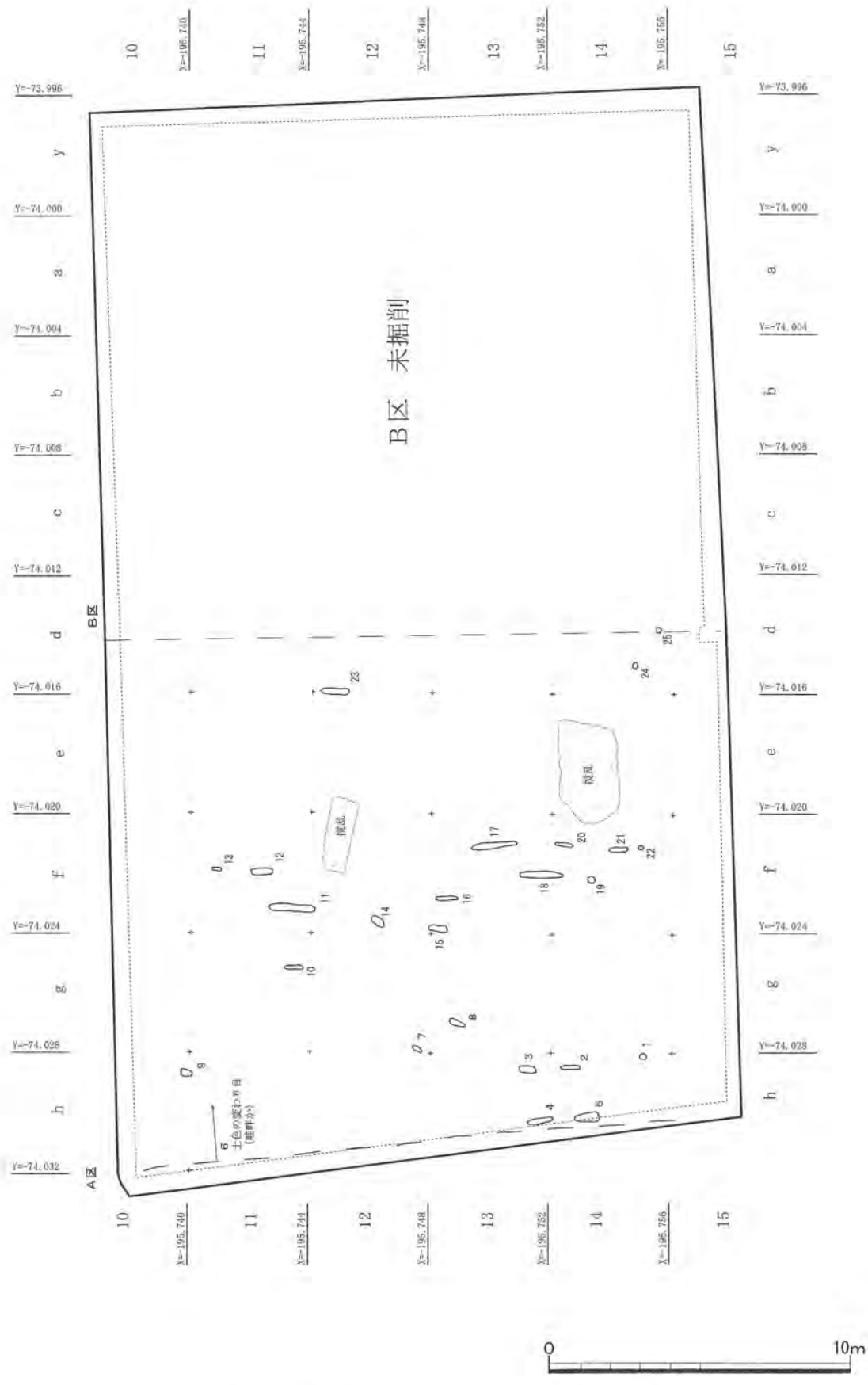


図13　２層上面遺構全体平面図　（S＝1/200）

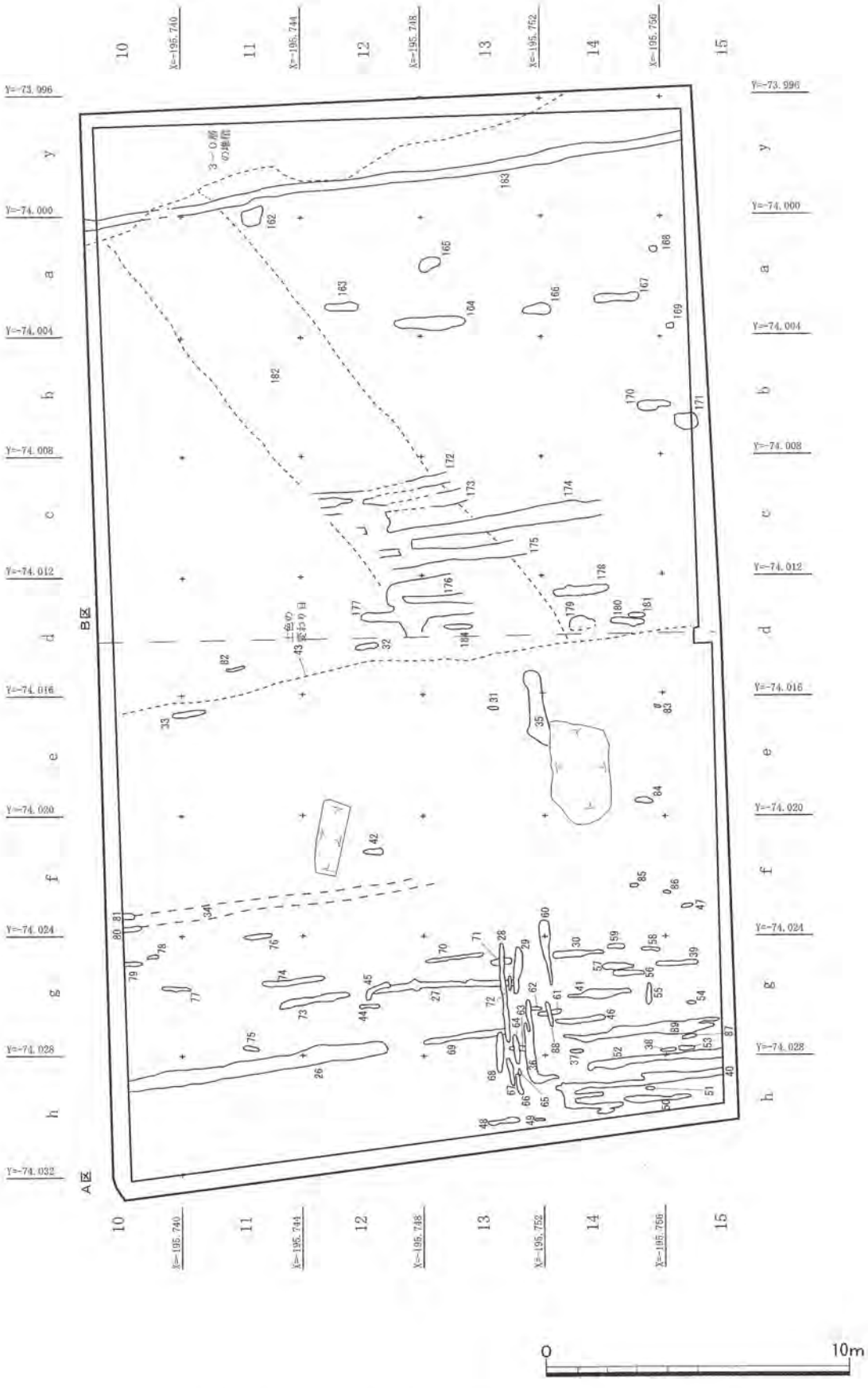


図14　２層下面（３層上面）遺構全体平面図　（S＝1/200）

第２節　古代の遺構と遺物（３－２層下面遺構面）

１．３－２層下面遺構　＜図 15＞

３層はシルト質の３－１層と砂礫層の３－２層・３－３層に細分でき、後者は洪水堆積の可能性がある。３－１層は調査区全域に厚く堆積しているが、３－２層・３－３層は全体には広がらず、流路や溝の埋土の一部として堆積している遺構もある。調査中は３－２層上面遺構としていたが、土層断面などを検討した結果、３－２層上面を切り込む遺構はほとんどなく、３－２層で埋まっている遺構が多いため、３－２層下面遺構と呼称する。３－２層下面遺構として、ほぼ平行して北東から南西方向に流れる流路や溝を検出した。この他、方形土坑（遺構 127）や大形土坑（遺構 200）、連続して並ぶ土坑群（連続土坑群）などを検出した。これらの遺構からは須恵器や土師器など飛鳥～奈良時代の遺物が多く出土している。一部古墳時代後期に遡る可能性がある。

２．流路・溝

遺構 90（流路）　幅約 2.0～4.0m、深さ約 0.6～0.8mの自然流路で、調査区の中央部を北東から南西方向へ流れていた。埋土は砂～礫層で、最終的に洪水によって埋没したと推測できる（図 16・17）。出土遺物は（図 19～21）、須恵器のはそうが３点以上出土している他（90-4・5・27）、奈良時代の須恵器や土師器、移動式竈片（90-16・42・64）などが多く出土している。最下層の遺物は飛鳥時代の所産と考えられ（90-1・2）、飛鳥時代～奈良時代にかけて流れていた流路の可能性はあるが、最終埋没は奈良時代である。遺物が多く出土することから周辺に当該期の集落などが存在したと推定できる。流路肩部に人頭大の結晶片岩礫が数個認められたが、足場などとして人為的に置かれていたと考えられる。流路の底で２箇所深く落ち込む部分（落ち込み西側・落ち込み東側＝図 15・18）があるが、その部分は水溜め用に人為的に掘り込まれた可能性がある。

この他、遺構 91・92・93・94・98 などは流路の痕跡と考えられる（出土遺物は図 28）。

遺構 95（溝）　遺構 90 にほぼ平行する溝で、Ａ区南西部で溝の底面に鋤で掘り返したような痕跡があったことから人為的に掘削された溝と判断した。断面の観察から、遺構 90 より先行して（もしくは同時期に）機能していたと考えられる（図 17・22）。遺構 95 には、遺構 90 の中層部分の堆積にみられる３－３層（礫混じり層）と同じ埋土が入り込んでおり、遺構 90 の上層部分が埋まる以前に埋没していたことがわかる。出土遺物は、ほぼ完形の長胴甕（95-15）や須恵器はそう（95-9）以外は小片が多いが、飛鳥時代の所産であろう（図 27）。

遺構 100・102（溝）　遺構 95 などとともに遺構 90 に平行する溝で（図 22）、遺構 100 には遺構 95 同様に底面に鋤で掘り返したような痕跡が残っている部分があった（図 23）。後述するように連続する土坑が周囲に並んでいる。出土遺物は、古墳時代後期の遺物を若干含むが大半は飛鳥時

代～奈良時代の所産である（図 27）。この他、遺構 97・185・186・252・262・265 などもほぼ同時期の方位をそろえる溝と考えられる（図 22・23、出土遺物は図 27）。遺構 265 は溝の中央部を深く掘り込んでいる。遺構 185 は流路の可能性もある。これらは道路遺構の側溝とも考えられなくはないが、道路面（硬化面）などの痕跡は確認できなかった。

遺構 105・106・107（溝）　これらの溝は遺構 95 に切られており、先行する溝である。遺構 90 や遺構 95 などとは若干流れる方向が違っている（図 22、図 6 土層図、出土遺物は図 27）。

遺構 101（流路？）　遺構 90 の前身の流路もしくは落ち込みと考えられる遺構で、ほぼ遺構 90 と重なる。遺物には（図 28）、埋土上層部分で 1 個体が出土した土師質鍋がある（101-4）。遺構 90 と切り合う部分での出土で、遺構 90 の肩部に置かれていた可能性もある。

3．土坑

遺構 200（大形土坑）　深さ約 0.9m をはかる平面が楕円形状の土坑で、調査時は井戸の可能性も考えたが、湧水がないなど井戸とする根拠に乏しい。下層に滞水状の堆積が若干認められることから溜め井戸の可能性もあるが、それほど水が溜まっていたとはいえない（図 23）。土取り穴など別の機能や用途も想定でき、掘削された目的を特定することは難しい。奈良時代の遺物が出土している（図 28）。

遺構 127（方形土坑）　東側一辺約 3.5m、南側一辺 5 m以上をはかる方形の土坑で、遺構 90・91（流路）や遺構 101（流路？）の下層で検出した（図 6 土層図）。住居跡の可能性もあるが、長方形状になることや柱穴などが確認できないなど、住居遺構を想定できる痕跡は認められなかった。遺構内には結晶片岩の礫を数個検出したが、礎石として柱をのせることができる大きさのものではない。現時点でこの土坑の用途は明らかにできていない。出土遺物から古墳時代後期に遡る可能性がある（図 28）。

4．連続土坑群

調査区南半部を中心に等間隔に連続して並ぶ土坑群が数列検出できた。これらの連続する土坑群は、流路や溝に平行するように並び、道路遺構の可能性が推定されている波板状土坑などと呼称される遺構に類似する特徴がある。遺構 100 などの溝に切られていることが確認できるが、溝に平行して並んでいることから、同時併存していて溝の最終埋没の前に土坑が埋まったという可能性も想定できる。土坑には円形のものと長楕円形のものがあるが、断面観察の結果、後者は重複関係にある複数の円形の土坑がつながってみえているものと考えられる（図 24・25・26）。したがって基本的にはいずれも円形の土坑が等間隔に並んでいる遺構といえる。出土遺物は小片であるが、おおむね溝や流路と同時期と考えられる（図 28　118-1 など）。

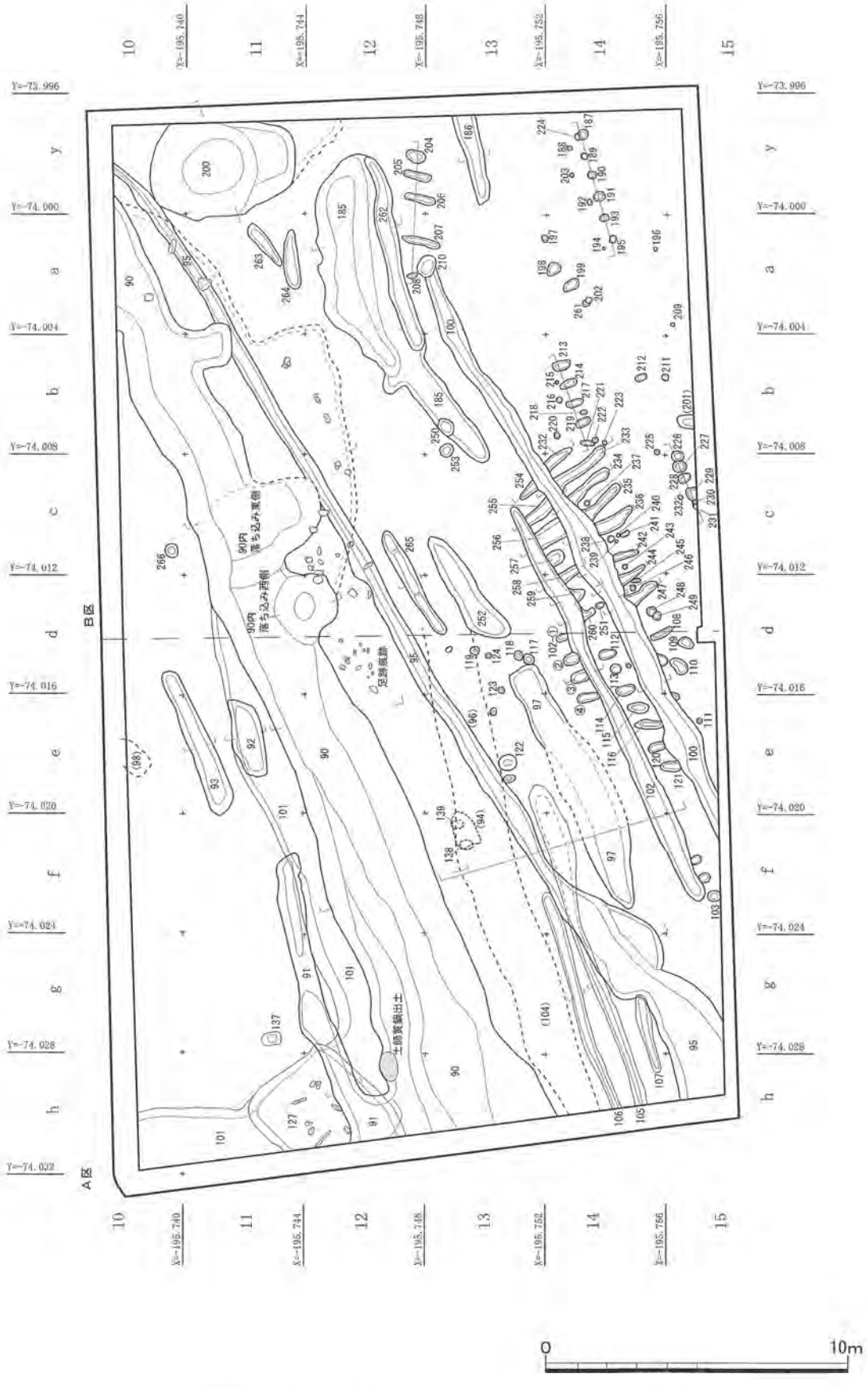


図15　３－２層下面遺構全体平面図　（S＝1/200）

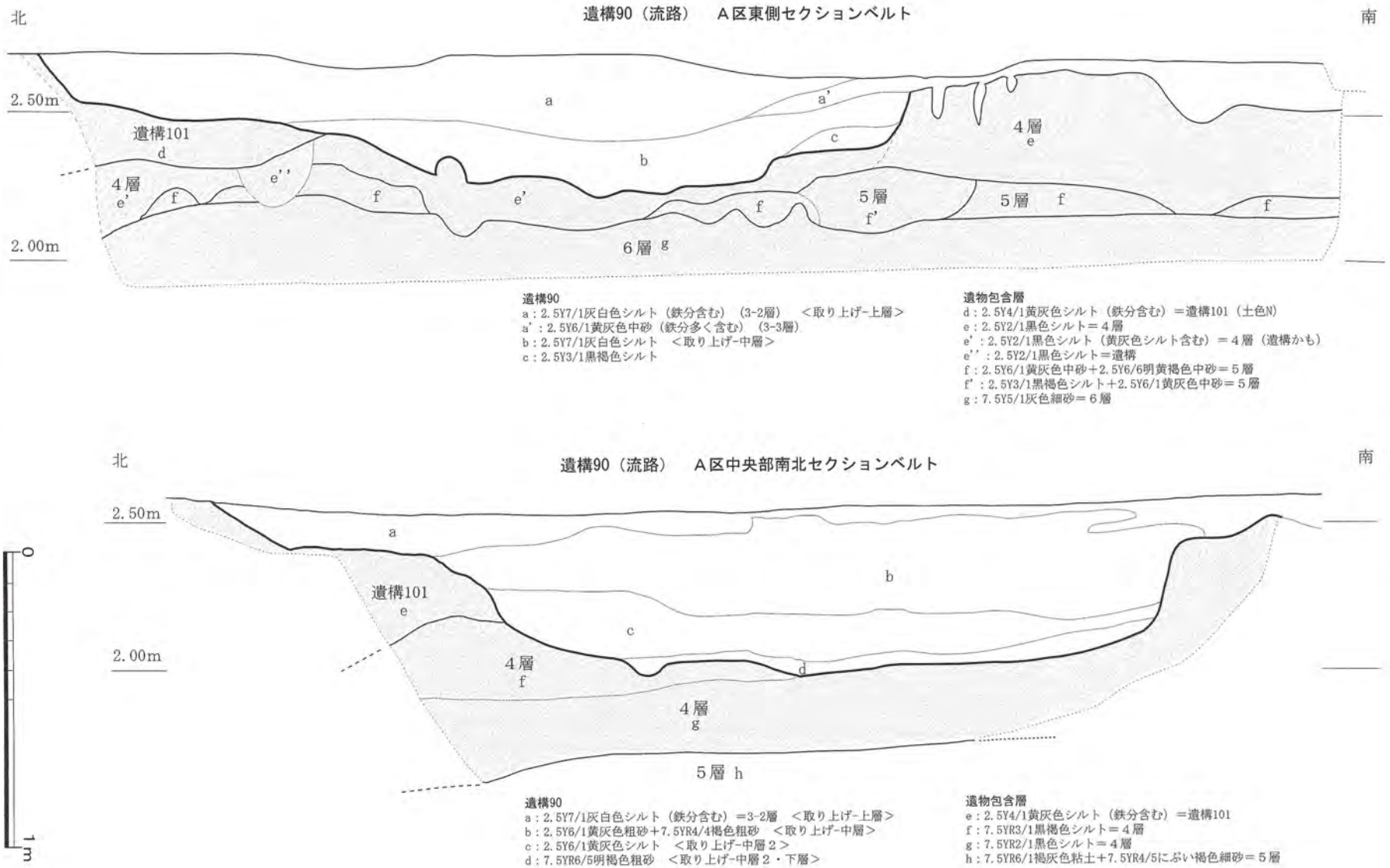
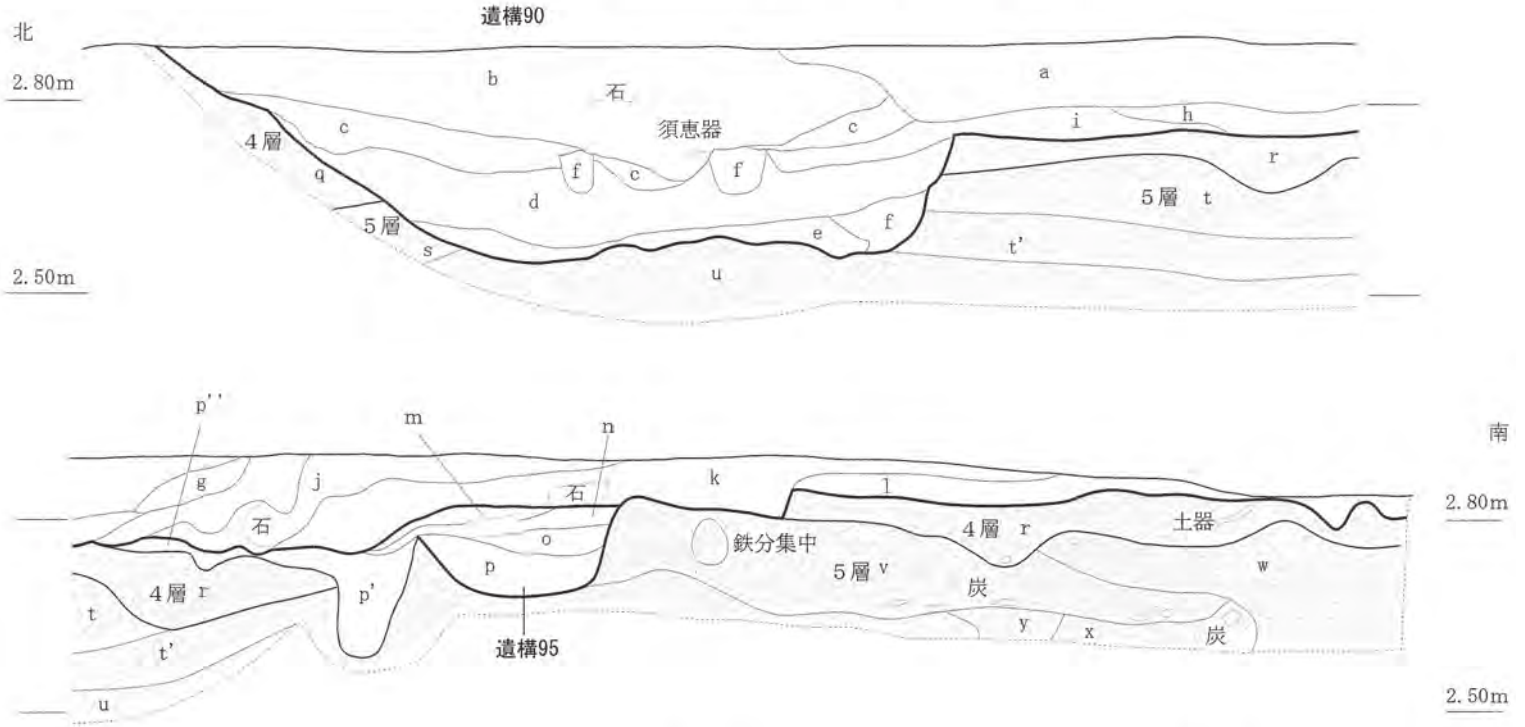


図16　遺構90（流路）断面図　（S＝1/20）

遺構90（流路）・遺構95（溝）　B区セクションベルト



遺構90
a ：2.5Y7/4浅黄色シルト＋2.5Y6/1黄灰色細砂　＜取り上げ上層＞
b ：2.5Y6/1黄灰色シルト（鉄分多い）　＜取り上げ-上層＞
c ：2.5Y6/1黄灰色シルト混じり細砂　＜取り上げ中層＞
d ：10YR5/2黄褐色シルト（鉄分多量、粘質大）　＜取り上げ下層＞
e ：5Y5/2灰オリーブ色シルト（細砂混じり）
f ：2.5Y3/1黒褐色シルト（鉄分少量）
g ：2.5Y7/4浅黄色シルト（鉄分少量）
h ：10Y6/1灰色粗砂（下部に褐色礫層＝3-3層か）
i ：10YR4/6褐色礫層（3-3層）　＜取り上げ上層＞
j ：10Y7/1灰色粗砂
k ：2.5Y7/4浅黄色シルト～細砂
l ：10Y6/1灰色粗砂（褐色礫多く含む）＝3-3層

遺構95
m ：2.5Y6/4にぶい黄色シルト（鉄分少量）
n ：7.5Y6/1灰色粗砂
o ：2.5Y4/1黄灰色シルト（やや粘質）
p ：2.5Y3/1黒褐色シルト
p' ：5Y6/1灰色シルト（粗砂混じり）（別遺構かも）
p'' ：2.5Y7/4浅黄色シルト（鉄分少量）（別遺構かも）

遺物包含層
q ：2.5Y4/2暗灰黄色シルト（鉄分少量）＝4層
r ：2.5Y3/1黒褐色シルト～細砂（鉄分少量）＝4層
s ：2.5Y4/2暗灰黄色シルト（細砂混じり）＝5層
t ：5Y6/2灰オリーブ色細砂＝5層
t' ：5Y5/2灰オリーブ色細砂（シルト混じり）＝5層
u ：7.5Y8/1灰白色細砂＝5層か
v ：10YR4/1褐灰色細砂（シルト混じり、炭多い）
w ：10YR2/1黒色シルト＝5層か
x ：5Y5/2灰オリーブ色粗砂（鉄分少量）
y ：2.5Y5/2暗灰黄色粗砂（シルト混じり）

0　1m

図17　遺構90（流路）・95（溝）断面図　（S＝1/20）

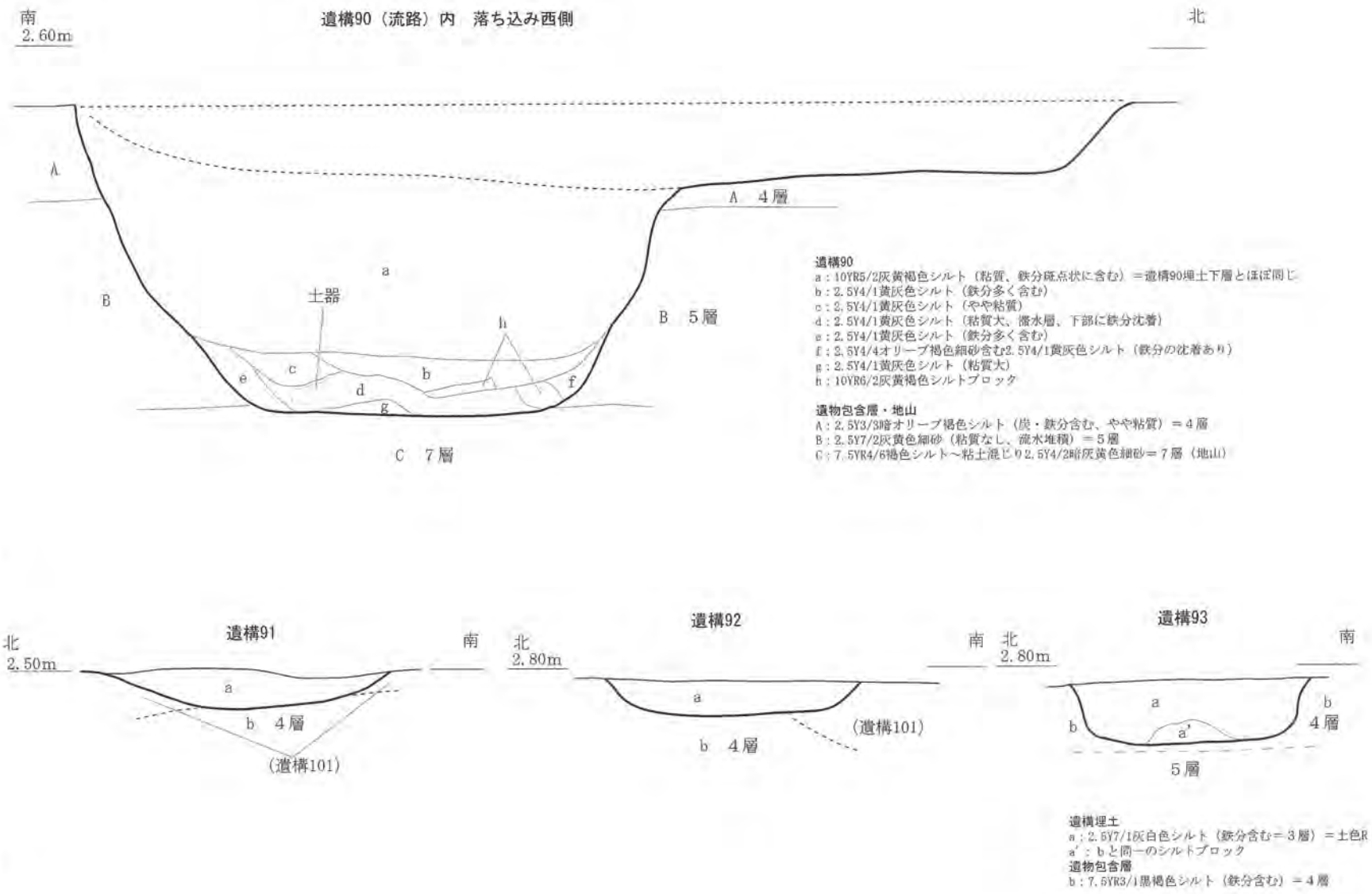


図18　遺構90・91・92・93（流路）断面図　（S＝1/20）

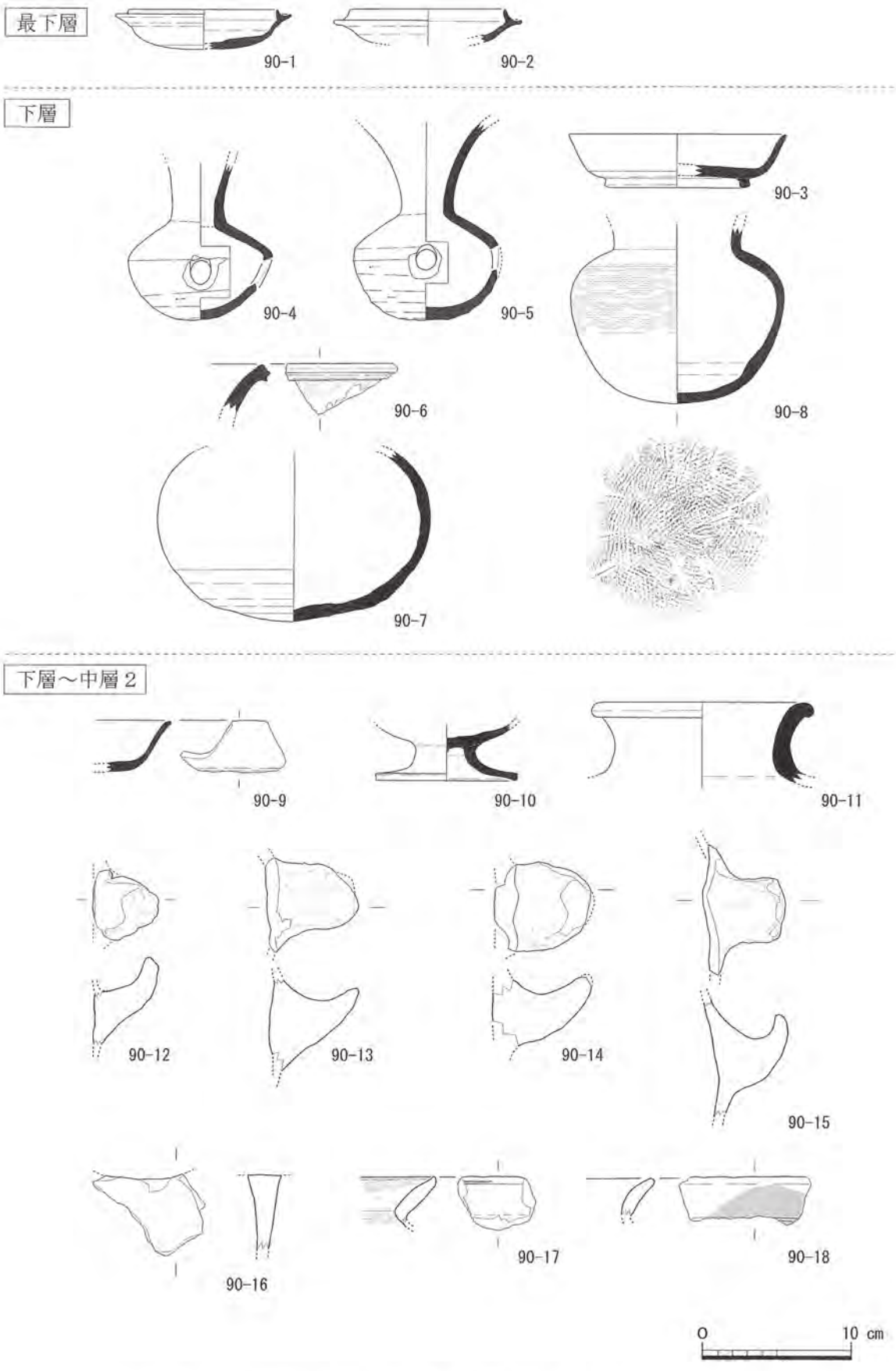


図19　遺構90（流路）最下層・下層・下層～中層２　遺物実測図　（S＝1/4）

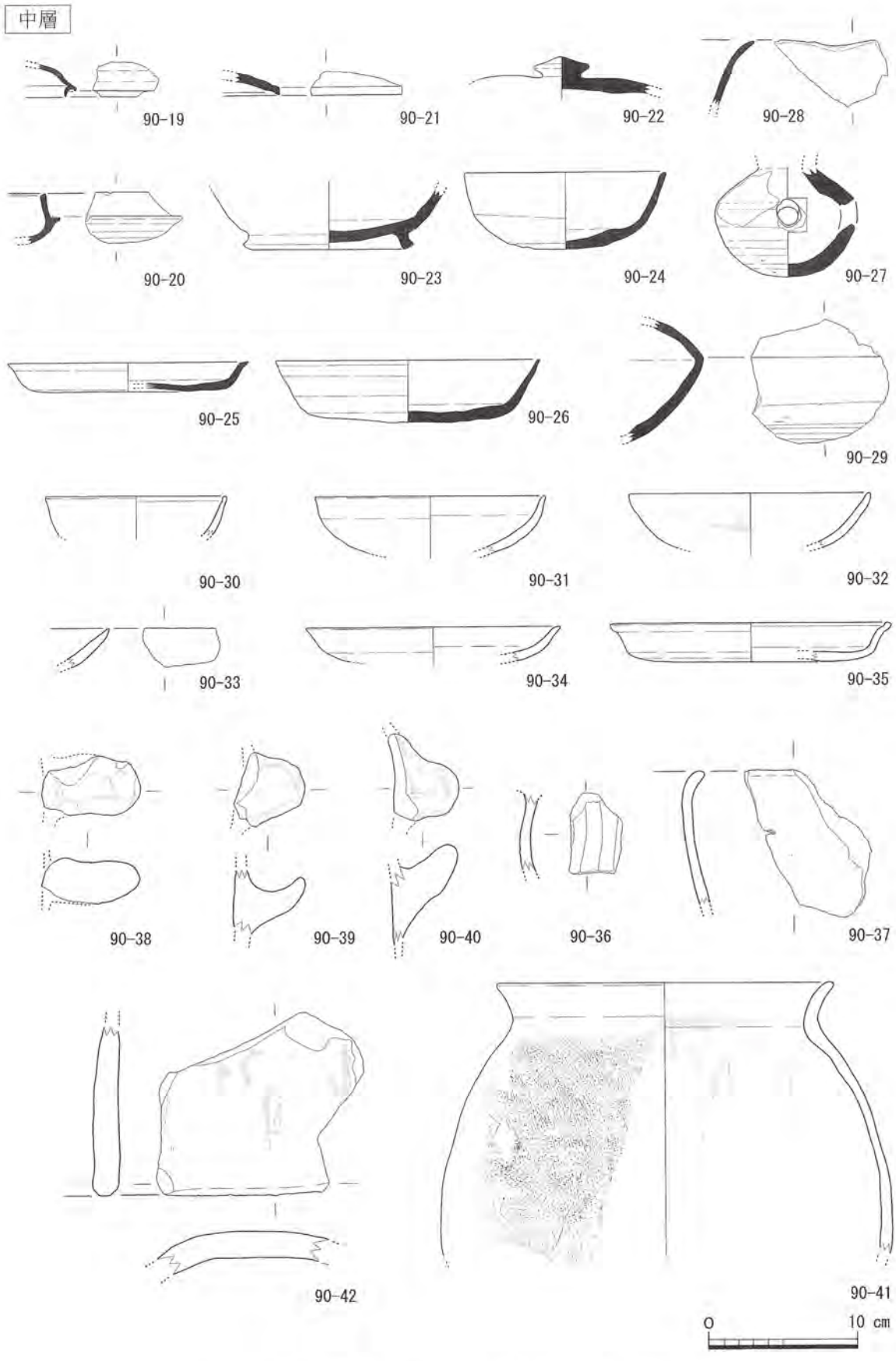


図20　遺構90（流路）中層　遺物実測図　（S＝1/4）

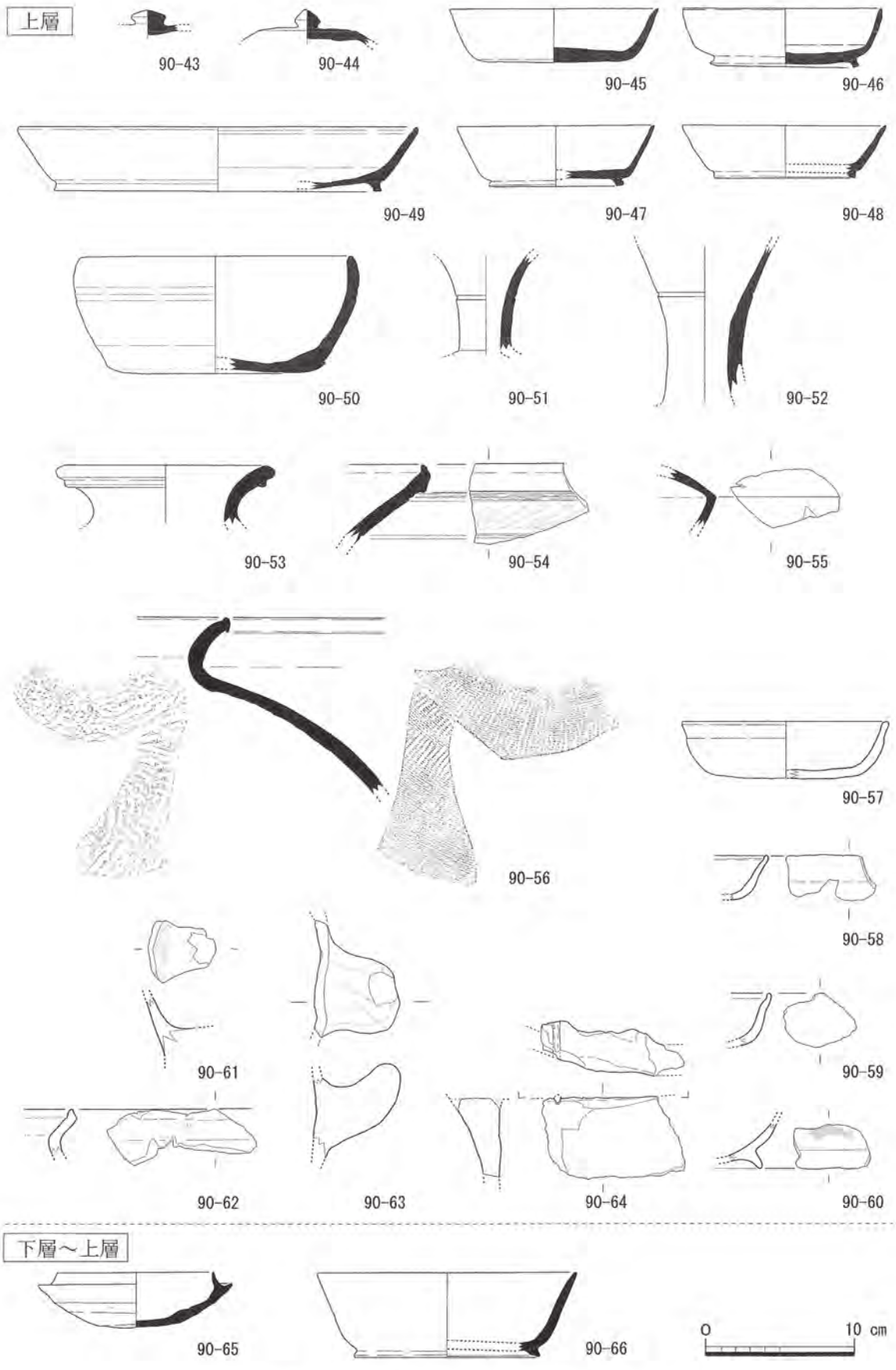


図21　遺構90（流路）上層　遺物実測図　（S＝1/4）

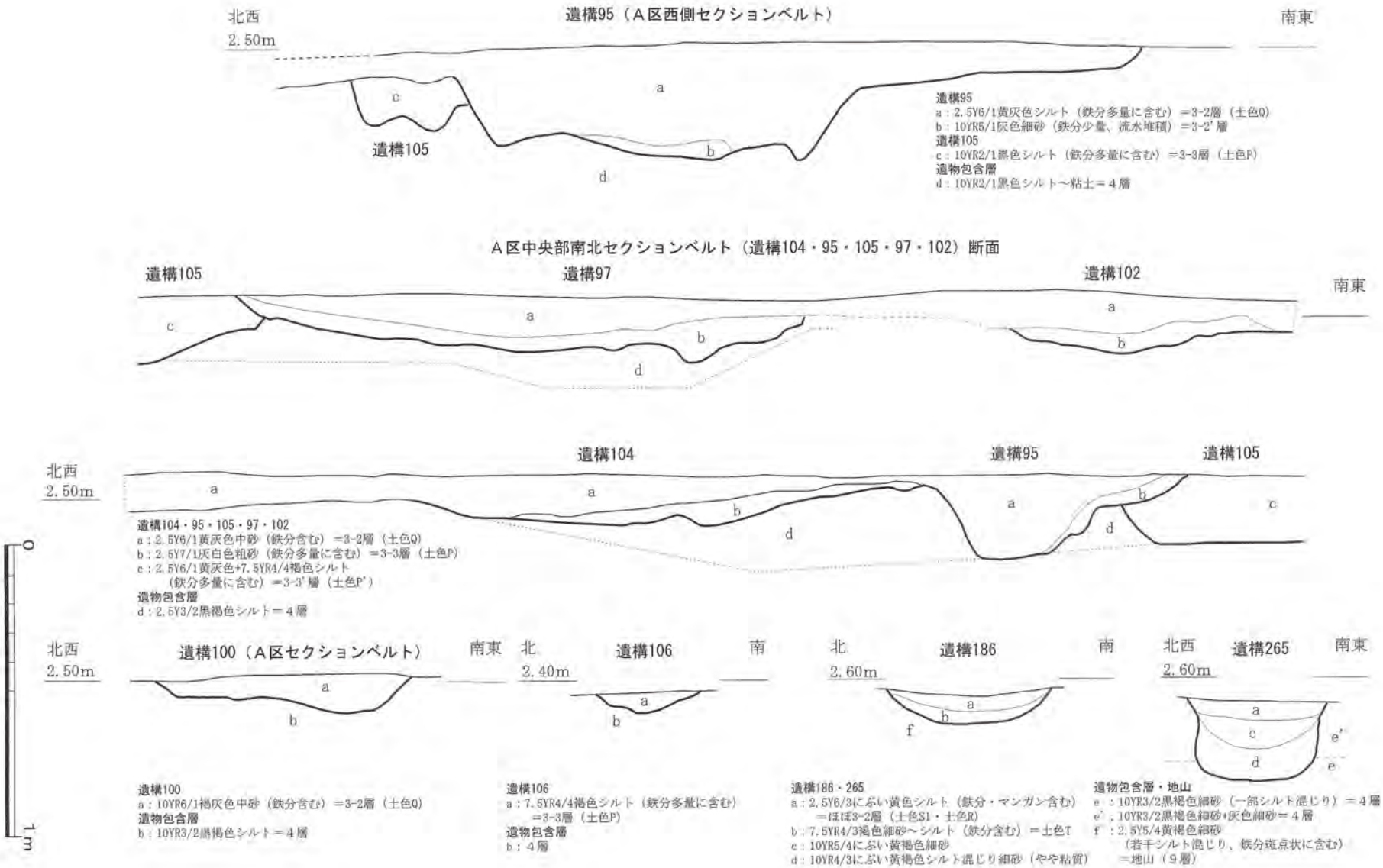


図22　遺構95・97・100・102・104・106・186・265（溝）断面図　（S＝1/20）

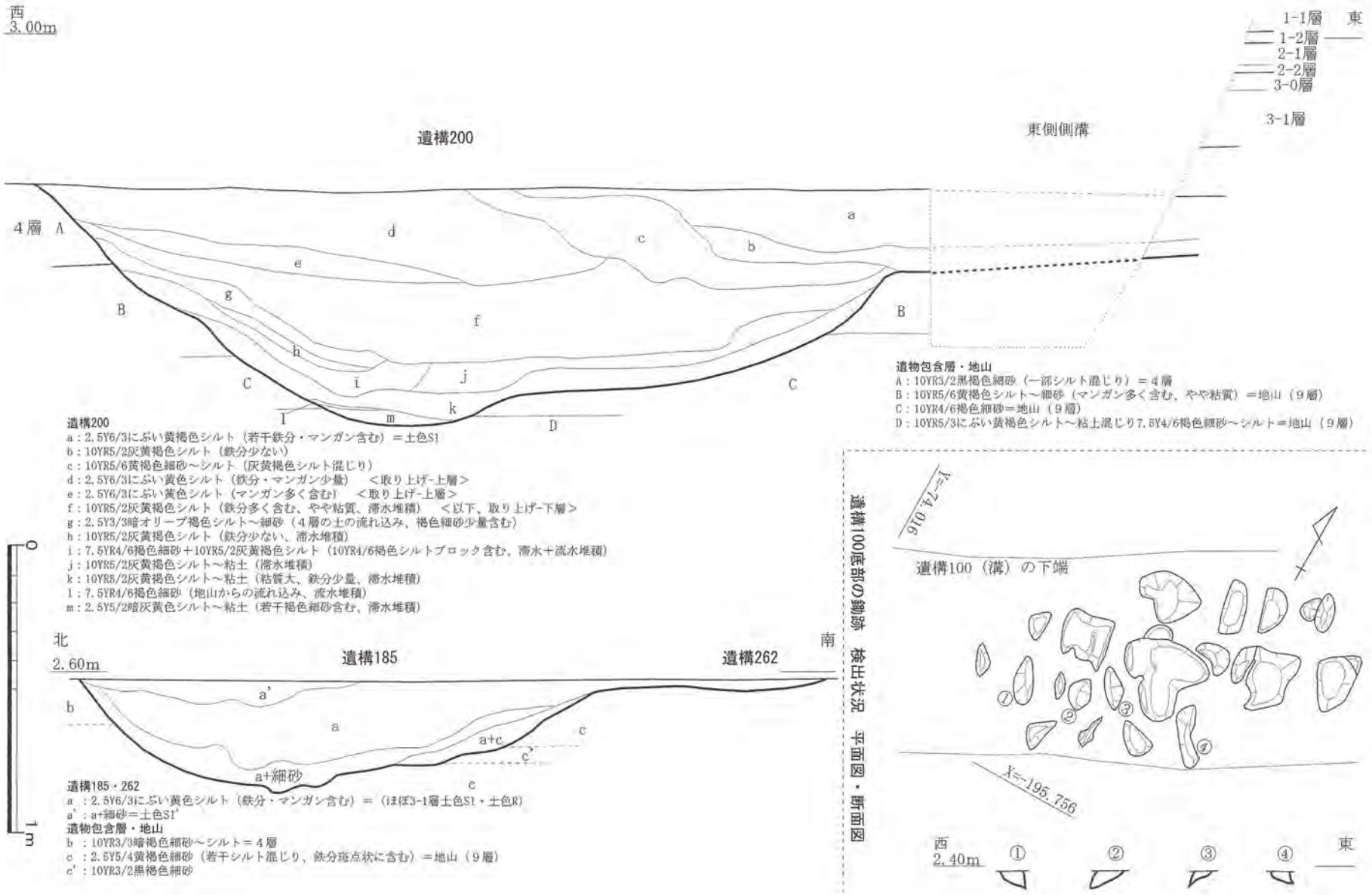


図23　遺構200（土坑）・185（溝）断面図　／　遺構100底部検出鋤跡平面図　（S＝1/20）

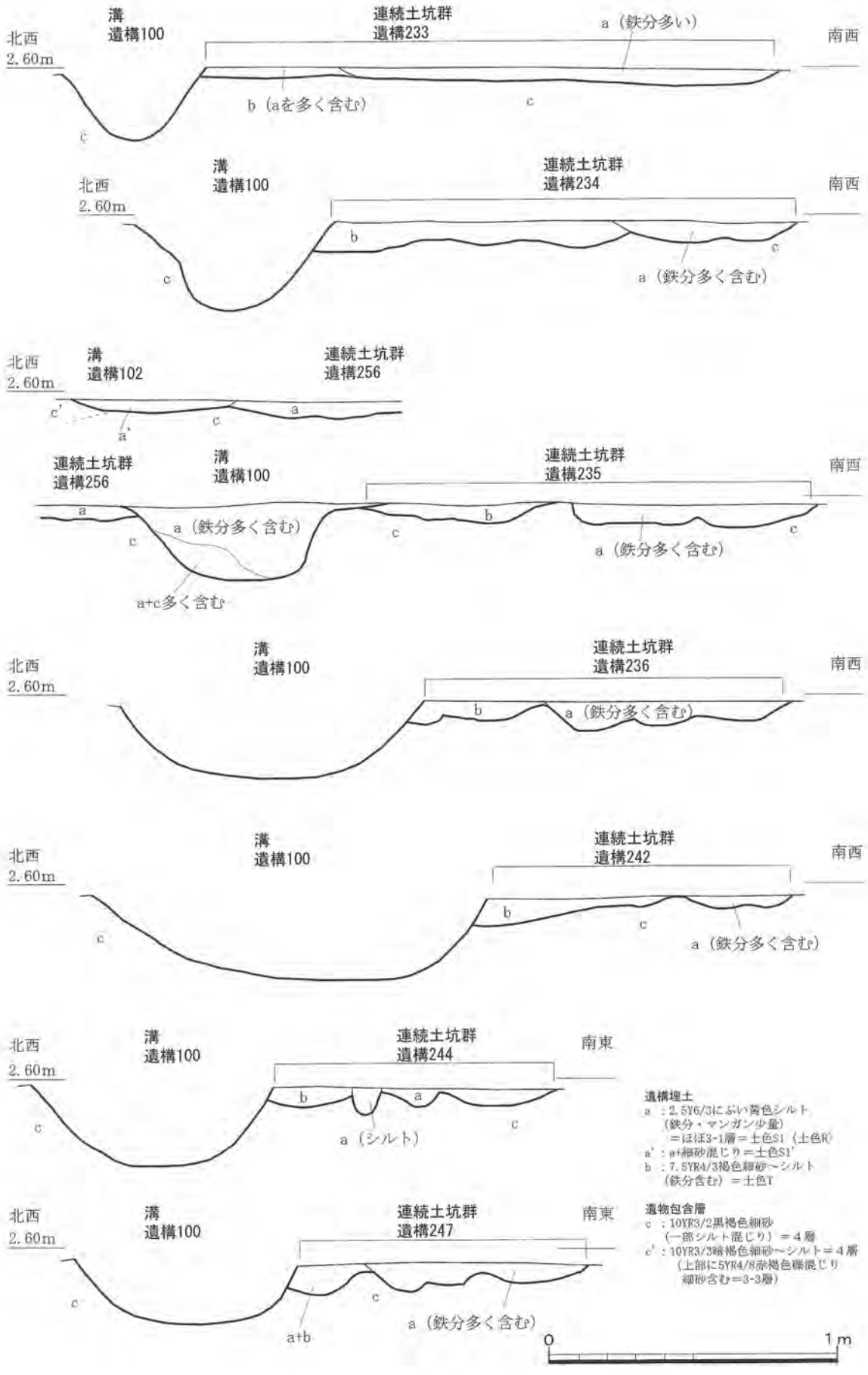


図24　連続土坑群　断面図１　（S＝1/20）

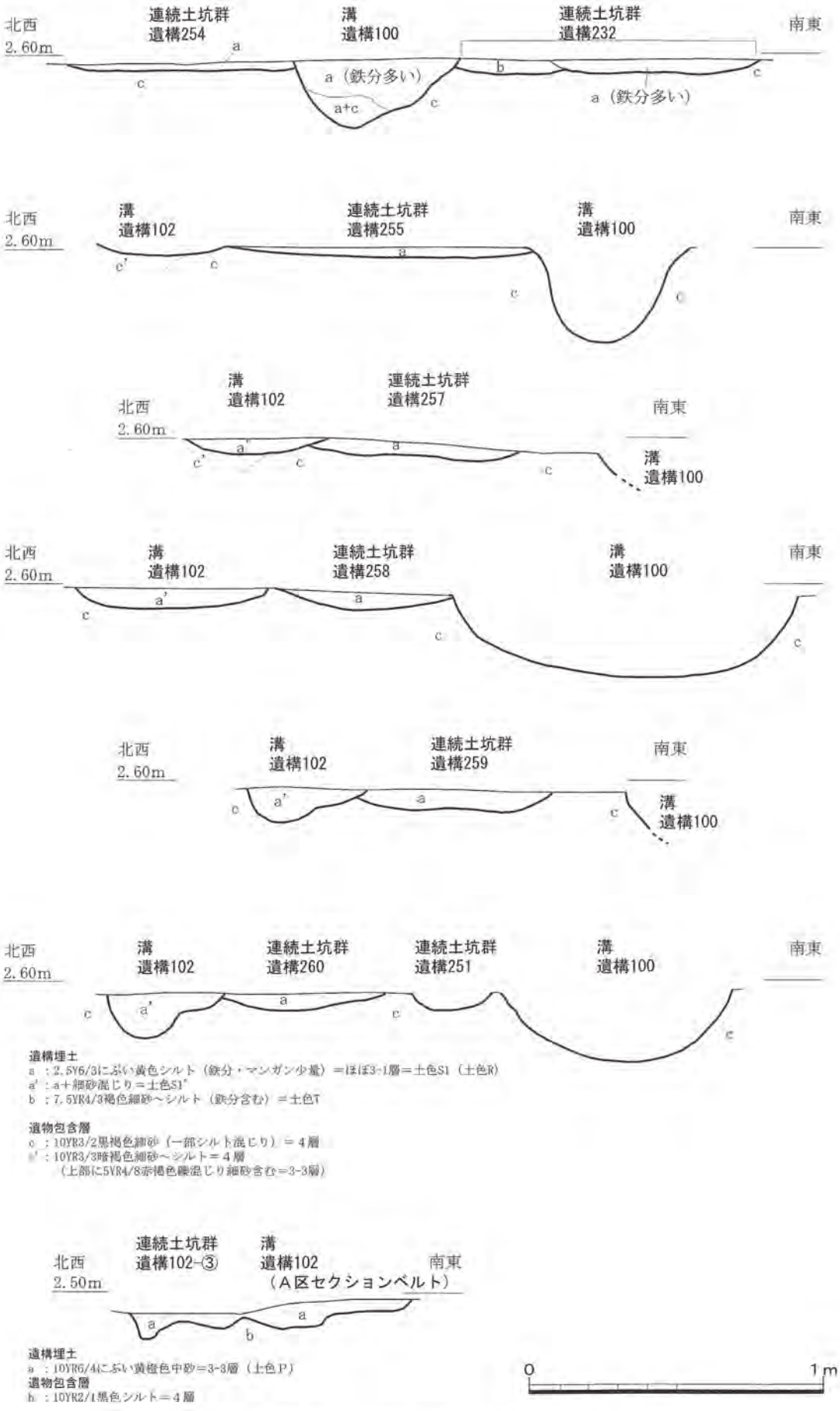


図25　連続土坑群　断面図２　（S＝1/20）

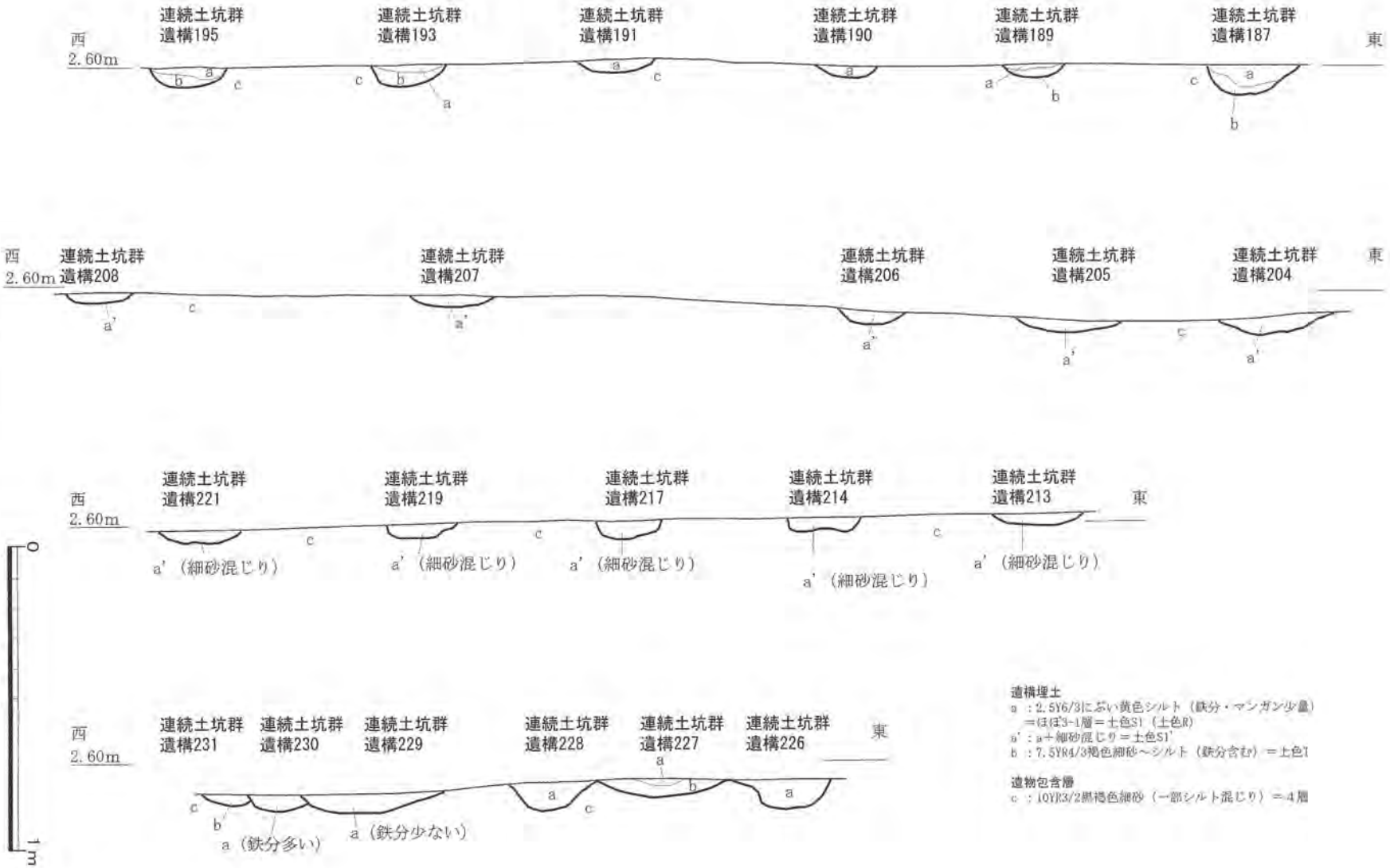


図26　連続土坑群　断面図３　（S＝1/20）

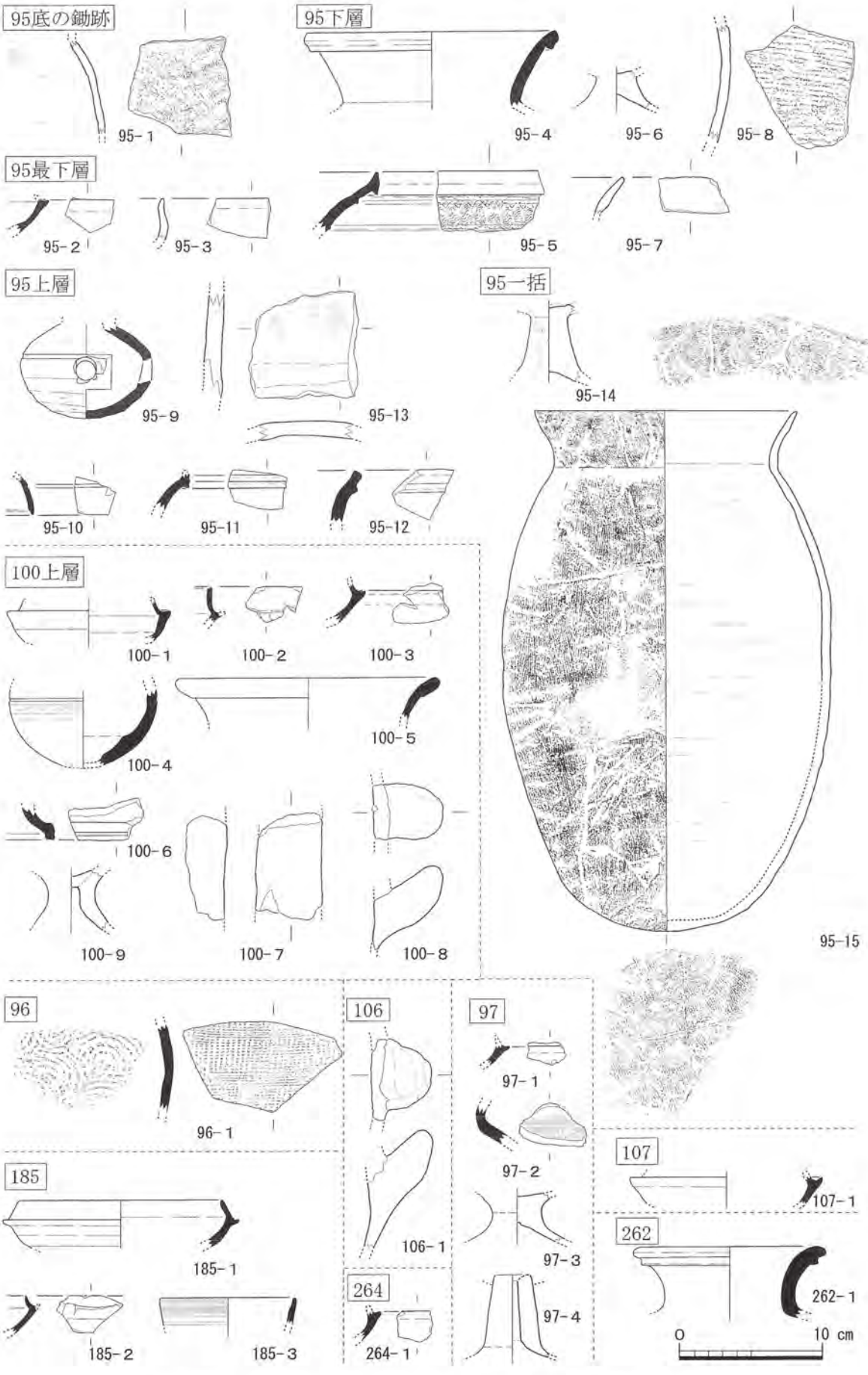


図27　遺構95・100（溝）ほか　遺物実測図　（S＝1/4）

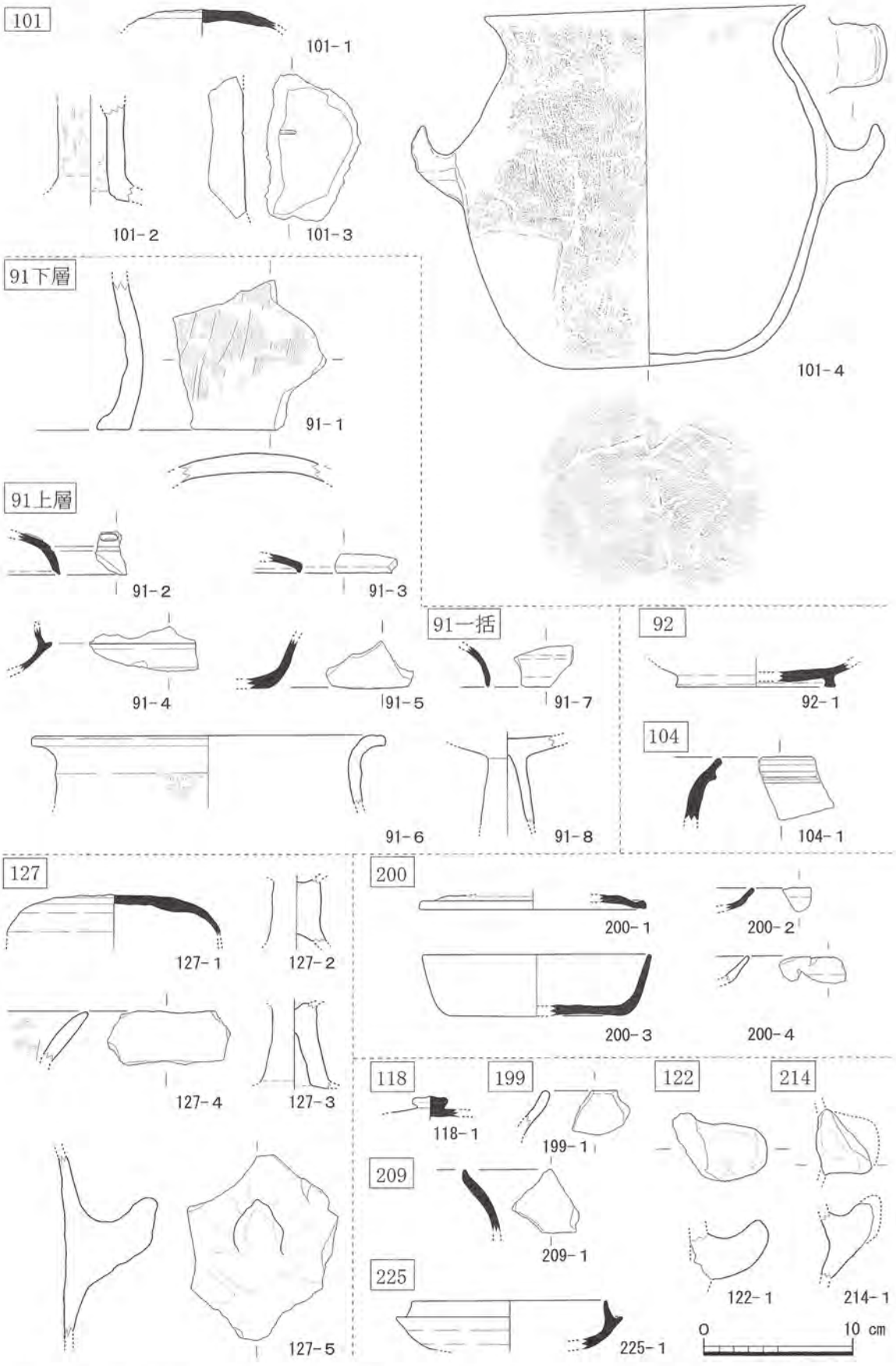


図28　流路（遺構101・91ほか）・土坑（遺構127・200ほか）　遺物実測図　（S＝1/4）

第３節　弥生時代の遺構と遺物①（４層上面遺構面）

１．４層上面遺構　＜図 29＞

４層上面で溝や土坑、溝状土坑、土器棺などの遺構を検出した。これらの遺構には重複関係にあるものがあり、多少の時間差が想定できるが、ほとんどの遺構が弥生時代中期中葉～後葉の時期におさまると考えられる。溝を複数条検出しているがすべて弥生時代中期後葉に最終埋没している。土坑や溝状土坑のうちいくつかは土壙墓になる可能性があり、土器棺や溝状土坑が位置する遺構 130（溝）より北東一帯が墓域であったと推測できる。この面では住居や井戸は検出していない。

２．溝

遺構 130（溝）　幅約 1.6～3.0m、深さ約 0.6mをはかる溝で、Ｂ区東側から西方向に流れ、ほぼ 90 度屈曲してＡ区北側に抜ける。中層には灰白色シルト層の堆積があり、下層には若干流水痕跡が残る（図 30・31・32、図 7 ・11 土層図）。大きく屈曲することから人工的に掘削された溝と推測する。排水目的の溝であろうか。出土遺物から溝の最終埋没は、弥生時代中期後葉と考えられる（図 36～40）。なお、上層から古墳時代初頭の所産と考えられる土器が出土している（図 40 130-97 など）。長期間上層部が凹み状であったことも考えられるが、遺構 130 の上層部にあった古墳時代初頭の遺物包含層や遺構を検出できずに、掘削時に遺物が混入した可能性が高いと考えている。

遺構 128－Ｅ・128－Ｗ（溝）　Ａ区南西部で検出した弧状を描く溝で、一部途切れていて、東側を遺構 128－Ｅ、西側を遺構 128－Ｗと呼称する。両者は同じ規模で、埋土の状況も類似していることから、一連の溝と判断している（図 30、図 6 ・ 9 土層図）。周溝墓や住居を取り囲む溝などの可能性も想定できるが、溝で囲まれた内側や溝の埋土などからその機能を判断できる痕跡は確認できなかった。出土遺物から遺構 130 と同様に弥生中期後葉に埋没したと考えられる（図 41・42）。

遺構 129・291（溝）　調査中はＡ区では遺構 129、Ｂ区では遺構 291 と呼称していた溝で、Ａ区とＢ区の境界付近で合流している。土層断面の観察から同一遺構であると判明したが（図 30・31・33・34、図 7 ・ 9 ・10・11 土層図）、合流部分から南側へ分流する可能性も残る。幅約 2.0～2.6m、深さ約 0.6mをはかる溝で、遺構 130 同様にＢ区東側から蛇行しながらＡ区北側へ抜けていくことから、遺構 130 と同じ目的で掘削されたと推測できる。遺構 130 と同様に中層には灰白色シルト層が堆積し、下層には若干流水した痕跡が残る。Ｂ区部分では遺構 290（溝）を切り込んで掘削されている。出土遺物から弥生時代中期後葉に埋没したと考えられる（図 42～46）。

遺構 290（溝）　幅約 2.0～3.0m、深さ約 0.9～1.4mをはかる弧状を描く溝で、遺構 291 に切られている（図 34、図 10・11 土層図）。埋土上層から多量の土器が出土しており、溝が埋まる前に土器が捨てられた状況を呈している（図 35）。同時期の遺物が多量にまとまって出土していることから、周辺に居住域が存在したと推測できる。これらの土器のほとんどが弥生時代中期後葉の所産である（図 47～63）。図 64 には遺構 290 の遺物である可能性が高いが、遺構 291 と切り合う部分のため厳密に峻別できなかった遺物を掲載している。なお調査中は、4 層下面遺構の遺構 300（竪穴住居）との重複部分が調査区南東隅に位置することから十分に検証することができず、住居を取り囲む溝と考えていた。しかし、この溝の下層と住居床面から出土した遺物を比較すると、溝下層の遺物が新しいと判断でき、住居を取り囲む溝という評価は難しくなった。住居上層からは溝下層と同時期に存在した可能性がある土器も出土しているが、これは住居が完全に埋没するまで長期間かかったと想定できるため、現状では土器編年の観点から溝と住居の同時併存は考えにくい。住居が埋没する過程の凹みを避けて溝が掘削されたことを想定したい。

3．土器棺

遺構 125・126（土器棺）　A区北東部で並んで作られた 2 つの土坑にそれぞれ弥生土器の甕と壺を埋置した状況で検出した（図 65）。西側の遺構 125 は土坑内に頸部を打ち欠いた壺（図 67　125-1）を置き、その上に脚部を欠いた高杯（125-2）を逆さにして蓋として被せている。東側の遺構 126 は土坑内に甕（126-1）を置いたもので、蓋は確認できなかった。125-1 には小さな穿孔があり、蓋が被されていることから土器棺と推定でき、蓋が確認できない遺構 126 についても遺構 125 との関連から土器棺であると考えている。これらの土器は弥生時代中期中葉～後葉の所産であろう。土器棺内埋土の一部を水洗選別の結果、遺構 125 の土器棺内から小骨片が 9 片、遺構 126 の土器棺内から小骨片が 6 片検出できた。これらは小破片であるため人骨と断定することはできなかった。また、リン・カルシウム分析の結果、両遺構から高い比率でリン・カルシウムを検出することができた（付章第 2 節参照）。

遺構 135・293（土器棺）　遺構 135 は、A区の遺構 125・126 北西側で検出した長楕円形の土坑で、土坑内に砥石・甕（図 70　135-1）・結晶片岩の角礫が埋設されていた（図 66）。埋土の一部を水洗選別した結果、埋土中から小骨片を 2 片検出した。また、リン・カルシウム分析を実施した結果、掘形埋土から高い比率でリン・カルシウムを検出している。この他、B区南東側の遺構 293 でも土坑内に壺（図 70　293-1）が埋置されており、土器棺の可能性がある（図 68）。293-1 は弥生中期中葉の特徴があることから、遺構 293 は本来 4 層下面遺構に属する遺構である可能性がある。

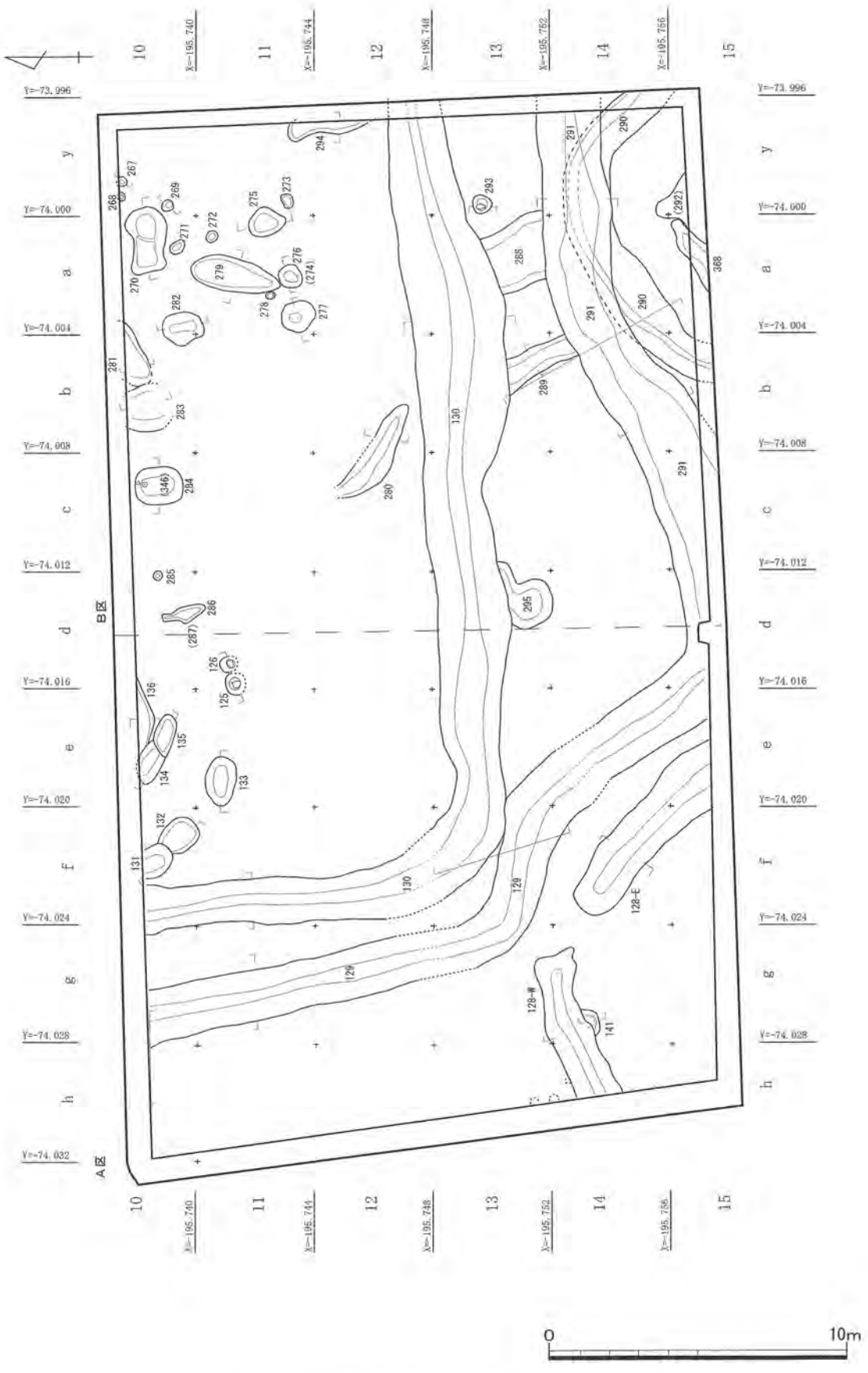


図29　4層上面遺構全体平面図　（S＝1/200）

4．溝状土坑

遺構 279・280・289・294・368（溝状土坑）　B区の北半部分を中心に長楕円形状の遺構を複数検出した（図 35）。太田・黒田遺跡の従前の調査例では舟形土坑と称して土壙墓と推測している遺構に類似するもので、溝のように底面が一定のレベルを保っているのと違い、長軸方向の両端からなだらかに中央部分へ向けて深くなっている。埋土の一部を水洗選別した結果、遺構 280 の埋土下層から 7 片、遺構 289 の埋土最下層から 7 片の小骨片を検出した。小骨片のため人骨と判定することはできなかったが、これらの溝状土坑については土壙墓の可能性を指摘しておく。なお、遺構 289 の埋土をリン・カルシウム分析したが、良好な結果は得られなかった。これらの遺構は、出土遺物から弥生時代中期中葉（～後葉）の遺構と考えられる（図 69）。遺構 289 は遺構 130（溝）や遺構 291（溝）に切られており、溝掘削以前にはこの周辺が墓域であったと考えられる。遺構 368 は遺物包含層 4 層上部や遺構 300（竪穴住居）を切り込んで掘削されているので弥生中期後葉の遺構と推察できる。

5．土坑

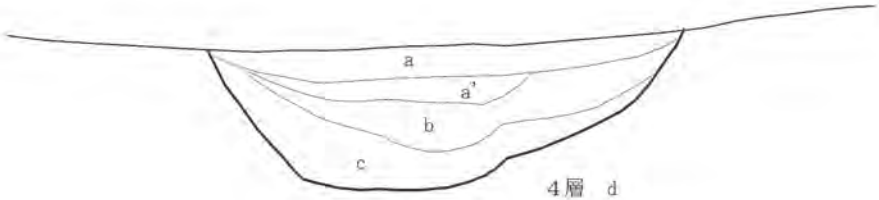
遺構 131～134、270、284 など（土坑）　遺構 130（溝）の北東側のA区部分で楕円形の土坑（遺構 131～134）を数基検出した（図 65・66）。このうち埋土の一部を水洗選別した結果、遺構 131 から 3 片、遺構 132 から 8 片、遺構 133 から 8 片（埋土上層から 7 片、埋土下層から 1 片）、遺構 134 から 25 片の小骨片を検出しており、これらの土坑は土壙墓の可能性がある。なお、遺構 133 はリン・カルシウム分析でも高い比率で成分が検出されている（付章第 2 節参照）。またB区北半部でも溝状土坑とともに遺構 270 や遺構 284 など楕円形～円形の遺構を数基検出している（図 68、出土遺物は図 70）。このうち遺構 270 の埋土下層からは水洗選別によって小骨片 5 片を検出している。B区で検出した遺構 280 などの溝状土坑は土壙墓の可能性があると先述したが、遺構 270 など楕円形の土坑のうちいくつかも土壙墓であった可能性がある。これら土坑は出土遺物から弥生時代中期中葉～後葉の遺構と考えられ、土器棺・溝状土坑・土坑が検出された遺構 130 北東側の一帯は弥生時代中期中葉～後葉の墓域であったと推測できる。

遺構 141（土坑）　径 1.0m、深さ 0.14mの土坑で、遺構 128－Wに切られている（図 66）。遺構内は炭化物で充填されており、埋土を水洗選別したところ炭化材とともに多量の炭化米が検出できた（第 5 章第 3 節参照）。また小骨片が 113 片検出できた。このことから屋外炉や削平された住居の炉などであった可能性がある。

南西
2.50m

遺構128－E

北東

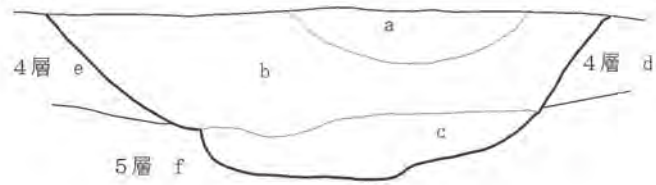


遺構128-E
a ：10YR6/1褐灰色＋10YR5/6黄褐色シルト　＜取り上げ-上層＞
a' ：10YR6/1褐灰色＋10YR5/6黄褐色細砂　＜取り上げ-上層＞
b ：10YR3/1黒褐色シルト（鉄分含む）　＜取り上げ－中層＞
c ：10YR4/1褐灰色シルト（鉄分含む）　＜取り上げ-下層＞
遺物包含層
d ：10YR2/1黒色シルト＝4層

北
2.50m

遺構128-W

南

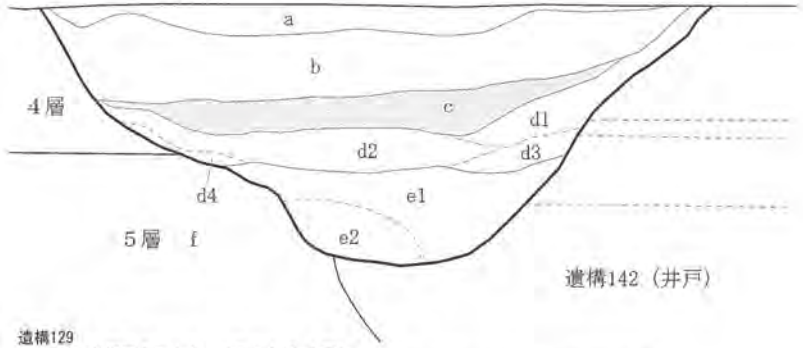


遺構128-W
a ：2.5Y6/1黄灰色シルト（鉄分含む）　＜取り上げ－上層＞
b ：2.5Y3/1黒褐色シルト　＜取り上げ-上層＞
c ：2.5Y4/1黄灰色シルト　＜取り上げ-下層＞
遺物包含層
d ：2.5Y5/1黄灰色シルト＝4層
e ：2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト＝4層
f ：2.5Y6/4にぶい黄色粘土＝5層

西
2.40m

遺構129（A区北半セクションベルト）

東



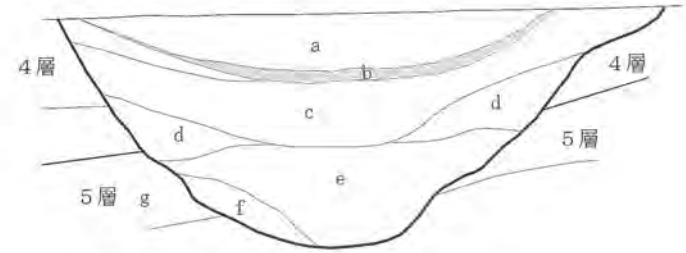


遺構129
a ：10YR4/1褐灰色シルト　＜取り上げ-上層＞
b ：10YR3/1黒褐色シルト（灰白色シルト帯状に含む、ややラミナ状）　＜取り上げ-上層＞
c ：10YR3/1黒褐色シルト＋10YR7/1灰白色シルト　＜取り上げ-中層＞
d ：10YR2/2黒褐色シルト　＜取り上げ-中層＞
（1：黄白色シルト帯状に含む、2：黄色シルトブロック斑点状、3：砂質、4：斑点なし）
e ：10YR2/1黒色シルト（炭含む）　＜取り上げ-下層＞（1：灰白色土わずかに帯状に含む、2：滞水堆積か）
遺物包含層
f ：10YR7/1：灰白色シルト～細砂（鉄分少量）＝5層

西
2.40m

遺構130（A区北半セクションベルト）

東



遺構130
a ：10YR4/1褐灰色シルト（鉄分少量）　＜取り上げ-上層＞
b ：10YR7/1灰白色シルト～粘土（鉄分少量）　＜取り上げ-中層＞
c ：10YR6/1褐灰色シルト（灰色シルト帯状に含む）　＜取り上げ-中層＞
d ：10YR3/2黒褐色シルト（灰色シルトなし）　＜取り上げ-中層＞
e ：10YR2/1黒色シルト（灰色シルト帯状に若干含む）　＜取り上げ-下層＞
f ：7.5Y6/1灰色粘土（底部7.5YR6/2灰オリーブ色細砂）　＜取り上げ-下層＞
遺物包含層
g ：2.5Y6/6明黄褐色シルト（粘質）＝5層

図30　遺構128-W・128-E・129・130（溝）断面図　（S＝1/20）

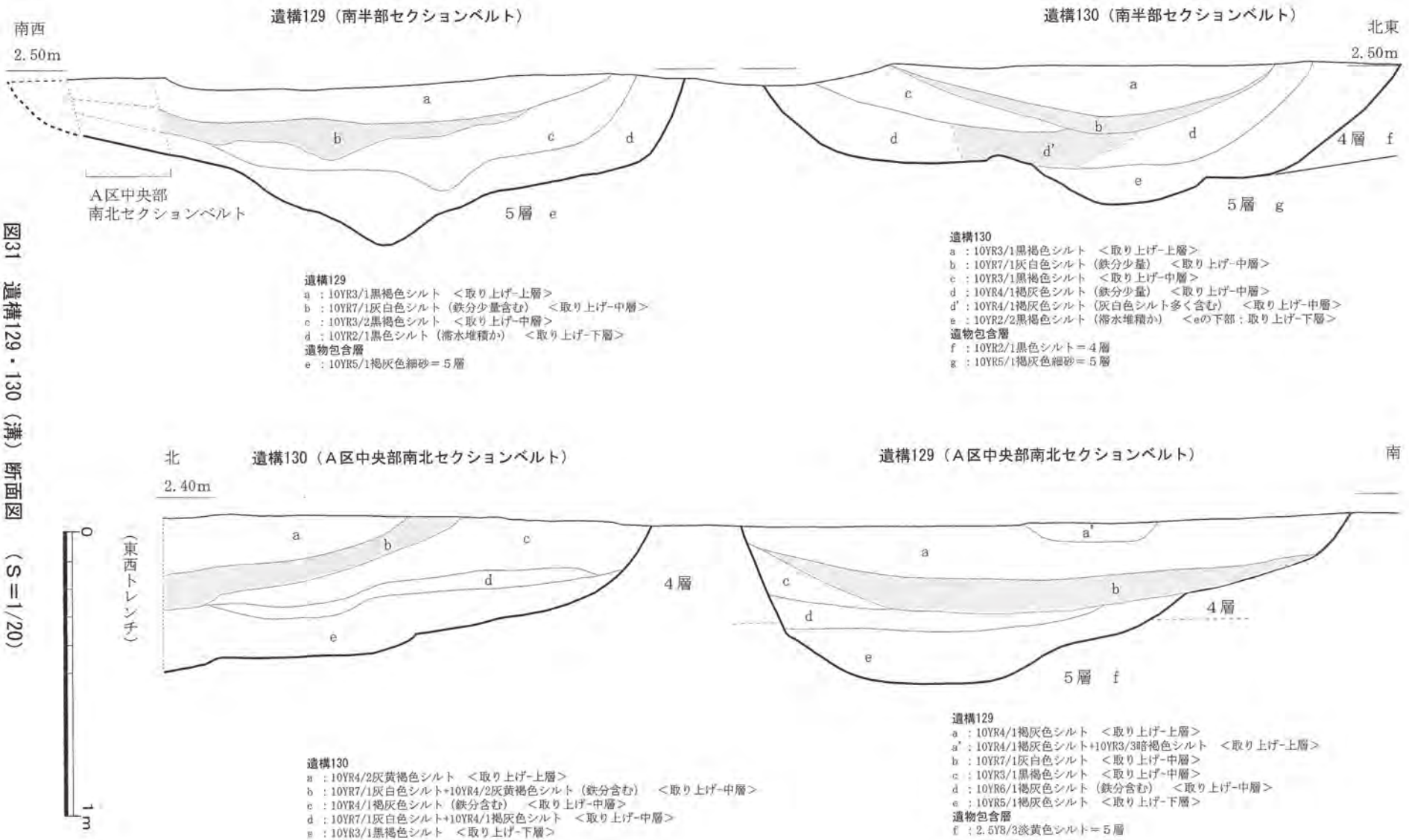
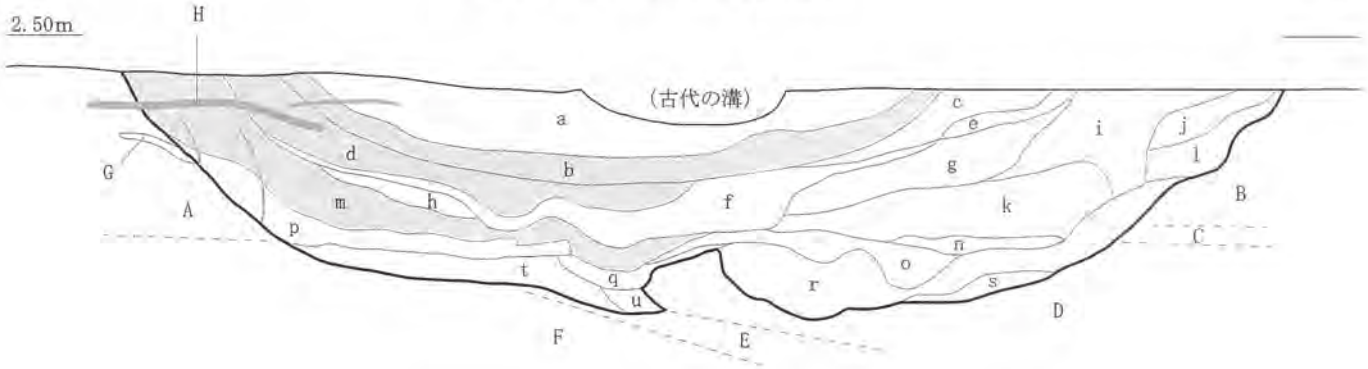


図31 遺構129・130（溝）断面図 （S＝1/20）

南　　遺構130（B区東側セクションベルト）　　北

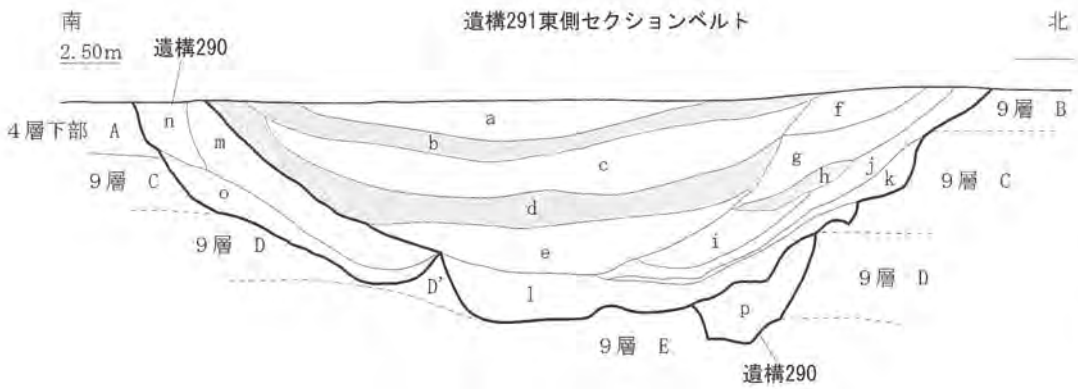


遺構130
a：10YR3/2黒褐色細砂～シルト（若干鉄分含む）
b：10YR4/2灰黄褐色シルト+一部10YR4/3にぶい黄褐色細砂（鉄分斑点状）＝灰白色シルト層
c：10YR4/3にぶい黄褐色細砂（鉄分含む）
d：10YR5/2灰黄褐色シルト+10YR4/3にぶい黄褐色細砂（ラミナ状、互層）＝灰白色シルト層
e：10YR3/3暗褐色細砂～シルト
f：10YR5/2灰黄褐色細砂+一部10YR4/3にぶい黄褐色細砂（一部鉄分含む）
g：10YR4/3にぶい黄褐色細砂（一部ラミナ状、鉄分斑点状）
h：10YR4/3にぶい黄褐色細砂+10YR3/3暗褐色細砂（一部ラミナ状）
i：10YR4/3にぶい黄褐色細砂～シルト（鉄分斑点状）
j：10YR3/3暗褐色+10YR4/3にぶい黄褐色細砂～シルト（一部鉄分含む）
k：10YR3/3暗褐色シルト+黄褐色シルトブロック（一部ラミナ状、炭少量）
l：10YR3/3暗褐色シルト（やや粘質。灰色細砂混じる）
m：10YR5/2灰黄褐色シルト+10YR4/3にぶい黄褐色細砂（ラミナ状、炭少量）＝灰白色シルト層
n：10YR4/3にぶい黄褐色細砂
o：10YR4/3にぶい黄褐色細砂+2.5Y5/4黄褐色細砂
p：10YR3/3暗褐色シルト～細砂（やや粘質、一部ラミナ状、炭少量）
q：10YR4/3にぶい黄褐色細砂（10YR5/2灰黄褐色シルト含む、一部鉄分含む）
r：10YR3/3暗褐色シルト（一部黄褐色細砂、やや粘質、炭含む）
s：2.5Y5/4黄褐色細砂+10YR3/3暗褐色シルト～細砂（一部ラミナ状、流水堆積）
t：10YR4/3にぶい黄褐色細砂+10YR7/6明黄褐色細砂（流水堆積）
u：10YR3/3暗褐色細砂（ラミナ状）

地山（9層）
A：10YR6/4にぶい黄橙色シルト
B：10YR6/4にぶい黄橙色細砂～シルト（鉄分斑点状）
C：2.5Y6/2灰黄色細砂（砂層）
D：2.5Y5/2明灰黄シルト色+2.5Y5/4黄褐色細砂
E：10YR4/2灰黄褐色～10YR5/6黄褐色細砂
F：2.5Y6/2灰黄色細砂（砂層）
G：10YR3/3暗褐色シルト～細砂
H：10YR5/4にぶい黄褐色細砂（細砂の貫入）



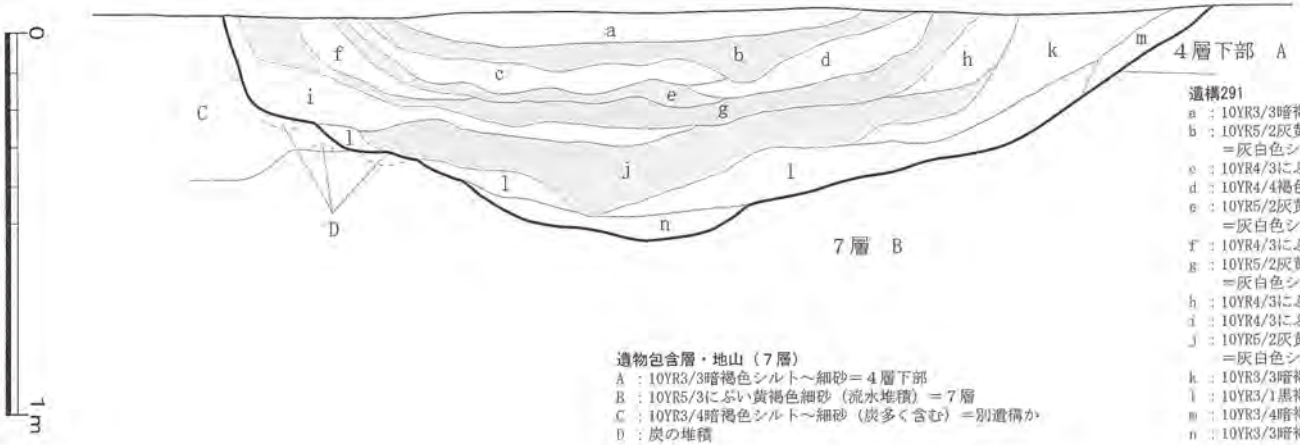
図32　遺構130（溝）断面図　（S＝1/20）



遺構291
a ：10YR3/3暗褐色シルト～細砂（鉄分含む・マンガン少量）
b ：10YR3/4暗褐色シルト～細砂　＝灰白色シルト層
（10YR5/2灰黄褐色シルト含む、鉄分多い、炭少量、若干ラミナ）
c ：10YR4/2灰黄褐色シルト～細砂（炭・マンガン少量、鉄分斑点状）
d ：10YR5/2灰黄褐色シルト（鉄分斑点状、炭少量）　＝灰白色シルト層
e ：10YR4/2灰黄褐色細砂（一部シルト、炭・鉄分少量、若干ラミナ）
f ：10YR3/2黒褐色シルト～細砂（炭少量、マンガン多い）
g ：10YR3/3黒褐色シルト～細砂（炭・鉄分少量）
h ：10YR4/2灰黄褐色シルト（10YR5/2灰黄褐色シルト含む）＝灰白色シルト層
i ：10YR3/2黒褐色シルト（鉄分少量）
j ：10YR3/1黒褐色シルト～細砂（やや粘質）
k ：10YR5/2灰黄褐色シルト（やや粘質）
l ：10YR4/2灰黄褐色細砂（一部10YR5/2灰黄褐色シルト、鉄分斑点状、炭少量）
（部分的に黄褐色細砂ブロック含む、底付近若干ラミナ）

遺物包含層・地山（9層）
A ：10YR3/1黒褐色シルト～細砂＝4層下部
B ：7.5YR4/3褐色シルト～細砂＝9層
C ：10YR5/4にぶい黄褐色シルト～細砂（鉄分斑点状）＝9層
D ：10YR6/4にぶい黄褐色シルト（鉄分斑点状）＝9層
D' ：10YR6/6明黄褐色細砂（流水堆積）＝9層
E ：10YR5/3にぶい黄褐色細砂（流水堆積）＝9層

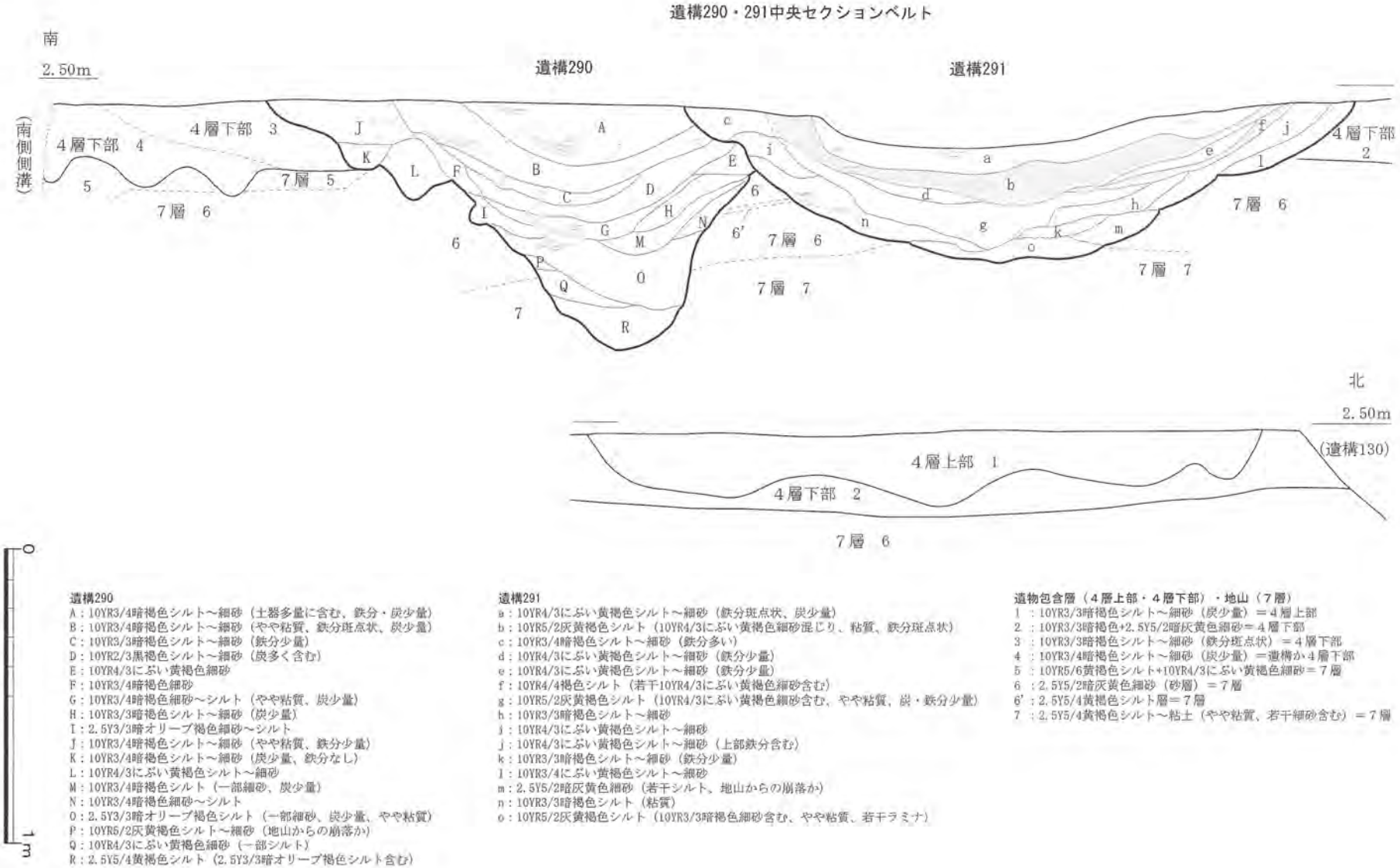
遺構290
m ：10YR3/2黒褐色シルト（やや粘質、炭少量）
n ：10YR3/2黒褐色シルト～細砂
o ：10YR4/2灰黄褐色シルト～細砂（鉄分斑点状）
p ：10YR5/3にぶい黄褐色細砂+10YR4/2灰黄褐色細砂



遺構291
a ：10YR3/3暗褐色シルト～細砂（若干鉄分斑点状）
b ：10YR5/2灰黄褐色シルト（一部10YR4/3にぶい黄褐色細砂、鉄分斑点状）
＝灰白色シルト層
c ：10YR4/3にぶい黄褐色細砂（一部10YR3/3暗褐色シルト、鉄分斑点状）
d ：10YR4/4褐色シルト（鉄分少量）
e ：10YR5/2灰黄褐色シルト+10YR4/3にぶい黄褐色細砂（炭・鉄分少量）
＝灰白色シルト層
f ：10YR4/3にぶい黄褐色細砂（鉄分少量）
g ：10YR5/2灰黄褐色シルト（鉄分斑点状、炭少量、若干ラミナ）
＝灰白色シルト層
h ：10YR4/3にぶい黄褐色細砂～シルト（鉄分少量）
i ：10YR4/3にぶい黄褐色細砂～シルト（若干鉄分斑点状）
j ：10YR5/2灰黄褐色シルト+10YR4/3にぶい黄褐色細砂（炭・鉄分少量、若干ラミナ）
＝灰白色シルト層
k ：10YR3/3暗褐色細砂～シルト（鉄分少量）
l ：10YR3/1黒褐色シルト～細砂（やや粘質、鉄分・炭少量）
m ：10YR3/4暗褐色細砂～シルト（鉄分少量）
n ：10YR3/3暗褐色シルト+10YR5/6黄褐色細砂（若干ラミナ）

遺物包含層・地山（7層）
A ：10YR3/3暗褐色シルト～細砂＝4層下部
B ：10YR5/3にぶい黄褐色細砂（流水堆積）＝7層
C ：10YR3/4暗褐色シルト～細砂（炭多く含む）＝別遺構か
D ：炭の堆積

図33　遺構291（溝）断面図　（S＝1/20）

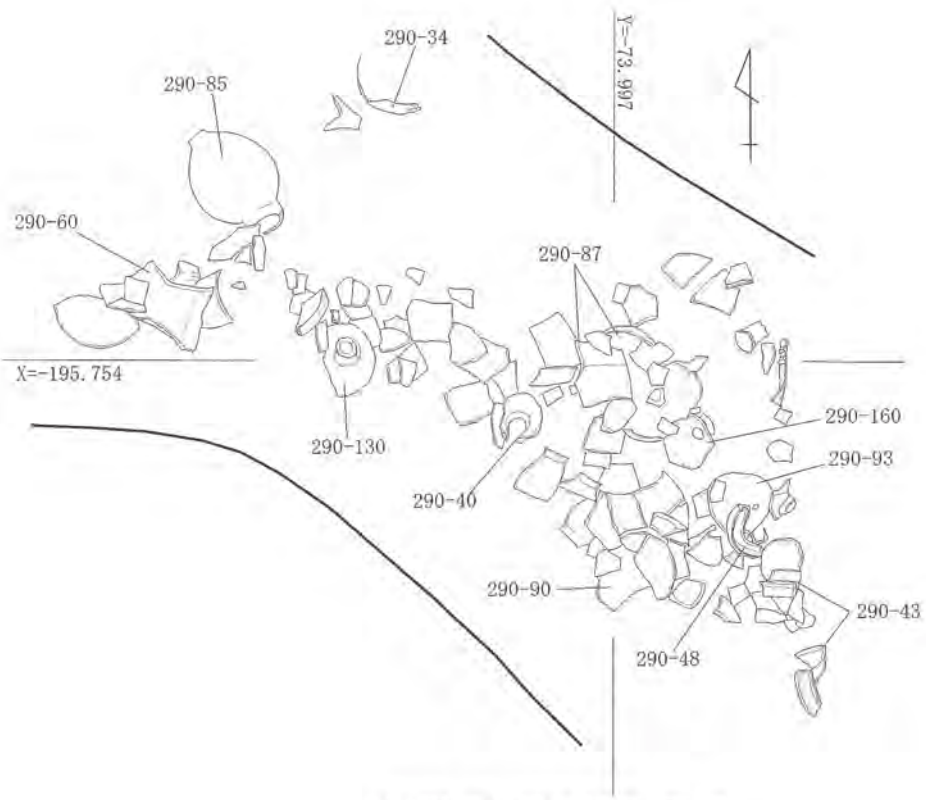


遺構290
A：10YR3/4暗褐色シルト～細砂（土器多量に含む、鉄分・炭少量）
B：10YR3/4暗褐色シルト～細砂（やや粘質、鉄分斑点状、炭少量）
C：10YR3/3暗褐色シルト～細砂（鉄分少量）
D：10YR2/3黒褐色シルト～細砂（炭多く含む）
E：10YR4/3にぶい黄褐色細砂
F：10YR3/4暗褐色細砂
G：10YR3/4暗褐色細砂～シルト（やや粘質、炭少量）
H：10YR3/3暗褐色シルト～細砂（炭少量）
I：2.5Y3/3暗オリーブ褐色細砂～シルト
J：10YR3/4暗褐色シルト～細砂（やや粘質、鉄分少量）
K：10YR3/4暗褐色シルト～細砂（炭少量、鉄分なし）
L：10YR4/3にぶい黄褐色シルト～細砂
M：10YR3/4暗褐色シルト（一部細砂、炭少量）
N：10YR3/4暗褐色細砂～シルト
O：2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト（一部細砂、炭少量、やや粘質）
P：10YR5/2灰黄褐色シルト～細砂（地山からの崩落か）
Q：10YR4/3にぶい黄褐色細砂（一部シルト）
R：2.5Y5/4黄褐色シルト（2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト含む）

遺構291
a：10YR4/3にぶい黄褐色シルト～細砂（鉄分斑点状、炭少量）
b：10YR5/2灰黄褐色シルト（10YR4/3にぶい黄褐色細砂混じり、粘質、鉄分斑点状）
c：10YR3/4暗褐色シルト～細砂（鉄分多い）
d：10YR4/3にぶい黄褐色シルト～細砂（鉄分少量）
e：10YR4/3にぶい黄褐色シルト～細砂（鉄分少量）
f：10YR4/4褐色シルト（若干10YR4/3にぶい黄褐色細砂含む）
g：10YR5/2灰黄褐色シルト（10YR4/3にぶい黄褐色細砂含む、やや粘質、炭・鉄分少量）
h：10YR3/3暗褐色シルト～細砂
i：10YR4/3にぶい黄褐色シルト～細砂
j：10YR4/3にぶい黄褐色シルト～細砂（上部鉄分含む）
k：10YR3/3暗褐色シルト～細砂（鉄分少量）
l：10YR3/4にぶい黄褐色シルト～細砂
m：2.5Y5/2暗灰黄色細砂（若干シルト、地山からの崩落か）
n：10YR3/3暗褐色シルト（粘質）
o：10YR5/2灰黄褐色シルト（10YR3/3暗褐色細砂含む、やや粘質、若干ラミナ）

遺物包含層（４層上部・４層下部）・地山（７層）
1：10YR3/3暗褐色シルト～細砂（炭少量）＝４層上部
2：10YR3/3暗褐色+2.5Y5/2暗灰黄色細砂＝４層下部
3：10YR3/3暗褐色シルト～細砂（鉄分斑点状）＝４層下部
4：10YR3/4暗褐色シルト～細砂（炭少量）＝遺構か４層下部
5：10YR5/6黄褐色シルト+10YR4/3にぶい黄褐色細砂＝７層
6：2.5Y5/2暗灰黄色細砂（砂層）＝７層
6'：2.5Y5/4黄褐色シルト層＝７層
7：2.5Y5/4黄褐色シルト～粘土（やや粘質、若干細砂含む）＝７層

図34　遺構290・291（溝）断面図　（S＝1/20）



遺構290（溝）土器出土状況　平面図

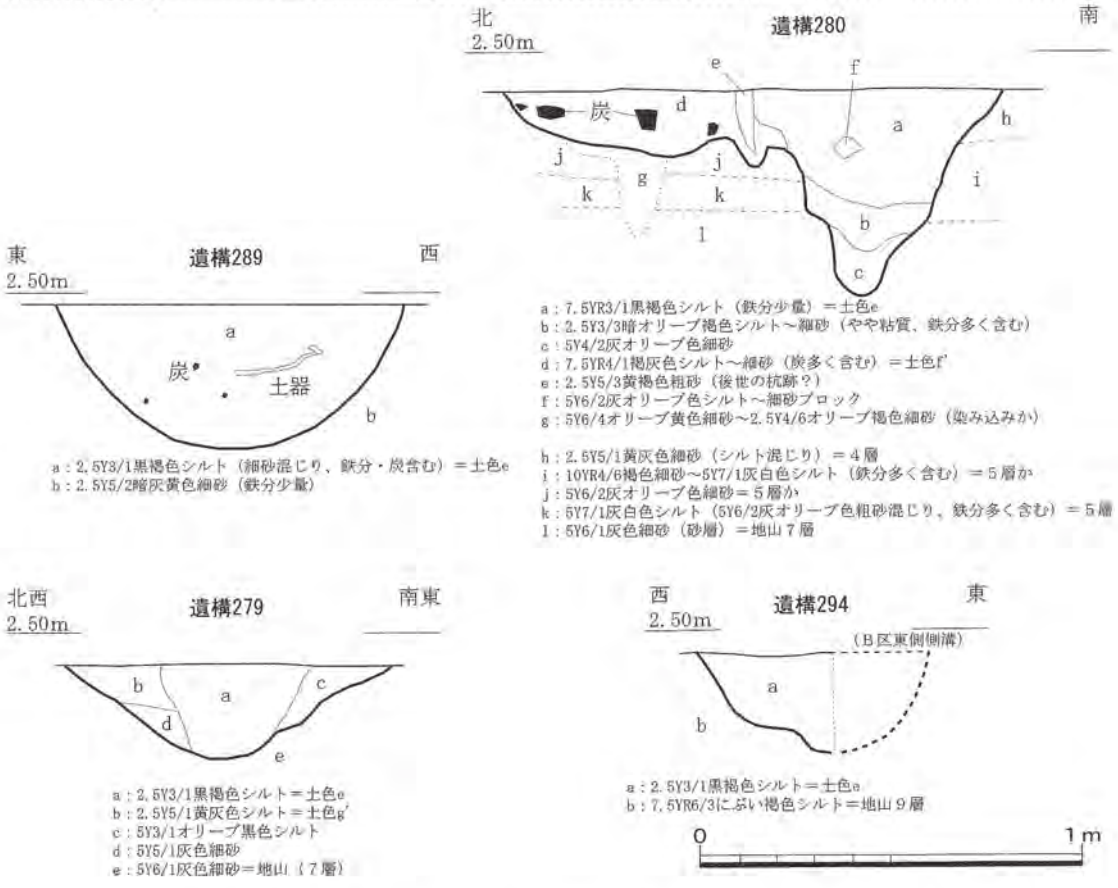


図35　遺構290（溝）土器出土状況平面図／溝状土坑断面図　（S＝1/20）

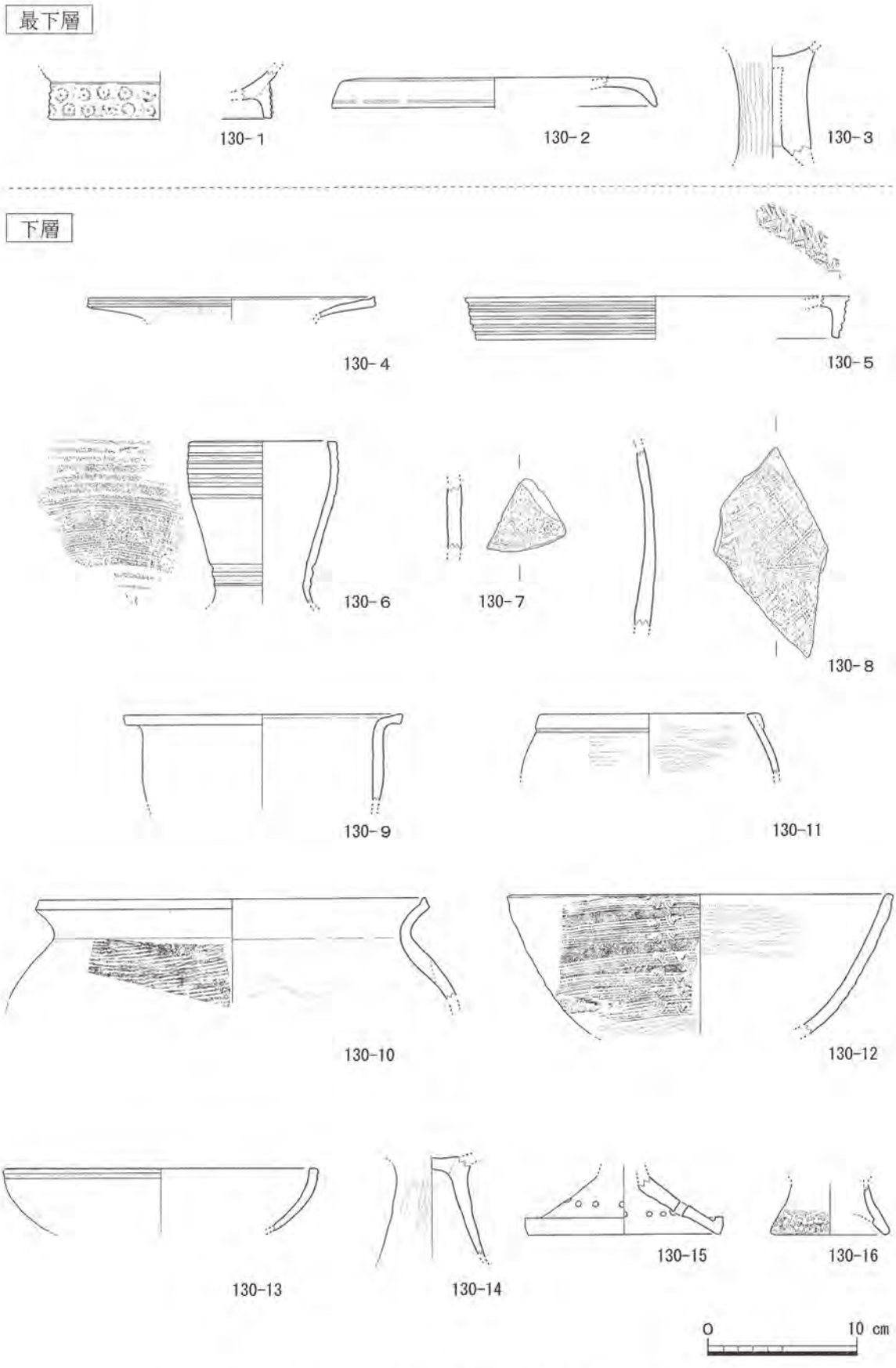


図36　遺構130（溝）最下層・下層　遺物実測図　（S＝1/4）

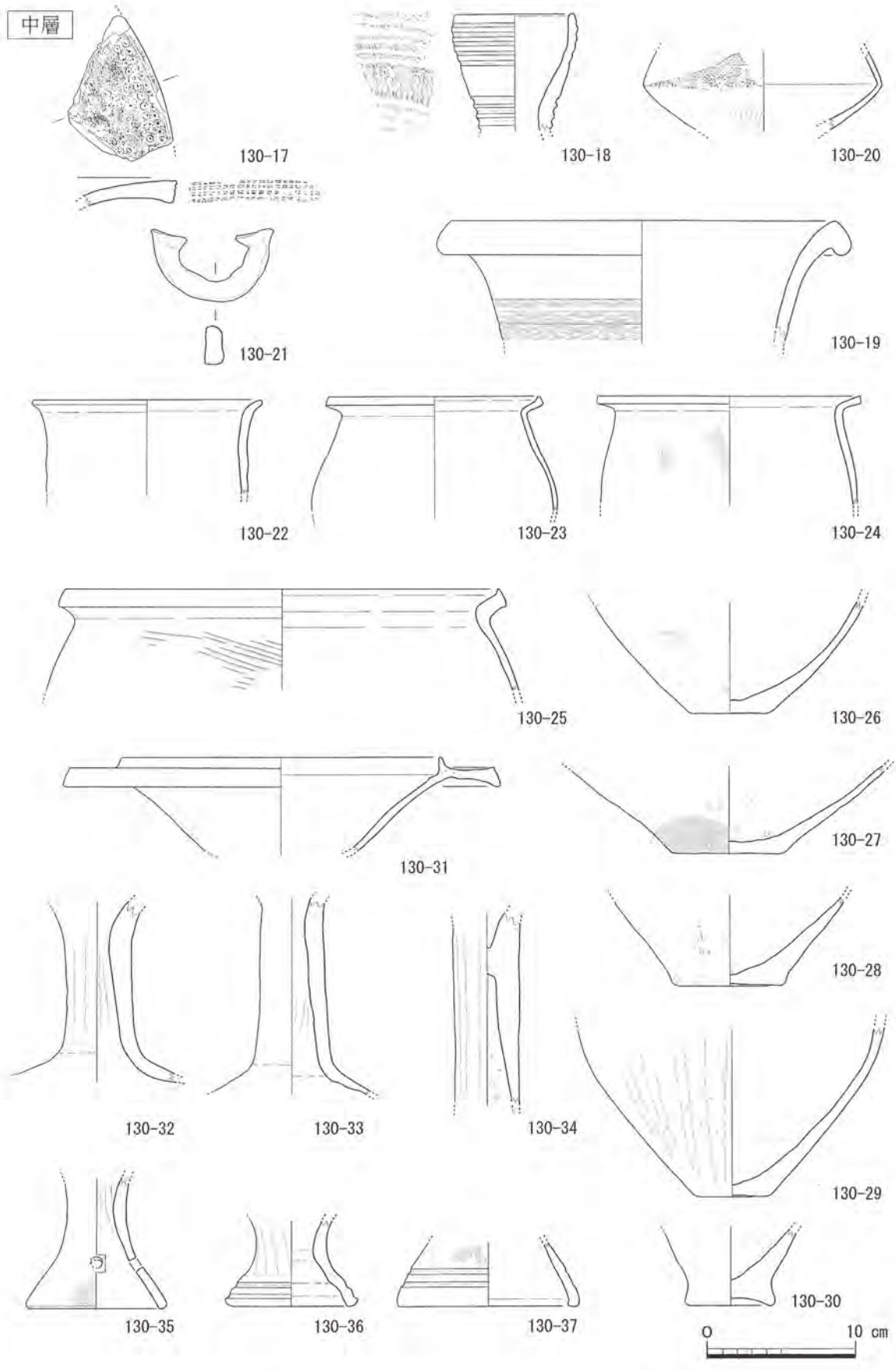


図37　遺構130（溝）中層　遺物実測図　（S＝1/4）

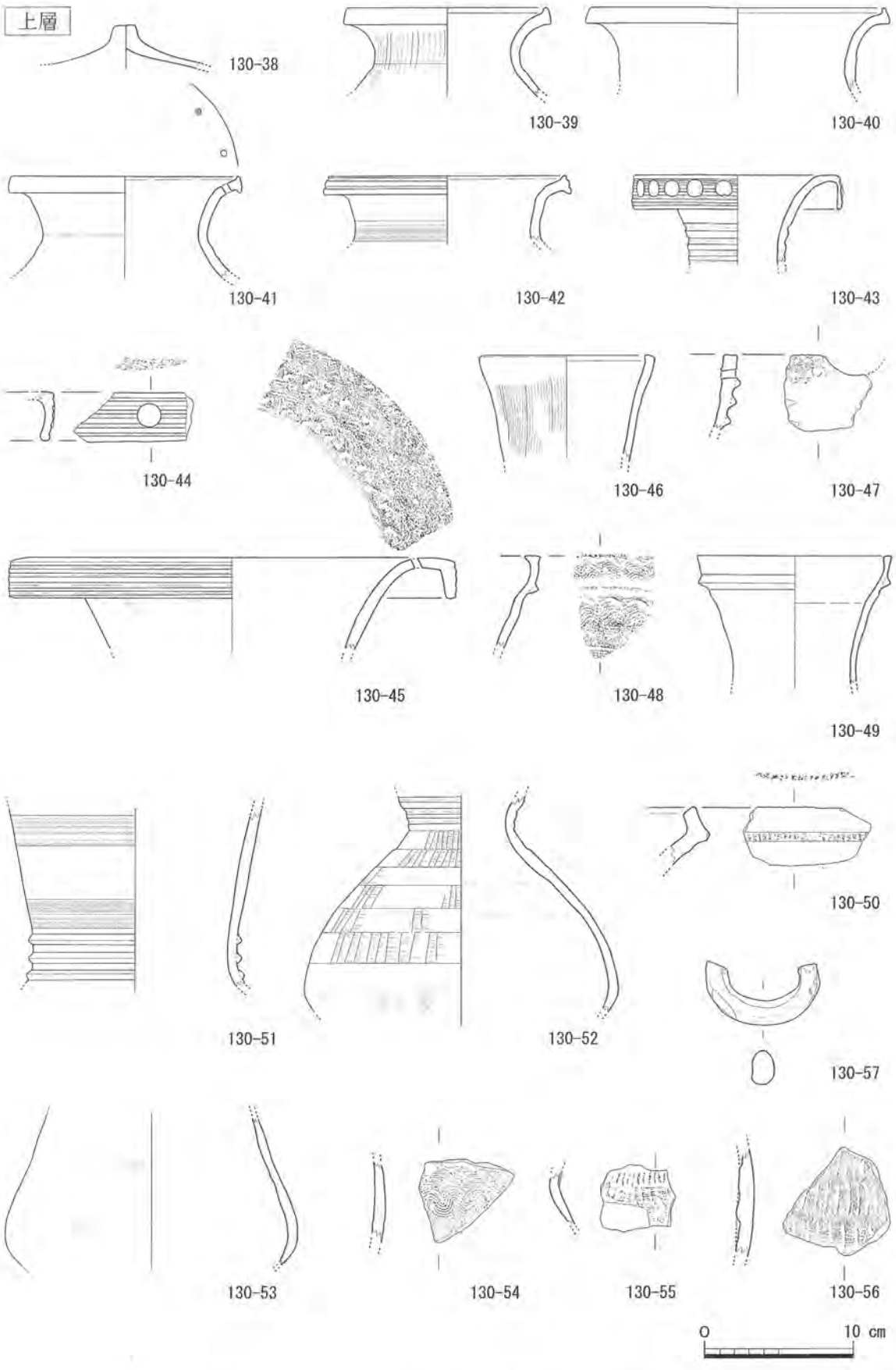


図38　遺構130（溝）上層　遺物実測図１　（S＝1/4）

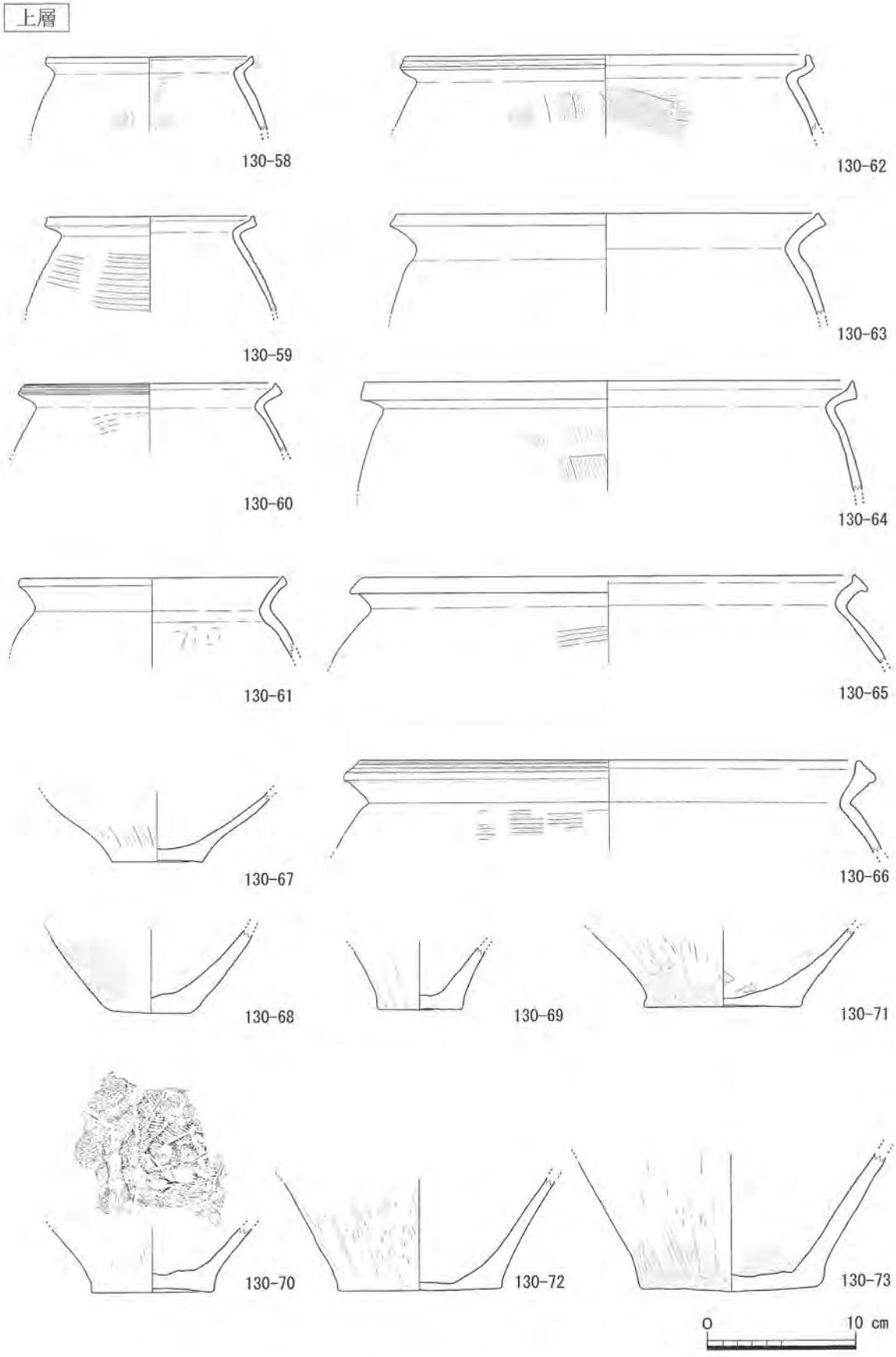


図39　遺構130（溝）上層　遺物実測図２　（S＝1/4）

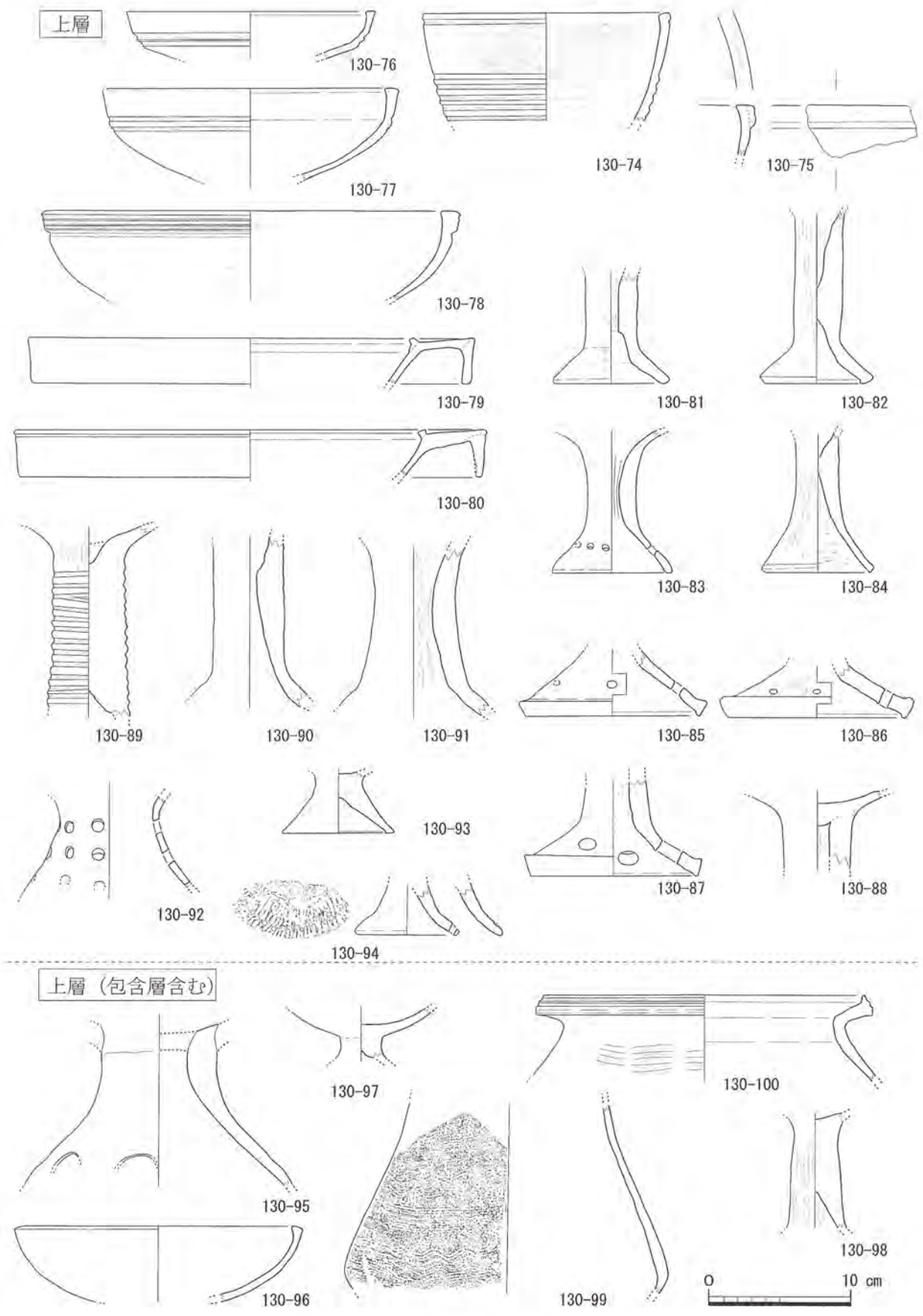


図40　遺構130（溝）上層　遺物実測図３　（S＝1/4）

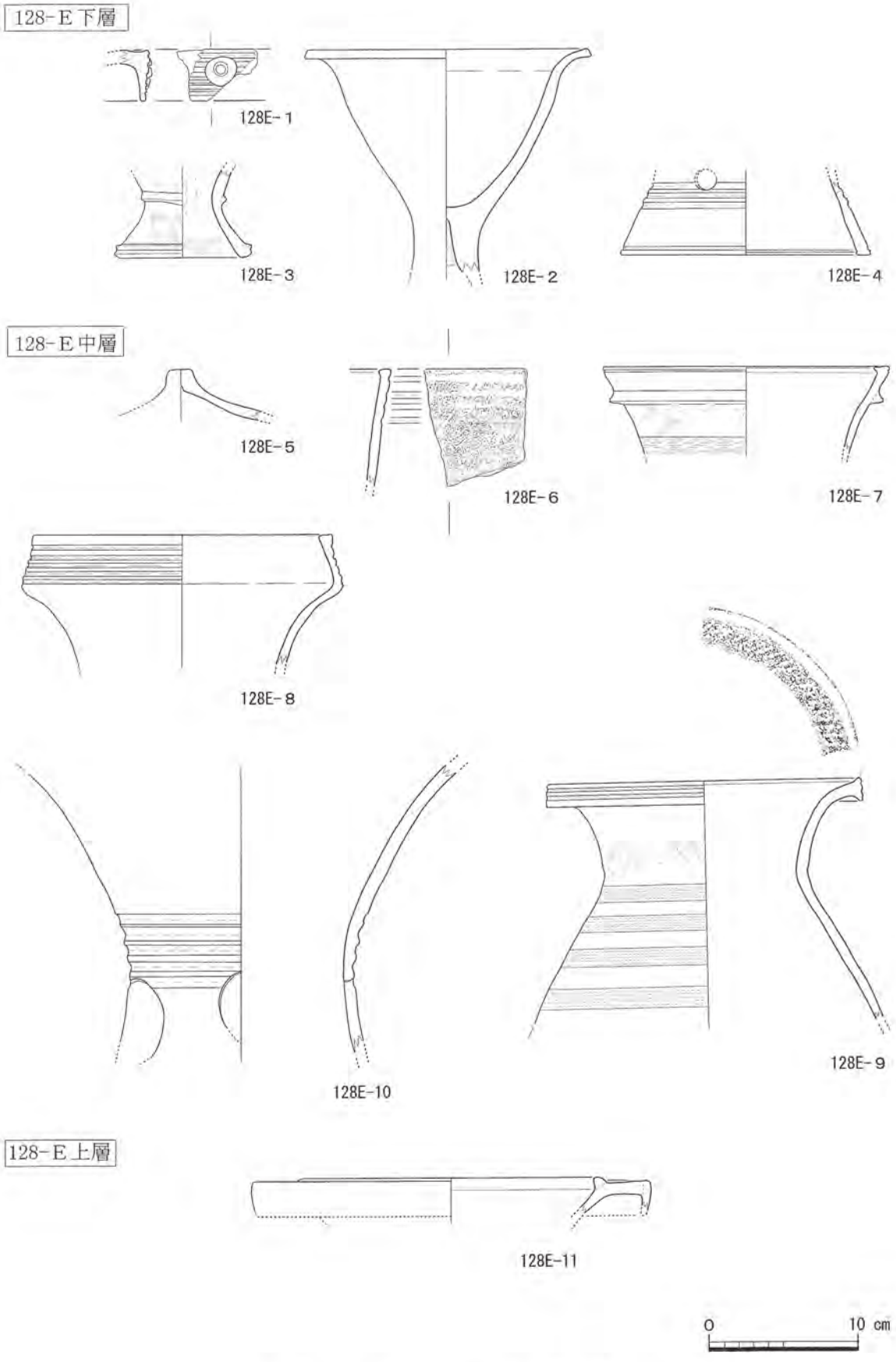


図41　遺構128-E（溝）　遺物実測図　（S＝1/4）

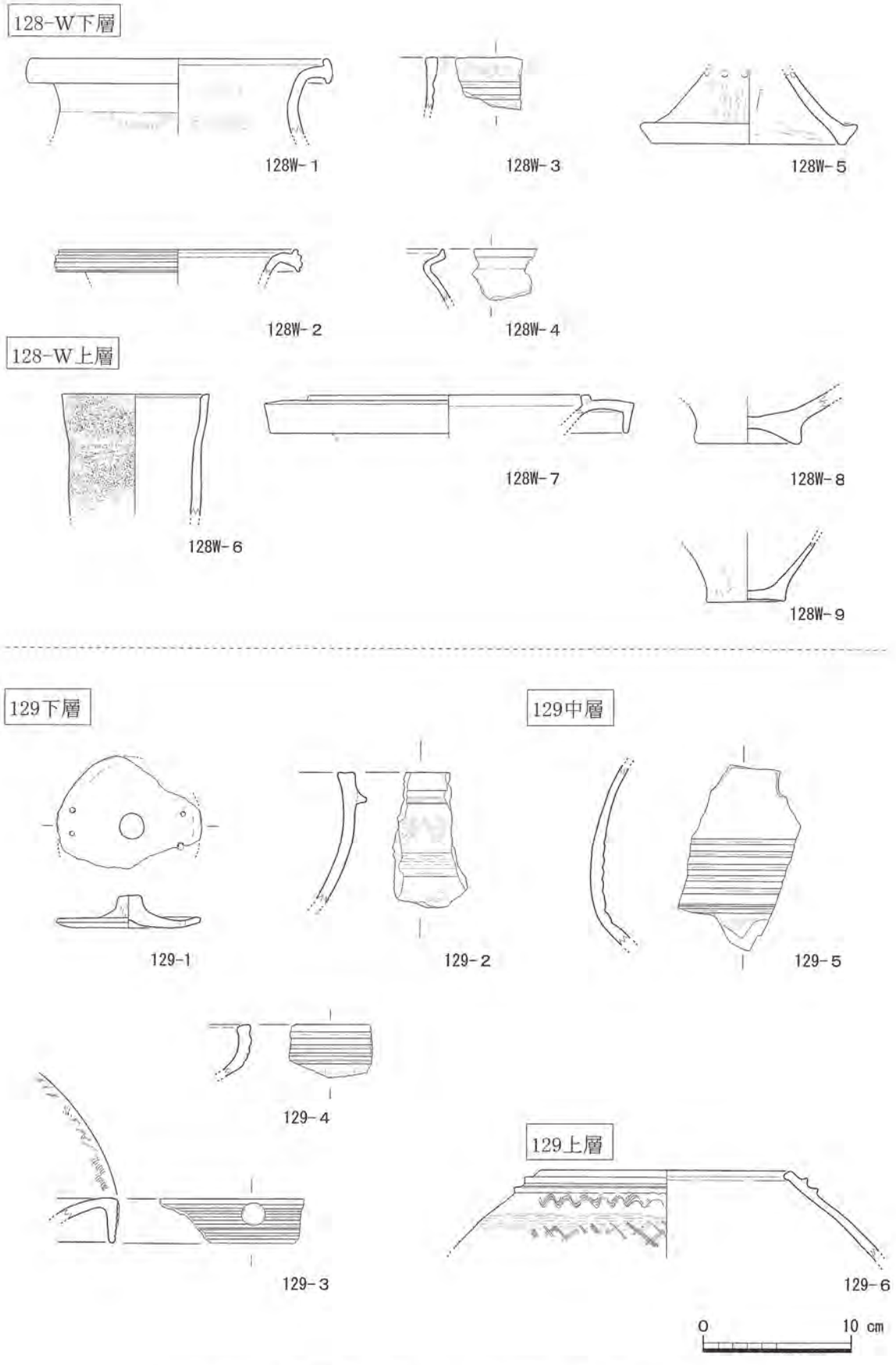


図42　遺構128-E・128-W・129（溝）　遺物実測図　（S＝1/4）

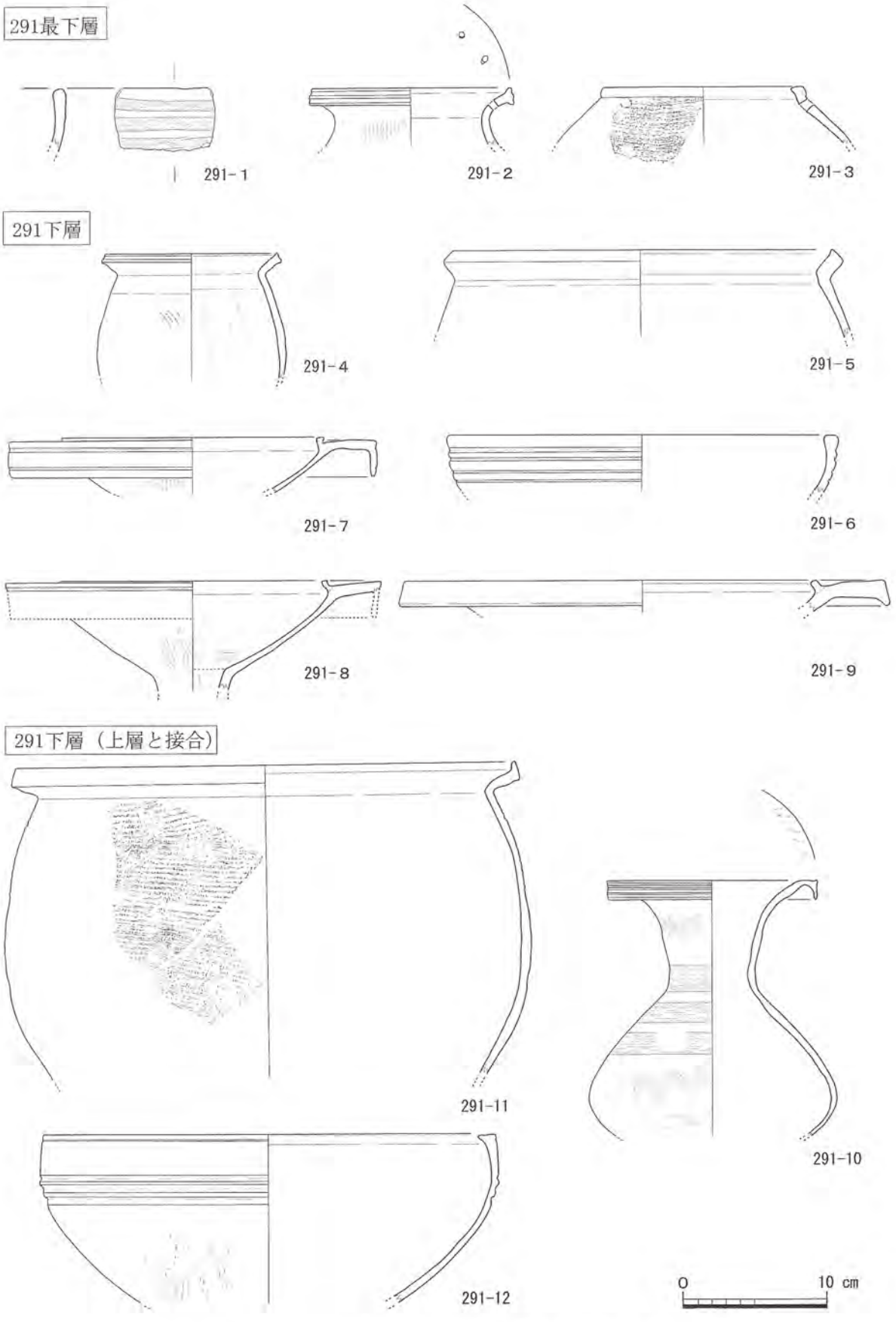


図43　遺構291（溝）最下層・下層　遺物実測図　（S＝1/4）

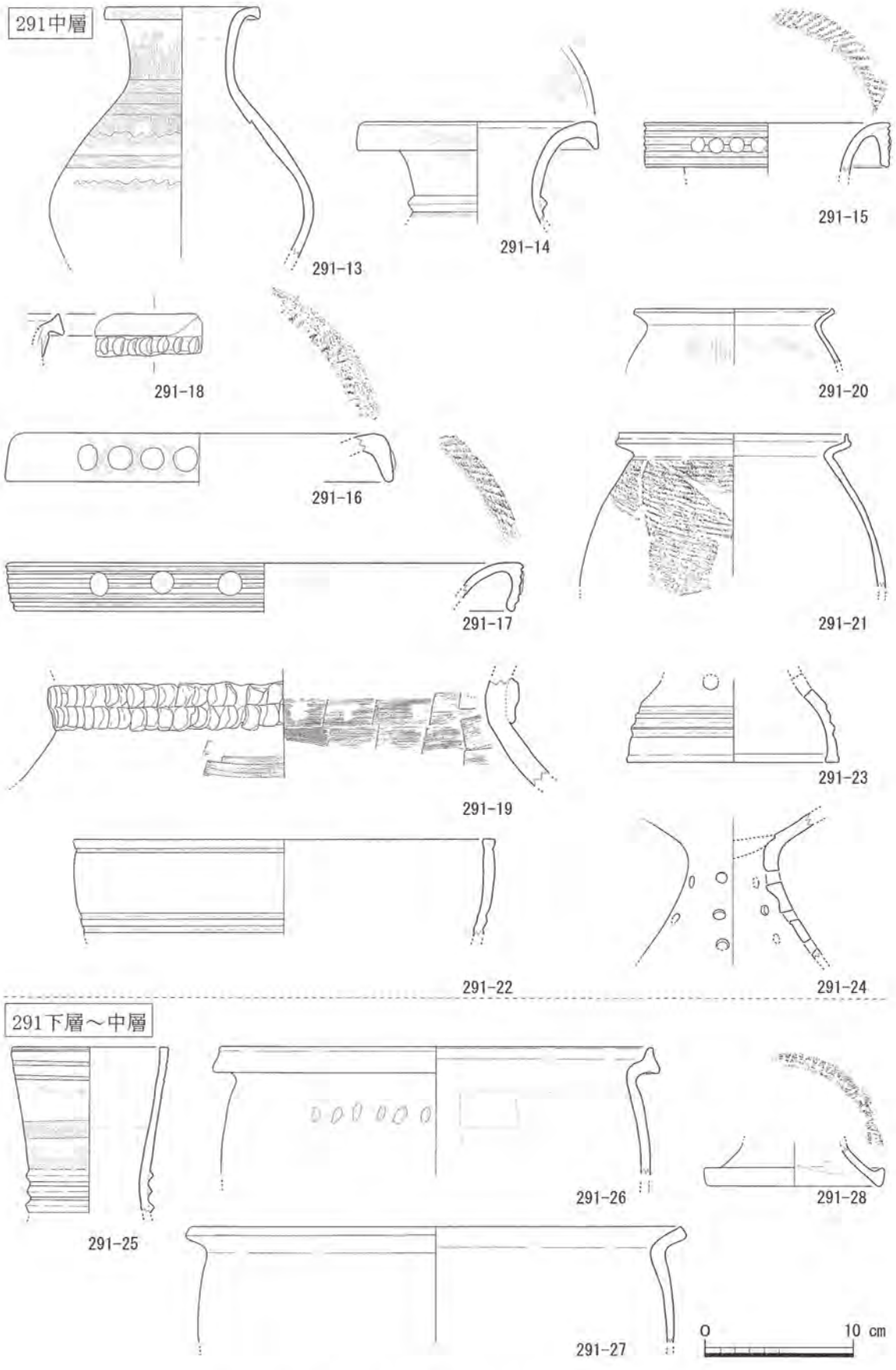


図44　遺構291（溝）中層　遺物実測図　（S＝1/4）

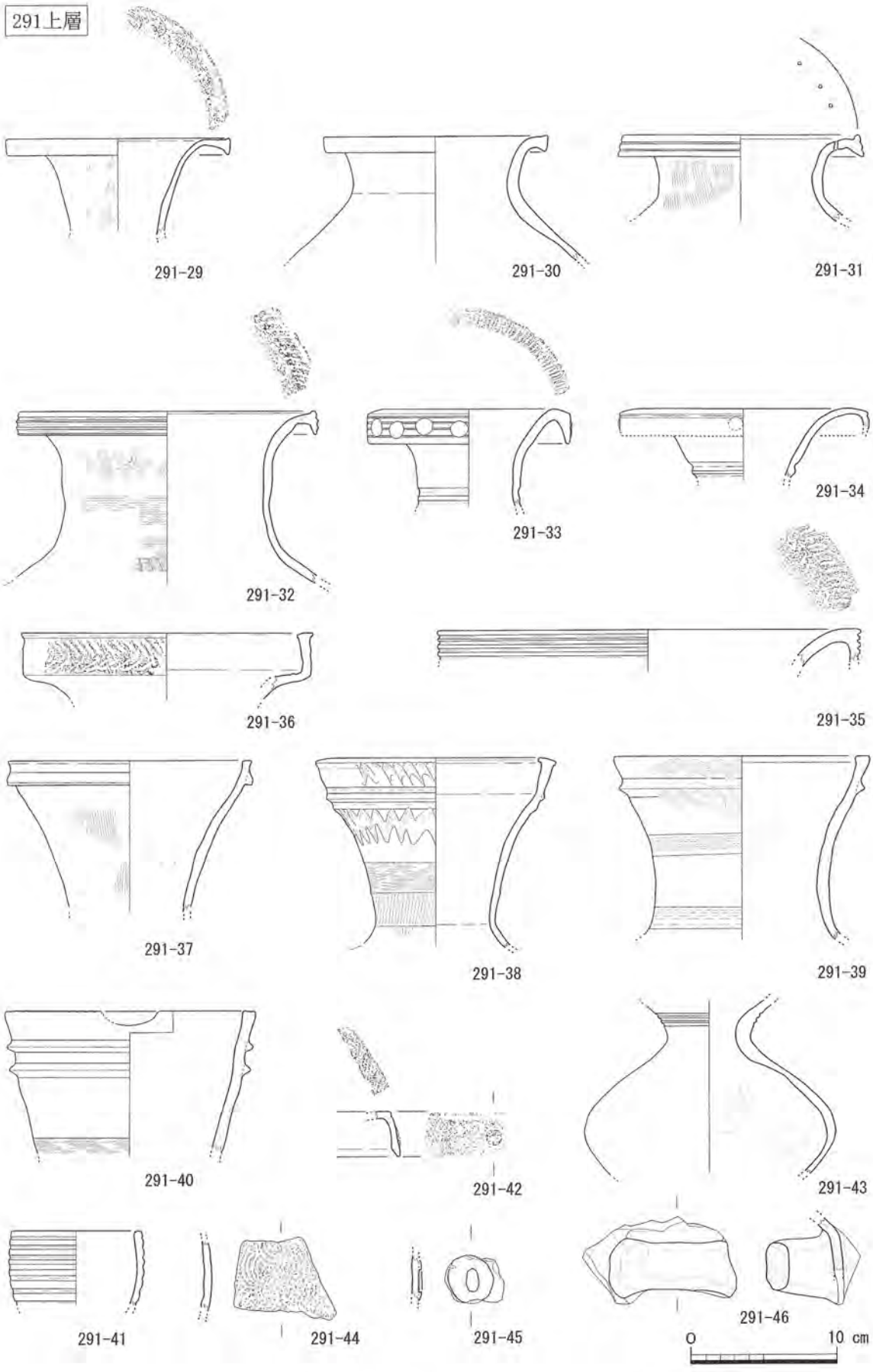


図45　遺構291（溝）上層　遺物実測図１　（S＝1/4）

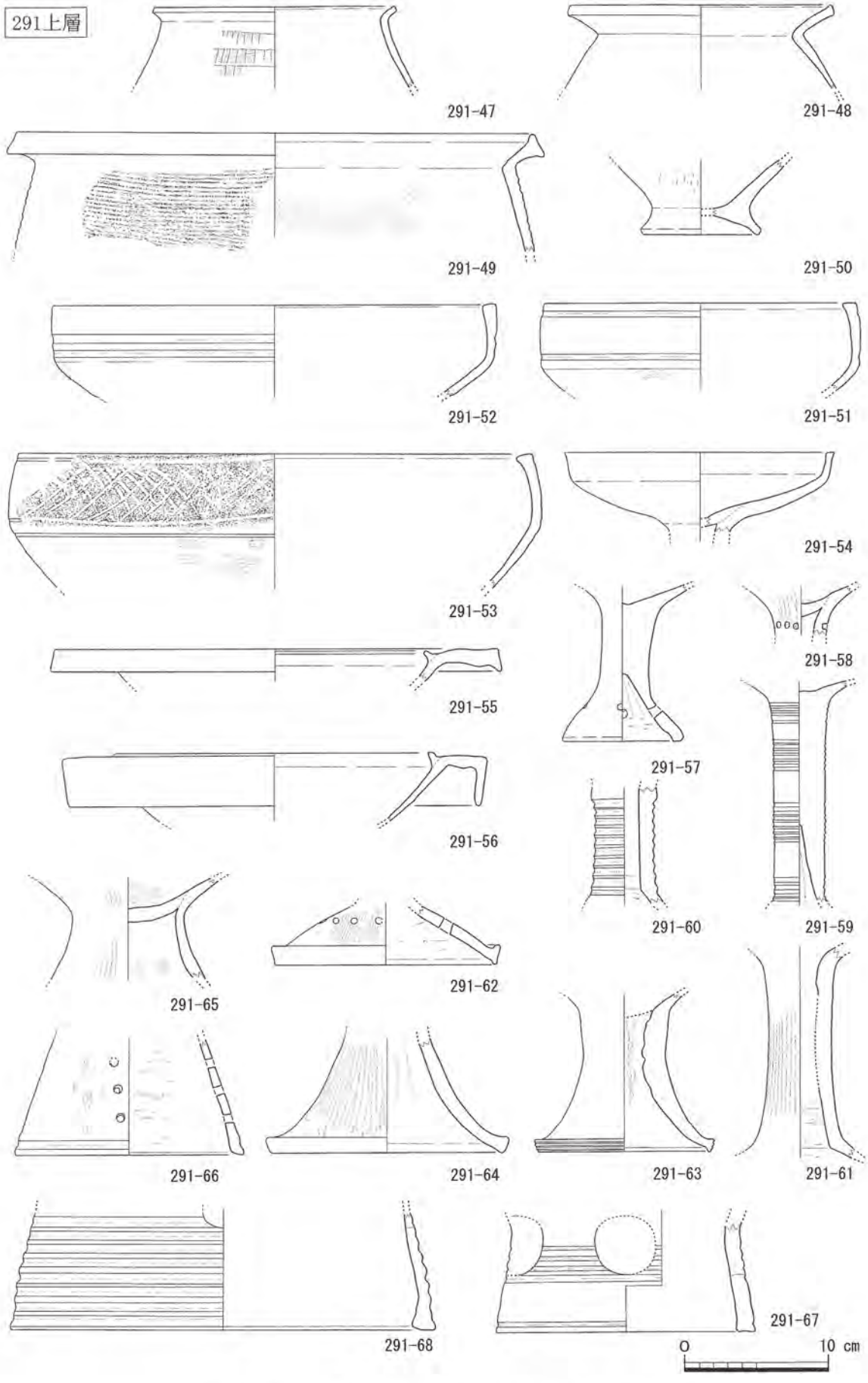


図46　遺構291（溝）上層　遺物実測図２　（S＝1/4）

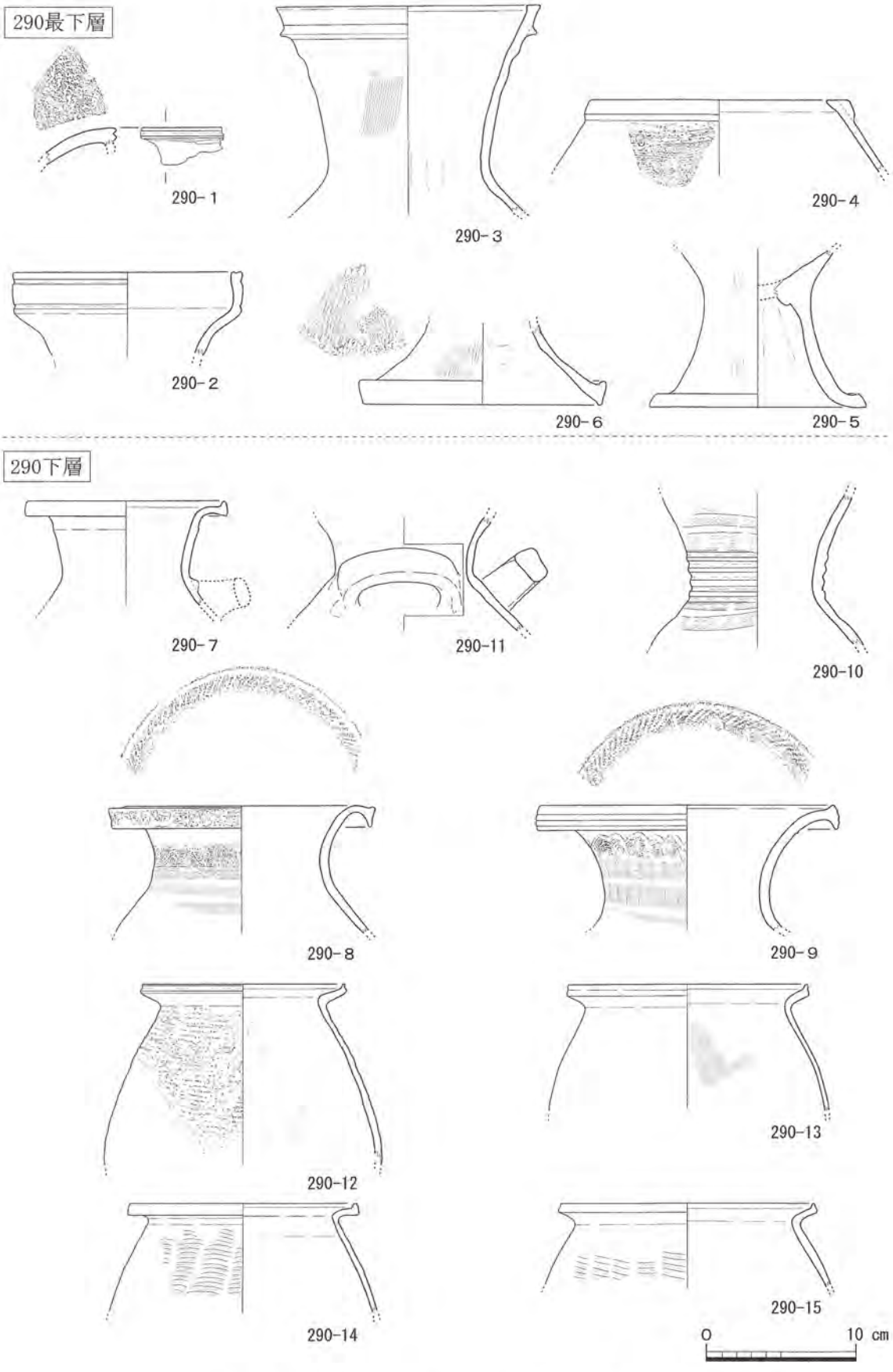
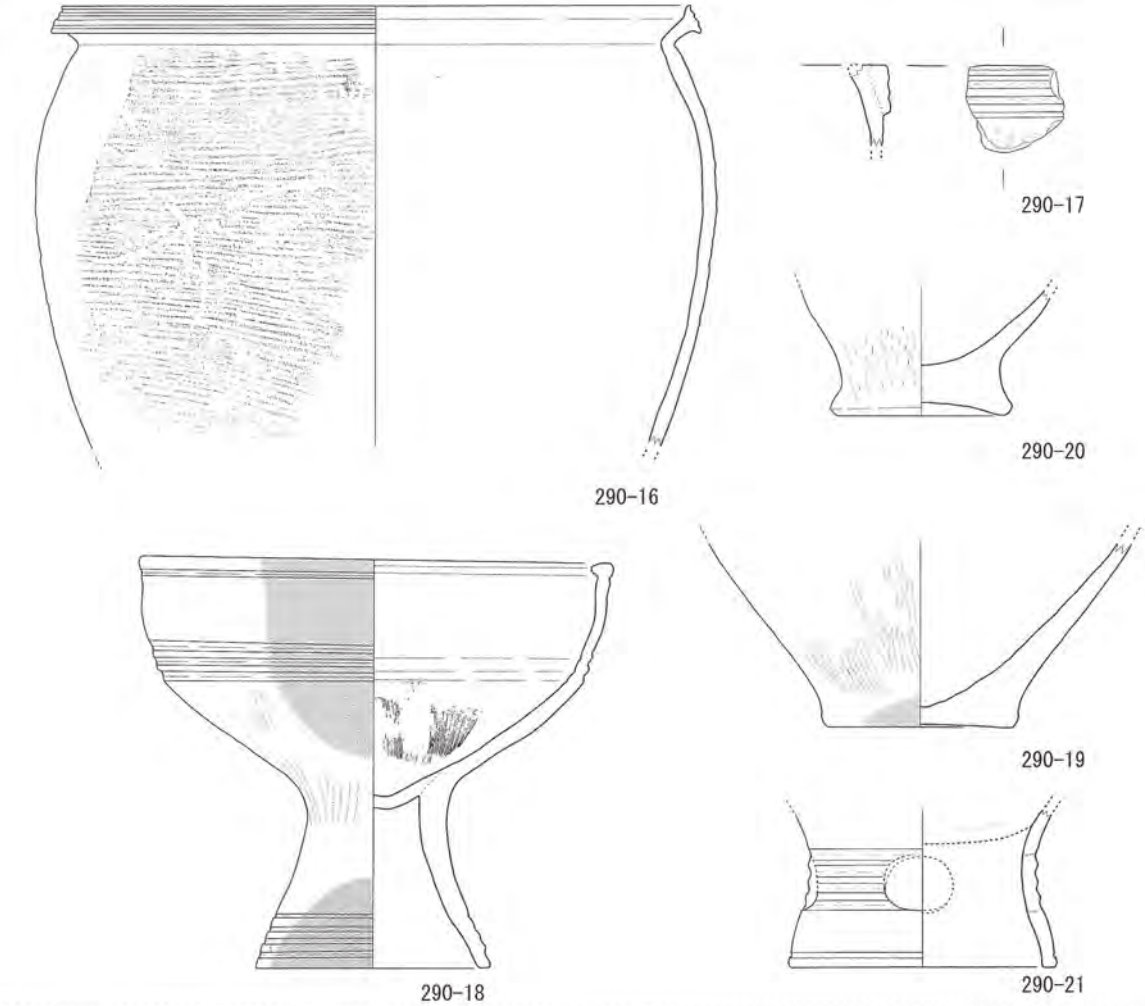


図47　遺構290（溝）最下層・下層　遺物実測図　（S＝1/4）

290下層



290下層・中層（上層と接合）

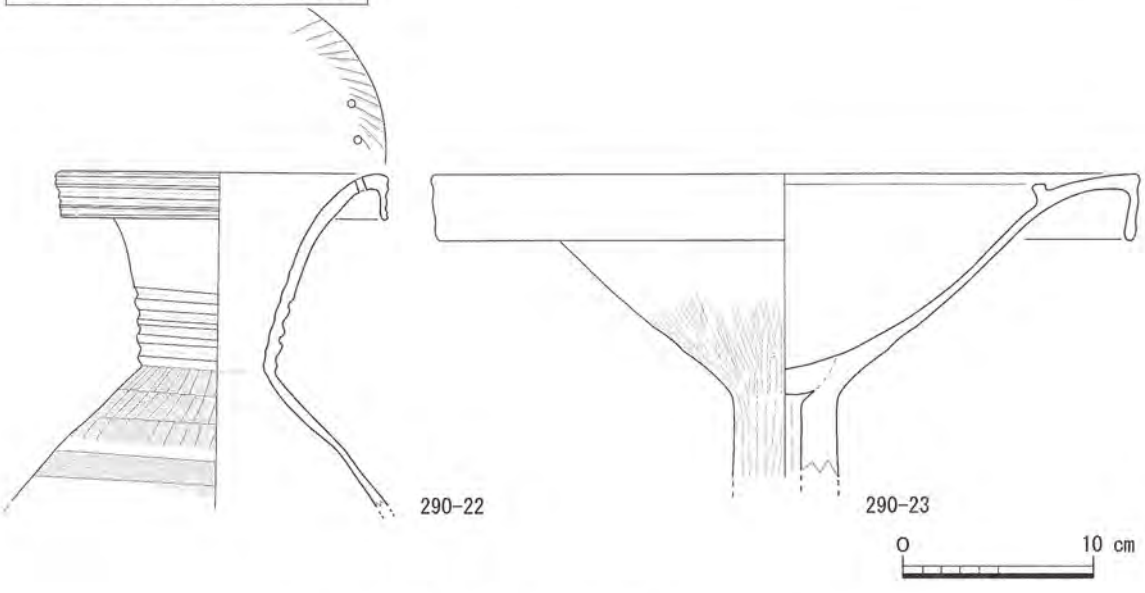


図48　遺構290（溝）下層　遺物実測図　（S＝1/4）

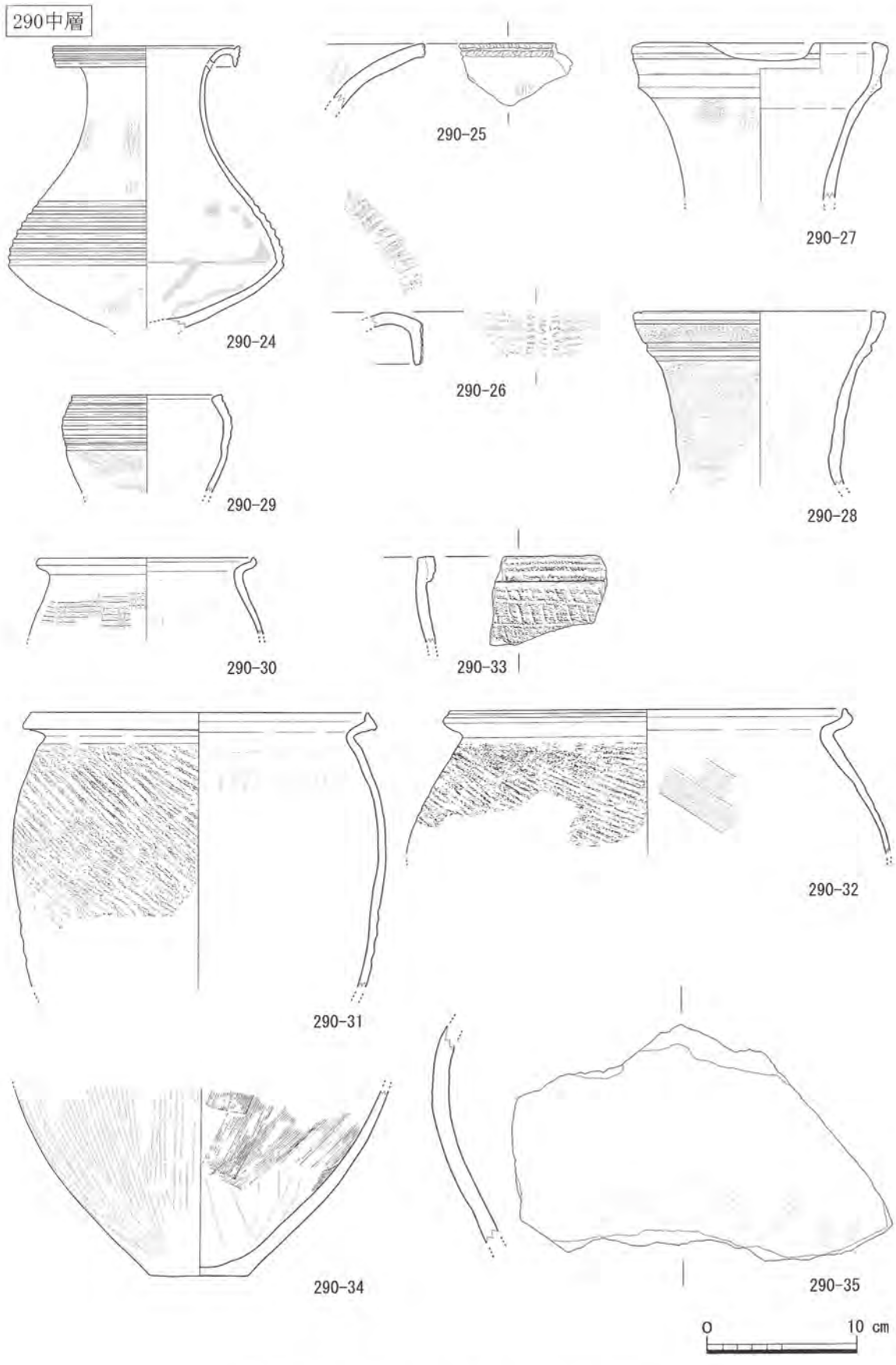


図49　遺構290（溝）中層　遺物実測図　（S＝1/4）

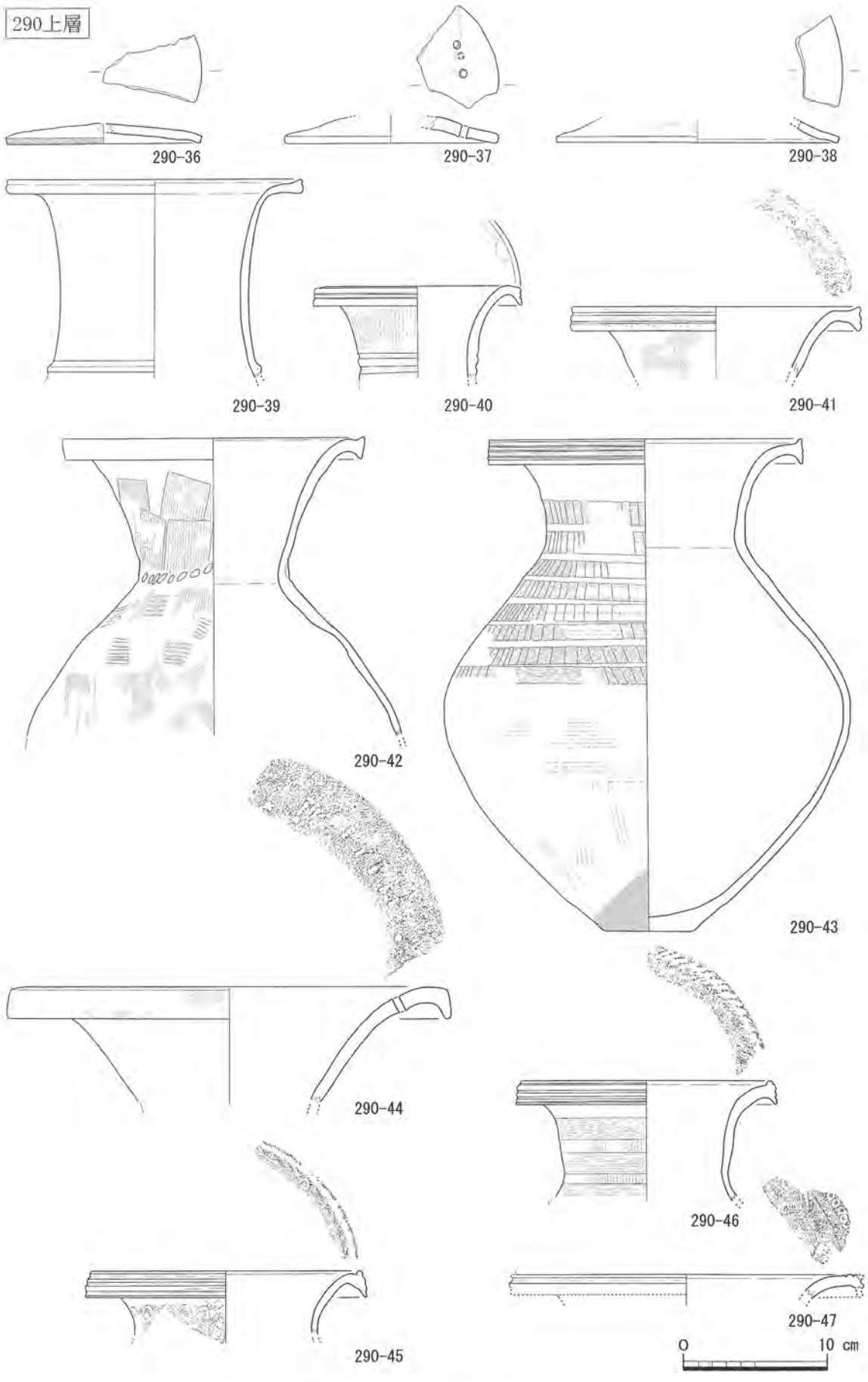


図50　遺構290（溝）上層　遺物実測図１　（S＝1/4）

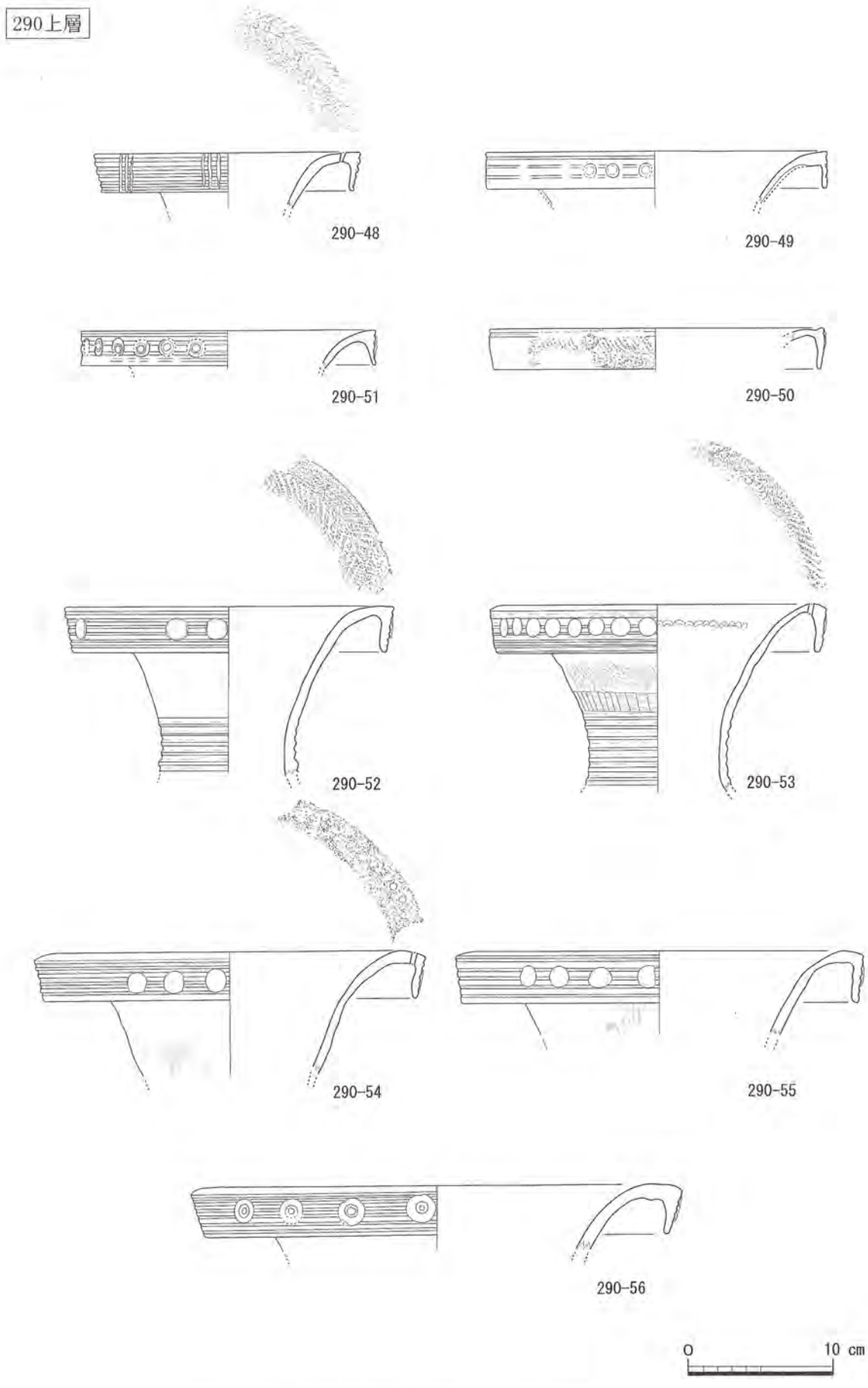


図51　遺構290（溝）上層　遺物実測図２　（S＝1/4）

290上層

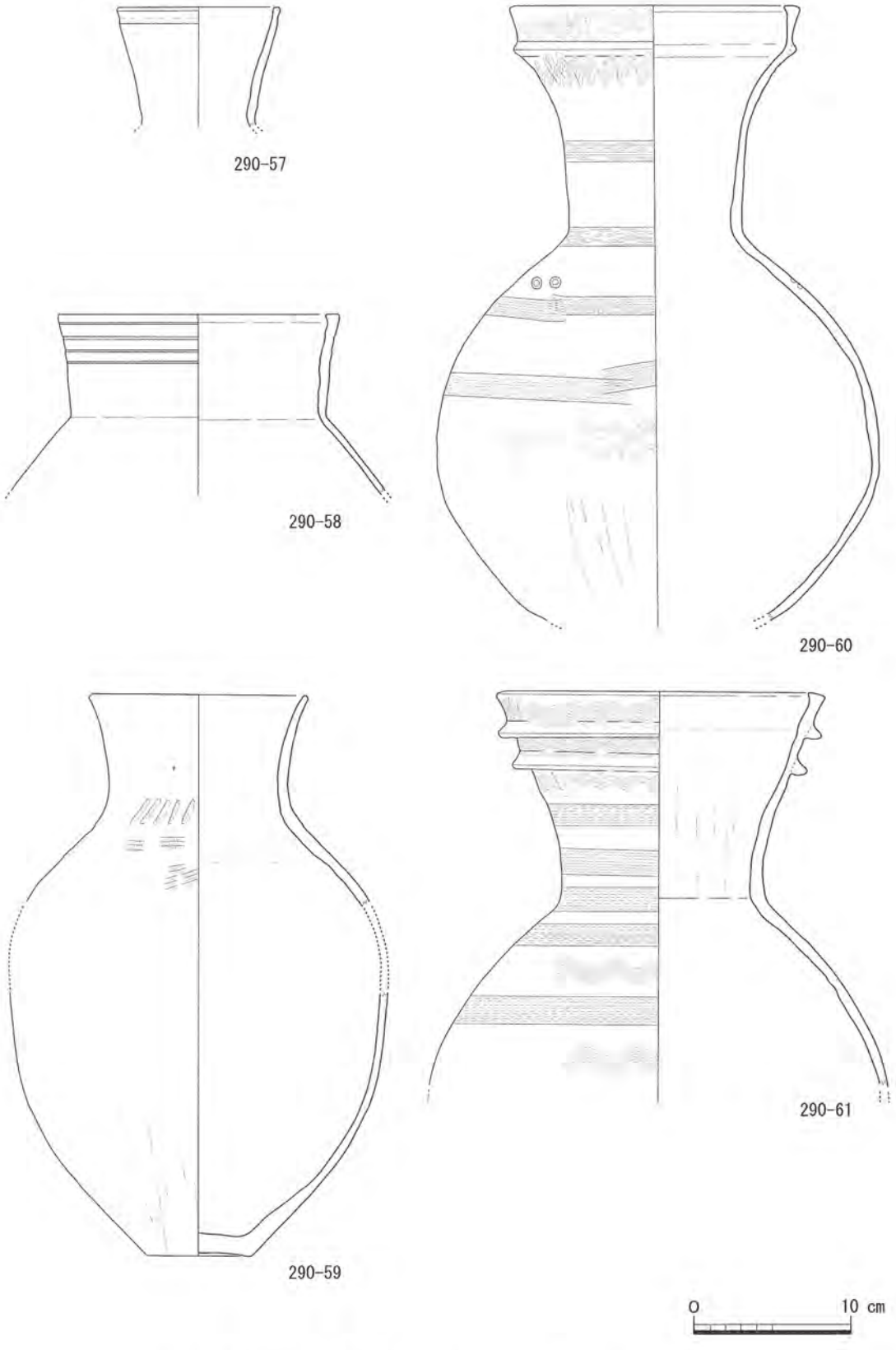
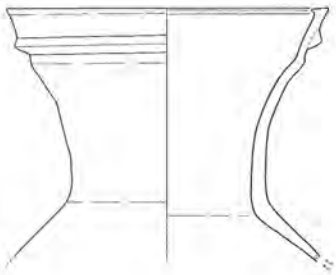
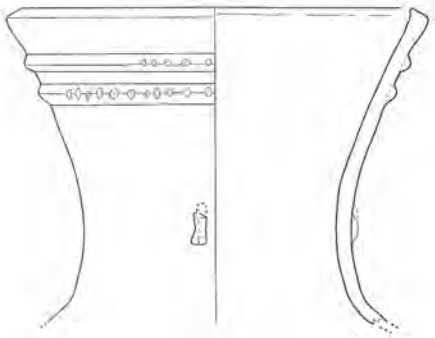


図52　遺構290（溝）上層　遺物実測図３　（S＝1/4）

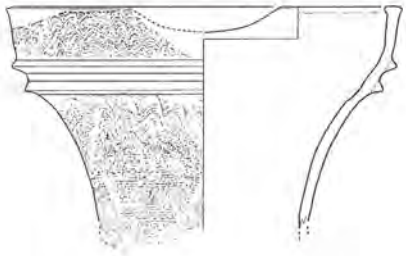
290上層



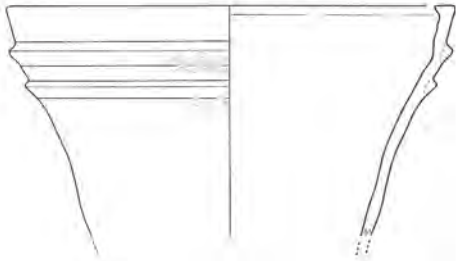
290-62



290-63



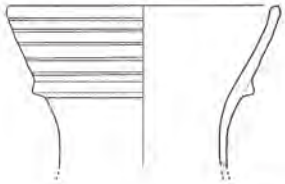
290-64



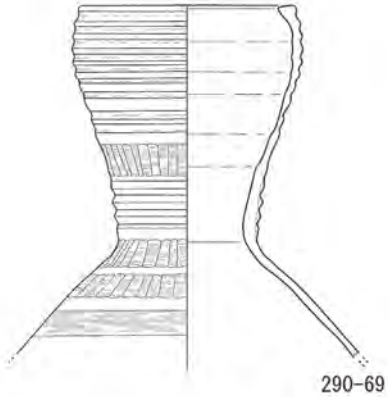
290-65



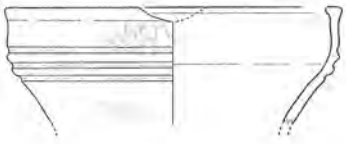
290-66



290-67



290-69



290-68



290-70



図53　遺構290（溝）上層　遺物実測図４　（S＝1/4）

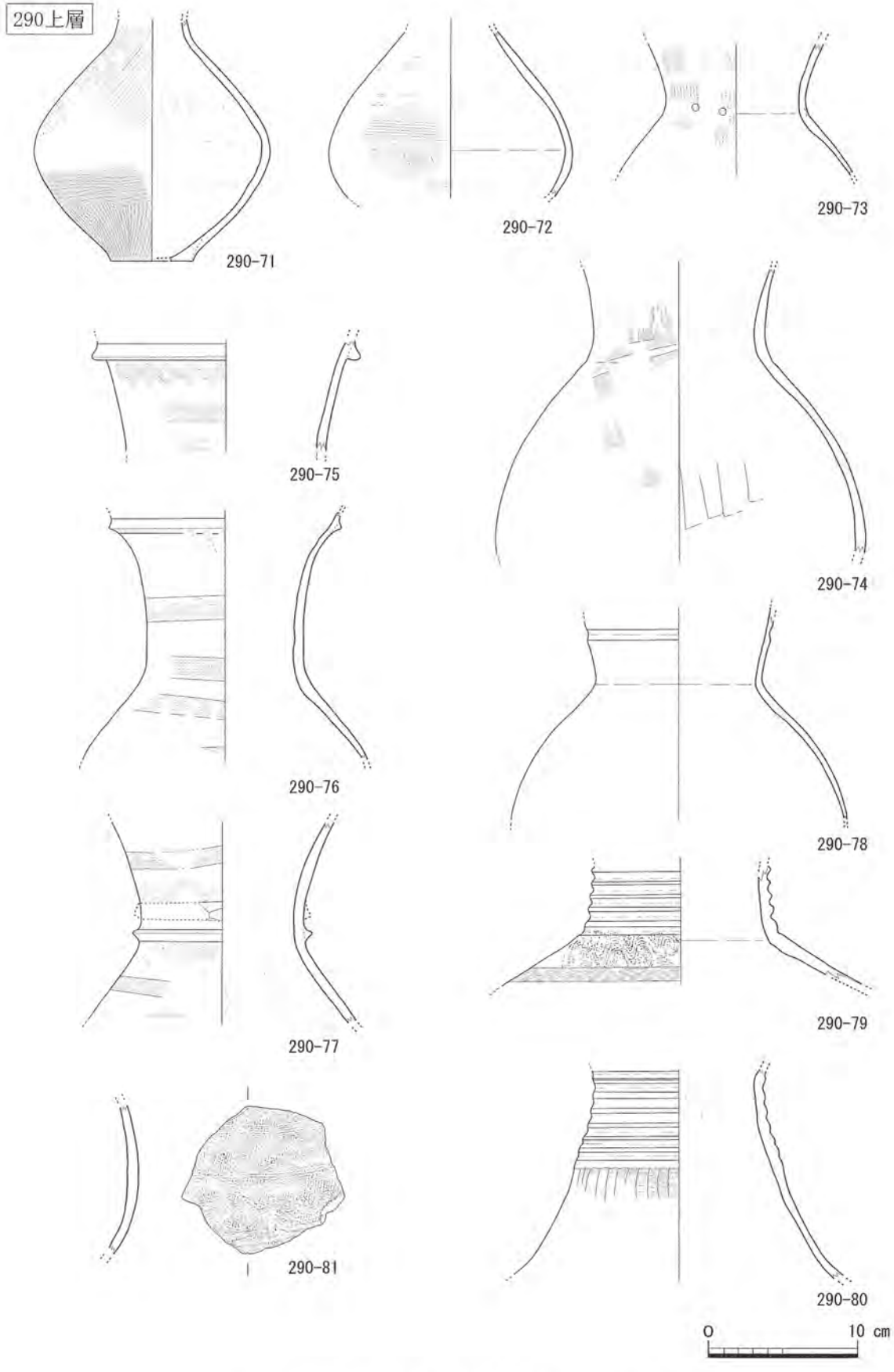


図54　遺構290（溝）上層　遺物実測図５　（S＝1/4）

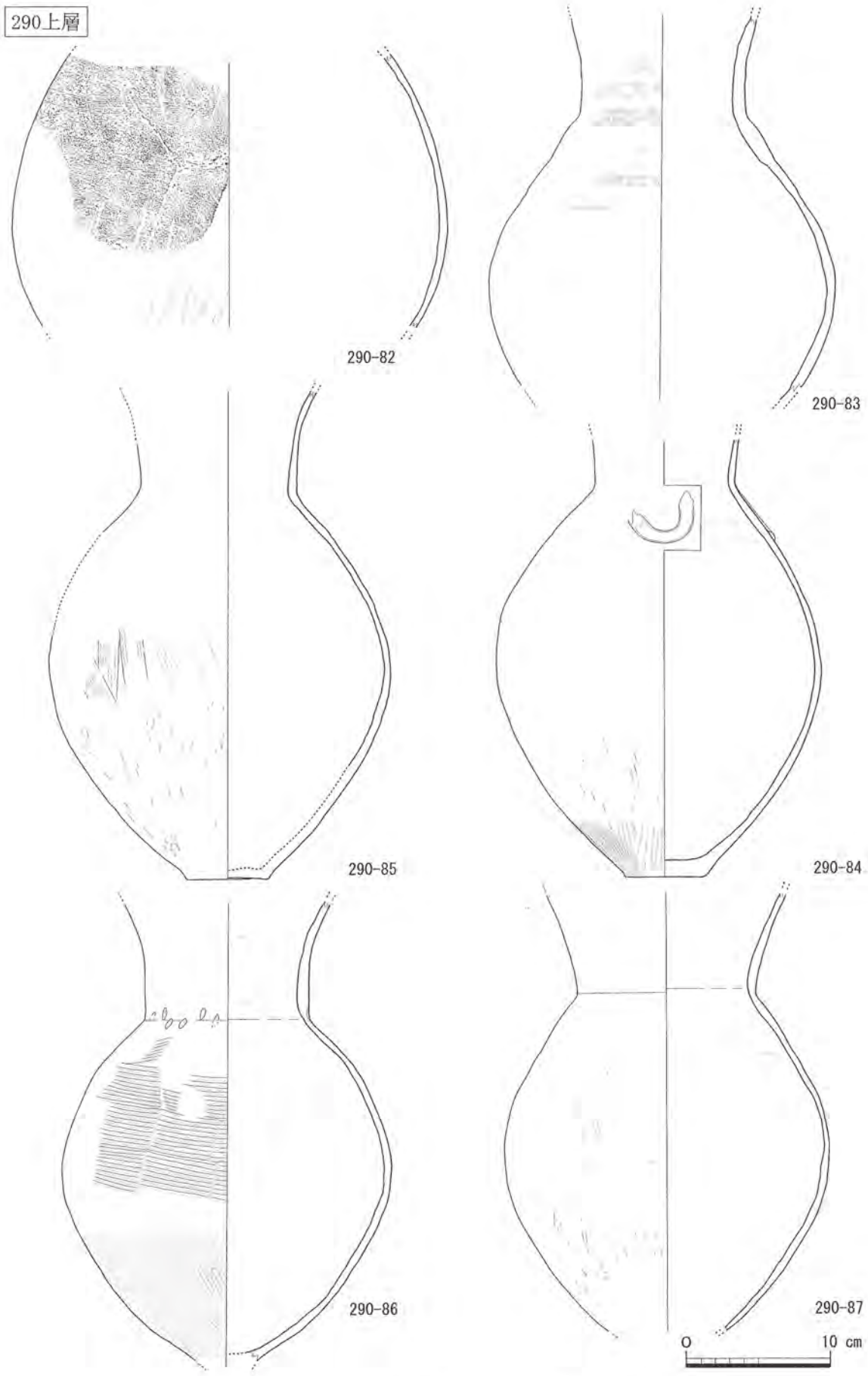


図55　遺構290（溝）上層　遺物実測図６　（S＝1/4）

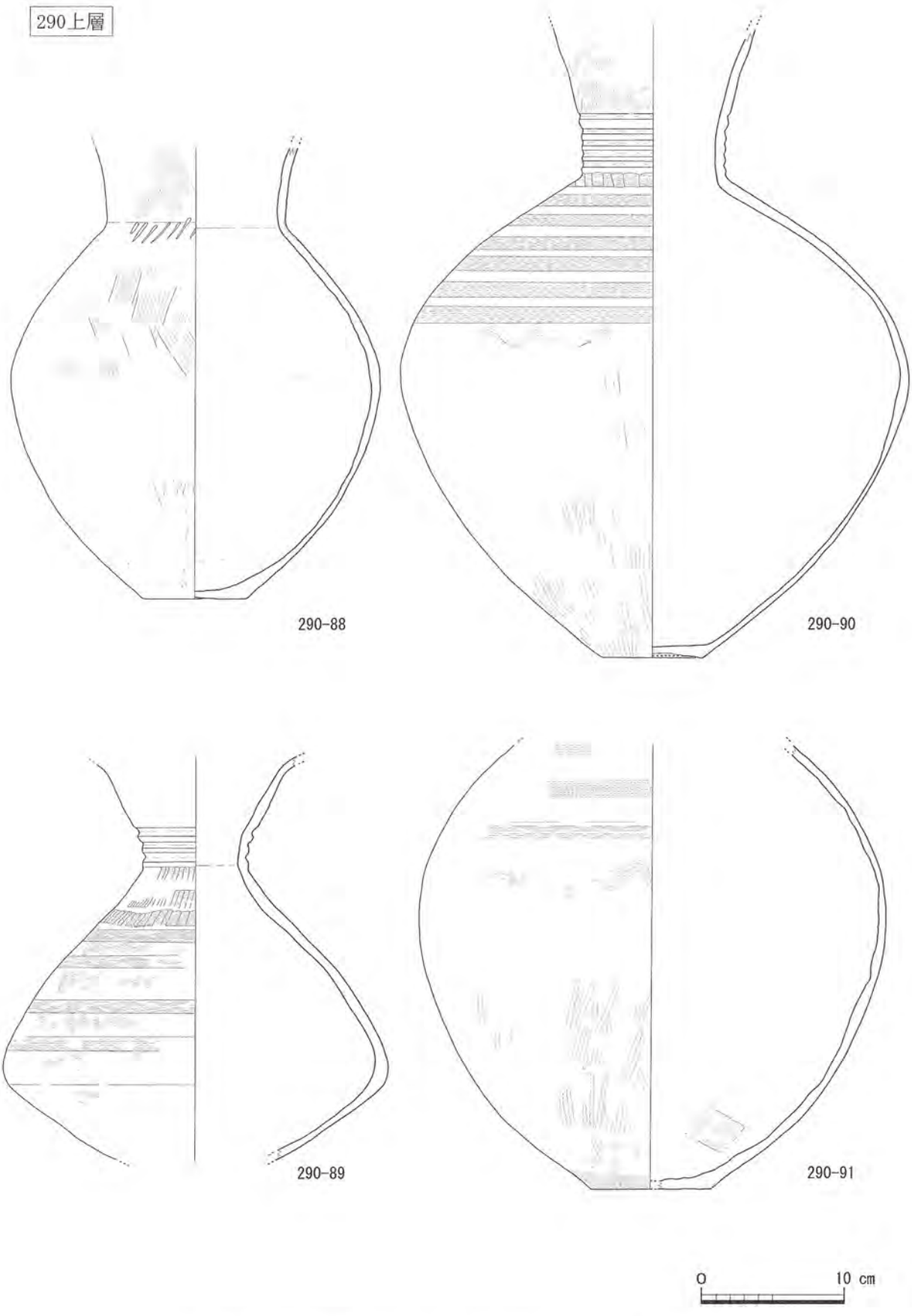


図56　遺構290（溝）上層　遺物実測図７　（S＝1/4）

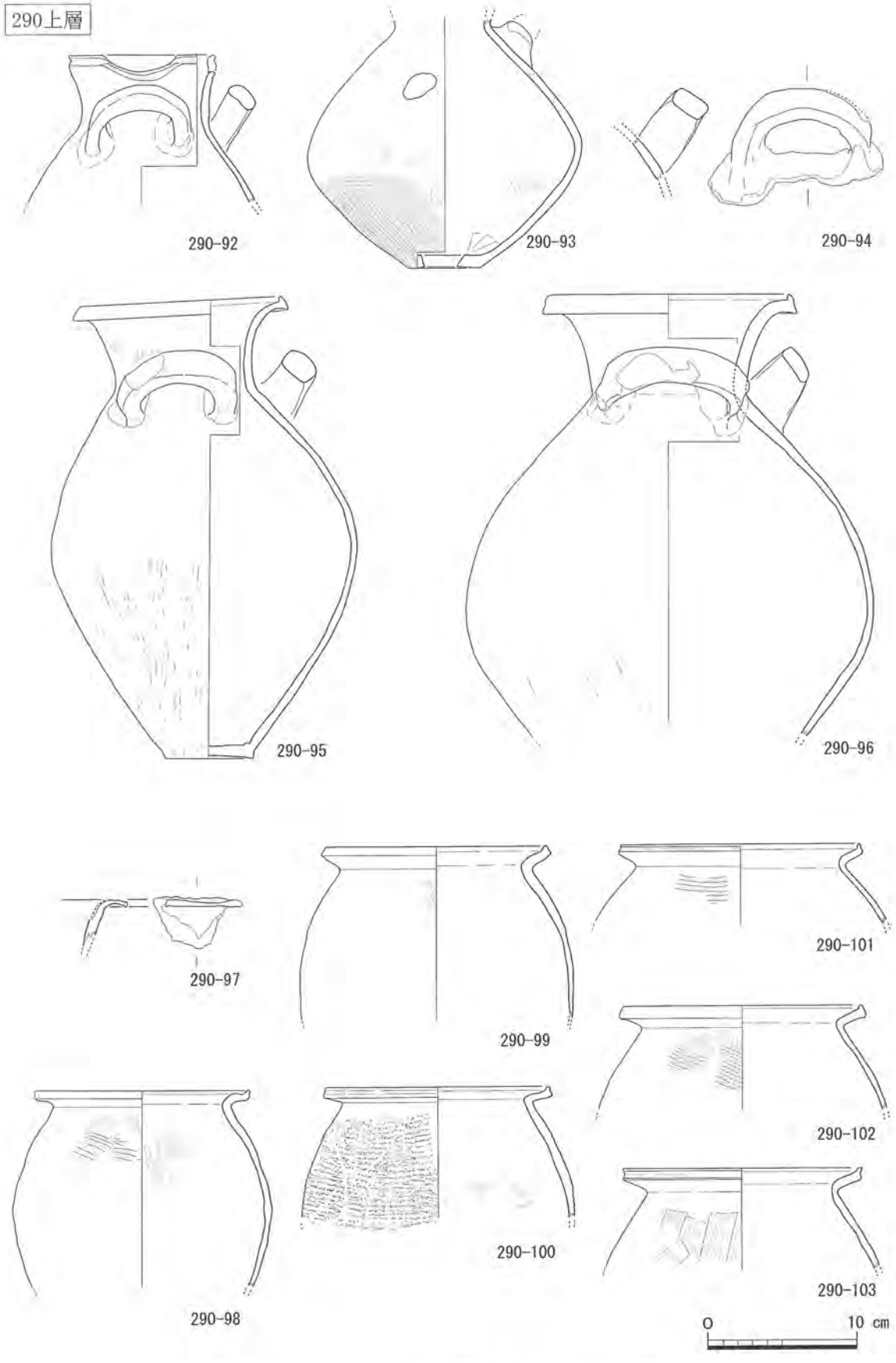


図57　遺構290（溝）上層　遺物実測図８　（S＝1/4）

290上層

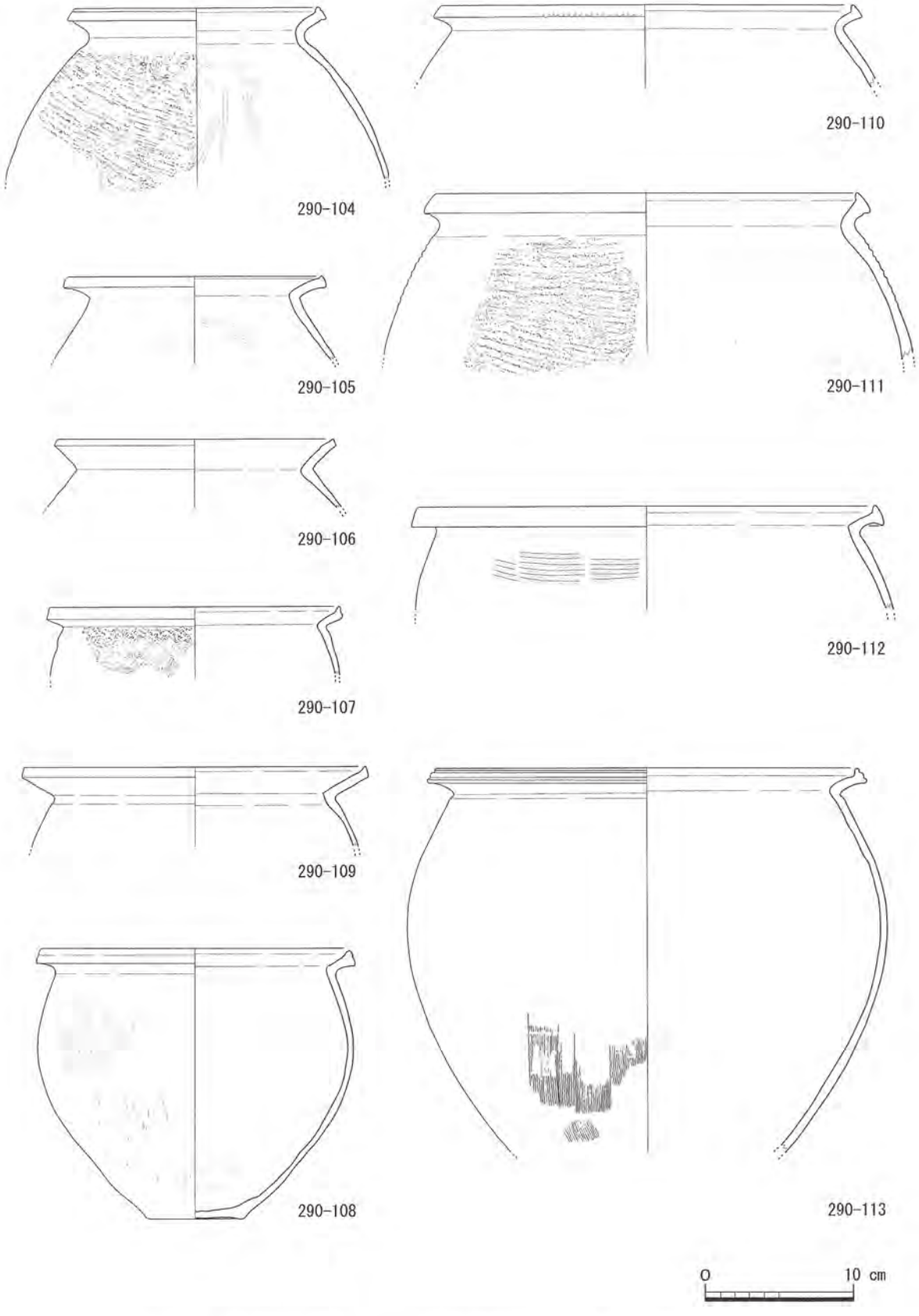


図58　遺構290（溝）上層　遺物実測図９　（S＝1/4）

290上層

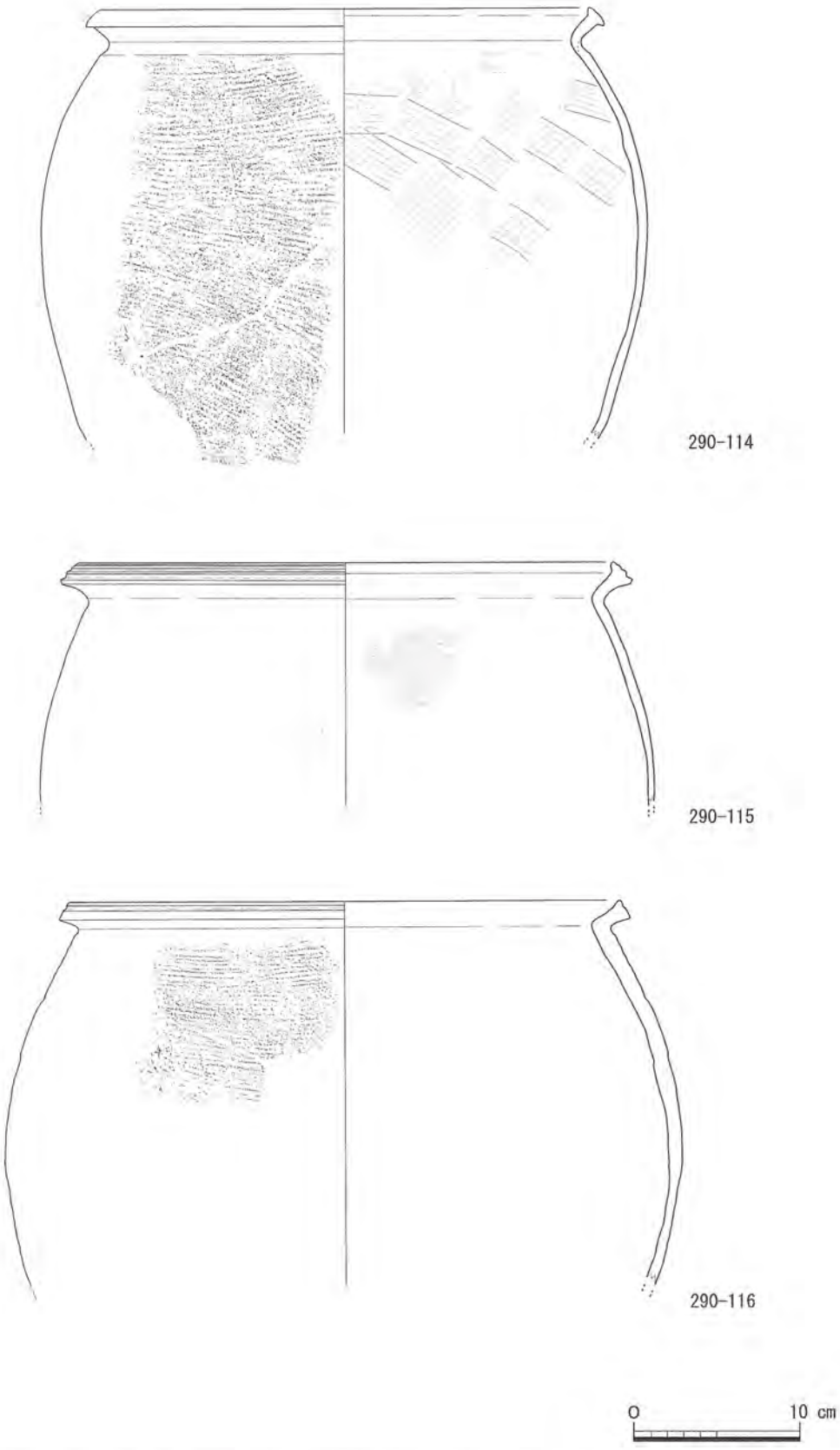


図59　遺構290（溝）上層　遺物実測図10　（S＝1/4）

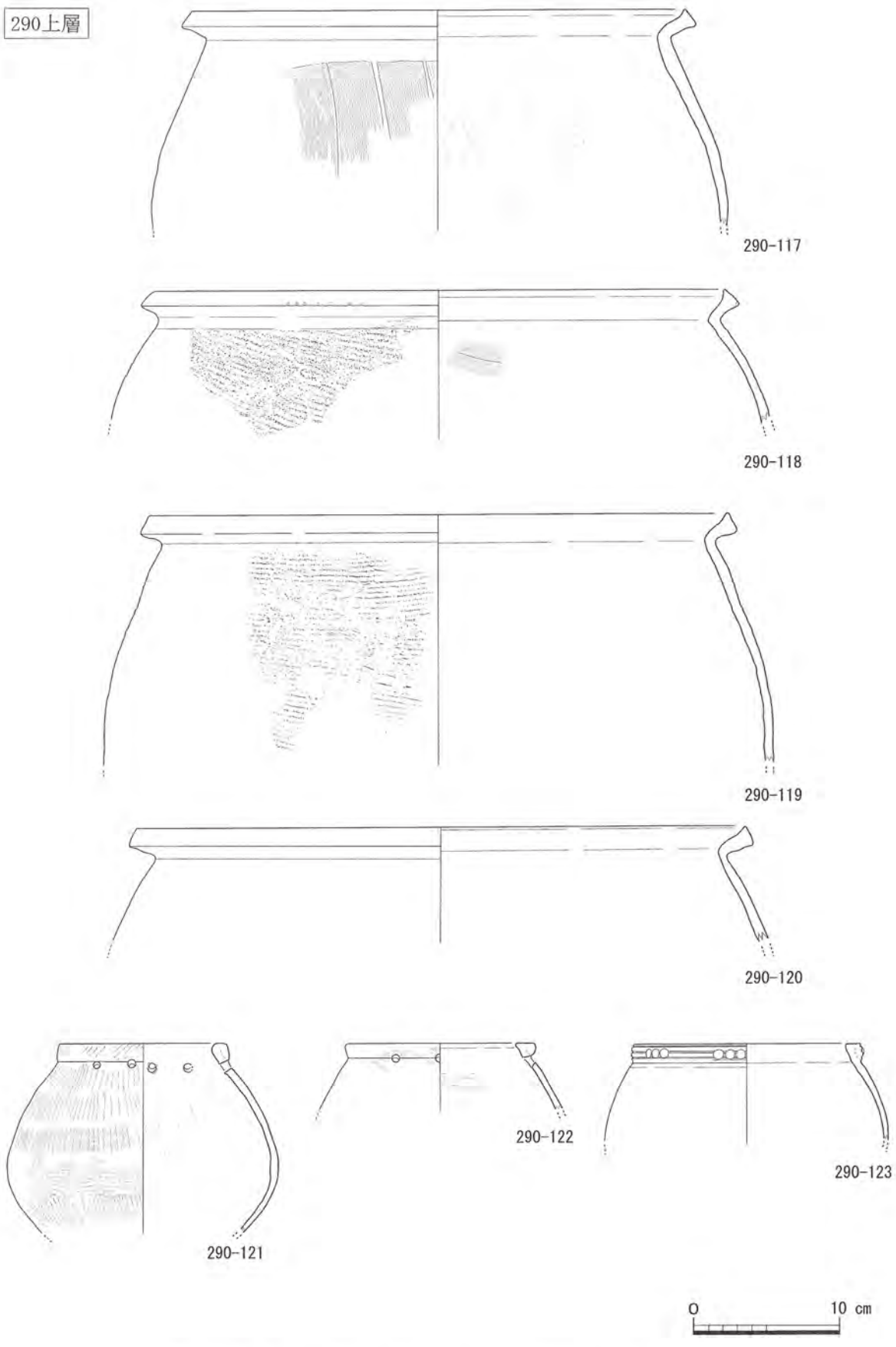


図60　遺構290（溝）上層　遺物実測図11　（S＝1/4）

290上層

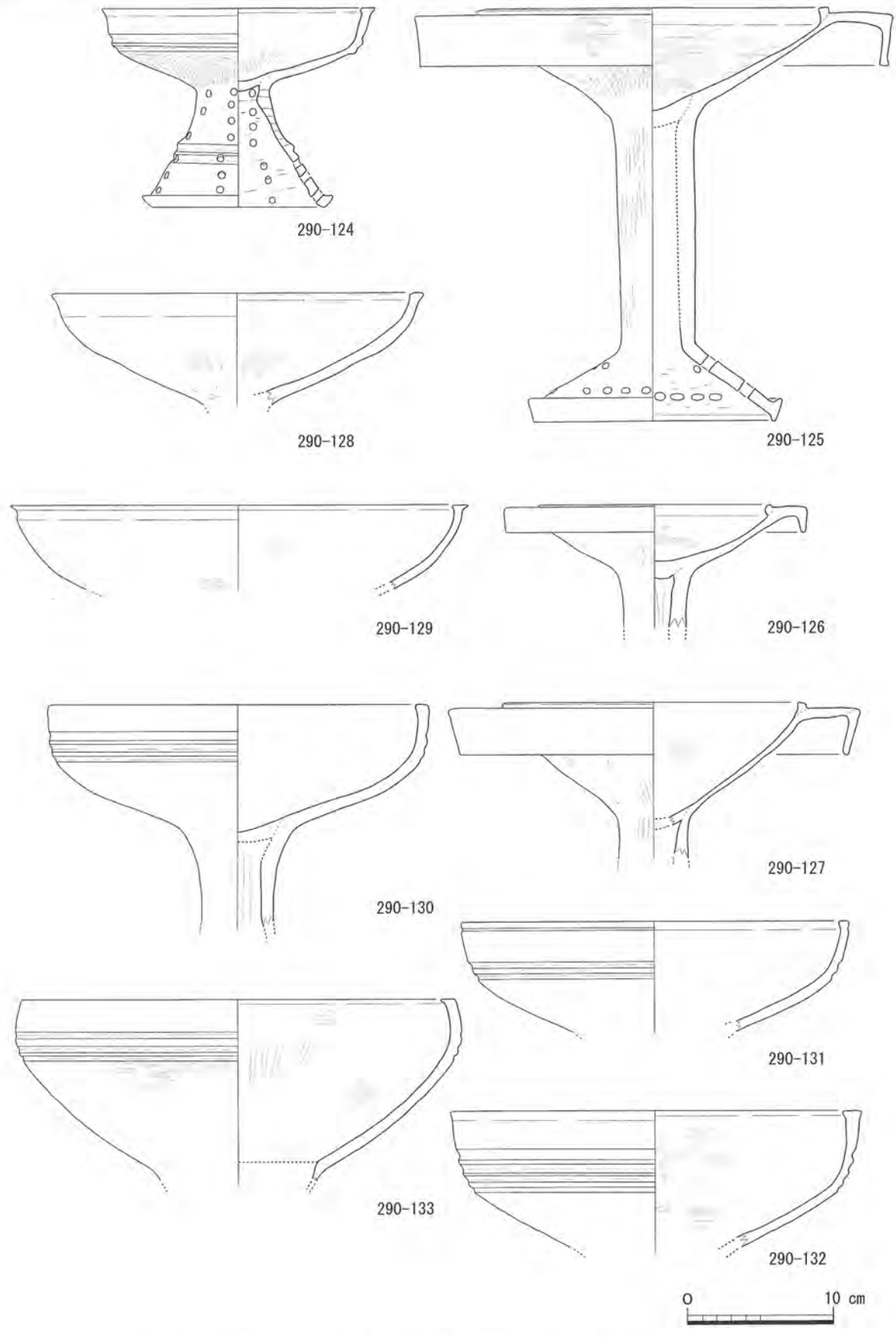


図61　遺構290（溝）上層　遺物実測図12　（S＝1/4）

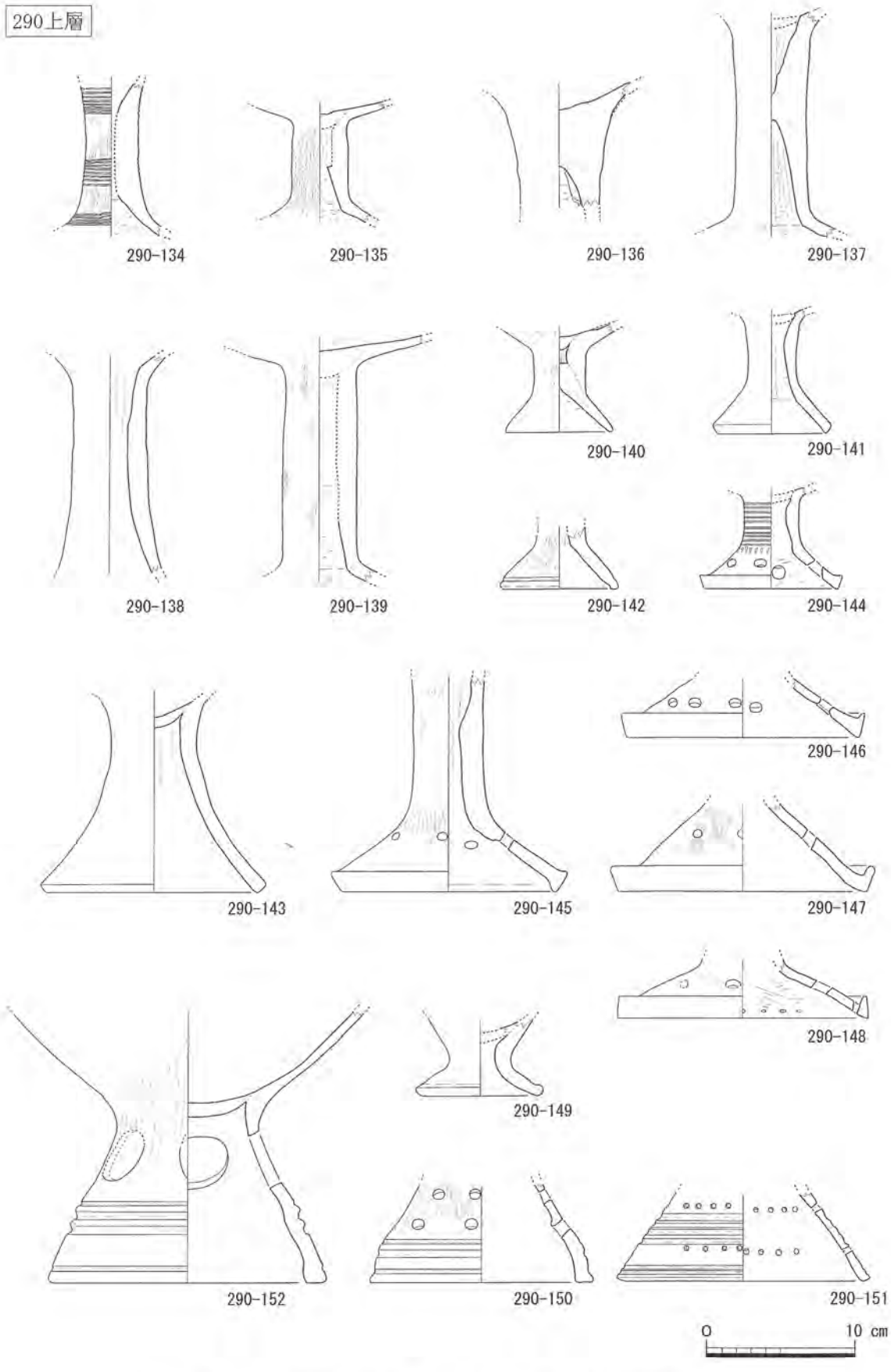


図62　遺構290（溝）上層　遺物実測図13　（S＝1/4）

290上層

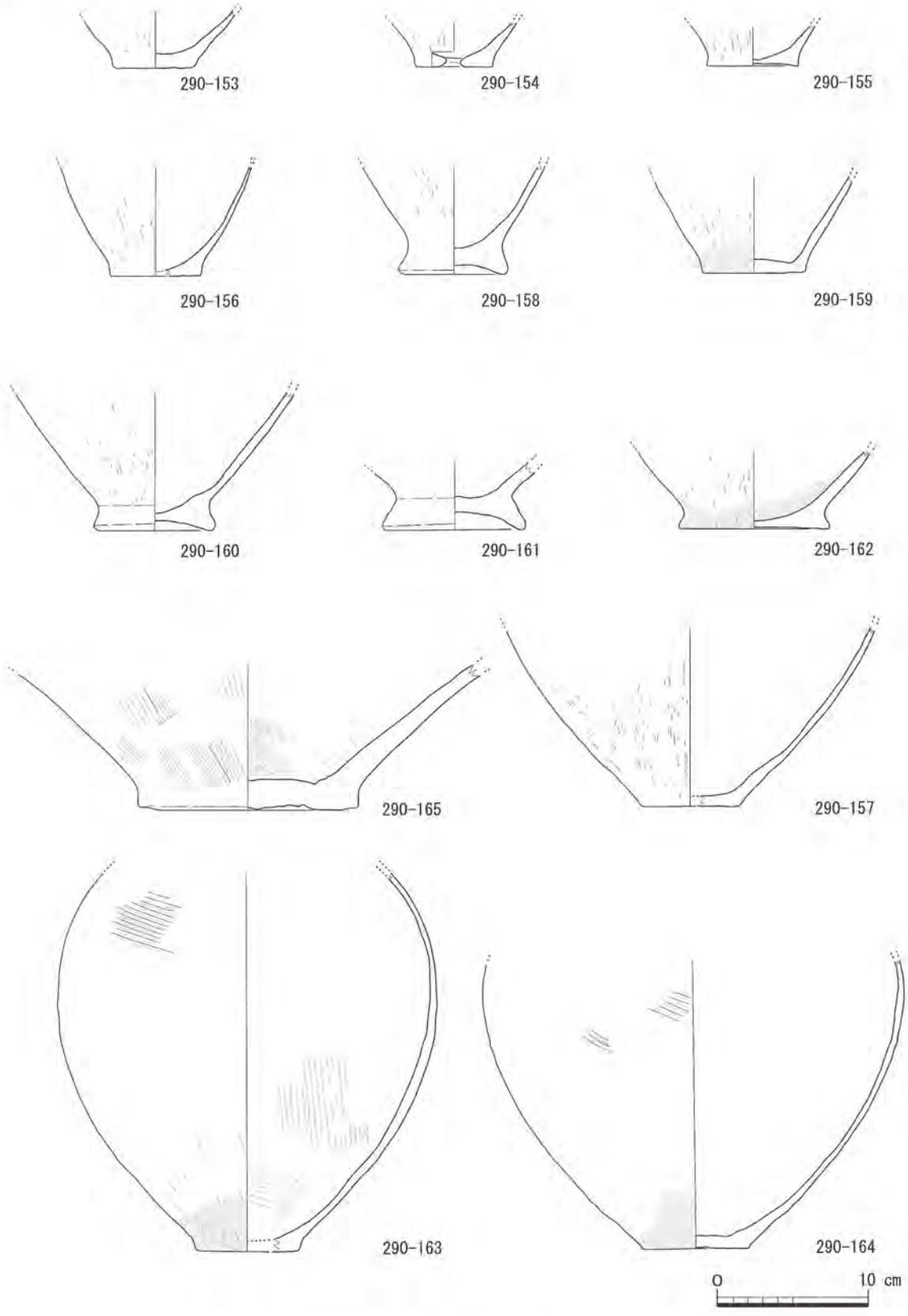


図63　遺構290（溝）上層　遺物実測図14　（S＝1/4）

290・291上層

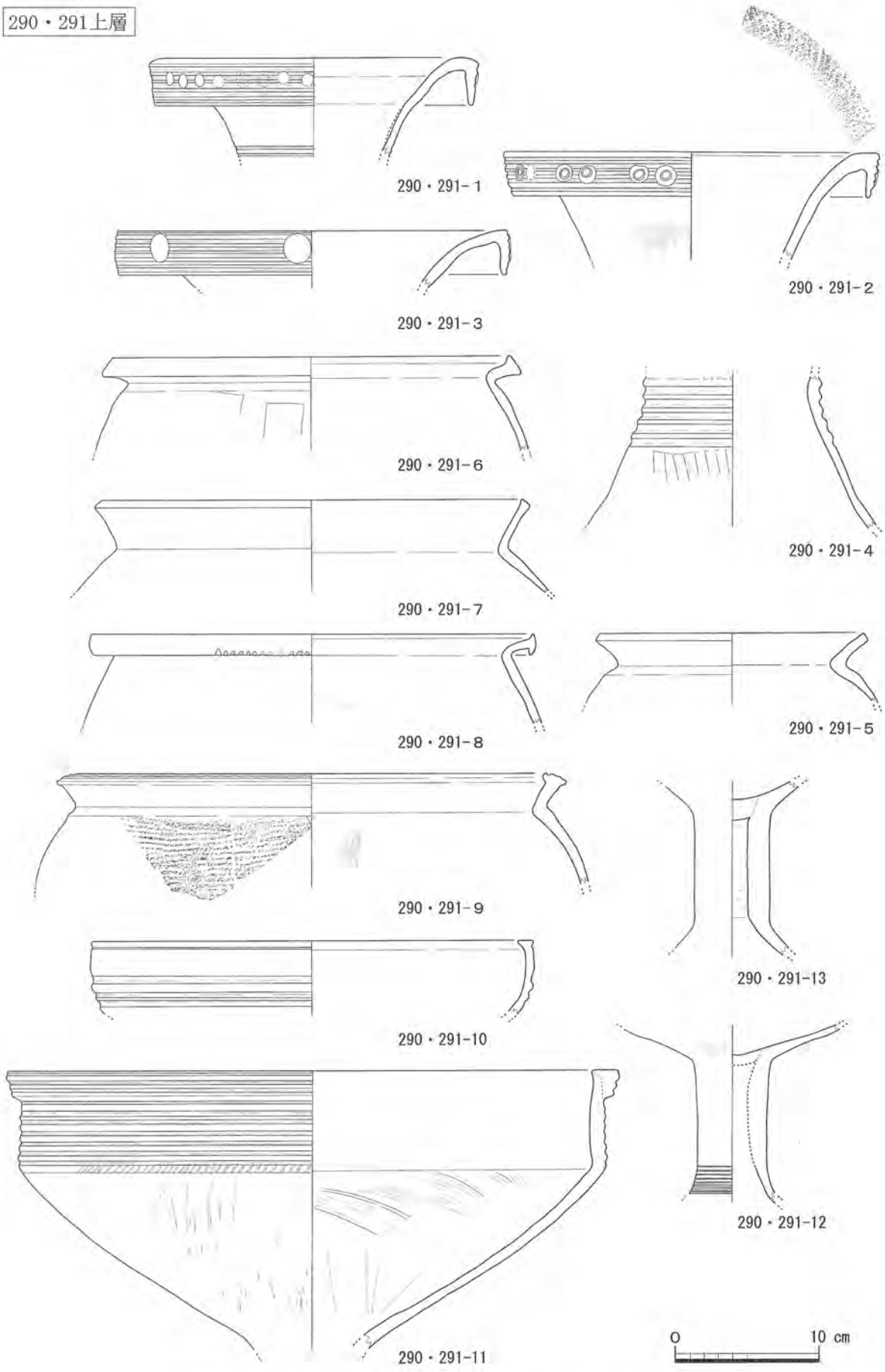
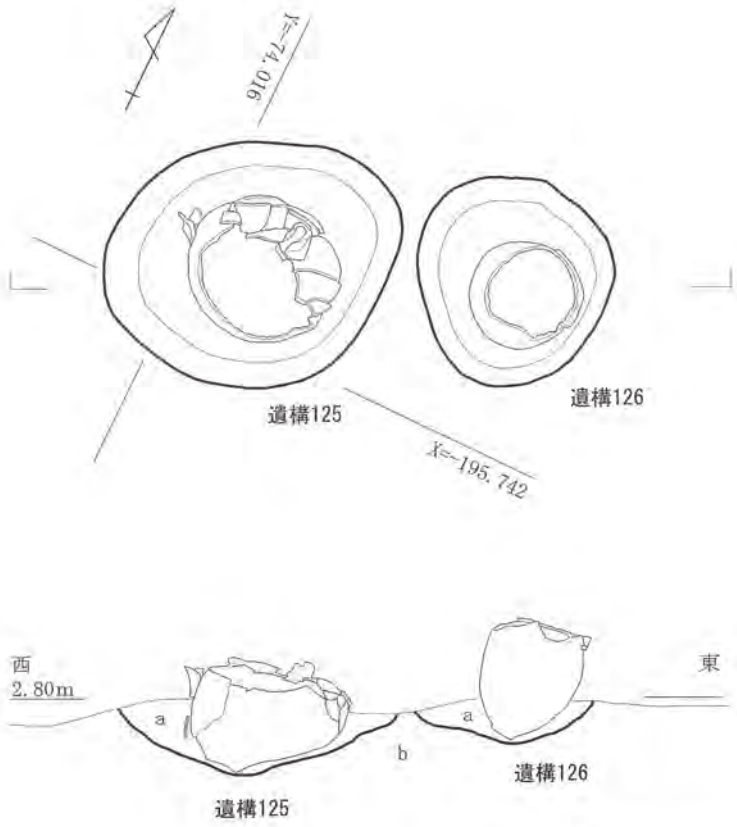


図64　遺構290・291（溝）上層　遺物実測図　（S＝1/4）



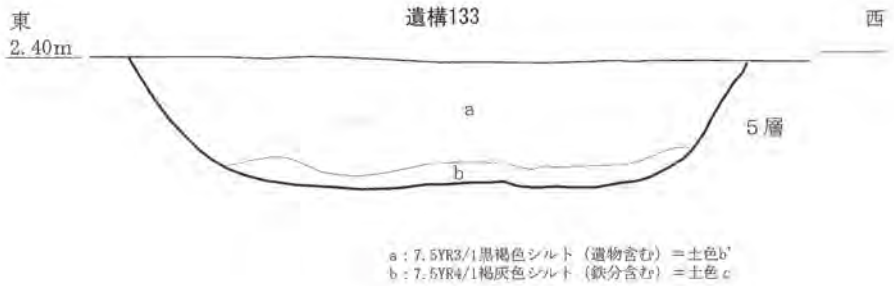




図65　遺構125・126（土器棺）平面図・断面図、遺構133（土坑）断面図　（S＝1/20）

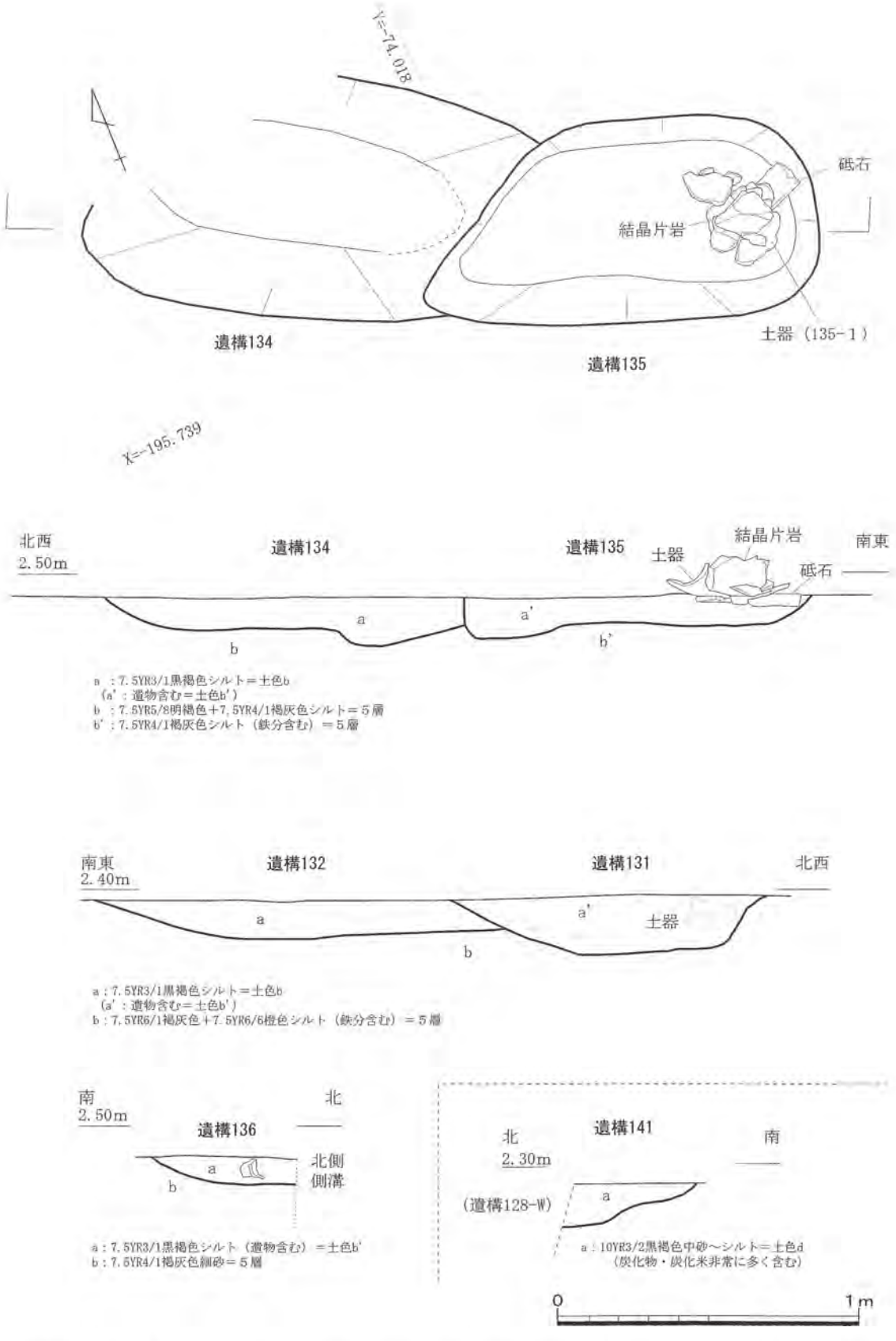


図66　A区北東部　遺構（遺構131・132・134～136／141）平面図・断面図　（S＝1/20）

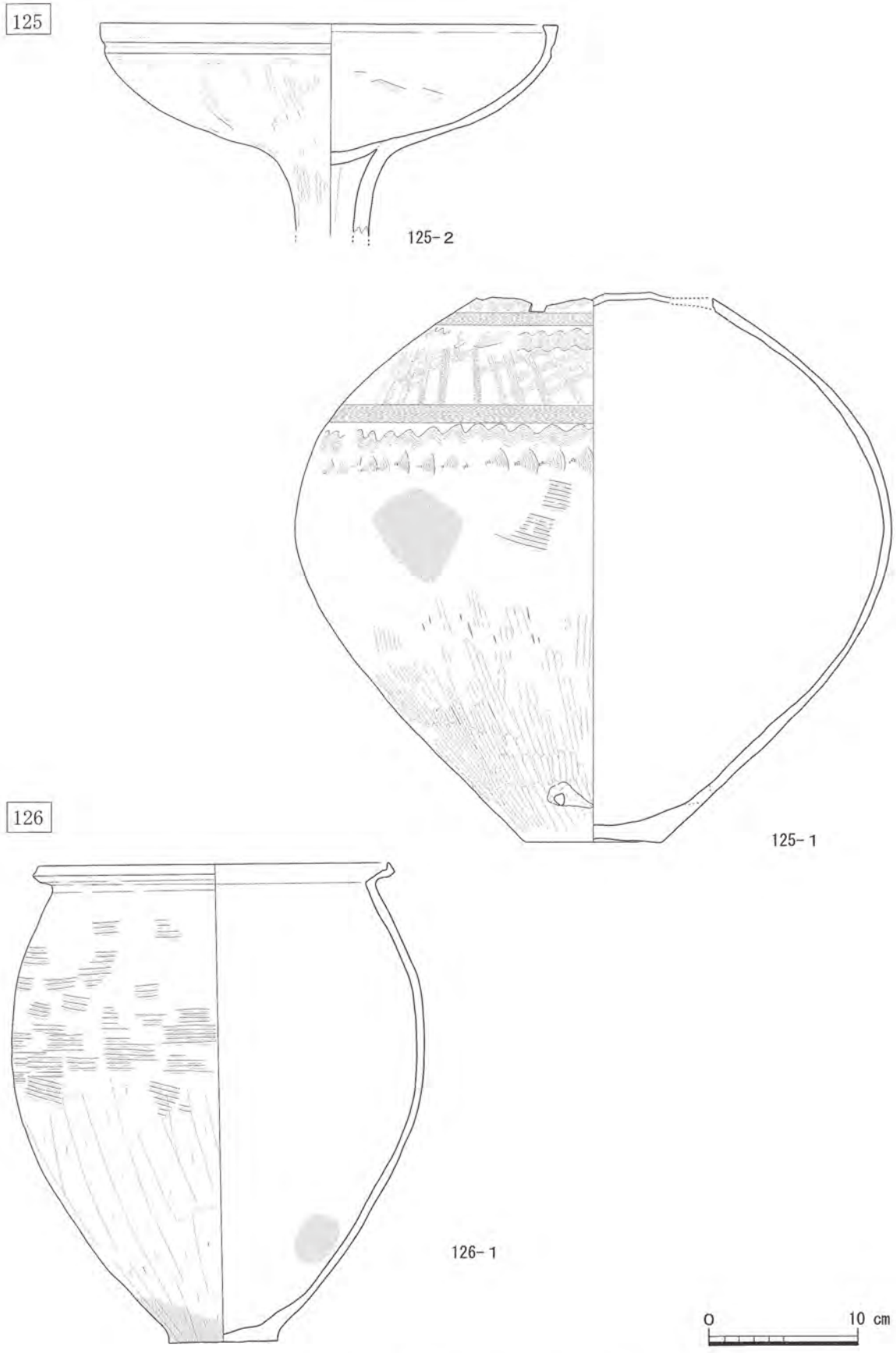


図67　遺構125・126（土器棺）　遺物実測図　（S＝1/4）

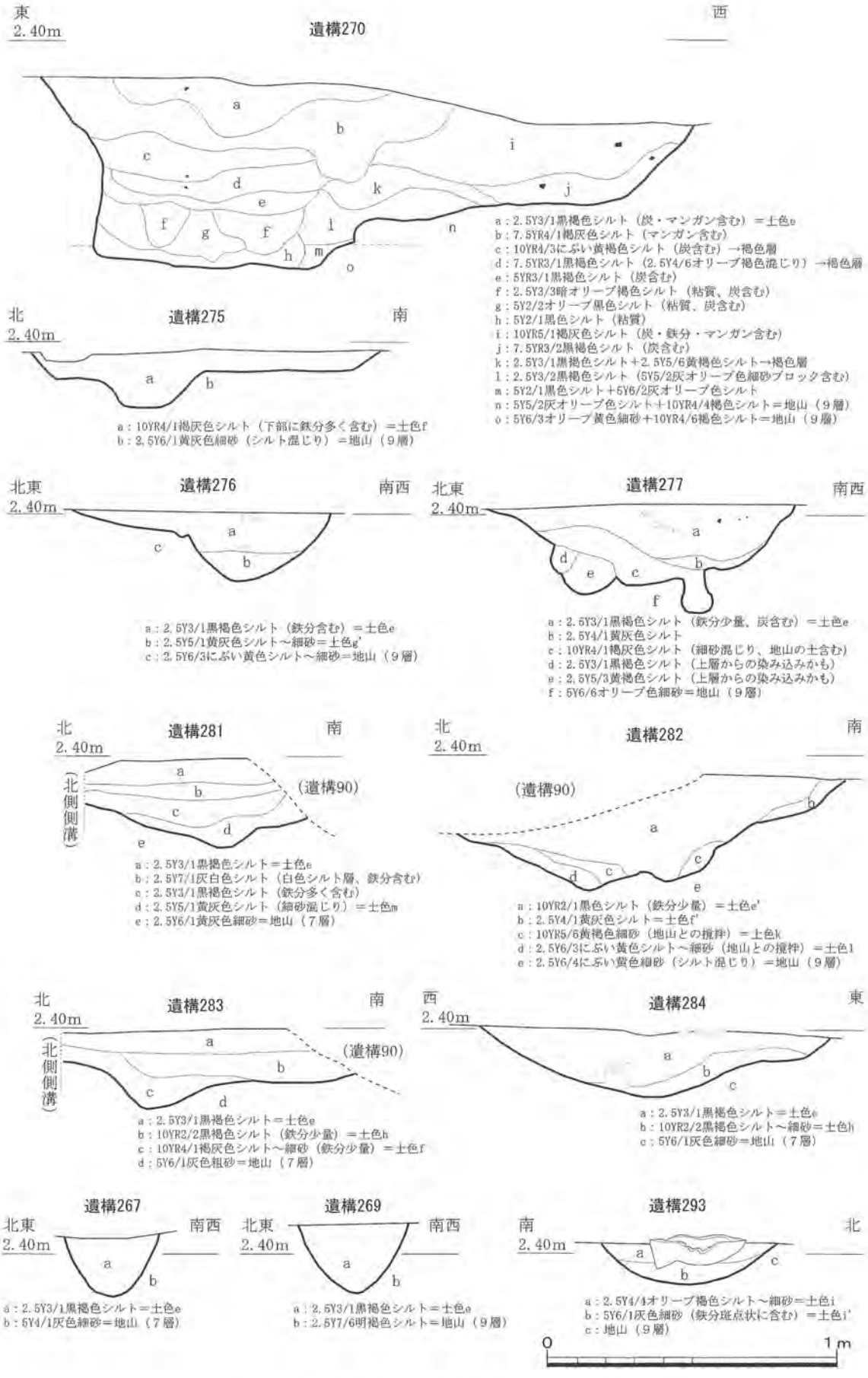
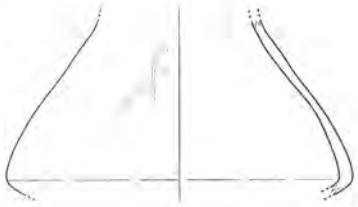


図68　4層上面遺構（土坑）断面図　（S＝1/20）

280



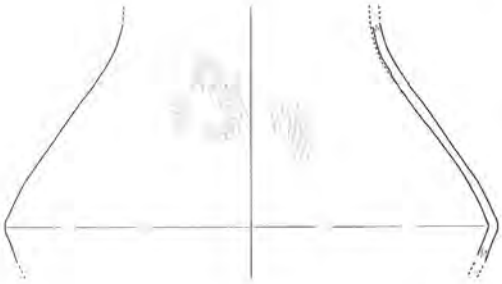
280-1



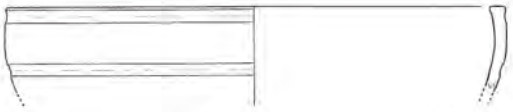
280-3



280-6



280-2

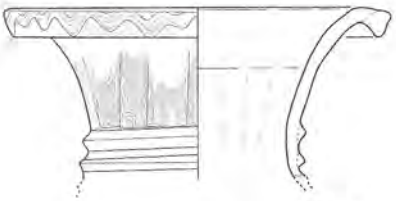


280-4

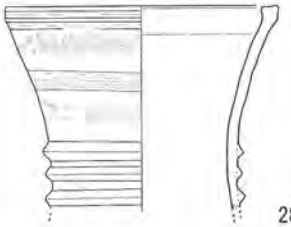


280-5

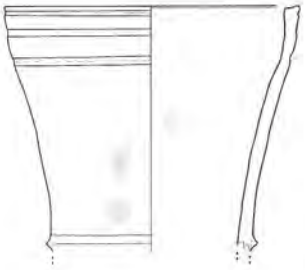
289



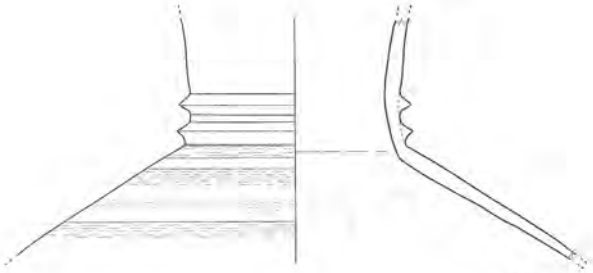
289-1



289-2



289-3



289-4

368

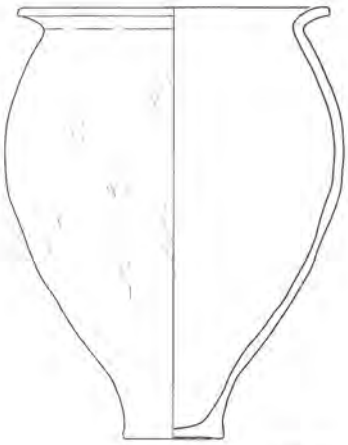


368-1



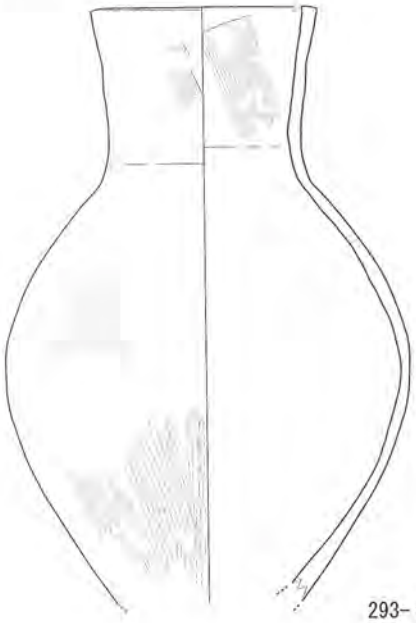
図69　遺構280・289・368（溝状土坑）　遺物実測図　（S＝1/4）

135



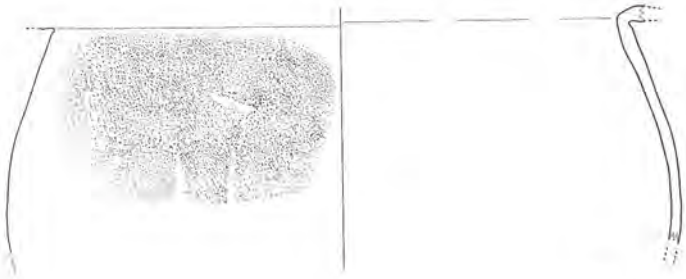
135-1

293

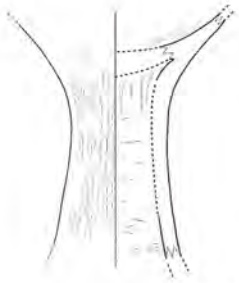


293-1

284



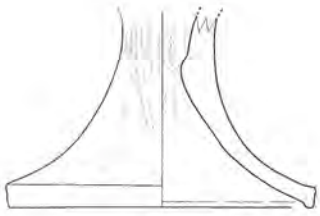
284-1



284-2



284-4



284-3

0 10 cm

図70　遺構135・284・293（土器棺・土坑）　遺物実測図　（S＝1/4）

第４節　弥生時代の遺構と遺物②（４層下面遺構面）

１．４層下面遺構　＜図 71＞

Ａ区調査中、４層は単一層として認識していたが、Ｂ区の調査では４層を上部と下部にわけることができた。もともとＡ区側には４層下部はほとんど残存しておらず、Ｂ区でも全面に残存している層ではなかった。Ｂ区東壁付近では４層下部だけでなく、４層上部も残っていなかった。そのためＢ区では、４層下面遺構は４層上面遺構を調査後に地山まで掘り下げて検出した。断面観察の結果、４層下部を切り込む遺構が確認できたが、すべてが４層下部上面を切り込む遺構とは確認できないので、ここでは４層下面遺構と呼称することにした。Ａ区では４層上面遺構より下層で検出した遺構（谷状地形上層の４’層上面や５層上面で検出した遺構）があり、これらを４層下面遺構に含めて捉えることにした。Ａ区とＢ区の４層下面遺構は、土層断面上（層位的に）ほぼ同一面と捉えることに矛盾はない。４層下面遺構として、Ｂ区からＡ区東半で竪穴住居１棟をはじめ、土坑群を検出した。Ａ区西半は谷状地形が埋まった部分にあたり、井戸３基と溝１条以外はほとんど遺構は確認できない。谷状地形が埋まった場所は４層下面遺構が形成される時期までは居住などに適した環境ではなかったと推測できる。また井戸より東側で竪穴住居１棟や土坑群が多数検出されることから、この周辺に居住域が広がっていたと想定できる。遺構の時期は弥生時代中期中葉を中心とし、一部は埋没時期が中期後葉に下る可能性もある。

２．井戸

遺構 140－Ｓ・140－Ｎ（井戸）　Ａ区中央部で検出した井戸で、２つの円形の井戸が重なっていて、北側の井戸が埋められた後に南側に井戸が作られている。北側を遺構 140－Ｎ、南側を遺構 140－Ｓと呼称する（図 72）。それぞれ直径は約 2.0m、深さ約 1.2mをはかり、井戸の下部は湧水層（砂層＝７層）まで達している（図 73・74）。遺構 140－Ｎは素掘りの井戸と考えられるが、最下層で杭（図 113　Ｍ３）が横たわった状態で出土した。遺構 140－Ｓは円形に木質痕跡が残り、径約 0.6～0.7mの木製の井戸枠が用いられていたことがわかった。井戸枠下部には結晶片岩の板石３枚が敷かれていた。木枠内からは完形の弥生土器が数個体出土しており、井戸使用時あるいは使用後における井戸の祭祀に関わる可能性がある。出土遺物から両遺構とも弥生時代中期中葉の後半～中期後葉の前半に位置付けられる（図 77～80）。遺構 140－Ｎと遺構 140－Ｓの土器には大きな時期差は認めにくい。また遺構 140－Ｓ掘形と井戸枠内の土器にも時期差はそれほど認められない。なお、調査中の断面観察では遺構 140－Ｎが後述する遺構 145（溝）に切られていると判断したが（図 74）、出土遺物からは遺構 145 の方が古い傾向にあり、土器編年上の問題か溝の掘り直しや溝上層の堆積状況など断面観察の認識の問題かなど再検討する必要がある。

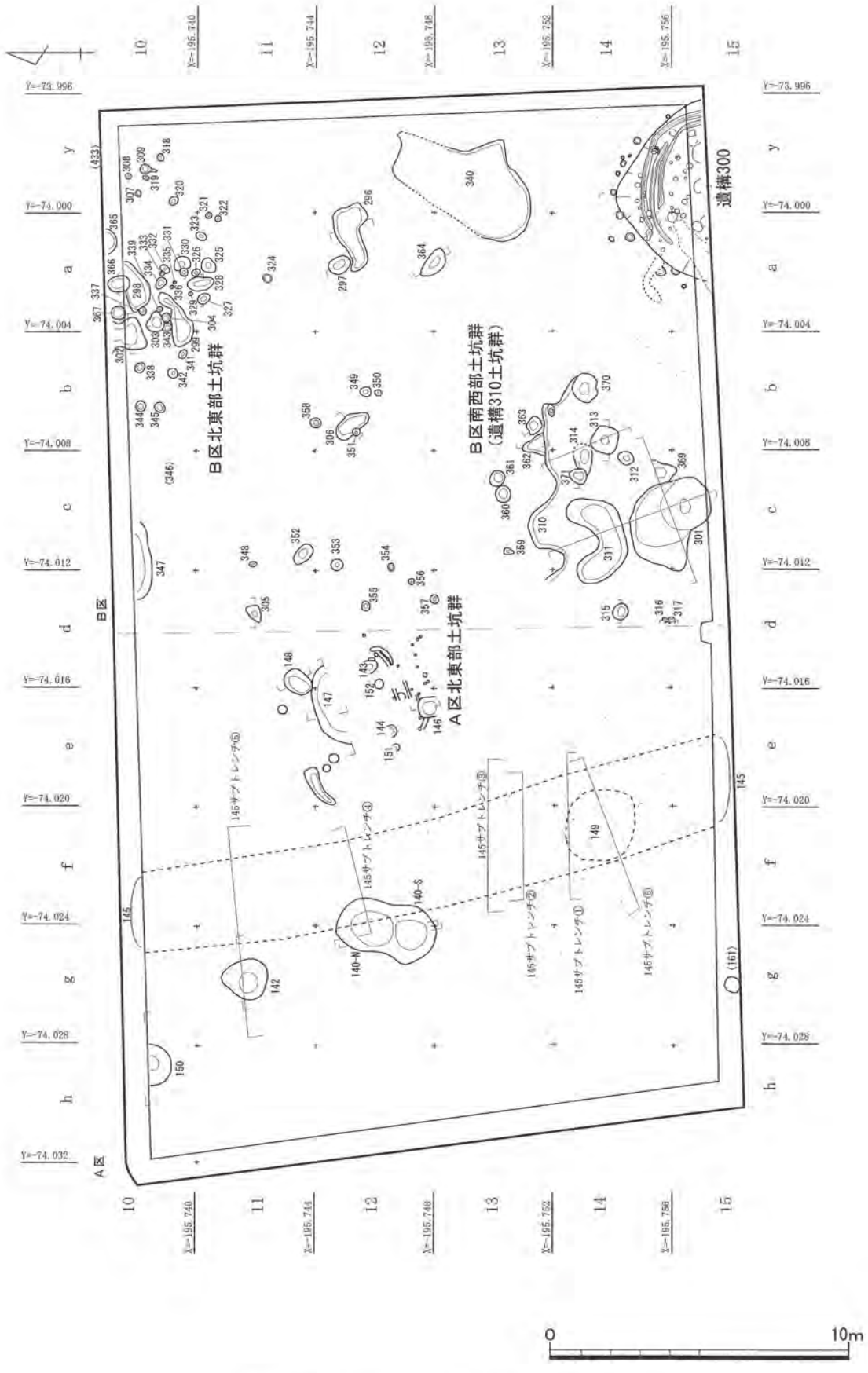


図71　４層下面遺構全体平面図　（S＝1/200）

遺構 142（井戸）　遺構 140－Nの北側で検出した直径約 1.6m、深さ約 1.4mをはかる素掘りの円形井戸で、下層は砂層（7層）に達していて湧水がある（図 75)。湧水があるため下部の壁際が抉れた状態になっている。遺構 145（溝）埋没後に溝埋土を切り込んで掘削している。出土遺物は少ないが弥生時代中期中葉の所産であろう（図 80)。

遺構 150（井戸）　遺構 142（井戸）の北側で検出した直径約 1.4m、深さ約 1.2mの素掘りの円形井戸で、下層は湧水層の砂層（7層）を掘り込んでいる（図 76)。出土遺物の時期は弥生時代中期中葉と考えられ、遺構 140－N・Sや遺構 142 の井戸より若干古い可能性がある（図 81)。

A区で検出した 4 基の井戸は谷状地形の埋土上に作られていて、井戸の下部は砂層（7層）を掘り込んで湧水を得ている。いずれも弥生時代中期中葉を中心とする時期の井戸で、遺構 150→遺構 142→遺構 140－N→遺構 140－Sの順番に造られた可能性がある。ただし遺構 142 は時期のわかる出土遺物が少ない。遺構 150 は後述する遺構 300（竪穴住居）と同時期に形成された遺構と考えられる。

3．溝・土器溜まり

遺構 145（溝）　谷状地形が埋没した後に、谷状地形とほぼ同じ方向で遺構 145（溝）が形成されている。幅が広く肩部の立ち上がりが緩やかなことから、谷状地形埋没過程で残された自然流路の可能性もあるが、土層断面観察で谷状地形埋土を切り込む状況を確認し、人為的な遺構と判断した（図 82～84、図 104 東西トレンチ、図 7・9 土層図)。谷状地形が埋まった跡の排水を目的とした溝であろう。出土遺物から弥生時代中期中葉の遺構と考えられる（図 87)。溝の最下層で土器溜まり（遺構 149）を 1 箇所検出した。

遺構 149（土器溜まり）　遺構 145（溝）最下層で多量の土器を検出し、まとまりがあったので土器溜まりとして取り上げた（図 84・93)。出土遺物は弥生時代中期中葉の所産である（図 85～87)。

4．竪穴住居

遺構 300（竪穴住居）　B区南東端でおおよそ北半分だけ検出できた円形の竪穴住居で、検出した規模は東西約 7.0m、南北約 4.0m、深さは約 0.4mをはかる（図 88・89・90)。全体の半分未満の検出にとどまっているため本来の直径は 7 m以上になる。住居の埋土では炭化物と焼土を多量に含む層が確認でき、焼失して廃棄された住居と考えられる（図 88、図 10 土層図)。

住居内では北端付近に完形の壺や甕などの弥生土器（図 92　300-2～4）が出土しており、住居の壁部分に置いていた土器が転げ落ちた状態を示している可能性がある（図 88・89)。完形の土器が残されていることから、住居に居住している間に火災にあった可能性が高い。

住居の外側には外周をめぐっている小柱穴が数基ある。住居との関連が考えられ、いずれの小

柱穴も斜め方向ではなく垂直方向に打ち込まれている（図88・90）。

住居内床面では幅約0.15～0.20mの壁溝が3条検出でき、断面の観察から内側から外側へ新しくなっている状況を確認したことから、少なくとも2回住居が拡張されたと考えられる（図89・90）。住居中央部の遺構386は炭化物を含むことから炉の可能性がある（図10・90）。住居内では小土坑を複数検出しているが、そのうち遺構404・406・409など3～5基は住居に伴う柱穴の可能性がある（図10・91）。小土坑のうち埋土に炭化物・焼土を含むものは、壁溝を切り込むものがあり、竪穴住居焼失に伴う炭化物・焼土層堆積後に上層から打ち込まれた杭跡と推測する。

埋土下層の出土遺物から弥生時代中期中葉の前半代に焼失した住居と考えられ、上層の遺物から凹みの状態がしばらく続き最終的に弥生時代中期中葉の後半～中期後葉の前半までに埋没したと考えられる（図92）。住居北西部の炭化物・焼土層から小形の碧玉製管玉が1点出土している（図114　T1）。

5．土坑

A区北東部土坑群　A区北東部において5層上面（谷状地形埋土）で数基の土坑を検出した（図93）。東西トレンチで遺構143・151などを観察した結果（図104）、これらは4’層（谷状地形上層）上面から切り込んでおり、谷状地形が完全に埋没した後に形成された土坑群であることがわかった。細い溝を数条検出し、住居の壁溝の可能性を想定して調査したが、住居と判断できる痕跡は見つけられなかった。出土遺物は少ないが、検出面から弥生時代中期中葉の遺構と推察する。

B区北東部土坑群　B区北東部では土坑が多数検出できた（図94）。いずれも弥生時代中期中葉に形成された土坑であろう。このうち遺構365の埋土には炭化物や焼土が多量に含まれていて、炉などの可能性もある（図8土層図）。この他、A区南西隅でも同様に炭化物が多量に含まれる遺構161（図9土層図）があるが、両者とも周辺に住居の痕跡は検出できなかった。

B区南西部土坑群　B区南西部でも土坑が集中している地点がある。大きな浅い落ち込み内（遺構310）に形成されているもので、炭化物を含む遺構が多い。遺構301は径2.0m以上、深さ0.7mをはかり（図95）、埋土に炭化物を多く含むが、規模が大きいことから住居の炉と考えることはできない（図96・97）。この他、遺構313・314・369なども炭化物を含む土坑である（図96）。遺構310の北東隅で土器製作用の可能性がある粘土塊が出土し、周辺の遺物包含層からも粘土塊が数点出土していることから、これらの炭化物を含む土坑群は土器焼成に関わる遺構である可能性もある。遺構301の北側に隣接している遺構311（溝状土坑）から、大形の甕2点を含む土器がまとまって出土した（図95・97）。甕のうち1点（図100　311-1）には胴部に焼成後の穿孔があり、この遺構は土器棺墓あるいは土壙墓の可能性がある。B区南西部土坑群は、出土遺物から弥生時代中期中葉に形成されたと考えられる（図98～102）。

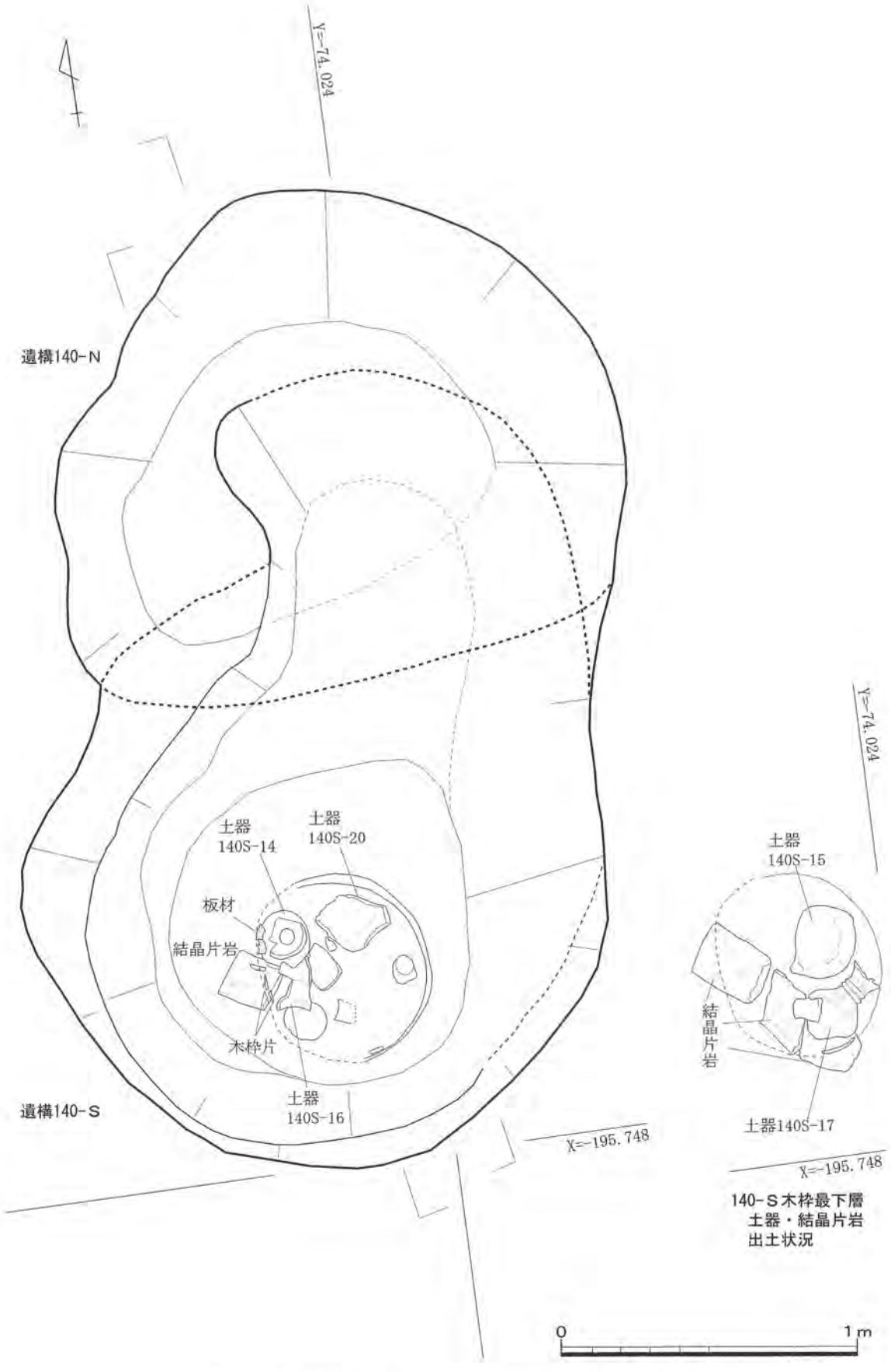
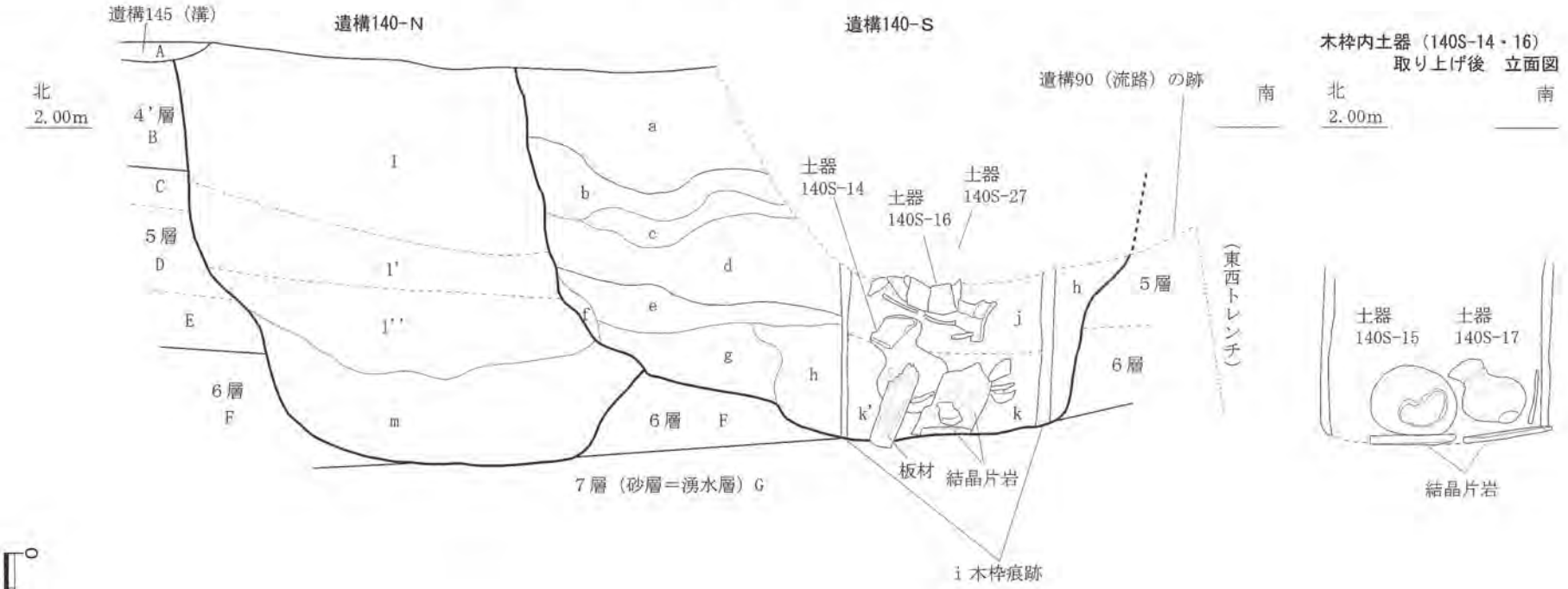


図72　遺構140－S・140－N（井戸）平面図　（S＝1/20）

遺構140－S・140－N南北セクションベルト（西側断面）



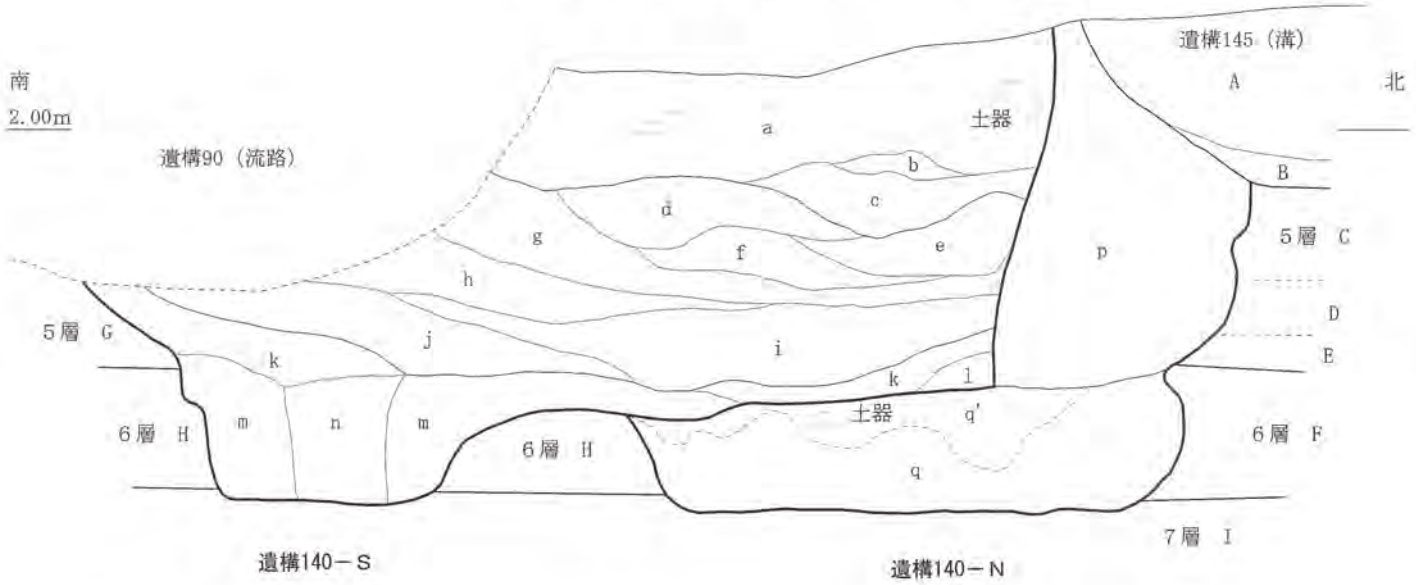
遺構140-S
a ：2.5Y3/1黒褐色シルト（シルトブロックほとんど含まない）　＜取り上げ-上層＞
b ：10YR3/2黒褐色シルト（シルトブロック少量含む）　＜取り上げ-下層＞
c ：10YR3/2黒褐色シルト（シルトブロック多く含む、炭含む）　＜取り上げ-下層＞
d ：10YR3/2黒褐色シルト（炭・シルトブロック少量含む）　＜取り上げ-下層＞
e ：7.5YR3/4暗褐色シルト（鉄分多く含む、炭少量）　＜取り上げ-最下層＞
f ：2.5Y6/6黄褐色シルトブロック
g ：5Y3/1オリーブ黒色シルト（やや粘質、炭・木片含む。下層6層のシルトブロック含む）　＜取り上げ-最下層＞
h ：10YR5/6黄褐色粗砂（若干暗灰色シルト含む）　＜取り上げ-最下層＞
i ：10YR5/2灰黄褐色シルト～粘土＝木枠痕跡（一部木質残る）
j ：10YR3/2黒褐色シルト（炭・鉄分少量、部分的に粘土混じり）　＜取り上げ-最下層木枠内＞
k ：10YR3/2黒褐色シルト～粘土（粘質大、黄灰色粘土含む）　＜取り上げ-最下層木枠内＞
k' ：2.5Y4/4オリーブ褐色細砂～粗砂（砂が入り込む）

遺構140-N
1 ：N4/0灰色シルト（炭・鉄分少量、若干黄褐色シルトブロック含む）　＜取り上げ-上層＞
1' ：N4/0灰色シルト（炭少量、やや粘質）　＜取り上げ-下層＞
1'' ：N4/0灰色シルト（炭少量、粘質大）　＜取り上げ-下層＞
m ：7.5Y2/1黒色シルト（ごく一部7.5Y5/1灰色細砂混じり。粘質大）　＜取り上げ-最下層＞
（杭が数本敷かれているように出土）

遺物包含層・地山
A ：2.5Y4/1黄灰色シルト（鉄分多く含む）＝遺構145（溝）
B ：10YR2/1黒色細砂～シルト（鉄分少量）＝4'層
C ：2.5Y7/3浅黄色シルト＝5層
D ：7.5Y4/1褐灰色シルト+2.5Y5/3黄褐色細砂（炭・鉄分少量）＝5層
E ：2.5Y5/1黄灰色細砂～シルト（鉄分多く含む。やや粘質）＝5層
F ：2.5Y7/1灰白色シルト（粘質大）＝6層
G ：5B6/1青灰色粗砂～細砂＝地山7層（湧水層）

図73　遺構140－S・140－N（井戸）断面図1　（S＝1/20）

遺構140－S・140－N南北セクションベルト（東側断面）



遺構140-S
a ：2.5Y3/1黒褐色シルト（炭・鉄分少量、細礫若干含む、シルトブロックほとんど含まない） ＜取り上げ-上層＞
b ：2.5Y6/6黄褐色シルトブロック ＜取り上げ-上層＞
c ：2.5Y3/1黒褐色シルト（シルトブロック少量含む、炭含む） ＜取り上げ-上層＞
d ：10YR3/2黒褐色シルト（シルトブロックやや多く含む、炭含む） ＜取り上げ-下層＞
e ：2.5Y6/6黄褐色シルトブロック ＜取り上げ-下層＞
f ：10YR3/2黒褐色シルト（シルトブロック少ない、炭含む） ＜取り上げ-下層＞
g ：10YR3/2黒褐色シルト（シルトブロック多く含む、炭含む） ＜取り上げ-下層＞
h ：10YR3/2黒褐色シルト（炭・シルトブロック少量） ＜取り上げ-下層＞
i ：2.5Y4/2暗灰黄色シルトブロック混じり2.5Y3/2黒褐色シルト（炭含む，やや粘質） ＜取り上げ下層＞
j ：7.5YR3/4暗褐色シルト（鉄分多く含む、炭少量） ＜取り上げ-下層＞
k ：2.5Y3/2黒褐色シルト（やや粘質） ＜取り上げ-最下層＞
l ：2.5Y4/2暗灰黄色混じり2.5Y3/2黒褐色シルト ＜取り上げ-最下層＞
m ：5Y3/1オリーブ黒色シルト（やや粘質、炭・木片含む、下層６層のシルトブロック入り込む） ＜取り上げ-最下層＞
n ：10YR5/6黄褐色粗砂（若干暗灰色シルト含む）

遺構145（溝）
A ：2.5Y4/1黄灰色シルト（鉄分多く含む）
B ：2.5Y5/2暗灰黄色シルト

遺構140－N
p ：N4/0灰色シルト（粘質大、炭含む，シルトブロック含まない、均質）
＜P上部：取り上げ-上層、P下部：取り上げ-下層＞
q ：N3/0暗灰色シルト（粘質大） ＜取り上げ-最下層＞
q' ：10YR4/6褐色粗砂～細砂（堅く締まる） ＜取り上げ－最下層＞
（杭が数本敷いているように出土）

遺物包含層・地山（７層）
C ：2.5Y7/3浅黄色シルト＝５層
D ：7.5Y4/1褐灰色シルト＋2.5Y5/3黄褐色細砂＝５層
E ：2.5Y5/1黄灰色シルト（鉄分多く含む） ＝５層
F ：2.5Y7/1灰白色シルト＝６層
G ：2.5Y5/1黄灰色シルト（鉄分多く含む） ＝５層
H ：2.5GY3/1暗オリーブ灰色シルト～細砂（やや粘質） ＝６層
I ：5B6/1青灰色粗砂～細砂＝地山７層（湧水層）

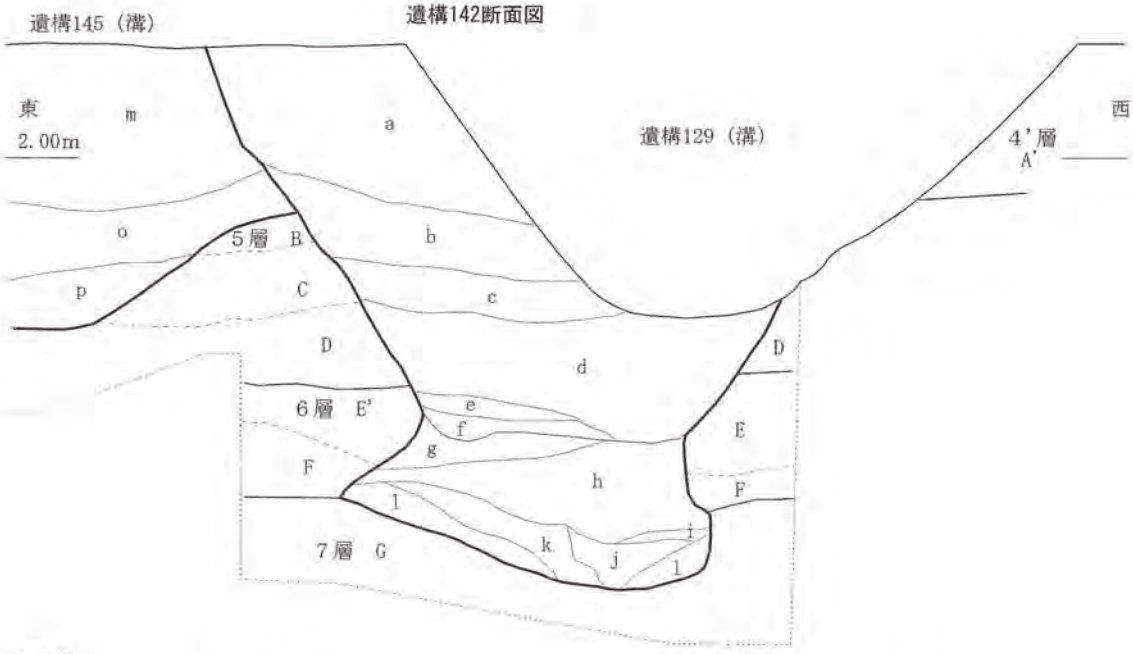
0
1m

図74 遺構140－S・140－N（井戸）断面図２ （S＝1/20）



遺構142平面図

遺構142断面図



遺構142

a ：10YR3/1黒褐色シルト～細砂（炭・鉄分少量）
　＜取り上げ-上層＞　→花粉分析用試料7
b ：10YR2/3黒褐色シルト
　（10YR5/6黄褐色シルトブロック含む、やや粘質）　＜取り上げ-中層＞
c ：2.5Y4/2暗灰黄色細砂混じり10YR2/3黒褐色シルト
　（黄褐色シルトブロック含む）　＜取り上げ-中層＞
d ：2.5Y3/2黒褐色シルト（粘質大、炭少量）　＜取り上げ-下層＞
e ：10YR4/4褐色細礫～粗砂　＜取り上げ-下層＞
f ：2.5Y3/2黒褐色シルト（粘質大、炭少量）　＜取り上げ-下層＞
g ：10YR4/4褐色細礫～粗砂　＜取り上げ-下層＞
h ：2.5Y2/1黒色シルト～粘土（粘質大）
　→h以下湧水のためえぐれている　＜取り上げ-下層＞　→花粉・珪藻分析用試料8
i ：2.5Y3/3暗オリーブ褐色細砂～粗砂（やや粘質）　＜取り上げ-最下層＞
j ：10Y3/2オリーブ黒色シルト（粘質大）　＜取り上げ-最下層＞
k ：2.5Y3/3暗オリーブ褐色細砂～粗砂（やや粘質）　＜取り上げ-最下層＞
l ：10Y3/1オリーブ黒色細砂混じりシルト　＜取り上げ-最下層＞

遺物包含層・地山

A' ：10YR3/2黒褐色シルト～細砂＝4'層
B ：10YR5/8黄褐色シルト～細砂＝5層
C ：10YR4/4褐色細砂～粗砂（やや粘質）＝5層
D ：2.5Y4/2暗灰黄褐色シルト（やや粘質、鉄分・炭少量）＝5層
E ：10YR4/4褐色細砂（ラミナ状）+2.5Y3/2黒褐色シルト＝6層
　（E' ：10YR4/4ほとんど含まない）
F ：10YR4/4褐色+2.5Y4/2暗灰黄色シルト～細砂
　（互層，ラミナ状）＝6層
G ：10YR5/6黄褐色細礫混じり粗砂（湧水層）＝地山（7層）

遺構145

m ：10YR3/3暗褐色シルト～細砂（鉄分・炭少量）
o ：10YR4/2灰黄褐色シルト（炭少量）
p ：2.5Y3/3暗オリーブ褐色細砂混じりシルト

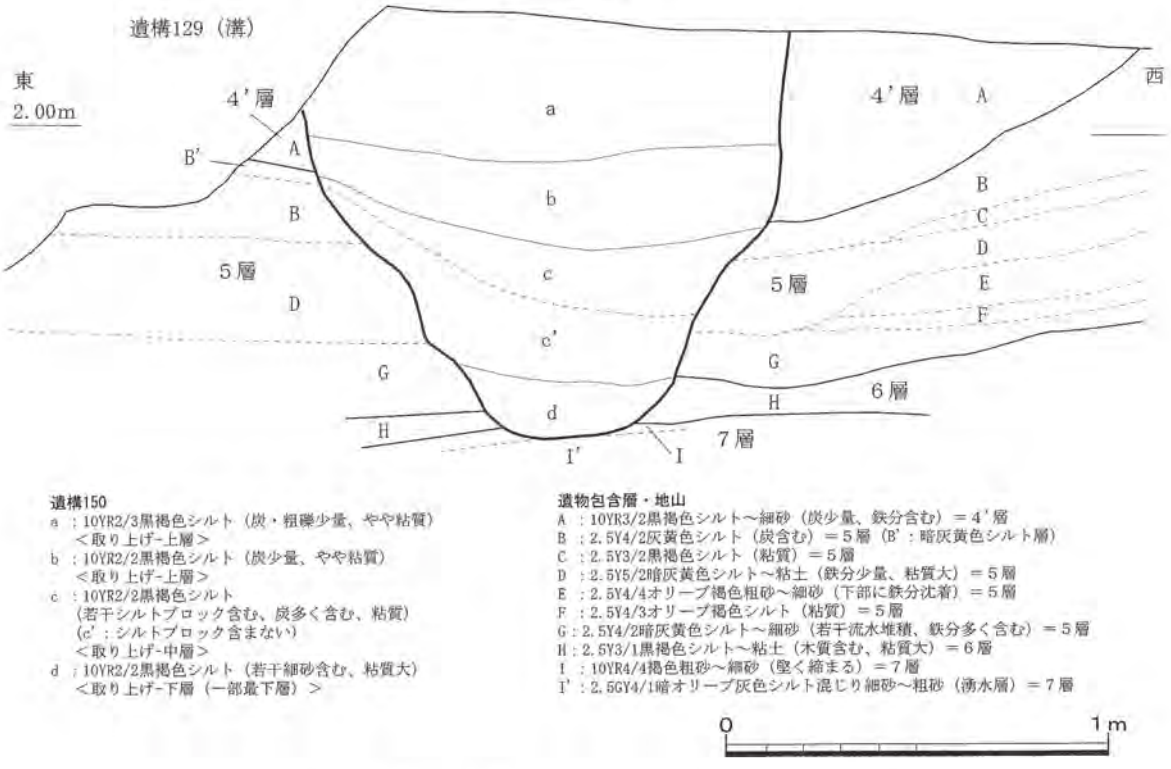
0　1m

図75　遺構142（井戸）平面図・断面図　（S＝1/20）



遺構150平面図

遺構150断面図



遺構150
a ：10YR2/3黒褐色シルト（炭・粗礫少量、やや粘質）
＜取り上げ-上層＞
b ：10YR2/2黒褐色シルト（炭少量、やや粘質）
＜取り上げ-上層＞
c ：10YR2/2黒褐色シルト
（若干シルトブロック含む、炭多く含む、粘質）
（c'：シルトブロック含まない）
＜取り上げ-中層＞
d ：10YR2/2黒褐色シルト（若干細砂含む、粘質大）
＜取り上げ-下層（一部最下層）＞

遺物包含層・地山
A ：10YR3/2黒褐色シルト～細砂（炭少量、鉄分含む）＝4'層
B ：2.5Y4/2灰黄色シルト（炭含む）＝5層（B'：暗灰黄色シルト層）
C ：2.5Y3/2黒褐色シルト（粘質）＝5層
D ：2.5Y5/2暗灰黄色シルト～粘土（鉄分少量、粘質大）＝5層
E ：2.5Y4/4オリーブ褐色粗砂～細砂（下部に鉄分沈着）＝5層
F ：2.5Y4/3オリーブ褐色シルト（粘質）＝5層
G：2.5Y4/2暗灰黄色シルト～細砂（若干流水堆積、鉄分多く含む）＝5層
H：2.5Y3/1黒褐色シルト～粘土（木質含む、粘質大）＝6層
I ：10YR4/4褐色粗砂～細砂（堅く締まる）＝7層
I'：2.5GY4/1暗オリーブ灰色シルト混じり細砂～粗砂（湧水層）＝7層

図76　遺構150（井戸）平面図・断面図　（S＝1/20）

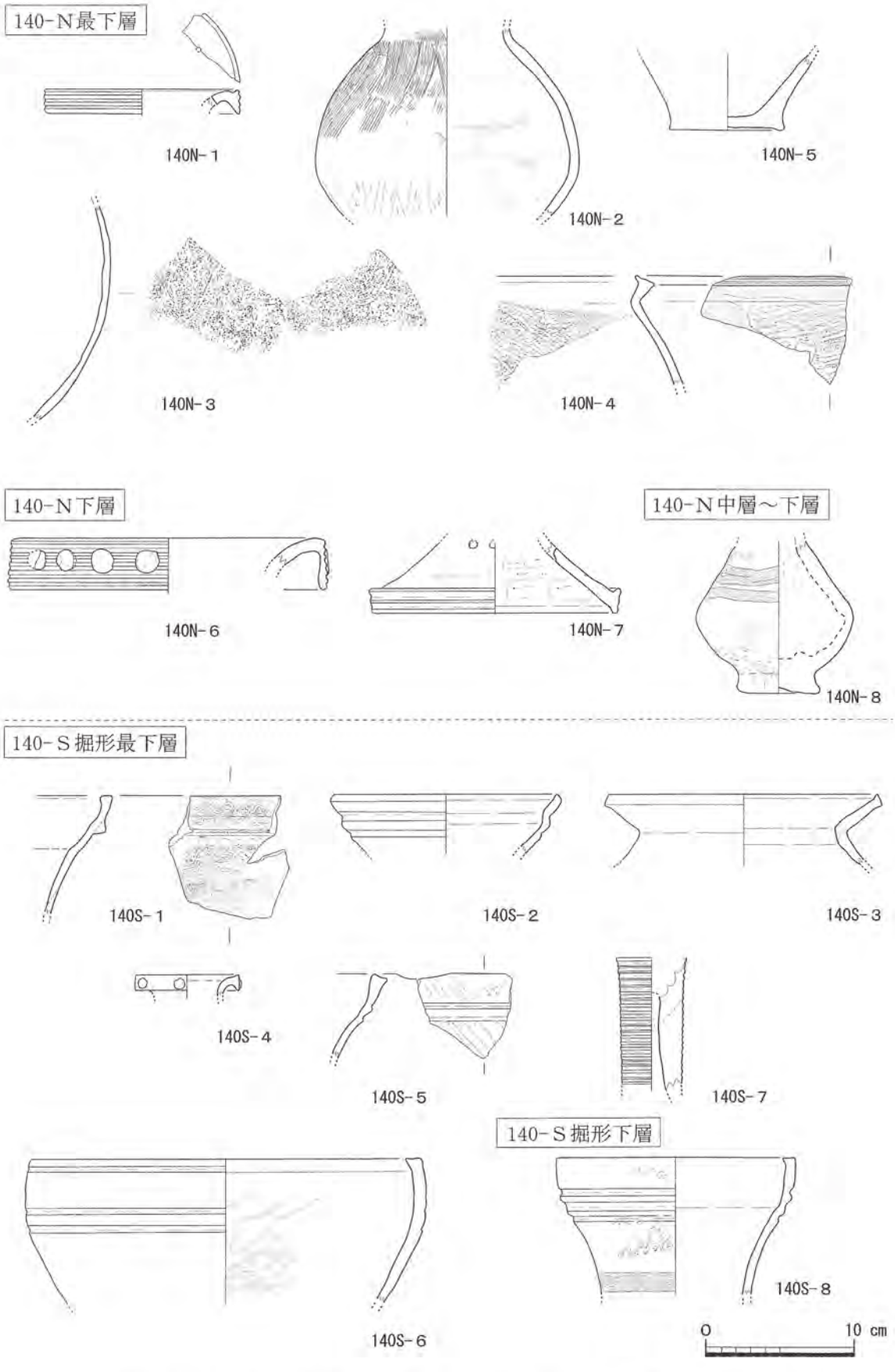


図77　遺構140－N（井戸）・遺構140－S（井戸）　遺物実測図　（S＝1/4）

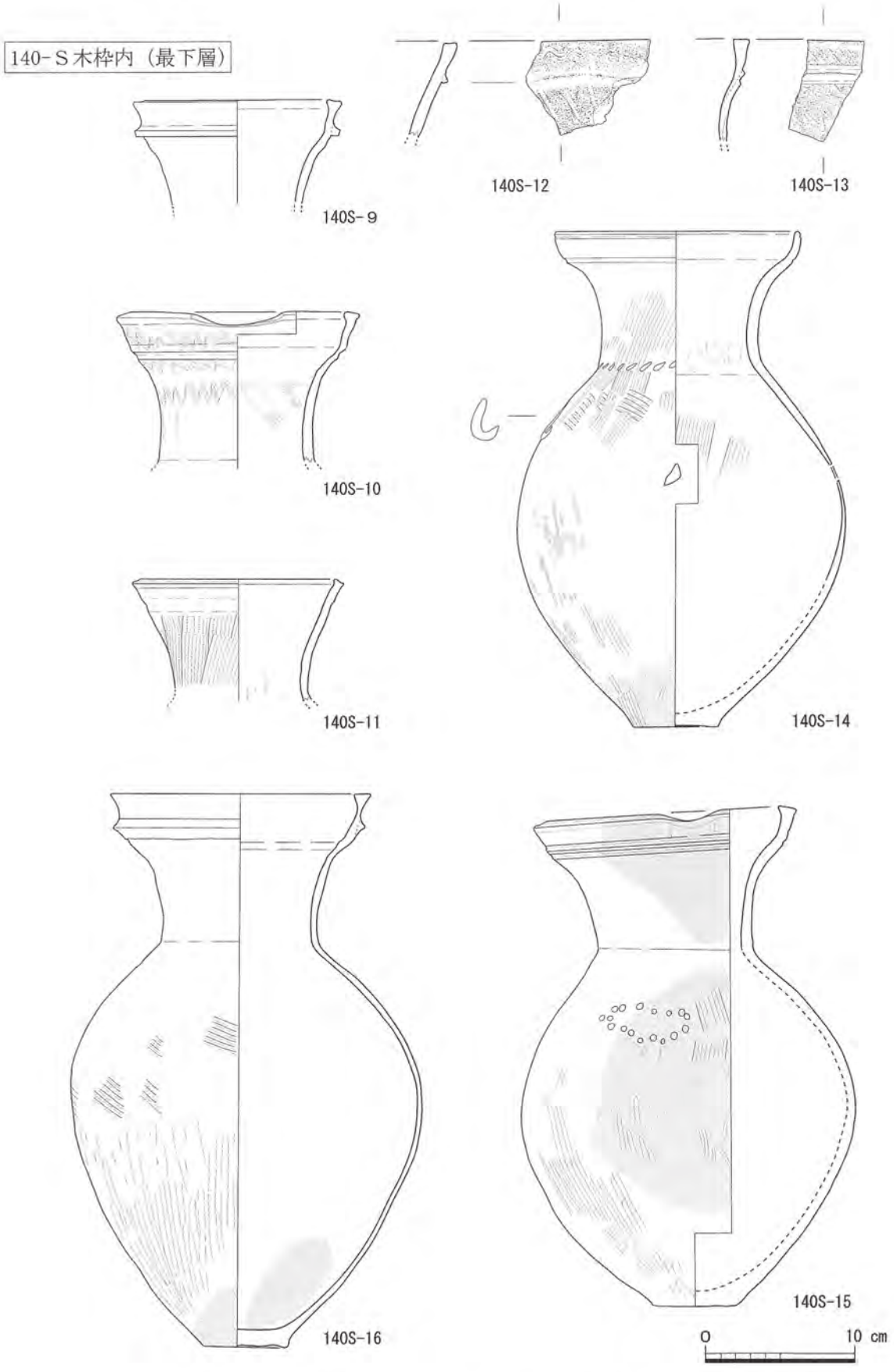


図78　遺構140－S（井戸）　木枠内（最下層）　遺物実測図１　（S＝1/4）

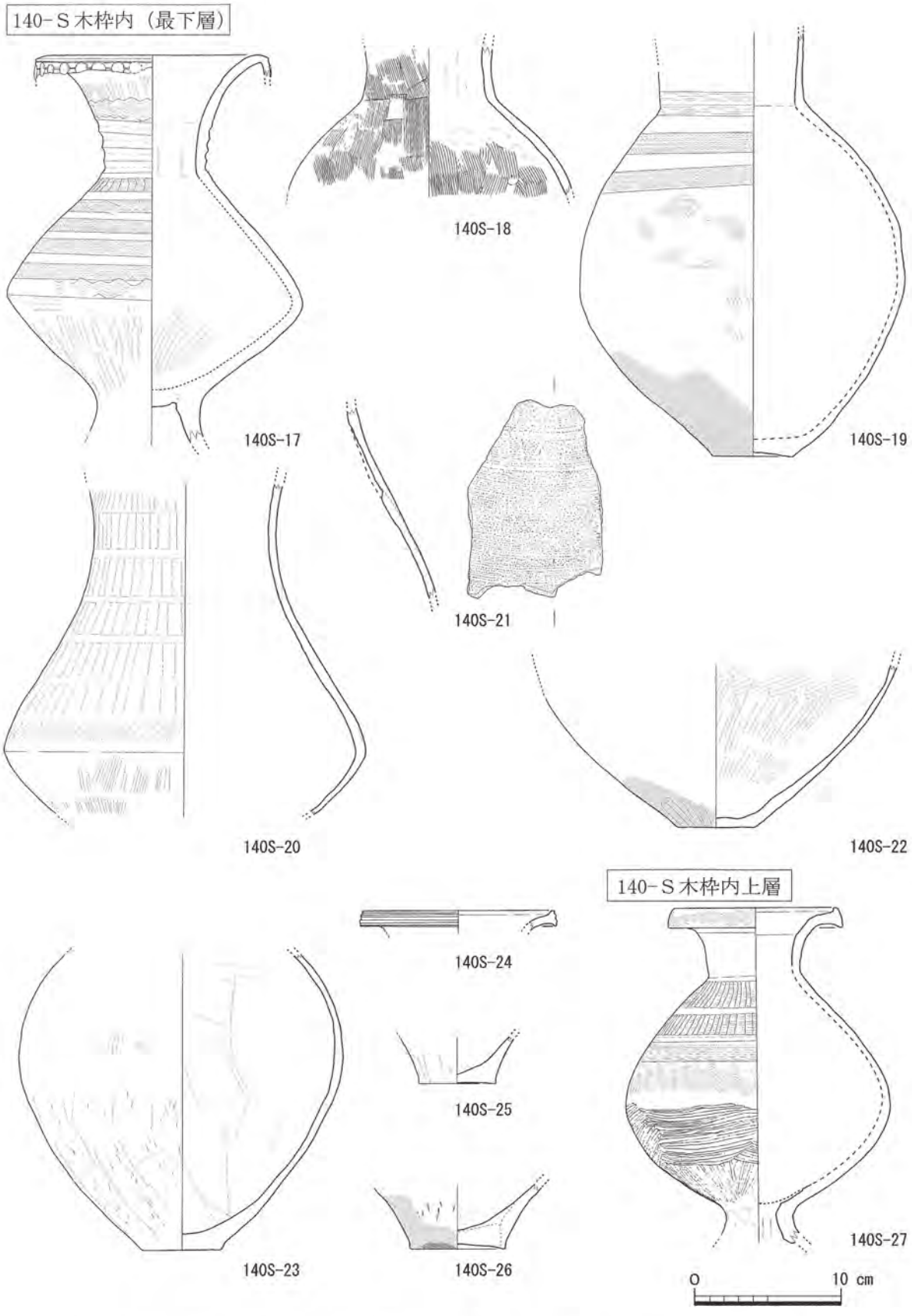
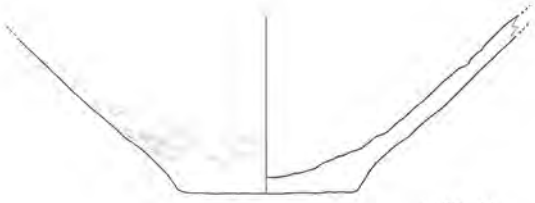
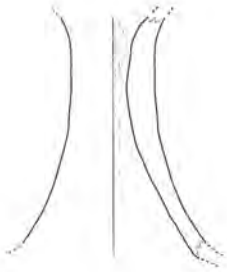


図79　遺構140－S（井戸）　木枠内（最下層）　遺物実測図２　（S＝1/4）

140-S上層

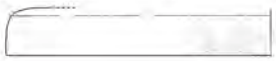


140S-28



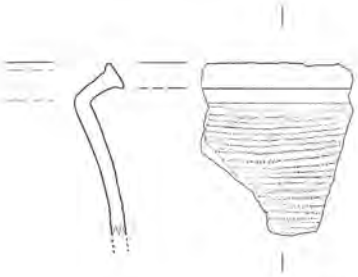
140S-29

140-S・140-N上層





140S・N-1

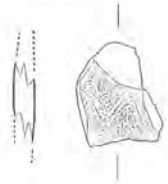




140S・N-2

140S・N-3

142最下層



142-1

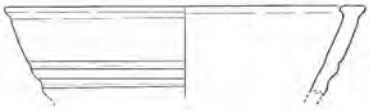
142下層



142-2



142-3



142-4



142-5

142上層



142-6



図80　遺構140－S（井戸）・遺構142（井戸）　遺物実測図　（S＝1/4）

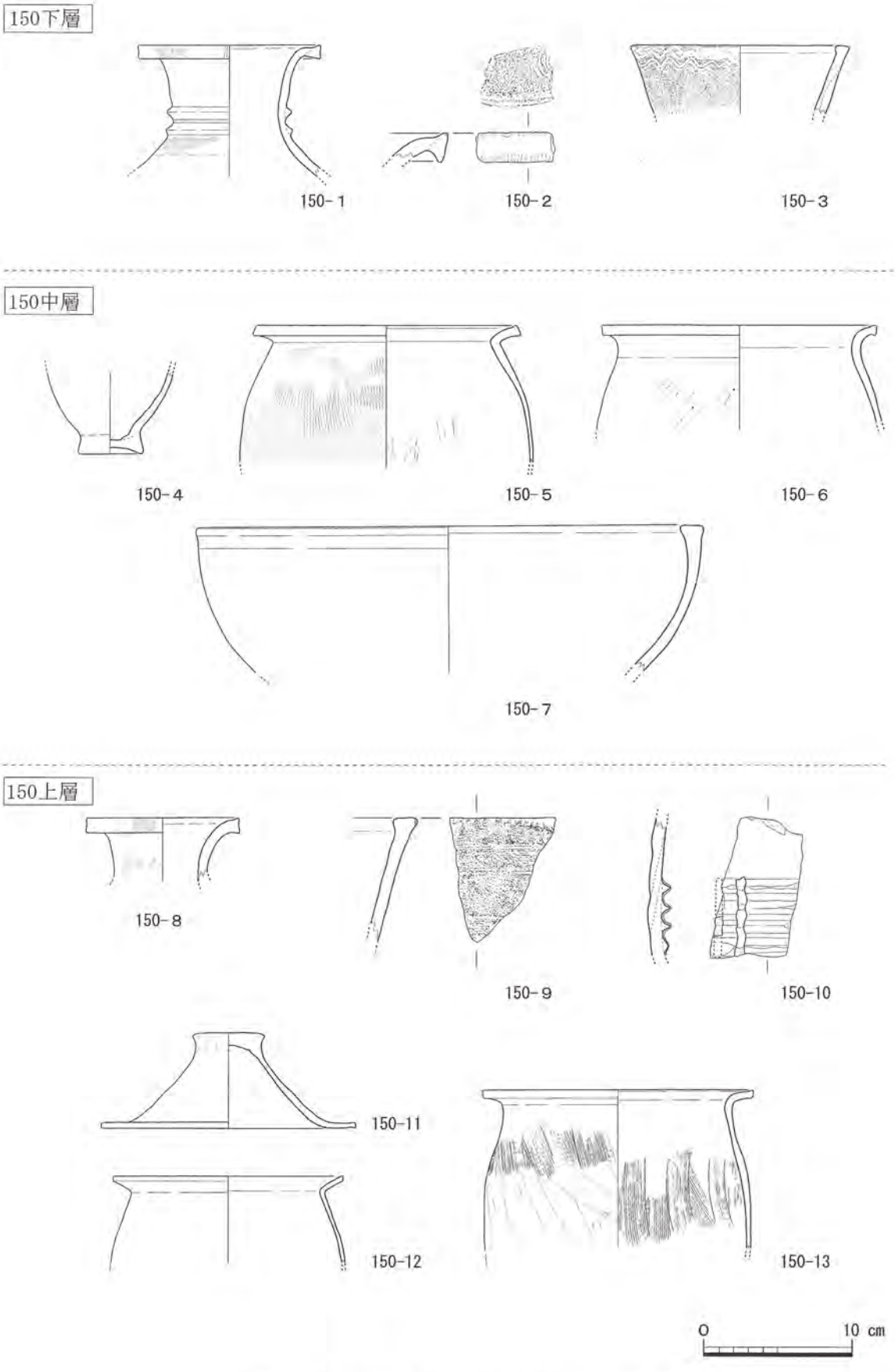


図81　遺構150（井戸）　遺物実測図　（S＝1/4）

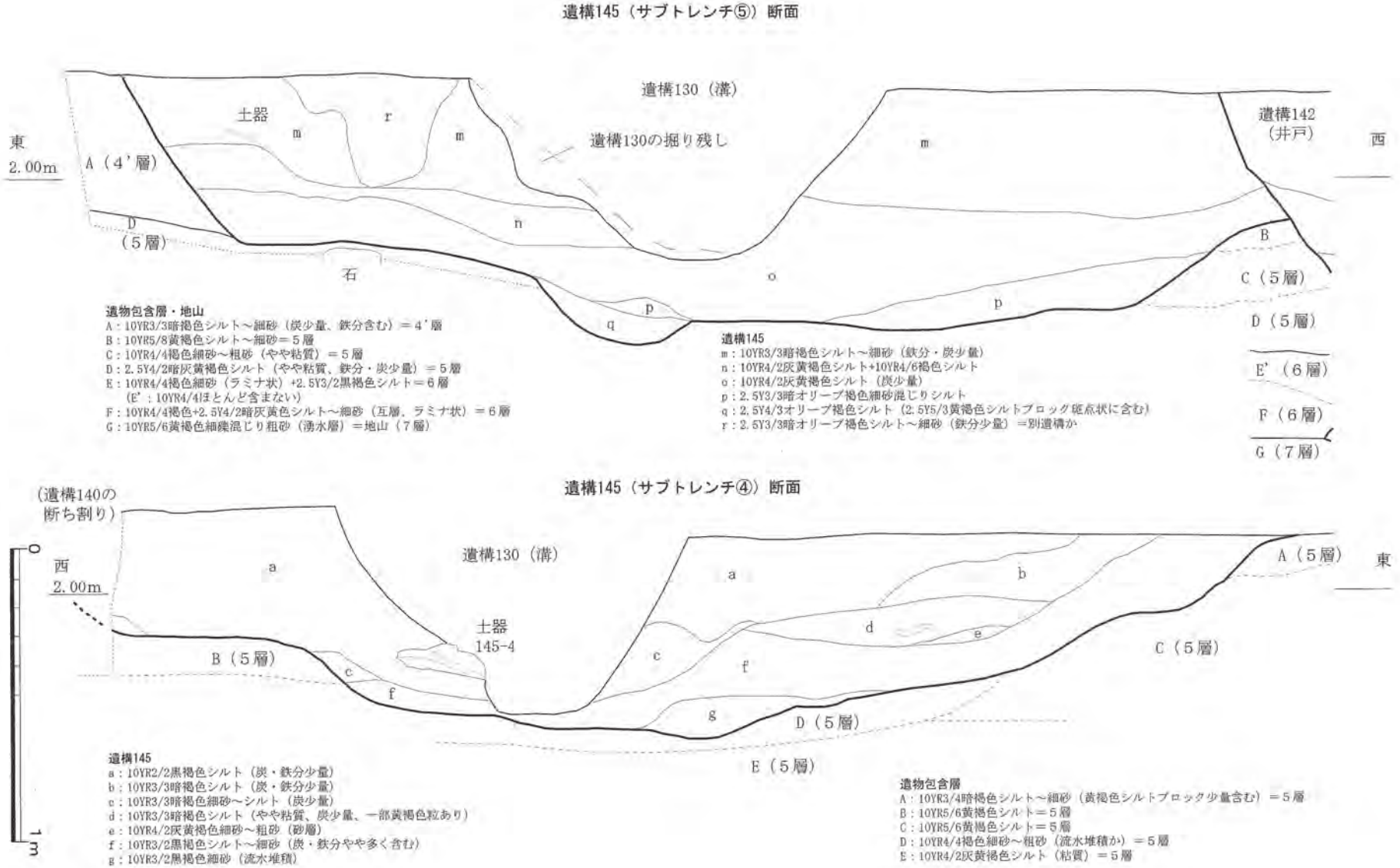


図82　遺構145（溝）断面図1　（S＝1/20）

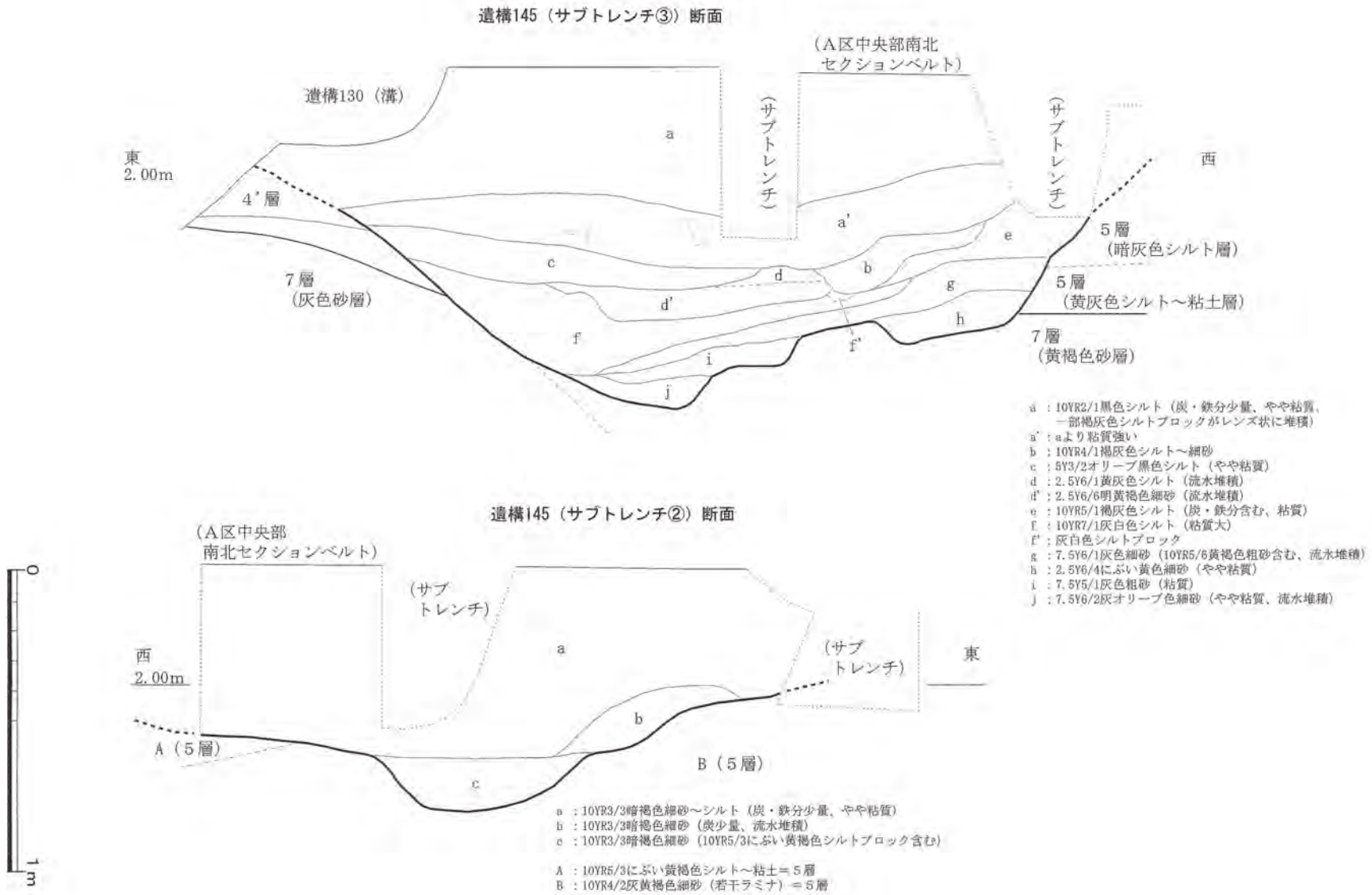
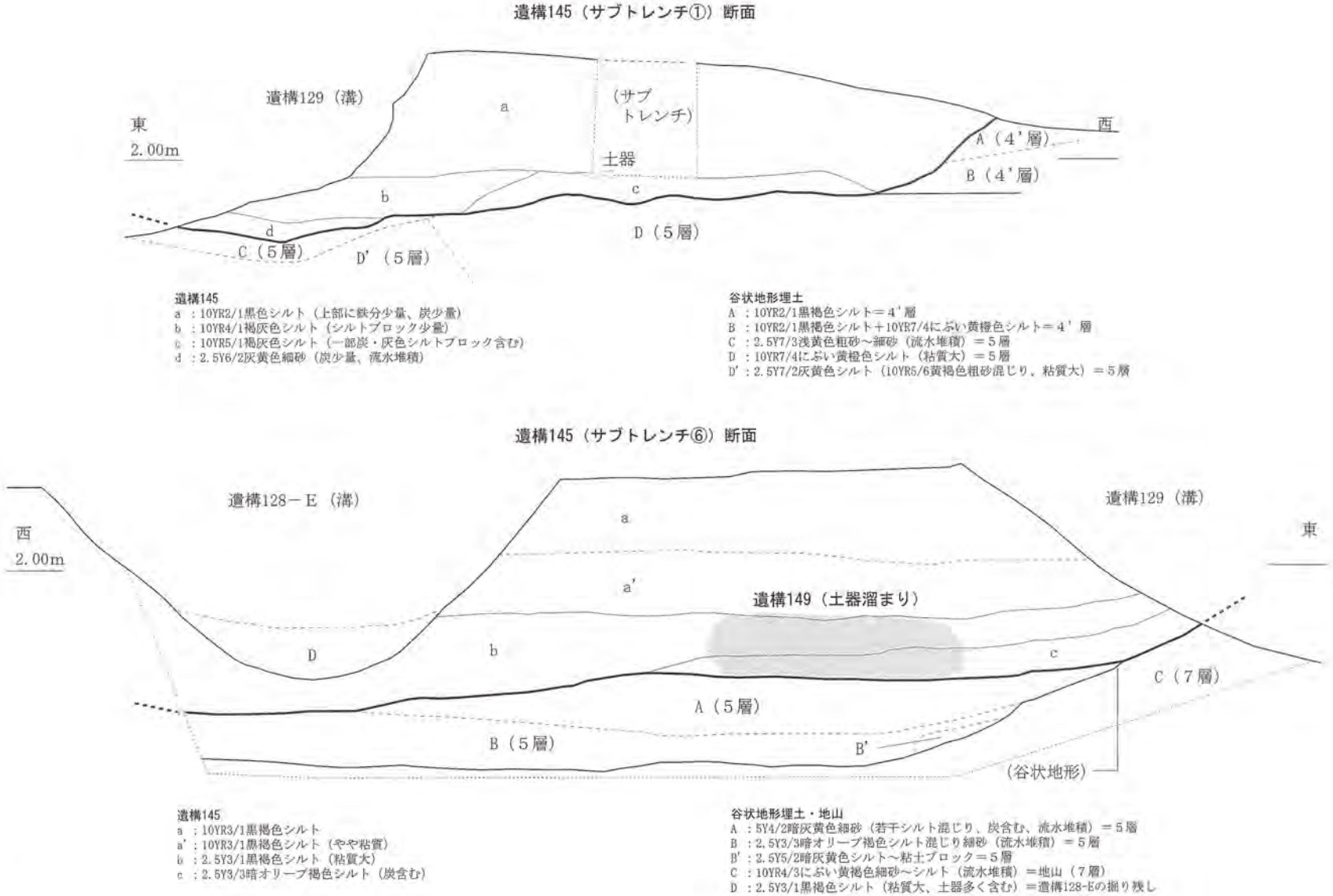


図83　遺構145（溝）断面図2　（S＝1/20）

図84　遺構145（溝）（遺構149（土器溜まり））断面図３　（S＝1/20）



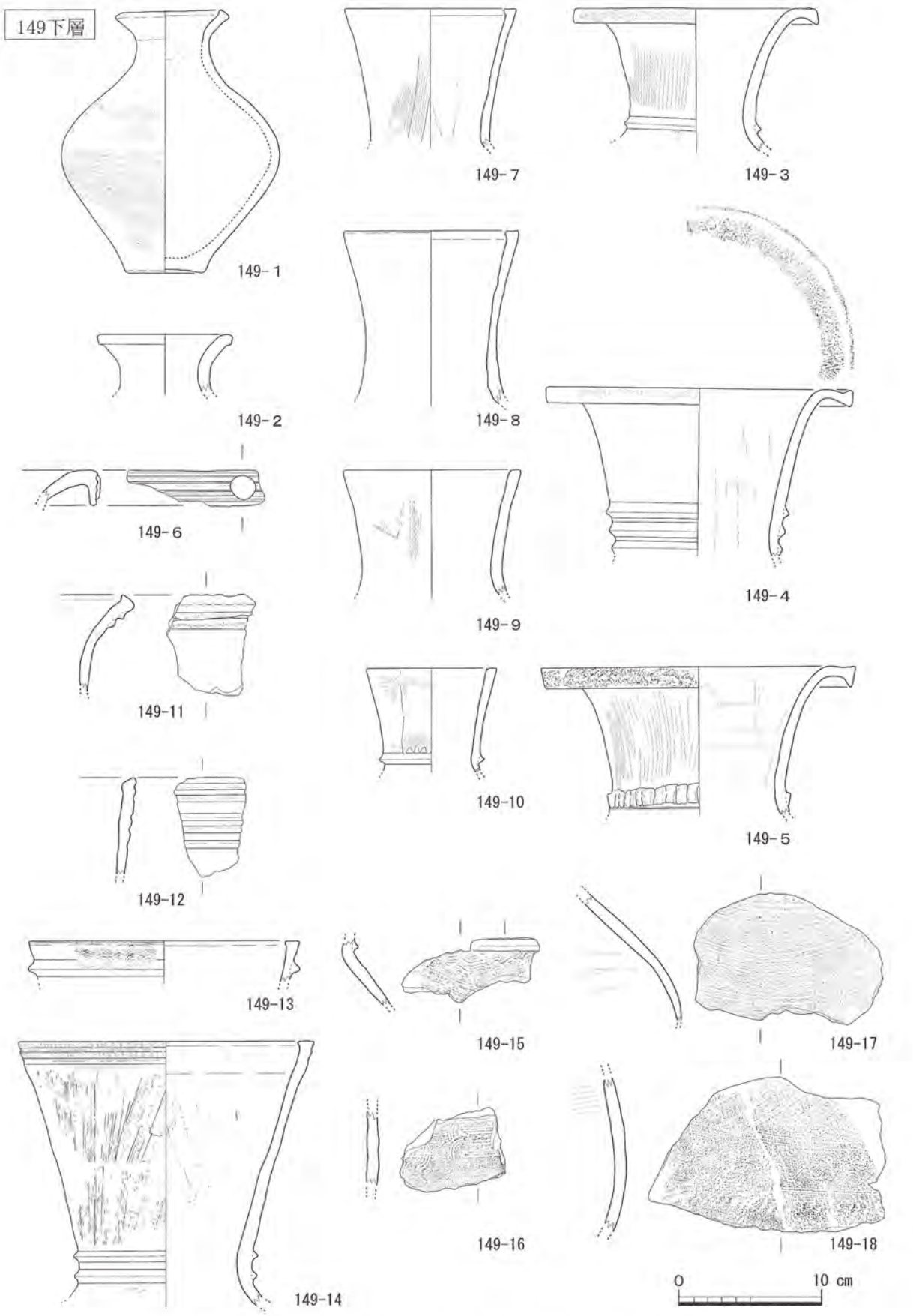


図85　遺構149（土器溜まり）　遺物実測図１　（S＝1/4）

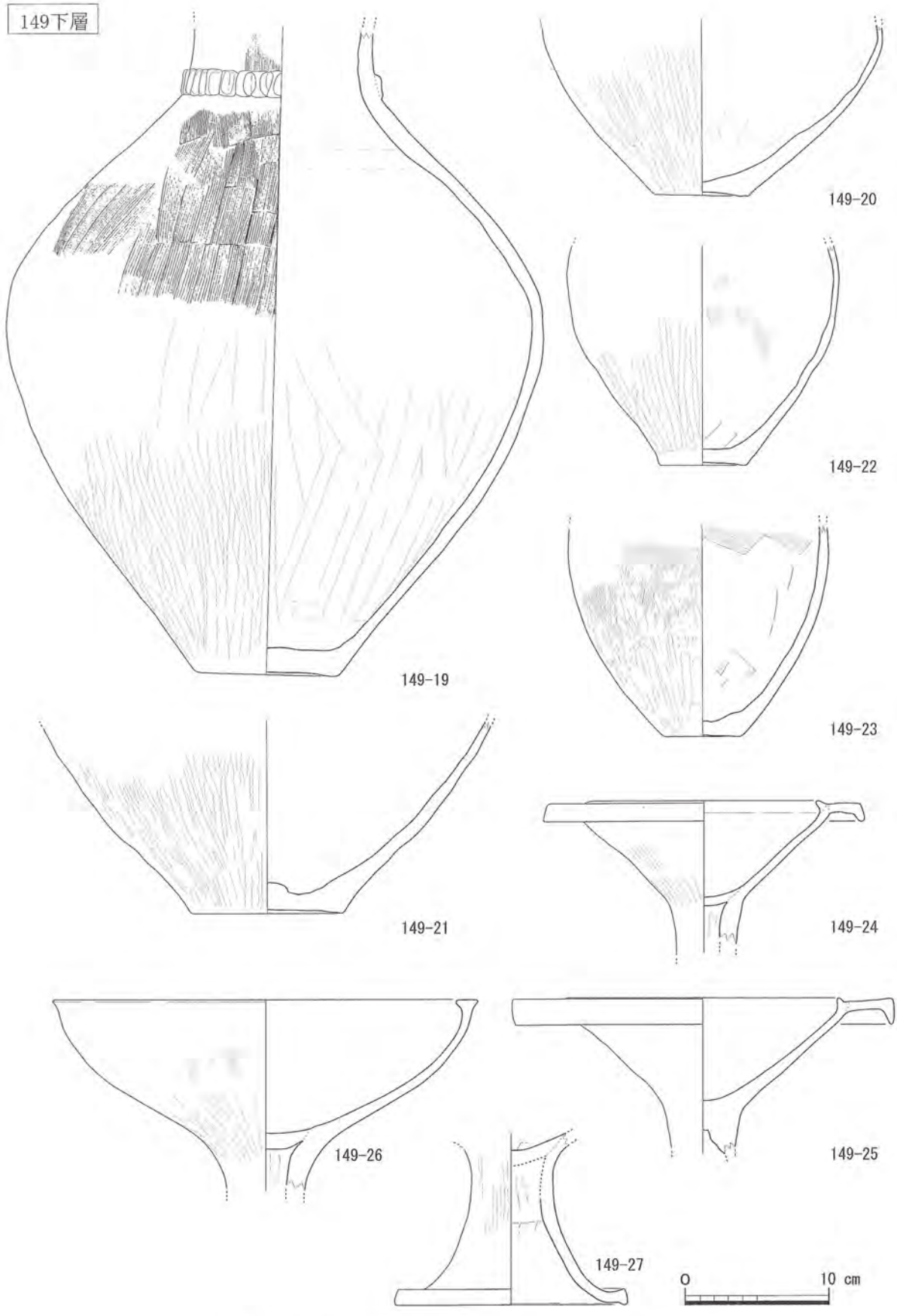


図86　遺構149（土器溜まり）　遺物実測図２　（S＝1/4）

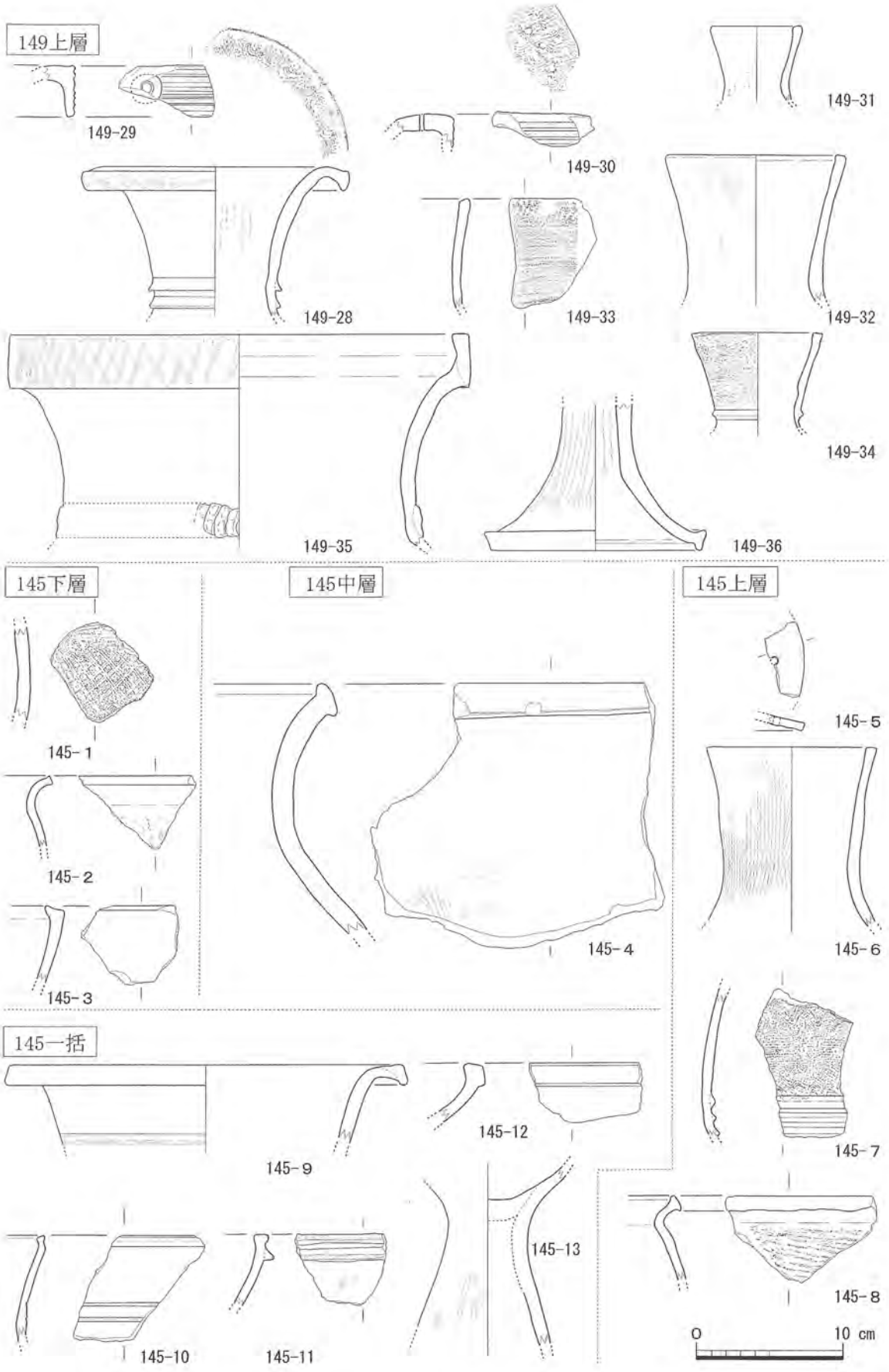


図87　遺構149（土器溜まり）・遺構145（溝）　遺物実測図　（S＝1/4）

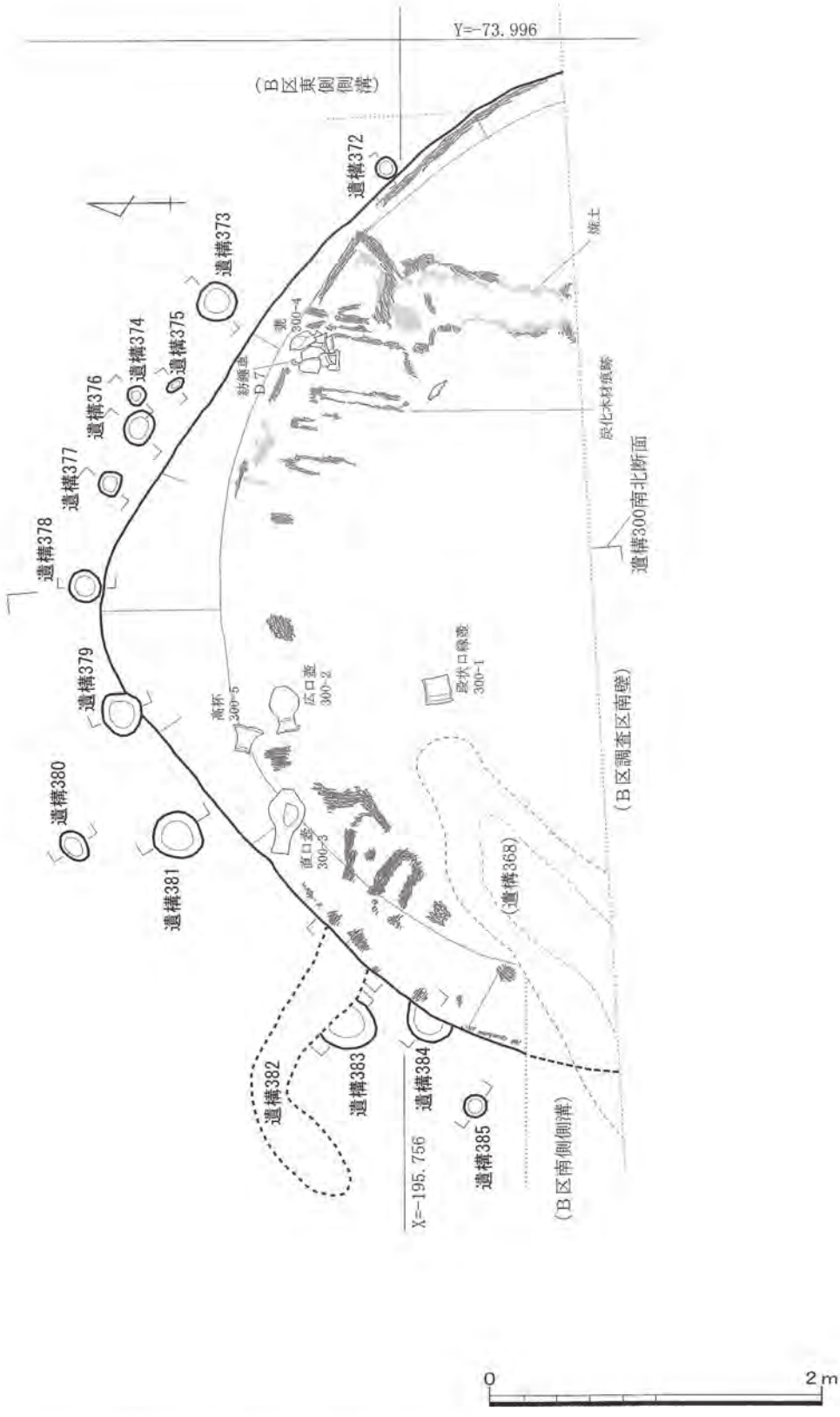
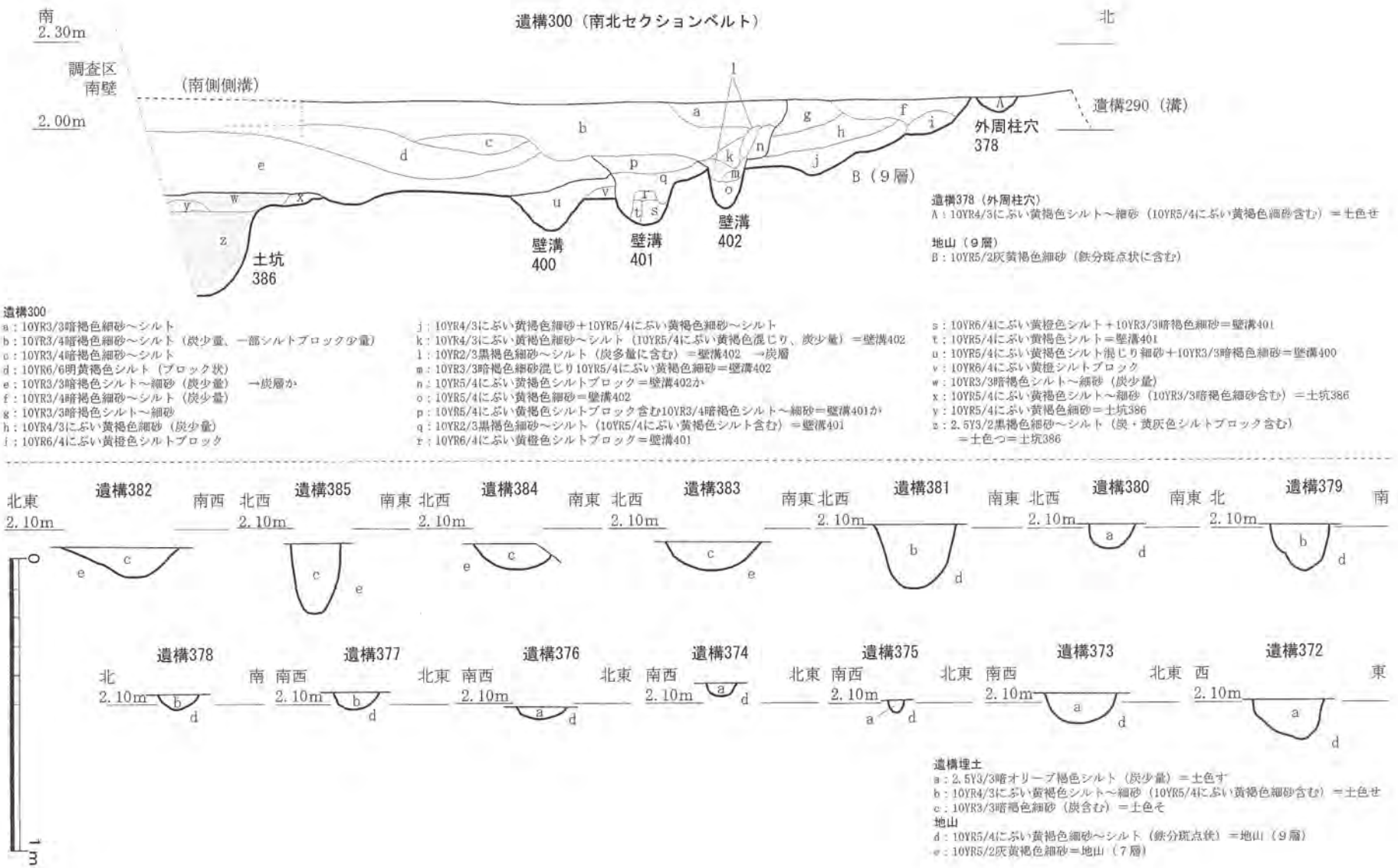


図88　遺構300（竪穴住居）焼土・炭化物層、土器検出状況（S＝1/40）

図89　遺構300（竪穴住居）床面検出状況（S＝1/40）



遺構300
a：10YR3/3暗褐色細砂～シルト
b：10YR3/4暗褐色細砂～シルト（炭少量、一部シルトブロック少量）
c：10YR3/4暗褐色細砂～シルト
d：10YR6/6明黄褐色シルト（ブロック状）
e：10YR3/3暗褐色シルト～細砂（炭少量）　→炭層か
f：10YR3/4暗褐色細砂～シルト（炭少量）
g：10YR3/3暗褐色シルト～細砂
h：10YR4/3にぶい黄褐色細砂（炭少量）
i：10YR6/4にぶい黄橙色シルトブロック
j：10YR4/3にぶい黄褐色細砂＋10YR5/4にぶい黄褐色細砂～シルト
k：10YR4/3にぶい黄褐色細砂～シルト（10YR5/4にぶい黄褐色混じり、炭少量）＝壁溝402
l：10YR2/3黒褐色細砂～シルト（炭多量に含む）＝壁溝402　→炭層
m：10YR3/3暗褐色細砂混じり10YR5/4にぶい黄褐色細砂＝壁溝402
n：10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック＝壁溝402か
o：10YR5/4にぶい黄褐色細砂＝壁溝402
p：10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック含む10YR3/4暗褐色シルト～細砂＝壁溝401か
q：10YR2/3黒褐色細砂～シルト（10YR5/4にぶい黄褐色シルト含む）＝壁溝401
r：10YR6/4にぶい黄橙色シルトブロック＝壁溝401
s：10YR6/4にぶい黄橙色シルト＋10YR3/3暗褐色細砂＝壁溝401
t：10YR5/4にぶい黄褐色シルト＝壁溝401
u：10YR5/4にぶい黄褐色シルト混じり細砂＋10YR3/3暗褐色細砂＝壁溝400
v：10YR6/4にぶい黄橙シルトブロック
w：10YR3/3暗褐色シルト～細砂（炭少量）
x：10YR5/4にぶい黄褐色シルト～細砂（10YR3/3暗褐色細砂含む）＝土坑386
y：10YR5/4にぶい黄褐色細砂＝土坑386
z：2.5Y3/2黒褐色細砂～シルト（炭・黄灰色シルトブロック含む）
＝土色つ＝土坑386

遺構378（外周柱穴）
A：10YR4/3にぶい黄褐色シルト～細砂（10YR5/4にぶい黄褐色細砂含む）＝土色せ

地山（9層）
B：10YR5/2灰黄褐色細砂（鉄分斑点状に含む）

遺構埋土
a：2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト（炭少量）＝土色す
b：10YR4/3にぶい黄褐色シルト～細砂（10YR5/4にぶい黄褐色細砂含む）＝土色せ
c：10YR3/3暗褐色細砂（炭含む）＝土色そ

地山
d：10YR5/4にぶい黄褐色細砂～シルト（鉄分斑点状）＝地山（9層）
e：10YR5/2灰黄褐色細砂＝地山（7層）

図90　遺構300（竪穴住居）南北セクションベルト断面図・外周柱穴断面図　（S＝1/20）

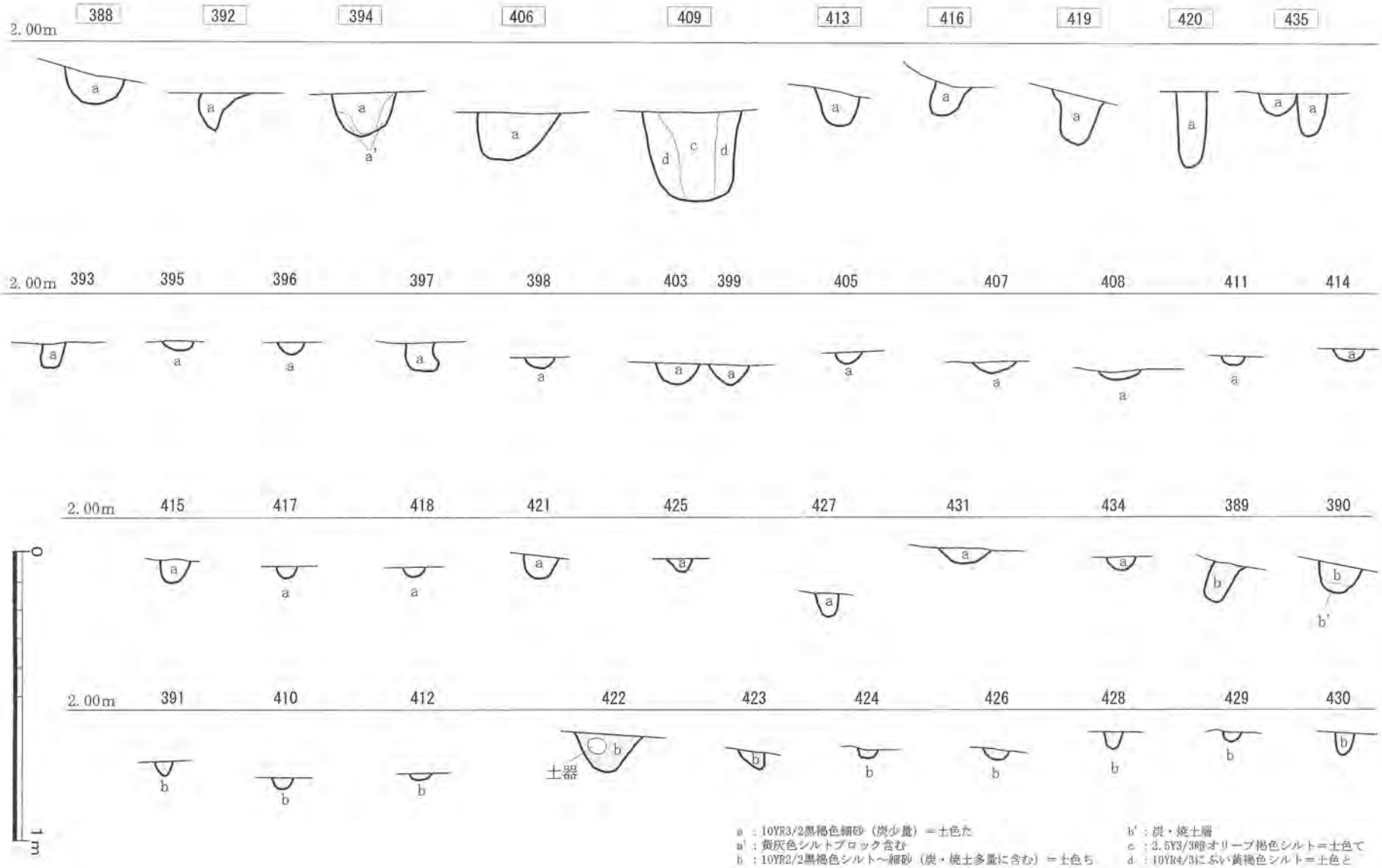


図91　遺構300（竪穴住居）柱穴・小柱穴断面図　（S＝1/20）

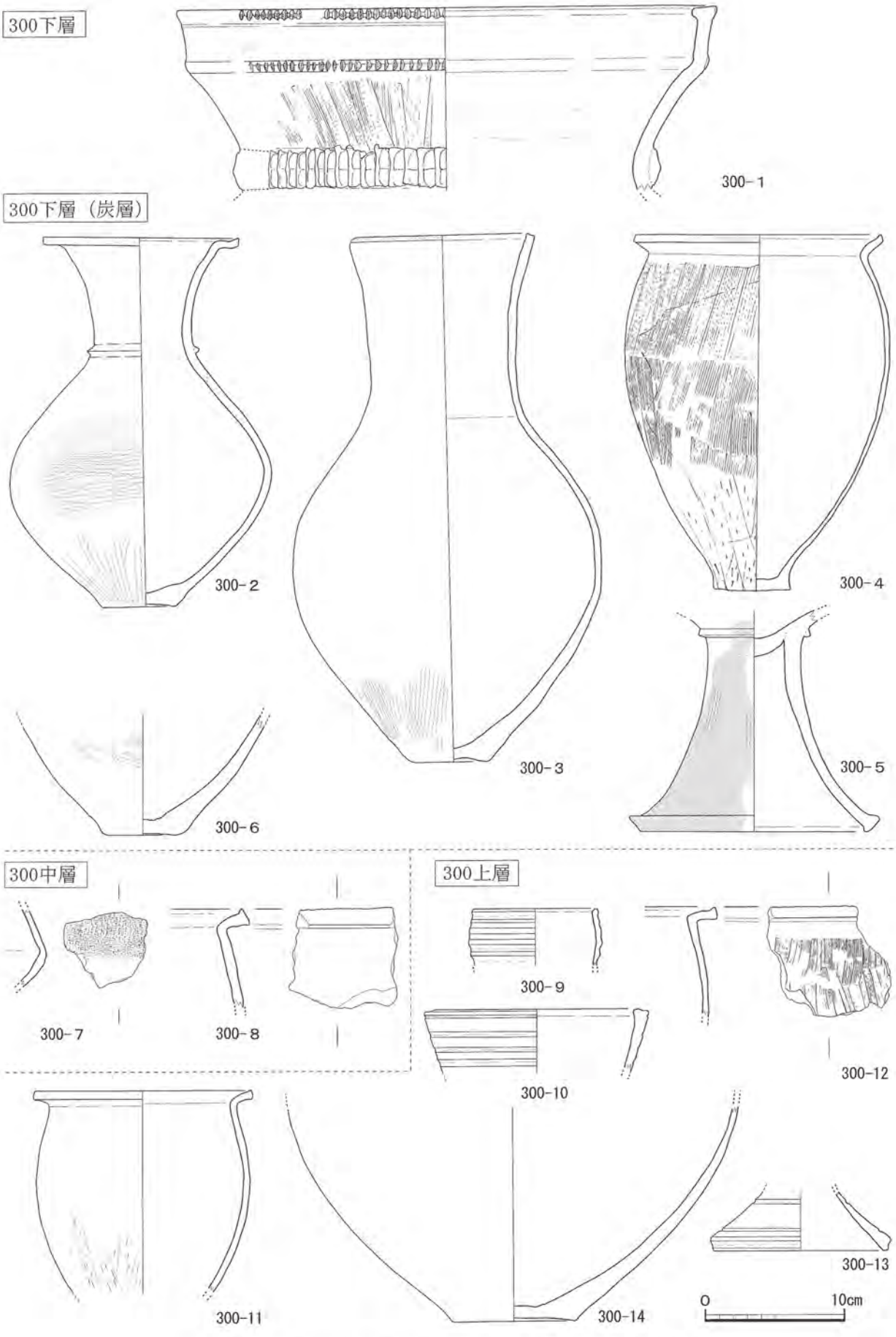


図92　遺構300（竪穴住居）　遺物実測図　（S＝1/4）

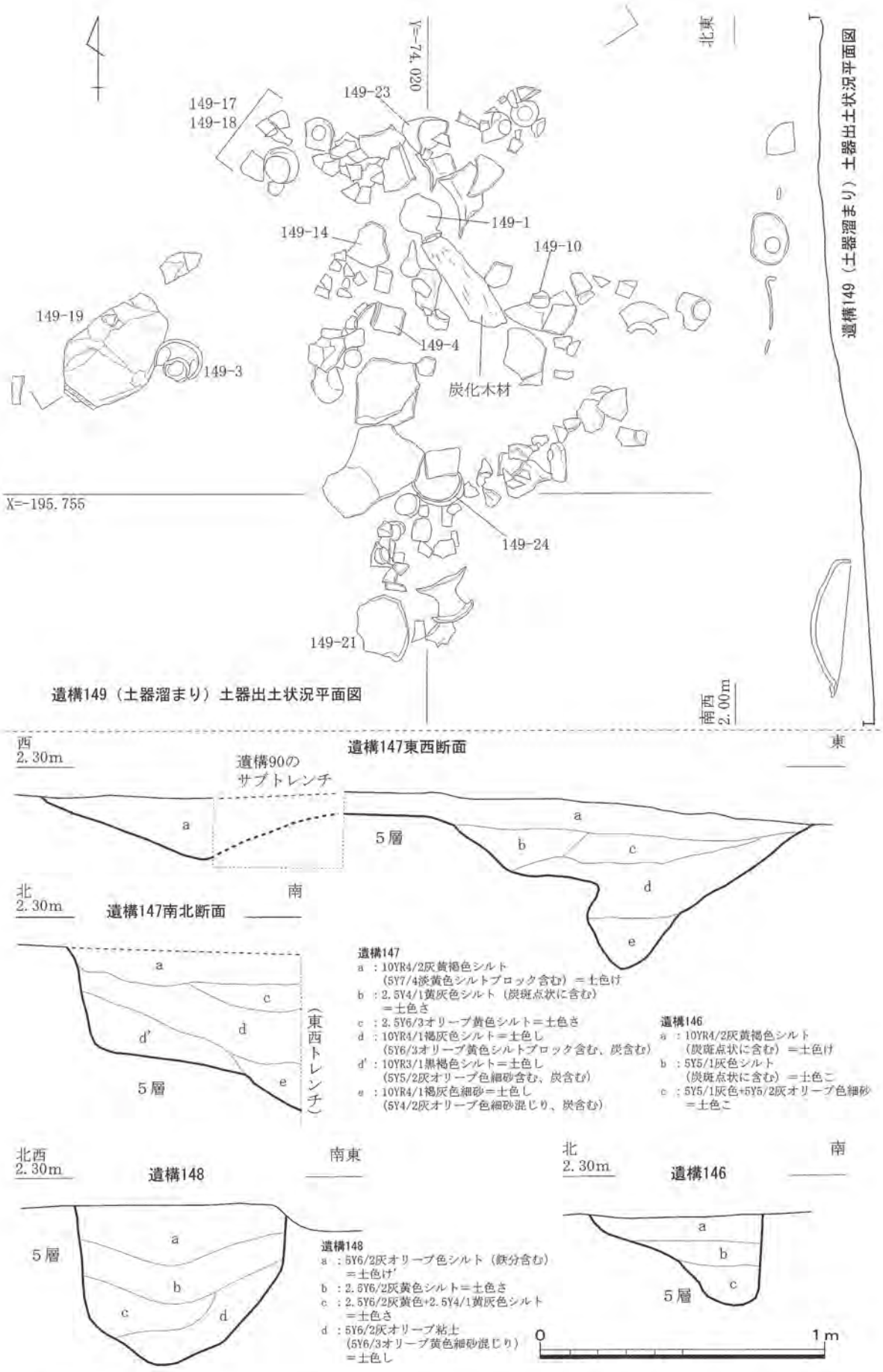
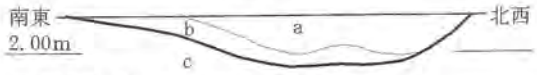


図93　遺構149（土器溜まり）土器出土状況平面図／A区北東部土坑群断面図　（S＝1/20）

遺構296



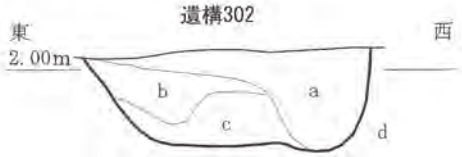
a：2.5Y3/1黒褐色シルト（炭含む）＝土色あ
b：2.5Y4/1黄灰色シルト（炭少量）＝土色い
c：5Y5/2灰オリーブ色シルト（鉄分斑点状に含む）＝地山（9層）

遺構297



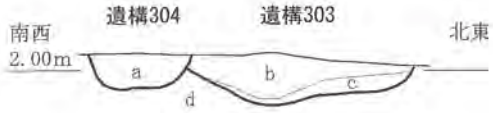
a：2.5Y4/1黄灰色シルト（土色い）＋10YR4/4褐色シルト（地山9層の土）
b：炭層
c：2.5Y4/1黄灰色細砂＝土色い
d：10YR4/4褐色シルト（鉄分斑点状に含む）＝地山（9層）

遺構302



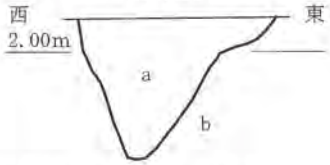
a：2.5Y3/1黒褐色シルト（細砂混じり、炭含む）＝土色あ
b：2.5Y4/1黄灰色細砂（炭少量）＝土色い
c：10YR4/4褐色シルト＝土色え
d：10YR5/2灰オリーブ色細砂（シルト混じり、鉄分斑点状）＝地山（9層）

遺構304　遺構303



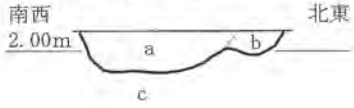
a：2.5Y3/1黒褐色シルト（炭・鉄分少量）＝土色あ
b：10YR2/1黒色シルト＋2.5Y3/1黒褐色シルト（炭多く含む）＝土色か
c：2.5Y5/3黄褐色シルト～細砂（土色あ＋地山）＝土色う
d：5Y5/2灰オリーブ色シルト（鉄分斑点状に含む）＝地山（9層）

遺構305



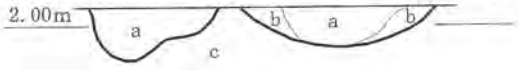
a：2.5Y3/1黒褐色シルト（炭含む）＝土色あ
b：10YR6/1褐灰色細砂＝地山（7層）

遺構306



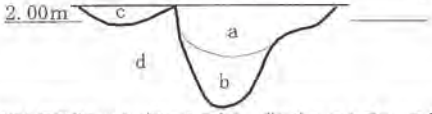
a：2.5Y3/1黒褐色シルト（黒褐色シルトブロック含む、炭多く含む）＝土色あ
b：2.5Y5/3黄褐色シルト～細砂（土色あ＋地山）＝土色う
c：5Y5/2灰オリーブ色細砂（鉄分斑点状に含む）＝地山（9層）

遺構327　遺構328



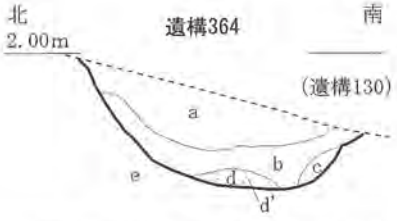
a：2.5Y3/1黒褐色シルト（炭含む）＝土色あ
b：2.5Y3/1黒褐色＋5Y5/2灰オリーブ色シルト
c：5Y5/2灰オリーブ色細砂＝地山（9層）

遺構331　遺構330



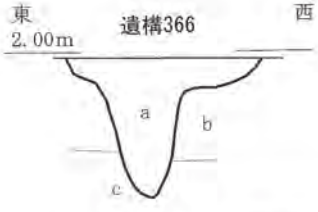
a：2.5Y3/1黒褐色シルト（炭・鉄分含む、黄灰色シルトブロック含む）
＝土色あ
b：2.5Y3/1黒褐色シルト（黄灰色ブロック少ない）
c：2.5Y5/3黄褐色シルト～細砂（土色あ＋地山）＝土色う
d：5Y5/2灰オリーブ色細砂（鉄分斑点状に含む）＝地山（9層）

遺構364



a：2.5Y4/1黄灰色シルト（炭少量、鉄分斑点状）＝土色い
b：2.5Y6/3黄褐色シルト～細砂（鉄分斑点状に含む）＝土色う
c：2.5Y4/2暗灰黄色シルト～中砂
d：2.5Y3/1黒褐色シルト
d'：2.5Y3/2黒褐色シルト～中砂
e：5Y5/2灰オリーブ色シルト（鉄分斑点状に含む）＝地山（9層）

遺構366



遺構367



a：2.5Y3/1黒褐色シルト（鉄分斑点状に含む、若干地山9層含む）
＝土色あ
b：5Y5/2灰オリーブ色シルト（鉄分斑点状に含む）＝地山（9層）
c：10YR4/4褐色細砂＝地山（9層）



図94　4層下面遺構（土坑）断面図　（S＝1/20）

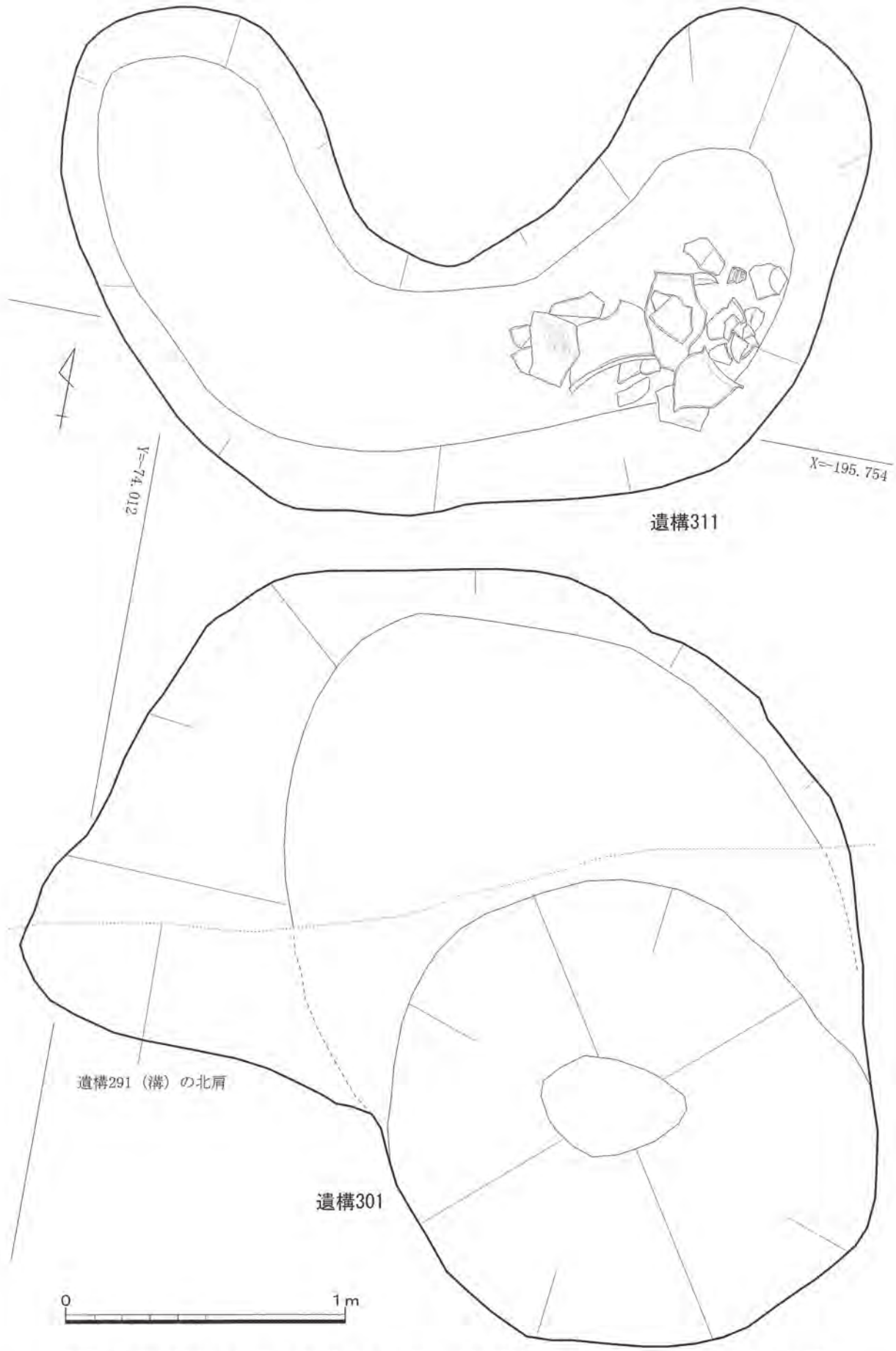
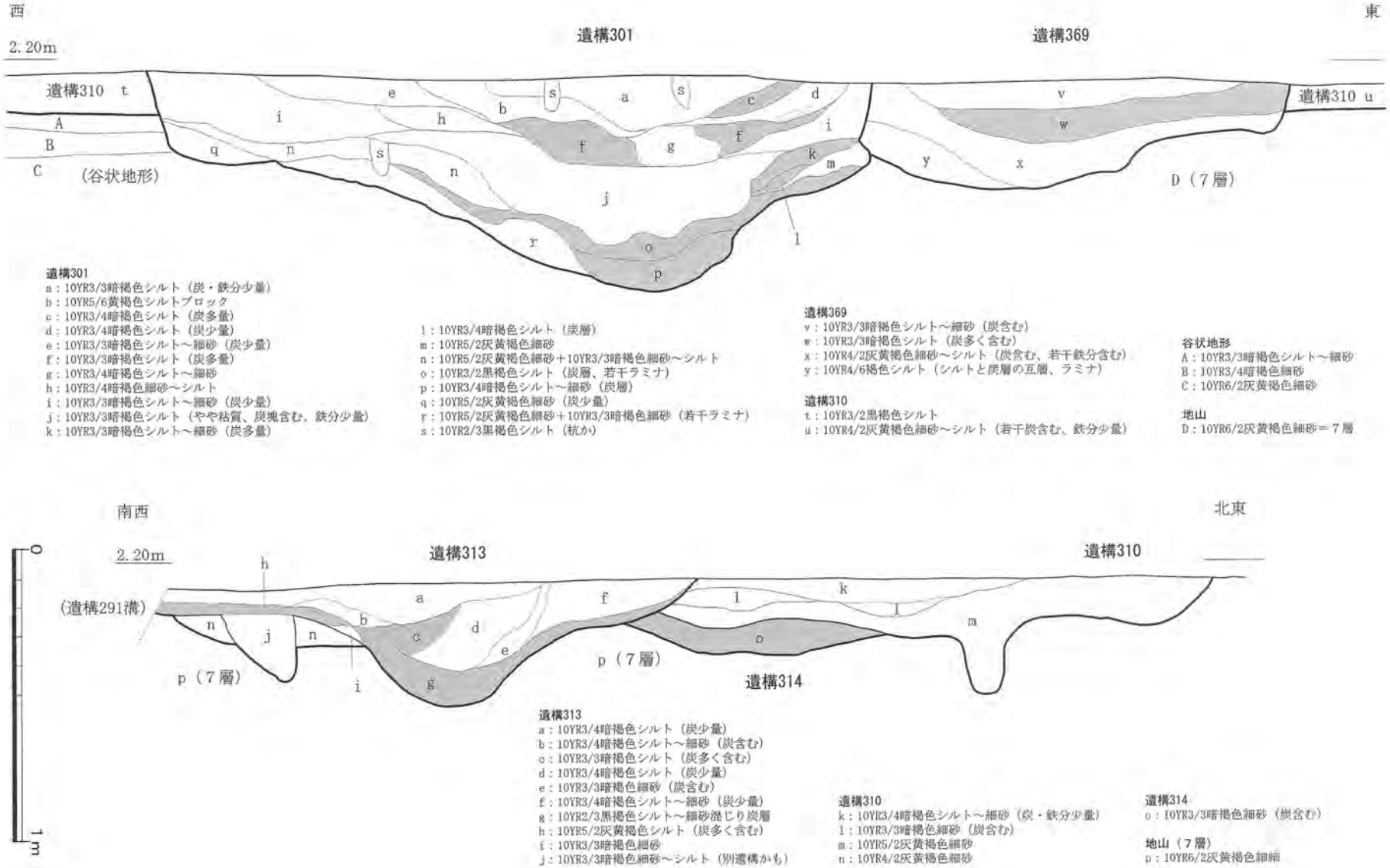


図95　B区南西部土坑群（遺構310土坑群）　遺構301・311（土坑）平面図　（S＝1/20）



遺構301
a：10YR3/3暗褐色シルト（炭・鉄分少量）
b：10YR5/6黄褐色シルトブロック
c：10YR3/4暗褐色シルト（炭多量）
d：10YR3/4暗褐色シルト（炭少量）
e：10YR3/3暗褐色シルト～細砂（炭少量）
f：10YR3/3暗褐色シルト（炭多量）
g：10YR3/4暗褐色シルト～細砂
h：10YR3/4暗褐色細砂～シルト
i：10YR3/3暗褐色シルト～細砂（炭少量）
j：10YR3/3暗褐色シルト（やや粘質、炭塊含む、鉄分少量）
k：10YR3/3暗褐色シルト～細砂（炭多量）
l：10YR3/4暗褐色シルト（炭層）
m：10YR5/2灰黄褐色細砂
n：10YR5/2灰黄褐色細砂＋10YR3/3暗褐色細砂～シルト
o：10YR3/2黒褐色シルト（炭層、若干ラミナ）
p：10YR3/4暗褐色シルト～細砂（炭層）
q：10YR5/2灰黄褐色細砂（炭少量）
r：10YR5/2灰黄褐色細砂＋10YR3/3暗褐色細砂（若干ラミナ）
s：10YR2/3黒褐色シルト（杭か）

遺構369
v：10YR3/3暗褐色シルト～細砂（炭含む）
w：10YR3/3暗褐色シルト（炭多く含む）
x：10YR4/2灰黄褐色細砂～シルト（炭含む、若干鉄分含む）
y：10YR4/6褐色シルト（シルトと炭層の互層、ラミナ）

遺構310
t：10YR3/2黒褐色シルト
u：10YR4/2灰黄褐色細砂～シルト（若干炭含む、鉄分少量）

谷状地形
A：10YR3/3暗褐色シルト～細砂
B：10YR3/4暗褐色細砂
C：10YR6/2灰黄褐色細砂

地山
D：10YR6/2灰黄褐色細砂＝7層

遺構313
a：10YR3/4暗褐色シルト（炭少量）
b：10YR3/4暗褐色シルト～細砂（炭含む）
c：10YR3/3暗褐色シルト（炭多く含む）
d：10YR3/4暗褐色シルト（炭少量）
e：10YR3/3暗褐色細砂（炭含む）
f：10YR3/4暗褐色シルト～細砂（炭少量）
g：10YR2/3黒褐色シルト～細砂混じり炭層
h：10YR5/2灰黄褐色シルト（炭多く含む）
i：10YR3/3暗褐色細砂
j：10YR3/3暗褐色細砂～シルト（別遺構かも）

遺構310
k：10YR3/4暗褐色シルト～細砂（炭・鉄分少量）
l：10YR3/3暗褐色細砂（炭含む）
m：10YR5/2灰黄褐色細砂
n：10YR4/2灰黄褐色細砂

遺構314
o：10YR3/3暗褐色細砂（炭含む）

地山（7層）
p：10YR6/2灰黄褐色細砂

図96　B区南西部土坑群（遺構310土坑群）断面図1　（S＝1/20）

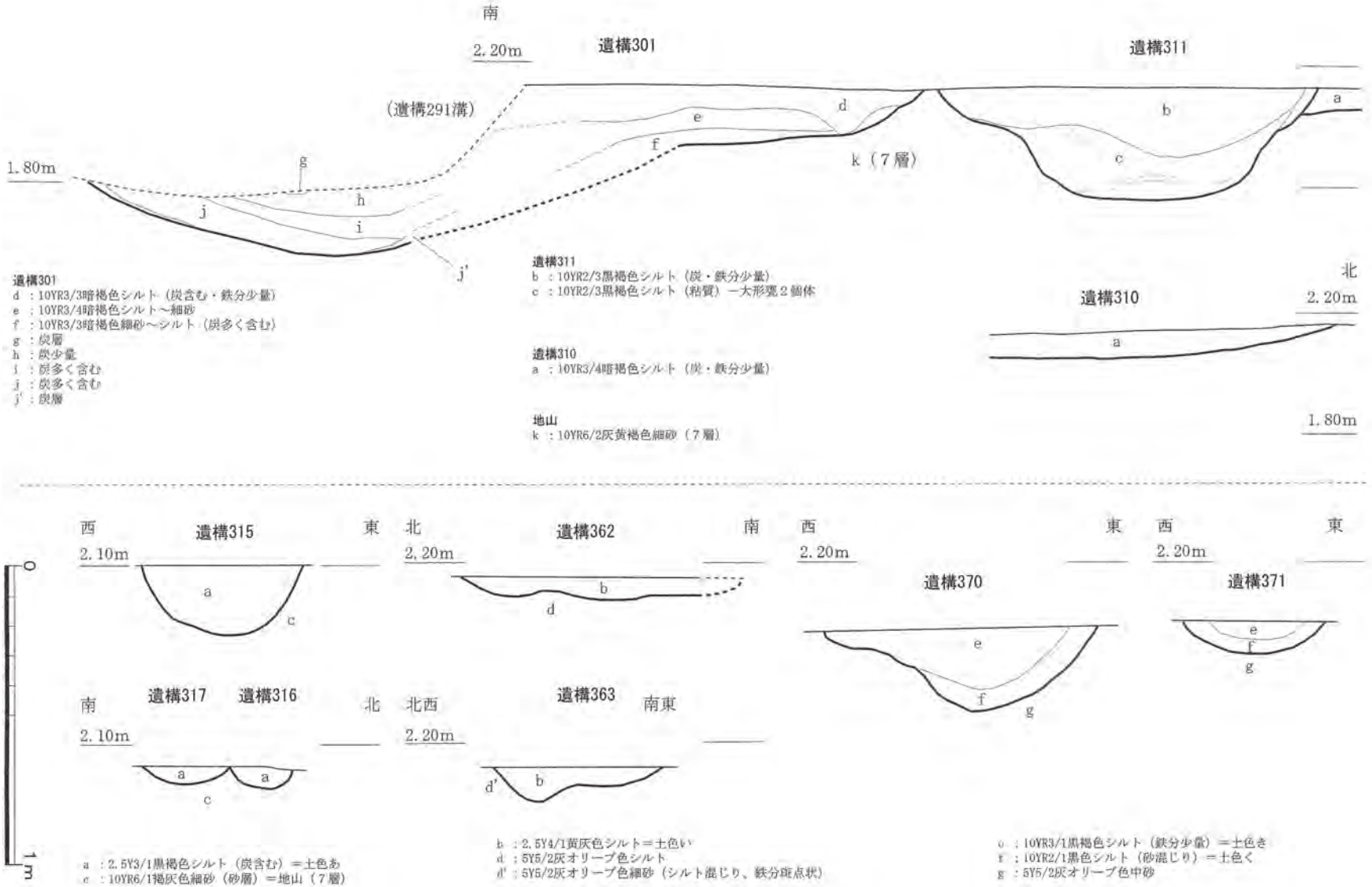


図97　B区南西部土坑群（遺構310土坑群）断面図２　（S＝1/20）

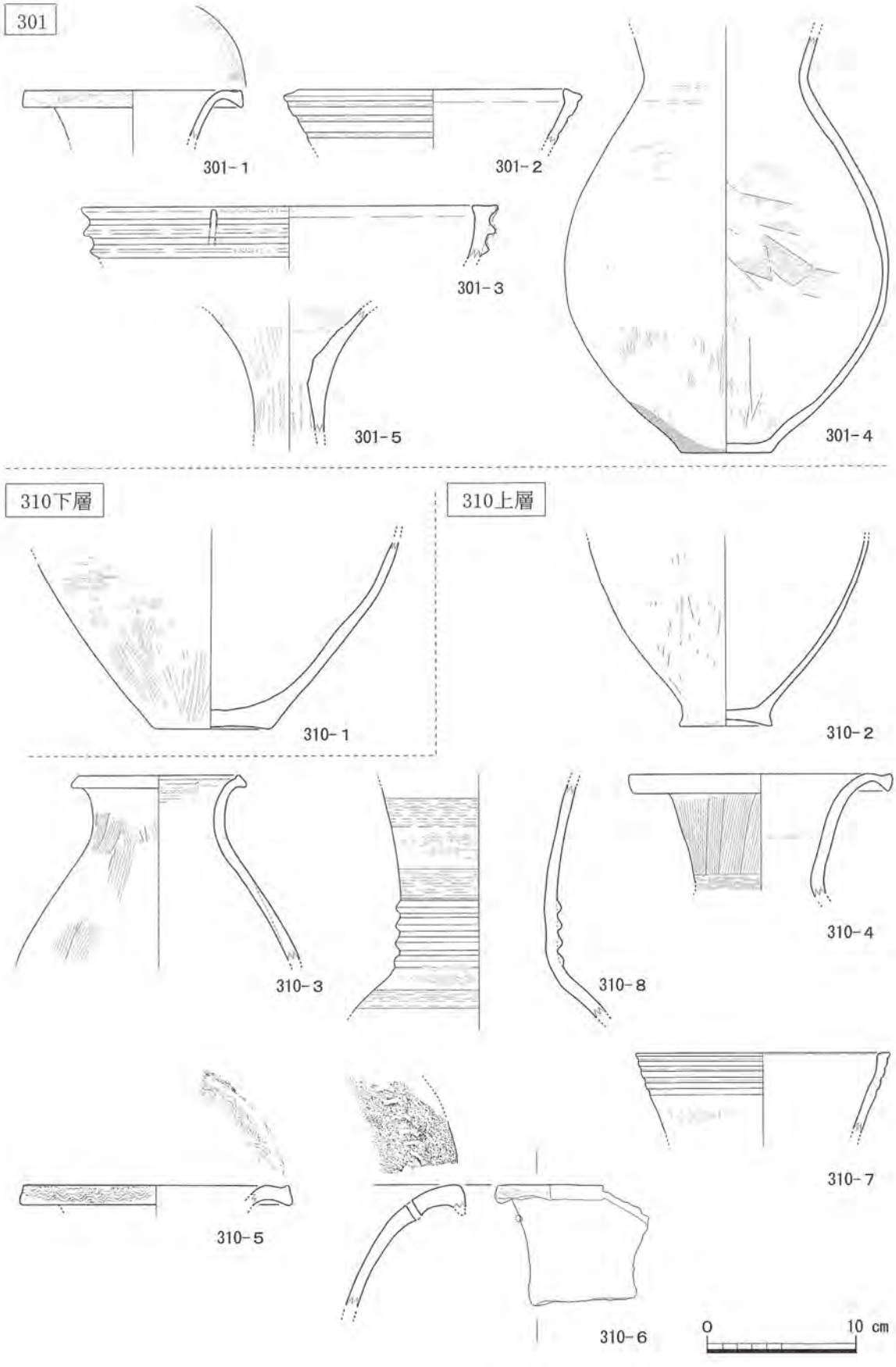


図98　遺構301・310（土坑）　遺物実測図　（S＝1/4）

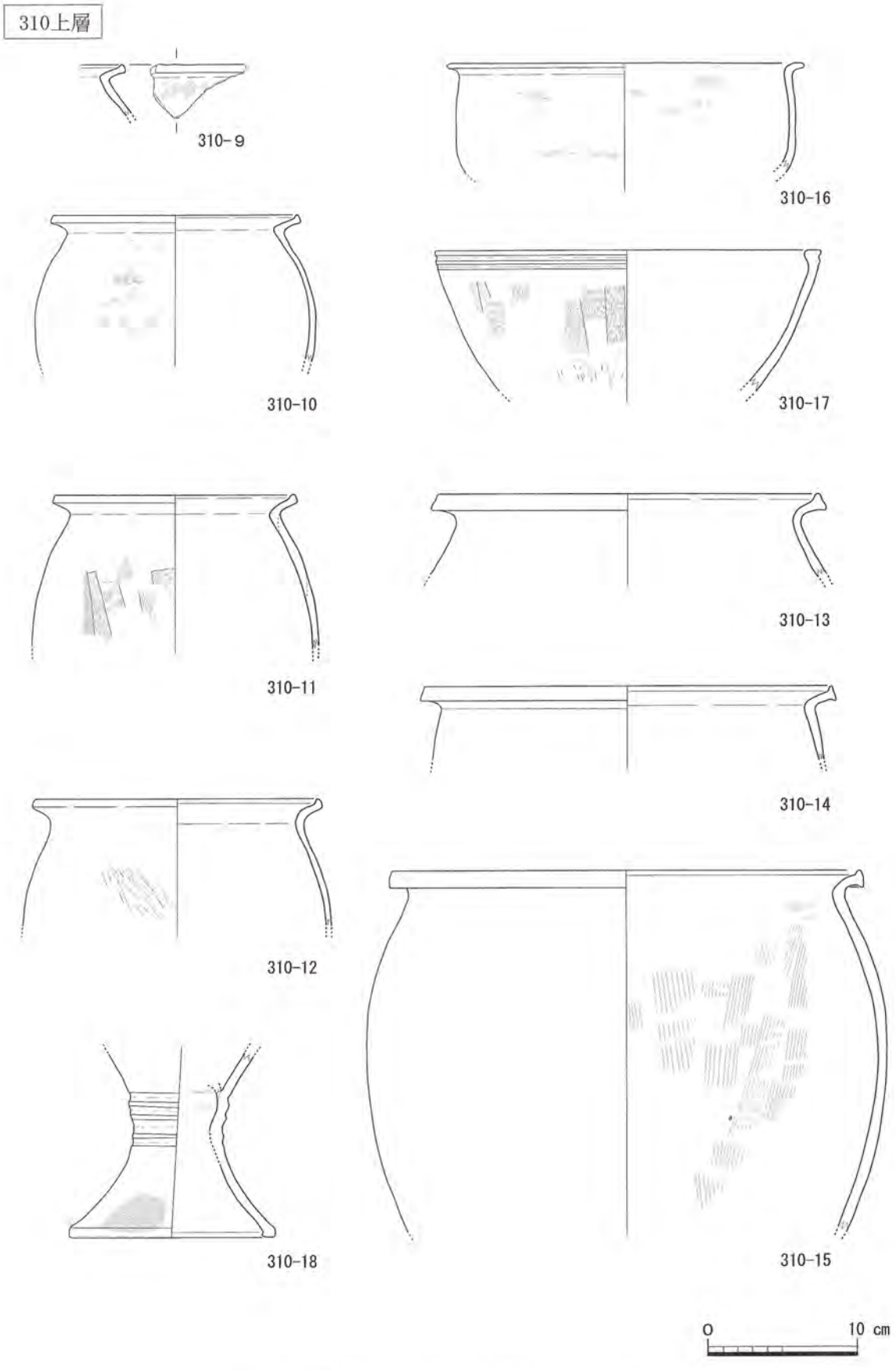
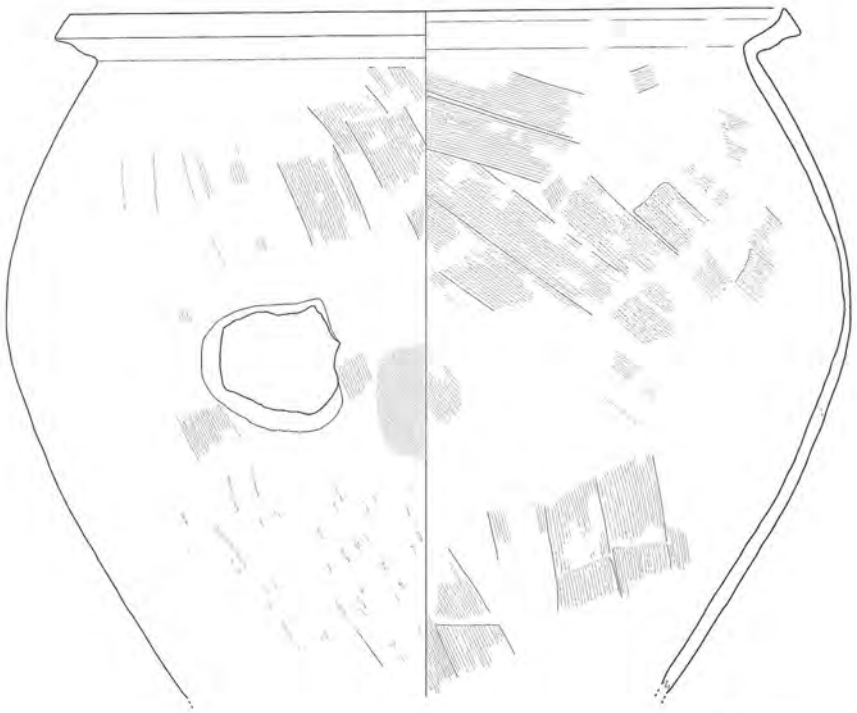
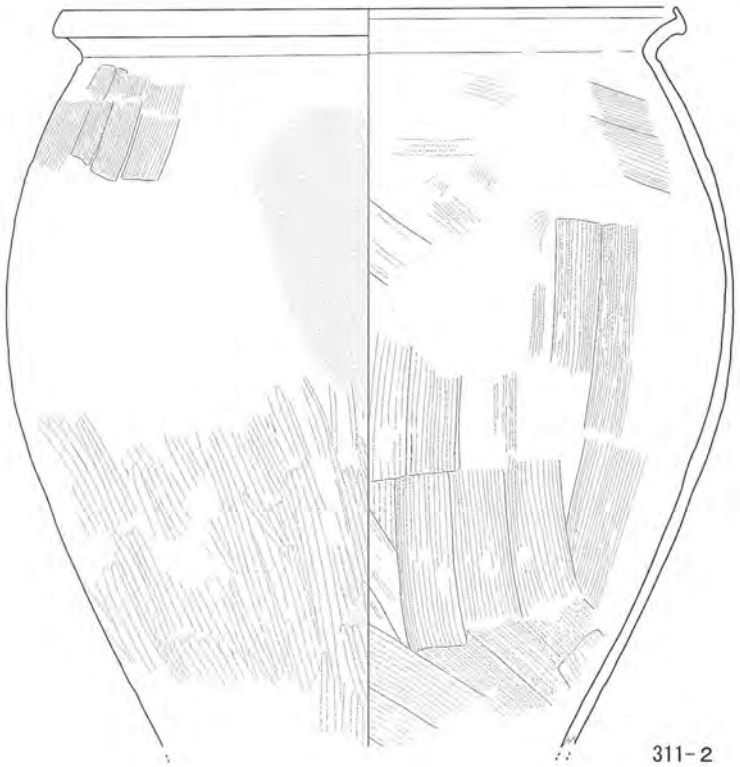


図99　遺構310（土坑）　遺物実測図　（S＝1/4）

311



311-1



311-2

0 10 cm

図100　遺構311（溝状土坑）　遺物実測図１　（S＝1/4）

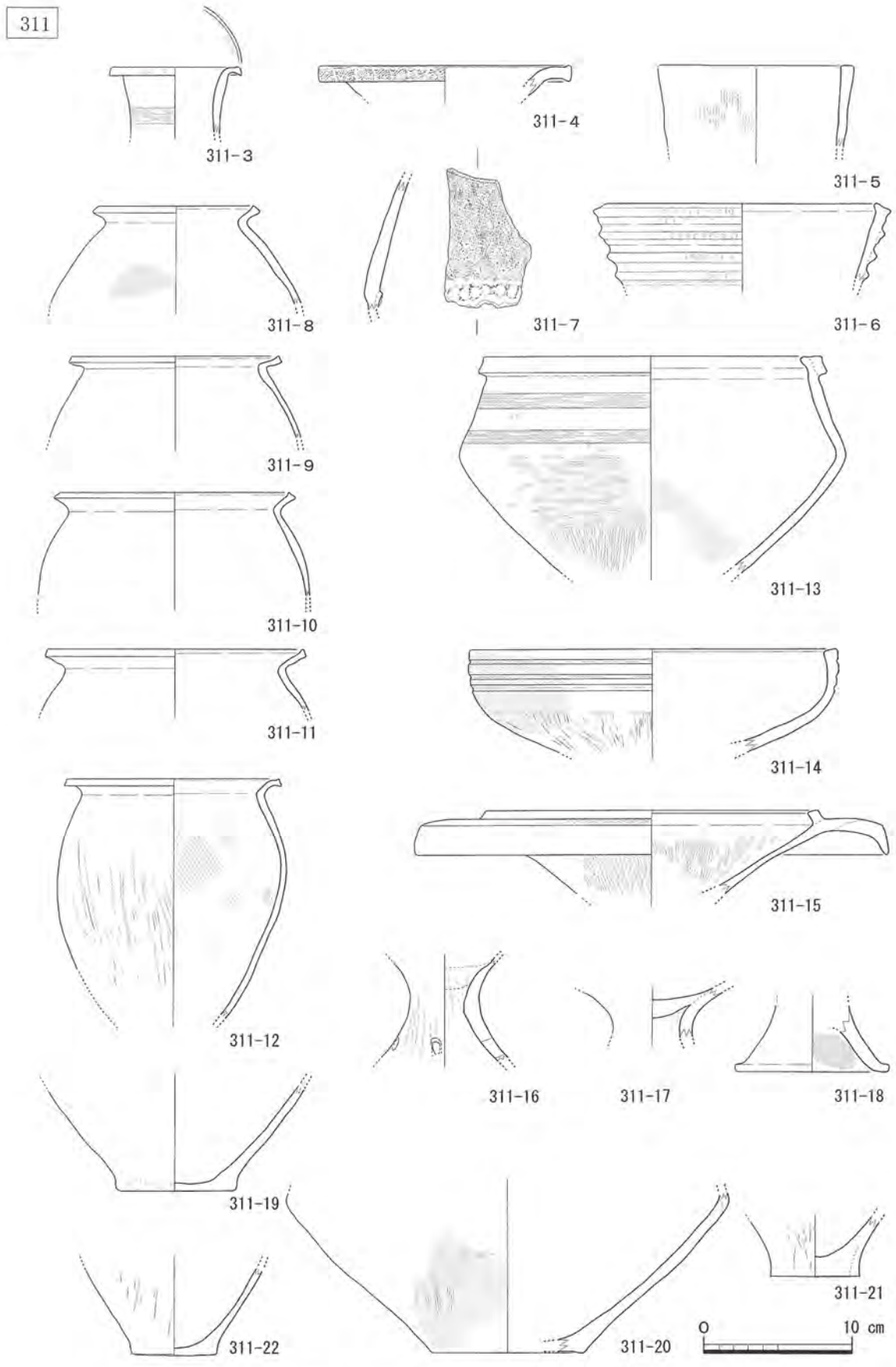


図101　遺構311（溝状土坑）　遺物実測図２　（S＝1/4）

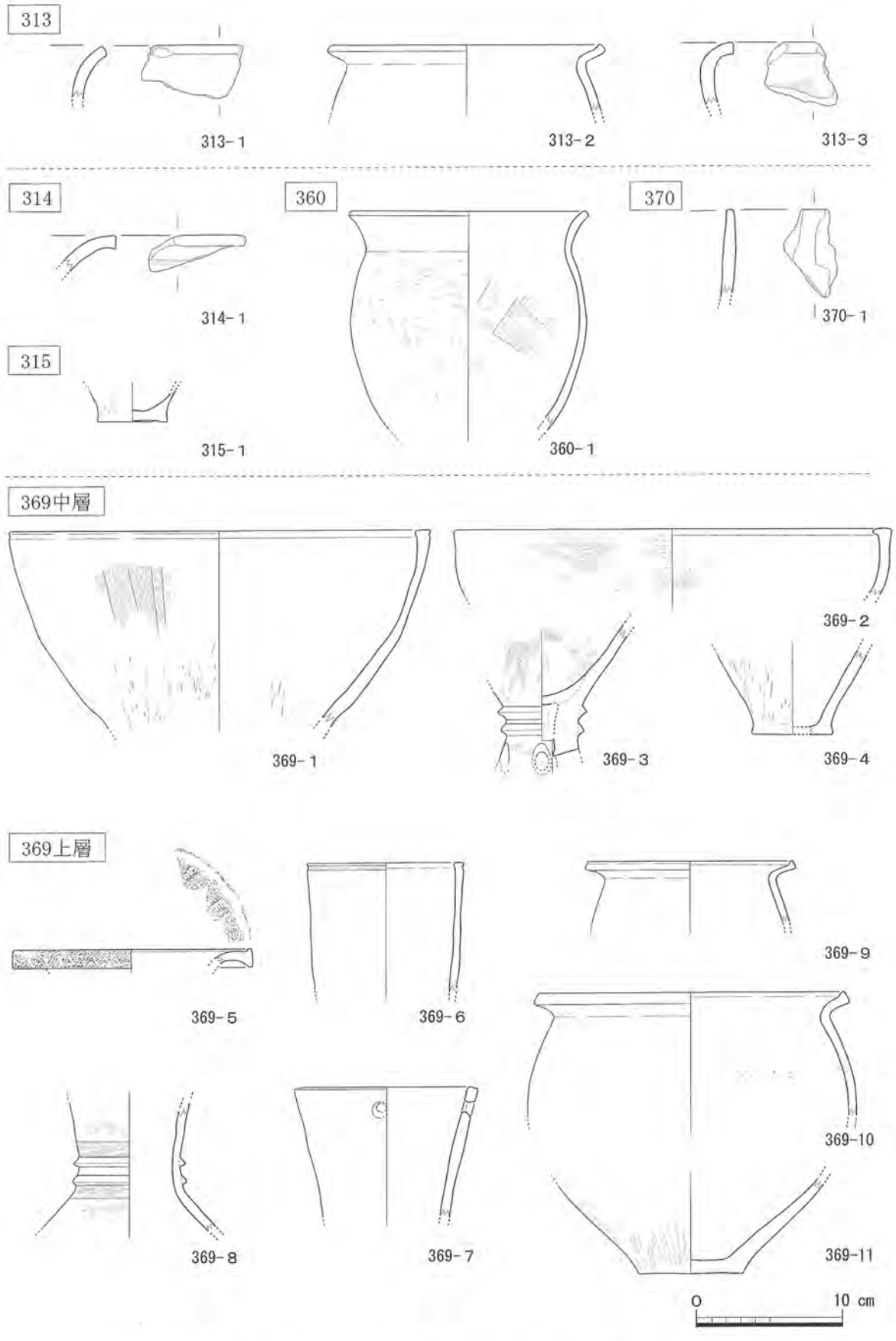


図102　遺構313・314・315・360・369・370（土坑）　遺物実測図　（S＝1/4）

第５節　弥生時代の遺構と遺物③（谷状地形）

１．谷状地形　＜図 103＞

Ａ区のほぼ全域を北西から南東方向に走向する幅約 15ｍの谷状の地形を確認した。埋土などの状況から人工的に作られた溝ではなく、谷状地形と判断した。自然地形に堆積した埋土ということや掘削土量・作業工程の関係で、谷状地形のすべての埋土は掘削せず、規模と時期の把握のため、Ａ区中央部に設けた幅 1.3ｍの東西トレンチおよび調査区北側側溝・西側側溝・南側側溝で部分的に掘削をおこなった（図 104、図 6 ～10 土層図）。

調査当初、谷状地形という認識がなく遺物包含層として遺物を取り上げていた。そのため、谷状地形の埋土下層を 6 層、埋土中層を 5 層として取り上げている。したがって、5 層と 6 層は谷状地形内だけに堆積する層を指している。埋土上層の堆積については、調査中に遺物包含層 4 層と区別して掘削することが出来なかったので、現状では 4 層と谷状地形上層の遺物を峻別することは難しい。土層断面の観察の結果、谷状地形上層と遺物包含層 4 層下部・上部の識別が可能になり、断面図上は谷状地形埋土上層を 4’ 層としておく。ただし、4 層下部は谷状地形のあるＡ区では確認されていないので、4’ 層と 4 層下部は同時期に堆積した可能性がある。

埋土の堆積は、6 層が灰色～青灰色シルトを中心とした堆積で、埋土の下層部分は滞水状況で堆積したものと推察できる。流水堆積がほとんど認められず、自然流路として機能していたかどうかははっきりとしない。5 層は黄灰色～明黄褐色シルトを中心とした堆積で、谷状地形埋没過程で埋土中層部分はある程度の乾燥した状況であったことが伺える。その後、埋土上層の 4’ 層によって谷状地形が完全に埋没した後に遺物包含層 4 層上部が形成されることになる。

埋土下層（6 層）からは、弥生時代中期前葉を中心とする土器が出土している（図 107）。一部は中期中葉に下る可能性がある。⑥-10 は兵庫県（摂津地域など）で多く出土する摂津型の水差形土器であるが、胎土中に結晶片岩が含まれることから紀ノ川流域で作られた土器と考えられる。6 層から弥生時代前期の土器はほとんど出土していないが、弥生時代前期以前に谷状地形が形成されていた可能性は否定できない。埋土中層（5 層）では弥生時代中期前葉～中葉の土器が出土している（図 105・106）。掲載した遺物のうち 5 層以下としているのは、側溝などから出土したもので、大半が 5 層の遺物と考えられるが、一部 6 層や 8 層の遺物が含まれる可能性があるものである。弥生時代中期中葉以降、谷状地形が埋没した部分に井戸などの遺構（4 層下面遺構）が造られることから、谷状地形は弥生時代中期中葉の前半には完全に埋没していたと推測できる。

埋土下層（6 層）を中心に木製品が出土している（図 112・113、付章第 7 節参照）。広鍬製作途中品（Ｍ１）や加工材（Ｍ２）、容器（Ｍ４）などが出土し、広鍬の製作途中品があることから、谷状地形の一部を木製品の水漬け用に利用していた可能性がある。

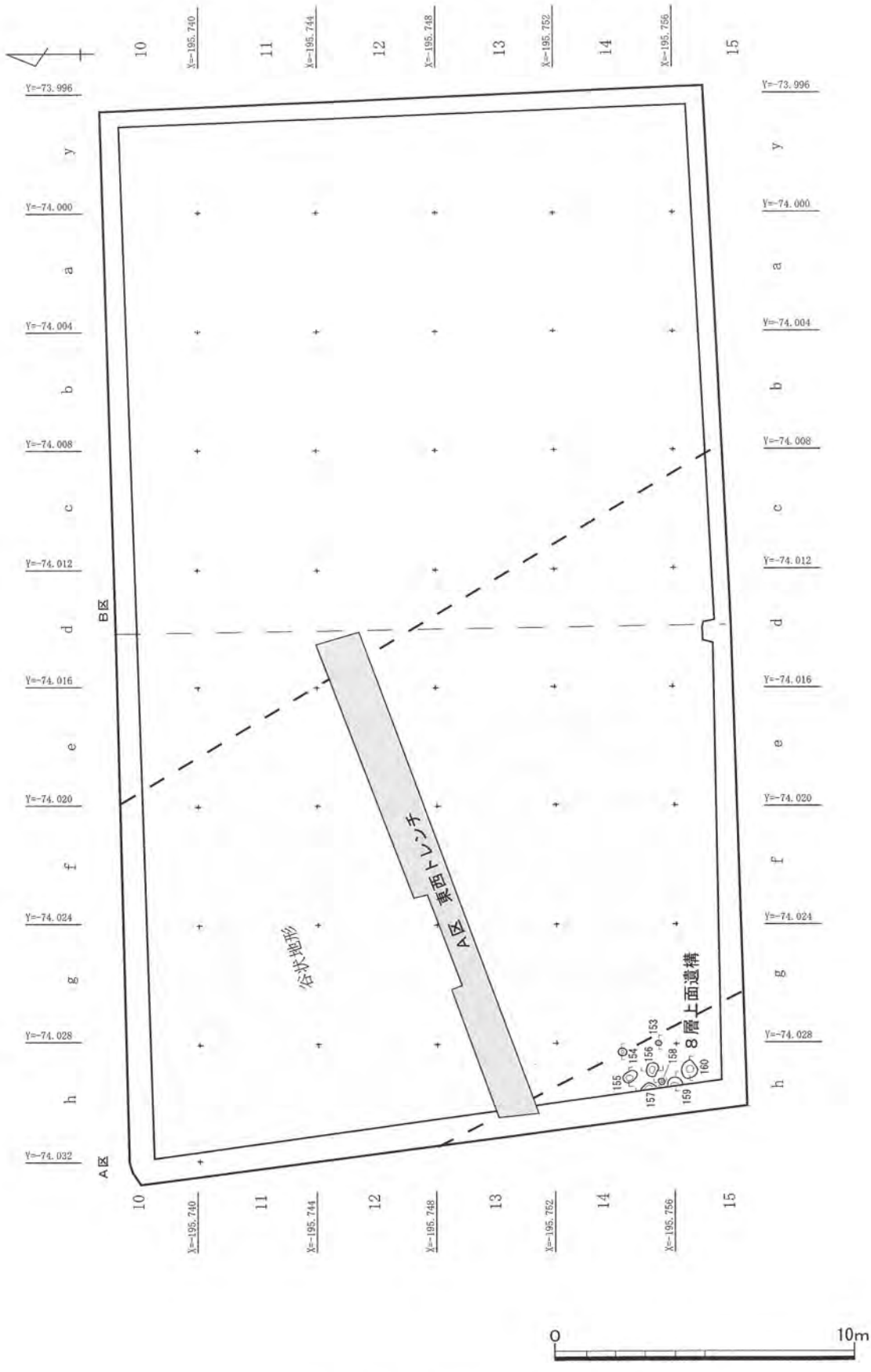


図103　谷状地形・８層上面遺構全体平面図　（S＝1/200）

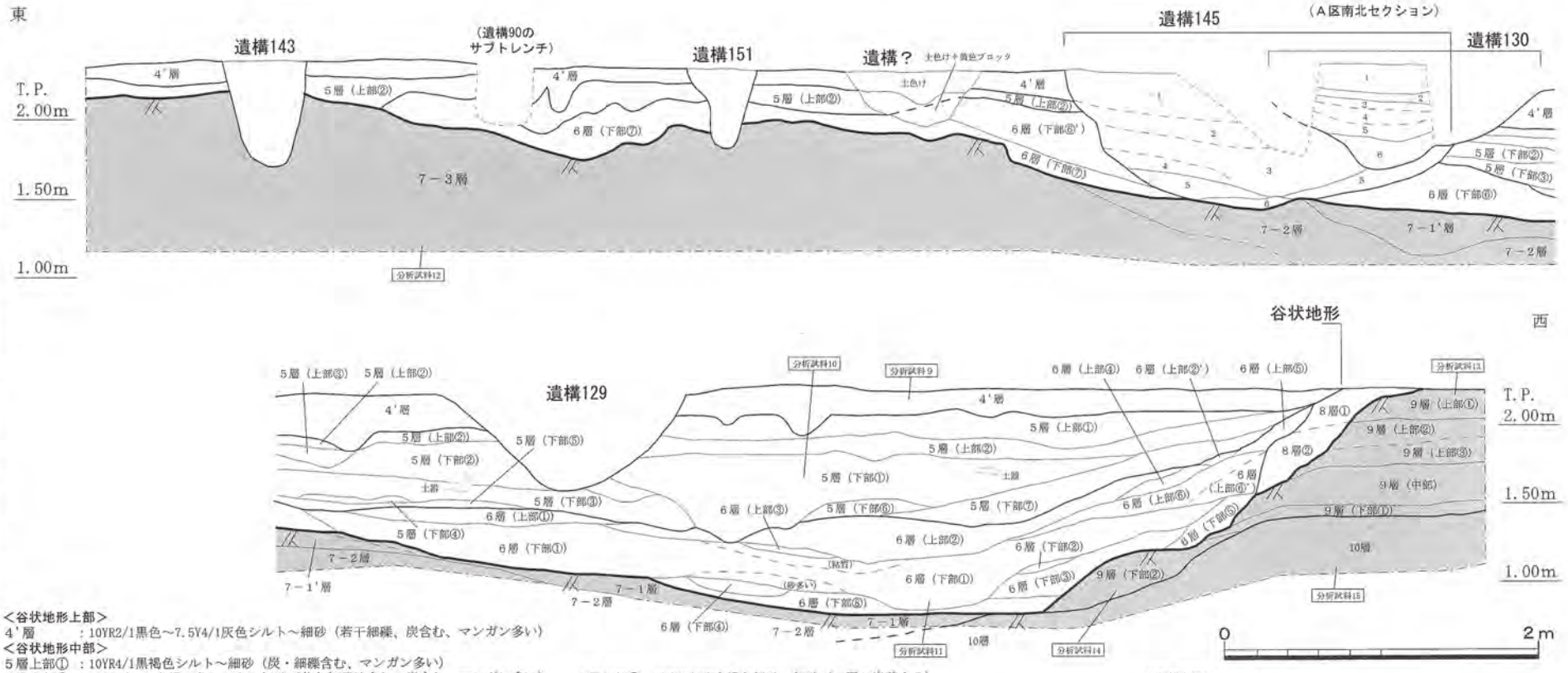


図104　A区東西トレンチ（谷状地形）土層断面図　（S＝1/40）

<谷状地形上部>
4'層　：10YR2/1黒色～7.5Y4/1灰色シルト～細砂（若干細礫、炭含む、マンガン多い）
<谷状地形中部>
5層上部①：10YR4/1黒褐色シルト～細砂（炭・細礫含む、マンガン多い）
5層上部②：10YR5/1～4/1褐灰色シルト～細砂（黄色細礫粒含む、炭含む、マンガン多い）
5層上部③：2.5Y7/4浅黄色細砂～シルト（黄色シルト混じり）
5層下部①：2.5Y5/1黄灰色シルト～細砂（やや粘質、若干鉄分・炭含む）
5層下部②：2.5Y7/6明黄褐色シルト～粘土
5層下部③：2.5Y8/3淡黄色シルト～粘土（粘質大、若干鉄分含む）
5層下部④：2.5Y3/3暗オリーブ色細砂
5層下部⑤：7.5YR7/4にぶい褐色シルト～粘土（粘質大）
5層下部⑥：2.5Y6/6明黄褐色細砂（粘質なし）
5層下部⑦：2.5Y6/2灰黄色シルト（粘質、炭化物多い）
<谷状地形下部>
6層上部①：5Y6/1灰色細砂混じりシルト（炭・鉄分含む）
6層上部②：2.5Y3/2黒褐色シルト（粘質大、炭・木質含む）
6層上部②'：7.5Y7/2灰白色シルト（粘質、炭多い）
6層上部③：青灰色細砂
6層上部④：2.5Y5/6黄褐色シルト～細砂
6層上部⑤：5Y7/6黄色シルト～細砂（マンガン含む）
6層上部⑥：2.5Y4/4オリーブ褐色シルト（粘質大、炭含む、若干鉄分含む）
6層上部⑥'：2.5Y5/3黄褐色シルト（やや粘質、若干炭含む）
6層下部①：5Y3/1オリーブ黒色シルト（粘質大、木質多く含む）
6層下部②：5GY4/1暗オリーブ灰色シルト（やや粘質）
6層下部③：7.5Y3/1オリーブ黒色シルト～細砂（木質あり）
6層下部④：5YR3/6暗赤褐色粗砂～細砂（７層の崩落土？）
6層下部⑤：2.5Y4/2暗灰黄色シルト～細砂
6層下部⑥：2.5Y8/4淡黄色シルト～粘土（粘質大、若干鉄分含む）
6層下部⑥'：2.5Y7/6明黄褐色シルト（若干灰色細砂含む、鉄分含む）
6層下部⑦：10YR4/1褐灰色細砂～7.5Y5/1灰色細砂（若干黄色シルトブロック含む）
6層下部⑧：5BG4/1暗青灰色粗砂混じり中砂（流水堆積）
<遺物包含層>
8層①　：2.5Y4/6オリーブ褐色シルト（マンガン多く含む）
8層②　：2.5Y4/2暗灰黄色シルト（細砂含む、マンガン含む）
<地山>
7－1層　：5YR4/6赤褐色～7.5YR3/4暗褐色粗砂～細砂（非常に硬く締まる、粘質なし）
7－1'層　：7.5YR6/1褐灰色＋7.5YR4/3褐色粗砂から細砂
7－2層　：10YR5/4にぶい黄褐色細砂～粗砂（流水堆積）
7－3層　：7.5Y6/1灰色細砂～粗砂（流水堆積）
9層上部①：2.5Y4/6オリーブ褐色シルト（マンガン含む）
9層上部②：2.5Y5/4黄褐色シルト（やや粘質）
9層上部③：2.5Y4/3オリーブ褐色細砂（若干黄褐色シルト含む）
9層中部　：2.5Y5/3褐色シルト（粘質、上部に若干鉄分あり）
9層下部①：5Y5/4オリーブ色粘土～シルト（粘質大）
9層下部②：5GY3/1暗オリーブ灰色中砂混じり細砂～シルト
10層　：2.5GY6/1オリーブ灰色シルト～粘土（粘質大）

<遺構130>
1　：7.5YR3/1黒褐色細砂～シルト
2　：10YR7/1灰白色シルト～粘土
3　：10YR4/1褐灰色シルト混じり細砂
4　：10YR5/1褐灰色細砂（若干シルト）
5　：10YR3/2黒褐色細砂～シルト（細礫含む）
6　：10YR2/1黒色シルト
<遺構145>
1　：10YR2/1黒色シルト～細砂（炭含む）
2　：10YR2/1黒色（黄色シルト混じり、炭含む）
3　：7.5Y5/1灰色シルト（炭含む）
4　：7.5Y6/1灰色細砂（シルトブロック含む、炭含む）
5　：7.5Y4/1灰色細砂
6　：7.5Y4/1灰色細砂（炭含む）
<遺構143>
10YR1.7/1黒色細砂（若干シルト混じり、炭含む、若干粘質）＝土色け
<遺構151>
10YR1.7/1黒色細砂（若干シルト混じり、炭含む、若干粘質）＝土色け

5層

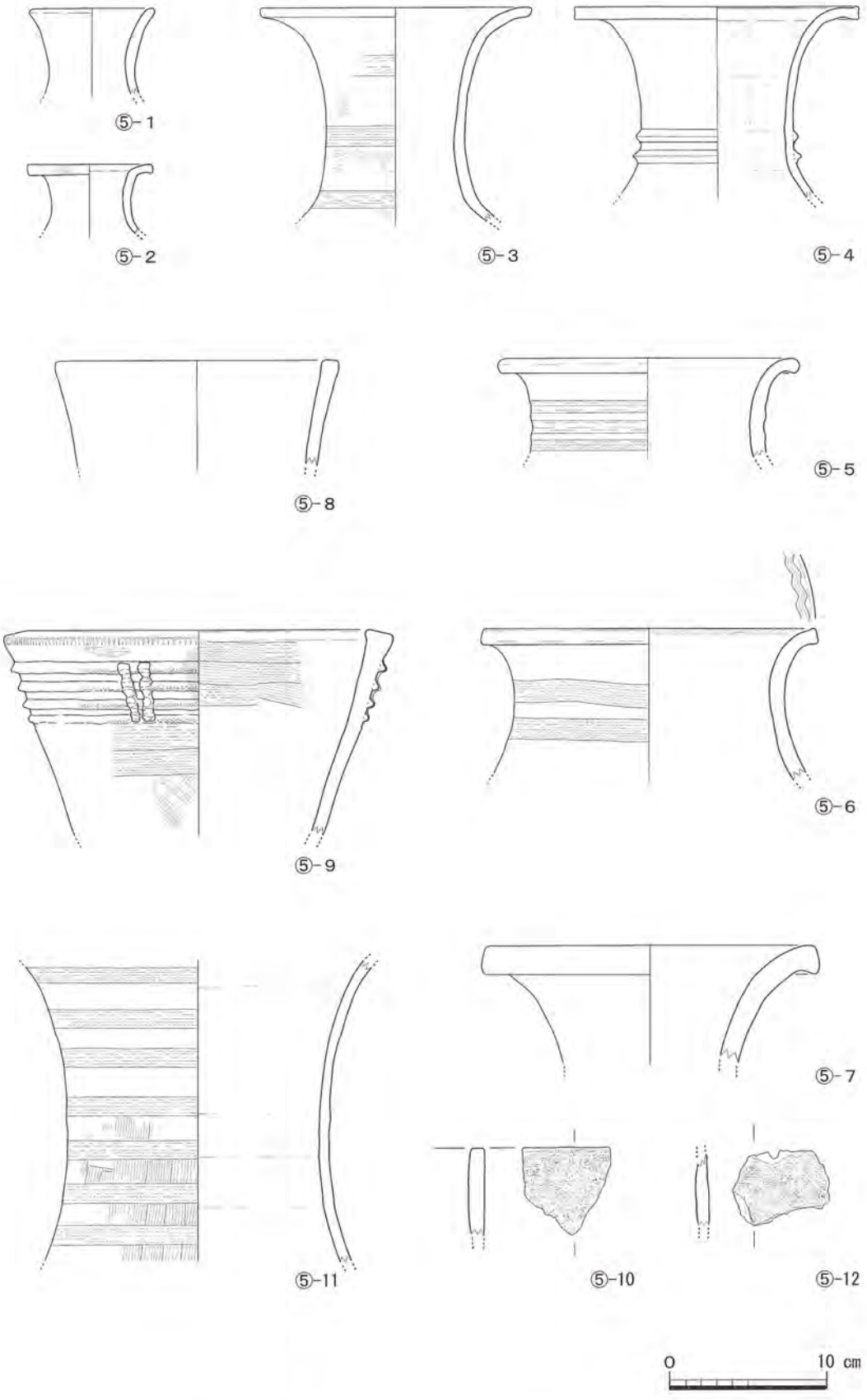


図105　5層（谷状地形）　遺物実測図　（S＝1/4）

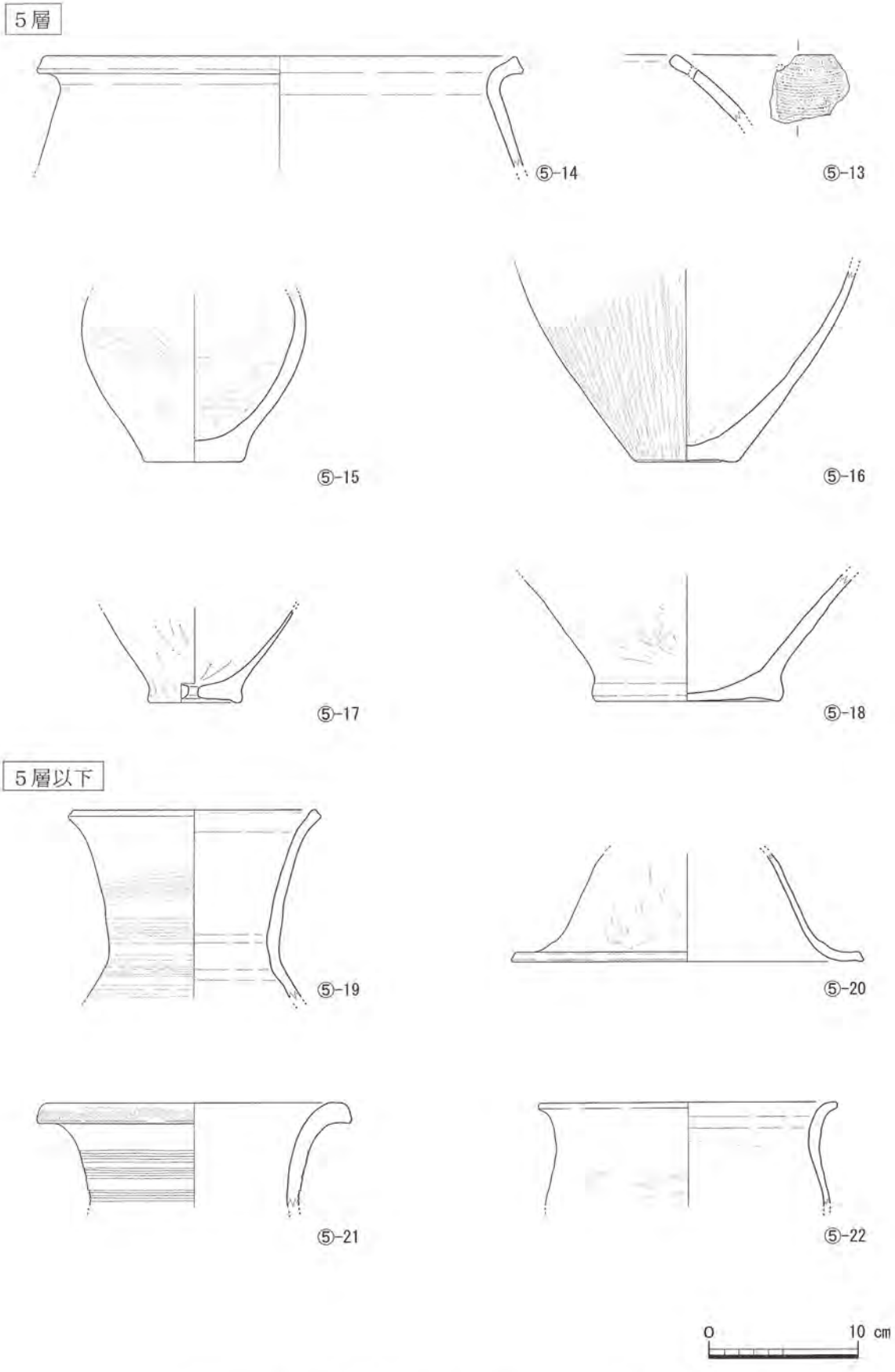


図106　５層・５層以下（谷状地形）　遺物実測図　（S＝1/4）

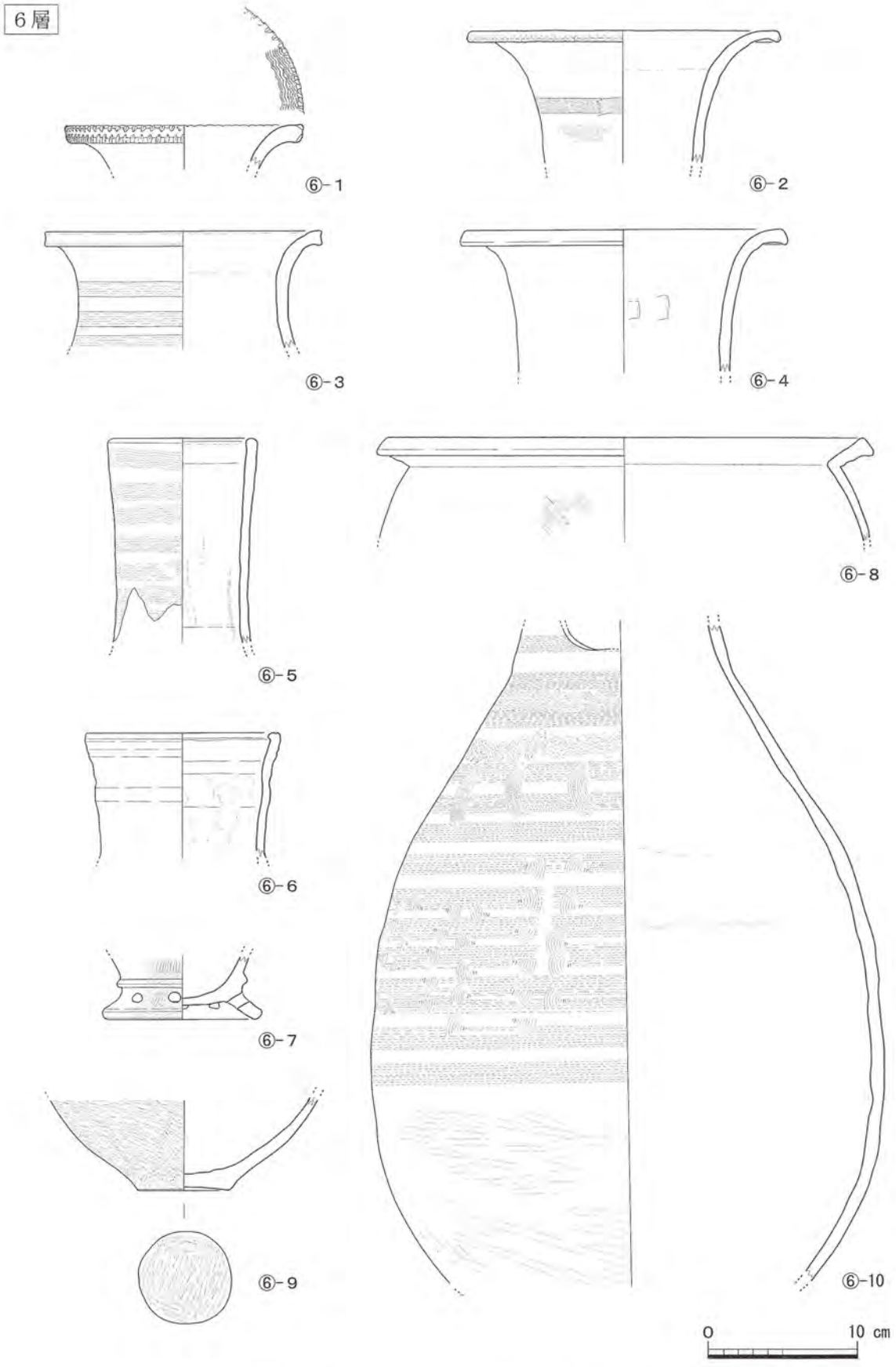


図107　6層（谷状地形）　遺物実測図　（S＝1/4）

第６節　弥生時代の遺構と遺物④（８層上面遺構面）

１．８層上面遺構　＜図 103＞

８層（８－１層）は、地山（９層）と類似した黄褐色のシルト層で、弥生時代前期末の土器を含んでいる。８層はＡ区南西端で確認でき、この層の上面で土坑を数基検出した（図 108）。遺構 155～160 からそれぞれ弥生時代前期の土器が出土している（図 109）。そのうち遺構 156 は甕が１個体横たわった状態で検出でき（156-1）、遺構 155 や遺構 158 は土器底部が直立状態で出土しており、土器棺の可能性がある。出土した土器は、沈線が多条化しており、弥生時代前期末の所産と考えられる。一部は中期前葉にかかる可能性もあるが、櫛描文は認められない。また、遺構 160 の北東側の８層から結晶片岩製の環状石斧が１点出土している（写真図版 73　S 222）。

弥生時代前期の遺構はＡ区南西部で検出したのみで、それより東側では検出していない。またＡ区東半～Ｂ区にかけて弥生時代前期の土器はほとんど出土していない。このことから前期の遺構は今回の調査区の南西側に広がっていたと推定できる。先述した谷状地形が弥生時代前期に存在していて、その地形が集落範囲の境界となっていた可能性がある。なお、今回の調査では縄文時代の遺構・遺物は検出していない。

２．８－１層出土遺物

遺物包含層８－１層は、８層上面遺構が位置するＡ区南西部でのみ確認できる。この８－１層から弥生時代前期末の土器が出土している（図 110）。８層上面遺構や８－１層から出土した土器には、胎土に円礫～亜円礫の小礫・砂粒が多く含まれているが、弥生時代中期前葉以降の土器にはほとんど含まれなくなる（第５章第６節参照）。

３．その他の弥生時代前期の土器

８層上面遺構・８－１層が存在するＡ区南西部で、遺物包含層４層などから弥生時代前期の土器が出土しているので、ここで掲載する（図 110）。Ａ区南西部では４層の堆積は薄く、４層掘削時に下層の８－１層の遺物を掘り上げた可能性がある。③-1 は３－２層下面遺構から出土した土器で、④-1～④-5 は遺物包含層４層から出土した土器である。これらの土器には８層上面遺構や８－１層出土土器と同様に円礫～亜円礫が多く含まれ、これらと同時期の所産である可能性が高い。④-3 は円礫～亜円礫がほとんど含まれていない。瀬戸内地域の影響を受けたと考えられる逆Ｌ字形口縁の甕もしくは鉢が出土している（④-1、④-2）が、いずれも胎土中に結晶片岩が含まれるため紀ノ川流域で製作された土器と推察できる。

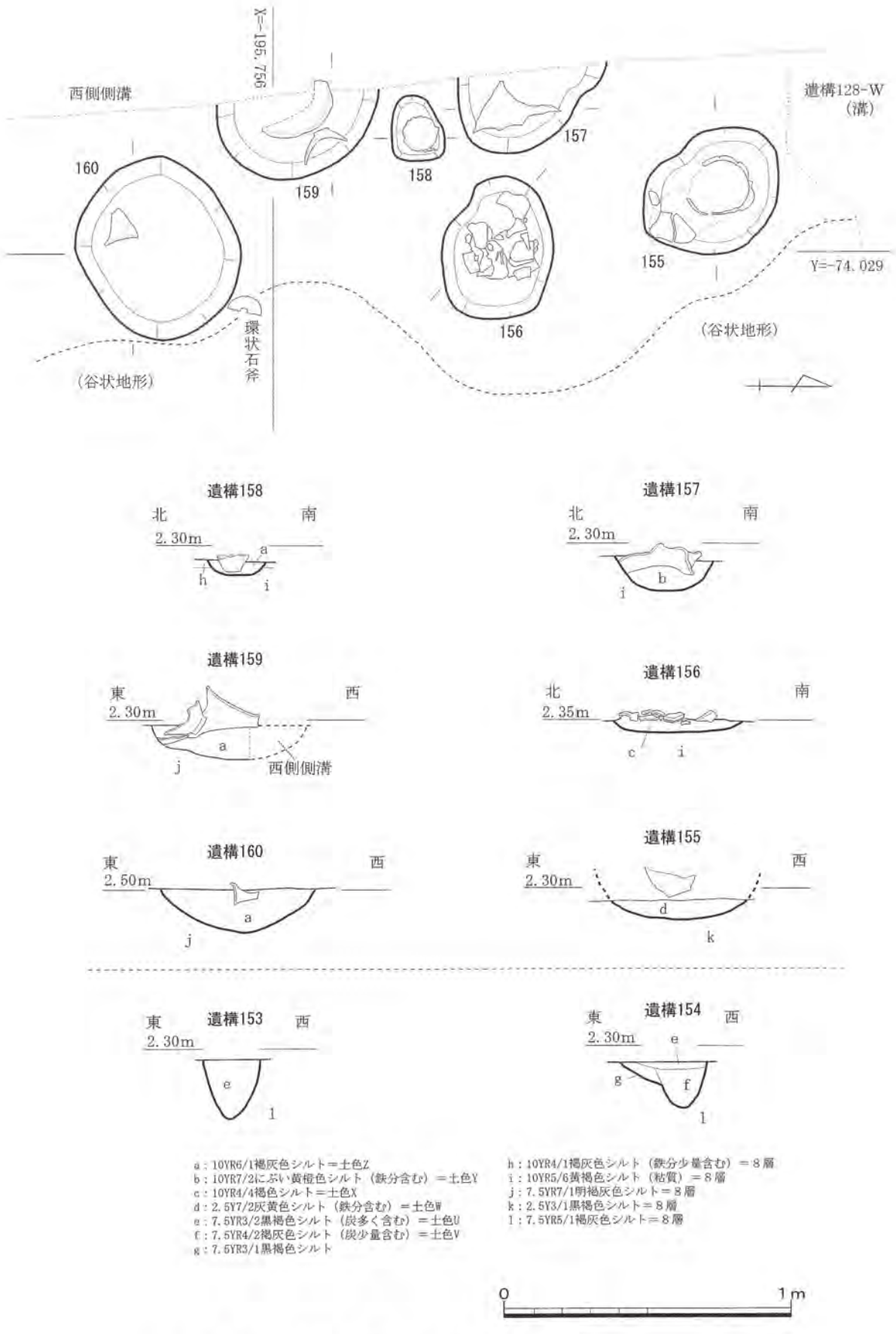


図108　A区南西部　8層上面遺構平面図・断面図　（S＝1/20）

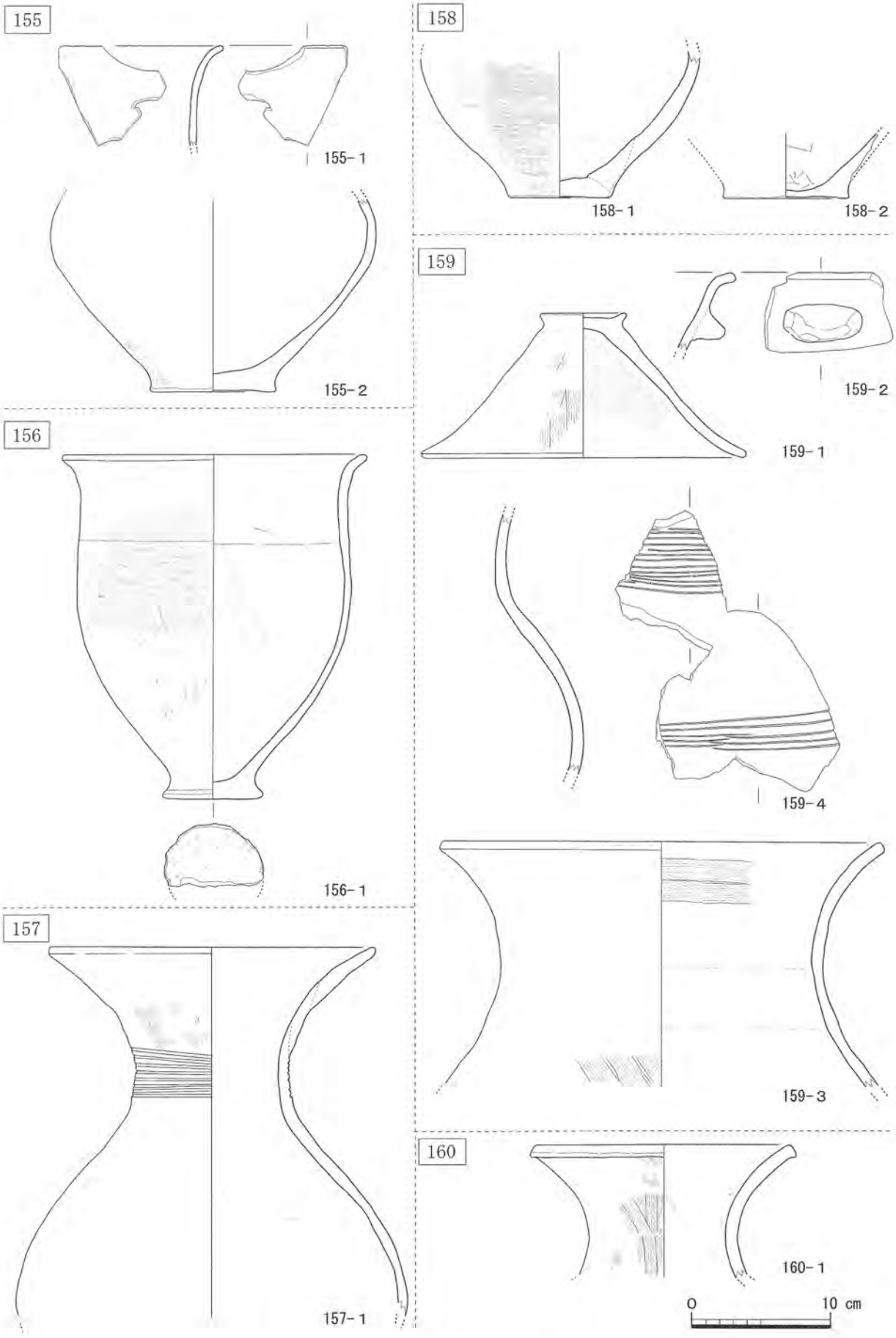
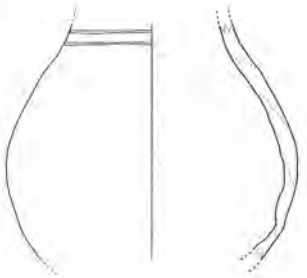
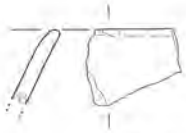


図109　８層上面遺構　遺物実測図　（S＝1/4）

8－1層



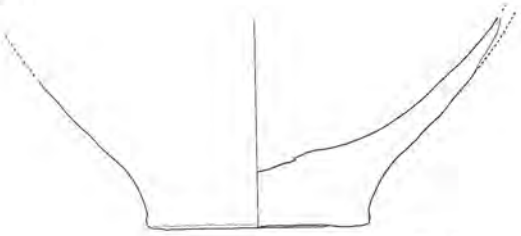
⑧－1



⑧－2

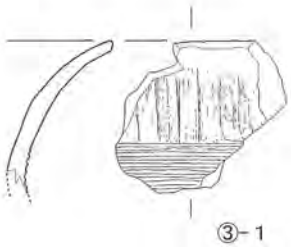


⑧－3

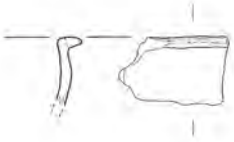


⑧－4

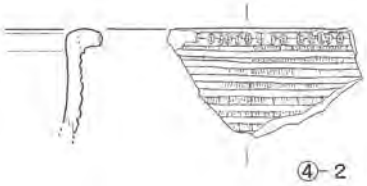
3層・4層



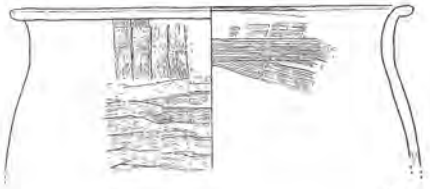
③－1



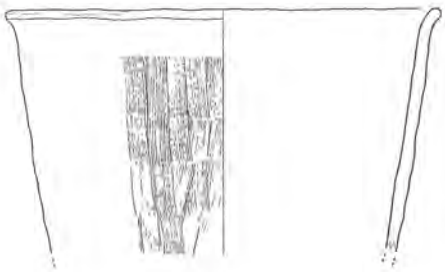
④－1



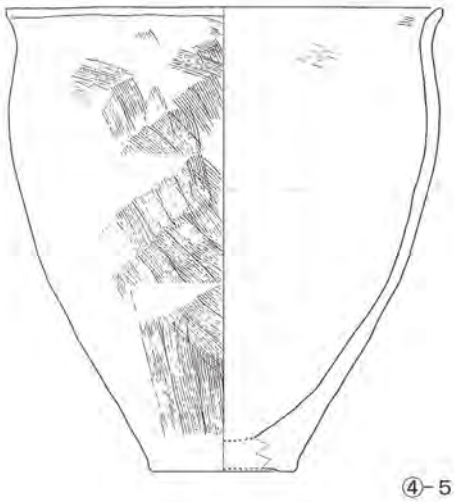
④－2



④－3



④－4



④－5



図110　遺物包含層出土　弥生時代前期土器　遺物実測図　（S＝1/4）

第７節　弥生時代の遺構と遺物⑤（土製品・石製品・木製品）

前節まで弥生時代の土器を掲載してきたが、ここではそれ以外の土製品・石製品・木製品などの遺物について説明する。土製品や石製品などは遺構出土のものもあるが、上層の遺構や遺物包含層（３層）などからの出土も多い。弥生時代の遺構から出土したものは、遺構出土土器とともに報告するべきであるが、今回は遺物全体を概観するためにここでまとめて記載することにした。したがって時期が判明する遺物と時期不明の遺物を同列に扱っており、詳細な時期ごとの検討はおこなっていない。個々の所属時期については観察表を参考にしてもらいたい。

１．土製品　＜図 111、写真図版 63＞

【土製紡錘車】　完成品が７点（Ｄ１～５、７、13）、製作途中品が１点（Ｄ６）出土している。このうち１点（Ｄ13）は穿孔部がはっきりせず、土製円板の可能性もあり、図示していない。いずれも土器片を転用したもので、穿孔はＤ２が敲打穿孔の可能性があり、それ以外は回転穿孔による。打ち欠き後に周縁部の一部を研磨する個体もあるが、周縁全体を完全に研磨するものはない。最小は径 3.1cm（Ｄ１）、最大は径 4.8cm（Ｄ２）で、Ｄ１以外の平均径は約 4.5cm となる。重量は、完形品のＤ１、Ｄ２、Ｄ５で、それぞれ 4.88g、14.94g、13.54g になる。Ｄ１以外はほぼ同様の大きさであるといえる。製作途中品のＤ６は中央部に径 0.6cm の穿孔途中孔をもつ。完成品のＤ４にも貫通する穿孔部近くに径 0.2cm の穿孔途中孔が残存している。

【土製円板】　25 点出土した（図示５点（Ｄ８～12）、その他 20 点（Ｄ14～33））。いずれも土器片からの転用で、周縁を打ち欠き後丁寧に研磨したもの（Ｄ９、10）、打ち欠き後に一部研磨したもの（Ｄ11、20、21、27、31～33）、打ち欠き後に研磨しないもの（Ｄ８、12、14～19、22～26、28～30）がある。正円形の個体（Ｄ９など）もあるが、楕円状のものが多い（Ｄ11 など）。最大の個体はＤ12（長径 7.7×短径 7.2cm）で、重量ではＤ11 が重い（56.1g）。一部は紡錘車の製作途中品と推定できるが、多くは紡錘車に比べて大きく、別の用途で製作された可能性がある。

【粘土塊】　図示していないが、Ｂ区遺構 290（溝）や遺構 310（土坑）、遺構 310 周辺の遺物包含層などから粘土塊が出土した。特に遺構 310 からは塊状の粘土塊が置かれたような形で出土している。粘土塊にはスサなどは含まれないが、Ｄ38 には棒状の痕跡が認められる。住居の屋根や壁に用いられた粘土ではなく、土器製作用の粘土であろうか。

【ミニチュア土器】　５点出土している（ＭＤ１～５）。ＭＤ５は小形の土器と考えた方がいいかもしれない。ＭＤ３、ＭＤ４は外面を丁寧にミガキ調整している。ＭＤ２の底部は平底ぎみで黒斑が認められる。ＭＤ２以外は底部（脚部）を指オサエで成形している。遺構 149（土器溜まり）から３点（ＭＤ３～５）出土し、遺構の評価を考察するうえで興味深い。

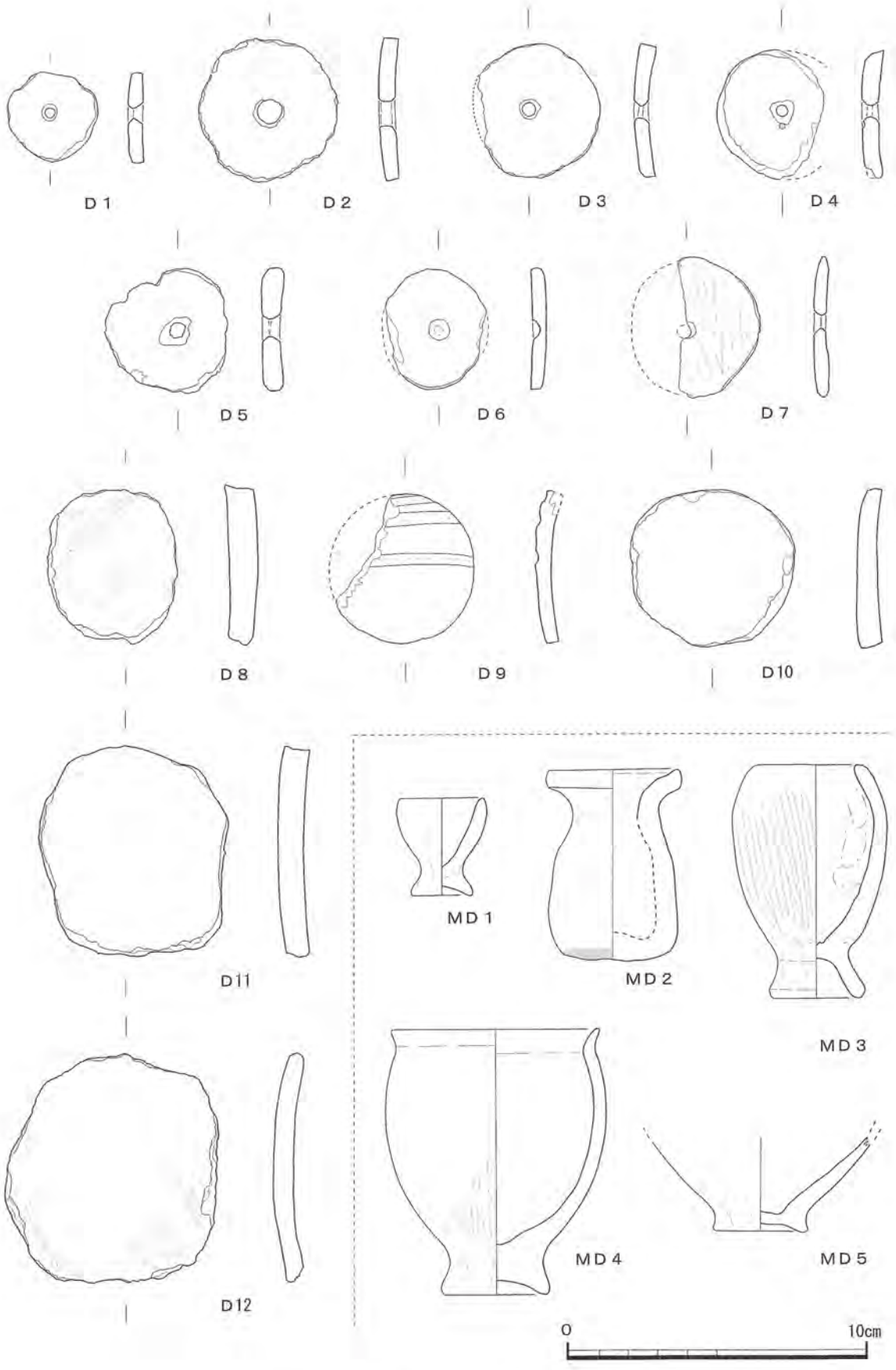


図111　土製品　遺物実測図　（S＝1/2）

2．石製品　<写真図版 64～73>

分類は基本的に『弥生時代の石器』（平井勝 1991、ニュー・サイエンス社）によるが、一部独自に細分した（石鏃の細分ａ・ｂなど）。記述した以外にサヌカイト製刃器（54 点以上）や素材剥片・剥片・チップ、石庖丁製作途中品（７点以上）、紅簾石片岩片、結晶片岩製棒状石製品（15 点以上）、礫石器などが出土している。石製品は図化しておらず、写真図版を参照してもらいたい。

【石鏃】　完成品 71 点が出土している。石材はＳ71 以外すべてサヌカイトである。完成品は基部の形状を分類基準とし、凹基式、平基式、凸基Ⅰ式（円基式）、凸基Ⅱ式（尖基式）、有茎式に分類する。さらに凹基式をａ・ｂに、平基式をａ～ｃに、凸基Ⅱ式をａ・ｂに、有茎式をａ～ｃに細分した。凹基式や平基式、凸基Ⅱ式ａはやや少なく、凸基Ⅱ式ｂ、有茎式が多い。

凹基式ａ：凹基式のうち、通常の大きさのものを凹基式ａとする。Ｓ１、Ｓ２の２点。Ｓ１はほぼ完形品で、細かい縁辺調整が施される。1.72g。

凹基式ｂ：凹基式のうち小形のものを凹基式ｂとする。Ｓ61 の１点。Ｓ61 は基部が凹基の形状をしているが、先端は尖っていないため石鏃でない可能性がある。小形で作りは丁寧である。

平基式ａ：平基式のうち通常の大きさのものを平基式ａとする。Ｓ３～Ｓ６の４点。Ｓ３は凹基式ぎみ、Ｓ４～６は凸基式ぎみの個体である（Ｓ５は基部欠損）。

平基式ｂ：平基式のうち大形のものを平基式ｂとする。中形尖頭器または大形石鏃と呼称することもできる個体である。Ｓ58 の１点。Ｓ58 は有茎式ｃのように細身でやや大形の個体であるが、基部の形状はやや凹基ぎみの平基式である。細かい縁辺調整が施される。

平基式ｃ：平基式のうち小形のものを平基式ｃとする。Ｓ59、Ｓ60 の２点。両者とも小形で完形品。先端が尖らないので石鏃でないかもしれない。重量はＳ59 が 1.18g、Ｓ60 が 0.79g。

凸基Ⅰ式：Ｓ７～Ｓ11 の５点。Ｓ10 は完形品で、涙滴形をしている。Ｓ11 はやや大形品である。

凸基Ⅱ式ａ：凸基Ⅱ式のうち木の葉状の形状のものを凸基Ⅱ式ａとする。Ｓ12～Ｓ15 の４点。Ｓ12 は完形品で、先端部付近に自然面を残す。Ｓ13 は製作途中品の可能性もある。

凸基Ⅱ式ｂ：凸基Ⅱ式のうち細身で柳葉状のものを凸基Ⅱ式ｂとする。Ｓ16～Ｓ25 の 10 点。一部は有茎式ａかもしれない。Ｓ17 は側縁が一部研磨される。Ｓ23 は細身で、石錐の可能性もある。

有茎式ａ：有茎式のうち細身で基部（茎）がそれほど明瞭に作り出されていないものを有茎式ａとする。Ｓ26～Ｓ38 の 13 点。Ｓ29、Ｓ30、Ｓ31 などは細身で厚みがあり、石錐の可能性もある。

有茎式ｂ：有茎式のうち幅広で基部（茎）が明瞭に作り出されるものを有茎式ｂとする。Ｓ39～Ｓ51 の 13 点。Ｓ42、Ｓ43 など中軸に稜線が通る個体がある。Ｓ45 は体部に自然面を残す。Ｓ49 は体部が一部研磨されている可能性がある。Ｓ47、Ｓ50 はやや小形、Ｓ51 はやや大形である。

有茎式ｃ：有茎式のうち細身でやや大形のものを有茎式ｃとする。中形尖頭器または大形石鏃と

も呼称できる形態である。S52～S57の6点。S52、S55～S57のように中軸上に稜線を作り出す個体がある。全体的に作りは丁寧で、特にS52は細かい縁辺調整が施される。

型式不明：S62～S71の10点。先端部または体部の破片で、基部の形態はわからない。S71は灰色チャート製で、通常の石鏃の形態や石材でないため、石鏃でない可能性がある（石錐か）。

【石鏃製作途中品】　S72～S78の7点。いずれもサヌカイト製である。厚みのあるものや形態が整わないものがあり製作途中品とした。S75、S77には自然面が残る。

【中形尖頭器】　大形石鏃、石槍とも呼べる形態で、厚みがあり、縁辺の調整などはそれほど丁寧に施されていない。いずれもサヌカイト製である。観音寺山遺跡（大阪府和泉市）の報告書では、長6cm・重さ15g以上の尖頭器を中形尖頭器と分類しており（同志社大学歴史資料館1999『大阪府和泉市観音寺山遺跡発掘調査報告書』）、今回はその用語を使用する。ただし今回この分類に入れたものは、基準以下のものであるが、石鏃（小形尖頭器）や大形尖頭器（石剣）とは異なる形態や成形の特徴を有しているため、中形尖頭器と呼称することにした。S79～S89の11点。S79は完形品で、長6.0cm×幅2.1cm、重量は9.73gである。S82、S87には一部自然面が残る。S80はほぼ完形品で、やや細身であるため、石小刀の可能性もある。

【大形尖頭器】　いわゆる石剣とも呼ばれる形態で、断面が菱形に成形されている。いずれもサヌカイト製である。S90～S98の9点。幅は1.0cm以上のものが多い。すべて欠損品で全体の形態がわかるものはない。S90は側辺を研磨して刃をつぶしていることから、大形尖頭器の基部と考えられる。体部の一部もわずかに研磨している。S93は端部に自然面を残す。

【石錐】　計37点出土している。頭部と錐部が明瞭に作り分けられ、錐部を長く作り出す形態をⅠ類、頭部と錐部が不明瞭で錐部が短いものをⅡ類（涙滴形が多い）、棒状でほぼ錐部だけで構成されるものをⅢ類として分類する。

Ⅰ類：S99～S104の6点。このうちS99とS100は両端部を錐部として使用している。S99は片方の錐部に回転痕が残されている。S100も片方の錐部に使用痕と推測できる潰れ痕が残されている。この他、回転痕が残るものはS102、潰れ痕が残るものはS101、S103である。S104は錐先端部が欠損しており、使用痕は観察できない。S102は頭部に自然面を残す。

Ⅱ類：S105～S121の17点。回転痕はS105、S110、S111、S112で、潰れ痕はS107、S109、S113、S120で残っており、他は使用痕が観察できない。S111は石鏃（有茎式a）の転用で、石鏃の基部を錐部として使用している。S117は自然面が残る個体で両端部を錐部にしている。

Ⅲ類：S122～S135の14点。頭部を欠損しているものは、Ⅰ類の可能性もある。S122、S124、S128、S132、S133には回転痕が残り、S125、S134には潰れ痕が残る。

【石小刀】　S136～S138の3点。いずれも完形品ではないため、刃器などかもしれない。S136は突起をもつ形態の可能性がある。

【石匙状刃器】　削器・掻器と呼べるもので、やや大形（横長）で細かい調整があり、把手部（持つ部分）を作り出しているので石匙状刃器と呼称する。S139～S145の7点。S139は明瞭に把手部を作り出す。一部自然面を残し、細かい縁辺調整が施される。S140やS141も把手部を作り出していた可能性がある。S142、S145にも一部自然面が残る。S145は刃部に使用痕と考えられる潰れ痕がわずかに認められる。

【磨製石庖丁】　石庖丁の分類は、杏仁形（～楕円形）・直線刃半月形・内湾形に分類する。直線刃半月形が主流で、外湾刃半月形は出土していない。石材はすべて結晶片岩である。完成品30点（穿孔部が残存する個体）、完成品と考えられる破片5点（穿孔部が残存しない個体）、研磨のある小片9点が出土している。

杏仁形：S146～S151の6点。S147は両刃で、それ以外は片刃。S147には刃部に潰れ痕、S151には背部に潰れ痕が残る。S146とS148は穿孔部2箇所残存し、他は1箇所のみ残存する。すべて回転穿孔で、S151は孔内敲打痕（または敲打穿孔）が認められる。孔内敲打痕とは、回転穿孔の穿孔部に敲打痕跡が残るもので、使用時（あるいは2次使用時）に施されたものと推定している。近畿で一般的には認められず、和歌山県を中心に摂津地域でわずかながら確認できる（仲原知之2002「弥生前期の石庖丁生産と流通」『紀伊考古学研究』5（紀伊考古学研究会））。

直線刃半月形：S152～S165の14点。S152～S156、S158は穿孔部が2箇所残存する。S153の背部には2箇所穿孔の痕跡が残り、元の穿孔部～背部付近で割れたため新たに穿孔し直したと推測する。S162以外は回転穿孔で、S162は孔内敲打または敲打穿孔が、S154、S165は孔内敲打が確認できる。S152には径0.15cmの穿孔途中孔（回転穿孔）が1つ残る。S153、S154は背部に潰れ痕、S159、S165は背部と刃部に潰れ痕、S155は体部に敲打痕が残り、2次使用（敲石）と考えられる。S157は欠損部の側辺を研磨し、2次使用または転用と考えられる。

内湾形：S166、S167の2点。両者とも刃部の状況から使用と再研磨で内湾になったことがわかる。S166の左側端部は欠損後に研磨している。2点とも穿孔部にひもずれの痕跡が認められる。

形式不明（背部・刃部潰れ痕）：S168～S170の3点。背部と刃部に大きく潰れ痕が施されたため形式が不明なもので、いずれも回転穿孔である。

形式不明（穿孔部残存）：S171～S175の5点。穿孔部と背部や刃部の一部が残る個体で形式は不明。S172、S173には若干孔内敲打痕と背潰れ痕が、S173には体部に敲打痕が残る。S174には刃部に若干の潰れ痕が残る。S171には径0.5cmの穿孔途中孔が1つ残存している。

完成品の可能性がある個体（穿孔部なし）：S176～S180の5点。穿孔部がなく研磨～穿孔段階の製作途中品の可能性が否定できないため、完成品と区別する。S176～S178は直線刃半月形、S179は杏仁形、S180は内湾形と考えられる。S176、S178、S179の刃部は丸みをおびて、使用の痕跡と推測できる。S177の体部には使用痕の可能性がある光沢痕が認められる。S180は使

用と再研磨で内湾化したと推測できる。5点とも完成品（使用済み）の可能性が高いといえる。

石庖丁片：S181～S189の9点。今回の調査地では地山に結晶片岩が含まれるため、破片では石庖丁かどうか（特に製作途中品の場合）、判断できないものが多い。結晶片岩片の中で明らかに研磨されている破片を石庖丁片として扱う。いずれの破片も穿孔部はなく、形態も不明である。

【大形石庖丁】　S190～S196の7点。すべて結晶片岩である。破片でも厚さや大きさ、刃の形状（両刃・光沢痕など）から大形石庖丁と判断したものもある。S190は欠損しているが、全体の形態がわかる個体で、中軸に穿孔部1つをもつ形態で、敲打穿孔のみで穿孔されている。S190、S191、S195の体部には光沢痕が認められる。S190～S193は若干火を受けて変色している。

【柱状片刃石斧】　S197～S205の9点。石材はS197が灰色のきめの細かい砂岩、S199が灰緑色の片岩、他は黒色の片岩である。いずれの個体も研磨されている。S197は刃部先端と頭部の一部が欠損するが、ほぼ完形品で、抉りが作られている。S199、S204には体部に敲打痕があり2次使用または敲石の可能性がある。S198の刃先は使用痕と考えられる潰れ痕がある。

【扁平片刃石斧】　S206、S207の2点。石材はS206が黒色の片岩、S207が緑色の片岩である。両者とも刃部が残存するが、S206は柱状片刃石斧、S207は石庖丁の可能性もある。

【太型蛤刃石斧】　S208～S216の9点。小片でも石材や研磨の状況からここに含めたものもある。S208、S209は深緑色の溶結凝灰岩（和歌山県教育センター学びの丘所長吉松敏隆氏御教示）、S210～S213、S215、S216は緑色の凝灰岩か砂岩で、S214は不明な黒色石材である。S208やS209などは断面がやや扁平な楕円形である。S208、S209は刃部が欠損するが、基部に使用時と思われる敲打痕が残る。またS208には体部の剥離部分に再研磨した箇所がある。S209、S212、S213の体部には2次使用の敲打痕が残る。S211、S215は両刃の刃部部分である。

【鑿状石斧】　S217、S218の2点。石材はS217が緑色の凝灰岩か砂岩、S218が緑色の凝灰岩か片岩である。S217は頭部側の一部を欠損するもののほぼ全体の形状がわかる。薄い個体であるが、体部4面とも研磨している。刃部は両刃ぎみの片刃で、使用のためか刃先が丸みをおびる。S218は完形品で、薄い個体だが全面研磨されている。刃部は稜が明瞭に残る片刃である。

【磨製磨り石】　S219、S220の2点。2点とも緑色の結晶片岩で、平面杏仁形・断面正円形で、全面研磨される。S220には端部に面があり、磨り石として使用したことが伺える。

【石庖丁転用品】　S221の1点。結晶片岩製で、回転穿孔の穿孔途中孔が2つ（径0.5、0.25cm）残存する。石庖丁の刃部も残存し、石庖丁（または製作途中品）から扁平片刃石斧への転用か。

【環状石斧】　S222の1点。8－1層から出土し、弥生前期末の所産である。やや長楕円形で、ほぼ半分が残存する。長径は13.9cm以上（16cm程度か）で、短径は14cm程度と推定できる。緑色の結晶片岩で、全面丁寧に研磨され、縁辺に刃こぼれ状になる箇所がある。若干火を受けて煤が付着する部分がある。中央に径2.4cmの回転穿孔による穿孔（両面穿孔）が施されている。

3．木製品　＜図 112・113、写真図版 74～76＞

木製品は谷状地形（5層、6層）や遺構 140－S、142 などの井戸下層から多く出土している。樹種同定のために製品だけでなく、自然木も多く取り上げており、その中には杭か自然木は判別できないものも多い。今回は確実な製品である広鍬（製作途中品）、穿孔部のある加工材、杭、容器（高杯）の4点を図化した。鍬（M1）と加工材（M2）、容器（M4）は谷状地形下層（6層）、杭（M3）は遺構 140－N（井戸）最下層から出土した。

【広鍬製作途中品】　広鍬の形に成形しているが、刃部は厚みがあって未完成であることから、製作途中品と判断できる。また、ほぞ穴部分にあたる舟形突起を作り出しているが、穿孔は施されていない。側面はきれいな面をなしている。表面の一部に横方向の擦痕があり、製作時の痕跡と考えられる。一部工具痕らしき痕跡があるが不明瞭である。全体の 2/3 程度残存し、残存長 25.9cm×幅 23.4cm×厚 2.0cm で、舟形突起部の厚みは 4.0cm である。樹種はアカガシ亜属で、過去の太田・黒田遺跡の調査では、第 26 次調査では弥生時代前期後葉の溝からアカガシ亜属の広鍬が出土し、第 47 次調査では弥生時代中期初頭の溝からアカガシ亜属の鋤が出土している。

【加工材】　残存長 43.0cm×幅 17.0cm×厚 3.5cm の針葉樹（イヌマキ？）の板材で、側辺が斜めに切り取られて図の右側にかけて細くなっている。斜めになる部分は炭化している。断面はやや図の上側が厚く（厚 3.5cm）、下側が薄くなっている（厚 1.0cm）。側辺には面がある。穿孔部は2箇所あり、中央にあるものはほぼ円形（径約 2.5cm）であるのに対し、もう一方の穿孔は一辺約 2.5cm の方形にあけられている。両者とも工具痕が明瞭に残っており、最大でも幅 2.0cm 以下の工具（石斧）を用いたと推測できる。穿孔は一方向（図示した面）から多く施されている。建築部材などの可能性も考えられるが用途は不明である。

【杭】　先端を加工した広葉樹の杭で、井戸の最下層から横たわった状態で出土した。取り上げ時に3つに分かれて出土したが、取り上げ時に割れたのか、取り上げ前から3つになっていたか不明である。出土状況から井戸内に杭として打ち込まれたのではなく、捨てられたか井戸内の足場などに再利用されたものと考えられる。先端部は少し潰れた状態で、本来は杭として打ち込まれていたと推察できる。残存長 81.0cm×幅 9.1cm×厚 7.4cm で、表面に樹皮が残り、自然木をそのまま利用したことがわかる。先端には加工痕が明瞭に残る。工具は刃幅 2.5cm 前後の石斧と考えられる。

【容器（高杯）】　約半分強が残存するヤマグワ製の容器で、残存長 30.4cm×残存幅 20.0cm×残存高 7.4cm、復元径は約 35cm と推定できる。底面に径 4.5cm の円形の痕跡が観察でき、高杯脚柱部の欠損部である可能性が高い。平面形はほぼ円形で、厚み 1.0～0.8cm になるまで大きく内側を刳り抜いて製作している。内面・外面とも丁寧に丸く仕上げられている。口縁端部は面をもつ。

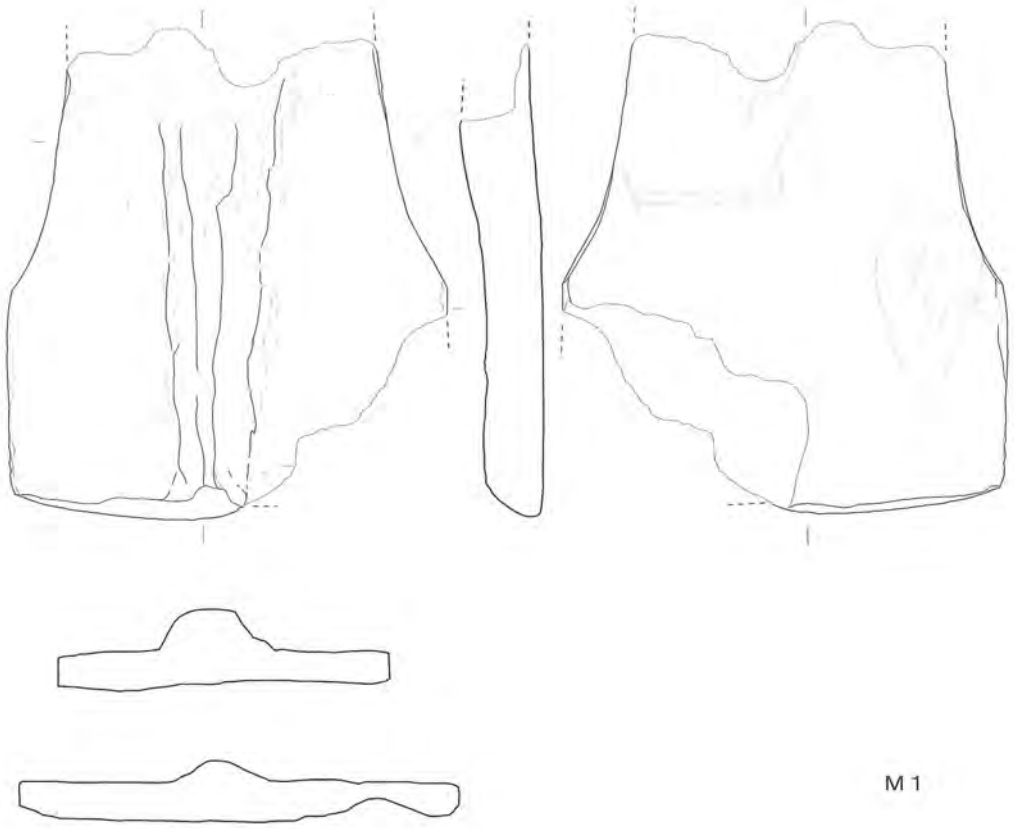


図112　木製品　遺物実測図１（Ｓ＝1/4）

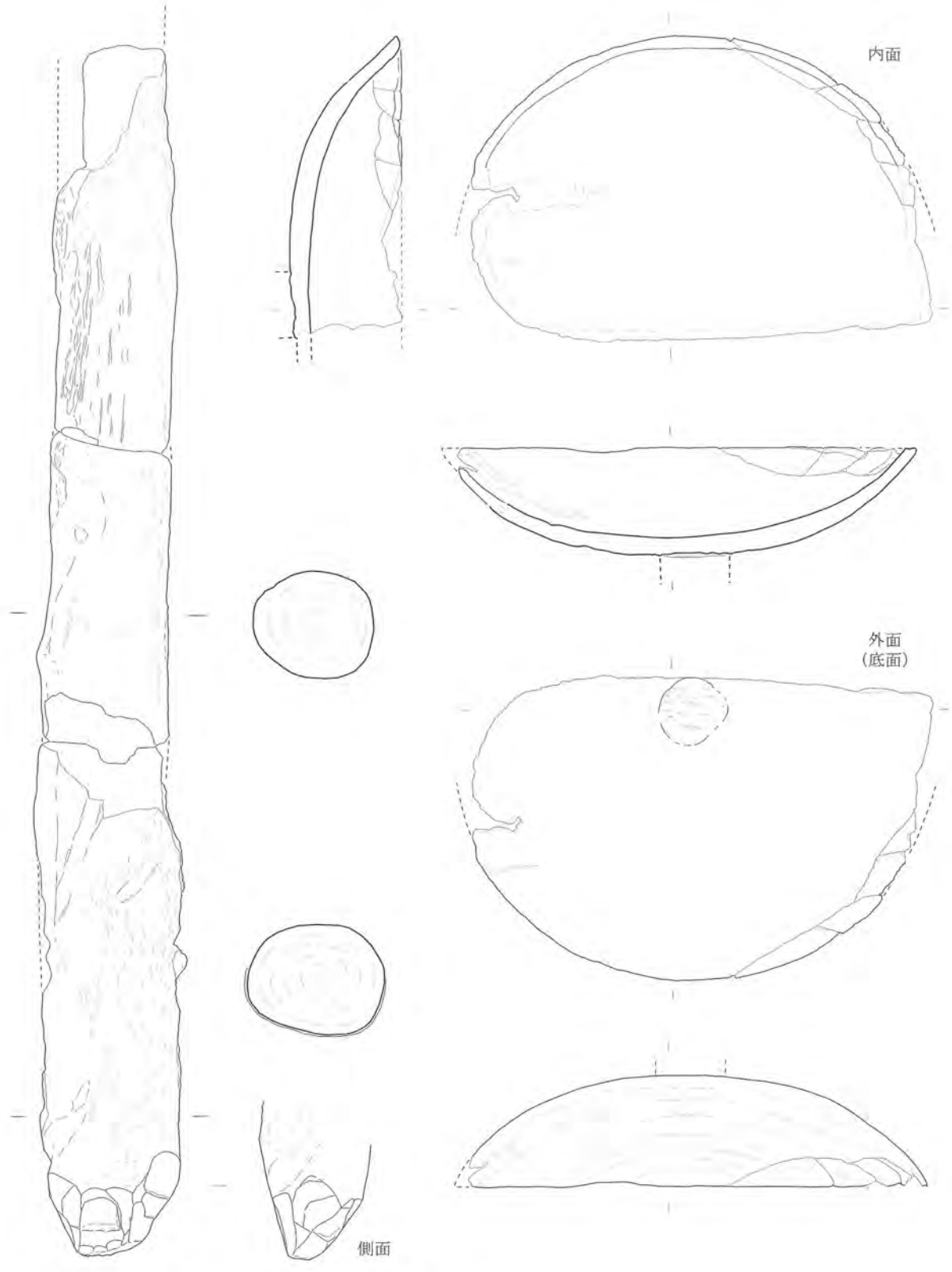


図113　木製品　遺物実測図２（S＝1/4）

第８節　その他の遺物

１．青磁碗　＜図 114　③- 2 ＞

３－０層から中世の青磁碗の破片が１点出土している。今回の調査ではこの他に中世の遺物として、瓦器片がごく少量出土しているのみである。南側や東側の既往調査区では中世の堀状遺構や井戸などが検出されており、太田城の一部であるという見解があるが、当調査地では遺構も検出されず、遺物も少量であることからその範囲からはずれているといえる。

２．古墳時代初頭の土師器　＜図 114　③- 3 ～ 6 ＞

古墳時代初頭（庄内式併行期）の土師器片が少量出土している。また、遺構 130（溝）の上層から混入と考えられる当該期の高杯が出土している（図 40　130-97)。今回の調査地では当該期の遺構は確認できなかった。なお、今回の調査では弥生時代中期後葉までの遺物は出土するが、後期の遺物は出土していない。後期の空白期を経て再び古墳時代初頭の遺物が確認できるようになるが、これはこれまでの太田・黒田遺跡の調査例と同様の状況である。

３．特徴的な弥生土器　＜図 114　③- 7 ～11、④- 6 ・ 7 ＞

遺物包含層や上層の遺構から出土した弥生土器のうち特徴的な土器を掲載する。③-7 は底部の可能性もあるが底面（上面）が丁寧になでられて仕上げられていることから、小形の台形土器あるいは蓋と推定して作図した。③-8 は小形の壺、③-9 は複合土器片、③-10 は河内産（生駒西麓産）の可能性がある壺の口縁部である。③-11 は体部に刻み目を有する突帯を３条巡らし、波状文・直線文を施す個体で、頸部径が大きくなることから無頸壺と考えられる。④-6 はグラス形の直口鉢で、製塩土器の可能性も考えられるが、県内では他に類例がない。④-7 はほぼ完形の鉢である。これらのうち③-10 以外は胎土中に結晶片岩を含むため在地産と想定できる。

４．獣骨　＜図 114　Ｈ１＞

谷状地形６層から工具による切断痕跡が残る獣骨が出土した（Ｈ１）。シカ頭蓋骨の角の根元部分か。これ自体を加工しようとしたのではなく、骨製品などに利用するためにこの部分で切断した痕跡と推測できる。シャープな痕跡が残されることから金属製品を使用した可能性がある。

５．管玉　＜図 114　Ｔ１・Ｔ２＞

遺構 300（竪穴住居）から完形の碧玉製管玉１点（Ｔ１）、遺物包含層４層から縦半分を欠損した緑色凝灰岩製管玉１点（Ｔ２）が出土している（第５章第４節、付章第５節参照)。

中世　青磁



③-2

古墳時代初頭　土師器



③-3



③-4

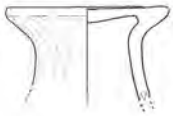


③-5

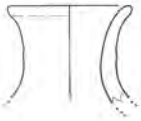


③-6

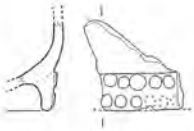
弥生土器



③-7



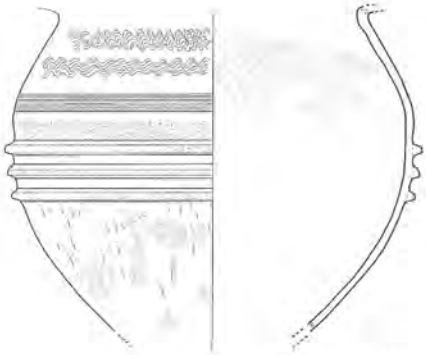
③-8



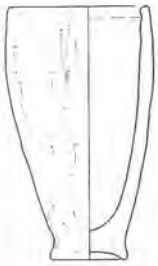
③-9



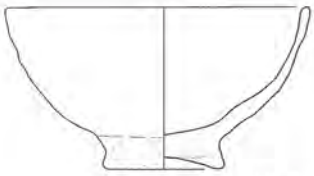
③-10



③-11



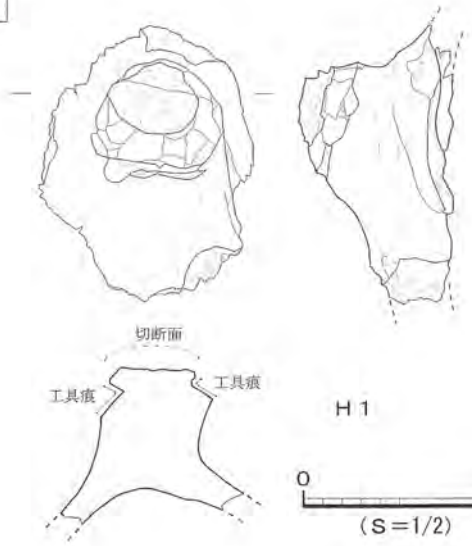
④-6



④-7

0　10cm
（S＝1/4）

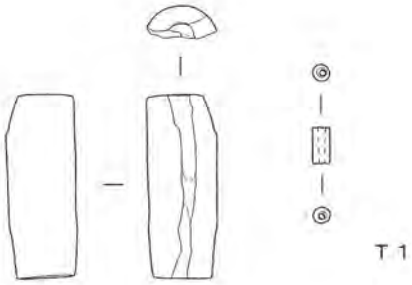
獣骨



H１

0　5cm
（S＝1/2）

玉製品（管玉）



T１

T２

0　2cm
（S＝1/1）

図114　その他の遺物　遺物実測図

第５章　自然科学的分析に基づく考察

第１節　太田・黒田遺跡の土器棺・土壙墓

１．埋土の水洗選別

今回の調査では、多くの遺構について埋土を水洗選別して、微細遺物や自然遺体の検出に努めた。土器棺内外の埋土や土坑の埋土の一部を水洗選別した結果、小骨片が検出できた。４層上面遺構では、遺構 125・126・135（土器棺）、遺構 131～134・141・270（土坑）、遺構 280・289（溝状土坑）から小骨片が検出できた（検出骨片数は第４章第３節参照）。４層下面遺構では、遺構 301・304（土坑）からそれぞれ３片の小骨片が検出できた。検出した骨片はいずれも２cm 以内の小破片で人骨と断定できるものはなかった。骨片を検出した遺構のうち、遺構 141 と 301 については、土坑内に炭化物が多量に含まれることから、土壙墓とは違う機能があったと推測している。特に遺構 141 からは多量の炭化米が含まれていることから炉の可能性が考えられる。

４層上面遺構の遺構 284（土坑）、４層下面遺構の遺構 147・296・298・299・303・306・313・347・364・366・369・371（土坑）からは骨片は検出できなかった。

２．リン・カルシウム分析

土器棺（遺構 125・126・135）の土器内や掘形内の埋土、土坑（遺構 133）埋土、溝状土坑（遺構 289）埋土、比較試料としてそれら周辺の遺物包含層・地山について、リン・カルシウム分析を実施した（付章第２節参照）。その結果、遺構 126 土器棺内上部・下部、遺構 125・126 下層の遺物包含層、遺構 133 埋土上部・下部、遺構 135 掘形埋土の試料は酸化リン・酸化カルシウムの両元素が高い値を示している。遺構 125 土器棺内上部と遺構 126 土器棺内上部の試料では、元素マッピング分析および点分析によって両元素が高い比率で検出された。他の試料は両元素とも低い値を示している。このことから、両元素が高い値を示した遺構については骨成分が含まれていた可能性が高いといえる。ただしこの場合でも骨成分が人骨由来であることは証明できない。

３．土器棺・土壙墓の評価

検出された小骨片や骨成分が人骨かどうかについては今後の課題として、ここではこれらを人骨と仮定しておく。土器棺内または土器棺の掘形から骨片や骨成分が検出されたことから、穿孔や蓋の存在などから考古学的に土器棺と認識した遺構については墓である可能性が高いといえる。従来から土壙墓の可能性が指摘されている溝状土坑（舟形土坑）も骨片が検出されたことから土壙墓であった可能性が高い。土坑については、骨片が検出できた遺構は土壙墓と推測できる。た

だし遺構 141 のように炉と推定している土坑から骨片が多数出土することから、個別に遺構の特徴や検出した骨などから判断する必要があり、骨片を検出した遺構すべてを土壙墓と評価することはできない。今回リン・カルシウム分析を実施したが、周辺の遺物包含層や地山の試料は低い値を示すことから、高い比率で成分を検出した遺構との区別は可能であるが、高い値を示した遺構ではそれぞれ水洗選別で小骨片を検出している。したがって、墓の可能性がある遺構については、埋土を水洗選別またはふるいによって骨片を検出することが有効であることがわかる。

4．太田・黒田遺跡の墓域

今回の調査地点では土器棺と土壙墓が確認でき、西側に隣接する 9 次・21 次調査地点でも土器棺と土壙墓の可能性がある舟形土坑が検出され、この一帯が墓域であったと推定できる（図 117）。土器棺が検出されたのは今回の 3 例（遺構 125・126・135）を含めて 9 地点 17 例となり（21 次 1 例、24 次 1 例、27 次 1 例、28 次 1 例、40 次 1 例、43 次 1 例、46 次 1 例、48 次 7 例、県 1 次 3 例）、その分布は遺跡の縁辺部に多く認められる。いずれも弥生時代中期の土器棺である。太田・黒田遺跡の南東側の秋月遺跡市 10 次調査地点でも弥生時代中期の土器棺が検出され、太田・黒田遺跡の墓域であった可能性が指摘される。今回検出した遺構 293 や遺構 155、遺構 156、遺構 158 もほぼ完形の土器や土器の底部が出土しており、土器棺の可能性がある。これらを含めると太田・黒田遺跡の土器棺は 21 例となる。遺構 155・156・158 は弥生時代前期末の遺構である。なお、太田・黒田遺跡では 54 次調査で方形周溝墓の可能性が指摘された弥生時代前期の L 字状の溝を除き、これまで方形周溝墓は確認されていない。

【参考文献】

高橋方紀 2002「太田・黒田遺跡検出の土器棺墓について」『太田・黒田遺跡第 48 次発掘調査概報』

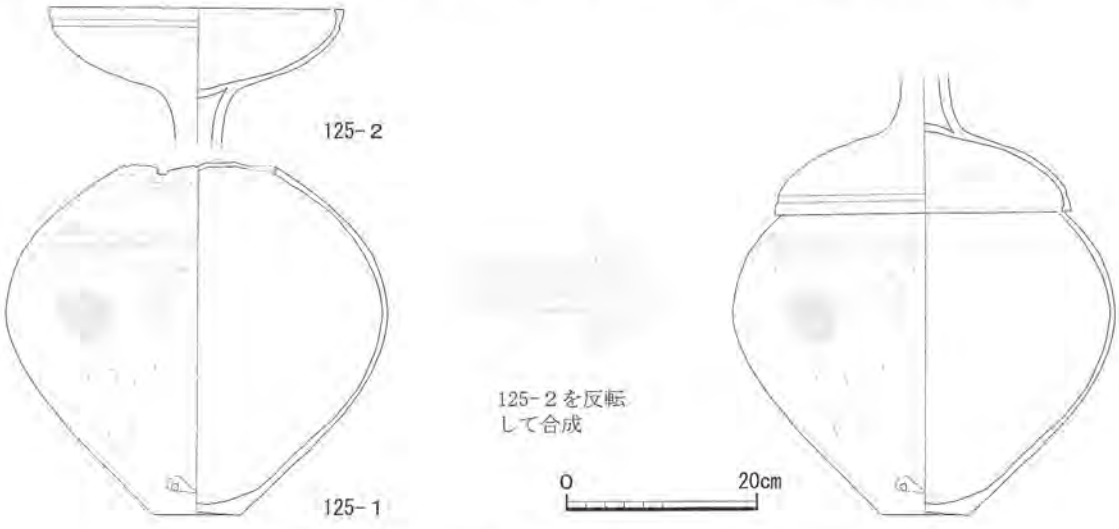
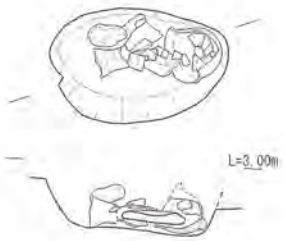
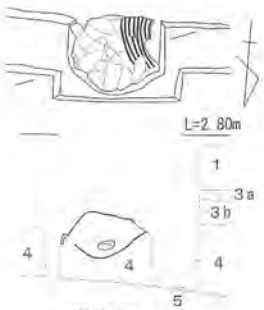


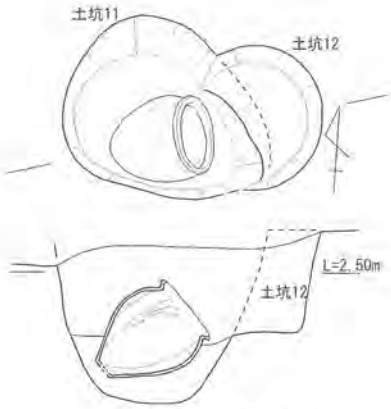
図115　遺構125（土器棺）復元合成図　（S＝1/8）



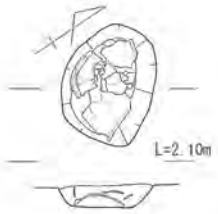
第21次



第24次



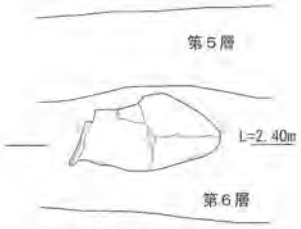
第28次　土坑11



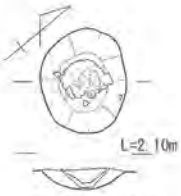
第40次



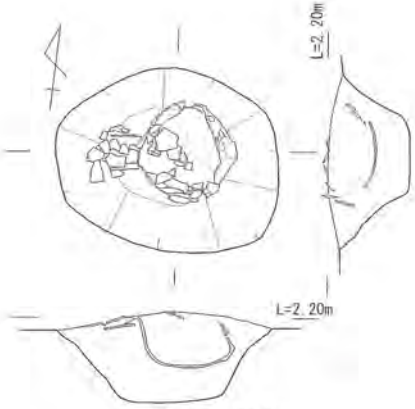
第46次　P-96



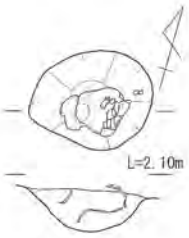
第43次　SK-1



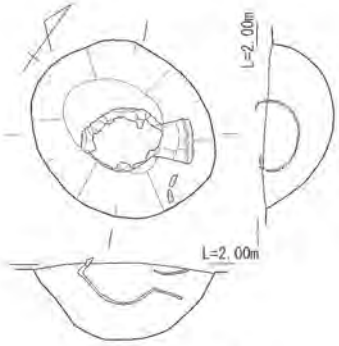
第48次　SX-3



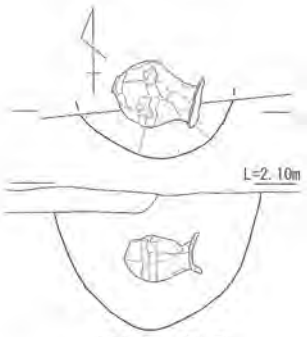
第48次　SX-2



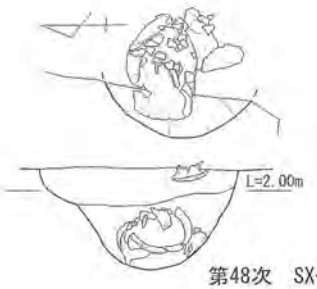
第48次　SX-5



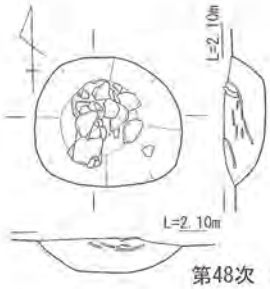
第48次　SX-6



第48次　SX-7



第48次　SX-8



第48次　SX-9



秋月第10次　SK-15

*各報告書等から再トレースして転載



図116　太田・黒田遺跡の土器棺　（S＝1/30）　（第27次・県１次以外）

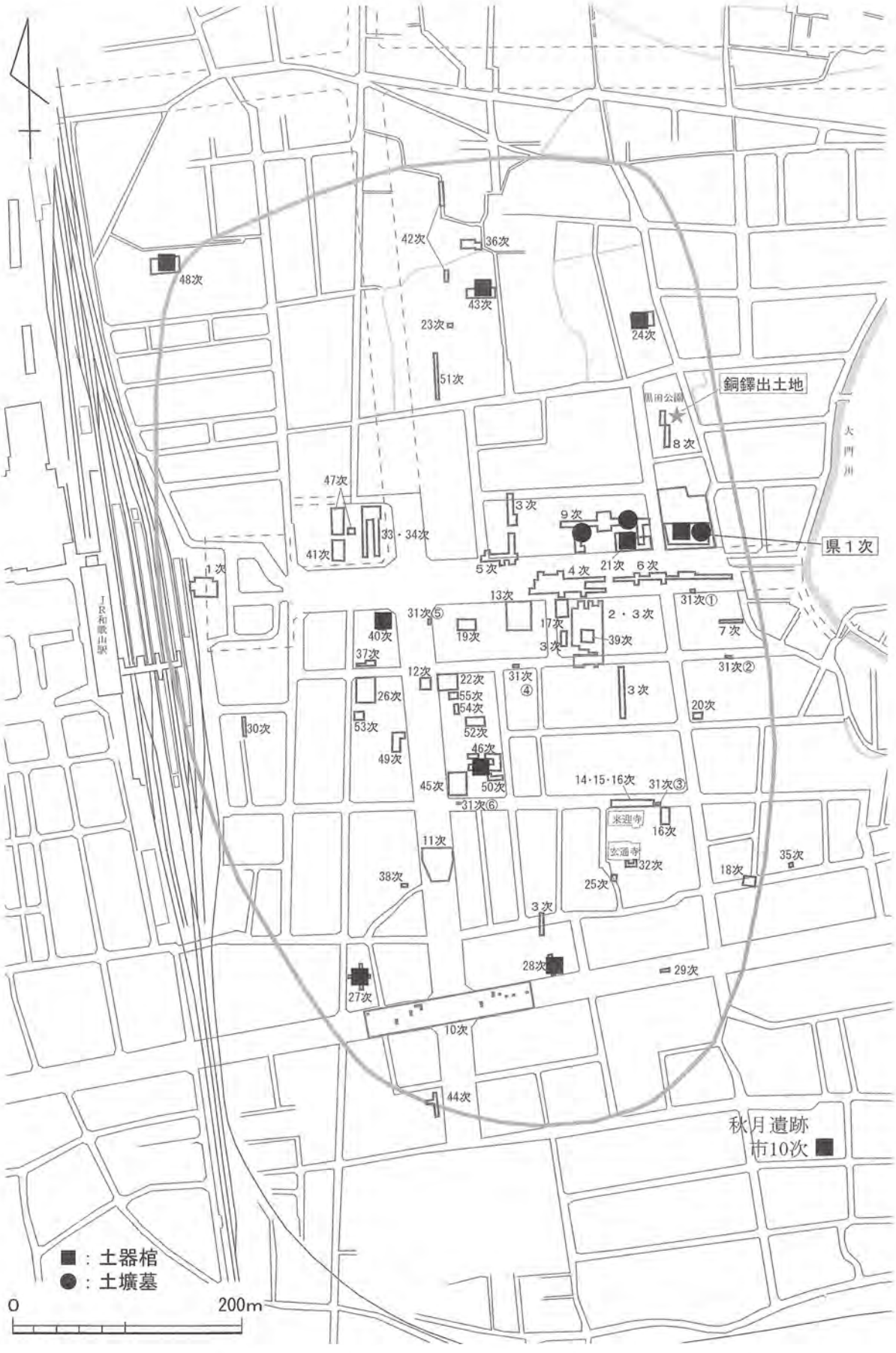


図117　太田・黒田遺跡　土器棺・土壙墓位置図（弥生時代中期）

第２節　太田・黒田遺跡周辺の自然環境

１．花粉分析・珪藻分析・樹種同定について

今回、太田・黒田遺跡周辺の自然環境を復元する目的で、花粉分析、珪藻分析、樹種同定を実施した（付章第３・４・７節参照）。樹種同定については、木製品だけでなく自然木も対象にしている。

花粉は遠くから飛ばされてくるという要素があるため、必ずしも花粉分析で検出できたものが付近に生育していたとは限らない。また木製品用の木材は、樹種を選択して利用することがあるため、近辺にある樹木だけを利用して木製品を製作していたと考えることはできない。出土した自然木については、周辺に生えていた可能性が高いが、この中に杭として持ち込まれたものや木製品を加工した際に生じた木屑、洪水などで運ばれた樹木も含まれていることは否定できない。このように得られたデータが単純に周辺の自然環境を示しているとはいえないが、花粉分析や樹種同定を組み合わせることによって、樹木については周辺の植生を示すことができると考えることができる。なお、樹木以外の草木類については、花粉分析の成果によるところが大きい。

谷状地形６層から多く出土した木製品や自然木について樹種同定を実施し、同時に谷状地形６層の土壌について花粉分析も実施している。その結果、花粉分析で得られたアカガシ亜属・シイノキ属・ヒノキ科・マキ属・コナラ亜属・クワ科は、樹種同定のアカガシ亜属・シイノキ属・ヒノキ・イヌマキ・コナラ節／クヌギ節・ヤマグワに属レベルでは対応させることが可能性である。つまり樹種同定で得られた樹種の多くは花粉分析でも検出でき、これらの樹種は周辺に生育していたと推測できる。木製品についても周辺の樹木を利用して製作していた可能性が高い。なお、樹種同定で判別した樹種のうち花粉分析で検出されないものもあり、花粉分析・樹種同定をともに実施することが有効となる。

今回は珪藻分析も併せて実施し、弥生時代を通じて陸域環境であったことが推測されている。また、谷状地形や溝および井戸については、埋土が堆積する過程でじめじめした陸域環境になっていたことが判明した。

２．太田・黒田遺跡の自然環境

過去の調査で検出している自然遺物・自然遺体を含めて一覧表（表２）を作成した。木材や花粉などは乾燥した環境では残りにくいため、古墳時代～現在に至るまでのデータは乏しく、古墳時代以降の自然環境の変遷を復元していくことは困難である。そこで弥生時代を中心にした太田・黒田遺跡周辺の植生について整理しておく。

弥生時代以前では、アカガシ亜属・シイノキ属などの照葉樹（常緑広葉樹）が優勢で、スギ属・

表２　太田・黒田遺跡　自然遺物・自然遺体一覧表

3次	【植物遺体】	炭化米（弥生中期前葉～中葉）、クスの刳抜井戸（奈良）
9次	【植物遺体】	自然遺物少量（弥生）
	【動物遺体】	イノシシ・シカ・タイ骨少量（弥生・古墳）
17次	【植物遺体】	井戸半裁刳抜材（弥生中期）
21次	【植物遺体】	井戸半裁刳抜材・斎串（奈良）
	【動物遺体】	イノシシ骨（弥生）
26次	【植物遺体】	炭化自然木・種子（SD19＝弥生前期後葉）、マツ毬果・種子頸（SD1＝室町）
	【樹種同定】	直柄広鍬：ブナ科コナラ属アカガシ亜属（SD19＝弥生前期）
	【プラントオパール】	イネ：６・６c・７a層少量（弥生前期後葉～中期前葉）、５層高密度（弥生中期中葉）、水田遺構少量（弥生中期中葉）、３・４a・４b層高密度（中世末～近世）、ウシクサ族・タケ亜科：６～８層少量（弥生前期後葉～中期前葉）、３～４b層優勢（中世末～近世）→乾燥環境
	【動物遺体】	骨片
34次	【植物遺体】	種子（SD3＝奈良）
	【動物遺体】	馬歯（SD3＝奈良）
37次	【植物遺体】	桃種子
	【動物遺体】	馬歯
40次	【植物遺体】	植物痕跡（弥生中期）
43次	【動物遺体】	馬歯、サンゴ
45次	【植物遺体】	斧台・杭・自然木・種子（SD11＝弥生前期）、桃核（SK22＝鎌倉）
	【動物遺体】	骨（SD5＝弥生中期）、人骨（SK36＝室町）
46次	【動物遺体】	馬歯（SD4＝鎌倉・第３層＝鎌倉）
47次	【樹種同定】	一木鋤：ブナ科コナラ属アカガシ亜属（SD8＝弥生中期前葉）
48次	【植物遺体】	植物枝片（第13層＝弥生以前）、炭化板材（SD8＝弥生中期）
	【花粉分析】	５層（弥生中期）：ブナ科シイノキ属・ブナ科コナラ属アカガシ亜属・アブラナ科・イネ科・オモダカ属少量、１～３層（近世～現代）：アブラナ科・イネ科・ソバ属・ゴマ・マツ科マツ属複維管束亜属・スギ科スギ属スギ（ブナ科クリ属クリ・ブナ科シイノキ属・カヤツリグサ科・タンポポ亜科・ヨモギ属・アカザ科-ヒユ科・ナデシコ科少量）
	【プラントオパール】	３・５・８層・SX1・SD8少量、４層高密度（古代）、１・２層高密度（近現代）、各層からイネ科タケ亜科ネザサ節型少量検出
	【動物遺体】	馬歯・骨（SX1＝奈良）
49次	【花粉分析】	SX4（弥生前期）：スギ科スギ属スギ１・ブナ科コナラ属コナラ亜属１・イネ科２・タンポポ亜科１・キク亜科１・ヨモギ属２・シダ植物三条溝胞子３→乾燥環境か
	【珪藻分析】	貧塩性種（淡水生種）２（SX4＝弥生前期）→乾燥環境か
	【プラントオパール】	３層（古墳以降か）・１層（現代）で検出→弥生前期では未検出（少量イネ科タケ亜科ネザサ節型）
50次	【動物遺体】	馬歯（SK2・7＝古墳）
52次	【動物遺体】	骨角器（SK24＝弥生前期、SB2b＝弥生中期）、小動物骨・魚骨
54次	【植物遺体】	木器・種子（溝16＝弥生前期）、桃核
	【動物遺体】	骨角器（溝16＝弥生前期）、鹿角、魚骨、貝殻
県１次	【植物遺体】	炭化米（遺構141＝弥生中期後葉）
	【樹種同定】	地山（弥生以前）＝自然木：イチイ科カヤ属カヤ、谷状地形６層（弥生中期前葉～中葉）＝広鍬製作途中品：ブナ科コナラ属アカガシ亜属、加工材：マキ科マキ属イヌマキ？、容器：クワ科クワ属ヤマグワ、杭：マキ科マキ属イヌマキ、自然木：ブナ科コナラ亜属コナラ節・クワ科クワ属ヤマグワ？・ヒノキ科ヒノキ属ヒノキ・ブナ科シイノキ属・ブナ科コナラ亜属クヌギ節・ヤブコウジ科ツルマンリョウ属タイミンタチバナ・ツバキ科サカキ属サカキ、谷状地形５層（弥生中期中葉）＝板材：イチイ科カヤ属カヤ・マキ科マキ属イヌマキ、加工材：マキ科マキ属イヌマキ・コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ、杭＝マキ科マキ属イヌマキ？、自然木＝マキ科マキ属イヌマキ、遺構142（弥生中期中葉）＝杭：マキ科マキ属イヌマキ？、自然木：ヤナギ科ヤナギ属？、側溝（谷状地形か、弥生中期中葉～後葉）＝板材：マキ科マキ属イヌマキ？、自然木：ブナ科シイノキ属・ヤブコウジ科ツルマンリョウ属タイミンタチバナ？、遺構140-N（弥生中期中葉～後葉）＝杭：クスノキ科クスノキ属クスノキ、遺構140-S（弥生中期中葉～後葉）＝自然木：マツ科マツ属（ゴヨウマツ）
	【花粉分析】	弥生以前（地山９層）：ブナ科コナラ属アカガシ亜属・ブナ科シイノキ属・スギ科スギ属・ブナ科コナラ属コナラ亜属・ニレ科エノキ属-ニレ科ムクノキ属・イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科・マツ科モミ属・マツ科マツ属複維管束亜属・コウヤマキ科コウヤマキ属・クルミ科サワグルミ属-クルミ属・トチノキ科トチノキ属・アカザ科-ヒユ科・イネ科・クワ科・ヨモギ属・サナエタデ節-ウナギツカミ節・タンポポ亜科・フサモ属・オナモミ属（樹木花粉約26%）、弥生中期前葉～中葉（谷状地形６層）：ブナ科アカガシ亜属・ブナ科シイノキ属・スギ科スギ属・ヤナギ科ヤナギ属・イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、マキ科マキ属、マツ科ツガ属、コウヤマキ科コウヤマキ属、カバノキ科クマシデ属-カバノキ科アサダ属、ブナ科コナラ亜属、イネ科、ヨモギ属、オナモミ属、アカザ科-ヒユ科、クワ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節、ナデシコ科、アブラナ科、キジムシロ属近似種、セリ科、キク亜科（樹木花粉約40%）、弥生中期中葉（遺構142）：マツ科モミ属・マツ科マツ属複維管束亜属・スギ科スギ属・イネ科・アカザ科-ヒユ科・アブラナ科・ヨモギ属、弥生中期後葉（遺構129）：ブナ科アカガシ亜属・ブドウ科ブドウ属・イネ科・ヨモギ属、奈良（遺構100）：ブナ科シイノキ属・ガマ属・イネ科少量、江戸（遺構26）：シダ植物単条型胞子少量
	【珪藻分析】	弥生中期前葉～中葉（谷状地形６層）：陸域指標種群と中～下流性河川指標種群→増水時に河川の影響を受ける陸域環境、弥生中期中葉（谷状地形５層）：陸域指標種群が高率→じめじめした陸域環境、弥生中期中葉（遺構142）：陸域指標種群が高率→じめじめした陸域環境、弥生中期後葉（遺構129）：陸域指標種群が高率→じめじめした陸域環境
	【動物遺体】	獣骨（谷状地形６層＝弥生中期前葉～後葉）

イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科などの針葉樹、コナラ亜属・エノキ属－ムクノキ属の落葉広葉樹も含まれている。この他、モミ属・マツ属複維管束亜属・コウヤマキ属・サワグルミ－クルミ属・トチノキ属などが確認できる。

弥生時代前期ではデータは少ないが、直柄広鍬にアカガシ亜属が利用され、花粉分析で少量ながらスギ・コナラ亜属などが検出されている。

弥生時代中期前葉～中葉になると、一木鋤や広鍬製作途中品にアカガシ亜属が利用され、花粉分析でアカガシ亜属・シイノキ属を含む照葉樹が優勢であると推定される。樹種同定では針葉樹のイヌマキや照葉樹のアカガシ亜属・シイノキ属、落葉広葉樹のコナラ亜属（コナラ節・クヌギ節）などが認められる。この他、花粉分析でスギ属やヤナギ属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科なども確認できる。

弥生時代中期中葉～後葉では、花粉分析で少量であるが、アカガシ亜属・シイノキ属・モミ属・マツ属複維束亜属・スギ属などが検出されている。樹種同定では針葉樹のカヤ・イヌマキ・コウヤマキ・ゴヨウマツなど、照葉樹のシイノキ属・クスノキなどが認められる。

以上のように弥生時代以前から弥生時代を通じて、アカガシ亜属やシイノキ属などの照葉樹が優勢で、スギ属やイチイ科（カヤなど）・マキ属（イヌマキなど）・コウヤマキなどの針葉樹、コナラ属（コナラ節・クヌギ節）などの落葉広葉樹も認められる環境であったと推測できる。

3．木製品に利用された樹種

弥生時代前期の直柄広鍬（26次）、弥生時代中期前葉の一木鋤（47次）、弥生時代中期前葉～中葉の広鍬製作途中品（県1次）はいずれもアカガシ亜属であった。これは近畿地方で利用されている樹種に一致している（付章第7節参照）。また容器（高杯）はヤマグワで、これも近畿地方で利用されている樹種である。広鍬の製作途中品が出土したことから、太田・黒田遺跡で木製品を製作していた可能性が高く、近畿地方の他の集落と同じように木製品を製作する際には種類ごとに樹種を選択していたことがわかる。この他、加工材や板材、杭にはイヌマキが多く利用されている。自然木にもイヌマキが多く認められることから、周辺に生育していたイヌマキを利用していたと推察できる。

【参考文献】

中原計・秋山浩三 2004「樹種からみた集落環境と弥生木器生産」『瓜生堂Ⅰ』（（財）大阪府文化財センター）

第３節　太田・黒田遺跡（県１次調査）の炭化米

今回の調査では、遺構埋土を中心に水洗選別作業を実施した。遺構 300（竪穴住居）についてはほぼすべての埋土を選別した。その結果、炭化米が数多く検出できたので一覧表で掲載する(選別・集計・一覧表作成は仲原が実施)。特に遺構 141（炭土坑）からは完形の炭化米 311 点を含む多量の炭化米が検出できた。この遺構は炭が充填されていた小形の土坑で、炭化米が多量に出土することから屋外炉の可能性も考えられる。検出資料の一部を総合地球環境学研究所の丹野研一氏に実体顕微鏡で同定してもらった結果、イネ種子が含まれることは間違いなく、そのほとんどが火を受けて炭化したものだと推測できることがわかった。水洗選別することによって炭化米を検出できたことは１つの成果となる。今後、DNA 分析や和佐野氏・前田氏がおこなった太田・黒田遺跡で過去に検出された資料を用いた計測調査（和佐野喜久生・前田敬彦 2003「和歌山市太田・黒田遺跡の炭化米特性と稲作起源」『和歌山市立博物館　研究紀要 17』）などを実施することによって、太田・黒田遺跡の炭化米の特性を検討することや他遺跡との比較などが可能になる。

表３　太田・黒田遺跡（県１次）出土　炭化穀類　一覧表

	地区	遺構・層位	炭化米（完形）	炭化米（50%以上残存）	炭化米（50%未満）	炭化米?（破片）	その他
【４層下面遺構】							
1	B区y14・y15	遺構300(住居)　下層(床面)			2		
2	B区y14・y15	遺構300(住居)　セクション東　下層		2	1		
3	B区a14	遺構300(住居)　下層					小形種子１(径3mm)
4	B区y14	遺構300(住居)　下層	1		2		
5	B区y14	遺構300(住居)　下層		2	1	2	
6	B区a14	遺構300(住居)　セクション西　炭層(北側)	3				小形種子１(径3mm)
7	B区y14	遺構300(住居)　セクション東　炭層(北側)	1		5	4	
8	B区y14・y15	遺構300(住居)　東端　炭層		2	1		
9	B区a14	遺構300(住居)　セクション西　炭層　広口壺内					種実?１(径4mm)
10	B区y14・y15	遺構300(住居)　上層	1				
11	B区a14・15、y14	遺構300(住居)　埋土			1		種子?(長3mm)
12	B区a14	遺構300(住居)内　遺構401(壁溝)					種子１(長6mm)
13	B区a14	遺構300(住居)内　遺構401(壁溝)埋土			1	10	
14	B区y14	遺構300(住居)内　遺構402(壁溝)埋土		2		1	小形種子１(径3mm)
15	B区y15	遺構300(住居)内　遺構409(柱穴)	1		4	2	
16	B区y15	遺構300(住居)内　遺構387(柱穴)　埋土	1	1	1		
17	B区a14・15	遺構300(住居)内　西半　小土坑群　埋土	1				
18	B区y14	遺構300(住居)内　焼土含む小土坑群　埋土	3				大形種子片3(同一?)
19	A区g12	遺構140-S(井戸)　木枠内最下層	2	1	1	1	
20	A区g11	遺構142(井戸)　取り上げ７	3	4	4	3	ウリ?種子2(長6mm) マメ?種子4(径4mm) 種子?3(径3mm)、葉3
21	B区c14	遺構369(土坑)　B区南西部土坑群	1				
22	B区c14	遺構371(土坑)　B区南西部土坑群	1	1	1		
23	B区a10	遺構303(土坑)　セクション　B区北東部土坑群	1		1	1	種子片1、種実片?1
【４層上面遺構】							
24	B区a13	遺構130(溝)　下層		2		2	
25	A区g11	遺構129(溝)　北側セクション　下層	2	3		1	
26	B区y13・y14	遺構291(溝)　セクション東　下層	1	1		1	
27	B区y14	遺構290(溝)　セクション東(登録1517)		2		2	
28	B区b13	遺構289(溝状土坑)　最下層					種子１(径4mm)
29	A区e10	遺構134(土坑)					種子１(径3mm)
30	A区e10	遺構135(土坑)				1	
31	A区g14	遺構141(炭土坑)	311	1100	930	45	
		合計	334	1123	954	76	

		丹野研一氏同定(実体顕微鏡)	イネ種子	イネ種子とみられる破片	不明破片	その他
32	A区	遺構129(溝)	40	18	10	カヤツリグサ科かイネ科のモミ１

第４節　太田・黒田遺跡の管玉

１．太田・黒田遺跡の管玉

太田・黒田遺跡出土の管玉はこれまで５点が報告されている。今回出土した２点（図 114　T１・T２）を加えると計７点となる。このうち３次調査の１点は詳細が報告されず、14 次調査の１点は碧玉製と記載されるが大きさなどは報告されていない。43 次調査では管玉が２点出土している。１点は長さ 2.1、直径 0.6、孔径 0.2cm の完形品で、もう１点は直径 1.2、孔径 0.4cm の 1/4 程度残存する破損品で、両者とも碧玉製と報告され、出土状況から古墳時代の所産と考えられている。50 次調査では直径 1.3、孔径 0.35cm の碧玉製の管玉１点（破損品）が中世の溝から出土している。今回出土した碧玉製管玉Ｔ１は長さ 0.5、直径 0.2、孔径上端 0.1・下端 0.08cm の完形品で、弥生時代中期中葉の遺構 300（竪穴住居）の焼土・炭化物層から出土している。管見におよぶ限り県内最小の管玉である。緑色凝灰岩製管玉Ｔ２は長さ 2.4、残存直径 0.9、残存孔径 0.3cm で、ほぼ縦半分が欠損している。穿孔は両面から施されている。弥生時代中期中葉～後葉の遺物包含層４層から出土している。今回出土した２点だけが確実に弥生時代の所産と考えられる。

２．和歌山県内の管玉

縄文時代～古墳時代前期の玉類を表３に集成した。縄文時代には管玉が認められるが、溝ノ口遺跡の管玉はエンタシス状の形態で、弥生時代以降の管玉には系譜としてつながらない。弥生時代前期では堅田遺跡で緑色凝灰岩製の管玉２点が出土している。弥生時代中期では今回出土した２点をはじめ、柏原遺跡、血縄遺跡などで管玉が出土している。弥生時代後期～古墳時代初頭になると吉田遺跡や西田井遺跡、片山遺跡などで玉類がまとまって出土する例が認められるようになる。吉田遺跡では管玉や勾玉の未成品が多く出土し、玉類を製作していた遺跡と考えられている。片山遺跡では方形周溝墓の周溝から勾玉１点・管玉７点が１箇所にまとまって出土している。

３．管玉の原材産地分析

今回出土した管玉２点の原材産出地分析を（有）遺物材料研究所（藁科哲男氏）に依頼し、比較試料として太田・黒田遺跡 50 次、秋月遺跡８次、柏原遺跡市１次、血縄遺跡、岡村遺跡の管玉の分析も併せて実施した（付章第５節参照）。これまで県内で産出地分析を実施したのは堅田遺跡のみで、牟田辺遺物群（佐賀県多久市牟田辺遺跡、佐賀県唐津市宇木汲田遺跡、愛媛県松山市持田３丁目遺跡で確認）と同じ原石産地と判定されているが、原石の産出地は特定されていない。

今回分析した管玉のうち、太田・黒田遺跡県１次Ｔ１、太田・黒田遺跡 50 次、柏原遺跡１次の２点、血縄遺跡、岡村遺跡 OK95A の碧玉製管玉６点の結果が女代南Ｂ遺物群と菩提－１産原石

に一致し、石川県小松市菩提地区産原石が使用されていると判定された。太田・黒田遺跡県１次Ｔ１、柏原遺跡１次、血縄遺跡の管玉は、弥生時代中期の所産と考えられている。太田・黒田遺跡 50 次、岡村遺跡は後世の遺構や遺物包含層からの出土である。太田・黒田遺跡県１次Ｔ１は小形で片面穿孔の可能性があり、太田・黒田遺跡 50 次の管玉は破損品のため不明であるが、他の４点は両面から穿孔されている。太田・黒田遺跡県１次Ｔ２、岡村遺跡 OK03、岡村遺跡 OK224 地点の緑色凝灰岩製管玉は産地が特定できず、それぞれ太田・黒田 560 遺物群、岡村 07 遺物群、岡村 224 遺物群が設定された。太田・黒田遺跡県１次Ｔ２、岡村遺跡 OK224 地点は両面穿孔、岡村遺跡 OK03 は片面穿孔である。秋月遺跡の管玉は碧玉ではないと判定され、石材や産地は不明である。

４．原材産地の評価

分析した試料のうち、管玉６点の原材が北陸産と判定された意義は大きい。このうち４点が弥生時代中期と考えられている管玉で、弥生時代中期には県内に広く搬入されていた状況が伺える。女代南Ｂ遺物群は弥生時代を中心に使用された原石で、北海道～九州にわたる広い範囲で確認されている。この広い流通・交易圏に和歌山県も含まれていることが原材産地分析を通じて判明した。原材産地分析を実施することは、遠隔地流通する玉類の搬入状況を明らかにするのに有効な手段であり、今後とも各遺跡から出土した玉類の分析を進めていく必要がある。

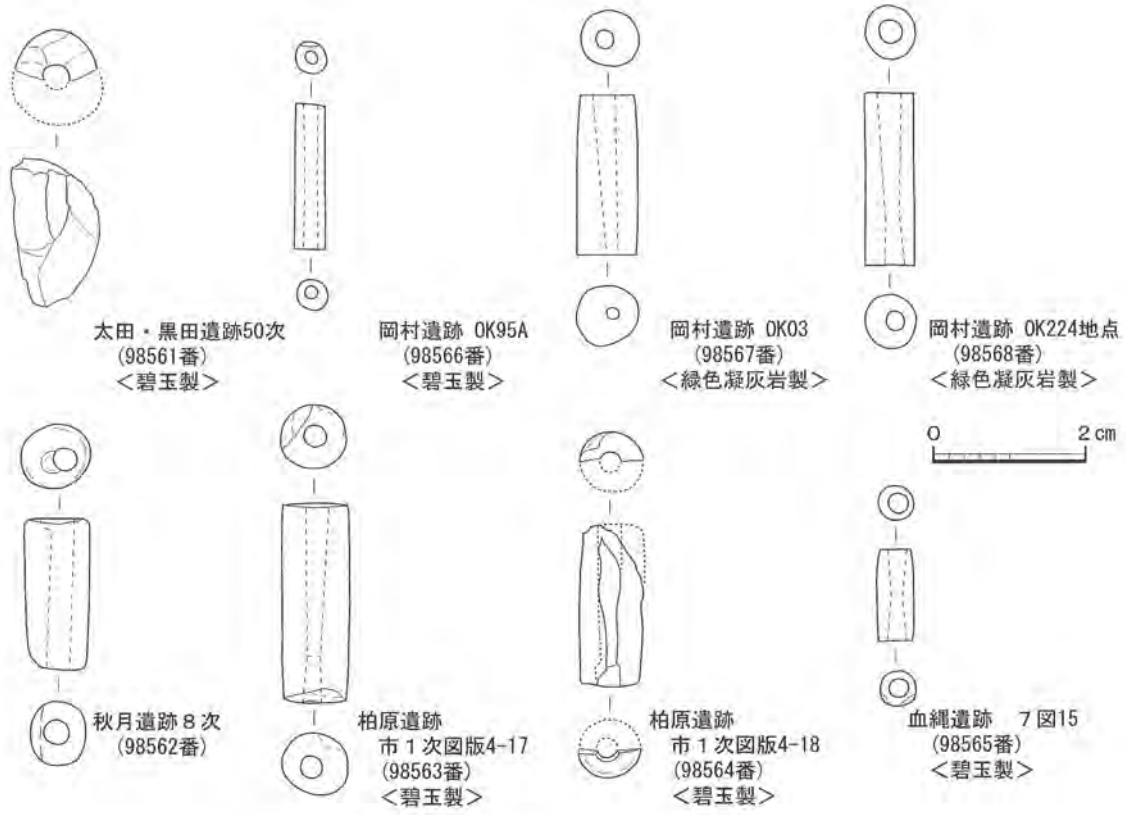


図118　管玉実測図（分析実施管玉）（Ｓ＝1/1）　＊仲原再実測・トレース

表4　和歌山県内出土　縄文時代・弥生時代・古墳時代前期　玉類集成表

	遺跡名	所在地	種類	遺物番号	石材	法量（長×径：孔径）cm	年代	報告書	備考（出土状況）
太田・黒田遺跡	太田・黒田	和歌山市	管玉	図114 T1	碧玉	0.5×0.2：0.1	弥生中期	本稿	B区遺構300住居／県1次／片面穿孔か
	太田・黒田	和歌山市	管玉	図114 T2	緑凝	2.4×残0.9：0.3	弥生中期	本稿	A区包含層4層／県1次／両面穿孔
	太田・黒田	和歌山市	管玉	未掲載			古墳	森・白石1969	勾玉・管玉・臼玉出土／市1～3次
	太田・黒田	和歌山市	管玉	未掲載	碧玉		古墳中期	和市文体事1995	有孔円板出土／市14次
	太田・黒田	和歌山市	管玉	20図87	碧玉	2.1×0.6：0.2	古墳か	和市文体事1998	第7層最上部／市43次
	太田・黒田	和歌山市	管玉	20図88	碧玉	残1.6×1.2：0.4	古墳か	和市文体事1998	SK-1 最上層／市43次
	太田・黒田	和歌山市	管玉	21図68	碧玉	残2.0×残1.1：0.3	古墳か	和市教委2003	SD-01a(中世)／破損品／市50次＜98561＞
縄文時代玉類	鴎神貝塚	和歌山市	丸玉	21図10	ヒスイ	0.35×0.6：0.1	縄文前期～晩期	県教委1968	包含層Ⅲ層上部／両面穿孔
	溝ノ口	海南市	丸玉	69図3	塩基	径2.6×厚1.6：0.85	縄文後期	海市教委1984	縄文後期包含層／合計7点／市1次
	溝ノ口	海南市	丸玉	69図4	ヒスイ	径1.6×厚1.3：0.8	縄文後期	海市教委1984	縄文後期17区包含層／片面穿孔
	溝ノ口	海南市	臼玉	69図5	結緑	径0.8×厚0.35：0.2	縄文後期～晩期	海市教委1984	縄文後期～晩期 SX04／両面穿孔
	溝ノ口	海南市	管玉	69図6	ヒスイ	1.3×0.5：0.25	縄文後期	海市教委1984	縄文後期包含層／両面穿孔、半裁、エンタシス状
	溝ノ口	海南市	丸玉	69図7	ヒスイ	径1.1×厚1.0：0.5	縄文後期～晩期	海市教委1984	縄文後期 112G ピット25／片面穿孔
	溝ノ口	海南市	丸玉	69図8	ヒスイ	径1.1×厚0.75：0.55	縄文後期～晩期	海市教委1984	縄文後期 112G ピット25／片面穿孔
	溝ノ口	海南市	丸玉	69図9	ヒスイ	径1.1×厚0.85：0.55	縄文後期～晩期	海市教委1984	縄文後期 112G ピット25／片面穿孔
	溝ノ口	海南市	丸玉	69図10	ヒスイ	径1.05×厚0.7：0.55	縄文後期～晩期	海市教委1984	縄文後期 112G ピット25／片面穿孔
	溝ノ口	海南市	勾玉	27図208	蛇紋岩	長3.3×幅1.1×厚0.5：0.2	縄文後期	県立セ1997	遺構714（縄文後期）／
	船岡山	かつらぎ町	玉(大珠)	64図JS27	ヒスイ	5.45×1.25：0.8	縄文時代	県教委1986	SD6中層4層／片面穿孔
	安井	美里町	管玉		片岩		縄文後期～晩期	（白浜町1980）	
	安井	美里町	丸玉		ヒスイ		縄文後期～晩期	（白浜町1980）	
	田井	美浜町	管玉		碧玉		縄文後期～晩期	（白浜町1980）	
	田井	美浜町	管玉		ヒスイ		縄文後期～晩期	（白浜町1980）	
	田井	美浜町	丸玉		ヒスイ		縄文後期～晩期	（白浜町1980）	
	和佐(A地点)	川辺町	勾玉	22図7	ヒスイ	長2.8×幅1.6×厚0.9：0.7	縄文中期～晩期	川辺町1986	A地点出土／獣形勾玉
	和佐(A地点)	川辺町	丸玉(平玉)	22図8	ヒスイ	径0.9×厚0.4：0.3	縄文中期～晩期	川辺町1986	A地点出土
	矢矧	田辺市	勾玉	未掲載	ヒスイ		縄文後期～晩期	田辺市1994	管玉2点出土
弥生時代～古墳時代前期の管玉	堅田	御坊市	管玉	135図1609	緑凝	0.99×0.53：0.25	弥生前期	御市文調会2002	土坑1510／片面穿孔、原材産地分析
	堅田	御坊市	管玉	135図1610	緑凝	0.95×0.47：0.2	弥生前期	御市文調会2002	土坑1510／片面穿孔、原材産地分析
	柏原	橋本市	管玉	図版4-17	碧玉	2.5×0.85：0.3	弥生中期	橋市遺調会1996	落ち込み1／両面穿孔／市1次＜98563＞
	柏原	橋本市	管玉	図版4-18	碧玉	2.1×0.8：0.3	弥生中期	橋市遺調会1996	落ち込み1／半裁／両面穿孔／市1次＜98564＞
	血縄	橋本市	管玉	7図15	碧玉	1.2×0.5：0.25	弥生中期	橋市教委1986	CN85　SD04／両面穿孔＜98565＞
	船岡山	かつらぎ町	管玉 未	113図105		2.55×1.29：—	弥生中期	県教委1986	住居SB10 柱穴6／柱状多面体、未穿孔
	吉田	岩出町	管玉6点	21頁写真	碧玉		弥生後期	県教委1971a	住居55／勾玉・管玉未とともに出土
	吉田	岩出町	管玉 未4点	21頁写真			弥生後期	県教委1971a	住居55／勾玉・管玉とともに出土
	西田井	和歌山市	管玉	175図1046	緑凝	3.45×1.5：0.35	弥生後期	県立セ1991b	住居SI163埋土／勾玉1点とともに出土
	西田井	和歌山市	管玉	175図1049	碧玉	1.0×0.4：0.2	弥生後期	県立セ1991b	住居SI163埋土／勾玉1点とともに出土
	西田井	和歌山市	管玉	175図1047	緑凝？	2.8×1.0：0.4	弥生後期	県立セ1991b	住居SI164埋土／
	西田井	和歌山市	管玉	243図644	碧玉	1.4×0.28：0.1	弥生後期	県立セ1991b	SK626／
	西田井	和歌山市	管玉	243図645	碧玉	残1.3×0.25：0.1	弥生後期	県立セ1991b	SD702／
	西田井	和歌山市	管玉	175図1048	滑石	2.6×0.5：0.2	弥生後期	県立セ1991b	住居SI186埋土／
	阿須賀	新宮市	管玉	22図3	蛇紋岩	4.2×1.0：0.3	弥生後期～古墳初頭	新市教委1982	4次調査ピット／土製丸玉1点出土
	川辺	和歌山市	管玉3点	未掲載	碧玉		古墳初頭	県立セ1992	V区上面SD01中層／集石氏御教示(報告書未掲載)
	旧吉備中学校	吉備町	管玉	未報告	緑凝	1.3×0.35：0.1	古墳初頭	県立セ2006	住居3床面／2個体か
	中村地区	御坊市	管玉	88図686	粘板岩	1.04×0.3：0.1	古墳初頭	御市文調会1995	8号墳床面下／片面穿孔、集落に伴う？
	大塚	南部町	管玉	29図475	緑凝	1.0×0.35：0.1	古墳初頭	南町教委2002	竪穴住居5／
	片山	南部町	管玉	図版7	粘板岩か	2.2×0.39：0.17	古墳初頭	県立セ・県文研1981	周溝墓周溝内勾玉・管玉一括出土／両面穿孔
	片山	南部町	管玉	図版7	粘板岩か	2.15×0.39：0.16	古墳初頭	県立セ・県文研1981	周溝墓周溝内勾玉・管玉一括出土／両面穿孔
	片山	南部町	管玉	図版7	粘板岩か	2.08×0.38：0.18	古墳初頭	県立セ・県文研1981	周溝墓周溝内勾玉・管玉一括出土／両面穿孔
	片山	南部町	管玉	図版7	粘板岩か	1.7以上×0.38：0.17	古墳初頭	県立セ・県文研1981	周溝墓周溝内勾玉・管玉一括出土／両面穿孔
	片山	南部町	管玉	図版7	粘板岩か	1.57×0.40：0.16	古墳初頭	県立セ・県文研1981	周溝墓周溝内勾玉・管玉一括出土／両面穿孔
	片山	南部町	管玉	図版7	粘板岩か	1.34×0.37：0.16	古墳初頭	県立セ・県文研1981	周溝墓周溝内勾玉・管玉一括出土／両面穿孔
	片山	南部町	管玉	図版7	粘板岩か	0.95×0.42：0.16	古墳初頭	県立セ・県文研1981	周溝墓周溝内勾玉・管玉一括出土／両面穿孔
	北田井	和歌山市	管玉	19図2	碧玉		古墳前期	県教委1971b	21号住居床面／写真図版のみ
	岡村	海南市	管玉	未掲載			弥生～古墳？	海市教委・市研会1980	19地点ピット／
	岡村	海南市	管玉	挿図1-16	緑凝	2.25×0.7：0.3	弥生～古墳？	海市教委・市研会1980	224地点Ⅱ層／両面穿孔＜98568＞
	岡村	海南市	管玉	24図144	碧玉	1.95×0.4：0.2	弥生中期？	海市教委1996	OK95A地点包含層／両面穿孔＜98566＞
	岡村	海南市	管玉	未掲載	緑凝	2.1×0.8：0.25	古墳前期？	海市教委2004	OK03地点10G区包含層／片面穿孔＜98567＞
	矢矧	田辺市	管玉2点	未掲載			不明	和歌山県1983	縄文後期～古墳時代遺物出土
弥生時代～古墳時代前期の勾玉他	船岡山	かつらぎ町	勾玉	113図104		長4.0×厚0.95：0.6	弥生中期	県教委1986	住居SB07 柱穴3／両面穿孔
	吉田	岩出町	勾玉複数	21頁写真	蛇紋岩か		弥生後期	県教委1971a	住居9／勾玉未・ガラス玉とともに出土
	吉田	岩出町	勾玉 未6点	21頁写真	蛇紋岩か		弥生後期	県教委1971a	住居9／勾玉・ガラス玉とともに出土
	吉田	岩出町	小玉2点	21頁写真	ガラス		弥生後期	県教委1971a	住居9／勾玉・勾玉未とともに出土
	吉田	岩出町	勾玉	21頁写真	蛇紋岩か		古墳前期	県教委1971a	住居17／
	吉田	岩出町	勾玉	21頁写真	蛇紋岩か		弥生後期	県教委1971a	住居55／管玉未・管玉とともに出土
	北田井	和歌山市	勾玉	17図5			弥生中期	県教委1971b	2号住居覆土／写真図版のみ
	北田井	和歌山市	勾玉 未	未掲載			弥生後期	県教委1971b	3号住居床面／
	西田井	和歌山市	勾玉	175図1045	緑凝	長4.3×幅1.3×厚1.4：0.3	弥生後期	県立セ1991b	住居SI163埋土／管玉2点とともに出土
	岡村	海南市	勾玉	図版16-27	メノウ	長2.4×幅0.8×厚0.7：0.4	弥生？	海市教委1991	OK90D地点第4層／片面穿孔
	且来1	海南市	丸玉	未報告	メノウ	径1.35×厚1.2：0.2	弥生？	未報告	C地点トレンチ3第3層／両面穿孔
	血縄	橋本市	勾玉	1図3	蛇紋岩	長4.3×厚1.3：0.3	弥生後期か	県教委1978	
	血縄	橋本市	勾玉	未報告	メノウ	長3.15×幅1.0×厚0.85：0.4	弥生？	未報告	表採か／片面穿孔
	佐野	かつらぎ町	勾玉	未掲載	蛇紋岩		弥生？	県立セ・県文研1977	西側基壇版築土内／
	荒田	岩出町	丸玉	57図504	ガラス	径0.8×厚0.45：0.25	弥生中期か	県立セ2001	C区側溝(近世含む)／
	中村地区	御坊市	小玉	88図687	ガラス	2.3×4.9：0.1	弥生後期～古墳前期	御市文調会1995	住居SB1炉
	中村地区	御坊市	小玉	88図688	ガラス	2.3×3.3：0.1	弥生後期～古墳前期	御市文調会1995	住居SB1周溝
	片山	南部町	勾玉	図版7	粘板岩か	長2.8	古墳初頭	県立セ・県文研1981	周溝墓周溝内勾玉1点・管玉7点一括出土
	トビトビ山	田辺市	勾玉	505頁図	軟玉	残長2.6×幅1.7×厚1.3：0.3	弥生末～古墳初頭か	田辺市1994	表面採集／高地性集落か
参考	秋月	和歌山市	管玉	57図419	不明	残2.0×0.85：0.3	古墳中期	和市文体事2000	SK62／滑石製臼玉1点出土／両面穿孔か＜98562＞

＊この表は、仲原2006「太田・黒田遺跡出土の管玉2種」『（財）和歌山県文化財センター年報2005年度』の集成表を転載（一部追加・修正）。
＊未＝未成品。緑凝＝緑色凝灰岩、結緑＝結晶片岩様緑色岩、塩基＝塩基性岩　／石材・年代などは報告書の記載による。
＊遺跡名のトーンは今回原材産出地分析を実施した管玉。石材のトーンは原材産出地分析によって判明した石材名。
（堅田遺跡は御坊市文調会2003に掲載、溝ノ口や岡村・且来1・血縄のメノウ、血縄の蛇紋岩は仲原・矢倉・藤井2007に掲載予定）。
＊所在地については平成大合併前の市町村名を使用している。現在、岩出町→岩出市、美里町→紀美野町、吉備町→有田川町、川辺町→日高川町、南部町→みなべ町。
＊土玉を出土する遺跡もあるが装身具と断定できないので集成から除外している。
＊尾ノ崎遺跡(御坊市遺調会1981)は古墳前期の方形周溝墓1号から管玉1点、3号からガラス小玉2点、15号から碧玉製勾玉2点・管玉25点・ガラス小玉6点出土。管玉は全て碧玉で両面穿孔。

【報告書・文献】海南市教委・海南市文化財調査研究会1980『岡村遺跡緊急調査概報』、海南市教委1984『溝ノ口遺跡Ⅰ』・1991『海南市内遺跡発掘調査概報』・1996『海南市内遺跡発掘調査概報平成7年度』・2004『海南市内遺跡発掘調査概報平成15年度』、川辺町1986『川辺町史第三巻史料編上』、御坊市遺跡調査会1981『尾ノ崎遺跡』、御坊市文化財研究会1995『中村地区遺跡発掘調査概報書』、御坊市文化財調査会2002『堅田遺跡』、白浜町1980『白浜町誌資料編』、新宮市教委1982『紀伊阿須賀遺跡第3・4・5次発掘調査』、田辺市1994『田辺市史第四巻史料編Ⅰ』、橋本市遺跡調査会1996『平成7年度柏原遺跡発掘調査概報』、橋本市教委1986『血縄遺跡発掘調査概報』、南部町教委2002『大塚遺跡』、和歌山県1983『和歌山県史考古資料編』、和歌山県教委1968『和歌山県文化財学術調査報告書第三冊』、1971a『吉田遺跡第2次調査概報』・1971b『和歌山市北和井遺跡発掘調査概報Ⅱ』・1978『紀の川用水建設事業に伴なう発掘調査報告書』・1986『船岡山遺跡発掘調査報告書』、和歌山県教委・(社)和歌山県文化財研究会1977『佐野廃寺発掘調査概報』・1981『片山遺跡C・D地点発掘調査概報』、(財)和歌山県文化財センター1991b『西田井遺跡発掘調査報告書』・1992『年報1991』・1997『溝の口遺跡発掘調査報告』・2001『尼ケ辻遺跡・荒田遺跡発掘調査報告書』・2006『年報2005年度』、和歌山市教委2008『和歌山市内遺跡発掘調査概報平成13年度』、(財)和歌山市文化体育振興事業団1995『太田・黒田遺跡第26次発掘調査概報』・1998『太田・黒田遺跡第43次発掘調査概報』・2000『秋月遺跡第8次発掘調査概報』、森浩一・白石太一郎1959「南近畿における前・中期弥生式土器の一様相」『考古学ジャーナル』33、仲原知之・矢倉嘉人・藤井哲男2007（予定）『海南市出土玉類の原材産出地分析』『紀伊考古学研究』10

第５節　太田・黒田遺跡のサヌカイト原材産地

１．サヌカイト原材産地分析

今回の調査ではサヌカイト製品や剥片が多く出土した。そのうちサヌカイト剥片 20 点について原材産地分析を実施した（付章第 6 節参照）。分析したサヌカイト剥片は、弥生時代中期中葉の遺構 300（竪穴住居）の床面および炭化物層から 6 点、弥生時代中期後葉の遺構 129（溝）から 5 点、弥生時代中期中葉遺物包含層 4 層下部から 4 点、弥生時代中期中葉～後葉の遺物包含層 4 層から 1 点、古代の遺物包含層 3 層から 4 点である。遺物包含層の試料は無作為に抽出したのではなく、比較的大きな剥片を選択している。特に遺物包含層 3 層の 4 点のうち 3 点は肉眼観察で金山産の可能性がある個体を選別して分析した。分析の結果、20 点中 17 点は二上山群、3 点（遺構 300 炭化物層 1 点、遺物包含層 3 層 2 点）は金山東群にそれぞれ同定された。肉眼観察で金山産の可能性がある 3 点中 2 点が金山東群と判定されている。

２．和歌山県内のサヌカイト原材産地

和歌山県内でサヌカイト原材産地分析をした遺跡は少ないが、堅田遺跡と柏原遺跡で原材産地分析を実施しているので紹介する[1]。

堅田遺跡（御坊市）　堅田遺跡は弥生時代前期の環濠集落で、一部縄文時代晩期の突帯文土器が出土している。弥生時代前期のサヌカイト剥片を 29 点分析した結果、二上山群 20 個、金山東群 3 個、向出 No.49 遺物群 2 個と同定された。この他原石産地が特定できない 3 点について、堅田 No.8、堅田 No.24、堅田 No.28 遺物群を作って一覧表に登録している。二上山群は大阪府と奈良県境にある二上山地域の原石が使用され、金山東群は香川県金山・五色台地域のうち金山東の原石が使用されていると推測される。向出 No.49 遺物群は原石産地が未発見の遺物群で、大阪府阪南市向出遺跡、兵庫県太子町、岐阜県野笹遺跡などで使用されている。

柏原遺跡（橋本市）　弥生時代中期の方形周溝墓群・竪穴住居群を検出した遺跡である。サヌカイト剥片 20 点を分析した結果、20 点とも二上山群と同定され、二上山地域の原石を使用していると推測される。

３．原材産地分析の評価

今回の分析によって、太田・黒田遺跡で二上山産と金山産のサヌカイトを使用していることが判明した意義は大きい。分析したサヌカイトはいずれも素材剥片や石器製作の過程で残された剥片と考えられ、中にはまだ石鏃などの石器を作り出すのに充分な大きさを残すものも含まれる。このことから太田・黒田遺跡では二上山地域と金山地域から素材剥片などを搬入して集落内で石

器を製作していたことが判明した。特に弥生時代中期中葉の遺構300（竪穴住居）炭化物層出土のサヌカイト剥片のうち1点が金山東群と判定されたが、住居からはサヌカイト剥片が多く出土しており、住居内またはその周辺で多量の二上山産サヌカイトとともに少量の金山産サヌカイトを用いた石器製作がおこなわれていた可能性が高い。今回の調査では弥生時代前期末～中期前葉の土器が出土しているが、遺構300周辺（B区東半一帯）ではその頃の土器はほとんど出土していないため、遺構300出土遺物は弥生時代中期中葉の所産であると判断している。

分析では20点中3点（15%）が金山東群と判定された。ただし、3層出土の2点は肉眼観察で金山産の可能性がある剥片を選択して分析しているので、今回出土した分析していない剥片を含めたサヌカイト全体ではこれより割合は低くなる。肉眼観察ではサヌカイト製品・剥片の9割以上が二上山産と推測している。

県内の分析例は少ないが、肉眼観察ではほとんどの遺跡で二上山産のサヌカイトが使用されていると考えられている。その中で堅田遺跡では分析の結果金山産サヌカイトが使用されたことが判明し、肉眼観察ではあるが徳蔵地区遺跡や大塚遺跡（ともにみなべ町）で出土した縄文時代のサヌカイト板状石材が金山産であると推測されている[2)]。これら3遺跡では二上山産と考えられるサヌカイトも出土しており、縄文時代～弥生時代前期には両地域からサヌカイトが搬入されていたと推測できる。ただしどの時期にどのくらいの割合で搬入されているということを示すデータはないため、継続して常に両地域から一定量搬入されているとは言い切れない。河内地域では弥生時代開始期には縄文時代にほとんど使用されなかった金山産サヌカイトが高い割合で搬入されるようになり、弥生時代中期になると金山産がほとんど認められなくなり二上山産サヌカイトで占められるようになる[3)]。太田・黒田遺跡では弥生時代中期中葉に金山産サヌカイトが使用されていた可能性があるが、県内で時期別に金山産サヌカイトがどのくらいの比率で搬入されていたかを把握するためにも他遺跡での分析を進めていく必要がある。

註

1）御坊市文化財調査会 2002『堅田遺跡』
（財）和歌山県文化財センター 近刊 『柏原遺跡』

2）（財）和歌山県文化財センター 2005『徳蔵地区遺跡』
南部町教育委員会 2002『大塚遺跡』（御坊市文化財調査会編）

3）秋山浩三 1999「近畿における弥生化の具体相」『論争　吉備』（考古学研究会）

第６節　太田・黒田遺跡の地山に含まれる礫（土器製作用粘土の検討）

１．はじめに

県１次調査の発掘調査で、井戸などの遺構が地山を掘り込んでいた。地山は黄褐色シルト層および灰色細砂層で、黄褐色シルト層の下層には青灰色粘土層が存在している。これらシルトや粘土を用いて土器を製作したのではないだろうかと考えて、検討を加えることにした。地山に含まれる礫（鉱物）と土器の胎土中の礫（鉱物）が一致するなら、調査地点の地山を用いた土器製作の可能性を指摘でき、一致しないなら別地点の粘土を用いていたと推定できる。なお、石材鑑定は県立自然博物館小原正顕学芸員（地学担当）に依頼し、本文・表の作成は仲原がおこなった。

２．調査方法と試料

調査中に地山のシルト・粘土・砂を採取し、１mm メッシュで水洗し、得られた１mm 以上の礫を鑑定した。表５の７試料をそれぞれ 0.5 リットル程度用いた。土器製作用に利用できそうなシルトや粘土のほか、比較用に地山の砂層も試料とした。シルトや粘土は水成堆積、砂層は流水堆積と考えられる。今回は予察的な検討のため肉眼観察とし、薄片を用いた本格的な鑑定はしていない。そのため肉眼観察に耐えうる１mm 以上の礫を対象とした。肉眼観察では確実性は保証されず、鑑定結果については注意が必要となる。今後より本格的な鑑定を実施することを考えたい。

３．地山に含まれる礫について

今回確認できた礫・岩石・鉱物を表５で示した。各試料とも砂粒が細かく、１mm 以上の礫は数粒が含まれているに過ぎない。特に試料２と試料６は、１粒も検出することができなかった。確認できたものは、チャート・結晶片岩・石英・砂岩で、チャートや石英とした中には石英片岩由来の可能性がある破片もある。試料７から検出したものは藍鉄鉱の可能性があり、紀ノ川上流部から流されてきたものかもしれない。ほとんどが水で研磨されたような亜円礫の形状をしている。

４．まとめにかえて（予察）

土器の胎土を比較して、調査地点の地山が土器製作の胎土として使われたか検討を加えたい。砂粒を観察しやすい弥生土器を比較対象とする。この調査地点出土の弥生土器の胎土を観察すると、白色粒、半透明粒（透明粒含む）、結晶片岩、赤色粒が多くの個体で認められ、わずかに黒色～灰色チャート、赤色チャート、砂岩を含む土器がある（土器観察表参照）。半透明粒は石英と考えられ、白色粒は長石といわれているが、結晶片岩片や砂岩片の可能性も充分考えられる。半透明粒、結晶片岩、チャート、砂岩は今回の鑑定結果と一致する。土器製作に利用できそうなシル

ト～粘土層では、結晶片岩と石英が含まれており、この点だけみればこのシルト～粘土を用いて土器を製作したと考えることもできる。ただし土器中の鉱物は亜角礫～角礫が多く、円礫はほとんど認められない。また地山には礫がごく少量なのに対し、土器には礫が多量に含まれている。このことから、弥生土器製作の際には今回の調査地点の地山を用いていないと推察できる。ただし、混和材として山土や砂礫を混ぜることも想定でき、この地山の利用を完全に否定することはできない。なお、弥生時代中期以降の土器には円礫はほとんど含まれないが、前期末の土器には緻密な胎土に3mm程度の円礫が多く含まれる。円礫の内訳は半透明粒や結晶片岩、黒色～灰色チャートで、試料1で確認したものと一致する。チャートは中期の土器にはほとんど含まれない。弥生時代前期では調査地点の地山のシルト層と砂層を混ぜて土器を製作した可能性がある。

以上、地山に含まれる礫と土器製作用の粘土について検討してきたが、今後とも発掘調査においてこのようなデータを積み重ねていけば、どこの粘土を用いて土器が作られたかという問いに答えることができるようになるかもしれない。

表5　太田・黒田遺跡（県1次調査地点）　地山に含まれる礫

＊1mm
メッシュ水洗

	地区・遺構名	層位	内容物	形状
1	A区 g11 遺構142 （井戸） の下層	7層：地山 （灰色砂層）	チャート（黒）5mm 1個 →石英片岩由来の破片の可能性あり	円礫
			チャート（灰）6mm 1個 →石英片岩由来の破片の可能性あり	円礫
			4mm チャート（灰）4mm 1個、3mm 9個 →石英片岩由来の破片の可能性あり	亜円礫～円礫
			石英 3mm 7個、2mm 9個	亜円礫～亜角礫
			結晶片岩（緑色）の破片 4mm 3個	亜円礫～円礫
			結晶片岩（褐～緑色）の破片 4mm 2個、 2mm 4個	亜円礫～亜角礫
			砂岩 4mm 1個、3mm 6個	亜円礫
2	B区 y14 遺構291（溝） の下層	7層：地山 （灰色砂層）	1mm 以上の砂礫・鉱物なし	
3	A区 e12 東西トレンチ	7－3層：地山 （灰色砂層） 花粉分析試料 12	砂岩 10mm 1個	亜円礫～円礫
			石英 3mm 3個→結晶片岩由来かも	亜円礫
			結晶片岩（緑色）の破片 2mm 1個	亜角礫
			結晶片岩（白色）の破片 2mm 1個	亜円礫～亜角礫
4	A区 h13 東西トレンチ	9層上部：地山 （黄褐色シルト層） 花粉分析試料 13	石英 2mm 1個	円礫
			結晶片岩（褐色）の破片？2mm 1個	亜円礫～亜角礫
5	A区 h13 東西トレンチ	9層中部：地山 （黄褐色シルト層）	結晶片岩（緑色）の破片？1mm 1個	亜円礫
6	A区 h13 東西トレンチ	9層下部：地山 （黄褐色シルト層） 花粉分析試料 14	1mm 以上の砂礫・鉱物なし	
7	A区 h13 東西トレンチ	10層：地山 （青灰色粘土層） 花粉分析試料 15	藍鉄鉱？2mm 4個、1mm10 個	亜円礫

第6章　総括

第1節　調査の成果

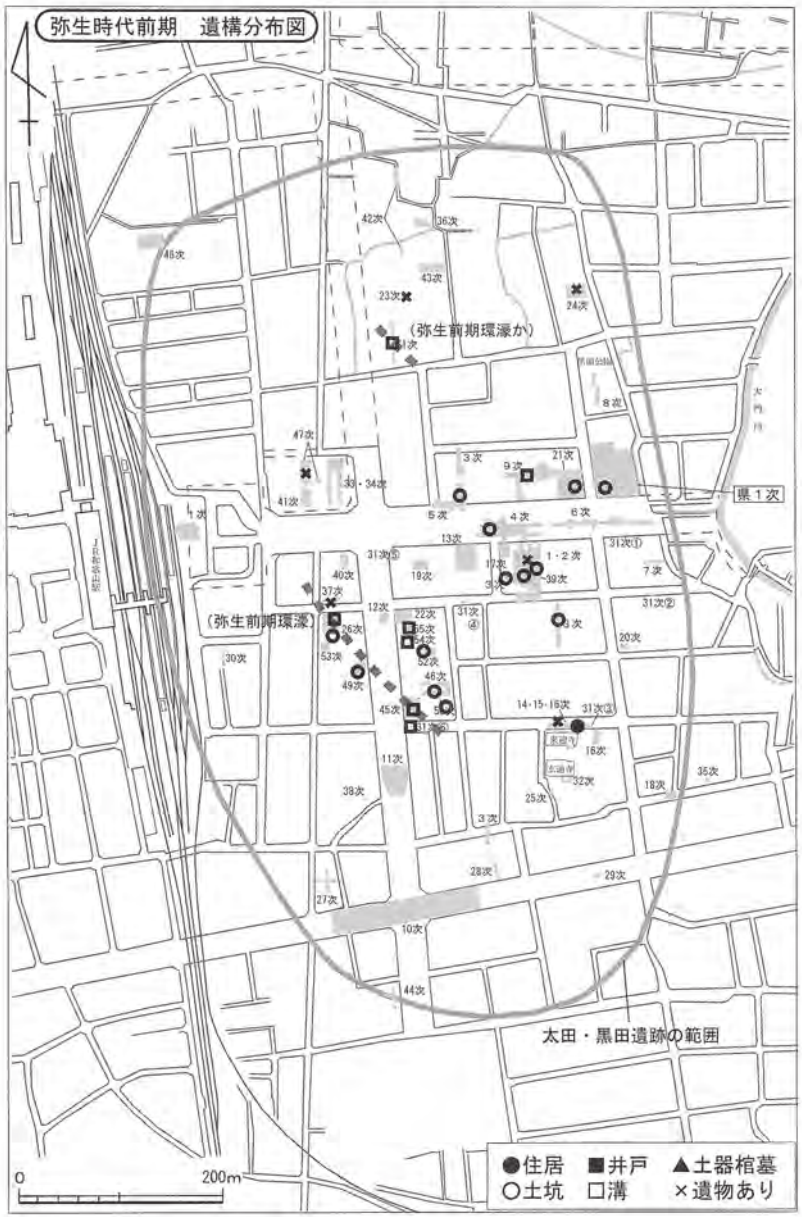
弥生時代　調査区南西部で弥生時代前期末の遺構を検出したが、それ以前の遺構・遺物は確認できない。調査区東半では前期の遺物はほとんど出土しないので、調査区南西部までが前期の集落範囲であったと推測できる（図119下）。幅約15mの谷状地形は中期前葉～中葉にかけて埋没していくが、前期に存在していたことは否定できない。中期前葉の遺構は確認できない。谷状地形埋没後の中期中葉に井戸や竪穴住居が構築される。井戸や住居などが廃絶後に複数条の溝が掘削され、これらの遺構は中期後葉に埋没している。中期中葉～後葉にかけて土器棺や土壙墓が確認でき、調査地点一帯が墓域であったと推察できる。遺構の変遷は次節で詳細に述べる。

古墳時代　古墳時代初頭の土師器片が少量出土したが、遺構は確認できない。既往調査では住居や井戸などを検出している（図120下）が、弥生時代中期に比べると小規模な集落であったと推測できる。流路などから中期～後期の須恵器がわずかに出土したが、飛鳥～奈良時代の遺物と比較すると非常に少ない。既往調査では遺跡中心部付近で住居などの遺構を検出している（図120上）。

古代　飛鳥時代～奈良時代の幅2～4mの流路（遺構90）と溝を数条、連続する土坑群や大形土坑などを検出した。流路は北東から南西方向へ流れ、古代には流路が集落内を分断するように流れていたと推測できる。33・34次調査で東から西への流路方向を持った幅5mの溝（SD-3）が検出されているが、規模や方向などから遺構90はこれにつながる可能性がある。溝はいずれも流路と平行するように掘削されている。溝に沿って検出された連続して並ぶ土坑群は、道路遺構と推定される波板状遺構と類似する遺構である。48次調査でも同様の連続する土坑群が検出され、弥生時代の遺構と報告されているが、遺構の切り合い関係から弥生時代中期後葉～奈良時代の間に位置付けられる遺構で、今回の調査事例と同時期である可能性は残る。今後周辺の調査で検証していく必要がある。県内では他に徳蔵地区遺跡で6世紀末の類例がある（(財）和歌山県文化財センター2005『徳蔵地区遺跡』）。なお、今回の調査では平安時代の遺構・遺物は確認できなかった。

中世　今回の調査地点では青磁片・瓦器片がごく少数出土するのみで、遺構は検出できなかった。中世の遺構密度は南西側の一帯（遺跡の中心部付近）で高く、大溝（堀状遺構）や井戸などの遺構が検出されている（図121上）。西側に隣接する21次調査地点でも中世の井戸や溝が検出されているため、県1次調査の南西部付近が中世の遺構分布範囲の境界にあたると想定できる。

近世　江戸時代の遺構面を2面調査し、それぞれの面で耕作関係の鋤溝群を検出した。江戸時代以降、今回の調査地点周辺は田畑などの耕作地が広がっていたことが推測できる。



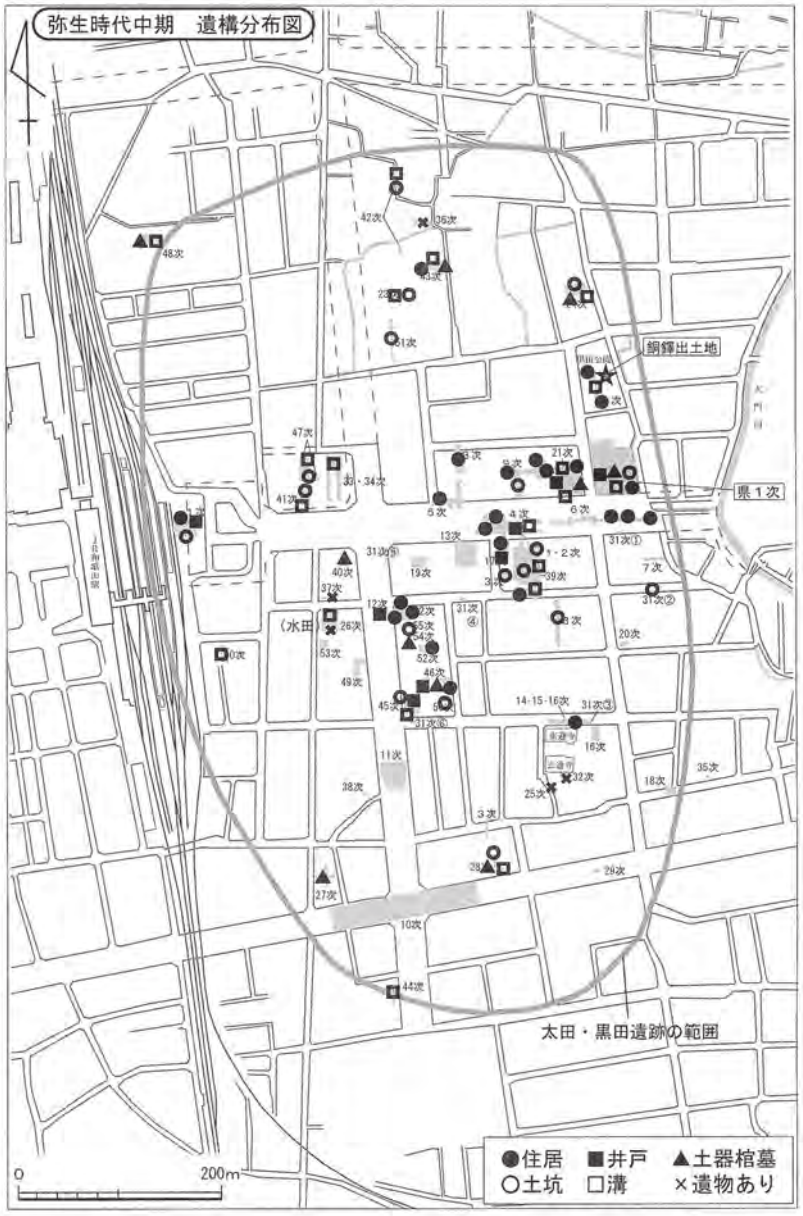
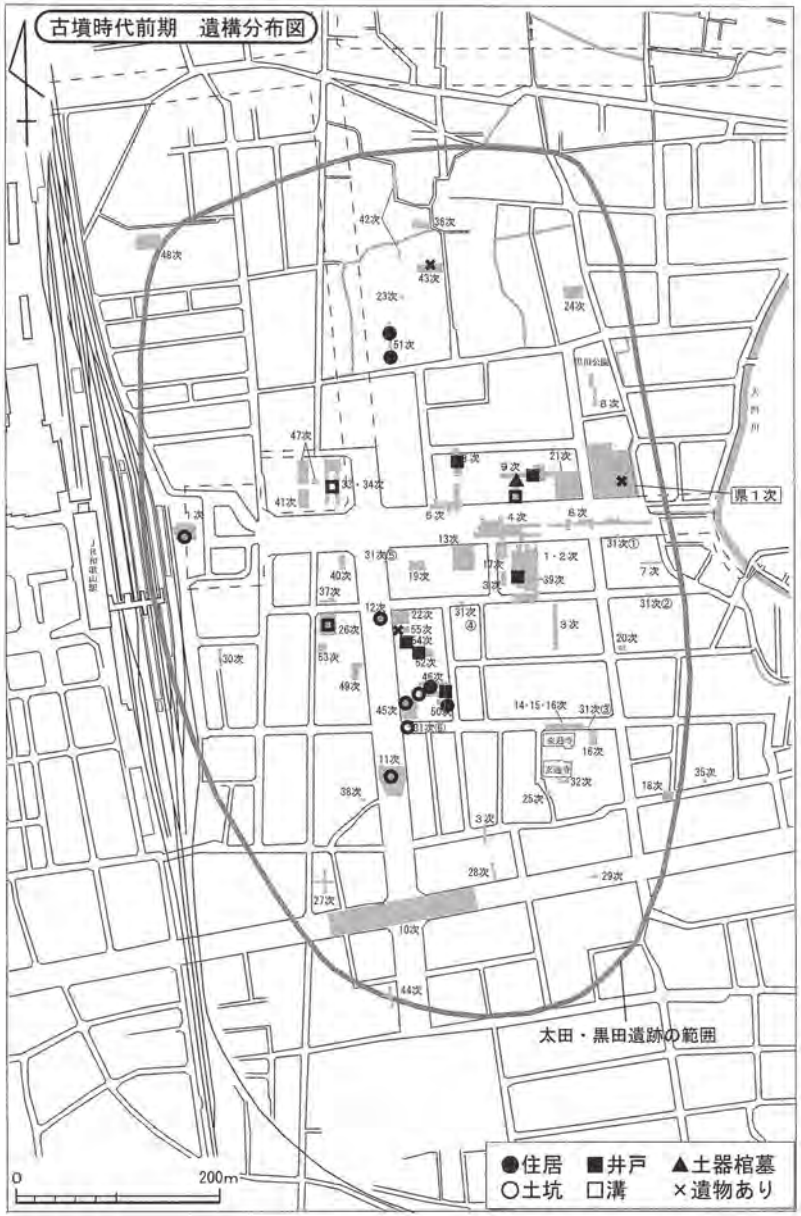


図119　太田・黒田遺跡　時代別遺構分布図①



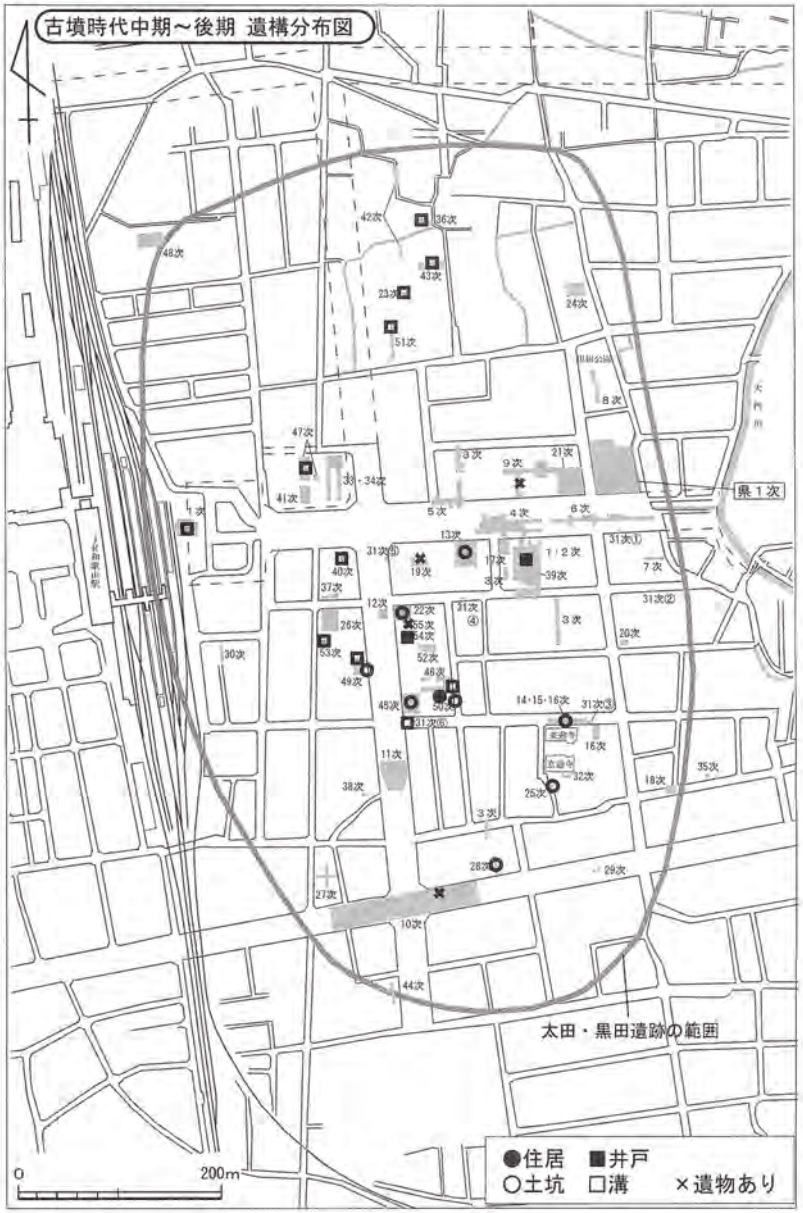
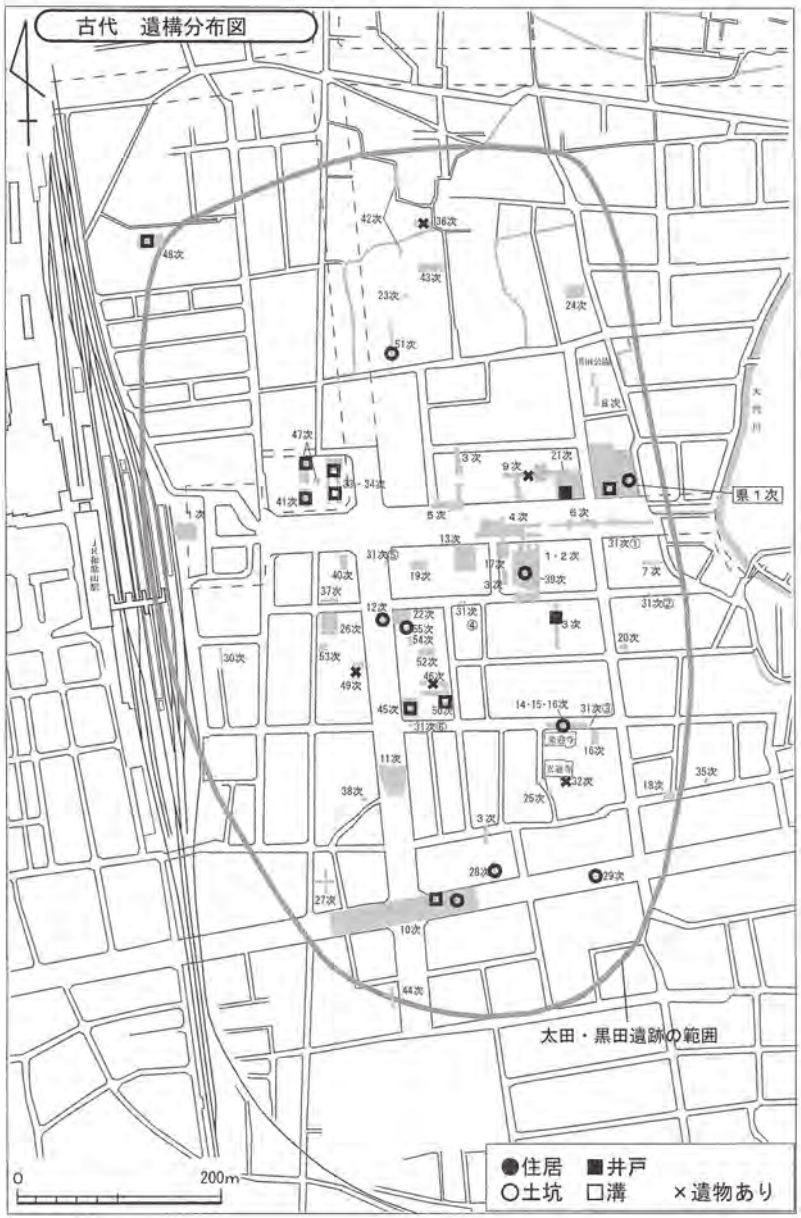


図120　太田・黒田遺跡　時代別遺構分布図②



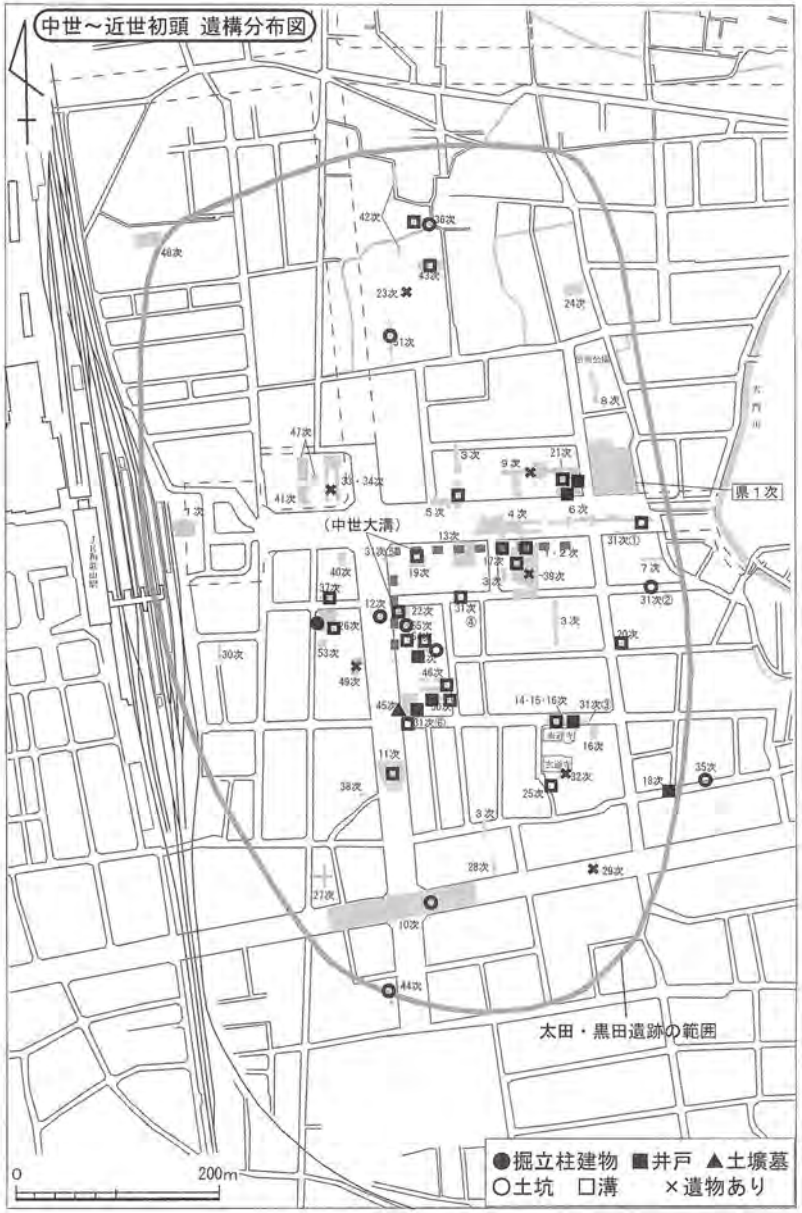


図121　太田・黒田遺跡　時代別遺構分布図③

第２節　弥生土器の編年的位置付け

１．掲載した弥生土器について

今回の報告書では、遺構の時期を示す遺物を掲載するとともに、将来的に編年作業に寄与できるように、まとまって出土した土器は数多く掲載することに努めた。紀伊地域の弥生土器編年は土井1989で設定されて以降大きな修正は加えられていないが、編年作業に有用な資料数は増加し、再整理・再検討する段階になっている。そこで、従来の認識では前後の様式に属すると想定される土器でも除外せずに掲載している場合もある。なお個々の土器の説明は観察表で記している。

２．弥生土器の編年的位置付けと遺構の変遷

各遺構・遺物包含層ごとに出土した弥生土器の編年的位置付けを示した（表６）。これをもとに検出遺構の変遷を整理しておく。今回は各遺構から出土した弥生土器を全体的に編年上位置付けただけで、個別の弥生土器を詳細に検討するところまでは至っていない。

まず今回の調査で最も古い遺構は８層上面遺構で、Ⅰ－３様式（前期末）に位置付けられる。Ⅱ－１様式段階の遺構は確認できず、谷状地形はⅡ－２～Ⅲ－１様式の段階で埋没する。４層下面遺構のうち、遺構300（竪穴住居）はⅢ－１様式段階、遺構311などのＢ区南西部土坑群はⅢ－１～Ⅲ－２様式段階の遺構と考えられる。検出した４基の井戸は、遺構150がⅢ－１様式、遺構142がⅢ－２～３様式、遺構140－Ｎと140－ＳがⅢ－３様式に構築されて同時に併存しなかった可能性がある（遺構の重複関係から140－Ｎは140－Ｓに先行する）。４層上面遺構の溝はⅢ－３～Ⅳ－１様式段階の遺構で、Ⅳ－２様式段階を迎える前までにすべて埋没している。なお、溝の先後関係は、遺構の重複関係から遺構290は遺構129・291より先行し、遺構129・291と遺構130は切り合わずに掘削されていることや灰白色シルトを含むなど埋土の状況が類似することなどからほぼ同時に掘削されて埋没したと推測できる。以上のように、今回の調査区ではⅡ様式を除いて、Ⅰ－３様式～Ⅳ－１様式段階まで継続して遺構が形成されていたと考えることができる。

３．土器群の提示

最後に、今回の調査で一括資料と考えられる土器や土器溜まりなどでまとまって出土した土器を土器群として提示する（図122・123）。これらは編年上同時期と推測できる一群で、今後の土器編年を再検討する際の基礎作業として示すものである。４層下面遺構の遺構300（竪穴住居）下層、遺構311（溝状土坑）、遺構149（土器溜まり）、140－Ｓ（井戸）木枠内、４層上面遺構の遺構290（溝）上層から出土した土器の他、まとまった出土ではないが、８層上面の各遺構、谷状地形５・６層、４層上面遺構の遺構291（溝）の土器も土器群として捉えることができる。

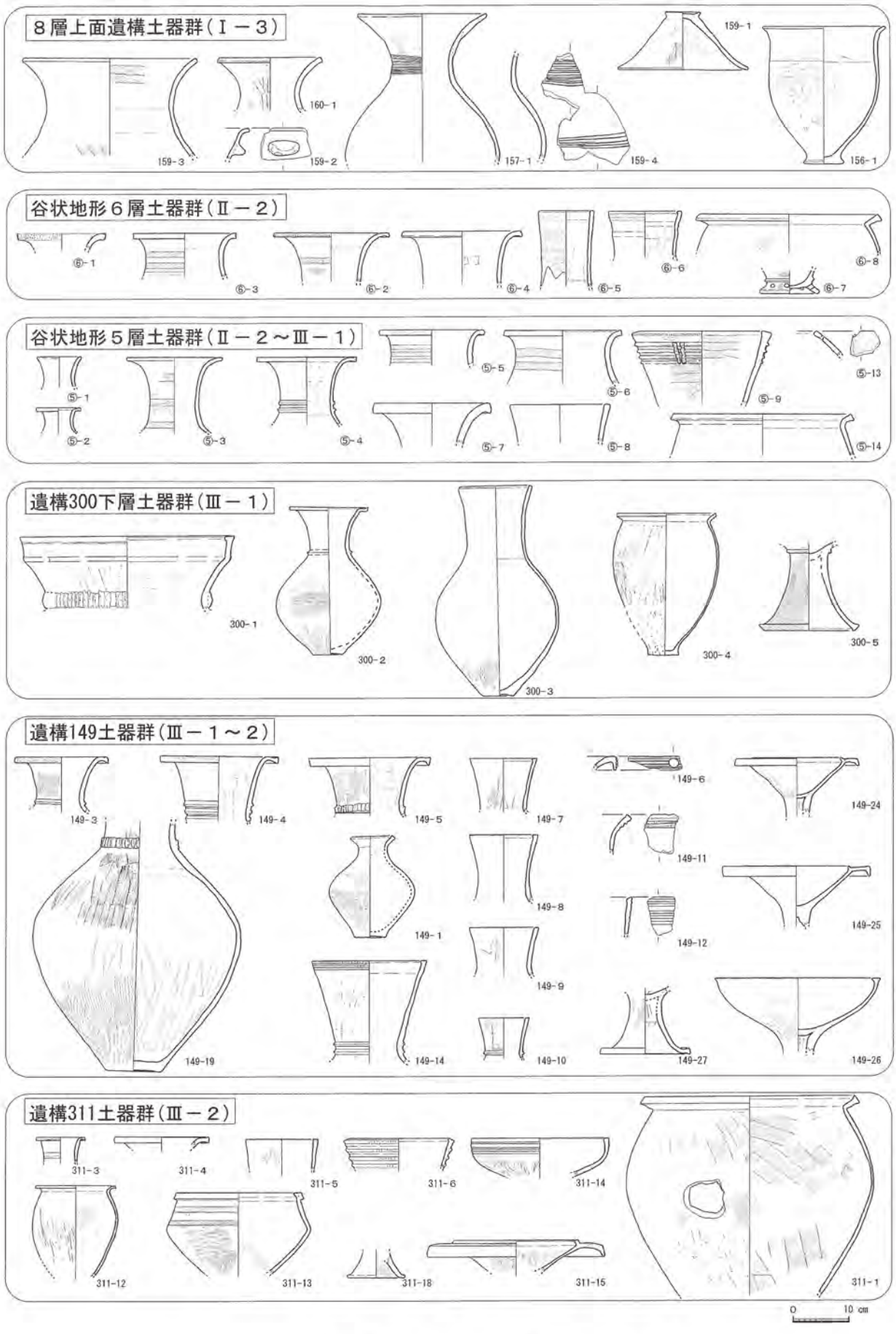


図122　弥生土器の変遷１（S＝1/10）

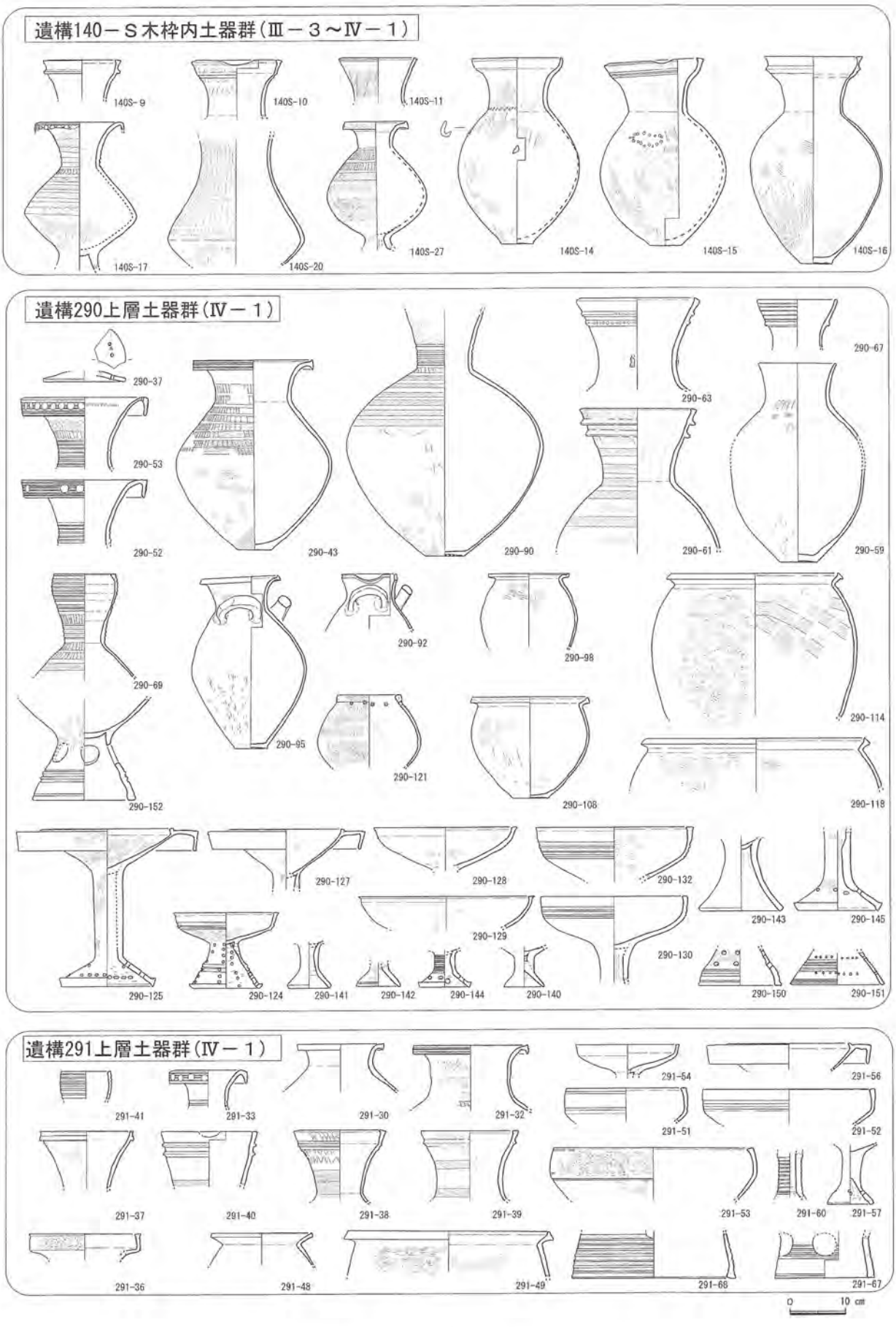


図123　弥生土器の変遷２（S＝1/10）

表6　遺構・遺物包含層出土の弥生土器編年区分表

遺構名	層位	Ⅰ－1 第一様式古	Ⅰ－2 第一様式中	Ⅰ－3 第一様式新	Ⅱ－1 第二様式	Ⅱ－2 第二様式	Ⅲ－1 第三様式古	Ⅲ－2 第三様式新	Ⅲ－3 第三様式新	Ⅳ－1 第四様式古	Ⅳ－2 第四様式新	備考
		弥生時代前期			中期前葉		中期中葉			中期後葉		
130（溝）	最下層											
	下層											130-9・130-12は古い遺物の混入か
	中層											130-22・130-31は古い遺物の混入か
	上層											130-97は庄内式期の遺物の混入
128-E（溝）	下層											128E-2・128E-3は古い遺物の混入か
	中層											
	上層											
128-W（溝）	下層											
	上層											128W-6は古い遺物の混入か
129（溝）	下層											
	中層											
	上層											129-6は古い遺物の混入か
291（溝）	最下層											291-1は古い遺物の混入か
	下層											291-9は古い遺物の混入か
	中層											291-25は古い遺物の混入か
	上層											291-47・291-55は古い遺物の混入か
290（溝）	最下層											
	下層											
	中層											
	上層											
290・291	上層											
125（土器棺）												
126（土器棺）												
280（溝状土坑）												
289（溝状土坑）												
368（溝状土坑）												
135（土器棺）												
293（土坑）												
284（土坑）												
140-N（井戸）	最下層											
	下層											
140-S（井戸）	掘形最下層											
	掘形下層											
	木枠内最下層											
	木枠内上層											
	上層											
140S・140N	上層											
142（井戸）	最下層											土器小片のため不明（弥生中期）
	下層											
	上層											土器小片のため不明（弥生中期）
150（井戸）	下層											
	中層											
	上層											
149（土器溜まり）	下層											149-6・149-12：Ⅲ-2以降
	上層											149-29・149-30：Ⅲ-2以降
145（溝）	下層											
	中層											
	上層											
	一括											
300（住居）	下層											
	下層炭層											
	中層											
	上層											
301（土坑）												
310（土坑）	下層											底部のため不明（弥生中期か）
	上層											
311（土坑）												
313（土坑）												
314（土坑）												
315（土坑）												底部のため不明（弥生中期か）
360（土坑）												
370（土坑）												土器小片のため不明（弥生中期）
369（土坑）	中層											
	上層											
谷状地形	5層											
谷状地形	6層											⑥-8：Ⅲ-1か
155（土坑）												
156（土坑）												156-1：Ⅰ-3～Ⅱ-1
157（土坑）												
158（土坑）												
159（土坑）												
160（土坑）												
包含層8-1層												
包含層3・4層	（前期土器）											

＊弥生土器編年は、土井孝之 1989「紀伊地域」『弥生土器の様式と編年　近畿編Ⅰ』（木耳社）による。

付章　自然科学的分析

第１節　分析試料とその方法

１．分析試料とその方法

委託機関からの分析報告をそのまま掲載するだけでは、分析試料の位置付けや分析結果に対する考古学的な理解、遺跡の評価などが不十分になるため、第５章では自然科学的分析に基づいた考古学からの遺跡の評価や検討、考察をおこなった。本文中で分析方法や結果などすべて掲載すると煩雑になるが、分析方法や分析データなどは分析結果やそこから導かれた考察などを検証するためには提示しておく必要があるので、委託機関からの報告本文および図表は付章としてすべて掲載することにした。

付章第１節では分析試料の採取方法やその試料の位置付け、分析の目的などについて概説しておく。付章第２節～第７節で各委託機関などからの報告を掲載している。

なお付章では全文掲載するにあたってフォントサイズを下げている。

２．リン・カルシウム分析

土器棺および土壙墓の可能性がある土坑・溝状土坑を検出したので、これらが墓であったことを検証するために（株）パレオ・ラボに委託してリン・カルシウム分析を実施した。分析試料は文化財センターが現地調査中に採取したが、土器棺内の試料については土器取り上げ後に文化財センター調査事務所内で採取した。土器棺や土坑の埋土の他、周辺の遺物包含層の試料も比較対象として分析することにした。

３．花粉・珪藻分析

太田・黒田遺跡における遺構形成当時の環境復元を検討するために（株）パレオ・ラボに委託して花粉分析および珪藻分析を実施した。分析試料はＡ区東西トレンチ部分や井戸や溝の埋土などから文化財センターが現地調査中に土壌を採取した。

４．管玉原材産出地分析

出土した管玉２点について、（有）遺物材料研究所に委託して原材産出地分析を実施した。なお、今回出土した管玉２点のほか、比較試料として太田・黒田遺跡第50次１点、和歌山市秋月遺跡第８次１点、橋本市柏原遺跡第１次２点、橋本市血縄遺跡１点、海南市岡村遺跡３点の管玉をそれぞれ和歌山市教育委員会・橋本市教育委員会・海南市教育委員会から借用して併せて分析した。

５．サヌカイト原材産出地分析

出土したサヌカイト剥片について、（有）遺物材料研究所に委託して原材産出地分析を実施した。サヌカイト剥片が多く出土した弥生時代中期中葉の遺構300（竪穴住居）６点、弥生時代中期後葉の遺構129（溝）５点を分析した他、遺物包含層の４層下部４点、４層１点、３層４点を分析した。計20点分析したことになる。４層下部は弥生時代中期中葉、４層は弥生時代中期後葉、３層は飛鳥時代～奈良時代の遺物包含層である。３層の試料は後世の遺物包含層からの出土であるが、肉眼観察で二上山産以外の可能性が想定されたサヌカイトを抽出して分析している。

６．木製品の樹種同定

木製品の使用樹種の把握と周辺環境復元のために、出土した木製品や自然木について樹種同定をおこなった。切片採取とプレパラート作製および顕微鏡写真撮影、写真図版レイアウトは文化財センターがおこない、樹種同定について徳島大学中原計氏に依頼した。文化財センターがプレパラートを作製したことや木製品の遺存状態が良好でないものがあるなど、中原氏には困難な状況での依頼であったが快く快諾してもらった。そのため確定しづらい樹種については一覧表で「？」を付けて表している。なお、プレパラートおよび顕微鏡写真については文化財センターが保管している。

第２節　土器棺等の土壌中のリン・カルシウム分析

藤根　久（パレオ・ラボ）

１．はじめに

太田・黒田遺跡の調査では、弥生時代の土器棺および土坑が検出された。

ここでは、これら土器棺および土坑内の土壌を対象として骨を構成する主要な無機成分のリンとカルシウム含有量を調べるために、蛍光Ｘ線分析を行った。

２．試料と方法

試料は、土器棺と土坑内の残留土壌および地山試料の15試料である（表１）。採取された試料は、多くがシルト質粘土であるが、砂質試料も含まれている。

分析試料は、一部を採取し乾燥した後、セラミック乳鉢で粉砕した。粉砕した試料は、塩化ビニール製リングに充填した後、油圧プレス機を用いて20トンプレスして測定用ブリケットを作成した。

測定は、フィリップス社製波長分散型蛍光Ｘ線分析装置 MagiX(PW2424型)を用いてFP法（ファンダメンタル・パラメータ法）により行った。

測定および計算した元素は、主成分元素（酸化ナトリウム Na_2O、酸化マグネシウム MgO、酸化アルミニウム Al_2O_3、酸化ケイ素 SiO_2、酸化イオウ SO_3、酸化リン P_2O_5、酸化カリウム K_2O、酸化カルシウム CaO、酸化チタン TiO_2、酸化マンガン MnO、酸化鉄 Fe_2O_3）および微量元素（酸化銅 CuO、酸化亜鉛 ZnO、酸化ルビジウム Rb_2O、酸化ストロンチウム SrO、酸化シルコニウム ZrO_2、酸化バリウム BaO）である。

なお、一部の試料は、蛍光Ｘ線分析による元素マッピング分析および点分析を行った。試料は、乳鉢で軽く粉砕した後、油圧プレス機を用いて20トンプレスして測定用ブリケットを作成した。測定は、Ｘ線分析顕微鏡（㈱堀場製作所製 XGT-5000TypeⅡ）を用いた。元素マッピングの測定条件は、Ｘ線導管径100μm、電圧50KV、電流自動設定、測定時間10,000secである。点分析の測定条件は、Ｘ線導管径100μm、電圧50KV、電流自動設定、測定時間500secである。定量計算は、標準試料を用いないFP法で半定量分析を行った。

３．結果および考察

表１には、各資料の蛍光Ｘ線分析結果を示す。

分析した結果、化学組成として酸化ケイ素 SiO_2 が最も多く 64.67～69.34%含まれ、次いで酸化アルミニウム Al_2O_3 が18.01～19.70%、酸化鉄 Fe_2O_3 が3.70～6.48%、酸化カリウム K_2O が3.01～3.25%であり化学的には類似した成分と言える。

骨を構成する主要な無機成分は、水酸燐灰石（ハイドロキシアパタイト：$Ca_5(OH)(PO_4)_3$）からなり、リンとカルシウムがほぼ等量含まれている。ただし、人間であるか否かは特定できない。

測定の結果、酸化リン P_2O_5 は、0.22～1.23%含まれ、平均値は0.57%であった。また、酸化カルシウム CaO が0.02～1.20%含まれ、平均値 1.15%であった。

一般的に土壌中では、酸化リンは少ないが、酸化カルシウムは長石類として多く含まれる元素である。

土壌中の分析値から、骨成分が残存しているかどうかの判定は、両元素の含有量がほぼ等量で周辺土壌の値に対して高いことが必要である。ただし、土壌中における埋没後の両元素の挙動は異なることが予想されることから、両元素が少なくとも周辺土壌の含有量より高い値であることが条件と考える。

図１に、酸化リン(P_2O_5)と酸化カルシウム(CaO)の分布図を示す。

この図中において、地山の含有量より高い領域に位置する分析No.fおよびNo.i～lは、両元素とも比較的高い値を示し、骨成分が残存している可能性が高い。

なお、分析No.bおよびNo.eは、酸化カルシウム含有量が高いものの酸化リンが低いため、この分析値のみからは判断できない。

そこで、分析No.bおよびNo.eは、別タイプの蛍光Ｘ線分析装置を用いて元素マッピング分析および点分析を行った。

その結果、リン濃度の高い部分が検出され（図２の白色部分）、点分析においてNo.bが最大酸化リンが17.18%、酸化カルシウムも最大13.33%検出され、No.eが最大酸化リンが20.35%、酸化カルシウムも最大6.57%検出された（表３）。これは骨片自体の小片部分を測定しているものと考える。

なお、埋葬施設と考えられている土器棺内の土壌中においてリンおよびカルシウム含有量が高くない理由は、埋没後の骨の劣化にともなう元素の溶出の程度に差があるためと考える。

ここで試行したように、元素マッピングを行い、リン濃度の高い部分を検出して直接点分析を行う方法が有効と考える。

表1　分析試料とその詳細

分析No.	遺構No.等	地区	遺構面	時代	層位	備考	堆積物	色調
a	125(土器棺)	A区e・d11	4層上面	弥生	堀形		シルト質粘土	灰黄色(2.5Y 6/2)
b	125(土器棺)	A区d11	4層上面	弥生	土器棺内上部		シルト質粘土	灰黄色(2.5Y 6/2)
c	125(土器棺)	A区d11	4層上面	弥生	土器棺内下部		シルト質粘土	灰黄色(2.5Y 6/2)
d	126(土器棺)	A区d11	4層上面	弥生	堀形		シルト質粘土	灰黄色(2.5Y 6/2)
e	126(土器棺)	A区d11	4層上面	弥生	土器棺内上部		シルト質粘土	暗灰黄色(2.5Y 5/2)
f	126(土器棺)	A区d11	4層上面	弥生	土器棺内下部		シルト質粘土	暗灰黄色(2.5Y 5/2)
g	101(落込み)	A区d11	3-2層下面	奈良	遺構90の下層	遺構125上層部分（3層）	シルト質粘土	灰黄色(2.5Y 6/2)
h	包含層4層	A区d11		弥生	遺構90の下層	遺構125下層部分（4層）	シルト質粘土	灰黄色(2.5Y 6/2)
i	包含層5層	A区e・d11		弥生	遺構125・126下層	遺構125下層部分（5層）	シルト質粘土	灰黄色(2.5Y 6/2)
j	133(土坑)	A区d11	4層上面	弥生	埋土上部	土坑墓？	シルト質粘土	灰黄色(2.5Y 5/2)
k	133(土坑)	A区d11	4層上面	弥生	埋土下部	土坑墓？	砂質シルト	暗灰黄色(2.5Y 5/2)
l	135(土坑)	A区e10	4層上面	弥生	堀形	土坑棺？	シルト質粘土	灰黄色(2.5Y 6/2)
m	135(土坑)	A区e10	4層上面	弥生	土器内の土	土坑棺？	シルト質粘土	灰黄色(2.5Y 6/2)
n	289(溝状土坑)	B区b13	4層上面	弥生	埋土最下層	土坑棺？	砂質シルト	黄灰色(2.5Y 6/1)
o	地山	B区y14			遺構291の下層	遺構289周辺下層	シルト質砂	にぶい黄色(2.5Y 6/3)

表2　蛍光X線分析結果（単位%）

分析No.	遺構・層位	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	SO_3	K_2O	CaO	TiO_2	Cr_2O_3	MnO	Fe_2O_3	CuO	ZnO	Rb_2O	SrO	ZrO_2	BaO	TOTAL	判定
a	125土器棺　堀形	1.75	1.93	19.70	65.80	0.48	0.08	3.21	1.04	0.80	0.01	0.13	4.95	0.006	0.011	0.013	0.014	0.036	0.053	100.00	
b	125土器棺内上部	1.96	1.91	18.39	66.54	0.51	0.09	3.21	1.15	0.76	0.02	0.14	5.20	0.006	0.013	0.013	0.015	0.036	0.055	100.00	○(マッピング結果)
c	125土器棺内下部	1.79	1.96	19.07	66.18	0.42	0.08	3.22	1.07	0.77	0.01	0.12	5.21	0.007	0.014	0.013	0.014	0.018	0.048	100.00	
d	126土器棺堀形	1.68	2.05	19.06	66.52	0.46	0.09	3.24	1.04	0.80	0.01	0.11	4.82	0.007	0.011	0.012	0.015	0.021	0.048	100.00	
e	126土器棺内上部	1.81	2.07	18.63	66.60	0.49	0.09	3.11	1.29	0.81	0.01	0.18	4.80	0.008	0.015	0.013	0.016	0.021	0.050	100.00	○(マッピング結果)
f	126土器棺内下部	1.71	1.87	18.70	64.67	0.76	0.10	3.15	1.37	0.83	0.01	0.22	5.48	0.012	0.015	0.014	0.015	0.022	0.062	100.00	○
g	125上層(3層)	1.74	2.03	19.37	65.98	0.24	0.11	3.01	1.05	0.93	0.02	0.13	5.28	0.007	0.016	0.013	0.014	0.024	0.044	100.00	
h	125下層(4層)	1.66	2.17	19.52	65.50	0.45	0.07	3.16	1.06	0.82	0.01	0.14	5.30	0.008	0.016	0.013	0.015	0.037	0.050	100.00	
i	125下層(5層)	1.80	1.85	18.51	66.53	0.72	0.10	3.12	1.16	0.77	0.02	0.12	5.20	0.009	0.014	0.014	0.014	0.022	0.053	100.00	○
j	133土坑埋土上部	1.69	1.90	18.43	64.91	1.23	0.12	3.18	1.24	0.78	0.01	0.15	6.24	0.008	0.014	0.013	0.016	0.025	0.051	100.00	○
k	133土坑埋土下部	1.62	1.98	18.07	65.65	1.00	0.10	3.18	1.35	0.78	0.01	0.13	6.00	0.013	0.016	0.014	0.017	0.024	0.048	100.00	○
l	135土坑堀形	1.71	1.90	18.70	65.98	0.78	0.10	3.25	1.27	0.80	0.01	0.16	5.20	0.011	0.017	0.013	0.016	0.028	0.052	100.00	○
m	135土器内の土	1.84	1.73	18.01	69.34	0.22	0.04	3.19	1.07	0.67	0.01	0.07	3.70	0.007	0.010	0.012	0.015	0.024	0.048	100.00	
n	289埋土最下層	1.84	1.73	18.01	69.34	0.22	0.04	3.19	1.07	0.67	0.01	0.07	3.70	0.007	0.010	0.012	0.015	0.024	0.048	100.00	
o	289下層の地山	1.72	1.91	18.97	66.78	0.59	0.03	3.17	1.08	0.78	0.02	0.07	4.74	0.006	0.012	0.013	0.016	0.030	0.054	100.00	
統計値	最小値	1.62	1.73	18.01	64.67	0.22	0.03	3.01	1.04	0.67	0.01	0.07	3.70	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.04		
	最大値	1.96	2.17	19.70	69.34	1.23	0.12	3.25	1.37	0.93	0.02	0.22	6.48	0.01	0.02	0.01	0.02	0.04	0.06		
	平均値	1.75	1.93	18.74	66.42	0.57	0.08	3.17	1.15	0.78	0.01	0.13	5.12	0.01	0.01	0.01	0.02	0.03	0.05		

表3　No. b および No.e（プレス試料）の点分析結果（単位%：No.e の測定位置は図2－4に示す）

分析No.	測定No.	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	K_2O	CaO	TiO_2	MnO_4	Fe_2O_3	ZrO_2	total
b	1	12.86	46.69	17.18	2.22	13.33	1.66	0.15	5.87	0.05	100.01
e	1	11.25	76.88	1.32	1.70	0.79	0.42	0.11	5.50	2.02	99.99
	2	11.23	51.91	20.35	1.54	0.78	0.42	0.39	13.38	0.02	100.02
	3	12.11	54.99	5.89	1.80	0.81	0.40	0.06	23.92	0.02	100.00
	4	8.16	72.39	9.73	1.06	6.57	0.17	0.06	1.84	0.01	99.99
	5	15.16	63.96	7.87	2.39	0.87	0.54	0.08	9.09	0.04	100.00
最小値		8.16	46.69	1.32	1.06	0.78	0.17	0.06	1.84	0.01	
最大値		15.16	76.88	20.35	2.39	13.33	1.66	0.39	23.92	2.02	

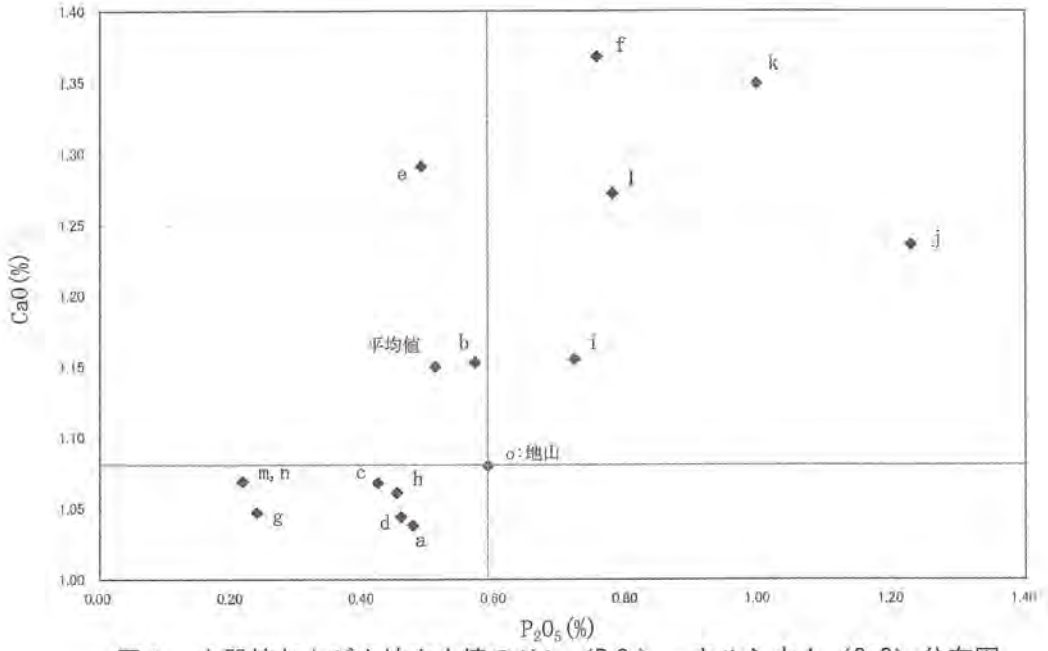


図１　土器棺および土坑内土壌のリン（P_2O_3）－カルシウム（CaO）分布図

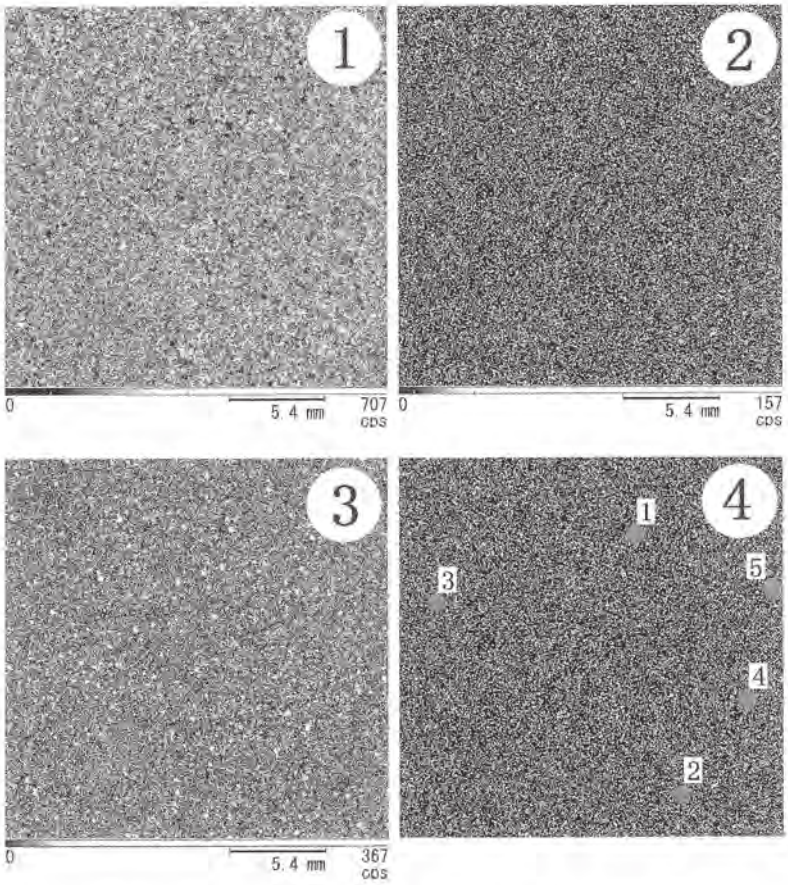


図２　分析No. eの元素マッピング図と点分析位置

1. ケイ素　2. リン　3. カルシウム　4. 点分析の位置

第３節　太田・黒田遺跡の花粉化石群集

新山雅広（パレオ・ラボ）

１．はじめに

太田・黒田遺跡は、和歌山市黒田池ノ首48番に所在し、紀ノ川によって形成された沖積平野の微高地上（標高４m前後）に立地する。本遺跡は、和歌山県内最大級の弥生時代集落遺跡であり、これまでの発掘調査により、弥生時代前期～中期にかけての住居跡や環濠などが検出されている。また、古墳時代の住居跡や奈良時代の井戸、室町時代の溝なども検出されている。ここでは、弥生時代の溝・井戸・谷状地形、奈良時代の流路・溝、江戸時代の鋤溝といった遺構の埋土を主な試料とし、各時期の古植生および古環境を推定する目的で花粉化石群集の検討を行った。

２．試料

花粉化石群集の検討は、試料１～15の合計15試料について行った。以下に、各試料の記載を示す。

[江戸時代の試料（試料１）]

A区（北西）の２層下面で検出された鋤溝（遺構26）埋土より採取された。試料は灰黄色シルト。

[奈良時代の試料（試料２～４）]

A区e12の3-2層下面で検出された流路（遺構90）埋土およびB区c14の3-2層下面で検出された溝（遺構100）埋土より採取された。流路（遺構90）埋土は、埋土上部（試料２）および下部（試料３）より採取され、試料２は、黄灰色シルト混じり細砂で不鮮明な褐鉄鉱が認められる。試料３は黄灰色細砂。溝（遺構100）埋土（試料４）は黄灰色シルトで褐鉄鉱が認められる。

[弥生時代の試料（試料５～11）]

A区g11の４層上面で検出された溝（遺構129）、井戸（遺構142）埋土およびA区g13東西トレンチで検出された谷状地形埋土より採取された。溝（遺構129）は、北側セクションで埋土の上部（試料５）と最下層（試料６）より採取された。試料５は灰白色シルトブロック混じり黒褐色シルト。試料６は黒色シルトで炭化物片を含む。井戸（遺構142）は、埋土上部（試料７）および下部（試料８）より採取された。試料７は黒褐色シルト～細砂で炭化物片を若干含む。試料８は黒色シルト～粘土（粘性高い）で炭化物片を含む。谷状地形埋土は、谷上部の遺物包含層である４層（試料９）、中部の５層下部（試料10）、下部の６層下部（試料11）より採取された。試料９は灰色砂・小礫混じりシルトで炭化物片を含む。試料10は黄灰色シルト～細砂で炭化物片を含み、褐鉄鉱が認められる。試料11はオリーブ黒色シルトで褐鉄鉱が認められる。なお、溝（遺構129＝試料５、６）は中期後葉、井戸（遺構142＝試料７、８）は中期中葉、遺物包含層の試料９は中期中葉～後葉、試料10、11は中期前葉～中葉と考えられている。

[弥生時代以前の試料（試料12～15）]

A区東西トレンチで検出された谷状地形の基盤層より採取された。試料12（e12地区、7-3層；地山以下の湿地状堆積）は灰色砂。試料13（h13地区、９層上部；地山）はオリーブ褐色シルト、試料14（h13地区、９層下部；地山）は暗オリーブ灰色砂混じりシルトで不鮮明な褐鉄鉱が認められる。試料15（h13、10層；地山以下の湿地状堆積）はオリーブ灰色粘土（粘性高い）で不鮮明な褐鉄鉱が認められる。

３．方法

花粉化石の抽出は、試料約２～３ｇを10%水酸化カリウム処理（湯煎約15分）による粒子分離、傾斜法による粗粒砂除去、フッ化水素酸処理（約30分）による珪酸塩鉱物などの溶解、アセトリシス処理（氷酢酸による脱水、濃硫酸１に対して無水酢酸９の混液で湯煎約５分）の順に物理・化学的処理を施すことにより行った。なお、フッ化水素酸処理後、重液分離（臭化亜鉛を比重2.1に調整）による有機物の濃集を行った。プレパラート作成は、残渣を蒸留水で適量に希釈し、十分に攪拌した後マイクロピペットで取り、グリセリンで封入した。検鏡は、プレパラート１～３枚の全面を走査し、その間に出現した全ての種類について同定・計数した。その計数結果をもとにして、各分類群の出現率を樹木花粉は樹木花粉総数を基数とし、草本花粉およびシダ植物胞子は花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した。ただし、クワ科、バラ科、マメ科は樹木と草本のいずれをも含む分類群であるが、区別が困難なため、ここでは便宜的に草本花粉に含めた。なお、複数の分類群をハイフンで結んだものは分類群間の区別が困難なものである。

4．花粉化石群集の記載

全試料で同定された分類群数は、樹木花粉17、草本花粉17、形態分類で示したシダ植物胞子2である。以下に、各試料の花粉化石群集を記載する。なお、試料11、14以外の試料は、十分な花粉化石を産出せず、花粉化石分布図として示すことができなかった。

[江戸時代の試料（試料1）]

シダ植物の単条型胞子のみが僅かに産出した。

[奈良時代の試料（試料2～4）]

試料4は木本のシイノキ属、草本のガマ属、イネ科を僅かに産出したが、試料2、3は花粉・胞子化石を全く産出しなかった。

[弥生時代の試料（試料5～11）]

試料11は、樹木花粉の占める割合は約40%とやや低率である。その中で、アカガシ亜属が約37%で最も高率であり、次いでシイノキ属（約17%）、スギ属・ヤナギ属（各約11%）、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科（約7%）の順に出現する。他に、マキ属、ツガ属、コウヤマキ属、クマシデ属－アサダ属、コナラ亜属などが約2～4%で出現する。草本花粉は、イネ科が約26%で最も高率であり、次いでヨモギ属（約9%）、オナモミ属（約8%）、アカザ科－ヒユ科（約6%）、クワ科（約4%）の順に出現する。他に、サナエタデ節－ウナギツカミ節、ナデシコ科、アブラナ科、キジムシロ属近似種、セリ科、他のキク亜科などが1%未満で出現する。なお、試料6はアカガシ亜属、ブドウ属、イネ科、ヨモギ属、試料8はモミ属、マツ属複維管束亜属、スギ属、イネ科、アカザ科－ヒユ科、アブラナ科、ヨモギ属を僅かに産出したが、他試料は花粉・胞子化石を全く産出しなかった。

[弥生時代以前の試料（試料12～15）]

試料14は、樹木花粉の占める割合は約26%と低率である。その中で、アカガシ亜属が約33%と最も高率であり、次いでシイノキ属（約16%）、スギ属（約13%）、コナラ亜属（約9%）、エノキ属－ムクノキ属（約7%）、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科（約6%）の順に出現する。他に、モミ属、マツ属複維管束亜属、コウヤマキ属、サワグルミ属－クルミ属、トチノキ属などが約2～4%で出現する。草本花粉は、アカザ科－ヒユ科が約54%と突出し、イネ科、クワ科、ヨモギ属、サナエタデ節－ウナギツカミ節・タンポポ亜科の順に約2～5%で出現する。他に、1%未満ではあるが、フサモ属、オナモミ属なども出現する。なお、他試料は花粉・胞子化石を全く産出しなかった。

5．考察

[古植生について]

弥生時代の試料11、弥生時代以前の試料14以外は、十分な花粉化石を産出しなかったため、古植生について推定することはできなかった。ここでは、試料11、14の花粉組成から、弥生時代および弥生時代以前の古植生について述べる。

弥生時代以前は、アカガシ亜属が優占し、シイノキ属を含む照葉樹林が優勢であったと考えられる。主要素は、針葉樹ではスギ属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、落葉広葉樹ではコナラ亜属、エノキ属－ムクノキ属であっただろう。試料採取地点ないし付近には、沈水植物のフサモ属が生育するような池や沼のような水域が存在し、その周辺の乾き気味の場所には、アカザ科－ヒユ科が繁茂していたであろう。

弥生時代は、引き続き、アカガシ亜属、シイノキ属から成る照葉樹林が優勢であったと考えられる。主要素は、スギ属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科であり、沿海地に普通な種を含むマキ属、エノキ属－ムクノキ属なども混じっていたであろう。また、試料採取地点付近には、虫媒花のヤナギ属も局地的に多く生育していたとみられる。草本類は、イネ科をはじめ、ヨモギ属、オナモミ属、アカザ科－ヒユ科、クワ科などが繁茂していたと考えられる。多産するイネ科は、湿地性のヨシなどを含む可能性も考えられるが、明らかな水湿地性草本は産出せず、むしろ乾き気味の場所に生育する分類群が目立つので、ススキなどの草地優占種を含む可能性も多分に考えられる。オナモミ属をはじめ、アカザ科－ヒユ科などの1年生草本が比較的高率であることは、付近に見られた草地が人為的な攪乱を受ける場所に成立していたのだと推定される。

表１　花粉化石産出一覧表

和名	学名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
樹木																
マキ属	*Podocarpus*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	4	–	–	–	–
モミ属	*Abies*	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	1	–	–	2	–
ツガ属	*Tsuga*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	4	–	–	1	–
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	1	–	–	2	–
マツ属（不明）	*Pinus* (Unknown)	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	2	–
コウヤマキ属	*Sciadopitys*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3	–	–	4	–
スギ属	*Cryptomeria*	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	11	–	–	14	–
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	T.－C.	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	7	–	–	6	–
ヤナギ属	*Salix*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	11	–	–	1	–
サワグルミ属－クルミ属	*Pterocarya-Juglans*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–
クマシデ属－アサダ属	*Carpinus - Ostrya*	–	+	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	1	–
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	–	–	–	–	–	–	–	+	–	–	2	–	+	9	–
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	38	–	–	35	–
シイノキ属	*Castanopsis*	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	17	–	–	17	–
エノキ属－ムクノキ属	*Celtis-Aphananthe*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	7	–
トチノキ属	*Aesculus*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–
ブドウ属	*Vitis*	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–
草本																
ガマ属	*Typha*	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
イネ科	Gramineae	–	–	–	2	–	3	–	6	–	–	66	–	–	21	–
カヤツリグサ科	Cyperaceae	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–
クワ科	Moraceae	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	10	–	–	11	–
サナエタデ節－ウナギツカミ節	*Polygonum* sect. Persicaria-Echinocaulon	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	6	–
アカザ科－ヒユ科	Chenopodiaceae ~ Amaranthaceae	–	–	–	–	–	–	–	3	–	–	15	–	–	210	–
ナデシコ科	Caryophyllaceae	–	+	–	–	–	–	–	–	–	–	1	+	–	–	–
アブラナ科	Cruciferae	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	1	–	–	–	–
キジムシロ属近似種	cf. *Potentilla*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–
他のバラ科	other Rosaceae	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	1	–
マメ科	Leguminosae	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–
フサモ属	*Myriophyllum*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–
セリ科	Umbelliferae	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	1	–
オナモミ属	*Xantium*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	21	–	–	3	–
ヨモギ属	*Artemisia*	–	–	–	–	–	8	–	3	–	–	22	–	–	9	–
他のキク亜科	other Tubuliflorae	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–
タンポポ亜科	Liguliflorae	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	6	–
シダ植物																
単条型胞子	Monolete spore	2	–	–	–	–	1	–	–	–	–	6	–	–	10	–
三条型胞子	Trilete spore	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	4	–	–	7	–
樹木花粉	Arboreal pollen	0	0	0	1	0	2	0	4	0	0	103	0	0	105	0
草本花粉	Nonarboreal pollen	0	0	0	3	0	9	0	13	0	0	142	0	0	277	0
シダ植物胞子	Spores	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	10	0	0	17	0
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	2	0	0	4	0	12	0	17	0	0	255	0	0	399	0
不明花粉	Unknown pollen	0	0	0	2	0	0	0	3	0	0	8	0	0	13	0

T．－C．はTaxaceae-Cephalotaxaceae-Cupresaceaeを示す

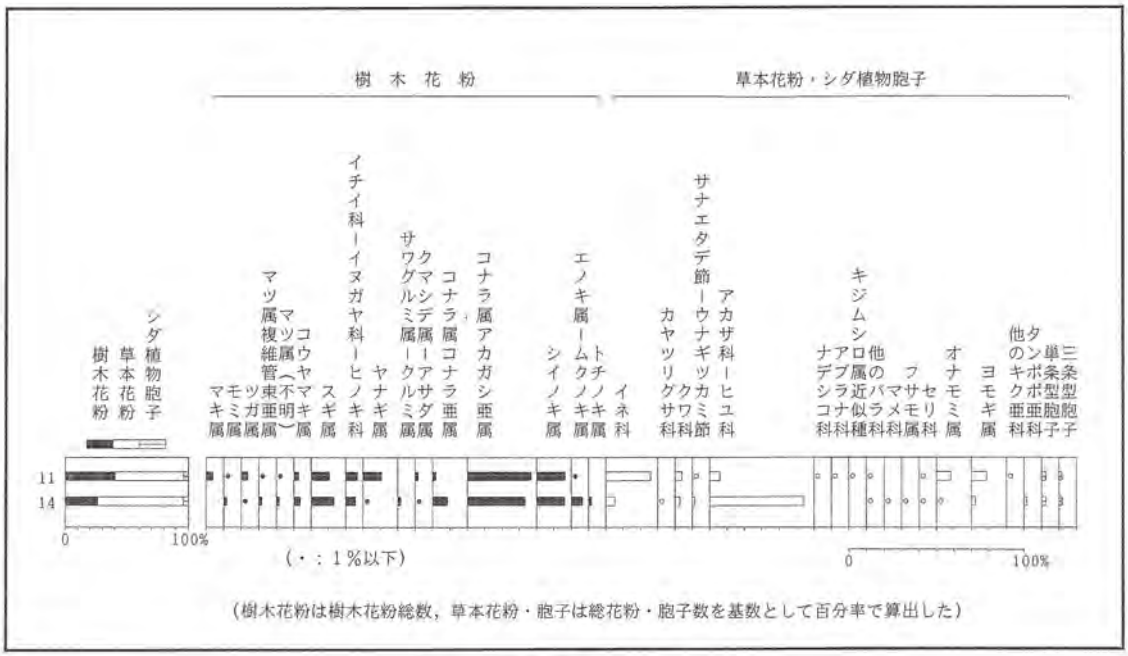


図１　花粉化石分布図

試料11：Ａ区g13／東西トレンチ／６層下部（谷状下部）／弥生時代
試料14：Ａ区h13／東西トレンチ／地山（９層下部）／弥生時代以前

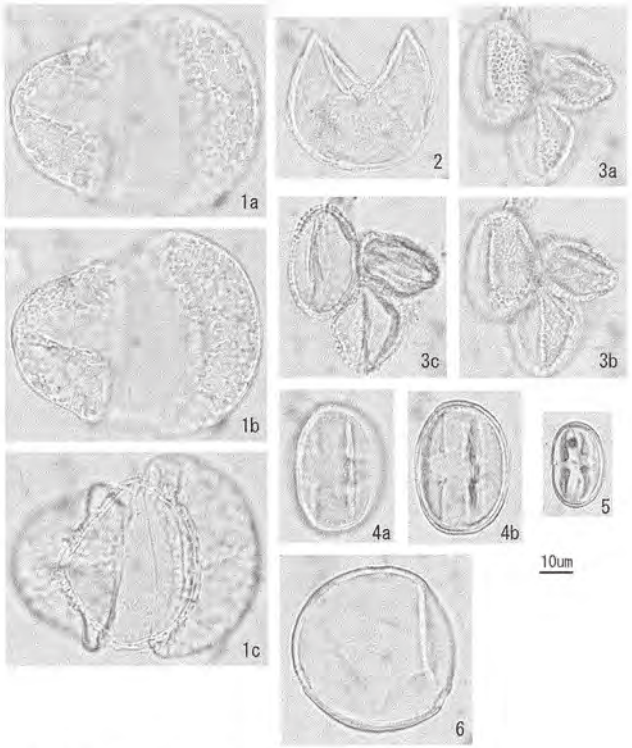
[堆積環境について]

堆積環境の詳細については、珪藻分析の結果を参照されたいが、ここでは花粉分析から推定される堆積環境について述べる。

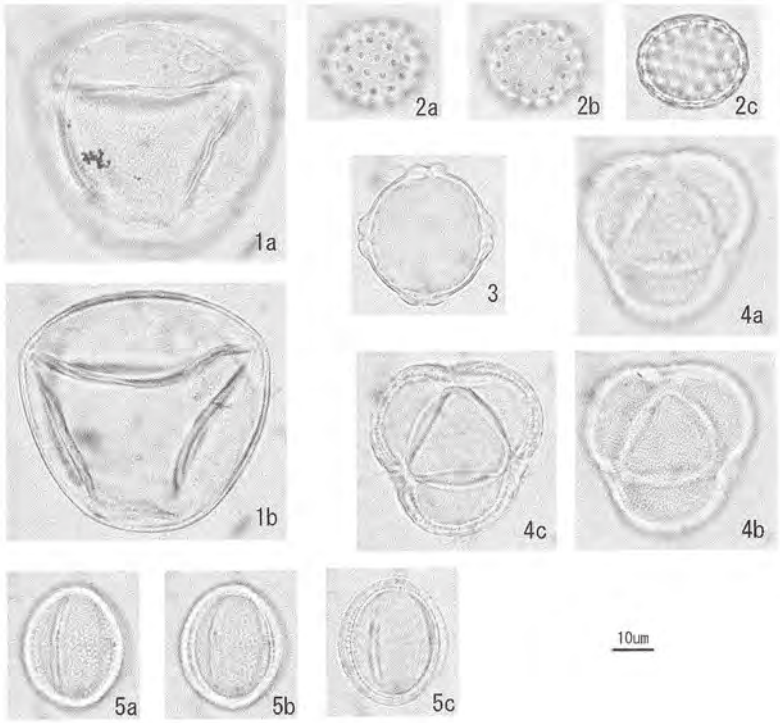
花粉化石は、水成堆積物である場合には良好に保存されるが、土壌のような酸化条件下では化学的風化により分解・消失し、更にバクテリアによる蝕害も受ける。従って、花粉化石が保存されていた谷状下部（6層下部）の試料11、地山（9層下部）の試料14は、水成堆積物であると考えられ、上記したように試料14はフサモ属が生育するような幾分水深のある水域で堆積したものと推定される。一方、その他の試料は、花粉化石の保存状況が悪いことから、少なくとも水成環境で安定して堆積したものとは考え難い。つまり、常時滞水した環境ではなく、乾燥ないし乾湿を繰り返す堆積環境であったために、花粉化石が保存されなかったと考えられる。また、奈良時代の流路埋土である試料2、3は、砂が卓越するため、花粉化石が流出してしまった可能性も考えられる。以上をまとめると、谷状地形の形成以前には、9層下部堆積期のように水溜りの時期もあり、谷状地形が形成されてから間もない6層下部堆積期も水溜りないし湿地状であった。しかし、その後の谷状地形が埋没する過程（試料9；4層、試料10；5層下部）においては、乾燥した環境下であった。江戸時代の鋤溝、奈良時代の溝、弥生時代の溝、井戸などは、乾燥していたか、常時滞水してはいなかった。弥生時代の溝（遺構129）の下層は、発掘調査で若干流水した痕跡が確認されており、奈良時代の溝（遺構100）は湿地性草本のガマ属が産出した。しかし、これらの遺構も一時的に水が流れるか、溜まることはあっても絶えず滞水していたわけではなかったとみられる。

6．おわりに

弥生時代以前および弥生時代には、アカガシ亜属が優占し、シイノキ属を含む照葉樹林が優勢であり、スギ属などを主要素としていた。谷状地形形成以前の9層下部堆積期には、フサモ属が生育する水域が存在し、その周辺にはアカザ科ーヒユ科が繁茂していた。谷状地形は、当初水溜りないし湿地状であり（6層下部）、周辺の攪乱環境にオナモミ属などが草地を形成していた。その後は、乾燥ないし乾湿を繰り返す環境下で埋没していった（4層、5層下部）。検討した溝や井戸などの遺構は、乾燥していたか、一時的に水が溜まることはあっても常時滞水してはいなかったと考えられた。



図版１　産出した花粉化石
１．マキ属、試料11、PAL.MN　2420
２．スギ属、試料14、PAL.MN　2414
３．ヤナギ属(塊)、試料11、PAL.MN　2418
４．コナラ属アカガシ亜属、試料11、PAL.MN　2419
５．シイノキ属、試料11、PAL.MN　2416
６．エノキ属－ムクノキ属、試料14、PAL.MN　2413



図版２　産出した花粉化石
１．イネ科、試料11、PAL.MN　2417
２．アカザ科－ヒユ科、試料14、PAL.MN　2415
３．フサモ属、試料14、PAL.MN　2412
４．オナモミ属、試料11、PAL.MN　2421
５．ヨモギ属、試料11、PAL.MN　2422

第４節　堆積物中の珪藻化石群集

黒澤　一男（パレオ・ラボ）

１．はじめに

珪藻は淡水から海水に至るほとんどすべての水域に生息し、水域生態系の一次生産者として重要な位置を占めている。微小（0.01～0.5mm程度）ながら珪酸体からなる殻を形成するため、化石として地層中によく保存される。また種類ごとに様々な水域に適応し生息するため古環境の指標としてもよく利用されている。

ここでは和歌山県和歌山市の太田・黒田遺跡から採取された堆積物試料を用いて珪藻化石群集を調べ、その堆積環境について検討する。

２．試料及び分析方法

分析試料には、計10試料を用いた（表１）。これらの試料に対し以下の珪藻分析をおこなった。

① 試料を湿潤重量で約1.0ｇ程度取り出し、秤量した後にトールビーカーに移し、30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。
② 反応終了後、水を加え、１時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てた。この作業は上澄み液が透明になるまで７回以上繰り返し行った。
③ ビーカーに残った残渣は遠心管に回収した。
④ マイクロピペットを用い、遠心管から適量を取り、カバーガラスに滴下し、乾燥した。乾燥後にマウントメディア（封入剤）で封入し、プレパラートを作成した。
⑤ 各プレパラートを光学顕微鏡下400～1000倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数を行った。なお、珪藻化石が少ない試料についてはプレパラート全面について精査した。

３．珪藻化石の環境指標種群について

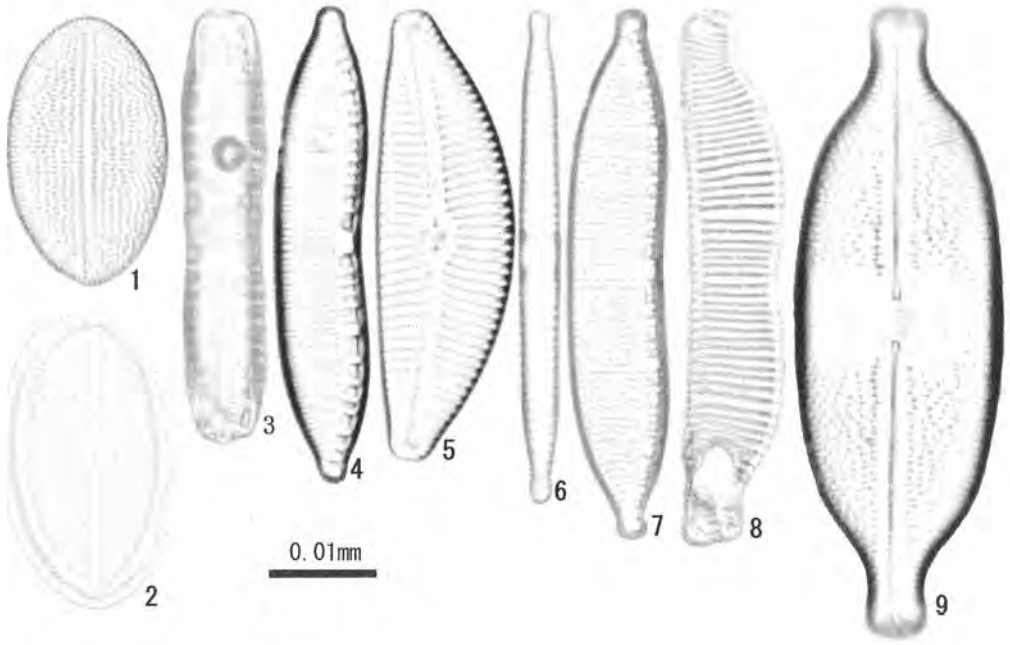
珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉（1988）および安藤（1990）により設定された環境指標種群に基づいた。小杉（1988）は汽水～海水域における環境指標種群、安藤（1990）は淡水域における環境指標種群を設定した。なお環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種として、海水種と汽水種は不明種として扱った。また、破片であるため属レベルで同定した分類群は不明種として扱った。以下に小杉（1988）と安藤（1990）において設定された環境指標種群の概要を記す。

外洋指標種群(A)	塩分が35‰以上の外洋水中を浮遊生活する種群。
内湾指標種群(B)	塩分が26～35‰の内湾水中を浮遊生活する種群。
海水藻場指標種群(C1)	塩分が12～35‰の水域の海藻や海草（アマモなど）に付着生活する種群。
海水砂質干潟指標種群(D1)	塩分が26～35‰の水域の砂底に付着生活する種群。
海水泥質干潟指標種群(E1)	塩分が12～30‰の水域の泥底に付着生活する種群。
汽水藻場指標種群(C2)	塩分が4～12‰の水域の海藻や海草に付着生活する種群。
汽水砂質干潟指標種群(D2)	塩分が5～26‰の水域の砂底に付着生活する種群。
汽水泥質干潟指標種群(E2)	塩分が2～12‰の水域（塩性湿地など）の泥底に付着生活する種群。
上流性河川指標種群(J)	河川上流の渓谷部に集中して出現する種群。
中～下流性河川指標種群(K)	中～下流域、すなわち河川沿いの河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群。
最下流性河川指標種群(L)	最下流域の三角州の部分に集中して出現する種群。
湖沼浮遊性指標種群(M)	水深が1.5m以上で水生植物が水底には生息していない湖沼に生息する種群。
湖沼沼沢湿地指標種群(N)	湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい種群。
沼沢湿地付着生指標種群(O)	水深が１m内外で、植物が一面に繁茂しているところおよび湿地において付着状態で優勢な出現が見られる種群。
高層湿原指標種群(P)	ミズゴケを主とした植物群落および泥炭地の発達が見られる場所に出現する種群。
陸域指標種群(Q)	前述の水域に対して、陸域を生息域として生活している種群（陸生珪藻）。

表1　分析試料リスト

試料番号	地区		遺構			時代	層位
			遺構名	種類	遺構面		
2	A区	e12	90	流路	3-2層下面	奈良	埋土上部
3						奈良	埋土下部
4	B区	c14	100	溝	3-2層下面	奈良	
5	A区	g11	129	溝	４層上面	弥生	埋土上部
6						弥生	埋土下部
8	A区	g11	142	井戸	４層下面	弥生	③(埋土下部)
10	A区	g13	東西トレンチ	谷状	谷状埋土中部（５層下部）	弥生	土サンプルe
11				谷状	谷状埋土下部（６層下部）	弥生	土サンプルb
13	A区	h13		地山	地山（９層上部）黄褐色シルト		土サンプルl
15				地山	地山（10層）青灰色シルト		土サンプルj

＊試料番号は、花粉分析の試料番号と共通



図版　珪藻化石顕微鏡写真

1・2. Cocconeis placentura　　3・4・7. Hantzschia amphioxys

5. Cymbella turgidula　　6. Fragilaria capusina

8. Eunotia praerupta var. bidens　　9. Anomoeoneis sphaerophora

1・9：試料10　　2・5・6：試料11

3・4・7：試料8　　8：試料 4

4．珪藻化石群集の特徴とその堆積環境（図1、表2）

検出された珪藻化石は、59分類群23属42種3亜種である。これらの珪藻種から設定された環境指標種群は、海～汽水種は2種群、淡水種は広布種を含め4種群である。以下に堆積物中の珪藻化石群集の特徴とその堆積環境について述べる。

【Ⅰ帯・Ⅳ帯】検出された珪藻殻数が4個以下と少ないため、珪藻化石より堆積環境を推定することはできない。

【Ⅱ帯】堆積物1ｇ中の珪藻殻数は1.36×10^{6}個、完形殻の出現率は約42％となる。この試料からは陸域指標種群の*Hantzschia amphioxys*と、中～下流性河川指標種群の*Cymbella turgidula*が特徴的に出現する。

このことから河川環境に近接した陸域環境と推定される。

【Ⅲ帯】堆積物1ｇ中の珪藻殻数は2.26×10^{1}～2.21×10^{6}個、完形殻の出現率は約42～71％となる。これらの試料からは陸域指標種群の*Hantzschia amphioxys*が特徴的に出現する。

このことからジメジメとした陸域環境と推定される。

5．考察

太田・黒田遺跡の堆積物試料を用いて珪藻分析を行った結果について考察する。分析した10試料中6試料については珪藻化石がほとんど検出されなかったため、珪藻化石より堆積環境を推定することはできなかった。珪藻殻が少ない理由として、珪藻が生育できない環境下であった可能性が考えられる。珪藻は水生植物であるため、水のない環境下では生育できない。よって乾燥した陸域環境であった可能性が考えられる。

A区溝129の埋土下部と井戸142の埋土下部、谷状地形の埋土（5層下部と6層下部）の4試料についてはいずれの試料でも陸域指標種群*Hantzschia amphioxys*が高率に検出されており、堆積環境はジメジメとした陸域環境と考えられる。これらは溝または谷状、井戸を埋めている堆積物であるが、雨などによって水分が供給され地面が湿るよう陸域環境であったと考えられ、湿地や沼のように浸るほどの水が存在していたとは考えにくい。またA区谷状地形の埋土（6層下部）からは前述の陸域指標種群と同様に中～下流性河川指標種群が特徴的に検出され、河川に近接し、増水時には河川の影響を受けるような環境であると考えられる。

6．おわりに

太田・黒田遺跡の堆積物中に含まれる珪藻化石について分析を行った結果を以下に述べる。

A区の流路90とB区溝100、A区溝129の埋土上部、A区地山と地山以前の堆積物では、珪藻化石がほとんど検出されないことから乾燥した陸域環境であることが推定された。A区溝129の埋土下部と井戸142の埋土下部、A区谷状地形の埋土（5層下部）の堆積環境はジメジメとした陸域環境、A区谷状地形の埋土（6層下部）は河川に近接し、増水時には河川の影響を受けるような陸域環境であると推定された。

＜引用文献＞

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理,42，73-88.
小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用．第四紀研究，27，1-20.

表２　珪藻化石産出表（種群は小杉（1988）および安藤（1990）に基づく）

分類群	種群	2	3	4	5	6	8	10	11	13	15
Cocconeis scutellum	C1	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–
Grammatophora macilenta	B	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–
Mastogloia braunii	?	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Achnanthes crenulata	W	–	–	–	–	–	–	–	3	–	–
A. hungarica	W	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–
A. lanceolata	K	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–
A. spp.	?	–	–	–	–	1	–	–	3	–	–
Amphora ovalis var.libyca	W	–	–	–	–	2	1	–	2	–	–
Anomoeoneis sphaerophora	W	–	–	–	–	–	1	2	–	–	–
Bacillaria paradoxa	W	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Caloneis bacillum	W	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–
C. schroederi	W	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–
C. silicula	W	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–
C. spp.	?	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–
Cocconeis placentula	W	–	–	–	–	3	1	1	7	–	–
Cymbella aspera	O	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
C. cistula	O	–	–	–	–	–	1	–	1	–	–
C. minuta	W	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–
C. tumida	W	–	–	–	–	–	1	–	1	–	–
C. turgidula	K	–	–	–	–	2	1	–	12	–	–
C. spp.	?	–	–	–	–	–	–	–	6	–	–
Diploneis spp.	?	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1
Epithemia adnata	W	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–
E. turgida	W	–	–	–	–	–	–	–	2	1	–
E. spp.	?	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–
Eunotia pectinalis	O	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
E. praerupta var.bidens	O	–	–	1	–	–	–	–	1	–	1
E. spp.	?	–	–	–	–	1	–	–	2	–	–
Fragilaria capusina	W	–	–	–	–	–	–	–	7	–	–
F. spp.	?	–	–	–	–	–	–	1	5	–	–
Gomphonema acuminatum	O	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–
G. angustatum	W	–	–	–	–	1	–	1	2	–	1
G. augur	W	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
G. gracile	O	–	–	–	–	–	1	–	1	–	–
G. parvulum	W	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
G. truncatum	W	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–
G. spp.	?	–	–	–	–	3	–	–	6	–	–
Gyrosigma acuminatum	W	–	–	–	–	3	1	–	–	–	–
G. spp.	?	–	–	–	–	1	–	–	1	–	–
Hantzschia amphioxys	Q	–	–	1	2	27	182	45	16	–	–
Melosira roeseana	Q	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–
M. spp.	?	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–
Meridion circulae var.constricta	K	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Navicula americana	W	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
N. cryptocephala	W	–	–	–	–	–	–	2	12	–	–
N. cuspidata	W	–	–	1	–	–	1	–	13	–	–
N. mutica	Q	–	–	–	–	1	–	–	1	–	–
N. viridula	W	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
N. spp.	?	–	–	–	–	2	1	1	2	–	–
Nitzschia clausii	W	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
N. palea	W	1	–	–	–	1	1	–	–	–	–
N. tryblionella	W	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–
N. umbonata	W	–	–	–	–	–	3	–	1	–	–
N. spp.	?	–	–	–	–	1	1	–	2	–	–
Pinnularia viridis	O	–	–	–	–	1	–	1	1	–	–
P. spp.	?	–	–	–	–	–	–	2	2	–	–
Stauroneis anceps	W	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–
S. spp.	?	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Synedra ulna	W	–	–	–	–	–	–	–	8	–	1
Unknown	?	–	–	–	–	1	1	–	1	–	–
内湾	（B）	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–
海水藻場	（C1）	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–
不定または不明	（？）	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
中～下流性河川	（K）	–	–	–	–	3	1	–	13	–	–
沼沢湿地付着生	（O）	–	–	1	–	1	2	1	8	–	1
陸域	（Q）	–	–	1	2	29	182	45	17	–	–
広布種	（W）	1	–	1	–	16	11	6	70	1	2
不明	（？）	–	–	–	–	11	5	4	31	–	1
珪藻殻数		1	0	3	2	60	203	56	142	1	4

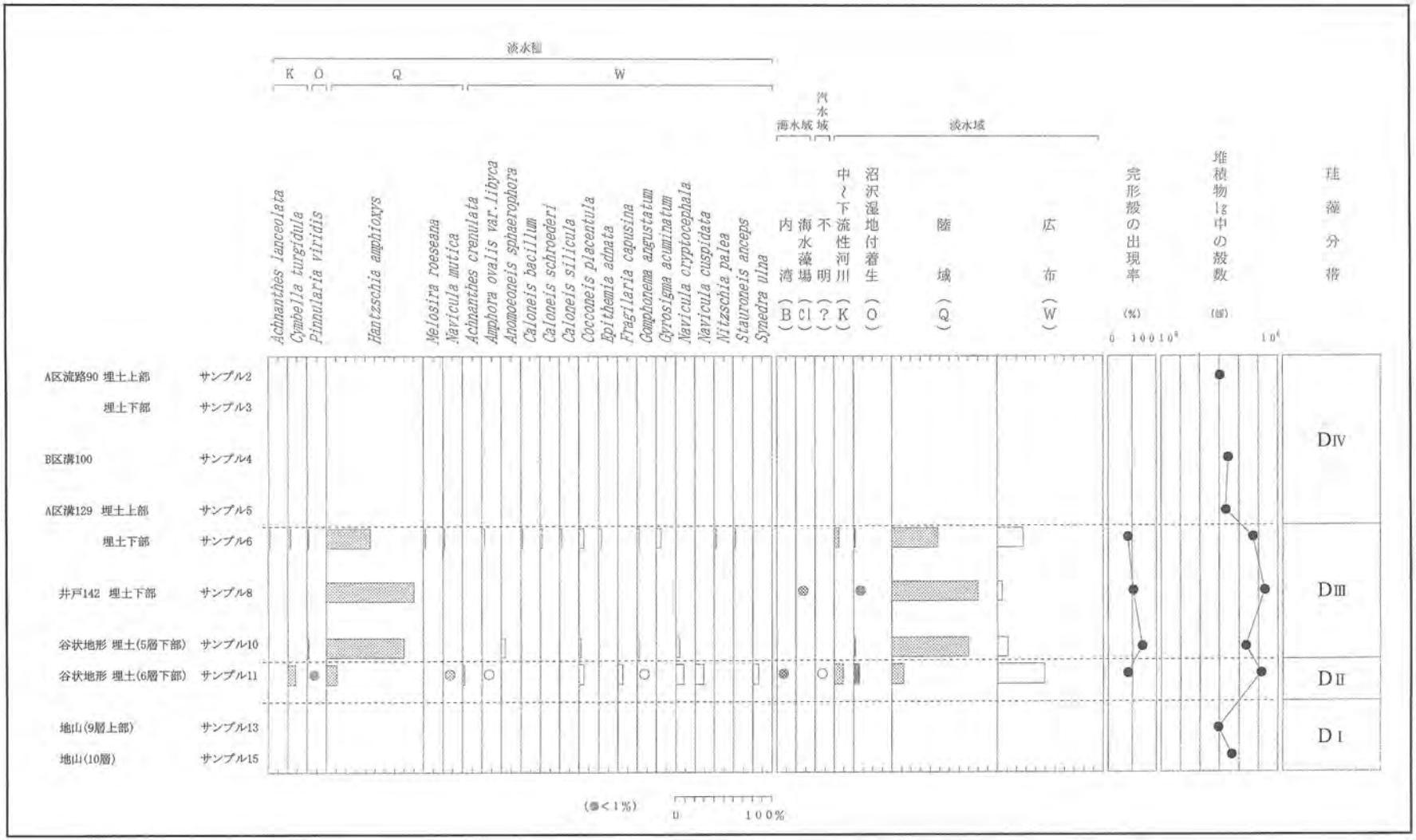


図１　太田・黒田遺跡の珪藻化石分布図（２%以上の分類群を表示）

第５節　太田・黒田遺跡出土遺物整理に伴う管玉原材産地分析

有限会社　遺物材料研究所　藁科哲男

１．はじめに

今回分析を行った玉類は勾玉、管玉などで、玉類の原材料としては滑石、軟玉（角閃石）、蛇紋岩、結晶片岩、碧玉、メノウなどが推測される。一般的には肉眼観察で岩石の種類を決定し、それが真実のよう思われているのが実態である。これら玉材については岩石の命名定義に従って岩石名を決定するが、非破壊で命名定義を求めるには限度があり、若干の傷を覚悟して硬度を求めたり、他には光沢感、比重、結晶性、主成分組成などを求めたりするのが出来るくらいであり、非破壊で命名の主定義の結晶構造、屈折率などを正確には求められない。また岩石名が決定されたのみでは考古学の資料としては不完全で、どこの産地原石が使用されているかという産地分析が行われて初めて、考古学に寄与できる資料となるのである。遺跡から出土する大珠、勾玉、管玉の産地分析というのは、玉類の製品が何処の玉造遺跡で加工されたということを調査するのではなくて、何ケ所かあるヒスイ（硬玉、軟玉）や碧玉の原産地うち、どこの原産地の原石を使用しているかを明らかにするのが、玉類の原産地推定の内容である。玉類の原石産地を明らかにすることは考古学上重要な意味をもっている。糸魚川市でヒスイが発見されるまでは、中国、雲南、ビルマ説が主流であったが、発見後は、もっぱら国内説となった。ところで岩石学的方法[1]および貴重な考古遺物を非破壊で産地分析をおこなう方法として蛍光Ｘ線分析を用いる元素比法[2,3]が報告されている。また、碧玉製管玉の産地分析で系統的に行った研究としては蛍光Ｘ線分析法と電子スピン共鳴法を併用することで産地分析をより正確に行った例[4]が報告されている。石鏃などの石器と玉類の製品はそれぞれ使用目的が異なるため、それぞれの産地分析で得られた結果の意味も異なる。(1)石器の原材産地推定で明らかになる遺跡から石材原産地までの移動距離、活動範囲は、石器が生活必需品であるので、生活上必要な生活圏と考えられる。(2)玉類は古代人が生きるために必ずしもいるものではなく、勾玉、管玉は権力の象徴、お祭、御守り、占いの道具、アクセサリーとして精神的な面に重要な作用を与えると考えられる。従って、玉類の産地分析で、明らかになるヒスイ製玉類の原石の分布範囲は、権力の象徴としての玉類であれば、権力圏を現わしているかもしれないし、お祭、御守り、占いの道具であれば、同じような習慣を持つ文化圏ではないかと考えられる。このように玉類の産地分析では、石器の原材産地分析で得られない貴重な資料を考古学の分野に提供することができる。

今回分析を行った和歌山県和歌山市に位置する太田・黒田、秋月遺跡、橋本市に位置する柏原、血縄遺跡、海南市に位置する岡村遺跡出土の弥生時代の緑色凝灰岩および碧玉製管玉について産地分析結果が得られたので報告する。

２．非破壊での産地分析の方法と手段

原産地推定の第一歩は、原産地間を区別する（人間で言えば指紋のような）その原産地だけにしかないという指標を見つけなければならない。その指標は鉱物組成の組合わせ、比重の違い、原石に含有されている元素組成の違いなどにより原産地同士を区別できなければ産地分析はできない。成功するかどうかは、とにかくおこなってみなければわからない。原産地同士が指標でもって区別できたならば、次に遺跡から出土する遺物の指標と原産地の指標を比較して、一致しない原産地を消去して一致する原産地の原石が使用されていると判定する。

ヒスイ、碧玉製勾玉、大珠、玉などは、国宝、重要文化財級のものが多く、非破壊で産地分析が行なえる方法でなければ発展しない。よって石器の原材産地分析で成功している[4]非破壊で分析を行なう蛍光Ｘ線分析法を用いて玉類に含有されている元素を分析する。

遺跡から出土した大珠、勾玉、管玉などを水洗いして、試料ホルダーに置くだけの、完全な非破壊で産地分析を行った。玉類は蛍光Ｘ線分析法で元素の種類と含有量を求め、試料の形や大きさの違いの影響を打ち消すために分析された元素同士で含有量の比をとり、この元素比の値を原産地を区別する指標とした。碧玉製玉類はESR法を併用するが試料を全く破壊することなく、碧玉に含有されている常磁性種を分析し、その信号から碧玉産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した[5,7]。

３．碧玉原石の蛍光Ｘ線分析

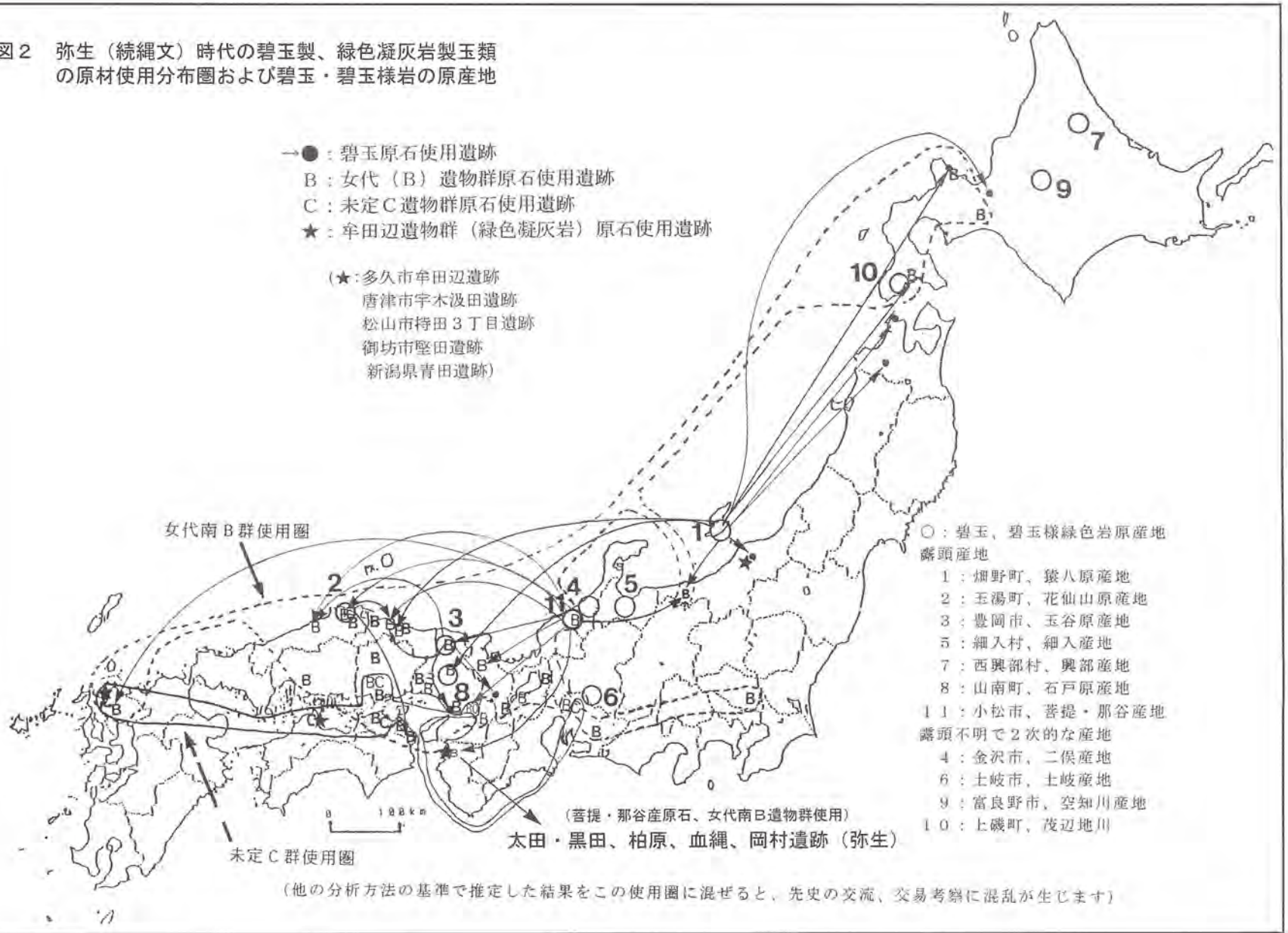
碧玉の蛍光Ｘ線スペクトルの例として島根県、花仙山産原石を図１に示す。猿八産、玉谷産の原石から検出される蛍光Ｘ線ピーク値も違いはあるものの図１で示されるピークは観測される。土岐、興部の産地の碧玉は鉄の含有量が他の産地のものに比べて大きいのが特徴である。産地分析に用いる元素比組成は、Al/Si、K/Si、Ca/K、Ti/K、K/Fe、Rb/Fe、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zrである。Mn/Fe、Ti/Fe、Nb/Zrの元素比は非常に小さく、小さい試料の場合測定誤差が大きくなるので定量的な判定の指標とはせず、判定のときに、Ba、La、Ceのピーク値とともに、定性的に原材産地を判定する指標として用いている。

4．碧玉の原産地と原石の分析結果

分析した碧玉の原石の原産地を図2に示す。佐渡猿八原産地は、①新潟県佐渡郡畑野町猿八地区で、産出する原石は地元で青玉と呼ばれている緑色系の石で、良質なものは割れ面がガラス光沢を示し、質の良くないものは光沢の少ないグリーンタフ的なものである。産出量は豊富であったらしく採石跡が何ケ所か見られる。今回分析した原石は猿八の各地点から表採したもの、および地元で提供されたものなどであり、また提供されたものの中には露頭から得られたものがあり、それはグリーンタフ層の間に約7cm幅の良質の碧玉層が挟まれた原石であった。分析した原石の比重と個数は、比重が2.6～2.5の間のものは31個、2.5～2.4の間は5個の合計36個で、この中には、茶色の碧玉も2個含まれている。原石の比重が2.6～2.3の範囲で違っても、碧玉の色が茶色、緑色、また、茶系色と緑系色の縞があるなど、多少色の違いがあっても分析した元素組成上には大きな差はみられなかった。出雲の花仙山は近世まで採掘が行われた原産地で、所在地は②島根県八束郡玉湯町玉造温泉地域である。横屋堀地区から産出する原石は、濃緑色から緑色の緻密で剥離面が光沢をもつ良質の碧玉から淡緑色から淡白色などいろいろであり、他に硬度が低そうなグリーンタフの様な原石も見られる。良質な原石の比重は2.5以上あり、質が悪くなるにしたがって比重は連続的に2.2まで低くなる。分析した原石は、比重が2.619～2.600の間のものは10個、2.599～2.500は18個、2.499～2.400は7個、2.399～2.300は11個、2.299～2.200は11個、2.199～2.104は3個の合計60個である。比重から考えると碧玉からグリーンタフまでの領域のものが分析されているのがわかる。これら花仙山周辺の面白谷、瑪瑙公園、くらさこ地区などから原石を採取し元素組成の似た原石であり、くらさこ群、面白谷瑪瑙群、花仙山凝灰岩群などを作った。玉谷原産地は、③兵庫県豊岡市辻、八代谷、日高町玉谷地域で産出する碧玉であり、色、石質などは肉眼では花仙山産の原石と全く区別がつかない。また、原石の中には緑系色に茶系色が混じるものもみられ、これは佐渡猿八産原石の同質のものに非常によく似ている。比重も2.6以上あり、質は花仙山産、佐渡猿八産原石より緻密で優れた感じのものもみられる。この様な良質の碧玉の採取は、産出量も少ないことから長時間をかけて注意深く行う必要がある。分析した玉谷産原石は、比重が2.644～2.600は23個、2.599～2.589は4個の合計27個で、玉谷産原石は色の違いによる元素組成の差はみられなかった。また、玉谷原石と一致する元素組成の原石は日高町八代谷、石井、アンラクなどで採取できる。二俣原産地は、④石川県金沢市二俣町地域で、原石は二俣川の河原で採取できる。二俣川の源流は医王山であることから露頭は医王山に存在する可能性がある。ここの河原で見られる碧玉原石は、大部分がグリーンタフ中に層状、レンズ状の非常に緻密な部分として見られる。分析した4個の原石の中で、3個は同一塊から3分割したもの、1個は別の塊からのものであり、前者の3個の比重は2.42で後者は2.34である。また元素組成は他の産地のものと異なっており区別できる。しかし、この4個が二俣原産地から産出する碧玉原石の特徴を代表しているかどうか検証するために、さらに分析個数を増やす必要がある。細入村の産地は、⑤富山県婦負郡細入村割山定座岩地区にあり、そのグリーンタフの岩脈に団塊として緻密な濃緑色の碧玉質の部分が見られる。それは肉眼では他の産地の碧玉と区別できず、また、出土する碧玉製の玉類とも非常に似た石質である。しかし、比重を分析した8個は2.25～2.12と非常に軽く、この比重の値で他の原産地と区別できる場合が多い。土岐原産地は、⑥愛知県土岐市地域であり、そこでは赤色、黄色、緑色などが混じり合った原石が産出している。このうち緻密な光沢のよい濃緑色で比重が2.62～2.60の原石を碧玉として11個分析を行った。ここの原石は鉄の含有量が非常に大きく、カリウム含有量が小さいという特徴を持ち、この元素比の値で他の原産地と区別できる。奥部産地は、⑦北海道紋別郡西興部村にあり、その碧玉原石は鉄の含有量が非常に高く、他の原産地と区別する指標になっている。また、比重が2.6以下のものはなく遺物の産地を特定する指標として重要である。石戸の産地は、⑧兵庫県氷上郡山南町地区にあり、その安山岩に脈岩として採取されるが産出量は非常に少ない。また元素組成から他の産地の碧玉と区別できる。⑨北海道富良野市の空知川流域から採取される碧玉は濃い緑色で比重が2.6以上が4個、2.6～2.5が5個、2.5～2.4が5個である。その碧玉の露頭は不明で河原の礫から採取するため、短時間で良質なものの碧玉を多数収集することは困難である。また元素組成から他の産地の碧玉と区別できる。⑩北海道上磯郡上磯町の茂辺地川の川原で採取される碧玉は不均一な色の物が多く、管玉に使用できる色の均一な部分を大きく取り出せる原石は少ない。⑪石川県小松市菩提、那谷に緑色凝灰岩の露頭があり、その中に緻密な碧玉が包含されている。産出量は少ないが良質の碧玉が菩提川、宇田川から採取される。この河床から採取された碧玉の中に、女代南B遺物群に一致する元素組成の碧玉が含まれる。

これら原石を原産地ごとに統計処理を行い、元素比の平均値と標準偏差値をもとめて母集団を作成した合計29個を表1-1に示す。各母集団に原産地名を付けてその産地の原石群とする、例えば原産地名が花仙山の場合、花仙山群と呼ぶことにする。花仙山群は比重の違いによって2個の群に分けて表に示したが比重は異なっていても元素組成に大きな違いはみられない。したがって、統計処理は一緒にして行い、花仙山群として取り扱った。原石群とは異なるが、例えば、豊岡市女代南遺跡で主体的に使用されている原石産地不明の碧玉製の玉類の原材料として、玉作り行程途中の遺物が多数出土している。当初、原石産地を探索すると言う目的で、これら玉、玉材遺物で作った女代南B（女代B）群であるが、同質の材料で作られた可能性があ

図２　弥生（続縄文）時代の碧玉製、緑色凝灰岩製玉類
の原材使用分布圏および碧玉・碧玉様岩の原産地



る玉類は最近の分析結果で日本全土に分布していることが明らかになってきた。宇木汲田遺跡で採取された産地不明の管玉の中で相互に似た元素組成のものを集めて未定C（未定(C)）群を作った。また、岐阜県可児市の長塚古墳出土の管玉で作った長塚(1)、(2)遺物群、その他に多摩ニュータウン遺跡、梅田古墳群、上ノ段遺跡、梅田東古墳群、新方遺跡などから出土した玉類および玉材剥片でそれぞれ遺物群を作り他の遺跡、墳墓から出土する玉類に組成が一致するか定量的に判定できるようにした。現在遺物群は合計209個になり、これら遺物群を表1-2、-3、-4に示した。この他、鳥取県の福部村多鯰池、鳥取市防己尾岬などの自然露頭からの原石を4個分析した。比重は2.6以上あり元素組成は、興部、玉谷、土岐石に似るが、他の原産地の原石とは元素組成で区別される。また、緑色系の原石ではない。最近、兵庫県香住町の海岸から採取された親指大1個の碧玉様の玉材は貝殻状剥離がみられる緻密な石質で少し青っぽい緑色の石材で玉の原材料になると思われる。この玉材の蛍光X線分析の結果は、興部産碧玉に似ているが、ESR信号および比重(2.35)が異なっているため、興部産碧玉と区別ができる。

5．太田・黒田、秋月、柏原、血縄、岡村遺跡出土管玉と国内産碧玉原材との比較

遺跡から出土した玉材は表面の泥を超音波洗浄器で水洗いするだけの完全な非破壊分析で行っている。遺物の原材産地の同定をするために、(1)蛍光X線分析法で求めた原石群と碧玉製遺物の分析結果を数理統計の手法を用いて比較をする定量的な判定法で行なう。(2)また、ESR分析法により各産地の原石の信号と遺物の信号を比較して、似た信号の原石の産地の原材であると推測する方法も応用した。

6．蛍光X線法による産地分析

玉石材の比重および蛍光X線分析による元素組成比を求めて結果を表2に示し、蛍光X線スペクトルを図3-1～3-10に示す。蛍光X線分析は表面分析になるために、遺物の表面汚染の少ない部分を選んで分析を行った。今回測定した管玉の中で比重が2.6～2.4の間のものは碧玉製とし、2.400未満のものは緑色凝灰岩とした。しかし考古学者の中には緑色凝灰岩の中に碧玉も含まれて使用されている場合が多く、本報告も厳密には区別していない。これら分析した遺物の元素組成比の結果と碧玉原石群・遺物群(表1)を数理統計のマハラノビスの距離を求めて行うホテリングT2乗検定[6]により同定を行った結果、太田・黒田遺跡の分析番号98525番**＜県1次T1＞**の小細管玉は女代南B遺物群と菩提-1群、また信頼限界付近の確率で湯坂No.1遺物群に同定された。また、女代南B遺物群と菩提-1群、に信頼限界の0.1%を越えて同定された管玉、管玉片は、太田・黒田遺跡の分析番号98561番**＜第50次図21－68＞**、柏原遺跡の98563、98564番**＜市第1次図版4－17・18＞**、血縄遺跡の98565番**＜CN85第1区図7－15＞**および岡村遺跡の98566番**＜OK95A－S19図24－144＞**の遺物であった。また、どこの群にも同定されなかった、太田・黒田遺跡の98526番**＜県1次T2＞**、岡村遺跡の98567**＜市OK03G－S07＞**、98568番**＜市G224挿図1－16＞**の管玉、管玉片については、分析場所を変えて統計処理が可能な回数を測定し、新たに遺跡名を冠名とした遺物群、太田・黒田560遺物群、岡村07遺物群、岡村224遺物群をそれぞれ作った。これら遺物群は表1に登録し、将来の原石産地探しと、他の遺跡で同じ成分の遺物が使用されているか判定できるようにした。また、秋月遺跡の98562番**＜第8次図57－419＞**の管玉も何処の原石・遺物群にも一致しなかったが、比重が3.0と非常に重く、また相対的にMg、Ca、Ti、Fe元素が比較的多く含有されていることから、角閃石系の岩石も推測されるが、岩石名は不明である。これらの結果を表3に示し、表3には原石・遺物群(表1)の中から必要条件を満たした高確率で同定された原石・遺物群を抜粋して記したが、十分条件である信頼限界の0.1%に達しなかった、他の全ての原石・遺物群(表1)については、紙面の都合により原石・遺物群名と同定確率を省略した。また、より正確に産地を特定するためにESR分析を併用して総合的に産地分析を行った。

7．ESR法による産地分析

ESR分析は碧玉原石に含有されているイオンとか、碧玉が自然界からの放射線を受けてできた色中心などの常磁性種を分析し、その信号から碧玉産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した。ESRの測定は、完全な非破壊分析で、直径が11mm以下の管玉なら分析は可能で、小さい物は胡麻粒大で分析ができる場合がある。図4-(1)のESRのスペクトルは、幅広く磁場掃引したときに得られた信号スペクトルで、g値が4.3の小さな信号(Ⅰ)は鉄イオンによる信号で、g値が2付近の幅の広い信号(Ⅱ)と何本かの幅の狭いピーク群からなる信号(Ⅲ)で構成されたている。図4-(1)では、信号(Ⅱ)より信号(Ⅲ)の信号の高さが高く、図4-(2)、-(3)の二俣、細入原石ではこの高さが逆になっているため、原石産地の判定の指標に利用できる。各原産地の原石の信号(Ⅲ)の信号の形は産地ごとに異同があり産地分析の指標となる。図5-1に花仙山、猿八、玉谷、土岐を図5-2に興部、石戸、八代谷-4、女代南B遺物群（那谷-菩提)、八代谷および図5-3に富良野市空知川の空知(A)、(B)、北海道今金町花石および茂辺地川の各原石の代表的な信号(Ⅲ)のスペクトルを示す。図5-4には宇木汲田遺跡の管玉で作った未定C形と未定D形およびグリーンタフ製管玉によく見られる不明E形を示した。ESR分析では管玉のESR信号の形が、それぞれ似た信号を示す原石、産地不明遺物群のESR

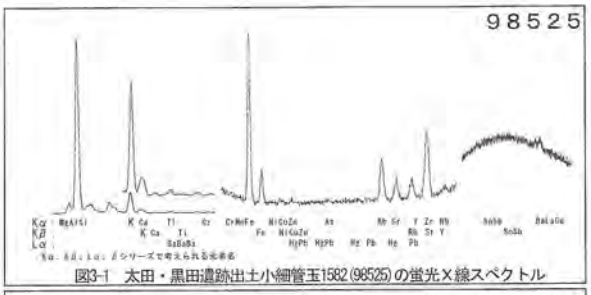


図3-1　太田・黒田遺跡出土小細管玉1582(98525)の蛍光X線スペクトル

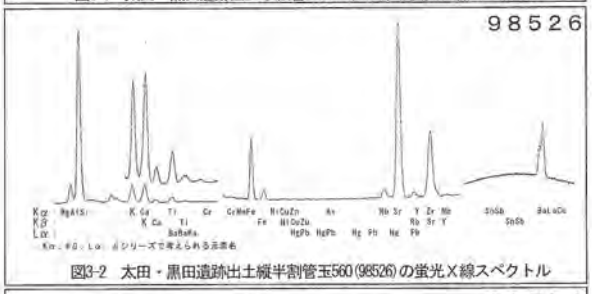


図3-2　太田・黒田遺跡出土縦半割管玉560(98526)の蛍光X線スペクトル

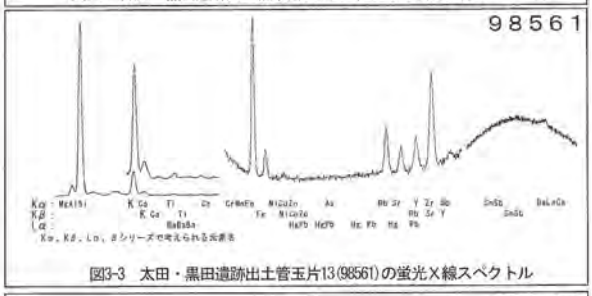


図3-3　太田・黒田遺跡出土管玉片13(98561)の蛍光X線スペクトル

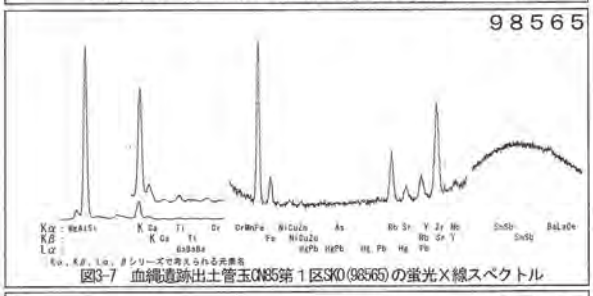


図3-7　血縄遺跡出土管玉ON85第1区SK0(98565)の蛍光X線スペクトル

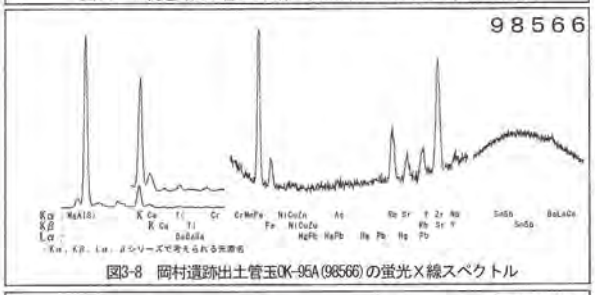


図3-8　岡村遺跡出土管玉OK-95A(98566)の蛍光X線スペクトル

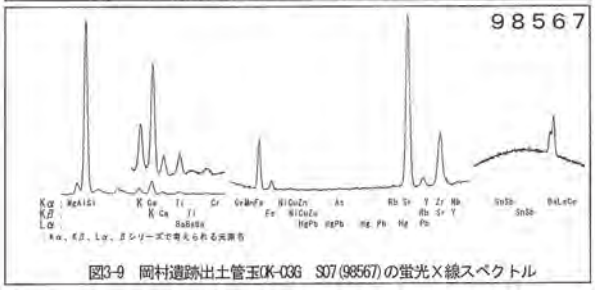


図3-9　岡村遺跡出土管玉OK-03G　S07(98567)の蛍光X線スペクトル

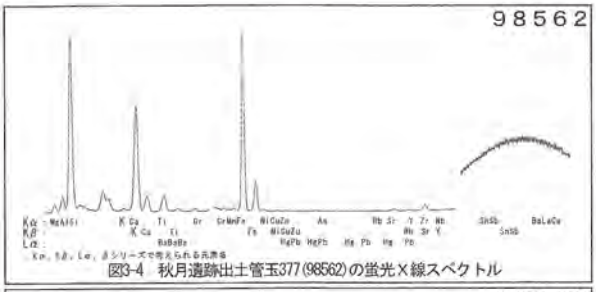


図3-4　秋月遺跡出土管玉377(98562)の蛍光X線スペクトル

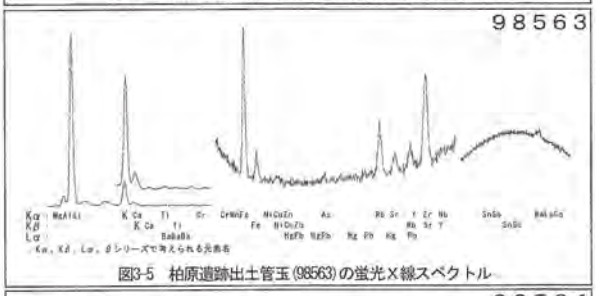


図3-5　柏原遺跡出土管玉(98563)の蛍光X線スペクトル

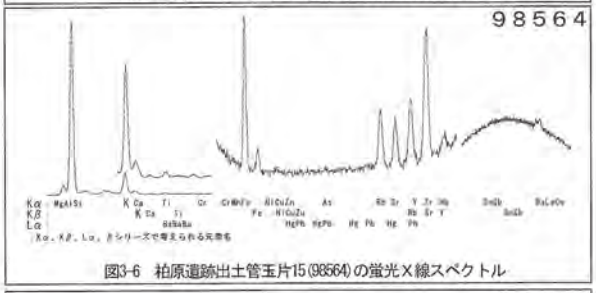


図3-6　柏原遺跡出土管玉片15(98564)の蛍光X線スペクトル

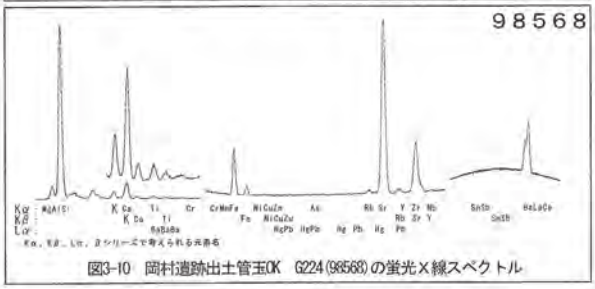


図3-10　岡村遺跡出土管玉OK　G224(98568)の蛍光X線スペクトル

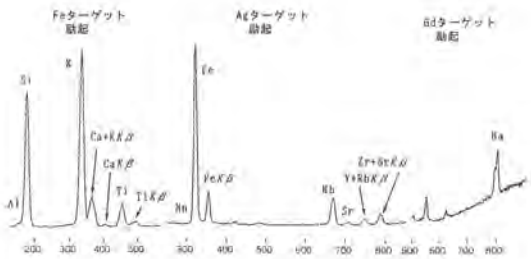


図1　花仙山産碧玉原石の蛍光X線スペクトル

信号形と一致した場合、そこの産地の可能性が大きいことを示唆している。今回分析した管玉、管玉片のESR信号（Ⅲ）の結果を図6-1、-2に示す。太田・黒田遺跡の分析番号98525番、柏原遺跡の98563、98564番、血縄遺跡の98565番および岡村遺跡の98566、98568番の遺物は、女代南B（那谷-菩提）形に一致している。また、秋月遺跡の98562番の管玉では、MgにMnが置換したとMnイオンによると思われる信号の大きな波の一部が測定されている。より正確な原石産地を推測するために蛍光X線分析の結果と組み合わせ総合判定として、両方法でともに同じ原産地に特定された場合は、蛍光X線の元素分析のみで判定した原石・遺物群産地よりも正確に、そこの原石・遺物群と同じものが使用されているとして総合判定の欄に結果（表3）を記した。

8．結　論

太田・黒田遺跡の分析番号98525番、柏原遺跡の98563、98564番、血縄遺跡の98565番および岡村遺跡の98566番、管玉、管玉片は、蛍光X線分析とESR分析の両結果が女代南B遺物群と菩提－1産原石に一致し、石川県小松市菩提地区産原石が使用されていると判定した。また太田・黒田遺跡の98561番の管玉片は大きすぎるために、ESR分析はできなかったが、蛍光X線分析で高確率で、女代南B遺物群と菩提－1群に同定されたことから、菩提地区の原石が使用されていると判定した。また、太田・黒田遺跡の98526番、岡村遺跡の98567、98568番の管玉、管玉片は緑色凝灰岩製と思われ、産地が特定できなかったが、太田・黒田560遺物群、岡村07遺物群、岡村224遺物群をそれぞれ作った。これら遺物群は表1に登録し、他の遺跡で同じ成分の遺物が使用されているか判定できるようにした。また、秋月遺跡の98562番の管玉は、比重3.0と重く、また相対的にMg、Ca、Ti、Fe元素が比較的多く含有されていることから、角閃石系の岩石も推測されるが、岩石名は不明である。太田・黒田、柏原、血縄、岡村遺跡で使用されている女代南B群は弥生時代を中心に使用された原石で、豊岡市の女代南遺跡の中期の玉作り過程の石片、滋賀県の筑摩佃、立花遺跡出土の管玉、神戸市の玉津田中遺跡の中期の石片や管玉として玉谷産と共に使用されていた。また、京都府の日吉ヶ丘遺跡で使用され、余部遺跡でも使用され、そして剥片として玉谷産原石が使用されている。関東地方では埼玉県蓮田市宿下遺跡、東海地方では、清洲町朝日遺跡、新城市大宮の大ノ木遺跡の弥生時代の管玉に、畿内地域では東大阪市の、鬼虎川、巨摩、亀井、久宝寺北、久宝寺南遺跡で、また中国地方では、作用町の長尾・沖田遺跡の中期末の管玉、総社市の南溝手遺跡出土の弥生前期末～中期初頭の玉材、岡山市の百間川原尾島遺跡出土の管玉、岡山県川上村下郷原和田遺跡の管玉、鳥取県羽合町の長瀬高浜遺跡の中期中葉の管玉、米子市の御建山遺跡尾高19号墳第2主体部出土の管玉、東広島市の西本6号遺跡の管玉に使用されている。四国地方では徳島県板野町の蓮華谷古墳群Ⅱ、2号墳、3世紀末の管玉、香川県善通寺市の彼ノ宗遺跡の末期の管玉に使用され、九州地方では、多久市牟田辺遺跡の中期の管玉、また宇木汲田遺跡の管玉に使用されていた。また、続縄文時代には北海道の上磯町茂別遺跡、余市大川遺跡、千歳市キウス遺跡にまで伝播し、女代南B群の原石は糸魚川産ヒスイに匹敵する広い分布圏を示している。南溝手遺跡の中期前葉の管玉片には、唐津市の宇木汲田遺跡の管玉で作った未定C群の原石が使用され、この未定C群は坂出市の龍川・五条遺跡の管玉、今治市の持田町3丁目遺跡の前期の管玉、大和町の尼寺一本松遺跡の管玉、多久市牟田辺遺跡の中期の管玉、吉野ヶ理遺跡の南西サブトレ出土の管玉に使用されている。また、吹上遺跡でも使用されている猿八産原石は弥生時代に主に使用され、北海道余市町の大川遺跡および茂別遺跡の続縄文時代では女代南B群原石の管玉と共に使用され、江別市の大麻22遺跡出土の続縄文（後北C1式）の管玉に、七飯町の大中山13遺跡（続縄文）出土の管玉に使用され、佐渡島以北で主に使用されていることが明らかになっている。西日本では、鳥取県の高瀬長浜遺跡では女代南B群と同時に猿八産碧玉が使用されているにすぎない。これら佐渡産碧玉、那谷-菩提産碧玉、女代南B群の原石は、これら玉類の使用圏からみて、日本海を交易ルートとし遠距離に伝播したと推測され、伝播には遺跡をリレー式に伝わる場合、また、産地から遠距離の遺跡に直接到達する場合などが考えられる。未定C群は、最近の予備的な実験で朝日遺跡で使用されている可能性が推測されたことから、推測は空論になるが、未定C群の管玉が韓国で作られ、西北九州地方および瀬戸内海ルートを通って伊予、備前、讃岐へ流入し現在の東進の限界になっている。朝日遺跡での使用が確実になれば、播磨、摂津、大和、近江を飛び越え、尾張の朝日遺跡に伝播したことが明らかになり東進の限界が一気に300Km延びる可能性がでている（図2）。花仙山産原石は弥生後期に笠見第3遺跡で使用されているが、大半は、北陸産と推測している女代南B遺物群が搬入されている。これは遺跡から近い産地が多用されるとはかぎらないことを示し、先史の交易を推測する貴重な例と思われる。玉類の産地分析の困難さは原石の入手で、産地同定を定量的に行う場合、統計処理の母集団（原石群）を作り、原石群の組成の変動を評価するため多数の原石が必要で、女代南B遺物群を作る遺物の一部は菩提・那谷産地に一致するが、全ての組成の遺物を菩提・那谷地区に存在するか調査を深めていく必要がある。また、未定C群、不明の管玉などの原石産地を明らかにし、これら不明遺物群の原石群を作ること、また、玉類に使用されている産地の原石が多い方が、その産地地方との文化交流が強いと推測できることから、日本各地の遺跡から出土する貴重な管玉を数多く分析することが重要で、是非とも各地の遺跡の詳細な碧玉製遺物の科学的調査が必要である

図4　碧玉原石のＥＳＲスペクトル
（花仙山、玉谷、猿八、土岐）

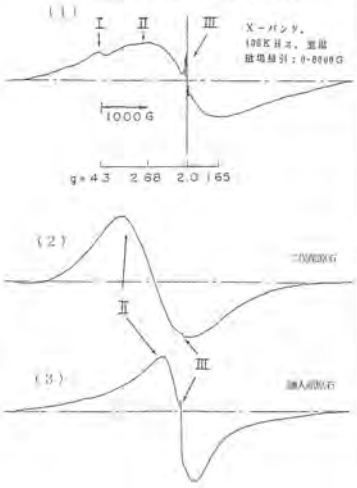


図5-(1)　碧玉原石の信号(Ⅲ)のＥＳＲスペクトル

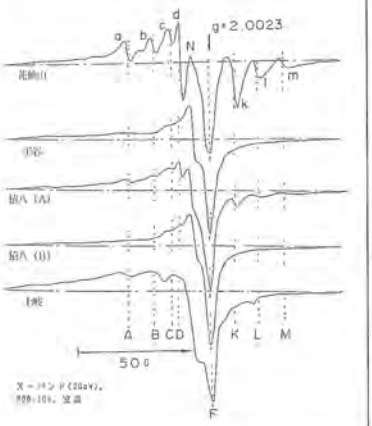


図5-(2)　碧玉原石の信号(Ⅲ)のＥＳＲスペクトル

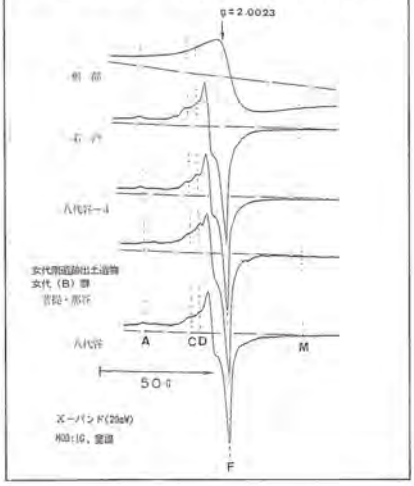


図5-(3)　碧玉原石の信号(Ⅲ)のＥＳＲスペクトル

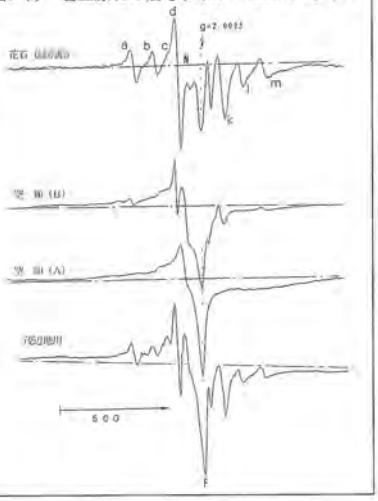


図5-(4)　碧玉原石の信号(Ⅲ)のＥＳＲスペクトル

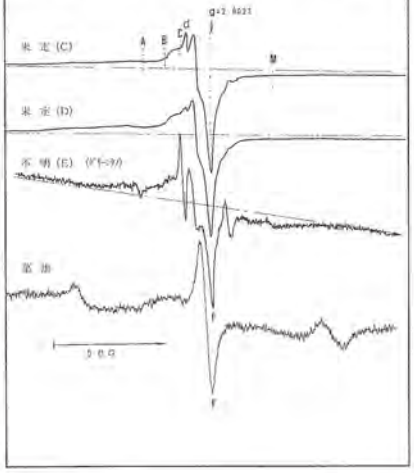


図6-1　太田・黒田、秋月、柏原遺跡出土管玉の
信号(Ⅲ)のＥＳＲスペクトル

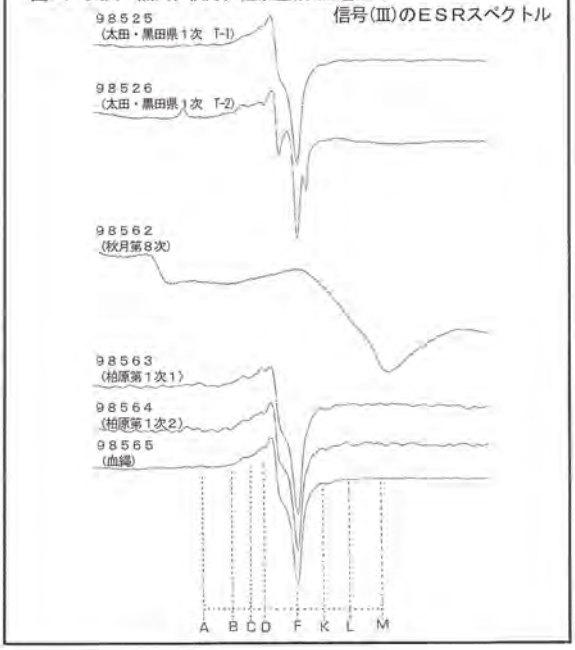
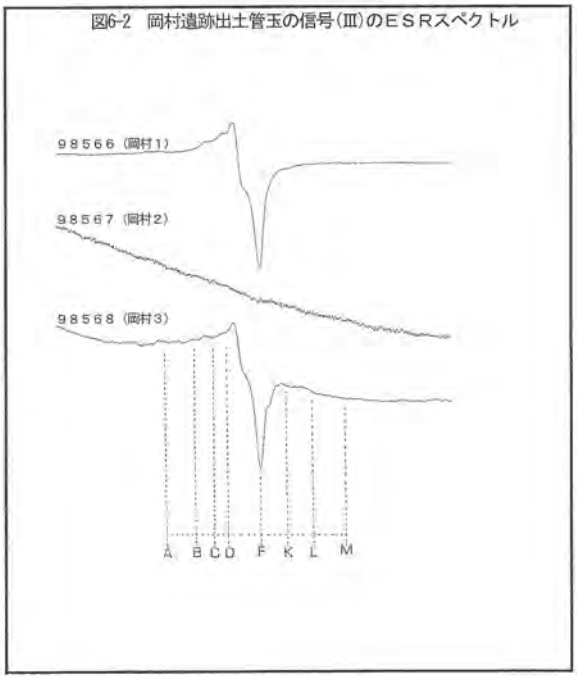


図6-2　岡村遺跡出土管玉の信号(Ⅲ)のＥＳＲスペクトル



が現在調査が殆ど進んでいないのが現状で、国庫補助での発掘調査には必ず科学的調査も加えるべきだと思う。今回行った産地分析は完全な非破壊で、玉類、碧玉産地に関する小さな情報であっても御提供頂ければ研究はさらに前進すると思われます。

【参考文献】

1) 茅原一也(1964)、長者が原遺跡産のヒスイ(翡翠)について(概報)。長者ケ原、新潟県糸魚川市教育委員会:63－73
2) 藁科哲男・東村武信(1987)、ヒスイの産地分析。富山市考古資料館紀要 6:1－18
3) 藁科哲男・東村武信(1990)、奈良県内遺跡出土のヒスイ製玉類の産地分析。橿原考古学研究所紀要『考古学論攷』,14:95－109
4) 藁科哲男・東村武信(1983)、石器原材の産地分析。考古学と自然科学,16:59－89
5) Tetsuo Warashina(1992)、Alloction of Jasper Archeological Implements By Means of ESR and XRF. Journal of Archaeological Science 19:357-373
6) 東村武信(1976), 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学,9:77-90

【報告書名】

太田・黒田遺跡（県1次　図114　T1、T2）
今回報告書所収(参考：仲原2006「太田・黒田遺跡出土の管玉2種」『(財)和歌山県文化財センター年報2005年度』)

太田・黒田遺跡（第50次）
和歌山市教育委員会2003『和歌山市内遺跡発掘調査概報平成13年度』((財)和歌山市文化体育振興事業団編)（図21－68）

秋月遺跡
（財）和歌山市文化体育振興事業団2000『秋月遺跡第8次発掘調査概報』（図57－419）

柏原遺跡
橋本市遺跡調査会1996『平成7年度　柏原遺跡発掘調査概報』（図版4－17・18）

血縄遺跡
橋本市教育委員会1986『血縄遺跡発掘調査概報』（図7－15）

岡村遺跡（OK95A－S19）
海南市教育委員会1996『海南市内遺跡発掘調査概報　平成7年度』（図24－144）

岡村遺跡（OK224G）
海南市教育委員会・海南市文化財調査研究会1980『岡村遺跡確認調査概報』（挿図1－16）

岡村遺跡（OK03G－S07）
海南市教育委員会2004『海南市内遺跡発掘調査概報　平成15年度』（挿図なし）

表１－１　各碧玉の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原石群名	分析個数	Al／Si	K／Si	Ca／K	Ti／K	K／Fe	Rb／Fe	Fe／Zr	Rb／Zr	Sr／Zr	Y／Zr	Mn／Fe	Ti／Fe	Nb／Zr	比　重
		Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ
花仙山１+2	63	0.021±0.003	1.329±0.359	0.052±0.039	0.189±0.059	0.063±0.016	0.231±0.032	10.681±3.131	2.388±0.585	0.466±0.192	0.123±0.052	0.005±0.007	0.010±0.004	0.003±0.012	2.308～2.614
花仙山１	33	0.023±0.002	1.593±0.172	0.038±0.020	0.155±0.031	0.071±0.015	0.241±0.019	10.900±1.887	2.599±0.452	0.483±0.196	0.120±0.036	0.002±0.003	0.010±0.001	0.004±0.016	2.570±0.044
花仙山２	30	0.019±0.003	1.038±0.277	0.066±0.049	0.227±0.058	0.053±0.011	0.219±0.038	10.440±4.070	2.157±0.625	0.446±0.185	0.127±0.064	0.008±0.008	0.011±0.005	0.002±0.006	2.308±0.079
興　部	31	0.011±0.003	0.580±0.320	0.123±0.137	0.061±0.049	0.022±0.006	0.070±0.021	174.08±124.9	16.990±13.44	0.668±0.435	1.801±1.434	0.004±0.003	0.001±0.001	0.455±0.855	2.626±0.032
神奈川・玉川グリーンタフ	48	0.048±0.006	0.656±0.208	7.350±2.233	1.434±0.273	0.028±0.009	0.025±0.010	2.743±1.075	0.061±0.019	1.187±0.474	0.304±0.039	0.008±0.004	0.038±0.012	0.004±0.006	2.2～吸水激し
石川・日用川グリーンタフ	26	0.048±0.004	2.010±0.132	1.192±0.051	0.190±0.026	0.092±0.008	0.220±0.017	2.125±0.148	0.467±0.040	1.652±0.586	0.092±0.030	0.008±0.001	0.017±0.001	0.010±0.011	2.1～吸水激し
空知Ａ１	42	0.039±0.006	1.026±0.281	2.728±0.907	0.547±0.119	0.042±0.011	0.124±0.058	3.309±1.295	0.353±0.101	12.485±3.306	0.032±0.045	0.028±0.009	0.020±0.005	0.007±0.010	2.495±0.039
空知Ａ２	46	0.021±0.008	0.866±0.447	0.797±0.393	0.225±0.050	0.032±0.006	0.039±0.007	25.866±11.50	1.023±0.499	7.433±4.531	0.378±0.198	0.009±0.003	0.006±0.002	0.118±0.167	2.632±0.012
空知Ｂ	47	0.064±0.004	3.600±0.328	0.088±0.008	0.101±0.009	0.242±0.037	0.460±0.055	2.137±0.274	0.974±0.110	0.190±0.082	0.137±0.022	0.015±0.002	0.022±0.004	0.134±0.024	2.607±0.001
猿　八１	46	0.042±0.005	3.779±0.549	0.049±0.052	0.074±0.013	0.202±0.070	0.285±0.085	2.520±0.874	0.654±0.131	0.177±0.154	0.128±0.051	0.003±0.002	0.013±0.003	0.011±0.007	2.395～2.597
猿　八２	49	0.039±0.003	3.565±0.274	0.016±0.013	0.063±0.012	0.453±0.065	0.471±0.086	0.983±0.172	0.457±0.104	0.100±0.062	0.125±0.042	0.011±0.008	0.025±0.005	0.012±0.007	2.461～2.752
猿　八３	52	0.036±0.002	3.304±0.217	0.003±0.003	0.062±0.006	0.977±0.141	0.854±0.110	0.400±0.067	0.333±0.019	0.066±0.009	0.280±0.149	0.033±0.017	0.055±0.009	0.014±0.007	2.526～2.557
土　岐	51	0.006±0.004	0.361±0.131	0.072±0.063	0.098±0.063	0.023±0.005	0.096±0.025	43.067±23.28	4.056±2.545	0.271±0.308	0.159±0.180	0.001±0.001	0.001±0.001	0.072±0.160	2.607±0.009
玉　谷	28	0.025±0.009	0.625±0.297	0.110±0.052	0.476±0.104	0.045±0.014	0.151±0.020	6.190±1.059	0.940±0.205	0.192±0.170	0.158±0.075	0.006±0.003	0.016±0.003	0.054±0.021	2.619±0.014
細　入	8	0.019±0.003	0.534±0.284	0.991±0.386	0.372±0.125	0.031±0.008	0.073±0.020	12.884±3.752	0.882±0.201	1.879±0.650	0.026±0.032	0.003±0.002	0.008±0.002	0.021±0.344	2.169±0.039
緑　川	48	0.040±0.003	0.495±0.014	0.798±0.030	0.985±0.032	0.026±0.001	0.044±0.004	3.764±0.428	0.166±0.024	0.830±0.073	0.155±0.022	0.019±0.001	0.024±0.001	0.020±0.011	2.669
二　俣	45	0.040±0.003	2.520±0.140	0.384±0.015	0.174±0.004	0.301±0.036	0.377±0.040	1.068±0.103	0.399±0.018	0.699±0.059	0.086±0.016	0.008±0.001	0.046±0.005	0.020±0.007	2.440±0.091
石　戸	4	0.019±0.004	0.601±0.196	0.075±0.022	0.086±0.038	0.154±0.072	0.170±0.079	7.242±1.597	1.142±0.315	0.649±0.158	0.247±0.092	0.007±0.001	0.009±0.002	0.227±0.089	2.598±0.008
茂辺地川	4	0.031±0.002	1.847±0.246	0.077±0.024	0.222±0.052	0.092±0.021	0.190±0.052	5.566±1.549	0.980±0.044	0.300±0.032	0.171±0.051	0.003±0.008	0.016±0.001	0.132±0.069	2.536±0.033
ケショマップ１	44	0.040±0.007	2.745±0.957	0.234±0.139	0.135±0.030	0.067±0.008	0.096±0.007	5.720±0.608	0.543±0.034	0.489±0.184	0.146±0.027	0.003±0.001	0.009±0.001	0.035±0.018	2.287±0.013
小松・菩提－那谷	44	0.037±0.002	3.475±0.265	0.008±0.012	0.093±0.015	0.412±0.093	0.347±0.037	1.409±0.256	0.479±0.064	0.107±0.119	0.115±0.044	0.017±0.012	0.033±0.004	0.011±0.009	2.323～2.584
小松・菩提－１	62	0.039±0.003	3.150±0.298	0.035±0.029	0.129±0.022	0.323±0.147	0.327±0.091	1.781±0.686	0.523±0.091	0.239±0.147	0.135±0.047	0.013±0.011	0.036±0.013	0.010±0.009	2.536±0.021
花仙山（白化風化）	43	0.026±0.004	0.975±0.276	0.027±0.018	0.261±0.072	0.036±0.008	0.155±0.033	15.733±2.527	2.441±0.669	0.351±0.126	0.184±0.050	0.009±0.005	0.008±0.001	0.001±0.006	2.294±0.151
花仙山（横屋堀-1）	40	0.019±0.006	1.080±0.161	0.017±0.009	0.138±0.042	0.097±0.017	0.197±0.013	8.187±0.859	1.590±0.111	0.339±0.041	0.079±0.022	0.021±0.006	0.011±0.001	0.003±0.006	2.624～2.447
花仙山（淡緑色）	40	0.027±0.006	1.449±0.075	0.037±0.007	0.161±0.018	0.075±0.012	0.246±0.018	12.479±1.513	3.022±0.233	0.921±0.066	0.182±0.022	0.007±0.005	0.011±0.001	－－－－－	2.428～2.507
花仙山-くらさこ	48	0.023±0.001	1.537±0.129	0.011±0.011	0.118±0.028	0.167±0.030	0.268±0.044	5.638±0.764	1.469±0.110	0.324±0.084	0.092±0.019	0.022±0.007	0.017±0.003	0.003±0.008	2.531～2.570
花仙山面白谷	52	0.021±0.004	1.336±0.444	0.072±0.050	0.176±0.043	0.061±0.028	0.187±0.042	16.137±4.988	2.874±0.744	0.824±0.612	0.146±0.044	0.012±0.005	0.009±0.002	0.001±0.005	2.588±0.036
花仙山めのう公園前-凝灰岩	46	0.047±0.004	2.285±0.142	0.055±0.012	0.370±0.023	0.046±0.007	0.111±0.011	12.125±2.515	1.313±0.177	0.497±0.157	0.126±0.015	0.005±0.003	0.015±0.003	0.002±0.004	2.419 吸水
会津坂下原石	42	0.039±0.004	1.500±0.155	1.162±0.104	0.280±0.058	0.154±0.027	0.168±0.027	1.630±0.188	0.268±0.032	1.162±0.171	0.108±0.017	0.032±0.007	0.038±0.004	0.009±0.008	2.1～吸水激し

Ｘａｖ：平均値、　σ：標準偏差値

表１－２　各原石産地不明碧玉玉類、玉材の遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺物群名	分析回数	Al／Si	K／Si	Ca／K	Ti／K	K／Fe	Rb／Fe	Fe／Zr	Rb／Zr	Sr／Zr	Y／Zr	Mn／Fe	Ti／Fe	Nb／Zr	比 重
		Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ
女代南B	68	0.045±0.016	3.115±0.445	0.042±0.024	0.107±0.036	0.283±0.099	0.267±0.063	2.374±0.676	0.595±0.065	0.214±0.097	0.171±0.047	0.011±0.004	0.026±0.009	0.034±0.016	2.554±0.019
未定C	58	0.030±0.028	4.416±0.618	0.013±0.013	0.207±0.034	0.589±0.130	0.650±0.113	0.583±0.110	0.369±0.035	0.090±0.030	0.070±0.026	0.002±0.001	0.101±0.019	0.019±0.016	2.646±0.023
車塚1	33	0.030±0.015	3.774±0.404	0.016±0.005	0.276±0.043	0.334±0.031	0.469±0.030	0.782±0.071	0.365±0.016	0.071±0.012	0.090±0.060	0.002±0.001	0.081±0.013	0.033±0.013	2.619±0.019
車塚2	45	0.035±0.015	4.066±0.618	0.012±0.004	0.232±0.025	0.544±0.118	0.672±0.112	0.540±0.122	0.350±0.036	0.070±0.280	0.057±0.019	0.002±0.001	0.109±0.023	0.028±0.013	2.616±0.019
牟田辺	58	0.082±0.042	3.327±0.450	0.853±0.213	0.913±0.178	0.091±0.019	0.161±0.018	1.342±0.160	0.214±0.026	2.140±0.412	0.064±0.024	0.008±0.003	0.067±0.008	0.018±0.010	2.1～ 吸水
天王山４号第１主体-No.1	38	0.018±0.004	1.341±0.031	0.079±0.013	0.277±0.013	0.257±0.011	0.389±0.036	0.814±0.057	0.316±0.032	0.168±0.027	0.074±0.031	0.006±0.001	0.069±0.003	0.065±0.027	2.437
天王山４号第１主体-No.2	40	0.027±0.000	2.602±0.025	0.021±0.003	0.234±0.006	0.184±0.001	0.228±0.005	2.645±0.044	0.599±0.014	0.135±0.009	0.066±0.007	0.013±0.007	0.039±0.001	0.018±0.011	2.548
天王山４号第２主体-No.5	42	0.034±0.000	3.672±0.129	0.002±0.002	0.252±0.009	0.777±0.030	1.035±0.040	0.287±0.009	0.295±0.005	0.072±0.004	0.041±0.004	0.025±0.015	0.176±0.005	0.025±0.004	2.466
天王山４号第２主体-No.7	42	0.028±0.000	2.650±0.020	0.003±0.003	0.073±0.007	0.557±0.010	0.672±0.019	0.517±0.014	0.345±0.007	0.074±0.006	0.337±0.015	0.023±0.019	0.036±0.003	0.012±0.007	2.555
長塚(1)	47	0.036±0.004	3.525±0.347	0.033±0.005	0.439±0.050	0.204±0.037	0.361±0.040	2.756±0.473	0.980±0.110	0.472±0.083	0.379±0.143	0.005±0.001	0.094±0.013	0.022±0.016	2.533±0.018
長塚(2)	45	0.028±0.007	2.659±0.122	0.010±0.004	0.064±0.003	0.719±0.065	0.832±0.054	0.412±0.038	0.341±0.023	0.036±0.010	0.386±0.242	0.004±0.001	0.047±0.004	0.024±0.013	2.569±0.003
No.200-1	32	0.042±0.004	0.808±0.025	3.588±0.074	0.639±0.016	0.051±0.002	0.042±0.006	1.751±0.149	0.073±0.016	4.665±0.374	0.239±0.026	0.008±0.001	0.033±0.001	0.006±0.009	2.308
No.200-2	28	0.037±0.004	0.990±0.021	2.384±0.067	0.605±0.029	0.064±0.003	0.072±0.011	1.422±0.075	0.102±0.015	6.680±0.322	0.170±0.017	0.008±0.001	0.038±0.002	0.006±0.010	2.277
No.200-3	28	0.039±0.003	0.926±0.020	2.527±0.114	1.085±0.059	0.053±0.002	0.053±0.009	1.668±0.093	0.088±0.015	4.455±0.197	0.343±0.031	0.014±0.003	0.058±0.003	0.002±0.005	2.270
No.200-4	32	0.047±0.007	0.855±0.025	3.771±0.079	1.228±0.035	0.057±0.003	0.118±0.023	1.110±0.129	0.130±0.030	9.626±1.090	0.117±0.025	0.005±0.001	0.068±0.002	0.006±0.008	2.256
No.200-6	32	0.040±0.006	4.185±0.162	0.031±0.006	0.103±0.003	0.821±0.019	0.692±0.040	0.646±0.037	0.447±0.025	0.207±0.020	0.296±0.026	0.011±0.002	0.082±0.003	0.039±0.026	2.542
本郷-No.23	30	0.049±0.003	0.922±0.036	4.701±0.161	1.027±0.112	0.042±0.002	0.193±0.062	1.390±0.134	0.271±0.096	8.507±0.791	0.118±0.036	0.008±0.002	0.043±0.004	0.005±0.005	2.201 吸水
本郷-No.17	34	0.049±0.003	1.094±0.030	3.635±0.074	0.823±0.021	0.058±0.002	0.166±0.012	1.282±0.088	0.213±0.021	9.273±0.591	0.137±0.019	0.006±0.001	0.047±0.001	0.005±0.005	2.204 吸水
本郷-No.16	27	0.053±0.004	1.254±0.037	3.706±0.076	0.970±0.092	0.029±0.004	0.085±0.018	2.626±0.429	0.215±0.025	8.981±0.646	0.170±0.028	0.013±0.001	0.027±0.002	0.004±0.004	2.254 吸水
本郷-No.22	32	0.051±0.005	1.274±0.089	3.133±0.146	0.699±0.046	0.048±0.003	0.175±0.022	－－－－－－	0.329±0.047	6.754±0.505	0.168±0.033	0.007±0.001	0.033±0.001	0.005±0.006	2.219 吸水
本郷-No.11	30	0.051±0.004	1.082±0.028	4.221±0.039	0.827±0.015	0.041±0.001	0.145±0.011	1.580±0.109	0.230±0.023	9.062±0.598	0.160±0.018	0.009±0.001	0.034±0.001	0.001±0.003	2.227 吸水
本郷-No.8	32	0.034±0.003	0.749±0.043	3.138±0.498	1.446±0.131	0.019±0.001	0.014±0.002	5.991±0.477	0.084±0.015	3.924±0.299	0.362±0.025	0.021±0.001	0.027±0.001	0.010±0.012	2.684
札幌市-K135	38	0.040±0.006	4.017±0.246	0.150±0.008	0.160±0.006	0.202±0.016	0.315±0.022	1.739±0.136	0.546±0.028	0.454±0.026	0.136±0.030	0.007±0.001	0.035±0.001	0.036±0.016	2.436
山崎４	58	0.012±0.001	0.286±0.021	0.209±0.022	0.231±0.019	0.028±0.002	0.090±0.009	15.726±1.722	1.418±0.177	0.628±0.094	0.076±0.081	0.002±0.000	0.006±0.000	0.127±0.059	2.588
梅田１	40	0.021±0.003	1.204±0.094	0.066±0.017	0.143±0.006	0.065±0.005	0.220±0.029	12.333±0.862	2.710±0.421	0.273±0.374	0.741±0.134	0.001±0.000	0.009±0.001	0.014±0.019	2.579±0.013
梅田２	44	0.032±0.004	2.539±0.246	0.025±0.006	0.522±0.050	0.172±0.035	0.299±0.051	3.517±0.603	2.024±0.053	0.316±0.048	0.283±0.066	0.005±0.001	0.080±0.011	0.035±0.015	2.531±0.007
梅田３	40	0.027±0.003	1.911±0.062	0.020±0.007	0.518±0.010	0.261±0.012	0.430±0.017	3.262±0.209	1.401±0.057	0.338±0.028	0.386±0.048	0.005±0.001	0.121±0.005	0.033±0.027	2.511
梅田４	38	0.081±0.008	7.149±0.288	0.023±0.003	0.082±0.002	0.558±0.020	0.473±0.026	1.003±0.046	0.473±0.018	0.222±0.032	0.100±0.013	0.006±0.001	0.039±0.002	0.039±0.010	2.446
上ノ段１	42	0.014±0.002	0.413±0.046	0.054±0.026	0.395±0.040	0.053±0.005	0.223±0.020	3.772±0.448	0.833±0.068	0.077±0.037	0.298±0.053	0.006±0.001	0.019±0.001	0.014±0.018	2.636±0.001
梅田東１	51	0.030±0.007	1.974±0.317	0.026±0.011	0.529±0.061	0.192±0.011	0.219±0.019	2.366±0.474	0.512±0.069	0.072±0.024	0.101±0.042	0.008±0.001	0.095±0.014	0.027±0.018	2.541±0.016
新方１	67	0.062±0.005	1.868±0.115	1.640±0.137	0.733±0.069	0.078±0.012	0.111±0.205	1.610±0.264	0.175±0.018	8.298±0.619	0.078±0.019	0.050±0.020	0.046±0.006	0.027±0.009	2.290±0.018
新方２	30	0.056±0.005	4.152±0.162	0.226±0.181	0.313±0.010	0.212±0.019	0.297±0.018	3.847±0.314	1.137±0.057	0.649±0.095	0.139±0.053	0.010±0.003	0.061±0.004	0.032±0.017	2.546±0.011
新方３	39	0.044±0.008	0.912±0.178	2.416±0.174	0.786±0.267	0.080±0.011	0.086±0.018	1.685±0.413	0.144±0.050	7.449±1.605	0.182±0.056	0.068±0.027	0.057±0.013	0.007±0.007	2.257±0.024
新井１	51	0.046±0.004	3.875±0.879	0.316±0.009	0.234±0.004	0.146±0.018	0.255±0.021	1.874±0.158	0.476±0.020	1.994±0.080	0.077±0.022	0.084±0.001	0.035±0.001	0.021±0.011	2.482
山ノ奥１	42	0.013±0.002	0.608±0.049	0.080±0.015	0.365±0.018	0.136±0.011	0.278±0.025	1.052±0.082	0.291±0.015	0.083±0.010	0.142±0.015	0.010±0.001	0.045±0.002	0.027±0.016	2.461
大蔵山３号墳-No.10	48	0.048±0.006	3.589±0.151	0.096±0.013	0.346±0.012	0.151±0.005	0.220±0.009	2.478±0.104	0.545±0.021	0.452±0.059	0.065±0.016	0.004±0.000	0.046±0.002	0.033±0.014	2.2～吸水
大蔵山３号墳-No.2	48	0.062±0.007	0.280±0.045	26.464±5.515	1.390±0.161	0.002±0.000	0.002±0.001	77.099±9.460	0.162±0.049	0.428±0.079	0.120±0.060	0.014±0.001	0.003±0.000	0.087±0.040	2.849?
大蔵山３号墳-No.3	42	0.037±0.004	1.817±0.072	0.111±0.008	0.289±0.008	0.062±0.002	0.105±0.004	4.471±0.140	0.470±0.017	0.284±0.018	0.265±0.028	0.012±0.001	0.012±0.000	0.002±0.005	2.3～吸水
東船２	40	0.118±0.001	0.466±0.010	0.376±0.009	0.108±0.004	0.020±0.001	0.087±0.004	48.841±6.946	4.260±0.538	0.756±0.136	0.066±0.074	0.001±0.000	0.002±0.000	0.115±0.058	2.19～吸水
亀川３	41	0.112±0.010	3.879±0.431	0.122±0.022	0.668±0.030	0.034±0.004	0.073±0.011	9.765±0.951	0.706±0.062	0.117±0.011	0.126±0.022	0.005±0.001	0.022±0.002	0.094±0.020	2.630±0.054
昼飯３	48	0.028±0.005	2.002±0.046	0.020±0.010	0.442±0.015	0.169±0.009	0.290±0.014	0.967±0.040	0.280±0.010	0.052±0.007	0.062±0.010	0.002±0.001	0.070±0.002	0.035±0.010	2.501
大塚山３号墳-No.4	48	0.077±0.006	6.185±0.139	0.058±0.006	0.104±0.003	0.287±0.011	0.286±0.016	1.216±0.076	0.346±0.011	0.166±0.014	0.113±0.014	0.008±0.001	0.025±0.001	0.014±0.007	2.2～吸水
昼飯４	48	0.030±0.005	2.078±0.122	0.040±0.018	0.702±0.032	0.132±0.008	0.263±0.009	3.774±0.170	0.991±0.049	0.227±0.035	0.145±0.048	0.005±0.001	0.083±0.002	0.035±0.015	2.579
有岡１	45	0.046±0.003	0.464±0.091	4.885±0.933	1.484±0.257	0.038±0.008	0.058±0.007	2.395±0.279	0.139±0.025	1.639±0.375	0.424±0.041	0.006±0.001	0.050±0.005	0.004±0.006	2.200
彼ノ宗６	44	0.033±0.007	3.017±0.430	0.154±0.042	0.107±0.012	0.045±0.002	0.120±0.004	12.584±0.730	1.508±0.072	0.367±0.018	0.069±0.027	0.007±0.001	0.005±0.000	0.014±0.011	2.475
彼ノ宗３	35	0.072±0.008	2.647±0.079	1.233±0.015	0.915±0.018	0.085±0.003	0.167±0.029	1.471±0.106	0.245±0.038	5.611±0.363	0.067±0.019	0.006±0.001	0.069±0.001	0.026±0.009	2.2～吸水
彼ノ宗４	40	0.067±0.010	4.156±0.155	0.344±0.009	0.488±0.009	0.134±0.005	0.183±0.007	1.692±0.065	0.310±0.010	0.739±0.020	0.074±0.014	0.011±0.001	0.058±0.002	0.032±0.009	2.2～吸水
斉当坊６	45	0.045±0.004	3.512±0.108	0.038±0.004	0.090±0.003	0.839±0.059	0.618±0.047	0.849±0.074	0.522±0.020	0.181±0.011	0.984±0.219	0.015±0.001	0.070±0.004	0.030±0.033	2.554
笠見3-5	46	0.103±0.010	4.761±0.127	0.039±0.005	0.513±0.069	0.090±0.003	0.157±0.006	1.470±0.050	0.231±0.007	0.574±0.047	0.022±0.015	0.008±0.001	0.044±0.006	0.025±0.005	2.249～2.098
笠見８	40	0.079±0.008	3.542±0.123	0.148±0.014	0.561±0.019	0.044±0.001	0.047±0.004	2.782±0.184	0.131±0.014	1.861±0.149	0.028±0.009	0.008±0.001	0.024±0.001	0.023±0.006	2.257
笠見10	48	0.100±0.006	4.776±0.117	0.064±0.004	0.600±0.007	0.078±0.001	0.097±0.009	1.650±0.059	0.159±0.016	2.187±0.074	0.020±0.014	0.009±0.001	0.046±0.001	0.018±0.005	2.278
笠見４	45	0.105±0.002	0.135±0.005	0.313±0.043	0.781±0.030	0.013±0.001	0.045±0.005	7.429±0.531	0.332±0.035	0.220±0.037	0.105±0.032	0.059±0.002	0.010±0.001	0.049±0.027	2.610
笠見13	45	0.088±0.008	4.591±0.091	0.123±0.005	0.439±0.008	0.074±0.002	0.099±0.007	2.090±0.151	0.206±0.013	1.523±0.108	0.028±0.010	0.008±0.001	0.032±0.001	0.024±0.007	2.297
矢野４	46	0.039±0.004	2.666±0.087	0.042±0.006	0.144±0.003	0.482±0.018	0.456±0.019	0.911±0.041	0.415±0.016	0.173±0.011	0.262±0.023	0.008±0.001	0.064±0.002	0.024±0.016	2.456
青田77	48	0.038±0.005	2.294±0.066	0.109±0.009	0.302±0.008	0.273±0.010	0.401±0.018	1.349±0.077	0.540±0.026	0.627±0.035	0.143±0.024	0.004±0.001	0.077±0.003	0.033±0.019	2.583
青田78	48	0.053±0.007	2.304±0.206	0.432±0.011	0.766±0.016	0.072±0.003	0.116±0.009	1.643±0.158	0.190±0.021	1.583±0.113	0.031±0.019	0.011±0.001	0.051±0.002	0.024±0.009	2.403
葉畑	36	0.029±0.019	3.666±0.328	0.081±0.034	0.268±0.050	0.529±0.189	0.674±0.256	0.548±0.131	0.337±0.017	0.198±0.096	0.103±0.038	0.005±0.002	0.129±0.028	0.035±0.016	2.521±0.027
石田２	30	0.019±0.001	1.325±0.043	0.010±0.007	1.041±0.047	0.109±0.003	0.157±0.005	1.810±0.058	0.781±0.011	0.010±0.006	0.049±0.006	0.022±0.006	0.102±0.003	0.025±0.010	2.425
石田３	30	0.014±0.001	0.461±0.059	0.001±0.003	0.335±0.038	0.098±0.011	0.134±0.014	4.288±0.414	0.567±0.062	1.160±0.117	0.204±0.035	0.065±0.009	0.029±0.002	0.010±0.018	2.630
美保（出雲）No.1	30	0.095±0.002	4.703±0.190	0.140±0.006	0.421±0.013	0.062±0.005	0.101±0.010	3.071±0.337	0.304±0.006	0.483±0.011	0.039±0.002	0.001±0.001	0.023±0.002	0.024±0.003	2.173
大代８	46	0.031±0.001	3.129±0.100	0.010±0.005	0.394±0.008	0.261±0.005	0.418±0.009	2.010±0.041	0.835±0.018	0.253±0.013	0.343±0.014	0.006±0.007	0.093±0.001	0.011±0.009	2.546
大代５	46	0.049±0.002	0.677±0.053	7.307±0.891	1.069±0.113	0.004±0.001	0.002±0.001	36.228±2.282	0.061±0.011	7.363±0.353	0.253±0.015	0.012±0.001	0.004±0.001	0.000000	2.589
沖丈－２号	45	0.066±0.006	2.596±0.355	0.876±0.105	0.937±0.082	0.093±0.008	0.192±0.020	1.124±0.189	0.210±0.018	4.640±0.439	0.044±0.008	0.001±0.004	0.079±0.011	0.016±0.004	2.399±0.015
大蔵山３号墳-No.1	42	0.040±0.001	0.762±0.042	0.929±0.118	0.206±0.018	0.035±0.002	0.020±0.003	1.338±0.014	0.027±0.004	0.595±0.023	0.064±0.004	0.023±0.002	0.006±0.001	0.009±0.005	2.611
持田３丁目-No.1	42	0.055±0.004	3.186±0.281	0.482±0.048	0.725±0.031	0.080±0.010	0.150±0.020	1.320±0.172	0.194±0.011	2.827±0.286	0.050±0.007	0.015±0.010	0.052±0.007	0.019±0.004	2.3～2.4～
持田３丁目-No.2	45	0.038±0.002	3.370±0.104	0.024±0.024	0.244±0.053	0.273±0.039	0.368±0.044	1.210±0.222	0.445±0.114	0.277±0.223	0.063±0.025	0.005±0.007	0.058±0.006	0.032±0.011	2.5～2.6～

表１－３　各原石産地不明碧玉玉類、玉材の遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺物群名	分析回数	Al/Si	K/Si	Ca/K	Ti/K	K/Fe	Rb/Fe	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Mn/Fe	Ti/Fe	Nb/Zr	比 重
		Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ
持田３丁目-No.3	45	0.045±0.003	4.282±0.393	0.001±0.002	0.173±0.014	0.981±0.119	1.164±0.185	0.290±0.023	0.333±0.041	0.079±0.015	0.055±0.010	0.010±0.014	0.152±0.012	0.021±0.008	2.5～2.6～
花仙山遺物群	50	0.020±0.003	1.164±0.355	0.039±0.028	0.153±0.071	0.123±0.031	0.214±0.033	7.615±2.563	1.555±0.296	0.501±0.187	0.072±0.030	0.031±0.016	0.016±0.006	0.003±0.006	2.543～2.562
上野１号墳-No.3	42	0.030±0.000	1.977±0.039	0.020±0.003	0.914±0.026	0.104±0.003	0.267±0.005	2.840±0.086	0.752±0.029	0.097±0.013	0.100±0.009	0.015±0.007	0.065±0.001	0.024±0.011	2.444
石台-No.1	44	0.069±0.001	2.580±0.035	1.220±0.056	0.892±0.014	0.049±0.003	0.120±0.006	1.831±0.072	0.218±0.005	6.025±0.088	0.043±0.004	－－－－－－	0.039±0.002	0.011±0.003	2.409
鶴貴	42	0.027±0.001	2.279±0.131	0.014±0.010	0.166±0.008	0.141±0.012	0.152±0.009	2.644±0.126	0.423±0.014	0.177±0.012	0.112±0.009	0.016±0.006	0.021±0.002	0.011±0.008	2.564
玉の宮-No.1	43	0.017±0.001	1.289±0.178	0.044±0.008	0.196±0.031	0.038±0.001	0.116±0.002	30.326±1.854	3.478±0.213	0.544±0.055	0.270±0.036	0.006±0.003	0.007±0.001	0.0003±0.001	2.618
仲仙寺 9-No.2	41	0.020±0.001	1.502±0.068	0.021±0.005	0.132±0.008	0.279±0.007	0.405±0.014	0.071±0.020	0.269±0.009	0.088±0.007	0.080±0.006	0.053±0.013	0.033±0.002	0.020±0.008	2.099
仲仙寺 9-No.3-6	42	0.018±0.001	1.004±0.103	0.027±0.009	0.152±0.018	0.117±0.007	0.247±0.009	6.637±0.858	1.620±0.199	0.361±0.114	0.087±0.032	0.029±0.010	0.016±0.002	0.005±0.010	2.523
仲仙寺 9-No.5	41	0.019±0.002	0.822±0.031	0.194±0.016	1.072±0.024	0.123±0.002	0.332±0.016	0.487±0.025	0.160±0.009	0.112±0.006	0.049±0.003	0.048±0.010	0.119±0.002	0.026±0.006	2.490
西川津	48	0.077±0.004	2.461±0.212	1.485±0.123	0.835±0.055	0.062±0.008	0.168±0.032	1.634±0.294	0.264±0.026	6.335±0.799	0.054±0.006	0.001±0.003	0.046±0.006	0.014±0.004	2.415～2.444
源代	46	0.067±0.011	0.770±0.153	3.837±0.573	1.859±0.170	0.013±0.001	0.017±0.003	5.261±0.287	0.091±0.017	5.048±0.373	0.065±0.012	0.016±0.005	0.021±0.003	0.002±0.004	2.192～2.277
紫金山－琥形石	45	0.059±0.001	2.691±0.337	0.695±0.164	0.364±0.032	0.105±0.009	0.189±0.034	1.890±0.163	0.354±0.063	1.457±0.333	0.174±0.080	0.002±0.002	0.034±0.005	0.006±0.005	2.209～2.204
紫金山－車輪石	49	0.066±0.001	2.651±0.040	0.801±0.049	0.391±0.007	0.098±0.003	0.198±0.006	1.691±0.101	0.331±0.017	1.149±0.022	0.125±0.020	0.004±0.002	0.035±0.001	0.005±0.005	2.100
紫金山－紡錘車１－３	42	0.052±0.003	1.344±0.138	1.402±0.232	0.269±0.153	0.085±0.018	0.134±0.015	2.814±0.528	0.370±0.042	2.117±0.547	0.565±0.383	0.010±0.005	0.019±0.008	0.0003±0.002	2.22～2.223
紫金山－紡錘車２	42	0.055±0.000	3.076±0.009	0.240±0.002	0.373±0.004	0.118±0.000	0.263±0.004	1.958±0.020	0.512±0.008	1.228±0.017	0.164±0.004	0.0004±0.0009	0.039±0.000	0.011±0.006	2.189
山持川-41-5	30	0.042±0.000	3.220±0.066	0.120±0.006	0.119±0.004	0.257±0.017	0.252±0.014	1.425±0.106	0.355±0.013	0.863±0.029	0.062±0.007	0.008±0.004	0.027±0.002	0.005±0.004	2.211
堀部Ⅱ-222	44	0.013±0.000	0.365±0.083	0.038±0.022	0.308±0.068	0.144±0.032	0.226±0.024	2.700±0.284	0.605±0.091	2.127±0.233	0.013±0.022	0.126±0.016	0.038±0.003	0.016±0.023	2.536
川向-No.3・5	36	0.042±0.001	2.786±0.361	0.196±0.085	0.156±0.023	0.199±0.029	0.218±0.029	1.918±0.474	0.405±0.062	1.776±0.688	0.084±0.027	0.002±0.003	0.028±0.005	0.002±0.004	2.365-2.386
川向-No.4	28	0.029±0.000	1.932±0.057	0.032±0.005	0.179±0.005	0.224±0.019	0.325±0.023	1.814±0.129	0.583±0.017	0.316±0.036	0.075±0.009	0.028±0.007	0.036±0.003	0.005±0.006	2.516
古志本郷	40	0.085±0.014	2.960±0.197	0.632±0.192	0.668±0.041	0.064±0.005	0.139±0.014	1.436±0.232	0.196±0.016	4.070±0.584	0.033±0.006	－－－－－－	0.038±0.004	0.015±0.003	2.334-2.362
古浦砂丘-85	41	0.055±0.002	5.450±0.137	0.0002±0.001	0.130±0.005	1.157±0.075	1.351±0.064	0.253±0.010	0.339±0.008	0.069±0.005	0.058±0.005	0.007±0.009	0.136±0.012	0.020±0.006	2.576
古浦砂丘-A6	40	0.036±0.000	3.098±0.046	0.165±0.019	0.091±0.008	0.278±0.004	0.292±0.011	1.538±0.039	0.445±0.018	0.386±0.017	0.127±0.007	0.009±0.011	0.023±0.002	0.010±0.008	2.559
古浦砂丘-21	41	0.077±0.002	3.220±0.121	1.287±0.111	0.652±0.022	0.087±0.003	0.195±0.009	0.938±0.050	0.181±0.010	6.996±0.332	0.049±0.004	0.003±0.005	0.051±0.001	0.011±0.004	2.353
会津坂下-G	50	0.038±0.004	3.323±0.455	0.018±0.012	0.047±0.006	0.360±0.058	0.412±0.053	1.454±0.239	0.583±0.030	0.085±0.018	0.174±0.034	0.019±0.009	0.015±0.002	0.025±0.008	2.523±0.035
会津坂下-N	48	0.045±0.006	4.044±0.475	0.026±0.007	0.326±0.064	0.274±0.048	0.311±0.034	2.861±0.314	0.876±0.083	0.276±0.095	0.168±0.089	0.011±0.005	0.078±0.009	0.019±0.010	2.401±0.096
湯坂１	54	0.041±0.005	3.292±0.543	0.020±0.009	0.054±0.019	0.278±0.051	0.377±0.061	2.510±0.430	0.922±0.122	0.341±0.137	0.123±0.032	0.007±0.007	0.013±0.003	0.021±0.015	2.249～2.420
湯坂２	40	0.058±0.004	5.308±0.422	0.033±0.036	0.071±0.013	0.212±0.038	0.263±0.041	3.643±0.395	0.938±0.053	0.352±0.071	0.126±0.020	0.011±0.004	0.014±0.004	0.034±0.013	2.223～2.339
阿尾島田-１	49	0.021±0.013	1.116±0.122	0.026±0.019	0.239±0.038	0.307±0.026	0.482±0.064	0.882±0.144	0.419±0.075	0.211±0.059	0.071±0.011	0.089±0.019	0.068±0.012	0.014±0.011	2.481±0.038
阿尾島田-2	45	0.030±0.001	2.212±0.053	0.000±0.001	0.033±0.004	0.571±0.031	0.808±0.040	1.022±0.047	0.819±0.040	0.039±0.024	0.143±0.018	0.047±0.025	0.020±0.003	0.013±0.016	2.467
中野清水１群	40	0.088±0.014	1.823±0.355	0.124±0.071	1.718±0.816	0.024±0.008	0.031±0.014	4.396±0.609	0.128±0.031	0.024±0.009	0.066±0.012	0.010±0.005	0.036±0.019	0.033±0.005	2.565
中野清水３群	45	1.855±0.002	1.432±0.125	0.002±0.004	0.833±0.086	0.101±0.030	0.298±0.085	0.421±0.176	0.110±0.010	0.166±0.039	0.028±0.003	0.026±0.031	0.074±0.019	0.054±0.007	2.768
中野清水４群	45	0.080±0.006	1.977±0.105	0.040±0.020	0.713±0.101	0.034±0.000	0.048±0.002	3.426±0.059	0.165±0.008	0.019±0.006	0.062±0.006	0.026±0.011	0.022±0.003	0.024±0.008	2.656
中野清水５群	40	0.078±0.004	2.618±0.089	0.752±0.026	0.824±0.014	0.064±0.001	0.143±0.004	1.556±0.028	0.220±0.004	5.165±0.144	0.028±0.003	---	0.047±0.000	0.014±0.004	2.437
矢野 No.1 群	40	0.068±0.002	2.345±0.093	0.983±0.079	0.852±0.024	0.068±0.011	0.164±0.020	1.351±0.165	0.216±0.005	6.707±0.173	0.039±0.005	---	0.052±0.009	0.011±0.003	2.430
矢野 No.2 群	40	0.092±0.003	3.273±0.084	0.607±0.016	0.772±0.024	0.086±0.004	0.208±0.005	1.399±0.018	0.289±0.006	3.059±0.056	0.042±0.005	---	0.060±0.001	0.018±0.004	2.393
矢野 No.3 群	40	0.072±0.001	2.705±0.037	0.739±0.011	0.740±0.015	0.109±0.003	0.272±0.005	1.056±0.012	0.285±0.006	5.110±0.156	0.048±0.002	---	0.072±0.001	0.012±0.003	2.428
地方 25 群	46	0.055±0.001	4.374±0.094	0.106±0.008	0.135±0.011	0.220±0.006	0.205±0.008	2.346±0.073	0.478±0.018	0.588±0.025	0.117±0.024	0.002±0.003	0.027±0.002	0.015±0.013	2.407
地方 26 群	45	0.038±0.001	2.993±0.104	0.036±0.008	0.946±0.011	0.182±0.007	0.213±0.008	2.800±0.126	0.592±0.021	0.124±0.025	0.064±0.013	0.008±0.007	0.057±0.002	0.010±0.011	2.501
地方 31 群	45	0.067±0.001	1.858±0.030	1.674±0.029	1.408±0.028	0.070±0.001	0.187±0.006	0.925±0.022	0.172±0.005	5.791±0.084	0.021±0.003	0.002±0.003	0.089±0.001	0.015±0.005	2.258
地方 32 群	47	0.032±0.002	2.322±0.193	0.043±0.004	0.133±0.009	0.816±0.018	0.706±0.042	0.594±0.033	0.415±0.014	0.260±0.013	0.172±0.009	0.029±0.026	0.074±0.005	0.015±0.011	2.532
地方 37 群	46	0.050±0.002	8.666±0.262	0.098±0.006	0.232±0.009	0.070±0.004	0.131±0.008	5.538±0.224	0.719±0.040	0.245±0.014	0.094±0.009	0.001±0.002	0.015±0.001	0.022±0.010	2.375
地方 38 群	46	0.061±0.001	1.740±0.073	1.365±0.029	0.573±0.015	0.038±0.001	0.091±0.004	2.684±0.099	0.242±0.009	2.733±0.060	0.058±0.004	0.001±0.001	0.019±0.001	0.017±0.007	2.241
地方 35 群	40	0.041±0.001	3.075±0.052	0.127±0.007	0.262±0.010	0.108±0.001	0.189±0.006	2.545±0.074	0.478±0.017	0.317±0.014	0.137±0.010	---	0.025±0.001	0.023±0.012	2.027
地方 36 群	40	0.077±0.002	2.330±0.058	1.524±0.032	1.189±0.036	0.078±0.007	0.192±0.014	1.093±0.062	0.207±0.008	6.216±0.123	0.024±0.004	---	0.083±0.008	0.016±0.005	2.225
地方６群	40	0.041±0.001	3.359±0.031	0.015±0.005	0.094±0.005	0.475±0.012	0.557±0.015	1.049±0.030	0.580±0.016	0.123±0.014	0.149±0.009	0.003±0.007	0.040±0.003	0.017±0.013	2.543
地方７群	40	0.042±0.001	3.408±0.142	0.042±0.005	0.356±0.013	0.176±0.007	0.187±0.007	9.292±0.101	0.810±0.024	0.128±0.020	0.060±0.011	0.001±0.002	0.056±0.001	0.016±0.012	2.527
地方８群	40	0.040±0.001	3.215±0.059	0.061±0.008	0.324±0.035	0.245±0.016	0.236±0.012	2.324±0.102	0.544±0.018	0.230±0.021	0.074±0.015	0.003±0.005	0.071±0.004	0.012±0.014	2.607
地方 18 群	40	0.046±0.001	3.574±0.035	0.106±0.005	0.114±0.006	0.258±0.010	0.241±0.010	2.003±0.062	0.480±0.021	0.740±0.034	0.145±0.012	0.000±0.001	0.026±0.002	0.011±0.013	2.471
地方 28 群	40	0.034±0.001	2.427±0.178	0.048±0.010	0.116±0.011	0.226±0.030	0.298±0.037	1.923±0.366	0.556±0.045	0.291±0.049	3.052±2.426	0.002±0.003	0.023±0.004	0.137±0.074	2.490
地方 30 群	40	0.024±0.001	1.340±0.033	0.026±0.011	0.085±0.024	0.295±0.035	0.396±0.034	0.908±0.057	0.356±0.022	0.256±0.018	0.073±0.012	0.004±0.009	0.023±0.007	0.008±0.012	2.554
地方 D 群	28	0.053±0.004	4.146±0.358	0.104±0.006	0.129±0.015	0.229±0.015	0.217±0.019	2.232±0.182	0.479±0.015	0.626±0.068	0.128±0.029	0.002±0.003	0.026±0.002	0.013±0.013	2.439
吹上 5-6 遺物群	90	0.017±0.001	1.590±0.203	0.054±0.023	0.098±0.016	0.025±0.002	0.042±0.002	253.438±101.392	10.715±4.314	1.268±0.343	0.506±0.308	0.001±0.001	0.002±0.000	0.014±0.044	2.333
吹上７遺物群	45	0.045±0.000	3.856±0.093	0.013±0.002	0.054±0.004	0.388±0.007	0.488±0.012	1.031±0.027	0.499±0.009	0.112±0.005	0.078±0.008	0.007±0.005	0.019±0.002	0.015±0.008	2.557
吹上８遺物群	45	0.046±0.001	3.899±0.112	0.014±0.003	0.047±0.006	0.278±0.004	0.381±0.007	1.404±0.027	0.531±0.010	0.108±0.007	0.079±0.007	0.002±0.002	0.012±0.001	0.012±0.008	2.563
吹上９遺物群	45	0.039±0.001	3.300±0.108	0.023±0.006	0.052±0.005	0.229±0.005	0.348±0.007	1.554±0.032	0.536±0.012	0.124±0.010	0.092±0.007	0.000±0.001	0.011±0.001	0.011±0.010	2.563
吹上 10 遺物群	45	0.017±0.001	2.819±0.390	0.081±0.008	0.012±0.018	0.022±0.001	0.026±0.001	114.253±13.822	2.919±0.353	0.295±0.066	0.302±0.044	0.000±0.001	0.000±0.000	0.007±0.027	2.485
吹上 12 遺物群	45	0.050±0.001	4.022±0.092	0.040±0.033	0.066±0.005	0.187±0.008	0.324±0.014	1.992±0.094	0.640±0.021	0.202±0.018	0.252±0.078	0.003±0.003	0.011±0.001	0.012±0.005	2.548
吹上 13 遺物群	45	0.048±0.001	3.665±0.108	0.042±0.003	0.062±0.008	0.161±0.002	0.317±0.009	2.242±0.087	0.705±0.017	0.187±0.011	0.114±0.012	0.000±0.001	0.009±0.001	0.010±0.009	2.545
吹上 14 遺物群	45	0.048±0.001	3.588±0.077	0.044±0.011	0.058±0.009	0.367±0.045	0.461±0.039	1.134±0.104	0.515±0.015	0.193±0.032	0.087±0.007	0.005±0.005	0.019±0.004	0.010±0.009	2.502
吹上 15 遺物群	45	0.052±0.001	4.030±0.090	0.025±0.002	0.066±0.007	0.178±0.003	0.296±0.006	2.075±0.044	0.610±0.015	0.153±0.015	0.066±0.006	0.000±0.001	0.011±0.001	0.014±0.008	2.503
吹上 16 遺物群	45	0.057±0.001	4.241±0.070	0.069±0.014	0.079±0.007	0.081±0.002	0.203±0.004	4.699±0.104	0.949±0.019	0.092±0.009	0.084±0.007	0.000±0.000	0.008±0.001	0.009±0.009	2.522
吹上 17 遺物群	45	0.044±0.001	3.369±0.117	0.045±0.008	0.053±0.007	0.154±0.005	0.333±0.006	2.200±0.051	0.726±0.016	0.154±0.010	0.129±0.006	0.000±0.001	0.007±0.001	0.011±0.009	2.559
吹上 18 遺物群	45	0.052±0.001	4.055±0.102	0.063±0.008	0.065±0.006	0.137±0.003	0.276±0.012	2.540±0.120	0.695±0.014	0.162±0.008	0.058±0.006	0.000±0.001	0.008±0.001	0.013±0.009	2.526
吹上 23 遺物群	45	0.067±0.001	5.543±0.079	0.057±0.006	0.106±0.005	0.267±0.011	0.264±0.015	1.109±0.056	0.290±0.006	0.078±0.004	0.114±0.004	0.001±0.002	0.025±0.002	0.024±0.007	2.369
吹上 24 遺物群	45	0.046±0.000	2.022±0.030	0.229±0.010	0.388±0.011	0.120±0.003	0.131±0.006	0.940±0.021	0.123±0.005	1.305±0.023	0.085±0.004	0.013±0.008	0.042±0.001	0.023±0.005	2.413
吹上 25 遺物群	45	0.036±0.003	2.747±0.243	0.209±0.011	0.109±0.016	0.022±0.001	0.036±0.001	123.971±11.330	4.483±0.431	2.020±0.228	0.138±0.059	0.000±0.001	0.002±0.000	0.004±0.013	2.329

表１－４　各原石産地不明碧玉玉類、玉材の遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺物群名	分析回数	Al／Si	K／Si	Ca／K	Ti／K	K／Fe	Rb／Fe	Fe／Zr	Rb／Zr	Sr／Zr	Y／Zr	Mn／Fe	Ti／Fe	Nb／Zr	比 重
		Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ
吹上 29 遺物群	45	0.056±0.001	4.386±0.161	0.073±0.004	0.125±0.011	0.217±0.021	0.197±0.029	2.217±0.375	0.423±0.017	0.412±0.022	0.120±0.010	0.005±0.004	0.024±0.002	0.017±0.013	2.376
吹上 34 遺物群	42	0.047±0.001	4.019±0.085	0.054±0.005	0.108±0.006	0.214±0.005	0.214±0.007	2.478±0.096	0.527±0.015	0.522±0.016	0.159±0.010	0.000±0.001	0.021±0.001	0.014±0.013	2.418
吹上 36 遺物群	42	0.019±0.000	1.354±0.047	0.076±0.010	0.048±0.033	0.019±0.000	0.041±0.001	110.335±13.427	4.470±0.518	0.504±0.140	0.155±0.066	0.000±0.001	0.001±0.001	0.012±0.029	2.266
吹上 38 遺物群	42	0.039±0.000	3.142±0.032	0.001±0.001	0.065±0.005	0.893±0.021	0.573±0.018	0.473±0.010	0.269±0.007	0.071±0.007	0.076±0.006	0.026±0.019	0.052±0.005	0.017±0.009	2.553
吹上 39 遺物群	42	0.034±0.001	2.637±0.049	0.010±0.004	0.066±0.008	0.728±0.025	0.532±0.021	0.497±0.014	0.263±0.011	0.072±0.011	0.081±0.007	0.008±0.016	0.043±0.005	0.013±0.011	2.530
吹上 41 遺物群	42	0.041±0.001	3.480±0.076	0.122±0.021	0.041±0.005	0.498±0.011	0.574±0.020	0.979±0.039	0.557±0.019	0.235±0.011	0.086±0.008	0.004±0.006	0.018±0.002	0.006±0.008	2.528
吹上 42 遺物群	42	0.042±0.001	3.723±0.043	0.009±0.003	0.094±0.007	0.484±0.029	0.550±0.026	1.105±0.052	0.602±0.016	0.055±0.012	0.136±0.008	0.007±0.007	0.041±0.003	0.015±0.011	2.538
吹上 43 遺物群	42	0.034±0.000	3.243±0.069	0.003±0.004	0.016±0.012	1.785±0.169	1.549±0.110	0.427±0.029	0.654±0.028	0.062±0.023	0.279±0.029	0.003±0.008	0.026±0.019	0.008±0.013	2.542
吹上 44 遺物群	42	0.046±0.001	4.250±0.078	0.019±0.004	0.038±0.004	0.292±0.023	0.424±0.030	1.400±0.115	0.587±0.016	0.074±0.007	0.096±0.009	0.001±0.002	0.010±0.001	0.008±0.008	2.499
吹上 45 遺物群	42	0.060±0.001	5.782±0.088	0.035±0.005	0.087±0.008	0.314±0.006	0.302±0.011	2.014±0.068	0.604±0.026	0.225±0.022	0.152±0.011	0.000±0.000	0.024±0.002	0.013±0.014	2.372
吹上 2-12 遺物群	42	0.026±0.000	2.144±0.018	0.018±0.005	0.208±0.011	0.204±0.006	0.185±0.010	1.520±0.061	0.279±0.010	0.063±0.011	0.045±0.008	0.009±0.010	0.038±0.002	0.015±0.010	2.442
吹上 2-13 遺物群	42	0.209±0.002	6.912±0.477	0.016±0.004	0.103±0.012	1.791±0.307	2.765±0.555	1.349±0.564	3.592±1.424	0.248±0.122	0.160±0.057	1.220±0.087	0.164±0.025	0.049±0.037	2.791
吹上 2-17 遺物群	42	0.087±0.003	3.442±0.099	0.358±0.045	0.577±0.022	0.041±0.012	0.069±0.026	2.543±0.528	0.181±0.014	1.852±0.053	0.021±0.002	0.009±0.001	0.021±0.005	0.021±0.003	2.323
吹上 2-19 遺物群	42	0.045±0.000	3.935±0.035	0.015±0.002	0.073±0.003	0.282±0.008	0.252±0.010	1.265±0.064	0.316±0.009	0.076±0.004	0.107±0.003	0.001±0.001	0.018±0.001	0.021±0.004	2.287
吹上 2-21 遺物群	42	0.023±0.001	2.811±0.188	0.116±0.008	0.100±0.022	0.024±0.000	0.036±0.001	63.273±3.305	2.279±0.134	0.488±0.038	0.087±0.032	0.001±0.002	0.002±0.000	0.020±0.027	2.377
吹上 2-22 遺物群	42	0.041±0.001	3.333±0.064	0.016±0.016	0.038±0.012	0.422±0.040	0.588±0.059	0.844±0.093	0.488±0.018	0.122±0.012	0.101±0.011	0.001±0.004	0.015±0.005	0.007±0.009	2.470
吹上 2-25 遺物群	36	0.044±0.001	2.120±0.041	0.638±0.452	0.430±0.017	0.118±0.005	0.138±0.007	1.113±0.037	0.152±0.007	0.197±0.009	0.095±0.006	0.006±0.007	0.046±0.002	0.033±0.010	1.793
吹上 2-28 遺物群	42	0.044±0.008	5.737±0.786	0.090±0.026	0.085±0.007	0.022±0.002	0.022±0.002	102.36±16.05	2.257±0.492	0.400±0.084	0.109±0.025	0.004±0.001	0.002±0.000	0.002±0.006	2.623
吹上 2-30 遺物群	42	0.045±0.001	3.469±0.090	0.040±0.004	0.077±0.003	0.222±0.015	0.336±0.019	1.596±0.113	0.531±0.014	0.191±0.010	0.523±0.125	0.005±0.004	0.015±0.002	0.017±0.007	2.374
吹上 2-32 遺物群	42	0.024±0.000	5.911±0.064	0.047±0.003	0.073±0.003	0.026±0.000	0.025±0.001	192.86±22.28	4.874±0.576	0.461±0.073	0.240±0.061	0.002±0.002	0.002±0.000	0.020±0.029	2.669
吹上 2-33 遺物群	42	0.044±0.000	3.719±0.031	0.011±0.003	0.047±0.005	0.436±0.011	0.508±0.012	0.959±0.024	0.483±0.009	0.118±0.008	0.085±0.006	0.009±0.005	0.018±0.002	0.017±0.007	2.532
吹上 2-34 遺物群	42	0.070±0.001	5.860±0.071	0.067±0.003	0.143±0.003	0.175±0.007	0.144±0.010	3.440±0.248	0.491±0.016	0.674±0.036	0.125±0.008	0.010±0.002	0.023±0.001	0.020±0.008	2.314
吹上 2-35 遺物群	42	0.077±0.001	7.353±0.250	0.032±0.003	0.122±0.003	0.147±0.021	0.126±0.015	3.621±0.358	0.448±0.016	0.193±0.026	0.110±0.007	0.010±0.002	0.016±0.002	0.024±0.007	2.061
吹上 2-36 遺物群	42	0.047±0.000	3.322±0.021	0.041±0.003	0.081±0.005	0.120±0.001	0.259±0.006	2.823±0.039	0.724±0.015	0.116±0.007	0.112±0.007	0.004±0.003	0.009±0.001	0.007±0.005	2.491
吹上 274 遺物群	45	0.047±0.000	3.828±0.066	0.009±0.003	0.056±0.005	0.180±0.004	0.314±0.009	2.101±0.067	0.655±0.020	0.121±0.013	0.087±0.010	0.001±0.002	0.009±0.001	0.005±0.008	2.424
妙見山遺物群	47	0.038±0.006	2.909±0.157	0.033±0.016	0.514±0.021	0.214±0.019	0.341±0.016	2.428±0.177	0.820±0.033	0.190±0.018	0.120±0.012	0.008±0.007	0.099±0.009	0.020±0.015	2.431(吸水)
山賀-283 遺物群	45	0.081±0.001	2.535±0.043	1.152±0.021	1.177±0.019	0.062±0.001	0.136±0.006	1.539±0.035	0.208±0.008	4.074±0.054	0.057±0.004	---	0.066±0.001	0.016±0.005	2.431(吸水)
山持-9 遺物群	46	0.036±0.003	1.135±0.059	0.159±0.046	0.296±0.022	0.026±0.002	0.123±0.005	20.713±1.555	2.528±0.152	0.867±0.063	0.132±0.026	0.010±0.001	0.007±0.001	0.002±0.005	2.403(吸水)
山持 14 遺物群	46	0.046±0.003	3.300±0.320	0.089±0.037	0.105±0.017	0.262±0.048	0.240±0.029	1.685±0.378	0.442±0.050	0.678±0.215	0.063±0.016	0.053±0.004	0.024±0.003	0.002±0.004	2.374(吸水)
山持 20-21 遺物群	46	0.049±0.001	1.450±0.148	1.086±0.148	0.526±0.036	0.048±0.010	0.074±0.021	3.527±0.564	0.247±0.034	7.004±0.223	0.167±0.009	0.020±0.002	0.023±0.006	---	2.268
山持 24 遺物群	45	0.041±0.001	2.869±0.073	0.001±0.002	0.370±0.015	0.182±0.012	0.304±0.018	1.194±0.060	0.360±0.007	0.067±0.005	0.058±0.004	0.011±0.005	0.060±0.002	0.034±0.007	2.575
山持 25-26 遺物群	47	0.067±0.012	1.616±0.465	0.015±0.008	0.847±0.306	0.027±0.007	0.034±0.014	4.229±0.306	0.139±0.046	0.190±0.005	0.058±0.007	0.033±0.001	0.019±0.004	0.025±0.007	2.67-2.62
田能A遺物群	53	0.046±0.002	3.241±0.113	0.123±0.044	0.234±0.024	0.276±0.027	0.398±0.034	1.444±0.091	0.568±0.036	0.600±0.106	0.097±0.012	0.010±0.004	0.058±0.004	0.035±0.010	2.592±0.005
田能B遺物群	55	0.046±0.002	3.223±0.424	0.134±0.068	0.237±0.027	0.288±0.023	0.421±0.016	1.381±0.164	0.576±0.066	0.641±0.161	0.107±0.029	0.013±0.010	0.061±0.007	0.033±0.013	2.588±0.003
田能C遺物群	48	0.042±0.004	3.129±0.295	0.080±0.014	0.283±0.054	0.601±0.091	0.748±0.134	0.473±0.088	0.345±0.064	0.301±0.084	0.084±0.030	0.028±0.010	0.151±0.029	0.025±0.010	2.575±0.016
田能D遺物群	50	0.049±0.002	4.293±0.293	0.005±0.006	0.181±0.011	1.090±0.169	1.248±0.262	0.269±0.032	0.327±0.035	0.080±0.016	0.053±0.005	0.031±0.015	0.177±0.024	0.023±0.007	2.572±0.003
田能-1 遺物群	44	0.049±0.001	4.095±0.071	0.031±0.008	0.188±0.003	0.454±0.008	0.557±0.019	1.097±0.046	0.607±0.018	0.249±0.016	0.093±0.009	0.009±0.005	0.077±0.002	0.038±0.013	2.572
田能-40 遺物群	44	0.047±0.001	3.204±0.069	0.156±0.009	0.224±0.006	0.392±0.022	0.498±0.032	0.972±0.051	0.479±0.014	0.745±0.048	0.112±0.008	0.009±0.008	0.079±0.004	0.029±0.009	2.594
田能-41 遺物群	44	0.036±0.001	2.899±0.110	0.011±0.005	0.256±0.006	0.848±0.037	1.246±0.051	0.267±0.010	0.330±0.009	0.106±0.007	0.055±0.005	0.037±0.017	0.195±0.008	0.026±0.006	2.576
田能-66 遺物群	44	0.045±0.001	3.897±0.082	0.028±0.018	0.311±0.009	0.274±0.015	0.409±0.020	1.124±0.031	0.456±0.014	0.070±0.006	0.085±0.005	0.068±0.004	0.077±0.003	0.029±0.009	2.562
田能-70 遺物群	44	0.073±0.001	2.569±0.079	1.480±0.028	0.743±0.015	0.091±0.004	0.254±0.013	1.094±0.067	0.275±0.009	0.060±0.098	0.059±0.004	0.005±0.002	0.060±0.002	0.017±0.006	2.371
田能-85 遺物群	44	0.044±0.001	3.285±0.144	0.045±0.007	0.202±0.006	0.314±0.044	0.466±0.039	1.357±0.112	0.624±0.017	0.352±0.016	0.126±0.008	0.008±0.006	0.057±0.007	0.031±0.012	2.586
田能-90 遺物群	45	0.039±0.001	2.582±0.070	0.084±0.006	0.286±0.010	0.585±0.031	0.679±0.045	0.365±0.017	0.245±0.010	0.392±0.012	0.032±0.005	0.010±0.011	0.150±0.005	0.022±0.007	2.563
田能-92 遺物群	45	0.042±0.001	3.441±0.086	0.007±0.004	0.066±0.007	0.935±0.015	0.731±0.044	0.630±0.025	0.456±0.024	0.202±0.022	0.166±0.013	0.014±0.017	0.055±0.006	0.014±0.015	2.564
田能-97 遺物群	45	0.041±0.001	2.872±0.020	0.074±0.005	0.252±0.008	0.691±0.034	0.797±0.038	0.358±0.016	0.283±0.010	0.389±0.013	0.098±0.009	0.012±0.015	0.157±0.006	0.018±0.010	2.563
太田・黒田 560 遺物群	44	0.073±0.004	2.608±0.165	1.302±0.033	0.678±0.027	0.077±0.004	0.172±0.009	1.203±0.069	0.205±0.007	4.305±0.200	0.058±0.003	---	0.047±0.003	0.016±0.003	2.388
岡村 07 遺物群	44	0.046±0.001	0.923±0.026	2.472±0.074	0.806±0.025	0.067±0.004	0.039±0.011	1.527±0.103	0.069±0.017	6.500±0.134	0.174±0.008	---	0.049±0.002	0.0002±0.001	2.226
岡村 224 遺物群	44	0.050±0.000	0.953±0.039	2.803±0.209	0.723±0.038	0.040±0.001	0.075±0.009	1.933±0.187	0.143±0.017	8.032±0.186	0.102±0.007	---	0.026±0.002	0.023±0.010	2.300

Xａｖ：平均値、　σ：標準偏差値　　比重 2.29 以下は緑色凝灰岩女代南Ｂ：女代南遺跡(豊岡市)、未定Ｃ：宇木汲田遺跡(唐津市)、車塚 1,2：車塚古墳(交野市)、半田辺：半田辺遺跡(多久市)、長塚(1),(2)：長塚古墳(可児市)、No.200-1～6：多摩ニュータウン遺跡(東京都)、梅田 1～4：梅田古墳(兵庫県和田山町)、梅田東 1：梅田東古墳(兵庫県和田山町)、上ノ段 1：上ノ段遺跡(兵庫県島町)、新方 1～3：新方遺跡(神戸市)、新井 1：新井三丁目遺跡(東京都中野区)、亀川 3:亀川遺跡(阪南市自然田)、東船 1:東船遺跡(島根県今津町)、山ノ奥 1:山ノ奥遺跡(岡山県)、昼飯 3,4：昼飯大塚古墳(大垣市)、斉当坊 6：市田斉当坊(京都府久御山町)、笠見 3～13：笠見第３遺跡(鳥取県東伯町)矢野４：矢野遺跡（徳島市）、青田 77、78：青田遺跡（新潟県加治川村）、菜畑（唐津市）、石田 2、３：石田古墳（松江市）、会津坂下Ｎ、Ｇ：経塚遺跡（会津坂下町）、美保１：中野美保遺跡（出雲市）, 大代８・５：大代古墳（鳴門市）, 湯坂 1,2：湯坂遺跡(鳥取県赤碕町),阿尾島田-1,-2：阿尾島田 A1 号墳(氷見市)、中野清水 1、3、4、5 群、矢野 No.1、2、3 群：中野清水・矢野遺跡（出雲市）、地方：八日市地方遺跡（小松市）、吹上：吹上遺跡（上越市）、妙見山：妙見山古墳（今治市）、山賀 No.283 群：山賀遺跡（八尾市）、山持 9,20-21,24,25-26 遺物群：山持遺跡（島根県）, 田能諸群：田能遺跡（尼崎市）, 太田・黒田 560 遺物群：太田・黒田遺跡(和歌山市)、岡村 07, 224 遺物群：岡村遺跡（海南市）で使用されている原石産地不明の玉類で作った群。

表2　太田・黒田、秋月、柏原、血縄、岡村遺跡出土碧玉製遺物の分析結果

分析番号	元素比														重量(g)	比重
	Al/Si	K/Si	Ca/ K	Ti/ K	K/Fe	Rb/Fe	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Mn/Fe	Ti/Fe	Nb/Zr	Ba/Rb		
98525	0.040	2.910	0.047	0.115	0.220	0.280	2.271	0.631	0.282	0.123	0.005	0.023	0.000	0.663	0.03921	2.464
98526	0.069	2.366	1.362	0.718	0.078	0.179	1.117	0.198	4.061	0.060	0.000	0.051	0.016	17.730	1.23771	2.388
98561	0.045	3.380	0.051	0.108	0.307	0.309	1.557	0.477	0.238	0.193	0.015	0.030	0.025	1.128	1.33381	2.556
98562	0.061	0.420	48.972	12.524	0.002	0.000	31.189	0.005	0.393	0.107	0.011	0.023	0.022	7.871	2.64606	3.014
98563	0.042	3.453	0.023	0.057	0.458	0.386	1.328	0.508	0.180	0.087	0.006	0.024	0.002	1.865	3.60525	2.533
98564	0.038	3.023	0.037	0.115	0.500	0.434	1.020	0.439	0.344	0.303	0.030	0.052	0.024	1.611	0.84667	2.551
98565	0.037	2.593	0.018	0.129	0.276	0.302	1.596	0.479	0.144	0.118	0.031	0.032	0.016	0.666	0.40895	2.530
98566	0.041	3.043	0.036	0.109	0.381	0.364	1.279	0.462	0.205	0.116	0.013	0.037	0.018	0.828	0.62579	2.552
98567	0.044	0.869	2.631	0.865	0.061	0.052	1.540	0.080	6.409	0.172	0.000	0.047	0.000	62.770	2.10730	2.226
98568	0.051	0.928	3.062	0.744	0.041	0.089	1.802	0.158	8.157	0.092	0.000	0.027	0.028	47.914	1.59740	2.300
JG-1[a]	0.081	3.205	0.736	0.198	0.111	0.277	3.479	0.956	1.261	0.187	0.017	0.020	0.086	1.567		

a):標準試料、Ando,A., Kurasawa,H.,Ohmori,T. & Takeda,E.(1974).1974 compilation of data on the GJS geochemical referencesamples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol.8 175-192.

表3　太田・黒田、秋月、柏原、血縄、岡村遺跡出土碧玉製遺物の判定結果

遺跡名	分析番号	番	資料番号など	器種	ホテリングのT²検定結果	ESR 信号波形	総合判定	比重	備考
太田・黒田1次	98525	1	1582	小細管玉	女代南B遺物群(76%),菩提-1(47%),湯坂-No.1 遺物群(0.1%)	女代南B形	菩提－女代南B遺物群	2.464	
太田・黒田1次	98526	2	560	縦半割管玉	太田・黒田560遺物群(73%)	不明	太田・黒田560遺物群	2.388	
太田・黒田第50次No13	98561	3	13	管玉片	女代南B遺物群(45%),菩提-1(3%)	遺物過大	菩提－女代南B遺物群	2.556	
秋月・第8次	98562	4	377	管玉	碧玉ではない	不明		3.014	
柏原・第1次1	98563	5		管玉	女代南B遺物群(37%),菩提-1(3%)	女代南B形	菩提－女代南B遺物群	2.533	
柏原・第1次2	98564	6		管玉片	女代南B遺物群(4%),菩提-1(1%)	女代南B形	菩提－女代南B遺物群	2.551	
血縄	98565	7	CN85 第1区 SKO	管玉	菩提-1(59%),女代南遺物群(16%)	女代南B形	菩提－女代南B遺物群	2.530	
岡村1	98566	8	OK-95A S19	管玉	菩提-1(76%),女代南遺物群(34%)	女代南B形	菩提－女代南B遺物群	2.552	
岡村2	98567	9	OK-03G S07	管玉	岡村07遺物群(49%)	信号Ⅲなし	岡村07遺物群	2.226	
岡村3	98568	10	OK G224	管玉	岡村224遺物群(40%)	女代南B形	岡村224遺物群	2.300	

第６節　太田・黒田遺跡出土サヌカイト製遺物の原材産地分析

有限会社　遺物材料研究所　藁科哲男

１．はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光Ｘ線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行なっている[1, 2, 11]。最近の黒曜石の伝播距離に関する研究では、伝播距離は数千キロメートルは一般的で、６千キロメートルを推測する学者も出てきている。正確に産地を判定すると言うことは、原理原則に従って同定を行うことである。原理原則は、同じ元素組成のサヌカイトが異なった産地では生成されないという理論がないために、少なくとも遺跡から半径数千キロメートルの内にある石器の原材産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。『遺物原材とある産地の原石が一致したという「必要条件」を満たしても、他の産地の原石にも一致する可能性が残っているから、他の産地には一致しないという「十分条件」を満たして、一致した産地の原石が使用されていると言い切れる。また、十分条件を求めることにより、一致しなかった産地との交流がなかったと結論でき、考古学に重要な資料が提供される。』

２．産地分析の方法

先ず原石採取であるが、本来、一つの産地から産出する全ての原石を採取し分析する必要があるが不可能である。そこで、産地から抽出した数十個の原石でも、産地全ての原石を分析して比較した結果と同じ結果が推測される方法として、理論的に証明されている方法で、マハラノビスの距離を求めて行う、ホテリングのＴ２乗検定がある。ホテリングのＴ２乗検定法の同定とクラスター判定法（同定ではなく分類）、元素散布図法（散布図範囲に入るか否かで判定）を比較する。

クラスター判定法はクラスターを作る産地の組み合わせを変えることにより、クラスターが変動する。例えば、Ａ原石製の遺物とＡ、Ｂ、Ｃ産地の原石でクラスターを作ったとき遺物はＡ原石とクラスターを作る。しかし、Ａ産地の原石を抜いて、Ｄ、Ｅ産地の原石を加え、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅ産地の原石でクラスターを作ると、遺物がＥ産地とクラスタを作る。このように、Ａ産地が調査されていないと、遺物はＥ原石製遺物と判定される可能性があり結果の信頼性に疑問が生じる。また、Ａ原石製遺物と分かっていれば、意図的にＥ原石とクラスターを作らないようにもできる。このように、クラスター分析を行う遺物の原石産地を予め推測し、クラスターを組み立てる必要があり、得られた結果は主観的なものに左右される恐れがある。

元素散布図法は肉眼で原石群元素散布の中に遺物の結果が入るか図示した方法である。原石の含有元素の違いを絶対定量値を求めて地球科学的に議論するには、地質学において最も適した方法であるが、産地分析の観点から見ると、クラスター法よりさらに後退した方法である。まず、何個の原石を分析すればその産地を正確に表現されているのか不明であり、分析する原石数の少ないときには、Ａ産地とＢ産地が区別できていたのに、原石数を増やすと、Ａ産地、Ｂ産地の区別ができなくなる可能性があり（クラスター法でも同じ危険性がある）判定結果に疑問が残る。

以上をふまえて産地分析を正しくおこなうには、地質学の常識的な知識（高校生）さえあればよく、火山学、堆積学など専門知識は必要なく、実際の分析においては非破壊で遺物の形態の違いによる相対定量値の影響を評価しながら同定を行うことが必要であり、地球科学的なことは関係なく、如何に原理原則に従って客観的な判定を行うかにかかっている。これらクラスター法、元素散布図法の欠点を解決するために考え出された方法が、理論的に証明された判定法であるホテリングのＴ２乗検定法である。それにはある産地の原石の元素組成と遺物の元素組成が一致すれば、そこの産地の原石と決定できるという理論がないために、多数の産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。

考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材があり、それらが一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する上で重要な意味をもつ結果である。しかし、石器の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなど主観的要素が入った事象を十分条件の代用にすると産地分析は中途半端なものとなり、結果として遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とＡ産地原石の元素組成が一致し、必要条件を満たしたとき、確かにＡ産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、偶然（産地分析法が不完全なために）に一致した可能性も大きくＢ、Ｃ、Ｄ・・・の産地でないとの証拠がないために、Ａ産地だと言い切れない。そこで、考えられるのは、可能なかぎり地球上の全ての原産地（Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ・・・・）

表１－１　各サヌカイト（安山岩）の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地名	原石群名	分析個数	元素比									
			K／Ca	Ti／Ca	Mn／Sr	Fe／Sr	Rb／Sr	Y／Sr	Zr／Sr	Nb／Sr	Al／Ca	Si／Ca
北海道	イトムカ	46	0.359±0.020	0.430±0.014	0.081±0.006	5.884±0.223	0.166±0.011	0.120±0.013	0.883±0.030	0.015±0.013	0.013±0.001	0.137±0.007
	旭山	80	0.351±0.011	0.288±0.010	0.089±0.005	5.064±0.140	0.174±0.011	0.096±0.009	0.903±0.029	0.015±0.012	0.015±0.001	0.141±0.005
	台場A	48	0.278±0.010	0.323±0.009	0.086±0.009	4.941±0.223	0.143±0.008	0.095±0.010	0.768±0.032	0.012±0.006	0.018±0.002	0.149±0.005
	台場B	82	0.341±0.014	0.295±0.017	0.085±0.011	4.787±0.310	0.177±0.014	0.102±0.015	0.929±0.041	0.021±0.010	0.021±0.002	0.169±0.008
	台場C	50	0.238±0.016	0.303±0.008	0.116±0.012	7.800±0.313	0.160±0.016	0.135±0.015	0.856±0.056	0.018±0.012	0.018±0.002	0.150±0.009
	台場D	49	0.319±0.008	0.466±0.011	0.119±0.012	6.686±0.217	0.131±0.012	0.140±0.012	0.894±0.042	0.012±0.007	0.019±0.002	0.160±0.007
群馬県	荒船山	43	0.194±0.070	0.360±0.028	0.129±0.014	9.205±1.153	0.080±0.034	0.085±0.014	0.458±0.082	0.009±0.010	0.013±0.021	0.123±0.032
神奈川県	火打沢	40	0.092±0.005	0.285±0.009	0.166±0.009	12.406±0.332	0.023±0.006	0.111±0.008	0.483±0.023	0.005±0.007	0.012±0.001	0.012±0.001
新潟県	東猿八川	42	0.139±0.003	0.424±0.005	0.065±0.002	5.040±0.127	0.091±0.004	0.044±0.003	0.575±0.008	0.015±0.006	0.016±0.000	0.110±0.001
	極野	48	0.231±0.008	0.349±0.028	0.141±0.015	10.218±0.328	0.141±0.012	0.159±0.011	0.819±0.042	0.019±0.012	0.012±0.001	0.124±0.005
福井県	滝波川	52	0.327±0.010	0.333±0.008	0.056±0.005	3.145±0.088	0.084±0.005	0.510±0.006	0.606±0.027	0.015±0.006	0.020±0.002	0.150±0.005
	法恩寺山	38	0.478±0.029	0.349±0.020	0.033±0.003	2.137±0.099	0.148±0.007	0.038±0.008	0.667±0.028	0.022±0.006	0.024±0.002	0.192±0.012
長野県	横川	70	0.183±0.007	0.340±0.017	0.153±0.017	11.018±0.398	0.118±0.011	0.157±0.013	0.721±0.030	0.019±0.009	0.012±0.001	0.113±0.005
	八風山	46	0.274±0.028	0.324±0.010	0.090±0.008	4.905±0.505	0.104±0.009	0.100±0.009	0.581±0.033	0.012±0.009	0.018±0.002	0.168±0.014
岐阜県	下呂	93	1.576±0.055	0.227±0.011	0.038±0.004	0.766±0.025	0.277±0.020	0.031±0.013	0.504±0.024	0.035±0.009	0.052±0.003	0.660±0.025
愛知県	豊川	51	0.299±0.007	0.568±0.020	0.052±0.009	4.672±0.338	0.115±0.008	0.083±0.019	0.848±0.028	0.031±0.009	0.020±0.002	0.151±0.005
	茶臼山	24	0.293±0.005	0.324±0.007	0.093±0.009	6.643±0.256	0.141±0.009	0.107±0.011	1.086±0.037	0.038±0.009	0.021±0.002	0.157±0.006
奈良県	二上山	51	0.288±0.010	0.215±0.006	0.071±0.006	4.629±0.270	0.202±0.012	0.066±0.009	0.620±0.022	0.024±0.010	0.019±0.001	0.144±0.005
大阪府	和泉	26	0.494±0.023	0.325±0.025	0.056±0.004	4.060±0.148	0.296±0.021	0.065±0.010	0.706±0.025	0.038±0.010	0.023±0.001	0.194±0.009
	柏原・奥山礫層２	44	0.295±0.003	0.230±0.004	0.045±0.002	4.036±0.084	0.202±0.008	0.078±0.006	0.623±0.009	0.016±0.001	0.016±0.001	0.128±0.002
兵庫県	岩屋第一群	28	0.616±0.021	0.254±0.012	0.057±0.005	3.610±0.189	0.365±0.019	0.056±0.012	0.846±0.026	0.027±0.017	0.018±0.001	0.186±0.007
	岩屋第二群	24	0.535±0.020	0.263±0.005	0.053±0.005	3.438±0.103	0.340±0.015	0.042±0.012	1.069±0.030	0.026±0.014	0.017±0.001	0.173±0.008
	淡路第三群	48	0.732±0.032	0.257±0.011	0.065±0.003	4.086±0.103	0.396±0.015	0.088±0.017	1.175±0.055	0.030±0.018	0.039±0.001	0.284±0.011
	甲山	22	0.300±0.017	0.154±0.005	0.056±0.007	3.350±0.261	0.130±0.012	0.061±0.033	0.574±0.021	0.012±0.007	0.018±0.001	0.159±0.008
香川県 五色台	国分寺	28	0.457±0.011	0.251±0.007	0.053±0.005	3.574±0.122	0.311±0.019	0.043±0.016	0.970±0.033	0.038±0.015	0.015±0.001	0.149±0.005
	蓮光寺	18	0.459±0.012	0.249±0.008	0.053±0.005	3.518±0.129	0.308±0.019	0.043±0.015	0.972±0.037	0.034±0.009	0.016±0.001	0.150±0.004
	白峰	51	0.534±0.015	0.262±0.005	0.053±0.005	3.376±0.108	0.340±0.014	0.040±0.016	1.071±0.051	0.032±0.011	0.017±0.001	0.173±0.007
	法印谷	25	0.397±0.009	0.239±0.004	0.069±0.005	4.619±0.127	0.277±0.012	0.059±0.011	1.145±0.029	0.031±0.013	0.015±0.001	0.130±0.004
香川県 金山	金山東	48	0.478±0.014	0.227±0.006	0.076±0.009	4.511±0.119	0.293±0.022	0.083±0.014	1.183±0.046	0.020±0.010	0.025±0.003	0.188±0.005
	金山西	43	0.414±0.011	0.217±0.006	0.078±0.007	4.574±0.132	0.283±0.014	0.073±0.015	1.100±0.040	0.032±0.013	0.023±0.002	0.168±0.006
香川県	城山	63	0.402±0.011	0.216±0.006	0.079±0.006	4.741±0.138	0.289±0.014	0.068±0.016	1.065±0.026	0.021±0.014	0.013±0.001	0.116±0.003
	双子山	54	0.350±0.007	0.233±0.005	0.074±0.006	4.898±0.169	0.261±0.012	0.061±0.014	1.093±0.035	0.023±0.016	0.011±0.002	0.105±0.004
	＊奥池第一群	51	0.842±0.046	0.127±0.006	0.024±0.006	2.087±0.088	0.492±0.030	0.018±0.018	0.722±0.047	0.045±0.013	0.035±0.003	0.434±0.024
	＊奥池第二群	50	0.641±0.052	0.133±0.007	0.033±0.007	2.471±0.135	0.391±0.028	0.021±0.017	0.934±0.067	0.038±0.011	0.029±0.003	0.331±0.027
	＊雄山	50	0.827±0.052	0.128±0.006	0.026±0.008	2.119±0.091	0.485±0.032	0.016±0.018	0.731±0.050	0.043±0.014	0.035±0.003	0.421±0.027
	＊神谷・南山	51	0.852±0.040	0.131±0.007	0.027±0.008	2.083±0.088	0.495±0.026	0.020±0.016	0.703±0.045	0.050±0.014	0.035±0.004	0.433±0.023
	＊大麻山南第一群	39	0.693±0.072	0.149±0.007	0.041±0.010	2.792±0.180	0.473±0.043	0.034±0.021	0.965±0.061	0.044±0.012	0.029±0.003	0.344±0.038
	＊大麻山南第二群	34	0.992±0.041	0.124±0.009	0.034±0.011	2.370±0.138	0.691±0.024	0.021±0.022	0.774±0.032	0.054±0.015	0.039±0.004	0.480±0.018
愛媛県	中井谷	40	0.458±0.041	0.374±0.007	0.073±0.009	5.160±0.157	0.393±0.022	0.108±0.017	1.473±0.051	0.037±0.021	0.020±0.008	0.219±0.009
鳥取県	馬ノ山	41	0.188±0.007	0.178±0.006	0.011±0.001	0.916±0.033	0.032±0.002	0.001±0.002	0.177±0.009	0.004±0.002	0.015±0.001	0.111±0.005
	下砂見	46	0.168±0.003	0.162±0.004	0.021±0.003	1.447±0.038	0.028±0.004	0.011±0.003	0.262±0.026	0.007±0.003	0.016±0.001	0.119±0.005
	麻畑	51	0.442±0.012	0.444±0.044	0.061±0.006	3.570±0.097	0.109±0.008	0.080±0.009	0.988±0.032	0.078±0.009	0.027±0.003	0.206±0.006

表１－２　各サヌカイト（安山岩）の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地名		原石群名	分析個数	元素比 K／Ca	Ti／Ca	Mn／Sr	Fe／Sr	Rb／Sr	Y／Sr	Zr／Sr	Nb／Sr	Al／Ca	Si／Ca
広島県	冠山	冠高原	60	0.651±0.021	0.485±0.014	0.046±0.004	3.322±0.104	0.174±0.009	0.029±0.009	0.462±0.017	0.185±0.010	0.025±0.002	0.241±0.008
		伴蔵C	45	0.277±0.010	0.345±0.008	0.019±0.002	1.604±0.057	0.039±0.015	0.008±0.006	0.368±0.012	0.026±0.006	0.019±0.001	0.171±0.006
		伴蔵A	51	0.340±0.008	0.319±0.008	0.020±0.003	1.347±0.025	0.047±0.011	0.011±0.005	0.381±0.021	0.044±0.056	0.019±0.002	0.190±0.009
		冠山東	29	0.323±0.019	0.363±0.031	0.019±0.001	1.607±0.060	0.059±0.009	0.003±0.005	0.399±0.043	0.025±0.009	0.021±0.001	0.171±0.006
		飯山	25	1.116±0.061	0.472±0.022	0.037±0.005	2.228±0.080	0.245±0.011	0.023±0.009	0.524±0.014	0.246±0.013	0.038±0.003	0.391±0.021
山口県		平生	45	0.184±0.009	0.190±0.006	0.112±0.031	7.290±0.346	0.170±0.015	0.077±0.011	0.691±0.040	0.026±0.010	0.011±0.001	0.097±0.004
		長島・蒲井	48	0.136±0.023	0.198±0.014	0.122±0.008	9.329±0.502	0.146±0.020	0.108±0.011	0.642±0.019	0.023±0.015	0.010±0.001	0.079±0.006
		八島	45	0.234±0.010	0.227±0.004	0.078±0.004	6.121±0.201	0.198±0.008	0.043±0.004	0.784±0.014	0.017±0.007	0.024±0.001	0.129±0.003
福岡県	八女市	昭和池第一群	50	1.825±0.041	0.644±0.024	0.053±0.007	2.125±0.063	0.453±0.019	0.107±0.017	1.477±0.049	0.044±0.022	0.050±0.003	0.500±0.012
		昭和池第二群	50	1.592±0.066	0.609±0.020	0.061±0.005	3.075±0.123	0.534±0.039	0.111±0.020	1.671±0.134	0.049±0.012	0.042±0.003	0.419±0.014
		昭和池第三群	50	3.144±0.069	0.724±0.036	0.073±0.009	2.919±0.099	0.925±0.048	0.181±0.026	2.820±0.114	0.072±0.020	0.074±0.026	0.817±0.040
		昭和池第四群	50	1.922±0.108	0.681±0.050	0.064±0.005	3.023±0.103	0.607±0.033	0.122±0.017	1.887±0.098	0.050±0.015	0.050±0.004	0.499±0.018
佐賀県		多久第一群	40	0.820±0.053	0.405±0.013	0.056±0.009	4.680±0.233	0.494±0.033	0.049±0.029	0.912±0.045	0.199±0.030	0.031±0.003	0.284±0.017
		多久第二群	42	0.844±0.061	0.395±0.019	0.061±0.010	5.106±0.397	0.539±0.053	0.069±0.030	0.911±0.050	0.197±0.028	0.032±0.004	0.293±0.026
		梅野(多久第３群)	42	1.287±0.051	0.340±0.013	0.058±0.010	3.643±0.225	0.784±0.030	0.081±0.022	0.824±0.033	0.265±0.032	0.038±0.009	0.458±0.050
		老松山	62	0.704±0.029	0.314±0.009	0.073±0.015	5.266±0.176	0.533±0.035	0.077±0.027	0.720±0.053	0.191±0.035	0.026±0.028	0.249±0.010
		寺山・岡本	50	0.629±0.043	0.310±0.088	0.070±0.012	5.553±0.236	0.492±0.034	0.083±0.021	0.700±0.032	0.180±0.027	0.024±0.002	0.227±0.014
		西有田	42	0.461±0.023	0.332±0.008	0.098±0.003	7.468±0.217	0.309±0.013	0.081±0.005	0.569±0.011	0.109±0.010	0.019±0.001	0.174±0.006
		松尾転礫	47	0.717±0.036	0.410±0.012	0.081±0.006	5.312±0.241	0.383±0.024	0.094±0.013	0.810±0.039	0.095±0.023	0.028±0.027	0.291±0.014
		松尾第二群	40	0.970±0.032	0.330±0.009	0.066±0.007	3.683±0.122	0.431±0.021	0.077±0.016	0.554±0.023	0.110±0.021	0.034±0.003	0.377±0.012
		椎葉崖第一群	42	0.822±0.027	0.369±0.010	0.065±0.007	3.888±0.236	0.392±0.021	0.076±0.018	0.540±0.049	0.089±0.020	0.027±0.009	0.330±0.013
		椎葉崖第二群	41	0.675±0.016	0.390±0.010	0.073±0.007	4.666±0.218	0.346±0.021	0.078±0.012	0.582±0.065	0.087±0.013	0.024±0.007	0.280±0.011
		椎葉崖第三群	12	0.538±0.011	0.401±0.007	0.076±0.010	5.271±0.189	0.296±0.019	0.075±0.015	0.587±0.024	0.075±0.009	0.022±0.002	0.227±0.009
		椎葉崖第四群	37	0.744±0.014	0.409±0.010	0.080±0.010	5.176±0.202	0.399±0.020	0.092±0.015	0.807±0.027	0.096±0.023	0.029±0.003	0.302±0.010
長崎県		大串	28	1.111±0.118	0.140±0.009	0.055±0.020	1.650±0.236	0.236±0.043	0.041±0.027	0.486±0.038	0.082±0.022	0.050±0.006	0.607±0.059
		亀岳	19	1.072±0.042	0.144±0.008	0.041±0.006	1.776±0.152	0.233±0.014	0.015±0.013	0.497±0.018	0.065±0.015	0.049±0.003	0.587±0.018
		牟田第一群	51	0.788±0.084	0.341±0.023	0.067±0.009	4.581±0.198	0.884±0.119	0.224±0.055	0.753±0.082	0.259±0.053	0.029±0.004	0.273±0.028
		牟田第二群	40	0.588±0.042	0.330±0.018	0.088±0.014	7.611±0.599	1.058±0.119	0.348±0.069	1.033±0.102	0.402±0.064	0.023±0.003	0.203±0.014
		川棚第一群	59	0.498±0.030	0.302±0.011	0.067±0.005	4.225±0.181	0.220±0.018	0.076±0.010	0.814±0.048	0.035±0.012	0.012±0.002	0.133±0.008
		川棚第二群	42	0.357±0.031	0.238±0.008	0.073±0.002	5.078±0.182	0.198±0.025	0.043±0.005	0.751±0.059	0.018±0.013	0.023±0.001	0.153±0.011
		福井第一群	46	0.634±0.019	0.330±0.007	0.087±0.016	7.527±0.226	1.174±0.030	0.381±0.042	1.096±0.047	0.480±0.070	0.023±0.002	0.217±0.007
		福井第二群	47	0.509±0.016	0.315±0.007	0.078±0.010	7.118±0.234	0.909±0.042	0.299±0.046	0.947±0.054	0.361±0.055	0.020±0.002	0.177±0.007
		崎針尾第一群	67	0.382±0.026	0.252±0.023	0.052±0.006	4.106±0.227	0.160±0.018	0.057±0.009	0.434±0.039	0.056±0.011	0.010±0.001	0.107±0.007
		崎針尾第二群	56	0.590±0.072	0.393±0.020	0.077±0.009	5.396±0.448	0.330±0.028	0.078±0.015	0.675±0.059	0.096±0.017	0.024±0.006	0.219±0.041
		駒崎鼻	42	0.635±0.072	0.309±0.009	0.071±0.012	5.519±0.425	0.500±0.050	0.076±0.025	0.690±0.055	0.183±0.030	0.025±0.003	0.231±0.025
熊本県		阿蘇第一群	39	1.999±0.212	0.664±0.061	0.067±0.011	1.862±0.368	0.476±0.060	0.126±0.023	1.647±0.181	0.067±0.014	0.067±0.010	0.602±0.086
		阿蘇第二群	44	1.045±0.171	0.547±0.064	0.056±0.008	2.822±0.410	0.312±0.048	0.088±0.015	1.108±0.160	0.046±0.013	0.036±0.006	0.302±0.038
		菊池	42	0.678±0.057	0.458±0.020	0.062±0.005	3.457±0.206	0.194±0.018	0.072±0.009	0.728±0.054	0.025±0.010	0.019±0.002	0.185±0.015
鹿児島県		上牛鼻	50	0.612±0.015	0.496±0.009	0.042±0.005	2.625±0.103	0.164±0.007	0.073±0.013	0.977±0.021	0.018±0.008	0.029±0.003	0.271±0.007
標準試料		JG－1 a)	56	1.327±0.021	0.266±0.006	0.058±0.006	2.817±0.074	0.756±0.015	0.183±0.024	0.762±0.033	0.078±0.014	0.036±0.003	0.448±0.011

平均値±標準偏差値、　＊：黒曜石様ガラス質安山岩　　a)：Ando,A., Kurasawa,H., Ohmori,T. & Takeda,E.(1974). 1974 compilation of data on the GSJ geochemical reference samples
JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol.8 175-192.

表１－３　原石産地不明の組成の似たサヌカイト（安山岩）製遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺跡名	遺物群名	分析個数	元素比 K／Ca	Ti／Ca	Mn／Sr	Fe／Sr	Rb／Sr	Y／Sr	Zr／Sr	Nb／Sr	Al／Ca	Si／Ca
北海道	頭無川遺物群	35	0.352±0.029	0.291±0.021	0.094±0.012	5.376±0.721	0.170±0.015	0.103±0.016	0.874±0.101	0.018±0.011	0.017±0.021	0.156±0.090
	納内No.17遺物群	48	0.284±0.006	0.316±0.008	0.113±0.016	9.214±0.461	0.158±0.013	0.160±0.013	1.067±0.046	0.022±0.012	0.020±0.002	0.164±0.004
新潟県	吹上１遺物群	48	0.268±0.014	0.288±0.005	0.135±0.003	8.756±0.209	0.126±0.007	0.117±0.011	0.515±0.014	0.012±0.009	0.014±0.001	0.116±0.002
	吹上２遺物群	50	0.427±0.021	0.338±0.009	0.126±0.003	6.023±0.150	0.237±0.012	0.140±0.013	1.098±0.036	0.051±0.021	0.029±0.001	0.378±0.022
	吹上３遺物群	45	0.454±0.012	0.438±0.006	0.141±0.006	9.807±0.329	0.500±0.027	0.089±0.007	1.470±0.049	0.118±0.040	0.023±0.001	0.359±0.006
	吹上４遺物群	45	0.152±0.006	0.241±0.012	0.153±0.002	9.752±0.143	0.103±0.008	0.147±0.012	0.748±0.020	0.021±0.013	0.011±0.001	0.101±0.001
	吹上５遺物群	48	0.710±0.005	0.577±0.005	0.100±0.002	5.327±0.060	0.122±0.005	0.142±0.008	1.100±0.015	0.040±0.015	0.024±0.001	0.223±0.002
	吹上６遺物群	45	1.617±0.050	2.629±0.072	0.061±0.006	14.039±0.664	0.403±0.026	0.096±0.013	1.202±0.050	0.087±0.045	0.124±0.001	2.923±0.104
	吹上７遺物群	45	1.886±0.025	1.121±0.032	0.046±0.002	4.911±0.100	0.496±0.012	0.061±0.005	1.170±0.022	0.065±0.021	0.064±0.002	0.794±0.022
千葉県	千葉１群	32	0.089±0.002	0.307±0.005	0.177±0.013	13.143±0.459	0.066±0.006	0.116±0.012	0.557±0.030	0.016±0.008	0.012±0.002	0.102±0.004
	千葉２群	36	0.292±0.012	0.352±0.007	0.109±0.010	7.204±0.254	0.184±0.011	0.135±0.013	0.906±0.035	0.024±0.013	0.019±0.002	0.161±0.008
	千葉３群	48	0.098±0.002	0.306±0.004	0.141±0.012	8.952±0.285	0.032±0.008	0.096±0.008	0.419±0.019	0.011±0.006	0.014±0.001	0.120±0.003
	千葉４群	48	0.134±0.002	0.259±0.004	0.128±0.012	9.617±0.196	0.092±0.009	0.098±0.009	0.612±0.023	0.017±0.009	0.012±0.001	0.093±0.002
	有吉No.13群	48	0.143±0.002	0.243±0.004	0.114±0.010	7.889±0.163	0.091±0.009	0.097±0.009	0.566±0.029	0.016±0.009	0.015±0.002	0.117±0.003
	有吉No.14群	48	0.204±0.002	0.310±0.004	0.116±0.009	8.780±0.158	0.146±0.009	0.106±0.010	0.654±0.026	0.015±0.002	0.015±0.002	0.130±0.003
石川県	酒見遺物群	42	0.447±0.064	0.608±0.017	0.089±0.012	5.098±0.781	0.153±0.019	0.116±0.014	1.258±0.118	0.016±0.012	0.024±0.004	0.208±0.027
	地方15865群	48	0.366±0.011	0.341±0.013	0.077±0.008	4.116±0.119	0.115±0.012	0.087±0.010	0.586±0.059	0.012±0.008	0.022±0.002	0.204±0.007
岐阜県	野笹No.261他群	56	0.632±0.032	0.393±0.013	0.045±0.005	2.234±0.070	0.170±0.009	0.046±0.012	1.030±0.041	0.029±0.006	0.022±0.002	0.213±0.010
	野笹No.271他群	35	0.407±0.010	0.304±0.005	0.040±0.005	1.882±0.041	0.089±0.005	0.033±0.005	0.671±0.030	0.023±0.005	0.018±0.002	0.177±0.006
	野笹No.282他群	33	0.799±0.009	0.512±0.010	0.050±0.005	2.540±0.096	0.221±0.014	0.077±0.011	1.213±0.039	0.034±0.007	0.026±0.002	0.240±0.009
	野笹No.289他群	32	3.515±0.134	1.068±0.047	0.149±0.023	6.620±0.453	0.617±0.041	0.210±0.032	1.330±0.067	0.158±0.027	0.167±0.015	2.525±0.081
	野笹No.262群	40	0.384±0.004	0.318±0.006	0.057±0.005	2.356±0.068	0.102±0.007	0.051±0.007	0.651±0.022	0.022±0.005	0.017±0.002	0.161±0.004
	野笹No.295群	32	3.584±0.178	1.077±0.058	0.075±0.016	3.775±0.153	0.441±0.024	0.197±0.019	1.118±0.053	0.150±0.028	0.183±0.019	2.989±0.159
静岡県	川津No.1群	48	0.101±0.002	0.297±0.003	0.145±0.012	13.011±0.347	0.056±0.009	0.112±0.009	0.589±0.028	0.011±0.009	0.011±0.001	0.088±0.002
愛知県	朝日No.7群	35	0.334±0.004	0.362±0.005	0.067±0.009	3.895±0.150	0.082±0.005	0.044±0.007	0.758±0.044	0.027±0.009	0.017±0.002	0.147±0.010
	朝日No.15群	35	1.016±0.022	0.582±0.012	0.043±0.005	4.187±0.141	0.477±0.019	0.089±0.020	1.722±0.058	0.058±0.026	0.032±0.009	0.557±0.021
京都府	赤ヶ平No.13群	48	0.458±0.012	0.199±0.003	0.053±0.007	3.752±0.073	0.217±0.017	0.060±0.011	0.635±0.047	0.013±0.006	0.019±0.002	0.145±0.004
大阪府	向出No.6群	48	0.236±0.003	0.189±0.003	0.075±0.005	4.966±0.089	0.194±0.010	0.063±0.011	0.588±0.019	0.010±0.011	0.015±0.001	0.127±0.002
	向出No.49群	48	0.310±0.003	0.203±0.003	0.052±0.004	3.734±0.074	0.228±0.016	0.059±0.010	0.610±0.021	0.011±0.012	0.017±0.001	0.147±0.002
	中社No.82群	48	0.340±0.003	0.226±0.003	0.065±0.005	4.305±0.085	0.208±0.010	0.069±0.009	0.628±0.015	0.010±0.010	0.016±0.001	0.136±0.002
	中社No.86群	48	2.638±0.057	0.949±0.026	0.025±0.008	4.536±0.105	0.624±0.019	0.139±0.027	1.425±0.050	0.059±0.019	0.097±0.033	1.903±0.055
	中社No.89群	48	0.600±0.005	0.287±0.004	0.046±0.004	3.077±0.060	0.363±0.014	0.048±0.012	1.088±0.022	0.022±0.016	0.028±0.002	0.256±0.004
	中社No.104群	48	0.133±0.002	0.117±0.002	0.095±0.006	6.365±0.098	0.112±0.007	0.044±0.010	0.328±0.020	0.009±0.009	0.011±0.001	0.102±0.002
	鬼虎No.16群	33	0.361±0.004	0.253±0.004	0.053±0.007	3.105±0.070	0.238±0.106	0.063±0.014	0.684±0.025	0.027±0.008	0.018±0.001	0.170±0.004
	鬼虎No.17群	33	0.372±0.004	0.250±0.004	0.049±0.007	2.987±0.060	0.241±0.010	0.056±0.009	0.675±0.024	0.023±0.008	0.018±0.001	0.176±0.005
	栗生間谷No.98群	48	0.421±0.009	0.227±0.005	0.066±0.009	4.359±0.132	0.217±0.015	0.067±0.009	0.651±0.025	0.026±0.009	0.015±0.002	0.129±0.006
	栗生間谷No.T5群	48	0.240±0.002	0.268±0.005	0.058±0.007	4.106±0.087	0.160±0.010	0.059±0.009	0.582±0.027	0.022±0.008	0.018±0.002	0.123±0.004
兵庫県	寺田No.117群	48	0.378±0.005	0.226±0.004	0.071±0.007	4.592±0.093	0.216±0.009	0.063±0.009	0.611±0.024	0.022±0.008	0.019±0.002	0.134±0.004
	熊内No.7群	55	0.290±0.004	0.180±0.003	0.078±0.007	4.603±0.180	0.243±0.015	0.055±0.012	0.351±0.057	0.015±0.007	0.017±0.002	0.141±0.004
	熊内No.13群	55	0.307±0.003	0.185±0.002	0.081±0.009	4.895±0.103	0.323±0.016	0.055±0.019	0.417±0.059	0.014±0.007	0.016±0.001	0.127±0.003
	熊内No.17群	48	0.271±0.013	0.196±0.003	0.074±0.009	4.661±0.148	0.183±0.008	0.056±0.013	0.808±0.027	0.017±0.007	0.019±0.002	0.145±0.005
	熊内No.33群	48	0.699±0.008	0.150±0.004	0.080±0.008	2.790±0.054	0.564±0.018	0.045±0.030	0.417±0.050	0.022±0.010	0.029±0.003	0.283±0.007
和歌山県	堅田No.8遺物群	48	11.976±0.595	1.248±0.069	0.035±0.011	3.745±0.214	1.647±0.054	0.215±0.053	1.272±0.054	0.120±0.023	0.276±0.032	4.203±0.241
	堅田No.24遺物群	48	23.782±1.975	3.082±0.279	0.045±0.014	6.290±0.406	2.437±0.192	0.444±0.070	2.258±0.134	0.178±0.026	0.500±0.066	5.731±0.519
	堅田No.28遺物群	48	1.934±0.083	1.349±0.064	0.026±0.010	8.161±0.354	0.625±0.025	0.128±0.027	1.414±0.061	0.072±0.027	0.092±0.010	1.051±0.059
鳥取県	笹畝２No.2群	48	0.491±0.008	0.524±0.009	0.040±0.005	2.278±0.047	0.098±0.006	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006
	笹畝２No.3群	48	0.324±0.007	0.508±0.007	0.048±0.005	2.859±0.079	0.068±0.056	0.051±0.006	0.622±0.025	0.048±0.008	0.021±0.002	0.152±0.006
	平田遺物群	70	0.211±0.006	0.296±0.007	0.092±0.014	7.108±0.245	0.098±0.011	0.071±0.012	0.552±0.038	0.021±0.008	0.013±0.001	0.118±0.005
	嘉時雨遺物群	44	3.461±0.177	2.341±0.134	0.158±0.041	17.661±1.079	1.099±0.048	0.268±0.036	2.124±0.106	0.157±0.035	0.116±0.012	1.201±0.085
	下山遺物群	60	0.190±0.003	0.286±0.005	0.090±0.010	6.872±0.311	0.088±0.008	0.064±0.008	0.528±0.021	0.017±0.008	0.014±0.001	0.102±0.005

表１－４　原石産地不明の組成の似たサヌカイト（安山岩）製遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺跡名遺物群名		分析個数	元素比									
			K／Ca	Ti／Ca	Mn／Sr	Fe／Sr	Rb／Sr	Y／Sr	Zr／Sr	Nb／Sr	Al／Ca	Si／Ca
島根県	下山No.5遺物群	48	0.178±0.002	0.284±0.003	0.086±0.007	7.148±0.141	0.082±0.007	0.060±0.009	0.501±0.023	0.013±0.005	0.012±0.001	0.092±0.003
	下山No.11遺物群	48	0.161±0.004	0.272±0.004	0.090±0.008	7.586±0.287	0.076±0.009	0.060±0.008	0.468±0.019	0.014±0.006	0.012±0.001	0.087±0.003
	東船１遺物群	48	4.547±0.269	0.836±0.030	0.168±0.048	10.523±1.762	2.447±0.594	0.375±0.120	14.278±3.081	1.094±0.249	0.114±0.008	1.029±0.047
	川平No.2遺物群	48	0.745±0.012	0.216±0.006	0.017±0.002	0.685±0.015	0.104±0.005	0.005±0.005	0.276±0.025	0.019±0.004	0.032±0.004	0.311±0.011
	槙ヶ峠石斧群	48	8.728±1.974	2.927±0.557	0.242±0.037	25.324±3.676	2.332±0.005	0.115±0.045	1.833±0.105	0.040±0.012	0.142±0.030	0.952±0.188
	槙ヶ峠石棒群	48	0.020±0.003	0.170±0.011	0.319±0.027	33.311±1.670	0.053±0.016	0.151±0.017	0.517±0.051	0.022±0.012	0.007±0.001	0.051±0.002
	家の後No.14群	48	1.518±0.195	0.929±0.084	0.108±0.014	7.721±0.024	0.462±0.036	0.101±0.022	1.134±0.046	0.026±0.011	0.049±0.007	0.384±0.041
	平田磨製石斧群	48	0.365±0.025	0.281±0.018	0.252±0.010	3.352±0.083	0.241±0.013	0.016±0.008	0.189±0.024	0.005±0.002	0.023±0.003	0.165±0.006
	金クソ谷３遺物群	45	3.474±0.162	3.909±0.510	0.137±0.010	21.097±1.158	0.644±0.050	0.109±0.015	1.380±0.090	0.092±0.059	0.218±0.028	5.114±0.651
	金クソ谷33遺物群	45	1.639±0.031	1.096±0.025	0.097±0.004	3.948±0.124	0.342±0.015	0.093±0.008	0.949±0.034	0.058±0.031	0.117±0.002	3.552±0.056
	金クソ谷34遺物群	45	1.158±0.016	1.068±0.013	0.065±0.002	9.235±0.166	0.671±0.012	0.092±0.005	1.466±0.025	0.135±0.021	0.048±0.000	0.453±0.003
	中嶺32遺物群	44	0.357±0.015	0.603±0.021	0.061±0.001	3.683±0.029	0.104±0.004	0.028±0.001	0.826±0.007	0.087±0.005	0.018±0.000	0.174±0.005
山口県	上太田６遺物群	45	0.261±0.005	0.202±0.004	0.077±0.002	5.481±0.073	0.276±0.011	0.076±0.013	0.861±0.020	0.016±0.013	0.020±0.001	0.127±0.001
	田ノ浦23・25遺物群	50	0.176±0.014	0.178±0.010	0.096±0.008	6.878±0.698	0.123±0.020	0.079±0.009	0.597±0.016	0.022±0.011	0.010±0.001	0.082±0.003
	田ノ浦26遺物群	44	0.233±0.006	0.231±0.006	0.097±0.011	7.604±0.588	0.192±0.009	0.122±0.010	0.809±0.018	0.039±0.016	0.012±0.001	0.105±0.002
	田ノ浦15遺物群	45	0.197±0.004	0.203±0.003	0.077±0.002	5.756±0.083	0.137±0.005	0.092±0.009	0.728±0.012	0.032±0.013	0.012±0.001	0.089±0.002
	田ノ浦47遺物群	45	0.210±0.007	0.273±0.006	0.080±0.004	6.885±0.242	0.150±0.007	0.083±0.008	0.758±0.017	0.022±0.012	0.012±0.001	0.104±0.001
	田ノ浦12遺物群	46	0.132±0.006	0.229±0.007	0.155±0.005	11.674±0.171	0.159±0.008	0.118±0.012	0.712±0.013	0.025±0.016	0.009±0.001	0.075±0.001
	田ノ浦49遺物群	45	0.129±0.002	0.170±0.008	0.062±0.004	4.437±0.218	0.067±0.003	0.043±0.005	0.426±0.008	0.010±0.007	0.009±0.001	0.074±0.001
	田ノ浦24遺物群	45	0.158±0.005	0.233±0.003	0.088±0.002	6.655±0.137	0.094±0.007	0.095±0.010	0.698±0.014	0.031±0.015	0.011±0.001	0.073±0.001
徳島県	城ノ内遺物群	50	3.129±0.089	1.851±0.049	0.185±0.028	17.480±0.603	1.168±0.046	0.235±0.052	2.177±0.082	0.115±0.038	0.144±0.012	1.445±0.053
香川県	六ツ目遺物群	30	0.307±0.004	0.258±0.005	0.067±0.005	4.736±0.096	0.235±0.010	0.058±0.014	0.840±0.023	0.030±0.013	0.016±0.005	0.133±0.004
	庵の谷遺物群	60	0.684±0.012	0.248±0.006	0.066±0.012	4.139±0.128	0.429±0.019	0.077±0.022	1.178±0.040	0.058±0.013	0.025±0.002	0.262±0.007
高知県	松ノ木遺物群	37	0.610±0.017	0.223±0.004	0.797±0.005	4.528±0.120	0.325±0.016	0.063±0.017	1.151±0.028	0.019±0.014	0.024±0.002	0.193±0.006
宮崎県	永迫No.18遺物群	48	0.293±0.007	0.237±0.003	0.050±0.006	3.976±0.127	0.164±0.010	0.061±0.010	0.658±0.026	0.024±0.008	0.017±0.002	0.127±0.007
	永迫No.19遺物群	48	0.440±0.085	2.190±0.242	0.026±0.005	0.671±0.068	0.012±0.002	0.057±0.005	0.913±0.047	0.050±0.008	0.339±0.037	4.867±0.543
	永迫No.328遺物群	45	0.239±0.006	0.195±0.003	0.065±0.002	5.106±0.092	0.174±0.010	0.063±0.007	0.628±0.014	0.013±0.010	0.010±0.001	0.097±0.001
	永迫329-316遺物群	50	1.017±0.015	0.270±0.006	0.057±0.002	3.168±0.082	0.538±0.016	0.114±0.007	1.194±0.030	0.021±0.013	0.037±0.001	0.386±0.015
	久木野10遺物群	34	0.397±0.006	0.297±0.007	0.071±0.009	3.723±0.129	0.181±0.011	0.048±0.012	0.397±0.029	0.071±0.010	0.021±0.002	0.189±0.012
	久木野12遺物群	48	0.687±0.010	0.369±0.008	0.046±0.005	2.596±0.074	0.132±0.008	0.033±0.010	0.995±0.027	0.066±0.011	0.033±0.003	0.284±0.014
	久木野17遺物群	45	37.546±7.947	6.872±1.512	0.055±0.024	12.163±1.242	1.718±0.118	0.319±0.060	1.898±0.167	0.211±0.052	1.490±0.316	16.795±3.403
	久木野26遺物群	48	20.336±1.582	7.598±0.614	0.046±0.015	7.914±0.477	1.359±0.073	0.396±0.064	3.562±0.227	0.050±0.029	0.803±0.098	8.469±0.649
	久木野44遺物群	45	0.766±0.067	0.513±0.029	0.049±0.019	2.430±0.163	0.334±0.034	0.418±0.052	0.739±0.083	0.069±0.036	0.080±0.016	4.625±0.293
	久木野45遺物群	48	1.207±0.070	1.243±0.056	0.022±0.009	1.545±0.063	0.152±0.015	0.080±0.015	0.493±0.039	0.030±0.012	0.160±0.020	7.566±0.327
	小田元１遺物群	48	3.016±0.070	0.776±0.023	0.072±0.015	5.825±0.210	1.422±0.045	0.327±0.070	2.927±0.123	0.128±0.032	0.095±0.010	1.075±0.035
	小田元２遺物群	48	6.803±0.509	6.350±0.483	0.053±0.019	28.371±1.498	0.952±0.046	0.273±0.046	2.286±0.179	0.114±0.041	0.505±0.068	10.179±0.870
	小田元16遺物群	48	10.792±0.566	6.922±0.400	0.039±0.011	7.900±0.181	0.941±0.035	0.152±0.048	2.189±0.088	0.103±0.027	0.449±0.040	3.550±0.188
	小田元17遺物群	48	7.394±0.483	5.276±0.388	0.087±0.020	16.004±0.737	1.026±0.046	0.209±0.053	1.914±0.088	0.094±0.042	0.359±0.039	3.562±0.299
	小田元18遺物群	48	1.235±0.051	1.195±0.063	0.066±0.029	1.396±0.168	0.779±0.069	0.908±0.074	2.009±0.190	0.139±0.063	0.100±0.013	5.405±0.216
	小田元20遺物群	48	4.151±0.104	0.877±0.032	0.069±0.018	5.517±0.182	1.853±0.058	0.515±0.061	3.206±0.112	0.197±0.011	0.129±0.011	1.394±0.045
	小田元21遺物群	48	0.152±0.015	0.188±0.022	0.023±0.010	2.606±0.215	0.123±0.023	0.227±0.026	0.621±0.086	0.033±0.019	0.026±0.005	1.251±0.131
	小田元22遺物群	48	2.988±0.185	1.712±0.113	0.083±0.018	12.064±0.318	0.995±0.031	0.214±0.069	2.217±0.088	0.114±0.033	0.099±0.009	0.901±0.048
	小田元23遺物群	48	1.071±0.027	0.751±0.028	0.075±0.012	10.726±0.392	0.708±0.030	0.147±0.040	1.690±0.066	0.093±0.025	0.043±0.004	0.377±0.010
鹿児島県	大原野24遺物群	48	0.783±0.013	0.525±0.008	0.041±0.006	2.415±0.071	0.202±0.010	0.091±0.016	1.131±0.034	0.025±0.011	0.033±0.003	0.324±0.006
	大原野27遺物群	48	7.505±0.286	3.161±0.125	0.065±0.019	16.100±1.244	1.072±0.042	0.154±0.049	1.722±0.067	0.102±0.032	0.190±0.021	1.418±0.080
	大原野28遺物群	48	7.403±0.961	2.017±0.279	0.096±0.039	0.621±0.075	1.250±0.098	0.800±0.091	1.995±0.192	0.118±0.062	0.326±0.065	16.352±2.120
	大原野34遺物群	48	0.694±0.010	0.337±0.005	0.079±0.011	6.278±0.206	0.592±0.023	0.081±0.031	0.872±0.034	0.190±0.002	0.043±0.004	0.258±0.008
	道下段76遺物群	50	0.354±0.006	0.302±0.004	0.072±0.001	4.520±0.051	0.174±0.009	0.073±0.011	0.677±0.019	0.020±0.013	0.023±0.001	0.155±0.001

注：向出遺跡、下山 No.5,No11 群、中ノ社遺跡、六ツ目遺跡、松ノ木遺跡、朝日遺跡、鬼虎川遺跡、野笹 No.262、295 群、栗生間谷遺跡、永迫２遺跡、笹畝２遺跡、川平１遺跡、家の後遺跡、槙ヶ峠遺跡、川津町、有吉遺跡、堅田遺跡 No8,24,28 遺物群、地方遺跡、小田元第２遺跡、大原野遺跡、道下段遺跡の分析個数は１個の遺物の分析場所を変えて分析した回数をあらわす。下山遺跡(No.4,No.14,No.15)、平田遺跡(No.12,No.13)、庵の谷遺跡、野笹遺跡、喜時雨遺跡、東船遺跡、千葉２，３，４遺物群、城ノ内遺物群(No.13,No.22)の分析個数はそれぞれ２個以上の遺物の分析場所を変えて分析した回数をあらわす。

の原石群と遺物を比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを証明すればそれが十分条件となり、石器がA産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは各々の観察者で分類基準が異なるため混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によってそれぞれ異なり、実際におこなってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかに左右され、比較した産地が少なければ信頼性の低い結果と言える。黒曜石、安山岩などの主成分の元素組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分の元素組成には違いがあると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合（マハラノビスの距離）を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地点が異なる可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT２乗検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある原石遺物原材と同じ元素組成の原石はA産地では10個中に一個みられ、B産地では一万個中に一個、C産地では百万個中に一個、D産地では・・・一個と各産地毎に求められるような、客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

今回分析した遺物は太田・黒田遺跡（和歌山市）出土のサヌカイト製遺物合計20個で産地分析の結果が得られたので報告する。

３．サヌカイト、ガラス質安山岩原石の分析

サヌカイトでは、K/Ca、Ti/Ca、Mn/Sr、Fe/Sr、Rb/Sr、Y/Sr、Zr/Sr、Nb/Srの値を指標として用いる。サヌカイトの原産地は、西日本に集中してみられ、石材として良質な原石の産地および質は良くないが考古学者の間で使用されたのではないかと話題にのぼる産地、および玄武岩、ガラス質安山岩など、合わせて50ヶ所の調査を終えている。図１にサヌカイトの原産地の地点を示す。これらの原石を良質の原石を産出する産地および原石産地不明の遺物を元素組成で分類すると178個の原石群に分類でき、その結果を表１に示した。安山岩の原石産地の一部を簡単に記すると、香川県の坂出市、高松市に位置する金山・五色台地域では、多数の地点から良質のサヌカイトおよびガラス質安山岩が多量に産出し、かつそれらは数ヶの群に分かれる。近年、丸亀市の双子山の南嶺から産出するサヌカイト原石で双子山群を確立し、またガラス質安山岩は細石器時代に使用された原材であり善通寺市の大麻山南からも産出している。香川県内の石器原材の産地である金山・五色台地域のサヌカイト原石を分類すると、金山西群、金山東群、国分寺群、蓮光寺群、白峰群、法印谷群の６つの群に分かれ、これらの地域外の産地では城山群および双子山群に分かれた。また、ガラス質安山岩は金山奥池、雄山、神谷町南山地区で採取され、さらに大麻山南産は大麻山南第一、二群の２群にそれぞれ分類されて区別が可能なことを明らかにした。これらガラス質安山岩は成分的に黒曜石に近く、また肉眼観察では下呂石に酷似するもの、西北九州産の中町、淀姫産黒曜石、大串、亀岳原石と酷似するものもみられ、風化した遺物ではこれら似た原材と肉眼で区別するのは困難と思われ、正確に原材産地の判定をおこなうには分析が必要である。また、金山・五色台地域産のサヌカイト原石の諸群にほとんど一致する元素組成を示すサヌカイト原石が淡路島の岩屋原産地の堆積層から円礫状で採取される。さらに大阪府和泉・岸和田産地の礫層、和歌山県梅原産地礫層からも、金山・五色台地域の諸群の一部に一致するものがみられ（表２）、長い年月の間にこれらが金山・五色台地域から流れ着いたのではないかと思われる。淡路島中部地域の原産地である西路山地区および大崩地区からもサヌカイト原石が採取される。奈良県北葛城郡当麻町に位置する二上山の原石で二上山群を作った。二上山群に一致する原石は柏原市奥山遺跡の地山転礫で見られ、地山転礫産出地を奥山礫層と名付ける。奥山礫層からは板状に剥離する原石が産出し、剥離面には酸化鉄層が薄くあり、分析は、主に酸化層面に直角な面を分析し、奥山礫層２群を作った。奥山礫層中の奥山礫層２群と二上山群の出現比は約１：55であった。また、二上山群と元素組成の類似する原石は和泉・岸和田の礫層産地から６％の割合で採取される（表３）また和歌山市梅原原産地からは、金山原産地の原石に一致する原石はみられない（表４）。仮に、遺物が岩屋、和泉・岸和田原産地などの原石で作られている場合には、産地分析の手続きは複雑になる。その遺跡から10個以上の遺物を分析し、表２、３のそれぞれの群に帰属される頻度分布を求め、確率論による期待値と比較して確認しなければならない。二上山群を作った原石は奈良県北葛城郡当麻町に位置する二上山を中心にした広い地域から採取された。この二上山群と組成の類似する原石は和泉・岸和田の原産地から６％の割合で採取されることから、一遺跡10個以上の遺物を分析し、表３のそれぞれの群に帰属される頻度分布をもとめて、和泉・岸和田原産地の原石が使用されたかどうか判断しなければならない。中国山地のサヌカイト産地として代表的な産地は山口、島根、広島の県境に位置する冠山地域で、冠山、鬼ヶ城の山腹には安山岩の露頭があり、また山麓からは崖錐角礫として転石

として見られる。伴蔵地区の冠高原スキー場一帯（冠高原地点と呼ぶ）から良質の原石が採取でき、冠高原群および伴蔵C、A群を作った。冠高原スキー場から南方の飯山地区の針山地点（飯山地点と呼ぶ）の原石で飯山群を作った。また、頓原地区産出の原石で冠山東群を作った。また、考古学者の間で石器原材として使用されたのではないかと話題にのぼる産地の一つである山口県熊毛郡平生町産の安山岩原石を分析し平生群を作り、この原石を使用した石器か否かの判定ができるようにした。九州地域産地では佐賀県多久、老松山と隣の岡本、西有田、また嬉野町では松尾、椎葉川などで良質の原石が採取できる。長崎県では大串、亀岳産地、川棚、福井洞窟遺跡地域で産出する福井産原石、松浦半島産の牟田産原石、また、山下実氏発見の雲仙駒崎鼻産サヌカイトと福岡県昭和池採取原石の群が整備された。

4．結果と考察

遺跡から出土したサヌカイト製石器、石片は、風化のため表面が白っぽく変色し、新鮮な部分と異なった元素組成になっている可能性が考えられる。このため遺物の測定面の風化した部分に、圧縮空気によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出して測定を行なった。一方黒曜石製遺物は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析において水和層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、実際には影響はほとんど見られない。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比の値を除いて産地分析を行なった場合と除かずに産地分析を行った場合で同定される原産地に差はない。他の元素比の値についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやゝ不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。

今回分析した太田・黒田遺跡から出土したサヌカイト製遺物の分析結果を表5に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRb/Srの一変量だけを考えると、分析番号98529番の遺物はRb/Srの値が0.211で、二上山群の［平均値］±［標準偏差値］は、0.202±0.012であるから、遺物と原石群の差を標準偏差値（σ）を基準にして考えると遺物は原石群から0.75σ離れている。ところで二上山群の産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から±0.75σのずれより大きいものが45ヶある。すなわち、この遺物が、二上山群の原石から作られていたと仮定しても、0.75σ以上離れる確率は45%であると言える。だから、二上山群の平均値から0.75σしか離れていないときには、この遺物が二上山群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を城山群に比較すると、城山群の［平均値］±［標準偏差値］は、0.289±0.014であるから、遺物と原石群の差を標準偏差値（σ）を基準にして考えると遺物は原石群から5.5σ離れている。これを確率の言葉で表現すると、城山群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から5.5σ以上離れている確率は、一億分の一であると言える。このように、一億個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、城山群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は二上山群に45%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから二上山の原石が使用されていると同定され、さらに城山群に対しては百万分の一%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%に満たないことから城山産原石でないと同定される」。遺物が二上山群と一致したからと言っても、遺物が二上山産地から採取された証拠はなく、分析している試料は原石でなく遺物であり、さらに分析誤差が大きくなる不定形（非破壊分析）であることから、他の産地に一致しないとは言えない。また、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地（二上山群）に一致し必要条件を満たしたと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表1の178個すべての原石群について行ない、十分条件である低い確率で帰属された原石群を消していくことにより、はじめて二上山産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb/Srといった唯1ヶの変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えばA原産地のA群では、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、仮にA群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT2乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて、産地を同定する[4,5]。産地の同定結果は1個の遺物に対して、サヌカイト製のものは178個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上『記入』を省略しているだけであり、実際には178個の群全てについて計算しているため、省略産地の可能性が非常に低いことを確認したという重要な意味を含んでいる。すなわち、二上山産原石と判定された遺物について、金山東群産原石とか佐賀県多久産、香川県城山、北海道旭山の原石の可能性を考える必要がない結果で、ここでは高い確率で同定され

図１　サヌカイトおよびサヌカイト様岩石の原産地

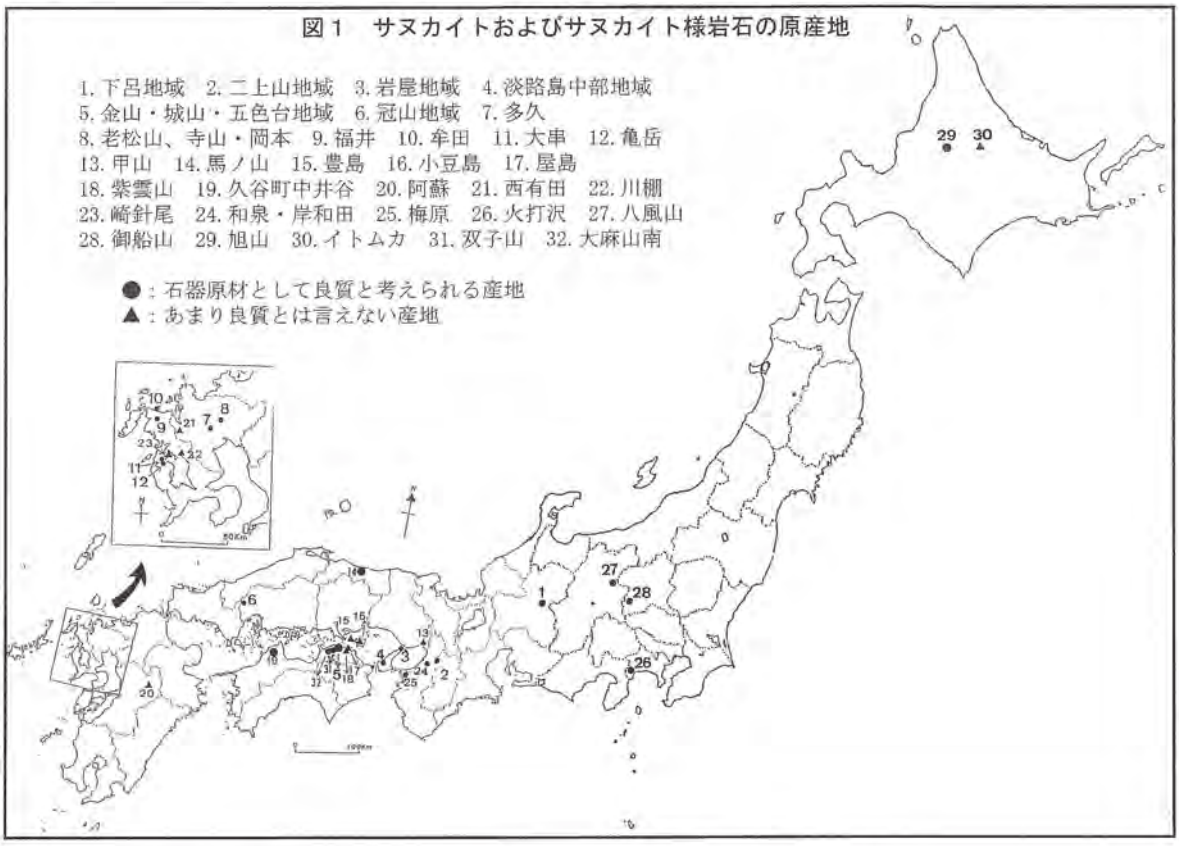


表２　岩屋原産地からのサヌカイト原石６６個の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
岩屋第一群	２０個	３０％	淡路島、岸和田、和歌山に出現
第二群	２２	３３	白峰群に一致
	6	9	法印谷群に一致
	5	8	国分寺群に一致
	4	6	蓮光寺群に一致
	3	5	金山東群に一致
	2	3	和泉群に一致
	4	6	不明（どこの原石群にも属さない）

表３　和泉・岸和田原産地からのサヌカイト原石７２個の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
岩屋第一群	１２個	１７％	淡路島、岸和田、和歌山に出現
和泉群	9	１３	〃　、　〃　、　〃
岩屋第二群	6	8	白峰群に一致
	4	6	二上山群に一致
	1	1	法印谷群に一致
	1	1	金山東群に一致
	３９	５４	不明（どこの原石群にも属さない）

表４　和歌山市梅原原産地からのサヌカイト原石２１個の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
和泉群	１０個	４８％	淡路島、岸和田、和歌山に出現
岩屋第一群	1	5	〃　、　〃　、　〃
	１０	４８	不明（どこの原石群にも属さない）

た産地のみの結果を表5に記入した。原石群を作った原石試料は直径2cm以上で精度良く分析される。遺物は、大きさ、形がさまざまで、これらの影響により分析値が少しは変化していることを推測し、判定の信頼限界を0.1%に設定した。判定結果には推定確率が求められているために、先史時代の交流を推測するときに、低確率の遺物はあまり重要に考えないなど、考古学者が推定確率をみて選択できるために、誤った先史時代交流を推測する可能性がない。

今回分析した太田・黒田遺跡のサヌカイト製遺物20個のホテリングのT2乗検定法で表1の原石群・遺物群と比較した結果、二上山群が17個（85%）、金山東群が3個（15%）同定された。信頼限界の0.1%を越えて同定され必要条件を満たし、また、遺跡から近い岩屋諸群産原石群とか、他の原石・遺物群には非常に低い確率で同定され、これらの群の原石でないと言う十分条件を満たしたことから、二上山産原石、金山東産原石の石材が使用されていると判定した。この中で二上山群と一致する原石は大阪府和泉・岸和田の原産地から6%の割合で採取されることから、表3のそれぞれの群に帰属される頻度分布をもとめて、和泉・岸和田原産地の原石が使用されたか、否か判断しなければならない。太田・黒田遺跡では大阪府和泉・岸和田の原産地から他の元素組成の原石を採取せず、二上山群と一致する石材のみを17個採取する確率は0.06の累乗17で求められ、ほとんど0%の確率になりこの産地から採取された可能性が極めて低くなり、この結果から遺物の交流を考察すると、奈良県二上山地域との交流があったことが推測される。また、金山東群に一致する遺物は岩屋産地からは5%、和泉・岸和田産地からは1%の確率で、両産地から金山東群を3個採取する確率は0.05の累乗3と0.01の累乗3になり、1万分の1と百万分の1となり、確率は非常に低く両産地から採取されなかったと推測された。これらの結果から遺物の交流を考察すると、太田・黒田遺跡では坂出市金山東麓との交流があったと推測しても産地分析の結果と矛盾しない。

【参考文献】

1) 藁科哲男・東村武信(1975)，蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(II)。
考古学と自然科学，8:61-69
2) 藁科哲男・東村武信・鎌木義昌(1977),(1978)，蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(III)。(IV)。
考古学と自然科学，10,11:53-81:33-47
3) 藁科哲男・東村武信(1983)，石器原材の産地分析。
考古学と自然科学，16:59-89
4) 東村武信(1976)，産地推定における統計的手法。
考古学と自然科学，9:77-90
5) 東村武信(1980)，考古学と物理化学。学生社

表5　太田・黒田遺跡出土サヌカイト製遺物の元素比分析結果

分析番号	元素比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
98529	0.281	0.226	0.067	4.331	0.211	0.070	0.615	0.015	0.016	0.125
98530	0.282	0.228	0.069	4.429	0.213	0.070	0.623	0.018	0.016	0.125
98531	0.289	0.223	0.067	4.339	0.205	0.072	0.626	0.016	0.016	0.128
98532	0.304	0.230	0.066	4.275	0.195	0.073	0.639	0.015	0.016	0.130
98533	0.291	0.230	0.064	4.214	0.206	0.065	0.652	0.006	0.016	0.128
98534	0.468	0.228	0.076	4.433	0.283	0.085	1.198	0.030	0.025	0.186
98535	0.288	0.231	0.067	4.449	0.209	0.065	0.620	0.014	0.015	0.125
98536	0.276	0.226	0.069	4.379	0.200	0.064	0.619	0.010	0.016	0.125
98537	0.287	0.234	0.065	4.375	0.203	0.077	0.622	0.015	0.016	0.126
98538	0.284	0.226	0.067	4.349	0.215	0.071	0.625	0.016	0.016	0.125
98539	0.282	0.224	0.065	4.314	0.196	0.074	0.617	0.018	0.016	0.125
98540	0.292	0.230	0.066	4.261	0.213	0.068	0.624	0.014	0.016	0.128
98541	0.281	0.228	0.070	4.500	0.207	0.067	0.627	0.000	0.015	0.123
98542	0.290	0.231	0.066	4.284	0.210	0.072	0.632	0.016	0.015	0.125
98543	0.279	0.228	0.067	4.436	0.211	0.070	0.638	0.018	0.016	0.126
98544	0.287	0.232	0.065	4.454	0.194	0.080	0.618	0.019	0.016	0.126
98545	0.457	0.225	0.082	4.558	0.289	0.086	1.205	0.037	0.024	0.183
98546	0.486	0.227	0.075	4.433	0.305	0.084	1.202	0.024	0.025	0.182
98547	0.276	0.229	0.069	4.480	0.208	0.064	0.632	0.023	0.015	0.122
98548	0.286	0.225	0.067	4.380	0.209	0.063	0.629	0.011	0.016	0.127
JG-1	1.265	0.284	0.052	2.736	0.737	0.171	0.854	0.045	0.036	0.410

JG-1：標準試料-Ando,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T.& Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol.8 175-192 (1974)

表6　太田・黒田遺跡安山岩製遺物の産地分析結果

遺跡名	分析番号	地区	遺構	層位	登録番号	番	ホテリングのT２乗検定(確率)	判定
太田・黒田	98529	B区 y14・15	300 住居	床面	1633	1	二上山(99.6%)	二上山
	98530	B区 y14	300 住居	炭層	1604	2-1	二上山(99.1%)	二上山
	98531	B区 y14	300 住居	炭層	1604	2-2	二上山(87%),川棚第２群(0.1%)	二上山
	98532	B区 y14	300 住居	炭層	1604	2-3	二上山(16%),川棚第２群(0.2%)	二上山
	98533	B区 y14	300 住居	炭層	1604	2-4	二上山(3%)	二上山
	98534	B区 y14	300 住居	炭層	1604	2-5	金山東(46%),城山(0.4%)	金山東
	98535	A区 e13	129 溝	下層	543	3	二上山(99.8%),川棚第２群(0.4%)	二上山
	98536	A区 e15	129 溝	下層	545	4	二上山(94%),川棚第２群(0.1%)	二上山
	98537	A区 d15	129 溝	下層	546	5	二上山(71%)	二上山
	98538	A区 g13	129 溝	中層	573	6	二上山(98%)	二上山
	98539	A区 g11	129溝sec南	上層	566	7	二上山(69%),川棚第２群(0.1%)	二上山
	98540	B区 b13		4層下部	1474	8	二上山(86%)	二上山
	98541	B区 c13		4層下部	1478	9	二上山(88%),川棚第２群(0.1%)	二上山
	98542	B区 c13		4層下部	1480	10	二上山(81%)	二上山
	98543	B区 c14		4層下部	1483	11	二上山(94%)	二上山
	98544	B区 y12		4層	1316	12	二上山(98%),川棚第２群(0.1%)	二上山
	98545	A区 h15		3層	88	13-1	金山東(70%),城山(0.1%),松ノ木遺物群(0.1%)	金山東
	98546	A区 h15		3層	88	13-2	金山東(88%),松ノ木遺物群(0.7%)	金山東
	98547	B区 c13		3層	966	14	二上山(95%)	二上山
	98548	B区 a13		3層	981	15	二上山(97%),川棚第２群(0.3%)	二上山

注意：近年産地分析を行う所が多くなりましたが、判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告される場合があります。本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして、産地分析を行っていますが、判定基準の異なる研究方法（土器様式の基準も研究方法で異なるように）にも関わらず、似た産地名のために同じ結果のように思われるが、全く関係（相互チェックなし）ありません。本研究結果に連続させるには本研究法で再分析が必要です。本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代交流圏などを考察をする必要があります。

第７節　太田・黒田遺跡（県１次調査）出土木製品の樹種

中原　計（徳島大学埋蔵文化財調査室）

１．資料の概要

今回樹種同定を行った資料は、太田・黒田遺跡（県１次調査）出土の木製品51点である。資料の帰属時期は概ね弥生時代中期前葉～後葉である。資料は広鍬未製品や容器以外は杭材や自然木である。

２．同定方法

木口面（横断面）・柾目面（放射断面）・板目面（接線断面）の３断面の切片を徒手により切り取り、作成されたプレパラートを光学顕微鏡で観察し同定した。

３．同定結果

樹種同定結果は、後掲の表１に示す。同定された樹種は、針葉樹５種、広葉樹10種である。以下に各種の解剖学的特徴を記す。

１）針葉樹

カヤ　Torreya nucifera Sieb.et Zucc　イチイ科

垂直・水平のいずれの樹脂道をも持たない針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材の幅は狭く年輪界は比較的不明瞭である。仮道管壁に２本が対になったらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔はヒノキ型で、１分野に普通４個存在する。放射組織は単列で、１～30細胞高である。

イヌマキ　Podocarpus macrophyllus D.Don　マキ科

垂直・水平のいずれの樹脂道をも持たない針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、年輪界がやや不明瞭である。樹脂細胞が年輪の中にほぼ平等に散在する。放射組織はすべて放射柔細胞からなり、分野壁孔はヒノキ型で１分野に１～２個存在する。放射組織は単列で、１～20細胞高である。

ゴヨウマツ　Pinus parviflora Sieb.et Zucc　マツ科

垂直・水平樹脂道を持つ針葉樹材。早材から晩材への移行はやや緩やかで、晩材部の幅は比較的狭い。放射組織は放射柔細胞と放射仮道管からなり、放射仮道管の内壁は平滑である。分野壁孔は窓状である。放射組織は単列で１～10細胞高である。水平樹脂道を含んだ紡錘形放射組織がみられる。

ヒノキ　Chamaecyparis obtusa Sieb.et Zucc　ヒノキ科

垂直・水平のいずれの樹脂道をも持たない針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が晩材部に接線状に散在している。放射組織はすべて放射柔細胞からできており、分野壁孔はヒノキ型で１分野に２個存在する。放射組織は単列で、１～15細胞高である。

コウヤマキ　Sciadopitys verticillata Sieb.et Zucc　コウヤマキ科

垂直・水平のいずれの樹脂道をも持たない針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅はきわめて狭い。放射組織はすべて放射柔細胞からできており、分野壁孔は窓状である。放射組織は単列で１～15細胞高である。

２）広葉樹

ヤナギ属　Salix　ヤナギ科

散孔材。道管の直径は100μm前後で、単独ないし２、３個が放射状ないし斜線状に複合する。道管は単穿孔を有する。年輪界に１～２列のターミナル状柔組織がみられる。道管放射組織間壁孔は大きいふるい状となる。放射組織は単列異性で高さは0.5mm以下である。

コナラ亜属クヌギ節　Quercus sect. Aegilops　ブナ科

環孔材。孔圏道管は１～数列で、直径は非常に大きい。孔圏外の小道管は単独で壁が厚く、放射方向に配列する。道管は単穿孔で、内腔にはチロースが存在する。軸方向柔細胞は１～３列で接線状に並ぶ。道管放射柔細胞間壁孔は柵状を呈する。放射組織は同性で、単列放射組織と広放射組織がみられる。

表１　太田・黒田遺跡（県１次調査）　出土木材一覧

データベースNo.	出土地区	遺構　・　層位	登録番号	時　期	種　別	樹　種	備　考
0008	A区 g13	東西トレンチ６層	699（木１）	弥生中期前葉	鍬製作途中品	アカガシ亜属	図112 M1
0009	A区 g13	東西トレンチ６層	699（木35）	弥生中期前葉	杭か	イヌマキ？	炭化
0010	A区 g13	東西トレンチ６層	699（木36）	弥生中期前葉	杭	イヌマキ？	0011と同一か
0011	A区 g13	東西トレンチ６層	699（木37）	弥生中期前葉	杭	イヌマキ？	0010と同一か
0012	A区 g13	東西トレンチ６層	699（木38）	弥生中期前葉	自然木	コナラ節	
0013	A区 g13	東西トレンチ６層	699（木39）	弥生中期前葉	自然木	ヤマグワ？	
0014	A区 g13	東西トレンチ６層	699（木40）	弥生中期前葉	自然木	ヒノキ？	
0015	A区 g13	東西トレンチ６層	699（木41）	弥生中期前葉	板材か自然木	シイノキ属	
0016	A区 g13	東西トレンチ６層	699（木42）	弥生中期前葉	自然木	シイノキ属	
0017	A区 g13	東西トレンチ６層	699（木43）	弥生中期前葉	自然木	クヌギ節	
0018	A区 g13	東西トレンチ６層	699（木44）	弥生中期前葉	自然木	クヌギ節	
0019	A区 g13	東西トレンチ６層	699（木45）	弥生中期前葉	杭か板材	ヒノキ？	
0020	A区 g13	東西トレンチ６層	699（木46）	弥生中期前葉	自然木	タイミンタチバナ	
0021	A区 g13	東西トレンチ６層	699（木47）	弥生中期前葉	自然木	サカキ	
0022	A区 g13	東西トレンチ６層	656（木２）	弥生中期前葉	加工材	イヌマキ？	図112 M2
0023	A区 g13	東西トレンチ６層	656（木20）	弥生中期前葉	加工材	イヌマキ？	0022と同一か
0024	A区 g13	東西トレンチ６層	656（木25）	弥生中期前葉	樹皮	－	同定不可
0025	A区 g13	東西トレンチ６層	656（木21）	弥生中期前葉	自然木	ヒノキ	
0026	A区 g13	東西トレンチ６層	656（木22）	弥生中期前葉	自然木	クヌギ節	
0027	A区 g13	東西トレンチ６層	656（木23）	弥生中期前葉	自然木	クヌギ節	
0028	A区 g13	東西トレンチ６層	656（木24-1）	弥生中期前葉	自然木	広葉樹	
0029	A区 g13	東西トレンチ６層	656（木24-2）	弥生中期前葉	自然木	クヌギ節	
0030	A区 h13	東西トレンチ６層	696（木９）	弥生中期前葉	自然木	ヤマグワ？	
0031	A区 f13	東西トレンチ５層～６層	660（木10）	弥生中期前葉～中葉	板材か	カヤ	
0032	A区 g13	東西トレンチ５層	658（木５）	弥生中期前葉～中葉	加工材か	イヌマキ	炭化
0033	A区 g13	東西トレンチ５層	658（木６）	弥生中期前葉～中葉	杭か	イヌマキ？	
0034	A区 g13	東西トレンチ５層	658（木７）	弥生中期前葉～中葉	自然木か	イヌマキ？	
0035	A区 g13	東西トレンチ５層	658（木８）	弥生中期前葉～中葉	板材か	イヌマキ	
0036	A区 g13	東西トレンチ５層	657（木16）	弥生中期前葉～中葉	自然木か板材	イヌマキ？	炭化
0037	A区 g13	東西トレンチ５層	657（木17）	弥生中期前葉～中葉	自然木	イヌマキ	
0038	A区 g13	東西トレンチ５層	657（木18）	弥生中期前葉～中葉	自然木	イヌマキ	
0039	A区 g13	東西トレンチ５層	657（木19）	弥生中期前葉～中葉	自然木	広葉樹	
0040	A区 d15	南壁６層	793（木４）	弥生中期前葉	木製容器	ヤマグワ	図113 M4
0041	A区 d15	南壁６層	793（木29）	弥生中期前葉	自然木	広葉樹	
0042	A区 d15	南壁６層	793（木49）	弥生中期前葉	自然木	広葉樹	
0043	A区 e15	南側側溝５層	376（木14）	弥生中期前葉～中葉	杭か	イヌマキ？	
0044	A区 f12	遺構90断割下層（５層か）	250（木26）	弥生中期前葉～中葉か	杭か自然木	イヌマキ？	炭化
0045	A区 f12	遺構90断割下層（５層か）	250（木27）	弥生中期前葉～中葉か	杭か加工材	コウヤマキ	
0046	A区 f12	遺構90断割下層（５層か）	250（木28）	弥生中期前葉～中葉か	自然木か	イヌマキ？	
0047	A区 g12	遺構 140-N 最下層	828（木３）	弥生中期中葉	杭	広葉樹	図113 M3
0048	A区 g12	遺構 140-N 最下層	828（木48）	弥生中期中葉	杭	クスノキ	
0049	A区 g11	遺構 142	792（木13）	弥生中期中葉	杭か	イヌマキ？	炭化
0050	A区 g11	遺構 142	792（木15）	弥生中期中葉	自然木か	ヤナギ属？	炭化
0051	A区 g12	遺構 140-S 最下層	834（木11）	弥生中期中葉～後葉	自然木か	マツ属（ゴヨウマツ）	
0052	A区 g12	遺構 140-S 最下層	834（木12）	弥生中期中葉～後葉	自然木か	マツ属（ゴヨウマツ）	
0053	A区 h12	西側側溝（谷状地形か）	1729（木30）	弥生中期前葉～中葉か	自然木樹皮	針葉樹	
0054	A区 h12	西側側溝（谷状地形か）	1729（木31）	弥生中期前葉～中葉か	板材か	イヌマキ？	
0055	A区 h12	西側側溝（谷状地形か）	1729（木32）	弥生中期前葉～中葉か	自然木	シイノキ属	
0056	A区 h11	西側側溝（谷状地形か）	1728（木33）	弥生中期前葉～中葉か	自然木か	シイノキ属	
0057	A区 h11	西側側溝（谷状地形か）	1728（木34）	弥生中期前葉～中葉か	自然木か	タイミンタチバナ？	
0058	B区 y14	B区深掘　地山（砂層）		弥生以前	自然木	カヤ	

コナラ亜属コナラ節 Quercus sect. Prinus ブナ科
環孔材。孔圏道管は1～3列で、直径は非常に大きい。孔圏外の小道管は薄壁で角張っており、放射状ないし火炎状に分布する。道管は単穿孔で、内腔にはチロースが存在する。軸方向柔細胞は接線状ないし網状となり、内部に結晶がみられる。道管放射柔細胞間壁孔は大型で円形ないし楕円形を呈する。放射組織は同性で、単列放射組織と広放射組織がみられる。

アカガシ亜属 Quercus subgen. Cyclobalanopsis ブナ科
放射孔材。道管は年輪界に関係なく、単独で放射方向に並ぶ。道管は単穿孔を有する。軸方向柔細胞は1～3列で接線状に一年輪内に何本も並ぶ。軸方向柔細胞及び放射柔細胞に結晶が存在する。道管放射組織間壁孔は大型の柵状を呈する。放射組織は同性で、単列放射組織と広放射組織がみられる。

シイノキ属 Castanopsis ブナ科
環孔性の放射孔材。年輪の始めに大型の道管が接線方向に不連続に並ぶ。道管は放射方向に漸次径を減じて、晩材部では小道管が火炎状に配列する。道管は単穿孔を有する。軸方向柔細胞は1～3列となり、一年輪内に何層も接線上に並ぶ。放射組織は単列同性である。

ヤマグワ Morus australis Poiret クワ科
環孔材。孔圏道管は1～5列で、直径は大きい。孔圏害の小道間は2～6個が斜線状、接線状、集塊状に不規則に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、内腔にはチロースがみられる。軸細胞柔細胞は年輪始めで集団をなし、周囲柔細胞が発達する。道管放射組織間壁孔はやや大きくレンズ状となる。放射組織は異性で1～6列、高さは1mm以下である。

クスノキ Cinnamomum camphora Presl クスノキ科
散孔材。道管の直径は大きく、単独ないし2～4個が主に放射方向ないし不規則に複合して平等に分布する。道管は普通単穿孔を有し、内腔にはチロースがみられる。道管内壁にはらせん肥厚がみられる。油細胞がさや状に道管を囲む。道管放射組織間壁孔は大型のレンズ状、長楕円状、ふるい状となる。軸方向柔細胞ならびに放射柔細胞の一部は油細胞となって大きく膨らむ。放射組織は異性Ⅲ型、幅は1、2列で高さは0.5mm以下である。

サカキ Cleyera japonica Thunb. ツバキ科
散孔材。極めて小さい道管がほぼ単独、ときに2～4個複合して平等に分布する。道管は階段穿孔を有し、内壁にらせん肥厚がみられる。軸方向柔細胞は不顕著ないし短接線状。道管放射組織間壁孔はふるい状、対列状となる。放射組織は異性で単列、高さは1mm以下である。放射柔細胞は厚壁で、大型の直立細胞を有する。

タイミンタチバナ Rapanaea nerifolia Mez ヤブコウジ科
散孔材。年輪界は不明瞭で、道管が単独ないし2～3個複合して均等に分布する。道管は単穿孔を有し、道管側壁および道管・放射組織間にはきわめて多数の小さな壁孔がみられる。軸方向柔細胞は散在状および周囲状に配列する。放射組織は異性で10列以上となり、高さは50mm以上のものもある。

4．まとめ

今回樹種同定をおこなった資料は広鍬未製品、木製容器のほかは板材、杭材、自然木（非加工木）である。広鍬未製品にはアカガシ亜属、木製容器にはヤマグワが利用されている。木製容器は高杯の杯部の可能性が高いことから、これらに利用されている樹種は弥生時代の近畿地方において利用されているものと一致している[1]。他の雑多な木材にみられる樹種は、針葉樹ではイヌマキが多く、広葉樹ではクヌギ節やシイノキ属が多い。広鍬、木製容器の樹種とその他の木材のものを比較すると、ヤマグワの可能性があるものはみとめられるが、アカガシ亜属はみられない。

太田・黒田遺跡は沖積平野部に立地しており、大径材を必要とする広鍬などの木製品とそうでない木製品とで利用樹種傾向が異なっている。また、出土した広鍬未製品も整形段階（根木1976）のものである。このような状況は、同時期の河内平野の状況と類似している（中原・秋山2004）。今後、沖積平野部だけでなく丘陵地に近い遺跡においても木製品資料が増加すれば、この地域における木材利用や木製品生産の状況について復元できると考えられる。

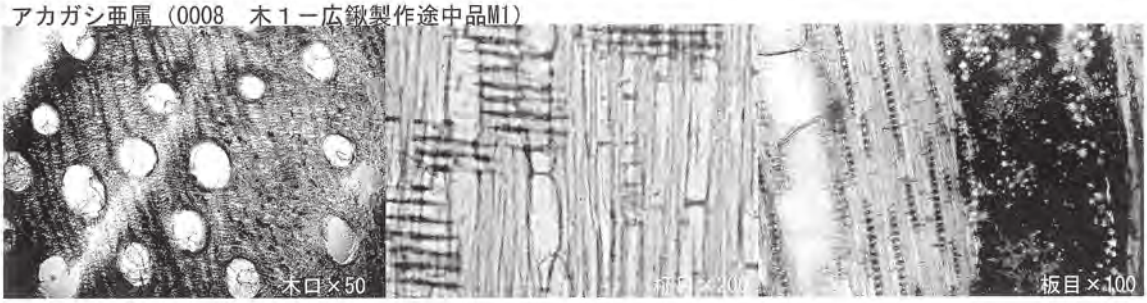
註

1）大阪府池上曽根遺跡においては、高杯はケヤキ、ヤマグワのみが利用され、鉢などにはクスノキも利用されることから、容器の器種ごとに利用樹種が選択されていたことが指摘されている（松田 1980）。近畿地方では、弥生時代の高杯などの精製品はほぼケヤキ、ヤマグワに限定されている。

【参考文献】

伊東隆夫 1995「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料』第 31 号京都大学木材研究所
伊東隆夫 1996「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料』第 32 号京都大学木材研究所
伊東隆夫 1997「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料』第 33 号京都大学木材研究所
伊東隆夫 1998「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料』第 34 号京都大学木材研究所
伊東隆夫 1999「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料』第 35 号京都大学木材研究所
島地謙・伊東隆夫　1982『図説木材組織』地球社
島地謙・伊東隆夫（編）1988『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣出版
中原計・秋山浩三 2004「樹種から見た集落環境と弥生木器生産 - 瓜生堂 99・01 調査区における木製品・自然木の同定検討から - 」『瓜生堂遺跡 1』大阪府文化財センター
奈良国立文化財研究所 1993『木器集成図録　近畿原始篇』
根木修 1976「木製農耕具の意義」『考古学研究』第 22 巻第 4 号 考古学研究会
松田隆嗣 1980「木製遺物の樹種について」『池上・四ツ池遺跡』第 6 分冊自然遺物編　財団法人大阪文化財センター

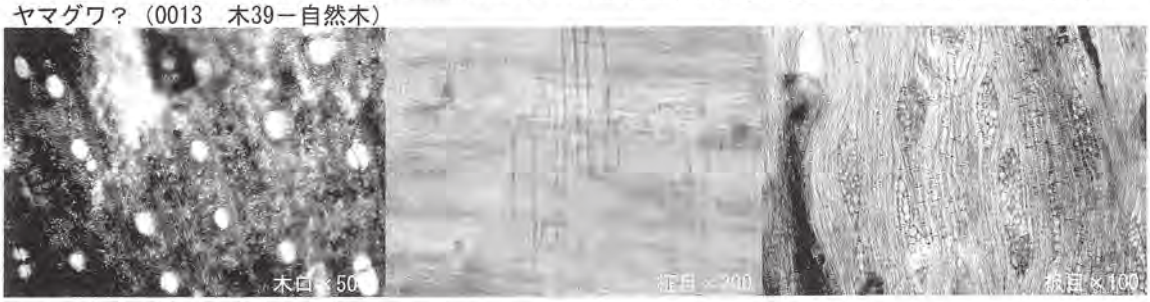
アカガシ亜属（0008　木１－広鍬製作途中品M1）



コナラ節（0012　木38－自然木）



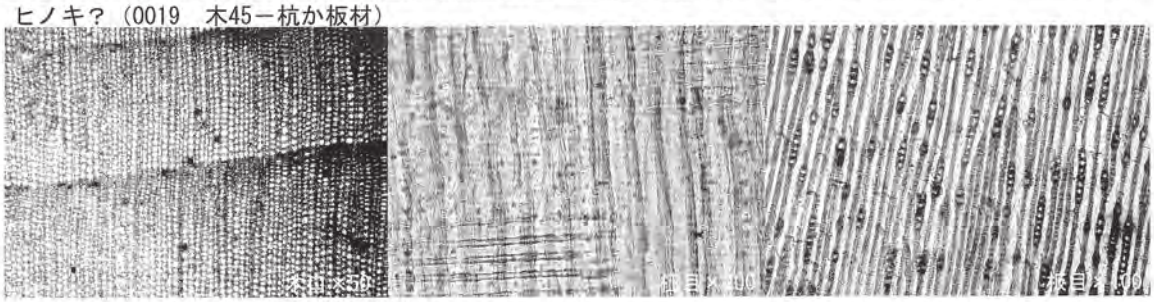
ヤマグワ？（0013　木39－自然木）



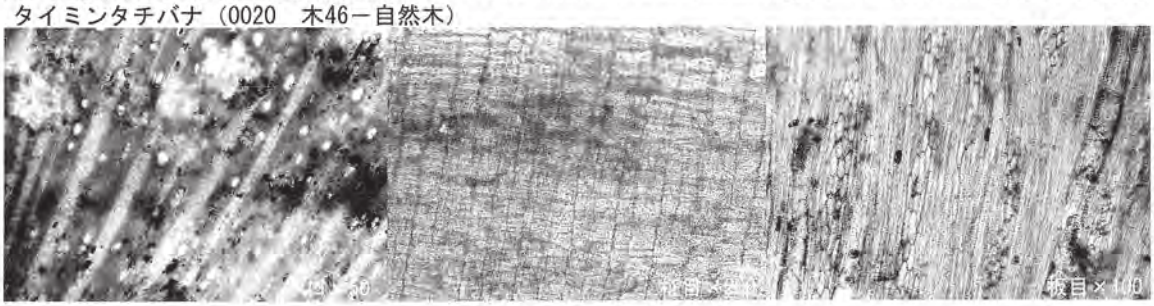
シイノキ属（0016　木42－自然木）



ヒノキ？（0019　木45－杭か板材）

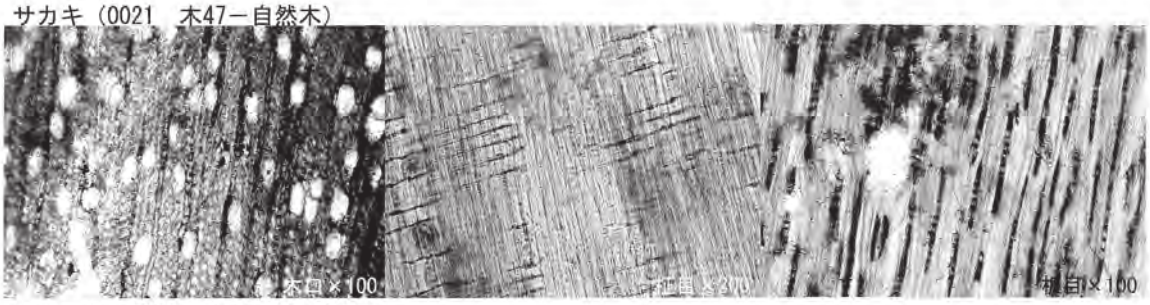


タイミンタチバナ（0020　木46－自然木）

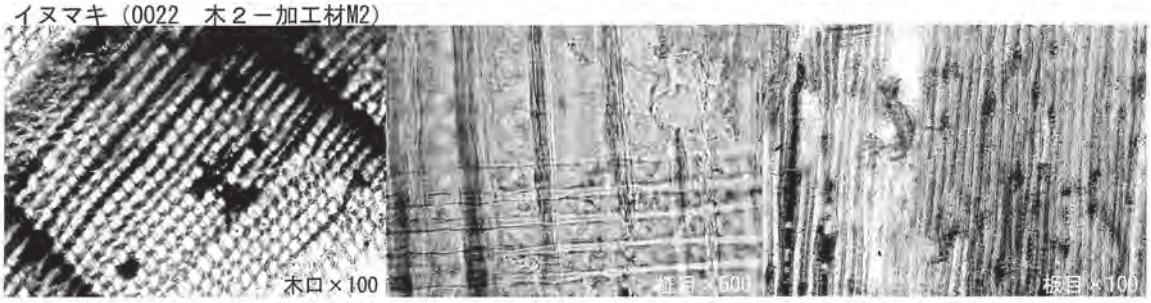


樹種同定　顕微鏡写真①

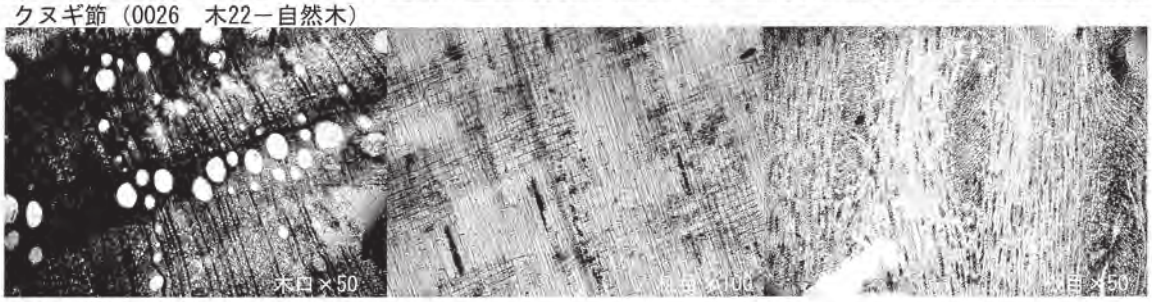
サカキ（0021　木47－自然木）



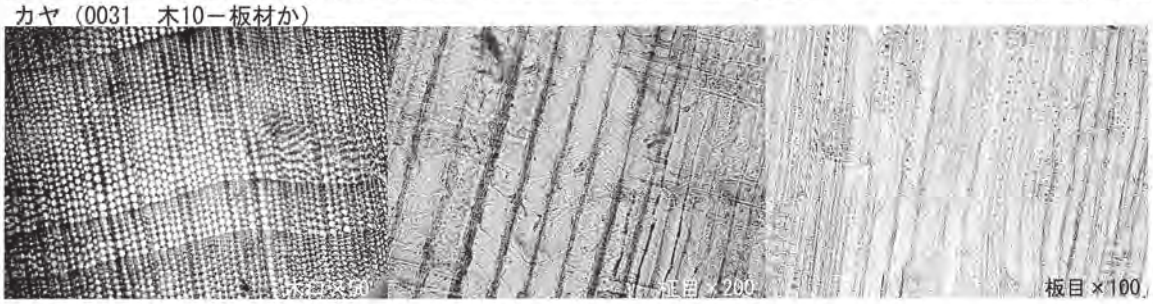
イヌマキ（0022　木２－加工材M2）



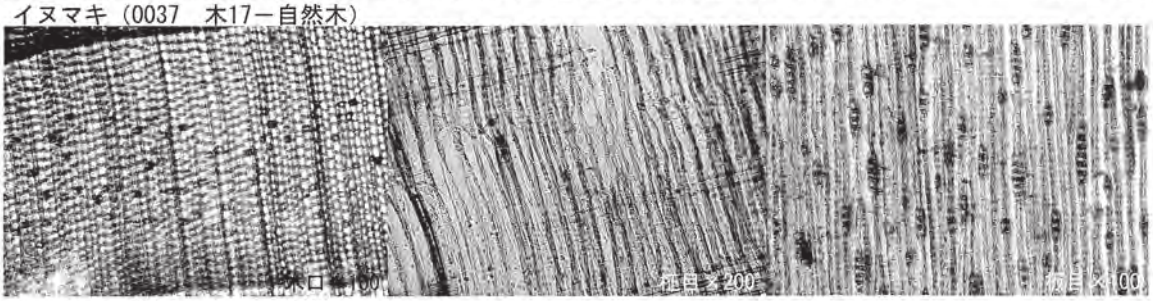
クヌギ節（0026　木22－自然木）



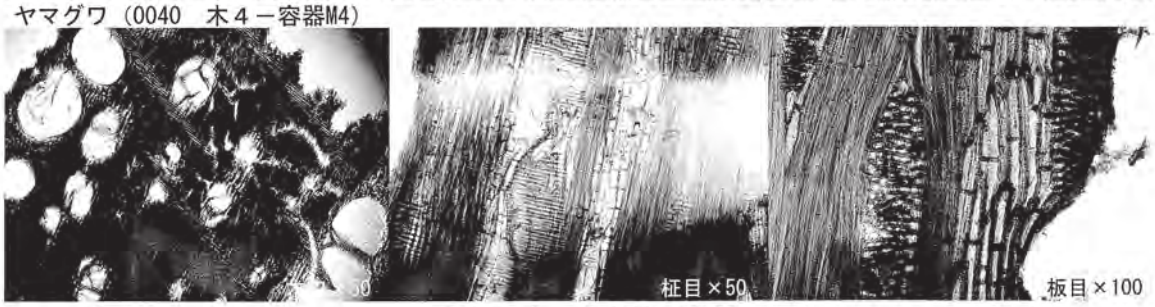
カヤ（0031　木10－板材か）



イヌマキ（0037　木17－自然木）

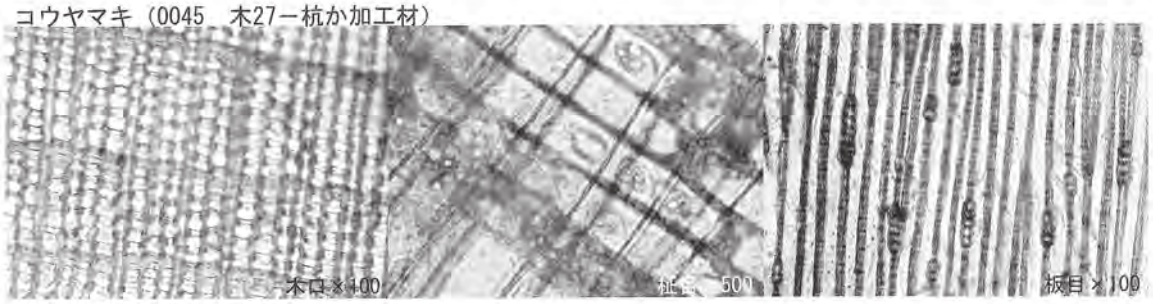


ヤマグワ（0040　木４－容器M4）

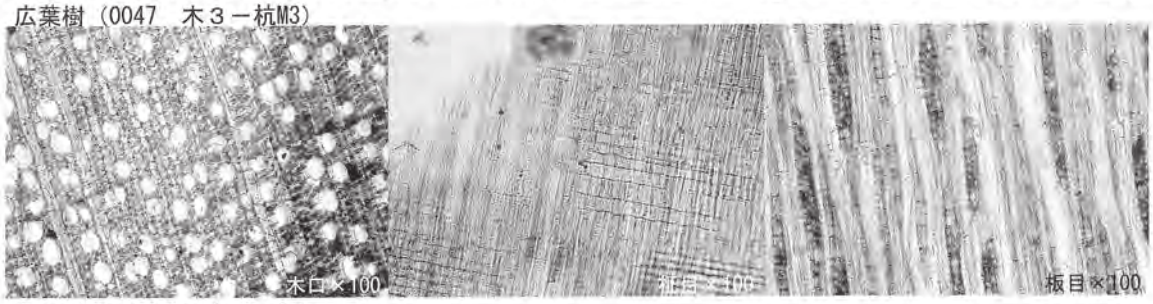


樹種同定　顕微鏡写真②

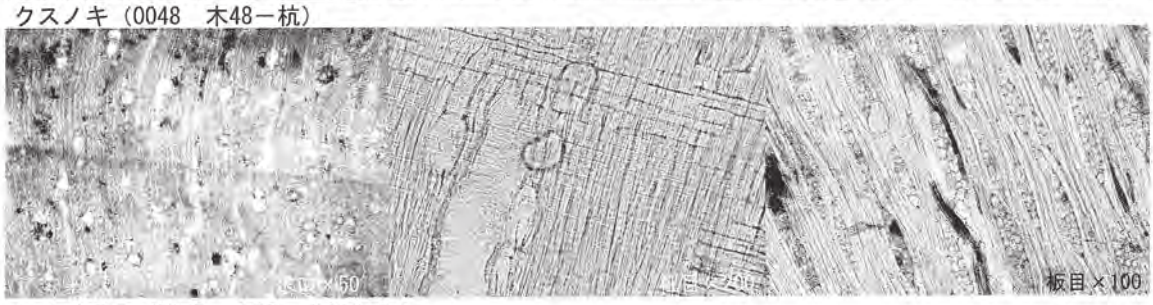
コウヤマキ（0045　木27－杭か加工材）



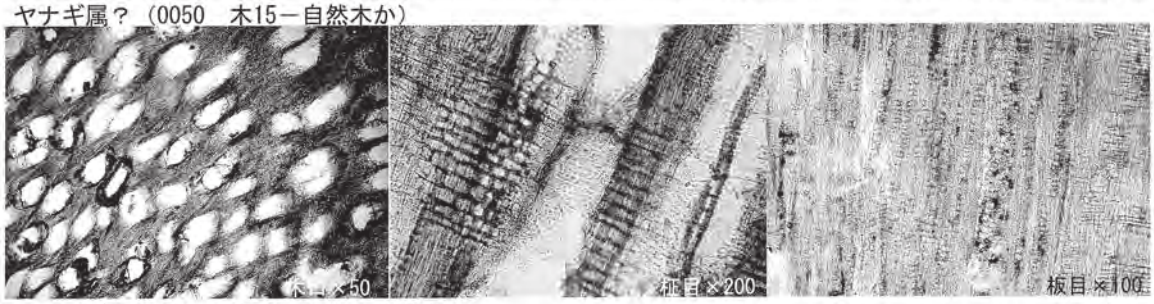
広葉樹（0047　木３－杭M3）



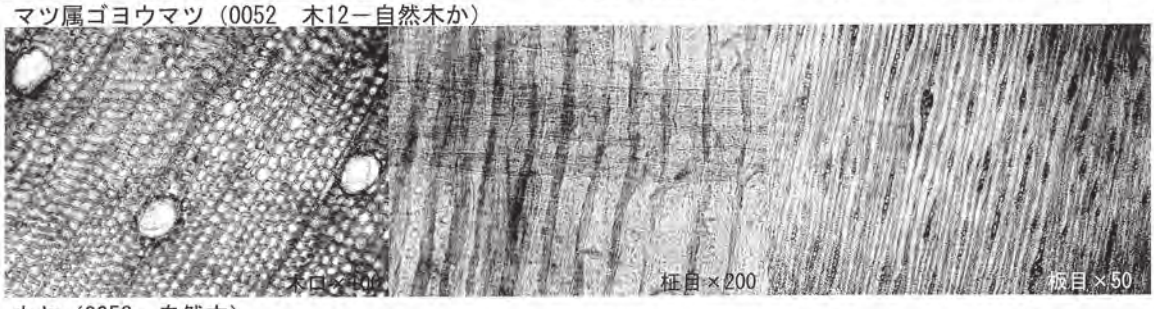
クスノキ（0048　木48－杭）



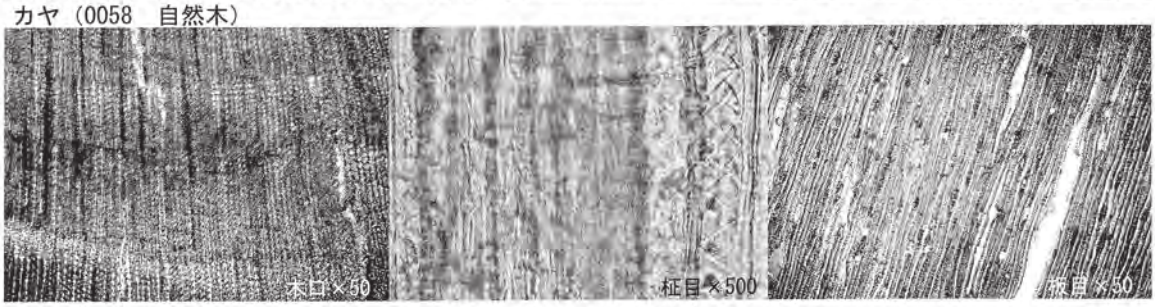
ヤナギ属？（0050　木15－自然木か）



マツ属ゴヨウマツ（0052　木12－自然木か）



カヤ（0058　自然木）



樹種同定　顕微鏡写真③

観察表１　遺構一覧表

遺構番号	遺構種類	地区		層位・遺構面	埋土・土色	規模・法量（cm）			備考
【２層上面遺構】	土色：A＝2.5Y6/1黄灰色シルト、B＝2.5YR4/6赤褐色シルト（鉄分・マンガン多く含む）								
1	小土坑	A区	h14	2層上面	土色A	16	16	3	
2	鋤溝	A区	h14	2層上面	土色A	60	20	3	
3	鋤溝	A区	h13	2層上面	土色A	50	25	3	
4	鋤溝	A区	h13	2層上面	土色A	90	20	2	
5	鋤溝	A区	h14	2層上面	土色A	85	40	2	
6	畦畔？	A区	i10・11、h10～15	2層上面	土色B	(1800)	(45)	-	西側壁際で幅不明
7	鋤溝	A区	g12	2層上面	土色A	40	15	2	
8	鋤溝	A区	g13	2層上面	土色A	60	25	2	
9	鋤溝	A区	h10・11	2層上面	土色A	40	25	4	
10	鋤溝	A区	g11	2層上面	土色A	70	15	2	
11	鋤溝	A区	f11・12	2層上面	土色A	150	25	2	
12	鋤溝	A区	f11	2層上面	土色A	80	25	2	
13	鋤溝	A区	f11	2層上面	土色A	35	15	2	
14	鋤溝	A区	f12	2層上面	土色A	55	30	2	
15	鋤溝	A区	f12・13	2層上面	土色A	65	25	3	
16	鋤溝	A区	f13	2層上面	土色A	70	15	2	
17	鋤溝	A区	f13	2層上面	土色A	160	25	2	
18	鋤溝	A区	f13・14	2層上面	土色A	150	25	2	
19	鋤溝	A区	f14	2層上面	土色A	25	25	4	
20	鋤溝	A区	f14	2層上面	土色A	65	15	2	
21	鋤溝	A区	f14	2層上面	土色A	65	20	2	
22	鋤溝	A区	f14	2層上面	土色A	20	20	12	
23	鋤溝	A区	e12	2層上面	土色A	95	20	3	
24	小土坑	A区	d14	2層上面	土色A	15	15	6	
25	小土坑	A区	d14	2層上面	土色A	15	15	2	
【２層下面遺構／３層上面遺構】	土色：C＝2.5Y4/2暗灰黄色シルト（若干鉄分含む）＜＝２層＞、C'＝A＋鉄分多い、D＝7.5YR4/6褐色シルト＋10YR6/2灰黄褐色シルト含む（鉄分多い）、E＝10YR5/6褐色シルト、F＝7.5YR5/6褐色シルト、G＝2.5Y7/1灰白色シルト、H＝10YR6/1褐灰色シルト（鉄分少量含む）、H'＝Hにマンガン含む、I＝10YR5/1褐灰色シルト、J＝10YR7/8黄橙色シルト、K＝10YR3/1黒褐色シルト（上層マンガン多い）、L＝10YR7/2にぶい黄橙色シルト＋10YR7/6明黄褐色シルト含む、M＝＜＝３層＞								
26	鋤溝	A区	h10～12、g12	2層下面	土色C	(860)	50	5	
27	鋤溝	A区	g12・13	2層下面	土色D	(460)	20	3	遺構45・28・29・72に切られる
28	鋤溝	A区	g13	2層下面	土色C'	330	20	3	遺構27・71を切る
29	鋤溝	A区	g13	2層下面	土色C	160	25	4	遺構27を切る
30	鋤溝	A区	g14	2層下面	土色C	170	20	1	
31	鋤溝	A区	e13	2層下面	土色C	35	10	0.5	
32	鋤溝	A区	d12	2層下面	土色C	80	20	1	遺構43より上層
33	鋤溝	A区	e10・11	2層下面	土色C	110	20	1	
34	畦畔痕跡	A区	f10～12	2層下面	土色G	(1000)	40	-	遺構80・81と同一か
36	鋤溝	A区	g13、h13	2層下面	土色C'	280	30	5	直角に折れ曲がる、遺構62・63を切る
37	鋤溝	A区	g14	2層下面	土色C	40	15	1	
38	鋤溝	A区	g14・15	2層下面	土色C	55	15	1	
39	鋤溝	A区	g14・15	2層下面	土色C	140	2	2	
40	鋤溝	A区	h14・15	2層下面	土色C	(550)	40	3	３本取りつく
41	鋤溝	A区	g14	2層下面	土色C	210	30	3	
42	鋤溝	A区	f12	2層下面	土色C	70	25	1	
43	畦畔痕跡？	A区	d10～15、e10・11	2層下面？	土色F	(1700)	(200)	-	遺構32より下層
44	鋤溝	A区	g12	2層下面	土色C	65	15	1	
45	鋤溝	A区	g12	2層下面	土色C	90	15	2	遺構27を切る
46	鋤溝	A区	g14	2層下面	土色D	170	15	1	
47	鋤溝	A区	f15	2層下面	土色C	40	15	1	
48	鋤溝	A区	h13	2層下面	土色C	110	15	1	
49	鋤溝	A区	h13	2層下面	土色C	35	10	0.5	
50	鋤溝	A区	h14・15	2層下面	土色C	220	15	1	
51	鋤溝	A区	h14	2層下面	土色C	35	10	0.5	
52	鋤溝	A区	h14・15、g15	2層下面	土色C	(440)	25	3	
53	鋤溝	A区	g15	2層下面	土色C	50	15	1	
54	鋤溝	A区	g15	2層下面	土色C	25	10	0.5	
55	鋤溝	A区	g14	2層下面	土色C	70	20	1	
56	鋤溝	A区	g14	2層下面	土色C	100	20	2	
57	鋤溝	A区	g14	2層下面	土色C	110	20	1	
58	鋤溝	A区	g14	2層下面	土色C	60	10	1	
59	鋤溝	A区	g14	2層下面	土色C	60	15	1	
60	鋤溝	A区	g13・14、f13・14	2層下面	土色C	210	35	4	
61	鋤溝	A区	g13・14	2層下面	土色C	80	15	2	遺構88に切られる
62	鋤溝	A区	g13	2層下面	土色C	(35)	10	1	遺構36に切られる

遺構番号	遺構種類	地区		層位・遺構面	埋土・土色	規模・法量（cm）			備考
63	鋤溝	A区	g13	2層下面	土色D	(50)	15	1	遺構64・36に切られる
64	鋤溝	A区	g13	2層下面	土色C	100	20	2	遺構63を切る
65	鋤溝	A区	h13	2層下面	土色C	20	5	1	
66	鋤溝	A区	h13	2層下面	土色C	70	15	2	
67	鋤溝	A区	h13	2層下面	土色C'	95	20	2	
68	鋤溝	A区	h13、g13	2層下面	土色C'	130	25	3	遺構69を切る
69	鋤溝	A区	g13	2層下面	土色C	(270)	25	2	遺構68・28に切られる
70	鋤溝	A区	g13	2層下面	土色D	190	10	2	
71	鋤溝	A区	g13	2層下面	土色D	70	25	2	遺構28に切られる
72	鋤溝	A区	g13	2層下面	土色C	50	10	1	遺構27を切る
73	鋤溝	A区	g11・12	2層下面	土色C	235	25	3	
74	鋤溝	A区	g11・12	2層下面	土色C	210	20	1	
75	鋤溝	A区	g11	2層下面	土色C	50	15	2	
76	鋤溝	A区	g11、f11	2層下面	土色C	95	15	1	
77	鋤溝	A区	g10・11	2層下面	土色C	95	10	3	
78	鋤溝	A区	g10	2層下面	土色C	40	10	1	
79	鋤溝	A区	g10	2層下面	土色C	(60)	10	1	
80	鋤溝	A区	f10	2層下面	土色C	(60)	15	1	遺構34と同一か
81	鋤溝	A区	f10	2層下面	土色C	(40)	20	1	遺構34と同一か
82	鋤溝	A区	d11	2層下面	土色C	65	10	0.5	
83	鋤溝	A区	e14	2層下面	土色C	25	10	1	
84	鋤溝	A区	e14	2層下面	土色D	60	20	2	
85	鋤溝	A区	f14	2層下面	土色C	30	10	1	
86	鋤溝	A区	f14・15	2層下面	土色C	25	10	1	
87	鋤溝	A区	g15	2層下面	土色C	40	15	2	
88	鋤溝	A区	g14	2層下面	土色C'	80	15	2	遺構61を切る
89	鋤溝	A区	g14・15	2層下面	土色C	530	40	4	
163	鋤溝	B区	a12	2層下面	土色H＋J	100	30	6	
164	鋤溝	B区	a12・13	2層下面	土色H'	240	50	3	
165	鋤溝	B区	a12・13	2層下面	土色J・H	80	50	6	
166	鋤溝	B区	a13・14	2層下面	土色H'	90	40	2	
167	鋤溝	B区	a14	2層下面	土色H'	150	30	2	
168	小土坑	B区	a14	2層下面	土色J	30	20	8	
169	小土坑	B区	a15	2層下面	土色H'	30	20	4	
170	鋤溝	B区	b14・15	2層下面	土色H	110	35	2	
172	鋤溝	B区	c12・13	2層下面	土色H	(450)	30	3	
173	鋤溝	B区	c12・13	2層下面	土色H	(460)	50	2	遺構174に取り付く
174	鋤溝	B区	c12～14	2層下面	土色H	(840)	60	2	遺構173・175に取り付く
175	鋤溝	B区	c12・13	2層下面	土色H	(450)	40	2	遺構174に取り付く
176	鋤溝	B区	d12・13	2層下面	土色H	(220)	60	3	遺構177に取り付く
177	鋤溝	B区	d12・13	2層下面	土色J	(370)	50	3	遺構176に取り付く
178	鋤溝	B区	d14	2層下面	土色H	190	40	3	
179	土坑	B区	d14	2層下面	土色H'	(90)	(40)	8	
180	鋤溝	B区	d14	2層下面	土色H'	110	30	2	
181	鋤溝	B区	d14	2層下面	土色H'	60	20	2	
182	流路	B区	a10～12、b11・12、c11～13、d12～14	2層下面	土色H＋灰白色礫混じり	(1750)	380	6	流路の痕跡か
183	溝	B区	y11～15、a10	2層下面	土色H	(1970)	50	5	
184	鋤溝	B区	d13	2層下面	土色I	90	30	2	
35	土坑	A区	e13・14、d13	3層上面	土色E	250	60	4	
162	土坑	B区	y11、a11	3層上面	土色K	70	60	14	
171	土坑	B区	b15	3層上面	土色L・M	80	60	20	
【3－2層下面遺構】		土色：N＝2.5Y4/1黄灰色シルト（鉄分含む）、N'＝10YR6/1褐灰色シルト、O＝10YR4/6褐色中砂（鉄分多く含む）、P＝10YR6/4にぶい黄橙色中砂～2.5Y7/1灰白色粗砂（鉄分多く含む）＜＝3-3層＞、P'＝P＋7.5YR4/4褐色シルト＜鉄分多く含む）＜＝3-3'層＞、Q＝10YR6/6褐灰色中砂～2.5Y7/1灰白色シルト（鉄分含む）＜＝3-2層＞、R＝2.5Y7/1灰白色シルト＜＝3-1層＞、S1＝2.5Y6/3にぶい黄色シルト（鉄・マンガン含む）、S1'＝S1＋細砂混じり、S2＝2.5Y6/2灰黄色シルト（S1とほぼ同じ）、T＝7.5YR4/3褐色細砂（～シルト）（鉄分含む）　＊（古）T→S→P→Q→R（新）、（古）O→P（新）、（古）N→P（新）								
90	流路	A・B区	a・b10、b～e11、c～h12、f～h13	3－2層下面	上層土色Q、下層土色P	(3400)	480	72	
91	流路	A区	h12、g11・12、f11	3－2層下面	土色R	(1020)	110	15	
92	流路	A区	e11、d11	3－2層下面	土色R	320	90	12	流路または溝痕跡
93	流路	A区	e10・11、d10	3－2層下面	土色R	520	90	20	流路または溝痕跡
94	流路	A区	f13	3－2層下面	土色R	120	80	10？	流路または溝痕跡
95	溝	A・B区	h・g15、g・f14、f～d13、d・c12、b11、y10	3－2層下面	上層土色Q、下層土色P	(3700)	250	52	
96	溝	A区	f13、e13、d13	3－2層下面	土色R？	830	60	－	溝痕跡（遺構95上層部分？）
97	溝	A区	f14、e13・14、d13	3－2層下面	上層土色Q、下層土色P	830	160	14	流路または溝痕跡
98	流路	A区	e10	3－2層下面	土色R？	130	80	－	流路または溝痕跡
100	溝	A・B区	f・e15、e～c14、c～a13	3－2層下面	土色Q	(2100)	90	34	
101	流路？	A区	h10、h～d11、d・g・f12	3－2層下面	土色N	(1600)	(250)	40	流路または落ち込み

遺構番号	遺構種類	地区		層位・遺構面	埋土・土色	規模・法量（cm）			備考
102	溝	A・B区	f14・15、e14、d14、c13	3－2層下面	上層土色Q、下層土色P	1430	70	15	
103	土坑	A区	f15	3－2層下面	？	45	40	14	連続する土坑群か
104	流路？	A区	h・g14、h～d13	3－2層下面	上層土色Q、下層土色P	(1730)	180	14	流路または溝痕跡
105	溝	A区	h14、g14、f13・14、e13・14	3－2層下面	土色P'	(1100)	40	24	
106	溝	A区	h14、g14、f14	3－2層下面	土色P	(760)	50	15	
107	溝	A区	h14、g14	3－2層下面	土色P？	270	40	6	
108	土坑	A区	d14	3－2層下面	土色S2	80	25	6	連続する土坑群
109	土坑	A区	d15	3－2層下面	土色S2	50	35	10	連続する土坑群か
110	土坑	A区	d15	3－2層下面	土色S2	70	40	11	連続する土坑群
111	土坑	A区	e15	3－2層下面	土色S2	15	15	1	連続する土坑群か
112	土坑	A区	d14	3－2層下面	土色S2	60	35	5	連続する土坑群
113	土坑	A区	d14	3－2層下面	土色S2	45	35	5	連続する土坑群
114	土坑	A区	d14	3－2層下面	土色S2	60	40	5	連続する土坑群
115	土坑	A区	e14	3－2層下面	土色S2	75	40	12	連続する土坑群
116	土坑	A区	e14	3－2層下面	土色S2	(100)	30	8	連続する土坑群、遺構100と接する
117	小土坑	A区	d13	3－2層下面	？	35	35	14	
118	小土坑	A区	d13	3－2層下面	？	30	30	9	
119	小土坑	A区	d13	3－2層下面	？	35	35	9	
120	土坑	A区	e14	3－2層下面	土色S2	(60)	30	6	連続する土坑群、遺構100と接する
121	土坑	A区	e14・15	3－2層下面	土色S2	60	35	6	連続する土坑群、遺構100と接する
122	土坑	A区	e13	3－2層下面	？	60	50	16	
123	小土坑	A区	d13	3－2層下面	？	20	20	10	
124	小土坑	A区	d13	3－2層下面	？	20	20	9	
127	方形土坑	A区	h11・12	3－2層下面	土色N'	350	(400)	28	遺構90・101より下層
137	土坑	A区	g11	3－2層下面	土色N'	65	40	20	遺構101より下層
138	小土坑	A区	f13	3－2層下面	土色N'	45	30	—	
139	小土坑	A区	f13	3－2層下面	土色N'	40	30	—	
102-①	土坑	A区	d14	3－2層下面	土色O	(40)	20	6	連続する土坑群、遺構102と接する
102-②	土坑	A区	d14	3－2層下面	土色O	(60)	35	11	連続する土坑群、遺構102と接する
102-③	土坑	A区	d14	3－2層下面	土色O	(55)	40	9	連続する土坑群、遺構102と接する
102-④	土坑	A区	e14	3－2層下面	土色O	(80)	40	10	連続する土坑群、遺構102と接する
185	溝	B区	b12・13、a12、y12	3－2層下面	土色S1'＋S1	1110	280	38	102の延長？、遺構262と同一
186	溝	B区	y13	3－2層下面	上層土色S1、下層土色T	(300)	80	28	
187	土坑	B区	y14	3－2層下面	上層土色S1、下層土色T	35	30	10	連続する土坑群、224を切る
188	土坑	B区	y14	3－2層下面	上層土色S1、下層土色T	70	15	6	連続する土坑群
189	土坑	B区	y14	3－2層下面	上層土色S1、下層土色T	25	25	5	連続する土坑群
190	土坑	B区	y14	3－2層下面	土色S1	35	30	4	連続する土坑群
191	土坑	B区	y14	3－2層下面	土色S1	35	35	4	連続する土坑群
192	土坑	B区	y14	3－2層下面	土色S1	20	15	4	連続する土坑群
193	土坑	B区	a14	3－2層下面	上層土色S1、下層土色T	30	30	7	連続する土坑群
194	土坑	B区	a14	3－2層下面	土色S1	15	15	7	連続する土坑群
195	土坑	B区	a14	3－2層下面	上層土色S1、下層土色T	30	30	7	連続する土坑群
196	土坑	B区	a14	3－2層下面	土色S1	150	150	15	連続する土坑群
197	土坑	B区	a13・14	3－2層下面	土色S1	35	25	6	連続する土坑群
198	土坑	B区	a14	3－2層下面	上層土色S1、下層土色T	40	35	5	連続する土坑群
199	土坑	B区	a14	3－2層下面	上層土色S1、下層土色T	60	30	8	連続する土坑群
200	大形土坑	B区	y10～12、a10・11	3－2層下面	最終埋没土色S1	(660)	340	80	
201	土坑	B区	b15	3－2層下面	171と同一	(55)	50	-	
202	土坑	B区	a14	3－2層下面	土色T	20	20	8	連続する土坑群、261を切る
203	土坑	B区	y14	3－2層下面	土色S1	15	15	15	連続する土坑群
204	土坑	B区	y12	3－2層下面	土色S1'	65	40	5	連続する土坑群
205	土坑	B区	y12・13	3－2層下面	土色S1'	85	30	4	連続する土坑群
206	土坑	B区	y12・13	3－2層下面	土色S1'	90	35	4	連続する土坑群
207	土坑	B区	a12・13	3－2層下面	土色S1'	140	35	4	連続する土坑群
208	土坑	B区	a12	3－2層下面	土色S1'	40	20	4	連続する土坑群
209	土坑	B区	a15	3－2層下面	土色S1	20	20	14	連続する土坑群？
210	土坑	B区	a12・13	3－2層下面	土色S1＋土色T	75	55	51	遺構100に取り付く
211	土坑	B区	b14	3－2層下面	上層土色S1、下層土色T	25	20	4	連続する土坑群？
212	土坑	B区	b14	3－2層下面	上層土色S1、下層土色T	50	30	6	連続する土坑群？
213	土坑	B区	b14	3－2層下面	土色S1'	70	35	4	連続する土坑群
214	土坑	B区	b14	3－2層下面	土色S1'	60	25	5	連続する土坑群
215	土坑	B区	b14	3－2層下面	土色T	20	15	6	連続する土坑群
216	土坑	B区	b14	3－2層下面	土色S1	25	20	7	連続する土坑群
217	土坑	B区	b14	3－2層下面	土色S1'	50	30	7	連続する土坑群
218	土坑	B区	b14	3－2層下面	土色T	20	20	4	連続する土坑群
219	土坑	B区	b14	3－2層下面	土色S1'	50	30	4	連続する土坑群
220	土坑	B区	b14	3－2層下面	土色T	30	25	6	連続する土坑群
221	土坑	B区	b14	3－2層下面	土色S1'	40	25	4	連続する土坑群

遺構番号	遺構種類	地区		層位・遺構面	埋土・土色	規模・法量（cm）			備考
222	土坑	B区	b14	3－2層下面	土色S1	20	10	4	連続する土坑群
223	土坑	B区	b14	3－2層下面	土色T	20	20	3	連続する土坑群
224	土坑	B区	b14	3－2層下面	？	20	20	5	連続する土坑群、187に切られる
225	土坑	B区	b14	3－2層下面	？	25	20	7	連続する土坑群
226	土坑	B区	b・c15	3－2層下面	土色S1	40	35	10	連続する土坑群
227	土坑	B区	c15	3－2層下面	上層土色S1、下層土色T	40	35	6	連続する土坑群
228	土坑	B区	c15	3－2層下面	土色S1	40	30	9	連続する土坑群
229	土坑	B区	c15	3－2層下面	土色S1	(40)	40	6	連続する土坑群、230を切る
230	土坑	B区	c15	3－2層下面	土色S1（鉄分含む）	(20)	20	6	連続する土坑群、231を切る
231	土坑	B区	c15	3－2層下面	土色T	(25)	20	4	連続する土坑群、230に切られる
232	土坑	B区	b14、c14	3－2層下面	土色S1／土色T	(100)	35	3	連続する土坑群、100と接する
232'	土坑	B区	c15	3－2層下面	土色S1	15	15	4	連続する土坑群
233	土坑	B区	b14、c14	3－2層下面	土色S1／土色T	(185)	40	5	連続する土坑群、100と接する
234	土坑	B区	c14	3－2層下面	土色S1／土色T	(145)	35	10	連続する土坑群、100と接する
235	土坑	B区	c14	3－2層下面	土色S1／土色T	(140)	40	8	連続する土坑群、100と接する
236	土坑	B区	c14	3－2層下面	土色S1／土色T	(120)	40	10	連続する土坑群、100と接する
237	土坑	B区	c14	3－2層下面	土色S1	20	20	4	連続する土坑群
238	土坑	B区	c14	3－2層下面	土色S1	20	20	5	連続する土坑群
239	土坑	B区	c14	3－2層下面	土色S1	10	10	4	連続する土坑群
240	土坑	B区	c14	3－2層下面	土色S1	15	10	5	連続する土坑群
241	土坑	B区	c14	3－2層下面	土色S1	30	20	7	連続する土坑群
242	土坑	B区	c14	3－2層下面	土色S1／土色T	(90)	25	10	連続する土坑群、100と接する
243	土坑	B区	c14	3－2層下面	土色S1	25	20	3	連続する土坑群
244	土坑	B区	c14、d14	3－2層下面	土色S1／土色T	(100)	25	7	連続する土坑群、100と接する
245	土坑	B区	d14	3－2層下面	土色S1	35	20	5	連続する土坑群
246	土坑	B区	d14	3－2層下面	土色S1	20	20	3	連続する土坑群
247	土坑	B区	d14	3－2層下面	土色S1／土色T	(100)	35	10	連続する土坑群、100と接する
248	土坑	B区	d14	3－2層下面	土色S1	40	(30)	7	連続する土坑群、249に切られる
249	土坑	B区	d14	3－2層下面	土色S1（マンガン含む）	35	30	14	連続する土坑群、248を切る
250	土坑	B区	b13	3－2層下面	土色S1'	70	50	3	遺構185を切る
251	土坑	B区	d14	3－2層下面	土色S1	25	15	4	連続する土坑群
252	溝	B区	c13、d13	3－2層下面	土色S1'	420	110	4	溝または流路痕跡、97の延長か
253	土坑	B区	b13、c13	3－2層下面	土色S1'	55	45	8	連続する土坑群
254	土坑	B区	c13	3－2層下面	土色S1	65	40	4	連続する土坑群、100と接する
255	土坑	B区	c13・14	3－2層下面	土色S1	(100)	40	4	連続する土坑群、100・102と接する
256	土坑	B区	c13・14	3－2層下面	土色S1	(90)	70	6	連続する土坑群、100・102と接する
257	土坑	B区	c14	3－2層下面	土色S1	(60)	60	5	連続する土坑群、102と接する
258	土坑	B区	c14、d14	3－2層下面	土色S1	(70)	30	6	連続する土坑群、100・102と接する
259	土坑	B区	d14	3－2層下面	土色S1	(50)	50	7	連続する土坑群、102と接する
260	土坑	B区	d14	3－2層下面	土色S1	(40)	35	6	連続する土坑群、102と接する
261	土坑	B区	a14	3－2層下面	土色S1	20	(15)	5	連続する土坑群、202に切られる
262	溝	B区	y12、a12、b12	3－2層下面	土色S1	660	65	4	102の延長？、遺構185と同一
263	溝	B区	a11	3－2層下面	土色S1'	170	50	7	溝または流路痕跡
264	溝	B区	a11	3－2層下面	土色S1'	200	50	5	溝または流路痕跡
265	溝	B区	c12、d12・13	3－2層下面	土色S1＋10YR5/4細砂	495	55	26	溝または流路痕跡
266	土坑	B区	c10	3－2層下面	土色S1	55	40	6	
【4層上面遺構】		土色：a＝7.5Y5/1灰色シルト（鉄分含む）、b＝7.5YR3/1黒褐色シルト、b'＝b＋土器片多く含む、c＝7.5YR4/1褐灰色シルト（鉄分含む）、d＝10YR3/2黒褐色中砂～シルト（炭多量に含む）、e＝2.5Y3/1黒褐色シルト、e'＝10YR2/1黒色シルト、f＝10YR4/1褐灰色シルト、f'＝2.5Y4/1黄灰色シルト、g＝2.5Y6/1黄灰色シルト（細砂混じり）、g'＝2.5Y5/1黄灰色シルト、h＝10YR2/2黒褐色シルト、i＝2.5Y4/4オリーブ褐色シルト～細砂、i'＝5Y6/1灰色細砂（鉄分含む）、j＝10YR3/3暗褐色シルト～細砂、k＝10YR5/6黄褐色細砂、l＝2.5Y6/3にぶい黄色シルト～細砂、m＝2.5Y5/1黄灰色シルト、m'＝5Y5/1灰色細砂、n＝10YR4/4褐色シルト～細砂							
125	土抗（土器棺）	A区	e11・d11	4層上面	土色a	80	65	31	壺1点・高杯1点合わせ口
126	土抗（土器棺）	A区	d11	4層上面	土色a	55	52	33	甕1点埋設
128-W	溝	A区	h14、g13・14	4層上面	挿図参照	(520)	132	44	
128-E	溝	A区	f14・15、e14・15	4層上面	挿図参照	(700)	200	36	
129	溝	A区	g10～13、f13・14、e13～15、d15	4層上面	挿図参照	(2300)	170	69	遺構291と同一
130	溝	A・B区	f10～13、e13、d13、c～y12・13	4層上面	挿図参照	(3600)	230	62	
131	土抗	A区	f10	4層上面	土色b'	(113)	102	20	遺構132を切る
132	土抗	A区	f10	4層上面	土色b	(144)	107	13	遺構131に切られる
133	土抗	A区	e11	4層上面	上層土色b、下層土色c	168	112	34	
134	土抗	A区	e10	4層上面	土色b	(102)	84	16	遺構135に切られる
135	土抗（土器棺）	A区	e10	4層上面	土色b'	135	67	24	甕1個体と砥石・片岩埋設
136	土抗	A区	e10、d10	4層上面	土色b'	250	(55)	9	
141	炭土抗	A区	g14	4層上面	土色d	100	(45)	14	炭化米多量出土、遺構128-Eに切られる
267	小土坑	B区	y10	4層上面	土色e	35	25	20	
268	小土坑	B区	y10	4層上面	土色e	30	30	15	
269	小土坑	B区	y10	4層上面	土色e	(40)	30	24	

遺構番号	遺構種類	地区		層位・遺構面	埋土・土色	規模・法量（cm）			備考
270	土坑	B区	y10、a10	4層上面	挿図参照	250	(135)	66	
271	小土坑	B区	a10	4層上面	土色e（鉄分含む）	50	45	10	
272	小土坑	B区	a11	4層上面	土色f	50	40	11	
273	小土坑	B区	y11	4層上面	土色g	(40)	40	10	
274	小土坑	B区	a11	4層上面	?	40	(20)	—	痕跡のみ検出、276に切られる
275	土坑	B区	y11、a11	4層上面	土色f	130	110	20	
276	土坑	B区	a11	4層上面	上層土色e、下層土色g'	85	75	14	遺構274を切る
277	土坑	B区	a11・12	4層上面	上層土色e、下層土色f	110	100	38	
278	小土坑	B区	a11	4層上面	土色g	(30)	30	6	遺構279に切られる
279	溝状土坑	B区	a10・11	4層上面	上層土色e、下層土色g'・m'	(280)	110	25	遺構278を切る
280	溝状土坑	B区	b12、c12	4層上面	挿図参照	(470)	120	55	
281	土坑	B区	a10、b10	4層上面	上層土色e、下層土色m	(50)	220	36	遺構301・338より上層
282	土坑	B区	a10・11、b10・11	4層上面	上層土色e'、下層f'・k・l	130	80	34	遺構299より上層
283	土坑	B区	b10	4層上面	上層土色e、下層土色h・f	(100)	150	30	遺構344・345より上層
284	土坑	B区	c10	4層上面	上層土色e、下層土色h	170	130	22	
285	小土坑	B区	d10	4層上面	土色e	40	40	12	
286	土坑	B区	d10・11	4層上面	土色e	140	60	10	
287	小土坑	B区	d10	4層上面	?	25	25	—	痕跡のみ検出
288	溝?	B区	y13、a13	4層上面	土色j	(200)	220	12	遺構130・291に切られる
289	溝状土坑	B区	b13・14	4層上面	土色e	(250)	105	40	遺構130・291に切られる
290	溝	B区	y14、a14・15、b14・15	4層上面	挿図参照	(950)	(180)	129	弧状、遺構291に切られる
291	溝	B区	y+a13・14、b+c14・15、d15	4層上面	挿図参照	(1750)	230	74	遺構129と同一、遺構290を切る
292	落ち込み	B区	y14・15、a14・15	4層上面	土色n	(120)	(400)	32	遺構300埋土最上層
293	土坑	B区	y13	4層上面	土色i・i'	60	50	15	壺1個体（土器棺?）
294	溝状土坑	B区	y11・12	4層上面	土色e	(280)	(60)	26	
295	落ち込み	B区	c13、d13・14	4層上面	?	(180)	220	—	遺構310上層部
368	溝状土坑	B区	a15	4層上面	挿図参照（土層断面図）	(265)	75	100	遺構300を切る
【4層下面遺構】		土色：あ＝2.5Y3/1黒褐色シルト（炭含む）、い＝2.5Y4/1黄灰色シルト（若干炭含む）、い'＝細砂、う＝2.5Y5/3黄褐色シルト～細砂（あ＋お）、え＝10YR4/4褐色シルト（鉄分斑点状）、え'＝細砂、お＝5Y5/2灰オリーブ色シルト（鉄分斑点状）、お'＝細砂、か＝10YR6/1褐灰色細砂、き＝10YR3/1黒褐色シルト～細砂（鉄分少量）、く＝10YR2/3黒褐色～2/1黒色シルト～細砂、け＝10YR4/2灰黄褐色シルト～10YR1.7/1黒色シルト、け'＝5Y6/2灰オリーブ色シルト（鉄分斑点状）、こ＝5Y5/1灰色シルト～5/2灰オリーブ色細砂、さ＝2.5Y6/2灰黄色シルト～4/1黄灰色シルト、し＝5Y6/2灰オリーブ色粘土＋6/3オリーブ黄色細砂、す＝2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト（炭含む）、せ＝10YR4/3にぶい黄褐色シルト～細砂＋10YR5/4にぶい黄褐色（地山）含む、そ＝10YR3/3暗褐色細砂（炭含む）、た＝10YR3/2黒褐色シルト～細砂（炭少量）、ち＝10YR2/2黒褐色シルト～細砂（炭多量）、つ＝2.5Y3/2黒褐色細砂～シルト（炭多く含む）、て＝2.5Y3/3暗オリーブ褐色細砂、と＝10YR4/3にぶい黄褐色シルト、な＝10YR5/4にぶい黄褐色シルト混じり細砂＋10YR3/3暗褐色細砂、に＝2.5Y3/4オリーブ褐色シルト～細砂＋2.5Y3/3暗オリーブ褐色細砂、ぬ＝2.5Y4/4オリーブ褐色細砂（黄灰色シルト混じり）								
140-N	井戸	A区	g12、f12	4層下面	挿図参照	200	185	129	素掘り、140-S・145に切られる
140-S	井戸	A区	g12、f12	4層下面	挿図参照	240	205	113	木枠井戸（刳抜材?）、140-Nを切る
142	井戸	A区	g11	4層下面	挿図参照	154	140	142	素掘り、129に切られる、145を切る
143	土坑	A区	d12	4層下面	土色け	(40)	45	66	A区北東部土坑群
144	土坑	A区	e12	4層下面	土色け	42	(28)	—	A区北東部土坑群
145	溝	A区	g10～12、f10～15、e13～15	4層下面	挿図参照	(1900)	440	90	129・130・142に切られる、140-Nを切る
146	土坑	A区	e12	4層下面	上層土色け、下層土色こ	(66)	60	31	A区北東部土坑群
147	土坑	A区	e12、d12	4層下面	土色け＋土色さ＋土色し	282	(87)	57	A区北東部土坑群
148	土坑	A区	e11、d11	4層下面	土色け＋土色さ＋土色し	97	80	55	A区北東部土坑群
149	土器溜り	A区	f14、e14	4層下面	挿図参照	(250)	(200)	—	遺構145の一部か
150	井戸	A区	h10	4層下面	挿図参照	142	(72)	113	素掘り、遺構129に切られる
151	土坑	A区	e12	4層下面	土色け	25	(20)	50	A区北東部土坑群
152	土坑	A区	d12	4層下面	土色け	35	30	32	A区北東部土坑群
161	炭土坑	A区	g15	4層下面	炭層（土層断面図）	85	—	36	南壁断面図
296	土坑	B区	y12、a12	4層下面	上層土色あ、下層土色い	230	123	14	
297	小土坑	B区	a12	4層下面	上層土色い＋え、下層土色い'	76	57	10	
298	土坑	B区	a10	4層下面	土色あ	(165)	85	15	B区北東部土坑群、366と切り合い
299	土坑	B区	a10・b10	4層下面	土色あ	187	70	14	B区北東部土坑群、282より下層
300	竪穴住居	B区	y14・15、a14・15、b15	4層下面	挿図参照	(600)	(280)	42	焼失住居、遺構368に切られる
301	炭土坑	B区	c14・15、d14・15	4層下面	挿図参照	312	298	72	B区南西部土坑群（310土坑群）
302	土坑	B区	a10、b10	4層下面	土色あ＋土色い＋土色え	(100)	100	28	B区北東部土坑群、281より下層
303	土坑	B区	a10、b10	4層下面	上層土色か＋下層土色う	70	56	14	B区北東部土坑群、304に切られる
304	小土坑	B区	a10	4層下面	土色あ（鉄分少量）	32	27	8	B区北東部土坑群、303を切る
305	小土坑	B区	d11	4層下面	土色あ	60	45	38	
306	土坑	B区	b12	4層下面	土色あ（黒褐色ブロック含む）	125	63	11	遺構351に切られる
307	小土坑	B区	y10	4層下面	土色あ（鉄分斑点状）	23	20	10	B区北東部土坑群
308	小土坑	B区	y10	4層下面	土色あ（鉄分斑点状）	20	19	8	B区北東部土坑群
309	小土坑	B区	y10	4層下面	土色あ（鉄分斑点状）	57	30	10	B区北東部土坑群
310	土坑	B区	b13・14、c13・14、d13～15	4層下面	挿図参照	(830)	(470)	30	B区南西部土坑群（310土坑群）
311	溝状土坑	B区	c14、d14	4層下面	挿図参照	257	123	38	B区南西部土坑群（310土坑群）

遺構番号	遺構種類	地区		層位・遺構面	埋土・土色	規模・法量（cm）			備考
312	土坑	B区	c14	4層下面	?	55	45	?	B区南西部土坑群（310土坑群）
313	炭土坑	B区	b14、c14	4層下面	挿図参照	100	100	40	B区南西部土坑群（310土坑群）
314	土坑	B区	c14	4層下面	挿図参照	(73)	(65)	25	B区南西部土坑群（310土坑群）
315	土坑	B区	d14	4層下面	土色あ（鉄分斑点状）	55	53	24	B区南西部土坑群（310土坑群）
316	小土坑	B区	d14	4層下面	土色あ	15	(7)	8	B区南西部土坑群（310土坑群）
317	小土坑	B区	d14・15	4層下面	土色あ	25	(8)	6	B区南西部土坑群（310土坑群）
318	小土坑	B区	y10	4層下面	土色あ（粘土質）	25	24	16	B区北東部土坑群
319	小土坑	B区	y10	4層下面	土色あ	22	13	7	B区北東部土坑群
320	小土坑	B区	y10	4層下面	土色あ	33	25	32	B区北東部土坑群
321	小土坑	B区	y11、a11	4層下面	土色あ	20	18	10	B区北東部土坑群
322	小土坑	B区	a11	4層下面	土色あ	20	20	6	B区北東部土坑群
323	小土坑	B区	a10・11	4層下面	土色あ（鉄分含む）	37	25	10	B区北東部土坑群
324	小土坑	B区	a11	4層下面	土色い	31	25	4	B区北東部土坑群
325	小土坑	B区	a11	4層下面	土色い	55	45	10	B区北東部土坑群、279より下層
326	小土坑	B区	a10・11	4層下面	土色い	30	21	7	B区北東部土坑群
327	小土坑	B区	a11	4層下面	土色あ	42	32	15	B区北東部土坑群
328	土坑	B区	a10・11	4層下面	土色あ＋土色お	88	47	10	B区北東部土坑群
329	小土坑	B区	a10	4層下面	土色い	15	13	4	B区北東部土坑群
330	土坑	B区	a10	4層下面	土色あ（黄灰色ブロック含む）	57	47	28	B区北東部土坑群、331に切られる
331	小土坑	B区	a10	4層下面	土色う	27	26	5	B区北東部土坑群、330を切る
332	小土坑	B区	a10	4層下面	土色あ	35	23	13	B区北東部土坑群、333に切られる
333	小土坑	B区	a10	4層下面	土色あ	18	13	4	B区北東部土坑群、332を切る
334	土坑	B区	a10	4層下面	土色う	43	32	7	B区北東部土坑群
335	小土坑	B区	a10	4層下面	土色あ	10	10	3	B区北東部土坑群
336	小土坑	B区	a10	4層下面	土色あ	10	10	3	B区北東部土坑群
337	土坑	B区	a10	4層下面	土色あ	(25)	23	20	B区北東部土坑群
338	土坑	B区	b10	4層下面	土色あ	37	30	10	B区北東部土坑群、281より下層
339	小土坑	B区	a10	4層下面	土色あ	21	18	10	B区北東部土坑群
340	土坑	B区	y12・13、a13	4層下面	炭層	490	330	34	土坑または落ち込み、130に切られる
341	小土坑	B区	b10	4層下面	土色い'	33	25	6	B区北東部土坑群
342	小土坑	B区	b10	4層下面	土色あ（細砂混じり）	35	32	10	B区北東部土坑群
343	小土坑	B区	a10	4層下面	土色あ	28	28	5	B区北東部土坑群
344	土坑	B区	b10	4層下面	土色あ	38	33	9	B区北東部土坑群、283より下層
345	土坑	B区	b10	4層下面	土色あ	37	33	6	B区北東部土坑群、283より下層
346	－	B区	c10	4層下面	土色い	160	125	8	上部の遺構284の掘り残し
347	土坑	B区	c10、d10	4層下面	上層土色い＋下層土色あ	(265)	(55)	16	
348	小土坑	B区	c11	4層下面	?	25	18	0	痕跡のみ検出
349	小土坑	B区	b12	4層下面	土色あ	36	35	8	
350	小土坑	B区	b12	4層下面	土色あ	20	20	10	
351	小土坑	B区	b12	4層下面	土色あ	25	25	4	遺構306を切る
352	土坑	B区	c11	4層下面	土色あ（鉄分含む）	80	47	34	
353	小土坑	B区	c12、d12	4層下面	部分的に土色あ含む	40	40	9	遺構でない可能性あり
354	小土坑	B区	c12、d12	4層下面	土色あ	24	20	11	
355	小土坑	B区	d12	4層下面	土色あ（細砂混じり）	30	25	36	
356	小土坑	B区	d12	4層下面	土色い'	20	20	10	
357	小土坑	B区	d12・13	4層下面	土色あ	30	30	4	
358	小土坑	B区	b11・12	4層下面	土色あ（鉄分斑点状）	35	33	20	
359	小土坑	B区	c13	4層下面	土色あ（～細砂）	35	25	12	
360	小土坑	B区	c13	4層下面	土色お	55	50	14	
361	小土坑	B区	c13	4層下面	土色い'	55	50	7	
362	土坑	B区	b13、c13	4層下面	土色い（～細砂）	(88)	80	7	B区南西部土坑群（310土坑群）
363	土坑	B区	b13	4層下面	土色い（～細砂）	55	50	12	B区南西部土坑群（310土坑群）
364	土坑	B区	a12・13	4層下面	上層土色い（微分斑点状）、下層土色う	105	57	24	遺構130底で検出
365	炭土坑	B区	a10	4層下面	上層土色い、下層炭層	150	(28)	47	B区北東部土坑群、北壁側溝
366	土坑	B区	a10	4層下面	土色あ（鉄分斑点状、土色え含む）	73	55	40	B区北東部土坑群、298と切り合い
367	土坑	B区	a10	4層下面	土色あ（鉄分斑点状、土色え含む）	45	43	40	B区北東部土坑群、北壁側溝
369	土坑	B区	c14・15	4層下面	挿図参照	(50)	70	36	B区南西部土坑群（310土坑群）
370	土坑	B区	b14	4層下面	上層土色き、下層土色く	100	80	28	B区南西部土坑群（310土坑群）
371	土坑	B区	c14	4層下面	上層土色き、下層土色く	60	47	22	B区南西部土坑群（310土坑群）
372	柱穴	B区	y14	4層下面	土色す	13	12	14	遺構300周囲を巡る柱穴
373	柱穴	B区	y14	4層下面	土色す	25	22	10	遺構300周囲を巡る柱穴
374	柱穴	B区	y14	4層下面	土色す	12	10	4	遺構300周囲を巡る柱穴
375	柱穴	B区	y14	4層下面	土色す	12	5	4	遺構300周囲を巡る柱穴
376	柱穴	B区	y14	4層下面	土色す	20	17	4	遺構300周囲を巡る柱穴
377	柱穴	B区	y14	4層下面	土色せ	15	13	6	遺構300周囲を巡る柱穴
378	柱穴	B区	y14	4層下面	土色せ	20	18	5	遺構300周囲を巡る柱穴
379	柱穴	B区	a14	4層下面	土色せ	25	22	16	遺構300周囲を巡る柱穴
380	柱穴?	B区	a14	4層下面	土色す	20	15	8	遺構300周囲を巡る柱穴

遺構番号	遺構種類	地区		層位・遺構面	埋土・土色	規模・法量（cm）			備考
381	柱穴	B区	a14	4層下面	土色せ	30	30	22	遺構300周囲を巡る柱穴
382	溝？	B区	a14	4層下面	土色そ	165	35	10	遺構300周囲の溝？、383を切る
383	柱穴	B区	a14	4層下面	土色そ	(25)	30	10	遺構300周囲を巡る柱穴
384	柱穴	B区	a15	4層下面	土色そ	(18)	20	9	遺構300周囲を巡る柱穴
385	柱穴	B区	a15	4層下面	土色そ	15	15	24	遺構300周囲を巡る柱穴
386	土坑	B区	y15	4層下面	土色つ＋黄灰色シルトブロック	(60)	(25)	34	遺構300内、炉？
387	柱穴	B区	y15	4層下面	土色て	(30)	(70)	34	遺構300内、主柱穴か
388	柱穴	B区	y15	4層下面	土色た	27	20	10	遺構300内、主柱穴か
389	小柱穴（炭含む）	B区	y15	4層下面	土色ち	15	12	12	遺構300内
390	小柱穴（炭含む）	B区	y15	4層下面	土色ち	15	15	10	遺構300内
391	小柱穴（炭含む）	B区	y15	4層下面	土色ち	6	6	4	遺構300内
392	柱穴	B区	y15	4層下面	土色た	15	15	14	遺構300内、主柱穴か
393	小柱穴	B区	y14・15	4層下面	土色た	10	10	8	遺構300内
394	柱穴	B区	y15	4層下面	土色た＋黄灰色シルトブロック	20	20	16	遺構300内、主柱穴か
395	小柱穴	B区	y15	4層下面	土色た	12	10	4	遺構300内
396	小柱穴	B区	y15	4層下面	土色た	10	10	4	遺構300内
397	小柱穴	B区	y15	4層下面	土色た	16	15	10	遺構300内
398	小柱穴	B区	y14・15	4層下面	土色た	13	10	4	遺構300内
399	小柱穴	B区	y15	4層下面	土色た	15	10	7	遺構300内
400	壁溝	B区	y14・15	4層下面	土色な	(350)	20	14	遺構300内
401	壁溝	B区	y14、a14	4層下面	土色に	365	15	24	遺構300内
402	壁溝	B区	y14・15、a14	4層下面	土色ね	(480)	20	26	遺構300内
403	小柱穴	B区	y15	4層下面	土色た	18	17	8	遺構300内
404	柱穴	B区	a15	4層下面	土色た＋柱痕土色と	(380)	15	35	遺構300内、主柱穴か
405	小柱穴	B区	a15	4層下面	土色た	8	7	4	遺構300内
406	柱穴	B区	a15	4層下面	土色た	36	28	16	遺構300内、主柱穴か
407	小柱穴	B区	a15	4層下面	土色た	18	15	3	遺構300内
408	小柱穴	B区	y14・15	4層下面	土色た	10	10	4	遺構300内
409	柱穴	B区	y14・15、a14・15	4層下面	土色と＋柱痕土色て（シルト）	35	30	30	遺構300内、主柱穴か
410	小柱穴（炭含む）	B区	a14	4層下面	土色ち	9	8	4	遺構300内
411	小柱穴	B区	a14・15	4層下面	土色た	10	10	4	遺構300内
412	小柱穴（炭含む）	B区	y14・a14	4層下面	土色ち	10	10	2	遺構300内
413	柱穴	B区	a14	4層下面	土色た	15	10	12	遺構300内、主柱穴か
414	小柱穴	B区	a14	4層下面	土色た	10	7	4	遺構300内
415	小柱穴	B区	y14	4層下面	土色た	8	8	8	遺構300内
416	柱穴	B区	y14	4層下面	土色た	15	9	10	遺構300内、主柱穴か
417	小柱穴	B区	y14	4層下面	土色た	7	6	4	遺構300内
418	小柱穴	B区	y14	4層下面	土色た	10	10	4	遺構300内
419	柱穴	B区	y14	4層下面	土色た	18	15	18	遺構300内、主柱穴か
420	柱穴	B区	y14	4層下面	土色た	15	10	26	遺構300内、主柱穴か
421	小柱穴	B区	y14	4層下面	土色た	15	13	8	遺構300内
422	小柱穴（炭含む）	B区	y14	4層下面	土色ち	22	20	14	遺構300内
423	小柱穴（炭含む）	B区	y14	4層下面	土色ち	7	7	6	遺構300内
424	小柱穴（炭含む）	B区	y14	4層下面	土色ち	6	6	4	遺構300内
425	小柱穴	B区	y14	4層下面	土色た	10	7	4	遺構300内
426	小柱穴（炭含む）	B区	y14	4層下面	土色ち	9	8	4	遺構300内
427	小柱穴	B区	y14	4層下面	土色た	10	8	8	遺構300内
428	小柱穴（炭含む）	B区	y14	4層下面	土色ち	5	5	5	遺構300内
429	小柱穴（炭含む）	B区	y14	4層下面	土色ち	5	5	3	遺構300内
430	小柱穴（炭含む）	B区	y14	4層下面	土色ち	5	4	8	遺構300内
431	柱穴？	B区	y14・15	4層下面	？	-	-	5	遺構300内
432	土坑？	B区	y15	4層下面	土色て～シルト	50	(55)	20	遺構300内、388・389に切られる
433	土坑	B区	y10	4層下面	土色い	-	43	30	北壁断面、B区北東部土坑群
434	小柱穴	B区	a14	4層下面	土色た	7	8	4	遺構300内
435	柱穴	B区	a14	4層下面	土色た	12	(7)	14	遺構300内、401に切られる、主柱穴か
【8層上面遺構】		土色：U＝7.5YR3/2黒褐色～3/3暗褐色シルト（炭多く含む）、V＝7.5YR4/2褐灰色シルト（炭含む）、W＝2.5Y7/2灰黄色シルト（鉄分含む）、X＝10YR4/4褐色シルト、Y＝10YR7/2にぶい黄橙色シルト（鉄分含む）、Z＝10YR6/1褐灰色シルト～7.5YR7/1明褐灰色シルト							
153	ピット	A区	h14	8層上面	土色U	30	30	21	
154	ピット	A区	h14	8層上面	上層土色U、下層土色V	20	20	16	
155	土坑	A区	h14	8層上面	土色W	53	40	8	土器片出土（土器棺か）
156	土坑	A区	h14	8層上面	土色X	50	39	5	甕1個体（土器棺の可能性あり）
157	土坑	A区	h14	8層上面	土色Y	53	(28)	12	前期壺片出土
158	土坑	A区	h14	8層上面	土色Z	23	19	5	土器底部片出土（土器棺か）
159	土坑	A区	h14・15	8層上面	土色Z	57	(30)	14	土器底部片出土
160	土坑	A区	h15	8層上面	土色Z	62	53	15	
【遺構番号欠番】									
99	欠番								

観察表２　須恵器・土師器観察表

<凡例>
外＝外面、内＝内面、断＝断面／胎土：白＝白色粒、半透明＝半透明粒、赤＝赤色粒、黒＝黒色粒

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
90-1	須恵器	杯(身)	A区h13	遺構90(流路)セクション西最下層	191	10.0×2.7	外：回転ヘラケズリ・回転ナデ、内：回転ナデ	密、～5mm 白中量	?	良好	外・内：N6/0～5/0灰、断：2.5YR5/1赤灰	30(口縁10未満)	底部回転ヘラケズリだがほとんど不調整、図反転復元	飛鳥～奈良
90-2	須恵器	杯(身)	A区h13	遺構90(流路)セクション西最下層	234	10.4×(2.3)	外・内：回転ナデ	密、～1mm 白中量	?	良好	外：N6/0～5/0灰、内・断：N7/0灰白～N6/0灰	10(口縁15)	底部欠損、図反転復元	飛鳥～奈良
90-3	須恵器	杯(高台)	B区d12	遺構90(流路)下層(砂)	1134	14.6×3.6、底部径9.8	外：回転ヘラケズリ・回転ナデ、内：回転ナデ	密、～1mm白・黒少量、～4mm灰(チャートか)少量	?	良好	外・内・断：N6/0灰～7/0灰白	40(口縁25)	底部回転ヘラケズリ後貼り付け高台、反転復元	飛鳥～奈良
90-4	須恵器	はそう	A区h13	遺構90(流路)セクション西下層	190	?×(10.6)、胴部径9.8	外：回転ヘラケズリ・回転ナデ、内：回転ナデか	密、～2mm 白中量(3mm 白2個)	?	良好	外・内・断：N6/1～5/1灰	70(体部100)	口縁欠損、穿孔1個(焼成前)、穿孔部若干打ち欠き(焼成後)	飛鳥～奈良
90-5	須恵器	はそう	A区g13	遺構90(流路)セクション西下層	198	?×(13.3)、胴部径9.8	外：回転ヘラケズリ・回転ナデ、内：回転ナデ	密、～3mm 白中量	?	良好	外・内・断：N6/0～5/0灰	80(体部100)	口縁欠損、穿孔1個(焼成前)、穿孔部若干打ち欠き(焼成後)	飛鳥～奈良
90-6	須恵器	壺(口縁)	B区d12	遺構90(流路)下層(砂)	1134	約26×(3.5)	外：タタキ、内：自然釉(ナデか)	密、～1mm 白少量、1mm 赤1個	?	良好	外：N6/0灰、内：5Y7/1灰白(自然釉)、断：2.5YR5/1赤灰	10未満	口縁部のみ残存、甕かも、内面自然釉	飛鳥～奈良
90-7	須恵器	壺・瓶類(体部)	B区/A区/B区/B区d12	遺構90(流路)下層(砂)/セクション東上層/セクション西落ち込み/中層	1134/201・229/1204/1133	?×(11.5)、胴部径18.4	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ・底部不定方向ナデ、内：回転ナデ	密、～4mm 白少量	?	良好	外・内・断：N7/0灰白～N6/0灰	30(底部付近70)	体部のみ、外面一部に灰黄色の釉付着、図反転復元	飛鳥～奈良
90-8	須恵器	壺(体部)	B区c11/d12・c12	遺構90(流路)下層/中層	1129/1133・1130	?×(12.0)、胴部径14.4	外：回転ナデ・カキ目、内：回転ナデ	密、～4mm 白中量、～1mm 黒少量	?	良好	外：N6/0～4/0灰、内：N7/0灰白～6/0灰、断：N7/0灰白	50	体部のみ、カキ目幅4.6cm、外面底部タタキあり	飛鳥～奈良
90-9	須恵器	杯(身)	A区f12	遺構90(流路)セクション西中層２・下層	233	約13×(3.5)	外：回転ナデ、内：回転ナデ	密、～4mm 白多量、～3mm 半透明少量	あり?	良好	外：5Y7/1灰白～N6/0灰、内：N7/0～6/0灰、断：N7/0灰	10未満	杯A(高台なし)、外面底部ヘラ切り後不調整	飛鳥～奈良
90-10	須恵器	脚台	A区g12	遺構90(流路)セクション西中層２・下層	195	?×(3.9)、脚部径9.5	外：回転ナデ、内：不定方向ナデ	密、～1mm白・黒少量、～1mm赤1個	?	良好	外・内：N6/0～5/0灰、断：N6/0灰～2.5YR5/3にぶい赤褐	20?(脚部60、脚端30)	脚台部のみ残存、壺か鉢の脚台	飛鳥～奈良
90-11	須恵器	壺(口縁)	A区h13	遺構90(流路)セクション西中層２・下層	187	13.4×(5.5)	外：回転ナデ、内：回転ナデ・同心円文タタキ	密、～4mm 白多量	?	良好	外・内：N6/0～5/0灰、断：N6/0灰～7/0灰白	10未満(口縁25)	口縁のみ、体部内面に同心円文残る、図反転復元	飛鳥～奈良
90-12	土師器	甑・鍋の把手	A区g13	遺構90(流路)セクション西中層２・下層	232	把手：長4.4×幅4.6×厚6.0	外：指オサエ・ナデ、内：不明瞭	～1mm 白多量・黒中量・赤少量	あり?(金雲母)	良好	外：5YR6/6～6/8橙、内・断：10YR7/4にぶい黄橙	10未満	甑・鍋の把手のみ、全体に調整不明瞭、移動式竈把手かも	飛鳥～奈良
90-13	土師器	甑・鍋の把手	A区h13	遺構90(流路)セクション西中層２・下層	188	把手：長6.3×幅6.4×厚6.0	外・内：ナデ	～4mm 白多量、～3mm 赤中量、～5mm 半透明少量	あり?(金雲母)	良好	外・内：2.5YR5/4～4/4にぶい赤褐、断：5YR6/4にぶい褐～2.5YR5/4にぶい赤褐	10未満	甑・鍋の把手のみ、一部煤付着か、移動式竈把手かも	飛鳥～奈良
90-14	土師器	甑・鍋の把手	A区g13	遺構90(流路)セクション西中層２・下層	197	把手：長6.5×幅6.0×厚4.5	外：指オサエ・ナデ、内：ナデ?	～4mm 白多量、～1mm 赤少量	～5mm 少量	良好	外・内：2.5Y6/6明赤褐～5YR6/6褐、断：7.5YR6/4にぶい褐～6/6褐	10未満	甑・鍋の把手のみ、移動式竈把手かも	飛鳥～奈良
90-15	土師器	甑・鍋の把手	A区h13	遺構90(流路)セクション西中層２・下層	189	把手：長5.6×幅8.8×厚7.7	外：指オサエ・ナデ、内：不明瞭(ナデか?)	～1mm 白多量、～5mm 赤・黒少量	～4mm 少量	良好	外・内：2.5YR5/6明赤褐～5YR6/6褐、断：2.5YR5/6明赤褐	10未満	甑・鍋の把手のみ、外面一部に縦ハケ?、移動式竈把手かも	飛鳥～奈良
90-16	土師器	竈	A区g13	遺構90(流路)セクション西中層２・下層	232	長(5.3)×幅(7.5)×厚2.3	外・内：不明瞭	～1mm 白多量、～2mm 赤中量、3mm 半透明1個	～1mm あり?	良好	外・断：5YR5/8明赤褐、内：5YR4/4にぶい赤褐(変色か)	10未満	移動式竈の庇部分か(貼り付け部で剥離)、一部黒色か(煤か)	飛鳥～奈良
90-17	土師器	甕(口縁)	B区b11	遺構90(流路)中層・下層	1090	?×(3.4)	外：不明瞭、内：横ハケ	～3mm 赤中量、1mm 白少量、4mm 半透明1個	?	良好	外・内：5YR5/8明赤褐、断：7.5YR6/6褐	10未満	口縁部若干つまみ上げる、ハケ目7～9本/1cm 中、口縁外面の一部沈線状になる	飛鳥～奈良
90-18	土師器	壺(口縁)	B区a10	遺構90(流路)中層・下層	1091	約18×(3.3)	外・内：横ナデ	～1mm 白・赤・金雲母少量	あり?	良好	外：5YR6/6褐～5/6明赤褐、内：5YR7/6～6/6褐、断：5YR6/6褐	10未満(口縁10)	口縁のみ、外面に黒斑あり、金雲母は片岩由来か	飛鳥～奈良
90-19	須恵器	杯(蓋)	B区c11	遺構90(流路)中層	1050	10.5×(2.3)	外・内：回転ナデ	密、～1mm 白・黒中量、3mm 白1個	?	良好	外・内・断：N7/0灰白～N6/0灰	10未満(口縁10)	杯身の可能性もあり	飛鳥～奈良
90-20	須恵器	杯(身)	B区c12	遺構90(流路)中層	1130	10.4×(3.4)	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ、内：回転ナデ	密、～1mm 白・黒・赤少量	?	良好	外・内：N7/0灰白～N6/1灰、断：N6/0～5/0灰	10未満	口縁部に面あり、口縁外面に若干自然釉付着	飛鳥～奈良
90-21	須恵器	蓋(杯か皿)	B区c12	遺構90(流路)中層	1130	20.4×(1.6)	外・内：回転ナデ	密、～1mm 白・黒少量	?	良好	外・内・断：N7/0灰白～N6/0灰	10未満(口縁部20)	杯か皿の蓋、かえりなし	飛鳥～奈良
90-22	須恵器	蓋(杯)	A区e12	遺構90(流路)セクション中中層	226	?×(2.5)、つまみ径3.8	外：回転ヘラケズリ?、内：ナデ?	密、～3mm 白・半透明多量	～4mm 多量	不良	外・内・断：2.5Y8/1～7/1灰白	50	口縁欠損、つまみ残存、生焼けぎみ(瓦器風の焼け方)	飛鳥～奈良
90-23	須恵器	杯(高台)	B区d12	遺構90(流路)中層/B区c11上層	1133/1044	?×(4.1)、底部径11.5	外・内：回転ナデ・底部不定方向ナデ	密、～4mm 白少量	?	良好	外：N6/0～5/0灰、内：N7/0灰白～N6/0灰、断：10YR5/2灰赤～N7/0灰白	40(底部30)	回転ナデ後貼り付け高台、口縁部欠損、図反転復元	飛鳥～奈良
90-24	須恵器	椀	A区d12	遺構90(流路)セクション東中層	230	13.6×5.2	外・内：回転ナデ・底部不調整・粘土紐痕	密、～4mm 白・半透明・黒多量	～1mm あり?	不良	外・内：2.5Y6/1黄灰～2.5Y7/1灰白、断：2.5Y7/1灰白	70(口縁30)	生焼けぎみ(瓦器風の焼き、器形は須恵器)、口縁一部を除きほぼ完形、出土状況写真あり	飛鳥～奈良

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
90-25	須恵器	皿	B区c12	遺構90(流路)中層	1131	16.4×2.0、底部径13.2	外・内：回転ナデ・底部ナデ	密、～2mm白・黒少量	?	良好	外：7.5Y6/1灰～6/2灰オリーブ、内：N5/0灰、断：7.5Y6/1灰	40(口縁40)	口縁部に面あり、図反転復元	飛鳥～奈良
90-26	須恵器	皿	B区d11	遺構90(流路)中層(砂)	1098	17.8×4.2、底部径13.8	外・内：回転ナデ・底部不定方向ナデ	密、～5mm白少量	?	不良	外：5Y7/3淡黄～6/3オリーブ黄、内・断：2.5Y7/1灰白	80(口縁80)	内面ナデ粗い(粘土紐痕跡残る)、瓦器風の焼け方、ほぼ完形	飛鳥～奈良
90-27	須恵器	はそう(体部)	A区e12	遺構90(流路)セクション中中層	276	?×(7.5)、胴部径9.5	外・内：回転ナデ・底部回転ヘラケズリ	密、～1mm白中量(3.5mm白1個)	?	良好	外・内：N6/0灰、断：N7/0灰白	50(体部100)	口縁～頸部欠損(体部のみ)、焼成前穿孔1(穿孔部若干打ち欠き)	飛鳥～奈良
90-28	須恵器	壺類(口縁)	A区h12	遺構90(流路)セクション西中層	184	約10×(4.5)	外・内：回転ナデ	密、～1mm白・赤少量	～1mmあり?	良好	外：7.5YR4/1灰、内：N6/0灰、断：2.5YR5/1赤灰	10未満	口縁端部ひずみあり(片口の可能性あり)	飛鳥～奈良
90-29	須恵器	壺・瓶類(肩部)	A区h12	遺構90(流路)セクション西中層	184	?×(8.4)、肩部径20.0	外・内：回転ナデ・外下半回転ヘラケズリ	密、～5mm白多量	～1mmあり?	良好	外：2.5Y7/1灰白～6/1黄灰、内：N7/0～6/0灰、断：2.5Y7/2灰黄	10未満	平瓶か(長頸壺かも)、外面に自然釉付着	飛鳥～奈良
90-30	土師器	杯・椀(口縁)	A区d12	遺構90(流路)セクション東中層	235	12.0×(2.6)	外：横ナデ、内：不明瞭	緻密、～1mm白少量・赤微量	?	良好	外・内・断：10YR7/3にぶい黄褐～5YR7/4にぶい橙	10未満(口縁10)	口縁端部内面に沈線状になる、図反転復元	飛鳥～奈良
90-31	土師器	杯・椀(口縁)	A区h12	遺構90(流路)セクション西中層	184	15.6×(3.9)	外：ヘラケズリ後ナデ(不明瞭)、内：ナデ？(不明瞭)	～2mm白・半透明・黒・赤多量	～1mmあり?	良好	外：10YR5/3にぶい褐～10YR2/1黒褐、内：7.5YR5/3にぶい褐～4/3褐、断：7.5YR4/3褐	20(口縁20)	底部欠損、図反転復元	飛鳥～奈良
90-32	土師器	杯・皿(口縁)	A区f12	遺構90(流路)セクション西中層	199	16.2×(3.7)	外：横ミガキ、内：不明瞭	～2mm白・半透明・黒・赤中量	?	良好	外・断：5YR6/8橙～7.5YR7/6橿、内：7.5YR8/4浅黄橙～7.5YR7/6橙	15(口縁15)	外面下半に横方向のミガキ、図反転復元	飛鳥～奈良
90-33	土師器	杯・皿(口縁)	A区g12	遺構90(流路)セクション西中層	193	?×(2.6)	外・内：ナデ？(不明瞭)	～1mm白・黒・半透明中量・赤少量	1mm少量	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙～7/6橙、内・断：7.5YR7/6橙	10	口縁部のみ残存	飛鳥～奈良
90-34	土師器	皿(口縁)	A区h12	遺構90(流路)セクション西中層	184	17.2×(2.3)	外・内：横ナデ・底部ヘラケズリ後ナデ？	緻密、～1mm白・半透明多量、2mm赤1個	～1mm微量	良好	外・内・断：5YR5/8明赤褐～4/8赤褐	10未満(口縁10)	口縁～体部残存、図反転復元	飛鳥～奈良
90-35	土師器	皿(口縁)	A区g13	遺構90(流路)セクション西中層	196	18.5×2.7、底部径15.2	外：内：横ナデ・ナデ？	緻密、～1mm白・半透明・赤少量	なし?	良好	外・内・断：7.5YR6/6橙～5/6明褐	10(口縁10)	口縁～体部残存、口縁端部に面あり、口縁内面沈線状、図反転復元	飛鳥～奈良
90-36	土師器	高杯(脚)	A区d12	遺構90(流路)セクション東中層	235	?×(5.3)	外：面取り(ケズリ)、内：ナデ	～1mm白・赤少量・黒雲母微量	なし?	良好	外・内：2.5YR6/6～6/8橙、断：7.5YR5/6明褐～10YR8/3浅黄橙	10未満	脚部のみ、面取り(幅1.0～1.2cm)あり	飛鳥～奈良
90-37	土師器	甕(口縁)	B区c12	遺構90(流路)中層	1130	?×(10.0)	外：横ミガキか(不明瞭)、内：ハケかナデ	～2mm白・半透明・赤中量、1mm黒1個	あり?(金雲母)	良好	外：10YR6/6明黄褐～7.5YR6/8橙、内・断：7.5YR6/6橙	10未満	口縁のみ残存、形態不明	飛鳥～奈良
90-38	土師器	甑・鍋の把手	A区f12	遺構90(流路)セクション中中層	225	把手：長6.7×幅3.9×厚2.8	外・内：指オサエ・ナデか	～4mm白中量・赤・半透明少量	～4mm少量	良好	外・内・断：2.5YR5/8～5Y5/8明赤褐	10未満	甑か鍋の把手のみ、移動式竈把手かも	飛鳥～奈良
90-39	土師器	甑・鍋の把手	A区g12	遺構90(流路)セクション西中層	193	把手：長4.8×幅5.0×厚4.7	外・内：不明瞭	～2mm白・赤多量(5mm白・赤2個)	～1mm微量	良好	外・内：2.5YR5/8～5YR5/6明赤褐、断：7.5YR6/8～6/6橙	10未満	甑か鍋の把手のみ、移動式竈把手かも	飛鳥～奈良
90-40	土師器	甑・鍋の把手	A区h12	遺構90(流路)セクション西中層	184	把手：長4.4×幅5.8×厚4.8	外：ハケ、内：不明瞭	～2mm白・黒少量	あり?	良好	外・内・断：5YR6/8橙色～5/8明赤褐	10未満	甑か鍋の把手のみ。ハケ単位：9本/1.3cm(1cm中7本)、移動式竈把手かも	飛鳥～奈良
90-41	土師器	壺(口縁～体部)	A区h13	遺構90(流路)セクション西中層	186	22.4×(18.4)	外：縦ハケ、内：縦板ナデ・口縁斜めハケ	～3mm白・半透明中量・赤少量(6mm白2個)	～3mm多量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙～6/6橙、内：7.5YR7/6～6/6橙、断：7.5YR7/4	25(口縁25)	ハケ単位：13～14本/2.0cm(1cm中7～8本)、板ナデ単位2.4cm？、外面に煤付着	飛鳥～奈良
90-42	土師器	竈	A区h12	遺構90(流路)セクション西中層	184	長(12.2)×幅(13.9)×厚1.8	外：縦ハケ、内：縦ケズリ？・指オサエ	～3mm白・半透明・赤中量	～2mm微量	良好	外・断：2.5YR6/6橙～5/8明赤褐、内：5YR5/4にぶい赤褐～4/6赤褐	10未満	移動式竈の底部か(端部に面あり)、内面部分的に煤付着、ハケ単位：1cm中8～10本	飛鳥～奈良
90-43	須恵器	蓋(杯)	A区d12	遺構90(流路)セクション東上層	201	?×(1.7)、つまみ径2.4	外：不明瞭、内：回転ナデ	密、～2mm白少量	?	良好	外・内・断：N7/0灰白～N6/0灰	10未満	杯蓋、つまみ部分のみ残存	飛鳥～奈良
90-44	須恵器	蓋(杯)	A区g12	遺構90(流路)セクション西上層	176	?×(2.3)、つまみ径1.7	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ、内：回転ナデ	密、～2mm白・黒中量	?	良好	外：N6/0～5/0灰、内：N6/0灰、断：7/0灰白	20	杯蓋、つまみ部分～体部残存	飛鳥～奈良
90-45	須恵器	杯	A区e12	遺構90(流路)セクション中上層	202	14.2×3.6	外・内：回転ナデ・不定方向ナデ	密、～4mm白中量	～7mm1個	良好	外：5Y6/1灰～N7/0灰白、内・断：N7/0～6/0灰	60(口縁5)	口縁一部残存、底部半分残存、底部不調整(一部不定方向ナデ)、図反転復元	飛鳥～奈良
90-46	須恵器	杯(高台)	A区g12	遺構90(流路)セクション西上層	176	13.2×3.8、底部径9.9	外：回転ナデ、内：回転ナデ・不定方向ナデ	密、～2mm白・黒微量	?	良好	外：N7/0灰白～5Y6/1灰、内：N7/0灰白～N6/0灰	80(口縁25、底部95)	貼り付け高台、内面のナデ粗い、図一部反転復元	飛鳥～奈良
90-47	須恵器	杯(高台)	A区h13	遺構90(流路)セクション西上層	178	13.4×4.1、底部径9.0	外：回転ナデ、内：回転ナデ	密、～1mm白少量	?	良好	外・内：N7/0灰白～N6/0灰、断：N6/0～10R4/2灰赤色	40(口縁25)	底部は回転ヘラケズリ後貼り付け高台、図反転復元	飛鳥～奈良
90-48	須恵器	杯(高台)	B区b10	遺構90(流路)上層	1052	13.6×3.6、底部径9.3	外・内：回転ナデ	密、～1mm白少量	?	良好	外：N6/0～5/0灰、内：2.5YR5/1～5/2赤灰、断：N6/0～2.5YR5/2灰赤	10(口縁10)	貼り付け高台、図反転復元	飛鳥～奈良
90-49	須恵器	皿(高台)	B区b11	遺構90(流路)上層	1056・1047	27.0×4.4、底部径22.2	外：回転ナデ、内：回転ナデ・不定方向ナデ	密、～3mm白少量(5mm白・半透明5個)	?	良好	外・内：N6/0灰、断：7.5YR5/3にぶい褐	40(口縁40)	底部ヘラケズリ後板ナデか、貼り付け高台、口縁内面沈線状、図反転復元	飛鳥～奈良
90-50	須恵器	鉢	B区b11	遺構90(流路)上層/c12中層	1056/1130	19.0×8.3、底部径14.0	外・内：回転ナデ・底部不定方向ナデ	密、～5mm白・黒少量、～3mm半透明中量	～2mm少量	やや不良	外・内・断：2.5Y8/1～7/2灰黄	40(口縁30)	体部に2条沈線状(粘土紐を強くナデか)、2片を合成して作図、図反転復元	飛鳥～奈良
90-51	須恵器	壺・瓶類(頸部)	A区d12	遺構90(流路)セクション東上層	201	?×(6.7)	外・内：回転ナデ	密、～3mm白少量、2mm赤1個	?	良好	外：N7/0灰白～N3/0暗灰、内：N6/0～5/0灰、断：N6/0灰～2.5YR5/1赤灰	10	壺・瓶類の頸部、口縁欠損、沈線1条あり、図一部反転復元	飛鳥～奈良
90-52	須恵器	壺・瓶類(頸部)	A区h13	遺構90(流路)セクション西上層	178	?×(10.6)	外・内：回転ナデ	密、～3mm白多量(6mm白含む)	?	良好	外：5Y7/1灰白～5Y6/1灰、内：N7/0灰白～6/0灰、断：5Y8/1灰白	10	壺・瓶類頸部、口縁欠損、沈線1条、内外面に自然釉付着(灰オリーブ色)、図一部反転復元	飛鳥～奈良
90-53	須恵器	壺(口縁)	B区b11	遺構90(流路)セクション東上層	1213	13.2×(3.9)	外：回転ナデ、内：回転ナデ・ナデ	密、～1mm白少量	?	良好	外・内：N6/0～5/0灰、断：N6/0灰	10未満(口縁20)	壺口縁、口縁外面貼り付け突帯1条、図反転復元	飛鳥～奈良
90-54	須恵器	甕(口縁)	B区b11	遺構90(流路)上層	1056	?×(5.4)	外：横ナデ、内：回転ナデ	密、～1mm白微量	?	良好	外：5Y7/1灰白～5Y4/1オリーブ灰、内：2.5Y6/2灰黄、断：2.5Y6/1赤灰	10未満	口縁のみ、外面刺突文(刻目)、沈線あり(3+1条)、内面自然釉付着	飛鳥～奈良

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
90-55	須恵器	長頸壺（肩部）	A区d12	遺構90(流路)セクション東上層	201	?×(4.0)、肩部径13.8	外・内：回転ナデ	密、～1mm白・黒少量(4mm白1個)	?	良好	外：N6/0～5/0灰、内：N7/0灰白～N6/0灰、断：10YR7/1灰白～N7/0灰白	10未満	肩部のみ残存、外面自然釉付着	飛鳥～奈良
90-56	須恵器	甕（口縁～体部）	A区g13	遺構90(流路)セクション西上層／セクション西中層	181/196	約20×(12.0)	外：タタキ後カキ目、内：同心円文タタキ	密、～1mm白・半透明少量	あり？(金雲母)	良好	外：5Y8/1灰白～N6/0灰、内・断：5Y8/1～7/1灰白	10未満	口縁～体部、口縁部回転ナデ	飛鳥～奈良
90-57	土師器	杯・椀	A区e11/e12	遺構90(流路)上層(セクション東壁削り)/セクション東上層	585/200	13.8×3.8	外・内：横ナデ(回転ナデか)・底部不明瞭	密、～3mm白・半透明・赤少量(4mm半透明2個)	～2mm微量	良好	外：5YR7/6橙～7.5YR8/6浅黄橙、内：5YR7/6～6/6橙、断：7.5YR7/6橙	50(口縁50・底部50)	約半分残存、図反転復元	飛鳥～奈良
90-58	土師器	杯・椀（口縁）	A区d12	遺構90(流路)セクション東上層	201	17.0×3.0	外：横ナデ?、内：不明瞭(ナデ?)	緻密、～1mm白・赤少量(2mm白2個)	?	良好	外：5Y7/6橙、内：5YR7/6橙～5YR5/6明赤褐、断：2.5YR6/6橙	10未満(口縁20)	口縁～体部、口縁端部つまみ上げ(沈線状)	飛鳥～奈良
90-59	土師器	杯・椀（口縁）	B区c12	遺構90(流路)上層	1130	?×(3.6)	外・内：横ナデか(不明瞭)	～1mm白・赤微量	?	良好	外・断：7.5YR7/6橙、内：7.5YR6/6橙	10未満	口縁～体部、口縁端部つまみ上げ	飛鳥～奈良
90-60	土師器	杯・椀（高台）	B区c12	遺構90(流路)上層	1260	?×(3.0)	外：横ナデ、内：不明瞭	～1mm白少量、赤微量	?	良好	外・内・断：5YR5/8明赤褐	10未満	高台部分、外面に煤付着	飛鳥～奈良
90-61	土師器	把手か	A区h13	遺構90(流路)セクション西上層	178	?×(4.6)	外：タタキ・指オサエ、内：不明瞭	～1mm白・赤・黒少量	?	良好	外・内：5YR6/8橙、断：7.5YR8/4浅黄橙	10未満	鍋などの把手か(高杯の可能性も)	飛鳥～奈良
90-62	土師器	甕（口縁）	A区d12	遺構90(流路)セクション東上層	201	?×(3.8)	外：縦ハケ、内：不明瞭	～1mm白・半透明中量・赤・黒少量	1mm少量	良好	外・内：7.5YR7/4にぶい橙、断：7.5YR6/4にぶい橙	10未満	口縁のみ、端部つまみ上げ、ハケ単位：1cm中8本	飛鳥～奈良
90-63	土師器	甑・鍋の把手	B区a11	遺構90(流路)セクション東上層	1214	把手：長5.7×幅5.1×厚3.3	外・内：不明瞭	～1mm白・赤中量・半透明・黒少量	1mm1個	良好	外：2.5YR6/8橙～5/8明赤褐、内：5YR6/6橙、断：2.5YR5/6褐	10未満	甑・鍋の把手のみ、移動式竈把手かも	飛鳥～奈良
90-64	土師器	竈	A区h13	遺構90(流路)セクション西上層	178	長(9.6)×幅(5.5)×厚(3.0)	外・内：不明瞭	やや粗い、～2mm白中量、～1mm半透明・赤少量	2mm多量	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙、内・断：2.5YR5/6明赤褐	10未満	移動式竈の庇部分か(貼り付け部で剥離)、内面の一部に煤付着、焼成前穿孔1箇所あり	飛鳥～奈良
90-65	須恵器	杯（身）	A区f12	遺構90(流路)一括	616	10.4×3.7	外・回転ナデ・回転ヘラケズリ、内：回転ナデ・不定方向ナデ	密、～1mm白・半透明少量(3mm半透明1個)	?	良好	外・内・断：N7/0灰白	ほぼ100	体部の一部以外完形、底部：回転ヘラ切り後不調整か	飛鳥～奈良
90-66	須恵器	杯（高台）	A区f12	遺構90(流路)一括	616	17.4×5.7	外・内：回転ナデ	密、～2mm白少量	?	良好	外・内：N7/0灰白～N5/0灰、断：2.5YR5/1赤灰	10未満(口縁30)	高台の一部残存、図反転復元	飛鳥～奈良
95-1	土師器	甕（体部）	A区g14	遺構95(溝)底の編跡	698	?×(6.6)	外：斜めハケ、内横ハケ	～2mm白・半透明・黒(チャート?)多量	～2mm多量	良好	外：5YR5/4・4/4にぶい赤褐～7.5YR7/4にぶい橙、内：2.5YR5/6明赤褐～2.5YR5/4にぶい赤褐、断：10YR6/2灰黄褐	10未満	ハケ単位1cm中9～10本、内面に粘土接合痕跡あり、体部～頸部の破片	飛鳥～奈良
95-2	須恵器	杯（身）	A区h15	遺構95(溝)セクション西最下層	209	?×(2.5)	外・内：回転ナデ	密、～1mm白微量	?	良好	外・内：N6/0灰、断：2.5YR5/3にぶい赤褐	10未満	口縁端部欠損	飛鳥～奈良
95-3	土師器	椀（口縁）	A区h15	遺構95(溝)セクション西最下層	209	約13.0×(2.9)	外：不明瞭、内：強い横ナデ(ハケの可能性も)	緻密、～1mm白・赤微量	?	やや良好	外：7.5YR5/2灰褐～5YR5/3にぶい赤褐、内：7.5YR7/6橙～2.5Y5/2暗灰黄、断：2.5Y5/1黄灰	10未満(口縁10)	2次焼成か(やや変色)、古代か(古墳時代前期の可能性も)	飛鳥～奈良
95-4	須恵器	壺（口縁）	A区g15	遺構95(溝)セクション西下層	207	17.6×(5.2)	外・内：回転ナデ	密、～2mm白少量	?	良好	外・内・断：N7/0灰白～N6/0灰	10未満(口縁10)	図反転復元	飛鳥～奈良
95-5	須恵器	甕（口縁）	A区h15	遺構95(溝)セクション西下層	208	?×(4.3)	外・内：回転ナデ	密、～1mm白少量、4mm白1個	?	良好	外：N4/0灰～N3/0暗灰、内：N8/0灰白～N4/0灰、断：2.5YR5/2・4/2灰赤	10未満	外面に波状文(単位1cm中7～8本)、外面自然釉か(黒くなる)・内面自然釉(灰色)	飛鳥～奈良
95-6	土師器	高杯（脚）	A区g15	遺構95(溝)セクション西下層	207	?×(2.7)	外：不明瞭、内：ナデか	～3mm白・黒・半透明中量、～1mm赤多量	～9mm多量	良好	外・内：5YR7/6・6/6橙～7.5YR7/2明褐灰、断：5Y5/1灰～5Y4/1灰	10	古代か(古墳時代前期の可能性も)	飛鳥～奈良
95-7	土師器	甕（口縁）	A区g15	遺構95(溝)セクション西下層	207	?×(2.5)	外：縦ハケ(不明瞭)、内：横ハケ?(不明瞭)	～2mm白・灰・赤中量	あり？	良好	外面：黒斑N4/0灰～N3/0暗灰、内：7.5YR6/6橙～5YR5/6明赤褐、断：7.5YR5/6明褐～7.5YR4/1褐灰(一部N3/0暗灰)	10未満	外面黒色化(黒斑)	飛鳥～奈良
95-8	土師器	甕か鍋（体部）	A区g15	遺構95(溝)セクション西下層	207	?×(8.5)	外：横タタキ、内：不明瞭(ナデか)	～2mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～2mm中量	良好	外：2.5Y6/1黄灰～2.5Y7/3浅黄(一部5YR7/6橙)、内：10YR5/1・4/1褐灰～10YR6/2・5/2灰黄褐、断：10YR6/1褐灰	10未満	若干2次焼成か(黒く変色)	飛鳥～奈良
95-9	須恵器	はそう（体部）	A区d12	3層(ほぼ遺構95上層)	125	?×(6.6)	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ、内：回転ナデ	密、～2mm白少量	?	良好	外：N6/0灰～N4/0灰、内・断：10YR4/1暗赤灰	70(体部100)	穿孔周辺一部打ち欠き、体部に沈線1条、頸部欠損	飛鳥～奈良
95-10	須恵器	杯（蓋）	A区g14	遺構95(溝)セクション中上層	210	?×(2.8)	外・内：回転ナデ	密、～1mm白微量	?	良好	外：5Y3/1オリーブ黒、内：2.5Y5/1黄灰、断：10YR7/1灰白	10未満	外面に沈線1条、外面に自然釉付着	飛鳥～奈良
95-11	須恵器	壺（口縁）	A区g14	遺構95(溝)セクション西上層	169	?×(2.8)	外・内：回転ナデ	密、～1mm白少量	?	良好	外・内：N7/0灰白～N6/0灰、断：N5/0灰～N4/0灰	10未満	口縁端部に浅い沈線2条	飛鳥～奈良
95-12	須恵器	壺（口縁）	A区f14	遺構95(溝)セクション中上層	211	?×(3.6)	外・内：横ナデ	密、～2mm白微量	?	良好	外：2.5YR3/1黒褐～N7/0灰白、内：2.5Y6/2灰黄～2.5Y5/1黄灰、断：N8/0・7/0灰白	10未満	内面に自然釉多く付着、外面に自然釉少量付着	飛鳥～奈良
95-13	土師器	移動式竈片	A区g14	遺構95(溝)セクション西上層	169	(7.6)×(7.5)×厚1.2	表：ハケ(単位1cm中7本程度)、裏：ケズリ(幅1.6cm)	～4mm赤中量、～1mm白・半透明少量・黒(チャートか)微量	～3mm中量	良好	表：7.5YR7/4にぶい橙～5YR5/4にぶい赤褐、裏：7.5YR7/4にぶい橙、断：7.5YR5/2灰褐	10未満	移動式竈の本体と庇の接合部分の破片か(本体側)	飛鳥～奈良

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
95-14	土師器	高杯（脚）	B区b11	遺構95(溝)セクション東	1211	?×(5.4)	外：縦ミガキ(不明瞭)、内：ナデか	～3mm白・半透明少量、～4mm赤少量	～2mm少量	良好	外・内：5YR6/6橙～5YR5/6明赤褐、断：7.5YR6/2灰褐	20(脚柱部90)	脚柱部中実、古代か(古墳時代前期の可能性も)	飛鳥～奈良
95-15	土師器	甕（長胴）	B区d12/A区d12	遺構95(溝)セクション西・95セクション/95セクション東	1198・1208/321	18.2×36.9、胴部径23.5	外：縦ハケ(口縁部は斜めハケ)、内：ナデ(粘土紐接合痕跡残る)	～4mm白・半透明中量	～4mm中量	良好	外・断：10YR8/3浅黄橙～10YR7/3にぶい黄橙(一部10YR6/3にぶい黄橙～2.5YR5/4にぶい赤褐)、内：10YR8/3浅黄橙	80(口縁60)	底部全体にヘラ記号(×)あり、底部丸底、体部に黒斑(N3/0暗灰)、体部部分的に煤付着、外面ハケ単位1cm中8本	飛鳥～奈良
100-1	須恵器	杯（身）	A区e15	遺構100(溝)上層	244	?×(3.0)	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ、内：回転ナデ	密、～2mm白・半透明少量	?	良好	外・内・断：N7/0灰白～N6/0灰	10	口縁端部欠損、図反転復元	飛鳥～奈良
100-2	須恵器	杯（身）	A区e15	遺構100(溝)上層	244	?×(2.5)	外・内：回転ナデ	密、～1mm白少量	?	良好	外・内：2.5Y6/1黄灰、断：7.5YR3/3暗褐	10未満	口縁部のみ残存、外面の一部に自然釉付着	飛鳥～奈良
100-3	須恵器	杯（身）	A区e15	遺構100(溝)上層	244	?×(2.9)	外：回転ナデ?、内：回転ナデ	密、～1mm白少量	?	良好	外：自然釉2.5Y6/1黄灰、内：N6/0灰、断：10YR4/2灰赤	10未満	外面に自然釉付着、外面受け部に重ね焼き痕跡、口縁端部欠損	飛鳥～奈良
100-4	須恵器	はそう か壺（体部）	A区e15	遺構100(溝)上層	244	?×(5.4)、胴部径10.5	外：ヘラケズリ後ナデ、内：回転ナデ	密、～2mm白少量(4mm白3個)	?	良好	外：N6/0灰～N5/0灰、内：N7/0灰白、断：N7/0灰白～N6/0灰	20	体部に沈線1条とカキ目(8～9本程度)、図反転復元	飛鳥～奈良
100-5	須恵器	壺（口縁）	A区e15	遺構100(溝)上層	244・279	18.2×(3.0)	外・内：回転ナデ	密、～3mm白・半透明少量、～1mm黒少量	?	良好	外：N6/0灰～N5/0灰、内・断：N7/0灰白～N6/0灰	10未満(口縁20)	図反転復元	飛鳥～奈良
100-6	須恵器	脚台	A区e14	遺構100(溝)上層	243	?×(3.0)、脚部径約20.0	外・内：横ナデ	密、～1mm白・黒少量	?	良好	外・内・断：N6/0～N5/0灰	10未満	器台の脚台か(壺口縁の可能性もあるが端部に面(接地面)がある)、端部に浅い沈線1条	飛鳥～奈良
100-7	土師器	高杯の脚？	A区e15	遺構100(溝)上層	244	?×(7.3)、脚柱部径4.7	外：不明瞭	～1mm白・赤多量、5mm白6個	～5mm少量	良好	外：10YR6/2・5/2灰黄褐(一部5YR5/6～2.5YR5/8明赤褐)、断：5YR5/6明赤褐	10未満	円筒状(中実)、土製品の可能性も	飛鳥～奈良
100-8	土師器	鍛・鍋の把手	A区e14	遺構100(溝)上層	243	把手：長4.9×幅3.9×厚2.9	外・内：不明瞭	～2mm白・半透明・赤中量、7mm半透明1個	～1mm微量	良好	外・内・断：5YR6/6橙～5YR5/6明赤褐	10未満	鍛か鍋の把手のみ、移動式竈把手かも	飛鳥～奈良
100-9	土師器	高杯（脚）	A区d14	遺構100(溝)セクション東	281	?×(4.1)、脚柱部径3.3	外：ナデか、内：ナデか(しぼり目あり)	～1mm白・半透明・赤少量・金雲母・黒(チャートか)微量	あり?	良好	外・内：7.5YR6/4・7/4にぶい橙～10YR7/3にぶい黄橙、断：10YR4/3にぶい黄褐～10YR4/1褐灰	10	円板充填か、金雲母は片岩由来か?、図反転復元	飛鳥～奈良
96-1	須恵器	甕（体部）	A区e13	遺構96(溝)セクション中上層	215	?×(6.3)	外：タタキ、内：同心円文タタキ	密、～1mm白・黒少量	?	良好	外・内・断：N7/0灰白～N6/0灰	10未満	甕体部片、外面タタキ後カキ目を施す	飛鳥～奈良
97-1	須恵器	杯（身か）	A区d13	遺構97(溝)下層(セクションベルト)	420	?×(1.5)	外・内：回転ナデ	密、～1mm白・黒・金雲母少量	?	良好	外：10YR6/3にぶい黄橙、内・断：2.5Y6/1黄灰	10未満	壺の可能性あり、口縁端部欠損	飛鳥～奈良
97-2	須恵器	壺か甕（頸部）	A区e14	遺構97(溝)下層	278	?×(2.9)	外：タタキ・カキ目、内：ナデ	密、～2mm白少量	?	良好	外・内：2.5Y6/1黄灰、断：2.5Y5/1黄灰	10未満	外面タタキ後カキ目か	飛鳥～奈良
97-3	土師器	高杯（脚部）	A区f14	遺構97(溝)セクション西	266	?×(3.4)	外・内：不明瞭	～5mm白・半透明・灰(チャート?)少量	～3mm少量	良好	外・内：7.5YR6/4にぶい橙～7.5YR6/6橙、断：10YR7/3・7/2にぶい橙	10	脚部内面中央部は少し円形に凹む	飛鳥～奈良
97-4	土師器	高杯（脚部）	A区f14	遺構97(溝)セクション西	266	?×(5.7)	外・内不明瞭	～7mm白・半透明多量	5mm1個	良好	外・内：7.5YR8/3浅黄橙～7.5YR7/3にぶい橙、断：7.5YR8/3浅黄橙	10	脚部内面は円柱状の穿孔(焼成時、しぼらない)、上部に接合痕跡あり、図反転復元	飛鳥～奈良
106-1	土師器	鍛・鍋の把手	A区g14	遺構106(溝)	326	把手：長4.3×幅5.7×厚2.9	外：ハケ(不明瞭)、内：不明瞭	～1mm白・赤多量・半透明少量	～1mm微量	良好	外：2.5YR5/8明赤褐、内・断：7.5YR6/6橙～7.5YR5/6明褐	10未満	鍛か鍋の把手のみ、移動式竈把手かも	飛鳥～奈良
107-1	須恵器	杯（身）	A区g14	遺構107(溝)	328	?×(2.0)	外・内：回転ナデ	密、～1mm白多量	?	良好	外・内：N7/0灰白～N6/0灰白、断：10YR5/2灰赤	10未満	口縁端部欠損、図反転復元	飛鳥～奈良
185-1	須恵器	杯（身）	B区y12	遺構185(溝)下層	1312	14.2×(3.4)	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ、内：回転ナデ	密、～1mm白・半透明・黒少量	?	良好	外・内・断：N7/0灰白～N6/0灰	10(口縁10未満)	やや受け部が小さい(ひずみか?)、図反転復元	飛鳥～奈良
185-2	須恵器	杯（身）	B区a12	遺構185(溝)上層	1100	?×(2.7)	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ、内：回転ナデ	密、～1mm白微量、3mm半透明1個	?	良好	外・内：7.5Y5/1灰、断：2.5Y8/1灰	10未満	口縁部のみ、受け部一部欠損	飛鳥～奈良
185-3	須恵器	壺・瓶類（口縁）	B区b12	遺構185(溝)セクション中上層	1138	9.4×(1.9)	外：カキ目、内：横ナデ	密、～1mm白・黒少量	?	良好	外・内：5Y6/1灰、断：5Y7/1灰	10未満	図反転復元	飛鳥～奈良
262-1	須恵器	壺（口縁）	B区a12	遺構262(溝)セクション西	1148	12.6×(5.0)	外：横ナデ、内：横ナデ・体部同心円文	密、～1mm白多量、～5mm半透明少量	?	良好	外・内：N6/0灰～N5/1灰、断：N7/0灰～N6/0灰	10未満(口縁20)	図反転復元	飛鳥～奈良
264-1	須恵器	杯（身）	B区a11	遺構264(溝)	1145	?×(2.1)	外・内：回転ナデ	密、～1mm白・黒微量	?	良好	外・内：2.5Y6/1黄灰、断：2.5Y5/1黄灰	10未満	口縁端部欠損	飛鳥～奈良
101-1	須恵器	杯（蓋）	A区h11	遺構101(流路?)	389	?×(1.4)	外：回転ヘラケズリ・ヘラケズリかナデ、内：回転ナデ	密、～1mm白中量	?	良好	外・内：N6/0灰、断面：2.5YR3/3暗赤褐	20	杯身の可能性あり、ロクロ左回り、図一部反転復元	飛鳥～奈良
101-2	土師器	高杯（脚）	A区h12	遺構101(流路?)	390	?×(6.6)、脚部径4.6	外：擬ミガキ(不明瞭)、内：横ケズリ	～3mm白・半透明多量、～5mm赤少量	～3mm多量	良好	外・内：2.5YR6/6橙～2.5YR5/6明赤褐、断面：10YR7/3にぶい黄橙	20(脚柱部100)	脚柱部内部はほぼ円柱状	飛鳥～奈良
101-3	土師器	移動式竈片	A区g12	遺構101(流路?)	391	(9.8)×(6.3)×厚(2.5)	外：ナデか、内：剥離か	～3mm黒～灰(チャート)多量・白・半透明・赤中量	～3mm中量	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙～5YR6/6橙、断：5YR4/6赤褐～7.5YR6/4にぶい橙	10未満	外面は面あり、外面に木質痕跡あり(線刻ではなさそう)	飛鳥～奈良
101-4	土師器	把手付鍋	A区h12/h12/h13・g13	遺構101(遺構90北側の壁際)/90セクション西中層/90セクション西中層2・下層	404/222/189・197	21.7×24.0、底部径10.9	外：縦ハケ、内：ナデ・口縁部横ハケ	～3mm赤多量、～3mm白・半透明少量	～1mm少量	良好	外・断：2.5YR5/8明赤褐～7.5YR6/6橙、内：2.5YR5/8明赤褐	70(口縁75、底部ほぼ100)	把手2つ(貼付)、把手～底部にかけて若干煤付着、体部に黒斑あり、底部やや平底状、外面ハケ幅2cm(単位1cm中7本)、内面ハケ幅2cmか(単位1cm中5本)、遺構90の遺物の可能性あり	飛鳥～奈良

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
91-1	土師器	移動式竈（底部か）	A区h12	遺構91(流路)セクション東下層	203	?×(9.9)	外：縦ハケ、内：不明瞭（粘土紐の痕跡）	～3mm白・半透明多量、～2mm赤中量	～3mm多量	良好	外・断：5YR6/8橙、内：2.5YR4/8赤褐	10未満	2次焼成（変色：外5YR4/4にぶい赤褐、内2.5Y3/3暗赤褐）、ハケ幅1.6～1.8cm(1cm中6～8本)	飛鳥～奈良
91-2	須恵器	杯（蓋）	A区h12	遺構91(流路)セクション西上層	170	?×(2.9)	外・内：回転ナデ	密、～1mm白微量、1mm黒1個	?	良好	外：N8/0灰白～N7/0灰白、内・断：N8/0灰白	10未満	外面に沈線1条、外面に重ね焼きの痕跡あり	飛鳥～奈良
91-3	須恵器	杯（蓋）	A区h12	遺構91(流路)セクション西上層	170	約18.0～19.0×(1.3)	外・内：回転ナデ	密、～4mm黒少量、～2mm白少量	?	良好	外・内：N7/0灰白～N6/0灰、断：N7/0灰白～10YR7/2黄橙	10未満（口縁10）	口縁部折り返し（かえりなし）	飛鳥～奈良
91-4	須恵器	杯（身）	A区h12	遺構91(流路)セクション西上層	170	?×(3.0)	外：回転ヘラケズリ・ヘラケズリ、内：回転ナデ	密、～2mm白・黒中量	?	良好	外：N7/0灰白、内：N8/0灰白～N7/0灰白、断：N4/0灰	10	口縁端部欠損	飛鳥～奈良
91-5	須恵器	杯か鉢	A区h12	遺構91(流路)セクション西上層	170	?×(3.4)	外：回転ナデか（底部不明瞭）、内：回転ナデ	密、～1mm白微量	?	良好	外：7.5YR4/1灰、内・断：N8/0灰白	10未満	底部付近の破片、外面に自然釉	飛鳥～奈良
91-6	土師器	甕（口縁）	A区h12	遺構91(流路)セクション西上層	170	23.4×(4.1)	外：縦ハケ、内：ナデか（不明瞭）	～3mm白・半透明多量	～3mm多量	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙（一部5YR5/6明赤褐～5YR5/2灰褐）、内：2.5YR7/2黄灰（一部7.5YR5/4にぶい褐～7.5YR4/3褐）、断：7.5YR6/2灰褐	10未満（口縁10）	外面に若干煤付着、縦ハケ単位1cm中7～8本、口縁部強い横ナデ（ハケの一部消す）、図反転復元	飛鳥～奈良
91-7	須恵器	杯（蓋）	A区g12	遺構91(流路)セクション中	171	約12～13？×(2.8)	外・内：回転ナデ	密、～2mm白・半透明少量	?	良好	外・内：N6/0灰、断：N8/0灰白	10未満	杯身の可能性あり	飛鳥～奈良
91-8	土師器	高杯（脚）	A区h12	遺構91(流路)セクション	397	?×(6.0)	外：不明瞭（ナデ？）、内：不明瞭	～1mm白多量、～2mm赤中量、4mm白・半透明2個	～2mm少量（10mm1個）	良好	外・内・断：7.5YR6/6橙～7.5YR6/8橙	20	図反転復元	飛鳥～奈良
92-1	須恵器	杯（高台）	A区e11	遺構92(流路)セクション西	204	?×(1.7)、底部径10.6	外：回転ナデ・底部回転ヘラケズリ、内：回転ナデ	密、～3mm白多量、～1mm半透明微量	?	良好	外・内・断：N7/0灰白～N6/0灰	10（高台20）	貼り付け高台、図反転復元	飛鳥～奈良
104-1	須恵器	壺か甕（口縁）	A区e13	遺構104(流路？)セクション東	289	?×(4.3)	外・内：横ナデ	密、～2mm白少量	?	良好	外：N3/0暗灰～5Y5/1・4/1灰、内：5Y7/1灰白～5Y6/1灰、断：N7/0灰白	10未満	外面に自然釉付着	飛鳥～奈良
127-1	須恵器	杯（蓋）	A区h12	遺構127(方形土坑)セクション北東	496	?×(2.8)、底部径10.6	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ、内：回転ナデ	密、～2mm白・半透明・黒少量	?	良好	外：5Y7/1灰白～5Y6/1灰、内・断：N8/0灰白～N7/0灰白	50（底部45）	杯身の可能性あり、ロクロ回転右回り	飛鳥～奈良
127-2	土師器	高杯（脚）	A区h12	遺構127(方形土坑)南西部	611	?×(4.2)、脚柱部径3.3	外：ミガキ？（不明瞭）、内：ナデ？（不明瞭）	～3mm白・半透明，赤多量、8mm白・半透明2個	～3mm多量	良好	外：5YR7/8橙～5YR6/8橙、断：N7/0灰白～N6/0灰	10（脚柱部100）	脚柱部は中実	飛鳥～奈良
127-3	土師器	高杯（脚）	A区h12	遺構127(方形土坑)セクション南西	498	?×(5.6)、脚柱部径3.0	外：不明瞭（ミガキ？）、内：ナデ？	～5mm白・半透明・赤多量	～5mm少量（8mm1個）	良好	外：2.5YR6/6・6/8橙～10YR7/2・7/3にぶい黄橙、内：7.5YR7/2明褐灰～7.5YR7/3にぶい橙、断：10YR7/2・7/3にぶい黄橙～N5/0灰	20（脚柱部100）	脚柱部内面はしぼり目なし（きれいな円形）	飛鳥～奈良
127-4	土師器	甕か鍋（口縁）	A区h12	遺構127(方形土坑)南西部	611	?×(3.3)	外：ナデ？（若干器壁剥離）、内：横ハケ	～7mm赤中量、～1mm白・半透明多量	～1mm少量	良好	外・断：7.5YR6/6橙～7.5YR5/6明褐（一部2.5YR5/8明赤褐）、内：2.5YR5/8明赤褐	10未満	内面ハケ幅1.7cm(単位1cm中10本)	飛鳥～奈良
127-5	土師器	甑・鍋の把手	A区h12	遺構127(方形土坑)南西部	611	把手：長7.0×幅3.3×厚2.9	外：ナデか（不明瞭）、内：不定方向ナデ	～5mm赤多量、～1mm白・半透明多量	?	良好	外：5YR5/6・5/8明赤褐～10YR7/3・7/4にぶい黄橙、内・断：5YR6/8・6/6橙	10未満	甑・鍋の把手のみ、移動式竈把手かも	飛鳥～奈良
200-1	須恵器	盤（皿か杯）	B区y11	遺構200(大形土坑)セクション南上層	1099	15.4×(1.0)	外・内：回転ナデ	密、～1mm白微量、～3mm半透明1個	?	良好	外・内：2.5Y7/1灰白～N6/0灰（口縁部7.5YR6/2灰褐混ざる）	10未満（口縁10）	口縁部かえりなし、図反転復元	飛鳥～奈良
200-2	須恵器	皿（口縁）	B区y11	遺構200(大形土坑)セクション南上層	1099	?×(1.5)	外・内：不明瞭	密、～1mm白微量	?	不良	外・内：2.5YR4/1黄灰、断：2.5Y7/1灰白	10未満	蓋の可能性あり、焼成不良で瓦器っぽい	飛鳥～奈良
200-3	須恵器	杯（杯A）	B区y10	遺構200(大形土坑)セクション北上層	1063	15.2×4.2、底部径11.5	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ、内：回転ナデ	密、～1mm白・半透明少量、4mm半透明2個	?	やや不良	外：10YR8/1灰白～N7/0灰白、内・断：10YR8/1灰白	20（口縁20）	底部高台なし、焼成生焼けぎみ、外面回転ヘラケズリ後不定方向ナデ、図反転復元	飛鳥～奈良
200-4	土師器	皿（口縁）	B区y11	遺構200(大形土坑)セクション南上層	1099	?×(1.9)	外・内：横ナデ	～1mm白少量	おそらく～1mmあり	良好	外・内：5Y6/1灰～5Y5/1灰、断：5YR4/1灰～5Y3/1オリーブ黒	10未満（口縁10）	杯の可能性あり	飛鳥～奈良
118-1	須恵器	蓋（杯）	A区d13	遺構118(小土坑)	337	?×(1.4)、つまみ径2.4	外・内：不定方向ナデ	～1mm白少量	?	良好	外・内：N6/0灰、断：N6/0灰～7.5YR6/2灰褐	10未満（つまみ100）	つまみ完存（貼り付け後ナデ）	飛鳥～奈良
199-1	土師器	甕（口縁）	B区a14	遺構199（連続土坑群）南半	1108	?×(3.0)	外・内：ナデ？（不明瞭）	～1mm白・半透明・赤・金雲母少量	3mm1個	良好	外：7.5YR6/6橙、内：7.5YR5/6明褐、断：7.5Y6/4にぶい橙	10未満（口縁10未満）	口縁部のみ残存	飛鳥～奈良
209-1	須恵器	短頸壺（口縁）	B区a13	遺構209(連続土坑？)	1311	?×(4.3)	外：回転ナデか、内：回転ナデ	～1mm白少量，3mm白1個	?	良好	外：2.5YR6/1赤灰～2.5YR7/1明赤灰、内：7.5YR6/1褐灰、断：2.5YR6/2灰赤	10未満	外面に自然釉付着	飛鳥～奈良
225-1	須恵器	杯（身）	B区c15	遺構225(連続土坑群)南半	1074	13.0×(3.3)、底部径約10.0	外・内：回転ナデ	～1mm白微量	?	良好	外：N6/0灰～N5/0灰、内・断・口縁部：N7/0灰白	10（口縁10）	底部ヘラケズリの可能性あるが不明瞭、図反転復元	飛鳥～奈良
122-1	土師器	鍋・甑の把手	A区e13	遺構122(土坑)	342	把手：長(6.3)×幅3.9×厚3.2	外・内：ナデ	～1mm白・半透明・赤少量	～3mm多量	良好	外・内：7.5YR6/4・5/3にぶい橙、断：5YR7/4・5YR6/4にぶい橙	10未満	甑・鍋の把手のみ、移動式竈把手かも、外面少し黒く変色（2次焼成）	飛鳥～奈良
214-1	土師器	鍋・甑の把手	B区b14	遺構214(連続土坑群)	1161	把手：長(3.7)×幅4.5×厚4.5	外・内：不明瞭（ナデか）	～2mm白・黒（チャートか）・半透明中量、～1mm赤微量	～2mm中量	良好	外・内：10YR7/3にぶい黄橙～10YR7/4にぶい黄橙、断：10YR4/1褐灰	10未満	甑・鍋の把手のみ、移動式竈把手かも	飛鳥～奈良

観察表３　弥生土器観察表

<凡例>
外＝外面、内＝内面、断＝断面／胎土：白＝白色粒、半透明＝半透明粒、赤＝赤色粒、黒＝黒色粒

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
130-1	弥生土器	複合土器(複合鉢)	B区c13	遺構130(溝)セクション西最下層(黒色)	1375	？×(3.3)、脚部口縁部径15.0	外：不明瞭・脚部口縁内側ケズリ？、内：強いナデ	～1mm白・半透明中量(7mm半透明１個)、～1mm赤少量	～1mm中量	良好	外・内：2.5YR6/6橙～7.5YR7/6橙、断：N5/0灰	10未満(脚部口縁15)	上半鉢部と下半脚部の接合部、脚部口縁部に凹線５条＋凹線上に円形浮文２列(径9.0～10.0mm、浮文上に径6.0mmの竹管文)	弥生中期後葉
130-2	弥生土器	高杯	B区c13	遺構130(溝)セクション西最下層(黒色)	1375	22.0×(2.0)	外：横ナデ、内：口縁内面(上面)ミガキ(不明瞭)	～2mm白・半透明・赤中量	～2mm中量	良好	外・内：5YR7/6橙、断：10YR8/2灰白	10未満	広口壺かも、口縁端部に凹線１条(幅1.5mm、不明瞭)、図反転復元	弥生中期後葉
130-3	弥生土器	高杯(脚柱部)	B区c13	遺構130(溝)セクション西最下層(黒色)	1375	？×(7.5)、脚柱部径5.5	外：縦ミガキ、内：杯部ナデ・脚柱部縦ケズリ？	緻密、～1mm白・半透明・赤微量(5mm半透明１個)	～2mm少量	良好	外・内・断：7.5YR7/4にぶい橙～N4/0灰	10未満(脚柱部70)	外面ミガキ幅4.0mm、脚柱部内面は円柱状(焼成前か)	弥生中期後葉
130-4	弥生土器	壺(広口)	B区a13	遺構130(溝)セクション東下層	1369	19.4×(1.4)	外：不明瞭(ミガキか)、内：不明瞭	～1mm白・黒(チャートか)中量	～3mm多量	良好	外・内・断：5YR6/6橙	10未満(口縁15)	壺の可能性あり、口縁端部は若干上方につまみ上げ(凹線状(幅2.0mm)になる)、図反転復元	弥生中期後葉
130-5	弥生土器	壺(広口)	B区a13	遺構130(溝)セクション東下層	1321	25.6×(2.9)	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm半透明中量、～1mm白・赤少量	～3mm中量	良好	外・内：5YR7/6橙、断：10YR5/1褐灰	10未満	口縁端部に凹線５条(幅2.5mm)、口縁内面(上面)に列点文１列＋扇形文１列(列点文と同じ原体、単位11本／幅1.2cm、1cm中10本)、図反転復元	弥生中期後葉
130-6	弥生土器	壺(細頸)	B区y12	遺構130(溝)セクション東下層	1319	10.0×(10.9)、頸部径6.4	外：不明瞭、内：ナデか	～2mm白・半透明・黒(チャートか)多量、～1mm赤微量	～1mm少量	良好	外・断：5YR7/6橙～2.5Y7/2灰黄、内：7.5YR7/4にぶい橙	10未満(口縁20)	口縁部～頸部に凹線６条(幅2.5～3.0mm)＋簾状文３条(単位８本／1.2cm、1cm中７本、静止幅3.0～5.0mm)＋凹線２条(幅4.0mm)＋簾状文１条以上、外面の一部に黒斑(2.5Y4/1黄灰)、図反転復元	弥生中期後葉
130-7	弥生土器	壺(体部)	A区f12	遺構130(溝)下層	712	？×(4.9)	外：不明瞭、内：ナデか	～3mm白・半透明・黒～灰(チャートか)多量	なし？	良好	外・内：10YR6/4にぶい橙、断：10YR7/4にぶい黄橙	10未満	直線文１条(単位６本以上／幅1.4cm)＋山形の波状文１条(２本１組の工具で山形に施文)＋直線文１条(残存幅0.8cm・単位７本以上)、搬入品の可能性あり	弥生中期後葉
130-8	弥生土器	壺(体部)	A区e13	遺構130(溝)下層	549	？×(14.1)	外：不明瞭、内：ナデ	～3mm半透明多量、～1mm黒(チャートか)中量、～1mm白少量	～1mm少量	良好	外：10YR8/3浅黄橙、内：10YR4/1褐灰、断:10YR8/3浅黄橙～4/1褐灰	10未満	直線文１条＋斜格子文(２本１組の工具で施文)＋直線文１条(単位12本／幅1.4cm、1cm中８本)＋斜格子文(直線文後)	弥生中期後葉
130-9	弥生土器	壺(小形)	A区f13	遺構130(溝)セクション北下層	578	18.6×(5.8)、胴部径16.2	外：不明瞭(器壁剥離)、内：不明瞭	～3mm白・半透明・赤多量	～3mm多量	良好	外・内：7.5YR7/4にぶい橙、断：10YR5/1褐灰	10未満(口縁15)	口縁端部はやや面あり、図反転復元	弥生中期後葉
130-10	弥生土器	壺(中形)	B区c13	遺構130(溝)セクション西下層	1374	25.8×(7.0)	外：横タタキ、内：斜め～横ケズリか？	～3mm白・半透明中量(4mm半透明１個)、～1mm赤少量	～3mm中量(6mm１個)	良好	外：2.5YR7/6橙、内：2.5YR6/8橙、断：2.5YR7/1灰白	10未満(口縁10未満)	口縁端部は若干上方につまみ上げ、図反転復元	弥生中期後葉
130-11	弥生土器	無頸壺	B区c13	遺構130(溝)セクション西下層	1374	14.6×(4.1)	外：横ミガキ、内：横ミガキ	緻密、～1mm半透明少量、～1mm白微量	～1mm少量	良好	外：10YR4/1褐灰、内：10YR7/1灰白、断：N7/0灰白	10未満(口縁10)	口縁端部は貼り付けで肥厚、貼り付け部下端に凹線１条(幅3.0mm、貼り付け後)、図反転復元	弥生中期後葉
130-12	弥生土器	鉢	B区d13	遺構130(溝)セクション西下層	1378	26.0×(9.5)	外：横ミガキ(幅4.0mm)、内：横ミガキ	緻密、～3mm白・半透明少量、～1mm黒(チャートか)・赤微量	～3mm少量	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙～10YR6/2灰黄褐、内：2.5YR7/2灰黄、断：10YR8/3浅黄橙	10(口縁25)	外面に直線文８条(単位５本／幅0.8cm、２条分重なって１条に見える箇所あり)＋扇形文(直線文上に施文)、図反転復元	弥生中期後葉
130-13	弥生土器	高杯(椀形)	B区y12	遺構130(溝)セクション東下層	1319	21.0×(4.2)	外：不明瞭(ナデ？)、内：不明瞭(ナデ？)	～2mm白中量、～1mm赤中量	～2mm中量	やや良好	外・内：10YR8/4浅黄橙、断：2.5YR5/1黄灰	10未満(口縁10未満)	口縁端部(上面)は面あり、口縁部に凹線１条(幅3.0mm)、図反転復元	弥生中期後葉
130-14	弥生土器	高杯(脚柱部)	A区f12	遺構130(溝)下層	712	？×(6.8)、脚柱部径4.8	外：縦ミガキ、内：杯部ナデ？(不明瞭)・脚柱部ナデ	～2mm白・半透明中量、～1mm赤・灰～黒(チャートか)微量	～2mm中量(5mm１個)	良好	外・内：5YR7/6橙～10YR7/4にぶい黄橙、断：2.5Y5/1黄灰	10未満(脚部50)	杯部は円板充填か、図反転復元	弥生中期後葉
130-15	弥生土器	高杯(脚裾部)	A区e13	遺構130(溝)下層	549	？×(3.9)、脚端部径12.8	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白・半透明多量(6mm白１個)、～1mm赤少量	～3mm多量(9mm１個)	良好	外・内：2.5YR6/6橙～10YR7/2にぶい黄橙、断：N6/0灰	10未満(底部20)	径4.0mmの穿孔５個残存(焼成前穿孔、外側から内側へ穿孔)、図反転復元	弥生中期後葉
130-16	弥生土器	脚台	A区f11	遺構130(溝)セクション北下層	581	？×(3.4)、脚端部径8.0	外：横ナデ？、内：不明瞭	～4mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～2mm中量	良好	外・内：7.5YR7/6橙～7.5YR7/4にぶい橙、断：2.5Y5/1黄灰	10未満(脚端部25)	脚端部丸み、脚端部外面に径2.0mmの竹管文２列、内面に円板充填？の痕跡あり、図反転復元	弥生中期後葉
130-17	弥生土器	壺(広口)	A区f10	遺構130(溝)セクション北中層	577	約37.0×(1.7)	外：ナデ、内：ナデ	～3mm白・半透明中量、～2mm黒(チャート)少量、～1mm赤・金雲母・赤チャート微量、3mm砂岩？1個	～1mm微量？	良好	外・内：5YR6/6橙、断：10YR5/2灰黄褐	10未満(口縁10未満)	口縁端部に格子文(4.0～5.0mm間隔で縦と横方向のヘラ描き)、口縁内面(上面)に沈線１条＋径4.0mmの竹管文２列(27個残存)	弥生中期後葉
130-18	弥生土器	壺(細頸)	B区d13	遺構130(溝)セクション西中層	1377	8.0×(7.8)	外：不明瞭、内：不明瞭	～2mm白中量、～1mm赤微量	～2mm中量	良好	外：7.5YR7/6橙、内・断：10YR8/2灰白～N4/0灰	10未満(口縁20)	口縁端部は若干面あり、口縁部～頸部に凹線５条(幅2.5～3.0mm)＋波状文１条(縦長の波状文)＋凹線４条以上(幅4.5mm)、図反転復元	弥生中期後葉
130-19	弥生土器	壺(広口)	B区a13	遺構130(溝)セクション東中層	1320	26.0×(8.2)	外：ナデ？(不明瞭)、内：不明瞭	～3mm白・半透明・黒(チャートか)多量、～1mm赤少量	～2mm中量	良好	外・内：5YR6/8橙、断：2.5Y7/1灰白	10未満(口縁15)	頸部に直線文２条以上(２条が重なり１条に見える、幅1.8cm、1cm中９本)、若干２次焼成か(一部黒く変色)、図反転復元	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
130-20	弥生土器	壺（体部）	A区f13	遺構 130(溝) 中層	711	？×(5.3)、胴部径16.0	外：胴部中位横ミガキ？・下半縦ミガキ、内：横ナデ	緻密、～1mm白・半透明・赤・黒(チャートか)少量、3mm灰チャート1個	～1mm微量	良好	外：5YR7/4にぶい橙、内：3/0暗灰、断：5YR7/4にぶい橙～3/0暗灰	10未満	上半斜格子2段(間を沈線で区切る)、屈曲部刻み目、図反転復元	弥生中期後葉
130-21	弥生土器	水差（把手）	B区a12	遺構 130(溝) セクション東 中層	1333	把手：長8.4×幅1.3×厚2.6	外：ナデ・指オサエ	緻密、～1mm白・半透明・黒(チャートか)少量、～3mm赤中量	～1mm微量?	良好	外・内：5YR7/6橙、接合部(断面)：10YR6/1褐灰	10未満（把手100）	把手部分のみ(完存)	弥生中期後葉
130-22	弥生土器	甕（小形）	A区f13	遺構 130(溝) 中層	711	15.6×(6.4)、胴部径13.8	外：ナデ(不明瞭)、内：ナデ	～4mm半透明多量、～2mm白中量、～2mm赤少量	～4mm多量	良好	外：2.5YR5/6明赤褐、内：7.5YR7/4にぶい橙、断：2.5Y4/1黄灰	10未満（口縁10）	口縁端部丸み、図反転復元	弥生中期後葉
130-23	弥生土器	甕（小形）	A区f13	遺構 130(溝) 中層	711	14.2×(7.8)、胴部径16.8	外：ナデ？・斜めケズリ？、内：強い縦ナデ(板ナデかも)	～1mm白・半透明中量(3mm半透明1個)	～1mm中量(3mm2個)	良好	外・内・断：7.5YR5/2灰褐	10(口縁10未満)	口縁端部は上方につまみ上げ、外面下半と頸部に煤付着、図反転復元	弥生中期後葉
130-24	弥生土器	甕（小形）	A区f12	遺構 130(溝) 中層	606	17.6×(7.3)、胴部径17.2	外：縦ハケ(不明瞭、ハケ後ナデ？)、内：ナデか	～2mm白・半透明・黒(チャートか)中量、～1mm赤微量	～2mm中量	良好	外：7.5YR5/2灰褐、内：7.5YR6/4にぶい橙、断：2.5Y4/1黄灰	10未満（口縁15）	外面全体に煤付着(7.5YR4/1褐灰～7.5YR4/2灰褐)、図反転復元	弥生中期後葉
130-25	弥生土器	甕（中形～大形）	B区a13	遺構 130(溝) セクション東 中層	1320	29.4×(6.9)	外：斜めタタキ、内：ナデ	～1mm白・半透明少量	～1mm少量	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙、内：10YR5/2灰黄褐～10YR7/3にぶい黄橙、断：2.5Y5/1黄灰	10未満（口縁10未満）	口縁端部は若干上方へつまみ上げ、口縁端部のごく一部に煤付着、図反転復元	弥生中期後葉
130-26	弥生土器	壺（底部）	A区f13	遺構 130(溝) 中層	607	？×(7.5)、底部径5.4	外：横ミガキ・縦ミガキ(不明瞭)、内：不明瞭	～4mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～3mm多量	良好	外：10YR5/1褐灰～10YR5/2灰黄褐、内：5Y6/1灰、断：7.5YR7/4にぶい橙～7.5YR7/6橙	10未満（底部100）	図一部反転復元	弥生中期後葉
130-27	弥生土器	壺（底部）	B区a13	遺構 130(溝) セクション東 中層	1320	？×(5.9)、底部径7.4	外：縦ミガキ(不明瞭)、内：不明瞭(ハケ工具痕跡残る)	～3mm白・半透明・黒(チャートか)多量、～1mm赤少量(3mm赤2個)	～3mm多量	良好	外：10YR8/4浅黄橙～2.5Y4/1黄灰、内：2.5Y7/1灰白～2.5Y7/2灰黄、断：2.5Y5/1褐灰	10未満（底部100）	底部に黒斑あり、図一部反転復元	弥生中期後葉
130-28	弥生土器	壺（底部）	B区a12	遺構 130(溝) セクション東 中層	1333	？×(6.0)、底部径7.3	外：縦ケズリ(後ナデ・指オサエ)、内：ナデ	～3mm白・半透明中量、～3mm赤少量	～3mm多量	良好	外：10YR8/1灰白、内：N1.5/0黒、断：10YR8/1灰白～N1.5/0黒	10(底部100)	図一部反転復元	弥生中期後葉
130-29	弥生土器	甕（体部～底部）	A区f13	遺構 130(溝) 中層	607	？×(11.5)、底部径5.0	外：縦ケズリ、内：不明瞭	～4mm白・半透明多量、～1mm赤少量(6mm赤1個)	～4mm多量	良好	外：10R6/6赤橙～10YR7/2にぶい黄橙、内：7.5YR8/4浅黄橙～7.5YR4/1褐灰、断：6/0灰	10未満（底部40）	胴部中位に煤付着、底部内面は底部付近で色調が変わる(7.5YR4/1褐灰と7.5YR8/4浅黄橙)、図反転復元	弥生中期後葉
130-30	弥生土器	甕（底部）	A区f11	遺構 130(溝) セクション南 中層	583	？×(5.2)、底部径5.6	外：不明瞭、内：不明瞭	～5mm白・半透明多量	～5mm多量	良好	外・断：5YR6/4にぶい橙～2.5Y4/1黄灰、内：10YR7/1灰白	10未満（底部90）	2次焼成か(黒く変色)、底部若干煤付着、図一部反転復元	弥生中期後葉
130-31	弥生土器	高杯（水平口縁）	A区f11	遺構 130(溝) 中層 セクション掘削	681	29.6/杯部径21.4×(6.4)	外：不明瞭、内：不明瞭	～5mm半透明・赤・黒(チャートか)多量、～3mm白少量	～5mm多量	良好	外・内：10YR8/1灰白、断：N1.5/0黒	10(口縁20)	杯部上面に貼付突帯、水平口縁端部はわずかに垂下、図反転復元	弥生中期後葉
130-32	弥生土器	高杯（脚柱部）	A区c13	遺構 130(溝) セクション西 中層	1373	？×(12.3)、脚柱部径4.4	外：縦ミガキ(不明瞭)、内：脚柱部しぼり目・脚裾部ナデか(不明瞭)	～3mm白・半透明・赤多量(5mm半透明1個)、～1mm黒(チャートか)微量	～1mm微量?	良好	外・内：5YR7/6橙～5YR7/4にぶい橙、断：5Y6/1灰～5Y5/1灰	20(脚柱部80)	外面ミガキ幅6.0mm？、図一部反転復元	弥生中期後葉
130-33	弥生土器	高杯（脚柱部）	A区f11	遺構 130(溝) セクション北 中層	580	？×(13.3)、脚柱部径4.3	外：不明瞭、内：しぼり目	～5mm白・半透明多量	～5mm多量	良好	外・断：5YR6/6橙、内：10YR7/4にぶい黄橙	30(脚柱部80)	図一部反転復元	弥生中期後葉
130-34	弥生土器	高杯（脚柱部）	A区f13	遺構 130(溝) 中層	607	？×(13.0)、脚柱部径4.4	外：縦ミガキか(不明瞭)、内：横ケズリ	～5mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～5mm多量(13mm2個)	良好	外：5YR6/8橙～7.5YR8/4浅黄橙、内：5YR6/8橙、断：7.5YR8/4浅黄橙	20(脚柱部100)	脚柱部のみ、杯部欠損	弥生中期後葉
130-35	弥生土器	高杯（脚柱～脚端部）	B区a13	遺構 130(溝) セクション東 中層	1320	？×(8.9)、脚柱部径4.0、脚端部径9.2	外：不明瞭、内：不明瞭・しぼり目	～4mm白・半透明・赤少量(7mm白1個)	～4mm少量(10mm1個)	良好	外・内・断：5YR6/8橙	20(脚端部20)	脚裾部が短く開くタイプ(脚端部やや丸み)、脚裾部に径8.0mmの穿孔2個残存(本来4個か)、脚端部付近に黒斑(N2/0黒)、図反転復元	弥生中期後葉
130-36	弥生土器	脚台（壺か鉢）	A区f11	遺構 130(溝) セクション北 中層	580	？×(5.8)、脚端部径8.4	外：縦ミガキ、内：ナデ・横ナデ(粘土紐接合痕残る)	緻密、～2mm白・半透明少量、～1mm黒(チャートか)微量	～2mm少量	良好	外：10R7/2にぶい黄橙～10YRY6/1褐灰、内：2/0黒、断：2.5YR6/4にぶい橙	10未満（脚端部25）	脚裾部に凹線2条(幅3.0mm)、外面ミガキ幅6.0mm、図反転復元	弥生中期後葉
130-37	弥生土器	脚台（壺か鉢）	B区a13	遺構 130(溝) セクション東 中層	1320	？×(4.3)、脚端部径12.0	外：細かい縦ミガキ、内：ナデ	～2mm白中量、～1mm赤微量	～2mm中量(5mm1個)	良好	外：10YR6/2灰黄褐～10YR6/3にぶい黄橙、内・断：10YR6/2灰黄褐～10YR5/2灰黄褐	10未満（口縁15）	脚裾部に凹線2条(幅3.0～3.5mm)、高杯の可能性あり、図反転復元	弥生中期後葉
130-38	弥生土器	蓋（壺用）	A区f11	遺構 130(溝) セクション北 上層	579	？×(3.0)、つまみ径1.4	外：ナデ？(不明瞭)、内：ナデか(不明瞭)	～2mm白・黒(チャートか)・半透明多量	～2mm多量	良好	外・内・断：5YR6/6橙	60(つまみ100)	図一部反転復元	弥生中期後葉
130-39	弥生土器	壺（広口）	B区a13	遺構 130(溝) セクション東 上層	1322	13.4×(6.0)、頸部径9.9	外：縦～斜めハケ、内：ナデか	～2mm白・半透明中量、～1mm黒(チャートか)・赤微量	～1mm微量か	良好	外：5YR6/6橙、内：10YR7/4にぶい黄橙～2.5Y4/1黄灰、断：2.5Y4/1黄灰	10未満（口縁15）	外面ハケ単位1cm中4本(幅1.8cm程度)、図反転復元	弥生中期後葉
130-40	弥生土器	壺（広口）	B区b13	遺構 130(溝) セクション西 上層	1337	19.6×(5.6)、頸部径15.8	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白・半透明多量、～3mm赤中量、～1mm黒(チャートか)微量	～1mm微量	やや良好	外：5YR7/6橙～7.5YR8/4浅黄橙、内：10YR8/4浅黄橙～2.5Y5/1黄灰、断：5YR7/6橙～2.5Y5/1黄灰	10未満（口縁5）	口縁端部は上方につまみ上げ、図反転復元	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
130-41	弥生土器	壺(広口)	B区y13	遺構130(溝)セクション東上層	1317	15.3×(6.9)、頸部径11.2	外：不明瞭、内：不明瞭	～4mm白・半透明・赤中量、～1mm黒(チャートか)少量	～1mm微量	良好	外・内：7.5YR7/4にぶい橙、断：7.5YR8/1灰白～N7/0灰白	10未満(口縁35)	口縁端部は上下に少し拡張、口縁内面(上面)に穿孔2個残存(径2.5mmと径3.5mm、焼成前穿孔)、図反転復元	弥生中期後葉
130-42	弥生土器	壺(広口)	B区a13	遺構130(溝)セクション東上層	1322	16.0×(4.5)、頸部径12.5	外：横ナデ(ミガキかも)、内：ナデ	～2mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～2mm中量	良好	外・内：5YR6/6橙、断：N3/0暗灰	10未満(口縁25)	口縁端部に凹線2条(幅2.0mm×深さ0.5mm)、頸部に直線文1条残存(単位1cm中11～12本)、図反転復元	弥生中期後葉
130-43	弥生土器	壺(広口)	B区y13	遺構130(溝)セクション東上層	1317	13.6×(6.0)、頸部径6.4	外：横ナデ、内：不明瞭	～2mm白・半透明中量、～2mm赤少量	～1mm少量	良好	外・内：5YR7/6橙、断：N4/0灰	10未満(口縁35)	口縁端部に凹線5条(幅1.5mm)＋径1.1cmの円形浮文5個残存、頸部に凹線4条残存(幅4.0mm)、図反転復元	弥生中期後葉
130-44	弥生土器	壺(広口)	B区a13	遺構130(溝)セクション東上層	1322	？×(3.3)	外：不明瞭・横ナデ、内：不明瞭	～3mm白・半透明少量、～1mm赤微量	～3mm少量	良好	外・内：5YR6/6橙、断：10YR8/2灰白	10未満	口縁端部に凹線5条(幅2.5～3.0mm)＋径1.5cmの円形浮文、口縁内面(上面)に扇形文(単位1cm中5～6本？)	弥生中期後葉
130-45	弥生土器	壺(広口)	B区a13	遺構130(溝)セクション東上層	1322	30.0×(6.2)	外：斜めハケ(不明瞭)、内：横ナデ	～5mm白・半透明多量(7mm半透明1個)、～1mm赤微量	～2mm少量(11mm1個)	良好	外・内：5YR7/6橙～5YR6/8橙、断：2.5Y4/1黄灰	10未満(口縁20)	口縁端部に凹線4条(幅1.5～2.0mm)、口縁内面(上面)に波状文＋扇形文＋径3.0mm穿孔2個残存(焼成前)＋波状文＋扇形文(単位1cm中9本)、図反転復元	弥生中期後葉
130-46	弥生土器	壺(直口)	A区f11	遺構130(溝)セクション南上層	582	11.8×(7.0)	外：縦ハケ、内：ナデ	～4mm白・半透明多量(7mm白1個)、～1mm赤・黒(チャートか)微量	なし？	良好	外：7.5YR8/6浅黄橙～7.5YR7/6橙、内・断：10YR6/3にぶい黄橙～10YR7/3にぶい黄橙	10未満(口縁20)	外面ハケ単位1cm中6～7本(幅1.7cm程度)、口縁部若干ひずみあり、搬入品の可能性あり、図反転復元	弥生中期後葉
130-47	弥生土器	壺(直口)	A区f13	遺構130(溝)上層	710	？×(5.1)	外：不明瞭、内：ナデ	～2mm白・半透明中量、～1mm黒(チャートか)少量、～1mm赤微量	～2mm中量	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙、内・断：10YR8/3浅黄橙	10未満	口縁部片口状、口縁部に波状文1条＋径4.0mmの穿孔(焼成前、外側から内側へ穿孔)＋断面三角貼付突帯3条残存	弥生中期後葉
130-48	弥生土器	壺(直口)	B区a13	遺構130(溝)セクション東上層	1322	？×(6.2)	外：ナデ？(不明瞭)、内：ナデか(不明瞭)	～1mm白・灰～黒(チャート)中量、～1mm赤微量	～1mm微量	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙、内：N4/0灰、断：N4/0灰～7.5YR7/3にぶい橙	10未満(口縁10未満)	口縁部～頸部に波状文1条(幅1.3～1.4cm、単位1cm中6本)＋断面三角貼付突帯1条＋波状文1条＋直線文1条残存(幅0.7cm以上)	弥生中期後葉
130-49	弥生土器	壺(直口)	B区y12	遺構130(溝)セクション東上層	1323	13.0×(8.6)、頸部径8.2	外：不明瞭、内：不明瞭	～2mm白・半透明多量、～2mm赤少量	～1mm少量	良好	外・内・断：7.5YR7/6橙	10未満(口縁10)	口縁部に断面三角貼付突帯1条、図反転復元	弥生中期後葉
130-50	弥生土器	壺(段状口縁)	A区f11	遺構130(溝)セクション南上層	582	22.6？×(3.9)	外：ハケ後ナデ、内：横ナデ	～2mm白・黒(チャートか)・赤～褐チャート中量、～1mm半透明中量・金雲母微量、1mm緑色の礫1個	～1mm微量	良好	外：7.5YR5/2灰褐、内・断：7.5YR4/2灰褐	10未満	口縁部は屈曲(内傾)して短く立ち上がる、口縁端部と屈曲部に刻み目、他の土器に比べ含有鉱物は異質(搬入品の可能性あり)	弥生中期後葉
130-51	弥生土器	壺(頸部)	A区f11	遺構130(溝)セクション北上層	579	？×(12.0)、頸部径13.8	外：ミガキか？(不明瞭)、内：ナデか(不明瞭)	～2mm白・半透明多量、～1mm黒(チャートか)少量、～1mm赤微量	～2mm少量(5mm1個)	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙～5YR7/6橙、内：7.5YR8/1灰白、断：3/0暗灰	10未満(頸部30)	頸部に直線文2条残存(幅2.0cm、単位1cm中13本程度)＋断面三角貼付突帯3条残存、図反転復元	弥生中期後葉
130-52	弥生土器	壺(頸部～体部)	A区a13	遺構130(溝)セクション東上層	1322	？×(15.7)、頸部径7.0、胴部径21.2	外：中位横ミガキ？(不明瞭)・下半縦ミガキ(幅3.0～4.0mm)、内：ナデ	～3mm半透明中量、～1mm黒(チャートか)中量、～1mm白少量、～1mm赤微量	～2mm中量	良好	外：10YR8/2灰白、内：N2/0黒、断：10YR8/2灰白～N2/0黒	20	頸部に凹線3条残存(幅4.0～5.0mm)、体部に簾状文6条(幅2.0cm、板ナデの工具使用か、静止幅は最上段3.0～4.0mm・上から2～4段4.0～6.0mm・上から5～6段6.0～7.0mm)、図反転復元	弥生中期後葉
130-53	弥生土器	壺(体部)	B区y12	遺構130(溝)セクション東上層	1323	？×(10.0)、胴部径19.8	外：不明瞭(下半ヘラかミガキ?)、内：不明瞭(一部ハケ？)	～2mm白・半透明多量、～1mm赤・黒(チャートか)微量	～1mm微量？	良好	外・断：5YR6/6橙～5YR6/8橙(一部7.5YR6/6橙)、内：7.5YR7/6橙～2.5YR5/1・4/1黄灰	10未満(胴部30)	外面に波状文2条以上(不明瞭)、図反転復元	弥生中期後葉
130-54	弥生土器	壺(体部)	B区d13	遺構130(溝)セクション西上層	1376	？×(5.5)	外：ナデ？(不明瞭)、内：ナデ？(不明瞭)	～4mm半透明多量、～2mm白中量、～2mm赤微量(4mm赤1個)	なし	良好	外：2.5Y3/1黒褐(一部5YR6/4にぶい橙)、内・断：7.5YR7/6橙	10未満	外面に直線文1条残存（単位7本／幅1.0cm)＋波状文1条(円弧状に廻る波状文、直線文と同じ工具)、外面は黒斑部分か、搬入品の可能性あり、天地逆の可能性あり	弥生中期後葉
130-55	弥生土器	壺(頸部)	A区e13	遺構130(溝)上層セクションベルト掘削	588	？×(3.7)	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白・半透明中量、～1mm赤中量	～3mm中量	良好	外：10YR8/2灰白、内：N3/0暗灰、断：N6/0灰	10未満	外面に簾状文3条残存(単位9本／幅2.2cm、1cm中4～5本、静止幅6.0～8.0mm)、天地逆の可能性あり	弥生中期後葉
130-56	弥生土器	壺(体部)	B区b12	遺構130(溝)セクション西上層	1334	？×(7.4)	外：不明瞭、内：ナデ(剥離多い)	～1mm白・半透明少量、～1mm赤微量	～1mm少量	良好	外：5YR7/6橙、内：5YR7/6橙～10YR8/3浅黄橙、断：10YR8/3浅黄橙	10未満	外面に簾状文3条残存(単位9本／幅2.2cm、1cm中4～5本、静止幅6.0～8.0mm)、天地逆の可能性あり	弥生中期後葉
130-57	弥生土器	水差(把手)	B区c13	遺構130(溝)セクション西上層	1372	把手：長7.05×幅1.6×厚2.3	外：ナデ	～3mm半透明多量、～1mm赤中量、～1mm白少量	～3mm多量	良好	外・内：7.5YR8/4浅黄橙～7.5YR7/4にぶい橙、断：2.5YR5/1黄灰	10未満(把手100)	把手部分のみ(完存)	弥生中期後葉
130-58	弥生土器	甕(小形)	A区f10	遺構130(溝)セクション北上層	576	14.0×(5.0)	外：縦ハケ(不明瞭)、内：横ハケ・斜めハケ(不明瞭)	～2mm白・半透明少量	～2mm少量？	良好	外・内：2/5YR6/6橙～7.5YR5/2灰褐(一部5Y4/1灰)、断：5Y3/1オリーブ黒	10未満(口縁10)	口縁端部は若干上方につまみ上げ、2次焼成か(赤黒く変色)、図反転復元	弥生中期後葉
130-59	弥生土器	甕(小形)	B区y13	遺構130(溝)セクション東上層	1317	14.0×(6.6)	外：横タタキ、内：不明瞭	～5mm白・半透明多量、2mm赤2個	～5mm多量	良好	外：10YR8/2灰白～N3/0暗灰、内・断：N3/0暗灰	10未満(口縁10)	口縁端部は若干上方につまみ上げ(端部やや凹む)、2次焼成か？、図反転復元	弥生中期後葉
130-60	弥生土器	甕(小形)	A区f13	遺構130(溝)上層	547	17.0×(4.6)	外：横タタキ(不明瞭)、内：ナデ？(不明瞭)	～4mm白・半透明多量、～4mm赤中量	～4mm多量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙～7.5YR7/6橙、内：7.5YR8/3浅黄橙、断：2.5Y4/1黄灰	10未満(口縁15)	口縁端部に凹線2条(幅1.5～2.0mm、深さ0.5mm)、図反転復元	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
130-61	弥生土器	甕（小形）	B区b13	遺構130(溝)セクション西上層	1337	17.8×(5.5)	外：不明瞭、内：強いナデ（後指オサエ）	緻密、～1mm半透明・赤・黒（チャートか）少量(3mm半透明1個)	なし？	良好	外：5YR7/4 にぶい橙、内・断：10YR1.7/1 黒	10未満(口縁10)	口縁部長いタイプ（端部はやや丸み）、口縁部ひずみあり（ナデ＋指オサエで丁寧にナデられていない）、搬入品の可能性あり、図反転復元	弥生中期後葉
130-62	弥生土器	甕（中形）	B区a13	遺構130(溝)セクション東上層	1322	27.0×(5.5)	外：縦ハケ、内：横～斜めハケ	～5mm白・半透明中量	～7mm中量	良好	外：10YR6/2 灰黄褐～10YR6/3 にぶい黄橙、内：10YR5/2 灰黄褐～10YR4/1 褐灰、断：10YR5/1 褐灰	10未満(口縁10未満)	口縁端部は上方につまみ上げ（端部は幅3.5mmの凹線1条）、ハケ単位8本／幅1.8cm、図反転復元	弥生中期後葉
130-63	弥生土器	甕（中形）	A区f11	遺構130(溝)セクション北上層	579	28.2×(6.7)	外：ナデ？（縦ミガキかも？）、内：ナデか（不明瞭）	～3mm半透明多量、～2mm白・黒（チャートか）少量	～2mm少量	良好	外・内：7.5YR7/4 にぶい橙、断：N6/0 灰	10未満(口縁15)	口縁部長いタイプか、図反転復元	弥生中期後葉
130-64	弥生土器	甕（中形～大形）	B区b12	遺構130(溝)セクション西上層	1334	33.0×(7.5)	外：縦ハケ、内：ナデ？（不明瞭）	～3mm白多量（5mm白2個）、～1mm赤少量	～3mm多量	良好	外：10YR8/4 浅黄橙（一部N3/0 暗灰）、内：10YR8/3 浅黄橙～10YR8/2 灰白、断：5Y4/1 灰	10未満(口縁10)	口縁端部は上方につまみ上げ、外面ハケ単位1cm中5～6本、図反転復元	弥生中期後葉
130-65	弥生土器	甕（中形～大形）	B区y12	遺構130(溝)セクション東上層	1323	33.0×(6.0)	外：横タタキ（不明瞭）、内：ナデか（不明瞭）	～5mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～5mm多量	良好	外：5YR7/6 橙～7.5YR7/6 橙、内：7.5YR8/4 浅黄橙、断：2.5Y5/1 黄灰	10未満(口縁15)	口縁端部は上下に拡張、図反転復元	弥生中期後葉
130-66	弥生土器	甕（中形～大形）	B区b12	遺構130(溝)セクション西上層	1334	33.4×(6.2)	外：横タタキ、内：不明瞭	～4mm白多量、～1mm半透明少量、～1mm赤微量	～4mm多量	良好	外：5YR7/8 橙、内・断：7.5YR7/4 にぶい橙	10未満(口縁10)	口縁端部に沈線状の凹線3条（幅1.0mm）、図反転復元	弥生中期後葉
130-67	弥生土器	壺（底部）	A区d13	遺構130(溝)上層	624	？×(4.7)、底部径6.0	外：縦ハケか（ミガキの可能性あり）、内：不明瞭	～3mm白・半透明・赤多量(5mm白1個)、～3mm黒～灰チャート中量、～1mm金雲母微量	なし？	良好	外・内・断：10YR8/4 浅黄橙	10未満(底部100)	含有鉱物から搬入品の可能性あり	弥生中期後葉
130-68	弥生土器	壺（底部）	B区a13	遺構130(溝)東側セクション上層	1436	？×(5.7)、底部径5.8	外：不明瞭、内：ナデか（不明瞭）・指オサエ	～3mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～3mm多量	良好	外・内：10YR8/3 浅黄橙～2.5Y8/3 淡黄、断：2.5Y5/1 黄灰	10未満(底部100)	鉢の可能性あり、外面に黒斑あり（2.5Y5/1 黄灰）、図一部反転復元	弥生中期後葉
130-69	弥生土器	壺（底部）	A区f12	遺構130(溝)上層	640	？×(4.2)、底部径5.6	外：縦ケズリ（幅1.1cm？）、内：ナデ？	～2mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～1mm微量	良好	外：5YR7/6 橙～2.5YR6/6 橙、内・断：2.5Y4/1 黄灰	10未満(底部100)	小形壺、外面全体2次焼成で赤く変色か（器壁剥離あり）、底面にわずかに煤付着	弥生中期後葉
130-70	弥生土器	甕か壺（底部）	B区b13	遺構130(溝)セクション西上層	1337	？×(4.3)、底部径8.2	外：縦～斜めケズリ、内：ハケ（蜘蛛の巣状）	～4mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～4mm多量	良好	外：10YR8/3 浅黄橙～2.5Y5/1・4/1 黄灰、内：2.5Y4/1 黄灰～2.5Y3/1 黒褐、断：2.5Y3/1 黒褐	10未満(底部100)	内面に蜘蛛の巣状ハケ（工具幅1.6cm以上、1cm中5～6本）、外面全体2次焼成か（変色か、器壁剥離あり）、図一部反転復元	弥生中期後葉
130-71	弥生土器	甕（底部）	B区a13	遺構130(溝)セクション東上層	1322	？×(5.3)、底部径10.5	外：縦ケズリ・指オサエ、内：縦～斜めハケ	～4mm白・半透明多量(5mm白2個)、～1mm赤少量	～4mm多量	良好	外：7.5YR7/4 にぶい橙～7.5YR8/4 浅黄橙、内・断：10YR8/2 灰白	10未満(底部100)	大形壺（壺の可能性あり）、内面ハケ単位1cm中6本、底部全体に黒斑（2.5Y4/1 黄灰～2.5Y3/1 黒褐）	弥生中期後葉
130-72	弥生土器	甕（底部）	A区f11	遺構130溝セクション南上層	582	？×(7.5)、底部径11.0	外：縦ケズリ、内：ナデ・指オサエ	～5mm白・半透明中量	～5mm中量	良好	外：10YR7/3 にぶい橙～10YR6/2 灰黄褐（一部10YR6/1 褐灰）、内：10YR7/3 にぶい橙，断：2.5Y5/1 黄灰	10未満(底部100)	中形～大形甕、外面2次焼成で褐色に変色、外面ケズリ幅2.0cm、図一部反転復元	弥生中期後葉
130-73	弥生土器	壺（底部）	B区y12	遺構130(溝)セクション東上層	1323	？×(9.3)、底部径12.2	外：縦ケズリ・縦ミガキ（ケズリ後）、内：不明瞭	～4mm白・半透明・赤多量	～4mm多量	良好	外：7.5YR7/6 橙、内：10YR8/2 灰白、断：N7/0 灰白	10未満(底部100)	甕の可能性あり、外面ケズリ幅約1.2cm・ミガキ幅4.0mm、内面に粘土紐接合痕あり、底部外面と内面に黒斑、図一部反転復元	弥生中期後葉
130-74	弥生土器	鉢か壺（直口）	B区b13	遺構130(溝)セクション西上層	1337	17.4×(7.5)	外：横ミガキ、内：横ミガキ	緻密、～1mm白・半透明・黒～灰（チャート）少量、～1mm赤微量	～1mm少量	良好	外・内：2.5YR6/8 橙、断：10YR8/2 灰白	10未満(口縁10)	口縁端部に凹線1条（幅3.5mm）、体部に凹線5条残存（幅4.0mm）、外面ミガキ幅2.0mm・内面ミガキ幅3.0mm、図反転復元	弥生中期後葉
130-75	弥生土器	鉢	A区f12	遺構130(溝)上層(遺構101含む)	640	約38.4×(3.6)	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白・半透明中量、1mm黒（チャートか）1個	～3mm中量	良好	外・内・断：7.5YR7/6 橙～7.5YR8/6 浅黄橙	10未満(口縁5)	高杯の可能性あり、口縁端部は貼り付けて肥厚（外面と上面に波状文）、外面（貼り付け下端部分）に波状文（不明瞭）	弥生中期後葉
130-76	弥生土器	高杯（椀形）	A区f13	遺構130(溝)上層	547	17.6×(3.3)	外：不明瞭、内：不明瞭（口縁端部横ナデ）	～3mm白・半透明多量、～1mm赤中量	～3mm多量	良好	外：7.5YR8/4 浅黄橙、内：10YR8/3 浅黄橙、断：2.5Y5/1 黄灰	10未満(口縁10未満)	口縁端部（上面）は面あり、屈曲部に凹線2条（幅4.0mm）、図反転復元	弥生中期後葉
130-77	弥生土器	高杯（椀形）	A区f13	遺構130(溝)上層	710	21.0×(6.5)	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白・半透明多量(5mm白1個)、～1mm赤中量	～3mm多量	良好	外：7.5YR8/4 浅黄橙、内：10YR8/3 浅黄橙、断：N7/0 灰白	10未満(口縁20)	口縁端部（上面）は面あり、屈曲部に凹線2条（幅3.0mm）、図反転復元	弥生中期後葉
130-78	弥生土器	高杯（椀形）	B区c13	遺構130(溝)セクション西上層	1372	29.4×(6.3)	外：横ミガキ、内：横ミガキ	～3mm白・半透明中量、～1mm赤微量(4mm赤1個)	～3mm中量	良好	外・内・断：5YR7/6 橙～5YR7/8 橙	10未満(口縁10未満)	口縁端部は肥厚（貼り付け？）、口縁端部に凹線3条（幅2.0mm）、肥厚部下端は凹線状になる、図反転復元	弥生中期後葉
130-79	弥生土器	高杯（水平口縁）	B区c13	遺構130(溝)セクション西上層	1372	31.4／杯部径22.8×(3.25)	外：不明瞭・杯部ケズリ？、内面：杯部ミガキ？（不明瞭）	～3mm白・半透明中量、～1mm赤中量	～3mm多量	良好	外：10YR8/2 灰白、内：7.5YR8/4 浅黄橙、断：N6/0 灰	10未満(口縁20)	杯部上面に貼付突帯、図反転復元	弥生中期後葉
130-80	弥生土器	高杯（水平口縁）	B区y12	遺構130(溝)セクション東上層	1323	33.2／杯部径24.6×(3.4)	外：不明瞭、内：不明瞭	～4mm白・半透明多量、～2mm赤少量	～4mm多量	良好	外・内：2.5YR7/3 淡赤橙～10YR8/2 灰白、断：10YR8/2 灰白	10未満(口縁20)	杯部上面に貼付突帯、水平口縁部端部に凹線1条（幅1.5mm）、図反転復元	弥生中期後葉
130-81	弥生土器	高杯（脚柱部～脚裾部）	B区y13	遺構130(溝)セクション東上層	1317	？×(7.6)、脚柱部径3.6、脚端部径7.7	外：不明瞭（ミガキか）、内：脚柱部しぼり目・脚裾部ナデ？（不明瞭）	～3mm白・半透明多量、～1mm赤・黒（チャートか）少量	～3mm多量	良好	外・内：7.5YR8/3 浅黄橙（内面一部7.5YR6/8 橙）、断：10YR8/3 浅黄橙	30(脚柱90・脚端部60)	脚裾部が短く開くタイプ（脚端部やや丸み）、脚柱部下半の内面はしぼり目をナデ消される	弥生中期後葉
130-82	弥生土器	高杯（脚柱部～脚裾部）	B区b13	遺構130(溝)セクション西上層	1337	？×(12.0)、脚柱部径3.4、脚端部径6.7	外：縦ミガキ、内：脚柱部上半しぼり目・脚柱部下半ナデ	～2mm白・半透明・赤中量	～3mm中量	良好	外・内：2.5YR6/6 橙～7.5YR8/4 浅黄橙、断：10YR8/2 灰	40(脚柱部100・脚端部70)	脚裾部が短く開くタイプ（脚端部やや面あり）、図反転復元	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
130-83	弥生土器	高杯（脚柱部～脚裾部）	B区a13	遺構130(溝)セクション東上層	1322	？×(10.0)、脚柱部径3.5、脚端部径8.4	外：不明瞭(縦ミガキか)、内：脚柱部しぼり目・脚裾部ナデかケズリ(不明瞭)	～2mm白・半透明多量(6mm半透明1個)	～2mm多量	良好	外：7.5YR5/3にぶい褐、内：2.5YR6/6橙、断：5YR3/1黒褐	50(脚柱部90・脚端部20)	脚裾部が短く開くタイプ(脚端部やや面あり)、脚裾部に径4.0～5.0mmの穿孔3個残存(焼成前、外側から内側へ穿孔)、杯部・円板充填部欠損、図反転復元	弥生中期後葉
130-84	弥生土器	高杯（脚柱部～脚裾部）	A区f13	遺構130(溝)上層	710	？×(9.9)、脚柱部径3.0、脚端部径7.9	外：縦ミガキ(後強いナデ)、内：しぼり目・横ケズリ	～2mm白・半透明・黒(チャートか)多量、～1mm赤微量、1mm赤チャート2個	～1mm微量	良好	外・内・断：10YR5/2灰黄褐～10YR4/1褐灰(外面一部10YR6/3にぶい黄橙)	40(脚端部70)	脚裾部が短くなだらかに開くタイプ(脚端部面あり)、脚端部に沈線状の凹線1条	弥生中期後葉
130-85	弥生土器	高杯（脚裾部）	B区y12	遺構130(溝)セクション東上層	1323	？×(4.6)、脚端部径12.2	外：不明瞭、内：不明瞭(ナデ？)	～3mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～3mm多量	良好	外：7.5YR8/4・6/6浅黄橙、内：2.5Y5/1・4/1黄灰、断：2.5Y5/1黄灰～7.5YR8/4浅黄橙	10未満(脚端部20)	径7.0mmの穿孔3個残存、図反転復元	弥生中期後葉
130-86	弥生土器	高杯（脚裾部）	B区y13	遺構130(溝)セクション東上層	1317	？×(3.7)、脚端部径12.4	外：縦ミガキ、内：ナデ	～3mm白・半透明多量	～3mm多量	良好	外：5YR7/6橙～10YR8/4浅黄橙、内：N3/0暗灰(黒色化)、断：N3/0暗灰～5YR7/6橙	10未満(脚端部30)	径5.0～5.5mmの穿孔3個残存(焼成前、外側から内側へ穿孔)、図反転復元	弥生中期後葉
130-87	弥生土器	高杯（脚裾部）	B区y12	遺構130(溝)上層(東側断面　土層図記載)	1610	？×(6.8)、脚端部径11.6	外：不明瞭、内：不明瞭・しぼり目	～5mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～5mm多量	良好	外・内：10R6/8赤橙、断：N5/0灰	20？(脚端部100)	径1.3～1.4cmの穿孔4個(ほぼ90°間隔、焼成前、外側から内側へ穿孔)	弥生中期後葉
130-88	弥生土器	高杯（杯部～脚柱部）	B区b13	遺構130(溝)セクション西上層	1337	？×(5.3)、脚柱部径4.8	外：不明瞭、内：不明瞭・しぼり目	～3mm白・半透明少量	～3mm少量	やや不良	外・内：5YR6/8橙～N4/0灰、断：2.5Y6/1黄灰	10未満	杯部円板充填、一部黒く変色(2次焼成？)、図反転復元	弥生中期後葉
130-89	弥生土器	高杯（脚柱部）	B区y13	遺構130(溝)セクション東上層	1317	？×(13.5)、脚柱部径5.4	外：縦ミガキ、内：不明瞭	～4mm白・半透明・黒(チャートか)中量	～4mm中量	良好	外：2.5YR6/8橙、内：7.5YR8/4浅黄橙、断：N4/0灰	20？(脚柱部90)	脚柱部は中実、脚柱部に幅4.0mmの凹線14条残存(2条が1条に合流する箇所あり)、円板充填部分の痕跡あり、複合土器の脚柱部の可能性あり	弥生中期後葉
130-90	弥生土器	高杯（脚柱部）	B区y12	遺構130(溝)セクション東上層	1323	？×(12.1)、脚柱部径5.0	外：不明瞭、内：しぼり目・横ケズリ・脚裾部ナデか	～4mm白・半透明多量	～4mm多量	良好	外・内：2.5YR7/6～2.5YR7/8橙、断：2.5Y8/2灰白～2.5Y6/1黄灰	20？(脚柱部90)	杯部・円板充填部欠損、図一部反転復元	弥生中期後葉
130-91	弥生土器	高杯（脚柱部）	A区f10	遺構130(溝)セクション北上層	576	？×(11.9)、脚柱部径5.7	外：不明瞭、内：脚柱部しぼり目・脚裾部ナデ	～2mm白・半透明多量、～2mm黒～灰(チャート)・赤チャート中量、～1mm赤少量	～1mm微量	良好	外：2.5YR7/8橙、内・断：7.5YR5/1褐灰～2.5YR7/8橙	20(脚柱部70)	杯部・円板充填部欠損、図反転復元	弥生中期後葉
130-92	弥生土器	高杯（脚台部）	B区a13	遺構130(溝)セクション東上層	1322	？×(6.3)、脚柱部径7.0	外：不明瞭、内：ナデ？(不明瞭)	～3mm半透明多量、～1mm白少量	～3mm多量	良好	外・内：10R6/6赤橙、断：N6/0灰	10？(脚部30)	鉢の可能性あり、径8.0mmの穿孔11個残存(縦に3列分、焼成前穿孔)、残存部上端に変色部あり(杯部との接合部分か)、図反転復元	弥生中期後葉
130-93	弥生土器	脚台（鉢か壺）	A区f11	遺構130(溝)セクション北上層	579	？×（4.3)、脚端部径7.8	外：不明瞭、内：杯部ミガキ？(不明瞭)・脚部不明瞭	～2mm白・半透明少量、～1mm黒(チャートか)・赤微量	～2mm少量	良好	外・内・断：10R5/8赤	10(脚端部80)	脚端部は面あり	弥生中期後葉
130-94	弥生土器	脚台（鉢か壺）	B区a13	遺構130(溝)セクション東上層	1322	？×（3.5)、脚端部径6.8	外：ナデ？(不明瞭)、内：ナデ？(不明瞭)・若干しぼり目	～3mm白・半透明多量	～4mm多量	良好	外・内：7.5YR7/6橙、断：7.5YR8/6浅黄橙	10(脚端部40)	全体的に少しひずむ(手づくね？)、脚端部丸み、外面に刺突文3列＋穿孔1列（刺突文上）＝穿孔6個残存(径2.5mm3個・径1.5mm1個・径1.0mm1個、外側から内側へ穿孔)・穿孔途中孔10個残存(径2.5～3.0mm×深さ1.0～2.0mm、竹管状の工具か)、図反転復元	弥生中期後葉
130-95	弥生土器	脚台（壺か鉢）	B区y12	遺構130(溝)4層上部掘削時(包含層含む)	1228	？×(12.1)	外：不明瞭、内：ナデ？(不明瞭)	緻密、～2mm白・赤少量、3mm半透明2個	なし？	良好	外・内：2.5YR6/6橙～5YR7/6・6/6橙、断：5YR7/6橙	20？	器台かも、外面の一部黒斑か(10YR7/4にぶい黄橙～2.5Y6/1・5/1黄灰)、脚裾部に大きな穿孔2個残存、上端部に接合部分の剥離痕跡あり、新しい時期の遺物の混入または搬入品の可能性あり	弥生中期後葉
130-96	弥生土器	高杯（椀形）	B区a13	遺構130(溝)東側セクション	1436	20.4×(5.3)	外：不明瞭(縦ミガキか)、内：不明瞭	～3mm白・半透明中量、～1mm赤少量	～3mm中量	良好	外・内：7.5YR8/6浅黄橙～7.5YR7/6橙、断：5Y5/1灰	10未満(口縁5)	口縁端部(上面)に面あり、図反転復元	弥生中期後葉
130-97	弥生土器	高杯（杯部～脚部）	B区y13	遺構130(溝)東側側溝	912	？×(3.6)、脚柱部径2.8	外：不明瞭、内：杯部ミガキ？(不明瞭)・脚部不明瞭	～3mm白・半透明少量(5mm半透明1個)、～2mm赤中量	～1mm微量	良好	外・内：5YR7/6橙、断：7.5YR5/2灰褐	20	古墳時代初頭の土師器か(新しい時期の遺物の混入か)、図反転復元	弥生中期後葉
130-98	弥生土器	高杯（杯部～脚柱部）	B区y12	遺構130(溝)4層上部掘削時(包含層含む)	1228	？×(8.2)、脚柱部径3.5	外：縦ミガキ、内：杯部ナデ？(不明瞭)・脚柱部しぼり目	緻密、～1mm白・半透明・赤・黒(チャート？)微量	～1mm微量(3mm1個)	良好	外：7.5YR7/6橙～7.5YR6/3にぶい橙、内：5YR7/6橙～7.5YR7/4にぶい橙、断：5YR5/3にぶい赤褐	20？(脚柱部90)	脚柱部ほぼ中実、2次焼成か	弥生中期後葉
130-99	弥生土器	壺（体部）	B区y12	遺構130(溝)4層上部掘削時(包含層含む)	1228	？×(13.2)、胴部径22.8	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白多量、～2mm半透明中量、～2mm赤少量	～3mm多量	良好	外：10YR8/2灰白～10YR8/4浅黄橙、内・断：2.5Y6/1・5/1黄灰	10	外面に波状文＋直線文＋波状文＋直線文＋波状文＋直線文(波状文・直線文とも単位11本／幅1.8cm、1cm中7本)	弥生中期後葉
130-100	弥生土器	甕（小形～中形）	B区y12	遺構130(溝)4層上部掘削時(包含層含む)	1228	22.4×(6.1)	外：横タタキ、内：ナデ	～2mm白・半透明中量、～1mm黒(チャート)少量・赤微量	～1mm微量	良好	外・内：7.5YR6/6橙～10YR7/6明黄褐、断：10YR5/3にぶい橙	10未満(口縁20)_	口縁端部は上方につまみ上げ、口縁端部に凹線2条(幅3.0mm×深さ1.0mm)＋不明瞭な凹線？1条、図反転復元	弥生中期後葉
128E-1	弥生土器	壺（広口）	A区e15	遺構128-E(溝)下層	704	？×(3.4)	外：横ナデ、内：横ナデか	～2mm白・半透明中量、～1mm赤少量	～2mm中量	良好	外・内・断：5YR6/6橙	10未満	口縁端部に凹線6条(幅2.0～2.5mm)＋円形浮文(縦径1.9×横径2.2cm、中央に径0.9cmの竹管施す)	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
128E-2	弥生土器	高杯(外反口縁)	A区e15	遺構 128-E(溝) 下層(1/10 平面・側面図)	764	19.0×(15.0)、脚柱部径4.3	外：不明瞭(縦ミガキ？)、内：杯部強い縦ナデ(板ナデかも)・脚柱部しぼり目・ナデかケズリ	～3mm白・半透明多量、～2mm赤少量	～3mm多量	良好	外・断：10YR6/3にぶい黄橙 ～5YR5/6明赤褐(一部10YR5/1褐灰)、内：10YR6/2灰黄褐～10YR6/3にぶい黄橙(口縁部7.5YR4/2灰褐)	90(口縁25)	口縁端部は面あり、口縁部は外反する、下層の遺物の可能性あり	弥生中期後葉
128E-3	弥生土器	脚台(鉢)	A区e15	遺構 128-E(溝) 下層	704	？×(5.9)、脚端部径8.7	外：縦ハケ、内：しぼり目・横～斜めハケ	～2mm半透明中量(5mm半透明1個)、～2mm赤少量、～1mm白・黒(チャートか)少量	～1mm微量	良好	外：10YR6/2 灰黄褐～10YR8/3浅黄橙、内：10YR5/1 褐灰～10YR8/3 浅黄橙、断：10YR4/1 褐灰	10未満(脚端部100・脚部ほぼ100)	壺脚台の可能性あり、外面に断面三角貼付突帯2条(ハケ後)、外面ハケ単位10本／幅1.7cm(1cm中7本)、脚端部に接地面あり	弥生中期後葉
128E-4	弥生土器	器台	A区f15	遺構 128-E(溝) 下層	535	？×(5.3)、脚端部径16.8	外：不明瞭、内：不明瞭	～4mm半透明多量、～2mm白・赤少量	～3mm多量	良好	外：5YR6/6橙～10YR8/3浅黄橙、内：5YR8/4淡橙、断：10YR5/1褐灰	10未満(脚端部30)	外面に凹線3条(幅3.0～4.0mm)＋脚端部凹線1条(幅2.5～3.0mm)、径約1.5cmの穿孔1個残存(焼成前、凹線後、外側から内側へ穿孔)、脚端部内面に沈線状、図反転復元	弥生中期後葉
128E-5	弥生土器	蓋(壺用)	A区e13	遺構 128-E(溝) 中層	533	？×(3.4)、つまみ径1.5	外：ナデ？(不明瞭)、内：ナデか(不明瞭)	～4mm半透明中量、～2mm白・灰～黒チャート)少量、～2mm赤微量	～2mm少量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙～10YR7/2にぶい橙、内：7.5YR7/4にぶい橙、断：10YR7/1灰白	40(つまみ100)	つまみ部完存、内面中央部少し凹む	弥生中期後葉
128E-6	弥生土器	壺(直口)	A区e15	遺構 128-E(溝) 中層	703	約18.2×(7.9)	外：縦ハケ、内：ナデか(不明瞭)	緻密、～1mm白・半透明中量	～1mm中量(3mm1個)	良好	外：7.5YR5/3にぶい橙～7.5YR3/1黒褐、内：7.5YR4/2灰褐、断：7.5YR4/1褐灰	10未満	鉢の可能性あり、外面に凹線4条(幅4.0mm)＋刺突文(凹線3条分の長さで凹線上に施文)＋波状文2条残存(ハケ後施文、単位7本／幅1.1cm、1cm中7本)	弥生中期後葉
128E-7	弥生土器	壺(直口)	A区e15	遺構 128-E(溝) 中層	703	19.2×(5.9)	外：不明瞭、内：不明瞭	～2mm白・半透明・赤中量	～5mm多量	良好	外・内：10YR8/2 灰白、断・外面一部：10YR5/1褐灰	10未満(口縁15)	口縁端部～頸部に沈線状の凹線1条(幅1.0mm)＋断面三角貼付突帯1条＋縦長の波状文1条(突帯後、単位10本程度／幅1.2cm？)＋直線文1条残存、図反転復元	弥生中期後葉
128E-8	弥生土器	壺(段状口縁)	A区f14	遺構 128-E(溝) 中層	531	20.4×(8.8)	外：不明瞭、内：不明瞭	～2mm白・半透明多量、～2mm赤少量	なし？	良好	外：5YR7/8 橙、内：7.5YR7/6 橙～5YR7/8 橙、断：10YR8/2 灰白	10未満(口縁15)	口縁部外面に凹線5条(幅3.0～3.5mm)、搬入品の可能性あり、図反転復元	弥生中期後葉
128E-9	弥生土器	壺(広口)	A区e14/(e15)	遺構 128-E(溝) 中層(溝東壁際の遺物、取り上げ写真)/(128-E下層)	756/(同一704)	20.8×(16.4)、頸部径13.6	外：不明瞭、内：不明瞭(ナデか)	～2mm白多量、～1mm半透明中量、5mm赤1個	～3mm多量	やや良好	外・内：2.5YR4/8赤褐～5YR5/6明赤褐、断：5YR5/1褐灰	15(口縁30)	口縁端部に凹線2条(幅2.0～2.5mm)、口縁内面(上面)に列点文(単位8本／幅1.8cm)、頸部～体部に波状文1条＋直線文4条残存(単位7～8本／幅1.3cm、1cm中6本)、2次焼成？、図反転復元	弥生中期後葉
128E-10	弥生土器	器台	A区e14/f14	遺構 128-E(溝) 中層(溝東壁際の遺物、取り上げ写真)/128-E 中層	756/530	？×(19.9)、胴部径15.2	外：不明瞭(縦ミガキ？)、内：横ナデ	～1mm白・半透明中量(5mm白1個)、～1mm黒～灰(チャートか)少量	～3mm中量	良好	外・内・断：5YR5/8 明赤褐	10	径5.0cm程度の穿孔2個残存(凹線後)、外面に凹線5条(幅6.0～8.0mm)、図反転復元	弥生中期後葉
128E-11	弥生土器	高杯(水平口縁)	A区f14	遺構 128-E(溝) 上層	514	27.0/杯部径20.0×(2.4)	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～4mm多量	良好	外・断：10YRにぶい黄褐、内(上面)：7.5YR6/6橙～7.5YR3/3暗褐(変色か)	10未満(口縁20)	水平口縁端部欠損、杯部上面貼付突帯、2次焼成か、図反転復元	弥生中期後葉
128W-1	弥生土器	壺(広口)	A区h14	遺構 128-W(溝) 下層	511	20.4×(5.1)、頸部径16.2	外：縦ハケ、内：縦ハケ・横ハケ(口縁部横ナデ)	～2mm白・半透明・黒(チャートか)中量、～1mm赤微量	～2mm少量	良好	外：7.5YR6/6橙～7.5YR7/4にぶい橙(一部7.5YR5/2灰褐)、内：5YR7/4にぶい橙、断：7.5YR5/1褐灰	10(口縁15)	口縁端部は上下に拡張、内外面ハケ単位1cm中6本、口縁端部若干黒く変色(2次焼成か)、図反転復元	弥生中期後葉
128W-2	弥生土器	壺(広口)	A区g14	遺構 128-W(溝) 下層	512	16.0×(1.8)	外：横ナデか、内：横板ナデか(横ケズリ？)	～2mm半透明少量、～1mm白・赤微量	～3mm多量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙、内：10YR6/2灰黄褐、断：10YR6/1褐灰	10未満(口縁15)	口縁端部に凹線3条(幅2.0mm)、口縁外面(下面)に未貫通の穿孔1個(径2.5mm×深1.0mm、竹管か)、口縁内面は横方向に板ナデかケズリ？(稜線できる)、図反転復元	弥生中期後葉
128W-3	弥生土器	壺(直口)	A区h14	遺構 128-W(溝) 壁下層精査	718	約16.0×(3.5)	外：不明瞭、内：横ナデ	～1mm白・半透明・赤少量	あり？	良好	外：5YR5/6明赤褐～7.5YR3/3暗褐、内：5YR5/6明赤褐、断：10YR7/4にぶい黄橙	10未満(口縁10未満)	口縁端部(上面)は面あり、外面に波状文1条＋凹線2条(幅3.0～4.0mm)＋波状文1条残存	弥生中期後葉
128W-4	弥生土器	壺(小形)	A区h14	遺構 128-W(溝) 壁下層精査	718	約11.0×(3.5)	外：ハケ後ナデ？(不明瞭)、内：ナデか(口縁部横ナデ)	緻密、～1mm半透明中量、～1mm白少量	～2mm中量	良好	外・断：7.5YR6/6橙～4/2灰褐、内：10YR7/4にぶい黄橙	10未満(口縁10未満)	口縁端部は上方につまみ上げ	弥生中期後葉
128W-5	弥生土器	高杯(脚裾部)	A区g14	遺構 128-W(溝) 下層	512	？×(4.8)、脚端部径12.8	外：縦ミガキ(不明瞭)、内：横ケズリ	～2mm白・半透明・黒(チャートか)中量、～1mm赤中量	～1mm少量	良好	外：5YR6/6橙～5YR5/6明赤褐(一部10YR4/1褐灰)、内：5YR5/6明赤褐、断：10YR5/1褐灰	10？(脚端部40)	脚裾部に径4.0～5.0mmの穿孔(貫通1個＋未貫通2個残存、竹管状工具で施す)、脚端部に接地面あり、図反転復元	弥生中期後葉
128W-6	弥生土器	壺(細頸)	A区g14	遺構 128-W(溝) 上層	510	10.0×(8.2)	外：不明瞭、内：不明瞭(ナデか)・若干しぼり目	～1mm白・半透明中量、～1mm赤少量	～2mm中量	良好	外：5YR6/8橙～7.5YR7/4にぶい橙、内・断：10YR6/4にぶい黄橙	10未満(口縁15)	口縁端部(上面)は面あり(やや凹む)、口縁部～頸部に波状文1条(直線文と同じ工具か)＋直線文1条(単位7本／幅0.8cm)＋波状文1条＋直線文1条残存、図反転復元	弥生中期後葉
128W-7	弥生土器	高杯(水平口縁)	A区g14	遺構 128-W(溝) 上層セクション掘削	671	25.0/杯部径19.0×(2.6)	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～3mm中量	良好	外・内：10YR8/3浅黄橙、断：10YR5/1褐灰	10未満(口縁15)	杯部上面に貼付突帯、図反転復元	弥生中期後葉
128W-8	弥生土器	壺(底部)	A区g14	遺構 128-W(溝) 上層	510	？×(3.6)、底部径7.2	外：不明瞭(若干指オサエ)、内：ナデか	～3mm白・半透明多量	～5mm多量	良好	外：2.5YR5/6明赤褐～7.5YR6/4にぶい橙、内：10YR7/2にぶい黄橙～10YR4/1褐灰、断：10YR4/1褐灰	10未満(底部100)	底部上げ底状	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
128W-9	弥生土器	甕（底部）	A区g14	遺構 128-W（溝）上層	510	？×(4.0)、底部径 5.3	外：縦ケズリ、内：ナデ	～1mm白・半透明・黒（チャートか）中量	～1mm中量	やや良好	外：10YR8/3浅黄橙～2.5YR6/6橙、内：10YR8/3浅黄橙～7.5YR5/2灰褐、断：10YR8/3浅黄橙～10YR3/1黒褐	10未満（底部100）	小形甕、外面の一部黒く変色（黒斑か、10YR3/1黒褐）、2次焼成	弥生中期後葉
129-1	弥生土器	蓋（壺用）	A区f13	遺構 129（溝）下層	708	9.8×2.2、つまみ径 0.6	外：縦ケズリ、内：ナデか（口縁部横ナデ）	～2mm白・半透明・黒（チャートか）多量	～1mm少量	良好	外：10YR4/2灰黄褐～10YR6/2灰黄褐、内：10YR1.7/1黒、断：10YR4/1灰褐	60（口縁40・つまみ100）	径 3.0mm の穿孔 4 個（2 個 1 組か 2 箇所、焼成前、上側から下側へ穿孔）、口縁端部やや面あり	弥生中期後葉
129-2	弥生土器	鉢	A区g11	遺構 129（溝）下層 セクション掘削	679	？×(9.1)	外：上半横ナデ（不明瞭）・下半横ミガキ、内：不明瞭（ナデかミガキ）	～3mm白・半透明中量	～3mm中量	良好	外：7.5YR5/3にぶい褐～10YR7/2にぶい黄橙、内：10YR7/2にぶい黄橙、断：10YR3/1黒褐	10未満	口縁部～体部に断面三角貼付突帯 1 条＋波状文 1 条（上端部ナデで一部消える）＋直線文 1 条（単位 8 本／幅 1.8cm、1cm 中 5 本）	弥生中期後葉
129-3	弥生土器	壺（広口）	A区e13	遺構 129（溝）下層	543	約30.0×(3.0)	外：横ナデ、内：横ナデか	～2mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～2mm中量	良好	外・内：5YR6/6橙、断：10YR8/3浅黄橙～10YR6/1褐灰	10未満	口縁端部に凹線 6 条（幅 2.0～2.5mm）＋円形浮文（径 1.6cm）、口縁内面（上面）に扇形文（工具単位 1cm 中 8 本）	弥生中期後葉
129-4	弥生土器	高杯（椀形）	A区e15	遺構 129（溝）下層	545	約30.0?×(3.5)	外：縦ミガキ、内：横ナデ？	～1mm白・半透明・黒（チャート）・赤少量	～1mm少量	良好	外・内：10YR8/4浅黄橙、断：10YR5/1褐灰	10未満	口縁部に凹線 4 条（幅 4.0・2.5・1.5・2.0mm）	弥生中期後葉
129-5	弥生土器	壺（頸部）	A区g13	遺構 129（溝）中層	572	？×(12.3)	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白・半透明多量、～2mm赤少量	～3mm多量	良好	外：5YR7/6橙、内・断：2.5YR6/8橙	10未満	外面に凹線 7 条（幅 3.0～3.5mm、下から 2 番目のみ幅 2.0mm）＋波状文 1 条残存（単位 1cm 中 6～7 本）	弥生中期後葉
129-6	弥生土器	無頸壺	A区g13	遺構 129（溝）上層	571	16.8×(5.4)	外：不明瞭、内：ナデか	～2mm白・半透明・黒（チャートか）中量	～2mm中量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙～10YR6/3にぶい黄橙、内：2.5Y7/4浅黄、断：10YR4/1褐灰	10未満（口縁15）	口縁部～体部に断面三角貼付突帯 2 条＋波状文 1 条（突帯後）＋直線文 1 条（単位 7 本か／幅 1.5cm）＋斜格子文（直線文後、2 本 1 組のヘラ状工具で施文）、図反転復元	弥生中期後葉
291-1	弥生土器	鉢	B区y14	遺構 291（溝）セクション東最下層	1344	？×(4.4)	外：ナデ、内：ナデ	～5mm白多量、～1mm赤少量、3mm砂岩 2 個、1mm黒（チャートか）1 個	～4mm多量	やや良好	外：5YR4/3にぶい赤褐、内：2.5YR5/6明赤褐、断：5YR4/3にぶい赤褐	10未満	口縁端部丸み、外面に直線文 3 条残存（単位 7 本／幅 0.8cm）、2 次焼成か？、下層の遺物の可能性あり	弥生中期後葉
291-2	弥生土器	壺（広口）	B区a14	遺構 291（溝）セクション中の東側 最下層	1403	13.8×(4.1)、頸部径 10.8	外：縦ハケ、内：横ナデ	～1mm白・半透明・赤・黒チャートか）中量	～1mm中量	良好	外・内：7.5YR7/2明褐灰、断：N6/0灰	10未満（口縁20）	口縁端部に凹線 2 条（幅 2.5～3.0mm）、口縁部に径 0.3cm の穿孔 2 個残存（2 個 1 組、焼成前、上側から下側へ穿孔）、外面ハケ単位 1cm 中 4 本、図反転復元	弥生中期後葉
291-3	弥生土器	無頸壺	B区y14	遺構 291（溝）セクション東最下層	1344	13.8×(4.0)	外：不明瞭、内：不明瞭・しぼり目残存（口縁部横ナデ）	～2mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～2mm多量	良好	外：7.5YR8/3浅黄橙～10R6/6赤橙、内：7.5YR8/3浅黄橙～2.5YR6/6橙、断：N1.5/0黒	10未満（口縁10）	口縁端部折り返して肥厚、口縁肥厚部の下側に径 0.45cm の穿孔 1 個残存（焼成前、簾状文後、外側から内側へ穿孔）、体部に簾状文 3 条残存（単位 11 本／幅 1.4cm、静止幅 1.0～8.0mm）、図反転復元	弥生中期後葉
291-4	弥生土器	鉢（小形）	B区y14	遺構 291（溝）東側セクション 下層	1462	12.0×(8.9)、胴部径 13.2	外：斜めタタキ（不明瞭、タタキ後ナデ？）、内：縦板ナデ	～4mm半透明中量、～2mm赤中量、～1mm黒（チャートか）微量	～2mm中量	良好	外：5YR7/6橙、内：5YR7/6橙～7.5YR7/4にぶい橙、断：10YR4/1褐灰	10未満（口縁20）	口縁端部は若干上方につまみ上げて凹線状になる、外面口縁部と体部に煤付着（10YR3/1黒褐）、口縁部～頸部は板ナデ後強い横ナデ、図反転復元	弥生中期後葉
291-5	弥生土器	甕（中形）	B区a14	遺構 291（溝）セクション中の東側 下層	1345	26.0×(6.2)	外：縦板ナデか、内：ナデ	～5mm白・半透明多量	～5mm多量	良好	外：5YR7/6橙～10YR4/2灰黄褐、内：10YR5/2灰黄褐、断：10YR4/1褐灰	10未満（口縁5）	口縁端部は若干上方につまみ上げ、2 次焼成？（変色あり、煤か）、図反転復元	弥生中期後葉
291-6	弥生土器	高杯（椀形）	B区y14	遺構 291（溝）セクション東下層	1331	27.0×(4.0)	外：不明瞭（ミガキ？）、内：ナデ？（不明瞭）	緻密、～1mm白・半透明・赤少量	～1mm微量？	良好	外・内：5YR6/6橙、断：N5/0灰	10未満（口縁10未満）	鉢の可能性あり、外面に凹線 4 条（幅 3.0・1.5・2.0・2.0mm、最上段は幅広）、図反転復元	弥生中期後葉
291-7	弥生土器	高杯（水平口縁）	B区a14	遺構 291（溝）セクション中中層/セクション中の東側下層	1325/1345	25.8/杯部径 18.4×(3.8)	外：縦ミガキ（ケズリ後ミガキか）、内：横ミガキ（不明瞭）、水平口縁部：横ナデ	緻密、～3mm白・赤少量、～2mm半透明少量、～1mm黒（チャートか）少量、2mm赤チャート 1 個	～2mm少量	良好	外・内：5YR6/6橙、断：5YR8/2灰白	10未満（口縁40）	杯部上面貼付突帯、水平口縁部に凹線 2 条（上：幅 2.5～3mm・下：幅 1.5mm）、外面ミガキ幅 2.0mm、図反転復元	弥生中期後葉
291-8	弥生土器	高杯（水平口縁）	B区a14	遺構 291（溝）セクション中層・下層/セクション中の東側下層	1325・1326/1345	26.4/杯部径 18.8×(7.5)、脚柱部径 5.0	外：縦ミガキ（ケズリ後ミガキか）、内：杯部横ミガキ・脚柱部しぼり目	～2mm白・半透明中量、～1mm赤・黒（チャートか）少量	～2mm中量	良好	外：5YR7/6橙（一部 10YR8/3浅黄橙）、内：5YR7/6橙～7.5YR8/4浅黄橙、断：7.5YR7/4にぶい橙	15（水平口縁端部 0・杯部30）	杯部上面貼付突帯、杯部円板充填の痕跡（剥離）、水平口縁の端部欠損（幅 2.0mm の凹線 1 条残存）、外面ミガキ幅 3.0mm、水平口縁部の一部黒色化（黒斑か）、図反転復元	弥生中期後葉
291-9	弥生土器	高杯（水平口縁）	B区y14	遺構 291（溝）セクション東下層	1331	34.0/杯部径 23.8×(2.2)	外：不明瞭、内：不明瞭	～2mm白・半透明・赤多量	～6mm多量	良好	外・内：5YR6/6橙～7.5YR7/6橙、断：N4/0灰	10未満（口縁15）	杯部上面貼付突帯、水平口縁端部はわずかに垂下、下層の遺物の可能性あり、図反転復元	弥生中期後葉
291-10	弥生土器	壺（広口）	B区a14/y14/y14	遺構 291（溝）セクション中下層/セクション東 上層/4 層上部（遺構 290・291 含む）	1326/1328/1224	14.6×(20.0)、頸部径 6.0、胴部径 17.2	外：上半不明瞭・下半横ミガキ（幅 2.5mm か）、内：不明瞭（頸部しぼり目あり）	～4mm白・半透明多量	～4mm多量	良好	外：5YR7/8橙～2.5Y5/1黄灰、内：2.5Y5/1・4/1黄灰～5YR7/8橙、断：2.5Y5/1黄灰	30	口縁端部に凹線 4 条（幅 1.0～1.5mm）、口縁部内面（上面）に列点文、頸部～体部に波状文 1 条＋直線文 3 条（単位 11 本／幅 1.8cm、1cm 中 7 本）＋波状文 1 条、図反転復元、口縁端部と頸部は図上合成	弥生中期後葉
291-11	弥生土器	壺（大形）	B区a14/y14	遺構 291（溝）セクション中下層/セクション東 中層/セクション東上層/4 層上部（290・291 含む）	1326/1329・1330/1341/1224	35.0×(21.9)、胴部径 37.0	外：横タタキ（幅 2.5cm か）、内：ナデ	～4mm白・半透明・赤多量（5mm白 1 個）	～4mm多量	良好	外：10YR8/3・8/4浅黄橙、内：10YR8/3浅黄橙～2.5Y6/1・5/1黄灰、断：2.5Y5/1黄灰	10（口縁25）	口縁端部は上方につまみ上げ、図反転復元	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	粘土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
291-12	弥生土器	鉢	B区 a14/y14	遺構 291(溝)セクション中下層/4 層上部(遺構 290・291 含む)	1326/1220	31.4×(11.8)	外：縦ミガキ(ケズリ後ミガキ)。内：不明瞭(口縁部横ナデ)	～3mm 白・赤多量(4～6mm 半透明数個)	～3mm 多量	やや良好	外・断：5YR6/8 橙～(2.5Y5/2 暗灰黄～2.5Y4/1 黄灰＝黒斑)、内：5YR7/8・6/8 橙	30(口縁45)	口縁端部外面に沈線状の凹線1条(幅1.5mm)、外面屈曲部に幅広でしっかりした凹線3条(幅3.5～4.0mm)、外面ミガキ幅4.0mm、外面に黒斑、接合しない同一個体片多数(登録1220)、図反転復元	弥生中期後葉
291-13	弥生土器	壺(広口)	B区y14	遺構 291(溝)セクション東中堰/セクション東 上層	1330/1328	10.0×(17.0)、頸部径 7.0、胴部径 18.0	外：頸部～体部上半縦ハケ・下半ミガキ?、内：ナデ・一部指オサエ(頸部にハケの痕跡?)	～4mm 半透明多量、～4mm 白中量、～1mm 赤少量、～1mm 黒(チャートか)微量	～3mm 中量	良好	外・内：5YR6/6 橙、断：2.5Y6/1 黄灰	50(口縁40・頸部100)	口縁端部に波状文、頸部～体部に直線文2条(単位7本／幅1.0cm)＋波状文1条(直線文と同じ工具)＋直線文1条＋波状文1条、外面ハケ単位1cm 中8本、図反転復元	弥生中期後葉
291-14	弥生土器	壺(広口)	B区a14	遺構 291(溝)セクション東中層	1325	16.0×(6.9)、頸部径 8.6	外：縦ハケ(不明瞭、単位1cm 中7本)、内：不明瞭	～4mm 白・赤・半透明中量	～3mm 中量	良好	外・内：2.5YR6/6 橙～7.5YR8/1 灰白(一部 10YR5/1 褐灰)、断：N1.5/0 黒	10(口縁100)	口縁端部に波状文、口縁内面(上面)に扇形文2列、頸部に断面三角貼付突帯1条＋直線文1条残存、2次焼成で一部変色(10YR5/1 褐灰)、図反転復元	弥生中期後葉
291-15	弥生土器	壺(広口)	B区a14	遺構 291(溝)セクション東中層	1325	16.4×(3.5)	外：ナデ、内：ナデ	～4mm 白・半透明多量(5mm 白3個)	～4mm 中量	良好	外：5YR7/4 にぶい橙～5YR7/6 橙、内：5YR7/4 にぶい橙～10YR7/2 にぶい黄橙・一部変色 10YR4/1 褐灰＝2次焼成か、断：5YR7/4 にぶい橙～10YR4/1 褐灰	10 未満(口縁10)	口縁端部に凹線6条(幅2.5～3.5mm)＋径1.1cm の円形浮文4個残存、口縁端部(下面)に幅1.5mm の沈線あり、口縁内面(上面)に列点文(工具幅1.6cm)、図反転復元	弥生中期後葉
291-16	弥生土器	壺(広口)	B区a14	遺構 291(溝)東側セクション 中層	1461	26.0×(3.3)	外・内：不明瞭(横ナデか)	～4mm 白・半透明・赤多量、～1mm 黒～灰(チャートか)微量	なし?	良好	外・内：7.5YR8/4 浅黄橙、断：2.5Y5/1 黄灰	10 未満(口縁10)	口縁端部に斜格子文(2本1組のヘラ状工具)＋径1.6cm の円形浮文4個残存、口縁内面(上面)に列点文(工具単位1cm 中7本)、搬入品の可能性あり、図反転復元	弥生中期後葉
291-17	弥生土器	壺(広口)	B区 y14/a14/y14(y14)	遺構 291(溝)東側セクション 中層/セクション中上層/4 層上部(290・291 含む)	1460/1324/1221・(同一1224)	35.0×(3.1)	外：横ナデ、内：横ナデ	～3mm 白・半透明中量、～1mm 赤少量	～3mm 中量	良好	外：2.5Y7/3 浅黄、内：5YR7/6 橙～2.5Y5/1 黄灰、断：5YR7/6 橙	10 未満(口縁25)	口縁端部に凹線5条(幅2.5～3.0mm)＋径 1.5cm の円形浮文5個残存、口縁内面(上面)に列点文(単位 11 本／幅 1.5cm、1cm 中8本)、図反転復元	弥生中期後葉
291-18	弥生土器	甕(中形～大形)	B区y14	遺構 291(溝)セクション東中層	1329	30以上×(2.8)	外：横ナデ、内：横ナデ	緻密、～1mm 白・半透明・赤・黒(チャートか)少量(6mm 赤1個)	あり?	良好	外・内：5YR6/6 橙、断：N7/0 灰白	10 未満	口縁端部のみ残存(口縁部短い)、口縁端部は若干上下に拡張、頸部に指頭圧痕貼付突帯1条、図反転復元	弥生中期後葉
291-19	弥生土器	壺(大形)	B区 y14/b13	遺構 291(溝)セクション東中層／遺構 130(溝)セクション西上層	1329/1337	?×(7.2)、頸部径 31.0	外：細かい横ハケか板ナデ、内：細かい横ハケ	緻密、～3mm 白・半透明・黒(チャートか)中量(4mm 黒1個)、～1mm 赤チャート微量(6mm1個)	～3mm 微量	良好	外・内：10YR8/2 灰白、断：N1.5/0 黒	10 未満	頸部に指頭圧痕貼付突帯1条、外面ハケ幅 0.8cm 以上・内面ハケ幅 2.0cm(1cm 中12本程度)、別々の遺構間の接合、図反転復元	弥生中期後葉
291-20	弥生土器	甕(小形)	B区a14	遺構 291(溝)セクション中中層	1325	13.2×(3.7)	外：縦ハケ(ハケ後ナデか)、内：斜めハケ(不明瞭)	～1mm 白・半透明・赤・黒(チャートか)中量	～1mm 中量	良好	外：2.5YR5/6 明赤褐、内：5YR6/6 橙、断：10YR7/3 にぶい黄橙	10 未満(口縁10)	口縁端部は上方にわずかつまみ上げ、外面タタキかも、外面に煤付着(7.5YR2/2 黒褐)・内面一部に煤？(7.5YR4/2 灰褐)、図反転復元	弥生中期後葉
291-21	弥生土器	甕(小形)	B区y14	遺構 291(溝)セクション東中層	1330	15.4×(10.4)、胴部径 20.6	外：横タタキ、内：ナデ？(不明瞭)	～3mm 白・半透明・赤中量	～3mm 中量	良好	外：2.5YR6/6 橙、内・断：2.5YR6/6 橙～7.5YR7/6 橙	15(口縁30)	口縁端部は上方につまみ上げ、タタキ幅 2.7cm か、外面全体に薄く煤付着、図反転復元	弥生中期後葉
291-22	弥生土器	鉢	B区a14	遺構 291(溝)セクション東中層	1325	28.6×(6.6)	外：ナデかミガキ？(不明瞭)、内：不明瞭	～4mm 赤多量、～2mm 白・半透明少量	～4mm 多量	良好	外：7.5YR8/4 浅黄橙、内：7.5YR7/6 橙、断：10YR6/1 褐灰	10 未満(口縁10未満)	口縁端部に凹線1条(幅4.0mm)、屈曲部に凹線2条残存(幅4.0mm)、図反転復元	弥生中期後葉
291-23	弥生土器	脚台	B区y14	遺構 291(溝)セクション東中層	1330	?×(5.6)、脚端部径 14.2	外：不明瞭(ミガキ?)、内：ナデかケズリ(不明瞭)	～2mm 白・半透明・赤中量(8mm 半透明1個)	～2mm 中量(6mm 1個)	良好	外・断：5YR7/6 橙、内：2.5YR6/6 橙	10 未満(脚端部10)	鉢の脚台か、径 1.0cm の穿孔1個残存(焼成前、外側から内側へ穿孔)、外面に幅広の凹線3条(幅 6.0～6.5mm)、図反転復元	弥生中期後葉
291-24	弥生土器	高杯(杯部～脚柱部)	B区y14	遺構 291(溝)セクション東中層/東側セクション中層/セクション東 上層	1329・1330/1461/1327・1328	?×(9.9)、脚柱部径 6.0	外：不明瞭(ミガキ?)、内：杯部ナデかミガキ?・脚柱部ナデ?(不明瞭)	～3mm 半透明中量、～2mm 白中量、～1mm 赤少量	～3mm 中層	良好	外：7.5YR7/4 にぶい橙、内：5YR6/4 にぶい橙、断：10YR7/3 にぶい黄橙	20(脚部50)	杯部円板充填の痕跡あり(剥離)、脚部に径 0.8cm の穿孔 15 個残存(縦3段が7列＝本来 21 個か、焼成前、外側から内側へ穿孔)、図反転復元	弥生中期後葉
291-25	弥生土器	甕(直口)	B区c15	遺構 291(溝)セクション西中層・下層	1362	10.8×(11.3)、頸部径 8.0	外：不明瞭、内：ナデ・粘土紐接合痕残る	～3mm 白・半透明中量、5mm 砂岩1個	～3mm 中量	良好	外・内：7.5YR8/3 浅黄橙、断：N6/0 灰	10(口縁50・頸部ほぼ100)	口縁の一部欠損(頸部はほぼ完存)、口縁部～頸部に凹線3条(幅2.0・2.5・3.0mm)＋波状文1条か＋直線文1条(単位 10 本／幅 1.3cm、1cm 中8本)＋波状文1条(幅 1.3cm、突帯貼付後)、頸部に断面三角貼付突帯3条残存、下層の遺物の可能性	弥生中期後葉
291-26	弥生土器	甕(中形～大形)	B区c15	遺構 291(溝)セクション西中層・下層	1362	28.8×(8.7)、胴部径 28.8	外：不明瞭(ナデかミガキ?)、内：横ナデか板ナデ	～1mm 白・半透明・赤中量	～1mm 中量	良好	外・内：10YR8/2 灰白、断：N2/0 黒	10 未満(口縁15)	口縁端部は上方につまみ上げ、胴部上半に長楕円状の刺突文6個残存(長径 1.1cm×短径 0.3～0.4cm、棒状工具で下から上方向へ刺突)、図反転復元	弥生中期後葉
291-27	弥生土器	甕(中形～大形)	B区c15	遺構 291(溝)セクション西中層・下層	1362	32.6×(7.8)、胴部径 32.0	外：不明瞭(ミガキ?)、内：ナデ	～2mm 白・半透明少量、～1mm 黒(チャートか)少量	～1mm 少量(3mm 1個)	良好	外：2.5YR6/6 橙、内：N8/1 灰白～2.5YR6/6 橙、断：N2/0	10 未満(口縁10未満)	口縁端部面あり(やや丸み)、2次焼成で若干変色か、図反転復元	弥生中期後葉
291-28	弥生土器	高杯(脚端部)	B区c15	遺構 291(溝)セクション西中層・下層	1362	?×(2.9)、脚端部径 11.6	外：不明瞭、内：横ケズリ	～2mm 白多量	～2mm 多量	良好	外・断：2.5Y5/1・4/1 黄灰、内：7.5YR7/6 橙～2.5Y5/1 黄灰	10 未満(脚端部35)	脚裾部に長さ 7.0mm の刺突文をハ字状(山形状)に施文、図反転復元	弥生中期後葉
291-29	弥生土器	壺(広口)	B区c14	遺構 291(溝)セクション西上層	1358	16.2×(6.6)、頸部径 7.3	外：縦ハケ(不明瞭)、内：不明瞭	～1mm 白・半透明・赤少量	～1mm 少量	やや良好	外：10YR7/2 にぶい黄橙～N4/0 灰、内・断：N2/0 黒～N4/0 灰	10 未満(口縁25)	口縁内面(上面)に扇形文(単位 7本／幅 1.0cm)、2次焼成か、図反転復元	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
291-30	弥生土器	壺（広口）	B区y14	遺構291(溝)セクション東上層	1327・1328	15.6×(8.6)、頸部径11.5	外：不明瞭、内：不明瞭(口縁部横ナデか)	～3mm白・半透明多量、～1mm黒(チャートか)少量、～1mm赤微量	～2mm少量	良好	外・内：7.5YR7/6橙～7.5YR8/6浅黄橙、断：N4/0灰	10未満(口縁ほぼ100)	口縁端部に横方向の擦痕あり(凹線の可能性あり)、図反転復元	弥生中期後葉
291-31	弥生土器	壺（広口）	B区b14	遺構291(溝)セクション中上層	1346	16.0×(6.0)、頸部径11.1	外：縦ハケ、内：ナデ	緻密、～1mm白・半透明・赤中量	～1mm中量	良好	外：7.5YR6/6橙(一部変色10YR4/2灰黄褐＝2次焼成か)、内：2.5YR5/6明赤褐～7.5YR6/6橙、断：7.5YR6/6橙	10未満(口縁60)	口縁端部残存率30％の同一個体が2個体(接合せず)、口縁端部に凹線2条(幅1.0～1.5mm)、口縁部に径1.0～1.5mmの茅孔7個残存(3個1組で2箇所＋1個残存、本来4箇所＝12個か)、図反転復元	弥生中期後葉
291-32	弥生土器	壺（広口）	B区y14	遺構291(溝)セクション東上層	1328	20.4×(11.9)、頸部径14.1	外：不明瞭、内：ナデか(不明瞭)	～4mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～4mm多量	良好	外・内：10YR8/3浅黄橙～7.5YR8/3浅黄橙、断：2.5Y5/1黄灰	10未満(口縁5)	口縁端部に凹線3条(幅1.5～2.0mm)、口縁内面(上面)に列点文、頸部～体部に波状文1条＋直線文2条(単位14本／幅2.0cm、1cm中8本)＋簾状文1条残存(幅2.0cm、静止幅0.7～0.8cm)、図反転復元	弥生中期後葉
291-33	弥生土器	壺（広口）	B区y14	遺構291(溝)セクション東上層	1327	14.0×(6.7)、頸部径7.0	外：横ナデ（縦ハケ後？）、内：横ナデ・ナデ	～4mm白多量、～1mm半透明・赤少量	～4mm多量	良好	外：5YR6/6橙～10YR7/3にぶい黄橙、内：7.5YR7/4にぶい橙～5YR6/6橙、断：7.5YR7/4にぶい橙	15(口縁45・頸部40)	口縁端部に凹線4条(幅1.0mm)＋円形浮文9個残存(径1.2cm)、口縁内面(上面)に列点文(もしくは簾状文、工具単位11～12本／幅1.0cm、静止幅0.2～0.3cm)、頸部に凹線2条残存(幅4.0mm)、図反転復元	弥生中期後葉
291-34	弥生土器	壺（広口）	B区y14	遺構291(溝)セクション東上層	1327	17.0×(4.8)	外：ナデ？(不明瞭)、内：不明瞭	～2mm白中量	～2mm中量	良好	外・内・断：5YR7/8橙～5YR6/6橙	10未満(口縁10未満)	口縁端部欠損、口縁端部に凹線1条残存(幅2.0mm)＋円形浮文1個残存(径1.0cm)、頸部に凹線2条残存(幅4.5mm)、図反転復元	弥生中期後葉
291-35	弥生土器	壺（広口）	B区y14	遺構291(溝)セクション東上層	1328	29.0×(2.6)	外：強い横ナデ、内：ナデ	～3mm白多量、～1mm半透明・赤少量	～3mm多量	良好	外：10YR5/2灰黄褐～10YR6/3にぶい黄橙(口縁外面5YR7/8橙)、内：5YR7/6橙～10YR6/2灰黄褐、断：10YR6/2灰黄褐	10未満(口縁5)	口縁端部欠損、口縁端部に凹線4条残存(幅2.5mm)、口縁内面(上面)に列点文2列(単位10本／幅1.2cm、1cm中8本)、図反転復元	弥生中期後葉
291-36	弥生土器	壺（段状口縁）	B区a14	遺構291(溝)セクション中の東側　上層(遺構290含む)	1340	20.2×(4..6)	外：ナデ？(不明瞭)、内：横ナデ(板ナデ？→一部工具痕か)	～2mm白・半透明中量	～4mm多量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙～10YR7/3にぶい黄橙(一部2.5Y4/1黄灰)、内：10YR8/2灰白～2.5Y6/1黄灰(一部7.5YR7/3にぶい橙)、断：2.5Y4/1黄灰	10未満(口縁10)	口縁外面に列点文1段(単位10本？／幅1.6cm、1cm中7本？)＋列点文の間に櫛状の刺突1列＋列点文1段、2次焼成か(やや変色)、図反転復元	弥生中期後葉
291-37	弥生土器	壺（直口）	B区a14	遺構291(溝)セクション中上層	1324	16.8×(10.4)、頸部径8.4	外：縦ハケ、内：ナデ？(不明瞭)・指オサエ・しぼり目	～4mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～4mm多量	良好	外：5YR7/6・7/8橙、内：2.5Y4/1黄灰～5YR6/6橙、断：5YR7/6橙～2.5Y4/1黄灰	10未満(口縁25)	口縁端部に断面三角貼付突帯1条、外面ハケ単位1cm中6本程度、図反転復元	弥生中期後葉
291-38	弥生土器	壺（直口）	B区y14	遺構291(溝)セクション東上層	1327	16.6×(13.1)、頸部径8.2	外：縦ハケか板ナデ、内：横ナデ	～3mm白・半透明中量(6mm白1個)、～1mm赤微量	～3mm中量(6mm1個)	良好	外：5YR8/2灰白～5YR7/6橙、内：5YR6/6橙、断：5YR8/2灰白	10未満(口縁20)	口縁部～頸部に波状文1条(直線文と同じ工具、板ナデ状)＋凹線1条(幅4.0mm、突帯後のナデの凹みかも)＋断面三角貼付突帯1条(低い突帯)＋凹線1条(幅4.0mm、突帯後凹線)＋波状文1条(凹線後)＋直線文1条(幅1.9cm)、図反転復元	弥生中期後葉
291-39	弥生土器	壺（直口）	B区a14/y14	遺構291(溝)セクション中上層/290・291上層(4層すき取り時)	1324/1296	17.4×(12.7)、頸部径11.8	外：不明瞭(ミガキ？)、内：ナデ(苦干しぼり目)・指オサエ	～3mm白・半透明中量、～1mm赤少量	～3mm中量	良好	外：5YR7/6橙～5YR7/4にぶい橙、内：7.5YR7/4にぶい橙～10YR8/3浅黄橙、断：5YR7/4にぶい橙～5YR7/6橙	10未満(口縁30)	口縁部～頸部に波状文1条(直線文と同じ工具か)＋断面三角貼付突帯1条＋波状文1条(突帯後)＋直線文2条(単位8本／幅1.6cm、1cm中6本)、図反転復元	弥生中期後葉
291-40	弥生土器	壺（直口）	B区y14	遺構291(溝)セクション東上層	1327	13.8×(10.1)	外：不明瞭、内：不明瞭	～4mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～4mm多量	良好	外：7.5YR7/6橙～5YR6/6橙、内：5YR6/6橙～2.5Y4/1黄灰、断：5Y5/1灰～5YR6/6橙	10未満(口縁5)	口縁端部は片口状になる、口縁部～頸部に断面三角貼付突帯2条＋直線文1条残存(幅1.3cm以上、単位1cm中7～8本)、図反転復元	弥生中期後葉
291-41	弥生土器	壺（細頸）	B区y14	遺構291(溝)セクション東上層	1327	8.8×(5.1)	外：不明瞭、内：横ナデ	～2mm白・半透明中量(4mm半透明1個)、～1mm赤少量	～2mm中量	良好	外：10YR8/3浅黄橙～10YR7/3にぶい黄橙、内：10YR8/3浅黄橙～10YR7/3にぶい黄橙、断：2.5Y6/1黄灰	10未満(口縁35)	外面に凹線7条残存(幅1.5・2.0・2.5・3.0・3.0・3.0・？mm)、図反転復元	弥生中期後葉
291-42	弥生土器	壺（広口）	B区a14	遺構291(溝)セクション中上層	1324	26.0？×(3.1)	外：不明瞭(ナデか)、内：不明瞭	～1mm白・半透明中量、～1mm赤・黒(チャートか)微量	～1mm中量	良好	外・内・断：5YR6/6橙	10未満(口縁10未満)	口縁内面(上面)に列点文(凹線後、直線文と同じ工具)、口縁端部に沈線状の凹線1条(幅1.5mm)＋列点文1段(凹線後)＋直線文1条(単位11本／幅1.2cm、1cm中9本)、列点文と直線文上に径1.2cmの円形浮文1個残存(浮文上に径0.3cmの竹管文)	弥生中期後葉
291-43	弥生土器	壺（頸部～体部）	B区y14/a14	遺構291(溝)セクション東上層/セクション中の東側上層(遺構290含む)	1328/1340	？×(11.9)、頸部径5.8、胴部径16.4	外：不明瞭・下半ミガキか、内：横～縦ハケか板ナデ	～2mm白・半透明中量、～1mm赤少量	～2mm中量	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙～5YR6/4にぶい橙、内・断：N4/0灰	30	頸部に沈線状の凹線3条(幅1.5～2.0mm)、図反転復元	弥生中期後葉
291-44	弥生土器	壺？（体部）	B区a14	遺構291(溝)セクション中上層	1324	幅(7.1)×高(5.1)×厚(0.6)	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白中量	～3mm中量	良好	外：5YR7/6・7/8橙、内：2.5Y4/1黄灰、断：2.5Y4/1黄灰～5YR7/6橙	10未満	外面に菊花文風のスタンプ文？タタキ？(タタキ工具を回転させて施す？)	弥生中期後葉
291-45	弥生土器	壺（体部）	B区y14	遺構291(溝)セクション東上層	1328	幅(3.8)×高(3.2)×厚(0.7)	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～3mm多量	良好	外：10YR6/4にぶい橙～10YR7/4にぶい黄橙、内：7.5YR7/4にぶい橙、断：10YR6/1褐灰	10未満	輪状の貼付浮文、図反転復元	弥生中期後葉
291-46	弥生土器	水差（把手）	B区b14	遺構291(溝)セクション中上層	1346	把手：長8.6×幅3.2×厚1.5	外：ナデ(不明瞭)、内：ナデ(不明瞭)	～3mm白・半透明・赤中量	～3mm中量	良好	外：5YR7/6橙、内：7.5YR7/6橙、断：N6/0灰	10未満(把手100)	頸部の屈曲部残る、把手は完存、図反転復元	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
291-47	弥生土器	無頸壺	B区y14	遺構291(溝)東側側溝上層	1276	16.8×(5.6)	外：不明瞭、内：ナデ	～3mm白中量、～1mm赤微量	～3mm中量	良好	外・内：5YR7/6～5YR6/6橙、断：10YR4/1褐灰～10YR3/1黒褐	10未満(口縁10)	鉢か甕の可能性あり、口縁端部丸み(口縁部ややひずみあり)、外面に簾状文3条残存(単位9本／幅1.2cm、1cm中8本、静止幅0.5～0.7cm)、図反転復元	弥生中期後葉
291-48	弥生土器	甕(小形)	B区a14	遺構291(溝)セクション中上層	1324	18.0×(5.8)	外：横タタキか(不明瞭)、内：不明瞭	～3mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～2mm中量	良好	外：5YR7/6橙、内：7.5YR7/6橙、断：10YR5/1褐灰	10未満(口縁25)	口縁部が長いタイプ(口縁端部は若干上方につまみ上げ)、図反転復元	弥生中期後葉
291-49	弥生土器	甕(大形)	B区a14	遺構291(溝)西側セクション上層	1541	36.2×(8.3)、胴部径36.4	外：縦ハケ後横タタキ、内：斜めハケ	～3mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～3mm多量	良好	外：5YR6/6橙、内・断：5YR7/6橙～N7/0灰白	10未満(口縁10未満)	口縁端部は若干上下に拡張、外面にタタキの下に縦ハケの痕跡残る、内面ハケ単位7本／幅2.5cm(1cm中2～3本)、口縁端部外面の一部に煤？(黒く変色)、図反転復元	弥生中期後葉
291-50	弥生土器	甕(底部)	B区a14	遺構291(溝)セクション中の東側上層(遺構290含む)	1340	？×(5.2)、底部径7.8	外：縦ケズリ(底部指オサエ・ナデ)、内：不明瞭	～4mm白・半透明・赤多量	～4mm多量	良好	外：7.5YR7/6橙～10YR7/3にぶい黄橙、内：5YR7/6橙～5YR6/6橙、断：2.5Y6/1黄灰	10未満(底部50)	底部上げ底状、図反転復元	弥生中期後葉
291-51	弥生土器	高杯(椀形)	B区y14	遺構291(溝)東側側溝上層	1276	21.6×(6.1)	外：横ミガキ(不明瞭)、内：不明瞭(ミガキ？)	～2mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～1mm少量	良好	外・内：5YR7/6橙～5YR7/4にぶい橙(一部10YR4/1褐灰)、断：10YR4/1褐灰	10未満(口縁10)	鉢の可能性あり、口縁端部と屈曲部に幅広で浅い凹線2条(幅4.0～5.0mm)、図反転復元	弥生中期後葉
291-52	弥生土器	高杯(椀形)	B区y14	遺構291(溝)セクション東上層	1327	31.0×(6.4)	外：不明瞭(ミガキ？)、内：不明瞭	～4mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～4mm多量	やや良好	外：7.5YR7/4にぶい橙～5YR7/6・6/6橙、内：2.5Y6/2灰黄～2.5Y5/1黄灰、断：7.5YR7/4にぶい橙～2.5Y6/2灰黄	10未満(口縁5)	外面屈曲部に幅広の凹線2条(幅6.0mm)、図反転復元	弥生中期後葉
291-53	弥生土器	鉢	B区y14	遺構291(溝)セクション東上層	1328	36.0×(9.4)	外：横ミガキ、内：不明瞭(ナデかミガキ？)・口縁部横ナデ	～3mm白多量、～1mm半透明中量(6mm半透明1個)、～1mm赤少量	～3mm多量	良好	外：2.5Y5/1黄灰～10YR7/2にぶい橙、外面一部変色(黒斑？、10YR6/2灰黄褐)、内・断：10YR8/3浅黄橙～7.5YR7/4にぶい橙	10(口縁15)	口縁端部に沈線状の凹線(幅1.5mm、不明瞭)、口縁部に斜格子文(1本のヘラ状工具、2本に見える箇所あり→先端が二股に分かれる？)、屈曲部に沈線状の凹線2条(幅1.5～2.0mm)、図反転復元	弥生中期後葉
291-54	弥生土器	高杯(椀形)	B区a14	遺構291(溝)セクション中上層	1324	18.6×(5.5)、脚柱部径4.0	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白多量、～3mm赤多量	～3mm多量	やや良好	外・内：5YR7/6・7/8橙～7.5YR8/4・8/6浅黄橙、断：2.5Y5/1黄灰	10未満(口縁20)	口縁端部は面あり、口縁部と体部の境に屈曲部あり、杯部内板充填、同一個体片3片、図反転復元	弥生中期後葉
291-55	弥生土器	高杯(水平口縁)	B区b14	遺構291(溝)セクション中上層	1346	31.0/杯部径21.0×(2.3)	外：不明瞭、内：不明瞭	～4mm白・半透明・赤多量	～4mm多量	良好	外：10YR8/2灰白、内：7.5YR7/4にぶい橙～7.5YR7/6橙、断：2.5Y6/1黄灰	10未満(口縁10)	杯部上面貼付突帯、水平口縁端部はわずかに垂下させる(下層の遺物の可能性あり)、図反転復元	弥生中期後葉
291-56	弥生土器	高杯(水平口縁)	B区b14	遺構291(溝)セクション中上層	1346	29.6/杯部径22.0×(4.8)	外：不明瞭(水平口縁部横ナデ)、内：不明瞭(ミガキ？)	～4mm白・半透明多量、～1mm赤少量(6mm赤1個)	～4mm多量(6mm1個)	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙、内：5YR7/6橙、断：10YR8/4浅黄橙	10未満(口縁25)	杯部上面貼付突帯、水平口縁端部は大きく垂下させる、図反転復元	弥生中期後葉
291-57	弥生土器	高杯(脚柱部～脚裾部)	B区y14	遺構291(溝)セクション東上層	1328	？×(10.8)、脚柱部径3.3、脚端部径8.4	外：不明瞭(縦ケズリか縦ミガキ？)、内：杯部不明瞭・脚裾部横ケズリ	～3mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～3mm多量(7mm1個)	良好	外・内：5YR6/8橙、断：N6/0灰	30？(脚柱部～脚端部100)	脚裾部が短く開くタイプ、脚裾部に径0.6cmの穿孔5個(焼成前)、脚端部に接地面あり、脚柱部やや傾く	弥生中期後葉
291-58	弥生土器	高杯(杯部～脚柱部)	B区y14	遺構291(溝)東側側溝上層	1276	？×(3.3)、脚柱部径3.6	外：縦ミガキ、内：杯部ハケ(不明瞭)・脚柱部ナデか	緻密、～2mm白・半透明、～1mm赤微量	～2mm少量	良好	外・内：5YR7/6橙～7.5YR7/6橙、断：N3/0暗灰	10未満	杯部円板充填、脚柱部に貫通1個＋未貫通の穿孔16個(径3.5mm、深さ3.0～6.0mm、竹管でなく円筒状の棒状工具)、外面ミガキ幅3.0mm	弥生中期後葉
291-59	弥生土器	高杯(杯部～脚柱部)	B区a14	遺構291(溝)セクション中上層	1324	？×(15.5)、脚柱部径3.6	外：不明瞭、内：杯部ナデ・脚柱部しぼり目	～3mm白・半透明・赤・黒チャート多量、～1mm赤チャート微量	～1mm微量	良好	外・内・断：7.5YR7/4にぶい橙～7.5YR7/6橙	30？(脚柱部ほぼ100)	脚柱部ほぼ中実(長い脚柱部)、外面に沈線4条＋沈線6条＋沈線7条＋沈線4条以上(幅1.0～3.0mm)、図反転復元	弥生中期後葉
291-60	弥生土器	高杯(脚柱部)	B区a14	遺構291(溝)セクション中の東側上層(遺構290含む)	1340	？×(8.2)、脚柱部径4.2	外：不明瞭、内：横ケズリ	～3mm白中量	～3mm中量	良好	外：7.5YR7/6橙、内：5YR7/6橙、断：10YR7/2にぶい黄橙	30？(脚柱部ほぼ100)	脚柱部外面に凹線10条(幅4.0～5.0mm)、複合土器の脚柱部の可能性あり	弥生中期後葉
291-61	弥生土器	高杯(脚柱部)	B区y14	遺構291(溝)セクション東上層	1328	？×(14.7)、脚柱部径5.2	外：縦ミガキ、内：脚柱部横ケズリ(しぼり目)・脚裾部横ケズリかナデ	～4mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～4mm多量	良好	外：2.5YR7/8・6/8橙、内：5YR7/6橙、断：10YR8/3浅黄橙	20？(脚柱部90)	外面ミガキ幅4.0mm、脚柱部と脚裾部の砂粒は逆方向に動く(逆方向にケズリか)、円板充填部欠損？	弥生中期後葉
291-62	弥生土器	高杯(脚裾部)	B区a14/y14	遺構291(溝)セクション中の東側上層(遺構290含む)/4層上部(290・291含む)	1340/1224	？×(4.1)、脚端部径15.4	外：縦ミガキ、内：横ケズリ	～2mm白・半透明中量、～1mm赤少量	～2mm中量	良好	外：10R6/6赤橙、内：2.5YR6/8橙、断：7.5YR7/2明褐灰	10未満(脚端部15)	脚裾部に5.5mmの穿孔4個残存(焼成前、外側から内側へ穿孔)、外面ミガキ幅2.0mm、図反転復元	弥生中期後葉
291-63	弥生土器	高杯(脚柱部～脚裾部)	B区a14	遺構291(溝)セクション中上層	1324	？×(11.0)、脚柱部径5.8、脚端部径12.0	外：不明瞭(縦ミガキか)、内：脚柱部しぼり目・脚裾部ナデ	緻密、～4mm赤少量、～1mm白・半透明少量	～1mm少量	良好	外：5YR6/8橙、内：10YR6/6明黄褐、断：N5/0灰	10未満(脚柱部25・脚端部10)	円板充填部欠損(接合痕跡あり)、脚端部に凹線3条(幅1.0～1.5mm)、図反転復元	弥生中期後葉
291-64	弥生土器	高杯(脚裾部)	B区b14	遺構291(溝)セクション西上層	1349	？×(8.0)、脚端部径16.0	外：縦ミガキ(縦ケズリ後)、内：脚柱部しぼり目・脚裾部ナデ	緻密、～1mm白・半透明・赤・黒(チャートか)少量	～1mm微量？	良好	外：10YR4/1褐灰、内：10YR8/1灰白～10YR4/1褐灰、断：N1.5/0黒	10未満(脚裾部20・脚端部20)	外面縦ケズリ後に縦ミガキ(外面ミガキ幅4.0mm)、2次焼成の可能性あり、図反転復元	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
291-65	弥生土器	脚台（壺か鉢）	B区a14	遺構 291(溝) セクション中 上層	1324	?×（7.1）、脚柱部径 7.8	外：縦ミガキ、内：杯部ハケ後ミガキ・脚柱部ナデ・斜めハケ	～2mm 白・半透明中量、～1mm 赤微量	～2mm 中量（5mm 1個）	良好	外・内・断：5YR7/6 橙～7.5YR7/6 橙	20？	杯部円板充填、杯部内面（見込み部）にハケ痕跡（ハケ後ミガキ）、内面ミガキ幅 4.0mm、図反転復元	弥生中期後葉
291-66	弥生土器	脚台（壺か鉢）	B区y14	遺構 291(溝) セクション東 上層	1328	?×(8.1)、脚端部径 15.8	外：縦ミガキ（不明瞭）、内：横ケズリ	～4mm 白・半透明多量（5mm 半透明 1 個）、～1mm 赤微量	～4mm 多量	良好	外・断：7.5YR8/3 浅黄橙、内：5YR7/4 にぶい橙	10 未満（脚端部 25）	器台の可能性あり、脚端部に凹線 1 条（幅 6.0mm）、径 4.5～5.0mm の穿孔 5 個残存（縦方向に 3 段分、焼成前、外側から内側へ穿孔）、同一個体 2 片、図反転復元	弥生中期後葉
291-67	弥生土器	脚台（無頸壺？）	B区y14	遺構 291(溝) セクション東 上層	1327	?×(7.6)、脚端部径 18.0	外：不明瞭、内：横ナデ	～2mm 白・半透明多量、3mm 砂岩1個、～1mm 赤・灰～黒（チャートか）少量	～1mm 微量	良好	外：2.5YR7/6 橙～10YR6/4 にぶい橙、内・断：5YR8/3 淡橙	10 未満（脚端部 15）	器台の可能性あり、脚部に凹線 4 条（幅 2.5・3.5・3.0・5.0mm）＋脚端部に凹線 1 条（幅 3mm）、径 4.2cm の大きな穿孔 2 個残存（凹線後）、図反転復元	弥生中期後葉
291-68	弥生土器	器台	B区c14	遺構 291(溝) セクション西 上層	1361	?×(8.2)、脚端部径 29.2	外：不明瞭、内：不明瞭（若干剥離）	～2mm 白・半透明多量、～1mm 赤少量、～1mm 黒（チャートか）微量	～1mm 微量	良好	外：5YR7/4 にぶい橙～7.5YR8/3 浅黄橙、内・断：10YR8/3 浅黄橙	10 未満（脚端部 10 未満）	外面に凹線 8 条残存（幅 5.0～6.0mm）、径約 2.8cm の穿孔 1 個残存（1/4 程度残存、凹線後）、脚端部に接地面あり（内側にも面あり→図上の傾きは内傾する可能性あり）、図反転復元	弥生中期後葉
290-1	弥生土器	壺（広口）	B区y14	遺構 290(溝) セクション東 最下層	1558	（30 以上）×（2.5）	外：横ナデ、内：横ナデ	緻密、～1mm 白・半透明・赤少量	1mm 少量	良好	外：N3/0 暗灰（黒色化）、内：7.5YR7/6 橙、断：N6/0 灰	10 未満	口縁部に深い凹線 2 条以上（幅 2.5mm）、口縁内面に列点文 2 条（櫛単位 12 本/幅 1.6cm、1cm 中 8～9 本）	弥生中期後葉
290-2	弥生土器	壺（段状口縁）	B区y14	遺構 290(溝) セクション東 最下層	1558	15.2×(5.7)	外：横ナデか（ミガキ？）、内：横ナデ	緻密、～1mm 白・半透明・赤微量（2mm 白 1 個）	あり？	やや良好	外：7.5YR6/6 橙、内：5YR5/6 明赤褐、断：N5/0 灰	10 未満（口縁20）	口縁外面に凹線 2 条（幅 3.5、2.5mm）、口縁端部上面に沈線（幅 1.5mm）、図反転復元	弥生中期後葉
290-3	弥生土器	壺（直口）	B区y14	遺構 290(溝) セクション東 最下層	1558	17.8×(13.8)、頸部径 11.0	外：縦ハケ、内：ナデ・しぼり痕	～4mm 白多量、～1mm 赤・半透明少量	～4mm 多量	良好	外：5YR7/4 にぶい橙～2.5Y4/1 黄灰、内：10YR7/4 にぶい橙～2.5Y4/1 黄灰、断：2.5Y5/1 黄灰	10 未満（口縁40）	口縁部に断面三角貼付突帯 1 条、図反転復元	弥生中期後葉
290-4	弥生土器	壺・鉢（無頸）	B区y14	遺構 290(溝) セクション東 最下層（落ち込み南）	1540	17.2×(4.8)	外：直線文のため不明瞭、内：横ナデ	～3mm 白・半透明少量	～3mm 少量	良好	外・内・断：7.5YR7/6 橙	10 未満（口縁10）	直線文 2 条（単位 9 本/幅 1.1cm）、口縁端部貼付（貼付後直線文）、図反転復元	弥生中期後葉
290-5	弥生土器	高杯（脚）	B区y14	遺構 290(溝) セクション東 最下層	1558	?×(10.5)、脚柱部径 7.2、脚端部径 14.4	外：ミガキか（不明瞭）、内：しぼり後ナデ	～3mm 白・半透明・黒（チャートか）少量	～3mm 多量	良好	外：10YR8/2 灰白、内・断：10YR8/2 灰白～7.5YR7/6 橙	10 未満（脚端部 30、脚全体 80）	円板充填部剥離、図反転復元	弥生中期後葉
290-6	弥生土器	高杯（脚）	B区y14	遺構 290(溝) セクション東 最下層	1558	?×(5.4)、脚端部径 16.0	外：縦ミガキ、内：横ケズリ	～1mm 白・半透明中量、～1mm 赤・黒（チャートか）微量	～1mm 微量か	良好	外：2.5YR5/6 明赤褐～5YR6/6 橙（一部 7.5YR5/3 にぶい褐）、内・断：5YR6/6 橙	10 未満（脚端部 15）	外面に 1 条＋2 条刺突文（縦 4.0×横 1.5×深 1.0mm の刺突）、図反転復元	弥生中期後葉
290-7	弥生土器	水差（広口）	B区y14	遺構 290(溝) セクション西 下層	1537	13.2×(7.0)、頸部径 8.6	外：縦ハケかミガキ？（不明瞭）、内：不明瞭	～5mm 白・半透明・赤中量	～5mm 微量	やや良好	外・内・断：5YR7/8 橙	10（口縁 30）	頸部に把手の一部残存、図反転復元	弥生中期後葉
290-8	弥生土器	壺（広口）	B区a14	遺構 290(溝) セクション中 下層	1535	18.0×(8.5)、頸部径 11.8	外：直線文のため不明瞭、内：横ナデ	～5mm 白・半透明多量、～1mm 赤微量	～5mm 多量	やや良好	外・内：10YR7/2 にぶい黄橙～10YR8/2 灰黄褐（体部内面 10YR4/1 褐灰）、断：10YR8/2 灰黄褐	10（口縁 30）	口縁部に波状文 1 条、口縁内面に列点文（単位 9 本/幅 1.0cm）、頸部に波状文 1 条・直線文 4 条残存（単位 9 本/幅 1.0cm、波状文後に直線文）、2 次焼成か、図反転復元	弥生中期後葉
290-9	弥生土器	壺（広口）	B区b14	遺構 290(溝) セクション西 下層	1537	19.6×(8.4)、頸部径 11.0	外：簾状文のため不明瞭、内：横ナデ	～2mm 白・半透明中量	～2mm 少量	やや良好	外・内：10YR7/6 明黄褐、断：N5/0 灰	10（口縁 30）	口縁部に細い凹線 3 条（幅 0.5mm）、口縁内面に列点文（工具幅 1.3cm）、頸部に波状文 1 条・簾状文 3 条以上（単位 11 本/幅 1.3cm、1cm 中 9 本、静止幅 0.7～1.2cm）、図反転復元	弥生中期後葉
290-10	弥生土器	壺（頸部）	B区b14	遺構 290(溝) セクション西 下層	1537	?×(10.1)、頸部径 9.0	外：直線文のため不明瞭、内：不明瞭	～5mm 半透明多量、～2mm 白・半透明・赤少量	～5mm 多量	良好	外：7.5YR8/4 浅黄橙～8/6 浅黄橙、内：7.5YR7/6 橙～10YR7/2 にぶい黄橙（下半 2.5Y5/1 黄灰）、断：7.5YR8/6 浅黄橙～2.5Y5/1 黄灰	10（頸部 80）	頸部に凹線 5 条（幅 4.0mm）・直線文 2 条＋2 条（単位 9 本/幅 1.3cm、凹線後）、図反転復元	弥生中期後葉
290-11	弥生土器	水差（頸部）	B区a14	遺構 290(溝) セクション中 下層	1535	?×(7.6)、頸部径 9.4	外：不明瞭・頸部強い横ナデ、内：ハケ（ハケ後ナデ）	～3mm 白・半透明多量、～1mm 赤微量	～4mm 多量	良好	外・内：10YR8/2 灰白、断：N7/0 灰白	15（把手 100）	頸部と把手の一部に煤付着、図反転復元	弥生中期後葉
290-12	弥生土器	甕（小形）	B区b14	遺構 290(溝) セクション西 下層	1537	13.6×(12.2)、胴部径 18.6	外：横タタキ、内：斜めハケ後ナデ・指オサエ	～4mm 白・半透明多量、～1mm 赤微量	～4mm 多量	良好	外：5YR7/6 橙（一部 10YR5/3 にぶい黄褐色、内：2.5Y4/1 黄灰～10YR8/3 淡黄橙、断：5YR7/6 橙～2.5Y4/1 黄灰	20（口縁 35）	外面に若干煤付着、口縁端部は上方につまみ上げる、2 次焼成、図反転復元	弥生中期後葉
290-13	弥生土器	甕（小形）	B区b14	遺構 290(溝) セクション西 下層/セクション中 下層	1379/1389	15.8×(8.4)	外：不明瞭、内：細かい縦ハケ	～3mm 白・半透明少量、～1mm 赤微量	～3mm 少量	良好	外・断：10YR7/2 にぶい黄橙～10YR8/2 灰白、内：5YR7/6 橙～10YR8/2 灰白	10（口縁 25）	口縁端部は上方につまみ上げる、図反転復元	弥生中期後葉
290-14	弥生土器	甕（小形）	B区b14	遺構 290(溝) セクション西 下層	1537	15.2×(7.3)	外：横タタキ、内：縦ナデか板ナデ	～2mm 白・半透明中量、～1mm 赤微量	～2mm 中量	良好	外：7.5YR7/4 にぶい橙～10YR6/2・5/2 灰黄褐、内・断：10YR8/3 浅黄橙～10YR7/1 灰白	10 未満（口縁20）	内面にわずか煤付着、口縁端部は上方につまみ上げる、2 次焼成、図反転復元	弥生中期後葉
290-15	弥生土器	甕（小形）	B区b14	遺構 290(溝) セクション中 下層	1389	17.0×(5.5)	外：横タタキ、内：不明瞭	～4mm 白・半透明中量、～1mm 赤少量	～4mm 多量	やや良好	外・内：5YR6/8 橙、断：N6/0 灰	10 未満（口縁15）	口縁端部は上方につまみ上げる、図反転復元	弥生中期後葉
290-16	弥生土器	甕（中形～大形）	B区b14/b15	遺構 290(溝) セクション中 下層/セクション西 下層	1389/1379	33.4×(23.2)、胴部径 36.2	外：横タタキ、内：ナデ	～3mm 白・半透明中量、～1mm 赤微量	～3mm 中量	良好	外・内：10YR7/2 にぶい黄橙、断：10YR8/2 灰白	20（口縁 30）	口縁部に凹線 3 条（幅 2.0～2.5mm）、外面若干黒く変色（煤か）、図反転復元	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
290-17	弥生土器	鉢	B区b14	遺構290(溝)セクション西下層	1537	?×(4.6)	外：不明瞭 内：ナデ	～2mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～3mm多量	良好	外：10YR8/3 浅黄橙～10YR7/4 にぶい黄橙、内：2.5Y5/1・4/1 黄灰色、断：2.5Y4/1 黄灰	10 未満	外面に刺突文か簾状文、口縁部貼付・凹線3条(幅2.5～3.5mm)	弥生中期後葉
290-18	弥生土器	高杯(椀形)	B区b14/b15	遺構290(溝)セクション中下層/セクション西 下層	1389/1379	24.9×21.5、脚柱部径7.4、脚端部径12.4	外：縦ミガキ(口縁部横ミガキか)、内：縦ハケ	～5mm白・半透明・赤多量	～5mm多量	良好	外・内：5YR7/8 橙(黒斑あり)、断：2.5Y7/1 灰白	70(口縁25、杯部50、脚部100)	杯部に凹線1条(幅3.5mm)＋3条(幅4.0～4.5mm)、脚部に凹線4条(幅3.5mm)、円板充填、図反転復元	弥生中期後葉
290-19	弥生土器	壺(底部)	B区b15	遺構290(溝)セクション西下層	1379	?×(9.7)、底部径9.6	外：縦ミガキ・底部指オサエ後横ナデ、内：ナデ	～4mm白・半透明中量、～3mm赤少量	～3mm中量	良好	外：10YR8/3 浅黄橙～10YR6/1 褐灰(黒斑 2.5Y4/1 黄灰)、内：10YR8/3 浅黄橙、断：10YR6/1 褐灰	10(底部60)	底面1/3に黒斑あり．外面ミガキ幅4.0～5.0mm、図反転復元	弥生中期後葉
290-20	弥生土器	甕(底部)	B区y14	遺構290(溝)セクション東下層	1642	?×(6.8)、底部径8.6	外：縦ケズリ・底部指オサエ後ナデ、内：不明瞭	～2mm白・半透明・赤多量	～2mm多量	良好	外：7.5YT6/4 にぶい橙、内：N3/0 暗灰、断：7.5YR6/4 にぶい橙～10YR8/1 灰白	10 未満(底部100)	若干2次焼成か(やや黒っぽく変色)、中形甕か、図反転復元	弥生中期後葉
290-21	弥生土器	脚台	B区a14	遺構290(溝)セクション中下層	1535	?×(8.3)、脚端部径14.0	外：ナデ（ミガキ?）、内：ナデ	～3mm白・半透明・黒(チャートか)多量、～1mm赤少量	～3mm多量	良好	外・内：5YR6/6 橙、断：10YR5/1 褐灰～5YR6/6 橙	10(脚端部 40)	無頸壺の脚台か、焼成前穿孔3孔残存(もと4孔か)、凹線4条＋1条(幅5.0mm)、内面に接合剥離痕跡)、図反転復元	弥生中期後葉
290-22	弥生土器	壺(広口)	B区y14	遺構290(溝)セクション東中層/取り上げ3(上層)/291下層	1514/1520/1343	17.6×(17.5)、頸部径7.0	外：ミガキ後ナデ?、内：横ナデ	緻密、～1mm白・半透明・黒(チャートか)中量、～1mm赤微量	～1mm微量	良好	外：5YR7/8 橙(口縁一部に煤付着→欠損後に付着か)、内：5YR7/8 橙～下半2.5Y8/2 灰白、断：2.5Y8/2 灰白	40(口縁95、頸部以上90)	口縁部に凹線4条(幅2.5～3.5mm)、口縁部内面に列点文・穿孔8個（2つ1組で4箇所)、頸部に凹線4条(幅5.0～7.0mm)、体部に簾状文3条(幅1.8cm・静止幅0.4～1.0cm)＋直線文1条(波状文後)＋波状文1条	弥生中期後葉
290-23	弥生土器	高杯(水平口縁)	B区a14	遺構290(溝)西側セクション 下層/セクション中中層/セクション中 上層	1509/1422/1383	37.2/杯部径27.2×(16.0)、脚柱部径5.4	外：縦ミガキ(幅4.0mm)、内：不明瞭	～2mm白・半透明多量	～2mm多量	やや不良	外・内：5YR7/6 橙、断：N5/0 灰、全体的に灰色に変色(2次焼成か)	25(口縁25)	杯部上面に貼付突帯、円板充填、口縁部に凹線の可能性あるが不明瞭)、図反転復元	弥生中期後葉
290-24	弥生土器	壺(広口)	B区y14	遺構290(溝)セクション東中層/セクション東 上層/セクション東上層	1514/1515/1452	12.6×(19.1)、頸部径7.9、胴部径18.6	外：縦ミガキ・横ミガキ、内：横ナデか板ナデ	緻密、～1mm白・半透明微量	～1mm微量	良好	外：10YR8/4 浅黄橙、内・断：N3/0 暗灰	50(口縁25)	口縁部に沈線状の凹線3条(幅1.0mm)、体部に凹線8条(幅2.5～3.5mm)、口縁部に径0.35cmの焼成前穿孔(上から下へ穿孔)、内面にタール状の付着あり、底部欠損、図反転復元	弥生中期後葉
290-25	弥生土器	壺(広口)	B区y14	遺構290(溝)セクション東中層	1514	32.0?×(4.3)	外：縦ハケ(不明瞭、1cm中5本か)、内：横ハケ(1cm中9本か)	～2mm白・半透明・黒(チャートか)・赤少量、8mm赤1個	～2mm少量	良好	外・内・断：7.5YR7/4 にぶい橙	10 未満	口縁端部に沈線1条と刻み目2帯(沈線後)、下層の遺物の可能性あり	弥生中期後葉
290-26	弥生土器	壺(広口)	B区y14	遺構290(溝)セクション中中層/セクション中 上層	1422/1383	?×(3.5)	外：ナデ、内：不明瞭	～1mm白・半透明少量	～1mm少量(6mm1個)	やや良好	外・内：10YR7/3 にぶい黄橙、断：N6/0 灰	10 未満	口縁部に凹線5条(幅2.0～2.5mm)、凹線後に棒状浮文3条(浮文に刻み目)、口縁内面に列点文2条(工具単位11本／幅1.5cm)	弥生中期後葉
290-27	弥生土器	壺(直口)	B区y14	遺構290(溝)セクション東中層	1514	18.0×(10.5)、頸部径11.0	外：粗い縦ハケ(1cm4～5本)後に細かい横ハケ、内：不明瞭	～3mm白・半透明多量	～3mm多量	やや良好	外・内：7.5YR7/8 黄橙～10YR8/3 浅黄橙、断：N6/0 灰	10 未満(口縁90)	口縁部片口状、断面三角貼付突帯1条、口縁部に凹線1条(幅2.5mm)、図反転復元	弥生中期後葉
290-28	弥生土器	壺(直口)	B区y14	遺構290(溝)セクション東中層	1514	16.6×(11.8)、頸部径10.8	外：ナデ?、内：横ナデ・ナデ	～3mm白・半透明多量、～1mm赤中量	～3mm多量	良好	外：7.5YR7/4 にぶい橙～7.5YR7/6 橙、内：7.5YR7/4 にぶい橙～2.5Y8/2 灰白(一部 10YR5/3 にぶい黄褐)、断：5Y6/1 灰	10 未満(口縁45)	口縁部に凹線3条(幅2.5～4.0mm)、断面三角貼付突帯1条、口縁端部上面に沈線状、波状文2条(凹線文の後)・直線文3条残存(単位10本／幅1.4cm、1cm中7本)、図反転復元	弥生中期後葉
290-29	弥生土器	壺(細頸)	B区a14	遺構290(溝)西側セクション 中層	1508	10.0×(6.6)	外：不明瞭 内：横ナデ	～3mm白・半透明多量	～3mm多量	良好	外：7.5YR7/4 にぶい橙～10YR5/2 灰黄褐、内：10YR7/6 明黄褐～5Y6/6 橙	10 未満(口縁20)	口縁に凹線7本(幅2.5～3.0mm)、波状文1条・直線文1条残存、一部黒っぽく変色(2次焼成?)、図反転復元	弥生中期後葉
290-30	弥生土器	甕(小形)	B区y14	遺構290(溝)セクション東中層	1514	14.6×(5.3)	外：横タタキ後縦ハケ(1cm中5本)、内：横ナデ・指オサエ	緻密、～1mm白・半透明微量	～1mm微量	やや良好	外：2.5YR6/8 橙～10YR8/2 灰白、内：10YR8/2 灰白、断：N2/0 黒	10 未満(口縁20)	口縁端部は上方につまみ上げ(口縁部に刻み目の可能性あり)、2次焼成か、図反転復元	弥生中期後葉
290-31	弥生土器	甕(小形～中形)	B区y14	遺構290(溝)セクション東中層	1514	22.8×(18.6)、胴部径25.3	外：斜めタタキ、内：横ナデ・ナデ(指オサエ)	～3mm白・赤中量	～6mm中量	良好	外：7.5YR7/6 橙、内：7.5YR7/6 橙～10YR7/2 にぶい黄橙、断面：N7/0 灰白	10(口縁40)	外面に黒斑あり、若干2次焼成で全体に煤付着、口縁端部上方につまみ上げる、図反転復元	弥生中期後葉
290-32	弥生土器	甕(中形)	B区a14/y14	遺構290(溝)西側セクション 中層/セクション東上層	1508/1515	26.6×(9.9)	外：斜めタタキ、内：斜めハケ(単位1cm中11本)	～3mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～3mm多量	良好	外：10YR8/3 浅黄橙～7.5Y7/4 にぶい橙、内：2.5Y8/2 灰白、一部 10YR5/1 褐灰(変色か→煤?)	10 未満(口縁40)	口縁端部は上方につまみ上げ(凹線状になる)、図反転復元	弥生中期後葉
290-33	弥生土器	鉢	B区y14	遺構290(溝)セクション東中層	1514	?×(6.9)	外：不明瞭、内：横ナデ・不明瞭	～4mm白・半透明多量	～9mm多量	やや良好	外：2.5YR6/6 橙～5YR6/6 橙、内：2.5YR5/6 明赤褐～7.5YR7/6 橙、断：2.5Y4/1 黄灰	10 未満	口縁端部貼付・凹線3条(幅1.0～2.5mm)、簾状文3条以上(単位11本／幅1.3cm、1cm中3本、静止幅0.7～0.9cm)	弥生中期後葉
290-34	弥生土器	壺か甕(底部)	B区y14	遺構290(溝)セクション東中層/セクション東 取り上げ3(上層)/取り上げ4(上層)	1514/1520/1521	?×(12.5)、底部径6.5	外：縦ミガキ(ケズリ後か)、内：斜めハケ(幅2.7cm、単位1cm中13本程度)	～3mm白・半透明多量、4～7mm半透明少量	～3mm多量	良好	外：5YR6/8 橙、内：7.5YR8/2 灰白～N5/0 灰、断：N5/0 灰	10(底部100)	体部～底部に黒斑、体部に煤付着、内面底部付近に強いナデ	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量(cm) 口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
290-35	弥生土器	壺(大形)	B区b15	遺構 290(溝) セクション西(南壁断面)中層	1641	?×(14.7)	外：斜めミガキ、内：ナデ	～4mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～4mm多量(9mm1個)	良好	外：10YR8/3 浅黄橙～10YR6/3 にぶい黄橙(一部5YR7/6 橙)、内：10YR7/2 にぶい黄橙～10YR5/1 褐灰、断：10YR6/1 褐灰	10未満	大形壺の頸部、甕の可能性あり	弥生中期後葉
290-36	弥生土器	壺蓋	B区y14	遺構 290(溝) 東側側溝(上層)	1279	13.4×1.4	外：不明瞭(ミガキ？)、内：ナデか	～4mm白・半透明・赤少量	～4mm少量	良好	外：5YR6/6 橙・5YR5/6 明赤褐～7.5YR7/4 にぶい橙、内：7.5YR7/4～6/4 にぶい橙、断：7.5YR7/4 にぶい橙	10(口縁10)	口縁端部が沈線状に凹む、図反転復元	弥生中期後葉
290-37	弥生土器	壺蓋	B区y14	遺構 290(溝) 東側側溝(上層)	1278	13.8×(1.6)	外：不明瞭、内：ナデか	緻密、～1mm白・半透明少量、～1mm赤・黒(チャートか)微量	～1mm少量	良好	外：7.5YR6/3 にぶい褐～10YR7/2・7/3 にぶい黄橙、内：5YR6/4 にぶい橙～5YR5/4 にぶい赤褐、断：10YR6/3 にぶい褐	20(口縁20)	焼成前穿孔2箇所(径4.0mm)＋未貫通孔1箇所(竹管、径4.0mm)、口縁部若干黒色化(煤か)、図反転復元	弥生中期後葉
290-38	弥生土器	壺蓋	B区y14	遺構 290(溝) 東側側溝(上層)	1278	19.4×(1.5)	外：縦ケズリ、内：強い横ナデ	緻密、～1mm白・半透明微量	～1mm微量	良好	外：10YR3/1 黒褐色、内 10YR4/2 灰黄褐色～10YR3/2 黒褐色、断：10YR2/1 黒～10YR4/2 灰黄褐	10未満(口縁10)	壺蓋の可能性も、若干黒色化(2次焼成の可能性あり)、図反転復元	弥生中期後葉
290-39	弥生土器	壺(広口)	B区b15	遺構 290(溝) 南側側溝	915	20.6×(13.8)、頸部径13.2	外：不明瞭、内：不明瞭(ナデか)	～4mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～4mm多量(8mm1個)	良好	外：10YR8/3 浅黄橙、内：10YR8/1 灰白、断：N2/0 黒	10未満(口縁20)	頸部に断面三角貼付突帯1条、口縁端部若干つまみ上げて沈線状になる、2次焼成か、図反転復元	弥生中期後葉
290-40	弥生土器	壺(広口)	B区y14	遺構 290(溝) セクション東取り上げ11(上層)/セクション東上層	1524/1380	14.3×(6.3)、頸部径8.2	外：縦ハケ(単位1cm中5本)、内：不明瞭	～2mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～2mm多量	良好	外：5YR7/6 橙、内：5YR7/6 橙～10YR8/2 灰白～N3/0 暗灰、断：5YR7/6 橙～N3/0 暗灰	20(口縁10、頸部100)	頸部に凹線2条(2.5～3.0mm)、口縁部に凹線2条(沈線状、幅0.5mm)、口縁内面に波状文(不明瞭)、図反転復元	弥生中期後葉
290-41	弥生土器	壺(広口)	B区y14	遺構 290(溝) 東側側溝(上層)	1277	20.0×(4.9)	外：縦ハケ(単位1cm中6本)、内：不明瞭(ナデ？)	～2mm白・半透明中量、～1mm赤少量	～2mm中量	良好	外・内：N7/0 灰、断面：N1.5/0 黒、2次焼成か(やや硬質、黒っぽい)	10未満(口縁10)	口縁部に凹線2条(幅2.0～2.5mm)＋刻み目、口縁内面に扇形文(単位8本／幅1.4cm、1cm中6本)、図反転復元	弥生中期後葉
290-42	弥生土器	壺(広口)	B区y14	遺構 290(溝) 東側側溝(上層)	1277・1278・1279・1280	21.2×(20.7)、頸部径10.6	外：頸部縦ハケ・体部横タタキ後縦ハケ、内：ナデ？	～3mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～3mm多量	良好	外：10YR8/3 浅黄橙、内：10YR8/3 浅黄橙～10YR8/2 灰白(下半 2.5Y5/1 黄灰)、断：2.5Y5/1 黄灰	30(口縁95)	頸部に長楕円形状の刺突文、外面ハケ単位17本／幅3.4cm(1cm中7本)	弥生中期後葉
290-43	弥生土器	壺(広口)	B区y14	遺構 290(溝) セクション東取り上げ10・14(上層)/セクション東上層／東側側溝(上層)	1527・1529/1380・1452/1277・1279	21.6×(34.7)、頸部径13.8、胴部径28.0、底部径6.0	外：横ミガキ・縦ミガキ、内：不明瞭(ナデか)	～4mm白・半透明多量(9mm白1個)、～1mm赤少量	～8mm多量	やや良好	外・内・断：7.5YR7/6 橙・5YR7/6・7/8 橙～10YR8/6 黄橙(黒斑：N5/0・4/0 灰)	80(口縁75、底部100)	口縁部に凹線4条(幅1.5～3.0mm)、頸部～体部に櫛状文8条(単位14本／幅1.6cm、静止幅0.4～0.6cm)、底部に黒斑あり、図反転復元	弥生中期後葉
290-44	弥生土器	壺(広口)	B区y14	遺構 290(溝) セクション東上層/遺構 291(溝)セクション東上層	1512/1328	30.4×(8.1)	外：不明瞭、内：不明瞭(横ナデか)	～2mm白・半透明・赤少量(8mm半透明1個)	～2mm少量	良好	外・内：7.5YR7/4 にぶい橙～7.5YR6/3 にぶい褐、断：10YR8/2 灰白	10未満(口縁20)	口縁部に波状文(不明瞭)、口縁内面に波状文1条＋扇形文(単位10本／幅1.3cm)・径3.0mmの穿孔6個残存(3つ1組が2箇所残存)、図反転復元	弥生中期後葉
290-45	弥生土器	壺(広口)	B区b14	遺構 290(溝) セクション西上層	1381	18.6×(4.4)	外：不明瞭、内：横ナデ	～2mm白・半透明中量、～1mm赤・灰～黒チャートか)微量(5mm赤1個)	～2mm中量(3mm1個)	良好	外・内：5YR6/6 橙～7.5YR7/4 にぶい橙、断：7.5YR6/3 にぶい褐	10未満(口縁20)	口縁部に凹線3条(幅0.5～3.5mm、1本沈線状)、口縁部内面に刺突列点文(か扇形文、単位8本／幅1.3cm、1cm中7本)、頸部に波状文(1cm中8～9本)、図反転復元	弥生中期後葉
290-46	弥生土器	壺(広口)	B区y14	遺構 290(溝) 東側側溝(上層)	1278	17.4×(8.4)、頸部径11.4	外：縦ハケ、内：不明瞭	～3mm白・半透明中量	～3mm中量	やや良好	外・内：5YR6/8 橙、断：2.5YR6/1 黄灰	10未満(口縁20)	口縁部に凹線4条残存(幅1.0～1.5mm)、口縁内面に刺突列点文(工具幅1.5cm)、頸部に直線文3条残存(単位13本／幅1.5cm、1cm中8～9本)、若干2次焼成か)、図反転復元	弥生中期後葉
290-47	弥生土器	壺(広口)	B区a14	遺構 290(溝) セクション中上層南肩(291切り合い部分)	1468	24.8×(1.7)	外：横ナデ、内：強い横ナデ	緻密、～1mm白・半透明・赤・黒(チャートか)少量	～1mm少量	良好	外：5YR7/4 にぶい橙、内：N2/0 黒、断：N5/0 灰	10未満(口縁10未満)	口縁部に凹線1条残存(幅3.5mm)、口縁内面に竹管文1条(径5.0mmの竹管6個残存)、図反転復元	弥生中期後葉
290-48	弥生土器	壺(広口)	B区y14	遺構 290(溝) セクション東取り上げ7/セクション東上層／東側側溝	1526/1515/1278	18.4×(3.8)	外：横ナデ、内：不明瞭	～5mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～5mm少量	良好	外：6YR7/6 橙、内：10YR8/2 灰白、断：7/0 灰白	10未満(口縁75)	口縁部に凹線5条(幅2.5～3.0mm)、凹線後に縦方向の沈線(3条1組)、口縁部内面に刺突列点文2列(工具幅7～8本／幅1.4cm、1cm中6～7本)、焼成前穿孔10孔残存(うち1つ未貫通、3孔1組が4箇所)、若干2次焼成か(少し軽くなる)、図反転復元	弥生中期後葉
290-49	弥生土器	壺(広口)	B区b15	遺構 290(溝) 東側側溝(上層)	914	23.6×(3.7)	外：不明瞭(剥離)、内：不明瞭	～2mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～2mm多量	良好	外：2.5Y8/1 灰白、内：5YR6/8 橙、断：N4/0 灰	10未満(口縁20)	口縁部に凹線1条(幅2.0mm)＋不明瞭だが凹線2条、凹線後に径9.0mmの竹管文(6個残存)、図反転復元	弥生中期後葉
290-50	弥生土器	壺(広口)	B区y14	遺構 290(溝) セクション東上層／遺構 291(溝) セクション東上層	1512/1327	23.0×(2.85)	外：不明瞭、内：不明瞭	～2mm白・半透明・黒～灰チャートか)、2mm赤チャート？1個	あり？(微量)	良好	外・内：5YR6/6 橙～10YR7/4 にぶい黄褐、断：2.5Y4/1 黄灰～2.5Y3/1 黒褐	10未満(口縁15)	口縁部に凹線1条(幅3.0mm)＋刺突列点文(単位12本／幅1.3mm、1cm中10本)＋簾状文(幅不明、単位1cm中10本、静止幅0.1～0.35cm)＋径1.3cmの円形浮文(凹線文後に貼付、円形浮文上に径0.4cmの竹管文)、図反転復元	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
290-51	弥生土器	壺(広口)	B区b15	遺構290(溝)東側側溝(上層)	914	20.6×(2.6)	外：ナデ？(不明瞭)、内：不明瞭	～2mm白・半透明・赤少量	～3mm中量	良好	外・内：5YR7/6橙～2.5YR7/8橙(一部N3/0暗灰)、断：N3/0～5YR7/6橙	10未満(口縁20)	口縁部に凹線4条(幅2.0～2.5mm、不明瞭)＋径1.3cmの円形浮文(浮文後に径0.7cmの竹管文)、図反転復元	弥生中期後葉
290-52	弥生土器	壺(広口)	B区y14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1277・1278・1280	23.0×(11.8)、頸部径9.2	外：不明瞭、内：不明瞭(横ナデか)	～3mm白多量、～2mm半透明少量、～1mm赤少量	～3mm多量	良好	外：2.5YR6/8橙、内：7.5YR6/6橙、断：10YR7/1灰白～2.5YR6/8橙	20(口縁80)	口縁部に凹線6条(幅1.5mm)＋径1.5cmの円形浮文(7個残存、もと2個1組で6箇所=12個か)、口縁部内面に刺突列点文2列(単位10～11本／幅1.7cm、1cm中6～7本)、頸部に凹線6条(幅3.5～4.0mm)、若干2次焼成(器壁剥離あり、やや赤に変色)、図反転復元	弥生中期後葉
290-53	弥生土器	壺(広口)	B区y14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1277・1280	23.4×(13.0)、頸部径9.4	外：不明瞭(ナデか・一部縦ハケ？)、内：ナデ・若干粘土紐残る	～4mm白・半透明多量、～2mm赤少量	～4mm多量	良好	外：5YR7/6橙～10YR8/4浅黄橙(一部7.5YR5/3にぶい褐)、内：5YR7/6橙～7.5YR7/4にぶい橙(一部10YR8/2灰白)、断：7.5YR7/4にぶい橙～10YR8/4浅黄橙、若干2次焼成？(赤っぽく変色か)	20(口縁45)	口縁部に凹線6条(上4条幅2.5～3.0mm、下2条1.5～2.0mm)＋径1.2～1.3cmの円形浮文、口縁部内面に刺突列点文(工具幅9本／幅1.4cm、扇形文かも)＋穿孔2個1組が5箇所=計10個残存(径2.0mm、もと2個1組が7箇所か)＋半円状の刺突文1条、頸部に波状文1条(簾状文後)＋簾状文1条(凹線後、単位8～9本／幅1.4cm、静止幅0.5～0.8cm)＋凹線8条(幅3.5～4.0mm)、図反転復元	弥生中期後葉
290-54	弥生土器	壺(広口)	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層	1515	27.2×(8.5)	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～3mm多量(6mm1個)	良好	外：10YR7/6明黄褐～5YR6/6橙、内：5YR6/8橙、断：10YR5/1褐灰	10未満(口縁15)	口縁部に凹線5条(幅2.0～2.5mm)＋円形浮文3個残存(径1.4cm)、口縁部内面に扇形文＋穿孔2孔残存(径2.5mm、2孔1組)、頸部に波状文(単位1本／幅1.2cm)、図反転復元	弥生中期後葉
290-55	弥生土器	壺(広口)	B区b14	遺構290(溝)セクション西上層	1381	28.2×(5.8)	外：縦ミガキ、内：不明瞭	～3mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～3mm中量	良好	外：5YR7/6橙、内・断：7.5YR7/4にぶい橙	10未満(口縁10)	口縁部に凹線5条(幅2.0～3.0mm)＋円形浮文4個残存(径1.4cm)、頸部に波状文1条残存(ミガキ後)、図反転復元	弥生中期後葉
290-56	弥生土器	壺(広口)	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層南肩(291切り合い部分)	1468	33.6×(4.5)	外：不明瞭、内：横ナデ	～3mm白・半透明多量、～1mm赤少量(6mm白数個)	～3mm多量	良好	外：5YR7/6橙～10YR5/3にぶい黄褐、内・断：7.5YR7/6橙～7.5YR8/4浅黄橙	10未満(口縁20)	口縁部に凹線6条(幅1.5～2.0mm)＋径2.0cmの円形浮文4個残存(浮文に径0.8cmの竹管文)、図反転復元	弥生中期後葉
290-57	弥生土器	壺(直口)	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層	1513・1515	10.4×(7.6)、頸部径7.4	外：不明瞭(ミガキか)、内：不明瞭(ナデ？)	～4mm白・半透明(1cm白1個・7mm半透明1個)	～4mm中量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙、内：10YR8/2灰白～10YR7/2にぶい黄橙(一部7.5YR7/4にぶい橙～2.5Y4/1褐灰)、断面：10YR8/2灰白～7/2にぶい黄橙	10未満(口縁25)	口縁部に凹線(幅6.0mm)、図反転復元	弥生中期後葉
290-58	弥生土器	壺(直口)	B区b14	遺構290(溝)セクション中上層	1383	18.0×(11.6)、頸部径16.4	外：不明瞭、内：不明瞭	～4mm白多量、～2mm半透明・赤少量	～4mm多量	やや不良	外：10YR7/6・6/6明黄褐(一部2.5Y5/1黄灰)、内：10YR6/4にぶい黄橙(一部2.5Y5/1)、断：2.5Y5/1黄灰	10未満(口縁15)	口縁部に細い凹線(幅1.5mm、不明瞭)、口径広く水差形の可能性あり、図反転復元	弥生中期後葉
290-59	弥生土器	壺(直口)	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層/セクション東　取り上げ5/遺構291　セクション東　中層/遺構291　セクション東上層	1512・1515・1452/1522/1342/1327	13.6×36.3、頸部径11.4、胴部径240?、底部径6.6	外：胴部上半に横タタキ痕跡・胴部下半縦ケズリ、内：不明瞭(一部ナデ)	～3mm白・半透明多量	～3mm多量	やや良好	外：10YR6/6赤橙～10YR8/4浅黄橙、内：10YR6/6赤橙、断：N6/0灰	30(口縁5、頸部100)	頸部に列点文(工具幅1.7cm)、図反転復元（図上復元）	弥生中期後葉
290-60	弥生土器	壺(直口)	B区y14	遺構290(溝)セクション東取り上げ2(上層)	1519	18.4×(39.8)、頸部径11.0、胴部径28.0	外：頸部～胴部上半ミガキ？・胴部下半縦ケズリ、内：不明瞭	～5mm白・半透明多量、～2mm赤中量	～7mm多量	良好	外：5YR6/8橙、内：5YR6/6橙～10YR7/4にぶい黄橙、断：N7/0灰白	40(口縁30、頸部50)	口縁部に断面三角貼付突帯1条＋波状文2条(突帯後)、頸部～胴部に直線文4条(10本／幅1.5cm、1cm中7本)、胴部に波状文1条、胴部上半に竹管文2個(径0.9cm)、底部欠損、図反転復元	弥生中期後葉
290-61	弥生土器	壺(直口)	B区y14	遺構290(溝)東側側溝(上層)/セクション東　上層	1277・1278・1279・1280/1452	21.0×(25.3)、頸部径12.8	外：不明瞭、内：ナデ・頸部しぼり目	～2mm白・半透明・灰～黒(チャート)多量、～1mm赤少量	～1mm少量	良好	外・内：5YR6/6橙～7.5YR6/4にぶい橙、断：10YR5/4にぶい褐	20(口縁50)	口縁部に断面三角貼付突帯2条＋波状文3条(突帯後)、頸部～胴部に直線文5条＋波状文2条残存(単位10本／幅1.8cm、1cm中7本)、図反転復元	弥生中期後葉
290-62	弥生土器	壺(直口)	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層/セクション東　取り上げ13	1513・1515・1452/1531	17.0×(13.3)、頸部径10.4	外：不明瞭、内：不明瞭(若干しぼり目)	～4mm白多量、～1mm半透明少量、～1mm赤微量	～4mm多量	良好	外：10YR8/2灰白～5YR7/6橙(一部10YR4/1褐灰)、内：7.5YR8/4浅黄橙～10YR4/1褐灰、断：10YR4/1褐灰	20(口縁85、頸部ほぼ100)	口縁部に断面三角貼付突帯1条、若干2次焼成か(器壁剥離あり)	弥生中期後葉
290-63	弥生土器	壺(直口)	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層	1380	20.2×(16.7)、頸部径13.8	外：横ナデ、不明瞭、内：不明瞭	～2mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～4mm多量	良好	外：10YR8/3・8/4浅黄橙、内：2.5YR7/4淡赤橙～2.5Y8/1灰白、断：2.5Y5/1黄灰	10(口縁40)	口縁部に断面三角貼付突帯2条(突帯に刻み目)、頸部に貼付浮文の痕跡、図反転復元	弥生中期後葉
290-64	弥生土器	壺(直口)	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層	1512	21.0×(11.7)	外：不明瞭、内：横ナデ・しぼり痕後ナデ	～3mm白・半透明・赤多量	～9mm多量	良好	外：2.5YR6/6橙～10YR8/3浅黄橙、内：10YR8/3浅黄橙、断：N3/0暗灰色	10未満(口縁15)	口縁部片口状、口縁部に断面三角貼付突帯2条＋波状文1条、頸部に波状文1条(突帯後)＋直線文2条(単位12本／幅2.0cm)、図反転復元	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
290-65	弥生土器	壺（直口）	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層	1382	23.6×(12.2)	外：不明瞭、内：横ナデ・不明瞭	～3mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～5mm多量	良好	外・内：10YR8/3浅黄橙、断：2.5Y5/1黄灰	10未満（口縁25）	口縁部に断面三角貼付突帯2条、波状文2条(突帯後)、図反転復元	弥生中期後葉
290-66	弥生土器	壺（直口）	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層南肩(遺構291切り合い部分)	1468	24.4×(6.2)	外：不明瞭、内：不明瞭	～2mm白・半透明・赤多量	～2mm多量	良好	外：5YR6/6橙、内：10YR8/3浅黄橙、断：N6/0灰	10未満（口縁10）	口縁部に断面三角貼付突帯2条＋波状文1条(縦長の波状文)、図反転復元	弥生中期後葉
290-67	弥生土器	壺（直口）	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層	1383	14.2×(8.6)、頸部径8.8	外：不明瞭、内：不明瞭	～2mm白・半透明多量、～1mm赤・黒(チャートか)微量	～2mm多量	やや良好	外：10YR8/3浅黄橙～10YR7/3にぶい橙、内：10YR7/4にぶい黄橙～2.5Y5/1黄灰、断：2.5Y4/1黄灰	10未満（口縁35）	口縁部に断面三角貼付突帯1条＋凹線5条(幅1.5～2.0mm)、口縁端部丸み、2次焼成か(外面やや剥離)、図反転復元	弥生中期後葉
290-68	弥生土器	壺（直口）	B区γ14	遺構290(溝)セクション東上層	1515	17.8×(6.2)	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白・半透明・赤多量	～3mm多量	やや良好	外：10YR8/3浅黄橙、内：10YR8/2灰白、断：N7/0灰	10未満（口縁10未満）	口縁部片口状、口縁部に凹線3条(幅3.0mm、貼付突帯でない?)＋波状文2条(凹線後か、不明瞭)、若干2次焼成か、図反転復元	弥生中期後葉
290-69	弥生土器	壺（細頸）	B区γ14	遺構290(溝)セクション東上層	1380・1452	11.2×(18.5)、頸部径7.2	外：不明瞭、内：横ナデ・不明瞭	～6mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～8mm多量	良好	外：7.5YR7/6橙、内：7.5YR7/8黄橙～N4/0灰、断：10YR5/1褐灰	20(口縁25、頸部60)	口縁部～頸部に凹線9条(幅3.5～5.0mm)＋簾状文1条(単位13本／幅1.8cm、1cm中8本)＋断面三角貼付突帯4条＋簾状文2条(単位13本／幅1.8cm、静止幅0.4～0.7cm)＋直線文1条以上(幅1.8cm、1cm中8本)、図反転復元	弥生中期後葉
290-70	弥生土器	壺（細頸）	B区γ14	遺構290(溝)セクション東上層／遺構291(溝)セクション東中層	1512/1329	12.4×(7.4)	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白・半透明・赤多量	～3mm多量	良好	外・内：5YR7/6橙～7.5YR8/6浅黄橙、断：2.5Y4/1黄灰	10未満（口縁45）	口縁部に凹線10条以上(最上部：沈線状・幅1.5mm、上部4条：幅2.0～2.5mm、下部5条：幅3.5～4.0mm)、図反転復元	弥生中期後葉
290-71	弥生土器	壺（頸部～底部）	B区γ14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1278	?×(16.3)、頸部径5.0、胴部径16.0、底部径5.6	外：上半斜めハケ5本／幅1cm)・下半横ミガキ、内：指オサエ＋ナデ	～1mm白・半透明・黒(チャートか)少量、～1mm赤微量	～1mm少量(3mm1個)	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙～10YR6/2灰黄褐、内・断：2.5Y8/1灰白	30(体部50、底部30)	外面下半～底部に黒斑、ミガキ幅2.0～2.5mm（縦ミガキの後に横ミガキ)、図反転復元	弥生中期後葉
290-72	弥生土器	壺（体部）	B区γ14	遺構290(溝)セクション東上層	1515	?×(11.8)、胴部径16.4	外：下半横ミガキ(不明瞭)、内：指オサエ(不明瞭)	～3mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～3mm多量	良好	外：10YR8/4浅黄橙～7.5YR7/6橙(一部10YR4/2灰黄褐)、内・断：10YR8/3浅黄橙	10	胴部に直線文3条(幅1.2cm?、1cm中7本程度)＋波状文1条(不明瞭)、体部外面に黒斑、図反転復元	弥生中期後葉
290-73	弥生土器	壺（体部）	B区γ14	遺構290(溝)セクション東上層	1380	?×(8.8)、頸部径9.3	外：縦ハケ(9本／幅2.4cm)、内：横ナデ・若干しぼり目	緻密、～2mm白・半透明・赤中量	～2mm中量	良好	外・内：10YR7/3にぶい黄橙～10YR7/2にぶい黄橙、断：2.5YR5/1黄灰色	10未満（頸部25）	直口壺の頸部か、径5.0mmの竹管文2つ残存、図反転復元	弥生中期後葉
290-74	弥生土器	壺（体部）	B区γ14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1277	?×(19.2)、頸部径11.5、胴部径24.8	外：縦ハケ、内：縦方向の板ナデか強いナデ	～2mm白・半透明・赤中量	～3mm中量	良好	外：2.5YR6/6橙、内：10YR8/2灰白、断：N3/0暗灰	30	直口壺の頸部か、図反転復元	弥生中期後葉
290-75	弥生土器	壺（頸部）	B区γ14	遺構290(溝)セクション東上層	1512	?×(7.5)	外：不明瞭、内：不明瞭	～2mm白・半透明多量、～1mm赤・黒(チャートか)微量	～2mm多量(6mm1個)	やや良好	外：5YR6/4にぶい橙～5YR6/6橙、内：5YR6/8橙～10YR5/3にぶい黄褐、断：10YR6/1褐灰	10未満	直口壺の頸部、断面三角貼付突帯1条残存(やや丸み)、波状文1条(突帯後)＋直線文2条残存(単位9本／幅1.3cm、1cm中7本)、2次焼成か、図反転復元	弥生中期後葉
290-76	弥生土器	壺（頸部）	B区γ14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1280	?×(16.7)、頸部径10.6	外：不明瞭、内：強い横ナデ	～5mm白・半透明多量	～5mm多量	良好	外：5YR7/6橙、内：10YR8/3浅黄橙～下半2.5Y4/1黄灰、断：7.5YR8/6浅黄橙	10未満（頸部20）	直口壺の頸部、断面三角貼付突帯1条残存、波状文1条(突帯後)＋直線文4条残存(単位10本／幅1.6cm、1cm中6本)、図反転復元	弥生中期後葉
290-77	弥生土器	壺（頸部）	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層	1383	?×(13.5)、頸部径10.8	外：不明瞭、内：不明瞭(一部指オサエ)	～4mm白多量、～1mm半透明・黒(チャートか)少量、～1mm赤微量	～4mm多量	やや良好	外：10YR8/3浅黄橙～7.5YR7/4にぶい橙、内：5Y6/1・5/1灰～10YR7/4にぶい黄橙	10(頸部50)	直口壺の頸部、直線文1条＋波状文1条＋断面三角貼付突帯2条＋波状文1条＋直線文2条残存(単位1cm中11本?)、2次焼成か（変色)、一部外面に黒斑か、図反転復元	弥生中期後葉
290-78	弥生土器	壺（頸部）	B区γ14	遺構290(溝)東側側溝(上層)/セクション東上層	1277/1380	?×(14.3)、頸部径11.2	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白・半透明中量(5mm白1個)	～3mm中量	やや不良	外：7.5YR7/6橙、内：10YR8/3浅黄橙～2.5Y5/1黄灰、断：7.5YR7/6橙～2.5Y5/1黄灰	10未満（頸部20）	直口壺の頸部、頸部に凹線1条残存(幅6.0mm)、図反転復元	弥生中期後葉
290-79	弥生土器	壺（頸部）	B区γ14	遺構290(溝)セクション東上層	1380	?×(8.0)、頸部径11.6	外：不明瞭、内：不明瞭	～4mm白・半透明多量、～2mm赤少量(7mm半透明1個)	～2mm中量	良好	外・断：N5/0灰、内：N1.5/0黒	10未満	頸部に凹線5条(幅6.5～7.0mm)、体部に波状文1条(凹線後)＋直線文1条以上残存(単位10本／幅1.8cm、1cm中6本)、図反転復元	弥生中期後葉
290-80	弥生土器	壺（頸部）	B区γ14	遺構290(溝)セクション東取り上げ2(上層)	1519	?×(14.1)、頸部径11.4	外：不明瞭、内：不明瞭・一部指オサエ	～4mm白・半透明、～1mm赤微量(5mm半透明1個・白1個)	～4mm多量	良好	外：5YR7/6橙～7.5YR8/4浅黄橙、内：7.5YR7/6橙～10YR8/4浅黄橙、断：10YR6/1褐灰	10未満	頸部に凹線7条以上残存(幅5.0mm)、簾状文1条(単位14本／幅2.0cm、1cm中8本、静止幅0.6～1.0cm)、図反転復元	弥生中期後葉
290-81	弥生土器	壺（体部）	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層(南肩)(遺構291切り合い部分)	1468	?×(10.0)	外：縦ハケ(1cm中6本)＋下半横ミガキ(ハケ後、幅3.5mm)、内：ナデ(ハケかも)	緻密、～2mm白・半透明・黒(チャートか)中量、～1mm赤少量	～1mm微量	良好	外：5YR6/6橙～煤7.5YR4/2灰褐、内・断：5YR7/6橙	10未満	波状文1条＋直線文3条残存(単位9本／幅1.4cm、1cm中7本)、2次焼成(内外面に薄く煤付着)	弥生中期後葉
290-82	弥生土器	壺（体部）	B区γ14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1277・1280	?×(18.4)、胴部径30.6	外：ナデかミガキ・下半縦ケズリ、内：不明瞭	～4mm白・半透明多量	～4mm多量	良好	外・内：10YR6/2灰黄褐～10YR6/3にぶい黄橙、内：10YR5/2灰黄褐	10未満	直線文3条以上(単位11本／幅1.3cm、1cm中9本)＋波状文1条残存(縦長の波状文)、図反転復元	弥生中期後葉
290-83	弥生土器	壺（体部）	B区γ14	遺構290(溝)セクション東上層	1513	?×(26.9)、頸部径11.3、胴部径24.0	外：不明瞭(剥離多い)、内：不明瞭(剥離多い)	～4mm白・半透明多量、～1mm赤少量(6mm半透明・白3個)	～4mm多量	良好	外：2.5Y7/2灰黄～2.5Y8/2灰白、内：2.5Y8/2灰白～2.5Y4/1黄灰、断：2.5Y5/1黄灰～2.5Y4/1黄灰	40	頸部～体部に直線文6条(単位10本か／幅1.4cm、1cm中8本?)、全体に剥離多い、図反転復元	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
290-84	弥生土器	壺（体部～底部）	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層	1512・1513・1515	？×(30.8)、頸部径9.6、胴部径23.4、底部径5.4	外：頸部ミガキ？・下半縦ケズリ後縦ミガキ、内：不明瞭・底部強いナデかハケ	～4mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～4mm多量	良好	外：7.5YR7/6橙、内・断：N3/0暗灰	40(胴部60、底部100)	口縁部欠損、胴部上半にU字形の貼付浮文、ミガキ幅5.0mm、外面下半～底部に黒斑、登録番号1329：遺構291セクション東中層の破片と同一個体か、図反転復元	弥生中期後葉
290-85	弥生土器	壺（体部～底部）	B区y14	遺構290(溝)セクション東取り上げ1（上層）	1517	？×(34.4)、頸部径12.0、胴部径24.9、底部径5.6	外：頸部ナデ？・胴部縦ハケ・下半縦ケズリ、内：不明瞭（ハケか板ナデ）	～4mm白・半透明少量、～1mm赤少量	～4mm少量	やや良好	外：10YR8/3浅黄橙～2.5Y8/3淡黄・下半7.5YR7/6橙、内：10YR8/2灰白～10YR8/3浅黄橙・下半2.5Y7/1灰白、断：一部2.5Y6/1黄灰	80(胴部90、底部100)	口縁部欠損、胴部部分的に欠損	弥生中期後葉
290-86	弥生土器	壺（体部～底部）	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層/290東側側溝(上層)	1640/1278	？×(31.9)、頸部径11.5、胴部径23.0	外：頸部ナデ？・上半横タタキ・下半縦ミガキ（ケズリ後か）、内：ナデか(不明瞭)	～5mm白・半透明多量、～1mm赤・黒（チャートか）微量(1.6cm白1個)	～5mm多量(～10mm含む)	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙・頸部5YR7/6橙、内：10YR7/3・頸部7.5Y7/3にぶい橙～5YR7/3にぶい橙、断：10YR6/2灰黄褐	40(体部40)	頸部に長楕円状の刺突文(21個残存、5～6mm間隔)、口縁部・底部欠損、胴部下半に黒斑あり(N3/0暗灰)、東側断面1/20図あり、図反転復元	弥生中期後葉
290-87	弥生土器	壺（体部）	B区y14	遺構290(溝)セクション東取り上げ12・15（上層）/セクション東　上層	1523・1530/1513・1515	？×(30.5)、頸部径12.4、胴部径22.6	外：頸部不明瞭（ミガキか）・胴部ミガキ(不明瞭)・下半縦ケズリ、内：不明瞭	～3mm白・半透明多量、～1mm赤多量	～3mm多量	良好	外：5YR7/6橙～7.5YR8/4浅黄橙、内：10YR8/2灰白～2.5Y6/1黄灰、断：2.5YR6/1褐灰	60	口縁部・底部欠損、図反転復元	弥生中期後葉
290-88	弥生土器	壺（体部～底部）	B区y14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1277・1278・1279	？×(32.0)、頸部径12.6、胴部径26.0、底部径7.2	外：頸部～体部上半縦ハケ・下半縦ケズリ、内：頸部横ナデ・体部不明瞭	～5mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～5mm多量	やや良好	外：10YR8/4浅黄橙(底部付近5YR7/6橙～2.5YR7/4淡赤橙)、内：2.5Y8/2灰白～2.5Y7/1灰白、断：2.5Y5/1黄灰	30(底部ほぼ100)	口縁部欠損、頸部に長1.4～1.8cmの刺突文、図反転復元	弥生中期後葉
290-89	弥生土器	壺（体部）	B区b14	遺構290(溝)セクション西上層/4層上部(遺構290・291含む)	1381/1222	？×(28.5)、頸部径7.7、胴部径27.2	外：下半横ミガキ(不明瞭)、内：不明瞭	～5mm白・半透明多量、～2mm赤少量	～5mm多量	良好	外：5YR7/6橙、内：胴部2.5Y5/1黄灰・頸部7.5YR7/4にぶい橙～7.5YR7/6橙、断：2.5Y5/1黄灰	40(胴部50)	口縁部・底部欠損、頸部に凹線文3条(幅5.0～6.0mm)、体部に簾状文3条(単位11本／幅1.3cm、静止幅0.2～0.7cm)＋直線文4条(単位11本／幅1.3cm、1cm中8本)＋波状文4条、図反転復元	弥生中期後葉
290-90	弥生土器	壺（体部～底部）	B区y14	遺構290(溝)セクション東取り上げ13（上層）/セクション東上層/セクション東　中層	1531/1380・1452・1513・1515/1514	？×(44.7)、頸部径10.3、胴部径35.4、底部径6.6	外：上半ケズリ後ミガキか・下半縦ミガキ、内：不明瞭	～2mm白・半透明・赤中量	～2mm中量(8mm1個)	不良	外：10YR8/3浅黄橙～7.5YR6/6橙、内：7.5YR7/6橙、断：N6/0灰	70(底部90)	口縁部欠損、頸部に波状文2条以上(凹線文後)＋凹線文5条(幅5mm)、体部に簾状文1条(静止幅0.6～1.0cm)＋直線文6条(単位11本／幅1.4cm)＋波状文1条、図反転復元	弥生中期後葉
290-91	弥生土器	壺（体部～底部）	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層／東側側溝(上層)	1380/1277	？×(31.2)、胴部径33.0、底部径8.4	外：縦ミガキ（ケズリ後か）、内：不明瞭・下半細かい横ハケ（幅3.3cm）	～5mm白多量、～2mm半透明中量(7mm白1個)	～5mm多量	良好	外：10YR4/1褐灰～7.5YR7/4にぶい橙、内・断：2.5Y5/1黄灰～2.5Y6/1黄灰	30(底部30)	口縁部～頸部欠損、直線文3条以上(単位11本／幅1.5cm、1cm中8本)＋波状文1条、縦ミガキ幅4.0～5.0mm、内面横ハケ単位1cm中約25本、底部に黒斑、図反転復元	弥生中期後葉
290-92	弥生土器	水差（口縁部～体部）	B区b15	遺構290(溝)南側側溝	915	10.0×(10.0)、頸部径8.6、把手幅2.1×厚0.9	外：頸部横ナデ・胴部縦ミガキか、内：横ナデ・ナデ	緻密、～3mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～3mm中量	良好	外：5YR7/6橙～10YR8/3浅黄橙、内：頸部7.5YR7/3にぶい橙、体部10YR7/2にぶい黄橙～10YR7/3にぶい黄橙、断：10YR5/2灰黄褐	30（口縁・把手100）	口縁部片口状、口縁部に凹線文1条(幅5.0mm)、全体に火を受ける？(変色か、全体に硬質になる)、把手の一部に煤付着、図一部反転復元	弥生中期後葉
290-93	弥生土器	水差（体部～底部）	B区y14	遺構290(溝)セクション東取り上げ6（上層）	1518	？×(16.7)、頸部径7.0、胴部径18.8、底部径4.8	外：横ミガキ・縦ミガキ(幅3.5mm)、内：上半ナデか・下半縦ハケ・底部蜘蛛の巣状のハケ	～4mm白・半透明、～1mm赤少量	～4mm多量	良好	外：5YR7/6橙～7.5YR8/2灰白、内：N2/0黒、断：7.5YR8/2灰白	80(体部～底部100)	把手の一部残存、胴部上半に長径2.7×短径1.5cmの楕円状の穿孔(焼成後、内側から穿孔)、底部に長径2.9×短径2.2cmの楕円状の穿孔(焼成後、内側から穿孔)、胴部下半～底部に黒斑、下半部全体に薄く煤付着	弥生中期後葉
290-94	弥生土器	水差（把手）	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層	1383	？×(6.1)、把手幅2.4×厚1.3	外：不明瞭、内：不明瞭(接合痕あり)	～3mm白・半透明多量	～3mm多量	良好	外：2.5YR5/6明赤褐～5YR6/6橙、内・断：2.5Y4/1黄灰～2.5Y4/2暗灰黄	10未満(把手100)	把手ほぼ残存、体部全体的に器壁剥離	弥生中期後葉
290-95	弥生土器	水差	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層	1380・1513・1515	13.6×31.15、頸部径9.2、胴部径20.8、底部径6.0	外：頸部縦ハケ（後ナデ）・下半縦ケズリ（指オサエ）、内：不明瞭	～3mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～3mm多量	良好	外・断：7.5YR8/4浅黄橙～10YR8/2灰白、内：N4/0灰	40(口縁10、頸部100底部60)	把手完存(幅2.4×厚1.6cm)、体部下半～底部に黒斑、下半部全体に煤付着、頸部ハケ単位1cm中4本か、図一部反転復元	弥生中期後葉
290-96	弥生土器	水差	B区b14	遺構290(溝)セクション西上層/290・291上層(4層すきとり時)/4層上部(遺構290・291含む)	1381/1282/1222	16.2×(30.0)、頸部径10.2、胴部径27.6	外：頸部～上半ミガキ？(不明瞭)・下半縦ケズリ、内：不明瞭	～5mm白多量、～1mm半透明・赤少量	～5mm多量	良好	外：5YR7/8橙、内：N3/0暗灰～N2/0黒	40(口縁60、把手100)	把手完存(幅2.5×厚0.9cm)、図反転復元	弥生中期後葉
290-97	弥生土器	壺（口縁）	B区y14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1277	？×(3.5)	外：不明瞭、内：不明瞭	～2mm白・半透明少量	～2mm少量	やや不良	外：7.5YR7/4にぶい橙～7.5YR6/6橙(一部N6/0灰)、内・断：N5/0～4/0灰	10未満	鉢かも、2次焼成か(変色)・変形(ひずみあり)→焼成時失敗品の可能性あり	弥生中期後葉
290-98	弥生土器	甕（小形）	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層	1382・1383	14.4×(13.2)、胴部径17.6	外：横～斜めタタキ後縦ハケ、内：粗い縦ハケ	～3mm白・半透明中量、～2mm赤中量	～10mm多量	良好	外：2.5YR7/6・6/6橙～7.5YR7/2明褐、内：頸部2.5YR7/6・6/6橙・体部7.5YR8/2灰白～7.5YR6/2灰褐、断：7.5YR8/2灰白	30(口縁40)	口縁端部は上方につまみ上げ、全体にわずか煤付着、内外面のハケ単位1cm中4本、図反転復元	弥生中期後葉
290-99	弥生土器	甕（小形）	B区y14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1277・1280	14.8×(11.7)、胴部径18.5	外：縦ハケ（単位1cm中6本）、内：ナデ	緻密、～1mm白・半透明・黒（チャートか）中量、～1mm赤微量	～1mm中量	良好	外：7.5YR7/6・6/6橙～7.5YR6/1・5/1褐灰、内：7.5YR6/4にぶい橙～7.5YR6/2・5/2灰褐、断：10YR4/1褐灰	20(口縁40)	口縁端部は上方につまみ上げ、2次焼成(外面に若干煤付着、やや器壁剥離あり)、図反転復元	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
290-100	弥生土器	甕(小形)	B区γ14	遺構290(溝)セクション東上層	1380	14.8×(8.8)、胴部径18.4	外：横タタキ、内：斜めハケ(細かいハケ)	～3mm白・半透明少量	～3mm少量	良好	外・内・断：10YR7/2にぶい黄橙～10YR4/2灰黄褐	10(口縁20)	口縁端部は強い横ナデで凹線状、外面に煤付着、図反転復元	弥生中期後葉
290-101	弥生土器	甕(小形)	B区a14	遺構290(溝)西側セクション上層	1511	16.0×(5.4)	外：横タタキ、内：ナデ	緻密、～3mm白・半透明少量	～3mm少量	やや良好	外：10YR8/2灰白～7.5YR7/4にぶい橙、内：10YR8/4浅黄橙、断：10YR5/1褐灰	10未満(口縁25)	口縁端部は強い横ナデで凹線状、図反転復元	弥生中期後葉
290-102	弥生土器	甕(小形)	B区γ14	遺構290(溝)セクション東上層(東側断面、1/20図あり)	1640	16.0×(7.1)	外：横タタキ後縦ハケ、内：ナデか板ナデ	緻密、～2mm白・半透明多量、～1mm黒(チャートか)微量	～2mm多量	良好	外・内：7.5YR7/4にぶい橙～7.5YR7/6橙、断：10YR3/1黒褐	10未満(口縁25)	口縁端部は上方につまみ上げ、ハケ単位1cm中3～4本、口縁部付近に煤か(変色あり：10YR6/3にぶい橙～10YR4/2灰黄褐)、図反転復元	弥生中期後葉
290-103	弥生土器	甕(小形)	B区γ14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1278	16.0×(6.6)	外：縦～斜めハケ、内：横ナデ・ナデ	緻密：～2mm白・半透明少量、～1mm赤・黒(チャートか)微量	～2mm少量	良好	外・断：5YR7/6橙～10YR6/2灰黄褐、内：10YR6/2灰黄褐～10YR4/2灰黄褐(口縁部付近7.5YR7/3にぶい橙)	10(口縁65)	口縁端部は強い横ナデで凹線状、ハケ単位8本／幅2.1cm、外面全体にわずかに煤付着(10YR5/2灰黄褐)、図反転復元	弥生中期後葉
290-104	弥生土器	甕(小形)	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層(南肩)遺構291切り合い部分	1468	16.6×(11.6)	外：横～斜めタタキ、内：ハケか板ナデ(単位1cm中4本)	～4mm白・半透明多量、～2mm赤少量	～4mm中量	良好	外：10YR8/2灰白～2.5YR6/6橙(口縁10YR8/2灰白～2.5YR7/6橙)、内：10YR8/2灰白～10YR7/2にぶい黄橙、断：10YR7/2にぶい黄橙	40(口縁75)	口縁端部は上方につまみ上げで沈線状、図反転復元	弥生中期後葉
290-105	弥生土器	甕(小形)	B区γ15	遺構290(溝)東側側溝(上層)	914	17.4×(5.7)	外：斜めタタキか、内：斜めハケか	～3mm白・半透明多量、～3mm黒(チャートか)少量	～3mm多量	良好	外：10YR5/2灰黄褐～5YR7/6・6/6橙(口縁一部10YR5/1赤灰～10YR5/2灰赤)、内・断：N3/0暗灰～N2/0黒	10未満(口縁70)	口縁端部若干上方につまみ上げ(口縁部長いタイプ)、2次焼成か？(器壁剝離あり)、図反転復元	弥生中期後葉
290-106	弥生土器	甕(小形)	B区γ14	遺構290(溝)セクション東上層	1380	18.6×(4.6)	外：不明瞭(口縁部横ナデ)、内不明瞭	～3mm白・半透明多量、～1mm赤・黒(チャートか)微量	～3mm多量	良好	外：7.5YR7/6橙～10YR7/4にぶい黄橙、内：7.5YR8/4浅黄橙～7.5YR7/6橙、断：2.5Y5/1黄灰	10未満(口縁10)	口縁部長いタイプ、図反転復元	弥生中期後葉
290-107	弥生土器	甕(小形)	B区γ14	遺構290(溝)セクション東上層	1452	19.6×(4.5)	外：ミガキかナデ(不明瞭)、内：ナデ	～3mm白・半透明・赤少量	～3mm少量	良好	外・内・断：5YR6/6橙	10未満(口縁10)	鉢か複合土器(鉢)の可能性あり、口縁端部は上方につまみ上げ、外面に波状文＋直線文、図反転復元	弥生中期後葉
290-108	弥生土器	甕(小形)	B区γ15	遺構290(溝)東側側溝(上層)	914	20.8×(18.2)、胴部径21.3、底部径6.6	外：上半縦ミガキか縦ハケ・下半縦ケズリ、内：上半ナデ・下半板ナデか	～3mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～3mm中量	良好	外・内・断：5YR7/4にぶい橙～7.5YR5/2灰褐	30(口縁20・底部20)	口縁端部若干つまみ上げで沈線状、外面2次焼成(黒色化、若干煤付着)、図反転復元(上半部と底部は図上復元)	弥生中期後葉
290-109	弥生土器	甕(小形～中形)	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層	1382	23.0×(5.3)	外：不明瞭(頭部は横ナデ)、内：不明瞭	～3mm白・半透明、～1mm赤微量	～3mm多量	良好	外・内：7.5YR7/6橙、断：N5/0灰	10未満(口縁10)	口縁部長いタイプ(若干上方につまみ上げ)、図反転復元	弥生中期後葉
290-110	弥生土器	甕(中形)	B区γ14	遺構290(溝)セクション東上層	1513	27.4×(5.7)	外：不明瞭(口縁部ナデ)、内：不明瞭	～4mm白・半透明多量	～4mm多量	良好	外・内：2.5YR6/8橙、断：N5/0灰	10未満(口縁10)	口縁端部は上方につまみ上げ、口縁部に刻み目、図反転復元	弥生中期後葉
290-111	弥生土器	甕(中形)	B区γ14	遺構290(溝)セクション東上層	1512	28.0×(11.3)	外：横～斜めタタキ、内：ナデ	～4mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～4mm多量	良好	外・内：10YR8/2灰白、断：N4/0灰	10未満(口縁10)	口縁端部は上方につまみ上げ、2次焼成(外面に若干煤付着)、図反転復元	弥生中期後葉
290-112	弥生土器	甕(中形～大形)	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層	1382	30.6×(7.0)	外：横タタキ、内：不明瞭	～3mm白・半透明多量	～3mm多量	やや良好	外・内：10YR6/4にぶい黄橙、断：N6/0灰	10未満(口縁10)	口縁端部は上方につまみ上げ(下方にもやや拡張)、図反転復元	弥生中期後葉
290-113	弥生土器	甕(中形～大形)	B区γ15/γ14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	914/1278	28.4×(26.1)、胴部径32.4	外：上半ナデ・下半縦ハケ、内：ナデ(不明瞭)	～1mm白・半透明少量(7mm白・半透明3個あり)、～1mm赤・黒(チャートか)微量	～1mm微量	良好	外：5YR6/6橙～7.5YR6/2灰褐、内：10YR6/1褐灰、断：10YR3/1黒褐	20(口縁50)	口縁部凹線2条(幅2.5mm)・上方へつまみ上げ、外面ハケ幅2.2cm(単位1cm中7本)、図反転復元	弥生中期後葉
290-114	弥生土器	甕(中形～大形)	B区γ14	遺構290(溝)東側側溝(上層)/4層上部(遺構290・291含む)	1278/1220	30.0×(26.0)、胴部径36.8	外：横タタキ(単位9本／幅3.8cm)、内：横～斜めハケ	～5mm白多量、～4mm半透明多量、～3mm赤多量	～4mm多量	良好	外：5YR7/6橙、内：7.5YR8/3浅黄橙、断：N7/0灰白	30(口縁25)	口縁端部は上下に拡張(横ナデ)、外面に一部煤付着、内面ハケ単位7本／幅2.8cm(1cm中3本)、図反転復元	弥生中期後葉
290-115	弥生土器	甕(中形～大形)	B区γ15	遺構290(溝)東側側溝(上層)	914	32.4×(14.9)、胴部径37.2	外：不明瞭(ハケ後ナデか)、内：斜めハケ(単位1cm中5本)	～2mm白・半透明多量(6mm半透明あり)、～1mm赤・黒(チャートか)微量	～2mm多量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙～7.5YR6/3にぶい橙、内：上半5YR7/6橙～7.5YR7/4にぶい橙・下半2.5Y4/1黄灰、断：2.5Y4/1黄灰	10未満(口縁15)	口縁部凹線3条(1番上は沈線状、幅1.0mm・2.0mm・3.0mm)・上方につまみ上げ、2次焼成か(一部煤付着か、10YR4/1褐灰)、図反転復元	弥生中期後葉
290-116	弥生土器	甕(中形～大形)	B区γ14	遺構290(溝)東側側溝(上層)/290上層(4層精査時)/4層上部(290・291含む)/290・291上層(4層すきとり時)	1279/1272/1220/1296	33.6×(23.3)、胴部径41.2	外：横タタキ、内：不明瞭	～3mm白・半透明多量(～7mm白・半透明中量)、13mm白1個あり	～3mm多量、～7mm中量(14mm1個あり)	良好	外：5YR7/6橙～7.5YR6/4にぶい橙(一部7.5YR5/3にぶい褐)、内・断：10YR8/4浅黄橙～10YR8/6黄橙	10未満(口縁45)	口縁端部は横ナデで凹線状、外面やや黒く変色(2次焼成か)、図反転復元	弥生中期後葉
290-117	弥生土器	甕(大形)	B区γ14	遺構290(溝)セクション東上層(東壁断面、1/20図あり)	1640	34.0×(15.0)、胴部径35.6	外：縦ハケ(板ナデかも)、内：不明瞭(指オサエあり)	～4mm白・半透明多量、～2mm赤中量	～4mm多量	良好	外：10YR8/3浅黄橙～10YR7/1灰白(一部10YR5/2灰黄褐)、内：2.5Y7/1灰白～2.5Y7/2灰黄(一部10YR4/2灰黄褐)、断：5Y4/1灰	10未満(口縁15)	若干口縁端部つまみ上げ、2次焼成か(外面変色あり、煤付着か)、ハケ単位23本／幅3.3cm(1cm中6本)、図反転復元	弥生中期後葉
290-118	弥生土器	甕(大形)	B区γ14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1278	39.4×(9.2)	外：斜めタタキ、内：横ハケ(板ナデかも、後ナデ)	～3mm白・半透明多量	～3mm多量	良好	外・内：5YR6/6橙、断：N6/0灰	10未満(口縁15)	若干口縁端部つまみ上げ、口縁部に刻み目(7個残存、刻み目7個の右側には刻み目なし)、図反転復元	弥生中期後葉
290-119	弥生土器	甕(大形)	B区γ14	遺構290(溝)セクション東上層/290東側側溝(上層)	1380/1277・1278	40.0×(17.1)、胴部径46.2	外：横タタキ、内：ナデか	～6mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～4mm多量	良好	外・内：7.5YR7/4にぶい橙～7.5YR7/6橙、断：10YR6/3にぶい黄橙	10未満(口縁10)	口縁端部若干つまみ上げ、2次焼成か(外面変色→煤か)、図反転復元	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
290-120	弥生土器	甕（大形）	B区y14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1279	42.0×(7.9)	外：不明瞭、内：不明瞭	～5mm白・半透明多量	～9mm多量	やや良好	外：7.5YR7/6橙～10YR8/4浅黄橙、内：5YR7/6橙、断：2.5Y4/1黄灰	10未満(口縁15)	口縁端部若干つまみ上げ、図反転復元	弥生中期後葉
290-121	弥生土器	無頸壺	B区a14/b14	遺構290(溝)セクション中上層(南肩)(遺構291切り合い部分)/291セクション中(東側)上層	1468/1340	11.4×(13.0)、肩部径18.6	外：横ミガキ(縦ミガキ後)・縦ミガキ(幅3.0～3.5mm)、内：縦ナデか板ナデ・指オサエあり	～3mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～4mm中量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙～5YR7/6橙(一部10YR7/1灰白)・下半一部10YR6/1褐灰、内：2.5Y7/2灰黄～5YR7/6橙、断：10YR8/3浅黄橙～10YR6/1褐灰	50(口縁75)	口縁部折り返し・刺突文あり、2個一対の穿孔2箇所(径0.5cm、対面に計4個、焼成前・簾状文後、外側から内側へ穿孔)、簾状文3条(11本か／幅2.0cm、静止幅0.3～0.6cm)＋波状文1条(ミガキ前)、図反転復元	弥生中期後葉
290-122	弥生土器	無頸壺	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層	1380	12.8×(4.5)	外：横ミガキ(不明瞭)、内：横ミガキ(幅3.0mm)	緻密、～1mm白・半透明・赤・黒(チャートか)微量	～1mm微量	良好	外・断：10YR7/2にぶい黄橙、内：5YR6/6橙	10未満(口縁10)	口縁部折り返し、穿孔2個残存(径0.5cm、焼成前、外側から内側へ穿孔)、図反転復元	弥生中期後葉
290-123	弥生土器	無頸壺	B区a14/a14/b14	遺構290(溝)セクション中上層/290・291上層(4層すきとり時)/290・291上層	1382/1281/1282	17.4×(6.5)、肩部径19.6	外：ミガキ？、内：不明瞭	～1mm白・半透明・黒(チャートか)中量、～1mm赤少量	～1mm中量	良好	外：2.5Y6/6橙～5YR8/3淡橙、内：5YR8/2灰白、断：N4/0灰	10(口縁80)	口縁部折り返し＋沈線状の凹線3条(幅0.5・1.0・1.5mm)＋貼付円形浮文(径6.0～7.0mm、3個一組7箇所で計15個残存(6個欠損)、本来8箇所で計24個か)、図反転復元	弥生中期後葉
290-124	弥生土器	高杯（椀形）	B区a14/b14/a14	遺構290(溝)セクション中上層/290セクション西上層/290セクション中上層(291南肩切合部分)	1382・1383/1381/1468	19.0×13.7、脚端部径12.0	外：杯部横ナデ＋横ミガキ＋縦ミガキ・脚部不明瞭、内：杯部縦ミガキ(不明瞭)・脚部横ケズリ	～5mm白・半透明中量、～1mm赤少量	～5mm中量	良好	外・内：杯部5YR6/6橙・脚裾部10YR8/1灰白、断：5YR6/6橙～10YR7/2にぶい黄橙	90(口縁75・杯部80・脚部90)	杯部に凹線2条(幅4.0mm)、脚部凹線2条(幅5.0mm)、脚部に径4.0～5.0mmの焼成前穿孔51個残存(本来は53個か、脚部上半縦4個が5列＋縦3個が3列＋1個残存が1列(本来縦3個か)＝計30個(本来32個か)・脚部下半縦3個が7列＝計21個)、ミガキ幅3.0mm、杯部円板充填	弥生中期後葉
290-125	弥生土器	高杯（水平口縁）	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層/(表採)	1382/(1655)	32.0/杯部径24.2×28.35、脚柱部径5.3、脚端部径16.6	外：水平口縁部横ミガキ・杯部～脚柱部縦ミガキ・脚裾部不明瞭、内：水平口縁上面横ミガキ・杯部横ミガキ・脚裾部横ケズリ	～6mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～6mm多量	良好	外・内：2.5YR6/8橙～7.5YR8/4浅黄橙、断：10YR8/4浅黄橙	95(口縁90・脚柱部100・脚端部90)	杯部上面に貼付突帯＋水平口縁、脚裾部に径6.0mmの穿孔(焼成前か、上列2個1組で4箇所＝8個、下列4個1組で4箇所＝16個)、杯部円板充填、脚柱部内面はしぼり後横ケズリか、図反転復元	弥生中期後葉
290-126	弥生土器	高杯（水平口縁）	B区y15	遺構290(溝)東側側溝(上層)	914	20.6/杯部径15.8×(8.5)、脚柱部4.2	外：水平口縁部横ナデか・杯部縦ミガキ(不明瞭)・脚柱部不明瞭、内：水平口縁上面ミガキ？・杯部横ミガキ・脚柱部しぼり目	～5mm白多量、～1mm半透明・赤少量	～5mm多量	良好	外：2.5YR6/6橙～5YR7/6橙(一部2.5Y6/3にぶい黄)、内：5YR7/6橙～7.5YR5/4にぶい褐(一部10YR6/2灰黄褐)、断：10YR6/2灰黄褐	40(口縁60)	杯部上面に貼付突帯、杯部円板充填、図反転復元	弥生中期後葉
290-127	弥生土器	高杯（水平口縁）	B区b15	遺構290(溝)南側側溝(上層)	915	28.6/杯部径21.0×(10.8)、脚柱部径4.8	外：水平口縁部強い横ナデ・杯部～脚柱部縦ミガキ、内：横ミガキ(不明瞭)	～4mm白・半透明多量（6mm半透明1個）、～1mm赤少量	～6mm多量	良好	外：10YR8/3浅黄橙～7.5YR8/4浅黄橙、内：10YR8/3浅黄橙・口縁付近5YR7/6橙～7.5YR8/3浅黄橙、断：2.5Y5/1黄灰	40(口縁65)	杯部上面に貼付突帯、杯部円板充填、図反転復元	弥生中期後葉
290-128	弥生土器	高杯（椀形）	B区y14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1277	26.0×(7.7)	外：縦ミガキ(杯部下半縦ケズリ後か)、内：縦ミガキ	緻密、～1mm白・半透明・赤少量	～1mm少量(4mm1個)	良好	外・内：2.5YR6/6橙～10YR8/2灰白、断：N5/0灰	15(口縁10)	口縁端部上面に面あり(やや外側につまみ出す)、口縁部若干稜あり、ミガキ幅3.5mm、図反転復元	弥生中期後葉
290-129	弥生土器	高杯（椀形）	B区b14	遺構290(溝)セクション西上層	1381	31.8×(6.0)	外：縦ミガキ、内：ミガキ(不明瞭)	緻密、～1mm白・半透明少量、～1mm赤微量	～1mm少量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙、内・断：10YR6/2灰黄褐	10未満(口縁10)	口縁端部上面に面あり(やや外側につまみ出す)、若干2次焼成か、図反転復元	弥生中期後葉
290-130	弥生土器	高杯（椀形）	B区y14	遺構290(溝)セクション東取り上げ5(上層)	1522	26.0×(15.4)、脚柱部径5.0	外：不明瞭(口縁部横ナデ)、内：不明瞭(脚柱部しぼり目)	～6mm白多量、～3mm半透明・赤中量	～6mm多量	良好	外・内：5YR7/6・7/8・6/6橙～7.5YR7/6橙(一部7.5YR8/3浅黄橙)、断：2.5Y5/1黄灰	30(口縁10未満)	口縁屈曲部に凹線3条(幅5.0mm・5.0mm・4.0mm)、杯部円板充填、図反転復元	弥生中期後葉
290-131	弥生土器	高杯（椀形）	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層	1382	26.6×(7.6)	外・内：ミガキ？(不明瞭)	～7mm白・半透明多量、～1mm赤中量	～7mm中量	良好	外・内・断：5YR5/6明赤褐	10(口縁10)	口縁端部に凹線1条(幅2.0mm)＋口縁屈曲部に凹線2条(幅4.0mm)、図反転復元	弥生中期後葉
290-132	弥生土器	高杯（椀形）	B区y14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1278・1279	28.2×(9.6)	外：不明瞭、内：横ミガキ	～3mm白・半透明・赤多量	～3mm多量	良好	外：5YR6/4にぶい橙～5YR6/6橙、内：10YR7/2にぶい黄橙～10YR6/1褐灰、断：10YR7/2にぶい黄橙	10未満(口縁5)	口縁部屈曲部に凹線4条(幅7.0mm・6.0mm・5.0mm・4.0mm)、図反転復元	弥生中期後葉
290-133	弥生土器	高杯（椀形）	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層(南肩)遺構291切り合い部分	1468	30.0×(12.6)	外：横ミガキ、内：横ミガキ・疑ミガキ	～5mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～5mm多量	良好	外・内：5YR6/6橙～5YR6/8橙、断：10YR6/1褐灰	15(口縁20)	口縁部屈曲部に凹線3条(幅3.5mm)、図反転復元	弥生中期後葉
290-134	弥生土器	高杯（脚柱部）	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層(南肩)遺構291切り合い部分	1468	？×(10.3)、脚柱部径3.5	外：縦ミガキ、内：横ケズリ	～3mm白・半透明多量、～3mm赤少量	～3mm多量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙～10YR7/2にぶい黄橙(10YR6/2灰黄褐)、内：2.5Y4/1黄灰～2.5Y5/1黄灰、断：2.5Y5/1黄灰	20？(脚柱部100)	ヘラ描き沈線8条＋8条＋5条(幅1.0mm、1条ずつ施文)、ミガキ幅2.0～3.0mm(ミガキ後沈線)	弥生中期後葉
290-135	弥生土器	高杯（脚柱部）	B区b14	遺構290(溝)セクション西上層(遺構291南肩部切り合い部分)	1466	？×(8.1)、脚柱部径3.8	外：縦ミガキ、内：しぼり目・横ケズリ	～3mm白・半透明中量	～3mm中量	良好	外・内：2.5YR6/8橙、断：N5/0灰	20？(脚柱部100)	杯部円板充填(中央部やや凹む)、杯部内面はナデか・杯部外面はミガキか(不明瞭)、ミガキ幅2.0～2.5mm、図反転復元	弥生中期後葉
290-136	弥生土器	高杯（脚柱部）	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層	1382	？×(8.4)、脚柱部径5.4	外：不明瞭(縦ミガキか)、内：横ケズリ	～4mm白・半透明多量、～1mm赤微量、金雲母含む	～4mm多量	良好	外・内・断：10YR7/3にぶい黄橙～7.5YR7/3にぶい橙	10未満	脚柱部内面は(下から見て)左回りにケズリ→1周まわりきらずに粘土はみ出し残る、図一部反転復元	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
290-137	弥生土器	高杯（脚柱部）	B区b14	遺構290(溝)セクション西上層	1381	？×(14.6)、脚柱部径4.6	外：不明瞭(縦ミガキか)・脚裾部縦ミガキ、内：上半しぼり目・下半横ケズリ	～1mm白・半透明・赤少量	～1mm少量	良好	外・内（脚裾部）：5YR7/6橙～7.5YR7/4にぶい橙、内(脚部上半)・断：N3/0暗灰	20？(脚柱部90)	杯部円板充填の痕跡あり、脚柱部内面は横方向の短い単位のケズリ、図反転復元	弥生中期後葉
290-138	弥生土器	高杯（脚柱部）	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層(東側断面、1/20図あり)	1640	？×(14.7)、脚柱部径5.0	外：不明瞭、内：上半しぼり目・下半ナデかケズリ	～5mm白・半透明・赤	～5mm多量	良好	外・内：7.5YR8/4浅黄橙、断：N6/0灰	20？(脚柱部100)	杯部円板充填痕跡不明、図反転復元	弥生中期後葉
290-139	弥生土器	高杯（脚柱部）	B区a14	遺構290(溝)西側セクション上層	1511	？×(16.5)、脚柱部径5.0	外：縦ミガキ(不明瞭)、内：杯部横ミガキ・脚柱部横ケズリ	～3mm白・半透明・赤多量	～3mm多量	良好	外・内・断：5YR7/6橙	30？(脚柱部100)	杯部円板充填か不明	弥生中期後葉
290-140	弥生土器	高杯（脚部）	B区y14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1277・1278	？×(7.3)、脚柱部径3.5、脚端部径7.2	外：杯部縦ハケか縦ミガキ・脚部縦ミガキ(不明瞭)、内：杯部不明瞭(ナデ？)・脚部横ケズリ	～3mm白・半透明少量、～1mm赤微量	～3mm少量	良好	外・内(脚部)：10YR8/2灰白、内(杯部)：10YR4/2灰黄褐、断：N1.5/0黒	20？(脚柱部60・脚端部10未満)	杯部円板充填、脚部上半内面しぼり目(中空)、脚裾部短く開くタイプ(端部やや丸み)。図反転復元	弥生中期後葉
290-141	弥生土器	高杯（脚部）	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層	1382	？×(8.4)、脚柱部径3.3、脚端部径7.2	外：不明瞭(縦ミガキか)、内：脚柱部縦ケズリ・脚裾部ナデ	～2mm白・半透明・赤中量(5mm半透明1個)	～2mm中量(4mm1個)	良好	外：5YR6/6橙、内・断：7.5YR7/4にぶい橙～10YR7/1灰白	20？(脚柱部90・脚端部10未満)	杯部円板充填痕跡あり、脚裾部短く開くタイプ、図反転復元	弥生中期後葉
290-142	弥生土器	高杯（脚部）	B区y14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1280	？×(4.2)、脚柱部径3.2、脚端部径7.6	外：縦ミガキ、内：脚柱部しぼり目・脚裾部横ナデ	繊密、～2mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～3mm中量	良好	外：5YR7/4にぶい橙、内：7.5YR7/4にぶい橙～5YR7/6橙、断：10YR6/1褐灰	10？(脚部ほぼ100)	脚裾部短く開くタイプ、脚端部に沈線状の凹線1条(幅2.5mm)、外面のミガキ幅2.5～3.0mm	弥生中期後葉
290-143	弥生土器	高杯（脚部）	B区y14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1278・1280	？×(13.0)、脚柱部径5.7、脚端部径14.2	外：不明瞭、内：不明瞭(しぼり目あり)	～7mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～7mm多量	良好	外・内：2.5YR6/6橙～10YR7/3にぶい黄橙、断：N6/0灰	50(脚部90)	杯部円板充填、変色(2次焼成か)、図反転復元	弥生中期後葉
290-144	弥生土器	高杯（脚部）	B区y14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1278・1280	？×(6.8)、脚柱部径3.7、脚端部径9.0	外：不明瞭、内：脚柱部ナデ・脚裾部横ケズリ	～2mm白中量、～2mm赤少量	～2mm中量	良好	外・内：2.5YR6/6橙、断：2.5YR6/6橙～N7/0灰白	20？(脚端部60・脚柱部100)	脚柱部に沈線状の凹線10条(幅1.0～1.5mm)、脚裾部に刺突文(縦3.0×横1.0×深0.5mm)＋穿孔4個残存(径0.8cm、焼成前、外側から内側へ穿孔、本来8個か)。図反転復元	弥生中期後葉
290-145	弥生土器	高杯（脚部）	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層	1515	？×(14.3)、脚柱部径4.6、脚端部径14.2	外：縦ミガキ、内：しぼり目・ケズリかナデ	～3mm白・半透明、～1mm赤少量	～3mm多量	良好	外・内：5YR7/6橙～7.5YR8/2灰白、断：N6/0灰	20？(脚柱部80・脚端部15)	脚端部外面の一部に黒斑、脚裾部に穿孔8個残存(径0.75cm、焼成前、本来9個か)、図反転復元	弥生中期後葉
290-146	弥生土器	高杯（脚部）	B区y15	遺構290(溝)東側側溝(上層)	914	？×(3.95)、脚端部径15.6	外・内：不明瞭	～3mm白多量、～3mm半透明中量、～1mm赤少量	～3mm多量	良好	外：10YR8/2灰白、内・断：N3/0暗灰	10未満(脚端部70)	径0.85cmの穿孔8個残存(うち4個完存、本来8個1組で4箇所＝計12個か)、図反転復元	弥生中期後葉
290-147	弥生土器	高杯（脚部）	B区y14	遺構290(溝)東側側溝(上層)/290セクション東上層	1277・1278・1280/1640	？×(5.9)、脚端部径16.6	外：縦ミガキ、内：不明瞭(ナデ？)	緻密、～2mm白・半透明中量、～3mm赤少量	～2mm中量	良好	外：5YR6/6橙～7.5YR6/4にぶい橙、内：5YR7/6橙～10YR7/4にぶい黄橙、断：7.5YR5/3にぶい褐	10未満(脚端部15)	径0.6cmの穿孔3個残存(うち1個完存、焼成前、外側から内側へ穿孔)、図反転復元	弥生中期後葉
290-148	弥生土器	高杯（脚部）	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層/290セクション東取り上げ2(上層)	1452/1519	？×(4.0)、脚端部径16.8	外：縦ミガキ(不明瞭)、内：横ケズリ	～3mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～3mm多量	良好	外・内：5YR7/6橙～10YR8/3浅黄橙、断：2.5Y6/1黄灰	10未満(脚端部5)	脚裾部に穿孔(上列2個残存→径0.95cm、下列4個残存→径0.35cm、下列の穿孔後横ナデ→穿孔の一部に粘土はみ出す、焼成前、外側から内側へ穿孔)、図反転復元	弥生中期後葉
290-149	弥生土器	脚台（壺か鉢）	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層	1380	？×(5.2)、脚端部径8.0	外・内：不明瞭、脚部横ナデ・指オサエ	～3mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～3mm多量(5mm1個)	良好	外・内：5YR5/3にぶい赤褐～10YR7/3にぶい黄橙、断：10YR5/2灰黄褐	10？(脚部50)	円板充填の痕跡あり、脚端部全体的に手づくね(若干ひずむ)、図一部反転復元	弥生中期後葉
290-150	弥生土器	脚台（壺か鉢）	B区a14/b14	遺構290(溝)セクション中上層(南肩)(遺構291切り合い部分)/291セクション中(東側)上層	1468/1340	？×(6.5)、脚端部径14.8	外：縦ミガキ(幅3.0～4.0mm)、内：ナデ・横ナデ	～3mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～3mm中量	良好	外・内：5YR6/6橙～2.5YR5/8明赤褐、断：N5/0灰	10未満(脚端部30)	脚端部に凹線3条(幅2.5～3.5mm、最上部の凹線やや不明瞭)、径0.85cmの穿孔が上列3個残存＋下列4個残存＝計7個残存(本来上列・下列とも穿孔それぞれ12個か、焼成前、外側から内側へ穿孔)、図反転復元	弥生中期後葉
290-151	弥生土器	脚台（壺か鉢）	B区y15	遺構290(溝)東側側溝(上層)	914	？×(5.8)、脚端部径16.0	外・内：不明瞭	～4mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～4mm多量	良好	外・内：10YR8/3浅黄橙、断：2.5Y6/1・5/1黄灰	10未満(脚端部10)	脚部に穿孔1列(径0.25～0.3cm、5個残存)＋凹線4条(幅5.0・3.5・4.0・3.0mm)＋穿孔1列(径0.25～0.3cm、5個残存)＋凹線2条(幅2.0～2.5mm)、図反転復元	弥生中期後葉
290-152	弥生土器	脚台（壺か鉢）	B区b14	遺構290(溝)セクション西上層/4層上部(遺構290・291含む)/290・291上層(4層すきとり時)	1381/1222/1282	？×(18.4)、脚端部径18.6	外：縦ミガキ(幅5.0mm)、内：ナデ	～3mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～3mm多量(8mm1個)	良好	外・内：5YR7/8橙(内面一部2.5Y5/1黄灰)、断：2.5Y5/1黄灰	50？(脚部80、脚端部100)	脚部に大きな穿孔5個（径3.5cm、焼成前）＋凹線3条(幅2.5・4.0・4.0mm)＋1条(幅2.5mm)、円板充填、図反転復元	弥生中期後葉
290-153	弥生土器	底部（小形甕）	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層	1383	？×(3.8)、底部径5.0	外：縦ケズリ、内：ナデか	～4mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～4mm多量	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙～5YR7/4にぶい橙、内・断：10YR8/2灰白～10YR8/3浅黄橙	10未満(底部60)	2次焼成(外面若干煤付着、器壁剥離目立つ)、黒斑あり(2.5Y4/1褐灰)	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
290-154	弥生土器	底部（小形甕）	B区y14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1278	?×(2.9)、底部径5.1	外：縦ケズリ、内：ナデか	～3mm白・半透明少量、～1mm赤微量	～3mm少量	良好	外：5YR7/6橙～10YR7/3にぶい黄橙、内：2.5Y5/1黄灰～5YR7/4にぶい橙、断：10YR7/3にぶい黄橙	10未満（底部100）	底部に径9.0mmの穿孔あり(焼成後に底から打ち欠きか)、変色あり(ごく一部煤付着か)、図一部反転復元	弥生中期後葉
290-155	弥生土器	底部（小形甕）	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層(南肩)遺構291切り合い部分	1468	?×(2.6)、底部径6.0	外：縦ケズリ、内：ナデ・指オサエ	緻密、～3mm白・半透明少量	～3mm少量	良好	外：5YR6/4にぶい橙～10YR5/2灰黄褐、内：7.5YR8/4浅黄橙～7.5YR7/4にぶい橙、断：7.5YR8/4浅黄橙	10未満（底部100）	2次焼成(外面変色、外面全体に煤少量付着)	弥生中期後葉
290-156	弥生土器	底部（小形甕）	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層	1382	?×(7.2)、底部径6.0	外：縦ケズリ、内：不明瞭	～4mm白・半透明少量	～4mm少量	良好	外：2.5YR6/8橙～10YR7/4にぶい黄橙、内・断：N3/0灰	10(底部50)	2次焼成(外面変色、外面に煤若干付着)、図反転復元	弥生中期後葉
290-157	弥生土器	底部（中形甕）	B区b14	遺構290(溝)セクション西上層	1381	?×(11.9)、底部径6.4	外：縦ケズリ、内：不明瞭	～5mm白・半透明多量(7mm半透明1個)、～1mm赤微量	～5mm多量(9mm1個)	良好	外：2.5Y4/1黄灰～10YR8/4浅黄橙(一部5YR7/6橙)、内：2.5Y4/1黄灰～2.5Y3/1黒褐、断：10YR1.7/1黒	20(底部50)	2次焼成(外面に若干煤付着)、黒斑あり(10YR1.7/1黒)、図反転復元	弥生中期後葉
290-158	弥生土器	底部（小形甕）	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層	1380	?×(7.1)、底部径6.6	外：縦ケズリ(底部指オサエ後ナデ)、内：ナデ	～3mm白・半透明多量、～1mm赤・黒(チャートか)少量	～3mm多量	良好	外・内・断：7.5YR7/4にぶい橙～2.5YR5/1黄灰	10(底部70)	若干2次焼成で変色か(外面一部若干煤付着)、図一部反転復元	弥生中期後葉
290-159	弥生土器	底部（小形～中形甕）	B区a14	遺構290(溝)セクション中上層	1382・1383	?×(6.4)、底部径6.7	外：縦ケズリ、内：ナデか	～4mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～4mm多量	良好	外：10YR7/4にぶい黄橙～10YR6/2灰黄褐、内：10YR8/3浅黄橙～2.5Y6/1黄灰、断：2.5Y5/1黄灰	10(底部80)	底部全体に黒斑あり(2.5Y4/1黄灰)、図一部反転復元	弥生中期後葉
290-160	弥生土器	底部（中形甕）	B区y14	遺構290(溝)セクション東取り上げ8(上層)	1525	?×(9.2)、底部径7.6	外：縦ケズリ、内：不明瞭(ナデか)	～3mm白・半透明多量、～1mm赤・黒(チャートか)微量	～3mm多量	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙～5YR7/4にぶい橙、内：2.5Y4/1黄灰～10YR6/2灰黄褐、断：10YR6/2灰黄褐	20(底部100)	2次焼成・全体的に煤少量付着(変色10YR5/2灰黄褐～10YR5/3にぶい黄褐)、図一部反転復元	弥生中期後葉
290-161	弥生土器	底部（中形壺か鉢）	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層	1380	?×(4.6)、底部径9.2	外：不明瞭(ケズリ?)・底部指オサエ+横ナデ、内：不明瞭	～3mm白・半透明多量、～2mm赤微量	～3mm多量	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙～5YR7/6橙、内：7.5YR6/3にぶい褐～10YR6/3にぶい黄橙、断：10YR6/2灰黄褐	10未満（底部100）	2次焼成で外面一部変色か(10YR6/2灰黄褐)、図一部反転復元	弥生中期後葉
290-162	弥生土器	底部（中形壺）	B区y14	遺構290(溝)東側側溝(上層)	1280	?×(5.2)、底部径9.7	外：縦ケズリ・底部指オサエ+ナデ、内：ナデ	～5mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～3mm多量	良好	外・内：7.5YR6/6橙、断：10YR7/1灰白	10未満（底部60）	底部全体と底部内面に黒斑あり(10YR1.7/1黒)、ケズリ幅1.5cm程度、図反転復元	弥生中期後葉
290-163	弥生土器	壺（体部～底部）	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層	1512	?×(25.2)、胴部径25.3、底部径6.6	外：上半斜めタタキ(部分的に残る)・下半縦ケズリ・底部指オサエ、内：縦ハケ	～5mm白・半透明多量、～5mm赤少量	～5mm多量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙～10YR8/3浅黄橙、内：2.5Y4/1黄灰～2.5Y5/1黄灰、断：2.5Y8/2灰白	40(底部25)	中形壺、底部外面に黒斑あり(N3/0暗灰～N4/0灰)、内面ハケ幅2.7cm(単位1cm中3本)、図反転復元	弥生中期後葉
290-164	弥生土器	壺（体部～底部）	B区y14	遺構290(溝)セクション東上層/290東側側溝(上層)	1380/1277	?×(19.3)、胴部径28.0、底部径7.0	外：斜めタタキ(部分的に残る)、内：不明瞭	～5mm白多量、～赤微量	～3mm多量	良好	外：5YR7/6橙～7.5YR7/6橙、内：2.5Y6/1・5/1黄灰、断：2.5Y5/1黄灰	30(底部45)	中形壺、底部外面に黒斑あり(2.5Y5/1黄灰)、図反転復元	弥生中期後葉
290-165	弥生土器	壺（底部）	B区a14	遺構290(溝)西側セクション上層	1511	?×(9.8)、底部径14.6	外：縦ハケ(後ナデ)、内：横ハケ(または板ナデ)・一部強いナデか板ナデ	～1mm半透明中量、～1mm白・黒(チャートか)少量、～10mm砂岩少量	～1mm中量	良好	外：7.5YR8/3浅黄橙、内：10YR8/2灰白、断：N4/0灰～N2/0黒	10未満（底部60）	大形壺、底部内外面不調整(外面は砂粒などの痕跡が目立つ)、外面ハケ単位1cm中4本、内面ハケ単位1cm中9本(ハケ幅2.0cmか)、図反転復元	弥生中期後葉
290・291-1	弥生土器	壺（広口）	B区a14	遺構290・291(溝)上層(4層すきとり時)	1281	23.2×(6.9)	外：縦ハケ後ナデ?、内：強い横ナデ	～3mm白・半透明中量、～2mm灰～黒(チャートか)中量、～1mm赤チャート?微量	なし?	良好	外・内：5YR7/6橙～7.5YR7/4にぶい橙、断：2.5Y3/1黒褐	10未満（口縁25）	口縁部に凹線5条(幅2.0mm)+径0.9cmの円形浮文6個残存(痕跡含めると10個分(口縁1/4の範囲)、本来40個か)、頸部に凹線2条残存(幅1.5mm、沈線状)、搬入品の可能性もあり、図反転復元	弥生中期後葉
290・291-2	弥生土器	壺（広口）	B区y14	遺構290・291(溝)上層(4層すきとり時)/4層上部(290・291含む)	1296/1220・1224	26.0×(7.5)	外：ナデかミガキ?、内：ナデ	～3mm白・半透明中量、～1mm赤少量	～3mm中量(10mm4個)	良好	外：5YR6/6橙、内：7.5YR7/6橙、断：N7/0灰白	10未満（口縁50）	口縁部に凹線5条(上から2本目のみ幅3.5mm・他は幅2.0mm)+径1.3cmの円形浮文2個1組で6箇所残存(本来12箇所で24個か、浮文上に径0.75cmの竹管)、口縁上面に列点文(単位11本/幅1.4cm、単位1cm中9本)、頸部に波状文、図反転復元	弥生中期後葉
290・291-3	弥生土器	壺（広口）	B区y14	遺構290・291(溝)上層(4層すきとり時)	1296	27.4×(4.0)	外：ナデ?(不明瞭)、内：ナデか(不明瞭)	～3mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～3mm多量	良好	外・断：5YR6/6橙～5YR4/2灰褐、内：5YR6/6橙～7.5YR6/4にぶい橙(一部10YR7/3にぶい黄橙)	10未満（口縁25）	口縁部に凹線6条(幅2.0～2.5mm・最上部のみ幅1.0mm)+円形浮文2個残存(径2.0cm、本来8個か)、内面の一部黒斑か(N3/0暗灰)、若干2次焼成か(変色)、図反転復元	弥生中期後葉
290・291-4	弥生土器	壺（頸部）	B区y14	遺構290・291(溝)上層(4層すきとり時)/4層上部(290・291含む)/290上層(4層精査時)	1296・1283/1220・1224・1219/1272	?×(10.5)、頸部径12.0	外：不明瞭、内：不明瞭	～5mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～5mm多量	良好	外：5YR7/6橙、内：7.5YR8/6浅黄橙、断：7.5YR8/6浅黄橙～N6/0灰	10	頸部に簾状文1条以上(一部残存)+凹線5条(幅6.0mm)+簾状文1条以上(幅不明瞭、静止幅0.7～0.9cm)、天地逆の可能性あり、図反転復元	弥生中期後葉
290・291-5	弥生土器	甕（小形）	B区a14/y14/a14	遺構290・291(溝)上層(4層すきとり時)/291セクション東上層/291セクション中上層	1281/1327/1324	18.4×(4.9)	外：不明瞭(ケズリ?)、内：不明瞭(ナデ?)	～2mm白・半透明多量、～1mm赤・黒(チャートか)微量	～2mm多量	良好	外：2.5YR7/6橙～7.5YR7/4にぶい橙、内：2.5YR6/6橙～5YR7/4にぶい橙、断：2.5Y4/1黄灰	10未満（口縁25）	口縁部長いタイプ(端部は上方につまみ上げない)、図反転復元	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
290・291-6	弥生土器	壺（中形）	B区a14	遺構290・291(溝) 上層(4層すきとり時)	1281	27.8×(6.7)	外：縦ハケか板ナデ(不明瞭)、内：不明瞭	～5mm白多量、～1mm赤中量・半透明少量	～5mm多量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙、内：10YR8/2灰白～10YR8/3浅黄橙、断：10YR5/1褐灰	10未満(口縁20)	口縁端部は上方につまみ上げ、ハケ幅2.7cm、図反転復元	弥生中期後葉
290・291-7	弥生土器	壺（中形～大形）	B区a14	遺構290・291(溝) 上層(4層すきとり時)	1281	29.4×(6.5)	外：不明瞭、内：ナデ	～3mm白・半透明多量、～1mm赤中量・黒(チャートか)微量	～3mm多量	良好	外：7.5YR7/6橙、内：7.5YR7/6橙～10YR7/3にぶい黄橙、断：10YR4/1褐灰	10未満(口縁20)	口縁部長いタイプ(端部はわずかに上方につまみ上げ)。図反転復元	弥生中期後葉
290・291-8	弥生土器	壺（中形～大形）	B区y14/a14	遺構290・291(溝) 上層(4層すきとり時)	1296/1281	31.0×(6.3)	外：ナデか(不明瞭)、内：ナデ(粘土紐接合痕残る)	～3mm白・半透明多量	～5mm多量	良好	外：5YR7/6橙、内・断：7.5YR8/3浅黄橙～2.5Y5/1黄灰(黒色化)	10未満(口縁15)	口縁端部は上下に拡張、口縁端部下側に刻み目、図反転復元	弥生中期後葉
290・291-9	弥生土器	壺（大形）	B区y14	遺構290・291(溝) 上層(4層すきとり時)	1296	36.0×(7.7)	外：横タタキ、内：縦ハケか板ナデ(後ナデか)	～3mm白・半透明中量、～1mm黒(チャートか)・赤微量	～3mm中量	良好	外～口縁内面：5YR6/6橙、内：10YR8/1灰白、断：N5/0灰	10未満(口縁10)	口縁端部は上下に拡張、口縁端部に凹線3条(幅1.5mm)、図反転復元	弥生中期後葉
290・291-10	弥生土器	高杯（椀形）	B区a14	遺構290・291(溝) 上層(4層すきとり時)/291セクション中上層	1281/1324	31.0×(5.2)	外：不明瞭、内：不明瞭(横ミガキか)	～2mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～2mm少量	良好	外・内：5YR6/8橙、断：N6/0灰	10未満(口縁15)	口縁端部に沈線状の凹線1条(幅1.5mm)、口縁屈曲部に凹線3条(幅4.0～4.5mm)、図反転復元	弥生中期後葉
290・291-11	弥生土器	高杯（椀形）	B区y14	遺構290・291(溝) 上層(4層すきとり時)/4層上部(290・291含む)	1296/1220	43.0×(19.5)	外：縦ケズリ、内：上半斜めハケ・下半縦ハケか(不明瞭)	～2mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～4mm多量	良好	外：10YR8/2灰白～5YR6/6橙、内：10YR8/3浅黄橙、断：N3/0暗灰	30(口縁10)	口縁端部折り返し、口縁端部に凹線3条(上1条幅1.5mm・下2条幅2.5mm)＋口縁～体部に凹線7条(幅2.5～3.0mm)、体部屈曲部に刻み目、鉢の可能性もあり、図反転復元	弥生中期後葉
290・291-12	弥生土器	高杯（脚部）	B区a14	遺構290・291(溝) 上層(4層すきとり時)	1281	?×(12.6)、脚柱部径4.8	外：縦ミガキか(不明瞭)、内：不明瞭(ケズリ?)	～5mm白・半透明多量	～5mm多量	良好	外：2.5YR6/4にぶい橙～7.5YR7/4にぶい橙、内・断：7.5YR7/6橙～10YR8/3浅黄橙	20(脚柱部90)	杯部円板充填、脚柱部～裾部に沈線9条以上(幅1.0mm)、図反転復元	弥生中期後葉
290・291-13	弥生土器	高杯（脚部）	B区y14	遺構290・291(溝) 上層(4層すきとり時)	1296	?×(12.3)、脚柱部径5.2	外：不明瞭、内：杯部ミガキ?・脚柱部縦ケズリ・脚裾部ナデ?(不明瞭)	～3mm白・半透明少量、～1mm赤少量	～3mm少量	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙、内：脚柱部5YR6/6橙・杯部N1.5/0黒(黒色化)、断：N6/0灰	20?(脚柱部90)	杯部円板充填、図反転復元	弥生中期後葉
125-1	弥生土器	壺（大形）	A区d11	遺構125(土器棺) 本体/遺構125(土器棺)/遺構125周辺/遺構126周辺の4層	774/466・507/525/453	?×(37.1)、胴部径40.0、底部径9.0	外：上半不明瞭・中位横タタキ(タタキ後横ミガキ?)・下半縦ケズリ後に縦ミガキ(幅5.0mm)、内：ナデ	～3mm白・半透明中量(6～9mm白・半透明数個)	～3mm中量	良好	外：5YR7/6橙～10YR8/3浅黄橙(一部5YR7/4にぶい橙)、内：2.5Y7/3浅黄～10YR7/3にぶい橙、断：5Y5/1・4/1灰	70(体部80・底部100)	頸部打ち欠き、外面底部付近に径0.7cmの穿孔(焼成後に外側から内側へ打ち欠き)、外面上半に波状文＋直線文(単位14本／幅1.5cm)＋波状文＋斜格子文(単位5本／幅5.0mmの工具)＋直線文＋波状文＋鳥形文（単位12本？／幅1.5cm)、外面中位に径約13.0cmの黒斑と反対側に径約6.0cmの黒斑(N3/0暗灰)、図一部反転復元	弥生中期中葉～後葉
125-2	弥生土器	高杯（椀形）	A区d11	遺構125(土器棺) 土器棺の蓋／遺構126周辺の4層	774/453	31.2×(14.3)、脚柱部径4.8	外：杯部横ミガキ～縦ミガキ(縦ケズリ後)・脚柱部縦ミガキ、内：杯部縦～斜めハケ(ハケ後ミガキ)	～5mm白・半透明多量、～1mm微量	～5mm多量	良好	外：2.5YR6/6橙～5YR7/6橙(一部10YR8/4浅黄橙)、内：10YR8/4浅黄橙～10YR7/6明黄褐(一部10YR7/4にぶい橙)、断：10YR8/4浅黄橙～10YR5/1褐灰	70(口縁60・杯部80)	口縁部に凹線1条(幅8.0mm)、杯部円板充填、口縁端部は面あり(ミガキの可能性あり)、脚柱部内面にしぼり目（ナデか）	弥生中期中葉～後葉
126-1	弥生土器	壺（小形～中形）	A区d11	遺構126(土器棺) 本体/遺構125(土器棺)/遺構126周辺4層	775/452/453	23.6×32.6、胴部径27.8、底部径7.2	外：上半横タタキ・下半縦ケズリ、内：ナデ(ハケ後ナデの可能性あり)	～4mm白多量、～2mm赤中量、～2mm半透明少量	～4mm多量	良好	外：5YR6/8橙～7.5YR8/4浅黄橙、内：5YR6/8橙、断：7.5YR8/4浅黄橙	90(口縁30)	口縁部の一部欠損(ほぼ完存)、口縁端部は上方につまみ上げ、外面底部全体に黒斑(10YR2/1黒)・内面下半にうすく黒斑(5YR5/2灰褐)、外面下半全体に煤付着(5YR5/3にぶい赤褐)	弥生中期中葉～後葉
280-1	弥生土器	壺（体部）	B区c12	遺構280(溝状土坑) セクション北	1390	?×(9.2)、胴部径18.2	外：縦ミガキ(ハケか)、内：不明瞭	～2mm白多量、～3mm半透明中量、～1mm赤中量	～3mm多量	やや不良	外：10YR6/4にぶい橙～10YR8/2灰白、内・断：10YR8/2灰白～2.5Y5/1黄灰	10(胴部30)	胴部屈曲強い、胴部下半外面は横ミガキか、2次焼成か、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
280-2	弥生土器	壺（体部）	B区c12	遺構280(溝状土坑) セクション北	1390	?×(12.5)、胴部径26.2	外：縦ミガキ、内：縦ミガキ	～1mm白・半透明少量、～1mm赤微量	～2mm中量	良好	外:7.5YR8/3にぶい褐～7.5YR8/4浅黄橙、内：7.5YR8/4浅黄橙、断：10YR4/1褐灰	10未満(胴部15)	胴部屈曲部強い、胴部下半外面は横ミガキか、外面ハケ幅4.0mm、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
280-3	弥生土器	壺（小形）	B区c12	遺構280(溝状土坑) セクション	1443	13.0×(5.8)	外：縦ハケ、内：ナデ(横ナデ)	緻密、～1mm白・半透明・黒(チャートか)少量、～1mm赤・金雲母微量	～1mm微量	良好	外・内：5YR6/6橙、断：10YR6/1褐灰	10未満(口縁15)	口縁端部は上方につまみ上げ(若干凹線状)、口縁端部の一部に煤付着、ハケ単位9本／幅1.5cm(1cm中5本)、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
280-4	弥生土器	鉢	B区c12	遺構280(溝状土坑) セクション北	1390	26.2×(4.5)	外：不明瞭(ミガキ?)、内：不明瞭(ナデ?)	～1mm白・赤少量、～1mm半透明微量	～5mm多量	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙、内：10YR8/3浅黄橙、断：10YR8/2灰白	10未満(口縁25)	幅広で浅い凹線2条(幅6.0～6.5mm)、高杯の可能性あり、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
280-5	弥生土器	鉢	B区c12	遺構280(溝状土坑) セクション北	1390	22.8×(5.0)	外：下半ケズリか(不明瞭)、内：不明瞭	～2mm白少量	～4mm多量	良好	外：5YR6/8橙、内：2.5YR5/8明赤褐～5YR6/6橙、断：5YR6/8橙～10YR4/1褐灰	10未満(口縁15)	口縁端部折り返しか、簾状文2条(幅1.2cm、静止幅上側0.6～0.8cm・下側0.5～0.7cm、外面に黒斑あり(10YR4/1褐灰)、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
280-6	弥生土器	壺（底部）	B区c12	遺構280(溝状土坑) セクション	1443	?×(2.9)、底部径5.2	外：縦ミガキ、内：ナデ	やや緻密、～4mm白・半透明中量	～3mm中量	良好	外：5YR7/6橙、内・断：7.5YR7/6橙～10YR7/3にぶい黄橙	10未満(底部100)	底部のみ、外面ミガキ幅3.0～4.0mm	弥生中期中葉～後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
289-1	弥生土器	壺（広口）	B区b13	遺構289(溝状土坑)北側セクション	1469	20.6×(9.0)、頸部径11.0	外：細かい縦ハケ、内：ナデ(しぼり目あり)	緻密、～10mm白・半透明少量、～1mm赤少量	～10mm少量	良好	外・内：7.5YR7/2明赤褐～2.5YR7/6橙、断：N7/0灰白	20(口縁60・頸部90)	口縁端部に波状文、頸部に断面三角貼付突帯3条以上(ハケ後貼付)、外面ハケ幅2.2cm(単位1cm中15本程度)、口縁端部に黒斑あり、赤く変色か(2次焼成か)	弥生中期中葉～後葉
289-2	弥生土器	壺（直口）	B区b13	遺構289(溝状土坑)北側セクション	1469	14.2×(10.8)、頸部径9.6	外：不明瞭、内：ナデ	～4mm白・半透明中量、～1mm赤少量	～6mm中量	良好	外：口縁部10YR6/2灰黄褐～2.5Y7/2灰黄・頸部2.5YR6/4にぶい橙～2.5YR6/6橙、内：10YR6/2灰黄褐～10YR6/1褐灰、断：2.5Y7/2灰黄	20？(口縁70・口縁～頸部90)	口縁部～頸部に凹線2条(幅4.0mm)＋波状文1条(凹線後)＋直線文1条(単位1cm中7本)＋波状文1条、頸部に断面三角貼付突帯3条以上、2次焼成？(ピンク色に変色)	弥生中期中葉～後葉
289-3	弥生土器	壺（直口）	B区b13	遺構289(溝状土坑)セクション北	1393	15.6×(12.9)、頸部径10.4	外：縦ハケ(わずかに残存)、内：ナデ・一部ハケ残存(ハケ後ナデか)	～2mm白・半透明中量(7mm白1個)、3mm赤1個	～2mm中量	良好	外・内：10YR7/4にぶい黄橙～7.5YR6/3にぶい褐(一部7.5YR7/3にぶい橙)、断：2.5Y5/1・6/1黄灰	15？(口縁85・口縁～頸部80)	口縁部に凹線3条(幅2.0・5.0・4.0mm)、頸部に断面三角貼付突帯、やや変色(若干2次焼成？)、図一部反転復元	弥生中期中葉～後葉
289-4	弥生土器	壺（頸部～体部）	B区b13	遺構289(溝状土坑)北側セクション	1469	？×(12.9)、頸部径11.6	外：不明瞭、内：頸部不明瞭・体部縦ハケか板ナデ(不明瞭)	～3mm白・半透明少量、～1mm赤・黒(チャートか)微量	～3mm少量	やや不良	外・内：10YR8/2灰白、断：N4/0灰	20(頸部40)	頸部に断面三角貼付突帯2条、体部に直線文2条(単位9本／幅1.5cm、1cm中6～7本)＋波状文1条(単位6mm中3本)＋直線文1条、2次焼成か(変色)、頸部にも直線文がある可能性あり(不明瞭)、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
368-1	弥生土器	壺（直口）	B区a15	遺構368(溝状土坑)セクション西	1586	10.6×(14.8)、頸部径9.2	外：不明瞭、内：不明瞭(頸部に粘土紐接合痕)	～3mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～3mm多量	やや良好	外・内：10YR7/3にぶい黄橙～2.5YR6/8橙、断：10YR3/1黒褐	15(口縁25)	口縁部～頸部、頸部短く立ち上がる、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
135-1	弥生土器	壺（小形）	A区e10	遺構135(土坑)平面図あり(土器棺か)	760	16.4×(22.9)、胴部径17.8、底部径5.2	外：縦～斜めケズリ、内：不明瞭	～2mm半透明中量、～2mm白少量、～1mm赤微量	～4mm多量	やや良好	外：7.5YR6/4にぶい橙～10YR5/2灰黄褐(煤？)(一部5YR7/6橙)、内・断：2.5Y5/1黄灰	40(口縁30)	外面口縁部～体部に若干煤付着、口縁端部やや面あり、2次焼成で変色か、図反転復元・体部と底部図上合成	弥生中期中葉～後葉
284-1	弥生土器	甕（大形）	B区c10	遺構284(土坑)南半	1427	？×(12.7)、頸部径30.4、胴部径35.8	外：斜めハケ、内：斜めハケ	～2mm赤・白多量、～2mm半透明中量	～4mm多量	良好	外：10YR8/2灰白～2.5Y4/2暗灰黄、内：2.5Y4/2暗灰黄～10YR7/2にぶい黄橙、断：10YR3/1黒褐	10未満	口縁部欠損、ハケ単位1cm中7本(ハケ幅2.0cm程度か)、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
284-2	弥生土器	高杯（脚柱部）	B区c10	遺構284(土坑)	1488	？×(13.0)、脚柱部径5.0	外：縦ミガキ、内：杯部横～斜めミガキ・脚柱部しぼり目・横ケズリ	～5mm赤多量(1.3cm赤1個)、～1mm白・半透明・黒(チャートか)中量	～2mm少量	良好	外・断：2.5YR7/4淡赤橙～2.5YR7/6橙、内：脚柱部2.5YR7/4淡赤橙・杯部5YR7/4にぶい橙(一部7.5YR6/2灰褐)	50(脚柱部100)	外面ミガキ幅4.0～5.0mm、杯内面ミガキは放射状でなく一定方向、円板充填痕跡あり(欠損)	弥生中期中葉～後葉
284-3	弥生土器	高杯（脚部）	B区c10	遺構284(土坑)	1488	？×(10.0)、脚柱部径4.8、脚端部径16.0	外：縦ミガキ、内：しぼり目・ナデ	～3mm赤中量、～2mm白・半透明・黒(チャートか)少量	～2mm少量	良好	外・内：7.5YR7/6橙～10YR7/4にぶい黄橙、断：2.5Y6/2灰黄	50(脚柱部100)	脚端部に一部黒斑あり(2.5Y4/1黄灰)	弥生中期中葉～後葉
284-4	弥生土器	底部（小形甕）	B区c10	遺構284(土坑)北半	1395	？×(6.5)、底部径6.0	外：縦ケズリ・指オサエ、内：縦板ナデか	～2mm白・半透明多量、～1mm黒(チャートか)少量、～1mm赤微量	～2mm多量	良好	外：10YR6/3にぶい黄橙～10YR6/1褐灰、内：10YR6/3にぶい黄橙、断：10YR4/1褐灰	20(底部100)	内面に板ナデの痕跡残存(幅2.0cm)	弥生中期中葉～後葉
293-1	弥生土器	壺（直口）	B区y13	遺構293(土坑)西半(土器棺？)	1467	11.8×(31.6)、頸部径10.0、胴部径21.2	外：頸部縦ハケ・上半不明瞭(ハケ後ナデ？)・下半縦ミガキ、内：頸部縦ハケ・体部ナデ	～6mm白少量(11mm白1個)、～3mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～6mm中量	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙～10YR6/3にぶい橙(下半7.5YR5/4にぶい褐)、内：10YR8/4浅黄橙～7.5YR8/4浅黄橙、断：10YR5/1褐灰～10YR5/2灰黄褐	50(口縁55)	ほぼ縦半分残存(底部は欠損)、体部外面に黒斑あり(N3/0暗灰)、外面下半に若干煤付着、内外面とも細かいハケ(単位約20本／幅3.0cm)、下層の遺物の可能性あり、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
140N-1	弥生土器	壺（広口）	A区g12	遺構140-N(井戸)最下層	781	13.0×(1.6)	外：横ナデ、内：横ナデ	緻密、～1mm白・半透明・金雲母少量、1mm赤1個・黒1個	あり？	良好	外・内：10YR6/2灰黄褐、断：N7/0灰白	10未満(口縁10)	小形壺、口縁端部に凹線3条(幅2.0mm)、口縁部に径2.5mmの穿孔1個残存、図反転復元	弥生中期中葉
140N-2	弥生土器	壺（体部）	A区g12	遺構140-N(井戸)最下層	833	？×(12.6)、頸部径9.0、胴部径17.8	外：上半縦ハケ・下半縦ケズリ、内：上半ナデ・下半斜めハケ(細かい)	～3mm白・半透明・赤中量	～2mm少量	良好	外・断：2.5Y4/1黄灰、内：N3/0暗灰～N2/0黒(黒色化)	30	外面ハケ単位9本／幅1.4cm(1cm中7本)、内面ハケ単位12～13本／幅1.0cm(外面と工具違う)、外面中位はミガキの可能性あり、やや硬質になる、図反転復元	弥生中期中葉
140N-3	弥生土器	壺（体部）	A区g12	遺構140-N(井戸)最下層	833	？×(8.5)	外：上半細かい縦ハケ・下半縦ミガキ、内：細かい縦ハケ	～2mm白少量	～2mm少量	良好	外・断：10YR6/3にぶい黄橙～10YR5/2灰黄褐(一部10YR7/4・7/3にぶい黄橙)、内：10YR3/2黒褐～10YR4/2灰黄褐	10未満	硬質(2次焼成の可能性あり)、胴部最大径部分の個体、外面(上半)に大きな波状文(単位8本／幅1.4cm)、ハケ単位20～23本／幅1.9cm、外面ミガキ幅3.0mm	弥生中期中葉
140N-4	弥生土器	壺（中形～大形）	A区g12	遺構140-N(井戸)最下層	833	約30.0×(7.3)	外：横タタキ(後ナデ)、内：斜めハケ(後ナデ)	～2mm白少量、～2mm赤1個	～2mm少量	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙～7.5YR4/1褐灰、内・断：10YR7/3にぶい黄橙～10YR6/2灰黄褐	10未満(口縁10未満)	口縁端部は上方につまみ上げ(2条の凹線状になる)、外面に少し煤付着、内面粗いハケ(タタキかも)	弥生中期中葉
140N-5	弥生土器	壺（底部）	A区g12	遺構140-N(井戸)最下層	833	？×(5.1)、底部径7.6	外：縦ケズリ(不明瞭)、内：ナデか	～3mm白・半透明中量	～2mm中量(8mm1個)	良好	外・断：2.5Y6/1黄灰～7.5YR5/3にぶい褐(底部2.5Y4/1黄灰)、内：N4/0灰～N3/0暗灰	10未満(底部100)	外面一部に煤付着、図一部反転復元	弥生中期中葉
140N-6	弥生土器	壺（広口）	A区g12	遺構140-N(井戸)下層(褐色砂層)	831	21.2×(3.5)	外：横ナデ、内：ナデ	～3mm白少量、～2mm赤少量	～3mm少量	良好	外：5YR7/8橙、内：5YR7/8橙～2.5YR5/6明赤褐、断：5YR6/6橙	10未満(口縁20)	口縁端部に凹線6条(幅1.5～3.0mm)＋径1.5cmの円形浮文4個残存、図反転復元	弥生中期中葉
140N-7	弥生土器	高杯（脚裾部）	A区g12	遺構140-N(井戸)下層	818	？×(4.8)、脚端部径16.6	外：縦ミガキ？(不明瞭)、内：横ケズリ	～4mm赤中量、～2mm白多量、～2mm半透明少量	～6mm多量	良好	外：5YR7/6橙～N2/0黒、内：7.5YR7/6橙、断：N6/0灰	10未満(底部10)	脚裾部に径6.0mmの穿孔2個残存＋刺突文2段(縦2.5×横1.5×深1.0～1.5mm)、脚端部に凹線2条(不明瞭)、脚端部に後地面あり、外面一部に黒斑か、図反転復元	弥生中期中葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
140N-8	弥生土器	壺（小形）	A区g12	遺構140-N（井戸）中層～下層（東壁際、1/20平面図）	803	?×(10.3)、頸部径4.8、底部径5.2	外：上半ナデかミガキ?（不明瞭）・下半不定方向のケズリ・底面ケズリ、内：不調整か（しぼり目・粘土紐痕跡）	～6mm白多量、～3mm半透明多量	～6mm多量	良好	外・内：10YR8/3浅黄橙、外面一部・断：5YR7/6橙	80（体部100・底部100）	口縁部～頸部欠損（頸部は接合部で割れる?）、全体的に若干ひずみ（特に底部ひずみ大きい）、体部上半に波状文1条（直線文と同じ原体）＋直線文3条（上2条は一部重なる、施文中の小休止あり、単位6本／0.9cm）、体部下半に煤斑あり	弥生中期中葉
140S-1	弥生土器	甕（直口）	A区g12	遺構140-S（井戸）掘形最下層	829	約16.0×(8.0)	外：不明瞭、内：横ナデ・ナデ（粘土紐接合痕残る）	～2mm白・半透明・黒少量、～2mm赤微量、～1mm金雲母少量	～2mm微量	良好	外・内：10YR7/3にぶい黄橙～2.5YR6/6橙、断：6/0灰	10未満（口縁10）	口縁部～頸部に波状文1条（直線文と同じ原体）＋断面三角貼付突帯1条＋波状文1条（突帯後）＋直線文3条以上（うち2条は重なりあり）→施文終了部分か、単位8～9本／幅1.1cm）	弥生中期中葉～後葉
140S-2	弥生土器	壺（細頸か直口）	A区g12	遺構140-S（井戸）掘形最下層	829	15.0×(4.0)	外：横ナデ、内：横ナデ	～1mm白少量	～3mm中量	良好	外・内：7.5YR8/2灰白～7.5YR7/4にぶい橙、断：N4/0灰	10未満	小形鉢の可能性あり（端部に接地面なく脚部ではなさそう）、外面に太い凹線2条（幅7.0・6.0mm）、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
140S-3	弥生土器	甕（小形）	A区g12	遺構140-S（井戸）掘形最下層	829	18.0×(4.8)	外：ケズりか、内：ナデか（口縁部横ナデ）	～2mm白・半透明・灰チャート多量、～3mm赤微量、～1mm金雲母中量	～2mm中量	良好	外：7.5YR6/3にぶい橙、内：10YR7/3にぶい黄橙～7.5YR7/4にぶい橙、断：2.5Y5/1黄灰	10未満（口縁10）	口縁部長いタイプ（口縁端部は若干上方につまみ上げ）、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
140S-4	弥生土器	甕（広口）	A区g12	遺構140-S（井戸）最下層（砂層上面）	830	7.0×(1.5)	外：ナデ、内：ナデ	～1mm黒（チャートか）多量、～1mm白・赤・雲母少量、～1mm半透明微量、2mm砂岩1個	～1mm微量	良好	外：7.5YR8/2灰白、内：7.5YR8/1灰白、断：N6/0灰	10未満（口縁25）	小形壺の口縁部、口縁端部に径8.0mmの円形浮文2個残存、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
140S-5	弥生土器	甕（直口）	A区g12	遺構140-S（井戸）最下層（砂層上面）	830	16.0×(6.2)	外：不明瞭（横ナデか）、内：ナデか	～3mm白中量、～1mm半透明少量	～4mm多量	良好	外：7.5YR7/6橙～10YR8/4浅黄橙、内：10YR7/2にぶい黄橙、断：7.5YR7/6橙～10YR7/2にぶい黄橙	10未満（口縁10）	口縁部は片口状になる、口縁部～頸部に波状文1条（板ナデ状工具で縦長に施文）＋凹線2条（幅5.0mm）＋波状文1条、凹線間は貼付突帯の可能性あり、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
140S-6	弥生土器	鉢	A区g12	遺構140-S（井戸）最下層（砂層上面）	830	26.0×(9.7)	外：縦ミガキか（不明瞭）、内：口縁部横ハケ・体部横ハケ後斜めミガキ	～4mm白・半透明多量、～1mm赤・黒（チャートか）少量	～3mm中量（13mm1個）	良好	外：7.5YR7/6橙～2.5Y6/6橙、内：7.5YR8/6浅黄橙、断：7.5YR7/6橙～10YR6/1褐灰	10未満（口縁10未満）	口縁部～体部にしっかりとした凹線3条（幅4.0～5.0mm、断面V字形）、内面ハケ単位1cm中6～7本、内面ミガキ幅1.0～1.5mm（密に施さない）、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
140S-7	弥生土器	高杯（脚柱部）	A区g12	遺構140-S（井戸）最下層（砂層上面）	830	?×(9.0)、脚柱部径4.7	外：不明瞭、内：横ケズリ（下半はナデか）	～3mm赤多量、～2mm白少量	～1mm少量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙～5YR7/6橙、内：2.5Y4/1黄灰、断：5YR7/6橙～2.5Y4/1黄灰	10（脚柱部50）	外面に凹線20条残存（幅2.0～3.0mm）、複合土器脚柱部の可能性あり、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
140S-8	弥生土器	甕（直口）	A区g12	遺構140-S（井戸）下層東側セクション	782	16.0×(9.3)、頸部径10.1	外：不明瞭、内：ナデ	～3mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～5mm多量	良好	外：7.5YR7/3黄橙、内：10YR8/3浅黄橙、断：N7/0灰白～7.5YR7/6黄橙	10未満（口縁30）	口縁部～頸部に波状文1条＋幅広の凹線3条（幅4.0～6.0mm）＋波状文1条か（凹線後）＋直線文1条残存（単位1cm中14本）、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
140S-9	弥生土器	甕（直口）	A区g12	遺構140-S（井戸）最下層木枠内	827	14.0×(7.0)、頸部径8.8	外：横ナデ・ナデ、内：ナデか	～4mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～4mm多量	良好	外・断：7.5YR7/6橙～2.5Y6/1黄灰、内：10YR8/4浅黄橙～10YR8/3浅黄橙	10未満（口縁30）	口縁部に断面三角貼付突帯1条（断面台形状になる）、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
140S-10	弥生土器	甕（直口）	A区g12	遺構140-S（井戸）最下層木枠内	827・826	16.4×(10.2)、頸部径10.3	外：縦板ナデか強いナデ、内：斜めハケ（ハケ後ナデ）・口縁部横ナデ	～4mm白少量、～1mm赤少量	～1mm少量	良好	外：5YR7/6橙、内：10Y8/1灰白、断：7.5YR8/2灰白～10YR5/1褐灰	20（口縁100）	口縁部は片口状になる、口縁部～頸部に波状文1条＋凹線1条（幅6.0mm）＋波状文1～2条、口縁端部と屈曲部上側は強い横ナデで凹線状に凹む、内面ハケ単位1cm中7～8本	弥生中期中葉～後葉
140S-11	弥生土器	壺（直口）	A区g12	遺構140-S（井戸）最下層木枠内	827	14.3×(8.2)、頸部径9.0	外：縦ハケ、内：ナデ（若干しぼり目）・口縁部強い横ナデ	～3mm白・半透明多量、～2mm赤中量	～5mm多量	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙～7.5YR8/6浅黄橙、内：10YR8/4浅黄橙、断：2.5Y5/1黄灰	20（口縁～頸部100）	外面ハケ単位9本／幅2.3cm（1cm中4～5本、やや粗いハケ）、口縁端部やや凹む	弥生中期中葉～後葉
140S-12	弥生土器	壺（直口）	A区g12	遺構140-S（井戸）最下層木枠内	826	約16.0×(6.3)	外：不明瞭、内：横ナデ	～3mm白・半透明多量（10mm白1個）、～2mm赤中量	～5mm多量	良好	外：5YR7/6橙、内：7.5YR7/4にぶい橙、断：5Y6/1灰	10未満（口縁15）	口縁部～頸部に波状文1条（単位1cm中8～10本）＋断面三角貼付突帯1条（貼付時に上側はナデ・下側はほぼ貼付のまま）＋波状文1条（やや縦長）、口縁端部（上面）少し凹む	弥生中期中葉～後葉
140S-13	弥生土器	壺（直口）	A区g12	遺構140-S（井戸）最下層木枠内	826	約16.0×(6.9)	外：不明瞭、内：横ナデ・斜めハケ後ナデか	～3mm白・半透明少量、～1mm赤微量	なし?	良好	外・内・断：2.5Y7/1灰白	10未満（口縁5）	口縁部～頸部に波状文1条（板ナデ状工具で縦長に施文）＋凹線2条（幅4.0・5.0mm）＋波状文1条か、凹線文間は貼付の可能性あり。硬質（2次焼成の可能性あり、灰色に変色か）	弥生中期中葉～後葉
140S-14	弥生土器	壺（直口）	A区g12	遺構140-S（井戸）最下層木枠内	826	16.2×33.4、頸部径10.5、胴部径22.1、底部径5.6	外：口縁部横ナデ・頸部縦ハケ・体部上半斜めタタキ後縦ミガキ・体部下半縦ミガキ、内：頸部指オサエ・体部上半縦ハケ・体部下半ナデ	～3mm白・半透明多量、～3mm赤少量	～3mm多量	良好	外・内・断：5YR7/6・7/8橙～10YR6/6赤橙、黒斑：N3/0暗灰	ほぼ100（口縁80・体部～底部100）	口縁端部と屈曲部に凹線2条（幅3.0mm）、頸部に豆粒状の刺突文（ハケ後）、体部中位に焼成後の穿孔あり（縦1.7×横0.8cm）、体部上半に「L」形の貼付浮文、ハケ単位1cm中5本、底部に黒斑あり、ほぼ完形（口縁部の一部欠損のみ）	弥生中期中葉～後葉
140S-15	弥生土器	壺（直口）	A区g12	遺構140-S（井戸）最下層木枠内	826・827	17.6×34.2、頸部径10.2、胴部径22.3、底部径5.6	外：口縁部横ナデ・体部上半粗い縦ハケ後縦ミガキ・体部下半縦ミガキ、内：ナデ	～5mm白・半透明中量、～1mm赤少量	～5mm中量	良好	外：10YR8/3浅黄橙～7.5YR8/6浅黄橙（煤部分10YR5/2灰黄褐）、内：7.5YR8/6浅黄橙～7.5YR8/4浅黄橙、黒斑：N3/0暗灰～N2/0・N1.5/0黒	100	口縁部片口状、口縁屈曲部に凹線2条（幅3.0～4.0mm）、体部上半に径4.0～5.0mm（深さ1.0mm）の刺突文17個を長楕円状に施す（記号文?、焼成前か）、ハケ単位1cm中4～5本、ミガキ幅4.0～5.0mm、口縁部～頸部と胴部に黒斑、下半全体に煤付着（2次焼成）、頸部より上やや傾く、完形	弥生中期中葉～後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
140S-16	弥生土器	壺(直口)	A区g12	遺構140-S(井戸) 最下層木枠内/140-S 下層	826・827/824	17.6×37.65、頸部径10.3、胴部径23.6、底部径5.5	外：頸部不明瞭・体部上半斜めタタキ・下半縦ケズリ後縦ミガキ、内：頸部横ナデか・体部ナデ	～3mm白・半透明多量(12mm半透明1個)、～2mm赤少量	～3mm多量	やや良好	外：5YR7/4にぶい橙(底部黒斑N1.5/0黒)、内：10YR8/2灰白、断：N6/0灰	ほぼ100(口縁60・体部95・底部100)	口縁部に断面三角貼付突帯1条、外面タタキ幅4cm、ケズリ幅1.8cm、ミガキ幅4.0mm、2次焼成か(下半中心に若干煤付着)、底部外面と底部内面に黒斑あり	弥生中期中葉～後葉
140S-17	弥生土器	壺(脚台付広口)	A区g12	遺構140-S(井戸) 最下層木枠内	826	16.0×(26.7)、頸部径6.8、胴部径20.4、脚部径7.2	外：頸部縦ハケ・体部上半縦ハケ・体部下半縦ミガキ・脚部ミガキ?、内：頸部横ナデ～横板ナデ・体部中位横ミガキ(不明瞭)・体部下半縦ハケ・脚部横ケズリ	～5mm白・半透明・赤多量	～5mm少量	良好	外：5YR7/6橙～10YR8/3浅黄橙、内：N3/0暗灰(黒色化)・脚裾N3/0暗灰～N2/0黒(黒斑?)	90(体部100)	口縁端部欠損・脚裾部欠損(体部完存)、口縁端部に凹線2条残存(幅1.0mm)＋径0.9cmの円形浮文、頸部ハケ単位1cm中4本、頸部～体部に波状文1条(単位1cm中5本?)＋幅広の凹線4条(幅0.8～1.0cm)＋簾状文1条(幅1.3cm・静止幅3.0～7.0mm前後)＋直線文4条(単位9本／幅1.3cm、1cm中7本)＋波状文1条(直線文後)、外面ミガキ幅5.0mm、内面ハケ単位6本／幅2.5cm、底部は円板充填か	弥生中期中葉～後葉
140S-18	弥生土器	壺(頸部～体部)	A区g12	遺構140-S(井戸) 最下層木枠内	827・826	?×(10.0)、頸部径9.4	外：縦ハケ、内：頸部しぼり目・体部指オサエ・縦ハケ	～2mm白・赤・黒多量、～1mm半透明中量	～1mm中量	良好	外：10YR7/4にぶい橙、内：10YR8/2灰白～N3/0暗灰、断：10YR7/4にぶい橙～N3/0暗灰	15	外面ハケ幅1.8cm(単位1cm中11～12本)、内面ハケ幅2.0cm(単位14本／幅2.0cm、1cm中7本)、内面の一部黒く変色(黒斑か)、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
140S-19	弥生土器	壺(頸部～体部)	A区g12	遺構140-S(井戸) 最下層木枠内	827・826	?×(29.3)、頸部径9.6、胴部径21.8、底部径5.4	外：不明瞭・下半一部縦ミガキ、内：ナデ	～4mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～5mm少量	やや良好	外：10YR8/3・8/4浅黄橙～5YR7/4にぶい橙、内：2.5Y5/1・4/1黄灰～2.5Y7/1灰白、黒斑N3/0暗灰	70(体部90・底部100)	口縁部～頸部欠損(体部ほぼ完存)、頸部～体部上半に直線文3条残存(単位12本／幅1.7cm、1cm中7本)、体部中位に流水文か(不明瞭だが直線文＋円弧部分あり)、外面の一部変色(煤か、10YR6/2灰黄褐)、底部に黒斑あり	弥生中期中葉～後葉
140S-20	弥生土器	壺(頸部～体部)	A区g12	遺構140-S(井戸) 最下層木枠内	826	?×(22.6)、頸部径12.5、胴部径24.8	外：上半不明瞭・下半縦ミガキ、内：指オサエ＋ナデ	～3mm白・半透明多量、～2mm赤少量	～2mm多量	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙、内：2.5Y4/1黄灰、断：10YR8/3浅黄橙～2.5Y4/1黄灰	30	頸部～体部に簾状文6条残存(板ナデ状工具で施文、簾状文幅2.5cm、静止幅0.3～1.05cm→平均約0.75cm)、体部中位に刺突文、外面ミガキ幅2.5～3.0mm、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
140S-21	弥生土器	壺(体部)	A区g12	遺構140-S(井戸) 最下層木枠内	826	?×(13.2)	外：不明瞭、内：ナデ(粘土紐接合痕残る)	～2mm白多量、～1mm赤微量	～3mm多量	良好	外：10YR8/3浅黄橙、内：2.5Y4/1黄灰、断：10YR8/3浅黄橙～2.5Y4/1黄灰	10未満	外面に簾状文5条残存(単位17本／幅2.6cm、1cm中7本、静止幅0.7～1.2cm)	弥生中期中葉～後葉
140S-22	弥生土器	壺(底部)	A区g12	遺構140-S(井戸) 最下層木枠内	826・827	?×(11.2)、底部径5.4	外：縦ミガキ(不明瞭)、内：粗い横～斜めハケ	～5mm白・半透明多量、～2mm赤中量	～5mm多量	良好	外・断：10YR8/2灰白～7.5YR8/3浅黄橙(一部10YR7/4にぶい黄橙)、内：5Y6/6橙～5YR7/4にぶい橙	20(底部100)	内面ハケ単位9本／幅3.0cm?(1cm中3本)、底部外面に黒斑(N2/0黒)	弥生中期中葉～後葉
140S-23	弥生土器	壺(体部～底部)	A区g12	遺構140-S(井戸) 最下層木枠内/最下層(砂層上面)/南西部下層/下層	826・827/830/734/824	?×(20.4)、胴部径22.2、底部径5.4	外：体部上半ミガキ(不明瞭)・体部下半縦ケズリ、内：横板ナデ	～3mm白中量、～1mm半透明微量	～3mm中量	良好	外・断：7.5YR6/2・5/2灰褐～7.5YR5/1褐灰、内：10YR7/3・7/2にぶい黄橙～2.5Y4/1黄灰	40(体部50・底部100)	外面全体に煤付着・内面底部付近に若干煤付着、内面板ナデ幅3.5cm、図一部反転復元	弥生中期中葉～後葉
140S-24	弥生土器	壺(広口)	A区g12	遺構140-S(井戸) 最下層木枠内	826	13.0×(1.4)	外：不明瞭、内：横ナデ	～3mm白・半透明少量、～1mm赤微量	～3mm中量	良好	外・断：5YR7/6橙、内：5YR8/4淡橙～N3/0暗灰	10未満(口縁15)	口縁端部に凹線3条(幅1.5～2.0mm)、小形壺の可能性あり、外面に少し煤付着、口縁内面黒色化(黒斑か)、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
140S-25	弥生土器	壺(底部)	A区g12	遺構140-S(井戸) 最下層木枠内	827	?×(3.2)、底部径5.2	外：縦ケズリ、内：ナデ・指オサエ	～2mm白中量、～1mm半透明少量	～1mm中量	良好	外：2.5Y6/4にぶい橙～10YR6/1褐灰、内：10YR4/1褐灰、断：10YR6/1褐灰～10YR4/1褐灰	10未満(底部40)	内面に黒斑か、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
140S-26	弥生土器	壺(底部)	A区g12	遺構140-S(井戸) 最下層木枠内	827	?×(4.4)、底部径6.4	外：縦ケズリ・縦ナデ、内：ナデ・指オサエ	～2mm白・半透明・黒(チャートか)、～1mm赤微量(3mm赤1個)	～1mm微量	良好	外・断：10YR5/2灰黄褐～2.5Y4/1黄灰＝黒斑、内：2.5Y8/2灰白～2.5Y4/1黄灰	10未満(底部75)	底部外面に黒斑、底部付近に煤付着、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
140S-27	弥生土器	壺(脚台付広口)	A区g12	遺構140-S(井戸) 木枠内 上層	400	11.0×(23.0)、頸部径6.2、胴部径18.0、脚部径4.5	外：頸部横ナデ(しぼり目)・体部上半不明瞭・下半横ミガキ～縦ミガキ・脚部指オサエ、内：頸部横ナデ・体部不定方向板ナデ?・脚部しぼり目	～2mm白・黒多量(3mm黒1個)、～2mm赤少量、4mm半透明1個	～2mm少量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙～10YR7/3にぶい黄橙、内：10YR7/1灰白～10YR8/3浅黄橙、断：10YR6/1褐灰	85(口縁～体部100)	ほぼ完存(脚裾部欠損)、口縁端部に波状文、体部に簾状文2条(単位14本／幅2.7cm、静止幅2.0～6.0mm)＋直線文1条(単位12本／幅2.1cm、1cm中7本)＋波状文1条(直線文と同じ工具)、底部は欠損(円板充填の剝離か)	弥生中期中葉～後葉
140S-28	弥生土器	壺(底部)	A区g12	遺構140-S(井戸) 上層/上層断ち割り 東(4層と遺構130含む)/掘形最下層	802/687/829	?×(9.4)、底部径9.4	外：縦～斜めミガキ、横：不明瞭	～3mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～3mm多量	良好	外：10YR8/4浅黄橙～10YR6/3にぶい黄橙、内：2.5Y4/1黄灰、断：2.5Y3/1黒褐	10未満(底部100)	外面ミガキ幅3.0～4.0mm、外面に黒斑あり(2.5Y4/1黄灰)、図一部反転復元	弥生中期中葉～後葉
140S-29	弥生土器	高杯(脚柱部)	A区g12	遺構140(井戸) 上層セクション東側	779	?×(11.9)、脚柱部径4.4	外：不明瞭、内：しぼり目・脚裾部ナデ	～2mm白・半透明多量(5mm白1個)、～1mm赤中量	～1mm少量	良好	外：2.5Y4/1黄灰～7.5YR8/3浅黄橙、内：7.5YR8/3浅黄橙～2.5Y7/2灰黄、断：2.5Y4/1黄灰	15	杯部・円板充填部欠損、2次焼成の可能性あり、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
140S・N-1	弥生土器	高杯(水平口縁)	A区g12	遺構140(井戸) 北西下層(140-S・140-N混在)	736	28.0×(2.5)	外：ナデ?、内：ナデ?	～2mm白・半透明多量	～2mm多量	良好	外・内：5Y6/6橙～5YR5/4にぶい橙、断：10YR6/2灰黄褐	10未満(口縁5)	口縁端部に鋸歯文、壺の可能性あり、図反転復元	弥生中期中葉～後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
140S・N-2	弥生土器	鉢	A区f12	遺構140(井戸) 上層(140-S・140-N混在)	714	26.0×(5.1)	外：不明瞭、内：ナデか(不明瞭)	～3mm白・赤多量	～3mm多量	良好	外：5YR6/6橙～2.5YR6/8橙、内：7.5YR7/6橙、断：7.5YR5/1褐灰	10未満(口縁10)	外面に凹線5条残存(幅5.0～5.5mm)、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
140S・N-3	弥生土器	甕(大形)	A区g12	遺構140(井戸) 上層 西側セクション(ほぼ140-Sの遺物)	776	約40.0×(9.2)	外：横タタキ、内：ナデ？(不明瞭)	～3mm白・半透明多量、～2mm赤微量	～2mm少量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙～7.5YR7/6橙、内：5YR6/8橙、断：2.5Y6/1黄灰	10未満(口縁10未満)	口縁端部は若干上下に拡張	弥生中期中葉～後葉
142-1	弥生土器	壺(体部)	A区g11	遺構142(井戸) 最下層	807	？×(5.2)	外：不明瞭、内：ナデ	緻密、～1mm白・半透明・黒(チャートか)・赤微量	～1mm微量	良好	外・内：N7/0灰白、断：N5/0灰	10未満	外面に波状文1条残存(単位8本／幅1.0cm)＋直線文1条(ごくわずか残存)	弥生中期中葉
142-2	弥生土器	壺(広口)	A区g11	遺構142(井戸) 下層	799	10.4×(6.3)、頸部径7.0	外：ナデ、内：ナデ(口縁部横ナデ)	粗い、～5mm白・半透明多量、～2mm赤少量	～6mm多量	良好	外・内：5YR6/6橙～7.5YR5/3にぶい褐、断：N4/0灰	10(口縁25)	小形壺、口縁端部に縦方向の刺突文、頸部に断面三角貼付突帯3条、図反転復元	弥生中期中葉
142-3	弥生土器	壺(広口)	A区g11	遺構142(井戸) 下層	799	？×(1.3)	外：横ナデ、内：横ナデ	～1mm白・半透明微量	なし？	良好	外・内・断：N5/0灰～N8/0灰白	10未満	口縁端部に凹線2条(幅3.0mm×深1.0mm)、口縁内面(上面)に斜格子文(2本1組のヘラ状工具)、搬入品の可能性あり	弥生中期中葉
142-4	弥生土器	壺(直口)	A区g11	遺構142(井戸) 南側下層	738	18.8×(4.8)	外：ナデ、内：ナデ	～1mm白少量、～1mm半透明・赤微量	～1mm微量	良好	外：5YR6/6橙、内：7.5YR6/4にぶい橙、断：N6/0灰	10未満(口縁10未満)	鉢の可能性あり、外面に凹線2条残存(幅4.0～5.0mm×深1.0mm)、図反転復元	弥生中期中葉
142-5	弥生土器	壺(底部)	A区g11	遺構142(井戸) 南側下層	738	？×(2.2)、底部径4.8	外：縦ミガキ、内：ナデ	～1mm白・半透明・赤少量	～1mm微量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙、内：7.5Y6/6橙、断：7.5YR7/4にぶい橙	10未満(底部100)	底部全体に黒斑あり(10YR2/1黒)	弥生中期中葉
142-6	弥生土器	壺(底部)	A区g11	遺構142(井戸) 上層	801	？×(5.2)、底部径22.6	外：ミガキ？(不明瞭)、内：ナデ・指オサエ	～6mm半透明少量、～2mm白多量、～2mm赤微量	～4mm多量	良好	外：7.5YR4/1褐灰(底部7.5YR7/6橙)、内：10YR7/2にぶい黄橙、断：7.5YR4/1褐灰	10未満(底部20)	大形壺(大形甕の可能性あり)、図反転復元	弥生中期中葉
150-1	弥生土器	壺(広口)	A区h10	遺構150(井戸) 下層／150(4層含む)	820／773	12.4×(8.8)、頸部径7.8	外：頸部横ナデ？・体部ミガキ？(不明瞭)、内：ナデ(斜め？)	～1mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～4mm多量	良好	外・内：2.5Y8/2灰白(体部内面10YR5/1褐灰)、断：N3/0暗灰～N2/0黒	10(口縁20)	口縁端部に縦方向の刺突文(連続12本で間隔3.0cm空けて2本残存)、頸部に断面三角貼付突帯2条、体部に直線文1条残存(単位17～19本／幅1.7cm、1cm中11本)、図反転復元(口縁端部と頸部は図上合成)	弥生中期中葉
150-2	弥生土器	壺(広口)	A区h10	遺構150(井戸) 下層	820	？×(2.0)	外：横ナデ、内：横ナデ	～2mm白・半透明少量、～1mm赤微量	～2mm少量	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙、内：10YR7/1灰白～10YR4/1褐灰、断：N4/0灰	10未満	口縁端部の上端と下端に刻み目、口縁内面(上面)に肩形文	弥生中期中葉
150-3	弥生土器	壺(直口)	A区h10	遺構150(井戸) 下層	820	14.6×(4.6)	外：縦ハケ、内：不明瞭(横ナデか)	～1mm白・半透明・黒(チャートか)中量(5mm半透明1個)、～1mm赤微量	～2mm微量	良好	外：10YR7/1灰白、内・断：10YR8/3浅黄橙	10未満(口縁20)	鉢の可能性あり、口縁部に波状文1条(単位6～8本／幅1.0cm？)、外面ハケ単位1cm中10～11本、外面に黒斑あり、図反転復元	弥生中期中葉
150-4	弥生土器	壺(小形)	A区h10	遺構150(井戸) 中層	794	？×(5.6)、胴部径8.5、底部4.2	外：不明瞭、内：ナデ・指オサエ	～2mm半透明微量、～1mm白微量、1mm赤1個	～6mm少量	良好	外：7.5YR5/1褐灰～2.5YR6/6橙、内：5YR5/1褐灰	20(底部ほぼ100)	小形壺底部(小形甕の可能性あり)、底部若干上げ底状、図一部反転復元	弥生中期中葉
150-5	弥生土器	甕(小形)	A区h10	遺構150(井戸) 中層	794	17.4×(9.3)、胴部径20.0	外：縦ハケ、内：上半ナデ・下半縦ケズリ	～2mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～2mm中量	良好	外・内：10YR7/2にぶい橙、断：10YR5/1褐灰	10(口縁10)	口縁端部は若干上方につまみ上げ、外面ハケ単位1cm中8本(幅2.0cm？)、外面中位に黒斑あり、外面中位以下と口縁端部に煤付着、図反転復元	弥生中期中葉
150-6	弥生土器	甕(小形)	A区h10	遺構150(井戸) 中層	794	18.4×(7.0)	外：斜めケズリ、内：横ナデ	やや粗い、～3mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～3mm多量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙、内：5YR6/8橙、断：N3/0暗灰	10未満(口縁20)	外面に煤付着(2次焼成で若干変色)、口縁部と頸部は屈曲縁い、図反転復元	弥生中期中葉
150-7	弥生土器	鉢(大形)	A区h10	遺構150(井戸) 中層／上層／150(4層含む)	794／795／773	34.4×(9.8)	外：不明瞭(ミガキ？)、内：不明瞭(ミガキ？)	～4mm白・半透明多量	～4mm多量	良好	外・内：10YR8/2灰白、断：N.4/0灰	20(口縁40)	高杯の可能性あり、口縁端部(上面)は面あり、図反転復元	弥生中期中葉
150-8	弥生土器	壺(広口)	A区h10	遺構150(井戸) (4層含む)	773	10.2×(4.2)、頸部径6.4	外：ナデ・縦～斜めミガキ、内：横ナデ	～2mm白多量、～1mm半透明・赤微量	～2mm多量	良好	外・断：7.5YR7/4にぶい橙～10YR4/2灰黄褐、内：7.5YR4/2灰黄褐～N3/0暗灰	10(口縁100)	小形壺、口縁端部に黒斑あり	弥生中期中葉
150-9	弥生土器	壺(直口)	A区h10	遺構150(井戸) 上層	795	22.4×(8.4)	外：横ナデ、内：不明瞭	～2mm白・半透明・黒(チャート)多量	～2mm中量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙、内：5YR7/8橙～7.5YR8/1灰白、断：N4/0灰	10(口縁10未満)	鉢の可能性あり、口縁端部に刻み目、外面に直線文2条残存(単位19本／幅2.0cm、1cm中10本)	弥生中期中葉
150-10	弥生土器	壺(頸部)	A区h10	遺構150(井戸) 上層	795	？×(9.4)	外：横ナデ、内：ナデ・指オサエ	～1mm白・半透明・赤微量	～4mm微量	良好	外：7.5YR4/1褐灰、内：7.5YR5/2灰褐、断：7.5YR4/1褐灰	10未満	外面に断面三角貼付突帯4条残存＋縦方向の棒状浮文2本(幅0.6×長5.4cm以上)	弥生中期中葉
150-11	弥生土器	壺(壺用)	A区h10	遺構150(井戸) 上層	795	17.2×6.5、頂部径4.8	外：不明瞭(ナデか)・頂部指オサエ、内：不明瞭(ナデか)	～3mm白・半透明多量、～1mm赤少量、～1mm黒～灰(チャートか)中量	～3mm多量	良好	外・内・断：10YR8/3浅黄橙	40(口縁5・頂部100)	口縁端部は若干面あり(やや丸み)、図反転復元	弥生中期中葉
150-12	弥生土器	壺(小形)	A区h10	遺構150(井戸) 上層	795	15.4×(5.8)	外：ナデ？(不明瞭)、内：ナデか(不明瞭)(口縁部横ナデ)	～2mm白・半透明多量(9mm白1個)、～1mm赤少量	～2mm多量	良好	外：10YR8/4浅黄橙～10YR6/3にぶい黄橙、内：10YR5/2灰黄褐～10YR4/1褐灰、断：10YR4/1褐灰	10未満(口縁15)	口縁端部は若干面あり(やや丸み)、図反転復元	弥生中期中葉
150-13	弥生土器	甕(小形)	A区h10	遺構150(井戸) (4層含む)	773	18.0×(10.7)、胴部径18.0	外：縦ハケ・縦～斜めケズリ、内：縦ハケ(口縁部横ナデ)	～3mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～3mm多量	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙～10YR5/1褐灰、内・断：10YR8/4浅黄橙	25(口縁40)	口縁端部はごくわずか上方につまみ上げ、内外面ハケ単位14本／幅1.6cm(1cm中10本)、外面ケズリ幅1.7cm、図反転復元	弥生中期中葉
149-1	弥生土器	壺(広口)	A区f14	遺構149(土器溜まり) 取り上げ17	855	7.0×18.4、頸部径5.2、胴部径15.5、底部径5.4	外：磨～斜めミガキ・底部付近指オサエ、内：ナデ	～2mm白・半透明中量、～1mm黒・赤中量	～4mm少量	良好	外：2.5Y8/2灰白～2.5Y7/2灰黄、内：2.5Y8/1灰白～2.5Y7/1灰白、断：2.5Y5/1黄灰	ほぼ100(口縁一部欠損)	小形壺、口縁部若干面あり、頸部ミガキをナデ消す？	弥生中期中葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
149-2	弥生土器	壺(広口)	A区f14	遺構149(土器溜まり)最下層	835	9.6×(4.0)、頸部径6.4	外：横ナデ、内：横ナデ	～2mm白・半透明少量、～1mm赤・黒(チャートか)・赤チャート微量	～1mm微量	良好	外：10YR7/3・6/3（にぶい橙）、内：10YR5/1・4/1、断：10YR4/2 灰黄褐	10(口縁50)	小形壺、口縁端部若干面あり、若干2次焼成か、図反転復元	弥生中期中葉
149-3	弥生土器	壺(広口)	A区f14	遺構149(土器溜まり)取り上げ23	862	16.6×(10.0)、頸部径8.7	外：縦ハケ、内：ナデか(不明瞭)・頸部縦ナデあり	～5mm白・半透明・黒(チャートか)多量、～1mm赤微量	10mm多量	良好	外：10YR8/1・7/1 灰白～10YR7/3 にぶい黄橙、内：2.5Y6/1・4/1 黄灰～2.5YR3/1 黒褐、断：2.5YR3/1 黒褐	20(口縁70)	口縁端部に波状文1条、頸部に断面三角貼付突帯1条＋波状文1条(わずかに残存)、外面ハケ単位1cm中4～5本	弥生中期中葉
149-4	弥生土器	壺(広口)	A区f14	遺構149(土器溜まり)取り上げ14	852	21.2×(11.7)、頸部径11.3	外：不明瞭、内：板ナデか・しぼり目あり	～6mm白・半透明中量、～1mm黒(チャートか)微量	～6mm中量	良好	外：10YR8/1 灰白～10YR7/2 にぶい黄橙(一部N8/0・5/0 灰)、内：10YR8/1・7/1 灰白～N4/0 灰(一部N3/0 暗灰)、断：N2/0 黒	10(口縁30)	口縁端部に波状文1条、口縁部内面(上面)に波状文1条、頸部に断面三角貼付突帯3条残存、2次焼成か(変色？)、図反転復元	弥生中期中葉
149-5	弥生土器	壺(広口)	A区e14	遺構149(土器溜まり)下層	768	22.0×(10.4)、頸部径12.0	外：縦ハケ、内：横板ナデ	～2mm白・半透明・黒(チャートか)中量、～1mm赤微量	～2mm中量	良好	外・内：10YR7/3 にぶい黄橙～7.5Y6/4 にぶい橙、断：10YR5/1・4/1 褐灰	10(口縁40)	口縁端部に波状文1条、頸部に指頭圧痕貼付突帯1条(ハケ後)＋沈線あり、外面ハケ単位1cm中4～5本、図反転復元	弥生中期中葉
149-6	弥生土器	壺(広口)	A区e15	遺構149(土器溜まり)下層	771	約35.0×(2.5)	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白・赤・黒(チャートか)少量、7mm半透明1個	～4mm少量	良好	外・内・断：2.5YR6/8 橙～2.5YR5/8 明赤褐(一部黒く変色)	10未満(口縁10)	口縁端部に凹線4条(幅4.5・3.5・2.5・1.5mm)＋円形浮文1個残存(径1.7cm)、2次焼成か(一部黒く変色)	弥生中期中葉
149-7	弥生土器	壺(直口)	A区f14/e14	遺構149(土器溜まり)取り上げ24/149 下層	863/768	12.1×(9.7)、頸部径7.4	外：縦ハケ、内：不明瞭(ナデか)・しぼり目あり	～2mm白・半透明・赤少量	～5mm少量	良好	外：10YR4/1 褐灰～10YR4/2 灰黄褐、内：10YR6/2・5/2 灰黄褐、断：10YR5/1 褐灰	10未満(口縁30)	口縁端部は面あり、外面ハケ単位1cm中約7本、内面に粘土紐接合痕跡あり、図反転復元	弥生中期中葉
149-8	弥生土器	壺(直口)	A区e14/f14	遺構149(土器溜まり)下層/149上層	765/772	12.4×(12.2)、頸部径9.2	外：不明瞭(縦ハケか)、内：不明瞭	～3mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～3mm多量	良好	外・内・断：10YR7/4 にぶい黄橙～7.5YR6/4 にぶい橙	10未満(口縁50)	口縁端部は面あり、図反転復元	弥生中期中葉
149-9	弥生土器	壺(直口)	A区e14	遺構149(土器溜まり)下層	768	12.4×(8.8)、頸部径10.0	外：縦ハケ、内：不明瞭	～5mm白・半透明多量、～1mm赤・黒～灰(チャートか)微量	～5mm多量	やや良好	外：7.5YR6/4 にぶい橙～7.5YR5/1 褐灰、内：10YR6/4 にぶい黄橙～10YR5/4 にぶい黄褐、断：10YR3/1 黒褐	10未満(口縁20)	口縁端部はやや面あり、2次焼成か(外面若干煤付着)、図反転復元	弥生中期中葉
149-10	弥生土器	壺(直口)	A区f14	遺構149(土器溜まり)取り上げ9	844	9.2×(7.3)、頸部径6.8	外：不明瞭、内：ナデ	～4mm白・半透明・黒(チャートか)中量、～1mm赤少量	～8mm中量	良好	外：10YR7/1 灰白～10YR7/3 にぶい黄橙、内：10YR7/1 灰白～7.5YR7/4・6/4 にぶい橙、断：2.5Y5/1 黄灰	10未満(口縁25)	口縁端部は面あり、口縁部～頸部に波状文2条(途中から施文変化する一施文の終点か、突帯後に施文)＋断面三角貼付突帯1条、図反転復元	弥生中期中葉
149-11	弥生土器	壺(直口)	A区e14	遺構149(土器溜まり)下層	768	？×(6.8)	外：不明瞭、内：不明瞭(しぼり目あり)	～4mm白・半透明・赤中量	～1mm微量？	良好	外・内：10YR8/2・7/1 灰白、断：10YR1.7/1 黒	10未満	口縁部に貼付突帯2条、口縁端部と突帯2条に刻み目	弥生中期中葉
149-12	弥生土器	壺(直口)	A区e14	遺構149(土器溜まり)下層	768	約15.0×(7.0)	外：不明瞭、内：横ナデ	～4mm白多量、5mm砂岩2個、5mm半透明1個	～4mm多量	良好	外：10YR7/1 灰白～7.5YR7/6 橙、内：10YR8/2 灰白・10YR7/2 にぶい黄橙、断：10YR2/1 黒	10未満(口縁10)	浅い凹線5条(幅3.0～4.0mm)	弥生中期中葉
149-13	弥生土器	壺(直口)	A区e14	遺構149(土器溜まり)下層	768	19.0×(2.9)	外：不明瞭、内：横ナデか	～2mm白少量	～2mm少量	良好	外：2.5YR6/4 にぶい橙、内：10YR7/2・7/3 にぶい黄橙、断：10YR3/1 黒褐	10未満(口縁10未満)	口縁部に波状文1条(突帯後)＋断面三角貼付突帯1条残存、図反転復元	弥生中期中葉
149-14	弥生土器	壺(直口)	A区f14	遺構149(土器溜まり)取り上げ15/25/22/9/10/16/21/下層	853/864/860・861/844/848/854/859/765	20.8×(18.6)、頸部径12.1	外：縦ハケ(幅2.0cm？、単位1cm中9～10本)、内：縦ハケ・頸部指オサエ＋ナデ	緻密、～2mm半透明少量、～1mm白・雲母少量(4mm白1個)	～1mm少量(8mm1個)	良好	外：10YR6/1 褐灰～10YR6/2 灰黄褐(一部7.5YR7/4 にぶい橙)、内：10YR7/1 灰白～10YR6/1・4/1 褐灰、断：10YR3/1 黒褐	10未満(口縁30)	口縁端部に沈線状の凹線2条(幅3.0～4.0mm)＋刻み目1列(凹線後か、間に凹線が分断して2列に見える)、頸部に断面三角貼付突帯2条(ハケ後)、口縁部外面に黒斑(10YR3/1 黒褐)、図反転復元	弥生中期中葉
149-15	弥生土器	壺(頸部)	A区f14	遺構149(土器溜まり)下層	765	？×(4.6)	外：不明瞭(ミガキ？)、内：ハケか(わずかに工具痕あり)	～3mm白・半透明・黒(チャートか)少量(4mm半透明1個)、3mm砂岩1個	～3mm少量	良好	外：2.5Y6/1・5/1 黄灰～7.5YR5/4 にぶい褐、内：2.5Y3/1 黒褐～2.5Y2/1 黒、断：2.5Y4/1 黄灰	10未満	頸部に断面三角貼付突帯1条残存、頸部～体部に波状文1条(突帯後)＋直線文1条(単位7本／幅1.2cm、1cm中5～6本)	弥生中期中葉
149-16	弥生土器	壺(体部)	A区f14	遺構149(土器溜まり)最下層	835	？×(5.2)	外：不明瞭(ミガキ？)、内：ナデ？	全体的に円礫、～3mm白・半透明・黒(チャートか)少量、～1mm金雲母含む、5mm砂岩1個	～3mm少量	良好	外：7.5YR6/4 にぶい橙～10YR5/2 灰黄褐、内：10YR6/2 灰黄褐～10YR4/1 褐灰、断：10YR4/1 褐灰	10未満	外面に疑似流水文2条残存(工具単位7本／幅1.3cm、1cm中6本)、2次焼成か(若干黒く変色)	弥生中期中葉
149-17	弥生土器	壺(体部)	A区f14	遺構149(土器溜まり)取り上げ25	865	？×(8.9)	外：不明瞭(ミガキか板ナデ？)、内：横板ナデ	～3mm白・黒(チャートか)中量、～1mm赤・雲母微量	～3mm中量	良好	外：10YR8/2 灰白～10YR8/3 浅黄橙、内：10YR8/2 灰白～10YR6/1 褐灰、断：10YR3/1 黒褐	10未満	外面に直線文3条残存(単位6本／幅1.6cm)、内面板ナデ幅1.6cm	弥生中期中葉
149-18	弥生土器	壺(体部)	A区f14	遺構149(土器溜まり)取り上げ25	864・865	？×(10.9)	外：不明瞭、内：ナデ・横ハケ(単位1cm中4本)	～2mm白・半透明・黒(チャートか)多量、～1mm赤少量	～1mm少量	良好	外：5YR7/6 橙～10YR8/2 灰白、内：10YR7/2・7/3 にぶい黄橙、断：10YR4/1 褐灰～10YR3/1 黒褐、2次焼成(変色あり→10YR4/1 褐灰～10YR3/1 黒褐)	10未満	外面に斜格子文(2本1組のヘラ状工具)＋直線文1条(単位6本／幅1.2cm、1cm中5～6本、斜格子文後)＋波状文1条＋直線文1条＋刺突文1列(幅1.7cmの波状の工具、直線文後に重なるように施文)、内外面に煤付着	弥生中期中葉
149-19	弥生土器	壺(頸部～底部)	A区f14	遺構149(土器溜まり)取り上げ24	863	？×(45.3)、頸部径13.0、胴部径37.6、底部径9.8	外：上半縦ハケ・胴部中位縦ハケかナデ・下半縦ミガキ、内：縦板ナデ	緻密、～2mm白・半透明少量(10mm白1個)、～1mm赤微量	～2mm少量	良好	外：10YR8/2 灰白～N4/0 灰、内：10YR7/1 灰白～2.5Y6/1 黄灰、断：N3/0 暗灰	50(体部50・底部100)	頸部に指頭圧痕貼付突帯1条、外面に細かいハケ(幅2.0cm、単位1cm中9本か)、ミガキ幅8.0mm、内面板ナデ幅2.0cm、2次焼成？(全体的に黒く変色？)、図反転復元	弥生中期中葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
149-20	弥生土器	甕（底部）	A区f14	遺構149(土器溜まり)取り上げ22	861・860	?×(12.0)、胴部径23.6、底部径6.4	外：縦ミガキ、内：強いナデか板ナデ	～10mm白・半透明中量(18mm半透明1個)、～1mm赤微量、5mm黒(チャートか)1個、3mm砂岩1個	～12mm中量	良好	外：7.5YR7/4にぶい黄橙～10YR7/2にぶい黄橙、内：10YR7/3・6/3にぶい黄橙～10YR6/2灰黄褐、断：10YR4/1褐灰～10YR3/1黒褐	30(底部100)	外面ミガキ幅5.0mm、若干2次焼成？(黒く変色)	弥生中期中葉
149-21	弥生土器	壺（底部）	A区f14	遺構149(土器溜まり)取り上げ1/149上層	836/772	?×(13.4)、底部径10.5	外：縦ミガキ、内：不明瞭(ナデか)	～3mm白・半透明多量、～2mm黒(チャートか)・赤少量	～3mm多量(8mm1個)	良好	外：2.5YR6/6・6/8橙～10YR8/2・7/1灰白、内：2.5YR6/6・6/8橙～10YR8/2灰白、断：10YR7/1灰白～10YR6/1褐灰	30(底部100)	外面ミガキ幅5.0mm、底部内面に粘土のはみ出しあり、図反転復元	弥生中期中葉
149-22	弥生土器	壺（体部～底部）	A区f14	遺構149(土器溜まり)取り上げ26/22/上層/e14下層	866・868/861/772/768	?×(15.2)、胴部径18.8、底部径6.0	外：縦ミガキ(ケズリ後?)、内：細かい縦ハケ(不明瞭)	～3mm半透明少量、～1mm白・赤・黒～灰(チャートか)少量	～1mm微量か	良好	外：2.5YR7/6橙～10YR8/2灰白(一部10YR7/2にぶい黄橙)、内：10YR7/1灰白～10YR7/2にぶい黄橙、断：N3/1暗灰～N2/1黒	40(底部100)	壺かも、外面ミガキ幅5.0mm、内面ハケ単位1cm中17本?、底部内面にハケ工具痕か、2次焼成か(赤く変色)、図一部反転復元	弥生中期中葉
149-23	弥生土器	壺（体部～底部）	A区f14	遺構149(土器溜まり)取り上げ19	857	?×(14.8)、胴部径18.2、底部径5.3	外：縦ハケ・縦ミガキ(ハケ後か)、内：斜めハケ	～3mm白・半透明少量、～1mm黒(チャートか)・赤少量	～3mm少量(10mm1個)	良好	外：10YR7/3・7/4にぶい黄橙～5YR6/6橙(一部5YR5/6明赤褐)、内：2.5Y4/1黄灰～2.5Y3/1黒褐、断：2.5Y3/1黒褐	40(底部100)	外面に煤多量に付着(竈の可能性)、2次焼成(変色→2.5Y7/1灰白～2.5Y6/1黄灰)、外面ミガキはケズリ後か、内面ハケ単位1cm中8～9本(幅2.0cmか)、図一部反転復元	弥生中期中葉
149-24	弥生土器	高杯（水平口縁）	A区f14	遺構149(土器溜まり)取り上げ5/149上層	840/772	21.8/杯部径15.8×(10.8)、脚柱部径4.1	外：縦ミガキ(一部縦ハケ?)、内：杯部不明瞭(ハケかミガキ?)・脚柱部しぼり目	～2mm白・半透明中量、～1mm黒(チャートか)少量、1mm砂岩1個	～2mm中量	良好	外・内：10R6/6赤橙～5YR7/4にぶい橙、断：N1.5/0黒	70(口縁30・杯部100)	杯部上面に貼付突帯、杯部円板充填、水平口縁部は短く垂下、若干2次焼成？(赤～黒く変色？)、図一部反転復元	弥生中期中葉
149-25	弥生土器	高杯（水平口縁）	A区e14	遺構149(土器溜まり)下層	768	26.4/杯部径18.6×(11.0)、脚柱部径4.5	外：不明瞭、内：強い横ナデかハケ？	～4mm白・半透明・黒～灰(チャートか)多量、～1mm赤微量、～6mm砂岩数個	～4mm多量	良好	外：5YR7/4にぶい橙～10R6/4にぶい赤褐(一部2.5Y5/1黄灰)、内・断：10YR7/3・6/3にぶい橙～7.5YR7/4にぶい橙(一部10YR5/2灰黄褐)	40(口縁25・杯部90)	杯部上面に貼付突帯か、水平口縁部は短く垂下、2次焼成か(赤く変色、器壁剥離あり)、図一部反転復元	弥生中期中葉
149-26	弥生土器	高杯（椀形）	A区f14	遺構149(土器溜まり)下層/上層/サブトレンチ上層	765/772・766/767	30.0×(13.4)、脚柱部径5.5	外：横ハケ・縦ミガキ、内：ナデ(若干ハケ?)、脚柱部しぼり目	～2mm白・半透明・黒(チャートか)中量	～1mm微量	良好	外・内：10YR8/2灰白、断：N1.5/0黒	20(口縁10)	口縁端部は若干水平に肥厚(面あり)、杯部円板充填、図反転復元	弥生中期中葉
149-27	弥生土器	高杯（脚部）	A区e15	遺構149(土器溜まり)下層	771	?×(12.0)、脚柱部径5.6、脚端部径16.0	外：縦ミガキ、内：杯部ハケ後ナデ・脚柱部しぼり目・横ハケ	～4mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～6mm多量	良好	外：5YR6/6橙～7.5YR8/6浅黄橙(一部10YR5/2・4/2灰黄褐)、内：7.5YR7/4にぶい橙、断：10YR5/2・4/2灰黄褐	50(脚柱部100・脚端部50)	杯部円板充填、杯部内面にハケ工具痕あり、2次焼成、脚柱部外面と脚端部に煤付着(10YR3/2黒褐)、図一部反転復元	弥生中期中葉
149-28	弥生土器	壺（広口）	A区f14	遺構149(土器溜まり)覆土(上層)	887	18.2×(10.1)、頸部径8.3	外：不明瞭、内：横ナデ(一部しぼり目残る)	～2mm白・半透明・赤中量	～2mm中量	良好	外：7.5YR6/1褐灰～5YR6/4にぶい橙(一部N4/0灰)、内：10YR6/1褐灰～10YR7/1灰白(一部5YR6/4にぶい橙)、断：N2/0黒	15？(口縁30)	口縁端部に波状文1条、口縁内面(上面)に扇形文4個残存(工具単位5本／幅0.8cm)、頸部に断面三角貼付突帯2条、2次焼成か(黒～赤く変色か)、図反転復元	弥生中期中葉
149-29	弥生土器	壺（広口）	A区e15	遺構149(土器溜まり)上層	769	?×(3.5)	外：ナデ、内：ナデ	～4mm白中量、～2mm赤・黒(チャートか)少量	～4mm中量	良好	外・内：2.5YR6/6橙～2.5YR5/6明赤褐、断：7.5YR5/1灰褐	10未満	口縁端部に凹線6条(幅2.0～3.0mm)＋径2.0cmの円形浮文(浮文上に径1.0cmの竹管文)	弥生中期中葉
149-30	弥生土器	壺（広口）	A区f14	遺構149(土器溜まり)サブトレンチ	767	?×(2.2)	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白・半透明少量	～3mm少量	良好	外・内：5YR7/6橙、断：10YR5/1褐灰	10未満	口縁端部に凹線3条残存(幅2.0～2.5mm)、口縁内面(上面)に扇形文2列(工具単位9本／幅1.5cm)＋径2.0mmの穿孔3個残存(焼成前、上～下へ穿孔)	弥生中期中葉
149-31	弥生土器	壺（直口）	A区f14	遺構149(土器溜まり)覆土(上層)	887	6.0×(5.0)、頸部径4.3	外：不明瞭、内：不明瞭	～5mm白・半透明中量	～5mm中量	良好	外・内：5YR7/4・6/4にぶい橙～10YR7/2にぶい黄橙、断：10YR5/1褐灰	10未満(口縁25)	小形壺、口縁端部丸み、頸部に直線文1条(不明瞭)＋列点文1列、図反転復元	弥生中期中葉
149-32	弥生土器	壺（直口）	A区f14	遺構149(土器溜まり)上層	772	12.2×(10.0)、頸部径9.1	外：不明瞭(一部縦ハケ残存)、内：不明瞭	～2mm白・半透明・赤多量、～1mm黒(チャートか)微量	～1mm微量	良好	外・内：10R6/4にぶい赤橙～10YR8/2灰白(口縁部10YR6/1褐灰)、断：10YR3/1黒褐	10未満(口縁30)	口縁部外面～内面に黒斑あり、口縁端部やや面あり(丸み)、2次焼成か(赤く変色)、図反転復元	弥生中期中葉
149-33	弥生土器	壺（直口）	A区f14	遺構149(土器溜まり)上層	772	約11.0？×(7.5)	外：不明瞭、内：横ナデ・ナデ？	～3mm白・半透明少量(雲母含む)	～3mm少量	良好	外・内：5YR7/6橙～10YR6/2灰黄褐、断：10YR4/1褐灰	10未満	口縁部～頸部に刻み目(列点文かも)＋列点文1列(単位6本／幅7.0mm)＋直線文5条以上(単位6本／幅7.0mmか、上から5条目はわずか残存)、口縁端部やや面あり	弥生中期中葉
149-34	弥生土器	壺（直口）	A区f14	遺構149(土器溜まり)覆土(上層)	887	8.9×(6.6)、頸部径5.6	外：不明瞭、内：ナデ？	～2mm白・黒(チャートか)・赤中量(4mm黒チャート1個)	～5mm多量(9mm1個)	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙～2.5Y5/1黄灰、内：7.5YR6/4にぶい橙～2.5Y4/1黄灰、断：2.5Y3/1黒褐	10未満(口縁30)	小形壺、口縁部～頸部に波状文1条＋直線文1条(単位11本／幅1.3cm、1cm中7～8本)＋断面三角貼付突帯1条＋波状文1条、外面に黒斑(2.5Y2/1黒)、図反転復元	弥生中期中葉
149-35	弥生土器	壺（段状口縁）	A区e15	遺構149(土器溜まり)上層	769	31.4×(14.5)、頸部径24.2	外：ナデか、内：ナデ	～3mm白・半透明多量、～3mm赤少量	～9mm多量	良好	外・内：10YR8/3浅黄橙～7.5YR8/4浅黄橙、断：2.5Y6/1黄灰	10未満(口縁25)	口縁部に刻み目(縦長さ6.0mm、間隔4.0～7.0mm)＋斜格子文(2本1組のヘラ状工具で施文)、頸部に指頭圧痕貼付突帯1条、図反転復元	弥生中期中葉
149-36	弥生土器	高杯（脚部）	A区f14	遺構149(土器溜まり)覆土(上層)	887	?×(10.0)、脚柱部径4.7、脚端部径14.2	外：縦ミガキ、内：脚柱部しぼり目・脚裾部ナデ	緻密、～1mm白・半透明中量、～1mm黒(チャートか)少量	～1mm少量	良好	外・内・断：N4/0（灰）	50(脚柱部80・脚端部75)	外面ミガキ幅5.0mm、脚裾部に横ハケか板ナデの痕跡あり(後ナデか)、2次焼成か(脚端部に煤付着)	弥生中期中葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
145-1	弥生土器	壺（体部）	A区f14	遺構145(溝)下層	752	？×(6.8)	外：不明瞭、内ナデか(不明瞭)	～1mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～2mm中量	良好	外：10YR6/2灰黄褐、内：10YR7/3黄橙、断：10YR3/1黒褐	10未満	外面に直線文1条残存(単位8本／幅0.9cm)＋扇形文(直線文上に櫛文、斜格子文後)＋斜格子文(2本1組のヘラ状工具)＋波状文1条残存(斜格子文後)	弥生中期中葉
145-2	弥生土器	甕（小形～中形）	A区f14	遺構145(溝)下層(トレンチ)	742	約24.0？×(4.9)	外：斜めケズリ、内：ナデか(口縁部横ナデ)	～2mm半透明中量、～1mm白中量、～1mm赤微量	～1mm多量	良好	外：7.5YR5/3にぶい褐、内：5YR7/4にぶい橙～口縁端部付近7.5YR3/2黒褐、断：10YR6/1褐灰	10未満(口縁10未満)	外面全体に煤付着、口縁端部に面あり	弥生中期中葉
145-3	弥生土器	鉢	A区f14	遺構145(溝)下層	752	？×(5.3)	外：不明瞭、内：ナデ	～3mm半透明多量、～1mm白中量、～1mm赤少量、～1mm黒微量	～3mm多量	良好	外：5YR6/6橙、内：5YR7/6橙、断：10YR8/3浅黄橙～10YR6/1褐灰	10未満(口縁10未満)	口縁端部やや内側につまみ上げ	弥生中期中葉
145-4	弥生土器	壺（大形）	A区g12	遺構145(溝)(中層か)1/20図記載	806	約39.0×(18.2)	外：斜めミガキ、内：斜め～横ハケ？(不明瞭)	～4mm白・半透明多量、～2mm赤少量	～4mm多量	やや良	外：10YR8/4浅黄橙、内：10YR7/4にぶい橙～10YR5/1褐灰、断：10YR5/1褐灰	10未満	口縁端部は上下に拡張(口縁端部外面は沈線状になる)	弥生中期中葉
145-5	弥生土器	蓋（甕用）	A区f11	遺構145(溝)上層(サブトレンチ)	749	約15.6？×(2.1)	外：不明瞭(ナデ？)、内：不明瞭(ナデ？)	～2mm半透明・黒(チャートか)中量、～1mm白少量	～2mm中量	良好	外・内：10YR7/2にぶい橙(内面一部5YR6/6橙)、断：10YR5/1褐灰	10未満	穿孔1個残存(径4.5mm)	弥生中期中葉
145-6	弥生土器	壺（直口）	A区f11	遺構145(溝)上層	750	11.6×(12.3)、頸部径9.3	外：縦ハケ、内：ナデ(若干しぼり目)	～4mm半透明多量、～2mm白多量、～1mm赤微量	～4mm多量	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙、内：10YR8/2灰白、断：10YR4/1褐灰	10(口縁40)	口縁端部(上面)は面あり、図反転復元	弥生中期中葉
145-7	弥生土器	壺（頸部）	A区f11	遺構145(溝)上層(サブトレンチ)	749	？×(10.2)	外：不明瞭、内：ナデ(若干しぼり目)	～4mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～4mm中量	良好	外：10YR5/2灰黄褐、内：10YR7/3にぶい黄橙、断：10YR6/2灰黄褐	10未満	頸部に波状文1条(直線文後)＋直線文1条(単位11本／幅2.2cm、1cm中6本)＋波状文1条(突帯後、直線文より先)＋断面三角貼付突帯3条残存	弥生中期中葉
145-8	弥生土器	壺（大形）	A区f11	遺構145(溝)上層(サブトレンチ)	750	約34.0×(5.9)	外：横タタキ、内：ナデか(不明瞭)	～3mm白・半透明中量、～1mm赤少量、～1mm黒(チャートか)微量	～3mm中量	良好	外・内：5YR7/8橙、断：10YR8/2灰白	10未満	口縁端部は面あり(わずかに上下に拡張)	弥生中期中葉
145-9	弥生土器	壺（広口）	A区g11	遺構145(溝)トレンチ	746	26.8×(5.4)	外：ナデ？(不明瞭)、内：ナデ(横ナデ)	～2mm白・半透明・赤中量	～2mm中量	良好	外：10YR8/3浅黄橙～10YR7/3にぶい黄橙、内：10YR8/3浅黄橙、断：10YR5/1褐灰	10未満(口縁15)	頸部に直線文1条残存(幅7.0mm以上)、図反転復元	弥生中期中葉
145-10	弥生土器	壺（直口）	A区g11	遺構145(溝)トレンチ	745	？×(7.3)	外：不明瞭、内：不明瞭	～2mm白・半透明・赤中量	～3mm多量	やや良好	外・内：7.5YR7/6橙(内面一部10YR7/4にぶい黄橙)、断：10YR5/1褐灰	10未満	細頸壺の可能性あり、口縁端部に凹線1条(幅5.0mm)、頸部に凹線2条(幅3.0mm)	弥生中期中葉
145-11	弥生土器	鉢	A区g11	遺構145(溝)	746	？×(4.8)	外：縦ミガキか(不明瞭、ハケかも)、内：横ナデか横ミガキ？(不明瞭)	～3mm半透明中量、～1mm黒(チャートか)・白少量、～1mm赤微量	～3mm中量	良好	外・内：10YR7/3にぶい黄橙、断：10YR5/1褐灰	10未満(口縁10未満)	高杯の可能性あり、口縁部に貼付突帯1条、口縁端部と突帯上に刻み目	弥生中期中葉
145-12	弥生土器	鉢か高杯	A区g11	遺構145(溝)トレンチ	746	？×(4.1)	外：ナデ？(ミガキかも？)、内：ナデか	～2mm白・半透明中量、～1mm黒(チャートか)少量、～1mm赤微量	～1mm微量	良好	外：10YR7/4にぶい黄橙、内：10YR7/3にぶい黄橙、断：10YR6/1褐灰	10未満(口縁10未満)	口縁端部は肥厚(上面と外面に面あり)	弥生中期中葉
145-13	弥生土器	高杯（脚柱部）	A区f12	遺構145(溝)トレンチ	744	？×(12.3)、脚柱部径5.5	外：縦ミガキ(不明瞭)、内：杯部ナデか・脚柱部ナデか？	～5mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～5mm多量	良好	外：10YR6/1褐灰(一部7.5YR7/4にぶい橙)、内：10YR6/1褐灰、断：10YR5/1褐灰	50(脚柱部90)	杯部円板充填	弥生中期中葉
300-1	弥生土器	壺（段状口縁）	B区y15/y14・15/y15/a15	遺構300(竪穴住居)セクション西下層/300下層/300セクションベルト下層/300セクション西中層	1602/1664/1584/1562	39.0×(13.2)、頸部径15.0	外：細かい縦ハケ、内：横ナデ(口縁端部強い横ナデ)	～2mm白多量、～2mm半透明・黒(チャートか)中量、～2mm赤少量	～2mm少量	良好	外・内：10YR8/1灰白、断：N3/0暗灰	10未満(口縁40)	口縁屈曲部に貼付突帯1条、口縁端部と突帯部に刻み目(単位6本／5mmのハケ原体で右斜め上方から施文)、頸部に指頭圧痕貼付突帯1条(ハケ後)、外面ハケ単位1cm中11本、口縁端部(刻み目下)は強い横ナデで凹線状になる、外面口縁端部付近～口縁端部上面の一部に赤色の付着あり(2.5YR6/8橙)、図反転復元	弥生中期中葉
300-2	弥生土器	壺（広口）	B区a14	遺構300(竪穴住居)セクション西炭層	1607	14.2×26.8、頸部径7.0、胴部径19.0、底部径5.2	外：横ミガキ・縦ミガキ、内：不明瞭(下半ナデ)	～3mm白・半透明中量	～4mm中量	良好	外・断：10YR7/1灰白～10YR7/2にぶい橙、内：10YR7/1灰白～N3/0暗灰	ほぼ100(口縁50)	口縁部の一部を除きほぼ完形、頸部に断面三角貼付突帯1条、体部外面と口縁端部に黒斑、全体的に変色？(2次焼成か？)	弥生中期中葉
300-3	弥生土器	壺（直口）	B区a14	遺構300(竪穴住居)セクション西炭層	1608	12.2×38.35、頸部径10.4、胴部径22.2、底部径5.6	外：上半ミガキ？(不明瞭)・下半縦ミガキ、内：ナデ？	～5mm白多量、～2mm赤少量、～1mm半透明少量	～3mm多量	良好	外・断：7.5YR4/3褐～7.5YR8/6浅黄橙(一部2.5YR6/6橙)、内面と外面一部：2.5Y6/1・5/1・4/1黄灰	80(口縁100・底部100)	胴部の一部欠損、口縁端部は面あり、外面ミガキ幅3.0mm、外面の片面に煤付着(住居焼失時か、2.5Y3/1黒褐)、2次焼成で変色か(器壁粗い)	弥生中期中葉
300-4	弥生土器	甕（小形）	B区y14	遺構300(竪穴住居)セクション東炭層/300セクション東上層/遺構422(300内の小土坑)	1609・1604/1532/1647	17.4×25.9、胴部径18.8、底部径5.4	外：上半縦ハケ・下半縦ケズリ・指オサエ、内：頸部横ハケ・体部ハケ(不明瞭、ハケ後ナデか)	～3mm白・半透明多量、～3mm赤微量	～3mm多量	良好	外：2.5YR7/6橙～10YR8/3浅黄橙、内：10YR8/3浅黄橙～10YR7/2にぶい黄橙	80(口縁100・底部100)	口縁端部は若干上方につまみ上げ、外面ハケ単位14～15本／幅2.2cm(1cm中7～8本)、外面と内面一部と口縁内外面に黒斑(外面黒斑の裏側に内面黒斑、N3/0暗灰～5Y6/1・5/1灰)、やや変色(2次焼成か)、底部付近一部欠損(ほぼ完形)	弥生中期中葉
300-5	弥生土器	高杯（脚部）	B区a14	遺構300(竪穴住居)セクション西炭層	1606	？×(16.0)、脚柱部径6.8、脚端部径16.2	外：縦ミガキ(不明瞭)、内：杯部ミガキ？・脚柱部しぼり目・横ナデ	～3mm白・半透明多量(5mm白3個)	～3mm多量	良好	外・内・断：2.5Y3/1黒褐～2.5Y8/2灰白(一部10YR5/3にぶい黄褐)	50(脚部全体50、脚端部90)	杯部欠損、杯部円板充填、脚部に断面三角貼付突帯1条、外面に黒斑	弥生中期中葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
300-6	弥生土器	壺（底部）	B区y14	遺構300(竪穴住居) セクション東 炭層	1609	?×(8.7)、底部径6.0	外：斜めミガキ、内：ナデか	～5mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～5mm多量	良好	外・内：10YR6/2灰黄褐～10YR8/3浅黄橙(一部10YR4/1褐灰)、断：10YR4/1褐灰	10未満(底部100)	図一部反転復元	弥生中期中葉
300-7	弥生土器	壺（体部）	B区a15	遺構300(竪穴住居) セクション西中層	1562	?×(5.6)	外：横ミガキ(ミガキ後簾状文)、内：ナデ	～3mm白中量、～1mm赤・黒雲母少量	～3mm中量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙、内：10YR5/1褐灰、断：7.5YR7/4にぶい橙～10YR5/1褐灰	10未満	櫛状文2条残存(単位12本／幅1.4cm、1cm中9本、上側の静止幅3.0～5.0mm・下側の静止幅6.0～7.0mm)、屈曲部より下半に黒斑あり(N4/0灰～N3/0暗灰)	弥生中期中葉
300-8	弥生土器	甕（大形）	B区a15	遺構300(竪穴住居) セクション西中層	1562	約36.0×(7.2)	外：不明瞭、内：ナデか(不明瞭)	～3mm白・半透明中量、～1mm赤少量	～3mm中量	良好	外・断：10YR8/4浅黄橙、内：10YR5/1褐灰	10未満	口縁端部は上方につまみ上げ	弥生中期中葉
300-9	弥生土器	壺（細頸）	B区a14	遺構300(竪穴住居) セクション西上層	1516	8.8×(4.1)	外：横ナデ、内：横ナデ	～2mm白少量、～1mm赤微量	～2mm少量	良好	外・内：10YR8/3浅黄橙、断：2.5Y5/1黄灰	10未満(口縁10)	口縁部に凹線5条以上(幅4.0～6.0mm)、図反転復元	弥生中期中葉
300-10	弥生土器	壺（直口）	B区a14	遺構300(竪穴住居) セクション西上層	1516	16.0×(4.6)	外：横ナデか(不明瞭)、内：横ナデか(不明瞭)	～3mm白・半透明中量、～1mm赤・金雲母微量	～3mm中量	良好	外・内・断：7.5YR7/4にぶい橙～7.5YR7/6橙	10未満(口縁10)	口縁部に凹線4条残存(最上段は幅2.0mmの沈線状、他は幅5.0mm)、口縁端部つまみ上げるようにナデ(頸部上面は凹線状になる)、直口鉢の可能性あり、図反転復元	弥生中期中葉
300-11	弥生土器	甕（小形）	B区a14	遺構300(竪穴住居) セクション西上層	1516	15.6×(14.6)、胴部径15.5	外：上半横ミガキ？(不明瞭)・下半縦ケズリ、内：不明瞭	～2mm白・半透明少量、～2mm赤微量	～2mm少量	良好	外・内・断：7.5YR4/2褐灰～7.5YR7/6橙	20(口縁30)	外面に若干煤付着(下半中心)、図反転復元	弥生中期中葉
300-12	弥生土器	甕（中形～大形）	B区a14	遺構300(竪穴住居) セクション西上層	1516	約32.0？×(8.0)	外：細かい縦ハケ、内：ナデ	～2mm白・半透明中量、1mm赤・黒雲母微量	～1mm微量	良好	外・内：5YR6/6橙、断：2.5Y5/1黄灰	10未満	口縁端部は上方につまみ上げ、外面ハケ単位15本／幅1.0cm	弥生中期中葉
300-13	弥生土器	高杯（脚裾部）	B区a14	遺構300(竪穴住居) セクション西上層	1516	?×(4.3)、脚端部径12.4	外：縦ハケ(不明瞭)、内：不明瞭	～2mm白・半透明・赤・黒(チャートか)・金雲母少量	～1mm微量	良好	外・断：10YR7/4にぶい黄橙～10YR4/1褐灰、内：5YR6/8橙～10YR7/3にぶい黄橙	10未満(脚端部25)	脚端部は面あり(幅5.0mmの凹線1条)、脚裾部に凹線2条残存(幅4.0・3.0mm)、図反転復元	弥生中期中葉
300-14	弥生土器	壺（底部）	B区a14/a15	遺構300(竪穴住居) セクション西上層/300セクション西中層	1516/1562	?×(15.3)、胴部径32.4、底部径8.8	外：不明瞭、内：不明瞭	～2mm白多量	～4mm多量	良好	外・内：10YR5/6赤、断：10YR5/1褐灰	10(底部100)	壺の可能性あり、図反転復元	弥生中期中葉
301-1	弥生土器	壺（広口）	B区c14	遺構301(炭土坑) セクション上層	1611	14.6×(3.3)	外：不明瞭、内：不明瞭	～1mm白・半透明少量、～1mm赤中量	～3mm中量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙、内：10YR8/3浅黄橙～7.5YR7/3にぶい橙、断：10YR8/1灰白	10未満(口縁15)	口縁端部波状文、口縁部内面(上面)波状文(単位1cm中8～9本)、図反転復元	弥生中期中葉
301-2	弥生土器	壺か鉢（直口）	B区c14	遺構301(炭土坑) セクション上層	1611	18.2×(3.8)	外：不明瞭、内：不明瞭(口縁端部横ナデ)	～3mm白中量、～2mm赤少量、～1mm半透明少量	～3mm多量	良好	外・内：7.5YR8/4浅黄橙、断：10YR6/1褐灰～10YR4/1褐灰	10未満(口縁10未満)	口縁部に凹線3条以上(幅4.5・5.0、4.0mm)、図反転復元	弥生中期中葉
301-3	弥生土器	鉢	B区c14	遺構301(炭土坑) セクション上層	1560	28.2×(3.5)	外：横ナデ、内：横ナデ(横ミガキの可能性あり)	～1mm白・半透明中量、～1mm赤・黒(チャートか)微量	～1mm微量	良好	外・断：10YR3/1黒褐、内：10YR6/2灰黄褐	10未満(口縁10未満)	口縁端部外側に肥厚(突帯状、刻み目あり)＋貼付突帯2条以上(刻み目あり)、直口鉢か、突帯上に縦方向の棒状浮文、図反転復元	弥生中期中葉
301-4	弥生土器	壺（頸部～体部）	B区c14	遺構301(炭土坑) セクション上層/301セクション北西上層/310セクション西上層	1611/1560/1555	?×(28.4)、頸部径10.8、胴部径21.6、底部径6.0	外：上半横板ナデ・下半縦ミガキ(ケズリ後か)、内：上半斜めハケ・下半縦ハケ(底部ハケあり)	～1mm白・半透明少量、～1mm赤微量	～4mm多量	やや良好	外・断：7.5YR7/4にぶい橙～10YR7/4にぶい黄橙、内：10YR4/1褐灰～10YR5/1褐灰	40(頸部10＋底部60)	口縁部欠損、底部に黒斑あり、図反転復元	弥生中期中葉
301-5	弥生土器	高杯（脚柱部）	B区c14	遺構301(炭土坑) セクション上層	1611	?×(8.0)、脚柱部径4.7	外：縦ミガキ、内：杯部縦ミガキ、脚柱部しぼり目	～1mm白・半透明多量、～1mm赤中量、～1mm黒(チャートか)少量	～1mm中量	良好	外：7.5YR6/3にぶい褐、内：7.5YR5/3にぶい褐～5YR6/6橙、断：5YR6/6橙	10(脚柱50)	杯部～脚柱部、内面に円板充填の痕跡あり(欠損)、外面ミガキ幅3.0～4.0mm、図反転復元	弥生中葉
310-1	弥生土器	壺（体部～底部）	B区b14	遺構310(土坑) セクション東 下層	1638	?×(12.6)、底部径7.8	外：上半横ミガキ・下半縦ミガキ、内：ナデか(ハケの可能性あり)	～3mm白多量、～3mm半透明少量、～1mm赤微量	～6mm多量	良好	外：10YR6/3にぶい黄橙～7.5YR6/4にぶい橙、内：2.5Y5/1黄灰～2.5Y3/1黒褐、断：2.5Y5/1黄灰～7.5YR6/4にぶい橙	25(底部100)	外面底部付近に一部黒斑あり	弥生中期中葉
310-2	弥生土器	甕（体部～底部）	B区b14・c14	遺構310(土坑) 北側肩部	1616	?×(12.5)、底部径6.2	外：縦ケズリ・底部付近指オサエ+横ナデ、内：ナデか(不明瞭)	～1mm白少量、～1mm赤微量	～2mm中量	良好	外：10YR4/2灰黄褐～10YR3/2黒褐(底部一部5YR5/4にぶい赤褐)、内：7.5YR5/2灰褐～10YR4/2灰黄褐、断：10YR4/2灰黄褐	20(底部100)	小形甕、外面全体に煤付着、内面一部に煤付着、図一部反転復元	弥生中期中葉
310-3	弥生土器	壺（広口）	B区c14	遺構310(土坑) セクション中 上層	1554	10.8×(12.5)、頸部径9.0	外：口縁部横ナデ・頸部～体部縦ハケ、内：口縁部横ハケ・体部ナデ	～1mm白・半透明少量、～1mm黒・赤・金雲母微量(4mm半透明3個、3mm黒(チャートか)1個、3mm白1個)	～1mm微量	良好	外・内：2.5Y6/8橙、断：7.5YR6/4にぶい橙	10(口縁10)	口縁部あまり外側に広がらない形態、外面ハケ単位8本／幅1.5cm(1cm中5本)、口縁部内面に横ハケ単位7本／幅1.2cm(1cm中5本)、他地域(阿波・大和など片岩含まれる地域)の搬入の可能性あり、図反転復元	弥生中期中葉
310-4	弥生土器	壺（広口）	B区c14/c13	遺構310(土坑) セクション中 上層/4層下部	1554/1478	17.4×(8.4)、頸部径8.6	外：縦ハケ、内：ナデか(粘土紐接合痕あり)	～1mm白・半透明中量、～1mm黒(チャートか)微量(4mm黒1個)、3mm砂岩1個	～1mm少量	やや良好	外・内：10YR8/4浅黄橙～10YR6/2灰黄褐、断：10YR6/1褐灰	20(口縁70)	頸部に直線文1条残存(単位10本／幅1.1cm、ハケ後)、外面ハケ単位14本／幅2.4cm(1cm中6本)、全体的に2次焼成か(煤わずかに付着？)	弥生中期中葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
310-5	弥生土器	甕（広口）	B区c14	遺構310(土坑) セクション西 上層	1555	18.0×(1.4)	外：横ナデ、内：横ナデか	～1mm白・半透明・黒(チャートか)少量、10mm白・黒1個ずつ	～1mm微量	良好	外：10YR6/2灰黄褐～10YR5/2灰黄褐、内：10YR5/2灰黄褐、断：10YR5/1褐灰	10未満(口縁15)	口縁端部に波状文(単位6～7本／幅1.0cm)、口縁部内面(上面)に波状文1条、全体にやや硬質、図反転復元	弥生中期中葉
310-6	弥生土器	壺（広口）	B区d14	遺構310(土坑) セクション西 上層	1557	約30.0?×(13.2)	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白多量(6mm白1個)、～1mm赤中量・半透明・黒(チャートか)少量	～4mm多量	良好	外・内：7.5YR7/6橙、断：7.5YR7/6橙～10YR7/2にぶい黄橙	10未満	口縁端部に波状文、口縁内面に扁形文＋穿孔1個残存(径0.55cm、焼成前)、口縁端部に黒斑あり(10YR4/1褐灰)	弥生中期中葉
310-7	弥生土器	甕（直口）	B区c14	遺構310(土坑) セクション西 上層	1555	17.0×(5.5)	外：不明瞭、内：不明瞭(ナデ?)	～1mm白・黒(チャートか)・赤微量、3mm半透明1個	～1mm微量	良好	外・断：7.5YR8/3浅黄橙～7.5YR7/4にぶい橙、内：7.5YR7/4にぶい橙	10未満(口縁15)	口縁部に凹線4条(幅3.0～3.5mm)＋波状文1条、図反転復元	弥生中期中葉
310-8	弥生土器	壺（頸部）	B区c14	遺構310(土坑) セクション中 上層/310 セクション西上層	1554/1555	?×(15.8)、頸部径10.4	外：不明瞭、内：ナデか	～2mm白・半透明中量	～5mm多量	良好	外：5YR6/6橙～5YR5/4にぶい赤褐、内：7.5YR7/3にぶい橙～7.5YR6/2灰褐、断：7.5YR5/1褐灰	10未満	直線文1条(単位11本／幅2.0cm、1cm中6本)＋波状文1条＋直線文1条(貼付突帯後)＋断面三角貼付突帯4条＋波状文1条(貼付突帯後)＋直線文1条(単位9本／幅1.7cm、1cm中6本)、図反転復元・上半と下半図上合成(貼付突帯4条に復元、3条の可能性あり)	弥生中期中葉
310-9	弥生土器	甕（小形）	B区c14	遺構310(土坑) セクション西 上層	1555	?×(3.6)	外：不明瞭、内：不明瞭	～1mm白・赤中量	～3mm中量	良好	外：5YR6/6橙～5YR5/6明赤褐、内・断：5YR6/6橙	10未満	口縁端部はやや上方につまみ上げ、体部に波状文1条、複合土器(鉢)の可能性あり、310-10と同形態(同一の可能性あり)	弥生中期中葉
310-10	弥生土器	甕（小形）	B区c14	遺構310(土坑) セクション西 上層	1555	16.6×(9.9)、胴部径19.0	外：不明瞭、内：ナデ?(不明瞭)	～1mm白少量、～1mm半透明・赤微量(3mm赤1個)	～5mm中量(8mm1個)	良好	外・断：5YR6/6橙、内：5YR3/1黒褐～5YR5/4にぶい赤褐	10未満(口縁わずか)	口縁端部はやや上方につまみ上げ、体部に波状文1条＋直線文1条(幅1.5cm、単位1cm中10本)＋扇形文＋波状文1条、複合土器(鉢)の可能性あり、310-9と同形態(同一の可能性あり)、図反転復元	弥生中期中葉
310-11	弥生土器	甕（小形）	B区c14	遺構310(土坑) セクション西 上層	1555	16.2×(10.4)、胴部径19.4	外：頭部～体部上半横ナデ～ナデ・体部縦ハケ。内：ナデ(指オサエわずか)	～1mm白・半透明少量、～1mm黒(チャートか)・赤・雲母微量	なし?	良好	外：10YR5/2灰黄褐～10YR4/1褐灰、内：10YR4/2灰黄褐、断：5YR5/8明赤褐～7.5YR5/6明褐	10(口縁10)	口縁端部はやや上方につまみ上げ、外面ハケ単位1cm中9本、外面一部変色あり(若干煤付着)、搬入品の可能性あり(片岩なしか?)、図反転復元	弥生中期中葉
310-12	弥生土器	甕（小形）	B区c14	遺構310(土坑) セクション西 上層	1555	19.0×(8.6)、胴部径20.9	外：斜めケズリ、内：ナデ	～2mm白中量、～1mm半透明少量、～1mm赤微量	～2mm中量	良好	外：10YR6/3にぶい黄橙～10YR4/2灰黄褐、内：10YR7/3にぶい黄橙～10YR5/1褐灰、断：10YR5/1褐灰～10YR6/3にぶい黄橙	10(口縁25)	口縁端部は上方につまみ上げ、図反転復元	弥生中期中葉
310-13	弥生土器	甕（中形）	B区c14	遺構310(土坑) セクション中 上層	1554	25.6×(5.4)	外：ナデか(不明瞭)、内：ナデ?(不明瞭)	～3mm白・半透明中量、～1mm赤・黒(チャートか)微量	～3mm少量	良好	外：7.5YR6/2灰褐～7.5YR6/3にぶい褐、内：7.5YR7/4にぶい橙、断：10YR3/1黒褐	10未満(口縁15)	口縁端部はやや上方につまみ上げ、図反転復元	弥生中期中葉
310-14	弥生土器	甕（中形）	B区c14	遺構310(土坑) セクション中 上層	1554	27.4×(5.0)	外：不明瞭、内：不明瞭	～1mm白・半透明少量	～1mm少量	やや不良	外：5YR6/8橙～10YR5/2灰黄褐、内：5YR6/8橙～2.5YR5/8明赤褐、断：10YR5/1褐灰	10未満(口縁10未満)	口縁端部は上方につまみ上げ(やや下方にも拡張)、全体的に変色・器壁剥離(2次焼成か)、図反転復元	弥生中期中葉
310-15	弥生土器	甕（中形～大形）	B区c14	遺構310(土坑) セクション中 上層/311 セクション東	1554/1553	31.4×(24.5)、胴部径35.2	外：不明瞭、内：粗い縦ハケ(頸部付近横ハケ)	～3mm白・半透明多量、～2mm赤少量	～4mm多量	良好	外・断：2.5Y5/2暗灰黄、内：10YR8/3浅黄橙	20(口縁15)	口縁端部は上方につまみ上げ(やや下方にも拡張)、内面ハケ単位1cm中3～4本、外面器壁剥離あり(2次焼成か)、図反転復元	弥生中期中葉
310-16	弥生土器	高杯か鉢(外反口縁)	B区c14	遺構310(土坑) セクション中 上層	1554	24.0×(7.4)	外：横ミガキ、内：横ミガキ	～1mm白・半透明中量、～1mm黒(チャートか)少量(3mm黒1個)、～1mm赤微量	なし?	良好	外・内：5YR6/6橙、断：5YR5/1褐灰	10未満(口縁10)	口縁端部短く外反(端部丸み)。全体にミガキ施すが不明瞭(ミガキ幅1.0～2.0mm)、搬入品の可能性あり(片岩なしか?)、図反転復元	弥生中期中葉
310-17	弥生土器	鉢（直口）	B区c14	遺構310(土坑) セクション中 上層/4層下部精査	1554/1491	26.0×(9.5)	外：上半細かい縦ハケ・下半縦ケズリ、内：ナデか(不明瞭)	～1mm白・半透明中量(4mm白1個)、～1mm赤微量(3mm赤1個)	なし?	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙～10YR4/1褐灰(黒斑か)、内：10YR7/1灰白～10YR7/3にぶい黄橙・一部10YR4/1褐灰(黒斑か)	20(口縁25)	口縁端部に浅い凹線2条(幅3.5mm)、外面ハケ幅1.5cm(1cm中14～15本か)、ハケ後ケズリか、2次焼成か(変色か、やや硬質になる)、搬入品の可能性あり(片岩なしか?)、図反転復元	弥生中期中葉
310-18	弥生土器	脚台(高杯か鉢)	B区c14	遺構310(土坑) セクション中 上層	1554	?×(12.5)、脚柱部径5.8、脚端部径14.0	外：不明瞭、内：不明瞭	～1mm白・半透明少量(5mm半透明1個)、～1mm黒(チャートか)・赤微量	～2mm微量(5mm1個)	良好	外・断：7.5YR8/3浅黄橙、内：7.5YR7/3にぶい橙	60(脚端部50)	脚柱部に幅広の凹線4条(幅6.0・6.0・9.0・5.0mm)、杯部底部分の接合痕跡残る、脚端部下面に接地面あり、脚端部外面に黒斑(2.5Y5/1褐灰)、図一部反転復元	弥生中期中葉
311-1	弥生土器	甕（大形）	B区c14	遺構311(土坑) 1/10図あり/311セクション東	1590/1553	38.0×(36.2)、胴部径44.8	外：上半縦～斜めハケ・下半縦ケズリ、内：斜めハケ	～5mm白・半透明中量(8mm白・半透明各1個)、～1mm赤少量	～5mm中量(11mm1個)	良好	外・断：7.5YR8/4・8/6浅黄橙(一部10YR6/2灰黄褐～2.5Y6/1黄灰)、内：7.5YR8/4浅黄橙～7.5YR7/3にぶい橙(一部10YR7/2にぶい黄橙)	40(口縁35・体部40)	胴部に長径6.2×短径5.4cmの焼成後穿孔あり(内側から外側へ穿孔)、外面ハケ単位約20本／幅3.1cm(1cm中6本)、内面ハケ単位1cm中9本、外面と内面の一部に黒斑(N3/0暗灰～N4/0灰)、2次焼成か?(一部変色)、底部欠損、図反転復元	弥生中期中葉
311-2	弥生土器	甕（大形）	B区c14	遺構311(土坑) 1/10図あり/311セクション東	1590/1553	32.4×(39.2)、胴部径38.4	外：上半縦ハケ・下半縦ミガキ(縦ケズリ後か、ミガキ幅5.0mm)、内：上半横ハケ・下半縦ハケ	～3mm白・半透明中量、～3mm赤少量	～3mm中量(5mm2個)	良好	外：10YR8/3浅黄橙、内・断：上半10YR8/3・8/4浅黄橙～10YR7/3にぶい黄橙～10YR5/2灰黄褐～10YR4/1褐灰、外面黒斑：N3/0黒	40(口縁50)	口縁端部は上方につまみ上げ、外面ハケ単位1cm中5～6本、内面ハケ単位11本?／幅2.7cm(1cm中4～5本)、外面に黒斑、外面下半の一部黒く変色(わずかに煤付着、10YR6/2・5/2・4/2灰黄褐)、底部欠損、図反転復元	弥生中期中葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
311-2	弥生土器	壺（広口）	B区c14	遺構311(土坑) セクション東	1553	8.6×(4.5)、頸部径6.2	外：横ナデ？(不明瞭)、内：不明瞭	～2mm黒(チャートか)中量、～2mm白・半透明少量、～1mm赤微量	なし？	良好	外：5YR6/8橙、内：7.5YR6/6橙、断：10YR6/2灰黄褐	10未満(口縁30)	小形壺、口縁端部と口縁内面(上面)に波状文、頸部に直線文(単位10本／幅1cm)、搬入品の可能性あり、図反転復元	弥生中期中葉
311-4	弥生土器	壺（広口）	B区c14	遺構311(土坑) セクション掘削	1589	17.0×(2.0)	外：横ナデ？(不明瞭)、内：横ナデ？(不明瞭)	～1mm白・半透明少量(3mm半透明1個)、～1mm赤・黒(チャートか)微量	～3mm少量	良好	外・内：10YR6/2灰黄褐、断：7.5YR7/4にぶい橙	10未満(口縁30)	口縁端部に波状文(単位10本／幅1.0cm)、図反転復元	弥生中期中葉
311-5	弥生土器	壺（直口）	B区c14	遺構311(土坑) セクション東	1553	13.0×(5.5)	外：縦ハケ、内：ナデ	～1mm白・半透明・赤・雲母少量、1mm灰(チャートか)1個	～1mm少量	良好	外・内：10YR7/2にぶい黄橙～10YR6/2灰黄褐、断：10YR3/1黒褐	10未満(口縁10)	外面ハケ単位1cm中6本、同一個体と思われる胴部片あり、図反転復元	弥生中期中葉
311-6	弥生土器	壺（直口）	B区c14	遺構311(土坑)	1590	18.0×(5.5)	外：不明瞭(横ナデ？)、内：不明瞭(ナデ？)	～3mm白中量、～2mm半透明少量、～1mm赤・黒(チャートか)中量	～1mm微量	良好	外：5YR7/6橙、内：7.5YR6/6橙、断：7.5YR7/3にぶい橙～5YR7/6橙	10未満(口縁10)	外面に断面三角貼付突帯3条、口縁端部は貼付か不明、口縁端部とその下の突帯に刻み目(口縁端部とその下の突帯は同時に刻み目か→間隔同じ)、外面に直線文1条残存、直口鉢の可能性あり、図反転復元	弥生中期中葉
311-7	弥生土器	壺（直口）	B区c14	遺構311(土坑) セクション東	1553	？×(9.5)	外：縦ハケ、内：ナデか(一部指オサエ)	～1mm白・半透明中量、～1mm赤少量	～1mm中量	良好	外：5YR6/6橙、内：7.5YR5/3にぶい褐、断：5YR6/6橙～7.5YR5/3にぶい褐	10未満	直口壺頸部片、頸部に指頭圧痕貼付突帯(ハケ後)、外面ハケ単位1cm中9～10本	弥生中期中葉
311-8	弥生土器	甕（小形）	B区c14	遺構311(土坑) セクション東	1553	10.5×(6.6)	外：不明瞭(ハケか)、内：不明瞭	～2mm白・半透明少量、～2mm赤中量	～1mm少量	良好	外・断：5YR6/6橙、内：7.5YR7/2明褐灰	10未満(口縁30)	外面に黒斑あり(7.5YR4/1褐灰)、図反転復元	弥生中期中葉
311-9	弥生土器	甕（小形）	B区c14	遺構311(土坑) セクション東	1553	14.0×(5.5)	外：不明瞭、内：不明瞭	～2mm白多量、～1mm半透明少量、～2mm灰(チャートか)少量	～2mm中量	やや良好	外：5YR5/8明赤褐、内・断：10YR4/2灰黄褐～5YR5/8明赤褐	10未満(口縁25)	口縁端部は若干上方につまみ上げ、外面に煤一部付着、図反転復元	弥生中期中葉
311-10	弥生土器	甕（小形）	B区c14	遺構311(土坑) セクション東	1553	15.6×(7.1)、胴部径18.6	外：不明瞭、内：ナデか	～2mm半透明少量、～1mm赤中量、～1mm白少量	～3mm中量	良好	外・内・断：7.5YR8/3浅黄橙～10YR5/3にぶい黄褐	10未満(口縁25)	口縁端部は上方につまみ上げ、図反転復元	弥生中期中葉
311-11	弥生土器	甕（小形）	B区c14	遺構311(土坑)	1590	17.4×(4.2)	外：縦ハケ？(不明瞭)、内：不明瞭	～4mm白・半透明中量、～1mm赤少量	～2mm少量	良好	外・内・断：10YR8/3浅黄橙	10未満(口縁15)	口縁端部は若干上方につまみ上げ、全体的に白っぽい胎土、図反転復元	弥生中期中葉
311-12	弥生土器	甕（小形）	B区c14	遺構311(土坑)/311 セクション東	1590/1553	14.4×(16.4)、胴部径15.5	外：縦ケズリ、内：斜めハケ(下半はナデか)	～3mm白・半透明中量	～5mm多量	良好	外：10YR4/2灰黄褐、内・断：10YR8/3浅黄橙～10YR4/2灰黄褐	80(口縁70)	内面ハケ単位約14本／幅3.0cm(1cm中4～5本)、外面下半に煤付着(10YR3/2黒褐)、底部欠損、体部ややひずみあり	弥生中期中葉
311-13	弥生土器	鉢	B区c14	遺構311(土坑) セクション東	1553	22.6×(14.7)	外：横ミガキ・縦ミガキ(ミガキ幅2.0mm)、内：上半横ナデ・下半ナデか(不明瞭)	～1mm白・半透明・黒(チャートか)中量、～5mm少量	～1mm微量	良好	外・内・断：7.5YR7/4にぶい橙～5YR6/6橙、黒斑：10YR5/1褐灰	25(口縁25)	口縁端部は貼り付けて肥厚、外面に波状文(貼付後)＋直線文(単位10本／幅1.0cm、波状文と同じ工具)＋波状文＋直線文＋波状文、外面下半と内面下半に黒斑、図反転復元	弥生中期中葉
311-14	弥生土器	高杯（椀形）	B区c14	遺構311(土坑) セクション東	1553	24.8×(7.0)	外：上半ナデ？・下半縦ケズリ、内：上半横ナデか・下半ナデ？(不明瞭)	～1mm白・半透明中量、～3mm黒(チャートか)少量、～2mm赤少量	～1mm微量	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙～5YR6/6橙、内：5YR6/6橙～7.5YR7/4にぶい橙、断：10YR5/1褐灰	15(口縁20)	口縁部に細くしっかりした凹線3条(幅3.0～4.0mm・深さ1.0mm)、外面に黒斑(10YR5/2灰黄褐)、鉢の可能性あり、図反転復元	弥生中期中葉
311-15	弥生土器	高杯（水平口縁）	B区c14	遺構311(土坑) セクション東	1553	32.0／杯部径22.4×(5.6)	外：縦ミガキ、内：水平口縁上面縦ミガキ・杯部縦ミガキ	～3mm赤中量、～1mm白・半透明少量、～1mm黒(チャートか)微量	～3mm多量(7mm2個)	良好	外：5YR7/6橙～5YR5/2灰褐色、内：7.5YR7/4にぶい橙～7.5YR5/2灰褐、断：5YR7/6橙～5YR5/2灰褐	10(口縁25・杯突帯部20)	杯部上面に貼付突帯、水平口縁の屈曲弱い、外面ミガキ幅2.0～3.0mm、水平口縁上面ミガキ幅1.0～1.5mm、図反転復元	弥生中期中葉
311-16	弥生土器	高杯（脚柱部）	B区c14	遺構311(土坑) セクション東	1553	？×(8.5)、脚柱部径4.6	外：上半不明瞭(縦ケズリ？)・下半縦ミガキか、内：しぼり目・不明瞭	～4mm白・半透明多量	～3mm多量	良好	外：2.5YR6/4にぶい橙～7.5YR7/4にぶい橙、内・断：2.5YR6/6橙(断面～5YR5/1褐灰)	10未満(脚部30)	円板充填の剥離痕跡あり、脚裾部に縦長の穿孔2個残存、図反転復元	弥生中期中葉
311-17	弥生土器	高杯（杯部～脚柱部）	B区c14	遺構311(土坑) セクション東	1553	？×(3.3)、脚柱部径5.3	外：不明瞭(縦ミガキか)、内：杯部不明瞭・脚柱部しぼり目	～2mm白・半透明多量、～2mm黒(チャートか)中量、～1mm赤中量	～3mm中量	良好	外：5YR6/6橙～5YR5/4にぶい赤褐、内・断：7.5YR6/1褐灰	10未満	杯部円板充填(円板充填部は完存、内面に指オサエ(指紋)残る)	弥生中期中葉
311-18	弥生土器	脚台（壺か鉢）	B区c14	遺構311(土坑) セクション西	1726	？×(4.5)、脚端部径10.4	外：不明瞭、内：横ナデ	～2mm白・半透明少量、～3mm黒(チャートか)微量、～1mm赤微量	～4mm中量	良好	外・断：10YR7/3にぶい黄橙～10YR5/2灰黄褐、内：10YR7/3にぶい黄橙～10YR4/1褐灰	10未満(脚端部25)	脚端部丸み(欠損の可能性あり)、内面に黒斑あり(10YR4/1褐灰)、図反転復元	弥生中期中葉
311-19	弥生土器	甕（底部）	B区c14	遺構311(土坑) セクション掘削	1589	？×(7.1)、底部径8.2	外：不明瞭(器壁剥離か)・指オサエ、内：不明瞭(ナデか)	～3mm白・半透明多量、～2mm黒～灰(チャートか)中量、～1mm赤少量(5mm赤2個)	～5mm多量	良好	外：10YR7/2にぶい黄橙～10YR5/3にぶい黄褐(一部5YR6/6橙)、内・断：10YR7/4にぶい橙～10YR5/3にぶい黄褐	10(底部100)	小形～中形甕、外面一部に煤付着、図一部反転復元	弥生中期中葉
311-20	弥生土器	壺（体部～底部）	B区c14	遺構311(土坑)	1590	？×10.8、胴部径30.0、底部径10.4	外：横ミガキ・縦ミガキ、内：不明瞭(ナデか)	～4mm白・半透明多量、～4mm赤・黒(チャートか)中量	～1mm微量	良好	外・内：5YR6/6橙～7.5YR6/4にぶい橙、断：7.5YR6/4にぶい橙～7.5YR6/1褐灰	15(底部20)	胴部最大径に屈曲部あり、外面ミガキ幅1.0～2.0mmか、外面に黒斑(7.5Y6/2灰褐)、図反転復元	弥生中期中葉
311-21	弥生土器	甕（底部）	B区c14	遺構311(土坑)	1590	？×(3.7)、底部径6.0	外：縦ケズリ、内ナデか	～1mm白・半透明少量、～1mm赤・黒(チャートか)・雲母微量	2mm1個	良好	外：2.5YR5/6明赤褐～7.5YR7/3にぶい橙、内：10YR6/3にぶい黄橙、断：10YR6/2灰黄褐	10未満(底部50)	小形甕、外面一部に煤付着、底部外面に擦痕あり(ケズリか)、図反転復元	弥生中期中葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
311-22	弥生土器	甕（底部）	B区c14	遺構 311(土坑) セクション東	1553	？×(5.9)、底部径 5.8	外：縦ケズリ、内：不明瞭	～1mm 白中量、～3mm 赤中量、～1mm 半透明・灰～黒(チャートか)少量	～3mm 少量	良好	外：7.5YR6/4 にぶい橙(一部 2.5YR5/4 にぶい赤褐)、内・断・底部外面：7.5YR5/1 褐灰	10 未満(底部50)	小形甕、底部外面ナデ。図反転復元	弥生中期中葉
313-1	弥生土器	甕（中形）	B区b14	遺構 313(土坑) セクション 上層	1614	約 30.0？×(3.6)	外：横ナデか、内：横ナデか	～1mm 白少量、～1mm 赤微量	～1mm 多量	良好	外：10YR5/2 灰黄褐、内：10YR4/2 灰黄褐、断：10YR5/2 灰黄褐	10 未満(口縁10未満)	鉢の可能性あり、口縁端部は面あり	弥生中期中葉
313-2	弥生土器	甕（小形）	B区b14	遺構 313(土坑) セクション 上層	1614	18.6×(4.5)	外：ケズリ？(不明瞭)、内：ナデか	～2mm 白・半透明中量、～1mm 微量	～2mm 中量	良好	外：7.5YR5/3 にぶい褐、内・断：10YR6/3 にぶい黄橙	10 未満(口縁10未満)	口縁端部はわずかに上方につまみ上げ、外面の一部に若干煤付着、図反転復元	弥生中期中葉
313-3	弥生土器	甕（大形）	B区c14	遺構 313(土坑) セクション西	1569	約 38.0？×(4.9)	外：刷ハケ、内：横ナデ	～2mm 白・半透明中量	～2mm 中量	良好	外：10YR7/2 にぶい黄橙(一部 7.5YR6/3 にぶい褐)、内：10YR7/2 にぶい黄橙、断：10YR4/1 褐灰	10 未満(口縁10未満)	口縁端部は面あり、外面ハケ単位 1cm 中 8 本	弥生中期中葉
314-1	弥生土器	壺（広口）	B区c14	遺構 314(土坑)	1559	約 28.0？×(2.5)	外：横ナデ、内：横ナデ	～2mm 白・半透明多量(4mm 半透明 1 個)、～1mm 赤・黒(チャートか)微量	～1mm 微量	良好	外：7.5YR3/3 暗褐、内：5YR6/8 橙、断：7.5YR7/4 にぶい橙	10 未満(口縁10未満)	口縁端部は面あり、頸部に直線文 1 条残存	弥生中期中葉
315-1	弥生土器	壺（小形）	B区d14	遺構 315(土坑) 北半	1598	？×(2.2)、底部径 4.8	外：縦ケズリ、内：不明瞭	～1mm 半透明中量、～1mm 黒(チャートか)少量、～1mm 白・赤微量	～1mm 微量	良好	外：10YR8/2 浅黄橙(一部 5YR6/4 にぶい橙・底部 10YR5/1 褐灰)、内・断：10YR8/2 浅黄橙	10 未満(底部50)	図反転復元	弥生中期中葉
360-1	弥生土器	甕（小形）	B区c13	遺構 360(土坑) 南半/遺構 360	1578/1600	16.0×(15.2)、胴部径 16.2	外：横ケズリ・斜めケズリ・縦ケズリ、内：斜めハケ(口縁横ナデ)	～3mm 白・半透明多量、～1mm 赤微量(5mm 赤 1 個)	～5mm 多量	良好	外・断：7.5YR4/1 褐灰、内：7.5YR5/2 灰褐	40(口縁40)	口縁端部やや面あり、内面細かいハケ(幅 3.3cm？、単位 1cm 中約 30 本)、図反転復元	弥生中期中葉
370-1	弥生土器	壺（直口）	B区b14	遺構 370(土坑) 南半	1620	約 14.0×(6.1)	外：不明瞭、内：ナデか	～1mm 白・赤中量、～1mm 半透明・黒(チャートか)微量	～1mm 中量	良好	外：7.5YR6/4 にぶい橙、内：10YR8/3 浅黄橙、断：10YR5/1 褐灰	10 未満(口縁10未満)	細頸壺かも、口縁端部(上面)やや面あり	弥生中期中葉
369-1	弥生土器	鉢	B区c14	遺構 369(土坑) 北半中層/369 北半セクション 上層	1618/1617	29.2×(13.6)	外：細かい縦ハケ・縦ケズリ、内：上半ナデ・下半縦ケズリか(不明瞭)、口縁部横ナデ	～3mm 白・半透明多量、～1mm 赤・黒(チャートか)少量	～1mm 微量	やや良好	外：2.5Y4/1 黄灰～10YR8/2 灰白、内：2.5Y6/1 黄灰～10YR7/1 灰白、断：10YR8/2 灰白～2.5Y6/1 黄灰	15(口縁10)	口縁端部に凹線 1 条の可能性あり(不明瞭)、外面ハケ幅 1.8cm(単位 1cm 中 10 本程度)、2 次焼成(器壁剥離、変色か)、図反転復元	弥生中期中葉
369-2	弥生土器	高杯（椀形）	B区c14	遺構 369(土坑) 北半中層	1618	30.0×(4.6)	外：横ミガキ(斜めハケ後か)、内：横ミガキ(斜めハケ後か)	～2mm 半透明少量、～1mm 白・黒(チャートか)微量	～4mm 少量	良好	外：7.5YR7/6 橙～5YR6/6 橙、内：7.5YR6/3 にぶい褐～7.5YR6/4 にぶい橙、断：10YR7/3 にぶい黄橙	10 未満(口縁15)	鉢の可能性あり、外面ミガキ幅 2.5mm、口縁端部(上面)は面あり(円周に沿ってミガキ)、内面斜めハケ単位 5 本／幅 5mm(1cm中10本か)、口縁部外面に黒斑あり(10YR4/1 褐灰)、図反転復元	弥生中期中葉
369-3	弥生土器	高杯（杯部～脚部）	B区c14	遺構 369(土坑) 北半中層	1618	？×(9.3)、脚部径 5.0	外：縦ミガキ(幅 2.0mm 程度)、内：縦ミガキ・脚柱部しぼり目	～1mm 赤多量、～1mm 半透明少量、～1mm 白微量	なし？	良好	外：5YR8/4 淡橙～2.5YR6/6 橙、内：7.5YR8/3 浅黄橙(一部 2.5YR6/6 橙)、断：10YR5/1 褐灰	20(脚柱部100)	直口鉢(無頸壺)かも、脚柱部に断面三角貼付突帯 2 条＋穿孔 4 個残存(透かし)あり(長楕円か、焼成前穿孔、本来 5 個か)、杯部円板充填、搬入品の可能性あり	弥生中期中葉
369-4	弥生土器	壺（小形）	B区c14	遺構 369(土坑) 北半中層	1618	？×(5.8)、底部径 5.6	外：縦ケズリ・指オサエ、内：不明瞭(ハケの可能性あり)	～1mm 白・半透明少量、～1mm 黒(チャートか)微量	～1mm 微量	良好	外：10YR7/3 にぶい黄橙～5YR6/4 にぶい橙、内：7.5YR6/3 にぶい褐～7.5YR5/3 にぶい褐、断：10YR5/1 褐灰	10 未満(底部20)	外面ケズリ幅 2.0cm、2 次焼成か、図反転復元	弥生中期中葉
369-5	弥生土器	壺（広口）	B区c14	遺構 369(土坑) 北半セクション上層	1617	16.6×(1.3)	外：横ナデ、内：横ナデ？	～1mm 白・半透明少量、～1mm 赤・黒(チャートか)微量、2mm 砂岩 1 個	～3mm 微量	良好	外：7.5YR6/4 にぶい橙、内・断：10YR8/3 浅黄橙～7.5YR6/8 橙	10 未満(口縁15)	口縁端部に波状文、口縁端部内面(上面)に扇形文(工具単位 8 本／幅 1.5cm、1cm 中 6 本)、図反転復元	弥生中期中葉
369-6	弥生土器	壺（直口）	B区c14	遺構 369(土坑) 北半セクション上層	1617	10.8×(9.0)	外：不明瞭、内：不明瞭	～1mm 白多量、～1mm 半透明中量	～1mm 微量	やや良好	外：10YR5/2 灰黄褐～10YR3/1 黒褐、内・断：10YR4/1 褐灰～10YR3/1 黒褐	10 未満(口縁15)	細頸壺かも、口縁端部に凹線 1 条(幅 3.0mm)、2 次焼成か(器壁剥離あり)、図反転復元	弥生中期中葉
369-7	弥生土器	壺（直口）	B区c14	遺構 369(土坑) 北半セクション上層	1617	12.6×(9.0)	外：不明瞭、内：不明瞭	～2mm 半透明中量、～2mm 白少量、～1mm 赤少量	～4mm 中量	良好	外：10YR8/4 浅黄橙～7.5YR8/4 浅黄橙、内面：10YR6/2 灰黄褐～10YR3/1 黒褐、断：10YR3/1 黒褐～10YR8/4 浅黄橙	10 未満(口縁15)	口縁部に径 0.65cm(外径 1.1cm)の穿孔 1 個残存(表裏両面から穿孔、焼成前穿孔)、図反転復元	弥生中期中葉
369-8	弥生土器	壺（頸部）	B区c14	遺構 369(土坑) 北半セクション上層	1617	？×(8.5)、頸部径 8.9	外：不明瞭、内：頸部横ナデ・体部ナデ？(不明瞭)	～2mm 赤少量、～1mm 半透明中量・黒(チャートか)微量	～1mm 微量	良好	外・内：10YR8/3 浅黄橙～10Y7/3 にぶい黄橙、断：10YR3/1 黒褐	10 未満(頸部25)	波状文 1 条＋直線文 1 条(単位 11 本／幅 1.1cm、突帯後)＋断面三角貼付突帯 2 条＋直線文 1 条(突帯後)＋波状文 1 条残存、図反転復元	弥生中期中葉
369-9	弥生土器	甕（小形）	B区c14	遺構 369(土坑) 北半セクション上層	1617	13.9×(4.3)	外：ナデ？、内：ナデか	～2mm 白中量、～1mm 半透明微量	～3mm 中量	良好	外：10YR7/2 にぶい黄橙、内：10YR6/2 灰黄褐、断：10YR4/1 褐灰	10 未満(口縁15)	口縁端部は上方につまみ上げ(沈線状になる)、図反転復元	弥生中期中葉
369-10	弥生土器	甕（小形～中形）	B区c14	遺構 369(土坑) 北半セクション上層	1617	20.8×(8.6)、胴部径 22.8	外：ミガキかケズリ？、内：ナデか	～4mm 赤中量、～1mm 白・半透明中量	～5mm 多量(8mm 1 個)	良好	外：2.5YR7/6 橙～5YR7/6 橙、内：10YR3/1 黒褐～2.5YR7/6 橙、断：2.5YR7/6 橙～10YR3/1 黒褐	10 未満(口25)	口縁端部は若干上方につまみ上げ、図反転復元	弥生中期中葉
369-11	弥生土器	壺（底部）	B区c14	遺構 369(土坑) 北半セクション上層	1617	？×(6.5)、底部径 7.0	外：縦ミガキ、内：ナデか(不明瞭)	～2mm 白・半透明多量、～2mm 黒(チャートか)中量、～1mm 赤少量	～2mm 多量(5mm 1 個)	良好	外：10YR8/2 灰白、内：10YR8/2 灰白、断：10YR4/1 褐灰	10 未満(底部40)	外面ミガキ幅 4.0mm、外面に黒斑あり(10YR5/2 灰黄褐)、図反転復元	弥生中期中葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
⑤-1	弥生土器	小形壺(直口)	A区i10	5層(谷状地形) 北西隅側溝(主に5-2層黒灰)	93	7.8×(5.4)、頸部径5.5	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白・半透明・赤多量	～3mm多量	良好	外：10YR7/2・7/3にぶい黄橙、内：2.5Y5/2暗灰黄～2.5Y7/2灰黄(一部2.5Y6/1黄灰)、断：2.5Y3/1黒褐	10未満(口縁20)	口縁端部丸み、図反転復元	弥生中期前葉～中葉
⑤-2	弥生土器	小形壺(広口)	A区h11	5層(谷状地形) 遺構150断面図に記載	810	8.0×(4.4)、頸部径5.1	外：不明瞭、内：不明瞭	～3mm白・半透明多量	～3mm多量	良好	外・内・断：10YR7/4にぶい橙～10YR6/4にぶい橙(一部5YR6/6橙)	20(口縁80)	口縁端部面あり、口縁端部に一部黒斑あり	弥生中期前葉～中葉
⑤-3	弥生土器	壺(広口)	A区g12	5層(谷状地形) 遺構140井戸断ち割り時	719	17.4×(13.7)、頸部径9.0	外：不明瞭、内：不明瞭	～5mm白・半透明多量、～1mm赤少量	～5mm多量	やや良好	外：5YR7/6橙～5YR6/3・6/4にぶい橙、内：上半5YR6/6・6/8橙～10YR5/2灰黄褐・下半10YR4/1褐灰～10YR3/1黒褐、断：N4/0灰	20(口縁15・頸部80)	口縁端部は若干面あり、頸部に直線文3条(単位8本？／幅1.3cm、1cm中7本？)＋波状文3条残存、若干2次焼成か(黒く変色)	弥生中期前葉～中葉
⑤-4	弥生土器	壺(広口)	A区e15	5層(谷状地形) 南側側溝	377	18.0×(12.2)、頸部径9.6	外：不明瞭、内：不明瞭(しぼり目あり)	～3mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～4mm多量	やや良好	外：5YR7/4にぶい橙～10YR7/3にぶい黄橙・頸部10YR4/2灰黄褐、内・断：10YR5/2・4/2灰黄褐～10YR7/3にぶい黄橙	20(口縁40・頸部100)	口縁端部は面あり(若干上方につまみ上げ)、頸部に断面三角貼付突帯2条、2次焼成か	弥生中期前葉～中葉
⑤-5	弥生土器	壺(広口)	A区g10	5層(谷状地形) 北側側溝5-4層灰色粘土	371	18.4×(6.3)、頸部径14.6	外：不明瞭(口縁部横ナデ)、内：横ナデ・ナデ	緻密、～5mm白・半透明少量、～1mm赤少量	～5mm少量	良好	外：5YR7/3にぶい橙～10YR7/2にぶい黄橙、内・断：10YR7/2にぶい黄橙～10YR8/2灰白	10未満(口縁25)	広口太頸壺、口縁端部丸み、頸部に直線文3条残存(単位5本／幅0.7cm、深くしっかりと施文)、図反転復元	弥生中期前葉～中葉
⑤-6	弥生土器	壺(広口)	A区g10	5層(谷状地形) 北側側溝5-4層灰色粘土	371	21.0×(9.8)、頸部径17.1	外：不明瞭(口縁部横ナデ)、内：不明瞭(ナデか)	～3mm赤多量、～2mm白・半透明多量(6mm半透明1個)、～2mm黒(チャートか)少量、5mm砂岩1個	～3mm多量	良好	外：10YR8/4浅黄橙～7.5YR6/3にぶい褐(一部2.5YR7/4淡赤褐)、内：10YR8/4浅黄橙、断：2.5Y4/1黄灰	10未満(口縁30)	広口太頸壺、口縁端部は面あり、口縁部内面(上面)に波状文(単位4本？)、頸部に直線文2条(単位8本＋細い線1本／幅1.4cm、1cm中5本)、2次焼成か、図反転復元	弥生中期前葉～中葉
⑤-7	弥生土器	壺(広口)	A区h11	5層(谷状地形) 遺構150断面図に記載	810	20.6×(7.5)	外：横ナデか、内：横ナデか	～3mm白・半透明・赤多量	～3mm多量	良好	外：7.5YR7/4・6/4にぶい橙～7.5YR5/2灰褐(一部7.5YR5/1褐灰)、内・断：7.5YR7/4・6/4にぶい橙～7.5YR4/1褐灰(一部7.5YR3/1黒褐)	10(口縁40)	全体的に器壁厚い(口縁端部は広い面あり)、2次焼成か(口縁端部付近一部黒く変色)、図反転復元	弥生中期前葉～中葉
⑤-8	弥生土器	壺(直口)	A区g10	5層(谷状地形) 北側側溝(4層下の黄褐色層)	372	18.2×(6.7)	外：不明瞭、内：不明瞭	～2mm白・半透明多量、～1mm赤・黒(チャートか)微量	～2mm多量	良好	外：7.5YR6/3にぶい褐～7.5YR6/4にぶい橙、内：5Y4/2灰オリーブ～7.5YR6/4にぶい橙、断：N3/0暗灰	10未満(口縁15)	口縁端部(上面)は面あり、図反転復元	弥生中期前葉～中葉
⑤-9	弥生土器	鉢(直口)	A区e15	5層(谷状地形) 南側側溝	377	22.4×(13.2)	外：不明瞭(口縁端部横ハケ)、内：上半横ハケ(幅1.3cmか、単位1cm中6本)・下半ナデか	～1mm白・半透明中量、～1mm黒(チャート)・赤少量	～2mm中量	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙、内：10YR8/4浅黄橙(一部7.5YR6/6橙)、断：10YR5/1褐灰	10未満(口縁20)	口縁端部に刻み目(横ハケ後)、頸部に貼付突帯4条(突帯上に刻み目あり)、突帯上に2本1組の棒状浮文、体部に直線文2条(単位10本／幅1.7cm、1cm中7本、2条一部重なる、突帯後施文)＋斜格子文(ヘラ工具2本1組で施文、直線文後か)、外面の一部に黒斑あり、外面に煤付着(部分的に多量に付着)、直口壺の可能性あり、図反転復元	弥生中期前葉～中葉
⑤-10	弥生土器	壺(直口)	A区h10	5層(谷状地形) 北側側溝5-3層(褐色砂層)	361	約13.0×(5.6)	外：不明瞭、内：ナデ？(不明瞭)	円礫多い、～2mm白・半透明多量、～1mm黒(チャートか)少量、黒(角閃石か)・赤・雲母微量、1mm赤チャート1個	なし？	良好	外：7.5YR3/1黒褐～7.5YR4/2灰褐(一部7.5YR4/3褐)、内：7.5YR4/1褐灰～7.5YR4/2灰褐、断：10YR5/1褐灰	10未満(口縁15)	直線文2条(単位11本／幅1.4cm、1cm中9本)＋波状文1条残存、⑤-12と同一個体か、搬入品か(河内(生駒西麓)産か)	弥生中期前葉～中葉
⑤-11	弥生土器	壺(頸部)	A区e15	5層(谷状地形) 南側側溝	377	？×(19.4)、頸部径17.0	外：縦ハケ、内：弱いナデ(主に縦方向)	緻密、～2mm半透明少量、～1mm白・赤微量	～3mm少量	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙～10YR5/2灰黄褐、内：10YR8/4浅黄橙、断：10YR4/1褐灰	10(頸部25)	頸部に直線文7条残存(単位8本＋細い線1本／幅1.4cm、1cm中5～6本)、外面ハケ単位1cm中約7本(縦ハケ後直線文)、外面の一部に黒斑あり、図反転復元	弥生中期前葉～中葉
⑤-12	弥生土器	壺(頸部)	A区h10	5層(谷状地形) 北側側溝5-4層灰色粘土	370	？×(4.5)	外：不明瞭、内：ナデ？(不明瞭)	～2mm白・半透明・黒(角閃石か)中量、～1mm赤・雲母微量	なし	良好	外：10YR4/2灰黄褐～10YR3/2黒褐、内：2.5Y6/2灰黄～10YR4/1褐灰、断：10YR2/1黒	10未満	直口壺か、直線文3条残存(単位9本／幅1.2cm、1cm中7本)、⑤-10と同一個体か、搬入品か(河内(生駒西麓)産か)、天地不明	弥生中期前葉～中葉
⑤-13	弥生土器	無頸壺	A区i10	5層(谷状地形) 北西隅側溝(主に5-2層黒灰)	93	？×(4.4)	外：不明瞭、内：不明瞭	円礫多い、～2mm白・半透明少量、～1mm赤・黒(チャートか)少量	なし？	良好	外：10YR8/2灰白～2.5Y6/1・5/1黄灰、内：10YR8/2灰白～10YR8/3浅黄橙、断：N4/0灰～N3/0暗灰	10未満	直線文4条残存(単位6本／幅1.2cm、上2条は重なって1条に見える＝幅2.4cm)、径0.5cmの穿孔あり、搬入品の可能性あり(片岩なしか)	弥生中期前葉～中葉
⑤-14	弥生土器	甕(中形～大形)	A区e15	5層(谷状地形) 南側側溝	377	32.0×(7.4)	外：不明瞭、内：不明瞭(口縁端部横ナデ)	～3mm白・半透明多量、～2mm赤少量	～5mm多量	良好	外：7.5YR8/3浅黄橙、内：10YR7/3にぶい黄橙、断：10YR6/1褐灰	10未満(口縁15)	口縁端部横ナデでわずかに凹む、口縁部外面の一部黒色化(煤付着か？)、図反転復元	弥生中期前葉～中葉
⑤-15	弥生土器	壺(体部～底部)	A区h10	5層(谷状地形) 北側側溝5-4層灰色粘土	370	？×(11.2)、胴部径15.1、底部径6.4	外：斜めミガキ、内：横ミガキ・底部付近ハケかナデ？(幅1.3cm)	～2mm黒(角閃石か)多量、～2mm半透明・白少量、～3mm赤1個、～1mm雲母多量	なし	良好	外：7.5YR3/1・3/2黒褐～7.5YR5/4・4/4にぶい褐、内：10YR3/1黒褐～10YR2/1黒、断：10YR3/1黒褐	50(底部100)	小形壺、口縁部欠損、ミガキ幅5.0mm、搬入品か(河内(生駒西麓)産か)、図一部反転復元	弥生中期前葉～中葉
⑤-16	弥生土器	壺(体部～底部)	A区g10	5層(谷状地形) 遺構129北端の壁	819	？×(12.6)、底部径7.0	外：縦ミガキ、内：不明瞭・底部付近ハケか板ナデ	～3mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～4mm多量(8mm1個)	良好	外：10YR7/4にぶい黄橙、内：10YR4/1褐灰、断：10YR7/4にぶい黄橙～10YR4/1褐灰	20(底部100)	外面一部に黒斑か、内面黒色化、外面ミガキ幅4.0mm、図一部反転復元	弥生中期前葉～中葉
⑤-17	弥生土器	小形甕(底部)	A区g10	5層(谷状地形) 北側側溝5-4層灰色粘土	371	？×(6.2)、底部径6.0	外：縦ケズリ(後ナデ？)・指オサエ、内：ハケ(痕跡)	～2mm白・半透明少量、～1mm赤微量	～2mm少量	良好	外：10YR4/1褐灰～10YR4/2・5/2灰黄褐(底部2.5YR6/6橙)、内：N2/0黒～10YR7/2にぶい黄橙、断：7.5YR5/4にぶい褐	10(底部100)	底部に径0.6cmの穿孔(焼成後穿孔か、底部外側から打ち欠き(敲打)か)、2次焼成(外面全体に煤付着)、内面黒色化(煤？)、図一部反転復元	弥生中期前葉～中葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
⑤-18	弥生土器	壺（底部）	A区h11	5層（谷状地形）西側側溝（土層図記載）	628	?×(8.5)、底部径12.3	外：斜めケズリ（ミガキかも）、内：横ナデ	～2mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～3mm多量	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙～10YR5/1褐灰（一部5YR7/4にぶい橙）、内・断：10YR5/1褐灰～10YR3/1黒褐	10（底部ほぼ100）	底部外面の一部煤付着か、内面全体黒色化、図一部反転復元	弥生中期前葉～中葉
⑤-19	弥生土器	壺（広口）	A区f13	東西トレンチ黄色層 5層（谷状地形）か包含層8層	659	16.4×(12.5)、頸部径11.4	外：不明瞭（口縁部横ナデ）、内：ナデ	～3mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～3mm中量	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙～7.5YR1.7/1黒、内：10YR7/2にぶい黄橙～10YR4/2灰黄褐、断：10YR4/1褐灰	10未満（口縁10未満）	頸部～体部に直線文4条残存（単位8本／幅1.7cm）、口縁端部は面あり（やや丸み）、図反転復元	弥生中期中葉以前
⑤-20	弥生土器	壺（壺用）	A区h11	西側側溝 5層以下（谷状地形）	385	23.6×(7.3)	外：縦ケズリ、内：ナデ	～2mm白中量	～2mm中量	良好	外：10YR3/2黒褐～10YR4/2灰黄褐、内・断：10YR3/2黒褐～10YR2/1黒	20（口縁30）	鉢・高杯の可能性あり、口縁端部は面あり、外面に煤多量・内面に煤少量付着、図反転復元	弥生中期中葉以前
⑤-21	弥生土器	壺（広口）	A区h11	西側側溝 5層以下（谷状地形）	385	20.0×(7.0)、頸部径14.0	外：不明瞭（口縁部横ナデ）、内：縦ナデ	～2mm白・半透明中量	～4mm多量	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙、内：5YR7/4にぶい橙～7.5YR7/3にぶい橙、断：5YR7/3にぶい橙～10YR5/3にぶい黄褐	10未満（口縁10）	口縁端部に波状文1条（単位5本）、頸部に直線文3条残存（単位5本／0.7cm、しっかりとした明瞭な施文）、図反転復元	弥生中期中葉以前
⑤-22	弥生土器	壺（小形～中形）	A区h12	西側側溝 5層以下（谷状地形）	386	19.6×(7.0)、胴部径19.2	外：横ケズリ（口縁部横ナデ）、内：横ナデ	緻密、～1mm白中量	～1mm中量	良好	外：10YR7/2にぶい黄橙、内：10YR5/3にぶい黄褐～10YR7/3にぶい黄橙（口縁付近10YR4/2灰黄褐）、断：10YR6/1褐灰	10未満（口縁25）	外反口縁壺（口縁端部丸み）、外面に煤多量付着（10YR1.7/1黒）、図反転復元	弥生中期中葉以前
⑥-1	弥生土器	壺（広口）	A区g13	6層（谷状地形）か包含層8層 東西トレンチ黄色層	684	16.2×(3.0)	外：横ナデ？（剥離多い）、内：不明瞭	～2mm白・半透明・黒（チャートか）中量	～2mm中量	良好	外・内・断：5YR6/6橙	10未満（口縁15）	口縁端部の上端と下端に刻み目、口縁部内面（上面）に波状文2条（重なって施文、工具単位4本）、図反転復元	弥生中期前葉
⑥-2	弥生土器	壺（広口）	A区g13	6層（谷状地形）東西トレンチ 青灰色粘土層	698	21.2×(8.9)、頸部径10.4	外：縦ナデか板ナデ（口縁部横ナデ）、内：ナデ	～1mm白・半透明・赤微量(2mm半透明1個)	～3mm少量	良好	外：10YR5/2灰黄褐～10YR3/1黒褐(黒色化)、内：10YR5/2灰黄褐、断：10YR7/2にぶい黄橙	10未満（口縁20）	口縁端部の下端に刻み目、口縁端部若干面あり（やや丸み）、頸部に直線文1条（単位11本／幅1.0cm）＋波状文1条残存、図反転復元	弥生中期前葉
⑥-3	弥生土器	壺（広口）	A区h13	6層（谷状地形）東西トレンチ 青灰色粘土層	695	18.8×(7.8)、頸部径14.2	外：ナデか（口縁部横ナデ）、内：ナデか	～1mm白・半透明・黒（チャートか）少量、～1mm赤微量	～1mm微量	良好	外：7.5YR3/2黒褐(黒色化)、内：7.5YR5/2灰褐～7.5YR6/4にぶい橙、断：7.5YR6/4にぶい橙	10未満（口縁20）	口縁端部面あり（やや凹む）、頸部に直線文3条残存（単位7本／幅1.0cm）、図反転復元	弥生中期前葉
⑥-4	弥生土器	壺（広口）	A区f13	6層（谷状地形）東西トレンチ	664	21.2×(9.6)、頸部径14.2	外：横ナデか板ナデ（不明瞭）、内：横板ナデ（口縁部横ナデ）	～3mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～3mm中量	良好	外・内：10YR7/3にぶい黄橙（一部5YR6/6橙）、断：10YR2/1黒	10未満（口縁10未満）	口縁端部は面あり（やや丸み）、内面に板ナデの痕跡残る、外面一部に橙色の付着物か、図反転復元	弥生中期前葉
⑥-5	弥生土器	壺（細頸）	A区g13	6層（谷状地形）東西トレンチ 青灰色粘土層	698	10.2×(13.7)、頸部径9.5	外：縦強いナデか板ナデ、内：縦～斜めナデ（若干しぼり目）	緻密、～3mm白・半透明・黒（チャートか）少量(5mm半透明1個)	～3mm少量	良好	外：2.5Y7/2灰黄～2.5Y4/1黄灰、内：2.5Y6/1黄灰～2.5Y4/1灰黄、断：2.5Y4/1灰黄	20（口縁～頸部80）	口縁端部丸み、口縁部～頸部に直線文8条残存（単位8本／幅1.1cm）、2次焼成か（やや黒く変色）、図反転復元	弥生中期前葉
⑥-6	弥生土器	壺（直口）	A区f14	6層（谷状地形）遺構149確認サブトレンチ 暗褐色砂層	871	13.2×(8.4)、頸部径11.0	外：凝ナデ（口縁部横ナデ）、内：指オサエ後ナデ	緻密、～2mm白少量、～1mm半透明・赤・黒～灰（チャートか）少量	あり？	良好	外：10YR6/2灰黄褐～10YR3/2黒褐(黒色化？)、内：10YR6/2灰黄褐、断：10YR3/1黒褐	10未満（口縁15）	口縁端部丸み（やや面あり）、外面の一部黒色化(煤？)、図反転復元	弥生中期前葉
⑥-7	弥生土器	鉢（底部）	A区d15	6層（谷状地形）A区南壁 青灰色粘土層～暗灰褐色シルト層（木製容器取り上げ時）	790	?×(4.2)、底部径10.0	外：縦ミガキ、内：杯部丁寧なナデ・脚部ナデか	～1mm白・半透明・赤・黒(チャートか)中量	～1mm中量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙～10YR6/3浅黄橙、内：10YR7/3にぶい黄橙、断：10YR4/1褐灰	10未満（底部100）	杯部と脚部の境に突帯（削り出しか）、脚端部丸み、脚部に径0.5～0.6cmの穿孔8個（焼成前、ややいびつ、棒状工具を押し込んで穿孔か（回転ほどんどなし）、外側から内側へ穿孔）、外面～内面の一部に黒斑あり	弥生中期前葉
⑥-8	弥生土器	甕（中形～大形）	A区f14	6層（谷状地形）遺構149確認サブトレンチ 暗褐色砂層	871	32.0×(6.9)	外：斜めナデか板ナデ（口縁部横ナデ）、内：ナデ	緻密、～1mm白・黒（チャートか）少量	～1mm少量（4mm1個）	良好	外・断：10YR5/2灰黄褐～7.5YR5/4にぶい褐、内：10YR4/2灰黄褐～10YR4/1褐灰	10未満（口縁10未満）	口縁端部は面あり、頸部の屈曲強い、外面に煤多量付着・内面に煤少量付着（10YR2/1黒）、図反転復元	弥生中期前葉
⑥-9	弥生土器	壺（底部）	A区g13	6層（谷状地形）東西トレンチ 青灰色粘土層	698	?×(6.2)、底部径6.3	外：丁寧な斜めミガキ（底面丁寧なミガキ）、内：ナデ	緻密、～1mm白・黒（チャートか）中量	～1mm中量	良好	外：10YR3/1黒褐～10YR3/3暗褐(黒色物塗布か)、内：2.5Y6/2灰黄、断：10YR5/1褐灰	10（底部100）	外面黒色化(黒色物塗布か)、内面の一部黒斑か(2.5Y4/1黄灰)	弥生中期前葉
⑥-10	弥生土器	水差（直口壺、口縁部～体部）	A区h13/g13	6層（谷状地形）東西トレンチ 青灰色粘土層/5層 東西トレンチ	695/657	?×(44.4)、頸部径13.0、胴部径34.0	外：上半不明瞭・下半横ミガキ（幅6.0mm）、内：ナデ	緻密（緻密だが10mmの砂粒含む）、～10mm白・半透明中量、～3mm黒(チャートか)・赤少量	～3mm少量	良好	外・断：10YR7/3にぶい黄橙～2.5YR6/8橙、内：10YR7/3にぶい黄橙(内面の一部黒色物付着＝炭化物か煤)	40（口縁片口部5・体部40・底部0）	摂津型水差形土器、口縁部は片口部分のみ残存、片口部は直線文後に成形か、頸部～体部に直線文14条（単位10本／幅1.5cm、1cm中7本）＋波状文2条（直線文後）、直線文2条をつなぐように流水文風に円弧を描く箇所あり、直線文上に扇形文（直線文6条分、直線文と同じ原体、1箇所だけ扇形文の間の直線文を縦方向にナデ消す→流水文風？）、直線文2条が重なる箇所あり（下から上へ施文）、外面下半に煤付着・内面に煤付着？	弥生中期前葉
155-1	弥生土器	甕（小形～中形）	A区h14	遺構155（土坑） 1/10平面・立面図あり	880	?×(7.2)	外：一部縦ハケ残存（口縁部横ナデ）、内：不明瞭（一部指オサエあり）	円礫～亜円礫中心、～2mm白・赤中量、～1mm半透明少量	～3mm多量	やや不良	外：5YR6/6橙～7.5YR5/3にぶい褐、内：10YR5/3にぶい黄褐、断：5YR6/6橙～10YR5/3にぶい褐	10未満	口縁端部は丸み（わずかに面あり）	弥生前期末
155-2	弥生土器	壺（体部～底部）	A区h14	遺構155（土坑） 1/10平面・立面図あり	880	?×(13.8)、底部径9.0	外：不明瞭・底部付近縦～斜めハケ、内：不明瞭（一部ハケ？）	緻密だが円礫～亜円礫多い、～5mm半透明多量・砂岩少量、～2mm黒(チャートか)多量・白中量・赤チャート少量、～1mm赤微量	～5mm多量	良好	外・内・断：10YR7/4にぶい橙～10YR5/3にぶい黄褐	25（底部60）	外面ハケ単位5mm中5本、底部～外面一部に黒斑(10YR5/1褐灰)、160-1と同一個体の可能性あり（同じ胎土・色調・調整）、図反転復元	弥生前期末

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
156-1	弥生土器	甕（小形～中形）	A区 h14	遺構 156(土坑)	881	22.0×25.0、胴部径19.7、底部径 7.2	外：口縁部横ナデ・胴部中位横ケズリ・下半縦～斜めケズリ、内：斜め強いナデ(板ナデかも)	円礫わずか、～3mm 半透明多量、～1mm 白・赤少量、黒なし	～5mm 非常に多量	良好	外：上半 7.5YR5/3 にぶい褐～5YR5/4 にぶい赤褐、下半 2.5YR5/6 明赤褐～5YR5/4 にぶい赤褐、内：5YR5/6 明赤褐、断：2.5YR5/6 明赤褐	40(口縁50・底部 60)	口縁端部丸み、外面全体に煤薄く付着(口縁部煤多量)、外面中位に黒斑、外面底部付近ケズリ後ナデ？(指オサエ)・底面ケズリ調整、接合できない破片あり(縦半分ほぼ完形)、図反転復元	弥生前期末
157-1	弥生土器	壺（広口）	A区 h14	遺構 157(土坑)/4 層精査	882/613	23.2×(26.4)、頸部径10.9、胴部径 28.0	外：口縁部横ナデ・頸部縦ハケ・体部不明瞭、内：口縁部横ナデ粘土紐接合痕跡あり	緻密だが円礫～亜円礫多い、～6mm 白・半透明・黒(チャートか)多量、～3mm 赤・砂岩少量	～6mm 多量	良好	外・内・断：7.5YR7/4 にぶい橙～10YR7/4 にぶい黄橙(一部 10YR6/2 灰黄褐)	20(口縁25・頸部 50)	口縁端部は丸み、外面ハケ単位 1cm 中 8 本、頸部にヘラガキ沈線 8 条(ハケ後)、図反転復元	弥生前期末
158-1	弥生土器	壺（体部～底部）	A区 h14	遺構 158(土坑)	883	？×(10.4)、胴部径20.0、底部径 7.4	外：斜めハケ後細かい撫ミガキ(一部斜めミガキ)、内：不明瞭(粘土紐接合痕跡あり)	緻密だが円礫～亜円礫多い、～3mm 白・半透明多量、～3mm 灰～黒(チャートか)中量	～3mm 少量	良好	外：10YR8/2 灰白～10YR5/2 灰黄褐、内・断：10YR6/1 褐灰～10YR7/1 灰白	15(底部 60)	外面に黒斑あり(2.5Y2/1 黒)、底部に焼成後の穿孔の可能性あり(径 1.7cm？、不明瞭なので図示せず)、⑧-1 と同一個体の可能性あり(胎土・焼成など類似→やや大きさ違う)、図反転復元	弥生前期末
158-2	弥生土器	壺（底部）	A区 h14	遺構 158(土坑)	883	？×(4.7)、底部径 9.0	外：剥離多い(一部指オサエ)・底面ナデか(一部指オサエ)、内：不定方向の板ナデ	緻密だが円礫～亜円礫多い、～3mm 白・半透明・灰～黒(チャートか)多量、～2mm 赤少量	～2mm 少量	良好	外：底面 2.5YR6/4 にぶい橙、内：7.5YR4/1 褐灰、断：7.5YR4/1 褐灰	10 未満(底部 100)	甕の可能性あり、外面全体的に剥離(接合面で剥離)	弥生前期末
159-1	弥生土器	蓋（甕用）	A区 h15	遺構 159(土坑)	884	23.4×11.4、頂部径 6.2	外：縦ハケ、内：不明瞭	緻密だが円礫～亜円礫多い、～3mm 白・半透明中量、～2mm 灰～黒(チャートか)少量	～4mm 多量(10mm 1 個)	良好	外：2.5YR5/6 明赤褐～2.5YR6/8 橙、内・断：2.5YR6/8 橙～10YR3/1 黒褐(黒斑)	60(口縁30)	口縁端部は丸み、外面ハケ単位 1cm 中 7～9 本、外面の一部に煤付着、内面に黒斑あり(外面のごく一部にも黒斑)、図反転復元	弥生前期末
159-2	弥生土器	鉢（口縁部～把手）	A区 h15	遺構 159(土坑)	884	？×(5.5)	外：不明瞭(口縁部横ナデ)、内：ナデ？(不明瞭)	緻密だが円礫～亜円礫多い、～3mm 白・半透明・灰～黒(チャートか)・赤チャート中量	～3mm 中量	良好	外：7.5YR7/6 橙～10YR8/2 灰白、内：7.5YR7/6 橙、断：10YR7/1 灰白	10 未満	口縁端部は丸み、外面に横長の把手貼り付け、把手部下端にわずかに煤付着か	弥生前期末
159-3	弥生土器	壺（広口）	A区 h15	遺構 159(土坑)	885	31.4×(17.4)、頸部径 23.1	外：口縁部横ナデ？・頸部不明瞭・体部斜めハケ、内：口縁部横ハケ・頸部～体部ナデ	緻密だが円礫～亜円礫多い、～3mm 白・半透明・黒(チャートか)中量、～1mm 赤少量	～3mm 中量	良好	外・内：7.5YR6/6 橙～10YR7/3 にぶい黄橙、断：10YR7/1 灰白	20(口縁30)	大形壺、内外面に粗いハケ(単位 8 本／1.8cm、1cm 中 4 本)、口縁端部は丸み(やや面あり)、一部黒く変色あり(2 次焼成か)、図反転復元	弥生前期末
159-4	弥生土器	壺（頸部～体部）	A区 h15	遺構 159(土坑)/遺構 95(溝) セクション西上層	884/167	？×(20.3)	外：不明瞭(ミガキ？)、内：不明瞭	緻密だが円礫～亜円礫多い、～3mm 白・半透明・黒(チャートか)多量、～1mm 赤少量	～3mm 多量	良好	外：5YR6/8 橙～2.5YR6/6 橙、内：5YR6/4 にぶい橙、断：7.5YR4/1 褐灰	10	頸部にヘラガキ沈線 13 条＋胴部にヘラガキ沈線 4 条	弥生前期末
160-1	弥生土器	壺（広口）	A区 h15	遺構 160(土坑)	886	18.4×(9.5)、頸部径 10.6	外：縦～斜めハケ、内：横～斜めハケ(不明瞭)	緻密だが円礫～亜円礫多い、～4mm 白・半透明多量、～3mm チャートか(黒・赤)・砂岩中量、～1mm 赤・金雲母少量	～4mm 少量	良好	外・断：10YR6/4 にぶい黄橙～10YR5/1 褐灰、内：10YR6/4 にぶい黄橙(口縁端部 10YR5/1 褐灰)	10(口縁50)	口縁端部は面あり(やや丸み)、内外面ハケ単位 1cm 中 9～10 本、155-2 と同一個体の可能性あり(同じ胎土・色調・調整)、図反転復元	弥生前期末
⑧-1	弥生土器	甕（体部）	A区 h14	包含層 8-1 層(黄褐色層)西側側溝/西側側溝 4 層以下	349/348	？×(12.6)、胴部径 15.5	外：不明瞭(横ミガキ？)、内：不明瞭(ナデ？)・一部指オサエ(接合痕跡残る)	緻密だが円礫～亜円礫多い、～3mm 白・半透明中量	～3mm 多量(1mm 2 個)	良好	外：7.5YR6/4 にぶい橙～10YR6/2 灰黄褐、内：10YR6/1・5/1 褐灰、断：10YR6/2 灰黄褐～10YR5/1 褐灰	15	頸部にヘラガキ沈線 2 条残存(幅 1.0～1.5mm)、外面に黒斑あり(2.5Y2/1 黒)、158-1 と同一個体の可能性あり(胎土・焼成など類似→やや大きさ違う)、図反転復元	弥生前期末
⑧-2	弥生土器	壺か鉢	A区 h14	包含層 8-1 層	874	？×(3.9)	外：ナデかミガキ？(不明瞭)・口縁部横ナデ、内：ナデか	緻密だが円礫～亜円礫多い、～3mm 半透明・黒～灰(チャートか)・赤中量	～3mm 中量	良好	外：7.5YR7/6 橙、内：7.5YR7/6 橙～10YR5/2 灰白、断：10YR5/3 にぶい黄褐	10 未満	口縁端部は丸み	弥生前期末
⑧-3	弥生土器	壺（底部）	A区 h14	包含層 8-1 層	873	？×(4.9)、底部径 10.2	外：縦ケズリ、内：ナデか	緻密だが円礫～亜円礫多い、～3mm 半透明少量、～2mm 白中量、～2mm チャートか(黒・赤)・金雲母少量	～3mm 中量	良好	外・内：7.5YR5/3 にぶい褐～5YR6/4 にぶい橙、断：7.5YR5/3 にぶい褐～10YR4/1 褐灰	10 未満(底部 100)	外面～底部に一部煤付着、内面の一部黒褐色に変色(煤付着か)、壺の可能性あり	弥生前期末
⑧-4	弥生土器	壺（底部）	A区 h14	包含層 8-1 層(黄褐色層)西側側溝	349	？×(10.9)、底部径 11.7	外：不明瞭(ミガキ？)、内：板ナデか強いナデ	緻密だが円礫～亜円礫多い、～3mm 白・半透明・灰～黒(チャート)中量、～3mm 赤微量	～3mm 中量	良好	外：10YR5/3 にぶい黄褐～10YR7/3 にぶい黄橙、内：10YR6/4 にぶい黄橙～10YR5/2 灰黄褐、断：10YR4/2 褐灰	10 未満(底部 100)	内面に板ナデか強いナデの痕跡残る	弥生前期末
③-1	弥生土器	壺（広口）	A区 h14	遺構 106(溝)3-2 層下面遺構	327	約17.5×(8.1)	外：縦ハケ(口縁部ハケ後ナデ)、内：不明瞭	緻密だが円礫～亜円礫多い、～4mm 白・砂岩・灰チャート多量、～2mm 赤中量、～1mm 金雲母少量	～3mm 少量	良好	外：2.5YR6/6 橙～7.5YR7/3 にぶい橙、内：7.5YR5/1 褐灰(～2.5YR6/6 橙)、断：7.5YR5/1 褐灰	10 未満(10未満)	口縁端部は若干面あり(やや丸み)、頸部にヘラガキ沈線 7 条残存(ハケ後)、外面ハケ単位 9～11 本／幅 1.0～1.1cm、登録 884(h15 遺構 159)・874(h14 8-1 層)・614(h15 4 層精査)に同一個体片あり	弥生前期末

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
④-1	弥生土器	甕か鉢（逆L字口縁）	A区h15	4層精査	614	？×(3.5)	外：不明瞭、内：不明瞭	緻密だが円礫～亜円礫多い、～3mm白・半透明・黒（チャート）・砂岩・赤少量	～3mm少量	良好	外・内・断：7.5YR4/3褐～5YR5/6明赤褐	10未満	小形、口縁部は逆L字形に貼り付け、口縁端部に刻み目か	弥生前期末
④-2	弥生土器	鉢（逆L字口縁）	A区h14	西側側溝 4層以下	348	約35.0×(5.8)	外：縦ハケ、内：ナデ？	緻密だが円礫～亜円礫多い、～3mm白・半透明・黒（チャートか）中量、～3mm赤・赤チャート・砂岩？少量	～3mm少量	良好	外：7.5YR5/4にぶい褐、内：10YR6/4にぶい黄橙～10YR5/3にぶい黄褐、断：10YR7/4にぶい黄橙	10未満	口縁部は逆L字形に貼り付け、口縁端部にハケ原体による刻み目、、外面にヘラガキ沈線7条残存（幅広の沈線、幅2.5～3.0mm、ハケ後）、外面ハケ単位1cm中6本、鉢の可能性あり	弥生前期末
④-3	弥生土器	壺（小形～中形）	A区h15	4層	408	21.0×(8.5)、胴部径21.8	外：口縁部縦ハケ・体部横ハケ、内：口縁部横ハケ・体部強い横ナデか	緻密（円礫でない）、～2mm白・半透明中量、～1mm赤少量	～2mm中量	良好	外：10YR8/2灰白～7.5YR5/6明褐、内：7.5YR8/4浅黄橙、断：7.5YR7/6橙	10（口縁15）	外反口縁、口縁端部は丸み、外面に粗かいハケ（単位1cm中13本程度）、内面ハケ単位1cm中9～10本？、外面にごくわずか煤付着、図反転復元	弥生前期末
④-4	弥生土器	鉢	A区h14	4層精査	613	22.0×(12.8)	外：細かい縦ハケ、内：不明瞭	緻密だが円礫～亜円礫多い、～4mm白・半透明・黒（チャートか）・砂岩、～1mm赤微量	～4mm多量	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙～7.5YR5/4にぶい褐、内・断：7.5YR6/6橙～7.5YR6/4にぶい橙	20（口縁25）	わずかに外反口縁、口縁端部は丸み、外面ハケ単位1cm中10本程度、外面に少し煤付着、図反転復元	弥生前期末
④-5	弥生土器	甕（小形～中形）	A区h15/h14/h15	4層精査/4層精査/4層	614/613/408	22.6×24.7、胴部径22.4、底部径7.4	外：縦～斜めハケ・底部付近ナデか、内：上半不明瞭（横ハケか板ナデ）・下半不明瞭（横板ナデか）	緻密だが円礫～亜円礫多い、～2mm白・半透明・黒（チャートか）中量、4mm黒1個、～1mm赤チャート・砂岩少量	～2mm少量	良好	外・断：10YR6/3にぶい黄橙～10YR4/2灰黄褐、内：10YR3/1黒褐～10YR4/1褐灰	40（口縁30・底部5）	外反口縁、口縁端部は丸み、外面に若干煤付着、図反転復元（体部と底部は図上合成）	弥生前期末

観察表4　その他の遺物観察表

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
③-2	青磁	椀	A区北西隅	包含層3-0層	29	？×(3.0)	不明	緻密	なし	良好	外・内：淡緑色、断：N8/0灰白	10未満	外面・内面に釉	中世
③-3	土師器	甕	A区d14	包含層4層？	447	？×(3.0)、底部径2.8	外：斜めタタキ、内：ハケかナデ（不明瞭）	緻密、～2mm白・赤少量	～2mm少量	良好	外・断：5YR7/4にぶい橙～10YR8/2灰白、内：7.5YR7/3にぶい橙	10未満（底部100）	底部に径0.9cmの焼成前穿孔、古墳時代初頭の土師器、図反転復元	弥生？
③-4	土師器	甕	A区g15	包含層3-3層	264	？×(1.8)、底部径2.8	外：斜めタタキ、内：ハケかナデ（不明瞭）	緻密、～2mm白・赤・半透明少量	～2mm少量	良好	外・断：10YR7/3にぶい黄橙、内：7.5YR7/4にぶい橙	10未満（底部100）	底部完存、古墳時代初頭の土師器	古代
③-5	土師器	甕	A区g11	包含層3層	100	？×(2.2)、底部径4.0	外：斜め～横タタキ、内：不明瞭	～4mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～1mm微量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙～10YR8/2灰白、内：10YR8/2灰白	10未満（底部100）	底部完存、古墳時代初頭の土師器	古代
③-6	土師器	高杯	A区h11	西側側溝包含層3～4層	62	？×(5.3)、脚部径2.1	外：縦ミガキ（不明瞭）、内：しぼり目あり	緻密、～1mm白・赤少量	あり？	良好	外：5YR6/8橙～7.5YR6/6橙、内：5YR6/6橙、断：10YR5/1褐灰	10未満（脚部60）	鉢部は欠損、古墳時代初頭の土師器	古代～弥生中期
③-7	弥生土器	小形台形土器？	A区g13	遺構90（流路）セクション西中層2＋下層	232	8.5×(5.0)	外：縦ミガキ、内：ナデ	～2mm白・半透明多量（7mm半透明1個）	～2mm多量	良好	外：2.5Y7/2灰黄～7/3浅黄、内：2.5Y7/2灰黄～N4/0灰、断：N3/0暗灰～N2/0黒	10（上面100）	蓋あるいは脚部かも、上面丁寧なナデ、外面にハケの可能性あり、弥生土器	古代
③-8	弥生土器	小形壺	A区g13	遺構90（流路）セクション西中層2＋下層	232	6.4×(4.8)、頸部径5.0	外：横ナデ・ミガキ？（不明瞭）、内：ナデ？	～5mm白・半透明多量	～5mm多量	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙～10YR6/2灰黄褐、内：10YR6/2灰黄褐～10YR5/1褐灰、断：10YR3/1黒褐	20（口縁50・頸部60）	口縁端部丸み、弥生土器、図反転復元	古代
③-9	弥生土器	複合土器（複合鉢）	A区g14	遺構105（溝）セクション西	325	？×(4.7)	外：ミガキ？、内：ミガキ？（不明瞭）	～2mm白・半透明少量、～1mm赤微量	～3mm中量	良好	外：5YR6/6橙、内：5YR6/6橙～5YR7/4にぶい橙、断：10YR5/1褐灰	10未満	径6.0～7.0mmの円形浮文2段、弥生土器	古代
③-10	弥生土器	壺（細頸）	A区g14	遺構95（溝）底の鋤跡	598	7.0？×(4.0)	外：不明瞭、内：横ナデ（不明瞭）	～1mm白・半透明中量、～1mm金雲母・黒（角閃石か）多量	なし	良好	外：10YR2/2黒褐～10YR5/3にぶい黄褐、内：10YR2/2黒褐～10YR4/2灰黄褐、断：10YR3/1黒褐	10未満（口縁10）	搬入品か（河内（生駒西麓）産か）、口縁部若干面あり、外面に列点文3段、弥生土器	古代
③-11	弥生土器	壺（無頸）	B区d12/d11・12	遺構90（流路）セクション西落ち込み西側	1307	？×(17.0)、頸部径16.4、胴部径21.0	外：下半縦ケズリ後縦ミガキ、内：上半横～斜めハケ・下半横ナデ	～1mm白・半透明中量、～1mm黒（チャートか）・赤少量	～1mm少量	良好	外・断：2.5YR6/6橙、内：7.5YR4/1褐灰	10（口縁0・胴部25）	胴部に波状文2条＋直線文1条（単位11本／幅1.2cm、1cm中9本）＋波状文1条（突帯後）＋突帯3条（刻み目あり）、内面ハケ単位1cm中5～6本、弥生土器、図反転復元	古代
④-6	弥生土器	直口鉢（グラス形）	A区g11	包含層4層	457	7.4×13.4、底部径4.0	外：縦ケズリ、底部指オサエ、内：ナデか	～4mm白・半透明多量、～1mm赤微量	～5mm多量	良好	外：2.5YR6/8橙～7.5YR7/4にぶい橙（一部7.5YR5/1褐灰）、内・断：10YR7/3にぶい黄橙～7.5YR5/1褐灰	75（口縁45・底部100）	口縁の一部のみ欠損、口縁端部やや面あり、弥生土器、図一部反転復元	弥生中期
④-7	弥生土器	鉢	A区h11	西側側溝包含層4層以下	347	15.8×8.5、底部径5.8	外・内：不明瞭（底部指オサエ）	～5mm白・赤多量	～5mm多量	良好	外・断：2.5YR6/4にぶい橙～2.5YR6/8橙、内：5YR6/8橙～10YR8/4浅黄橙（底部付近一部10R6/6赤橙）	70（口縁80・底部50）	口縁部と底部の一部を除きほぼ完形、弥生土器	弥生中期以前
H1	骨	獣骨	A区g13	6層（谷状地形）東西トレンチ	655	(7.2)×(5.8)×(3.9)					暗褐色	？	シカ頭蓋骨の角の根元部分（左側）か、工具痕あり（角使用のための切断痕か）	弥生中期前葉
T1	玉製品	管玉	B区a14	遺構300（住居）セクション西 炭化材周辺	1582	長0.5×径0.2					碧玉製（暗深緑色）	100	孔径上端1.0mm×下端0.8mm、片面穿孔か、完形	弥生中期中葉
T2	玉製品	管玉	A区g14	包含層4層	560	長2.4×径(9.0)					緑色凝灰岩製（暗緑灰色）	50	ほぼ半裁、残存孔径3.0mm、両面穿孔	弥生中期

観察表５　土製品観察表

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量(cm) 長×短×厚	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
D1 図111 図版63	土製品	紡錘車	A区 g12	遺構140(井戸) 南西部下層	734	3.1×3.0×0.5、穿孔径0.3(外径0.6)、(4.88g)	外：不明瞭、内：不明瞭	～1mm白・半透明・赤少量	～1mm微量	良好	外：5YR7/6橙、内：5YR6/6橙、断：10YR6/1褐灰	ほぼ100	土器転用、周縁打ち欠きのみ、両面穿孔(回転穿孔)	弥生中期中葉～後葉
D2 図111 図版63	土製品	紡錘車	A区 f11	遺構130(溝) セクション南中層	583	4.8×4.7×0.5、穿孔径0.85(外径1.1)、14.94g	外：不明瞭、内：不明瞭	～2mm半透明多量、～1mm白中量、～2mm黒中量、～1mm赤少量	～3mm少量	良好	外：7.5YR6/3にぶい褐、内：10YR8/3浅黄橙、断：10YR6/1褐灰	100	土器転用、周縁打ち欠きのみ、両面からの敲打穿孔か	弥生中期後葉
D3 図111 図版63	土製品	紡錘車	B区 y14・15	遺構300(竪穴住居) セクション東床面	1633	4.5×(3.9)×0.6、穿孔径0.45(外径0.7)、(12.62g)	外：不明瞭、内：ナデ	～1mm白中量、～1mm半透明・赤少量	～3mm中量	良好	外：10YR8/2灰白、内・断：10YR4/1褐灰	90	土器転用、周縁打ち欠き後わずかに研磨、回転穿孔か	弥生中期中葉
D4 図111 図版63	土製品	紡錘車	B区 a15	遺構368(溝状土坑)	1585	4.4×(3.5)×0.6、穿孔径0.4(外径0.75)、(11.04g)	外：ナデ、内：ナデ	～2mm半透明・白中量、～1mm赤少量(3mm半透明2個)	～2mm中量(3mm1個)	良好	外：10YR7/2にぶい黄橙、内：7.5YR6/4にぶい橙～10YR8/3浅黄橙、断：10YR5/1褐灰	70	土器転用、周縁打ち欠き後わずかに研磨か、両面穿孔(回転穿孔)、穿孔途中孔1(径2mm、深1mm)	弥生中期後葉
D5 図111 図版63	土製品	紡錘車	A区 f11	遺構145(溝) 上層(サブトレンチ)	749	4.2×4.1×0.65、穿孔径0.85(外径1.15)、13.54g	外：剥離、内：ナデか	～1mm白・半透明多量、～1mm黒～灰中量(4mm赤1個)	～2mm中量	良好	外・断：10YR4/1褐灰、内：10YR8/3浅黄橙	ほぼ100	土器転用、周縁打ち欠きのみ(一部研磨か)、両面穿孔(回転穿孔)	弥生中期中葉
D6 図111 図版63	土製品	紡錘車(製作途中品)	B区 c10	遺構284(土坑) 南半	1427	4.1×(3.4)×0.5、穿孔途中孔径0.6(深0.3)、(6.80g)	外：不明瞭、内：不明瞭	～1mm白中量	～1mm少量	良好	外・断：7.5YR6/6橙、内：10YR6/4にぶい黄橙	90	土器転用、周縁打ち欠き後一部研磨、内面に穿孔途中孔1(回転穿孔)	弥生中期中葉～後葉
D7 図111 図版63	土製品	紡錘車	B区 y14	遺構300(竪穴住居) セクション東炭層	1609	4.7×(2.7)×0.5、穿孔径0.5(外径0.8)、(7.40g)	外：ハケ、内：不明瞭	～1mm白・半透明・赤少量(2mm白1個、1mm赤チャート？1個)	なし?	良好	外：7.5YR6/6橙～5YR5/6明赤褐、内・断：2.5Y4/1黄灰	50	土器転用、周縁打ち欠き後研磨か、両面穿孔（回転穿孔か）	弥生中期中葉
D8 図111 図版63	土製品	円板	A区 g13	東西トレンチ6層(谷状地形)	655	5.4×4.4×0.9、32.56g	外：ミガキ(煤付着)、内：ハケ	～2mm白・半透明中量	～2mm中量	良好	外：10YR5/2灰黄褐(煤10YR4/1褐灰)、内：10YR5/2灰黄褐、断：10YR6/2灰黄褐	100	土器転用、周縁打ち欠きのみ	弥生中期前葉
D9 図111 図版63	土製品	円板	—	表採(主にB区)	1655	5.1×(4.8)×0.6、(13.85g)	外：ミガキ?、内：斜めハケ	～1mm白少量(緻密)	～1mm少量(3mm1個)	良好	外：10YR6/3にぶい黄橙、内：10YR7/3にぶい黄橙、断：10YR5/1褐灰	70	土器転用(弥生中期土器)、周縁研磨、凹線3条(幅4.0mm)	?
D10 図111 図版63	土製品	円板	B区 b15	遺構290(溝) セクション西下層	1379	5.5×5.3×0.8、30.46g	外：ナデか、内：ナデか	～2mm半透明少量、～1mm白微量、～1mm赤微量(緻密)	～2mm少量	良好	外・内：10YR8/3浅黄橙、断：10YR5/1褐灰	100	土器転用、周縁打ち欠き後研磨	弥生中期後葉
D11 図111 図版63	土製品	円板	B区 c12	包含層4層下部	1500	7.1×6.5×0.9、56.15g	外：ナデかミガキ?、内：不明瞭(ナデ?)	～2mm白・半透明中量、1mm赤中量	～3mm多量(15mm1個、7mm3個)	良好	外：10YR8/3浅黄橙、内：7.5YR6/3にぶい褐、断：10YR5/1褐灰	100	土器転用、周縁打ち欠き（ごく一部研磨）	弥生中期中葉
D12 図111 図版63	土製品	円板	A区 f14	遺構149(土器溜まり) 取り上げ25	865	7.7×7.2×0.6、49.24g	外：斜めハケ、内：縦ハケか板ナデ	～2mm黒少量、～1mm白・半透明少量、1mm赤チャート1個	～1mm微量	良好	外：10YR6/2灰黄褐、内：2.5Y6/2灰黄、断：2.5Y3/1黒褐	100	土器転用、周縁打ち欠きのみ、外面ハケ1cm中8～9本	弥生中期中葉
D13 図版63	土製品	紡錘車か	B区 y12	遺構183(溝) 北半	955	4.6×(3.0)×0.7、(8.97g)	外：不明瞭(剥離?)、内：ナデか	～1mm白・半透明中量、～1mm黒中量(角閃石?)	なし	良好	外・内・断：10YR5/3にぶい黄褐	50	土器転用(弥生)、周縁打ち欠きのみ、中央部穿孔か?(径10mm、敲打?)、河内産の可能性	江戸
D14 図版63	土製品	円板	A区 g10	遺構129(溝) セクション北中層	562	4.1×3.9×0.5、(8.86g)	外：ケズリ、内：ナデ	～2mm白・半透明多量	～2mm多量	良好	外・内・断：5YR5/6明赤褐	90	土器(甕)転用、周縁打ち欠きのみ	弥生中期後葉
D15 図版63	土製品	円板	B区 a14	遺構291(溝) セクション中中層	1325	3.7×(3.5)×0.6、(10.36g)	外：ハケか、内：ナデか	～1mm白・半透明・赤少量	あり?	良好	外：7.5Y6/4にぶい橙～10YR7/2にぶい黄橙、内：7.5YR7/4にぶい橙、断：10YR7/2にぶい黄橙	80	土器転用、周縁打ち欠きのみ	弥生中期後葉
D16 図版63	土製品	円板	B区 y14	遺構290(溝) 東側側溝上層	1280	4.5×(3.0)×0.6、(11.05g)	外：ミガキ、内：不明瞭	～4mm白・半透明中量	～4mm中量	良好	外：5YR4/3にぶい赤褐～5Y5/4にぶい赤褐、内：10YR2/1黒、断：10YR3/3暗褐	60	土器転用、周縁打ち欠きのみ、内面黒色化	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量(cm) 長×短×厚	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
D17 図版63	土製品	円板	B区 y14	遺構290(溝)セクション東上層	1380	(5.0)×(3.4)×0.5、(10.10g)	外：ハケか(不明瞭)、内：不明瞭	～2mm白・半透明中量	～2mm中量(5mm1個)	良好	外：7.5YR4/3褐、内：2.5Y5/1黄灰、断：10YR6/1褐灰	50	土器転用、周縁打ち欠きのみ	弥生中期後葉
D18 図版63	土製品	円板	B区 d13	包含層4層下部(遺構295含む)	1484	4.1×3.8×0.4、9.47g	外：ナデかミガキ？、内：ナデか	～3mm白・半透明中量	～3mm中量	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙、内：7.5YR7/4にぶい橙、断：10YR4/1褐灰	100	土器転用、周縁打ち欠きのみ	弥生中期中葉
D19 図版63	土製品	円板	B区 a14	包含層4層下部	1472	(4.0)×(2.3)×0.4、(4.42g)	外：ケズリ、内：ナデか	～1mm白少量	～3mm中量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙～5YR6/6明赤褐、内：10YR7/3にぶい黄橙、断：10YR3/1黒褐	40	土器転用、周縁打ち欠きのみ	弥生中期中葉
D20 図版63	土製品	円板	B区 a14	包含層4層上部	1225	5.9×(5.3)×0.6、(19.64g)	外：タタキ、内：ナデ？	～3mm白・半透明・赤多量	～3mm多量	良好	外：10YR6/6明黄褐～7.5YR5/3にぶい褐(一部煤)、内・断：10YR8/3浅黄橙	90	土器(甕)転用、周縁打ち欠き一部研磨	弥生中期中葉～後葉
D21 図版63	土製品	円板	A区 g10	包含層4層	458	3.2×2.9×0.5、5.55g	外：不明瞭、内：ナデか	～2mm白・半透明中量	～2mm中量	良好	外：10YR8/2灰白～10YR6/1褐灰、内：10YR4/1褐灰～10YR8/4浅黄橙、断：10YR8/4浅黄橙	ほぼ100	土器転用、周縁打ち欠き(一部研磨)	弥生中期中葉～後葉
D22 図版63	土製品	円板	A区 f13	包含層4層	437	5.7×5.4×0.9、32.14g	外：ミガキ？(不明瞭)、内：ナデ	～3mm白・半透明多量	～3mm多量	良好	外：5YR6/8橙、内：10YR7/4にぶい黄橙～10YR6/2灰黄褐、断：10YR5/1褐灰	100	土器転用、周縁打ち欠きのみ	弥生中期中葉～後葉
D23 図版63	土製品	円板	A区 f13	包含層4層	437	6.8×(5.9)×0.7、(37.93g)	外：ミガキ、内：ハケ	～1mm半透明中量、～1mm白・黒少量、～1mm赤微量	あり？	良好	外：10YR2/1黒(黒斑か)、内：10YR8/3浅黄橙、断：10YR4/1褐灰	80	土器転用、周縁打ち欠きのみ	弥生中期中葉～後葉
D24 図版63	土製品	円板	A区 g10	北側側溝4層以下	364	5.3×5.1×0.9、27.20g	外：ミガキか、内：ナデ	～2mm白・半透明中量、～1mm赤微量	～2mm中量	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙、内：10YR7/1灰白、断：10YR8/3浅黄橙	ほぼ100	土器転用、周縁打ち欠きのみ	弥生中期後葉以前
D25 図版63	土製品	円板	A区 h14	遺構105(溝)	291	4.6×4.0×0.9、21.73g	外：不明瞭(ナデか)、内：不明瞭(ナデか)	～2mm半透明多量、1mm白・赤少量	～2mm多量	良好	外・内：10YR7/4にぶい黄橙、断：10YR5/1褐灰	100	土器転用(弥生土器)、周縁打ち欠きのみ	飛鳥～奈良
D26 図版63	土製品	円板	B区 a13	包含層3層	981	7.3×6.5×0.6、39.72g	外：タタキ、内：若干剥離	～2mm白・半透明中量	～2mm中量	良好	外：10YR4/2灰黄褐～3/1黒褐、内：7.5YR4/4褐、断：10YR4/2灰黄褐	ほぼ100	土器(弥生甕か)転用、周縁打ち欠きのみ	飛鳥～奈良
D27 図版63	土製品	円板	A区 g13	遺構129(溝)下層	575	6.2×(5.5)×0.7、(27.81g)	外：ミガキ、内：ナデかハケ？	～1mm白・半透明・赤中量(緻密)	～1mm中量	良好	外：7.5YR6/6橙、内・断：7.5YR7/4にぶい橙	80	土器転用、周縁打ち欠き(一部研磨か)	弥生中期後葉
D28 図版63	土製品	円板	A区 g13	遺構129(溝)下層	574	5.6×5.0×0.7、24.45g	外：ミガキ、内：板ナデかナデ	～1mm白・赤少量(緻密)	～1mm少量	良好	外：10YR5/2灰黄褐～10YR7/3にぶい黄橙、内：10YR8/2灰白、断：10YR7/1灰白	ほぼ100	土器転用、周縁打ち欠きのみ	弥生中期後葉
D29 図版63	土製品	円板	B区 y14	遺構290(溝)セクション東中層	1514	5.0×(4.8)×0.7、(22.23g)	外：ハケ、内：ハケ	～1mm半透明・白少量(緻密)	あり？	良好	外：7.5YR5/4にぶい褐～5YR5/6明赤褐、内：5YR6/6橙、断：10YR5/1褐灰	90	土器転用、周縁打ち欠きのみ	弥生中期後葉
D30 図版63	土製品	円板	B区 y14	遺構290(溝)東側側溝上層	1280	5.0×(4.2)×0.5、(11.19g)	外：ケズリ、内：ナデか	～2mm白少量(緻密)	～2mm少量	良好	外：10YR4/1褐灰(黒色化)、内・断：10YR6/2灰黄褐	60	土器転用、周縁打ち欠きのみ	弥生中期後葉
D31 図版63	土製品	円板	B区 c14	遺構310(土坑)セクション西上層	1555	5.6×5.3×0.9、26.11g	外：不明瞭、内：ハケ？	～3mm半透明・白多量	～3mm多量	良好	外：5YR5/4にぶい赤褐、内：10YR4/2灰黄褐、断：10YR3/1黒褐	ほぼ100	土器転用、周縁打ち欠き(一部研磨か)	弥生中期中葉
D32 図版63	土製品	円板	A区 f14	遺構149(土器溜まり)下層	765	5.4×5.3×0.5、18.67g	外：ミガキかケズリ、内：不明瞭	～3mm白・半透明多量	～3mm多量	良好	外：10YR8/4浅黄橙～4/2灰黄褐(一部5YR6/6橙)、内・断：10YR7/4にぶい黄橙	ほぼ100	土器転用、周縁打ち欠き(一部研磨か)	弥生中期中葉
D33 図版63	土製品	円板	B区 y10	包含層4層上部	1256	3.8×3.8×0.5、9.36g	外：ハケ、内：不明瞭	～2mm白・半透明多量	～2mm多量	良好	外：10YR4/2灰黄褐～5/4にぶい黄褐、内：5YR6/6橙、断：10YR5/1褐灰	ほぼ100	土器転用、周縁打ち欠き(一部研磨か)	弥生中期中葉～後葉
D34	土製品	ふいご羽口片	A区 g14	遺構95(溝)セクション中下層	212	(3.7)×(2.8)×(1.7)	不明瞭	～1mm赤・白少量	？	被熱(変色＝黒色化)	外：5Y4/1灰、内：欠損、断：5YR5/8明赤褐～10YR3/1黒褐	10未満	外面が融解(発泡状)	飛鳥～奈良
D35	土製品	粘土塊	B区 a10	包含層3層	978	(8.7)×(7.7)×4.2	外：指オサエか(こねたような痕跡)	～1mm白・赤・半透明少量	あり？	良好	外：10YR7/3にぶい黄褐、内：5Y6/6橙、断：10YR5/1褐灰	？	被熱か？	飛鳥～奈良
D36	土製品	粘土塊	A区 e11	包含層3層	127	2.7×1.9×1.8	ナデか	～1mm白微量(緻密)	？	良好	外・内・断：7.5YR6/6橙	100？	完形？	飛鳥～奈良

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量(cm) 長×短×厚	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
D37	土製品	粘土塊	B区 b14	遺構 290(溝) セクション東下層	1451	3.5×2.4×2.5	ナデか	緻密(砂粒ほとんどなし)	?	良好	外・内・断：10YR7/3 にぶい黄橙～5YR6/6 橙	100?	完形?	弥生中期後葉
D38	土製品	粘土塊	B区 b13	包含層 4 層下部	1474	①7.5×4.7×3.3、②5.8×3.6×3.3、③1.5×1.5×1.1	ナデか	緻密(砂粒ほとんどなし)	?	良好	外・内・断：7.5YR8/4 浅黄橙～2.5YR6/8 橙	それぞれ100?	3 片あり(同一個体の可能性あり)、表面に 2 ヶ所棒状痕跡	弥生中期中葉
D39	土製品	粘土塊	B区 c13	包含層 4 層下部	1478	3.7×2.0×1.2	ナデか	緻密(砂粒ほとんどなし)	?	良好	外・内・断：7.5YR7/6 橙～5YR7/6 橙	100?	完形?	弥生中期中葉
D40	土製品	粘土塊	B区 b15	遺構 290(溝) セクション西南肩部上層	1477	2.0×1.3×1.0	ナデか	緻密(砂粒ほとんどなし)	?	良好	外・内・断：10YR7/3 にぶい黄橙	100?	完形?	弥生中期後葉
D41	土製品	粘土塊	B区 b13・14	遺構 310(土坑) 北東部小土坑内	1637	①5.2×4.3×3.4、②4.2×3.7×3.4	ナデか	緻密(砂粒ほとんどなし)	?	良好	外・内・断：10YR8/4 浅黄橙(一部 5YR8/8 橙)	100?	粘土塊多数(①②＋36 片＋小片多数)、もとは 1 つ?	弥生中期中葉
D42	土製品	焼瓦か?	B区 y14	遺構 290(溝) セクション東最下層落ち込み南	1540	(10.6)×(10.7)×6.0	ナデか	～5mm 白・半透明・赤中量	～5mm 中量	良好	外・内・断：5YR5/6 明赤褐	?	撹乱の可能性あり、直方体、 4 面残存(面あり)	?
D43	土製品	粘土塊	B区 b14	包含層 4 層下部	1475	①6.3×4.7×3.9、②6.2×4.7×3.3、③6.2×4.1×3.1	ナデか	緻密(砂粒ほとんどなし)	?	良好	外・内・断：10YR8/4 浅黄橙～5YR6/6 橙	100?	粘土塊多数(①②③＋20 片)、もとは 1 つ?	弥生中期中葉

観察表6　ミニチュア土器観察表

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量(cm) 口径×器高	調整	胎土	胎土中片岩	焼成	色調	遺存率%	特徴	遺構・層位の時期
MD 1 図 111	弥生土器	ミニチュア	A区 f10	包含層 4 層	459	2.8×3.3、底径 2.0	外：ナデ・指オサエ、内：ナデ	～1mm 白・半透明少量	～3mm 少量	やや不良	外・内・断：2.5Y5/1 黄灰～2.5Y4/1 黄灰	40(底部80)	全体的に手づくねで成形、底部手づくねで成形、図反転復元	弥生中期中葉～後葉
MD 2 図 111	弥生土器	ミニチュア	A区 g11	遺構 129(溝) セクション北上層	564	4.4×6.4、底径 3.9	外：指オサエ、内：ナデ	～1mm 白・赤少量(緻密)	～5mm 少量	良好	外：7.5YR6/4 にぶい橙～10YR5/1 褐灰(黒斑 10YR3/1 黒)、内：2.5Y5/2 暗灰黄(口縁 7.5YR6/4 にぶい橙)	ほぼ100(口縁一部欠損のみ)	全体的に手づくねで成形、底部やや平底ぎみ、底部外面に黒斑	弥生中期後葉
MD 3 図 111	弥生土器	ミニチュア	A区 f14	遺構 149(土器溜まり) 取り上げ 25	865	3.5?×7.6、底径 2.9	外：縦ミガキ・指オサエ、内：指オサエ・ナデ	～2mm 白・黒中量、2mm 半透明 1 個	3mm 1 個	良好	外：5YR4/1 褐灰～7.5YR6/2 灰褐、内・断：7.5YR5/1 褐灰	80(口縁ほぼ0・底部100)	底部指オサエで成形、図口縁部付近反転復元	弥生中期中葉
MD 4 図 111	弥生土器	ミニチュア	A区 f14	遺構 149(土器溜まり) 取り上げ 25	864	7.0×8.95、底径 3.5	外：縦ミガキ・指オサエ、内：不明瞭	～2mm 白・半透明・赤少量(4mm 半透明 2 個)	～2mm 少量	良好	外：10YR8/2 灰白(口縁 5YR7/6 橙)、内：7.5YR7/3 にぶい橙～N7/0 灰白、底部：10YR3/1 黒褐	70(口縁 50、底部 100)	底部指オサエで成形、若干 2 次焼成(変色か)、図一部反転復元	弥生中期中葉
MD 5 図 111	弥生土器	ミニチュア	A区 f14	遺構 149(土器溜まり) 取り上げ 2	837	?×(3.2)、底部径 3.0	外：ナデかミガキ?・指オサエ、内：ナデか	～2mm 白・半透明少量	～2mm 少量	良好	外・内：10YR5/1～4/1 褐灰、断：10YR3/1 黒褐	20(底部 100)	底部指オサエで成形	弥生中期中葉

観察表７　石製品観察表　　＜写真図版 64～73＞

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）長軸×短軸×厚さ	型式	石材	特徴	遺存率%	遺構・層位の時期
S 1	打製石製品	石鏃	A区h13	遺構90(流路)セクション西　最下層	191	3.0×1.9×0.4　(1.72ｇ)	凹基式ａ	サヌカイト	細かい縁辺調整	ほぼ100	飛鳥～奈良
S 2	打製石製品	石鏃	A区e15	遺構100(溝)　セクション西	315	(2.0)×(1.8)×0.4　(1.21g)	凹基式ａ	サヌカイト	先端欠損	50	飛鳥～奈良
S 3	打製石製品	石鏃	A区d11	包含層４層精査	486	2.2×(1.5)×0.3　(1.01g)	平基式ａ	サヌカイト	若干凹基式ぎみ	95	弥生中期中葉～後葉
S 4	打製石製品	石鏃	A区e12	遺構90(流路)セクション中　上層	202	2.7×(2.0)×0.3　(1.91g)	平基式ａ	サヌカイト	若干凸基式ぎみ	80	飛鳥～奈良
S 5	打製石製品	石鏃	B区c12	遺構90(流路)　中層	1130	(2.7)×1.9×0.45　(2.61g)	平基式ａか	サヌカイト	基部欠損(凸基式かも)	90	飛鳥～奈良
S 6	打製石製品	石鏃	B区c14	遺構238(連続土坑群)	1173	(2.0)×1.8×(0.3)　(1.66g)	平基式ａ	サヌカイト	裏面剥離(凸基式かも)、製作途中品の可能性あり	80	飛鳥～奈良
S 7	打製石製品	石鏃	A区d11	遺構90(流路)セクション東　上層	229	2.1×1.6×0.35　(1.30g)	凸基Ⅰ式か	サヌカイト	凹基式か平基式かも	90	飛鳥～奈良
S 8	打製石製品	石鏃	A区h12	遺構90(流路)セクション西　中層	222	(2.7)×1.5×0.4　(1.67g)	凸基Ⅰ式	サヌカイト	基部欠損(凸基Ⅱ式かも)	90	飛鳥～奈良
S 9	打製石製品	石鏃	B区y14	包含層４層上部(遺構290・291含む)	1224	2.3×1.1×0.35　(1.02g)	凸基Ⅰ式	サヌカイト	典型的凸基Ⅰ式(涙滴形)	100	弥生中期中葉～後葉
S 10	打製石製品	石鏃	A区e12	遺構90(流路)セクション中　上層	202	2.9×1.5×0.4　(2.03g)	凸基Ⅰ式	サヌカイト	若干平基式ぎみ	ほぼ100	飛鳥～奈良
S 11	打製石製品	石鏃	A区	おそらく包含層 3-2 層	345	3.7×(1.2)×0.45　(2.51g)	凸基Ⅰ式	サヌカイト	やや大形	60	飛鳥～奈良
S 12	打製石製品	石鏃	B区a12	遺構185(溝)　下層	1139	4.3×2.1×0.7　(5.88g)	凸基Ⅱ式ａ	サヌカイト	自然面(筋状)あり	100	飛鳥～奈良
S 13	打製石製品	石鏃	A区g11	包含層４層	472	3.0×1.7×0.4　(2.21g)	凸基Ⅱ式ａ	サヌカイト	製作途中品かも、二上山産以外の可能性あり	ほぼ100	弥生中期中葉～後葉
S 14	打製石製品	石鏃	B区y15	遺構300(竪穴住居)セクション西　炭層	1601	2.6×1.5×0.45　(1.27g)	凸基Ⅱ式ａ	サヌカイト	ひし形、中央部厚みあり	100	弥生中期中葉
S 15	打製石製品	石鏃	B区c14	遺構310(土坑)セクション中　上層	1554	(2.5)×1.5×0.35　(1.20g)	凸基Ⅱ式ａ	サヌカイト	ひし形、先端のみ欠損	95	弥生中期中葉
S 16	打製石製品	石鏃	B区c15	南側壁　包含層４層	1001	3.2×1.3×0.4　(1.81g)	凸基Ⅱ式ｂ	サヌカイト	凸基Ⅱ式ａかも、やや風化、基部若干欠損か	ほぼ100	弥生中期中葉～後葉
S 17	打製石製品	石鏃	B区y15	遺構300(竪穴住居)セクション東　中層	1565	2.8×1.4×0.35　(1.40g)	凸基Ⅱ式ｂ	サヌカイト	凸基Ⅱ式ａかも	100	弥生中期中葉
S 18	打製石製品	石鏃	B区a14	遺構300(竪穴住居)セクション西　上層	1516	3.0×1.3×0.4　(1.25g)	凸基Ⅱ式ｂ	サヌカイト	裏面剥離か	ほぼ100	弥生中期中葉
S 19	打製石製品	石鏃	A区h10	包含層３層	82	(2.8)×1.3×0.3　(1.27g)	凸基Ⅱ式ｂ	サヌカイト	基部欠損、側縁一部研磨あり	90	飛鳥～奈良
S 20	打製石製品	石鏃	A区f15	包含層 3-2 層	143	(2.7)×1.4×0.45　(2.08g)	凸基Ⅱ式ｂ	サヌカイト	基部・先端欠損(有茎式かも)	90	飛鳥～奈良
S 21	打製石製品	石鏃	A区f14	遺構97(溝)セクション西	240	(2.7)×1.2×0.4　(1.47g)	凸基Ⅱ式ｂ	サヌカイト	先端・基部欠損(有茎式かも)	80	飛鳥～奈良
S 22	打製石製品	石鏃	B区b12	包含層４層上面精査(３層含む)	1031	(2.2)×1.0×0.3　(0.72g)	凸基Ⅱ式ｂ	サヌカイト	先端・基部欠損(有茎式かも)、やや小形	90	弥生中期中葉～後葉
S 23	打製石製品	石鏃	B区d11	遺構90(流路)　中層	1048	3.1×1.1×0.5　(1.42g)	凸基Ⅱ式ｂ	サヌカイト	石錐または有茎式かも、細身	100	飛鳥～奈良
S 24	打製石製品	石鏃	B区y14	遺構300(竪穴住居)セクション東　中層	1563	(2.4)×1.2×0.4　(1.12g)	凸基Ⅱ式ｂ	サヌカイト	先端欠損(有茎式かも)	90	弥生中期中葉
S 25	打製石製品	石鏃	A区e14	遺構97(溝)　下層	278	(1.7)×1.2×0.3　(0.73g)	凸基Ⅱ式ｂ	サヌカイト	先端・基部欠損(有茎式かも)	70	飛鳥～奈良
S 26	打製石製品	石鏃	B区y14	遺構400(壁溝)(遺構300竪穴内)	1643	(2.7)×1.1×0.35　(1.41g)	有茎式ａ	サヌカイト	凸基Ⅱ式ｂに近い、先端・基部欠損	80	弥生中期中葉
S 27	打製石製品	石鏃	A区h13	遺構90(流路)セクション西　上層	178	(2.9)×1.2×0.4　(1.29g)	有茎式ａ	サヌカイト	先端尖る、基部欠損	90	飛鳥～奈良
S 28	打製石製品	石鏃	B区a15	遺構300(竪穴住居)セクション西　炭層	1603	(2.5)×1.1×0.3　(0.80g)	有茎式ａ	サヌカイト	先端・基部一部欠損(凸基Ⅱ式ｂかも)、細身	95	弥生中期中葉
S 29	打製石製品	石鏃	A区e14	遺構149(土器溜まり下層	768	3.3×1.2×0.6　(1.93g)	有茎式ａ	サヌカイト	基部欠損(石錐かも)、細身	90	弥生中期中葉
S 30	打製石製品	石鏃	B区y14・15	遺構300(竪穴住居)セクション東　床面	1633	(3.7)×1.2×0.6　(2.43g)	有茎式ａ	サヌカイト	基部欠損(石錐かも)、厚く細身	90	弥生中期中葉
S 31	打製石製品	石鏃	B区b15	遺構290(溝)セクション西　下層	1379	(3.0)×1.3×0.5　(1.53g)	有茎式ａ	サヌカイト	先端・基部欠損(石錐かも)、やや厚く細身	90	弥生中期後葉
S 32	打製石製品	石鏃	B区c11	遺構90(溝)セクション東上層	1284	2.4×1.5×0.4　(1.48g)	有茎式ａ	サヌカイト	凸基Ⅱ式ｂかも	ほぼ100	飛鳥～奈良
S 33	打製石製品	石鏃	B区y14	遺構290(溝)上層　（４層精査時）	1272	(2.1)×1.0×0.35　(0.85g)	有茎式ａ	サヌカイト	先端・基部欠損(凸基Ⅱ式ｂかも)	80	弥生中期後葉
S 34	打製石製品	石鏃	B区a15	遺構300(竪穴住居)セクション西　炭層	1603	(2.8)×1.7×0.25　(1.21g)	有茎式ａ	サヌカイト	基部欠損　薄い	90	弥生中期中葉
S 35	打製石製品	石鏃	A区d12	包含層 3-2 層	292	(2.1)×1.1×0.4　(1.18g)	有茎式ａ	サヌカイト	先端・基部欠損、薄く細身	60	飛鳥～奈良
S 36	打製石製品	石鏃	A区g14	包含層４層	694	(3.2)×1.4×0.35　(1.74g)	有茎式ａ	サヌカイト	先端一部・基部欠損(凸基Ⅱ式ｂか凸基Ⅰ式かも)、薄く細身	80	弥生中期中葉～後葉
S 37	打製石製品	石鏃	A区f13	サブトレンチ 3-2 層以下　遺構 90～95 間	300	(3.0)×1.8×0.5　(2.70g)	有茎式ａ	サヌカイト	基部欠損(有茎式ｂかも)	80	飛鳥～奈良か
S 38	打製石製品	石鏃	A区e15	遺構100(溝)	244	(1.3)×(1.4)×0.35　(0.60g)	有茎式ａか	サヌカイト	基部のみ(凸基Ⅱ式かも)	30	飛鳥～奈良
S 39	打製石製品	石鏃	A区f13	遺構94(流路)	265	(2.5)×1.8×0.4　(2.42g)	有茎式ｂ	サヌカイト	先端・基部欠損(有茎式ａかも)、縞状の石材(二上山産以外の可能性あり)	60	飛鳥～奈良
S 40	打製石製品	石鏃	B区a14	遺構300(竪穴住居)セクション西　炭層(直口壺内から出土)	1658	(2.4)×1.9×0.5　(1.93g)	有茎式ｂ	サヌカイト	先端欠損(石錐かも)	80	弥生中期中葉
S 41	打製石製品	石鏃	B区c14	遺構310(土坑)セクション西　上層	1555	(3.3)×(2.1)×0.7　(3.60g)	有茎式ｂ	サヌカイト	先端欠損、厚い	70	弥生中期中葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）長軸×短軸×厚さ	型式	石材	特徴	遺存率%	遺構・層位の時期
S42	打製石製品	石鏃	B区c13	遺構130(溝)セクション西　中層	1373	(3.5)×2.7×0.7　(3.67g)	有茎式b	サヌカイト	先端・基部ごく一部欠損、厚い、中軸に稜線あり	90	弥生中期後葉
S43	打製石製品	石鏃	B区北西隅	北側側溝　包含層4層	900	(3.0)×2.0×0.6　(3.10g)	有茎式b	サヌカイト	先端・基部欠損、中軸に稜線あり	80	弥生中期中葉～後葉
S44	打製石製品	石鏃	B区c13	包含層4層上部(黒色)	1266	(2.3)×(1.7)×0.35 (1.17g)	有茎式b	サヌカイト	先端・基部欠損	80	弥生中期中葉～後葉
S45	打製石製品	石鏃	B区y14	包含層4層上部(遺構290・291含む)	1224	(3.2)×1.7×0.4　(3.02g)	有茎式b	サヌカイト	先端・基部欠損、自然面あり	80	弥生中期中葉～後葉
S46	打製石製品	石鏃	B区c12	包含層4層上部	1265	(3.3)×2.3×0.45　(3.72g)	有茎式b	サヌカイト	基部欠損	90	弥生中期中葉～後葉
S47	打製石製品	石鏃	B区b14	遺構290(溝)セクション西　上層	1381	(1.8)×1.5×0.2　(0.69g)	有茎式b	サヌカイト	基部欠損、小形で薄い	90	弥生中期後葉
S48	打製石製品	石鏃	A区f12	遺構90(流路)セクション東　上層	182	(2.6)×2.0×0.45　(2.27g)	有茎式b	サヌカイト	先端・基部一部欠損	70	飛鳥～奈良
S49	打製石製品	石鏃	A区d12	遺構90(流路)セクション東　上層	201	(2.0)×1.5×0.35　(1.10g)	有茎式b	サヌカイト	一部研磨の可能性あり。先端・基部欠損	60	飛鳥～奈良
S50	打製石製品	石鏃	A区f15	遺構103(土坑)	319	2.6×1.6×0.35　(1.19g)	有茎式b	サヌカイト	完形、やや小形	100	飛鳥～奈良
S51	打製石製品	石鏃	A区e12	包含層3-2層	253	(3.7)×2.6×0.85　(5.59g)	有茎式b	サヌカイト	やや大形、厚い、先端欠損	70	飛鳥～奈良
S52	打製石製品	石鏃	B区y14	遺構291(溝)セクション東　中層	1330	(5.2)×1.4×0.5　(3.62g)	有茎式c	サヌカイト	基部欠損(中形尖頭器・大形石鏃かも)、細かい縁辺調整、中軸に稜線	90	弥生中期後葉
S53	打製石製品	石鏃	B区d12	遺構90(流路)　上層	1043	(4.8)×1.3×0.6　(4.00g)	有茎式c	サヌカイト	先端・基部欠損(中形尖頭器・大形石鏃かも)、厚い	90	飛鳥～奈良
S54	打製石製品	石鏃	A区f15	遺構128-E(溝)　下層	634	(3.6)×1.4×0.3　(2.10g)	有茎式c	サヌカイト	先端・基部欠損(有茎式aかも)、やや薄い	90	弥生中期後葉
S55	打製石製品	石鏃	A区g14	包含層3層	103	(4.6)×2.2×0.5　(4.40g)	有茎式c	サヌカイト	基部欠損(中形尖頭器・大形石鏃かも)、やや中軸に稜線あり	80	飛鳥～奈良
S56	打製石製品	石鏃	A区h13	遺構90(流路)　最下層	191	(3.6)×1.5×0.4　(2.11g)	有茎式c	サヌカイト	先端・基部欠損(有茎式aかも)、やや中軸に稜線あり	80	飛鳥～奈良
S57	打製石製品	石鏃	主にB区	表採	1655	(3.8)×1.8×0.5　(3.08g)	有茎式c	サヌカイト	先端・基部欠損(有茎式aかも)、やや中軸に稜線あり	80	不明
S58	打製石製品	石鏃	B区c14	遺構310(土坑)セクション中　上層	1564	(2.6)×2.0×0.35　(2.52g)	平基式b	サヌカイト	基部残存(中形尖頭器・大形石鏃かも)、やや凹基式ぎみ、細かい縁辺調整あり	50	弥生中期中葉
S59	打製石製品	石鏃	B区y14	遺構290(溝)　上層(4層精査時)	1272	1.9×1.4×0.35　(1.18g)	平基式c	サヌカイト	小形、先端尖らない(石鏃でないかも)	ほぼ100	弥生中期後葉
S60	打製石製品	石鏃	B区a13	包含層4層上部	1238	1.4×1.2×0.4　(0.79g)	平基式c	サヌカイト	小形(やや凹基式ぎみ)、先端尖らない(石鏃でないかも)	100	弥生中期中葉～後葉
S61	打製石製品	石鏃	B区a14	遺構290(溝)セクション中　上層(南肩)(遺構291切り合い部分)	1468	1.1×1.9×0.25　(0.58g)	凹基式b	サヌカイト	小形、先端尖らない(石鏃でないかも)	100	弥生中期後葉
S62	打製石製品	石鏃	B区a13	包含層4層上部	1238	(1.5)×1.2×0.3　(0.63g)	型式不明	サヌカイト	先端・基部欠損	30	弥生中期中葉～後葉
S63	打製石製品	石鏃	B区c15	南側側溝　包含層4層	1000	(2.1)×(1.0)×0.4　(0.67g)	型式不明	サヌカイト	先端のみ、細身	40	弥生中期中葉～後葉
S64	打製石製品	石鏃	A区f11	サブトレンチ(ほぼ遺構145(溝))(包含層4層含む)	786	(1.9)×(1.7)×0.4　(1.03g)	型式不明	サヌカイト	先端のみ	30	弥生中期中葉か
S65	打製石製品	石鏃	A区f13	包含層3-3層	296	(1.4)×(1.2)×0.35 (0.51g)	型式不明	サヌカイト	先端のみ	20	飛鳥～奈良
S66	打製石製品	石鏃	A区e12	包含層3-2層	253	(1.8)×(1.4)×(0.3) (0.69g)	型式不明	サヌカイト	先端のみ	20	飛鳥～奈良
S67	打製石製品	石鏃	A区f11	包含層3層	118	(2.0)×(1.8)×(0.3) (1.17g)	型式不明	サヌカイト	先端のみ	30	飛鳥～奈良
S68	打製石製品	石鏃	A区f12	遺構90(流路)セクション西　(下層の遺構(溝)内)	228	(2.2)×(1.5)×0.6　(1.19g)	型式不明	サヌカイト	先端のみ	30	飛鳥～奈良か
S69	打製石製品	石鏃	A区f12	遺構90(流路)セクション西　中層	199	(1.9)×(1.2)×0.4　(0.78g)	型式不明	サヌカイト	先端のみ、中軸に稜線あり	30	飛鳥～奈良
S70	打製石製品	石鏃	A区(北西)	遺構26(溝)	38	(2.3)×1.5×0.35　(1.74g)	型式不明	サヌカイト	先端・基部欠損	30	江戸
S71	打製石製品	石鏃	A区h13	遺構90(溝)セクション西中層2・下層	189	2.5×1.1×0.6　(1.54g)	型式不明	チャート(灰色)	石錐かも、厚い(石鏃でないかも)	100	飛鳥～奈良
S72	打製石製品	石鏃製作途中品	A区e14	遺構129(溝)　上層	518	(2.7)×1.8×0.5　(2.51g)	凸基Ⅱ式b?	サヌカイト	基部欠損、縁辺調整あり	90	弥生中期後葉
S73	打製石製品	石鏃製作途中品	A区e12	包含層3-2層	253	(2.2)×(1.9)×0.7　(3.46g)	凸基Ⅰ式?	サヌカイト	先端欠損、厚み残す、縁辺調整なし	80	飛鳥～奈良
S74	打製石製品	石鏃製作途中品	B区b13	遺構250(土坑)	1155	(2.9)×2.1×0.75　(7.15g)	有茎式a?	サヌカイト	基部欠損、若干縁辺調整あり、厚み残す、白っぽく風化(金山産かも?)	90	飛鳥～奈良
S75	打製石製品	石鏃製作途中品	A区e15	包含層4層	443	3.7×2.3×0.65　(5.36g)	凸基Ⅱ式a?	サヌカイト	縁辺調整なし、ごく一部自然面あり	ほぼ100	弥生中期中葉～後葉
S76	打製石製品	石鏃製作途中品	B区c11	遺構90(流路)　上層(セクション)	1257	2.1×1.7×0.35　(1.47g)	平基式c?	サヌカイト	小形、わずかに縁辺調整あり	ほぼ100	飛鳥～奈良
S77	打製石製品	石鏃製作途中品	B区y10	遺構200(大形土坑)　上層(セクション北)	1063	(2.3)×2.1×0.5　(3.18g)	?	サヌカイト	先端のみ(中形尖頭器かも)、縁辺調整あり、自然面(凹凸)あり	40?	飛鳥～奈良
S78	打製石製品	石鏃製作途中品か	A区e11	遺構101(流路?)　下層	395	3.0×2.2×0.7　(2.09g)	?	サヌカイト	石錐かも、縁辺調整あり、厚い、裏面主要剥離面(平ら)	90	飛鳥～奈良
S79	打製石製品	中形尖頭器	B区c10	包含層4層上部	1264	6.0×2.1×0.8　(9.73g)	大形凸基Ⅱ式a(大形石鏃)	サヌカイト	やや中軸に稜線あり、やや細長、厚い	100	弥生中期中葉～後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）長軸×短軸×厚さ	型式	石材	特徴	遺存率%	遺構・層位の時期
S80	打製石製品	中形尖頭器	A区 h13	遺構90(流路)　最下層	234	5.7×1.7×0.65　(7.01g)	大形凸基Ⅱ式a(大形石槍)	サヌカイト	細身(石小刀かも)	ほぼ100	飛鳥～奈良
S81	打製石製品	中形尖頭器	B区 y14	遺構 290(溝)　上層(４層精査時)	1272	(5.7)×2.2×1.1　(12.03g)	大形凸基Ⅱ式a(大形石鏃)	サヌカイト	基部欠損、やや細長、厚い	90	弥生中期後葉
S82	打製石製品	中形尖頭器	A区 f14	包含層 3-3 層	261	(4.3)×2.5×0.8　(8.82g)	大形凸基Ⅰ式(大形石鏃)	サヌカイト	先端欠損、やや厚みあり、自然面(凹凸)あり	90	飛鳥～奈良
S83	打製石製品	中形尖頭器	B区 a12	包含層４層上面精査(３層含む)	1026	(4.6)×2.2×0.8　(8.95g)	大形凸基Ⅱ式ａか有茎a(大形石鏃)	サヌカイト	基部欠損、やや厚みあり	80	弥生中期中葉～後葉
S84	打製石製品	中形尖頭器	B区 a12	包含層４層上面精査(３層含む)	1026	(4.6)×2.0×1.0　(8.47g)	大形凸基Ⅰ式(大形石鏃)	サヌカイト	基部欠損、厚みあり	90	弥生中期中葉～後葉
S85	打製石製品	中形尖頭器	A区 g11	遺構142(井戸)　下層	799	4.2×1.9×0.7　(6.38g)	大形凸基Ⅰ式～凸基Ⅱ式b(大形石鏃)	サヌカイト	一部欠損	90	弥生中期中葉
S86	打製石製品	中形尖頭器	B区 c14	遺構310(土坑)　上層	1554	(4.9)×2.2×0.75　(9.04g)	大形凸基Ⅰ式～凸基Ⅱ式a(大形石鏃)	サヌカイト	先端・基部欠損	80	弥生中期中葉
S87	打製石製品	中形尖頭器	A区 f14	遺構 149(土器溜まり下層	765	4.5×2.0×0.6　(6.51g)	大形凸基Ⅰ式～凸基Ⅱ式a(大形石鏃)	サヌカイト	製作途中品かも、自然面(平坦)あり	ほぼ100	弥生中期中葉
S88	打製石製品	中形尖頭器	A区 d13	包含層４層	446	5.1×2.7×1.2　(14.48g)	大形有茎式ａか	サヌカイト	厚い、製作途中品かも	ほぼ100	弥生中期中葉～後葉
S89	打製石製品	中形尖頭器	A区 g11	遺構 129(溝)セクション南　下層	568	4.9×2.9×0.65　(9.06g)	大形凸基Ⅱ式ｂ	サヌカイト	やや薄い	ほぼ100	弥生中期後葉
S90	打製石製品	大形尖頭器	B区 a13	遺構 288(溝？)セクション南	1417	(4.9)×2.8×1.05 (16.85g)	－	サヌカイト	基部のみ、側辺研磨あり(体部もわずかに研磨か)、調整丁寧、中軸若干稜線あり(断面菱形)	20？	弥生中期後葉
S91	打製石製品	大形尖頭器	B区 a14	包含層４層上部	1225	(5.4)×(2.4)×1.0 (17.59g)	－	サヌカイト	側辺～中軸残存(幅 2.6cm か)、調整丁寧、中軸若干稜線あり(断面菱形)	20？	弥生中期中葉～後葉
S92	打製石製品	大形尖頭器	A区 h12	包含層３層	85	(2.2)×3.1×1.4　(12.66g)	－	サヌカイト	側辺２辺残存、厚みあり、中軸若干稜線あり(断面菱形)	10未満	飛鳥～奈良
S93	打製石製品	大形尖頭器	A区 f14	遺構 97(溝)セクション西	240	(2.6)×2.5×0.9　(7.56g)	－	サヌカイト	基部のみ(中形尖頭器かも)、断面菱形、成形やや粗い、自然面(筋か)あり	10未満	飛鳥～奈良
S94	打製石製品	大形尖頭器	B区 b14	遺構 310(土坑)セクション東　上層	1556	(2.0)×2.2×0.7　(3.00g)	－	サヌカイト	基部か先端(中形尖頭器かも)、成形やや粗い	10未満	弥生中期中葉
S95	打製石製品	大形尖頭器	B区南半	包含層３層上面精査	896	(3.0)×2.4×1.0　(8.43g)	－	サヌカイト	側辺２辺残存(中形尖頭器か石小刀かも)、断面菱形、成形やや粗い	10未満	飛鳥～奈良
S96	打製石製品	大形尖頭器	A区 d10	包含層３層	132	(1.9)×2.2×0.65　(3.37g)	－	サヌカイト	側辺２辺残存、やや細身(中形尖頭器か石小刀かも)、調整やや粗い、断面菱形(やや薄い)	10未満	飛鳥～奈良
S97	打製石製品	大形尖頭器	A区 g13	包含層３層	102	(3.4)×3.1×0.65　(7.00g)	－	サヌカイト	側辺２辺残存(刃器かも)、やや幅広、稜線ほとんどなし(やや薄い)	10未満	飛鳥～奈良
S98	打製石製品	大形尖頭器	A区 d12	遺構 90(流路)セクション東　上層	201	(3.1)×2.4×0.75　(6.45g)	－	サヌカイト	基部か(中形尖頭器か製作途中品かも)、成形粗い(縁辺調整ほとんどなし)	10未満	飛鳥～奈良
S99	打製石製品	石錐	B区 b12	包含層 3-3 層	1293	4.7×1.6×0.5(錐部長2.7×幅 0.5)	Ⅰ類	サヌカイト	錐部回転痕なし、頭部側に回転痕あり(両端錐部タイプか)	100	飛鳥～奈良
S100	打製石製品	石錐	A区 g12	包含層４層(遺構 101 下層含む)	456	(5.2)×1.8×0.9(錐部長 1.2×幅 0.6／長 1.2×幅 0.5)	Ⅰ類	サヌカイト	両端に錐部(一方わずか縁辺につぶれ痕＝使用痕か)	90	弥生中期中葉～後葉
S101	打製石製品	石錐	B区 d11	遺構 90(溝)　下層	1049	(2.1)×(1.7)×0.35(錐部長 1.2×幅 0.55)	Ⅰ類	サヌカイト	頭部・錐先欠損、回転痕なし(縁辺に若干つぶれ痕か)	40？	飛鳥～奈良
S102	打製石製品	石錐	A区 e15	遺構 100(溝)　上層	244	2.7×2.1×0.5(錐部長1.5×幅 0.6)	Ⅰ類	サヌカイト	先端若干回転痕、頭部に自然面(筋)あり	100	飛鳥～奈良
S103	打製石製品	石錐	B区 b13	包含層４層上部	1242	(2.8)×1.3×0.4(錐部長 0.9×幅 0.5)	Ⅰ類	サヌカイト	頭部欠損、わずかに使用痕か(縁辺若干つぶれ痕)	80	弥生中期中葉～後葉
S104	打製石製品	石錐	A区 d11	包含層３層	133	(3.2)×1.9×0.6(錐部長(0.8)×幅 0.6)	Ⅰ類	サヌカイト	錐先欠損(Ⅱ類かも)、使用痕なし	90	飛鳥～奈良
S105	打製石製品	石錐	B区 c11	遺構 90(流路)セクション東　上層	1284	2.2×1.5×0.5(錐部長0.4×幅 0.3)	Ⅱ類	サヌカイト	頭部成形(Ⅰ類かも)、回転痕あり	100	飛鳥～奈良
S106	打製石製品	石錐	A区 e13	遺構 35(土坑)	49	6.1×1.7×0.8(錐部長0.9×幅 0.5)	Ⅱ類	サヌカイト	頭部成形、中形尖頭器かも、使用痕なし	ほぼ100	江戸
S107	打製石製品	石錐	B区 a13	包含層４層上部	1238	(4.1)×1.7×0.5(錐部長 0.8×幅 0.55)	Ⅱ類	サヌカイト	頭部欠損(Ⅰ類かも)、頭部成形なし、わずかに使用痕か(側縁に若干つぶれ痕)	90	弥生中期中葉～後葉
S108	打製石製品	石錐	B区 y15	包含層４層上面精査(３層含む)	1022	(2.1)×(1.3)×0.35(錐部長(0.6)×幅 0.7)	Ⅱ類	サヌカイト	頭部・錐先欠損(Ⅰ類かも)、使用痕なし	60？	弥生中期中葉～後葉
S109	打製石製品	石錐	A区 e12	包含層 3-2 層	253	2.4×2.0×0.45(錐部長0.5×幅 0.6)	Ⅱ類	サヌカイト	頭部成形、一部使用痕か(側縁若干つぶれ痕)	ほぼ100	飛鳥～奈良
S110	打製石製品	石錐	B区 c13	包含層４層上部(黒色)	1266	(3.3)×1.6×0.7(錐部長 0.8×幅 0.7)	Ⅱ類	サヌカイト	錐先欠損、頭部成形、回転痕あり	90	弥生中期中葉～後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）長軸×短軸×厚さ	型式	石材	特徴	遺存率%	遺構・層位の時期
S 111	打製石製品	石錐	A区 g14	包含層 3 層	159	3.3×1.4×0.5(錐部長0.5×幅 0.6)	Ⅱ類	サヌカイト	石鏃(有茎式 a か)からの転用、石鏃基部に回転痕あり	100	飛鳥～奈良
S 112	打製石製品	石錐	B区 b12	包含層 3-3 層	1293	(3.0)×1.4×0.8(錐部長0.7×幅 0.6)	Ⅱ類	サヌカイト	錐先欠損、若干回転痕残る、頭部ほとんど成形なし	80	飛鳥～奈良
S 113	打製石製品	石錐	B区 b15	南側側溝　包含層 4 層以下	967	(2.3)×1.6×0.5(錐部長(0.7)×幅 0.6)	Ⅱ類	サヌカイト	頭部・錐先欠損、頭部成形か、わずかに使用痕か	50 か	弥生中期後葉以前
S 114	打製石製品	石錐	A区北東	包含層 2 層	34	(3.4)×(2.1)×0.6(錐部長(0.5)×幅(0.5))	Ⅱ類	サヌカイト	頭部一部・錐先欠損(刃器かも)、頭部若干成形、使用痕なし	80	江戸
S 115	打製石製品	石錐	B区 a10	遺構303(土坑)セクション東	1549	2.5×2.2×0.45(錐部長0.2×幅 0.25)	Ⅱ類	サヌカイト	錐部短い、頭部成形、使用痕なし	ほぼ100	弥生中期中葉
S 116	打製石製品	石錐	A区南東	包含層 1 ・ 2 層	13	2.2×1.7×0.3(錐部長0.2×幅 0.25)	Ⅱ類	サヌカイト	錐部短い(石鏃製作途中品かも)、頭部成形、使用痕なし	ほぼ100	江戸以降
S 117	打製石製品	石錐	B区 d13	包含層 4 層上部	1270	5.2×1.6×0.8(錐部長0.8×幅0.4／長0.7×幅0.5)	Ⅱ類	サヌカイト	両端に錐部、使用痕なし、自然面(爪形)あり	100	弥生中期中葉～後葉
S 118	打製石製品	石錐	A区	西側側溝(北)　2 ・ 3 層	20	(3.2)×2.1×0.6(錐部欠損)	Ⅱ類か	サヌカイト	錐部欠損(Ⅰ類か石鏃製作途中品かも)、頭部成形、厚みあり、やや灰色の石材(二上山産以外の可能性)	80	飛鳥～奈良以降
S 119	打製石製品	石錐	A区 e11	包含層 4 層精査	762	(2.2)×1.6×0.8(錐部欠損)	Ⅱ類か	サヌカイト	錐部欠損(Ⅰ類かも)、頭部成形、厚みあり	50	弥生中期中葉～後葉
S 120	打製石製品	石錐	B区 a14	遺構290(溝)セクション中　上層	1383	4.6×2.1×0.6(錐部長0.2×幅 0.35)	Ⅱ類	サヌカイト	頭部若干成形、若干使用痕(縁辺つぶれ痕)	100	弥生中期後葉
S 121	打製石製品	石錐	A区 d12	遺構 90(流路)セクション東　上層	201	(1.9)×1.4×0.55(錐部欠損)	Ⅱ類か	サヌカイト	頭部のみ(Ⅰ類かも)、厚みあり、頭部成形	50 か	飛鳥～奈良
S 122	打製石製品	石錐	A区 d11	遺構 90(流路)セクション東　上層	229	(2.7)×0.7×0.45(錐部のみ)	Ⅲ類	サヌカイト	頭部側一部欠損、若干回転痕あり	90	飛鳥～奈良
S 123	打製石製品	石錐	A区 g14	包含層 3-3 層	220	(3.3)×1.0×0.4(錐部長(1.0)×幅 0.5)	Ⅲ類	サヌカイト	錐先欠損、頭部丁寧に成形、中軸に稜線(断面菱形)、使用痕なし	90	飛鳥～奈良
S 124	打製石製品	石錐	A区 h13	遺構 90(流路)セクション西　上層	178	(3.8)×1.2×0.65(錐部長0.2×幅 0.3)	Ⅲ類	サヌカイト	両端に錐部か、成形丁寧、中軸に稜線(断面菱形)、若干回転痕あり	90	飛鳥～奈良
S 125	打製石製品	石錐	A区 f13	遺構 96(溝)セクション中	239	(2.6)×1.1×0.5(錐部長0.2×0.25)	Ⅲ類	サヌカイト	頭部一部欠損、両端に錐部か、丁寧な成形、厚みあり、若干使用痕か(縁辺つぶれ痕)	90	飛鳥～奈良
S 126	打製石製品	石錐	B区 y14	遺構290(溝)　取り上げ 3	1520	(3.4)×1.3×0.65(錐部欠損)	Ⅲ類	サヌカイト	頭部・錐部欠損、丁寧な成形、厚みあり、使用痕なし	80	弥生中期後葉
S 127	打製石製品	石錐	A区 d12	遺構 143(土坑)	822	3.6×1.1×0.5(錐部長1.9×幅 0.7)	Ⅲ類	サヌカイト	丁寧な成形、使用痕なし	100	弥生中期中葉
S 128	打製石製品	石錐	B区 b14	遺構 310(土坑)　上層	1595	3.1×2.2×0.55(錐部長1.3×幅 0.65)	Ⅲ類	サヌカイト	頭部若干成形、一部回転痕あり	ほぼ100	弥生中期中葉
S 129	打製石製品	石錐	B区 b12	包含層 4 層上面精査(3 層含む)	1031	(3.6)×1.2×0.55(錐部長0.9×幅 0.65)	Ⅲ類	サヌカイト	頭部欠損、丁寧な成形、中軸に稜線(断面菱形)、使用痕なし	90	弥生中期中葉～後葉
S 130	打製石製品	石錐	B区 d12	遺構 265(溝)	1088	(2.3)×1.1×0.45(錐部長(0.7)×幅 0.7)	Ⅲ類	サヌカイト	頭部・錐先欠損、丁寧な成形、使用痕なし	70	飛鳥～奈良
S 131	打製石製品	石錐	B区 c14	遺構 310(土坑)東側セクション　上層	1594	(1.4)×0.9×0.5(錐部のみ)	Ⅲ類	サヌカイト	錐部のみ(Ⅰ類かも)、断面菱形、使用痕なし	20？	弥生中期中葉
S 132	打製石製品	石錐	A区 d11	遺構 90(流路)セクション東　上層	229	(2.2)×1.2×0.4(錐部長0.5×幅 0.4)	Ⅲ類	サヌカイト	頭部欠損、回転痕あり	40？	飛鳥～奈良
S 133	打製石製品	石錐	A区 f14	遺構 95(溝)セクション中上層	211	2.1×1.2×0.55(錐部長0.4×幅 0.6)	Ⅲ類	サヌカイト	頭部丁寧な成形、回転痕あり、やや小形	ほぼ100	飛鳥～奈良
S 134	打製石製品	石錐	A区 g14	遺構 95(溝)セクション西上層	169	(2.5)×1.1×0.5(錐部長0.4×幅 0.5)	Ⅲ類か	サヌカイト	頭部成形ほとんどなし、わずか使用痕	60？	飛鳥～奈良
S 135	打製石製品	石錐	A区 e12	遺構 147(土坑)	796	(1.4)×0.55×0.25(錐部のみ)	Ⅲ類か	サヌカイト	錐部のみ、使用痕なし	10？	弥生中期中葉
S 136	打製石製品	石小刀	A区 h10	包含層 3 層	161	(2.4)×1.1×0.6	(石鏃形)	サヌカイト	やや湾曲、小形(石錐かも)、成形丁寧(厚みあり)、断面やや菱形、突起あり？	90	飛鳥～奈良
S 137	打製石製品	石小刀	A区 g14	包含層 3 層	159	(3.0)×1.5×0.7	(石鏃形)	サヌカイト	やや湾曲(刃器かも)、成形あり(やや粗い)、断面そろばん状(厚みあり)	70？	飛鳥～奈良
S 138	打製石製品	石小刀	B区 c14	包含層 4 層	1246	5.7×2.0×1.4	(石鏃形)	サヌカイト	やや湾曲、刃部若干調整あり(刃器かも)、厚みあり	70 か	弥生中期中葉～後葉
S 139	打製石製品	石匙状刃器	A区 g10	包含層 4 層精査	471	5.0×4.6×0.5	(台形＋把手)	サヌカイト	抉り 2 箇所で把手作り出す、細かい縁辺調整、自然面(平坦か)あり	100	弥生中期中葉～後葉
S 140	打製石製品	石匙状刃器	A区 i10	西側側溝　包含層 5 層以下	387	(8.2)×6.5×1.2	(楕円形＋把手？)	サヌカイト	2 箇所抉り？(把手か)、やや粗い調整あり、厚みあり	90	弥生中期中葉以前
S 141	打製石製品	石匙状刃器	A区 g14	遺構 95(溝)セクション中下層	212	2.1×2.7×0.7	(長方形＋把手？)	サヌカイト	細かい縁辺調整、刃器かも、端部把手？	90	飛鳥～奈良
S 142	打製石製品	石匙状刃器	A区 g11	遺構 142(井戸)　北側拡張時遺構 129 含む	789	(6.1)×5.9×0.9	(杏仁形か)	サヌカイト	細かい縁辺調整、刃器かも、ごく一部自然面	80？	弥生中期中葉
S 143	打製石製品	石匙状刃器	B区 a14	遺構 199(連続土坑群)南半	1108	(7.0)×3.7×0.9	(平行四辺形か)	サヌカイト	細かい縁辺調整、刃器かも	80	飛鳥～奈良
S 144	打製石製品	石匙状刃器	A区 g12	遺構 129(溝)セクション南　上層	602	(6.8)×3.8×0.7	(長方形か)	サヌカイト	細かい縁辺調整、刃器かも	80 か	弥生中期後葉
S 145	打製石製品	石匙状刃器	B区 y14	遺構 300(竪穴住居)セクション東　炭層	1604	6.5×3.4×1.2	(台形か)	サヌカイト	細かい縁辺調整、使用痕あり(つぶれ痕あり)、刃器かも、厚みあり、自然面(筋か)あり	100	弥生中期中葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）長軸×短軸×厚さ	型式	石材	特徴	遺存率%	遺構・層位の時期
S 146	磨製石製品	石庖丁	B区	表採	1339	(10.6)×5.1×0.7(内径0.55×外径0.9、孔間2.1)	杏仁形	結晶片岩	2孔残存(回転穿孔)、片刃(やや両刃ぎみ、穂ほとんどなし)、背面あり	80	不明
S 147	磨製石製品	石庖丁	B区 a14	遺構291(溝)セクション中　上層	1324	(8.3)×(5.1)×0.6(内径0.55×外径0.75)	杏仁形	結晶片岩	0.5孔残存(回転穿孔)、ほぼ両刃(穂なし、刃つぶれあり)、背やや面あり	40	弥生中期後葉
S 148	磨製石製品	石庖丁	B区 b14	遺構291(溝)セクション中の西　下層	1348	(5.1)×4.5×0.7(内径0.45×外径0.55、孔間1.7)	杏仁形(直線刃半月形かも)	結晶片岩	1.5孔残存(回転穿孔)、片刃(穂あり、やや厚い)、背丸み(やや面)	50	弥生中期後葉
S 149	磨製石製品	石庖丁	A区 g13	遺構90(流路)セクション西　中層2・下層	232	(5.3)×(5.3)×0.85(内径0.5×外径0.8)	杏仁形(直線刃半月形かも)	結晶片岩	0.5孔残存(回転穿孔)、片刃(穂なし)、背面あり	40	飛鳥～奈良
S 150	磨製石製品	石庖丁	B区 b11	遺構90(流路)　中層	1128	(4.4)×(4.9)×0.65(径不明)	杏仁形(直線刃半月形かも)	結晶片岩	0.5孔残存(回転穿孔)、片刃(穂ほとんどなし)、背面あり	30	飛鳥～奈良
S 151	磨製石製品	石庖丁	B区 y10	遺構95(溝)セクション東	1212	(4.7)×(4.3)×0.55(内径0.6×外径0.85)	杏仁形(直線刃半月形かも)	結晶片岩	0.5孔残存(敲打穿孔か孔内敲打)、片刃(穂若干あり)、背面あり(若干つぶれ痕)	30	飛鳥～奈良
S 152	磨製石製品	石庖丁	A区 d11	包含層4層(遺構126土器棺周辺)	453	11.0×4.4×0.6(内径0.45×外径0.7、孔間2.7)	直線刃半月形	結晶片岩	2孔残存(回転穿孔)、穿孔途中孔1(径0.15×深0.05)、片刃(穂あり)、背丸み	ほぼ100	弥生中期中葉～後葉
S 153	磨製石製品	石庖丁	A区 e13	遺構130(溝)　中層(セクション掘削)	689	(10.6)×3.5×0.6(内径0.45×外径0.65、孔間1.9)	直線刃半月形	結晶片岩	2孔残存(回転穿孔。孔内敲打？)、背部に0.5＋0.5孔のもともとの穿孔部残存(孔間2.6)、片刃(穂あり、面あり→転用か)、背面(若干つぶれ痕)、体部敲打痕(転用か)	90	弥生中期後葉
S 154	磨製石製品	石庖丁	A区 f13	包含層4層	715	(9.5)×4.6×0.6(内径縦0.75横0.55×外径0.9、孔間2.4)	直線刃半月形	結晶片岩	1.5孔残存(回転穿孔、孔内敲打痕)、ほぼ両刃(片刃ぎみ、穂なし)、背丸み(つぶれ大)	70	弥生中期中葉～後葉
S 155	磨製石製品	石庖丁	Ah14	包含層4層	409	(7.2)×3.8×0.6(内径0.5×外径0.8、孔間2.1)	直線刃半月形(やや杏仁形)	結晶片岩	1.5孔残存(回転穿孔)、両刃(穂ややあり)、背丸み、わずかに体部敲打痕	70	弥生中期中葉～後葉
S 156	磨製石製品	石庖丁	A区 f10	遺構130(溝)セクション北　下層	578	(6.9)×3.4×0.5(内径0.65×外径不明、孔間2.4)	直線刃半月形	結晶片岩	0.5＋0.5孔残存(回転穿孔)、片刃(穂あり)、背やや面あり(～丸み)	60	弥生中期後葉
S 157	磨製石製品	石庖丁	B区 o12	包含層4層上部	1265	(5.5)×3.8×0.6(内径0.5×外径0.7)	直線刃半月形	結晶片岩	1孔残存(回転穿孔)、両刃(穂なし)、背丸み(やや厚い)、欠損部に研磨あり(転用か)	50	弥生中期中葉～後葉
S 158	磨製石製品	石庖丁	A区 f12	遺構130(溝)　下層	712	(6.0)×4.1×0.8(内径0.6×外径0.95、孔間2.0？)	直線刃半月形(やや内湾形ぎみ)	結晶片岩	1＋0.5孔残存(回転穿孔)、片刃(穂ややあり、厚みあり)、背丸み	50	弥生中期後葉
S 159	磨製石製品	石庖丁	A区 h15	包含層3層	88	(9.8)×4.9×0.6(内径0.55×外径0.8)	直線刃半月形(やや杏仁形ぎみ)	結晶片岩	0.5孔残存(回転穿孔)、片刃(穂ややあり、若干つぶれ痕)、背丸み(若干つぶれ痕)	70	飛鳥～奈良
S 160	磨製石製品	石庖丁	A区 d14	包含層4層	447	(7.3)×5.0×0.9(径不明)	直線刃半月形(やや杏仁形ぎみ、やや大形)	結晶片岩	0.5孔残存(回転穿孔)、片刃(穂なし、厚みあり、刃幅広い1.3)、背丸み、若干火を受ける(変色)	40	弥生中期中葉～後葉
S 161	磨製石製品	石庖丁	B区 a13	遺構130(溝)セクション東　下層	1369	(6.8)×4.0×0.65(内径0.7×外径1.0)	直線刃半月形	結晶片岩	0.5孔残存(回転穿孔)、片刃(穂ややあり)、背丸み	40	弥生中期後葉
S 162	磨製石製品	石庖丁	B区 b14	遺構291(溝)セクション中　下層	1354	(5.3)×3.7×0.55(径不明)	直線刃半月形	結晶片岩	0.5孔残存(孔内敲打か敲打穿孔)、片刃(穂あり)、背丸み	40	弥生中期後葉
S 163	磨製石製品	石庖丁	A区 e11	包含層4層	464	(5.4)×4.7×0.6(内径0.45×外径0.65)	直線刃半月形(やや杏仁形)	結晶片岩	0.5孔残存(回転穿孔)、片刃(穂ややあり)、背面研磨(穂明瞭)	30	弥生中期中葉～後葉
S 164	磨製石製品	石庖丁	B区 y14	包含層4層上部(遺構290・291含む)	1219	(6.3)×4.7×0.55(径不明)	直線刃半月形	結晶片岩	0.5孔残存(回転穿孔)、片刃(穂あり)、背丸み(若干面あり)、火を受けて変色	30	弥生中期中葉～後葉
S 165	磨製石製品	石庖丁	A区 g12	遺構140-N(井戸)	833	(5.8)×3.6×0.5(径不明)	直線刃半月形	結晶片岩	0.5孔残存(回転穿孔か、孔内敲打)、片刃(穂あり、つぶれ大)、背丸み(つぶれ大)	40	弥生中期中葉
S 166	磨製石製品	石庖丁	A区 e13	遺構129(溝)サブトレンチ	520	12.0×4.3×0.7(内径0.35×外径0.6、孔間1.6)	内湾形	結晶片岩	2孔残存(回転穿孔、ひもずれ)、片刃(両刃ぎみ、穂ややあり、使用＋再研磨で内湾になる)、背丸み、端部欠損後再研磨	100(再研磨前80)	弥生中期後葉
S 167	磨製石製品	石庖丁	B区 b11	遺構90(流路)　上層	1200	(7.0)×4.0×0.5(内径0.55×外径0.75、孔間3.0)	内湾形	結晶片岩	2孔残存（回転穿孔、わずかひもずれ)、片刃(両刃ぎみ、穂あり)、背丸み	60	飛鳥～奈良
S 168	磨製石製品	石庖丁	A区 g12	遺構140-S(井戸)　下層(東側セクション)	782	(6.5)×3.7×0.7(内径0.6×外径0.9、孔間1.9)	型式不明(直線刃半月形？)	結晶片岩	1.5孔残存(回転穿孔)、片刃(穂あり)、背つぶれ大	60	弥生中期中葉～後葉
S 169	磨製石製品	石庖丁	A区 f14	遺構149(土器溜まり最下層	835	(8.4)×3.8×0.7(径不明)	型式不明(直線刃半月形？)	結晶片岩	0.5孔残存(回転穿孔)、片刃？(穂ややあり)、背丸み、背・刃つぶれ大	60	弥生中期中葉
S 170	磨製石製品	石庖丁	B区 o15	遺構291(溝)上層	1315	(4.9)×4.0×0.6(径不明)	型式不明(直線刃半月形？)	結晶片岩	0.5孔残存(回転穿孔)、片刃？、背面あり(ややえぐみ)、刃つぶれ大	40	弥生中期後葉
S 171	磨製石製品	石庖丁	B区 a10	遺構270(土坑)セクション北　上・中層	1402	(10.2)×(4.2)×0.7(内径0.5×外径0.85、孔間2.2)	型式不明(杏仁形？)	結晶片岩	2孔残存(回転穿孔)、穿孔途中孔1(径0.5×深0.2)、片部欠損、背丸み	80	弥生中期後葉

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）長軸×短軸×厚さ	型式	石材	特徴	遺存率%	遺構・層位の時期
S 172	磨製石製品	石庖丁	B区 a11	遺構182(流路)セクション東側	953	(3.8)×3.5×0.6(内径 0.5×外径 0.75)	型式不明(直線刃半月形～内湾形？)	結晶片岩	1孔残存(回転穿孔、孔内敲打か)、片刃(両刃ぎみ、稜あり)、背丸み(つぶれ痕あり)	30	江戸
S 173	磨製石製品	石庖丁	B区 y14	遺構290(溝)セクション東　上層	1452	(3.9)×4.3×0.7(径不明)	型式不明(直線刃半月形～杏仁形？)	結晶片岩	0.5孔残存(回転穿孔、孔内敲打か)、片刃(稜ややあり)、背面あり(若干つぶれ痕)、体部の一部に敲打痕あり	20	弥生中期後葉
S 174	磨製石製品	石庖丁	A区 d13	包含層4層	446	(3.3)×(4.1)×0.55(内径0.65×外径不明)	型式不明(直線刃半月形？)	結晶片岩	0.5孔残存(回転穿孔)、両刃か(稜なし、若干つぶれ痕)、背部欠損	20	弥生中期中葉～後葉
S 175	磨製石製品	石庖丁	A区 g14	包含層3-3層	295	(4.9)×(3.3)×1.0(径不明)	型式不明	結晶片岩	0.5孔残存(回転穿孔)、刃部欠損、背面あり(やや丸み、厚みあり)	10	飛鳥～奈良
S 176	磨製石製品	石庖丁	B区	3層の遺構	1126	(6.3)×5.2×0.5	直線刃半月形	結晶片岩	孔なし、片刃(稜あり、刃先丸み→使用痕)、背面あり(やや丸み)	30	飛鳥～奈良
S 177	磨製石製品	石庖丁	A区 h10	遺構150(井戸)(4層含む)	773	(5.9)×(4.2)×0.5	直線刃半月形	結晶片岩	孔なし、両刃(稜なし)、背面あり(やや丸み)、光沢痕(使用痕)	20	弥生中期中葉
S 178	磨製石製品	石庖丁	B区 b14	遺構291(溝)　上層	1314	(4.5)×(4.3)×0.8	直線刃半月形(杏仁形かも)	結晶片岩	孔なし、両刃か(稜なし、刃先丸み→使用痕)、背面あり(やや丸み)	20	弥生中期後葉
S 179	磨製石製品	石庖丁	B区 c14	包含層4層上部	1247	(7.4)×5.0×0.5	杏仁形(製作途中品かも)	結晶片岩	孔なし、片刃(稜ややあり、刃先丸み→ごく一部つぶれ痕、刃幅広い1.1)、背丸み	30	弥生中期中葉～後葉
S 180	磨製石製品	石庖丁	B区 a14	遺構290(溝)セクション中　最下層	1465	(8.3)×3.7×0.5	内湾形	結晶片岩	孔なし、片刃(稜あり、使用と研磨で内湾)、背丸み	40	弥生中期後葉
S 181	磨製石製品	石庖丁片	B区 y14	遺構190(連続土坑群)南半	1065	(5.9)×(3.7)×0.85	型式不明	結晶片岩	孔なし、大形石庖丁かも、両刃(稜なし)、背丸み、火を受けて変色	10未満	飛鳥～奈良
S 182	磨製石製品	石庖丁片	A区 f12	遺構145(溝)	744	(4.5)×(4.3)×0.4	型式不明	結晶片岩	孔なし、刃部のみ(片刃、稜あり、若干つぶれ痕か)	10未満	弥生中期中葉
S 183	磨製石製品	石庖丁片	A区 f14	遺構149(土器溜まり)のサブトレンチ上層	767	(5.3)×(2.8)×(0.25)	型式不明	結晶片岩	孔なし、裏面剥離、背部のみ(丸み)	10未満	弥生中期中葉
S 184	磨製石製品	石庖丁片	A区 e12	包含層4層(遺構90(流路)含む)	589	(4.4)×(2.6)×0.4	型式不明	結晶片岩	孔なし、背部のみ(面あり)	10未満	弥生中期中葉～後葉
S 185	磨製石製品	石庖丁片	A区 e15	遺構100(溝)　上層	244	(3.4)×(1.9)×0.5	型式不明	結晶片岩	孔なし、刃部のみ(片刃、両刃ぎみ、稜ややあり)	10未満	飛鳥～奈良
S 186	磨製石製品	石庖丁片	B区 a14	遺構291(溝)セクション中　中層	1325	(3.1)×(2.4)×0.6	型式不明	結晶片岩	孔なし、背部あるいは刃部の一部残存	10未満	弥生中期後葉
S 187	磨製石製品	石庖丁片	A区 d12	遺構143(土坑)	822	(2.4)×(2.1)×0.6	型式不明	結晶片岩	孔なし、刃部のみ(片刃、稜明瞭)	10未満	弥生中期中葉
S 188	磨製石製品	石庖丁片	B区 c11	遺構90(流路)セクション東　上層	1284	(1.7)×(1.4)×0.45	型式不明	結晶片岩	孔なし、刃部付近？、研磨あり	10未満	飛鳥～奈良
S 189	磨製石製品	石庖丁片	B区 b14	遺構290(溝)セクション西　上層	1381	(2.4)×(1.2)×(0.15)	型式不明	結晶片岩	孔なし、裏面剥離、背部一部のみ	10未満	弥生中期後葉
S 190	磨製石製品	大形石庖丁	A区 f13	遺構130(溝)サブトレンチ	521	(13.5)×7.9×1.0(内径0.8×外径 1.9)	直線刃(1孔タイプ)	結晶片岩	中軸上に穿孔(敲打穿孔)、両刃(稜なし)、背面あり、光沢痕あり、若干火を受ける？	80	弥生中期後葉
S 191	磨製石製品	大形石庖丁	A区 h11	西側側溝　包含層4層以下	347	(9.5)×(9.6)×0.9	直線刃	結晶片岩	孔なし、両刃(稜なし)、背面あり、光沢痕あり、若干火を受ける	30？	弥生中期後葉以前
S 192	磨製石製品	大形石庖丁	A区 f14	遺構128-E(溝)　中層	531	(7.3)×(6.9)×1.0	形式不明	結晶片岩	孔なし、背部のみ(丸み、やや面あり)、若干火を受ける	20？	弥生中期後葉
S 193	磨製石製品	大形石庖丁	B区 c14	遺構291(溝)　下層	1360	(7.1)×(6.7)×0.5	直線刃か	結晶片岩	孔なし、石庖丁製作途中品かも、両刃(片刃ぎみ、稜あり)、背丸み、薄い、若干火を受ける？	30？	弥生中期後葉
S 194	磨製石製品	大形石庖丁	B区 y14	遺構290(溝)セクション東　上層	1512	(8.5)×(5.3)×0.5	直線刃	結晶片岩	孔なし、両刃(稜なし)、背面あり、薄い	20？	弥生中期後葉
S 195	磨製石製品	大形石庖丁	A区 g10	包含層4層	458	(4.6)×(4.8)×0.5	直線刃	結晶片岩	孔なし、両刃(稜なし)、背丸み(やや面あり)、光沢痕あり	10？	弥生中期中葉～後葉
S 196	磨製石製品	大形石庖丁	B区 c15	遺構291(溝)セクション西　中・下層	1362	(5.5)×(2.3)×0.75	直線刃か	結晶片岩(点紋片岩)	孔なし、刃部のみ、両刃(片刃ぎみ、稜ややあり)	10未満	弥生中期後葉
S 197	磨製石製品	柱状片刃石斧	A区 g13	包含層6層(谷状地形)(遺構90(流路)底部分)	615	8.5×3.4×2.7	四角柱状	砂岩(灰色)	きめ細かい石材、抉りあり(幅1.8)、刃先端・頭部の一部欠損、刃先端2次使用の可能性あり	90	弥生中期前葉
S 198	磨製石製品	柱状片刃石斧	A区南半	表採(包含層3-3層掘削中)	275	11.1×(2.6)×2.6	四角柱状	片岩(黒色)	1側辺欠損、刃先使用痕か(ややつぶれ痕)	70	飛鳥～奈良か
S 199	磨製石製品	柱状片刃石斧	B区 b10	北側側溝　包含層4層	925	(14.9)×2.9×2.7	四角柱状	片岩(灰緑色)	刃部欠損、体部一部に敲打痕(2次使用)、石斧でないかも(敲石かも？)	80	弥生中期中葉～後葉
S 200	磨製石製品	柱状片刃石斧	B区 c10	包含層4層上部	1264	(15.1)×2.3×(2.9)	四角柱状	片岩(黒色)	刃部欠損、側辺1面剥離、研磨やや粗い(剥離か)、石斧でないかも(製作途中品？)	70	弥生中期中葉～後葉
S 201	磨製石製品	柱状片刃石斧	B区 c11	遺構90(流路)　下層	1129	(8.9)×(0.7)×1.9	四角柱状	片岩(黒色)	刃部欠損、基部一部・側辺3面残存、基部面あり	30？	飛鳥～奈良
S 202	磨製石製品	柱状片刃石斧	A区 d11	遺構90(流路)セクション東　中層	231	(2.8)×(0.2)×(1.9)	不明	片岩(黒色)	刃部のみ残存、片刃(やや両刃ぎみ)	10未満	飛鳥～奈良

番号	種類	器種	出土地区	遺構・層位	登録	法量（cm）長軸×短軸×厚さ	型式	石材	特徴	遺存率%	遺構・層位の時期
S 203	磨製石製品	柱状片刃石斧	B区 a11	遺構 264(溝)	1145	(5.2)×(1.1)×(1.1)	不明	片岩(黒色)	体部のみ、側辺 2 面残存(研磨あり)	10未満	飛鳥～奈良
S 204	磨製石製品	柱状片刃石斧	B区 c13	遺構 130(溝)セクション西　中層	1373	(8.8)×2.8×(1.0)	四角柱状か	片岩(黒色)	体部(側辺 3 面)と基部一部残存、基部面あり、一部わずかに敲打痕(２次使用か敲石かも)	10	弥生中期後葉
S 205	磨製石製品	柱状片刃石斧	B区 c12	包含層 3 層	1005	(3.3)×(2.0)×(0.4)	不明	片岩(黒色)	刃部の一部か(研磨あり)、石斧でないかも	10未満	飛鳥～奈良
S 206	磨製石製品	扁平片刃石斧	B区 c13	包含層 4 層上部	1245	(5.8)×(3.7)×(0.8)	不明	片岩(黒色)	柱状片刃石斧の可能性あり、刃部と 2 面残存、裏面剥離	70か	弥生中期中葉～後葉
S 207	磨製石製品	扁平片刃石斧	A区 f11	遺構 145(溝)　上部(サブトレンチ)	749	(3.8)×(3.9)×0.65	不明	片岩(緑色)	刃部か、片刃(先丸み)、体部研磨あり、石庖丁かも	20？	弥生中期中葉
S 208	磨製石製品	太型蛤刃石斧	B区 c13	包含層 4 層下部	1478	(15.2)×6.9×4.0	断面楕円形(やや扁平)	溶結凝灰岩か(深緑色)	刃部欠損、基部敲打痕(使用痕)、体部一部(剥離部分)に再研磨あり	80	弥生中期中葉
S 209	磨製石製品	太型蛤刃石斧	A区 g13	遺構 104(流路？)セクション西	286	(12.9)×7.1×3.9	断面楕円形(やや扁平)	溶結凝灰岩か(深緑色)	刃部欠損、基部若干敲打痕、体部一部敲打痕(２次使用か)	80	飛鳥～奈良
S 210	磨製石製品	太型蛤刃石斧	A区 f14	遺構 97(溝)セクション西	266	(9.4)×6.9×(3.6)	断面楕円形(やや扁平)	砂岩？(凝灰岩かも)	体部のみ(刃部付近か)、若干火を受ける	40？	飛鳥～奈良
S 211	磨製石製品	太型蛤刃石斧	A区 f11	遺構 145(溝)　上部(サブトレンチ)	750	(6.4)×6.3×(3.2)	不明	砂岩？(凝灰岩かも)	刃部のみ(両刃)、若干火を受ける	10	弥生中期中葉
S 212	磨製石製品	太型蛤刃石斧	主にB区	表採	1655	(8.8)×7.0×(2.0)	不明	緑色凝灰岩？(砂岩かも？)	基部のみ、研磨あり、体部敲打痕あり(敲石かも)	10？	不明
S 213	磨製石製品	太型蛤刃石斧	A区 g13	遺構 90(流路)セクション西　中層 2・下層	232	(6.3)×7.2×4.7	断面楕円形(やや扁平)	緑色凝灰岩？(砂岩かも？)	基部か(敲打痕あり→刃部の２次使用かも)、研磨あり、体部敲打痕あり(２次使用か)、	20？	飛鳥～奈良
S 214	磨製石製品	太型蛤刃石斧	A区 f13	包含層 3 層	120	(5.3)×(6.7)×(6.2)	断面楕円形	？(黒色の石材)	石斧でないかも(磨り石かも)、体部のみ(一部研磨残る)	10未満	飛鳥～奈良
S 215	磨製石製品	太型蛤刃石斧	B区 b12	包含層 4 層上面精査(３層含む)	1031	(3.8)×(2.4)×(2.3)	不明	緑色凝灰岩？(砂岩かも？)	刃部のみ(両刃)、研磨あり	10未満	弥生中期後葉
S 216	磨製石製品	太型蛤刃石斧片	B区 b11	遺構 90(流路)セクション東　上層	1200	(1.6)×(2.5)×(0.4)	不明	緑色凝灰岩？(砂岩かも？)	体部の一部(研磨あり)、石材と体部の湾曲などから石斧とした	10未満	飛鳥～奈良
S 217	磨製石製品	鑿状石斧	A区 f14	包含層 4 層(遺構 145(溝)サブトレンチ)	755	(4.0)×1.3×0.6	平面長方形	緑色凝灰岩？(砂岩かも？)	基部欠損、体部 4 面研磨(薄い)、片刃か(両刃ぎみ、刃先丸み→使用か)	90か	弥生中期中葉～後葉
S 218	磨製石製品	鑿状石斧	B区 y14	遺構 290(溝)　上層(４層精査時)	1272	2.8×1.2×0.3	平面長方形	緑色凝灰岩？(砂岩か結晶片岩かも)	片刃(穂あり)、研磨あり(薄いが側辺も面あり)	100	弥生中期後葉
S 219	磨製石製品	磨り石	A区 d11	遺構 90(流路)セクション東　中層	231	7.0×2.6×0.7	紡錘形～長楕円形	緑色片岩	全研磨	100	飛鳥～奈良
S 220	磨製石製品	磨り石	B区	表採	1339	6.7×2.8×(1.7)	紡錘形～杏仁形	結晶片岩(凝灰岩かも)	全研磨、端部に面あり(使用か)	60	不明
S 221	磨製石製品	石庖丁転用品	B区 y13	遺構 130(溝)　上層	1317	(6.3)×3.0×0.35	不明	緑色片岩	石庖丁→扁平片刃石斧へ転用？、穿孔途中孔２孔(回転穿孔、径 0.5×深 0.1／径 0.25×深 0.05)、石庖丁の刃残存(片刃)	60？	弥生中期後葉
S 222	磨製石製品	環状石斧	A区 h15	包含層 8-1 層	870	(13.9)×(7.4)×1.5	やや長楕円形	緑色片岩	中央に穿孔(径 2.4、回転穿孔、両面穿孔)、縁辺刃こぼれか、若干火を受ける？(一部煤付着？)	40	弥生前期末

写真図版



和歌山駅東口の太田・黒田遺跡説明板


B区遺構300（竪穴住居）掘削作業


樹種同定作業用の顕微鏡（レンタル）


速報展展示風景


B区遺構290（溝）土器溜まり実測作業


遺物洗浄作業


向陽高校見学風景

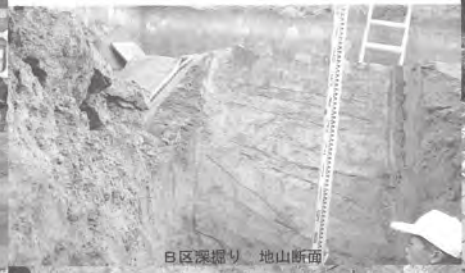

A区東西トレンチ　実測作業


土器粘土洗浄作業


第１回現地説明会風景


土器接合作業


第２回現地説明会風景


B区深掘り　地山断面


洗浄済み土器（乾燥中）


第２回現地説明会風景（遺物展示）


環状石斧出土状況（８層出土）


土器実測作業



現地調査事務所前の案内板


管玉出土状況（４層出土）


遺物デジタルトレース作業

写真図版１



１．調査区遠景　＜南西から＞（奥は和泉山脈）



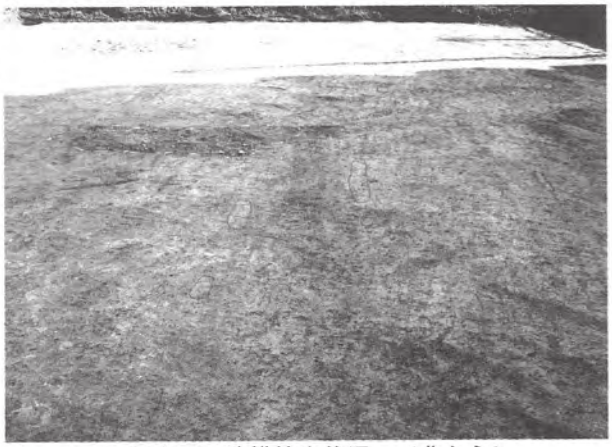
２．調査区近景　＜南東から＞



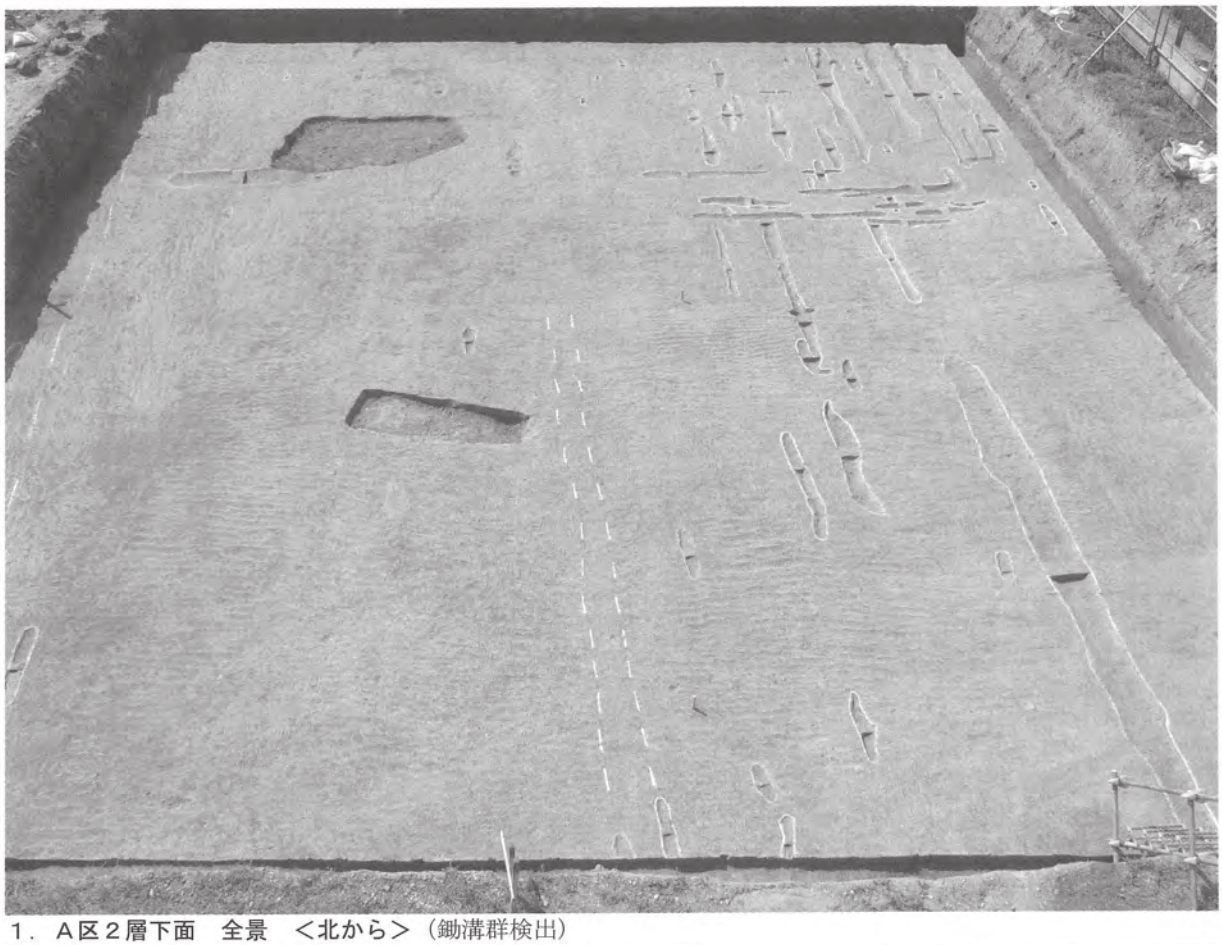
３．調査前風景　＜北東から＞



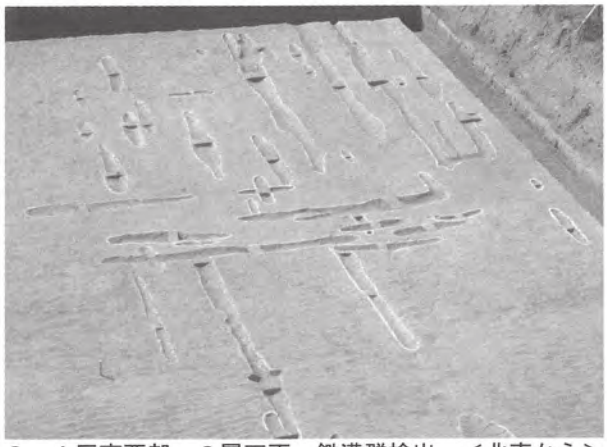
４．Ａ区調査風景　＜北東から＞（人力掘削開始前）



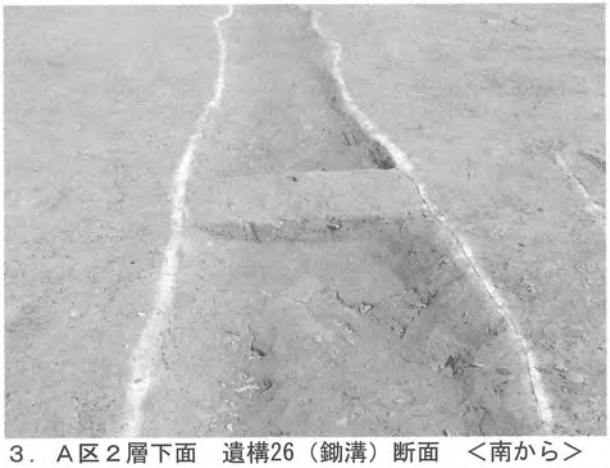
５．Ａ区２層上面　遺構検出状況　＜北から＞



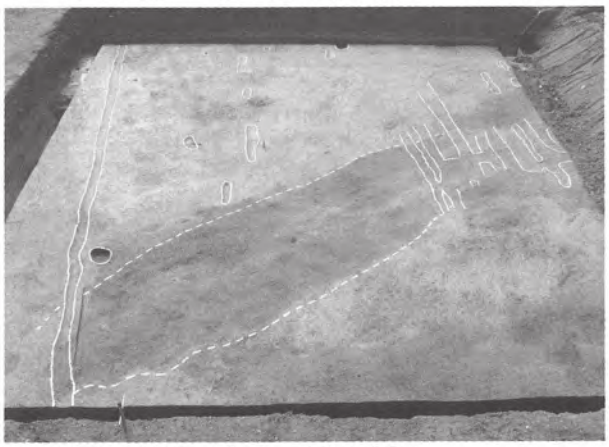
1．A区２層下面　全景　＜北から＞（鋤溝群検出）



2．A区南西部　２層下面　鋤溝群検出　＜北東から＞



3．A区２層下面　遺構26（鋤溝）断面　＜南から＞



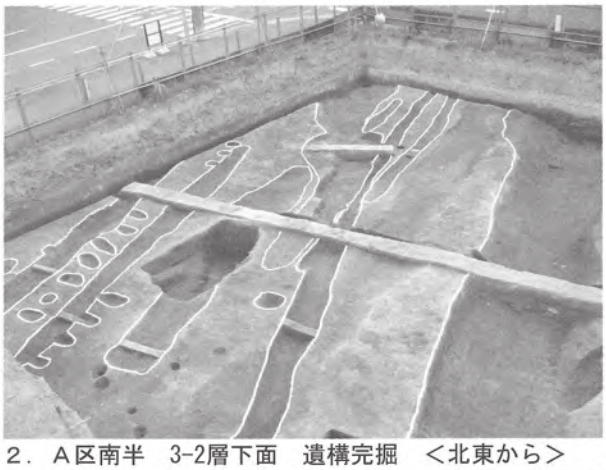
4．B区２層下面　全景　＜北から＞



5．B区２層下面　鋤溝群検出　＜南西から＞



１．Ａ区3-2層下面　全景　＜北から＞（遺構完掘）



２．Ａ区南半　3-2層下面　遺構完掘　＜北東から＞



３．Ａ区南半　3-2層下面　遺構完掘　＜北東から＞



４．Ａ区3-2層下面　遺構90（流路）　＜西から＞



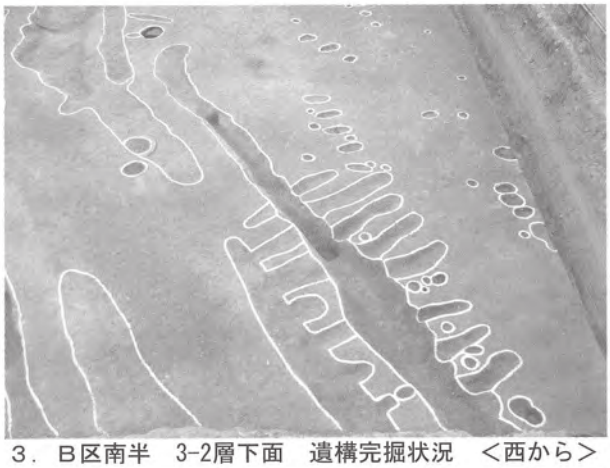
５．Ａ区3-2層下面　遺構90（流路）断面　＜西から＞



１．Ｂ区3-2層下面　全景　＜北から＞（遺構完掘）



２．Ｂ区南半　3-2層下面　遺構検出状況　＜西から＞



３．Ｂ区南半　3-2層下面　遺構完掘状況　＜西から＞



４．Ｂ区北半　3-2層下面　遺構完掘状況＜南西から＞



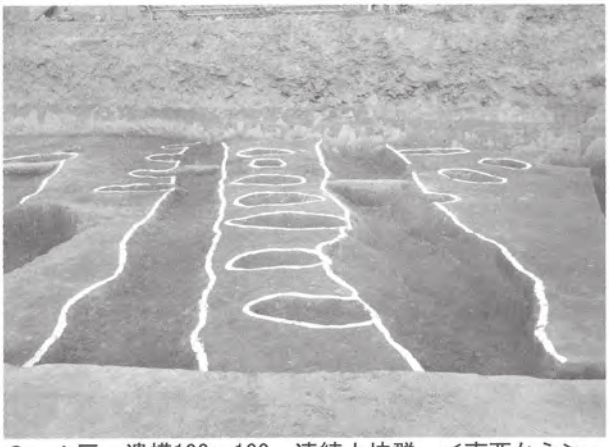
５．Ｂ区　遺構90（流路）断面　＜南西から＞



１．Ｂ区3-2層下面　遺構100（溝）・連続土坑群　＜南西から＞（遺構完掘）



２．Ａ区3-2層下面　連続土坑群検出状況　＜北から＞



３．Ａ区　遺構102・100・連続土坑群　＜南西から＞



４．Ｂ区南東部　3-2層下面　遺構完掘状況＜北から＞



５．Ｂ区　遺構100・連続土坑群断面　＜南西から＞



1．B区3-2層下面　遺構200（大形土坑）　完掘状況　＜北西から＞



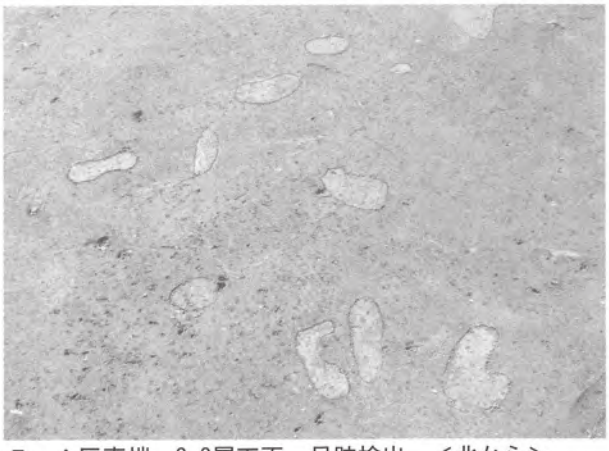
2．B区3-2層下面　遺構200　断面　＜南から＞



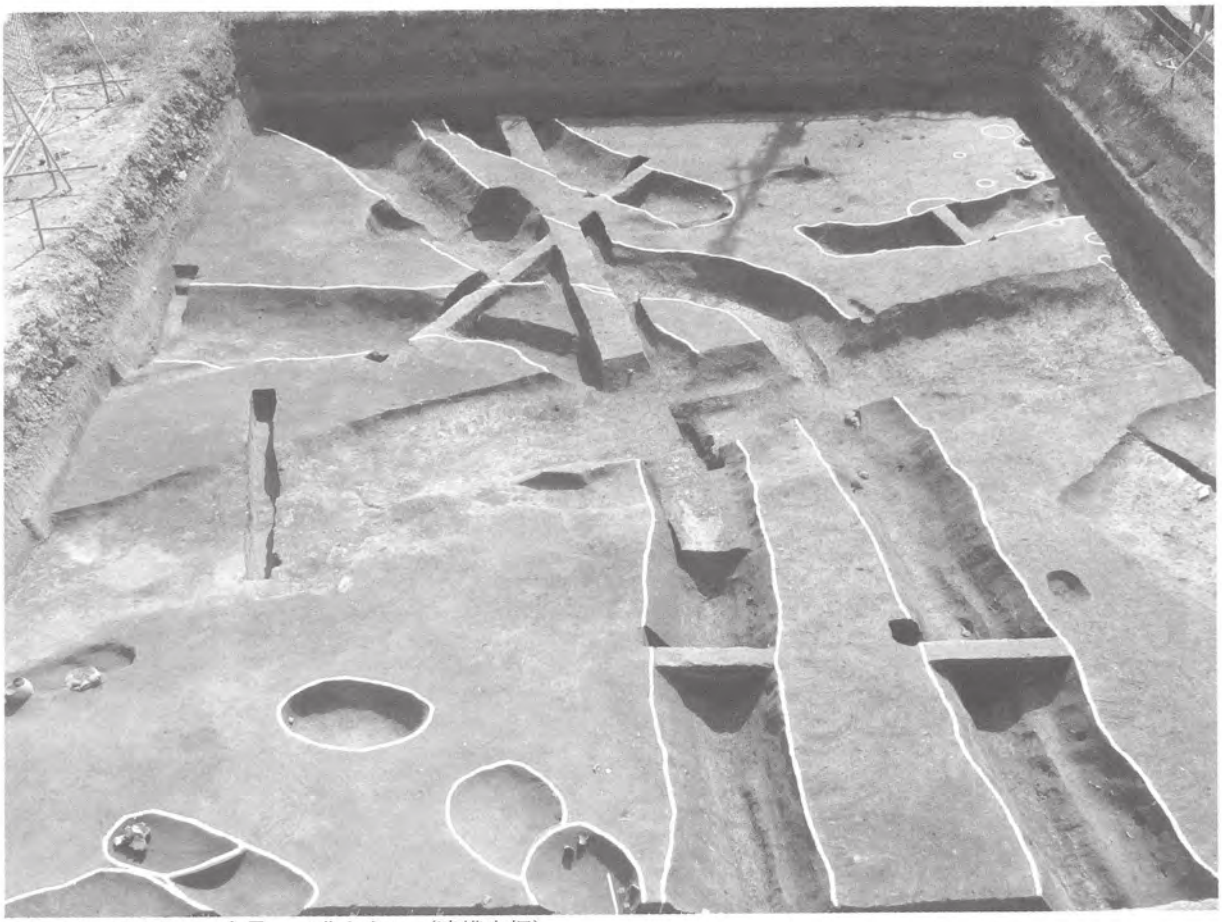
3．A区3-2層下面　遺構127（方形土坑）＜南西から＞



4．A区3-2層下面　遺構100（溝）底　鋤跡＜北から＞



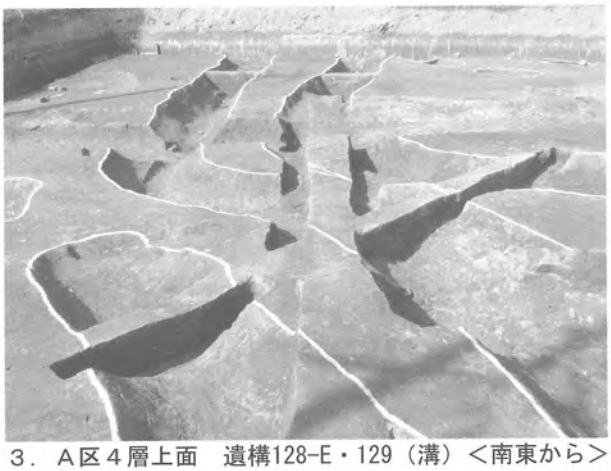
5．A区東端　3-2層下面　足跡検出　＜北から＞



１．Ａ区４層上面　全景　＜北から＞（遺構完掘）



２．Ａ区４層上面　遺構130（溝）　＜南東から＞



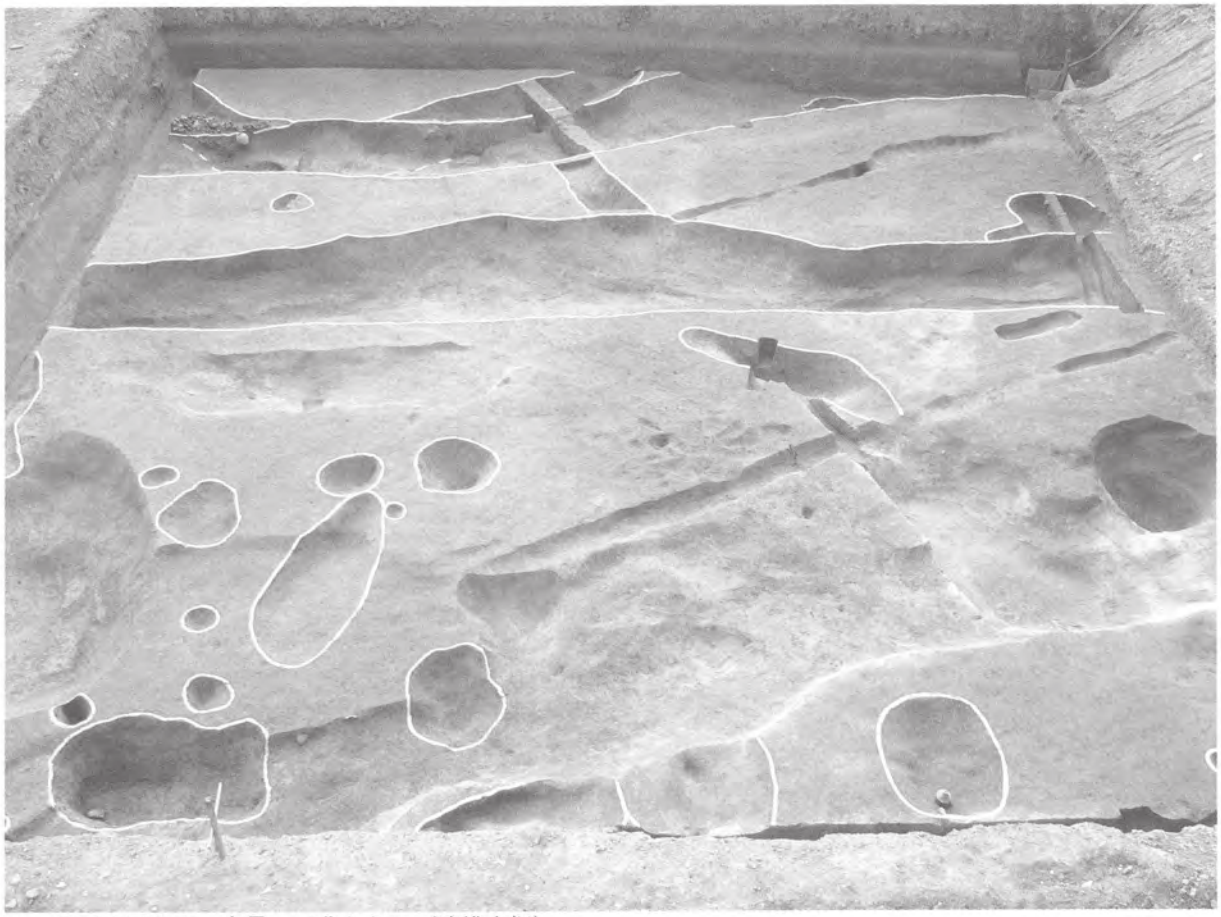
３．Ａ区４層上面　遺構128-E・129（溝）＜南東から＞



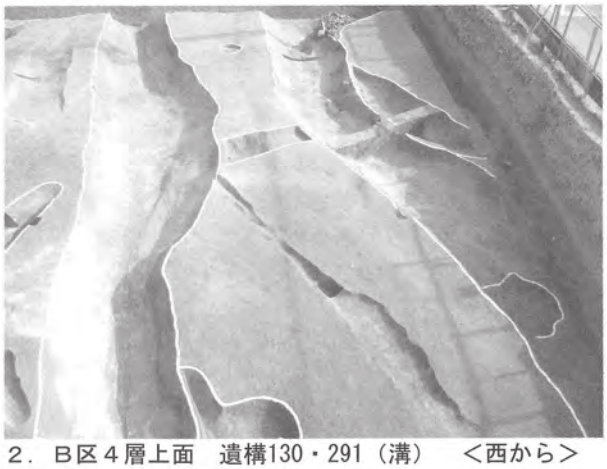
４．Ａ区４層上面　遺構130・129（溝）　＜北から＞



５．Ａ区４層上面　遺構128-W（溝）　＜西から＞



1．B区４層上面　全景　＜北から＞（遺構完掘）



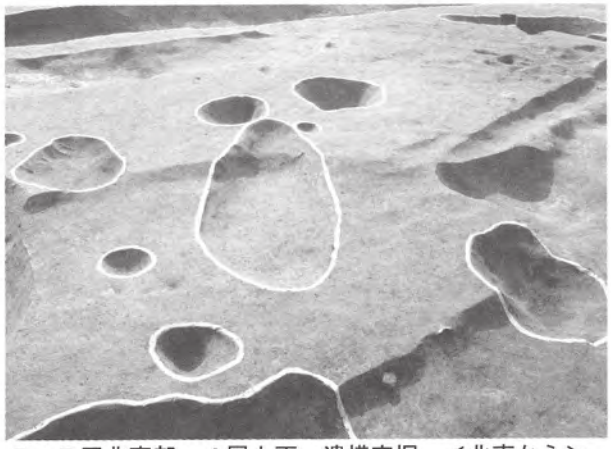
2．B区４層上面　遺構130・291（溝）　＜西から＞



3．B区南半　４層上面　遺構完掘　＜北西から＞



4．B区北半　４層上面　遺構完掘　＜南西から＞



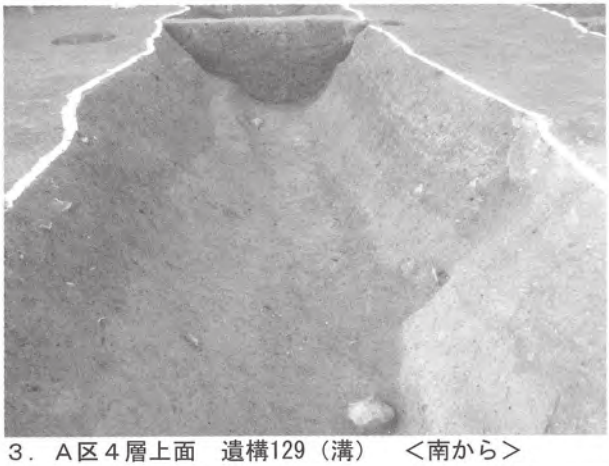
5．B区北東部　４層上面　遺構完掘　＜北東から＞



１．Ａ区４層上面　遺構130（溝）断面　＜北から＞



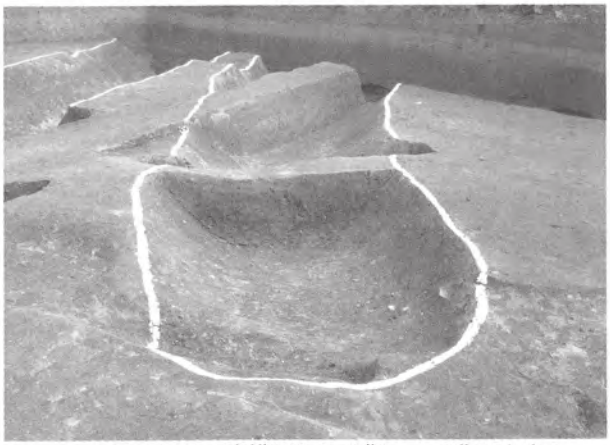
２．Ａ区４層上面　遺構130（溝）断面　＜南から＞



３．Ａ区４層上面　遺構129（溝）　＜南から＞



４．Ａ区４層上面　遺構128-W（溝）断面　＜西から＞



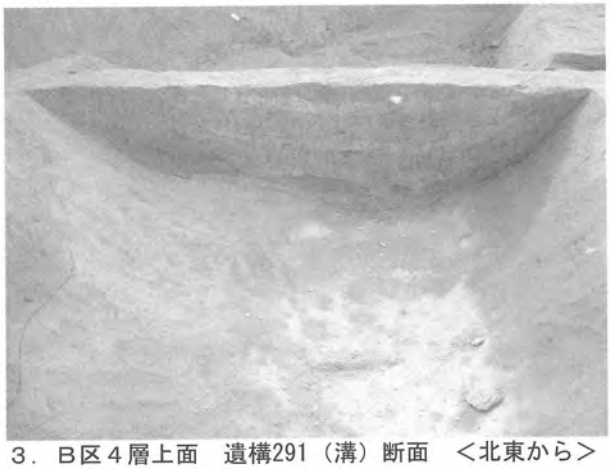
５．Ａ区４層上面　遺構128-E（溝）　＜北西から＞



1．B区４層上面　遺構291（溝）・遺構290（溝）断面　＜北西から＞（B区東壁断面）



2．B区４層上面　遺構290・291（溝）　＜東から＞



3．B区４層上面　遺構291（溝）断面　＜北東から＞



4．B区４層上面　遺構130（溝）断面　＜西から＞



5．B区４層上面　遺構130（溝）完掘　＜西から＞



1．B区４層上面　遺構290（溝）土器出土状況　＜南東から＞



2．B区　遺構291・290（溝）検出状況　＜南西から＞



3．B区　遺構290（溝）土器出土状況　＜北西から＞



4．B区東壁断面　遺構290（溝）断面　＜北西から＞



5．B区南壁断面　遺構290（溝）断面　＜北東から＞



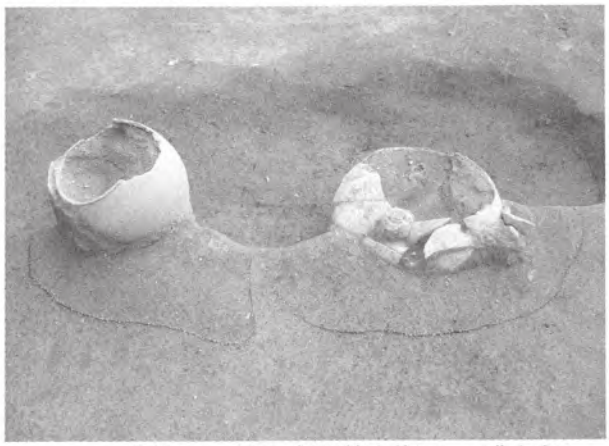
1．A区４層上面　遺構125・遺構126（土器棺）　＜南から＞（断ち割り状況）



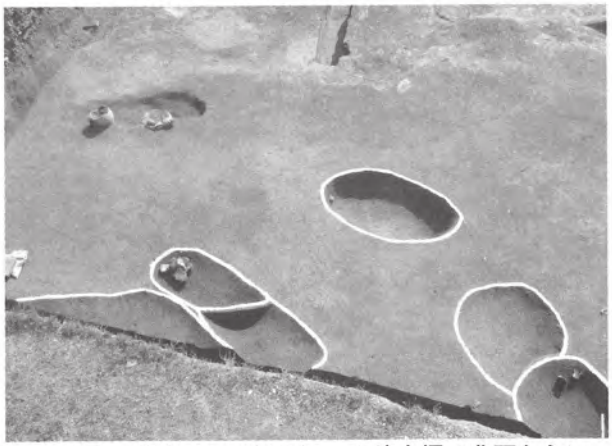
2．A区　遺構125・126　検出状況　＜南から＞



3．A区　遺構125・126　掘形検出状況　＜東から＞



4．A区　遺構126・125　掘形検出状況　＜北から＞



5．A区　遺構126・125周辺　土坑完掘＜北西から＞



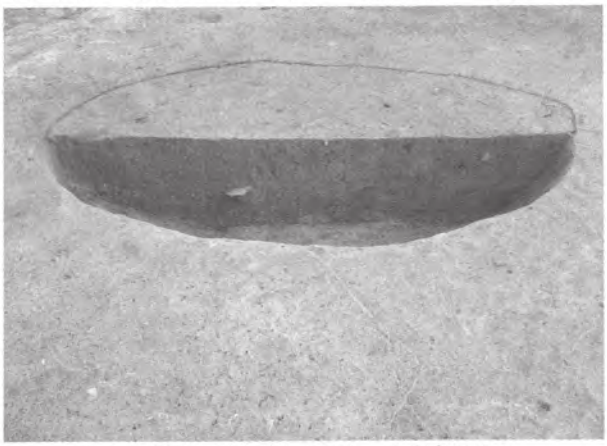
1．A区４層上面　遺構135（土器棺）土器・砥石・礫出土状況　＜北から＞



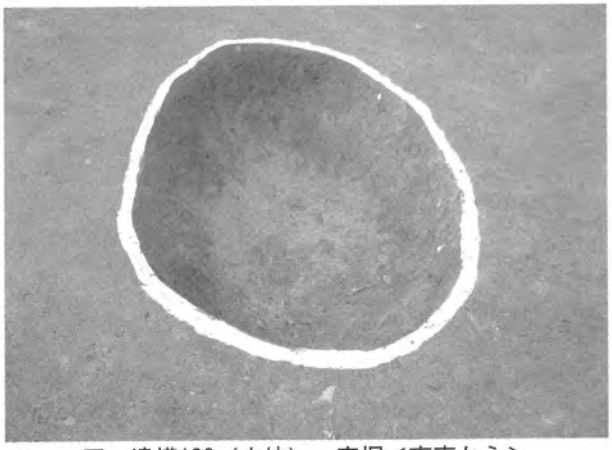
2．A区　遺構135（土器棺）　完掘状況　＜東から＞



3．A区　遺構135　土器・砥石　＜東から＞



4．A区　遺構133（土坑）断面　＜北東から＞



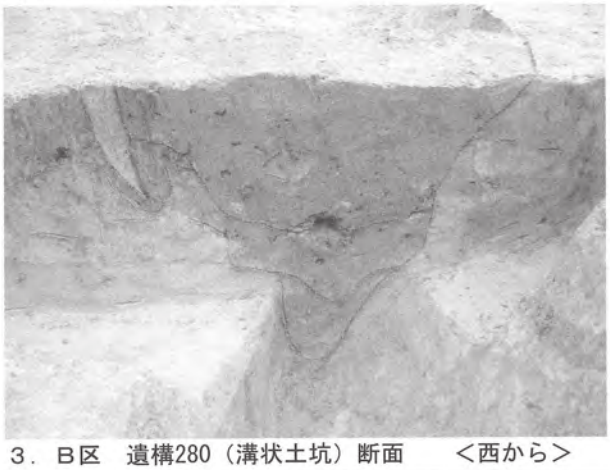
5．A区　遺構133（土坑）　完掘＜南東から＞



1．B区４層上面　遺構368（溝状土坑）断面　＜北東から＞（B区南壁断面）



2．B区　遺構279（溝状土坑）断面　＜南から＞



3．B区　遺構280（溝状土坑）断面　＜西から＞



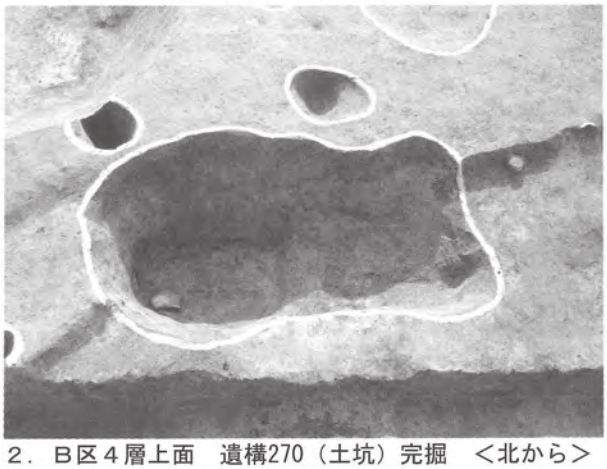
4．B区　遺構289（溝状土坑）断面　＜北から＞



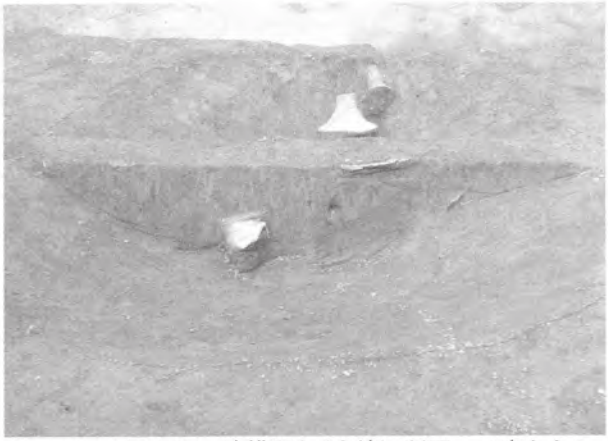
5．B区　遺構294（溝状土坑）断面　＜南から＞



1．B区４層上面　遺構270（土坑）断面　＜北から＞



2．B区４層上面　遺構270（土坑）完掘　＜北から＞



3．B区４層上面　遺構284（土坑）断面　＜南から＞



4．B区４層上面　遺構293（土坑）断面　＜東から＞



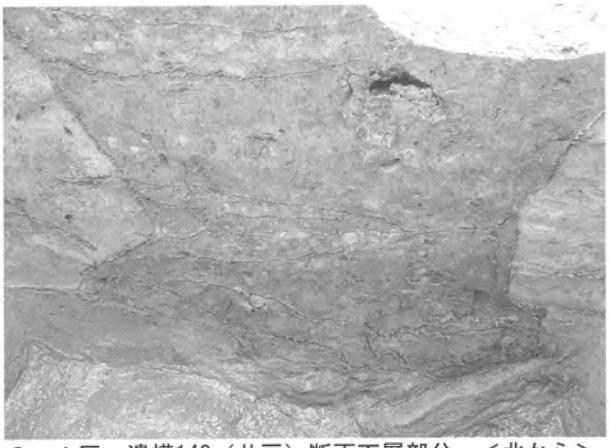
5．A区４層上面　遺構141（土坑）断面＜北西から＞



1．A区４層下面　遺構142（井戸）断面　＜北から＞（断ち割り断面）



2．A区　遺構142（井戸）検出状況　＜西から＞



3．A区　遺構142（井戸）断面下層部分　＜北から＞



4．A区　遺構142（井戸）完掘　＜北から＞



5．A区　遺構150（井戸）完掘　＜北から＞



1．A区４層下面　遺構140-S・140-N（井戸）断面　＜東から＞（遺構140-Sが遺構140-Nを切る）



2．A区　遺構140-S・140-N（井戸）　＜南から＞



3．A区　遺構140-S　木枠上層土器出土　＜北から＞



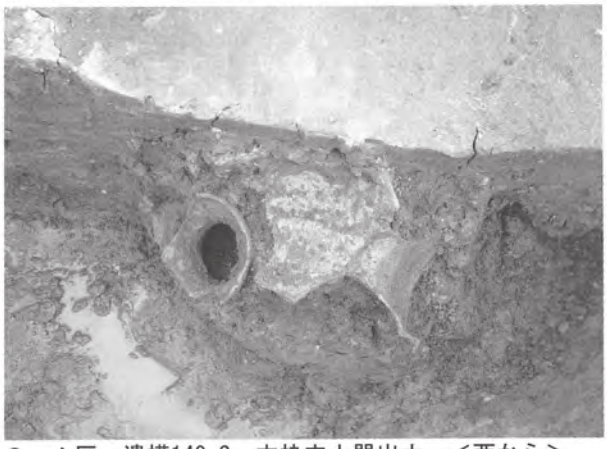
4．A区　遺構140-N・140-S　断面　＜南西から＞



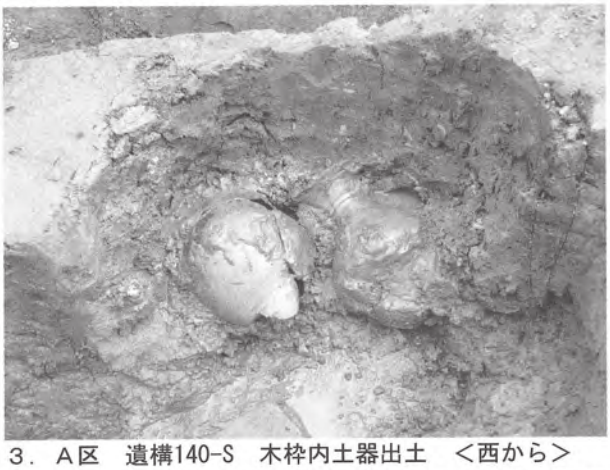
5．A区　遺構140-N・S　切り合い部分　＜西から＞



1．A区４層下面　遺構140-S（井戸）　木枠（木質）検出状況・木枠内土器出土状況　＜北から＞



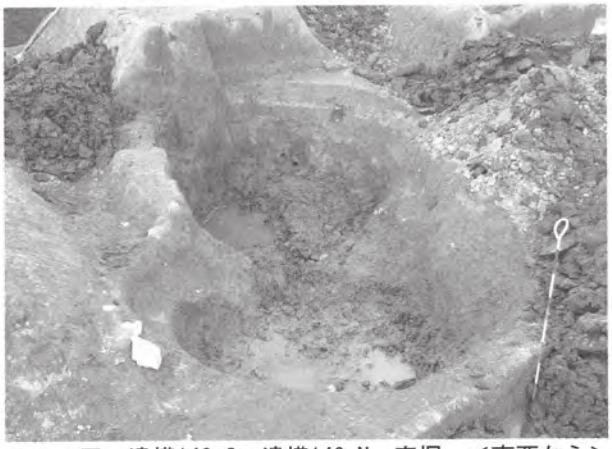
2．A区　遺構140-S　木枠内土器出土　＜西から＞



3．A区　遺構140-S　木枠内土器出土　＜西から＞



4．A区　遺構140-S　木枠内完掘　＜西から＞



5．A区　遺構140-S・遺構140-N　完掘　＜南西から＞



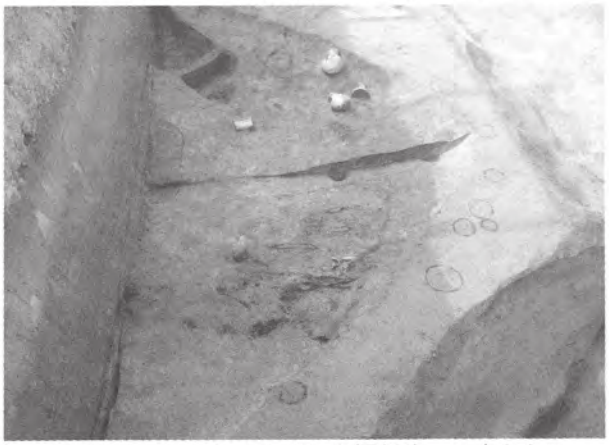
1．B区４層下面　遺構300（竪穴住居）　検出状況　＜東から＞　（遺構290（溝）土器出土状況）



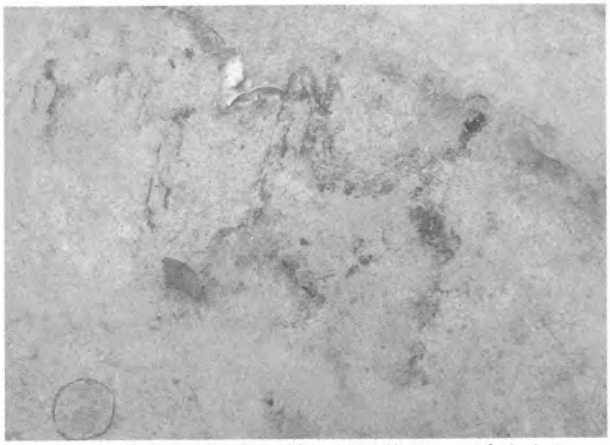
2．B区　遺構300　炭化物層検出状況　＜北東から＞



3．B区　遺構300　炭化物層検出状況　＜東から＞



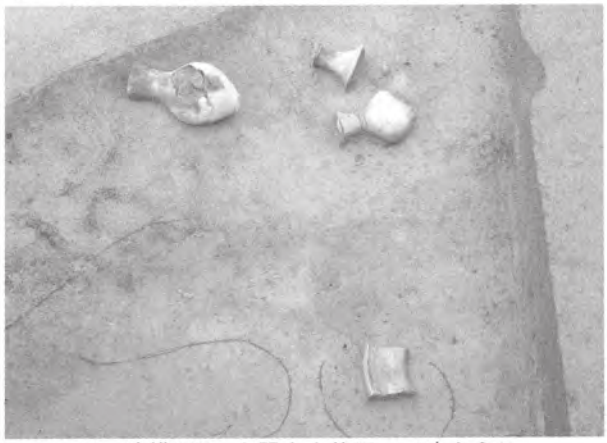
4．遺構300　セクションベルト掘削後　＜東から＞



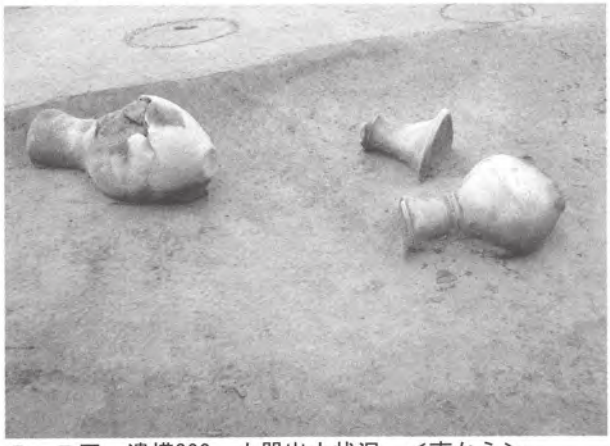
5．遺構300北東部　炭・焼土検出状況　＜南から＞



1．B区４層下面　遺構300（竪穴住居）　土器出土状況　＜西から＞　（遺構300北西部）



2．B区　遺構300　土器出土状況　＜南から＞



3．B区　遺構300　土器出土状況　＜南から＞



4．遺構300北東部　土器（甕）出土状況　＜南から＞



5．遺構300　セクションベルト断面　＜東から＞



1．B区４層下面　遺構300（竪穴住居）　床面検出状況　＜南から＞　（壁溝・柱穴など検出）



2．B区　遺構300　床面検出状況　＜東から＞



3．B区南壁　遺構300　断面　＜北から＞



4．遺構300の周囲を巡る柱穴　断面　＜西から＞



5．遺構300の周囲を巡る柱穴　断面　＜南東から＞



1．B区４層下面　遺構300（竪穴住居）　完掘状況　＜東から＞



2．B区　遺構300　完掘状況（遺構290）＜北東から＞



3．B区　遺構300　完掘状況　＜南から＞



4．B区南壁　遺構300　壁溝　断面　＜北から＞



5．遺構300　柱穴（遺構409）断面　＜南西から＞



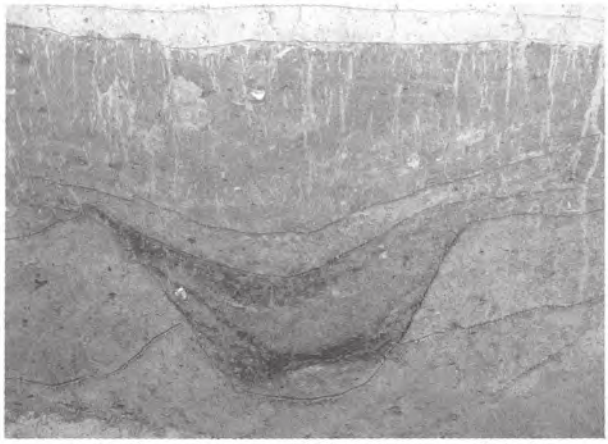
1．A区４層下面　遺構149（土器溜まり）土器出土状況　＜南から＞



2．A区北東部　４層下面遺構群検出　＜東から＞



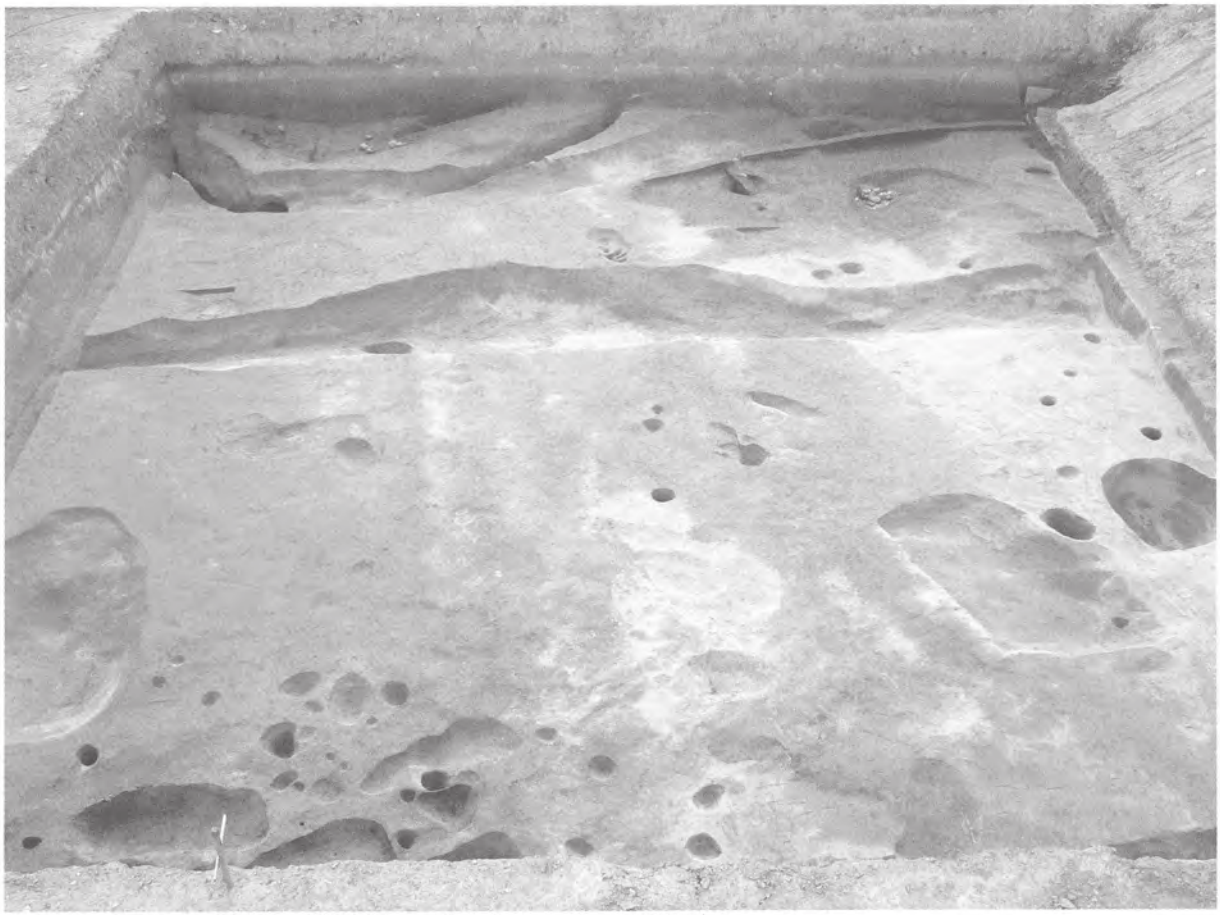
3．A区北東部　４層下面　遺構147断面　＜西から＞



4．A区南壁　４層下面　遺構161断面　＜北から＞



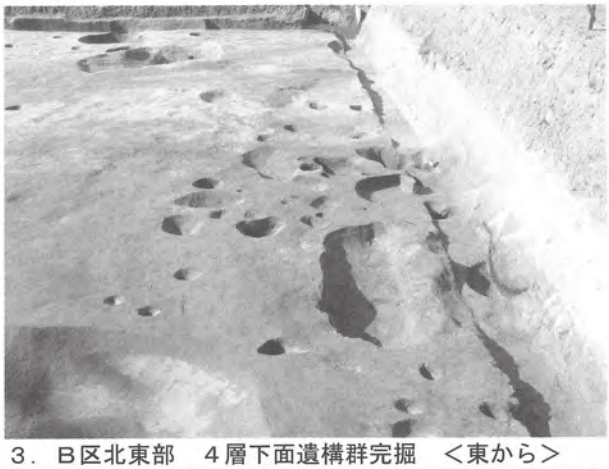
5．A区４層下面　遺構145（溝）断面　＜南から＞



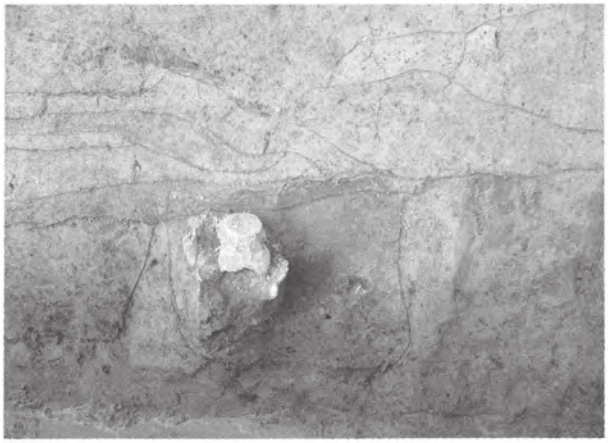
1．B区４層下面　全景　遺構完掘　＜北から＞　（地山面検出）



2．B区北東部　４層下面遺構群検出　＜南から＞



3．B区北東部　４層下面遺構群完掘　＜東から＞



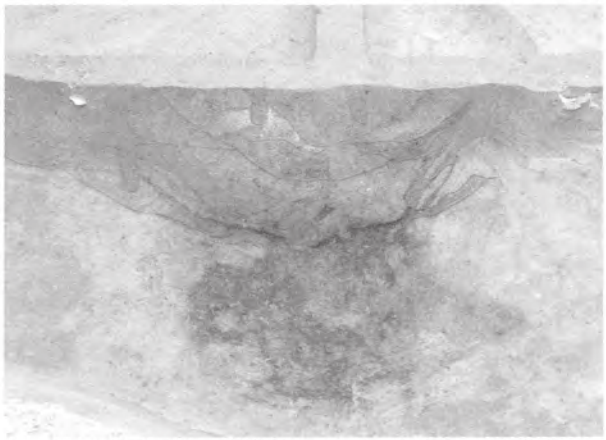
4．B区北壁　４層下面　遺構433　断面　＜南から＞



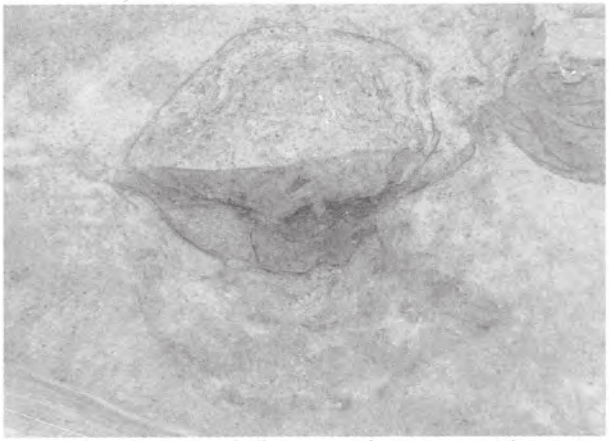
5．B区北壁　４層下面　遺構365　断面　＜南から＞



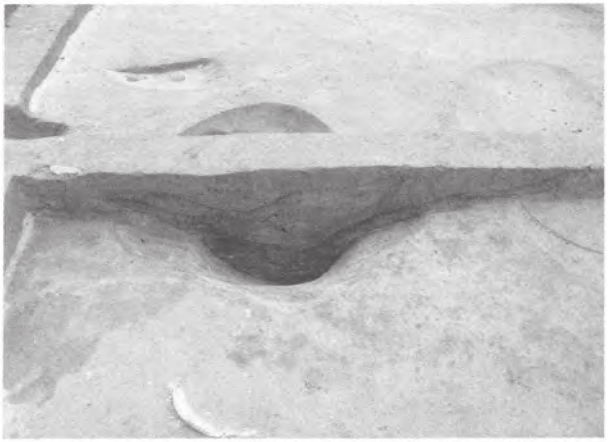
1．B区南西部　４層下面遺構群（遺構310土坑群）　検出状況　＜西から＞



2．B区４層下面　遺構301（土坑）炭層　＜南から＞



3．B区４層下面　遺構301（土坑）断面　＜南から＞



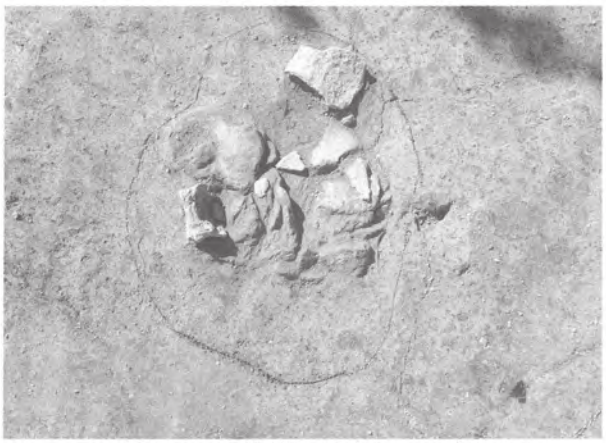
4．B区４層下面　遺構313（土坑）断面　＜東から＞



5．B区　遺構311（溝状土坑）土器出土　＜東から＞



1．Ａ区南西部　８層上面　遺構検出状況　＜西から＞　（環状石斧出土＝８層出土）



2．Ａ区８層上面　遺構156（土坑）　＜東から＞



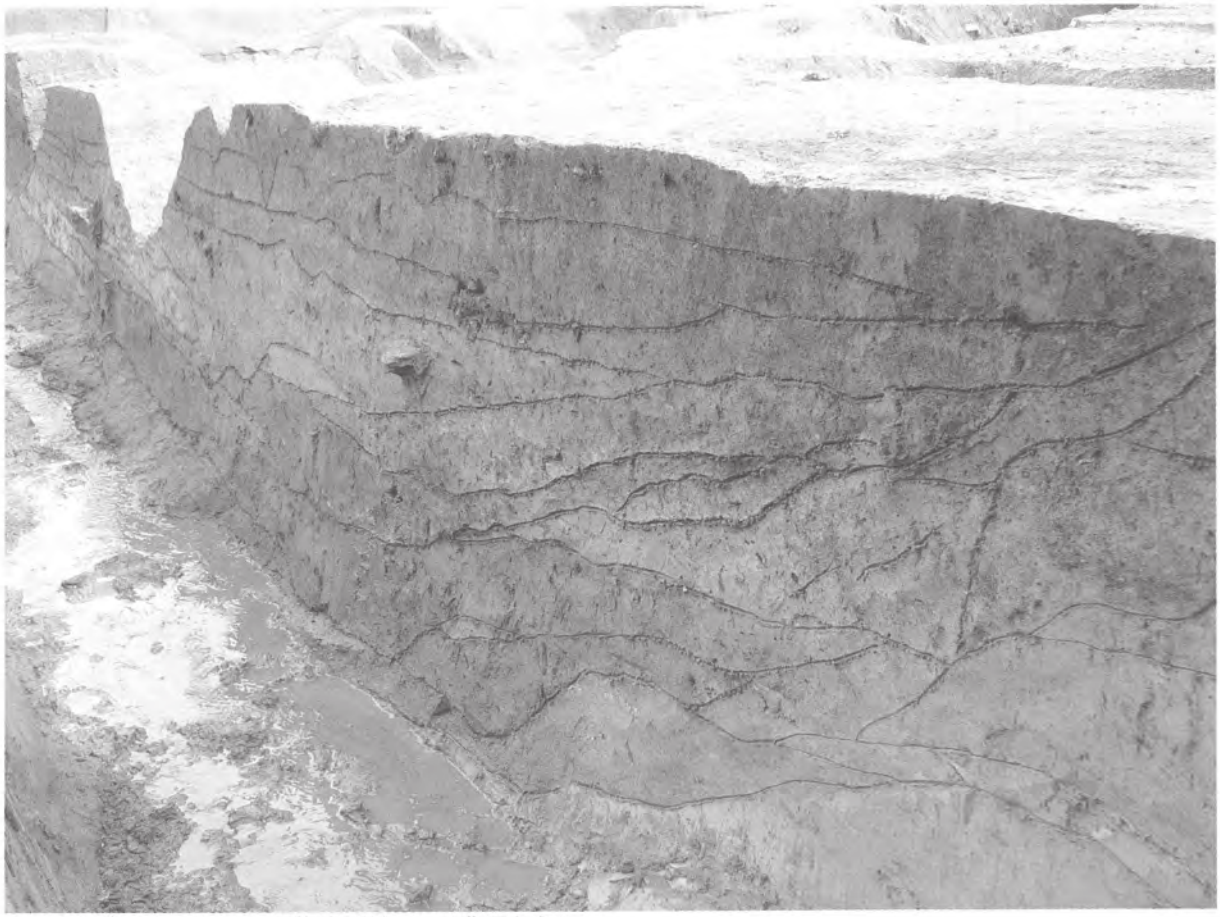
3．Ａ区８層上面　遺構157（土坑）断面＜北西から＞



4．Ａ区８層上面　遺構158（土坑）断面＜北西から＞



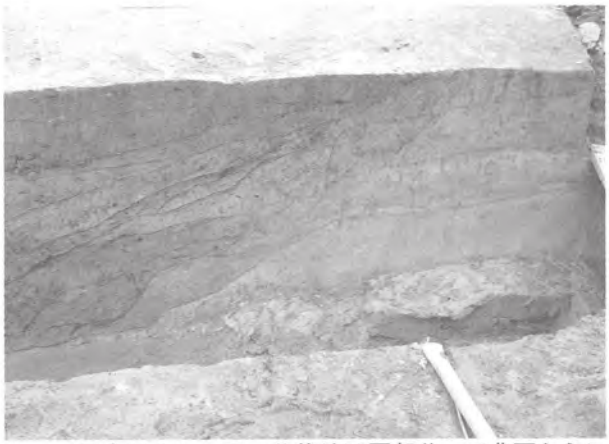
5．Ａ区８層上面　遺構159（土坑）断面　＜北から＞



1．A区東西トレンチ　谷状地形断面　＜北西から＞



2．A区東西トレンチ　全景　＜北から＞



3．A区東西トレンチ　谷状地形肩部分　＜北西から＞



4．A区東西トレンチ　遺構145断面　＜北東から＞



5．A区東西トレンチ　谷状地形断面　＜北東から＞



1．A区　調査区南壁　谷状地形６層　木製品（容器）M４　出土状況　＜北から＞



2．A区　西壁断面　＜北東から＞（遺構90肩部分）



3．A区　北壁断面　＜南西から＞（A区北東部）



4．A区　南壁断面　＜北西から＞（A区南東部）



5．B区　南壁断面　＜北西から＞（B区南西部）


90-3


90-25


90-46


90-26

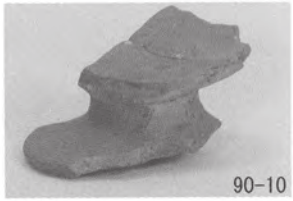

90-49


90-65

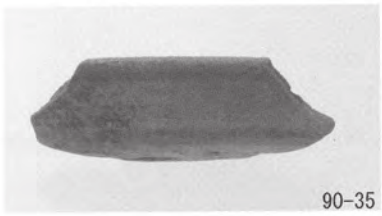

90-1


90-20


90-19


90-10


90-4

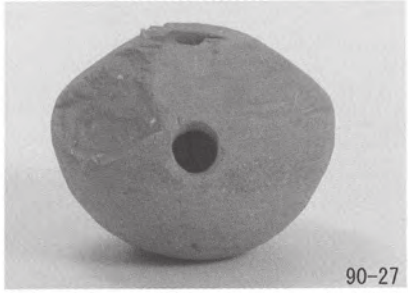

90-35


90-57


90-8


90-42


90-5

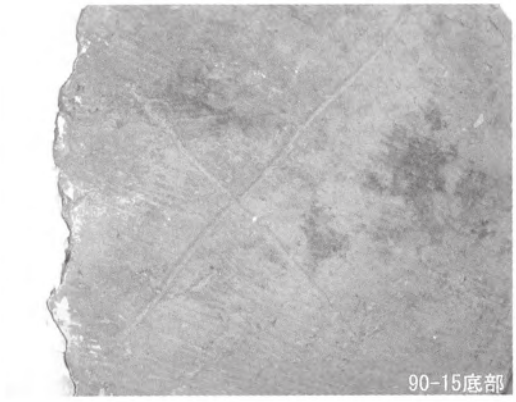

90-27


90-41

A区・B区　遺構90（溝）　出土遺物







A区・B区　遺構95（溝）　出土遺物

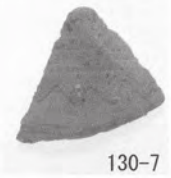


A区　遺構101（流路？）　出土遺物


130-1


130-11


130-6


130-7


130-8

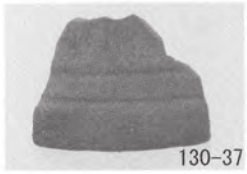

130-12


130-15

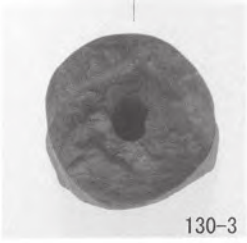



130-17


130-18

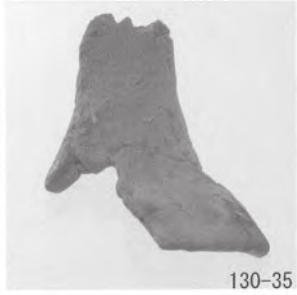

130-37


130-16


130-3

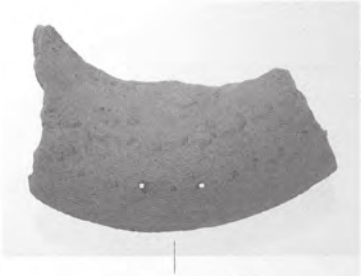

130-19


130-24


130-35

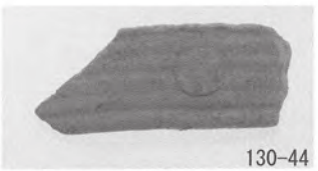

130-33


130-38

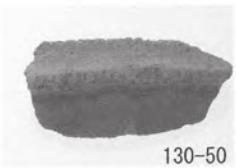


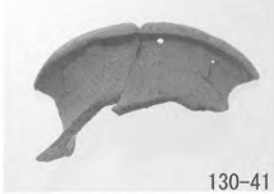

130-47


130-43

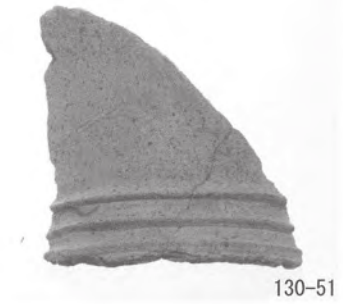

130-44

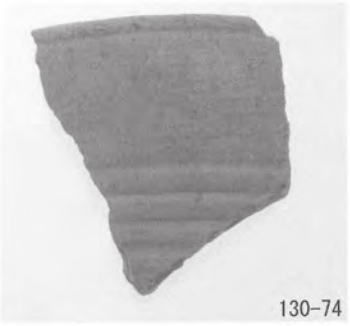

130-45

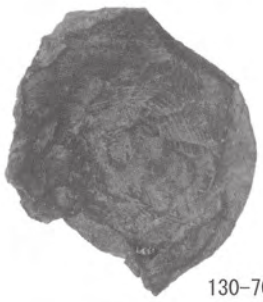

130-50

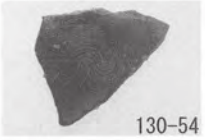

130-41

A区・B区　遺構130（溝）　出土遺物１


130-51


130-74

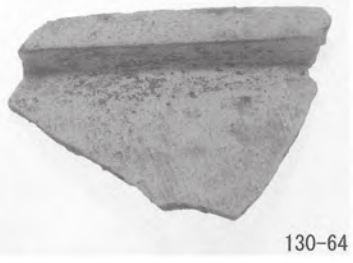

130-70

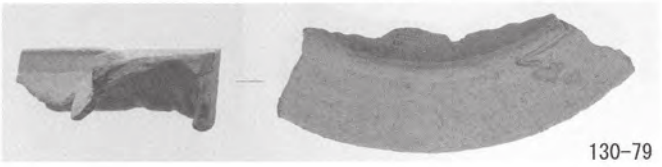

130-54

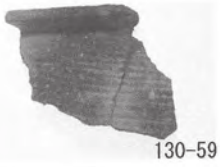

130-55


130-77


130-78


130-64


130-79


130-59


130-62


130-81

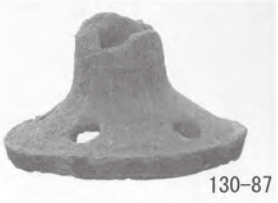

130-82

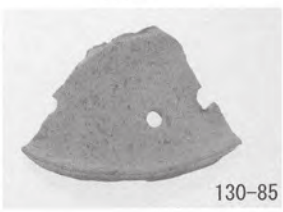

130-83

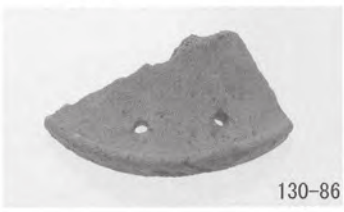

130-84

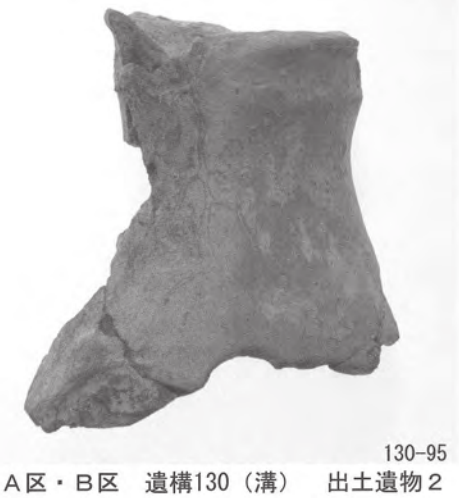

130-89

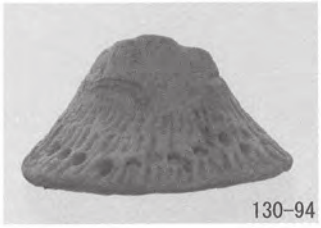



130-87

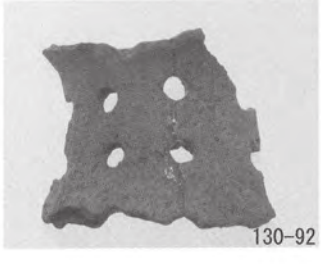

130-85


130-86


130-95


130-94


130-93

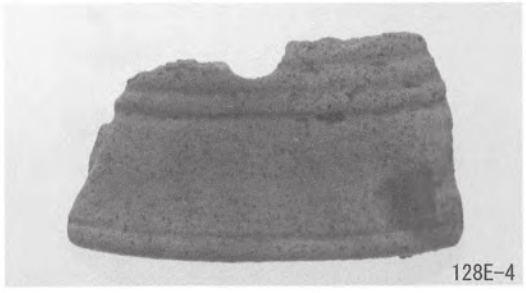

130-92


130-97

A区・B区　遺構130（溝）　出土遺物２


128E-1


128E-3


128E-4

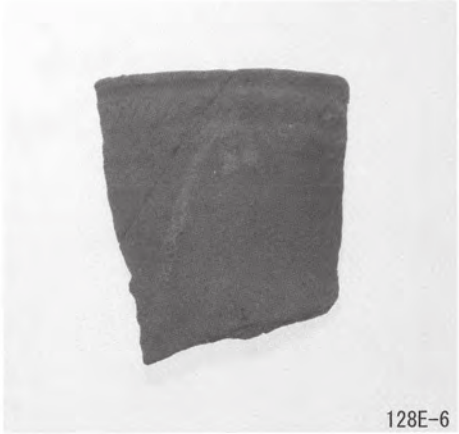

128E-2

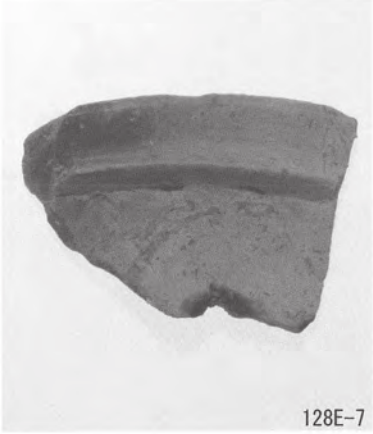

128E-8


128E-9

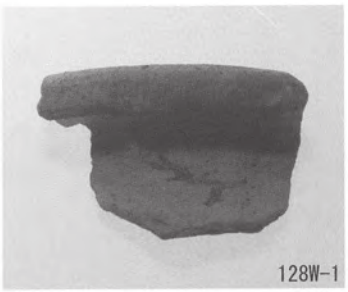

128E-10

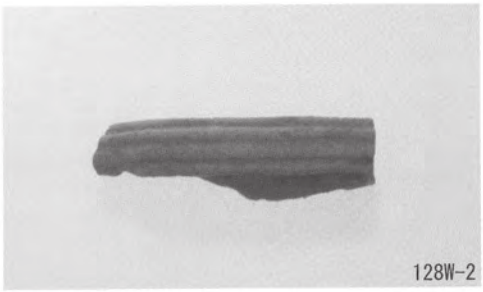

128E-5

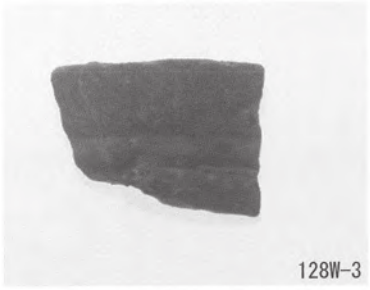

128E-6

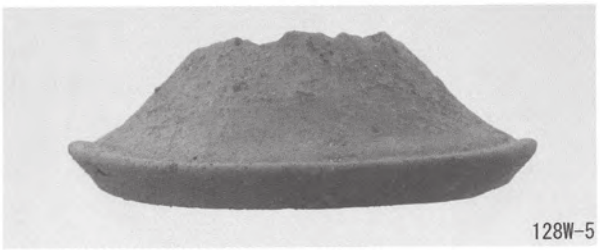

128E-7

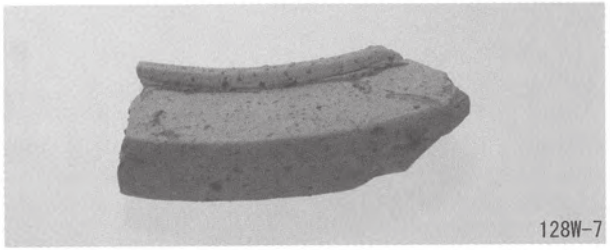
A区　遺構128-E（溝）　出土遺物


128W-1

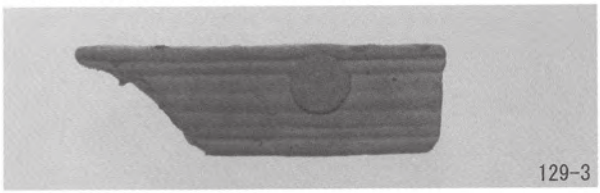

128W-2

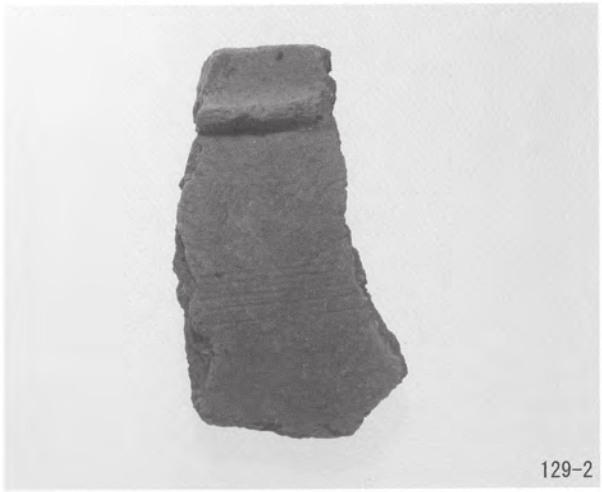

128W-3

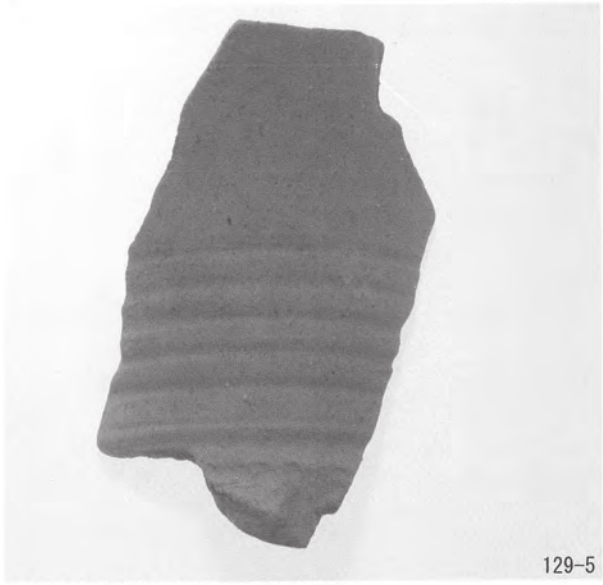

128W-5

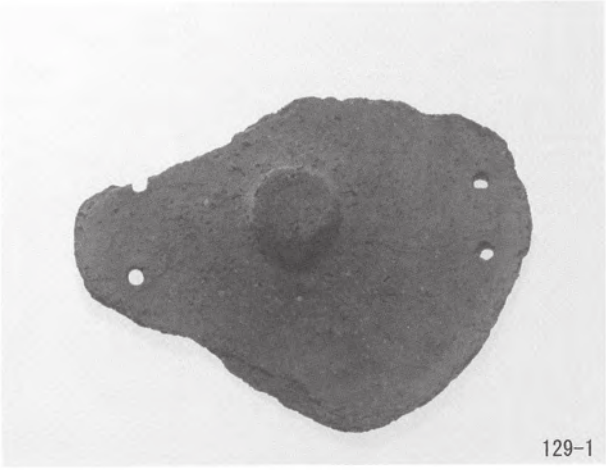

128W-7

A区　遺構128-W（溝）　出土遺物


129-3


129-2

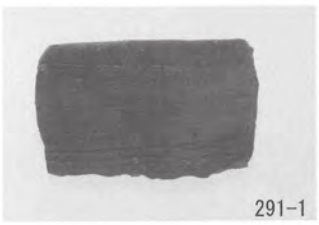

129-5

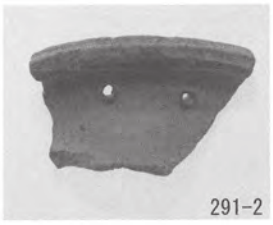

129-1

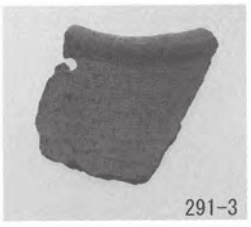

129-4

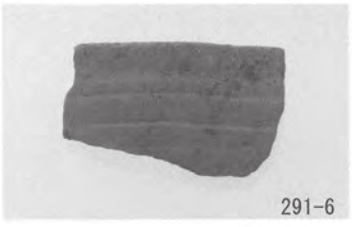

129-6

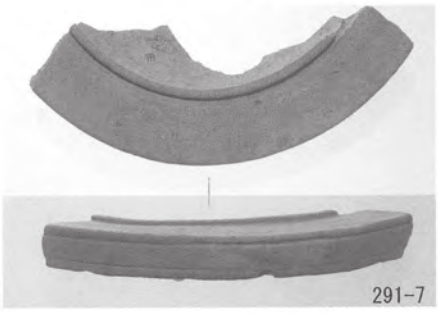
A区　遺構129（溝）　出土遺物

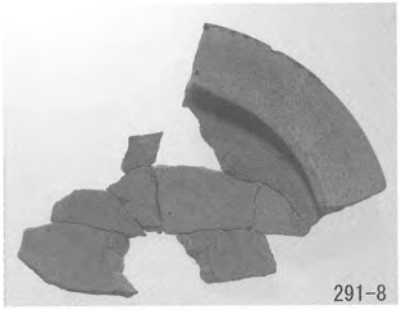

291-1


291-2


291-3


291-6


291-7


291-8


291-10


291-11


291-21

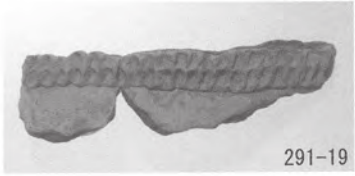

291-14


291-13


291-17

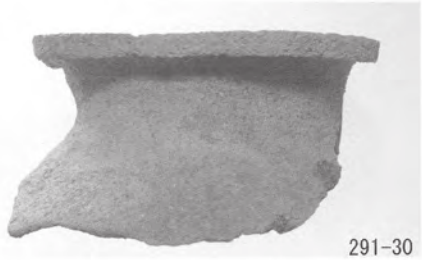

291-15

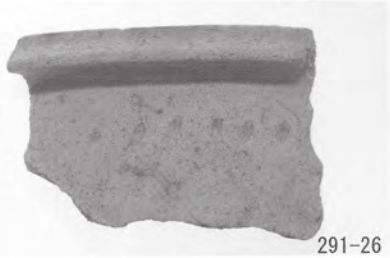

291-12


291-19

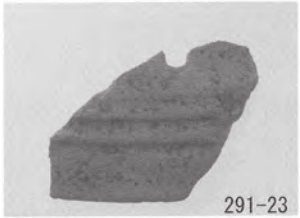

291-16

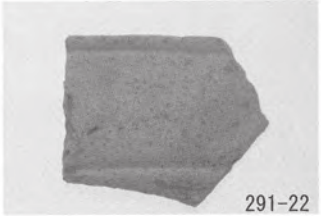

291-25


291-30


291-26


291-28

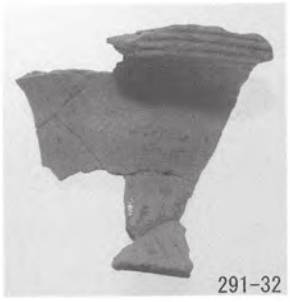

291-23


291-22


291-24

B区　遺構291（溝）　出土遺物１


291-31


291-32



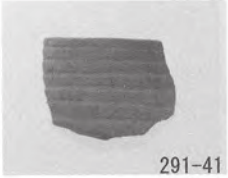

291-37

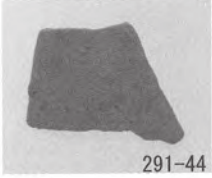

291-38


291-39


291-33


291-36


291-41


291-44


291-43

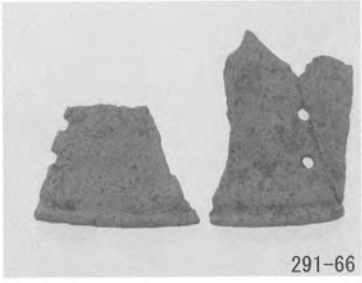

291-54


291-42


291-47

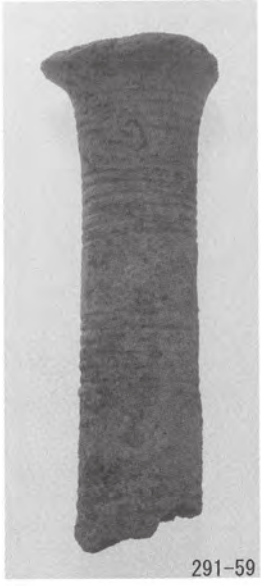

291-53


291-51


291-66

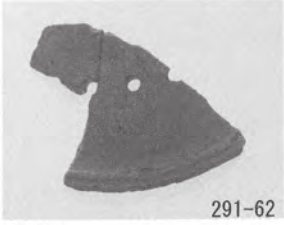

291-58

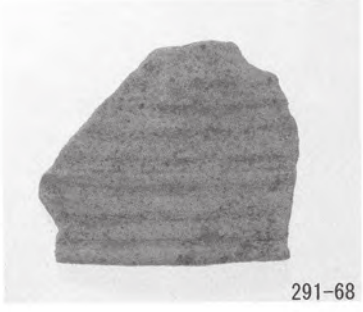

291-57


291-59


291-67

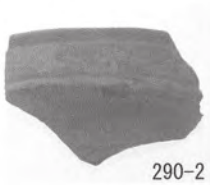

291-60

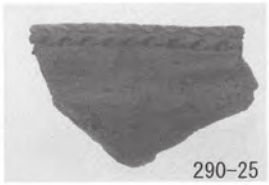

291-62


291-68

B区　遺構291（溝）　出土遺物２


290-18


290-2


290-25


290-3

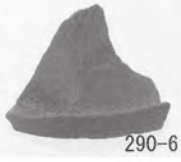

290-8

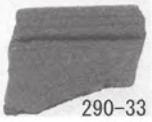

290-9


290-42


290-16

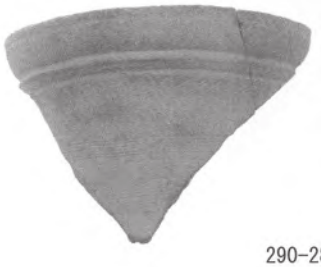

290-4


290-6


290-33


290-26

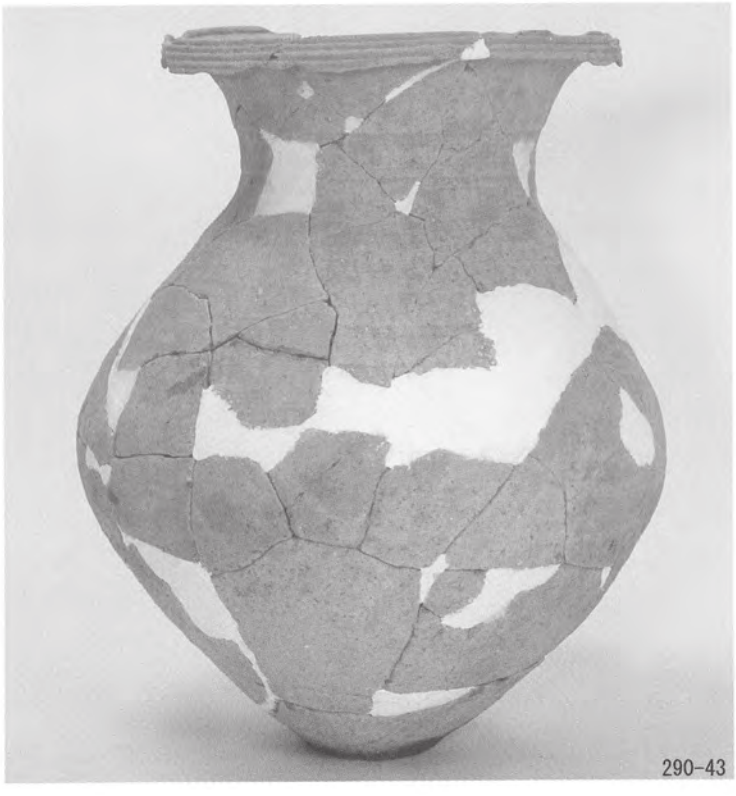

290-21


290-28

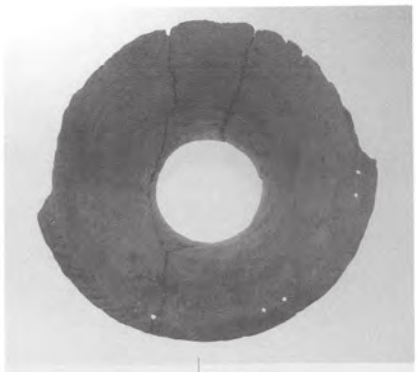

290-48




290-22


290-43

B区　遺構290（溝）　出土遺物１



290-52



290-53


290-50

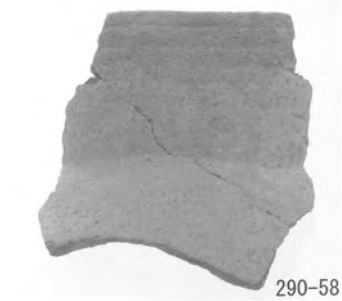

290-51


290-56


290-61

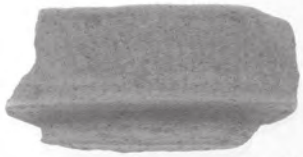

290-62


290-60

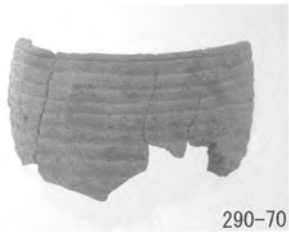

290-58


290-63


290-67


290-66


290-69


290-70


290-71

B区　遺構290（溝）　出土遺物２


290-85


290-86


290-95


290-98

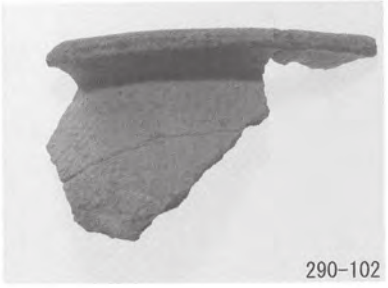

290-89


290-96


290-99


290-92




290-102


290-93


290-104


290-103


290-107

B区　遺構290（溝）　出土遺物３


290-108


290-113

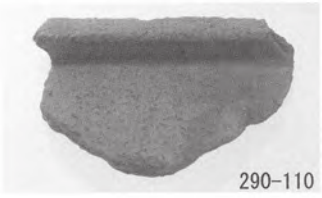

290-114

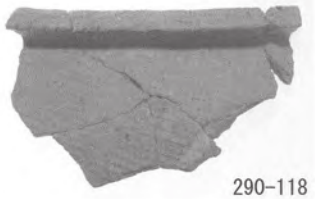

290-116

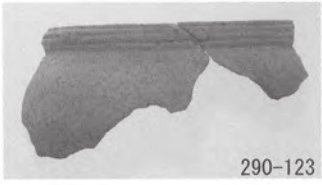

290-119


290-117


290-121


290-110


290-118

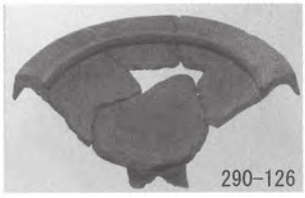

290-123


290-124

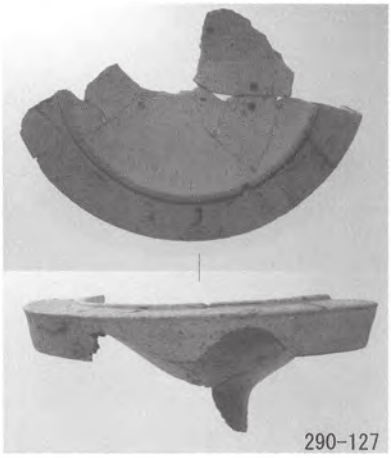

290-125

B区　遺構290（溝）　出土遺物４


290-130


290-126


290-128


290-127

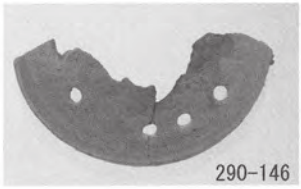

290-133


290-129


290-134


290-139


290-144

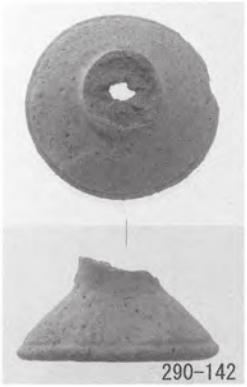

290-146


290-150


290-151


290-154


290-143


290-142

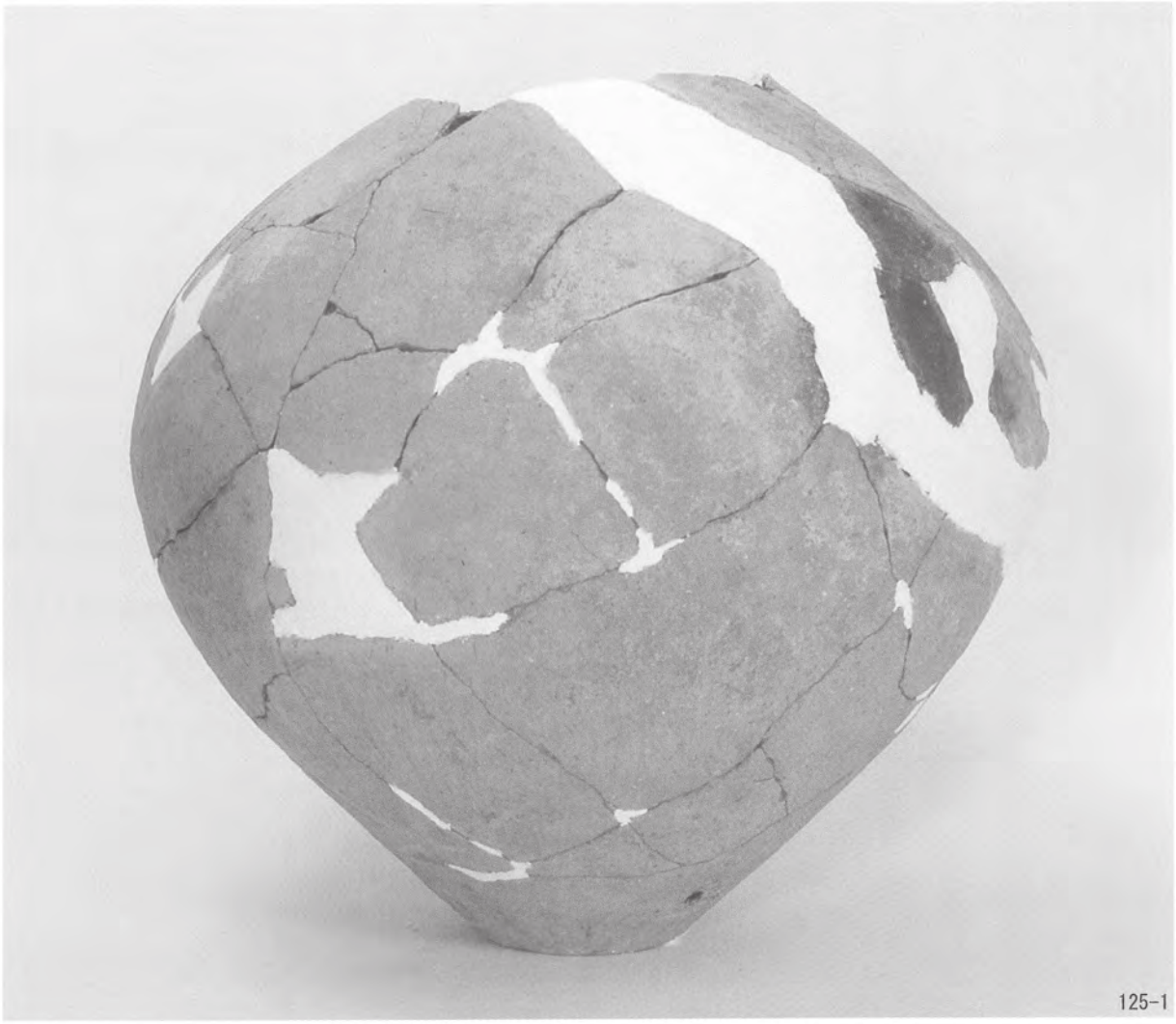

290-145


290-163

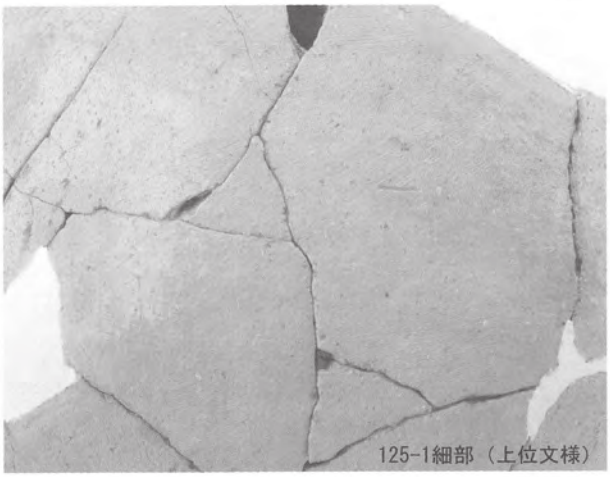

290-152

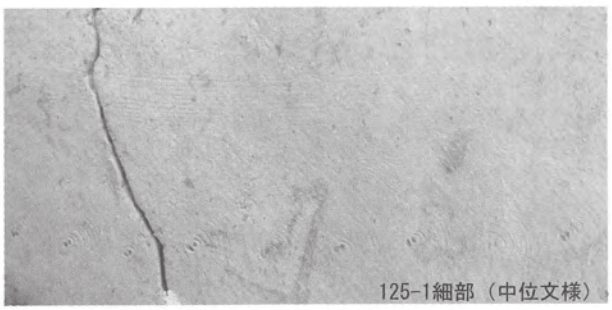

290・291-11

B区　遺構290（溝）　出土遺物５


125-1


125-1細部（穿孔）


125-1細部（上位文様）


125-1細部（中位文様）

A区　遺構125（土器棺）　出土遺物１



A区　遺構125（土器棺）　出土遺物２



A区　遺構126（土器棺）　出土遺物

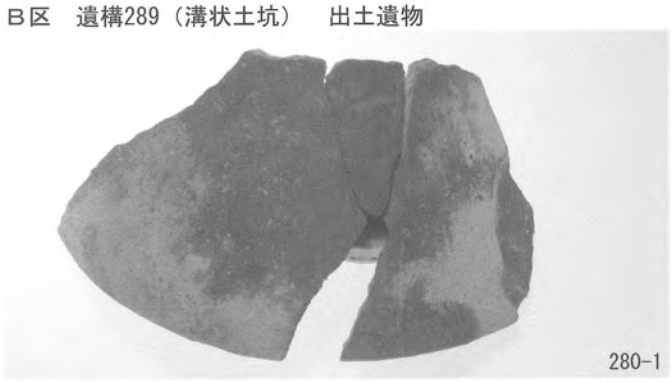

289-1


289-2


289-3

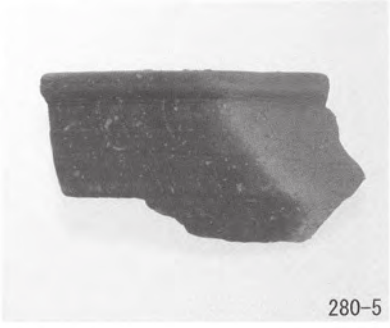

289-4

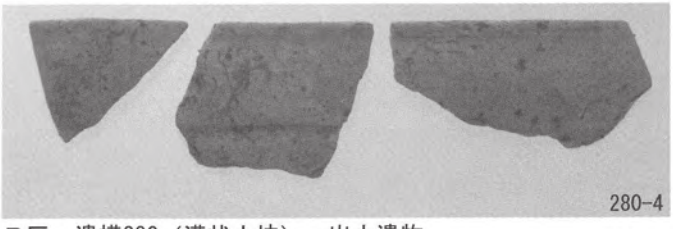
B区　遺構289（溝状土坑）　出土遺物

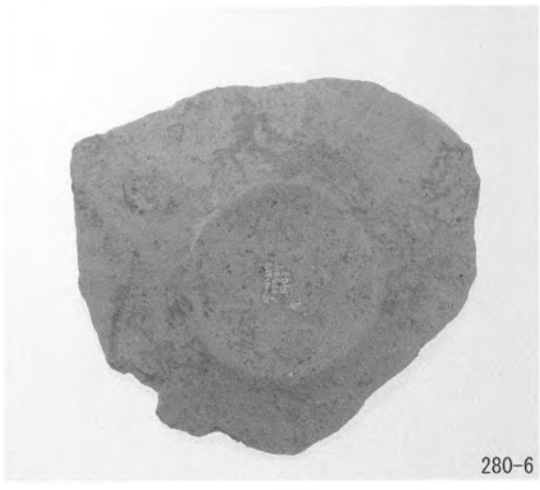

280-1


280-2


280-3


280-5

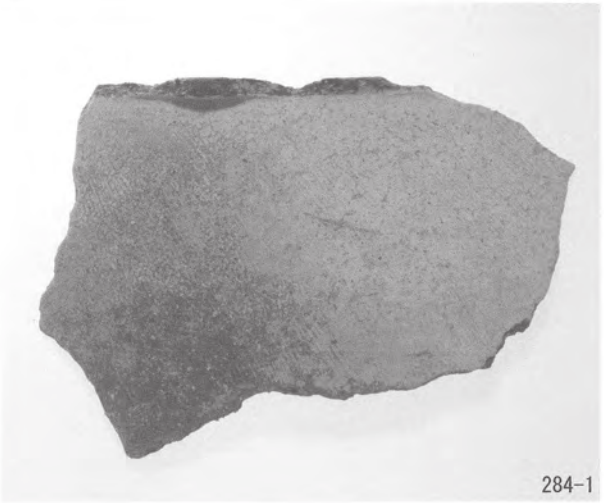

280-4

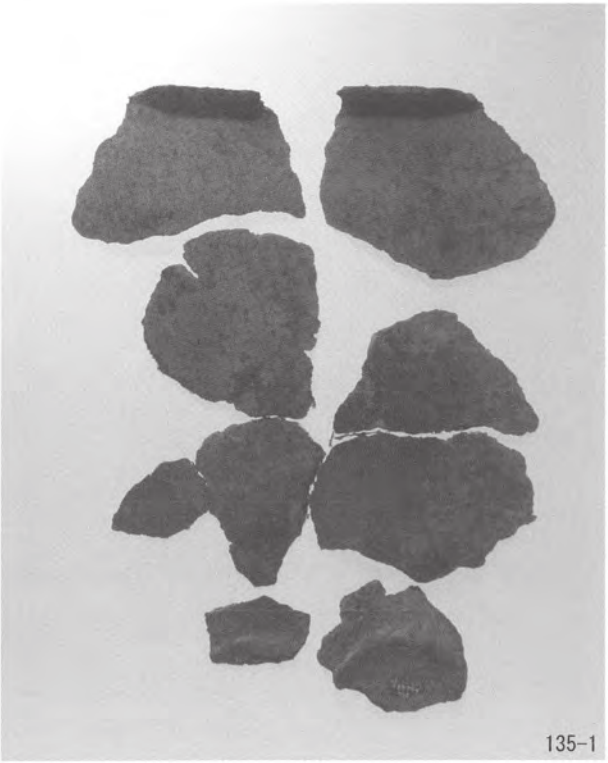

280-6

B区　遺構280（溝状土坑）　出土遺物


293-1


368-1


284-1


135-1


284-2


284-3

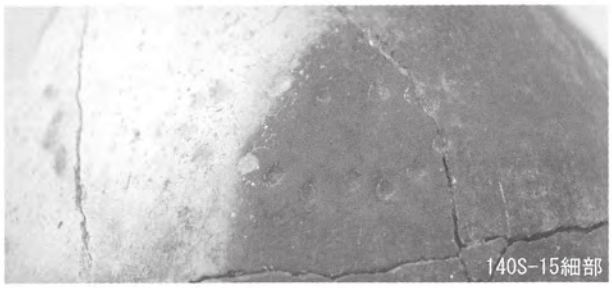

284-4

B区　遺構368（溝状土坑）、遺構293・284（土坑）、A区　遺構135（土器棺）　出土遺物


140S-14


140S-15


140S-16


140S-15細部


140S-14細部


140S-14細部

A区　遺構140-S（井戸）　出土遺物１


140S-27


140S-17

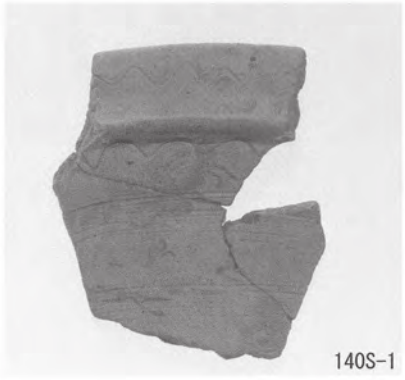

140S-19

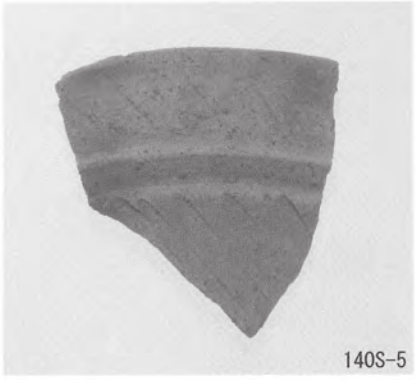

140S-20

A区　遺構140-S（井戸）　出土遺物２


140S-10


140S-11


140S-1


140S-5


140S-8


140S-9


140S-12


140S-13

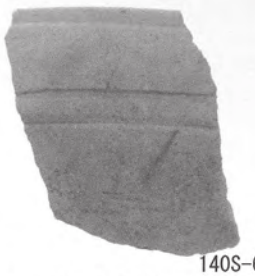

140S-3




140S-2


140S-18


140S-4


140S-6


140S-7


140S-23


140S・N-3


140S・N-1

A区　遺構140-S（井戸）　出土遺物３

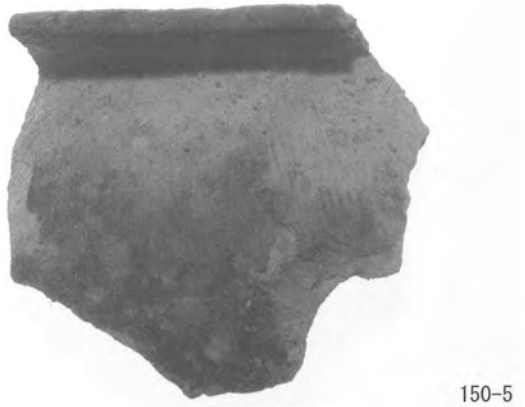

142-2

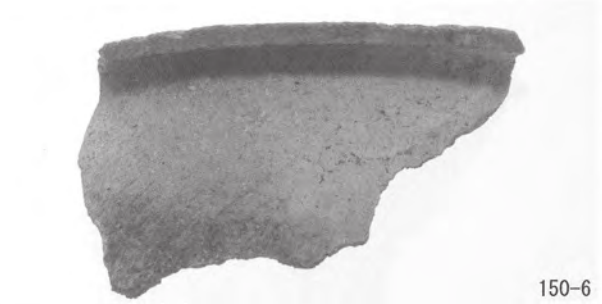

142-3


142-4

A区　遺構142（井戸）　出土遺物


150-1


150-5

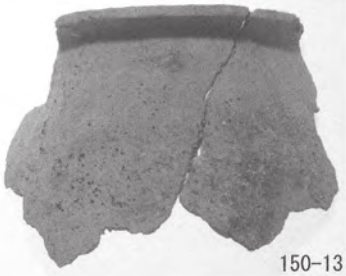

150-6

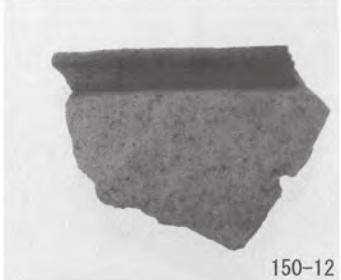

150-7


150-11


150-9


150-10


150-13


150-12

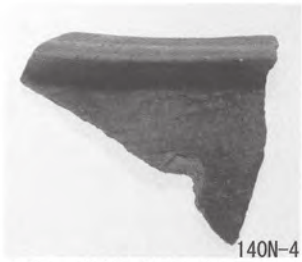

150-8


150-3

A区　遺構150（井戸）　出土遺物


140N-2


140N-3

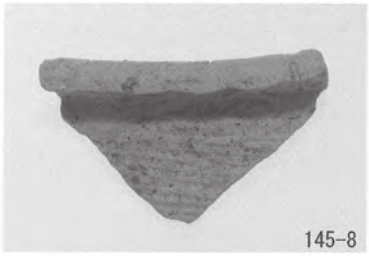

140N-4


140N-6


140N-7


140N-8

A区　遺構140-N（井戸）　出土遺物


145-8

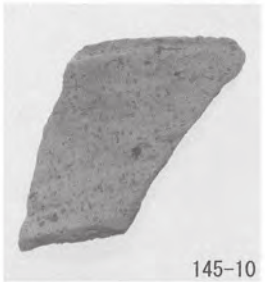

145-9


145-11


145-1


145-12


145-7


145-10

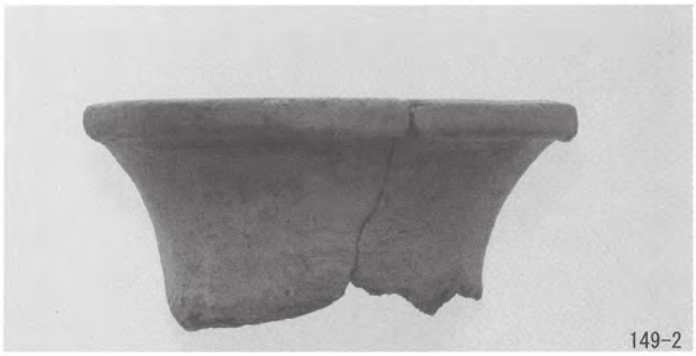

145-4


145-6


145-13

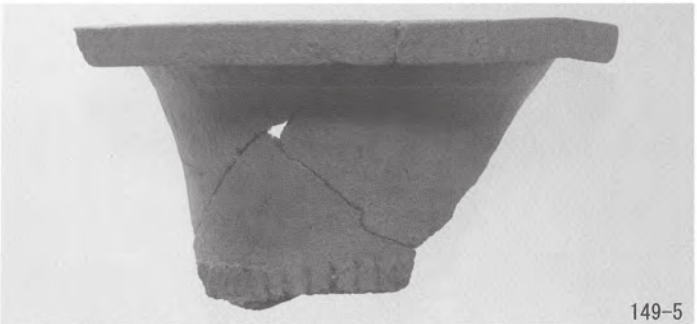
A区　遺構145（溝）　出土遺物


149-1

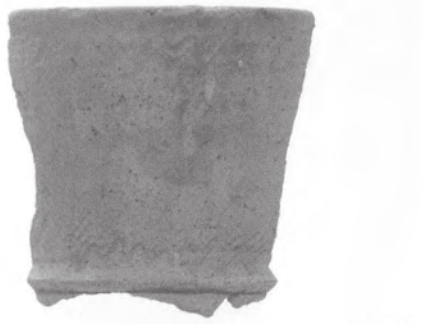

149-2


149-3


149-4

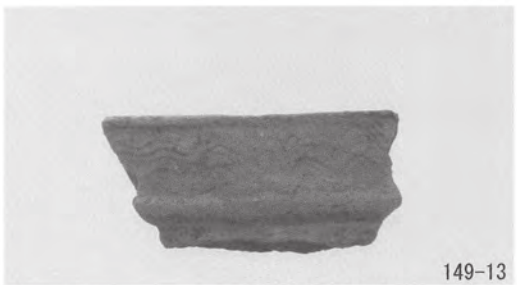

149-5


149-9


149-10


149-11

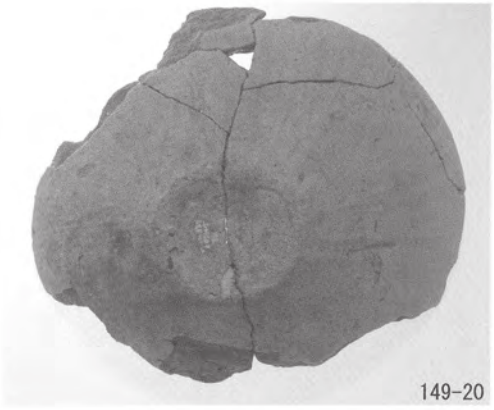

149-12


149-13

A区　遺構149（土器溜まり）　出土遺物１


149-14


149-15


149-20


149-19

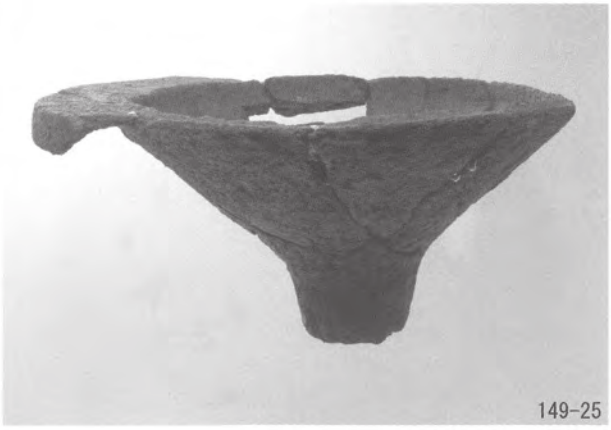

149-16


149-17


149-18

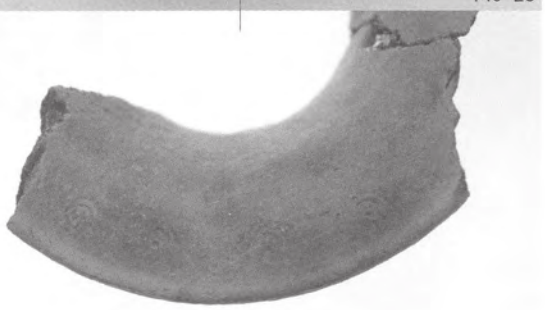
A区　遺構149（土器溜まり）　出土遺物２

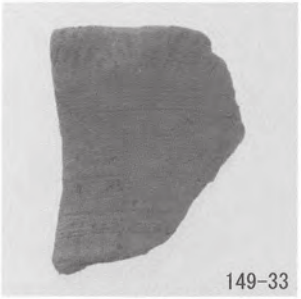

149-24

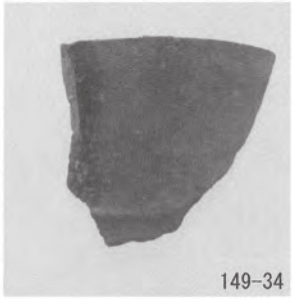

149-25


149-27

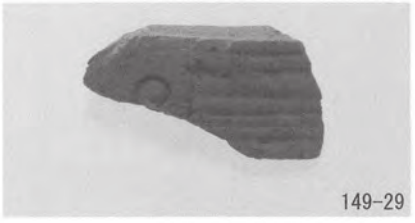

149-28

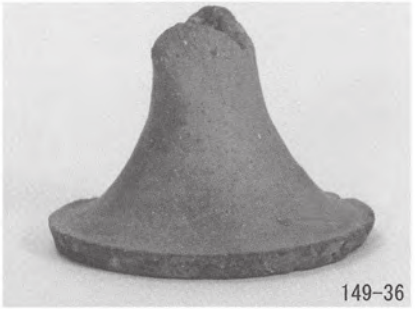



149-33


149-34


149-35


149-29


149-36

A区　遺構149（土器溜まり）　出土遺物３


300-2


300-3


300-4


300-5

B区　遺構300（竪穴住居）　出土遺物１



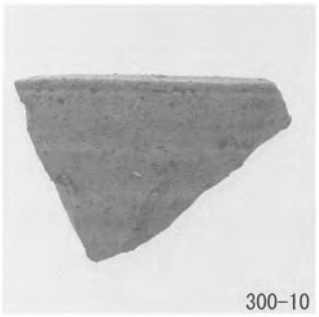
300-1



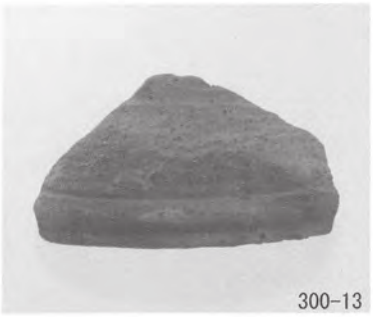
300-7



300-9



300-10



300-13



300-11



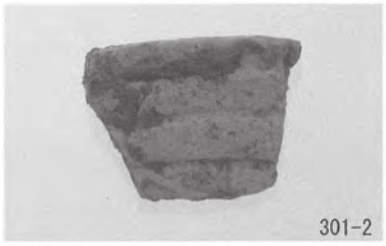
300-8



300-12

B区　遺構300（竪穴住居）　出土遺物２


301-4


301-2


301-3

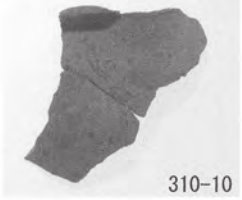

310-15

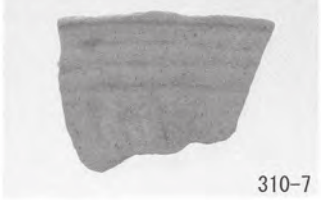

310-18


310-3


310-4

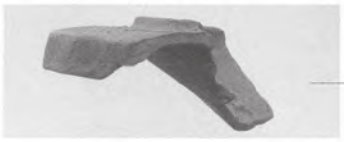

310-17


310-10


310-7


310-16


310-12



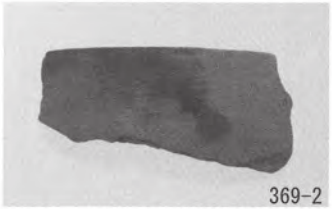

311-15


311-14


369-3


311-12


360-1


369-2

B区　遺構301・310・311・360・369（土坑）　出土遺物



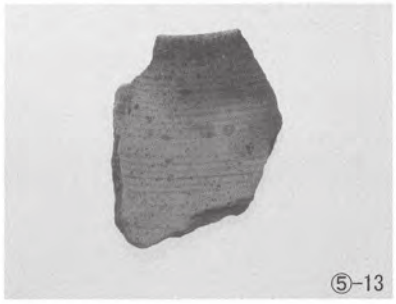
311-1



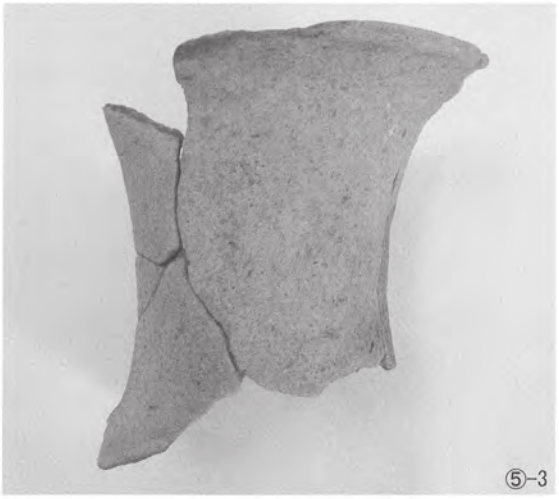
311-2

B区　遺構311（溝状土坑）　出土遺物１


⑤-2

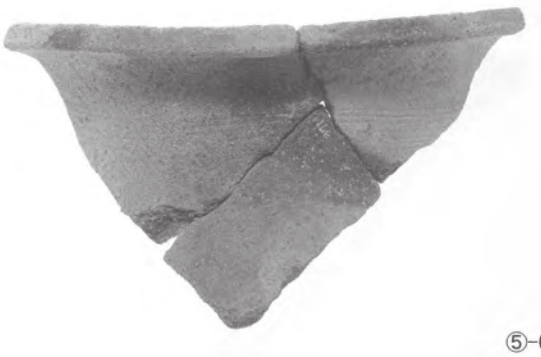

⑤-13


⑤-17


⑤-3


⑤-9


⑤-4


⑤-6


⑤-5


⑤-7

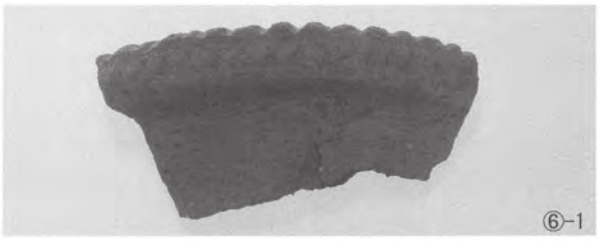

⑤-10


⑤-11


⑤-19

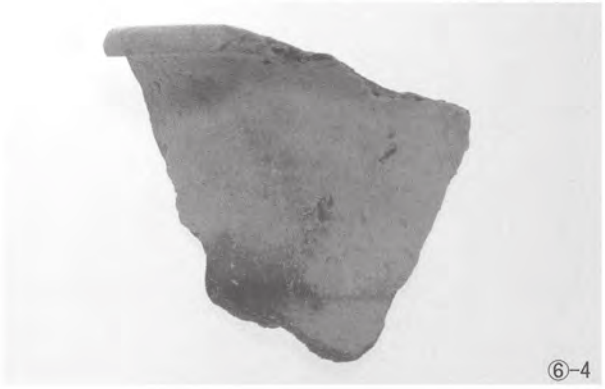

⑤-21

A区　谷状地形　５層出土遺物


⑥-1

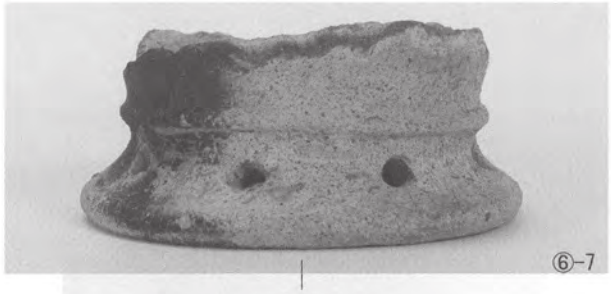

⑥-2

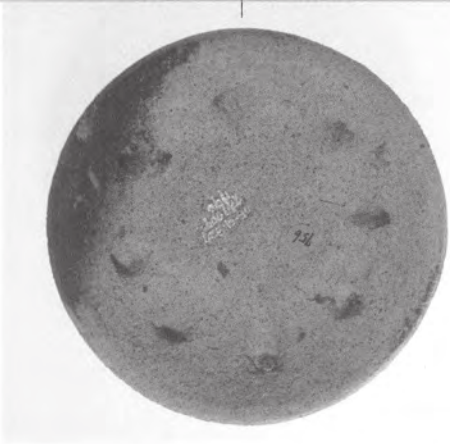

⑥-3

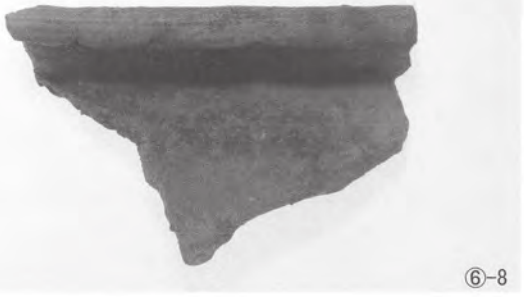

⑥-4


⑥-5


⑥-6


⑥-7




⑥-8


⑥-9

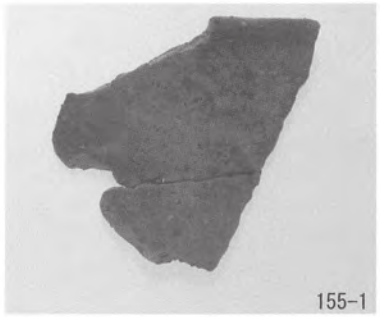
A区　谷状地形　６層出土遺物１





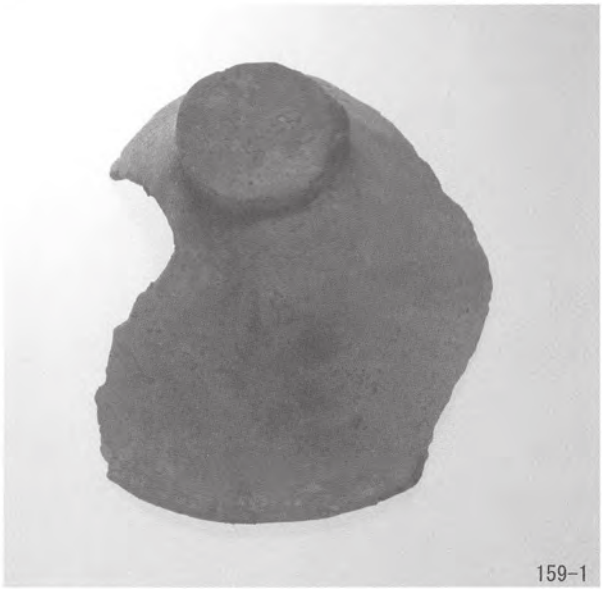


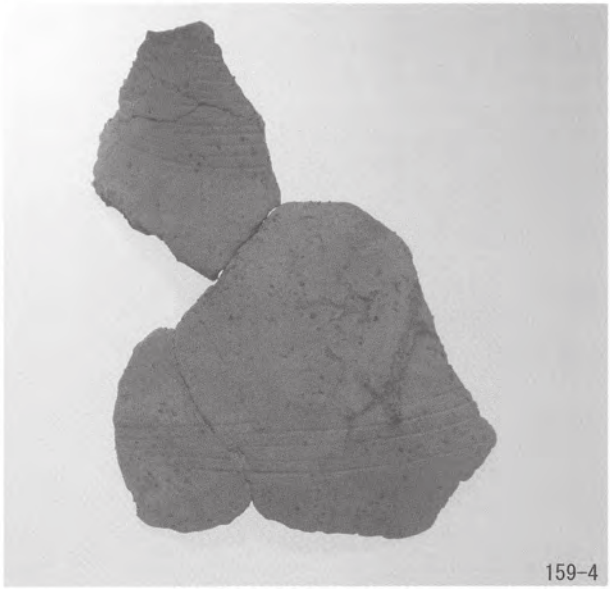
A区　谷状地形　6層出土遺物2


155-1


155-2

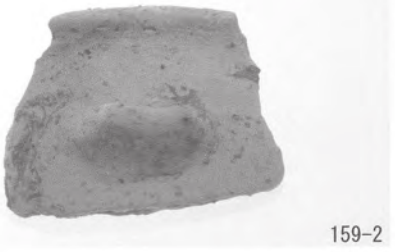

158-1

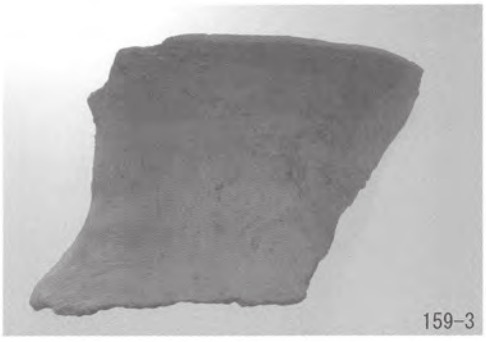

159-1

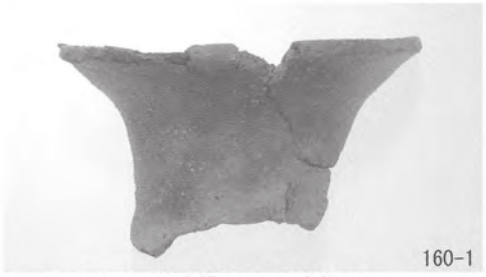

159-4


156-1

A区　８層上面遺構　出土遺物１


159-2


159-3

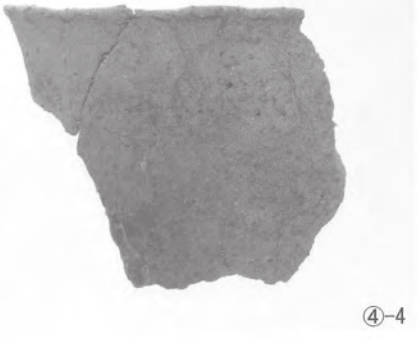

160-1


157-1

A区　８層上面遺構　出土遺物２

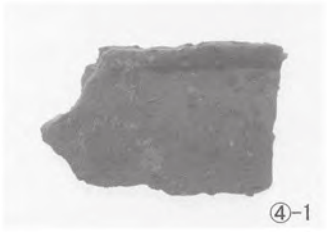

⑧-1


③-1

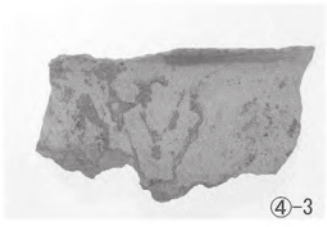

④-4


⑧-5

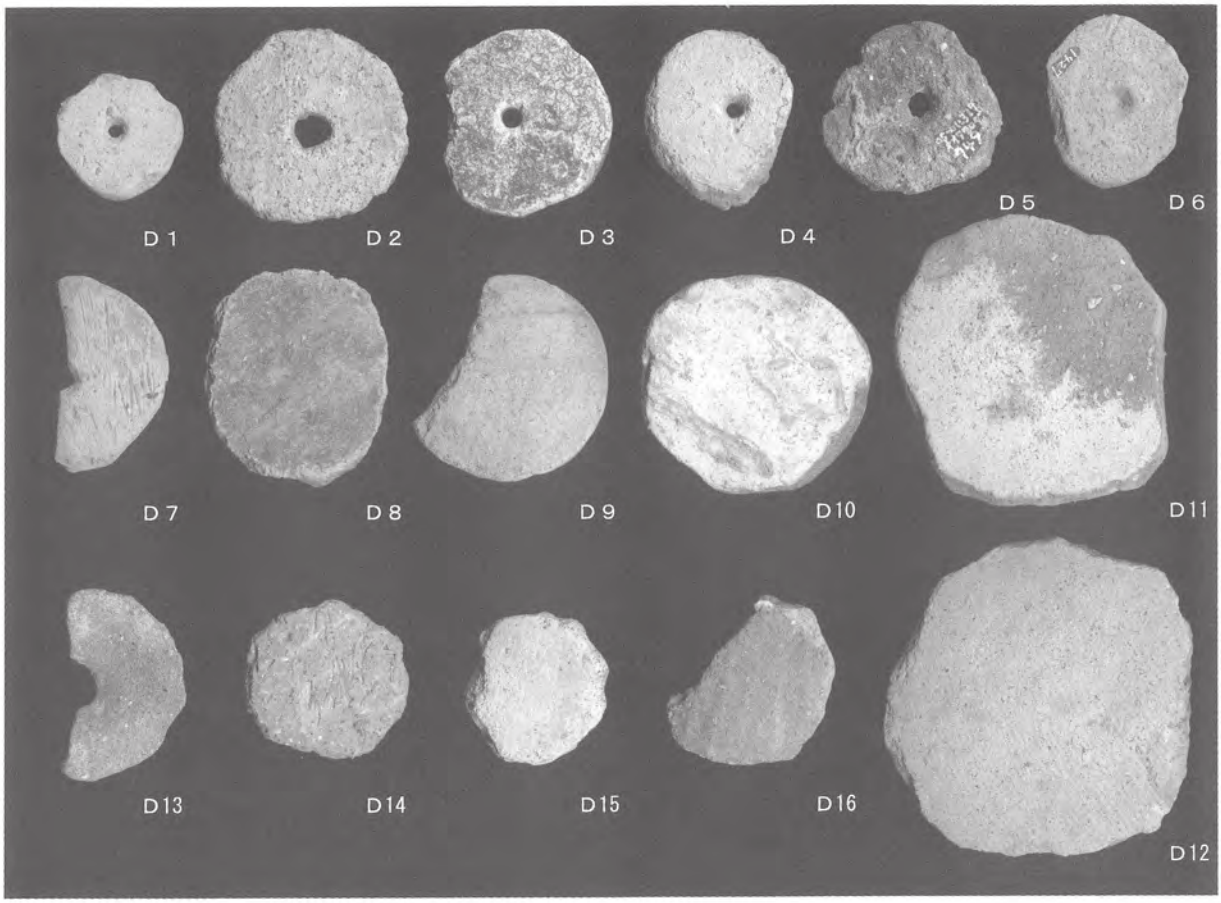

⑧-4


④-1

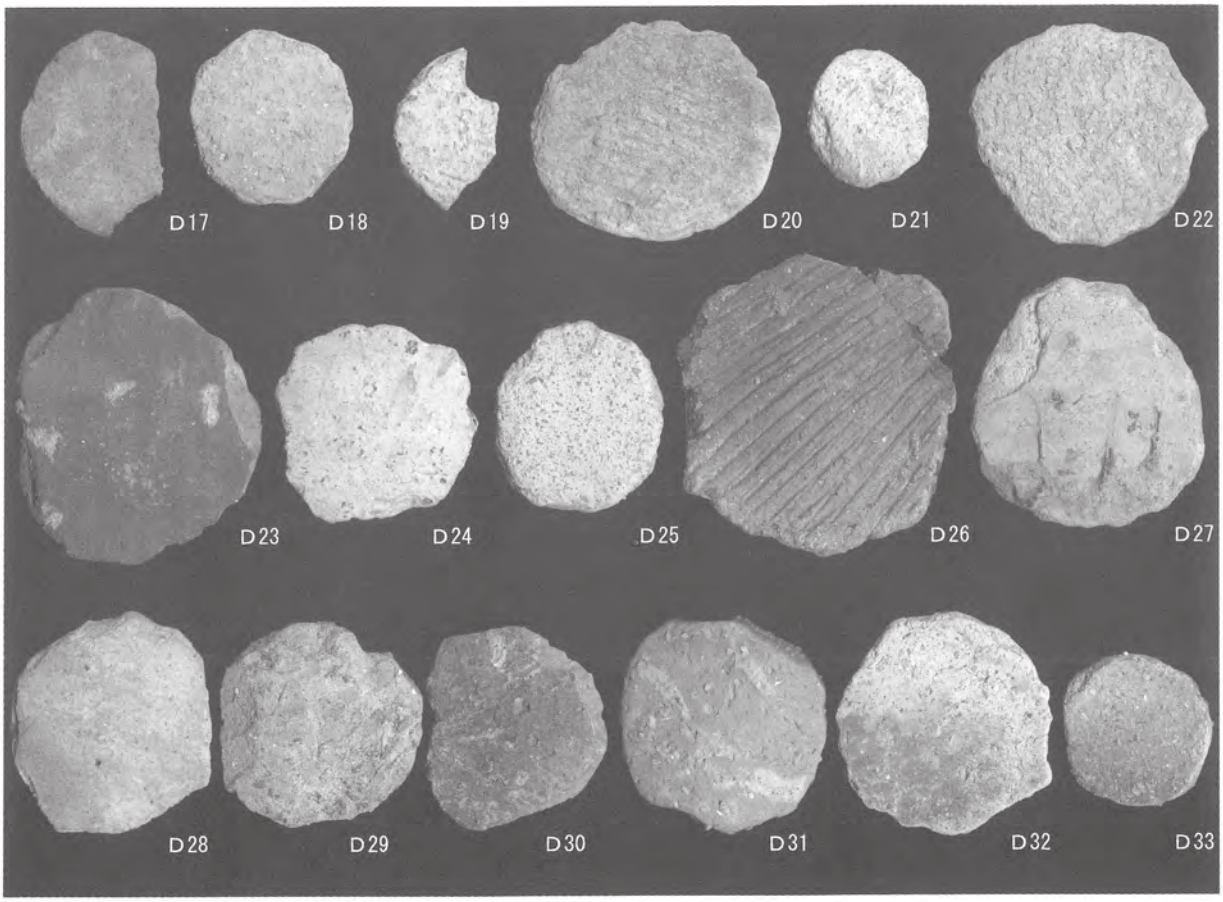

④-2


④-3

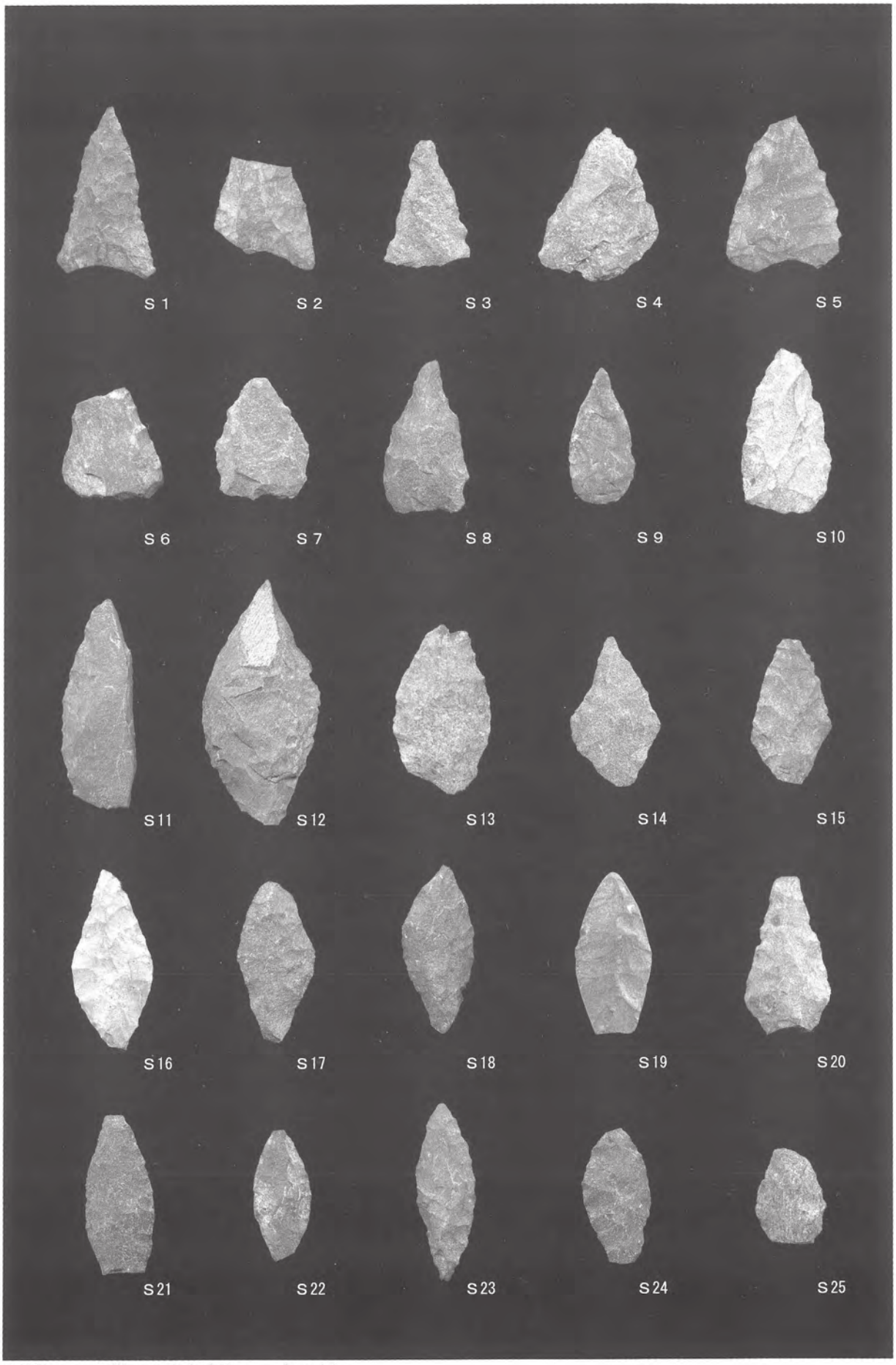
遺物包含層出土　弥生時代前期土器



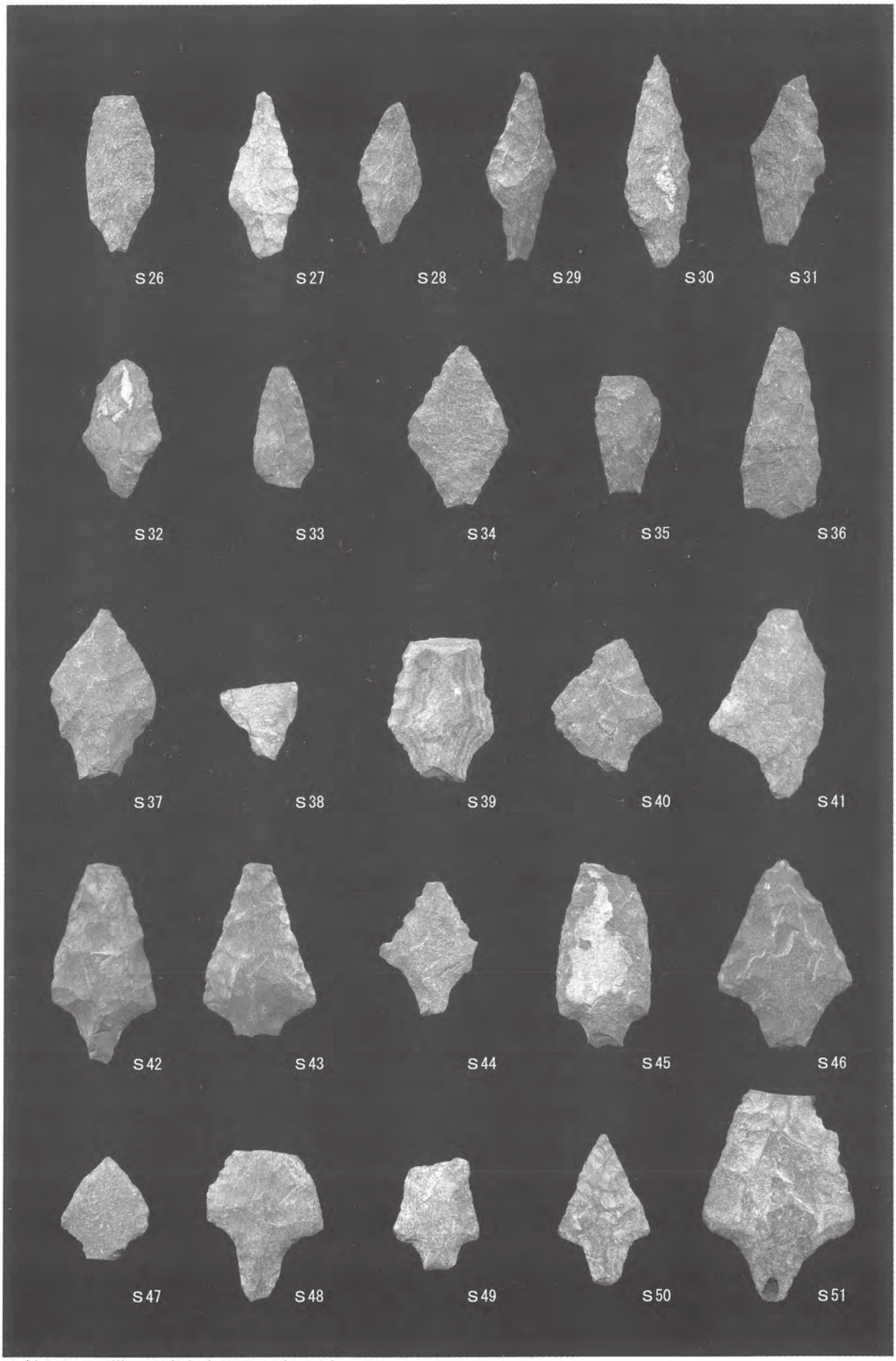
土製紡錘車・土製円板　＜弥生時代＞　(S=1/2)



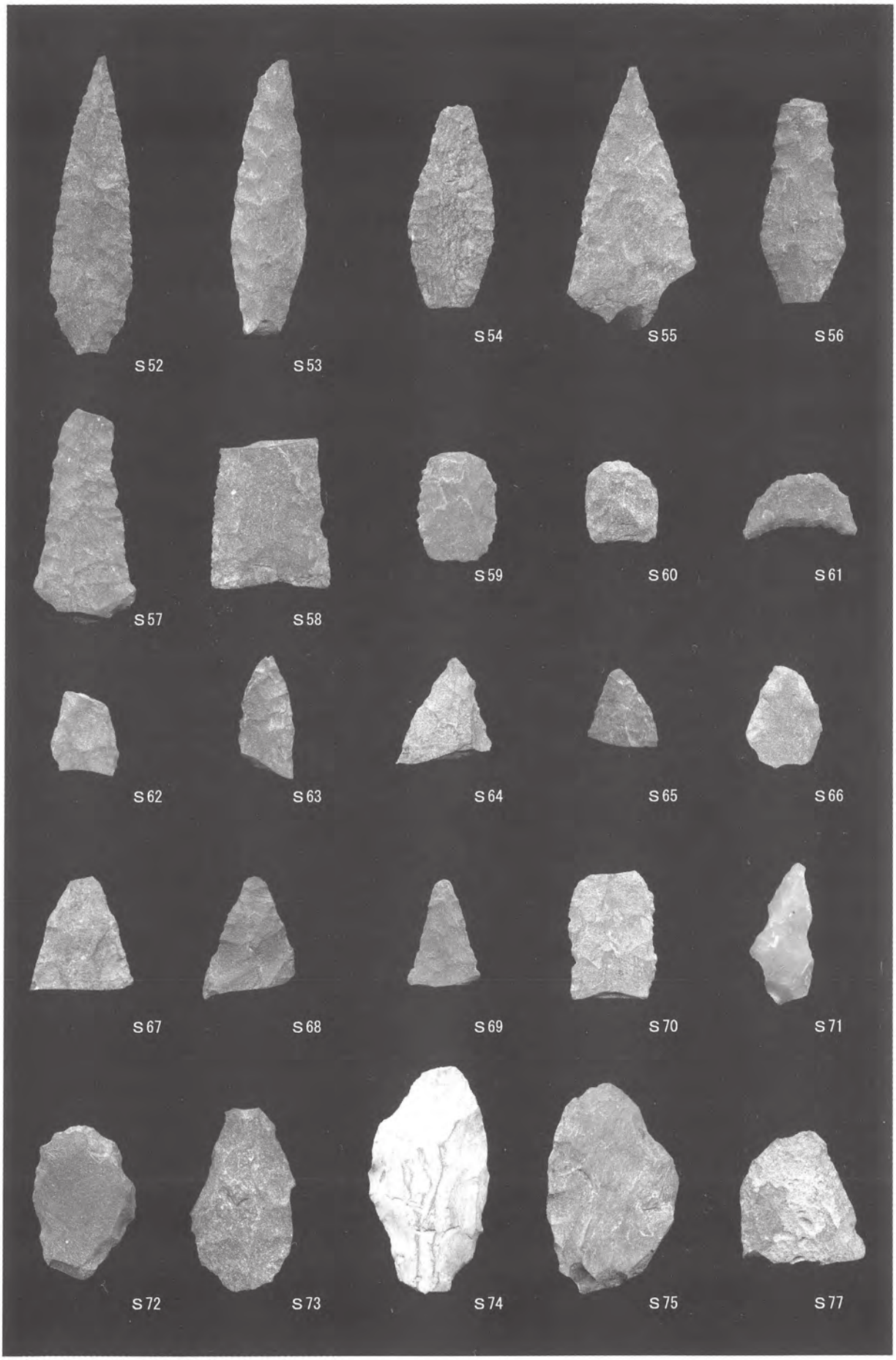
土製円板　＜弥生時代＞　(S=1/2)



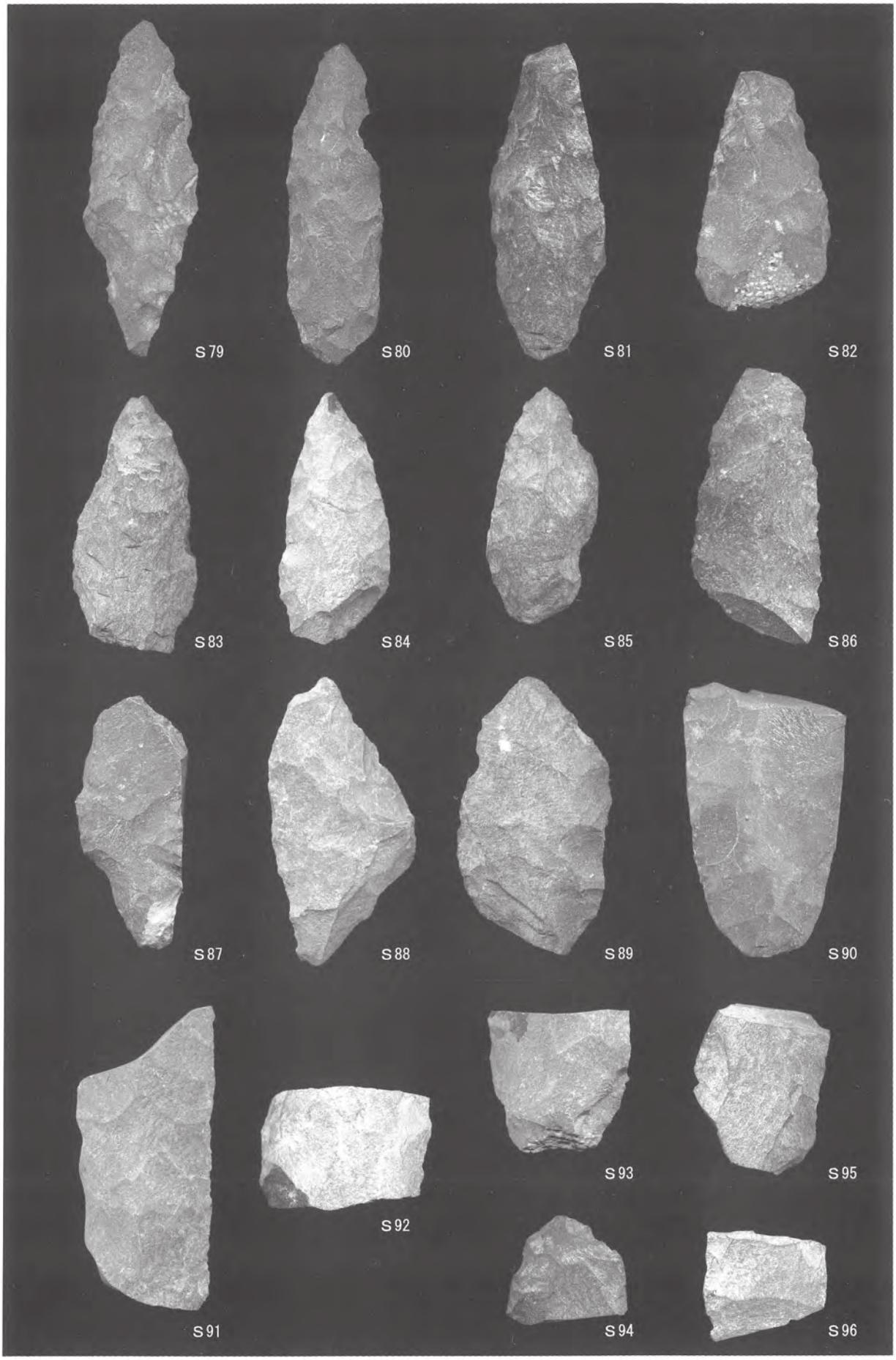
石製品１　石鏃　＜弥生時代＞　(S=1/1)



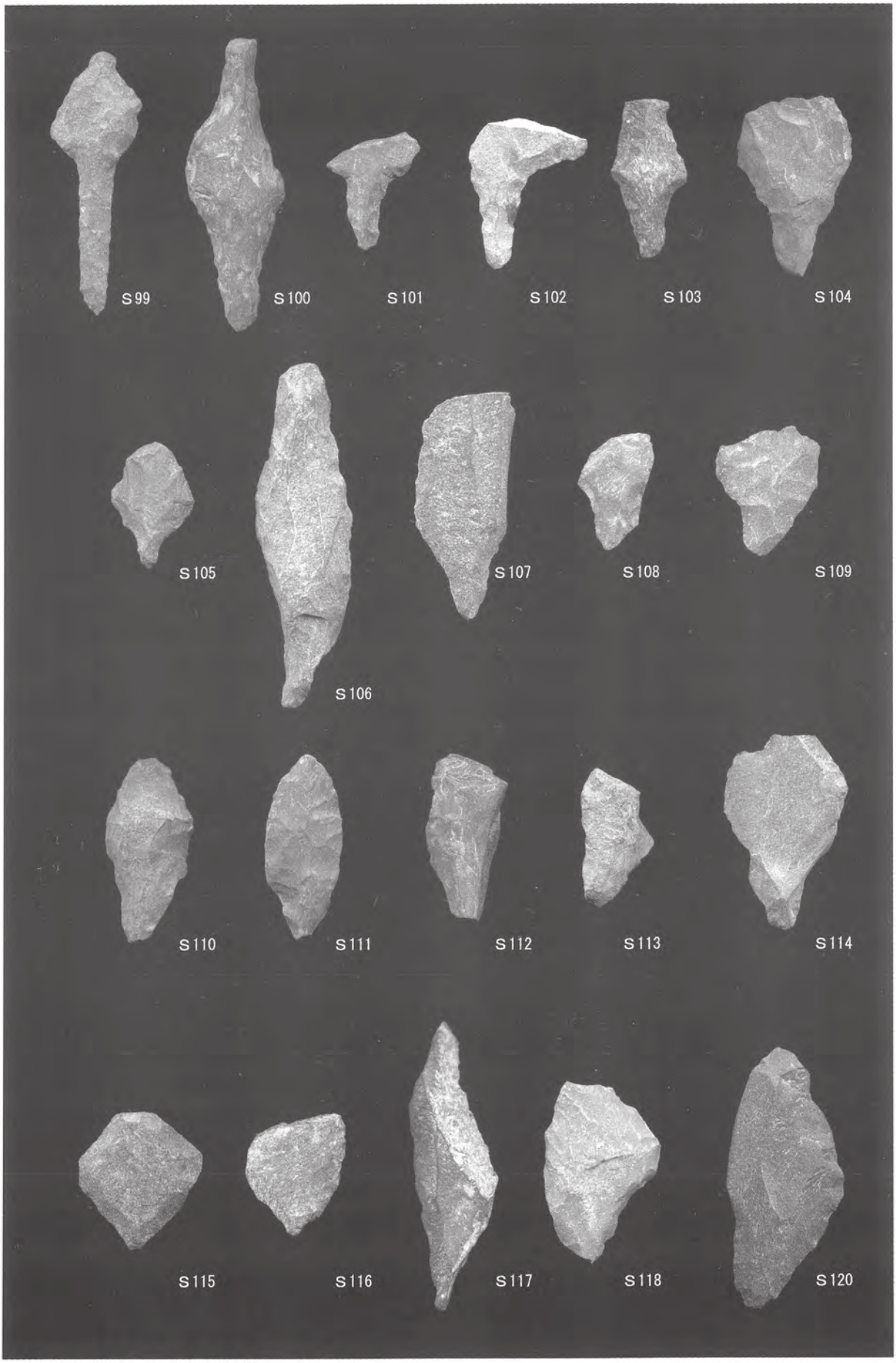
石製品２　石鏃　＜弥生時代＞　(S=1/1)



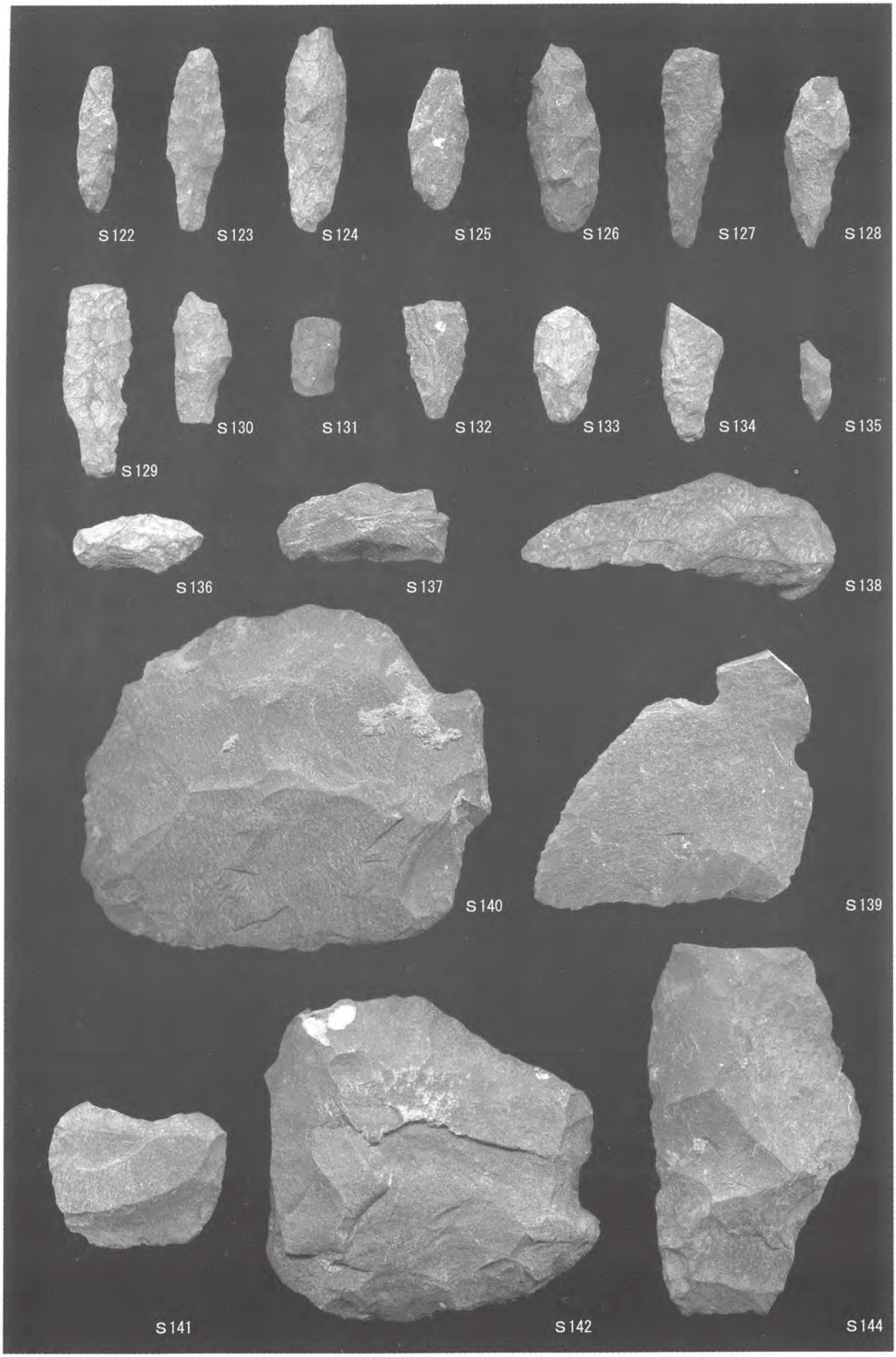
石製品３　石鏃　＜弥生時代＞　(S=1/1)



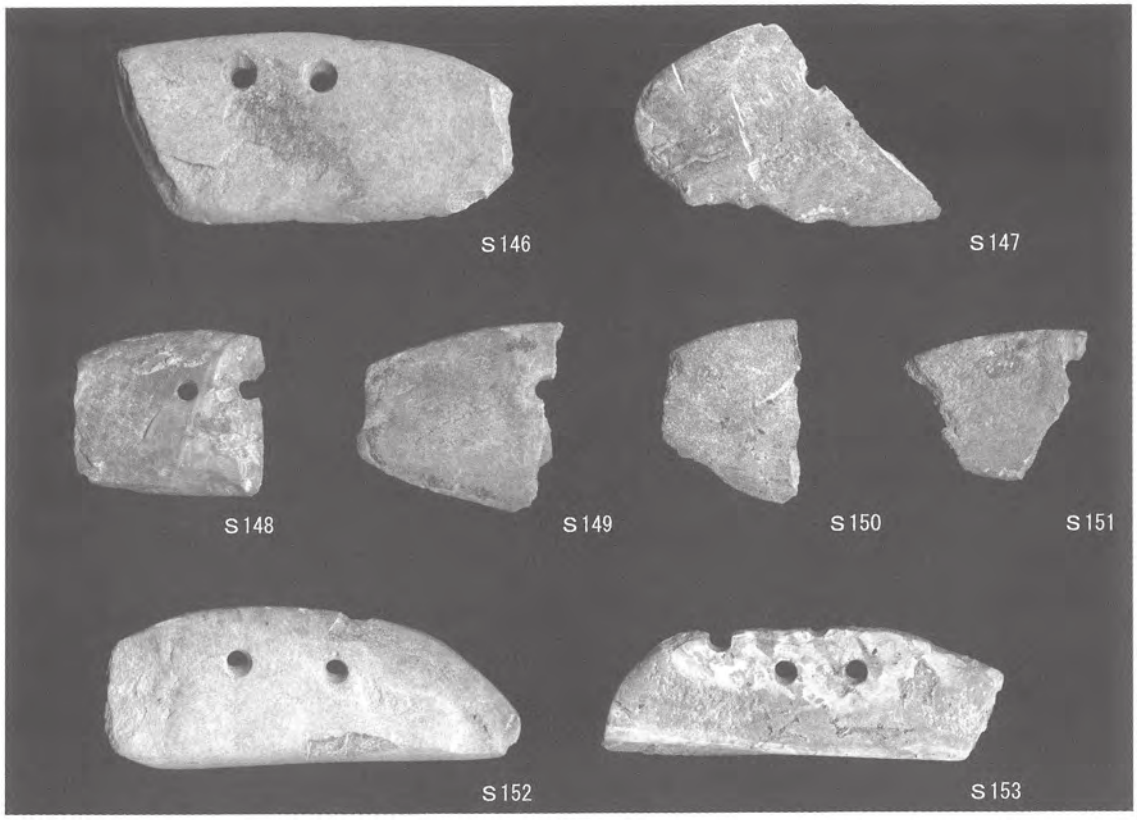
石製品４　中形尖頭器・大形尖頭器　　＜弥生時代＞　(S=1/1)



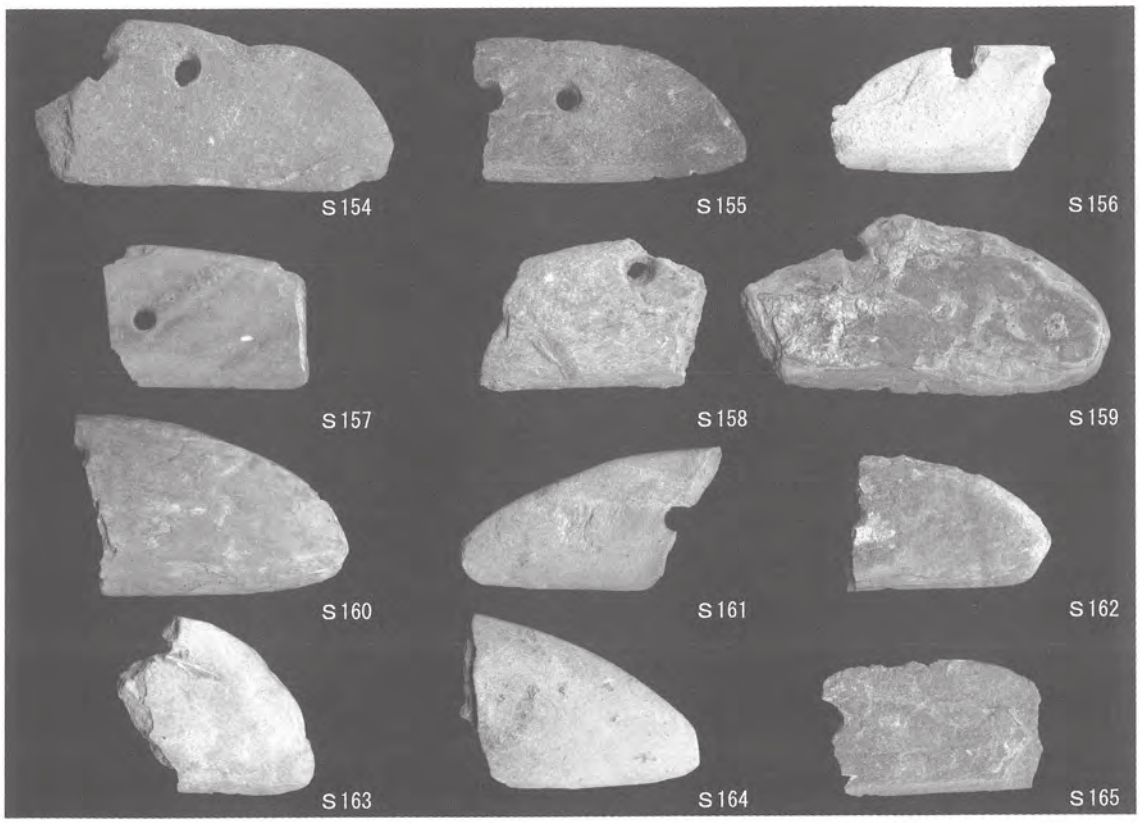
石製品５　石錐　　＜弥生時代＞　(S=1/1)



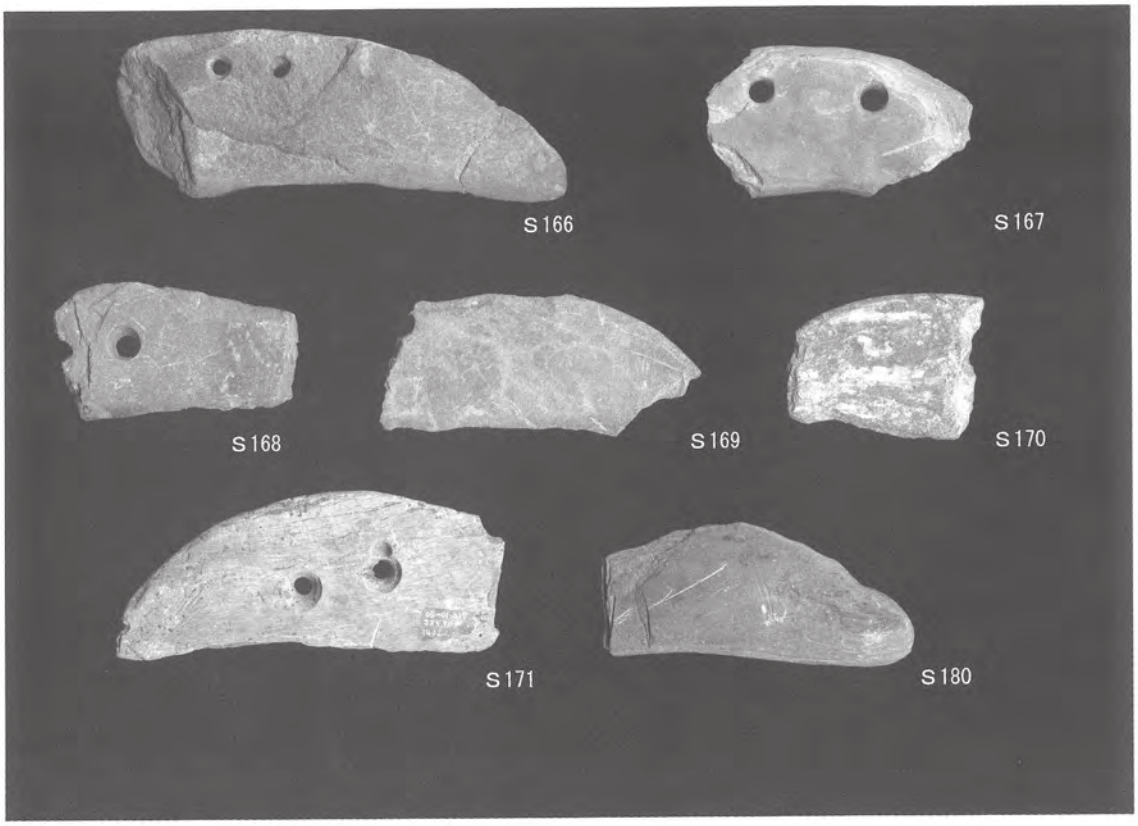
石製品６　石錐・石小刀・石匙状刃器　　＜弥生時代＞　(S=1/1)



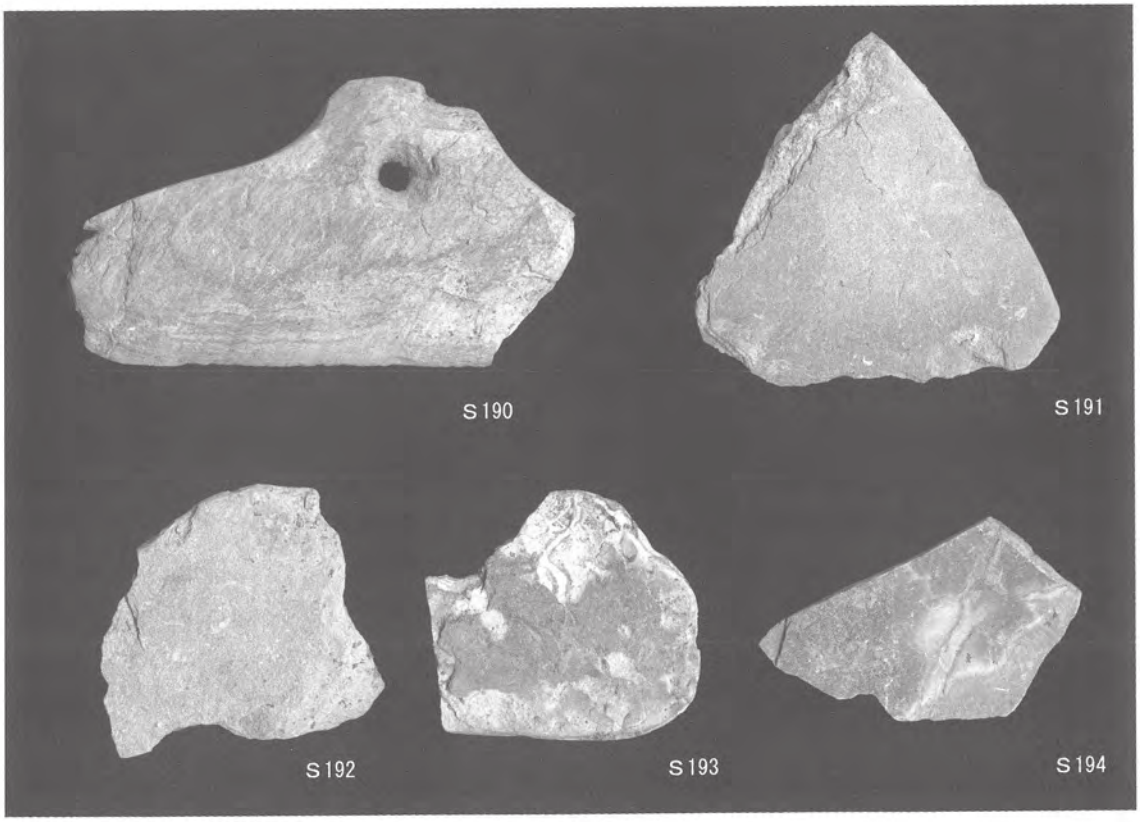
石製品７　石庖丁　　＜弥生時代＞　(S=1/2)



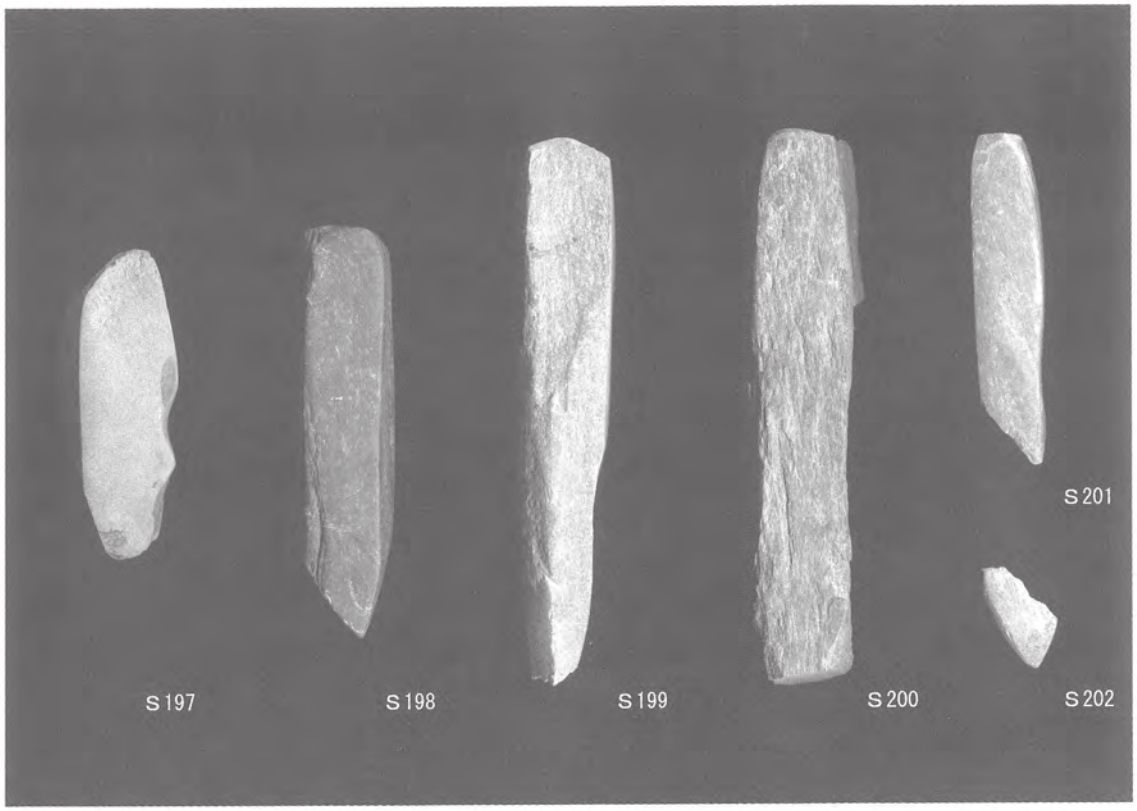
石製品８　石庖丁　　＜弥生時代＞　(S=1/2)



石製品９　石庖丁　　＜弥生時代＞　(S=1/2)



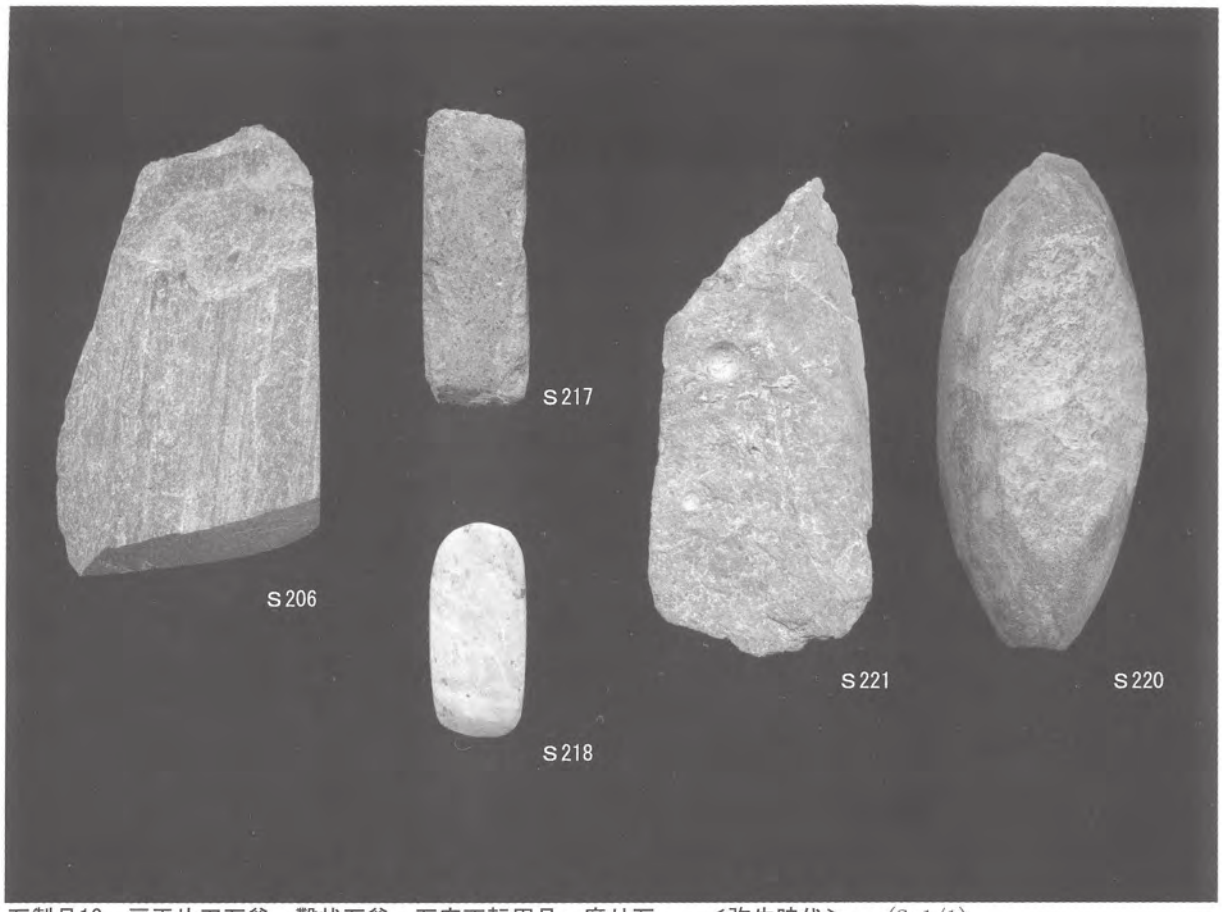
石製品10　大形石庖丁　　＜弥生時代＞　(S＝1/2)



石製品11　柱状片刃石斧　　＜弥生時代＞　(S=1/2)



石製品12　太型蛤刃石斧　　＜弥生時代＞　(S=1/2)



石製品13　扁平片刃石斧・鑿状石斧・石庖丁転用品・磨り石　　＜弥生時代＞　(S=1/1)



石製品14　環状石斧　　＜弥生時代＞　(S=1/1)



1．A区　東西トレンチ　谷状地形６層出土　木製品（広鍬　製作途中品）　M１　表面



2．木製品（広鍬　製作途中品）　裏面



3．木製品（広鍬　製作途中品）　刃先から



4．木製品（広鍬　製作途中品）　基部から



5．木製品（広鍬　製作途中品）　横から



1．A区　東西トレンチ　谷状地形６層出土　木製品（加工材）　M２



2．木製品（加工材）　M２　穿孔部分



3．木製品（加工材）　M２　炭化部分



4．A区　遺構140-N（井戸）出土　木製品（杭）M３



4．木製品（杭）　M３　先端部分



1．A区　谷状地形６層出土　木製品（容器）　M４　内面



2．A区　谷状地形６層出土　木製品（容器）　M４　外面

報告書抄録

ふりがな	おおだ・くろだいせき（けんいちじちょうさ）
書名	太田・黒田遺跡（県１次調査）
副書名	和歌山労働局新庁舎建設に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	仲原知之
編集機関	財団法人　和歌山県文化財センター
所在地	〒640-8404　和歌山市湊 571－1　　TEL　073-433-3843
発行年月日	西暦 2007 年 3 月 20 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
おおだ・くろだ 太田・黒田遺跡	わかやましくろだ 和歌山市 黒田	3020150	372	34 度 13 分 57 秒	135 度 11 分 48 秒	2005 年 7 月 15 日 ～2006 年 1 月 31 日	795	和歌山労働局新庁舎建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
太田・黒田遺跡	集落	弥生時代	竪穴住居、土器棺、井戸、土坑、溝	弥生土器、石製品（サヌカイト製品、石庖丁、石斧ほか）、木製品（鍬未成品、容器ほか）、土製品（紡錘車・円板）、管玉	弥生時代前期末から中期後葉にかけての遺構を検出。
		飛鳥～奈良時代	溝、流路、土坑	須恵器、土師器、移動式竈	飛鳥～奈良時代の流路、溝、連続する土坑群を検出。
		江戸時代	鋤溝群		南北方向の鋤溝群を 2 面検出。

要約	これまでほとんど調査例のなかった太田・黒田遺跡の東側縁辺部を調査し、３時期の遺構面（弥生時代前期末～中期後葉・飛鳥～奈良時代・江戸時代）の様相を明らかにすることができた。弥生時代では、住居や井戸を検出するなど、集落域が従来考えられていたよりも東側へ広がっていくことが確認できた。飛鳥～奈良時代では、流路や溝を検出し、須恵器などの遺物が多く出土した。江戸時代以降、調査地一帯は耕作地になっていることがわかった。

太田・黒田遺跡（県１次調査）
－和歌山労働局新庁舎建設に伴う発掘調査報告書－

２００７年３月２０日

編集・発行：財団法人和歌山県文化財センター
印刷・製本：有限会社　土屋総合印刷